

美沢川流域の遺跡群XX

新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

千歳市

美々8遺跡低湿部

第1分冊（本文・挿図・表）

平成8年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

諸般の事情により、充分な改正の出来ないまま刊行となりましたことをお詫びいたします。(編集者)

美沢川流域の遺跡群XX 千歳市 美々8遺跡低湿地 第114集 正訳表

章	節	頁	行	誤	正
	カラー図版10-2		キャプション	漆塗柄・漆塗煙燻ラウ	漆塗柄 漆塗キセルラウ
	カラー図版13-1		右端のガラス製品	No.なし	2
例言	(2)	15	～・山内(福士)奈乙美・～	～・山内(福士)奈乙美・～	
例言	(2)	38	～ 出口晶子、～	～ 出口晶子、～	
目次	(4)	17	(5) 遺物の取上げ……………11	(5) 遺物の取上げ……………12	
目次	(4)	19	(1) 現場における整理と保管……………	(1) 現場での整理と保管……………	
目次	(4)	20	(2) 札幌整理作業所における整理と保管……………	(2) 札幌整理作業所での整理と保管……………	
目次	(4)	28	8 画像付データベース作成と～	8 画像データベース作成と～	
目次	(5)	34	VI 重機(クラムシェル)調査の遺物	VI 重機(クラムシェル)調査	
目次	(6)	7	(2) 木製品・樹皮製品	(2) 木製品・樹皮製品・繊維製品	
目次	(6)	8	Ⅷ 自然科学分析(～)	Ⅷ 自然科学的分析(～)	
目次	(6)	11	(2) 発掘および識別の方法	(2) 発掘および識別の方法	
目次	(6)	15	(2) 出土植物遺存体表の見方～	(2) 出土動物遺存体表の見方～	
目次	(6)	18	1) 美々8遺跡低湿地から出土した栽培植物について	1) 美々8遺跡低湿地から出土した栽培種子について	
目次	(6)	25	(4) 美々8遺跡低湿地～	(4) 千歳市美々8遺跡低湿地～	
目次	(6)	30	パリオサーヴェイ株式会社…	パリオサーヴェイ株式会社…	
目次	(6)	31	4 美々8遺跡出土金属製品の金属～	4 美々8遺跡出土鉄器の金属～	
目次	(6)	38	IX まとめ……………745	IX まとめ……………743	
目次	(6)	34	引用・参考文献……………747	引用・参考文献……………745	
目次	(6)	35	抄録	報告書抄録	
カラー図版目次	(7)	14	カラー図版 9-1 漆塗箱物板(～)	カラー図版 9-1 漆塗箱物蓋板(～)	
挿図目次	(10)	右23	図V-130 切刃具6(～)	図V-130 切刃具5(～)	
挿図目次	(14)	左9	図VI-30 狩猟具2(弓・矢筒翼未製～)	図VI-30 狩猟具2(弓・矢筒翼未製～)	
挿図目次	(14)	左33	図VI-48 容器類7(漆塗箱物底板～)	図VI-48 容器類7(漆塗箱物蓋板～)	
挿図目次	(14)	左37	図VI-50 食用具1(箸①)……………542	図VI-50 食用具2(箸①)……………542	
挿図目次	(14)	左38	図VI-51 食用具2(箸②)……………543	図VI-51 食用具3(箸②)……………543	
挿図目次	(14)	左39	図VI-52 食用具3(筒口箸・片口箸)	図VI-52 食用具4(筒口箸・片口箸)	
挿図目次	(14)	右1	図VI-53 食用具4(串)～	図VI-53 食用具5(串)～	
挿図目次	(14)	右8	図VI-57 軸状製品1……………549	図VI-57 軸状製品……………549	
挿図目次	(14)	右18	図VI-67 有溝角材・魚材……………559	図VI-67 有溝角材・柱状製品……………559	
表目次	(16)	左2	蔵地調査面積推移(単位㎡)	蔵地の調査面積推移(単位㎡)	
Ⅱ	1	7	2 1 発掘区の設定(図Ⅱ-1)	1 発掘区の設定(図Ⅱ-3)	
Ⅱ	2	8	～と土壌運搬トラック等ための～	～と土壌運搬トラック等のための～	
Ⅱ	2	9	～押さえながら慎重には進めた。～	～押さえながら慎重に進めた。～	
Ⅱ	2	11	～時浸漬し押漬した。～	～時浸漬した。～	
Ⅱ	2	12	～浮遊選別を目的とするサンプル～	～浮遊選別を目的とするサンプル～	
Ⅱ	3	12	～大まかにクリーニングした後、～	～大まかにクリーニングした後、～	
Ⅱ	3	13	(2) 札幌整理作業所での整理と保管(図Ⅱ-1)	(2) 札幌整理作業所での整理と保管	
Ⅱ	4	14	～、集塵・換気装置設置された。～	～、集塵・換気装置が設置された。～	
Ⅲ	2	26	図Ⅲ-2 表土～I B層の遺跡分布	表土～I B層の遺跡分布図	
Ⅲ	2	29	図Ⅲ-4 土層断面と各種試料採取地点	土層断面図と各種試料採取地点	
Ⅲ	2	31	図Ⅲ-5 土層断面と各種試料採取地点	土層断面図と各種試料採取地点	
Ⅳ	2	38	7-8 ～炭化物集中I付近のものと同一個体の可能性がある～	～炭化物集中I上位のものと同一個体の可能性がある～	
Ⅳ	2	39	19 ～。この遺構付近からは灰集中I付近～の産地不明徳利	～。この遺構上位からは灰集中I付近～の可能性のある産地不明徳利	
Ⅳ	3	40	6 ～。炭化物集中I付近の破片と同一個体で、計～	～。炭化物集中I上位の破片と同一個体の可能性があり、計～	
Ⅳ	3	42	表Ⅳ-8 図番号2の主な発掘区:c-66-09-d	図番号2の主な発掘区:c-66-09-a	
Ⅴ	2	74	表Ⅴ-11 図番号46の備考:～。41と共伴。	図番号46の備考:～。42と共伴。	
Ⅴ	2	89	2 ～。24～33の断面は方形であり、～	～。25～33の断面は方形であり、～	
Ⅴ	2	89	10 ～平らな鉄板片である。111～1	～平らな鉄板片である。112～1	

章	節	頁	行	誤	正
V	2	91	表V-14	灰集中10・集石13 掲載陶磁器・石器・石製品	灰集中10・集石13 掲載陶磁器・石器・石製品
V	2	92	表V-18	図番号37の重量 (g) : (0.0)	図番号37の重量 (g) : (0.03)
V	2	92	表V-18	図番号51の重量 (g) : (0.0)	図番号51の重量 (g) : (0.01)
V	3	109	1	～。155は吊り耳鉄鍋の口縁部破片～	～。155は吊り耳鉄鍋の口縁部破片～
V	3	109	2	～。156は口縁部破片であり、～	～。156は口縁部破片であり、～
V	3	109	3	～。157は底部(底面)片である。～	～。157は底部(底面)片である。～
V	3	109	4	158も底部(底面)片であり、～	158も底部(底面)片であり、～
V	3	109	6	魚突鈎鈎片(161) : いわゆるマレクの鉄鈎部片である。～	魚突鈎鈎片(161) : いわゆるマレクの鉄鈎部片である。～
V	3	110	11	～。170には梅枝文様が彫金	～。170には梅枝文様が彫金
V	3	115	32	舟部材(70～204、付図1～3)	舟部材(70～204、付図1・2)
V	3	116	28	～。85は長辺側に溝付きの角孔が～	～。86は長辺側に溝付きの角孔が～
V	3	117	32	車輻受台部・軸(156～204) : ～	車輻受台部軸(156～204) : ～
V	3	117	36	～。162～164・166・172・	～。162～164・166～170・172・
V	3	118	8	舟用具(205～283、付図2・3)	舟用具(205～283、付図3)
V	3	119	2	～。先端形は241の角形と除いて～	～。先端形は241の角形を除いて～
V	3	119	6	(249・252・256～258・259) と～	(249・252・256～259) と～
V	3	119	10	～。表面に魚塚或いは何かを固定～	～。表面に魚塚或いは何かを固定～
V	3	120	10	322・325～327・329・330・334～(339) や挿入および使用により尖端部を折損したものの(300・302～304・	322・325～327・329・334～(339) や挿入および使用により尖端部を折損したものの(300・302～304・
V	3	120	19	～が多く。312～314・308・319・	～が多く。312～314・318・319・
V	3	120	31	～開くもの(335・356)・～	～開くもの(335・356)・～
V	3	121	2	魚突鈎鈎台部(366～377) : ～	魚突鈎鈎台部(366～377) : ～
V	3	121	7	～作出されている。366～368・369	～作出されている。366～369
V	3	123	13	～。433～435・436・438は有孔	～。433～436・438は有孔
V	3	123	15	～。433には矢筒に縛り止めた～	～。433には矢筒に縛り止めた～
V	3	123	33	～。魚塚や目貫等で飾られていた～	～。魚塚や目貫等で飾られていた～
V	3	123	39	小刀柄(443～474) : ～	小刀柄(443～473) : ～
V	3	124	17	～。466・468～473は未製品で～	～。466・468～473は未製品で～
V	3	128	12	制物容器(784～786) : ～	制物容器(784～788) : ～
V	3	128	17	杓子(789～808) : ～	杓子(789～810) : ～
V	3	128	30	～C.柄部との溝先と幅にほとんど～	～C.柄部と溝先の幅にほとんど～
V	3	129	23	紡織編具(1047～1078)	紡織編具(1047～1078、付図18)
V	3	134	18	～。1707～1776は細帯状～	～。1707～1768・1776は細帯状～
V	3	134	19	～。1750～1756・1759・1764は頭部差込式の細	～。1750・1764は頭部差込式の細
V	3	257	図V-171	図番号 : 632	図番号 : 633
V	3	257	図V-171	図番号 : 633	図番号 : 632
V	3	362	ランニングタイトル	V QB層の調査	V 第0黒色土層の調査
V	3	364	ランニングタイトル	V QB層の調査	V 第0黒色土層の調査
V	3	413	表V-29	図番号76の樹種 : ハンノキ?	図番号76の樹種 : ハンノキ
V	3	413	表V-29	図番号78の備考 : ～。貫入孔1箇所。～	図番号78の備考 : ～。貫入孔1箇所。～
V	3	413	表V-29	図番号78の樹種 : ～? 貫:ガマズミ? ハイノキ?	図番号78の樹種 : ～? 貫:ガマズミ? ハイノキ?ミツバウツギ?
V	3	416	表V-32	図番号144の樹種 : クルミ	図番号144の樹種 : オニグルミ
V	3	417	表V-33	図番号184の樹種 : ヤナギ	図番号184の樹種 : ヤナギ?
V	3	431	表V-47	図番号516の樹種 : ハシドイ?	図番号516の樹種 : リンゴハシドイ?
V	3	436	表V-52	図番号640の木取り : 板目	図番号640の木取り : 板目
V	3	437	表V-53	図番号651の遺物名称 : 掘底板切断品	図番号651の遺物名称 : 掘底板切断品
V	3	440	表V-56	図番号721の樹種 : スギ?ネズコ?ヒノキ?	図番号721の樹種 : スギ?ネズコ?ヒノキ?ドケケン?
V	3	441	表V-57	図番号757の遺物名称 : 箱物藍板片	図番号757の遺物名称 : 箱物藍板片
V	3	442	表V-58	図番号780の木取り : 横本	図番号780の木取り : 理

章	節	頁	行	題	正
V	3	451	表V-67	図番号991の樹種：ヒノキ?アスナロ?	図番号991の樹種：ヒノキ?アスナロ? ビャクシン?
V	3	457	表V-73	図番号1143の遺物名称：木幣状製品片	図番号143の遺物名称：木幣片
V	3	457	表V-73	図番号1144の遺物名称：木幣状製品片	図番号144の遺物名称：木幣片
V	3	460	表V-76	図番号1206の樹種：ヒノキ?アスナロ?スギ?	図番号1206の樹種：ヒノキ?アスナロ?
V	3	461	表V-77	図番号1223の木取り：半割	図番号1223の木取り：丸木
V	3	466	表V-82	図番号1352の樹種：スギ?ネズコ?ヒノキ?	図番号1352の樹種：スギ?ネズコ?ヒノキ?ビャクシン?
V	3	468	表V-84	図番号1406の遺物名称：端部抉付槽円材片	図番号1406の遺物名称：端部抉入部付槽円材片
V	3	473	表V-89	図番号1521の樹種：スギ?	図番号1521の樹種：スギ
V	3	480	表V-96	図番号1691の樹種：イネ科(ササ)	図番号1691の樹種：イネ科(ササ)?
VI	2	492	4	～柄等に嵌嵌する飾り板で～	～柄等に嵌嵌する飾り板で～
VI	2	493	2	～は、H地区(図II-2)中央部の～	～は、H地区(図II-1)中央部の～
VI	2	493	10	舟部材(1794～1857)	舟部材(1794～1838、付図1-2)
VI	2	493	40	～。1824～1836は車覆受台部の～	～。1824～1827は車覆受台部の～
VI	2	494	8	車覆受台部・軸(1830～1838)：～	車覆受台部軸(1830～1838)：～
VI	2	494	8	舟用具(1839～1857)	舟用具(1839～1857、付図3)
VI	2	494	13	～。1846の断面形は凸レンズ状で～	～。1844の断面形は凸レンズ状で～
VI	2	494	14	1845・1846は同一個体の可能性が～	1844・1845は同一個体の可能性が～
VI	2	494	18	～。1851～1854は水掻部片である。	～。1851～1853は水掻部片である。
VI	2	494	26	漁撈具(1858～1896)	漁撈具(1858～1896、付図4～7)
VI	2	494	34	～。1872・1877・1878～1881は尖端部を欠損した～	～。1872・1878～1881は尖端部を欠損した～
VI	2	494	39	魚突鉤鋸台部(1885～1893・1895・1896)：～	魚突鉤鋸台部(1885～1891・1895・1896)：～
VI	2	495	17	狩猟具(1897～1913)	狩猟具(1897～1913、付図8)
VI	2	496	1	切鋸具(1914～1926)	切鋸具(1914～1926、付図9)
VI	2	496	2	～(1914・1915・1919)と～	～(1914・1915・1917・1919)と～
VI	2	496	6	～る。1918は山刀の柄頭の突起部であらうか。1919は～	～る。1919は～
VI	2	496	20	採集具(1927・1928)	採集具(1927・1928、付図10)
VI	2	496	24	工具(1929～1939)	工具(1929～1937・1939、付図11)
VI	2	496	32	農耕・工具(1938～1944)	農耕・工具(1938・1940～1944、付図11)
VI	2	497		発火具・炉鈞(1945～1953)	発火具 炉鈞(1945～1953、付図12)
VI	2	497	11	容器類(1954～1989)	容器類(1954～1989、付図13～16)
VI	2	497	12	桶・樽(1955～1960)：～	桶・樽(1954～1960)：～
VI	2	497	27	漆塗椀(1983～1987・1988)：～	漆塗椀(1982～1987・1988)：～
VI	2	497	36	杓子(1990・1991)：～	杓子(1990・1991、付図17)：～
VI	2	497	39	篋(1992～1999)：～	篋(1992～1999、付図17)：～
VI	2	498		～区分できないもの(1998)筆がある。④柄部と蓋部の～	～区分できないもの(1998)の①柄部と蓋部の～
VI	2	498	17	歩行具(2020・2021)	歩行具(2020・2021、付図19)
VI	2	498	21	紡織絹具(2022・2023)	紡織絹具(2022・2023、付図18)
VI	2	498	33	祭祀・備礼具(2029～2037)	祭祀・備礼具(2029～2037、付図20)
VI	2	499	25	端部抉付丸材(2082)：～	端部抉付丸材(2082)：～
VI	2	540	図VI-48	容器類7(漆塗箱物底板・漆塗椀)	容器類7(漆塗箱物蓋板・漆塗椀)
VI	2	542	図VI-50	食用具1(篋①)	食用具2(篋①)
VI	2	543	図VI-51	食用具2(篋②)	食用具3(篋②)
VI	2	544	図VI-52	食用具3(両口箸・片口箸)	食用具4(両口箸・片口箸)
VI	2	545	図VI-53	食用具4(～)	食用具5(～)
VI	2	549	図VI-57	軸状製品1	軸状製品

章	節	頁	行	誤	正
VI	2	559	図VI-67	有溝角材・魚材	有溝角材・葦状製品
VI	2	569	表VI-5	図番号1824の樹種：モクレン	図番号1824の樹種：ハンノキ
VI	2	574	表VI-10	図番号1954の樹種：スギ?	図番号1954の樹種：スギ?スズコ?
VI	2	581	表VI-17	図番号2120の樹種：樹皮	図番号2120の樹種：樹皮 丸材・ヤナギ
VI	2	585	2	舟部材 (2137~2146)	舟部材 (2137~2143)
VI	2	585	12	漁撈具 (2144~2146)	漁撈具 (2147~2151)
VI	2	585	16	～、鉄鉤溝の直下に挿入部が～。	～、鉄鉤溝の直下に挿入部が～。
VI	2	585	18	～、木の髄部分を鉄鉤溝として～	～、木の髄部分を鉄鉤溝として～
VI	2	585	32	発火具 (2161~2165)	発火具 (2161~2167)
VI	2	586	6	管状製品 (2178~2180) : 2180・2179は～	管状製品 (2178~2180) : 2178・2179は～
VI	2	586	11	紡織編具 (2186~2187・2208)	紡織編具 (2186・2187・2208)
VI	2	586	15	祭祀・儀礼具 (2188)	祭祀・儀礼具 (2188・2194)
VI	2	587~601 の寄数頁	ランニング タイトル	1 遺物の遺物	2 包含層の遺物
VI	2	599	表VI-3	IB層掘削遺物の木製品 (1)	IB層掘削木製品 (1)
VI	2	600	表VI-4	図番号2170の備考：IB-1	図番号2170の備考：IB
VI	1	611	11	板目・柱目面：放射組織は1~4細胞幅 で5~35細胞高で～	板目・柱目面：放射組織は1~4細胞幅 、5~35細胞高で～
VI	1	612	10	板目・柱目面：放射組織は1~8細胞幅 で5~30細胞高で～	板目・柱目面：放射組織は1~8細胞幅 、5~30細胞高で～
VI	1	616	1	～ (表Ⅷ-1-1~3、図Ⅷ-1~2)	～ (表Ⅷ-1-1~3、図Ⅷ-1-1~2)
VI	1	617	6	～銚の柄をつなぐ木 [回転式離頭銚 中柄・魚突鉤台] ～	～銚の柄をつなぐ木 [回転式離頭銚 中柄・魚突鉤台] (～)
VI	1	617	10	木製品の掘削組成 (図Ⅷ-1-1~2、表 Ⅷ-1-3)	木製品の掘削組成 (図Ⅷ-1-1~2、表 Ⅷ-1-b)
VI	1	617	25	～、魚突鉤台部もアジサイ属～	～、魚突鉤台部もアジサイ属～
VI	1	618	キャプション	キャプションなし	表Ⅷ-1-1 固定掘削名一覧
VI	1	638	上段左	なし	a9 ガマズミ属?ハノノキ? a×80
VI	1	638	上段中	なし	b×200
VI	1	638	上段右	なし	c×100
VI	2	645	5	～草種子の表である。～	～草種子の表である。～
VI	2	646	2	1) 美々8遺跡低湿部から出土した 栽培種子について	1) 美々8遺跡低湿部から出土した栽培 種子について
VI	2	646	14	～ (図Ⅷ-2-3・4、表Ⅷ-2-5)	～ (図Ⅷ-2-3・4、表Ⅷ-2-5・11-12)
VI	2	648	図Ⅷ-2-4	発掘区 サンプル番号 層位 サン プル量 採取資料 栽培種子～	発掘区 サンプル番号 層位 サン プル量 採取資料 栽培種子～
VI	2	653	表Ⅷ-2-9	種名：キハダ果皮	種名：キハダ果皮
VI	2	661	表Ⅷ-2-16	種名：キハダ果皮	種名：キハダ果皮
VI	2	669	33	マタタビ属 (Actinidia) : 表面には 全体に亀甲状の凹みが～	マタタビ属 (Actinidia) : 表面には 全体に亀甲状の凹みが～
VI	2	674	9	～、灰集中14 (OB層下部)、～	～、灰集中14 (OB層)、～
VI	2	674	9	～、炭化物集中17 (OB層)、～	～、炭化物集中17 (OB層)、～
VI	2	677	25	～表Ⅷ-3-1～表Ⅷ-3-19に示した。～	～表Ⅷ-2-23～表Ⅷ-2-41に示した。～
VI	2	689	表Ⅷ-2-35	炭集中13	炭集中13
VI	3	725	4~5	～、今回の調査結果みると～	～、今回の調査結果をみると～
VI	4	737	表II.No.2 録	備考 (所収報告書) : 北環調報102	備考 (所収報告書) : 北環調報62
VI	4	737	表I.No.4 小刀	出土遺構および発掘区：d-66-52 (P-1)	出土遺構および発掘区：d-66-24・25 (P-1)
IX	2	744	7	～、この周辺からは板線紐遺構～	～、この周辺からは板線紐遺構～
IX	2	744	8	～、魚突鉤台 (マレク)、魚引掛鈎 (アブ)、	～、魚突鉤台 (マレク)、魚引 掛鈎 (アブ)、
IX	2	744	17	～構築材を主体とする～	～構築材を主体とする～
IX	2	744	36	～が多いのは「もの送り」のため～	～が多いのは「物送り」のため～
IX	2	744	39	～失われた「もの送り儀礼」を～	～失われた「物送り儀礼」を～
IX		報告書 抄録	主な遺物 3	回転式離頭銚・魚突鉤等、漁	回転式離頭銚・魚突鉤等、漁

章	節	頁	行	誤	正
IX		報告書抄録	主な遺物 6	食用具、紡織器具、祭	食用具、紡織器具、祭
図版目次	右3	図版-9.5		両端部挟入付屈曲丸木材	両端部挟入部付屈曲丸木材
図版目次	右13	図版-12.3		表土層火打石	表土層遺構火打石
図版目次	右14	図版-12.4		表土層ガラス玉	表土層遺構ガラス玉
図版目次	右15	図版-12.5		表土層金属製品	表土層遺構金属製品
図版目次	左3	図版-89		OB層漁撈具(回転式離頭鉤中柄)	OB層漁撈具(回転式離頭鉤)
図版目次	左16	図版-275		重機調査工具(縦軸・鉄斧柄)	重機調査工具(縦軸頭部・横軸柄・鉄斧柄)
図版目次	右16	図版-301-1		重機調査履縄	重機調査縄
図版目次	右17	図版-301-2		重機調査履縄	重機調査縄
図版目次	右18	図版-301-3		重機調査履縄	重機調査縄
図版目次	右19	図版-301-4		重機調査履縄	重機調査縄
図版目次	右20	図版-301-5		重機調査履縄結び	重機調査縄結び
図版目次	右21	図版-301-6		重機調査履縄繊維	重機調査繊維
図版目次	右25	図版-302-3		I B層土甎	I B層甎
表土層	図版12-3			3 火打石	3 遺構 火打石
表土層	図版12-4			4 ガラス玉	4 遺構 ガラス玉
表土層	図版12-5			5 金属製品	5 遺構 金属製品
OB層	図版89			漁撈具(回転式離頭鉤中柄・魚突鉤鉤台/基部/線)	漁撈具(回転式離頭鉤・魚突鉤鉤台/基部/線)
OB層	図版131			燈火用扱木	燈火用扱木
重機調査	図版275			工具(縦軸・鉄斧柄)	工具(縦軸頭部・横軸柄・鉄斧柄)
付図目次	付図1			付図1 舟用具分布図1(～)	付図1 舟部材分布図1(～)
付図目次	付図2			付図2 舟用具分布図2(～)	付図2 舟部材分布図2(～)
付図目次	付図3			付図3 舟用具分布図3(～)	付図3 舟用具分布図(～)
付図目次	付図10			付図10 農耕具・採集具分布図(土掘棒・釣鉤)	付図10 農耕・採集具分布図(土掘棒・釣鉤)
付図目次	付図11			付図11 加工具・工具分布図(縦軸・横軸・鍔・鉄斧など)	付図11 農耕・工具分布図(縦軸・横軸・鍔・鉄斧柄など)
付図目次	付図12			付図12 発火具・燈火具分布図(ヒキリ板・ヒキリ棒・灯火用扱木・炉鉤など)	付図12 発火具・煙鉤・燈火具分布図(ヒキリ板・ヒキリ棒・燈火用扱木・炉鉤など)
付図	付図1			付図1 舟用具分布図1(～)	付図1 舟部材分布図1(～)
付図	付図2			付図2 舟用具分布図2(～)	付図2 舟部材分布図2(～)
付図	付図3			付図3 舟用具分布図3(～)	付図3 舟用具分布図(～)
付図	付図4			付図4 漁撈具分布図1(回転式離頭鉤中柄(一本式)など)	付図4 漁撈具分布図1(回転式離頭鉤中柄(一本式)など)
付図	付図6			付図6 漁撈具分布図3(～)	付図6 漁撈具分布図3(～)
付図	付図7			付図7 漁撈具分布図4(～)	付図7 漁撈具分布図4(～)
付図	付図10			付図10 農耕具・採集具分布図(～)	付図10 農耕・採集具分布図(～)
付図	付図11			付図11 加工具・工具分布図(縦軸・横軸・鍔・鉄斧など)	付図11 農耕・工具分布図(縦軸・横軸・鍔・鉄斧柄など)
付図	付図11		凡例 5	鍔	鍔
付図	付図12			付図12 発火具・燈火具分布図(ヒキリ板・ヒキリ棒・灯火用扱木・炉鉤など)	付図12 発火具・煙鉤・燈火具分布図(ヒキリ板・ヒキリ棒・燈火用扱木・炉鉤など)

●遺構層位名訂正一覧表

遺構名	誤	正
灰集中10	第一灰層	第1灰層
灰集中10	第二灰層	第2灰層
灰集中10-2灰層	OB下層	OB上層
灰集中13	OB	OB上面
灰集中14	OB	OB下層
灰集中14	OB下	OB下層
灰集中15	OB	OB上層
灰集中16	OB	OB下層
灰集中17	OB	OB上層
灰集中18	OB	OB上層
灰集中19	OB	OB上層
灰集中20	OB	OB上層
灰集中22	ⅡB-1	ⅠB-1上面
炭化物集中1		表土Ⅰ
炭化物集中2	Ta-b上	OB下層
炭化物集中3	ⅡB-1	ⅠB上面
炭化物集中4	OB	OB上面
炭化物集中5	OB	OB上層
炭化物集中6	OB	OB上層
炭化物集中8	OB	OB上面
炭化物集中9	OB	OB上面
炭化物集中11	OB	OB上面
炭化物集中12	OB	OB上面
炭化物集中14	OB	OB下層
炭化物集中15	OB	OB上層
炭化物集中16	OB	OB上層
炭化物集中17	OB	OB上層
炭化物集中18	ⅡB	ⅠB-1上面
炭化物集中18	ⅠB-1	ⅠB-1上面
炭化物集中20	OB	OB上層
炭化物集中21	OB	OB上層
炭化物集中21	ⅡB-1	OB上層
炭化物集中22	Ⅰ	ⅠB-1
炭化物集中22	OB	ⅠB-1
炭化物集中22	ⅠB	ⅠB-1
炭化物集中29	OB	OB上層
炭化物集中30	OB	OB上層
炭化物集中31	ⅠB-1	ⅠB-1上面
砂集中1	OB	OB上層
砂集中1	ⅠB-1	OB上層
砂集中2	OB	OB上層
砂集中3	ⅡB-11	ⅠB-1
貝殻皮集中1	OB上面	OB上層
貝殻皮集中2	OB	OB上層
貝殻皮集中3	OB	OB下層
貝殻皮集中4	OB	OB上層
クリ集中1	OB上面	OB上層
クルミ集中1	OB	OB上層
クルミ集中2	OB	OB上層
クルミ集中3	OB	OB上層
クルミ集中4	OB	OB上層
クルミ集中5	OB	OB上層
ホオノキ集中1	OB	OB上層

左記の訂正箇所は次の表番号のものとなります

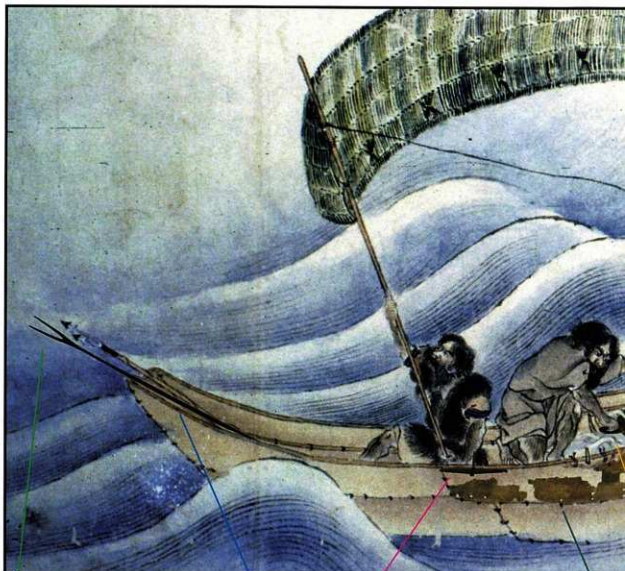
章	頁	表番号
V	99	表V-22
V	101	表V-23
Ⅷ	643	表Ⅷ-2-1
Ⅷ	643	表Ⅷ-2-3
Ⅷ	649	表Ⅷ-2-5
Ⅷ	650	表Ⅷ-2-6
Ⅷ	651	表Ⅷ-2-7
Ⅷ	652	表Ⅷ-2-8
Ⅷ	653	表Ⅷ-2-9
Ⅷ	654	表Ⅷ-2-10
Ⅷ	665	表Ⅷ-2-19
Ⅷ	667	表Ⅷ-2-21
Ⅷ	668	表Ⅷ-2-22
Ⅷ	689	表Ⅷ-2-35
Ⅷ	690	表Ⅷ-2-36
Ⅷ	691	表Ⅷ-2-37
Ⅷ	691	表Ⅷ-2-39

●その他訂正

表Ⅳ-1、表Ⅴ-1の観察表の見方は、北郷調報第103集「千歳市 オサツ2遺跡(2)」P117.18~1.31参照



板綴舟舷側板 (74)



● 回転式離頭銚中柄



● 車權受台部



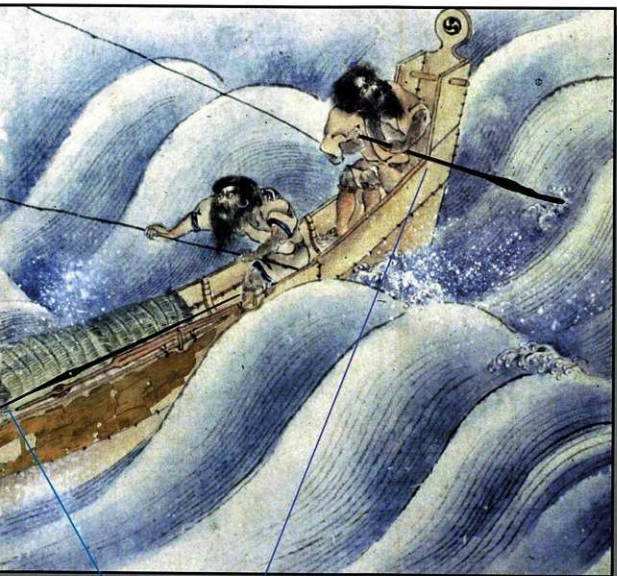
原画



● 回転式離頭銚棹



「蝦夷生計図説」より



● あか汲み



● 早櫂



● 車櫂



● 舷側板



板漕舟(イタオマチ)の復元
写真合成・デザイン：田中康治



1 車權受台部 (126・127)



2 あか汲み (260)



1 矢筒翼 (433)



2 炉鉤 (601)



1 木札 (1109・1111・1112・1114)



2 高床式倉庫の梯子 (39)



1 OB層建材集中2



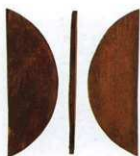
2 OB層灰集中10土層断面 SE→



1 調査状況 E→



2 調査状況 N→



738



739



760



761



762



763

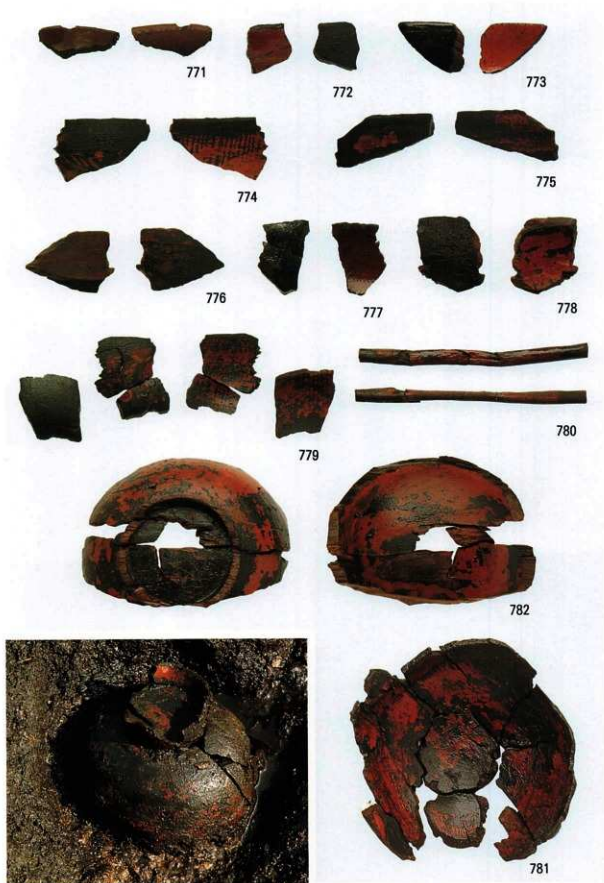


1 漆塗箱物蓋板 (764)



764

2 漆塗曲げ物板・漆塗箱物板



1 漆塗椀 (781)

2 漆塗椀・漆塗煙管ラウ





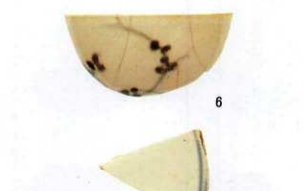
1 染付碗 (3)



2 陶器碗 (8)



3 陶器皿 (12)



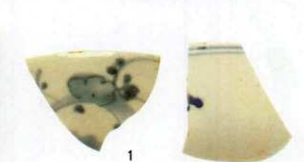
6



11



10



7



13



1

17

4 陶磁器



1 ガラス製品・金属製品



2 回転式離頭鉤中柄・指掛部



食用具（過年度報告分を含む）

例 言

1. 本書は、平成4年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した新千歳空港建設用地内埋蔵文化財包蔵地発掘調査のうち、美々8遺跡低湿度部の人力調査地区の表土層（Ta-a層 1739年降下～幕末頃）と第0黒色土層（Ta-b層 1667年降下～Ta-a層 1739年降下まで）、クラムシエル（重機）調査地区（包含層一括採取のため大まかな土層細分）の報告書である。

なお、Ⅶ章に保存処理中のため北埋調報102集に掲載できなかった第1黒色土層出土の木製品・樹皮製品・金属製品を追加資料として掲載している。

2. 低湿度部の報告は、平成元年度試掘調査（北埋調報69）、平成2年度予備調査（北埋調報77）、平成3年度調査（北埋調報83）、平成4年度調査の一部（北埋調報102）と既に4冊を刊行している。

美々8遺跡低湿度部の整理作業・保存処理作業は平成4年度からの継続事業であり、本年度が最終年度である。発掘調査は調査部調査第3課が行い、報告書の作成は第1調査部資料調査課が行った。

ただし、出土資料が膨大かつ多岐にわたるため、諸般の事情から事実記載のみの概略的な報告となってしまうことをご寛容願いたい。

3. 本書の作成に当たっては、主に木製品、樹皮製品、繊維製品、金属製品、ガラス製品、骨角製品を田口尚が、土層、遺構、土器、石器を鈴木信が、動植物遺存体については田口尚の作業を引継ぎ鈴木信が分担執筆した。全体の構成・編集は田口尚が行った。各章、各節の執筆担当は以下の通りであり、それぞれ文末に文責者を記した。

田口尚…Ⅰ-1～4, Ⅱ-2 (1)～(5)・3 (1) (2)・4 (1)～(3)・5～7, Ⅳ-1・(3)～(6)のガラス製品・金属製品・木製品・3 (3) (4), Ⅴ-1・2 (2) (3) (5) (6) (9) (10) (16)のガラス製品・金属製品・木製品・3 (3)～(5), Ⅵ-1・2 (3)～(5), Ⅶ-1 (1)・2 (1) (2), Ⅷ-1 (1) (4) (5), Ⅸ、鈴木信…Ⅱ-1, Ⅲ-1・2, Ⅳ-1・2 (1)～(6)・3 (1) (2), Ⅴ-1・2 (1)～(16)・3 (1) (2), Ⅵ-1・2 (1) (2), Ⅶ-2 (1) (2) (3) 2～6, Ⅸ、田中康治…Ⅱ-8、岡本育子…Ⅷ-1 (2)～(4)

4. 各種同定、分析及び調査指導は下記に依頼した。

炭化種子同定及び指導：北海道環境文化研究センター・札幌国際大学 吉崎昌一氏・北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂恭代氏（継続）、金属製品の材質分析・ガラス製品の成分分析：岩手県立博物館 赤沼英男氏（継続）、樹種同定及び指導：農林水産省森林総合研究所 平川泰彦氏（継続）、花粉分析：北海道開拓記念館 山田悟郎氏（北埋調報102掲載）、動物遺存体同定及び調査指導：千歳市埋蔵文化財センター 高橋理氏（継続）、珪藻分析・植物珪酸体分析・昆虫同定：バリノサーヴェイ株式会社考古学研究室、珪藻含有量：野外科学株式会社、放射性炭素年代測定：京都産業大学山田治氏（北埋調報102掲載）、アイヌ民具の調査指導：国立民族学博物館 大塚和義氏、保存処理等の指導：奈良国立文化財研究所 沢田正昭氏・肥塚隆保氏・村上隆氏・奈良県立橿原考古学研究所 今津節生氏・滋賀県文化財保護協会 中川正人氏、木製発火具の調査指導：北海道教育大学釧路校 高嶋幸男氏、漆塗腕製作技法の調査指導：元興寺文化財研究所 北野信彦氏、須恵器・土師器の蛍光X線分析及び指導：奈良教育大学 三辻利一氏（北埋調報103掲載）。

5. 現場の遺構図・遺物出土状況図などは、三浦正人・皆川洋一・鈴木信・越田雅司が担当した。

遺構図の整理は鈴木信、遺構図・遺物出土状況図の整理及びトレース図の作成は半澤和恵・小原節子が従事し、田口尚が統括した。パソコンによる遺物分布図作成には主に田中康治・小原節子・前田房美が従事し、田口尚が統括した。

6. 台帳整理・諸記録の整理は主に田中康治・小原節子・前田房美・鶴岡廣子が従事し、田口尚が統括した。
7. 画像データベースの構築は主に田中康治が行い、パソコンへの画像の取り込み・データ入力・一覧表作成は田中康治・前田房美・園田敏江・鎌田弥生・岩田理恵子・今野博美・田澤初枝が従事し、田口尚が統括した。
8. 遺構・遺物の写真撮影のうち、現場写真撮影は主に越田雅司、整理時の遺物写真撮影・現像・焼付けは菊池慈人が担当した。写真台帳・アルバム・フォトCD整理には越智八重子・園田敏江が従事し、菊池慈人が統括した。
9. 石材鑑定は主に資料調査課花岡正光が行い、鈴木信が補佐した。
10. 樹種同定は農林水産省森林総合研究所 平川泰彦氏の指導のもとに岡本育子が行った。
11. 陶磁器・土器・石器・石製品・ガラス製品・金属製品・骨角製品・木製品・樹皮製品・繊維製品の実測・トレースは、藤内まゆみ・足立まみ・小林由里子・濱中聡子・小畑麻弓・釜沼みどり・浅沼典子・岩田理恵子・前田房美・小山紫野・木下昭仁・小林（高田）京子・望月（中井）泉が行い、田口尚が統括した。
12. 遺物の保存処理は主に木製品等を岡本育子・吉田（長瀬）めぐみ・山内（福士）奈巳美・館岡綾子・田中康治・武田基・勝見希久雄・鶴岡廣子が、主に金属製品等を浅沼典子が補助し、田口尚が統括した。
13. 土壌の浮遊選別・水洗選別試料の一次、二次選別作業は田口尚の指示のもと、主に斎藤教江・村上恭子が、細別・細分・集計は鈴木信の指示のもと、主に女池遊子・吉田京子・岩崎結花が行った。
14. 出土遺物の整理、木製品の分類・洗浄・水替え・脱気バック・収納には主に白幡喜江・小山紫野・田中清久・目黒祐子・吉崎美智子・中谷道子・吉田京子・杉井淳子・北村淳・武藤利香・梅木友子・磯田良雄が従事し、作業全体を田口尚が統括した。
15. その他、収納台帳整理・調査に関わる諸記録のパソコン入力を主に田中康治・小原節子・前田房美が行い、田口尚が統括した。
16. 整理報告終了後の出土遺物及び記録類については、北海道教育委員会が保管・管理する。ただし、当センターで保存処理を実施した一部の重要遺物は、経過観察を行いながら仮保管している。
17. 発掘調査・整理作業にあたっては、下記の機関および各氏にご指導ならびにご助言を賜った。ご芳名を記し、感謝申し上げる次第である。（順不同、敬称略）

文化庁、北海道教育委員会、千歳市教育委員会、北海道開発局札幌開発建設部新千歳空港建設事業所、渡辺重建工業株式会社、奈良国立文化財研究所 工業普通、沢田正昭・肥塚隆保・村上隆・西村康・光谷拓実・松井章・牛嶋茂、東京国立文化財研究所 青木繁夫、国立民族学博物館 大塚和義、東京国立博物館 佐々木利和、奈良県立橿原考古学研究所 今津節生、滋賀県文化財保護協会 中川正人、元興寺文化財研究所 増澤文武・植田直見・北野信彦、北海道開拓記念館 三野紀雄・野村崇・平川善祥・小林幸雄・氏家等・出利葉浩司・右代啓視・水島未記、北海道立北方民族博物館 青柳文吉・渡部裕、北海道立アイヌ民族文化研究センター 古原敏弘・本田優子、北海道立工業試験場 相山英明、東京大学 宇田川洋、北海道大学 菊池俊彦・林謙作・天野哲也・椿坂恭代、名古屋大学 小谷凱直、早稲田大学 菊池徹夫、東京都立大学 山田昌久、国学院大学 鈴木靖民、関西外国語大学 出口昌子、札幌国際大学 吉崎昌一、札幌大学 木村英明、札幌学院大学 鶴丸俊明、北海学園大学 藤村久和、千歳市教育委員会 大谷敏三・田村俊之・高橋理・豊田宏良・松田淳子、千歳市アイヌ文化伝承保存会 中本ムツ子、苫小牧市埋蔵文化財調査センター

佐藤一夫・宮夫靖夫・工藤壺・渡辺俊一・二階堂啓也・兵藤千秋・赤石慎三、恵庭市郷土資料館
 上屋真一・松谷純一・森秀之、札幌市埋蔵文化財センター 加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・仙波
 伸久・秋山洋司、江別市郷土資料館 野中一宏・稲垣和幸、小樽市教育委員会 土屋周三・石川直
 章・青木誠、小樽市博物館 石神敏、市立函館博物館 長谷部一弘、旭川市教育委員会 瀬川拓郎、
 富良野市郷土館 杉浦重信、帯広百年記念館 北沢実・内田祐一・山原敏朗、釧路市埋蔵文化財調
 査センター 西幸隆・石川朗・松田猛、深川市教育委員会 葛西智義、伊達市教育委員会 大島直
 行、石狩市教育委員会 石橋孝夫・工藤義衛、倶知安町教育委員会 矢吹俊男、余市町教育委員会
 乾芳宏・宮宏明、平取町教育委員会 森岡健治、平取町立二風谷アイヌ文化博物館 米田秀喜、
 平取町二風谷アイヌ語教室 荻野志朗、静内町郷土館 藤中剛司、アイヌ民族博物館 村木美幸、
 上ノ国町教育委員会 松崎水穂・斎藤邦典、知内町郷土資料館 高橋豊彦、南茅部町教育委員会
 阿部千春・福田裕二、今金町教育委員会 寺崎康史、八雲町郷土資料館 柴田信一、斜里町教育委
 員会 金盛典夫、羅臼町教育委員会 涌坂周一、豊原照司、児玉マリ、福岡イト子、津田命子、由
 良勇他

最後に、長年にわたり新千歳空港用地内発掘調査の現場作業に従事され、特に低湿度調査の要と
 なる揚排水の準備・設置、保守点検・安全管理をしていただいた故中村武氏のご冥福を折り、この
 報告書を捧げます。

記号等の説明

1. 遺構には舟着場、建物跡、立杭列、杭穴列、立杭：T、杭穴：P、建材集中、双礫、集石：0S、
 灰集中：灰、炭化物集中：炭、砂集中、小砂利集中、土器集中、クルミ集中：クルミ、クリ集中：
 クリ、ホノノキ集中：ホノノキ、貝殻皮集中：貝、溝等があり、表記には一部略記号を併用して
 いる箇所がある。また、立杭、杭穴の○シンボルマークの大小は、平面径の大小を表している。
2. 遺構図の数値は標高（単位m）であり、遺構図・遺物実測図にはすべてスケールを付している。
 遺物実測図は基本的に土器 1/3、剥片石器 1/2、礫石器 1/3、ガラス製品 1/1、金属製
 品 1/1～1/3、骨角製品 1/1～1/2、大小の幅が大きい木製品は概ね 1/3 を基本に、製
 品の種類で 1/3～1/10 の範囲でスケールを付している。
3. 掲載遺物には、層位・遺構・調査法にかかわらず、陶磁器・土器（1.2.3.・・・）、石器・石製品
 （1.2.3.・・・）、ガラス製品（1.2.3.・・・）、骨角製品（1.2.3.・・・）、金属製品（1.2.3.・・・）、木製品・樹皮製
 品・繊維製品（1.2.3.・・・）等のように種類別毎にすべて1番から連番で掲載遺物番号を付し、本文、
 一覧表、分布図、写真図版の遺物番号と対応させている。
4. 土層は、表土層：表、樽前a降下軽石：Ta-a、第0黒色土層：0B、樽前b降下軽石：Ta-b、第
 I黒色土層：IB、有珠b、火山灰：Us-b、第II黒色土層：IIB、苫小牧火山灰：B-Tm、樽前c、
 降下軽石：Ta-c₁、樽前c₂降下岩片：Ta-c₂、樽前d₁降下岩片：Ta-d₁、樽前d₂降下スコリヤ：
 Ta-d₂、第III黒色土層：IIIB、恵庭aローム：En-aL、恵庭a降下軽石：En-aP、支笏軽石流堆
 積物：Spflのように略称を用いた場合がある。
5. 遺物出土状況図・分布図には基本的に土器：●、剥片石器・礫石器：■、ガラス製品：★、金属
 製品：▲、骨角器・自然遺物：*を使用した。
6. 本文及び一覧表中の木製品の樹種名称は、基本的に属名で記しており、植物遺存体や動物遺存体
 では可能な限り種名を記している。

目 次

第1分冊(本文・挿図・表)

カラー図版

例 言

記号などの説明

I 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	2
4 調査の概要	2

II 調査と整理の方法

1 発掘区の設定	7
2 調査の方法	8
(1) 準備工事	8
(2) 人力調査	9
(3) 重機(クラムシェル)調査	10
(4) 水洗選別調査	11
(5) 遺物の取上げ	11
3 整理と保管の方法	12
(1) 現場における整理と保管	12
(2) 札幌整理作業所における整理と保管	13
4 遺物の保存処理	13
(1) 有機質遺物の保存処理	13
(2) 金属製品の保存処理	14
(3) その他の遺物の保存処理	14
5 各種分析と試料のサンプリング	17
6 土層断面の剥ぎ取り	17
7 写真撮影の方法	18
8 画像付きデータベース作成とその活用	19

III 位置と環境

1 位置と環境	23
2 土層の区分	23

IV 表土層の調査

1 調査結果の概要	33
2 遺構とその遺物	34
(1) 建物跡	35
(2) 立杭列	35
(3) 杭穴列	36

(4) その他の立杭と杭穴	36
(5) 灰集中	38
(6) 炭化物集中	39
3 表土層の遺物	40
(1) 陶磁器	40
(2) 石器・石製品	40
(3) 金属製品	40
(4) 木製品	40
V 第0黒色土層の調査	
1 調査結果の概要	43
2 遺構とその遺物	43
(1) 舟着場	43
(2) 建物跡	43
(3) 立杭列	46
(4) 杭穴列	57
(5) その他の立杭と杭穴	57
(6) 建材集中	58
(7) 双礎	76
(8) 集石	76
(9) 灰集中	76
(10) 炭化物集中	96
(11) 砂集中	102
(12) クルミ集中	102
(13) クリ集中	103
(14) 貝殻皮集中	103
(15) ホオノキ集中1	103
(16) 溝1	103
3 包含層の遺物	104
(1) 陶磁器	104
(2) 石器・石製品	106
(3) ガラス製品	106
(4) 金属製品	106
(5) 木製品・樹皮製品・繊維製品	115
VI 重機(クラムシェル)調査の遺物	
1 調査結果の概要	485
2 遺物	485
(1) 陶磁器・土器類	485
(2) 石器・石製品	485
(3) ガラス製品	485
(4) 金属製品	485

(5) 木製品・樹皮製品・繊維製品	493
VII 第 I 黒色土層の追加遺物	
1 遺構の遺物	583
(1) 木製品・樹皮製品	583
2 包含層の遺物	583
(1) 金属製品	583
(2) 木製品・樹皮製品	585
VIII 自然科学分析（各種分析・同定結果）	
1 木製品の樹種同定	603
(1) はじめに	603
(2) 資料および識別の方法	603
(3) 識別結果と考察	604
(4) 木製品の樹種組成	616
2 動植物遺存体の分析	641
(1) 採取試料と分析の方法	641
(2) 出土植物遺存体表の見方について	643
(3) 植物遺存体について	646
1) 美々8遺跡低湿度部から出土した栽培植物について 札幌国際大学教授 吉崎 昌一 北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂恭代	646
2) 栽培植物の計測値について	668
3) 野生種子等について	669
4) 出土野生種子と環境について	672
5) 有用植物種子の組み合わせ	673
6) 有用植物種子の組み合わせの起源について	673
(4) 美々8遺跡低湿度部出土の動物遺存体 千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理	677
1) はじめに	677
2) 出土動物遺存体	677
3 美々8遺跡低湿度部の珪藻化石・植物珪酸体よりみた環境変遷 パリノサーヴェイ株式会社	695
4 美々8遺跡出土金属製品の金属学的解析（3） 岩手県立博物館 赤沼 英男	731
IX まとめ	745
引用・参考文献	747
抄 録	
第 2 分冊（写真図版）	
写真図版	
付図	

カラー図版目次

- カラー図版 1 板繰舟舷側板 (74)
- カラー図版 2 板繰舟 (イタオマチッ) の復元
- カラー図版 3 板繰舟 (イタオマチッ) の復元
- カラー図版 4-1 車權受台部 (126・127)
- カラー図版 4-2 あか汲み (260)
- カラー図版 5-1 矢筒翼 (433)
- カラー図版 5-2 炉鉤 (601)
- カラー図版 6-1 木札 (1109・1111・1112・1114)
- カラー図版 6-2 高床式倉庫の梯子 (39)
- カラー図版 7-1 0 B 層建材集中 2
- カラー図版 7-2 0 B 層灰集中 10 土層断面 SE→
- カラー図版 8-1 調査状況 E→
- カラー図版 8-2 調査状況 N→
- カラー図版 9-1 漆塗箱物板 (764)
- カラー図版 9-2 漆塗曲げ物板・漆塗箱物板
- カラー図版 10-1 漆塗碗 (781)
- カラー図版 10-2 漆塗碗・漆塗キセルラウ
- カラー図版 11 漆塗箱物板・漆塗碗
- カラー図版 12-1 染付碗 (3)
- カラー図版 12-2 陶器碗 (8)
- カラー図版 12-3 陶器皿 (12)
- カラー図版 12-4 陶磁器
- カラー図版 13-1 ガラス製品・金属製品
- カラー図版 13-2 回転式離頭銚中柄・指掛部
- カラー図版 14 食用具 (過年度報告分を含む)

挿 図 目 次

図 I - 1	遺跡位置図	3	図 IV - 5	灰集中 1 ~ 9・11、炭化物集中 1	38
図 I - 2	標準土層模式図	4	図 IV - 6	遺構の陶磁器・石器	39
図 I - 3	美沢川流域遺跡群の位置と発掘 区の呼称	5	図 IV - 7	遺構のガラス製品・金属製品	39
図 I - 4	美沢川流域遺跡群の分布と美々 8 遺跡低湿部	6	図 IV - 8	陶磁器・石器・石製品	40
図 II - 1	美々 8 遺跡低湿部年度別調査区	7	図 IV - 9	金属製品	40
図 II - 2	平成 4 年度現況図	8	図 IV - 10	木製品	41
図 II - 3	人力調査時の機材配置図	9	図 V - 1	遺構分布図	44
図 II - 4	クラムシェル調査時の機材配置 図	10	図 V - 2	舟着場	45
図 II - 5	クラムシェル土壌採取地点	11	図 V - 3	建物跡 2、立杭列 26 ~ 29、立杭 分布図	47
図 II - 6	保存処理の工程（有機質遺物）	15	図 V - 4	立杭列 3 ~ 25、立杭分布図	48
図 II - 7	保存処理の工程（金属製品等）	16	図 V - 5	建物跡 2（柱）、立杭列 13・15・ 16	49
図 II - 8	土層断面の剥ぎ取り	17	図 V - 6	立杭列 18	50
図 II - 9	写真撮影	18	図 V - 7	立杭列 19・26	51
図 II - 10	画像データベースの各画面	20	図 V - 8	配列外立杭（1）	52
図 II - 11	画像データベースの構造	21	図 V - 9	配列外立杭（2）	53
図 II - 12	ネットワークの構成と画像デー タベースの応用	22	図 V - 10	建物跡 6・7、杭穴列、杭穴分 布図	58
図 III - 1	遺跡周辺の地形と遺跡分布	25	図 V - 11	建材集中 2・3 分布図	59
図 III - 2	表土 ~ I B 層の遺跡分布図	26	図 V - 12	建材集中 2（建材 1）	60
図 III - 3	0 B 層上面の地形と土層断面の 位置	27	図 V - 13	建材集中 2（建材分布図）	61
図 III - 4	土層断面図と各種試料採取地点 （A - B ライン）	29	図 V - 14	建材集中 2（建材 2）	63
図 III - 5	土層断面図と各種試料採取地点 （C - D、E - F、G - H、I - J ライン）	31	図 V - 15	建材集中 2（建材 3）	64
図 IV - 1	遺構分布図	33	図 V - 16	建材集中 2（建材 4）	65
図 IV - 2	建物跡 1 と周辺の立杭列	34	図 V - 17	建材集中 2（建材 5）	67
図 IV - 3	杭穴列と杭穴分布図	35	図 V - 18	建材集中 3（建材分布図）	69
図 IV - 4	建物跡 1（柱）と配列外立杭	37	図 V - 19	建材集中 3（建材 1）	70
			図 V - 20	建材集中 3（建材 2）	71
			図 V - 21	建材集中 3（建材 3）	73
			図 V - 22	双礫、集石分布図	77
			図 V - 23	双礫 1・2、集石 13・14 と集石 13 の石製品	78
			図 V - 24	各集中細分層別分布図	79

図V-25 灰集中10(第1灰層、第2灰層)	80	図V-54 舟部材1(軸・舷側板)	137
図V-26 灰集中10の陶磁器・石器・石製 品分布図	81	図V-55 舟部材2(舷側板・舟材) ...	138
図V-27 灰集中10のガラス製品・骨角製 品・木製品・樹皮製品分布図	81	図V-56 舟部材3(舷側板)	139
図V-28 灰集中10の金属製品(鉄製品) 分布図	82	図V-57 舟部材4(舟材)	141
図V-29 灰集中10の金属製品(銅製品等) 分布図	82	図V-58 舟部材5(舟材)	142
図V-30 灰集中10の陶磁器・石器・石製 品	84	図V-59 舟部材6(舟材)	143
図V-31 灰集中10のガラス製品・骨角製 品	85	図V-60 舟部材7(舟材)	144
図V-32 灰集中10の金属製品(1) ...	86	図V-61 舟部材8(舟材)	145
図V-33 灰集中10の金属製品(2) ...	87	図V-62 舟部材9(舟材・舷側板) ...	146
図V-34 灰集中10の金属製品(3) ...	88	図V-63 舟部材10(舟材)	147
図V-35 灰集中10の金属製品(4) ...	89	図V-64 舟部材11(舟材)	148
図V-36 灰集中10の木製品・樹皮製品	90	図V-65 舟部材12(舟材)	149
図V-37 灰集中12~20	97	図V-66 舟部材13(舟材・舷側板) ...	150
図V-38 炭化物集中2・4~6・8~13	98	図V-67 舟部材14(舷側板)	151
図V-39 炭化物集中14~17・20・21・29・ 30	99	図V-68 舟部材15(舷側板)	152
図V-40 砂・クルミ・クリ・ホオノキ・ 貝殻皮集中	100	図V-69 舟部材16(舷側板)	153
図V-41 溝1	101	図V-70 舟部材17(舷側板)	154
図V-42 灰集中、炭化物集中の金属製品・ 木製品・樹皮製品	102	図V-71 舟部材18(舷側板)	155
図V-43 陶磁器の分布図・接合図	104	図V-72 舟部材19(舷側板)	156
図V-44 陶磁器	105	図V-73 舟部材20(舷側板)	157
図V-45 石器・石製品	107	図V-74 舟部材21(舷側板)	158
図V-46 石製品	108	図V-75 舟部材22(舟材)	159
図V-47 ガラス製品	109	図V-76 舟部材23(舵棒・舟材)	160
図V-48 金属製品(1)	111	図V-77 舟部材24(舟ミニチュア・舟材)	161
図V-49 金属製品(2)	112	図V-78 舟部材25(車権受台部①) ...	162
図V-50 陶磁器、石器・石製品分布図	113	図V-79 舟部材26(車権受台部②) ...	163
図V-51 ガラス製品分布図	114	図V-80 舟部材27(車権受台部③) ...	164
図V-52 金属製品分布図	114	図V-81 舟部材28(車権受台部④) ...	165
図V-53 木製品分布図	135	図V-82 舟部材29(車権受台部⑤) ...	166
		図V-83 舟部材30(車権受台部⑥) ...	167
		図V-84 舟部材31(車権受台部⑦) ...	168
		図V-85 舟部材32(車権受台部軸①)	169
		図V-86 舟部材33(車権受台部軸②)	170
		図V-87 舟部材34(車権受台部軸③)	171
		図V-88 舟部材35(車権受台部軸④)	172

図V-89	舟部材36(車權受台部軸⑤)	173	図V-116	漁撈具14(魚突鉤銚台部①)	201
図V-90	舟用具1(車權①)	174	図V-117	漁撈具15(魚突鉤銚台部②/ 基部)	202
図V-91	舟用具2(車權②)	175	図V-118	漁撈具16(回転式離頭銚中柄・ 魚突鉤銚台/基部/棹)	203
図V-92	舟用具3(早權①)	176	図V-119	漁撈具17(回転式離頭銚・魚 突鉤銚/棹①)	204
図V-93	舟用具4(早權②)	177	図V-120	漁撈具18(回転式離頭銚・魚 突鉤銚/棹②)	205
図V-94	舟用具5(早權握部③)	179	図V-121	狩猟具1(矢・矢中柄)	207
図V-95	舟用具6(早權握部④)	180	図V-122	狩猟具2(矢柄・矢筈)	208
図V-96	舟用具7(あか汲み①)	181	図V-123	狩猟具3(弓・仕掛弓台部・ ニチュア・長部材?)	209
図V-97	舟用具8(あか汲み②)	182	図V-124	狩猟具4(矢筒翼①)	210
図V-98	舟用具9(あか汲み③)	183	図V-125	狩猟具5(矢筒翼②)	211
図V-99	舟用具10(あか汲み④)	184	図V-126	切裁具1(鏝・刀柄・山刀柄・ 小刀柄①)	212
図V-100	舟用具11(あか汲み⑤)	185	図V-127	切裁具2(小刀柄②)	213
図V-101	舟用具12(あか汲み⑥)	186	図V-128	切裁具3(小刀柄③)	214
図V-102	舟用具13(あか汲み⑦)	187	図V-129	切裁具4(小刀柄④・小刀柄 未製品・小刀模造品)	215
図V-103	漁撈具1(回転式離頭銚中柄 ①)	188	図V-130	切裁具6(小刀樹皮製鞘①)	216
図V-104	漁撈具2(回転式離頭銚中柄 ②)	189	図V-131	切裁具6(小刀樹皮製鞘②/ 木製鞘)	217
図V-105	漁撈具3(回転式離頭銚中柄 ③)	190	図V-132	切裁具7(山刀鞘帯執部)	218
図V-106	漁撈具4(回転式離頭銚中柄 ④)	191	図V-133	切裁具8(袋式鉄斧柄)	219
図V-107	漁撈具5(回転式離頭銚中柄 ⑤)	192	図V-134	農耕・採集具1(鈎鍬/土掘 棒①)	220
図V-108	漁撈具6(回転式離頭銚中柄 ⑥)	193	図V-135	農耕・採集具2(土掘棒②)	221
図V-109	漁撈具7(回転式離頭銚中柄 ⑦)	194	図V-136	農耕・採集具3(土掘棒③)	222
図V-110	漁撈具8(回転式離頭銚中柄 ⑧)	195	図V-137	工具1(縦碇①)	223
図V-111	漁撈具9(回転式離頭銚中柄 ⑨)	196	図V-138	工具2(縦碇②)	224
図V-112	漁撈具10(回転式離頭銚中柄 ⑩)	197	図V-139	工具3(縦碇③)	225
図V-113	漁撈具11(回転式離頭銚中柄 ⑪)	198	図V-140	工具4(縦碇④)	226
図V-114	漁撈具12(回転式離頭銚指掛 部①)	199	図V-141	工具5(縦碇⑤)	227
図V-115	漁撈具13(回転式離頭銚指掛 部②)	200	図V-142	工具6(縦碇⑥)	228

図V-143	工具7 (縦樋⑦)	229	図V-175	容器類7 (桶底板③)	261
図V-144	工具8 (縦樋⑧)	230	図V-176	容器類8 (樽側板①)	262
図V-145	工具9 (縦樋⑨)	231	図V-177	容器類9 (樽側板②)	263
図V-146	工具10 (縦樋⑩)	232	図V-178	容器類10 (樽栓①)	264
図V-147	工具11 (鉄杵または縦樋柄)	233	図V-179	容器類11 (樽栓②)	265
	233	図V-180	容器類12 (山げ物把手/側板)	266
図V-148	農耕・工具1 (横樋①)	234		266
図V-149	農耕・工具2 (横樋②)	235	図V-181	容器類13 (曲げ物底板①)	267
図V-150	農耕・工具3 (横樋③)	236	図V-182	容器類14 (曲げ物底板②)	268
図V-151	農耕・工具4 (横樋④)	237	図V-183	容器類15 (曲げ物底板③)	269
図V-152	農耕・工具5・漁撈具? (横樋⑤)	238	図V-184	容器類16 (箱物側板①)	270
図V-153	農耕・工具6 (横樋⑥)	239	図V-185	容器類17 (箱物側板②・底板)	271
図V-154	農耕・工具7 (横樋⑦)	240		271
図V-155	農耕・工具8 (横樋未製品)	241	図V-186	容器類18 (箱物側板③・底板)	272
	241		272
図V-156	農耕・工具9・土木具 (掛矢)	242	図V-187	容器類19 (箱物側板④・脚部)	273
	242		273
図V-157	農耕・工具10 (作業台①)	243	図V-188	容器類20・喫煙具 (漆塗碗・漆塗キセルラウ)	274
図V-158	農耕・工具11 (作業台②)	244		274
図V-159	農耕・工具12 (作業台③)	245	図V-189	容器類21 (割物容器)	275
図V-160	発火具 (ヒキリ棒・ヒキリ板①)	246	図V-190	食用具1 (杓子①)	276
	246	図V-191	食用具2 (杓子②)	277
図V-161	発火具 (ヒキリ棒・ヒキリ板②)	247	図V-192	食用具3 (杓子③)	278
	247	図V-193	食用具4 (籠①)	279
図V-162	か鉤1	248	図V-194	食用具5 (籠②)	280
図V-163	か鉤2	249	図V-195	食用具6 (籠③)	281
図V-164	か鉤3	250	図V-196	食用具7 (籠④)	282
図V-165	か鉤4	251	図V-197	食用具8 (籠⑤)	283
図V-166	か鉤5	252	図V-198	食用具9 (両口箸①)	284
図V-167	燈火用挟木①	253	図V-199	食用具10 (両口箸②)	285
図V-168	燈火用挟木②	254	図V-200	食用具11 (両口箸③)	286
図V-169	容器類1 (樽底板・樽蓋板①)	255	図V-201	食用具12 (片口箸①)	287
	255	図V-202	食用具13 (片口箸②)	288
図V-170	容器類2 (樽蓋板②)	256	図V-203	食用具14 (片口箸③)	289
図V-171	容器類3 (樽蓋板③)	257	図V-204	食用具15 (片口箸④)	290
図V-172	容器類4 (樽蓋板④)	258	図V-205	食用具16 (串①)	291
図V-173	容器類5 (樽蓋板⑤・桶底板①)	259	図V-206	食用具17 (串②)	292
	259	図V-207	食用具18 (串③)	293
図V-174	容器類6 (桶底板②)	260	図V-208	食用具19 (串④)	294
	260	図V-209	食用具20 (串⑤)	295

図V-210	食用具21 (串⑥)	296	図V-243	軸状製品10	330
図V-211	食用具22 (串⑦)	297	図V-244	楔状製品 1	331
図V-212	食用具23 (串⑧)	298	図V-245	楔状製品 2	332
図V-213	食用具24 (串⑨)	299	図V-246	捧酒箸 (籠) 状製品 1	333
図V-214	食用具25 (串⑩)	300	図V-247	捧酒箸 (籠) 状製品 2	334
図V-215	食用具26 (串⑪)	301	図V-248	捧酒箸 (籠) 状製品 3	335
図V-216	食用具27 (串⑫)	302	図V-249	捧酒箸 (籠) 状製品 4	336
図V-217	装身具・紡織編具 1	303	図V-250	捧酒箸 (籠) 状製品 5	337
図V-218	紡織編具 2 (木錘①コモ椀など)	304	図V-251	捧酒箸 (籠) 状製品 6	338
図V-219	紡織編具 3 (木錘②コモ椀など)	305	図V-252	捧酒箸 (籠) 状製品 7	339
図V-220	歩行具 1 (下駄①)	306	図V-253	捧酒箸 (籠) 状製品 8	340
図V-221	歩行具 2 (下駄②)	307	図V-254	捧酒箸 (籠) 状製品 9	341
図V-222	歩行具 3 (下駄③)	308	図V-255	挟入部付丸木材 1	342
図V-223	歩行具 4 (カンジキ本体)	309	図V-256	挟入部付丸木材 2	343
図V-224	歩行具 5 (カンジキ軸)	311	図V-257	挟入部付丸木材 3	344
図V-225	交易・伝達具 (木札)	312	図V-258	挟入部付丸材 1	345
図V-226	祭祀・儀礼具 1 (花矢)	313	図V-259	両端部挟入部付丸木材 1	346
図V-227	祭祀・儀礼具 2 (飾り串・捧酒箸 (籠) ①)	314	図V-260	両端部挟入部付丸木材 2・丸材	347
図V-228	祭祀・儀礼具 3 (捧酒箸 (籠) ②)	315	図V-261	挟付丸木材 1	348
図V-229	祭祀・儀礼具 4 (木幣・木幣状製品①)	316	図V-262	挟付丸木材 2	349
図V-230	祭祀・儀礼具 5 (刀ミニチュア・木幣状製品② 他)	317	図V-263	挟付丸木材 3	350
図V-231	加工材 (円盤・有孔円盤・円錐状製品他)	318	図V-264	挟付半割材	351
図V-232	ピン状製品 1	319	図V-265	挟付角材	352
図V-233	ピン状製品 2	320	図V-266	挟付板材 1	353
図V-234	軸状製品 1	321	図V-267	挟付板材 2	354
図V-235	軸状製品 2	322	図V-268	挟付半円状材・挟付紡錘状材・ホゾ先付角材他	355
図V-236	軸状製品 3	323	図V-269	挟付楕円板材	356
図V-237	軸状製品 4	324	図V-270	有孔丸木材	357
図V-238	軸状製品 5	325	図V-271	有孔角材	358
図V-239	軸状製品 6	326	図V-272	有孔板材 1	359
図V-240	軸状製品 7	327	図V-273	有孔板材 2	360
図V-241	軸状製品 8	328	図V-274	有孔板材 3	361
図V-242	軸状製品 9	329	図V-275	有孔板材 4	362
			図V-276	有孔板材 5	363
			図V-277	有孔板材 6	364
			図V-278	有孔板材 7	365
			図V-279	有孔板材 8	366
			図V-280	有孔板材 9	367

図V-281	有孔板材10	368	図V-319	樹皮製品2 (樹皮製容器他)	408
図V-282	有孔板材11	369	図V-320	樹皮製品3 (結束固定具①)	409
図V-283	有孔板材12	370	図V-321	樹皮製品4 (結束固定具②)	410
図V-284	角材1	371	図V-322	樹皮製品5 (結束固定具③)	411
図V-285	角材2	372	図V-323	樹皮製品6 (結束固定具④)	412
図V-286	角材・割材	373	図VI-1	陶磁器1	486
図V-287	板材1	374	図VI-2	陶磁器2	487
図V-288	板材2	375	図VI-3	陶磁器3	488
図V-289	板材3	376	図VI-4	陶磁器、石器・石製品	489
図V-290	板材4	377	図VI-5	ガラス製品	490
図V-291	板材5	378	図VI-6	金属製品	490
図V-292	板材6	379	図VI-7	重機調査の陶磁器・石器・石製 品分布図	491
図V-293	板材7	380	図VI-8	重機調査の金属製品分布図	492
図V-294	板材8	381	図VI-9	舟部材1 (軸①)	501
図V-295	板材9	382	図VI-10	舟部材2 (軸②)	502
図V-296	板材10	383	図VI-11	舟部材3 (軸③・舟材①)	503
図V-297	板材11	384	図VI-12	舟部材4 (舟材②)	504
図V-298	角杭状製品・割杭状製品1	385	図VI-13	舟部材5 (舟材③)	505
図V-299	角杭状製品・割杭状製品2	386	図VI-14	舟部材6 (舟材④)	506
図V-300	丸杭状製品1	387	図VI-15	舟部材7 (舟材⑤・舷側版)	507
図V-301	丸杭状製品2	388	図VI-16	舟部材8 (車權受上部①)	508
図V-302	丸杭状製品3	389	図VI-17	舟部材9 (車權受上部②)	509
図V-303	丸杭状製品4	390	図VI-18	舟部材10 (車權受上部③)	510
図V-304	丸木材1	391	図VI-19	舟部材11 (車權受上部④)	511
図V-305	丸木材2 / 丸材	392	図VI-20	舟部材12 (車權受上部⑤ / 軸)	512
図V-306	屋根縫針	393	図VI-21	舟部材13 (車權受上部軸)	513
図V-307	建築部材類	394	図VI-22	舟用具1 (車權・早權①)	514
図V-308	建材1 (柱類・桁・梁)	395	図VI-23	舟用具2 (早權②・あか汲み)	515
図V-309	建材2 (柱類・桁・梁)	396	図VI-24	漁撈具1 (回轉式離頭器中柄①)	516
図V-310	建材3 (柱類・桁・梁)	397	図VI-25	漁撈具2 (回轉式離頭器中柄②)	517
図V-311	建材4 (柱類・桁・梁)	398				
図V-312	建材5 (桁・梁・母屋)	399				
図V-313	建材6 (柱類)	401				
図V-314	木端1	403				
図V-315	木端2	404				
図V-316	炭化材	405				
図V-317	竹製品	406				
図V-318	樹皮製品1	407				

図VI-26	漁撈具 3 (回転式離頭鉤中柄③ ／指掛部)	518	図VI-53	食用具 4 (串)・歩行具 (カン ジキ軸)	545
図VI-27	漁撈具 4 (回転式離頭鉤指掛部・ 魚突鉤鉤台部)	519	図VI-54	紡織編具・装身具 (櫛)	546
図VI-28	漁撈具 5 (回転式離頭鉤・魚突 鉤鉤／棒)	520	図VI-55	祭祀・儀礼具 (花矢・飾り串・ 捧酒箸〔籠〕)	547
図VI-29	狩猟具 1 (矢・矢中柄・矢筈)	521	図VI-56	祭祀・儀礼具 (捧酒箸〔籠〕)・ 加工材	548
図VI-30	狩猟具 2 (弓・矢筒翼未製品?)	522	図VI-57	軸状製品 1	549
図VI-31	狩猟具 3 (翼部材?)	523	図VI-58	楔状製品・ピン状製品	550
図VI-32	切截具 1 (小刀柄・山刀柄)	524	図VI-59	捧酒箸状製品 1	551
図VI-33	切截具 2・採集具 (小刀柄未製 品・鞘・土掘棒)	525	図VI-60	捧酒箸状製品 2	552
図VI-34	工具 1 (縦樋①)	526	図VI-61	丸材	553
図VI-35	工具 2 (縦樋②)	527	図VI-62	丸木材	554
図VI-36	工具 3 (縦樋③)	528	図VI-63	抉入部付丸木材・角材	555
図VI-37	農耕・工具 1 (鉄斧柄・横樋①)	529	図VI-64	有孔丸木材	556
図VI-38	農耕・工具 2 (横樋②)	530	図VI-65	有孔丸木材・有孔角材 1	557
図VI-39	農耕・工具 3 (横樋③・整件)	531	図VI-66	有孔丸木材・有孔角材 2	558
図VI-40	発火具・鉤状製品	532	図VI-67	有溝角材・角材	559
図VI-41	容器類 (桶・樽)	533	図VI-68	有孔板材 1	560
図VI-42	容器類 1 (曲げ物把手・側板)	534	図VI-69	有孔板材 2・板材 1	561
図VI-43	容器類 2 (曲げ物側板)	535	図VI-70	板材 2	562
図VI-44	容器類 3 (曲げ物側板・底板)	536	図VI-71	厚板材 1	563
図VI-45	容器類 4 (折敷底板)	537	図VI-72	厚板材 2	564
図VI-46	容器類 5 (箱物・盆・刳物)	538	図VI-73	細板材	565
図VI-47	容器類 6 (盆・刳物)	539	図VI-74	建材	566
図VI-48	容器類 7 (漆塗箱物底板・漆塗 椀)	540	図VI-75	樹皮製品	567
図VI-49	容器類 8・食用具 1 (刳物・杓 了柄)	541	図VII-1	鑑	583
図VI-50	食用具 1 (鑑①)	542	図VII-2	造構の木製品	584
図VI-51	食用具 2 (鑑②)	543	図VII-3	舟部材 1	587
図VI-52	食用具 3 (両口箸・片口箸)	544	図VII-4	舟部材 2	588
			図VII-5	狩猟具・漁撈具・切截具	589
			図VII-6	採集具・工具 (土掘棒・鉄斧柄)	590
			図VII-7	農耕・工具 (横樋・整件)	591
			図VII-8	発火具・炉鉤	592
			図VII-9	容器類 (桶・樽・曲げ物・箱物)	593
			図VII-10	食用具・歩行具・紡織編具	594
			図VII-11	祭祀・儀礼具	595
			図VII-12	楔状製品・軸状製品	596

図Ⅶ-13 扶付・有孔製品	597	図Ⅶ-1-14 木製品の樹種 顕微鏡写真	
図Ⅶ-14 杭状製品・樹皮製品	598	(12)	633
図Ⅶ-1-1 木製品の樹種組成(1)	620	図Ⅶ-1-15 木製品の樹種 顕微鏡写真	
図Ⅶ-1-2 木製品の樹種組成(2)	621	(13)	634
図Ⅶ-1-3 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-1-16 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(1)	622	(14)	635
図Ⅶ-1-4 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-1-17 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(2)	623	(15)	636
図Ⅶ-1-5 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-1-18 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(3)	624	(16)	637
図Ⅶ-1-6 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-1-19 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(4)	625	(17)	638
図Ⅶ-1-7 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-1-20 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(5)	626	(18)	639
図Ⅶ-1-8 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-1-21 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(6)	627	(19)	640
図Ⅶ-1-9 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-2-1 灰集中10のブロック番号	641
(7)	628	図Ⅶ-2-2 メインセクションサンプル	
図Ⅶ-1-10 木製品の樹種 顕微鏡写真		位置	642
(8)	629	図Ⅶ-2-3 出土栽培種子(1)	675
図Ⅶ-1-11 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-2-4 出土栽培種子(2)	676
(9)	630	図Ⅶ-2-5 出土動物遺存体(1)	693
図Ⅶ-1-12 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅶ-2-6 出土動物遺存体(2)	694
(10)	631		
図Ⅶ-1-13 木製品の樹種 顕微鏡写真			
(11)	632		

表 目 次

<p>表 I - 1 新千歳空港用地内埋蔵文化財包蔵地調査面積推移 (単位 m²) 4</p> <p>表 IV - 1 建物跡 1 と立杭列 36</p> <p>表 IV - 2 杭穴列一覧 36</p> <p>表 IV - 3 灰集中・炭化物集中一覧 36</p> <p>表 IV - 4 遺構の陶磁器・石器 39</p> <p>表 IV - 5 掲載建物跡 (柱)、配列外立杭 42</p> <p>表 IV - 6 灰集中11 掲載ガラス製品 ... 42</p> <p>表 IV - 7 掲載遺構の金属製品 42</p> <p>表 IV - 8 掲載陶磁器、石器・石製品 ... 42</p> <p>表 IV - 9 掲載金属製品 42</p> <p>表 IV - 10 掲載木製品 42</p> <p>表 V - 1 建物跡 2 と立杭列 54</p> <p>表 V - 2 掲載建物跡 2 (柱) 55</p> <p>表 V - 3 掲載立杭列13 55</p> <p>表 V - 4 掲載立杭列15 55</p> <p>表 V - 5 掲載立杭列16 55</p> <p>表 V - 6 掲載立杭列18 55</p> <p>表 V - 7 掲載立杭列19 56</p> <p>表 V - 8 掲載立杭列26 56</p> <p>表 V - 9 掲載配列外立杭 56</p> <p>表 V - 10 杭穴列一覧 57</p> <p>表 V - 11 掲載建材集中 2 (建材) 74</p> <p>表 V - 12 掲載建材集中 3 (建材) 75</p> <p>表 V - 13 双隣・集石一覧 78</p> <p>表 V - 14 灰集中10・集石13 掲載陶磁器、石器・石製品 91</p> <p>表 V - 15 灰集中10 掲載ガラス製品 ... 91</p> <p>表 V - 16 灰集中10 掲載骨角製品 91</p> <p>表 V - 17 灰集中10 掲載金属製品 (1) 91</p> <p>表 V - 18 灰集中10 掲載金属製品 (2) 92</p> <p>表 V - 19 灰集中10 掲載金属製品 (3) 93</p>	<p>表 V - 20 灰集中10 掲載金属製品 (4) 94</p> <p>表 V - 21 灰集中10 掲載木製品・樹皮製品 94</p> <p>表 V - 22 灰集中・炭化物集中 99</p> <p>表 V - 23 砂・クルミ・クリ・貝殻皮集中 101</p> <p>表 V - 24 灰集中・炭化物集中掲載金属製品 103</p> <p>表 V - 25 灰集中13・14 掲載木製品・樹皮製品 103</p> <p>表 V - 26 0 B層掲載陶磁器・石器・石製品 108</p> <p>表 V - 27 0 B層掲載ガラス製品 109</p> <p>表 V - 28 0 B層掲載金属製品 110</p> <p>表 V - 29 0 B層掲載木製品 (1) 413</p> <p>表 V - 30 0 B層掲載木製品 (2) 414</p> <p>表 V - 31 0 B層掲載木製品 (3) 415</p> <p>表 V - 32 0 B層掲載木製品 (4) 416</p> <p>表 V - 33 0 B層掲載木製品 (5) 417</p> <p>表 V - 34 0 B層掲載木製品 (6) 418</p> <p>表 V - 35 0 B層掲載木製品 (7) 419</p> <p>表 V - 36 0 B層掲載木製品 (8) 420</p> <p>表 V - 37 0 B層掲載木製品 (9) 421</p> <p>表 V - 38 0 B層掲載木製品 (10) 422</p> <p>表 V - 39 0 B層掲載木製品 (11) 423</p> <p>表 V - 40 0 B層掲載木製品 (12) 424</p> <p>表 V - 41 0 B層掲載木製品 (13) 425</p> <p>表 V - 42 0 B層掲載木製品 (14) 426</p> <p>表 V - 43 0 B層掲載木製品 (15) 427</p> <p>表 V - 44 0 B層掲載木製品 (16) 428</p> <p>表 V - 45 0 B層掲載木製品 (17) 429</p> <p>表 V - 46 0 B層掲載木製品 (18) 430</p> <p>表 V - 47 0 B層掲載木製品 (19) 431</p> <p>表 V - 48 0 B層掲載木製品 (20) 432</p> <p>表 V - 49 0 B層掲載木製品 (21) 433</p> <p>表 V - 50 0 B層掲載木製品 (22) 434</p>
---	--

表V-51	0 B層掲載木製品 (23)	435	表V-91	0 B層掲載木製品 (63)	475
表V-52	0 B層掲載木製品 (24)	436	表V-92	0 B層掲載木製品 (64)	476
表V-53	0 B層掲載木製品 (25)	437	表V-93	0 B層掲載木製品 (65)	477
表V-54	0 B層掲載木製品 (26)	438	表V-94	0 B層掲載木製品 (66)	478
表V-55	0 B層掲載木製品 (27)	439	表V-95	0 B層掲載木製品 (67)	479
表V-56	0 B層掲載木製品 (28)	440	表V-96	0 B層掲載木製品 (68)	480
表V-57	0 B層掲載木製品 (29)	441	表V-97	0 B層掲載木製品 (69)	481
表V-58	0 B層掲載木製品 (30)	442	表V-98	0 B層掲載木製品 (70)	482
表V-59	0 B層掲載木製品 (31)	443	表V-99	0 B層掲載木製品 (71)	483
表V-60	0 B層掲載木製品 (32)	444	表V-100	0 B層掲載木製品 (72)	...	484
表V-61	0 B層掲載木製品 (33)	445	表VI-1	重機調査掲載遺物一覽	489
表V-62	0 B層掲載木製品 (34)	446	表VI-2	重機調査掲載ガラス製品	490
表V-63	0 B層掲載木製品 (35)	447	表VI-3	重機調査掲載金属製品	490
表V-64	0 B層掲載木製品 (36)	448	表VI-4	重機調査掲載木製品 (1)	...	568
表V-65	0 B層掲載木製品 (37)	449	表VI-5	重機調査掲載木製品 (2)	...	569
表V-66	0 B層掲載木製品 (38)	450	表VI-6	重機調査掲載木製品 (3)	...	570
表V-67	0 B層掲載木製品 (39)	451	表VI-7	重機調査掲載木製品 (4)	...	571
表V-68	0 B層掲載木製品 (40)	452	表VI-8	重機調査掲載木製品 (5)	...	572
表V-69	0 B層掲載木製品 (41)	453	表VI-9	重機調査掲載木製品 (6)	...	573
表V-70	0 B層掲載木製品 (42)	454	表VI-10	重機調査掲載木製品 (7)	...	574
表V-71	0 B層掲載木製品 (43)	455	表VI-11	重機調査掲載木製品 (8)	...	575
表V-72	0 B層掲載木製品 (44)	456	表VI-12	重機調査掲載木製品 (9)	...	576
表V-73	0 B層掲載木製品 (45)	457	表VI-13	重機調査掲載木製品 (10)	...	577
表V-74	0 B層掲載木製品 (46)	458	表VI-14	重機調査掲載木製品 (11)	...	578
表V-75	0 B層掲載木製品 (47)	459	表VI-15	重機調査掲載木製品 (12)	...	579
表V-76	0 B層掲載木製品 (48)	460	表VI-16	重機調査掲載木製品 (13)	...	580
表V-77	0 B層掲載木製品 (49)	461	表VI-17	重機調査掲載木製品 (14)	...	581
表V-78	0 B層掲載木製品 (50)	462	表VI-18	重機調査掲載木製品 (15)	...	582
表V-79	0 B層掲載木製品 (51)	463	表VII-1	I B層掲載金属製品	583
表V-80	0 B層掲載木製品 (52)	464	表VII-2	I B層掲載遺構の木製品	599
表V-81	0 B層掲載木製品 (53)	465	表VII-3	I B層掲載木製品 (1)	599
表V-82	0 B層掲載木製品 (54)	466	表VII-4	I B層掲載木製品 (2)	600
表V-83	0 B層掲載木製品 (55)	467	表VII-5	I B層掲載木製品 (3)	601
表V-84	0 B層掲載木製品 (56)	468	表VII-6	I B層掲載木製品 (4)	602
表V-85	0 B層掲載木製品 (57)	469	表VIII-1-1	同定樹種名一覽	618
表V-86	0 B層掲載木製品 (58)	470	表VIII-1-2	アイヌ語名称のある推定さ れる樹種名	619
表V-87	0 B層掲載木製品 (59)	471	表VIII-1-3	主な製品別樹種組成	621
表V-88	0 B層掲載木製品 (60)	472	表VIII-2-1	全遺構の調査土量	643
表V-89	0 B層掲載木製品 (61)	473	表VIII-2-2	灰集中の調査土量	644
表V-90	0 B層掲載木製品 (62)	474				

表Ⅶ-2-3	同定種子一覧	645	表Ⅶ-2-26	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(4)	682
表Ⅶ-2-4	メインセクションの種子	648	表Ⅶ-2-27	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(5)	683
表Ⅶ-2-5	全遺構の栽培種子	649	表Ⅶ-2-28	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(6)	684
表Ⅶ-2-6	全遺構のオニグルミ	650	表Ⅶ-2-29	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(7)	685
表Ⅶ-2-7	全遺構のクリ	651	表Ⅶ-2-30	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(8)	686
表Ⅶ-2-8	全遺構のコナラ亜属	652	表Ⅶ-2-31	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(9)	687
表Ⅶ-2-9	全遺構の木本種子	653	表Ⅶ-2-32	灰集中10 第2灰層の動物 遺存体(1)	687
表Ⅶ-2-10	全遺構の草本種子等	654	表Ⅶ-2-33	灰集中10 第2灰層の動物 遺存体(2)	688
表Ⅶ-2-11	灰集中10の栽培種子(1)	655	表Ⅶ-2-34	灰集中10 第2灰層の動物 遺存体(3)	689
表Ⅶ-2-12	灰集中10の栽培種子(2)	656	表Ⅶ-2-35	炭化物集中・灰集中の動物 遺存体(1)	689
表Ⅶ-2-13	灰集中10のオニグルミ・ク リ	657	表Ⅶ-2-36	炭化物集中・灰集中の動物 遺存体(2)	690
表Ⅶ-2-14	灰集中10のコナラ亜属(1)	658	表Ⅶ-2-37	炭化物集中・灰集中の動物 遺存体(3)	691
表Ⅶ-2-15	灰集中10のコナラ亜属(2)	659	表Ⅶ-2-38	砂集中3の動物遺存体	691
表Ⅶ-2-16	灰集中10の木本種子	660	表Ⅶ-2-39	貝集中の動物遺存体	691
表Ⅶ-2-17	灰集中10の草本種子等	662	表Ⅶ-2-40	包含層の動物遺存体(1)	691
表Ⅶ-2-18	種子計測値(1)	664	表Ⅶ-2-41	包含層の動物遺存体(2)	692
表Ⅶ-2-19	種子計測値(2)	665			
表Ⅶ-2-20	種子計測値(3)	666			
表Ⅶ-2-21	種子計測値(4)	667			
表Ⅶ-2-22	種子計測値(5)	668			
表Ⅶ-2-23	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(1)	679			
表Ⅶ-2-24	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(2)	680			
表Ⅶ-2-25	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(3)	681			

I 調査の概要

平成4年度に発掘調査された低湿部の内、表土層、第0黒色土層、重機（クラムシェル）調査の埋蔵文化財発掘調査報告である。本年度が最終報告となる。なお、保存処理中のために昨年度報告に掲載できなかった、第1黒色土層の木製品を追加資料として掲載した。

1 調査要項

事業名	新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	北海道開発局札幌開発建設部
事業受託者	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
所在地	千歳市美々1714、1292-381他
遺跡名	美々8遺跡低湿部 J-03-94
調査面積	2,011㎡
発掘期間	平成4年5月6日～平成4年10月30日（発掘調査） 平成5年5月6日～平成5年10月25日（土壌水洗・現地整理作業）
整理期間	平成4年4月12日～平成5年3月26日（整理作業・保存処理） 平成5年4月13日～平成6年3月26日（整理作業・保存処理） 平成6年4月12日～平成7年3月24日（整理作業・保存処理） 平成7年4月11日～平成7年3月25日（整理作業・保存処理） 平成8年4月15日～平成9年3月25日（整理作業・保存処理）

2 調査体制

平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
理事長 寺山敬雄（平成14年4月1日就任）	理事長 河原 茂（6月1日就任）	理事長 伊藤一夫（6月1日就任）	理事長 伊藤一夫	理事長 伊藤一夫
専務理事 永田香男（昭和54年4月1日就任）	専務理事 永田香男	専務理事 佐藤哲人（6月1日就任）	専務理事 佐藤哲人	専務理事 佐藤哲人
常務理事 中村福彦（平成14年4月1日就任）	常務理事 中村福彦	常務理事 中村福彦	常務理事 森田忠昭（6月1日就任）	常務理事 木村尚登（6月1日就任）
業務部長 伊藤庄吉	業務部長 中野真吾	業務部長 中野真吾	業務部長 山内清志	業務部長 山内清志
調査部長 森田知志	調査部長 森田知志	調査部長 森田知志	第1調査部長 畑 定明	第1調査部長 畑 定明
			第2調査部長 鬼柳 彰	第2調査部長 鬼柳 彰
調査第3部長 千歳英一（発掘調査者）	調査第3部長 千歳英一	調査第3部長 千歳英一	資料調査部長 花岡正光	資料調査部長 花岡正光（内兼）
主任 佐藤和雄（発掘調査者）	主任 佐藤和雄（発掘調査者）	主任 田口 尚（内兼）	主任 田口 尚（内兼）	主任 田口 尚（内兼）
三浦正人（発掘調査者）	三浦正人（発掘調査者）	三浦正人（発掘調査者）	文化財調査士 鈴木 昌（内兼）	鈴木 昌（内兼）
田口 尚（発掘調査者・内兼）	田口 尚（内兼）	田口 尚（内兼）	発掘主任 菊池 悠人（内兼）	菊池 悠人（内兼）
文化財調査士 菅川 洋一	文化財調査士 菅川 洋一	文化財調査士 菅川 洋一		
嘱託 鈴木 昌	嘱託 鈴木 昌	嘱託 鈴木 昌		
嘱託 越田 賢司	嘱託 越田 賢司	嘱託 越田 賢司		
写真技師 菊池 悠人	写真技師 菊池 悠人	写真技師 菊池 悠人		

1 調査の概要

3 調査の経緯 (図I-1～図II-5、表I-1)

美々8遺跡の調査は昭和56年度から9次にわたって実施され、うち低湿部の調査は平成元年の試掘調査から4年の歳月をかけ、平成4年度に発掘調査を終了した。整理及び保存処理作業は、初年度から毎年継続され本年度が最終年度となる。以下に低湿部調査の経緯をまとめる。

北海道開発局(以下、開発局)は新千歳空港B滑走路建設のため、美沢川をボックスカルバート(函渠)埋設し、発掘調査終了後は早急に現地の盛土転圧を行う予定であった。しかし、平成元年度の台地斜面部において道跡や杭穴群が予定調査区外の美沢川の低湿地に続くことが確認された。報告を受けた北海道教育委員会(以下、道教委)は直ちに開発局と協議し、状況確認のための試掘が必要と判断された。その結果、予想を遥かに超えるアイヌ文化期の貴重な木製品、繊維製品等が多量に見えられ、新たに4,375㎡を調査予定地として追加した。しかし、火山灰を含む軟弱地盤であることから、崩落や被圧地下水の噴出による危険性が問題となった。試掘のみでは道構の有無など不明な点が多く、安全確保や調査計画作成にはデータが不十分との判断から、予備調査を実施することで合意した。平成2年度は発掘に先立ちボーリング調査を行い、開発局、道教委、当センター及び工事業者が調査工法、作業工程、機器の配置等について入念な協議を重ねた。平成2年度は予備調査として、低湿部縁辺のA地区(215㎡)を人力により発掘した。調査方法には釜場(湯水ビット)排水による法面付オープンカット工法が採用された。平成3年度は前年度の工法に習って縁辺部を3地区に分割し、人力調査とクラムシェルによる包含層採取調査(以下クラムシェル調査)のA'地区(143㎡)、クラムシェル調査のみのB地区(797㎡)、人力調査のみのC地区(221㎡)を設定して実施した。平成4年度は残された面積が調査対象となることから、崩落防止のために道跡斜面部を大規模に掘削し、器材運搬路と作業ヤードを確保した。調査は安全性を確認しながら、人力調査範囲を3地区に分けて実施した。危険箇所はポンプ排水しながら、クラムシェル調査で対応した。なお、調査過程で現地担当調査員と道教委が十分な協議を行い、軟弱地盤と湧水突出が予想される危険かつ遺物の希薄な1,070㎡を調査対象から除外した。したがって、平成4年度の調査面積は人力調査1,328㎡、クラムシェル調査683㎡の合計2,011㎡となり、低湿部は最終的に3,035㎡調査したこととなる。

平成4年度の出土遺物は、擦文時代からアイヌ文化期の木製生活用品や家屋等の構築材を主体とするものであり、コンテナ(59×39×20cm)約3,000箱、木箱(360×45×45cm)約40箱もの膨大量となった。平成4年時のクラムシェル調査の包含層(大型遺物は採取済み)は、土袋袋約22,000袋を数えた。この遺物採取及び水洗選別作業は平成5年度の台地部調査と並行して現場で行った。低湿部の整理作業は道構や遺物が多岐にわたり、構築材を含む木製品が類をみない膨大量であることや、保存処理作業を要することから平成5年度以降も継続して実施され、本年度が最終整理年度となった。これまで遺物総量は約60万点を越え、通常コンテナ(59×39×15cm)に換算して約7,500箱にも及んでいる。今後は出土した最古級のアイヌ生活用品などの資料活用や収蔵・保管環境活用を十分に検討する必要がある。

4 調査の概要

整理及び保存処理作業は、通常遺跡では残らない金属製品、木製品などの有機性遺物、動植物遺存体の検出に重点をおいて進めてきた。以下に本年度の概略を述べる。(詳細は各章を参照)

表土層からは片側の開く建物跡、棚や櫓のような立杭列や杭穴列、跡や「送り場」と考えられる灰集中や炭化物集中が発見された。道構の遺物には伊万里染付碗、火打石、ガラス玉、角釘、アサ、オニクルミ、ブドウ等の種子、シカがあり、包含層からは陶磁器、カスガイ、ケセル、小刀(マキリ)柄、作業台等が出土した。

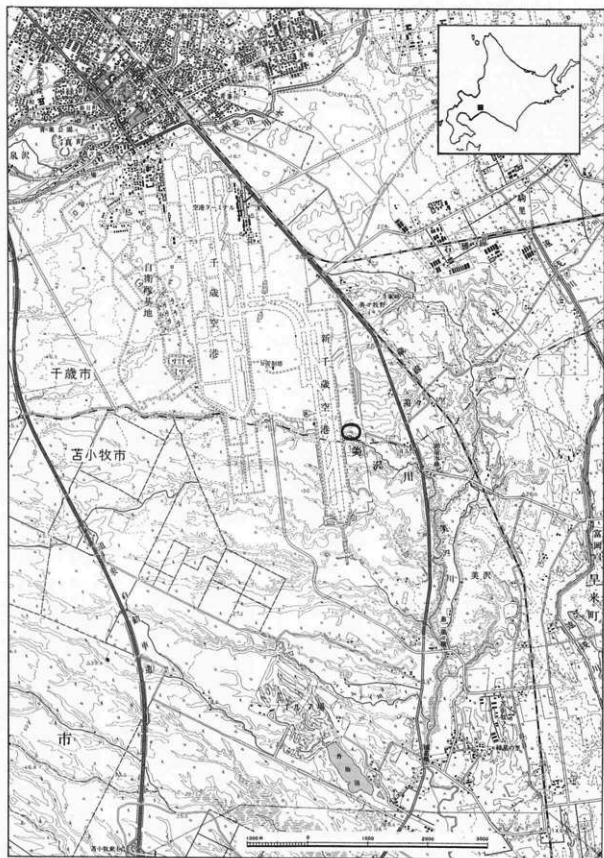


図 I-1 遺跡位置図

美々8遺跡

この地図は国土地理院発行の5万分の1の地図「千歳」を使用したものである

1 調査の概要

表 1-1 新千歳空港用地内埋蔵文化財包蔵地の調査面積推移 (単位㎡)

道跡名	51-52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	計
美々2								10,906	*5,000											*10,906
美々3										4,565			6,000	*9,225	*2,075					*16,415
美々4	1,160	** 呑川		7,150			6,475	6,180	5,899									1,050	*** 300	28,214
美々5	300	6,629	752	8,450				6,544												22,674
美々6		5,000		3,450																8,450
美々7		5,000		2,400												2,323	1,547			11,270
美々8					11,900	3,875			1,828		11,112		4,182	* 215	5,161	10,769	5,597			54,557
美々9							5,000													5,000
美々10	8,630	11,330		2,340																22,300
美々11	10,560																			10,560
美々12	1,750			3,400									17,464	*5,478	7,150			6,340		40,684
美々13											2,185									2,185
フ々4			23,760																	23,760
フ々5			6,800							660										7,460
フ々16																			950	950
ベ々10										4,027										4,027
ベ々11										1,570	5,710									7,280
ベ々15																		3,600		3,600
計	22,400	27,958	31,312	27,270	11,900	3,875	11,475	23,630	*7,727	10,822	19,007	17,464	*14,682	*12,008	8,609	12,316	11,937	4,650	1,250	280,292

* 美々2道跡の60年度5,000㎡、美々3道跡の元年度のうち978㎡、美々3道跡の2年度のうち4,500㎡、美々3道跡の3年度のうち950㎡については、1果層の調査のみで、それぞれ前年度の1果層の面積に計上されているので、面積集計から除外してある。また美々8道跡の2年度のうち82㎡は前年度の下部(水付き部分)の調査なので、同様に面積集計から除外してある。 ** 約240㎡を調査。面積集計から除外。 *** 美々4道跡の調査は、1果層のみの調査である。
美-美沢川流域の道跡群、フ-フフレバ川道跡群、ベ-ベペンケナイ川流域の道跡群。

0B層からは小規模なアイヌ集落(コタン)と舟着跡が発見された。建物跡とこれに伴う建材集積中では、アイヌ家屋(チセ)や舟着場の小休所と考えられる。立杭列や杭穴列はその付属施設の柱列や柵列等と考えられ、高床式倉庫(ブー)、干し棚、幣場(棚)等の存在が推定される。「物送り場」と考えられる灰集中10からは多数の金属製品、ガラス玉等が出土したほか、初めの付いたコメ、アワ、ヒエ、キビ等の栽培植物や食用・薬用植物の種子が多量に検出された。サケ、シカ等の動物遺存体も膨大に検出されており、骨角器製作の残片も見られる。包含層の遺物は板綴舟(イタオマチャ)部材などの交通具、回転式離頭鉈(キチ)・魚突鉤(マレ)等の漁撈具、狩猟具、農耕具、食用具等をはじめ、アイヌの生活用具のほとんどの種類が出土している。アイヌの精神世界を象徴する木幣(イナウ)、捧酒箸(イクバスイ)、花矢、彫刻や祖印(イトクバ)の付される製品もあり、周辺地域や和人と交易関係を含め、考古学的にも民族学的にも第一級の貴重資料である。

クラムシェル調査からもほぼ同様の遺物が出土した。0B層や1B層と接合する遺物もあり、遺跡はさらに広範囲に広がっていたと推定される。

(田口 尚)

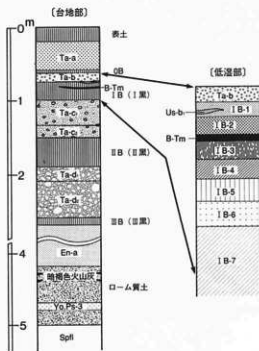


図 1-2 標準土層模式図

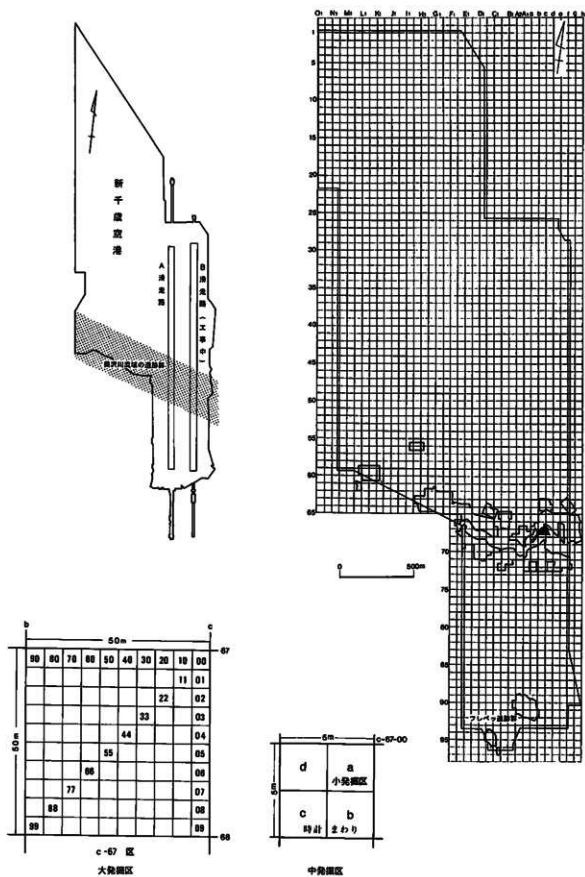
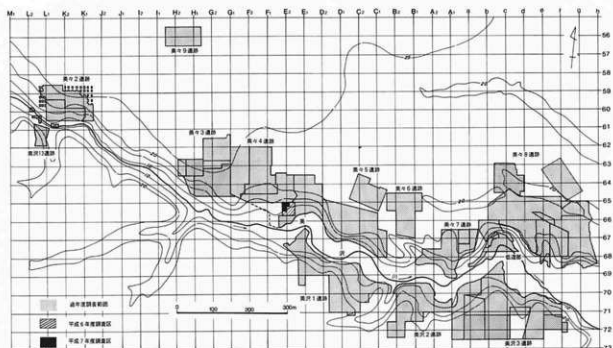
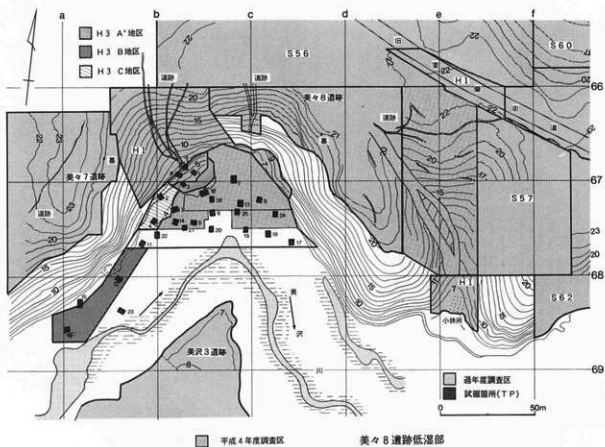


図 I - 3 美沢川流域遺跡群の位置と発掘区の呼称

I 調査の概要



美沢川流域の遺跡群



美々8遺跡低湿度部

図 I-4 美沢川流域遺跡群の分布と美々8遺跡低湿度部

II 調査と整理の方法

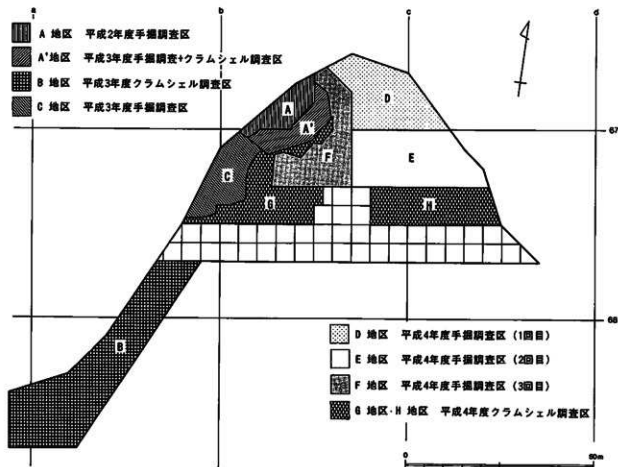
1 発掘区の設定 (図II-1)

方格座標は昭和50年度分布調査時に設定されたもので、第1期工事と第2期工事の境界を南北方向の基線(N-7°22'38"-Eで「A₁」と呼称)とし、用地北界を東西方向の基線(「0」)と呼称)とした。基線A₁から50m間隔で西へは「A₁、A₂、B₁、B₂、C₁、C₂…O₁」と、基線A₁より東へは「a、b、c、…h」とし、基線0から50m間隔で南へ「1、2、3、…110」とし50m方格(「A₁-0」と表示)をつくった。

50m方格を100分割して、調査の基本となる小区画を5m方格とした。5m方格の呼称は50m方格の北東隅の5m方格を「00」とし、南へは「01、02、03、…09」と1桁目が増え、西へは「10、20、30、…90」と2桁目が増えて南西隅の5m方格が「99」となるようにした。小区画表示は先頭に50m方格の呼称、次に5m方格の呼称が並び、「A₁-1-00」というようになる。

5m方格は人力調査の遺物一括取上げと重機調査(クラムシェルバケット最大開口約2.5m×幅1mに準拠)の土壌採取のために4分割され、時計周りに「a、b、c、d」とし「A₁-1-00-a」と呼称した。遺構の土壌試料採取・脆弱遺物の取上げは5m方格を100分割して「A₁-1-00-00」とした。

調査区はオープンカット工法による危険を考慮して複数地区に分割した。年次と調査方法は図II-1を参照していただきたい。(鈴木 信)



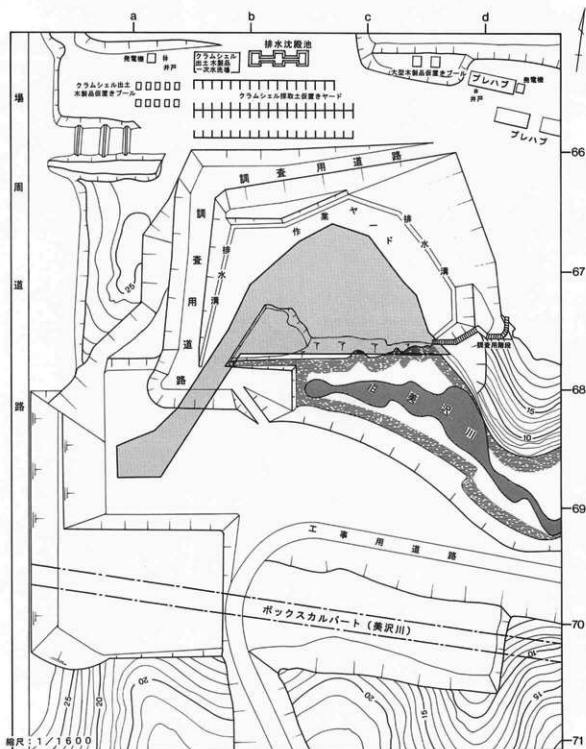
図II-1 美々8遺跡低温部年度別調査区

II 調査と整理の方法

2 調査の方法 (図II-1~5)

(1) 準備工事 (図II-1~3)

工事は盛土掘削、釜場設置、水替・排水施設、土留工、法面養生、ベルトコンベア設置の順で実施した。調査区の周囲は美々7遺跡及び美々8遺跡の崖下となり、深いすり鉢状となることから、崩落防止と土壌運搬トラック等ための作業ヤード確保を目的に大規模な法面掘削を行った。法面掘削土は、同時に進行する空港建設工事に伴う、美沢川対岸の盛土転圧及び工事用道路造成に活用された。

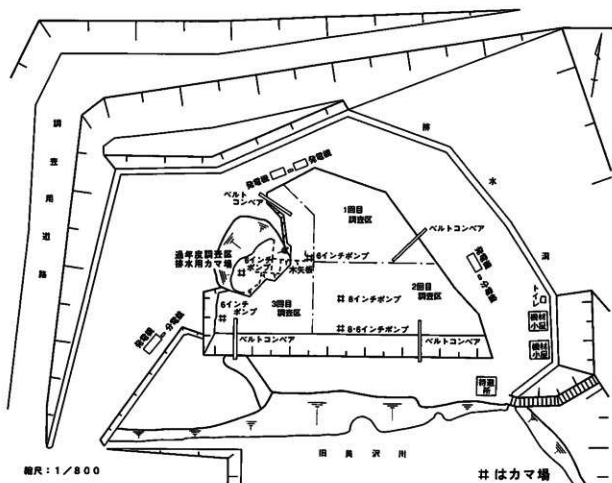


図II-2 平成4年度現況図

調査工法は平成2～3年度（北埋調報77・83）のA、A'地区に隣接する低湿地縁辺部が調査区であることから、これまで同様の法付オープンカット工法を採用した。ただし、A、A'地区との境界部分については地下水の噴出源となり、周辺が軟弱地盤になっていたことに気がつかず、盛土掘削中に多量の土砂を調査区内に流出させてしまった。そのため、準備工事は一時中断されたが、釜場の設置と止り木矢板によって急場をしのぎ、土砂の流出を押さえながら慎重には進めた。その後、A'地区にコンクリート廃材で護岸した釜場を設置し、6インチポンプを配置して土壌の安定を急いだ。調査の進行に伴う人力調査区の拡大は、各地区の調査終了後に地盤や湧水の状況を判断しながら、慎重に進められた。平成4年度は調査面積が広く湧水量も豊富なことから、釜場には主として6インチ、8インチポンプを配し、さらに2インチ、4インチポンプを補助に使用して排水効率を向上させた。人力調査終了後の重機（クラムシェル）調査区は、危険箇所状況、遺構・遺物の密度、重機のアーム長及び実用角度、旋回範囲を考慮して決定した。重機足場の造成と足場用型工板（鋼鉄板）の敷設工事は、旧美沢川付近の盛土が軟弱であることから特に慎重に実施された。（山口 尚）

(2) 人力調査（図Ⅱ-2・3）

前述のように境界が軟弱地盤であったことから東側のD地区から調査を開始した。予定では0B層及び1B層のみを調査対象としていた。しかし、盛土除去作業中の表土層から、灰集中や炭化物集中等の遺構及び木製品が発見されたため、急遽、遺構・遺物の有無を重機立会いながら調査を進めることとなった。調査区には土層断面確認用のセクションベルトを予め設定し、ベルトに沿って排水溝を兼ねたトレンチを掘削した。しかし、湧水による火山灰等の流出により崩落したベルトも多い。地盤



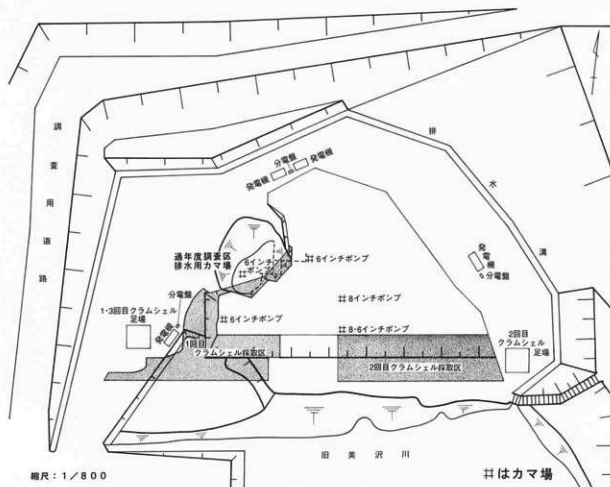
II 調査と整理の方法

の軟弱箇所については、排水トレンチ等を廻らせ地盤安定を待って調査を進めた。危険箇所については、調査対象から除外するか、重機による包含層採取調査に切り替えた場合がある。

現地の調査員及び作業員は、作業中の土砂の崩落や陥没、被圧地下水等の突出を事前に察知するために、地盤のヒビと湧水の水位変化等に細心の注意を払った。ポンプやベルトコンベアー等の機器については、取扱い担当者を指名して作業前後の機器点検を徹底した。調査中の排土運搬や作業用通路の確保には、予め機器配置や作業の導線計画を作成し、歩場板やコンパネを用いて包含層上面の保護と異物の混入を最小限とした。調査用具には主に竹べら・竹串・移植鋸・刷毛を使用し、噴霧器等で補水しながら作業を進め、遺物の損傷を避けた。現実には木製品の密集地点等の場合、素手のまま掘る方が製品表面に損傷を与えずに調査できる。休憩時や作業後は直ちに調査面や遺物に散水し、さらに不織布やブルーシートを用いて覆い、極度の乾燥を避けた。遺物の水洗や泥等の除去作業は、紐や縄による結縛、彫刻、塗彩に注意して、刷毛や農業用噴霧器の水圧を使用した。(田口 尚)

(3) 重機(クラムシェル)調査(図Ⅱ-1・2・4・5、図版10-1・2)

クラムシェルバケットによる遺物包含層の採取は、土層やバケットの状態を確認しながら行う必要があるため、ポンプ排水を継続しながら実施した。包含層は平成3年度(北埋調報83)同様に小グリッド単位で採取し、その地点毎にグリッド・層位を記録して1番から連番を付した(対照表でグリッド・層位に振り替えた)。ただし、クラムシェルの足場の安全確保及びアーム実用角度の限界から図Ⅱ-1でトーン表示のないG地区とH地区に挟まれた地点が調査不可能となった。なお、本年度低湿部南端の幅10mの範囲は、旧河道を埋立てた部分であり、地盤が不安定で危険なことから調査対象外となっ



図Ⅱ-4 クラムシェル調査時の機材配置図

た部分である。採取地点と移設地点との事務連絡には小型無線機を使用した。採取された包含層の運搬は4トトラック2台を交互に使用し、台地上の土壌仮置きヤードに堆積した。ヤードには足場板を「コ」の字に囲った区画を数珠準備し、遺物の流失・混入を避けた。土壌からは直ちに遺物を採取し、小型の木製品は水を入れたコンテナに、大型のものは土嚢袋とブルーシートを用いた簡易プールに一時浸漬し浸漬した。土器・陶磁器、石器・石製品、ガラス玉は地点毎にカードを付けてビニール袋に収納し、骨角製品や金属製品はシール容器に収納した。遺物水洗および水漬保管には地下水をポンプアップし、排水は深掘りした沈澱池に浸透させた。平成4年度は土壌から大・中型の遺物のみをとり急ぎ採取し、残土は土嚢袋約22,000袋に収納してグリッド毎にブルーシートで覆い越年した。

(4) 水洗選別調査 (図版-11)

平成5年度は平成4年度調査時のクラムシェル採取包含層の残土の水洗選別(ウォーターセパレーション)と遺構の土壌サンプルの浮遊選別(フローテーション)作業を実施した。水洗選別は平成5年度の台地上の発掘調査と並行して現場において実施し、浮遊選別は遺構を中心に札幌整理事業所で実施した。灰集中・炭化物集中等の重要遺構の土壌サンプル及び包含層の柱状サンプルは北海道大学埋蔵文化財調査室に依頼し、後に札幌国際大学吉崎昌一氏に引き継がれた。微細遺物の抽出は、本遺跡の整理事業の中で最も重点をおいた作業であり、どの作業よりも人工と時間を費やした。詳細はⅧ章-2で述べられている。

クラムシェル調査の残土(土嚢袋22,000袋)は、調査精度を人力調査に近づけるため現地ですべて水洗選別し、動植物遺存体やガラス玉等の微細遺物の検出に努めた。水洗選別は効率化のために高圧洗車機を導入し、水洗用の作業台と1mm、2mm、4mmメッシュを基本とした木枠を作成して処理した。状況に応じて0.425mmメッシュも併用した。越年のために固化した土壌は予め水漬(ぬるま湯が良い)し、軽く攪拌して泥状となってから水洗した。高圧洗車機は霧状に水を噴射することから通常の土壌水洗よりも遺物に与えるダメージが少なく、細部に付着した泥の除去も可能であった。

ここで若干の留意点を記しておく。低湿地などの泥炭質土壌については、乾燥させると崩すことが出来ないほどに固化・固着するため、出来る限り湿性状況に置くことが望ましい。急激な乾燥は良好な状態の植物種子や骨角製品等を変形・分解させてしまう危険がある。また、土壌が分解せずに、土

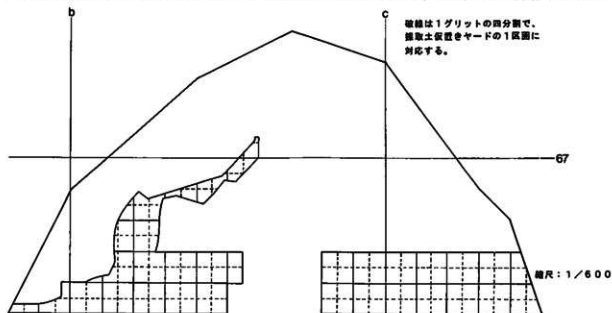


図2-5 クラムシェル土壌採取地点

II 調査と整理の方法

塊のまま浮遊し、良好な試料が得られない場合も多い。特に浮遊選別を目的とするサンプルの保管には十分に注意すべきであり、未炭化の植物種子、昆虫遺体等に与えるダメージが大きい。得られた試料についても、湿性状態で保管するか、アルコールシリーズ等で脱水することが望ましい。

また、台地上の遺跡調査では想像出来ないほど多量多量の動植物遺存体を、採取することが出来る。試験的に選別を実施（現場時点で行うことが理想）し、予め目的とする試料を選定し、統計処理法や報告仕方を十分に検討しておくことが肝要である。

なお、高圧洗車機については、ノズルと遺物の距離によって噴霧圧の強弱を調整できることから、建材などの大型木製品の洗浄をはじめ、土器・石器他の水洗・洗浄にも大きな威力を発揮する。静岡県等では数箇のノズルを付けた、専用流し台を作成して多量の遺物の洗浄に活用している。（田口）

(5) 遺物の取上げ

遺物の取上げは基本的に美々8遺跡低湿度部（北埋調報77、83）の方法に従った。

遺物は出土状況写真撮影後、主に平板を使用してセクショントレースター（耐水紙）に1/10または1/20の出土状況図を作成し、耐水収集帳に出土年月日、名称、発掘区、層位、座標値、付着物や接合関係等を記録して取り上げた。ただし、疎集中や土器集中については10cm角のメッシュをかけボラロイドカメラや35mmカメラで俯瞰撮影後に図化したものもある。他に小発掘区、クラムシェル調査、土壌サンプル等で一括して取り上げられた遺物がある。特に加工痕のある雑多な木製品は作図せずに2.5m四方のグリッド（区画）で一括して取上げ、予め各層位・小発掘区毎に配置したコンテナに直接水漬された。

遺物は取上げ時に製品ごとに大まかにランク分けし、陶磁器・土器・土製品（桃色）、石器・石製品・礫・ガラス製品（水色）、木製品・繊維製品・樹皮製品（黄緑色）、金属製品（黄色）、動物遺存体・植物遺存体等の自然遺物・その他（白色）のように色別したカードをチャック付きビニール袋に入れて添付した。木製品等以外は通常の上げ方法に従い、ビニール袋にカードを添付した。木製品等の多くはパンチで作成した小孔開きビニール袋やシール容器（重要遺物・脆弱）にカードを添付した。大型製品はストックングと不織布で養生し、アンビタッチでカードを結び付けた。脆弱な遺物や分解した遺物は写真撮影後に補強し、土壌ごと取上げて接合図などを添付した。（田口 尚）

3 整理と保管の方法

(1) 現場での整理と保管

陶磁器・土器、石器・石製品・礫、ガラス製品は従来どおりの整理・保管方法を実施し、水洗、乾燥、大分類、収納まで行った。疎集中や双礫等の遺構の疎は別収納し、平成4年度の包含層の疎は現場整理事務所に仮保管した。平成5年度は疎を層位・グリッド別に再選別・収納して台帳を作成後、札幌整理事務所に搬入した。木製品は収集帳をもとに分類名称・加工度・大きさ等で分別収納した。加工度の高い製品は別台帳を作成し、発掘終了まで各種シール容器や蓋付コンテナに水漬した。その他の木製品は整理事務所に収まらないため、グリッドや層位別に蓋付コンテナに水漬し、ブルーシートで覆って屋外に積み置きした。大型遺物は搬送用の木箱ができるまで不織布とストックングで養生し、簡易プールで保管した。腐敗防止と沈着物溶脱のための水洗・水交換は地下水をポンプアップして数回実施した。脆弱遺物・重要遺物については、随時、札幌のセンターに搬送し、保存処理を開始した。搬送には収納台帳を作成し、養生及び水抜き後に8トトラック10台、木箱は4tのユニック車2台で搬入された。金属製品は泥や錆などを大まかクリーニングした後、日陰で風乾し、シリカゲルを入れたシール容器やポリシーラーで密封保管した。動物遺存体・大型植物遺存体・炭化物等は日陰

で風乾後に、アルコールシリーズで脱水し、メッシュサイズごとにサンプルケースやビニール袋に収納した。ただし、変形や収縮の予想されるものは不織布に包み湿潤状態でシール容器に収納した。

(2) 札幌整理作業所での整理と保管(図Ⅱ-1)

搬入された木製品は膨大量であるため一時駐車場に積み置きし、取上げ方法や地区、コンテナの大小で組替えを行ったのち直ちに給水した。保管は当センターの通常スペースに収まらないため、6段積みを中心に作業室1.5部屋(225㎡)、廊下収納(68.5㎡)、ユニットプレハブ1棟(20㎡)、屋外水槽(2.0m×6.0m×1.6m)等に水漬保管し、年数回の水洗と水交換を実施している。また、冬期間は凍結防止のために屋外水槽に断熱材を浮かべ、廊下保管場所やユニットプレハブにはビニールシートを張り、オイルヒーターを設置して5℃以上の温度を保つようにしている。急激な温度変化などを事前に察知できるように毎日、気温・水温を記録している。陶磁器・土器・石器・石製品・礫・ガラス製品は従来どおりの整理・保管方法を実施している。金属製品は木製品とは別の乾燥した部屋に保管し、簡単なクリーニング後にシリカゲルを入れたシール容器や恒温乾燥庫に収納している。現場で十分な乾燥を出来なかった自然遺物等は、恒温乾燥器を使用し強制的に乾燥させた。遺構等の土壌サンプルは浮遊選別(フローテーション)を実施し、カードと共に薬用カプセル、チェック式ビニール袋、サンプルケース、フィルムケースに収納している。

各種図面は台帳を作成し、地形図・遺物分布図は1/50~1/250、遺構図は1/20・1/40、出土状況図は1/10・1/20・1/50を基本とし、その他は状況に応じて縮尺を変えている。遺物は分類・選別後に各種記録を記入した台帳を作成し、前述の色別カードを使用し、付替え・補正を行っている。また、必要に応じて観察カードも作成している。実測図は基本的に原寸で作成し、名称、コンテナ番号、出土地点・観察記録・計測値等を記入している。木製品については樹皮・炭化・塗彩の有無などを図に色分けし、前述の記録の他に木取り、樹種等を実測記録カード(耐水シール式)に記載して、実測図に貼付している。大型木製品についても原寸実測を基本とし、必要に応じて縮小コピーを外注している。写真撮影は基本的に実測図作成後に行っているが、重要遺物や脆弱遺物については随時撮影している。樹種同定は基本的に実測・写真撮影後に行っているが、写真同様に保存処理を急ぐ遺物等については随時同定している。各遺物の図面、写真、取上げ記録、材質、計測値、観察記録はパソコンでデータベース化している。特に木製品等については画像付きデータベース(Ⅱ章-8参照)を作成し、保管場所、保存処理、実測、トレース、写真撮影等の細かな工程を一括管理し、保存処理中等の遺物も閲覧・検索できるようにした。(田口 尚)

4 遺物の保存処理

(1) 有機質遺物の保存処理(図Ⅱ-6)

有機質遺物の保存処理は、基本的に美々8遺跡低湿度(北埋調報102)の方法に従っている。作業工程は図のとおりである。

処理方法は従来まで主にPEG含浸法を行ってきたが、平成5年度以降はMannitol+PEG+真空凍結乾燥法(以下MPFD法)を採用し、遺物の形状や加工度に合わせて処理方法を選択している。

PEG含浸槽は小型(内寸長さ100cm×幅100cm×深さ70cm)1台、中型(内寸長さ175cm×幅70cm×深さ70cm)2台、大型(内寸長さ400cm×幅120cm×深さ100cm)1台があり、真空凍結乾燥機(内寸径40cm×長さ140cm)は1台を使用している。その他にMPFD前処理槽、-40℃以下のフリーザー縦型2台、横型2台等がある。最近では実測・報告を急ぐ遺物が多いことから、PEG含浸槽の1台は、恒常的にMPFD法の前処理に使用している。

平成4年度以降はパソコン上の木製品コード番号(例H4w0000)で作業を進めている。これ

II 調査と整理の方法

までの出土木製品がパソコンで検索可能なように保存処理工程記録、観察記録、実測・写真記録などは画像付データベース上で管理し、接合や復元、経過観察に活用している。木製品は保存処理工程に進んだ段階で、新たに処理と保管用を兼ねるラベルが添付される。ラベルはパウチラミネートした半永久的なものとし、写真を同時にラミネートしている。

遺物の復元・補修には基本的にエポキシ樹脂とフェノール樹脂マイクロバルーンを混合したペーストを使用しているが、軽微な作業には市販の木部用エポキシパテが簡便である。MPFD法にはセルローズ系接着を使用する場合もある。

MPFD法の導入により、処理期間が大幅に短縮された。保存処理後でなくては実測や撮影が可能な容器類や立体物等に特にメリットが大きい。また、ひと遺跡分の大量処理を行えば、土器・石器のようなグリッド間の接合・復元も可能となる。その上、色調が明るく仕上がるため、濡れた状態では不鮮明だった彫刻や炭化も鮮明となり、実測図に新たな情報を提供する。しかし、欠点として、処理遺物が多量の場合には、各工程の期間が短い分、遺物の形状・樹種・劣化状態に合わせた工程管理が煩雑となる。また、強度があまり無いために大型遺物や重量バランスの悪い遺物に向かない等が上げられる。なお、今後は複数台あるいは大型真空凍結乾燥機の導入を道教委を含め、十分に検討・協議せねばならない。

(2) 金属製品の保存処理 (図Ⅱ-7)

金属製品の保存処理は、基本的に美々8遺跡低湿度部(北埋調研77・83)の方法を用いた。作業工程は図のとおりである。

平成8年度は金属処理室が一部改修され、集塵・換気装置設置された。その結果、冬期間も溶剤作業や粉塵作業が良好な空気環境のもとで行えるようになった。

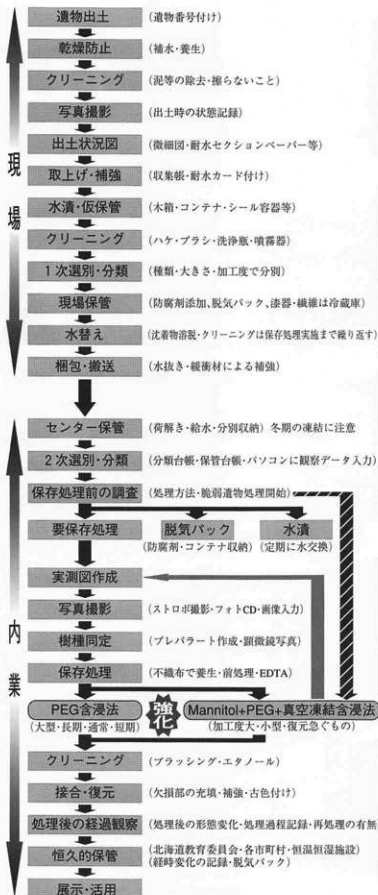
処理室には現在、恒温乾燥器、恒温乾燥保管庫2台、エアブレイシブ、集塵器、精密電動彫刻機、大型減圧タンク、小型真空アシケータ、減圧用ポンプ2台等がある。

金属製品は金属製品番号(金No.)を与え、台帳と観察カードを作成して工程を管理しているが、今後は木製品同様に画像付データベースを作成し、管理する予定である。処理にはNAD-10を減圧含浸し、鉄分の溶脱した鉄鋼等についてはパラロイドB72を含浸し強化した。銅製品・真鍮製品はベンゾトリアゾール入りアクリル樹脂溶液を含浸後、インクラックを塗布した。復元・補修にはエポキシ樹脂とフェノール樹脂マイクロバルーンを混合したペーストを使用した。処理後の遺物は、シリカゲルを入れたシール容器に入れ、恒温乾燥庫保管している。なお、今回は報告作業を優先させるため、脱塩工程を省いた。これまでの未脱塩のものを一気にすべく、次年度には恒温高圧脱塩装置が導入される見込みである。また、現場での処理前遺物の保管、処理後遺物の多くは脱酸素剤(RPシステム)を使用した保管を採用している。

(3) その他の遺物の保存処理

土器や石器類は十分に乾燥させた後、パラロイドB72に浸漬した。琥珀類は状態によってパラロイドB72とバインダー#18を選択している。骨角器等は脱水後にパラロイドB72を塗布した。

(田口 尚)



1 ポリシーラーによる脱気バック



2 PEG含浸槽から取り出し



3 フリーザーによる予備凍結



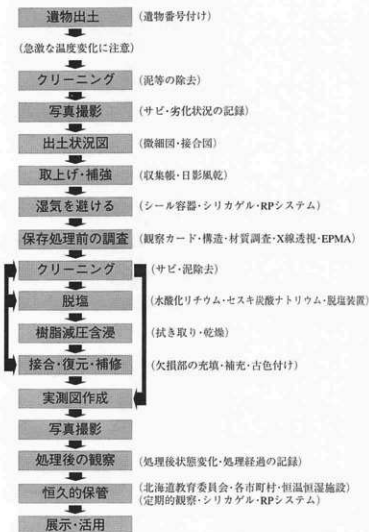
4 真空凍結乾燥庫に入庫



5 保存処理後の接合・復元

図Ⅱ-6 保存処理の工程 (有機質遺物)

II 調査と整理の方法



1 アルコールによる洗浄・脱水



2 機器によるサビ・泥の除去



3 樹脂の減圧含浸



4 鐘の破片



5 仮接合



6 型枠による整形



7 欠損部に樹脂を充填

図II-7 保存処理の工程 (金属製品等)

5 各種分析と試料のサンプリング

これまでに実施した分析・同定等を列記する。今後の比較試料となることを期待したい。

ガラス製品材質調査：ガラスの原材料から生産地や流通経路を推測する。分析は岩手県立博物館 赤沼英雄氏に依頼中である。

金属製品材質調査：原材料や製品金属の流通経路、製作過程を推測する。分析は岩手県立博物館 赤沼英雄氏に依頼した。

植物遺存体：古環境の復元、遺構の性格、有用植物、栽培植物や農耕、流通経路等を推測する。選別及び種子同定、指導は北大埋蔵文化財調査室及び北海道環境文化研究センターに依頼した。

動物遺存体：古環境及び食用動物、狩猟・漁撈活動（地域）、遺構の性格、流通、用具製作を推測する。同定は千歳市埋蔵文化財センター 高橋理氏に依頼した。

花粉化石分析：層位毎の古環境復元、栽培植物、有用植物を検討する。分析は北海道開拓記念館 山田悟郎氏に依頼した。

樹種同定：木製生活用具の樹種選択の状況、用具の生産地や流通経路を推測する。同定及び指導・助言を農林水産省森林総合研究所 平川康彦氏に依頼した。

珪藻化石分析：低湿地の水質変化等、層位別の水性環境を推定する。分析はバリノサーヴェイ株式会社に依頼した。なお、珪藻化石含有量調査は野外科学株式会社に依頼した。

植物珪酸体分析：イネ科植物から見た古環境の変遷やイネ属の流通状況を推定する。分析はバリノサーヴェイ株式会社に依頼した。

昆虫同定：浮遊選別や水洗選別で検出された昆虫個体を検討し、気候及び古環境を推定する。分析はバリノサーヴェイ株式会社に依頼した。

放射性炭素年代測定：縄文時代～アイヌ文化期の実年代おさえる。測定は京都産業大学 山田 治氏に依頼した。
(田口 尚)

6 土層断面の剥ぎ取り

遺跡においては、層位を正確に記録することが基本であるが、調査後は実測図や写真でしか確認することが出来ない。ここでは特に、分析試料採取地点の土層を剥ぎ取った。長期にわたる整理作業には層位の共通認識が不可欠である。分析依頼者にサンプル採取位置・堆積状況を説明する場合や整理作業員に基本土層を指導する場合に臨場感あふれた説明が可能である。また、遺跡調査後の展示などにも活用できる。



1 土層剥ぎ取り転写



2 パネルに貼り付け整形・加工

図Ⅱ-8 土層断面の剥ぎ取り

7 写真撮影の方法 (図II-9)

低湿地における現場撮影

低湿地遺跡における写真撮影は、最も重要な記録保存のひとつである。予め、遺跡全体を見渡せる定点を決め、日々変化する調査状況や環境変化、或いは異常出水などによる復旧作業など調査日誌として遺跡全景を記録する必要がある。また、木製品等の植物性遺物は、外気に接触した瞬間から黄色から緑色、そして黒色へと変化する。色変化だけでは無く、腐敗や収縮などの劣化も同時に進行している。長期間放置していると遂には原形をとどめないほどまでに変形してしまう。したがって、出土状況図などを描く前に、遺物全体の撮影はもとより、彫刻や加工痕などにいたる細部までを迅速に撮影しておくことが不可欠である。さらに撮影中には加圧式噴霧器等で適度な保水を忘れてはならない。遺物は実測中や取上げ時、運搬時等に破損する場合が少なくなく、希に保存処理過程で収縮劣化させてしまう場合もあろう。出土時の新鮮な色や質感を記録することはもちろん、写真記録のみが唯一の遺物データとなる場合が多々ある。多くの遺物は、用具の破片及び部品状態で出土するので、単体の遺物撮影ばかりではなく、周辺の遺物も明確に撮影しておく必要がある。出土写真は実測図や出土状況図とともに保存処理時の復元見本ともなるので、モノクロばかりではなく、カラーリバーサルも同時に撮影しておくべきである。

遺物や遺構の単体撮影の他に、パネル、グラビアを使用することを念頭にして、作業員や調査員を同時に写し込んだ写真も欲しいものである。遺物や遺構のスケールともなる上に、調査状況等の臨場感溢れた写真となる。タテ位置の写真なども意識して撮影するようにしたいものである。報告書や図録を作成するときに、意外につかえる写真が少ないものである。この瞬間しか遺構や遺物は残らないという気持ちで、とにかく、こまめに撮影しておくことが低湿地調査における鉄則と言える。ただし、撮影記録(撮影台帳)に年月日(時間)、発掘区、撮影方位、被写体名(遺構・遺物)を記録することを怠ってはならない。特に遺物については、そのNo.を記録するように心がけたい。複数遺物を同時に写し込んだ場合には、「遺物出土状況」等と単純に記載せずに、特徴のある数点の遺物No.を記録しておくことが基本である。後にフォトCDから画像データベースを作成したり、現場の図面と照合するときに大いに役立つ。実際に遺物の照合やデータベース作成時に最も苦労した部分である。

撮影時に注意したいことは、晴天時の建材や木製品の密集している箇所を撮影する時に、遺物表面が光を反射し、影が他の遺物を覆っている場合である。このような場合には曇るのを待つか、影が一番短い昼過ぎ頃に撮影したいものである。また、シートで覆ったり、レフ板、ストロボ等を使用するのも有効な方法である。逆光の場合には遺物の濡れている面や水の溜った土壌がキラキラ光るので同様に工夫が必要である。注意したいのは、土層と同様に木製品も黒いため、光を吸収し、露出計が示す値では露出不足になることである。露出計が示す値よりも1~2絞り程度の補正が必要である。

最後にカメラやレンズは湿気に弱いので、休憩時でも現場に放置したりせずに、撮影終了後には必ずクリーニングをし、密閉度の高いカメラバックあるいはデシケータ等に保管したいものである。(田口 尚)

現場写真撮影機材	
メインカメラ (モノクロ・リバーサル用)	露出機
6XF マニヤE2	露出計
レンズ マニヤセコール 50mm	アサヒ スポットメーター
45mm	ミノルタオートメーター-III型
90mm	ストロボ
140mm	ナショナルPEM400G
300mm	
ロール120 RZ用	三脚
プリズムファインダー-RZ用	スリック・マスターロ
ワインダー-RZ用	ベルボン
サブカメラ (リバーサル・ネガカラー用)	アルミカメラケース
35mm ニコフ3 X1	
35mm ニコフE X2	
レンズ ニッコール 34mm	
55mm	
105mm	
300mm	
モータードライブ ニコンMD4	
35~70mm	
モ用カメラ	
コニカ現場撮影DD	
ボラロイドランドF型	
	<撮影用補助材料>
	撮影台帳(防水)、レフ板、
	水筒等、農業用加圧式噴霧
	器、暗幕用シート、各種フ
	ィルター、コンベックス、竹
	串、刷毛、線粒、ブラシ、ス
	ポン、クリーニングネット

図II-9 写真撮影

8 画像データベース作成とその活用

目的：美々8 遺跡低湿度出土の木製品・繊維製品・樹皮製品は膨大な量であり、多種多様である。また、脆弱で腐敗・劣化しやすいことから、遺物整理における各種作業時の抜き出しや移動が非常に困難である。その上、有機遺物の保存処理や管理には長期的に渡る煩雑な行程が必要とされる。これらを効率的かつ迅速に行うには、複数台のパソコンを用いた整理システムが極めて有効である。

構造と機能：本遺跡の整理作業において作成した画像データベースでは、取上げデータ以外に、遺物観察・出土状況図・実測図・トレース・計測値・撮影・保存処理・遺物保管・写場及び現場写真画像等、関連する各種ファイルが全て連結され、画像を含めた全てのデータを互いに関連づけて見ることができる。各ファイルにまたがる様な複雑な検索にも対応が可能である（図Ⅱ-10・11）。また、これらのデータは全てサーバマシンに保管されており、ネットワーク上にある各クライアントマシンから必要なファイルを同時に使用することが可能である。複数台での検索や分業もできることから作業効率が向上した（図Ⅱ-12）。この様に、ネットワーク上で1つの画像データベースファイルを共有した作業形態は最も効率のよい手段と言える。また、この画像データベース内に蓄積されたデータを他のソフトウェアに取り込んで使用し、表やグラフ作成等にも応用している。

画像入力の方法：画像データベースに膨大な量の遺物写真を取り込む場合に、フィルムを1枚づつスキャンしては、画質・色調などの調整と取り込みに多大な時間と労力が必要となる。しかし、予めフォトCD作成を外注し、この画像を取り込むことによって、この問題を大幅に軽減することができた。更にCD自体が画像アルバム的な役割を果たすため、写真を使用した各種資料等の作成や、接合・復元作業にも活用することができる。

問題・留意点：パソコンによる画像データベースを構築する場合には、目的に応じた機器の選定、技術者の確保・育成、OA電源等の環境整備や機器の保護、ソフトウェアの選定等、様々な要素を考慮しなければならない。特にハード及びソフトウェアの相性は深刻な問題である。この点については時間と経験を必要とし、日常のメンテナンスが重要となってくる。システムやネットワークの安定性はもちろんのこと、頻繁に使用するソフト及びハードウェアが、常時安定した稼働状態でなければならない。もしも、サーバやネットワーク自体が使用不能になった場合には、ネットワーク上の全てのマシンが通常作業を行うことが不可能となる危険性がある。したがって、機器の管理と保守（データのバックアップも含む）はもっとも重要な作業である。ソフトウェアのアップグレード等も必要な事項であるが、逆に他のソフト及びハードウェアとの安定性を悪化させる場合がある。これを避けるために、予備のパソコンを用いての試験稼働等も、通常作業と共に重要である。また、技術者の確保・育成という点では、調査員やパソコン担当員だけでなく、ある程度広域な作業分野で活用できる単純化された出入力環境を整備することにより、作業効率をより向上させ、誤入力などを低減させることが可能である（図Ⅱ-12）。将来的には情報公開や最新ソフトウェアの早期入手、情報取得等にインターネットやパソコン通信の利用が求められるであろう。

パソコンの活用：現在、これらのパソコンは美々8 遺跡低湿度部の遺構や遺物のデータ管理はもとより、保存処理工程管理・薬品管理・保存処理関連機器の管理・保管遺物管理・パネル管理など、様々な用途に使用している。また、フォトCDや新たにスキャンした画像等を用いて、合成写真や解説図等も作成している。木製品の画像データベースとは使用ソフトウェアが異なるが、当センターで作成した膨大な写真パネルの管理台帳についても画像付きのデータベースを作成し、各種展示会等に写真パネルを活用している（図Ⅱ-12）。

（田中 康治）

II 調査と整理の方法



基本画面 1



基本画面 2



基本画面 3

Specimen ID	Specimen Name	Image ID	Image Name	Image Type
1001	...	1001
1002	...	1002
1003	...	1003
1004	...	1004
1005	...	1005
1006	...	1006
1007	...	1007
1008	...	1008
1009	...	1009
1010	...	1010
1011	...	1011
1012	...	1012
1013	...	1013
1014	...	1014
1015	...	1015
1016	...	1016
1017	...	1017
1018	...	1018
1019	...	1019
1020	...	1020

表形式表示画面



写場写真画像



写場写真画像 (検索用・表形式表示)



現場写真画像



現場写真画像 (検索用・表形式表示)

図 II-10 画像データベースの各画面

基本ファイル

取上げデータ

年度・遺物番号・発掘区・調査方法・層位・遺構名・遺物名称・ランク・備考等

遺物観察データ

材質・法量・時代・等の属性管理

保存処理データ

保存処理方法・処理済・等の工程管理

遺物保管データ

保管場所・保管状態・コンテナ番号・サイズ・等の管理

報告書データ

報告書の書名・掲載項等の記録

写場写真関係ファイル

写場フォトCDファイル

フォトCDを作成した遺物のCD番号の管理

写場写真画像ファイル

写場写真の画像データ

写場写真撮影ファイル

被写体・撮影月日・フィルムの種類・番号等の管理

現場写真関係ファイル

現場フォトCDファイル

フォトCDを作成した遺構・遺物のCD番号の管理

現場写真画像ファイル

現場写真の画像データ

現場写真撮影ファイル

被写体・撮影月日・フィルムの種類・番号等の管理

図面関係ファイル

現場図面ファイル

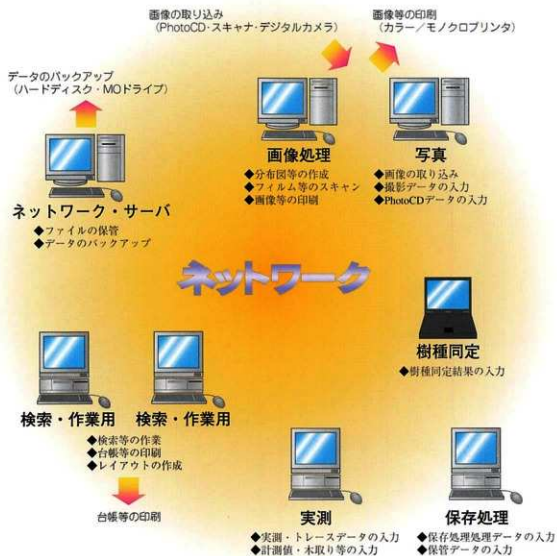
図面名称・作者・作図月日・周辺遺物の記録

第二原図ファイル

図面名称・作者・作図月日の記録

全てのファイルは互いに連結されている為、各ファイルにまたがる様な複雑な検索にも対応することが可能。

図II-11 画像データベースの構造



ネットワークの構成



基本画面



表示形式表示画面

写真パネル画像データベースの画面

図II-12 ネットワークの構成と画像データベースの応用

Ⅲ 位置と環境

1 位置と環境 (図Ⅲ-1・2・3)

下歳市は、市城南部に樽前山、恵庭岳、支笏カルデラ噴出物の堆積によって形成された標高20m前後の台地が広がる。台地南側を美沢川と美々川が開折し、美沢川は美々川となってウトナイ沼に注ぎ込む。美々川はウトナイ沼を抜けると勇払川と合流し、勇払川は太平洋に注ぐ。

この低平な台地は石狩低地帯の分水嶺であり、最も幅の狭いところでは直線にして約6km程である。美々8道跡は分水嶺の太平洋側、美沢川の左岸、美々川合流点から直線距離で約1.5km程にあり、標高20m前後の台地部と標高6m～2.5mの低湿部、とその間の斜面部に広がっている。

気候は、石狩低地帯の南端に位置するが、標高20m前後の台地を経て勇払平野に続くため、日本海型気候には属さず、太平洋型気候に属する。夏は平均18℃前後で冬は平均-4℃前後（昭和54年）、最深積雪は65cm前後（昭和50～54年）と比較的温暖で積雪も少ない。このような気候は、恵庭市烏松一長沼町を境にして日本海型気候にかわる。また上述の地形から卓越風は、ほぼ南北（3月～9月は南方から、10月～2月は北方から）方向に一定して吹く。

石狩低地帯南部は汎針広混交地帯に属するが、遺跡周辺の現植生は落葉広葉樹が卓越しており、カシワの低木やクミノウグイスカグラなどの小灌木が広がっている。周辺にみられる針葉樹は近代以降の植栽によるのみである。

美々8道跡は、18世紀後半に「ユウフツ越」・「シコツ越」と呼ばれて、太平洋側と日本海側とを結ぶ交通路の中継点であった。文献資料によると、このような状況は寛文7年（1667年）ころまではさかのぼれるようだ。平成元年度の発掘調査において、引化3年（1846年）にこの地を訪れた松浦武四郎が記した『再航蝦夷日記』のなかに描かれた「小休所」が検出された。平成3・4年度の発掘調査においては、文化4年（1808年）頃から安政4年（1857年）頃にかけて物資の運送に使用された道跡が検出され、文献史料を裏付けている。低湿部はこれらの先駆する道跡である。

2 土層の区分 (図Ⅲ-3・4・5)

調査区の範囲は、美沢川の現水面下標高2.4m～7.0mの範囲にある。低湿部の土層は、台地部からの連続として捉えることができる。

標高5.5m以上の斜面での0B層は、T a - b層上面が暗褐色に汚れる程度で層をなさない。標高5.5m以下から0B層が現われはじめて、標高4.1m以下からT a - bの混じり具合によって細分される。

I B層は、標高4.9m以下から細分が可能となり、標高4.0m以下からB - T m（平成3年度報告では、T mと略記した。）が薄層として現われ初め、I B層自体の層厚が急激に増加する。

(1) 土層断面A-Bライン (図Ⅲ-3・4) : 珪藻化石・植物珪酸体試料採取地点 Loc. 1・2

A-Bラインは発掘区のはほぼ中央を縦断する本道跡最長の土層断面である。堆積状況は、過年度報告のA、C地区に類似しているが、標高3.3m以下ではI B層が細分され、I B - 6・7層が加わる。T a - a層：樽前a降下火山灰堆積物。細礫の軽石と砂質火山灰との互層。1739年（元文4年）降下。層厚は10cm前後。

0B層：褐色泥炭層。I B - 1層と同じ上色。標高4.8m以下から腐植した草本・木本に富む。標高5.5m以下では木製品を大量に含む。この層の下部は、破砕したT a - b軽石が多く含まれるので分層（0B下層）が可能となる。珪藻化石分析によれば有機汚濁の進んだ層である。

T a - b層：樽前b降下火山灰堆積物。1667年（寛文7年）降下。

I B - 1層：I B - 2層より明るい褐色泥炭層。腐植した草本に富み、根が残存している。木製品・

Ⅲ 位置と環境

鉄製品を多く含む。植物珪酸体・珪藻化石分析によればイネ科が繁茂する富栄養な湿地の層である。

ⅠB-2層：黒色に近く、砂粒にとんだ暗褐色泥炭層。腐植が進行し、根はあまり残存していない。木製品、椀土器、礫を多く含む。植物珪酸体・珪藻化石分析によればⅠB-1層と同じ状況である。

B-Tm層：白頭山-苦小牧火山灰。標高4.0m以下から薄層（層厚2cm以下）として現われる。

ⅠB-3層：暗褐色泥炭層。腐植した草本に富み、根が残存している。木製品を含む。

ⅠB-4層：黒色泥炭層（平成3年度報告では、黒色泥層と表記）。腐植が進行し、根はあまり残存していない。標高4.0m以下から現われる。珪藻化石分析によれば比較的乾燥していたようだ。

ⅠB-5層：暗褐色泥炭層。ⅠB-3層と同じ土色。腐植した草本・木本に富み、根が残存している。木製品を含む。

ⅠB-6層：0B、ⅠB-3層より明るい暗褐色腐植シルト層。腐植した草本を極わずか含む。木製品を含む。

ⅠB-7層：灰褐色シルト層。脱色したⅠB-6層と風化や水摩をうけたT a-cが混じりあっている。腐植した草本を含まない。木製品を含む。珪藻化石分析によれば中～貧栄養の静水域である。

T a-c層：樽前c降下火山灰堆積物。標高2.5m以下では、水成の二次堆積層となっている。

(2) 土層断面C-Dライン（図Ⅲ-3・5）珪藻化石・植物珪酸体試料採取地点 Loc. 3

C-Dラインは、発掘区の南東部（美沢川の下流側）を横断する本道跡で2番目に長い土層断面である。堆積状況は、ⅠB-1層が細分されること、ⅠB-7層以下の状況が把握できた。また、泥炭質に富まないⅠB-2層とⅠB-4層が堆積していないことより、A-Bラインと若干異なることが判明した。以下、A-Bラインとの相違点についてのべる。

T a-b層：A-Bライン付近の火山灰よりも水摩・破砕が顕著である。

ⅠB-1層：U s-bによって二分される。珪藻化石分析によれば流入水のある池沼地。

ⅠB-1上：灰褐色粘質土。腐植した草本を極わずか含む。木製品を含む。

U s-b層：有珠b降下火山灰。緑褐色極細粒砂質で、発掘区の北側でも散点的に検出されている。

ⅠB-1下：暗褐色泥炭層。腐植した草本に富み、根が残存している。木製品・鉄製品を多く含む。

T a-c層：樽前c降下火山灰堆積物。標高3.0m以下では、水摩したバミスや搬入礫をふくむ水成の二次堆積層となっている。

A層：灰褐色泥炭質シルト。T a-cとⅠ層とウ層が等分に混じる層。

Ⅰ層：明灰白色砂土。水成の二次堆積のT a-cにウ層が混じる層。

ウ層：暗褐色泥炭層。腐植した草本に富む。台地部のⅡb層に相当する。珪藻化石によれば沼沢地。

(3) 土層断面E-Fライン（図Ⅲ-3・5）

E-Fラインは、発掘区の南東部（美沢川の下流側）を横断する土層断面である。C-Dラインの南東側に位置し、斜面の裾にあたる。堆積状況は斜面部とはほぼ同じである。

T a-b層：C-Dラインの状況と同じで、A-Bライン付近の火山灰より水摩・破砕が顕著である。

(4) 土層断面G-H・I-Jライン（図Ⅲ-3・5）珪藻化石・植物珪酸体試料採取地点 Loc. 4

G-H・I-Jラインは、発掘区の南東部（美沢川の下流側）を横断する土層断面である。C-Dラインの南側に並行する。泥炭質に富まないⅠB-2層とⅠB-4層が堆積していないことにより、堆積状況はC-Dラインの状況と類似するが0B層、ⅠB-1層が細分されることから若干状況が異なる。

（鈴木 信）

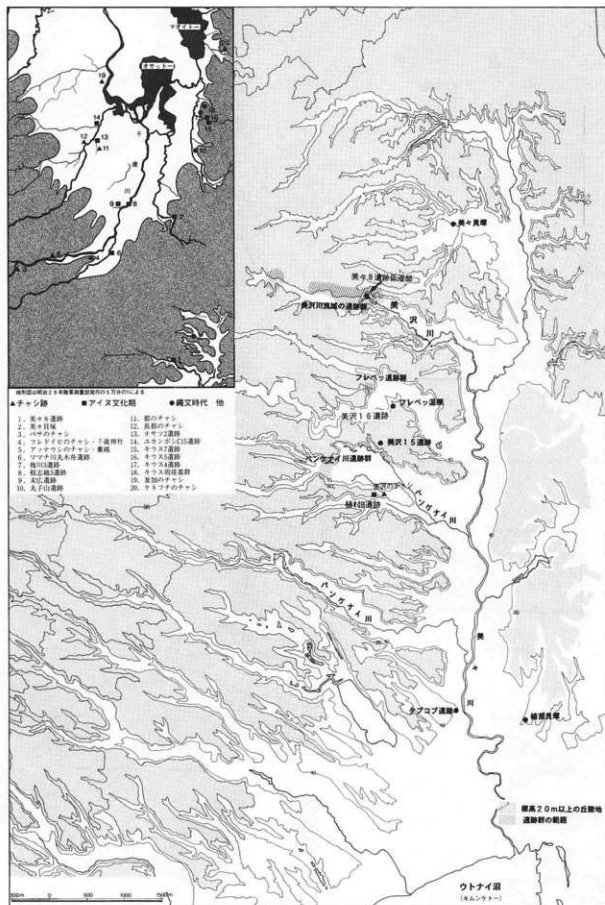


図 III - 1 遺跡周辺の地形と遺跡分布

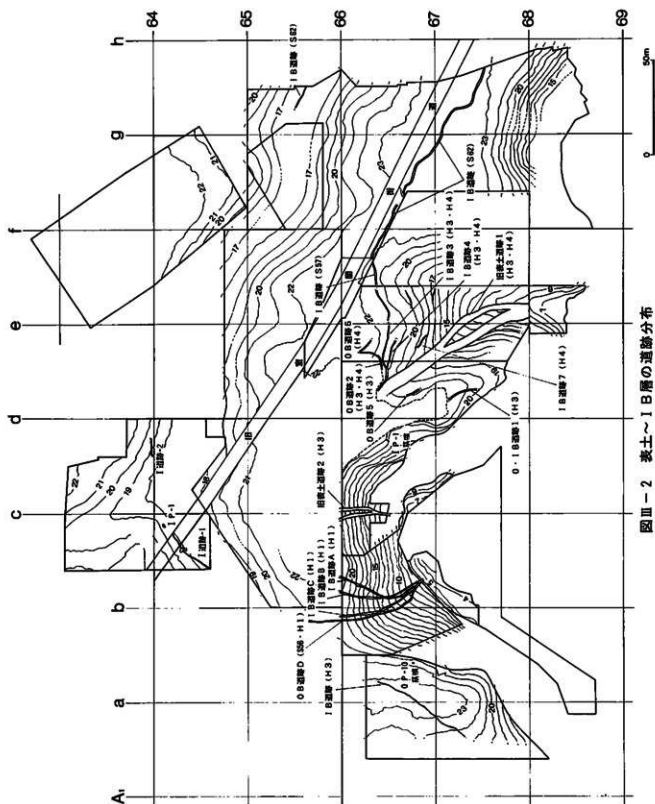
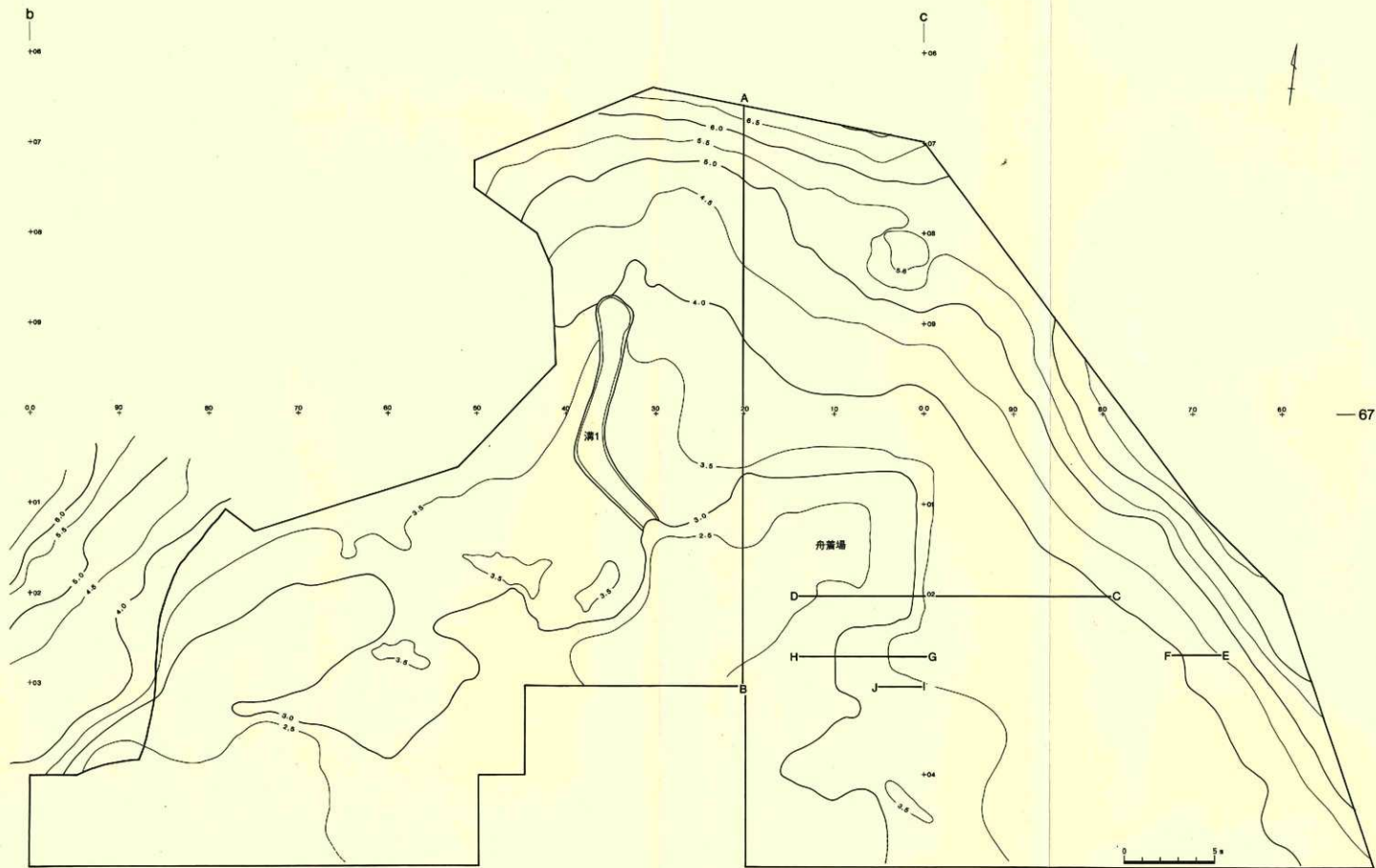
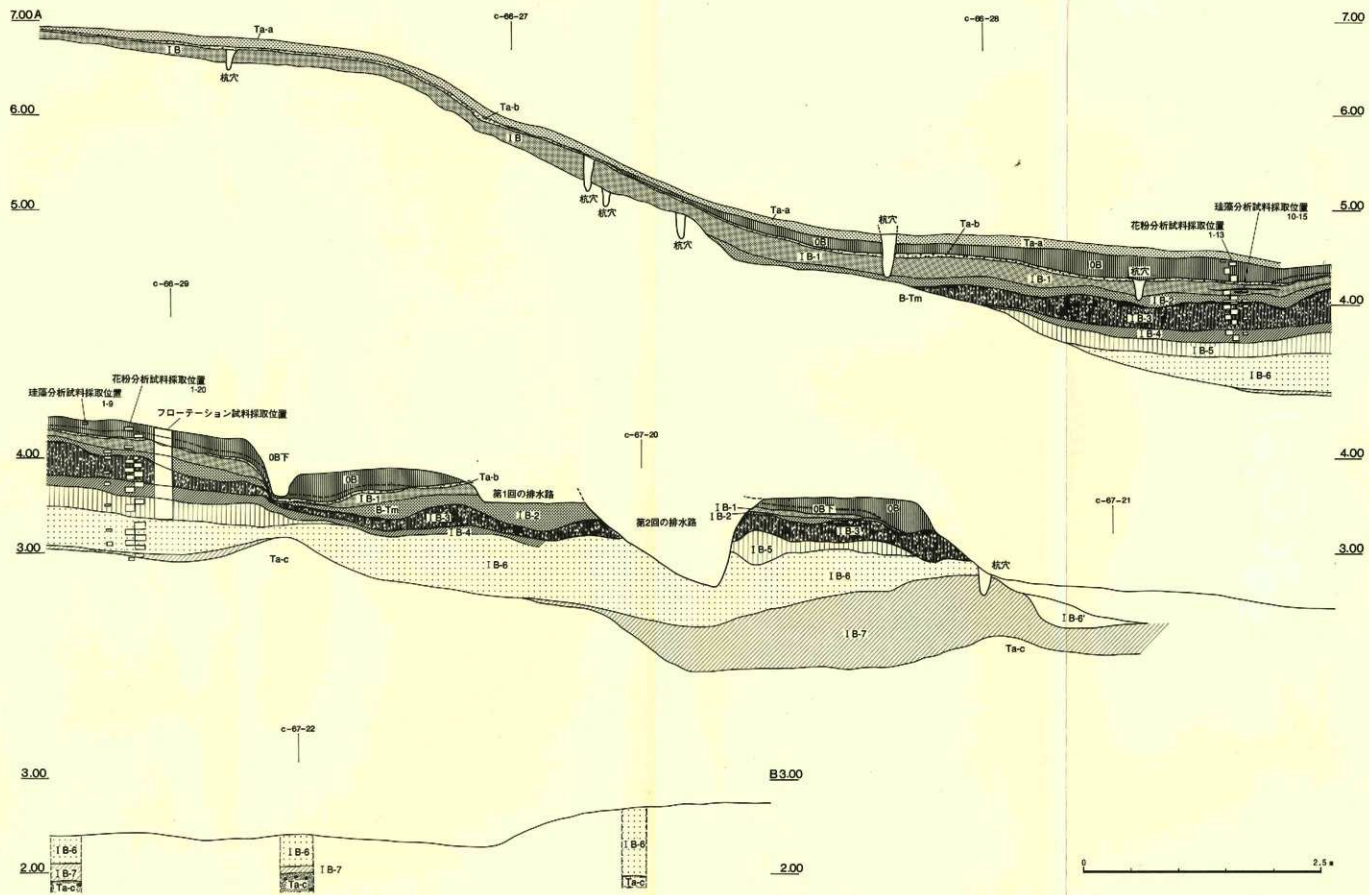


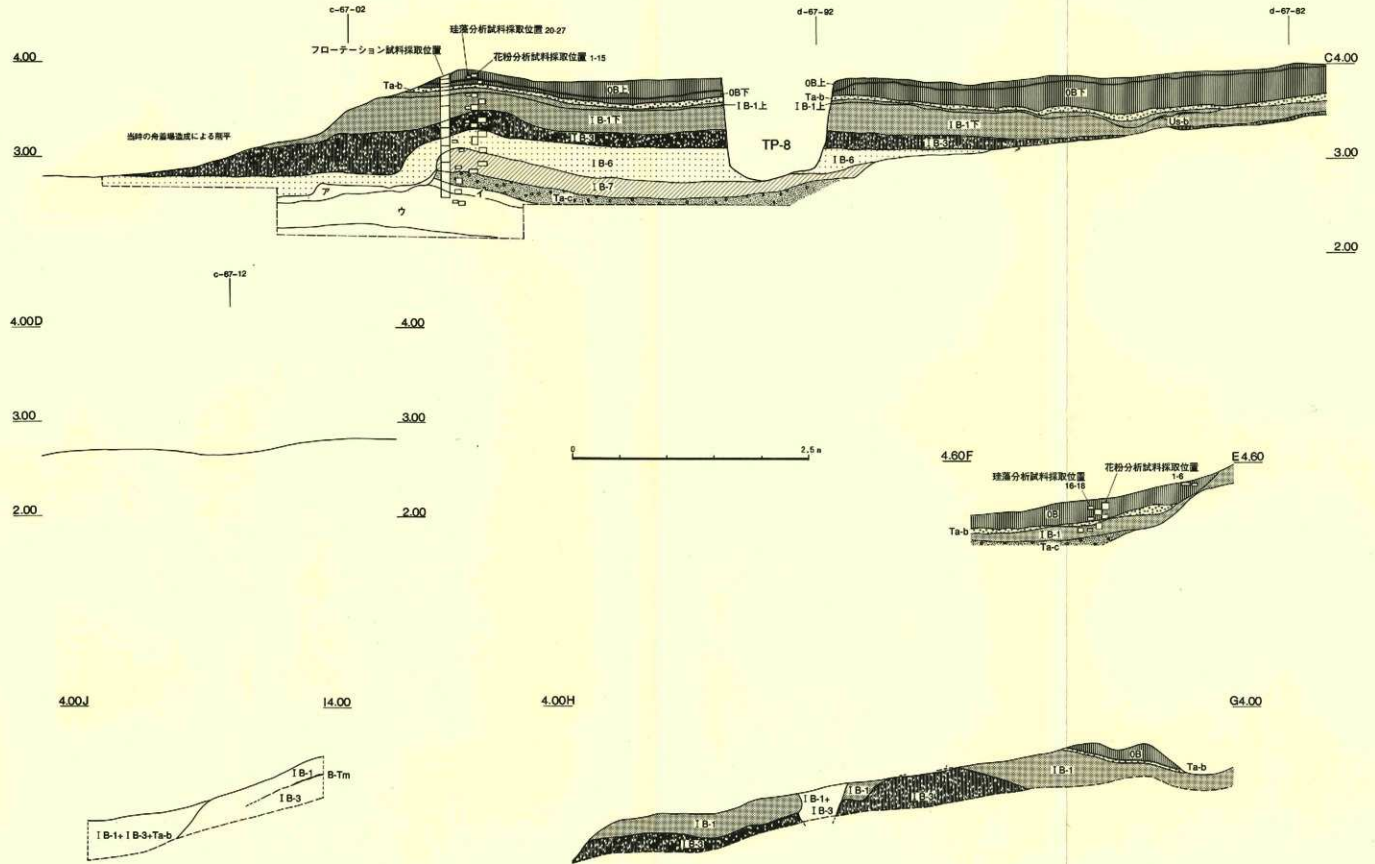
図 III-2 表土～I B 層の道跡分布



図III-3 O B層上面の地形と土層断面の位置



図Ⅲ-4 土層断面と各種試料採取地点 (A-Bライン)



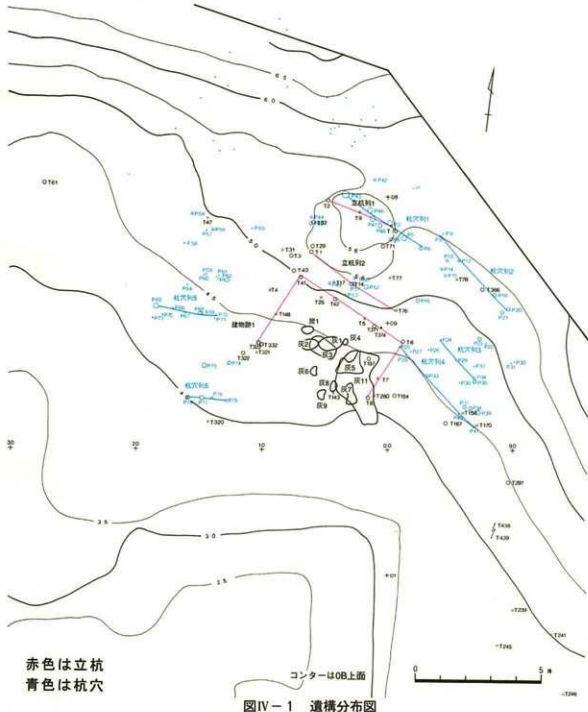
図Ⅲ-5 土層断面と各種試料採取地点 (C-D、E-F、G-H、I-Jライン)

IV 表土層の調査

1 調査結果の概要

表土層はT a - aの二次堆積層(T a - a' と呼称)を挟んで表土I層と表土II層とに細分され、遺構は兩層にあった。遺構数・規模は0 B層に較べると極めて劣る。しかし、遺構の種類は0 B層とかわらない。また、0 B層において遺構が密集していた地点は、表土層においても遺構が密集しており、T a - a降灰という自然災害を受けた後も不活発とはいえ同様に遺跡形成がなされていた。

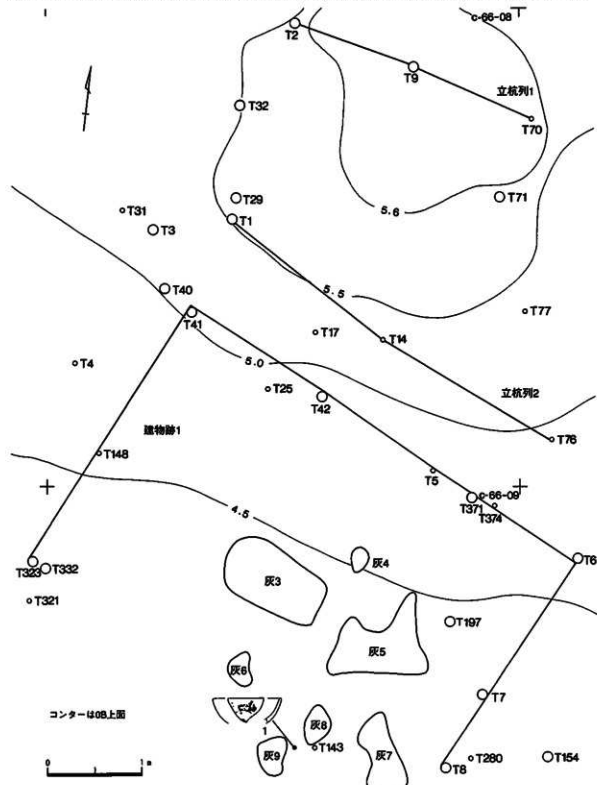
遺物も遺構と同様な傾向をもつ。染付、陶器、煙管、鉄製品などの和産物とアイヌ民族の自製品である火打石、小刀の柄などの木製品が出土した。



図IV-1 遺構分布図

2 遺構とその遺物 (図IV-1)

表土II層からは、建物跡1軒、立杭列2列、杭穴列6列、灰集中8ヶ所。表土I層からは、灰集中2ヶ所、炭化物集中1ヶ所を検出した。遺構はc-66-08を中心とした225㎡の範囲に集中する。遺構数は0B層と較べると非常に少なく、炭化物集中・灰集中の規模も灰集中11を除くと、平均0.28㎡と小さい。不活発な遺跡形成がなされたと推測できる。遺物数の少なさも遺構数と相応している。



図IV-2 建物跡1と周辺の立杭列

(1) 建物跡 (図IV-2・4、表IV-1・5、図版12-1)

建物跡1 中心位置：c-66-09-d 規模：約14.7㎡

標高4.5~5.0mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約4.9m、短辺は約3.0mの長方形で、長軸は北西-南東をむく。立杭8本によって構成されている。二辺の長辺のうち斜面下側には立杭列が確認できなかった。

T323 (Tは立杭の頭文字、Tと数字で立杭番号を表す。)とT8を結ぶあいだの立杭は検出できなかった。柱はいずれも丸木材で、先端形は、切断面が多面の尖頭状(尖頭形分類A)と切断面が多面の偏尖頭状(尖頭形分類イ)である。樹種はコナラ属、ハンノキ属、カバノキ属である。

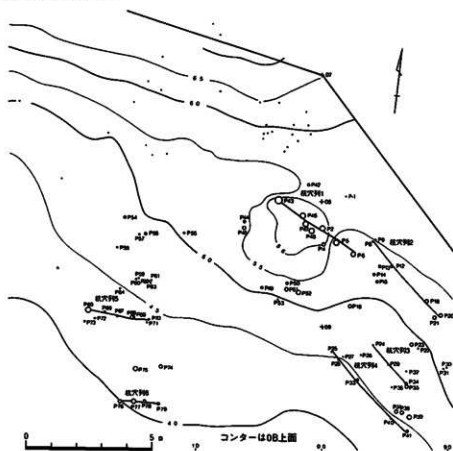
建物内には灰集中3・4があり、長辺に沿って灰集中6がある。灰集中3は建物跡の中心に位置し、同じ長軸をもつ。この状況は平成元年度調査のH-1にともなった炉のH F-2と同じである。また灰集中3からは炭化した完形のアサガ1点検出されている。灰集中3は建物跡1に伴われた炉であろうか。灰集中4・6にはそういった規則性はみられない。

以上より、建物跡1は地床炉をもち、長辺の片側が開いている構造の建物であるから、住居ではなく、作業や仮収納などに使われた小屋のようなものであろう。

(2) 立杭列 (図IV-1・2、表IV-1)

立杭列とは検出時において、横木などの付属する材が伴わず、かつ直線的な配列として捉えられた遺構のことである。従って、立杭列にはいろいろな用途が存在したはずで、例えばサケなどの干し場、幣棚などがあろう。

立杭列1：標高5.6m、等高線に並行。立杭3本、全長2.7m。3本のうち2本の先端形は分類イで、カバノキ属が使用されている。



図IV-3 杭穴列と杭穴分布図

IV 表土層の調査

立杭列 2 : 標高5.0~5.5m、等高線に並行。建物跡1付近にある。立杭3本、全長4.1m。2本ともコナラ属が使用されている。

(3) 杭穴列 (図IV-3、表IV-2)

杭穴は0B層上面で確認した。いずれの杭穴にも覆土にはT a-aが含まれていた。杭穴列1を除くと杭穴の径の平均は8cmである。

杭穴列1 : 標高5.5~5.6m、等高線に並行する。立杭列1付近にある。全長3.6m。径の平均は16.8cmと大きい。

杭穴列2 : 標高5.5m、等高線に並行する。杭穴列1付近にある。全長4.0m。径の平均は8.0cm。

杭穴列3 : 標高4.5~5.0m、等高線に並行する。杭穴列4付近にある。全長2.2m。径の平均は7.5cm。

杭穴列4 : 標高4.5m、等高線に並行する。杭穴列3付近にある。全長4.5m。径の平均は7.0cm。

杭穴列5 : 標高4.5m、等高線にやや並行する。全長2.5m。径の平均は7.0cm。

杭穴列6 : 標高4.0m、等高線に並行する。杭穴4ヶ所、全長1.5m。径の平均は9.75cm。

(4) その他の立杭と杭穴 (図IV-1・3・4、表IV-5、図版12-1)

表土層で上端部を確認できたのは、36ヶ所である。いずれも杭頭は腐朽し、残存しておらず、層中のどの面から打ち込んでいるか確認できない。しかし、残存している上端が、地面より上に出ていたと考えられるので、杭が打たれた時期は、上端部を確認した面よりも下位になることはない。以上より、上端部を確認した面が立杭の所属する時期と考えてよい。

立杭の分布は、c-66-08を中心とした225㎡の範囲に集中する。標高4.0m~5.0mの斜面裾部に集中する。杭穴は標高5.5m~7.0mの斜面に分布する。c-66-07とc-66-17の範囲に分布する。両者共に配列の規則性はうかがえない。

表IV-1 建物跡1と立杭列

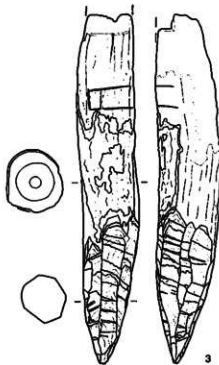
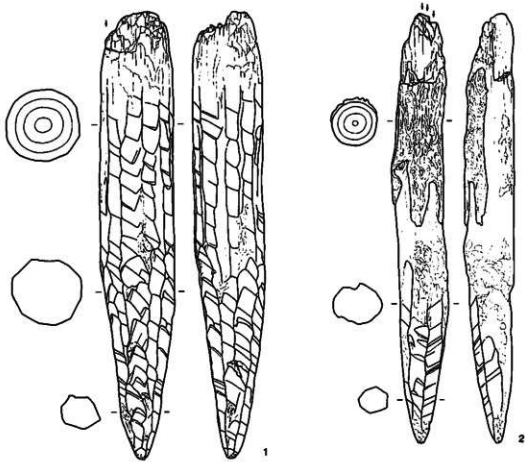
図番	遺構名	立杭番号	長さ	径	長さ (cm)	直径 (cm)	元木	木取	先端形状	発見高さ (cm)	加工痕跡	樹種	備考	
1	建物跡1	T6	(30.0)	11.0	10.7	(2.30)	丸木	イ	53	1-2	カバノキ	樹皮あり		
		T7	(34.0)	10.0	9.0	(3.45)	丸木	ア	36	1-4	コナラ	樹皮あり		
		T8	(26.0)	7.2	6.8	(0.57)	丸木	ア	29	1-5	カバノキ	芯腐れ。		
		T41	93.4	15.9	15.0	11.80	丸木	イ	31	1-6	-	全面樹皮あり。		
		T42	(82.0)	15.0	14.1	(10.20)	丸木	-	26	1-4	コナラ	-		
		T148	(38.0)	6.7	6.6	(10.30)	丸木	イ	24	1-3	カバノキ	樹皮あり		
		T323	89.5	11.0	10.7	5.80	丸木	ア	28	1-7	コナラ	樹皮あり		
		T374	(37.0)	7.6	7.2	(11.80)	丸木	ア	26	1-4	カバノキ	樹皮あり		
		2	立杭列1	T2	(42.0)	10.5	10.4	(20.50)	丸木	イ	37	1-7	カバノキ	-
				T9	(28.0)	110.0	109.0	(0.84)	丸木	イ	35	1-6	カバノキ	-
T70	(19.0)			4.7	3.0	(0.20)	丸木	-	-	-	ケマシデ	-		
T14	(83.0)			10.0	9.7	(4.20)	丸木	イ	23	1-6	コナラ	-		
立杭列2	T76	(29.0)	8.5	8.4	(0.93)	丸木	-	-	-	コナラ	-			

表IV-2 杭穴列一覧

遺構名	柱穴番号	発見高さ (cm)	径 (cm)	備考	遺構名	柱穴番号	発見高さ (cm)	径 (cm)	備考	
杭穴列1	P2	4-66-98-d	c-66-08-a	16	覆土はT _a -a	杭穴列4	P28	4-66-99-d	7	覆土はT _a -a
	P5	4-66-98-d		16	覆土はT _a -a		P33	4-66-99-d	8	覆土はT _a -a
	P6	4-66-98-d		10	覆土はT _a -a		P40	4-66-99-b	6	覆土はT _a -a
	P43	4-66-07-b	c-66-08-a	26	覆土はT _a -a		P41	4-66-99-b	8	覆土はT _a -a
	P46	4-66-08-a		16	覆土はT _a -a		P45	4-66-18-c	22	覆土はT _a -a
	P8	4-66-98-d		6	覆土はT _a -a		P66	4-66-18-c	7	覆土はT _a -a
杭穴列2	P12	4-66-98-b		8	覆土はT _a -a	杭穴列5	P67	4-66-18-c	6	覆土はT _a -a
	P18	4-66-98-b		10	覆土はT _a -a		P68	4-66-18-b	8	覆土はT _a -a
	P20	4-66-98-b		10	覆土はT _a -a		P70	4-66-18-b	6	覆土はT _a -a
	P24	4-66-98-d		7	覆土はT _a -a		杭穴列6	P76	4-66-18-c	11
P29	4-66-98-a		7	覆土はT _a -a	P77	4-66-19-b		12	覆土はT _a -a	
P	4-66-98-a		8	覆土はT _a -a	P78	4-66-19-b		8	覆土はT _a -a	
P25	4-66-99-d		6	覆土はT _a -a	P79	4-66-19-b		8	覆土はT _a -a	

表IV-3 灰炭中・炭化物集一覧

遺構名	発見高さ	層位	炭化・埋蝕 (m)	平均径 (mm)	遺構名	発見高さ	層位	炭化・埋蝕 (m)	平均径 (mm)		
灰炭中1	c-66-09-a	c-66-09-d	表上I	0.96 - 0.82	0.40	灰炭中7	c-66-09-a	c-66-09-b	表上II	0.82 - 0.28	0.26
灰炭中2	c-66-09-d		表上I	0.70 - 0.42	0.25	灰炭中8	c-66-09-a	c-66-09-b	表上II	0.43 - 0.28	0.09
灰炭中3	c-66-09-a	c-66-09-d	表上I	1.12 - 0.62	0.65	灰炭中9	c-66-09-c		表上II	0.42 - 0.32	0.10
灰炭中4	c-66-09-a		表上II	0.24 - 0.19	0.33	灰炭中11	c-66-09-a	c-66-09-b	表上II	2.90 - 1.40	0.04
灰炭中5	c-66-09-a		表上II	1.06 - 0.45	0.55	炭化物集甲1	c-66-09-d		表上I	0.50 - 0.30	0.12
灰炭中6	c-66-09-d		表上II	0.35 - 0.22	0.16						



図IV-4 建物跡1(柱)と配列外立杭

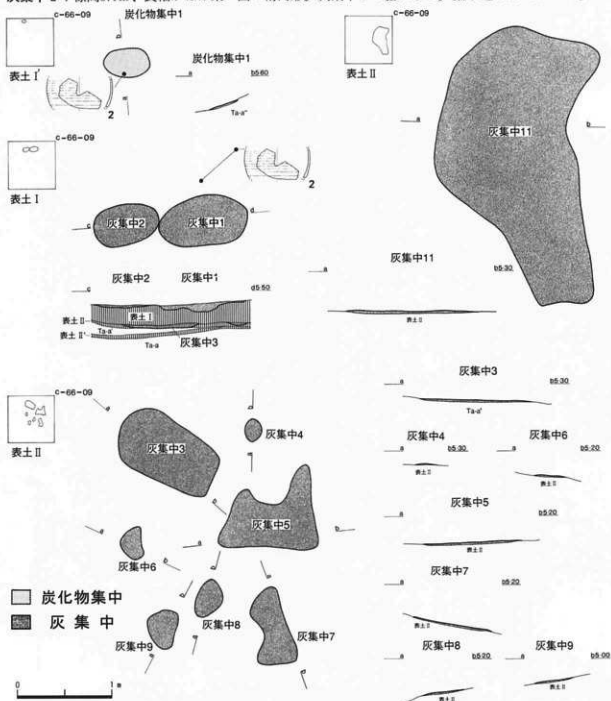
IV 表土層の調査

(5) 灰集中 (図IV-5~7、表IV-3・4・6・7、図版1-1・12-2~5、カラー図版12-4)

灰集中1・2は表土層I、灰集中3・4・6は表土層IIの上部、灰集中5・7・8・9・11は表土層IIの下部にあり頻繁な遺構の形成がみられる。しかし、それらは0B層の遺構に較べて質・量ともおとる。Ta-a降下後、層が安定し切っていない時期に、この場所を生活領域にしようとしたことを示している。

灰集中1：標高5.4m、長軸がほぼ東-西の楕円形。灰集中2の脇にある。掘り込みはなかった。この遺構からは角釘 (図IV-7-1) が出土しおり、付近からは炭化物集中1付近のものと同一体の産地不明の徳利胴部片や角釘が出土している。炭化種子、魚骨、獣骨は出土していない。

灰集中2：標高5.4m、長軸がほぼ東-西の楕円形。灰集中1の脇にある。掘り込みはなかった。こ



図IV-5 灰集中1~9・11、炭化物集中1

の遺構からは、炭化種子、魚骨、獣骨は出土していない。

灰集中3：標高5.1m、長軸がほぼ北西-南東の隅丸方形。建物跡1に伴う炉。掘り込みはなかった。この遺構からは鉄製品(図IV-7-2)や炭化完成のアサ1点、カヤツリグサ科5点が出土している。

灰集中4：標高5.1m、長軸がほぼ南-北の楕円形。掘り込みはなかった。

灰集中5：標高4.9m、不整形。付近に灰集中7・8・9がある。掘り込みはなかった。

灰集中6：標高5.1m、不整形。掘り込みはなかった。

灰集中7：標高4.7~4.9m、不整形。掘り込みはなかった。付近からは小刀の柄が出土した。

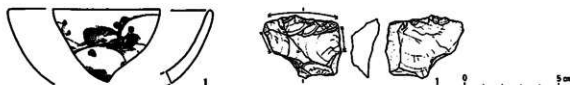
灰集中8：標高4.7~4.9m、長軸が南-北のほぼ楕円形。掘り込みはなかった。

灰集中9：標高4.7~4.8m、長軸がほぼ南-北のほぼ楕円形。掘り込みはなかった。脇から伊万里染付碗の破片(図IV-6-1)が出土している。碗はやや発色の悪い灰青色の呉須で「雪の輪と梅樹文」を描く。年代は18世紀初め~18世紀第3四半期である。遺構は碗の年代より、T a-a 降下から40年ほどのあいだに作られたと考えられる。

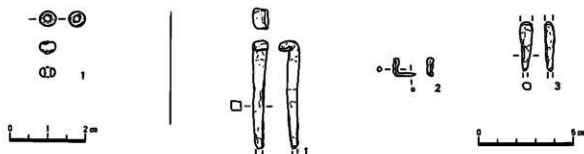
灰集中11：標高4.9m、長軸が北西-南東の不整形。灰集中5の直上に検出される。掘り込みはなかった。この遺構からは、ガラス玉(図IV-7-1)や火打石(図IV-6-1)やアサ、オニグルミ、コナラ亜属、ハマナス、キハダ、ヤマブドウなど種子(表Ⅷ-2-3以降参照)やエゾシカ上顎骨、脛骨が出土している。

(6) 炭化物集中(図IV-5・7、表IV-7、図版12-5)

炭化物集中1：標高5.4~5.6m、長軸がほぼ東-西の楕円形。表土I層で検出した。灰集中1・2の側にある。掘り込みはなかった。この遺構付近からは灰集中1付近のものと同一体の産地不明徳利胴部片や角釘(図IV-7-3)が出土している。炭化したアサ破片2点が出土している。



図IV-6 遺構の陶磁器・石器



図IV-7 遺構のガラス製品・金属製品

表IV-4 遺構の陶磁器・石器

図番号	遺物名称	主な発掘区	遺構名	点数	備考
1	染付碗	c-66-09-b	灰集中9	1	伊万里 複元口径11.0cm
1	火打ち石	c-66-09-a'b	灰集中11	1	珪質頁岩 長さ4.00cm、幅3.04cm、厚さ1.34cm、20.0g

3 表土層の遺物

(1) 陶磁器 (図IV-8、表IV-8、図版12-6)

胎土は砂っぽく、明黄橙～明赤橙色を呈し、釉は回転ナデ調整を置く程に厚く施される。暗灰褐色の薬灰釉で、一部がやや黄色みがかって白濁している。被熱している。産地不明としたが、これは管見によると西日本が生産地とは思われないが、どこのものとはいえないという意味である。これは灰集中1付近より出土した。炭化物集中1付近の破片と同一個体で、計3点である。

(2) 石器・石製品 (図IV-8、表IV-8、図版12-7・8)

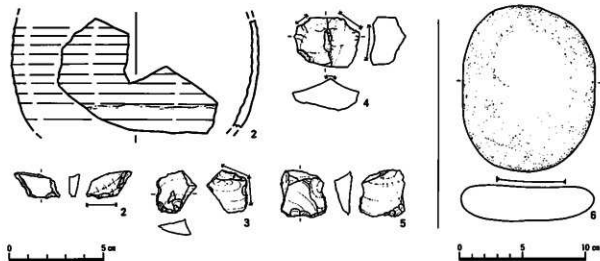
2～5は火打石。4以外は剥片状の薄いものを素材とする。6は片面の中央を使用する。表土層からはすり石1点、火打石5点、火打石フレイク12点、礫29点が出土している。 (鈴木 信)

(3) 金属製品 (図IV-9、表IV-9、図版13-1)

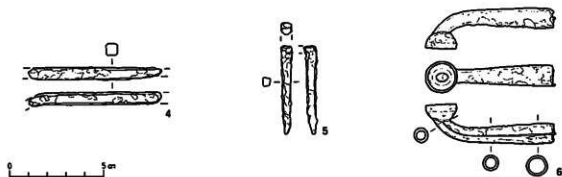
4は胴部断面が正方形のカスガイ片である。両先端部を欠損している。5は小型の角釘片 (和釘) である。頭部を欠損した折釘と考えられる。6はキセル雁首である。脂返しが大きく湾曲する河骨形で、補強帯が見られないことから、古泉分類の第Ⅱ類Bである。

(4) 木製品 (図IV-10、表IV-10、図版13-2)

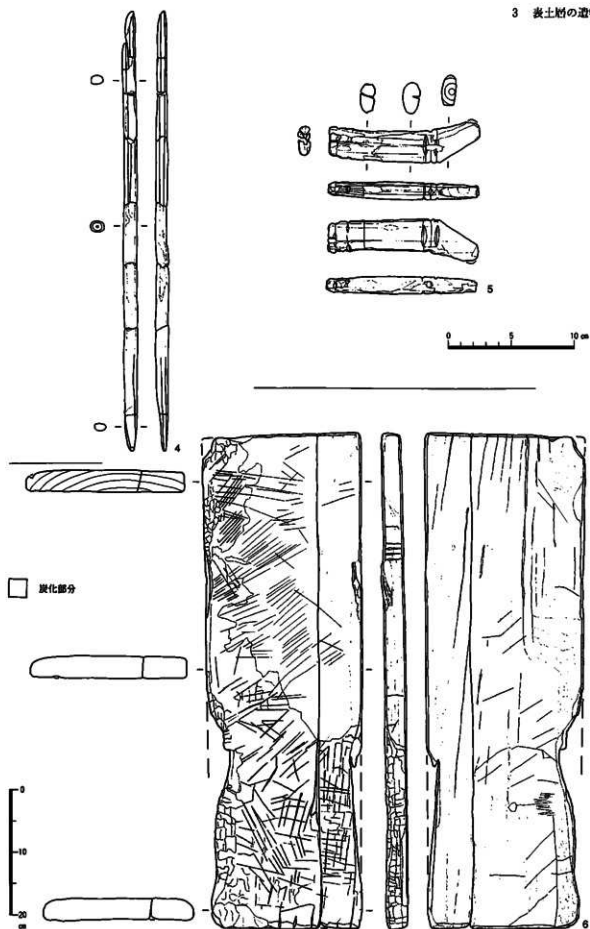
4は上端部の炭化した丸串である。面取り加工により、両端はやや楕円形である。5は鬚引線により、短刻が割り付けられた小刀柄である。某挿入部が割れている。6は表面から側縁にかけて炭化した厚板材である。表面の刃物痕が顕著であり、組板として使用されたものであろう。



図IV-8 陶磁器・石器・石製品



図IV-9 金属製品



図IV-10 木製品

表IV-5 縄文遺物跡(注)、配列外立柱

図面 番号(番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺物 位置	立柱 位置	断面 形状	断面 寸法	断面 面積	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	2号切石片	c-66-09-c	801	建柱跡1	701	丸本	9×11×キ		93.40 15.90 15.90	11800.0	1 1 Te-a付着、全面面取りあり、山刀または手斧による加工面あり。
2	2号切石片	c-66-19-a	6379	建柱跡1	7323	丸本	○	コナテ	89.45 11.00 18.70	5000.0	1 1 Te-a付着、褐色色。
3	2号切石片	c-66-09-d	786		779	丸本	○	オエテ	(73.00) 12.20 13.40	(7200.0)	1 1 Te-a付着。

表IV-6 灰集巾11 縄織ガラス製品

図面 番号(番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺物 位置	遺物 位置	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	ガラス玉	c-66-09-a	c-66-09-a	7188	灰集巾11	0.42 0.43 0.33	0.1	1 1 深緑色、ガラス玉、材質分析中。

表IV-7 縄文遺物の金属製品

図面 番号(番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺物 位置	遺物 位置	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	備考
1	12号銅片	c-66-09-a	c-66-09-d	89	灰集巾1	(5.74) 0.81 1.10	(7.4)	鉄	1 1 重量不明
2	12号銅片	c-66-09-a	c-66-09-d	111	灰集巾2	(0.97) 1.20 0.35	(0.1)	鉄	1 1 重量不明
3	12号銅片	c-66-09-a	c-66-09-d	113	灰集巾2	(2.61) 0.70 0.58	(1.3)	鉄	1 1 重量不明

表IV-8 縄文陶磁器、石器・石製品

図番号	遺物名称	主な発掘区	品数	備考
2	陶器磨削	c-66-09-d	2	産地不明 復元最大径26.0。
2	火打ち石	c-66-09-c	1	球質頁岩 長さ2.61、幅1.18、厚さ0.61、2.21...
3	火打ち石	c-66-09-c	1	球質頁岩 長さ2.29、幅1.80、厚さ0.80、3.50...
4	火打ち石	c-66-09-c	1	球質頁岩 長さ3.29、幅2.52、厚さ1.53、14.2...
5	火打ち石	c-66-09-b	1	球質頁岩 長さ2.23、幅2.04、厚さ0.57、6.3...
6	すり石	c-66-09-a	1	砂岩 長さ13.00、幅10.50、厚さ3.00、688.0...

表IV-9 縄文金属製品

図面 番号(番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺物 位置	遺物 位置	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	備考
4	銅スライ片	c-66-09-d	6			(7.67) 0.65 0.71	(8.5)	鉄	1 1 重量不明
5	12号銅片	c-66-09-a	7			(0.61) 0.75 3.6	1 1	鉄	1 1
6	12号銅片	c-66-09-a	1			6.90 2.18 1.68	12.7	鋼	1 1

表IV-10 縄文木製品

図面 番号(番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺物 位置	断面 形状	断面 寸法	断面 面積	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
4	丸串	c-66-09-d	1000	丸本	○	キナテ		34.90 1.10 1.00	22.0	1 9 2本接合、上端炭化。
5	13号小刀柄	c-66-09-b	41	丸本	テテテ			12.05 3.20 1.35	24.0	1 2 2本接合、短冊付。
6	13号小刀柄	c-66-09-d	1000	丸本	○	テテテ		79.70 25.50 3.50	6000.0	1 2 2本接合、側面に埋拵付、表面炭化、片側板多数あり。

V 第0 黒色土層の調査

1 調査結果の概要

この層の遺構数、遺物数は低湿度のなかで最多である。他の層に比べて活発な遺跡形成がなされている。舟着場1カ所、建物跡3軒、立杭列28列、杭穴列3列、双礎2カ所、集石11カ所、灰集中10カ所、炭化物集中18カ所、砂集中2カ所、貝殻皮集中4カ所、クリ集中1カ所、クルミ集中5カ所、ホノキ集中1カ所、建材集中2カ所が検出された。このような状況はT a - a 降灰（1739年、元文4年）直前まで続くようであり、0 B層上面には大量の遺物が遺存していた。

舟着場はスロープを削り出しており、積極的な土木工事はチャシの造営にも比肩する。灰集中10からは多くの道具に混じって栽培種子が検出されており、炭化したイネの有稈果（初めのついたコメ）が出土しており、今までにない状況を呈している。

（鈴木）

2 遺構とその遺物（図V-1）

0 B層からは、舟着場1カ所、建物跡3軒、立杭列28列、杭穴列3列、双礎2カ所、集石11カ所、灰集中10カ所、炭化物集中18カ所、砂集中2カ所、貝殻皮集中4カ所、クリ集中1カ所、クルミ集中5カ所、ホノキ集中1カ所、建材集中2カ所が検出された。灰集中の規模の平均は灰集中10を除くと、1.55㎡である。炭化物集中の規模の平均は0.44㎡である。遺構は標高4.0～5.0mの斜面裾部であるc-66-08・09・18・19の100㎡の範囲に集中する。遺構数は低湿度のなかでは最多である。他の層に比べて活発な遺跡形成がなされている。遺物数の多さも遺構数と相応している。

（1）舟着場（図V-2、図版1-2）

c-67-11付近のT a - a 除去中に10m四方のくぼみが確認された。遺構は美沢川上流方向に開口する「コ」字状の掘り込みである。南側には張出しがあり、幅約1m、深さ0.3m、断面「U」字の溝が走る。舟着場スロープの上場の標高は3.5～4.0m、最深部の標高は2.4mである。舟着場スロープの掘削は0 B層～1 B-3層に及ぶ。遺物の出土位置より、水深0.7mはあったと思われる。

T a - a 降灰以降（1739年）に再掘削された様子がないことにより1739年以前まで使用されていたと推測される。上層断面図によると擦文文化期以前の層である1 B-6層には掘削のあとがみられないこと、低湿度において中期以降の擦文土器が多くなることから、使用開始は擦文中期まで遡れるか。

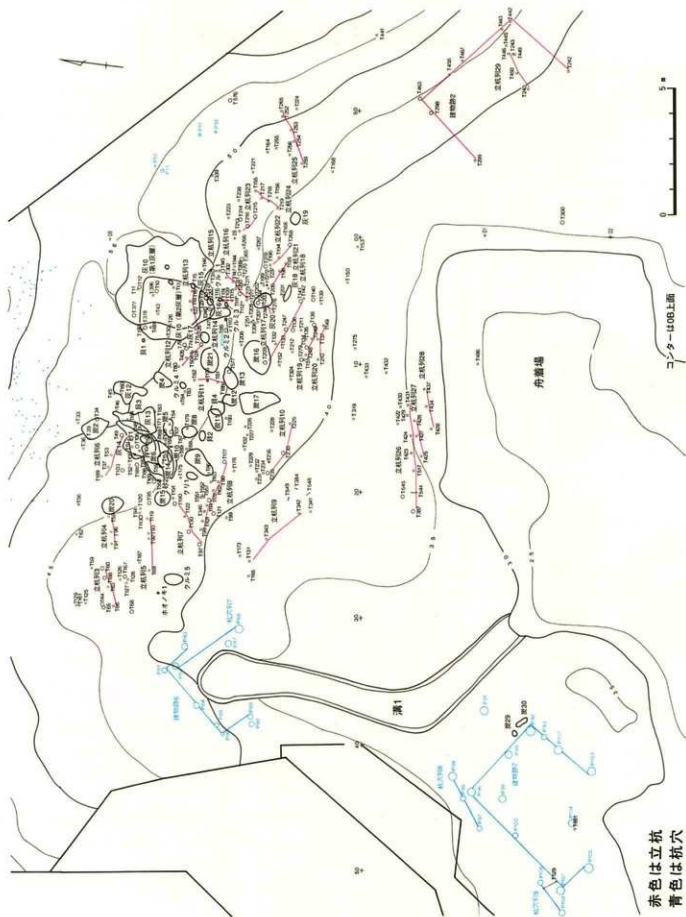
（2）建物跡（図V-3・5・10、表V-1・2・10、図版2-1・14）

建物跡2 中心位置：d-67-80-d 規模：約15.2㎡

標高4.0～4.5mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約4.6m、短辺は約3.3mの長方形で、長軸は北西～南東をむく。立杭8本によって構成されている。二辺の長辺のうち斜面下側には立杭列が確認できなかった。付近には集石11、後述する建材集中2は、この建物跡の付属遺構であった可能性が非常に高い。建物内に遺構は検出できなかった。

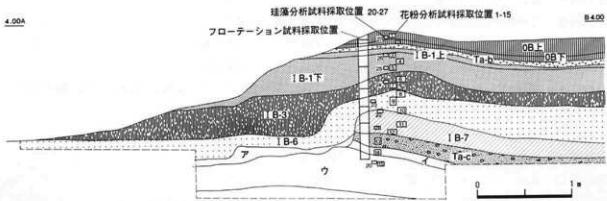
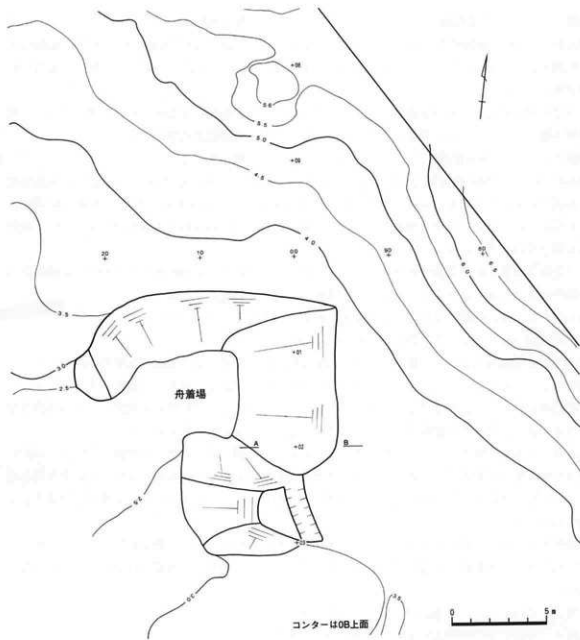
柱は丸木材と割材で、先端形は、先端形分類アと切断面が2面の尖頭状（先端形分類ウ）、切断面が2面の扁尖頭状（先端形分類エ）、切断面が1面で切り出し状（先端形分類オ）で長辺上の立杭に先端形バリエーションがある。樹種はコナラ属、ハンノキ属、トネリコ属である。

舟着場に面していること、長辺の片側が開いている構造の建物であるから、住居ではなく、舟に関わる作業や舟待ちの休息所などに使われた小屋のようなものであろう。



図V-1 遺構分布図

赤色は立杭
青色は杭穴



図V-2 舟着場

建物跡 6 中心位置：c-66-38-c 規模：約5.6㎡

標高4.0～4.5mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約3.5m、短辺は約1.6mの長方形で、長軸は北東-南西をむく。杭穴6本によって構成されている。深さは0.5m前後であった。建物内に遺構は検出できなかった。

用途は不明であるが、短辺が極端に短いことより他の建物跡とはことなつた用途が考えられる。溝1の端を覆っていることより溝1の覆屋のような使われかたをされた可能性がある。

建物跡 7 中心位置：c-67-41-a 規模：約15.2㎡

標高4.0～4.5mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約5.3m、短辺は約3.6mの長方形で、長軸は北東-南西をむく。杭穴9本によって構成されている。深さは0.5m前後であった。南西隅の柱穴が確認できなかった。付近には炭化物集群29・30がある。ここからは栽培種子は検出されていない。建物内に遺構は検出できなかった。

この建物は平成3年度調査の建材群の南東側に位置する建物で、建材群はこの建物の上部構造だつた可能性がある。またおそらく、平成元年度調査の道跡Dの終着点でもある。

以上のことより、住居ではなく仮収納などに使われた小屋のようなものか。

(3) 立杭列 (図V-3～7、表V-1・3～8、図版2-2・14～16)

立杭列とは検出時において、横木などの付属する材が伴わなく、かつ直線的な配列として捉えられた遺構のことである。従つて、立杭列にはいろいろな用途が存在したはずで、例えばサケなどの干し場、幣棚などがあろう。加工は元側がほとんどであることから、枝の股部分を利用した上部構造が想像される。また、立杭列の間隔・太さなどで用途の違いがあるように思われる。

樹種はコナラ属3割強、ハンノキ属3割弱で、あわせて6割を占め、クマシデ属も多い。いっぽう、建材はコナラ属が半数近くを占め、次にカエデ属が比較的多く、ハンノキ属は少ない。丈夫な構造を求めるものには径の大きなコナラ属やカエデ属がつかわれ、ハンノキ属・クマシデ属は、建材としては使われなかったようだ。

立杭列3～5・7・11・14～17・24・25は等高線にやや直行し、3つの群を形成している。そのほか立杭列26～28は舟着場の北辺に並行して設けられていることから、舟着場に付随する遺構の可能性が高い。

立杭列3：標高4.3m、等高線にやや直行。立杭4本、全長1.6m。

立杭列4：標高4.5m、等高線に直行。立杭3本、全長1.1m。

立杭列5：標高4.3m、等高線にやや直行。立杭4本、全長2.0m。

立杭列6：標高4.7m前後、等高線にやや並行。立杭4本、全長1.8m。

立杭列7：標高4.3m前後、等高線にやや直行。立杭4本、全長1.9m。

立杭列8：標高4.2m前後、等高線にやや並行。立杭8本、全長2.8m。

立杭列9：標高3.8m前後、等高線に並行。立杭3本、全長2.8m。他の立杭列に較べ立杭間隔が広い。

立杭列10：標高4.0m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.6m。

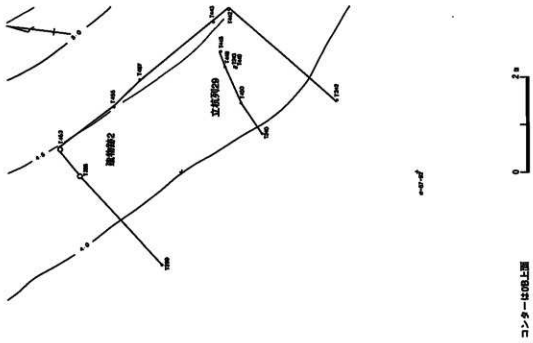
立杭列11：標高4.6m前後、等高線に直行。立杭4本、全長1.1m。2本に添木がある。

立杭列12：標高4.8m前後、等高線に並行。立杭5本、全長1.6m。

立杭列13：標高5.0m前後、等高線にやや並行。立杭5本、全長1.8m。

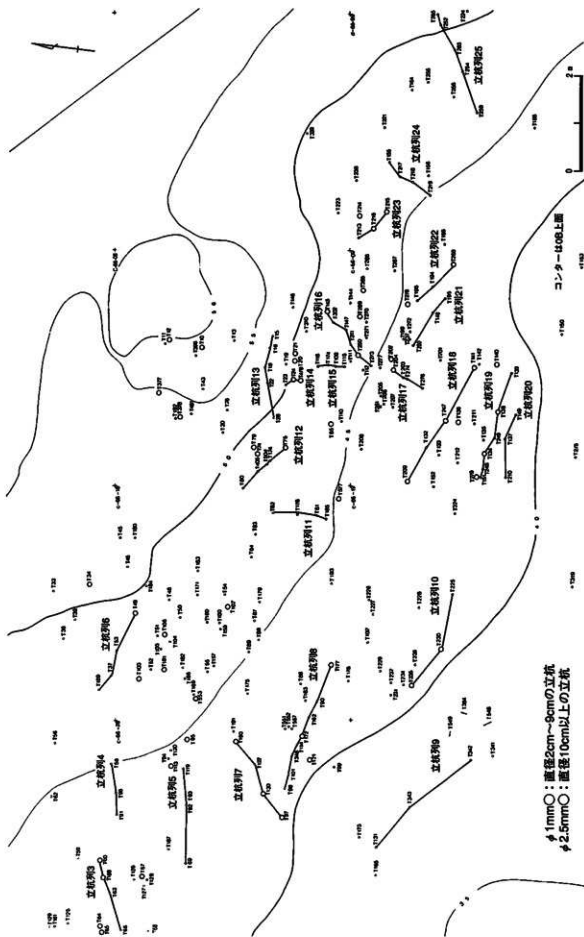
立杭列14：標高5.0m前後、等高線に直行。立杭3本、全長0.4m。ほかの立杭列に較べて全長が極端に短く、径が太い。まったく異なつた用途があつたのであろう。

立杭列15：標高4.7m前後、等高線に直行。立杭4本、全長0.6m。ほかの立杭列に較べて全長が極端

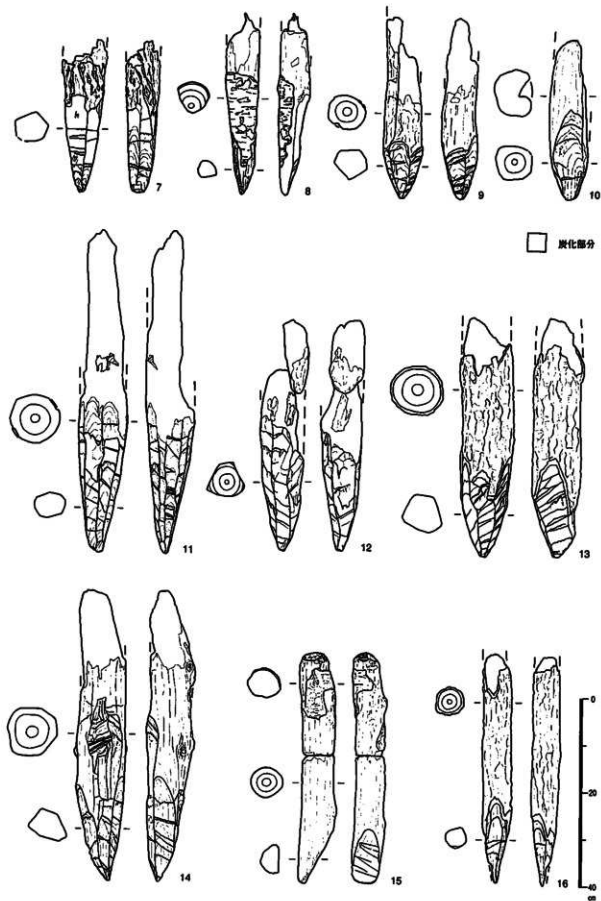


図V-3 遺物跡2、立杭跡26～28、立杭分布図

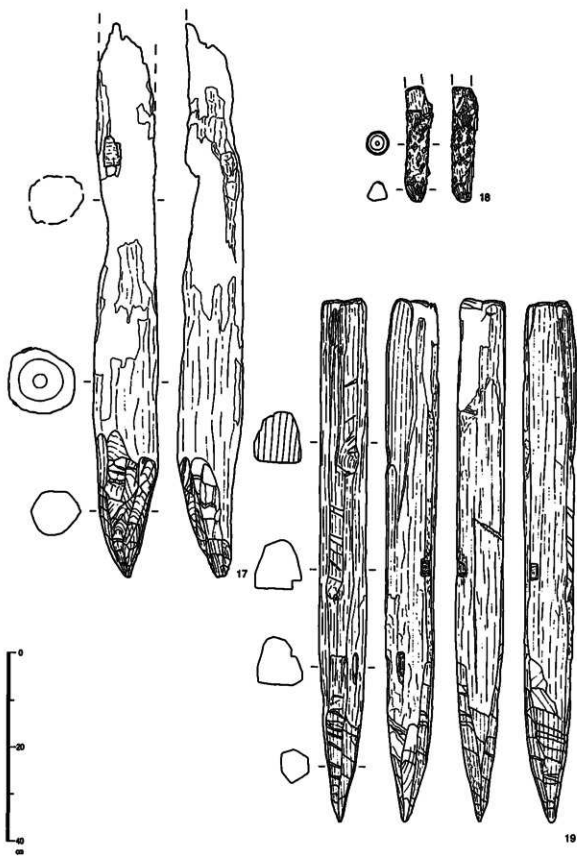
φ1mm○：直径2cm～9cmの立杭
 φ2.5mm○：直径10cm以上の立杭



図V-4 立杭列3~25、立杭分布図



図V-5 建物跡2(柱). 立杭列13・15・16



図V-6 立杭列18

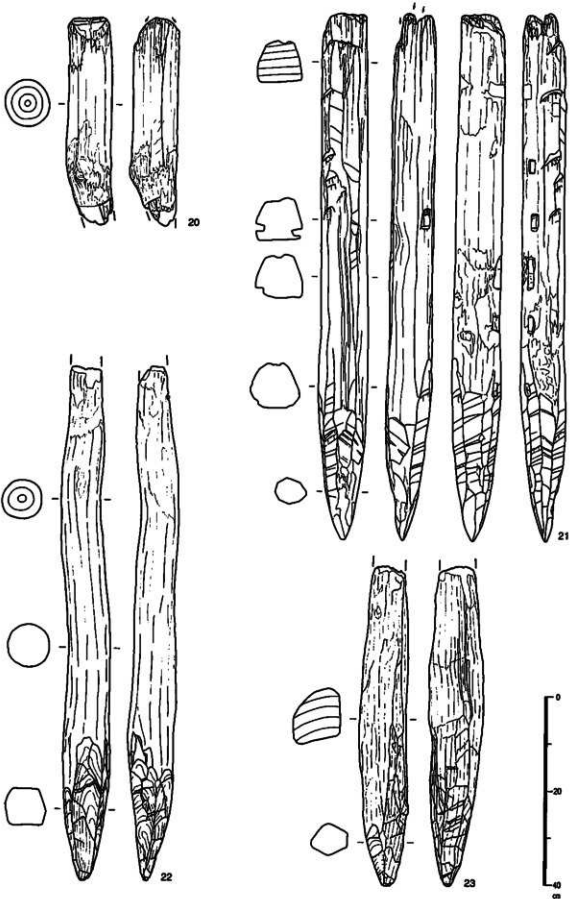
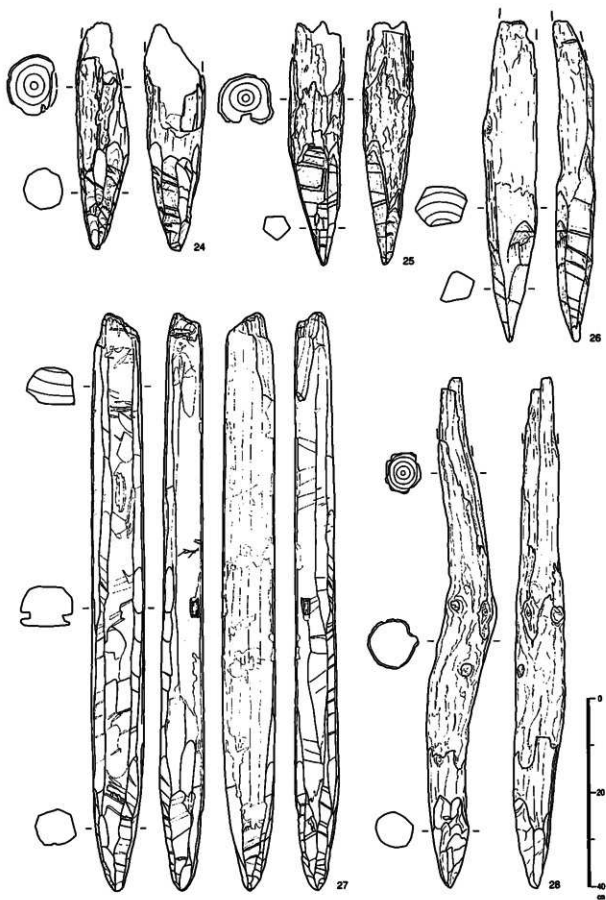
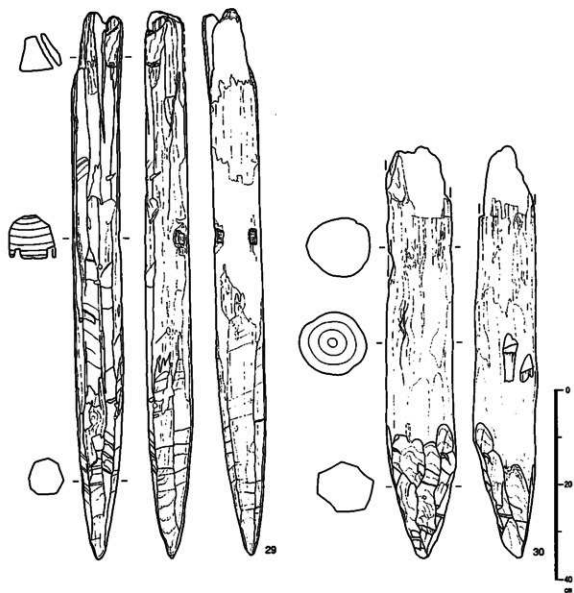


図 V - 7 立杭列 19・26



図V-8 配列外立杭(1)



図V-9 配列外立杭(2)

表V-2 掲載置物部2(柱)

国 庫 庫 号 番 号	置物名称	架設区	架設 番号 置物 番号	立上 水取 り 位置	架設 位置	架設 位置	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	置 物 片 数	備考	
7	H 立形片	c-67-2a-b	置物部2 608	T28 丸木	○	クマシテ	(31.60) 9.10 7.30 (765.0)	1	1	他に附設工点(4点架設)。	
8	H 立形片	c-67-2a-b	置物部2 607	T29 丸木	○	カバノキ	(37.80) (7.10) (6.90)	(728.0)	1	1	公道架設。
9	H 立形片	c-67-31-a	置物部2 605	T42 丸木		クハヤ	(37.50) 8.30 7.70 (3000.0)	1	1		
10	H 立形片	c-67-30-c	置物部2 605	T43 丸木		クハヤ	(33.20) (9.80) (8.00)	(1268.0)	1	1	

表V-3 掲載立杭列13

国 庫 庫 号 番 号	置物名称	架設区	架設 番号 置物 番号	立上 水取 り 位置	架設 位置	架設 位置	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	置 物 片 数	備考
11	H 立形片	c-66-2b-b	立形列13 794	T15 丸木		クハヤ	(67.30) 10.40 10.20 (2728.0)	1	1	1架設。
12	H 立形片	c-66-2b-c	立形列13 854	T28 丸木		カエテ	(48.00) 8.90 8.19 (1438.0)	1	1	44年度2点架設、架設済。

表V-4 掲載立杭列15

国 庫 庫 号 番 号	置物名称	架設区	架設 番号 置物 番号	立上 水取 り 位置	架設 位置	架設 位置	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	置 物 片 数	備考
13	H 立形片	c-66-2b-b	立形列15 1585	T15 丸木	○	ハノノキ	(48.00) 11.30 10.30 (3160.0)	2	2	2架-4付着、他に架設部材点(置片架設点)、他に架設部材多数あり。
14	H 立形片	c-66-2b-b	立形列15 1572	T16 丸木		コナテ	(60.00) 11.30 10.30 (3550.0)	1	1	1架-4付着。

表V-5 掲載立杭列16

国 庫 庫 号 番 号	置物名称	架設区	架設 番号 置物 番号	立上 水取 り 位置	架設 位置	架設 位置	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	置 物 片 数	備考
15	H 立形切頭品	c-66-2b-b	立形列16 1596	T16 丸木	○	ハノノキ	48.40 7.40 7.00 (1480.0)	1	1	2点架設、1架-4付着
16	H 立形片	c-66-2b-a	立形列16 1728	T16 丸木	○	コナテ	(47.00) 6.00 6.10 (990.0)	1	1	1架-4付着。

表V-6 掲載立杭列18

国 庫 庫 号 番 号	置物名称	架設区	架設 番号 置物 番号	立上 水取 り 位置	架設 位置	架設 位置	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	置 物 片 数	備考
17	H 立形片	c-66-2b-b	立形列18 1747	T14 丸木	○	コナテ	(115.00) 13.50 13.50 (10900.0)	1	1	2点架設、1架-4付着、架設済み。
18	H 立形透木片	c-66-2b-b	立形列18 1747	T14 丸木	○	クマシテ	(23.90) 5.10 5.40 (350.0)	1	1	1架-4付着、1点の架設。
19	H 立形透木片	c-66-2b-d	立形列18 1717	T29 丸木		コナテ	109.50 10.20 11.30 (8000.0)	1	1	1架-4付着、4ヶ所あり、架設加工済。

表V-7 掃蕩立杭列19

図面 番号	図面 番号	埋設区	埋設区	立根 番号	本埋り 番号	埋 込 深 度	埋 込 深 度	埋 込 深 度	埋 込 深 度	備 考
20	15	芝刈り	芝刈り	1715	丸木	9.50	9.50	(2550.0)	1	22点組合、T ₁ -b付着。
21	15	ホ/孔付角立切物	芝刈り	1715	板目	10.45	10.45	9.50	1	T ₁ -b付着、ホ/孔付、ホ/孔付6ヶ所あり、面取加工済。

表V-8 掃蕩立杭列26

図面 番号	図面 番号	埋設区	埋設区	立根 番号	本埋り 番号	埋 込 深 度	埋 込 深 度	埋 込 深 度	埋 込 深 度	備 考
22	15	芝刈り	芝刈り	1727	丸木	10.00	9.70	(5000.0)	1	
23	15	角立板	芝刈り	1724	板目	10.00	11.00	(3770.0)	1	

表V-9 掃蕩配列外立杭

図面 番号	図面 番号	埋設区	埋設区	立根 番号	本埋り 番号	埋 込 深 度	埋 込 深 度	埋 込 深 度	埋 込 深 度	備 考
24	15	芝刈り	芝刈り	1714	丸木	10.70	12.50	(2620.0)	1	77点組合、T ₁ -b付着、他に埋設点(5点組合)。
25	16	芝刈り	芝刈り	1740	丸木	11.70	11.00	(2740.0)	1	T ₁ -b付着、他に埋設点(1点組合)、他に埋設点多数あり。
26	16	掃蕩板	芝刈り	179	半割	11.40	8.20	(2030.0)	1	T ₁ -b付着。
27	17	ホ/孔付角立切物	芝刈り	1713	板目	11.10	9.30	8400.0	1	T ₁ -b付着、ホ/孔付(5ヶ所あり)、寸法3.80cm×1.80cm×2.10cm、3.30cm×1.70cm、 ϕ 2.00cm、面取加工済。
28	17	芝刈り	芝刈り	1700	丸木	15.20	10.50	(5400.0)	1	
29	17	ホ/孔付角立切物	芝刈り	1724	板目	10.30	9.50	7300.0	1	ホ/孔付(5ヶ所あり)、面取加工済。
30	17	芝刈り	芝刈り	1727	丸木	14.40	13.30	(9000.0)	1	

に短い。これもまったく異なった用途があったのであろうか。

立杭列16：標高4.7m前後、等高線に直行。立杭6本、全長1.5m。ほかの立杭列に較べて並びが蛇行している。これもまったく異なった用途があったのであろうか。

立杭列17：標高4.6m前後、等高線に直行。立杭4本、全長0.8m。他の立杭列に較べ全長がやや短い。

立杭列18：標高4.3m前後、等高線に並行。立杭4本、全長2.8m。他の立杭列に較べ立杭間隔が広い。T141はホゾ穴のある材の転用。

立杭列19：標高4.2m前後、等高線に並行。立杭6本、全長2.3m。他の立杭列に較べ並びが蛇行している。これもまったく異なった用途があったのであろうか。T138はホゾ穴のある材の転用。

立杭列20：標高4.2m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.4m。

立杭列21：標高4.4m前後、等高線にやや並行。立杭3本、全長1.2m。立杭列22に並ぶ。

立杭列22：標高4.4m前後、等高線にやや並行。立杭3本、全長1.1m。立杭列21に並ぶ。

立杭列23：標高4.6m前後、等高線にやや並行。立杭3本、全長0.9m。

立杭列24：標高4.6m前後、等高線に直行。立杭4本、全長1.1m。

立杭列25：標高4.7m前後、等高線に直行。立杭5本、全長2.3m。割材が多く使われる。

立杭列26：標高3.5m前後、等高線に並行。立杭7本、全長4.2m。立杭列27・28に並ぶ。

立杭列27：標高3.5m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.4m。立杭列26・28に並ぶ。

立杭列28：標高3.5m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.4m。立杭列26・27に並ぶ。

立杭列29：標高4.2m前後、等高線に直行。立杭4本、全長1.9m。建物跡2との関連はない。

(4) 杭穴列 (図V-10、表V-10)

杭穴列7：標高3.8~4.0m前後、等高線に直行。杭穴2個、全長1.2m。建物跡6、溝1との関係は確かではないが、なんらかの関連はあるものと思われる。

杭穴列8：標高3.4m前後、等高線に並行。杭穴3個、全長1.0m。建物跡7のそばにあり、杭穴列9・建物跡7と並ぶ。

杭穴列9：標高3.4m前後、等高線に並行。杭穴2個、全長1.0m。建物跡7のそばにあり、杭穴列8・建物跡7と並ぶ。

(5) その他の立杭と杭穴 (図V-1・8~10、表V-9、図版16・17)

0 B層で上端部を確認できたのは、173カ所である。いずれも杭頭は腐朽し、残存しておらず、層中のどの面から打ち込んでいるか確認できない。しかし、残存している上端が、地面より上に出ていると考えられるので、杭が打たれた時期は、上端部を確認した面よりも下位になることはない。以上より、上端部を確認した面が立杭の所属する時期に近接する。立杭の分布は標高4.0m~5.0mの斜面裾部に集中し、灰集中、炭化物集中、立杭列の分布に重なる。杭穴は標高5.5m~7.0mの斜面に分布する。c-66-07とc-66-17の範囲に分布する。両者共に配列の規則性はうかがえない。

表V-10 杭穴列一覧

遺構名	杭穴番号	発掘区	深 (cm)	層位	遺構名	杭穴番号	発掘区	深 (cm)	層位	
建物跡6	P81	c-66-38-a	30	OB 上層	建物跡7	P102	c-67-41-b	30	OB	
	P82	c-66-39-b	25	OB 上層		P103	c-67-41-b	30	OB	
	P84	c-66-40-c	24	OB 上層		P105	c-67-41-c・c-67-51-b	15	OB	
	P85	c-66-41-c	15	OB 1:4層		P107	c-67-51-b	30	OB	
	P86	c-66-42-c	10	OB 1:4層		杭穴列7	P82	c-66-38-a・c-66-38-b	23	OB 上層
	P89	c-66-39-d	20	OB 1:4層			P88	c-66-38-a・c-66-39-a	30	OB 上層
建物跡7	P92	c-67-31-d	35	OB	杭穴列8	P94	c-67-40-b	50	OB	
	P93	c-67-31-d	20	OB		P95	c-67-40-b	18	OB	
	P96	c-67-40-b	30	OB		P97	c-67-41-c	20	OB	
	建物跡7	P99	c-67-41-a	27.5	OB	杭穴列9	P106	c-67-51-a	16	OB
		P101	c-67-41-d	20	OB		P108	c-67-51-b	22	OB

(6) 建材集中 (図V-11~21、表V-11・12、図版18~23、カラー図版7-1)

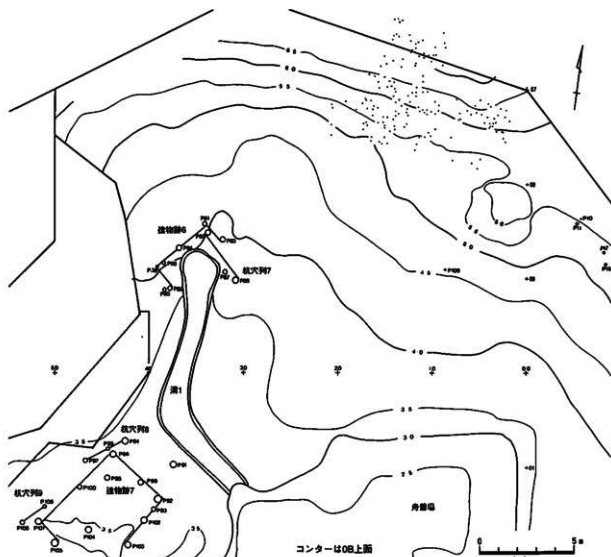
建材集中は長さが1m以上の大型の部材で構成されており、建造物の倒壊した状況を示している。

建材集中2 中心位置：d-67-91-a 規模：南北5m×東西10m

舟着場の東側、建物跡2の南東側、建材集中3の東側に位置する。標高3.5m~4.0mの斜面裾の平坦部に、長さが1m以上の大型の部材が68本検出された。家屋の建材と考えられるものがほとんどを占める。上部部に受け部構造をもつ柱材 (掲載番号31~33・41~44) や上部部は欠失していて不明である柱材 (掲載番号45) や桁・梁材 (掲載番号35~37・47~49) があり、また、3.8m前後の長尺の建材 (掲載番号40) は、棟木材と考えられる。そのほかには径の細い垂木材状の建材が散在している。

構造は平成3年度調査のA'地区の建材群と比べると梁や桁のしっかりしたものに欠けるので、A'地区の建材群よりも小規模な建物が想定される。

以上より、建材集中2は、舟着場に面していること、構造が小規模なこと、高床式倉庫梯子片 (掲載番号39) が出土していること、魚突鉤括の棹が2本出土していること、建物跡2の南東側に位置することから漁撈に関係する倉庫で建物跡2に付随していた可能性が高い。



図V-10 建物跡6・7、杭穴列、杭穴分布図

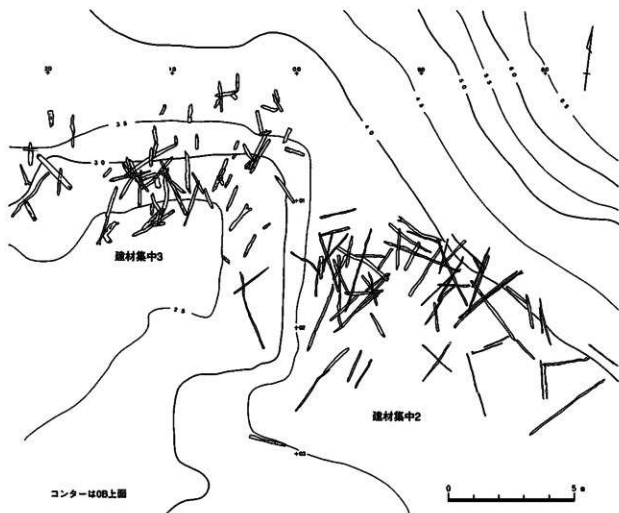
建材集中3 中心位置：c-67-10-b 規模：南北5m×東西10m

舟着場の北側、建材集中2の西側に位置する。標高2.5m～3.5mの舟着場の北側スロープに、長さが1m以上の大型の部材が77本検出された。家屋の建材と考えられるものがほとんどを占める。上部に受け部構造をもつ柱材（掲載番号50・53・54・57）や上部は欠失して不明である柱材（掲載番号58）や桁・梁材（掲載番号55・56）がある。

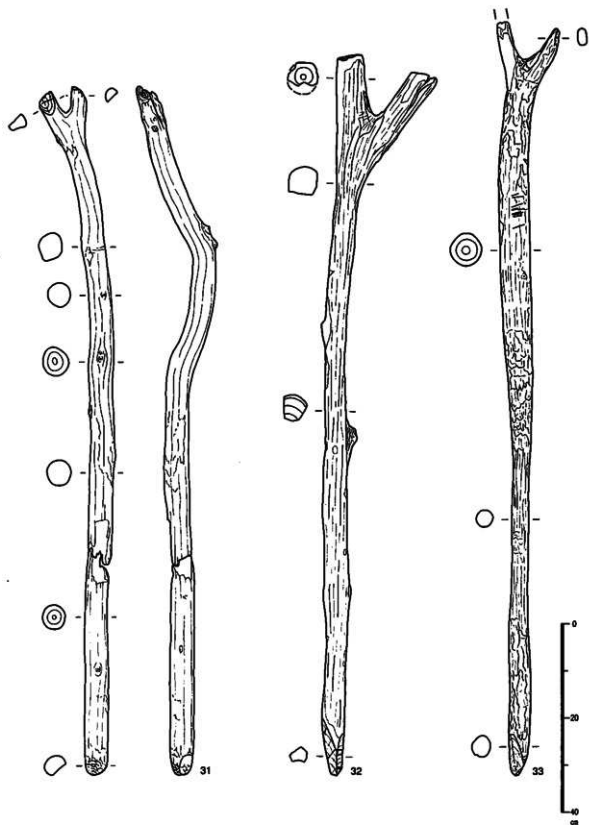
そのほかには短く、両端が欠失した建材が、多数散在している。これらは建材集中2と比べると数が多い。径の細い垂木材状の建材はほとんどみられない。

構造は建材集中2と比べると受け部構造をもつ柱材が少なく、梁や桁のしっかりしたものに欠ける。また、径の細い垂木材状の建材はほとんどみられないことからしっかりとした屋根をもっていないことが考えられる。

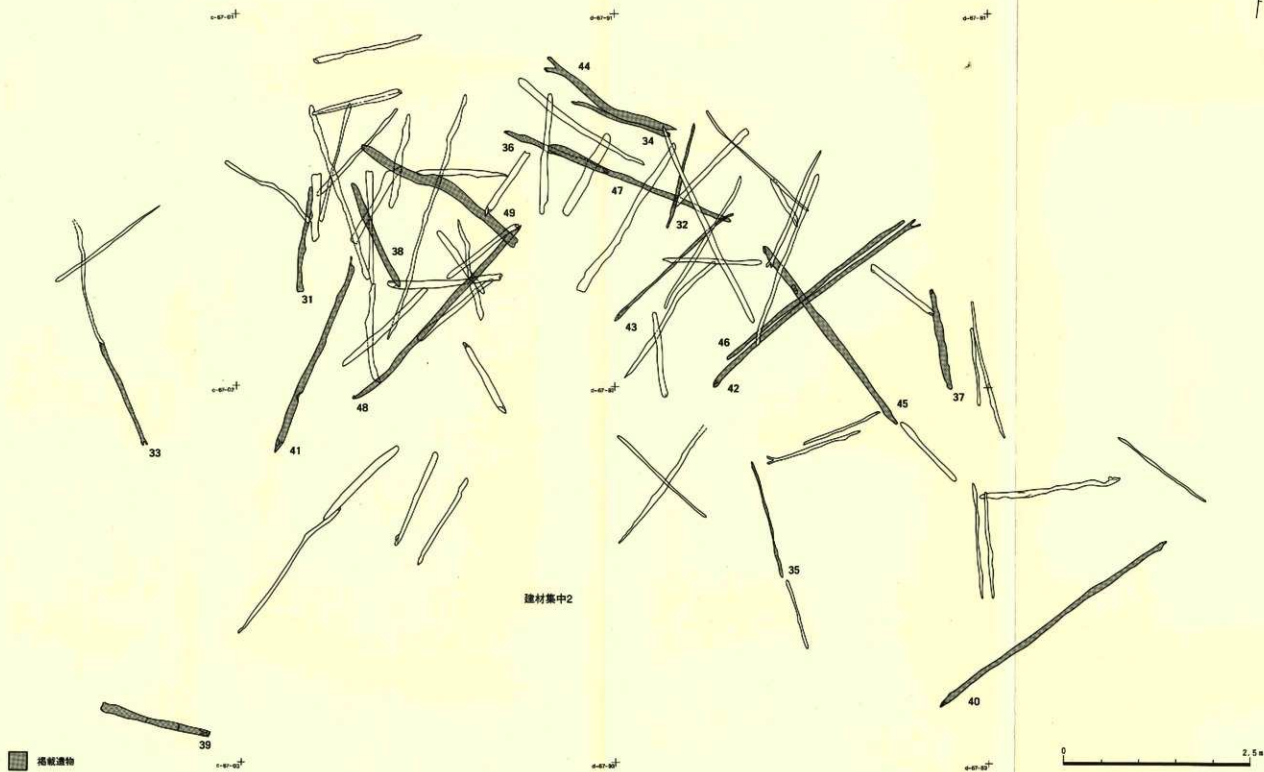
以上より、建材集中2のような倉庫ではない4本柱の小規模な建物が想定される。また、建材集中3は、舟着場に面していること、建物跡2の南西側に位置することから建物跡2・建材集中2に付随していた可能性もあるが、構造が異なることから別個の用途があったのではないだろうか。



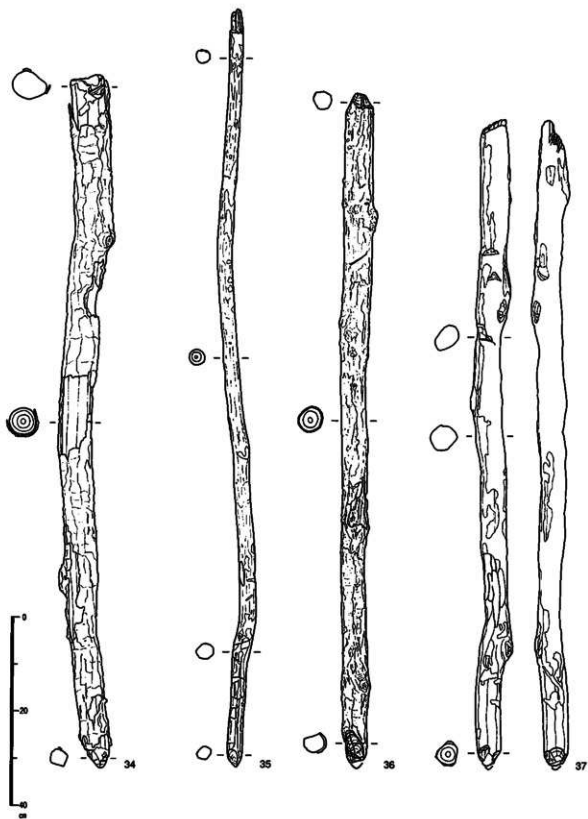
図V-11 建材集中2・3分布図



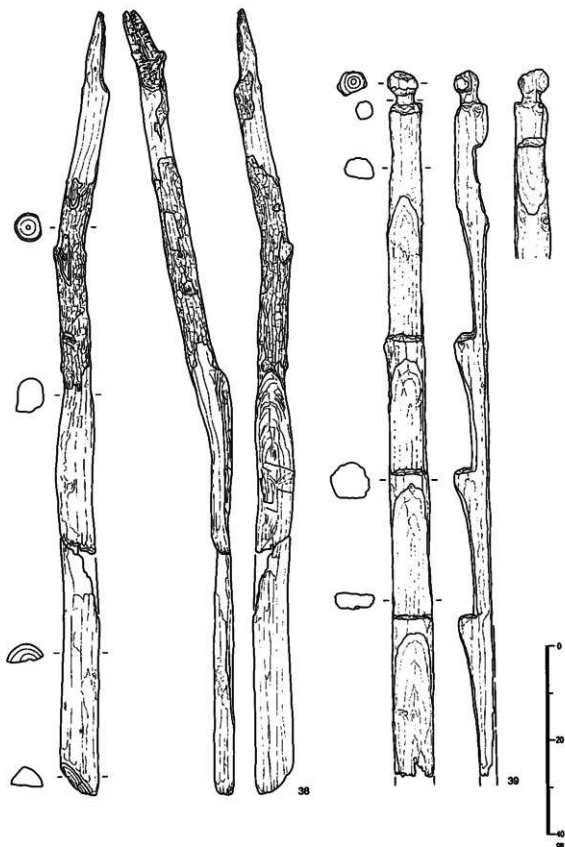
図V-12 建材集中2 (建材1)



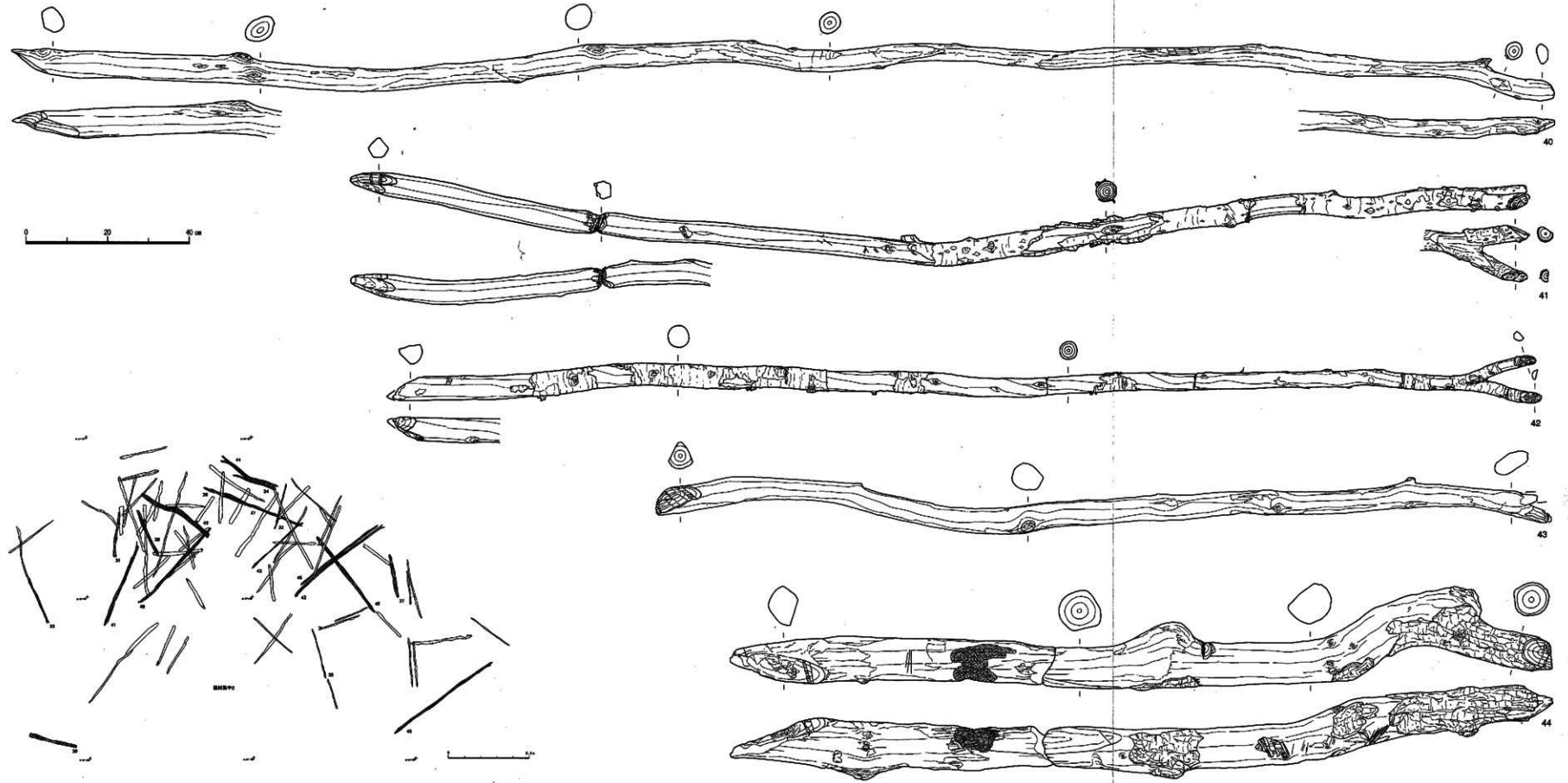
図V-13 建材集中2 (建材分布図)



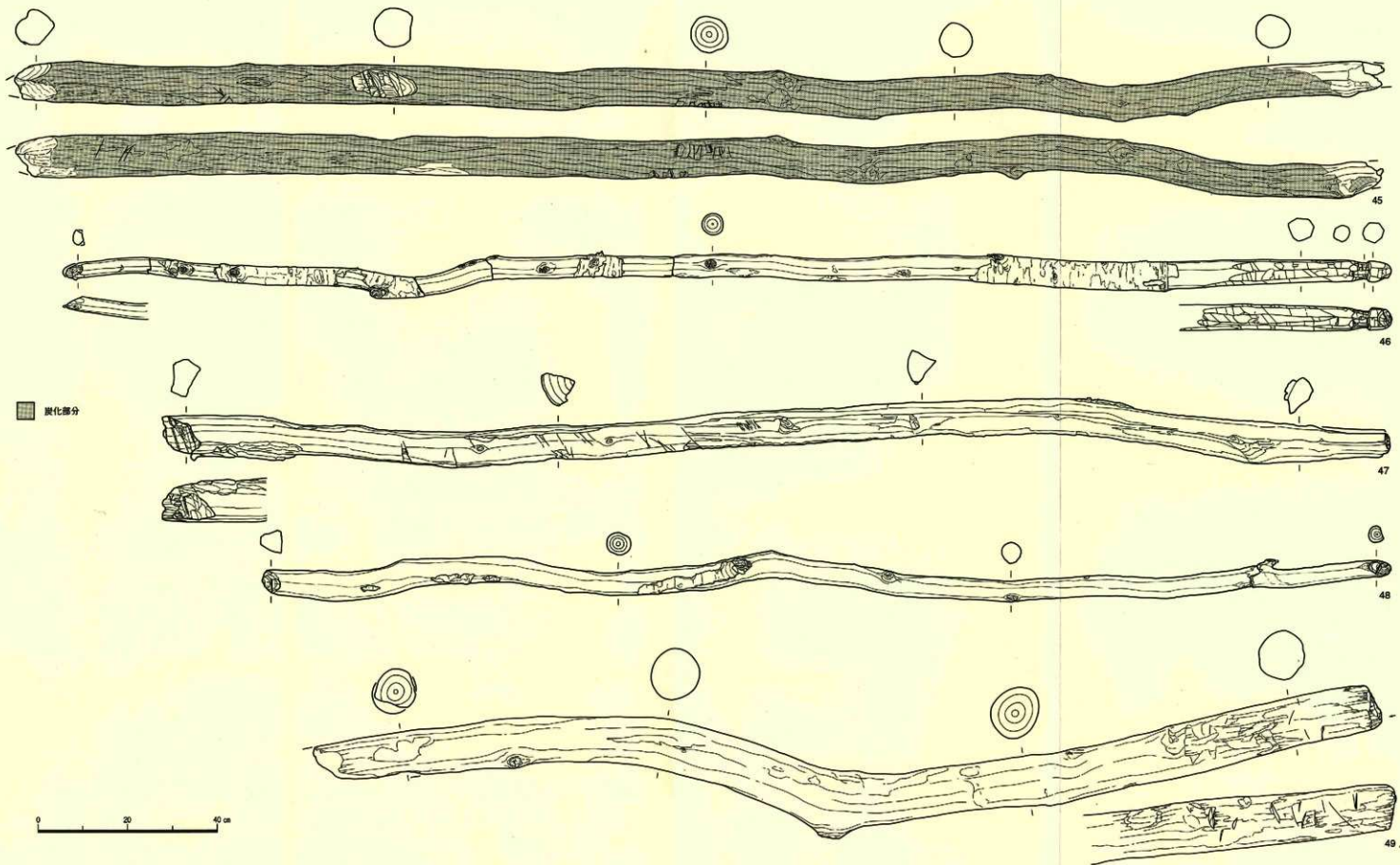
図V-14 建材集中2 (建材2)



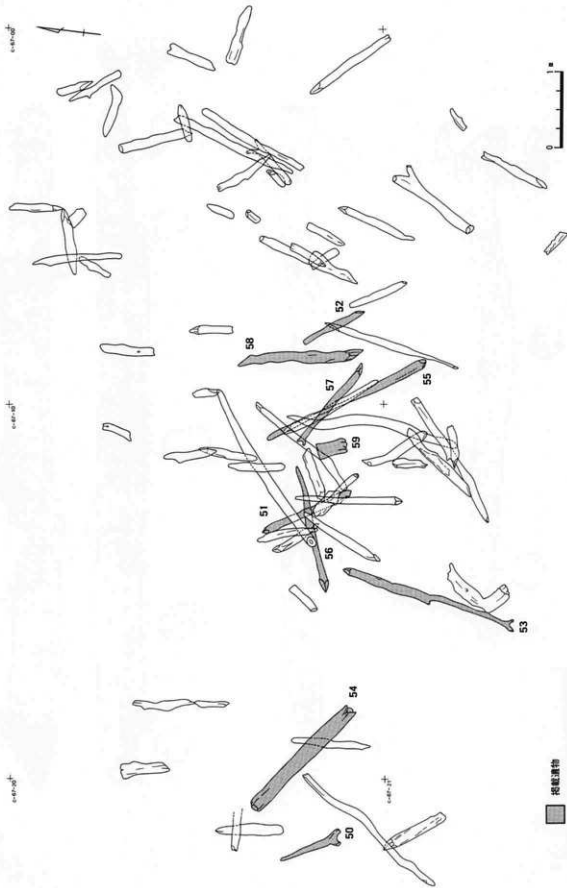
図V-15 建材集中2 (建材3)



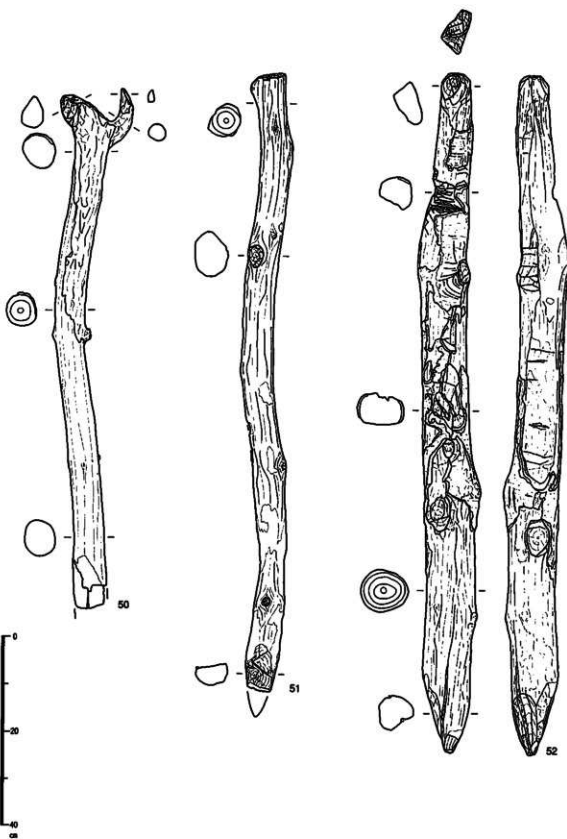
図V-16 雑材集中2 (雑材4)



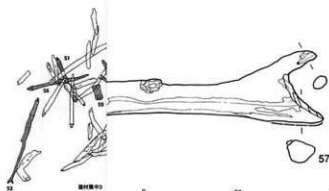
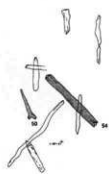
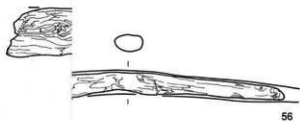
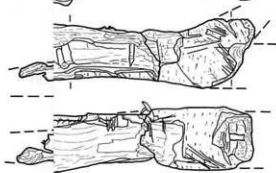
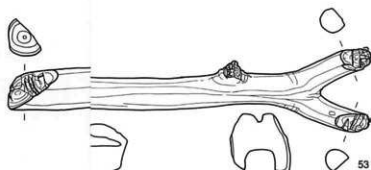
図V-17 建材集2 (建材5)

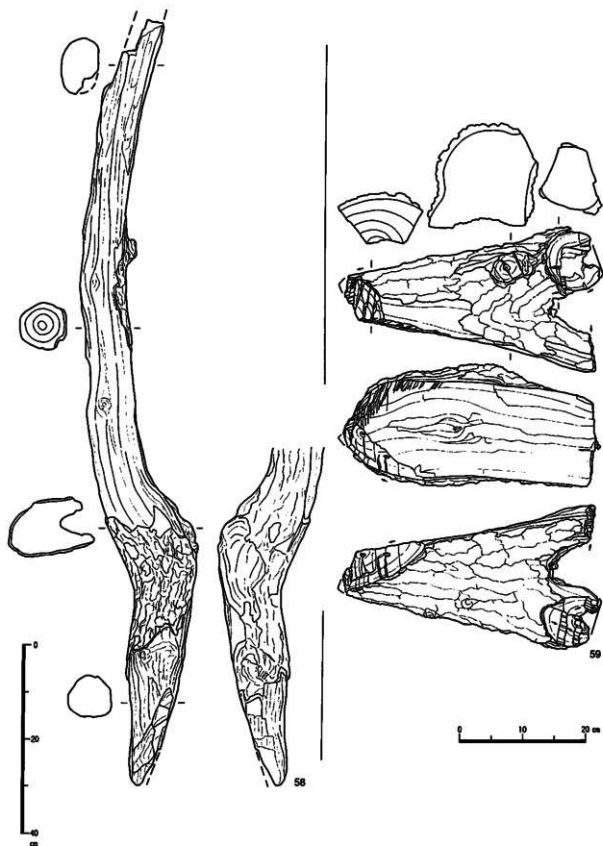


図V-18 建材集中3 (建材分布図)



図V-19 建材集中3 (建材1)





図V-21 建材集中3 (建材3)

V 第0黒色土層の調査

表 V-11 掲載建材集 中 2 (建材)

図号 番号	建材名称	規格記号	規格	用途	測定 位置	種類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	測定 部位	備考
31	18 受塵付仕付	4-67-91-c	受塵付仕付	受塵付仕付	○	トネリコ	143.30 9.19 6.60	2930.0	1	2点検査。
32	18 受塵付仕付	4-67-91-c 4-67-91-d	受塵付仕付	受塵付仕付	○	コナラ	152.00 21.30 5.70	3000.0	1	柱頭丫字状、榫材。
33	18 受塵付仕付片	c-67-92-a c-67-91-b	受塵付仕付片	受塵付仕付	○	トネリコ	(159.10) 12.90 6.60	(3050.0)	1	柱頭丫字状。
34	18 榫・嵌材	4-67-91-d 4-67-91-a	受塵付仕付	受塵付仕付	○	コナラ	145.00 8.49 9.28	4976.0	1	
35	18 榫・嵌材	4-67-92-c 4-67-92-d	受塵付仕付	受塵付仕付	○	モクレン	169.00 3.89 3.30	1150.0	1	
36	19 榫・嵌材片	4-67-91-a	受塵付仕付	受塵付仕付	○	コナラ	(140.60) 7.00 5.20	(3000.0)	1	
37	19 榫・嵌材切斷部片	4-67-91-b	受塵付仕付	受塵付仕付	○	キハダ	(126.70) 7.10 6.90	(3160.0)	1	
38	19 榫材	4-67-91-c 4-67-91-d	受塵付仕付	受塵付仕付	○	カエデ	183.80 8.00 7.30	(3776.0)	1	2点検査、上端部酸化し、中央から下は榫材。
39	19 高圧式自燃燻子片	c-67-92-b	受塵付仕付	受塵付仕付	○	モミ	(147.00) 8.60 7.40	(4236.0)	1	1) 両端部、上部に鉄入層、裏面に鉄入りあり。
40	20 榫本材	4-67-75-c 4-67-72-d 4-67-92-b	受塵付仕付	受塵付仕付	○	コナラ	375.00 7.50 10.28	9060.0	1	
41	20 受塵付仕付	4-67-91-c 4-67-92-d	受塵付仕付	受塵付仕付	○	クヤシデ	287.80 6.99 13.00	6000.0	1	4点検査、柱頭丫字状、下部に木層または切斷を要した鉄入部あり。
42	20 受塵付仕付	4-67-91-b 4-67-91-c	受塵付仕付	受塵付仕付	○	カバノキ	352.80 14.19 7.60	9355.0	1	5点検査、木と共存、柱頭丫字状、根元へ榫多量。
43	20 受塵付仕付片	4-67-91-c	受塵付仕付	受塵付仕付	○	キハダ	(213.10) 7.30 9.40	(6125.0)	1	1) 柱頭丫字状。
44	20 受塵付仕付片	4-67-91-a 4-67-91-b	受塵付仕付	受塵付仕付	○	カバノキ	(139.30) (16.20) 14.20	(16500.0)	1	2) 点中点検査、柱頭丫字状、中央より下榫状。
45	21 榫・嵌材	4-67-91-b 4-67-91-c 4-67-92-a	受塵付仕付	受塵付仕付	○	カエデ	(305.10) 9.20 9.40	(12300.0)	1	4) 点中点検査。
46	21 榫部鉄入榫付(榫・嵌材)	4-67-91-b 4-67-91-c	受塵付仕付	受塵付仕付	○	カバノキ	294.70 6.60 6.90	5350.0	1	5) 点検査、木と共存。
47	21 榫付・嵌材	4-67-91-a 4-67-91-d	受塵付仕付	受塵付仕付	○	コナラ	273.40 9.50 9.00	10148.0	1	
48	21 榫・嵌材	4-67-91-b 4-67-91-c c-67-92-d	受塵付仕付	受塵付仕付	○	カバノキ	318.40 8.60 10.60	10350.0	1	2) 点検査。
49	21 榫・嵌材片	4-67-91-a 4-67-91-b 4-67-91-d	受塵付仕付	受塵付仕付	○	カバノキ	(234.70) 15.99 12.70	(20000.0)	1	榫片多量あり。

表V-12 掲載建材集中3(建材)

国産 品番号	遺物名称	所属区	遺物番号	種類	採取 位置	備 考	縦 長	横 長	厚 さ	重 量(g)	備 考
50	23 受部付柱材片	c-67-20-b	6586	受部付c93	取本	○	(187.80)	15.30	7.30	(4128.0)	1 2点接合、柱頭Y字状。
51	23 柱材片	c-67-10-b	1262	受部付c93	取本	○	(126.70)	7.10	9.30	(4650.0)	1
52	23 柱材	c-67-40-c	9779	受部付c93	取本	○	143.40	11.70	8.90	8350.0	1 頭部加工、決りがある。
53	22 受部付柱材	c-67-10-b c-67-11-a c-67-11-b	8443	受部付c93	取本	○	248.60	17.20	13.30	11640.0	1 柱頭Y字状。
54	22 受部付柱材片	c-67-10-c c-67-20-b	8465	受部付c93	取本	○	(222.80)	14.10	12.50	(16300.0)	1 6点中2点接合点取部、柱頭Y字状。
55	22 面・梁材片	c-67-10-c c-67-10-b c-67-20-c	12659	受部付c93	取本	○	(233.70)	12.30	(6.30)	(7500.0)	1 下部が太く、切取部、斜り部あり。
56	22 面・梁材片	c-67-10-b	12655	受部付c93	取本	○	(167.90)	(8.90)	(7.80)	(4250.0)	1
57	22 受部付柱材	c-67-10-b c-67-40-c	12663	受部付c93	取本	○	150.50	15.30	11.60	9000.0	1 柱頭Y字状。
58	23 柱材片	c-67-40-c	9043	受部付c93	取本	○	(161.90)	18.00	11.40	(12000.0)	1 下部が粗造。
59	23 受部付柱材切頭品片	c-67-10-b	12695	受部付c93	取本	○	(40.20)	23.00	14.40	(5300.0)	1 「Y」字状、切取部多量あり。

(7) 双礫 (図V-22・23、表V-13)

双礫は2ヶ所検出された。標高4.0m～4.5mの斜面裾部分に1ヶ所、標高3.5mの低い部分で1ヶ所。双礫は、他の遺構の近くに検出されることはあまりなく、どちらかといえば単独で出土することが多いために、その用途ははまだ不明である。

今迄の報告済みの双礫の形態はほとんどが扁平な転礫であった。双礫1は扁平な転礫であったが双礫2のひとつは棒状楕円礫である。大きさは、双礫2の片方が小さく、それを除いた平均568gであり、I B-1層の平均1280gの1/2以下である。石質は双礫1が2個とも片麻岩である。以上が今回報告の双礫の平均像である。

双礫2は上述の平均像と大きさ、形態、重量、石質の点で相違が目立つ。このような例はI B-2層で2例、I B-3層で1例みられる。

(8) 集石 (図V-22・23、表V-13・14、図版2-3・4・24)

集石は11ヶ所検出された。I B-1層で40ヶ所、I B-2層で30ヶ所、I B-3層で35ヶ所であり低湿度のなかで最少である。木製品やほかの遺物の数は0 B層が最多であるのと異なっている。舟着場の北スロープ付近と灰集中10の西側に多く検出された。I B-1層～I B-3層の集石は住居遺構のそばに分布する傾向があった。0 B層においては集石11、集石13にその傾向がうかがえる。しかしその他は住居遺構の近くに分布することはない。

集石の状態には大きく分けて2種類あり、分布のありかたも異なる。

ひとつは礫と礫が密集している集石である。この範囲にはいる集石は、集石4・10・11・12・15・16・17・18・19である。さらに密集型集石は、個数が10個未満の少数型集石と個数が10個以上の多数型集石に分かれる。少数型集石の範囲にはいる集石は、集石4・12・15・18・19である。多数型集石の範囲にはいる集石は、集石10・11・16・17である。もうひとつは、緩やかに集まっている集石である。この範囲にはいる集石は、集石13・14である。

I B-1層において、疎散型集石のなかでの細分の可能性を以下のように指摘した。個数が10個未満の集石と個数が100個以上の集石があり、疎散型集石の個数の範囲は10個以上100個未満が普通である。0 B層においても疎散型集石の傾向は変わらない。

図V-23-7は集石13の砥石である。極細粒砂岩で1主面と1側面は非常によく使用されている。その他の2面には使用痕はあるが疎らである。

(9) 灰集中 (図V-24～37、表V-14～22・24・25、図版24～30)

灰集中10 (第1灰層)・12・13は0 B層上面、灰集中10 (第2灰層)・15・17・18・19・20は0 B層上層、灰集中14・16は0 B層下層である。灰集中はT a-b降下後の0 B層下層には少なく、上層以降に頻繁な遺構の形成がみられる。T a-a降下直前まで遺跡内の活動が活発だったことがわかる。

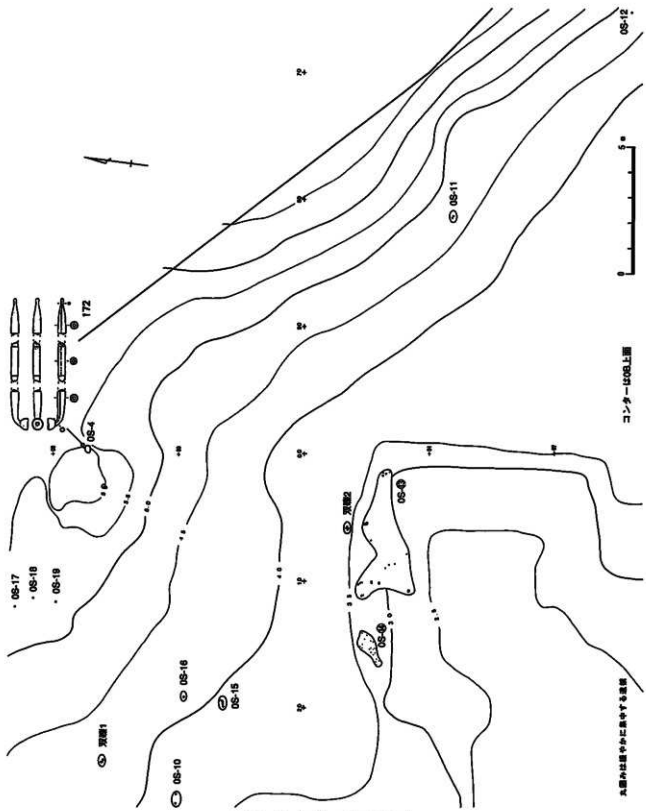
低湿度部における灰集中の増加傾向は各集中の増加傾向と同じくI B-1層のころから始まる。

灰集中10 (図V-25～36、表V-14～22、図版3、カラー図版7-2)

第1灰層と第2灰層は同じ傾向を持つことから、同じ性格の遺構であることがわかる。道具、灰、穀物、魚介類、獣類を送った遺構である。

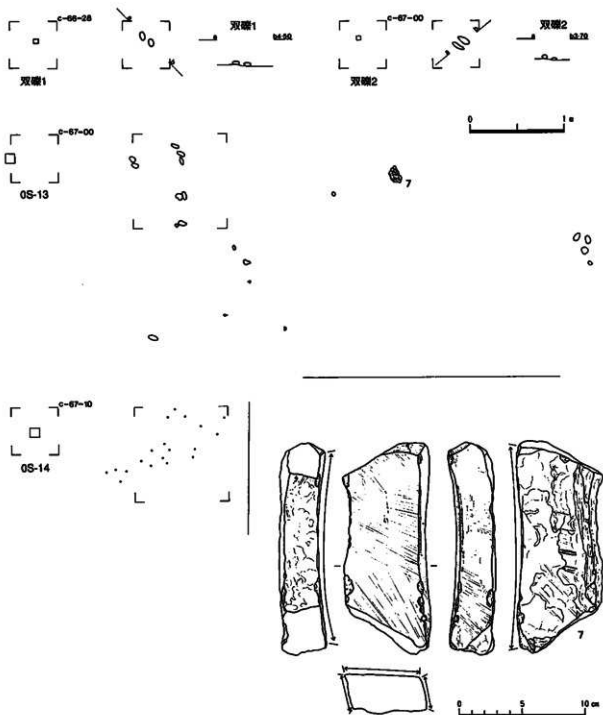
灰集中10 (第1灰層) 中心位置：c-66-08-b 平面積：13.29㎡

標高5.5～5.7m、ほぼ兩丸方形。T a-a除去後マウンド状の盛り上がりとして確認した。純灰層と混炭灰化物層の互層によって構成されている。遺構表面の遺物は測点して取上げ、そのあと50cm×50cmで土壌ごと取り上げた。採取した土壌は水洗選別とフローテーションを併用した。その結果、純灰層と混炭灰化物層の両者からは伊万里染付碗、火打石、火打石フレイク、ガラス製品、金属製品な



図V-22 双磯 集石分布図

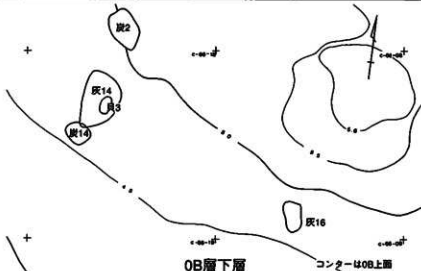
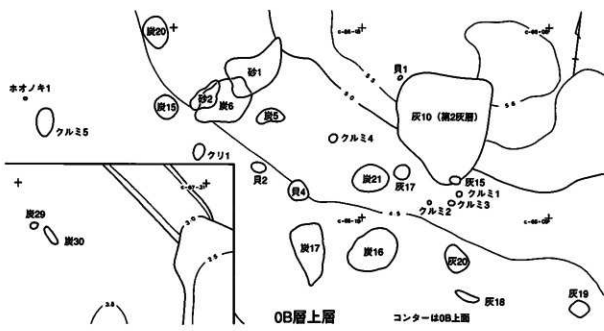
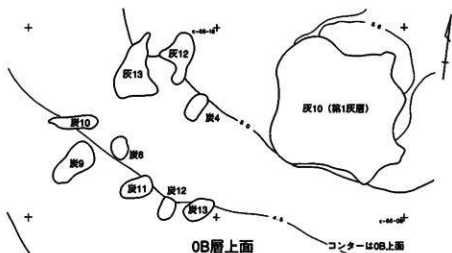
V 第0 黑色土層の調査



図V-23 双礫1・2、集石13・14と集石13の石製品

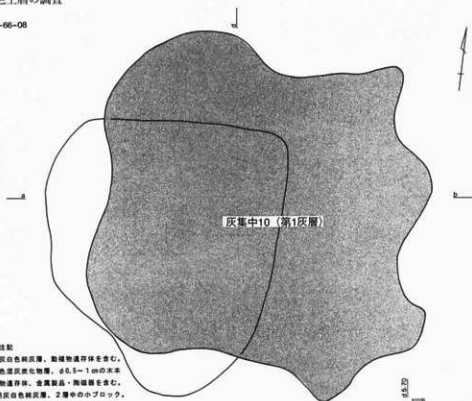
表V-13 双礫・集石一覧

遺物名	形制	部位	大きさ (cm = cm)		重量 (g)	材質	個数
双礫1	c-66-28-a	OB	12.37×8.96×2.81	12.46×9.69×4.08	512.0、728.0	片礫石、片礫石	2
双礫2	c-67-00-d	OB	12.29×6.34×3.20	10.79×9.30×1.99	466.8、168.7	ホート、礫石	2
集石4	d-66-99-d	OB					8
集石10	c-66-28-c・c-66-29-d	OB					11
集石11	d-67-81-a	OB					16
集石12	d-67-62-c	OB					6
集石13	c-67-00-b・c-67-00-c・c-67-10-a・c-67-10-b	OB					21
集石14	c-67-10-b・c-67-10-c・c-67-10-d	OB					19
集石15	c-66-19-d	OB					5
集石16	c-66-19-d	OB					31
集石17	c-66-17-b	OB断面					14
集石18	c-66-17-b	OB断面					4
集石19	c-66-18-a	OB断面					4



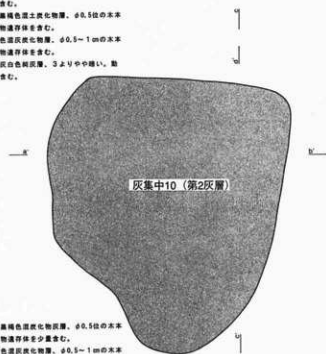
図V-24 各集中細分層別分布図

V 第0 黑色土層の調査

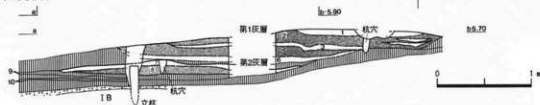
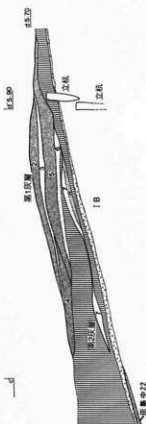


灰集中10 土層説明

- 1: 第一灰層, 明灰白色純灰層, 動物種遺存体を含む。
- 2: 第一灰層, 黒色深灰炭化物層, $\phi 0.5-1$ mの本炭化・物動物種遺存体, 金属製品・陶磁器を含む。
- 2': 第一灰層, 明灰白色純灰層, 2層中の小ブロック。
- 3: 第一灰層, 明灰白色純灰層, 1よりやや細かい, 動物種遺存体を含む。
- 4: 第一灰層, 暗黒褐色炭化物層, $\phi 0.5$ 位の本炭化・物動物種遺存体を含む。
- 5: 第一灰層, 黒色深灰炭化物層, $\phi 0.5-1$ mの本炭化・物動物種遺存体を含む。
- 6: 第一灰層, 明灰白色純灰層, 3よりやや細かい, 動物種遺存体を含む。

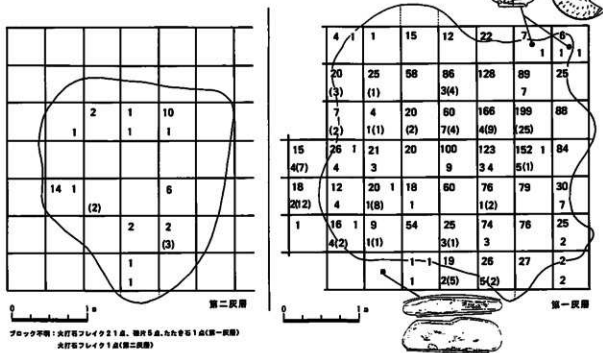


- 7: 第二灰層, 暗黒褐色炭化物層, $\phi 0.5$ 位の本炭化・物動物種遺存体を少量含む。
- 8: 第二灰層, 黒色深灰炭化物層, $\phi 0.5-1$ mの本炭化・物動物種遺存体を含む。
- 9: O日層, 着子の灰を含む。
- 10: O日層, 着子の砂を含む。

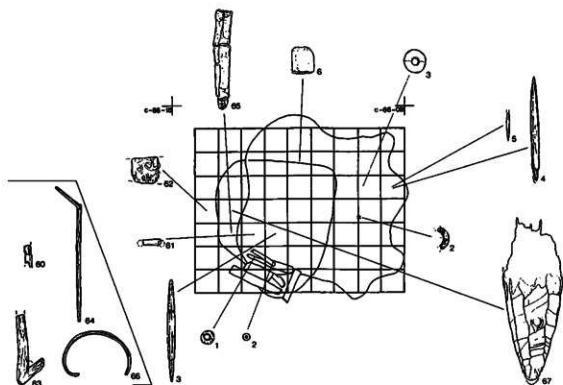


図V-25 灰集中10 (第1灰層, 第2灰層)

右上段は火打石、右下段は陶磁器
 左上段は火打石フレイク、左下段は礫(カッコは礫片)

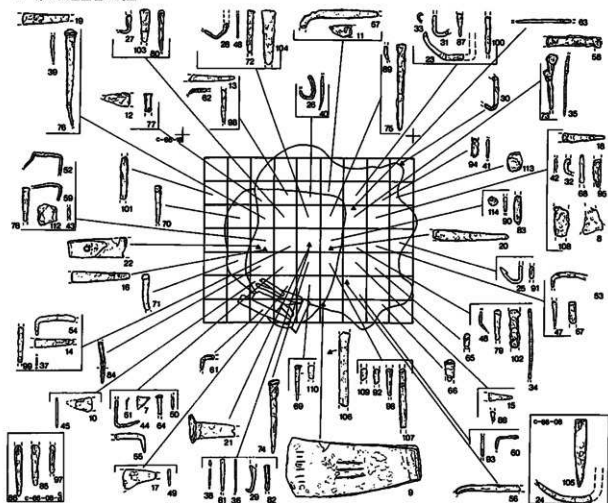


図V-26 灰集中10の陶磁器・石器・石製品分布図

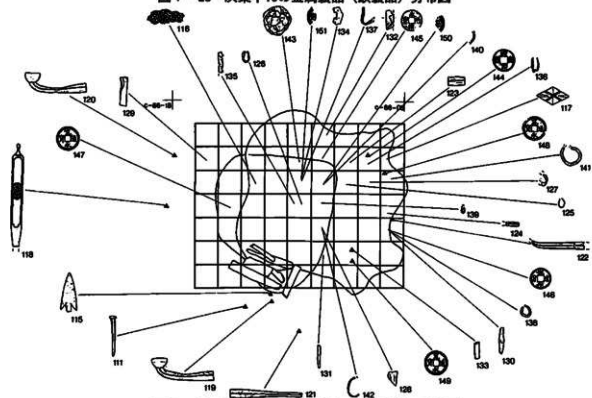


図V-27 灰集中10のガラス製品・骨角製品・木製品・樹皮製品分布図

V 第0黒色土層の調査



図V-28 灰集中10の金属製品（鉄製品）分布図



図V-29 灰集中10の金属製品（銅製品等）分布図

どが出土している。また、栽培種子8種、野生木本種子16属、野生草本種子7科、17属、貝魚類（淡水・鹹水産）、獣骨が炭化・未炭化で検出された（詳細はⅧ章-2・3節参照）。

灰集中10（第2灰層） 中心位置：c-66-08-c 平面積：9.06㎡

標高5.3m、ほぼ円台形。第1灰層調査後、0B層調査中にマウンド状の盛り上がりとして確認した。第1灰層と第2灰層は一部0B層を挟んでいるため遺構形成に時間差がある。しかしながら、同一包含層内であること、両者がほぼ重なることから、新たな遺構名を付さなかった。第1灰層よりもやや薄い純灰層と混灰炭化物層の互層によって構成されている。遺物は50cm×50cmで土壌ごとに取り上げた。採取した土壌は水洗選別とフローテーションを併用した。その結果、純灰層と混灰炭化物層の両者からは火打石、火打石フレイク、金属製品など出土している。また、栽培種子7種、野生木本種子14属、野生草本種子6科、13属、貝魚類（淡水・鹹水産）、獣骨が炭化・未炭化で検出された（詳細はⅧ章-2・3節参照）。遺物の種類・量は第1灰層に比べると少ない。

遺物の分布：第1灰層について

垂直分布については前述したように純灰層と混灰炭化物層の両層から検出されており特定の遺物が特定の層から出土するということはない。水平分布についても同じ傾向がある。

また、灰集中10の範囲外からもこの遺構に関係していたと思われる出土状況を示す遺物が出土している。これは、灰集中10の範囲が灰の濃いところを目安に線引きされたので、物送り場としては範囲が広がっているものと思われる。

伊万里染付碗は北東隅に2点出土しているが、接合破片の主体は遺構外にある（図V-43参照）。火打石、火打石フレイクと礫は北東部に集中する傾向が、ガラス製品は遺構の周縁に、鉄製品はやや中央に満遍なく、非鉄金属は東側に出土する。種子ではイネと雑穀の分布が少し異なり、食用・薬用植物は量も多く満遍なく出土する。貝魚類・獣骨は遺構の中央に多く出土する。

遺物について（図V-30～36、表V-14～21、図版24～29、カラー図版12-1）

陶磁器

3は伊万里染付碗。灰色がかかる藍色の呉須で外面は、割筆の「二重網目文」、外底面は「渦福」内面は「網目文」、内底面は「菊花」を描く。年代は17世紀末～18世紀第3四半期である。

石器・石製品

8～17は火打石。9・12・13は剥片状の薄いものを素材とする。9は縦長剥片の転用と思われる。8・10・11は礫片を使用する。10はよく使用されて稜はつぶれている。15は10よりよく使用されて稜はつぶれて丸くなっている。18は極細粒砂岩の砥石。全面に使用痕はつくがあまり使われていない。両面に敲打痕がある。（鈴木 信）

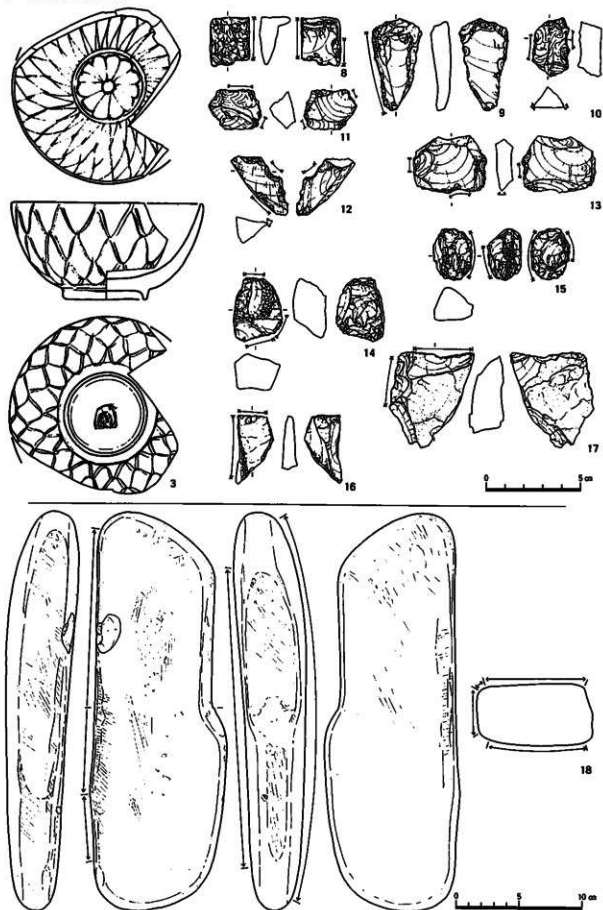
ガラス製品（図V-27・31、表V-15、図版25-1）

2点のガラス玉は、第1灰層の南西縁辺部に配置された板材の周辺から出土した。2は無色半透明のビーズで、ややつぶれた丸形である。3は4片に割れて出土した。風化して白色となった丸玉と考えられる。しかし、多孔質的箇所が見られることから骨角製の可能性もある。（田口 尚）

骨角製品（図V-27・31、表V-16、図版25-1）

1は獣骨製のやや扁平な平玉である。径5mmの孔が穿孔されている。2は半損した環状装飾品の破片である。亀甲状と思われる。表裏に三螺子蛇目紋が刻まれ、文様が一面に6個配置されていたと推測される。根付けであろうか。3・4は矢中柄（マカニッ）片であり、裏面は莖部上から先端部付近まで、浅い溝状に凹んでいる。3の先端部はわずかに破損しているが、矢（鏃）の装着のための扁平な削りがみられる。胴部断面は三角形で、莖部断面は丸形である。莖部には矢柄装入による摩擦痕が認

V 第0黒色土層の調査



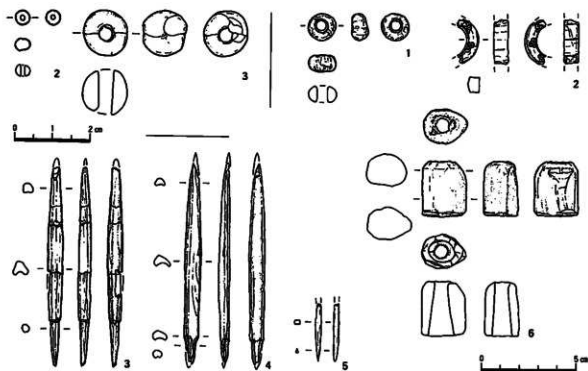
図V-30 灰集中10の陶磁器・石器・石製品

められる。4の先端部は折削がれたように欠損している。胴部断面はつぶれた三角形である。基部先端はつぶれて欠損している。3・4はともにシカ中足骨製である。5は上部を欠損した獣骨製の針(ケム)片である。中央断面は長方形である。6は魚突鉤銚台(マレ)の先端部に装着される石突部と考えられる。断面は楕円形であり、開口部径13.5mmの孔が貫通している。上部や下部周辺には刃物による削痕が残る。上部部には使用時の打撃痕及び摩耗痕が見られる。シカ角製である。銚台先端の保護用キャップであろうか。鉄製魚突鉤先端の保護との見方もある。なお、平成3年度(北埋調報83)には、石突保護具を装着していたとみられる魚突鉤銚台が出土している。劣化の著しい骨角製品にはバラロイドB72を塗布し、強化した。(田口 尚)

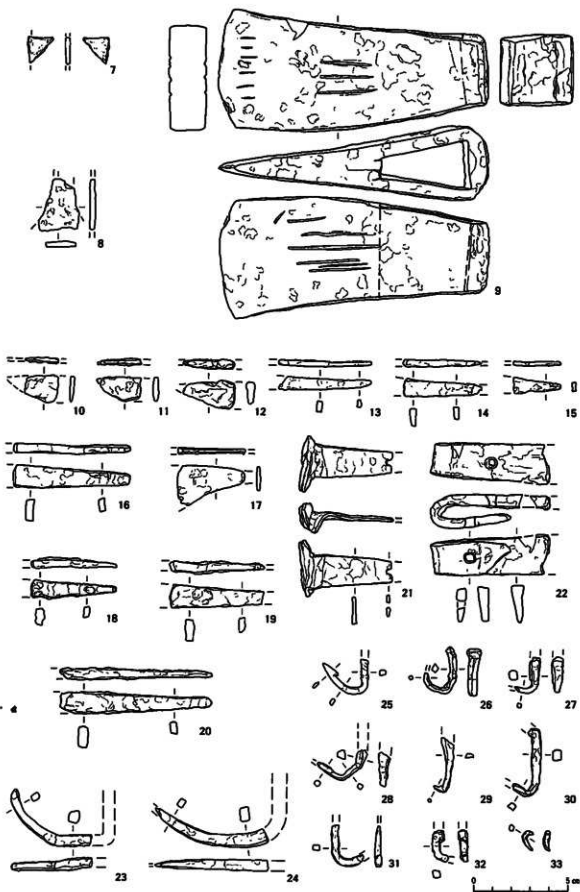
金属製品(図V-28・29・32~35、表V-17~20、図版25-2~29-1)

灰集中10から出土した金属製品の多くは、水洗選別及び浮遊選別によって検出された。平成4年度出土金属製品の60%以上が灰集中10から出土しており、遺跡全体で最も各種金属製品が密集する地点である。金属製品は灰集中10のほぼ全域に分布し、周辺にも分布が広がっている。ただし、材質によってやや異なった分布を示している。鉄製品は製品の種類を問わず灰集中の中心部に分布するものが多く、銅製品では灰域の縁辺部から出土しているものが多い。銭貨は灰域の東側に分布が偏っている。この地点において、各種生活用具とともに「物送り」(イワクテ)されたと考えられる。

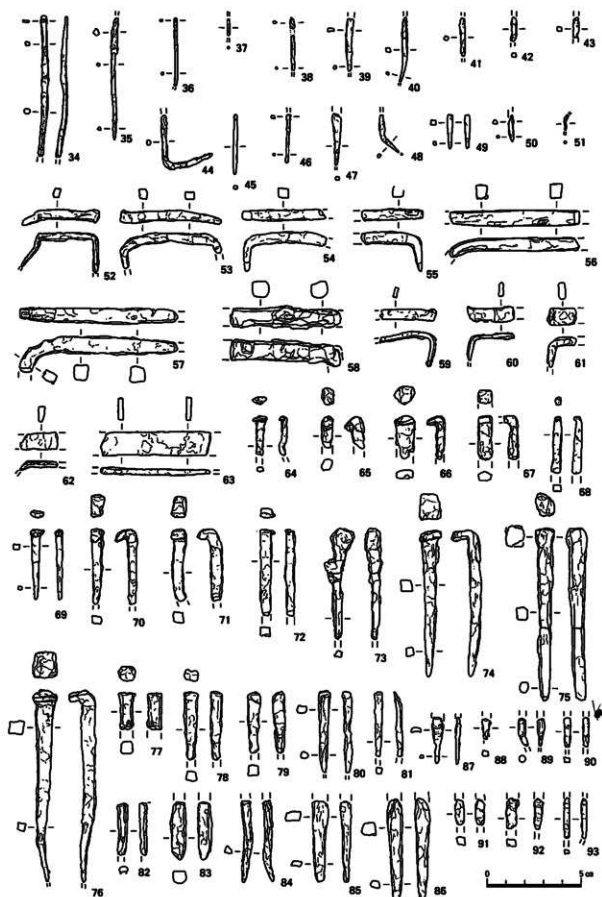
7・8は鉄製の胴部小破片である。8の縁辺は整形されており鉄鏝として使用された可能性がある。9は柄孔式の鉄斧である。刃先端部は弧状の凸形で、緩やかに幅広となる。表面の刃部側には6本の短い刻み列と3本の樋があり、裏面には6本の樋が刻まれている。柄装着孔は刃部側に向かって細い台形である。刃幅が狭く、柄孔が細長く大きいことからヨキ(与岐)である。10~21は刀子(マキリ)である。10~12は切先片である。12の切先は切出しナイフ状に細長く、棟が叩きつぶれている。イナウケマキリであろうか。13~21は莖片である。21は刃部から刃区部分が折りたたまれるようにつぶれており、目釘孔から折損している。17・21は鎌片の可能性ある。22は刀基部と考えられ、折りつぶ



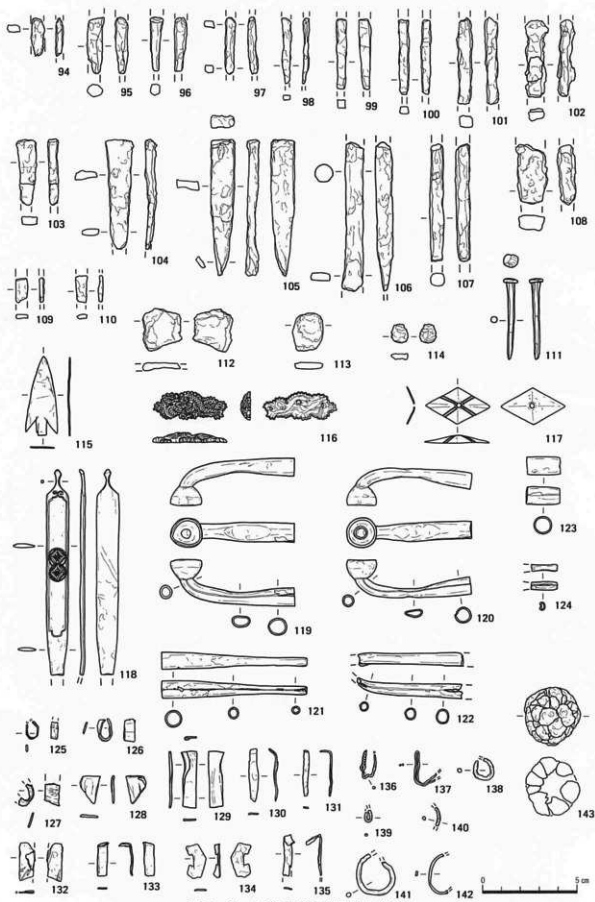
図V-31 灰集中10のガラス製品・骨角製品



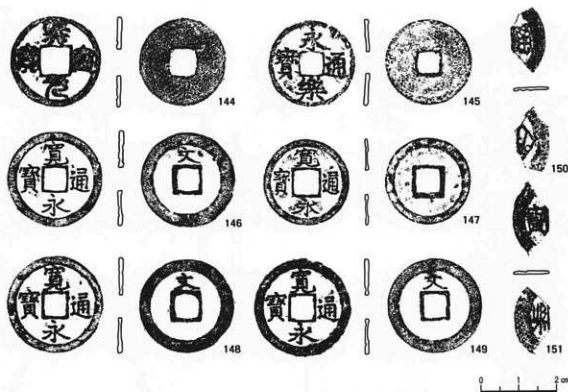
図V-32 灰集中10の金属製品(1)



図V-33 灰集中10の金属製品(2)

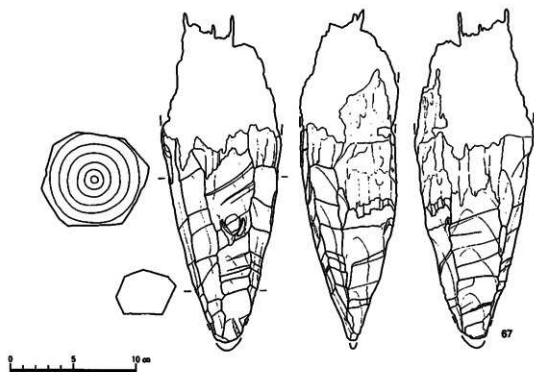
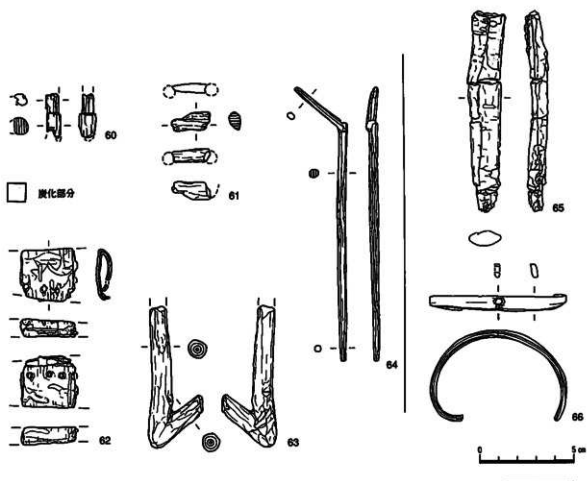


図V-34 灰集中10の金属製品(3)



図V-35 灰集中10の金属製品(4)

れている。目釘孔が2カ所ある。23・24は魚突鉤鈎(マレ)の先端部破片である。25~33は鈎針片である。25の先端には逆刺しが作出され、器厚が薄い。24~33の断面は方形であり、26・30・32の基部は糸を縛るために折り叩かれ肉厚となっている。34から51は縫針片である。39・40・44~51は先端破片である。針には34~38のような丸針と39~50のような角針がある。39の基部は扁平であり、糸孔がある。36にも径0.7mm前後の糸孔がある。52~63はカスガイである。52~58は胴部断面が角形となるものである。59~63は胴部断面が平角となる、平カスガイである。火打金の可能性もある。62・63は両脚部の折れたものである。64~102は角釘(和釘)として一括した。完形のは少ないが、頭部形態や断面形により、折釘(64~76)、角釘(75・77~80・82)、平釘(103~105)に分けられる。折釘の折部は胴部よりも肉薄の平折釘となるものが多い。106は丸棒の先端をつぶしたタガネ状のものである。107は角棒状の鉄片、108は平角状の鉄片、109・110は小さく平らな鉄板片である。111~114は腐食が著しく鉄片としたが、鉄銅片の可能性もある。115は薄い銅製の矢(鐵)である。返しが付き、有茎である。116・118は三所物と呼ばれる刀装具のうちのふたつである。116は細密な龍文様の目貫、118は表面に七宝紋が彫金された斧片である。117は行器(シントコ)脚に付けられた四つ菱紋の飾金具である。119~120・122はキセル雁首である。119・120は脂返しが大きく湾曲する河骨形で、灰落しのための背面のつぶれが顕著である。119の火皿上面観は三角形である。2点とも補強帯が見られないことから、古泉分類の雁首第Ⅱ類Bに相当する。122は火皿部を欠損している。121・123・124はキセル吸口である。121は肩を持たない、古泉分類の吸口第Ⅱ類Bに相当する。123は吸口側の胴金(肩)と考えられ、古泉分類の吸口第Ⅰ類Bの一部であろうか。124は吸口末端部の破片である。125~127は環状の銅板片である。128~133・135は銅板片であり、130・131・133・135の上部は屈曲し細長い。小刀等の縁金具であろうか。134は多角形で抉りがある飾金具である。136は二本の細い針



図V-36 灰集中10の木製品・樹皮製品

表V-14 灰集中10・集石13 掲載陶磁器・石器・石製品

図番号	遺物名称	主な発掘区	遺構名	層名	備考
3	染付碗	c-66-08-a, d-66-09-d	灰集中10	第一灰層	伊万里 復元口径10.2cm 器高5.1cm 10点接合
7	磁石	c-67-00-c-d	集石13	0B層	砂岩 長さ16.78cm、幅7.00cm、厚さ3.80cm、601g
8	火打ち石	c-66-08-c	灰集中10	第一灰層	チャート 長さ2.51cm、幅2.13cm、厚さ1.55cm、9.8g
9	火打ち石	c-66-08-d	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩 長さ4.76cm、幅2.66cm、厚さ1.43cm、14.9g
10	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	チャート 長さ3.05cm、幅1.96cm、厚さ1.25cm、8.2g
11	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	チャート 長さ2.79cm、幅2.20cm、厚さ1.36cm、7.9g
12	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩 長さ4.07cm、幅1.52cm、厚さ1.28cm、6.7g
13	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	メノウ 長さ3.69cm、幅2.86cm、厚さ1.18cm、17.3g
14	火打ち石	c-66-08-d	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩 長さ3.55cm、幅2.60cm、厚さ2.24cm、19.9g
15	火打ち石	c-66-08-d	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩 長さ2.77cm、幅2.05cm、厚さ1.91cm、12.7g
16	火打ち石	c-66-08-c	灰集中10	第二灰層	珪質頁岩 長さ3.62cm、幅1.83cm、厚さ0.89cm、5.3g
17	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第二灰層	珪質頁岩 長さ5.80cm、幅3.84cm、厚さ1.60cm、38.9g
18	磁石	c-66-08-c	灰集中10	第一灰層	砂岩 長さ31.6cm、幅10.9cm、厚さ5.80cm、3050g

表V-15 灰集中10 掲載ガラス製品

図番号	図原番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個数	破損	備考
2	25	ガラス玉	c-66-08-c	7189	灰集中10-41	0.40 0.40 0.32	0.1	1	1	藍色半透明、ベース玉。材質分析中。
3	25	ガラス玉	c-66-08-a	7702	灰集中10-10	1.22 1.22 1.23	1.2	1	4	風化、点接合、白色、丸玉。材質分析中。

表V-16 灰集中10 掲載骨角製品

図番号	図原番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個数	破損	備考	
1	25	骨平玉	c-66-08-c	3238	灰集中10-48	1.50 1.50 0.90	1.5	獣骨	1	1		
2	25	鹿角製飾品片	c-66-08-a	61	灰集中10-11	(2.30) (0.60) 0.80 (1.0)	0.80	鹿角?	1	1	三線子能目文。	
3	25	矢中柄片	c-66-08-c	2164	灰集中10-40	(10.60) 0.78 0.67 (3.7)	シカ	1	5		5点接合、中定骨。	
4	25	矢中柄片	c-66-08-d	3236		(10.75) 0.62 0.55 (2.6)	シカ	1	1		中定骨。	
5	25	骨針片	c-66-08-a	3237	灰集中10-3	(3.06) 0.28 0.32 (0.2)	獣骨	1	1			
6	25	魚突胸銘石突部	c-66-08-a	1949	灰集中10-30	2.90 2.34 1.85	10.1	シカ	1	1		瓶内。石突保護キマツ。

表V-17 灰集中10 掲載金属製品(1)

図原番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個数	破損	備考	保存処理
7	鉄線片	胴部	c-66-08-c	197	灰集中10-40	(2.10) (2.10) 0.30 (3.4)	鉄	1	1		[ス]	NA10
8	鉄線片?		c-66-08-a	126	灰集中10-10	(2.77) (2.20) 0.32 (2.1)	鉄	1	1			NA10
9	鉄片(葉)	柄孔区	c-66-08-b	14	灰集中10-28	14.35 6.41 3.95	681.0	鉄	1	1	金属材質調査。	NA10
10	刀子片	切先	c-66-08-c	213	灰集中10-48	(1.80) 1.48 0.28 (1.4)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
11	刀子片	切先	c-66-08-a	156	灰集中10-23	(2.18) 1.29 0.41 (1.8)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
12	刀子片	切先	c-66-08-d	202	灰集中10-44	(2.77) 1.50 0.50 (2.7)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
13	刀子片	茎	c-66-08-d	188	灰集中10-37	(4.93) 0.67 0.33 (2.5)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
14	刀子片	茎	c-66-08-d	196	灰集中10-39	(4.18) 0.97 0.40 (2.7)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
15	刀子片	茎	c-66-08-b	132	灰集中10-19	(2.52) 0.85 0.34 (1.0)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
16	刀子片	茎	c-66-08-d	157	灰集中10-46	(6.20) 1.18 0.50 (11.2)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
17	刀子片	茎-区	c-66-08-c	201	灰集中10-41	(3.63) (2.12) 0.34 (2.0)	鉄	1	2		2点接合。[マキリ]	NA10
18	刀子片	茎	c-66-08-a	127	灰集中10-10	(4.57) 0.84 0.34 (4.2)	鉄	1	2		2点接合。[マキリ]	NA10
19	刀子片	茎	c-66-08-d	204	灰集中10-45	(5.04) 1.22 0.62 (7.9)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
20	刀子片	茎	c-66-08-a	15	灰集中10-25	(8.10) 1.18 0.61 (10.8)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
21	刀子片	茎-区	c-66-08-a	16	灰集中10-32	(4.98) 2.96 1.57 (8.7)	鉄	1	1		磨研され曲がる。	NA10
22	刀子片	刃	c-66-08-d	32	灰集中10-46	(6.36) 2.12 1.82 (28.3)	鉄	1	1		目録あり。金属材質調査。	NA10
23	魚突胸銘片	先端	c-66-08-a	141	灰集中10-16	(4.32) 3.10 0.50 (2.8)	鉄	1	2		2点接合。[マキリ]	NA10
24	魚突胸銘片	先端	c-66-08	97	灰集中10	(5.04) 2.13 0.61 (8.7)	鉄	1	1		[マキリ]	NA10
25	釣針片		c-66-08-a	119	灰集中10-4	(1.88) 1.44 0.31 (6.6)	鉄	1	2		2点のみ実測。	NA10
26	釣針片		c-66-08-a	171	灰集中10-30	2.40 1.74 0.80 (1.5)	鉄	1	1			NA10
27	釣針片		c-66-08-d	192	灰集中10-38	(1.91) (1.36) 0.60 (1.0)	鉄	1	1			NA10
28	釣針片		c-66-08-a	175	灰集中10-31	2.50 (1.57) 0.56 (6.8)	鉄	1	1			NA10

V 第0黒色土層の調査

表V-18 灰炭中10 掲載金属製品(2)

順 番 号	品 名	種 別	分 類	取 出 部 位	負 荷 区	通 物 番 号	通 物 名	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材 質	備 考	検 査 番 号
28	的射片		c-65-08-a	182			灰炭中18-32	(2.88) 1.06 0.33	(0.7)	鉄	1	ND10
30	的射片		c-65-08-a	8			灰炭中18-1	(3.60) (1.49) 0.57	(0.2)	鉄	1	ND10
31	的射片		c-65-08-a	142			灰炭中18-16	(2.20) (1.72) 0.36	(0.8)	鉄	1	ND10
32	的射片		c-65-08-a	130			灰炭中18-10	(1.70) 0.86 0.53	(0.8)	鉄	1	ND10
33	的射片		c-65-08-a	144			灰炭中18-16	(1.07) 0.60 0.36	(0.2)	鉄	1	ND10
34	的射片		c-65-08-a	150			灰炭中18-18	(7.43) 0.41 0.35	(1.3)	鉄	1	ケ、ND10
35	的射片		c-65-08-a	147			灰炭中18-17	(6.48) 0.40 0.38	(1.0)	鉄	1	ケ、ND10
36	的射片		c-65-08-a	181			灰炭中18-32	(3.55) 0.15 0.15	(0.2)	鉄	1	ケ、ND10
37	的射片		c-65-08-d	222			灰炭中18-39	(0.87) 0.12 0.12	(0.0)	鉄	1	引と同一個体の可能性あり。ケ、ND10
38	的射片		c-65-08-a	233			灰炭中18-32	(2.80) 0.25 0.15	(0.2)	鉄	1	6 個片数6点の内3点別開採。ケ、ND10
39	的射片		c-65-08-d	265			灰炭中18-45	(2.76) 0.38 0.21	(0.4)	鉄	1	ケ、ND10
40	的射片		c-65-08-a	172			灰炭中18-30	(3.40) 0.32 0.27	(0.4)	鉄	1	ケ、ND10
41	的射片		c-65-08-a	134			灰炭中18-9	(2.00) 0.30 0.28	(0.2)	鉄	1	ケ、ND10
42	的射片		c-65-08-a	132			灰炭中18-10	(1.18) 0.28 0.24	(0.2)	鉄	1	ケ、ND10
43	的射片		c-65-08-d	212			灰炭中18-46	(1.06) 0.30 0.26	(0.2)	鉄	1	ケ、ND10
44	的射片		c-65-08-c	199			灰炭中18-40	(2.50) 2.69 0.38	(0.8)	鉄	1	ケ、ND10
45	的射片		c-65-08-c	214			灰炭中18-48	(3.17) 0.21 0.20	(0.3)	鉄	1	ケ、ND10
46	的射片		c-65-08-a	221			灰炭中18-31	(2.53) 0.25 0.18	(0.1)	鉄	1	ケ、ND10
47	的射片		c-65-08-a	136			灰炭中18-11	(2.74) 0.50 0.30	(0.5)	鉄	1	ケ、ND10
48	的射片		c-65-08-a	151			灰炭中18-18	(2.02) (1.05) 0.18	(0.2)	鉄	1	ケ、ND10
49	的射片		c-65-08-c	200			灰炭中18-41	(1.82) 0.30 0.30	(0.4)	鉄	1	ケ、ND10
50	的射片		c-65-08-c	220			灰炭中18-40	(1.36) 0.28 0.22	(0.1)	鉄	1	ケ、ND10
51	的射片		c-65-08-c	229			灰炭中18-40	(0.75) 0.30 0.30	(0.0)	鉄	1	27と同一個体の可能性あり。ケ、ND10
52	カスガイ片		c-65-08-d	208			灰炭中18-48	4.10 0.85 (2.14)	(3.1)	鉄	1	ND10
53	カスガイ片		c-65-08-a	134			灰炭中18-11	5.40 0.57 (1.90)	(6.0)	鉄	1	ND10
54	カスガイ片		c-65-08-d	194			灰炭中18-39	(4.42) 0.58 2.07	(5.6)	鉄	1	2点接合。ND10
55	カスガイ片		c-65-08-c	198			灰炭中18-40	(3.24) 0.58 2.10	(2.0)	鉄	1	ND10
56	カスガイ片		c-65-08-b	50			灰炭中18-20	(6.90) 0.84 1.05	(9.9)	鉄	1	ND10
57	カスガイ片		c-65-08-a	91			灰炭中18-23	(8.40) 0.85 (1.43)	(20.6)	鉄	1	1 魚突跡の可能性あり。全項材質調査。ND10
58	カスガイ片		c-65-08-a	145			灰炭中18-17	(5.90) 1.11 (1.40)	(16.8)	鉄	1	ND10
59	平カスガイ片		c-65-08-d	209			灰炭中18-48	(3.03) 0.55 1.85	(1.5)	鉄	1	ND10
60	平カスガイ片		c-65-08-b	154			灰炭中18-20	(2.52) 0.80 1.44	(1.4)	鉄	1	ND10
61	平カスガイ片		c-65-08-c	225			灰炭中18-49	(1.55) 0.90 0.45	(2.2)	鉄	1	4 ND10
62	平カスガイ片		c-65-08-d	190			灰炭中18-37	(1.96) 0.90 0.50	(0.9)	鉄	1	ND10
63	平カスガイ片		c-65-08-a	29			灰炭中18-17	(5.82) 1.30 0.30	(5.8)	鉄	1	ND10
64	角射片		c-65-08-c	198			灰炭中18-40	(2.09) 0.75 0.40	(0.4)	鉄	1	ND10
65	角射片		c-65-08-b	137			灰炭中18-12	(1.69) 0.63 1.05	(1.4)	鉄	1	ND10
66	角射片		c-65-08-b	138			灰炭中18-14	(2.30) 1.11 0.98	(1.6)	鉄	1	ND10
67	角射片		c-65-08-a	135			灰炭中18-11	(2.36) 0.78 (0.78)	(1.8)	鉄	1	ND10
68	角射片		c-65-08-a	128			灰炭中18-10	(3.03) 0.50 0.49	(1.6)	鉄	1	ND10
69	角射片		c-65-08-b	186			灰炭中18-34	3.70 0.70 0.41	1.2	鉄	1	ND10
70	角射片		c-65-08-d	215			灰炭中18-52	(4.00) 0.72 1.20	(2.4)	鉄	1	ND10
71	角射片		c-65-08-c	216			灰炭中18-54	(3.82) 0.78 1.30	(3.3)	鉄	1	ND10
72	角射片		c-65-08-a	174			灰炭中18-31	(4.58) 0.82 0.49	(4.5)	鉄	1	ND10
73	角射片		c-65-08-a	146			灰炭中18-17	(5.89) 1.27 0.89	(6.8)	鉄	1	ND10
74	角射片		c-65-08-b	185			灰炭中18-33	5.72 1.18 1.60	6.2	鉄	1	ND10
75	角射片		c-65-08-a	224			灰炭中18-24	9.10 1.00 1.13	19.0	鉄	1	13 ND10
76	角射片		c-65-08-d	96			灰炭中18-45	(10.16) 1.32 1.48	(16.9)	鉄	1	ND10
77	角射片		c-65-08-d	203			灰炭中18-44	(1.95) 0.90 0.77	(4.9)	鉄	1	ND10
78	角射片		c-65-08-d	210			灰炭中18-46	(3.63) 0.76 0.60	(4.6)	鉄	1	ND10
79	角射片		c-65-08-a	149			灰炭中18-18	(3.24) 0.70 0.67	(1.6)	鉄	1	ND10
80	角射片		c-65-08-d	183			灰炭中18-38	(4.36) 0.66 0.49	(1.9)	鉄	1	ND10
81	角射片		c-65-08-a	179			灰炭中18-32	(3.44) 0.43 0.34	(0.7)	鉄	1	ND10
82	角射片		c-65-08-a	180			灰炭中18-32	(2.78) 0.58 (0.42)	(1.2)	鉄	1	ND10
83	角射片		c-65-08-a	161			灰炭中18-25	(3.08) 0.84 0.78	(4.0)	鉄	1	ND10
84	角射片		c-65-08-c	212			灰炭中18-47	(4.33) 0.53 0.48	(2.0)	鉄	1	ND10
85	角射片		c-65-08-c c-65-08-d	227			灰炭中18	(4.30) 0.86 0.58	(4.6)	鉄	1	ND10
86	角射片		c-65-08-c c-65-08-d	228			灰炭中18	(5.46) 0.81 0.80	(3.9)	鉄	1	ND10

表V-19 灰集中10 掲載金属製品(3)

品目 番号	分類 番号	遺物名称	分類-部位	発掘区	遺物 番号	遺物名	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質	形状	備考	保存 状態
87	-	内削片	c-66-08-a	143	灰集中10-16	(2.50)	0.65 0.32 (0.4)	鉄	1	1		ND10
88	-	内削片	c-66-08-b	153	灰集中10-19	(1.09)	0.50 0.30 (0.2)	鉄	1	1	射?	ND10
89	-	内削片	c-66-08-a	158	灰集中10-24	(1.45)	0.51 0.41 (0.4)	鉄	1	1		ND10
90	27	内削片	c-66-08-a	162	灰集中10-25	(1.55)	0.36 0.35 (0.2)	鉄	1	1	射?	ND10
91	-	内削片	c-66-08-a	231	灰集中10-4	(1.35)	0.48 0.50 (0.5)	鉄	1	1		ND10
92	-	内削片	c-66-08-b	167	灰集中10-26	(1.64)	0.67 0.58 (0.8)	鉄	1	1		ND10
93	-	内削片	c-66-08-b	155	灰集中10-20	(2.13)	0.31 0.32 (0.3)	鉄	1	1	射?	ND10
94	-	内削片	c-66-08-a	125	灰集中10-9	(2.03)	0.74 0.40 (0.4)	鉄	1	1		ND10
95	-	内削片	c-66-08-a	129	灰集中10-10	(2.96)	0.83 0.70 (2.3)	鉄	1	1		ND10
96	27	内削片	c-66-08-b	166	灰集中10-26	(2.83)	0.70 0.69 (3.5)	鉄	1	1		ND10
97	-	内削片	c-66-08-c c-66-08-d	228	灰集中10-10	(3.01)	0.55 0.46 (1.2)	鉄	1	1		ND10
98	27	内削片	c-66-08-d	189	灰集中10-37	(3.47)	0.51 0.35 (0.8)	鉄	1	1		ND10
99	27	内削片	c-66-08-d	195	灰集中10-39	(3.70)	0.60 0.60 (5.0)	鉄	1	1		ND10
100	27	内削片	c-66-08-a	140	灰集中10-16	(3.95)	0.55 0.51 (1.8)	鉄	1	1		ND10
101	27	内削片	c-66-08-d	94	灰集中10-58	(4.58)	0.88 0.74 (6.7)	鉄	1	1		ND10
102	-	内削片	c-66-08-a	148	灰集中10-18	(4.07)	1.26 0.98 (5.1)	鉄	1	1		ND10
103	27	内削片	c-66-08-d	191	灰集中10-38	(3.50)	1.07 0.57 (2.9)	鉄	1	2	2点融合。	ND10
104	28	内削片	c-66-08-a	173	灰集中10-31	(5.77)	1.51 0.53 (7.8)	鉄	1	1		ND10
105	28	内削片	c-66-08	219	灰集中10	7.20	1.28 0.65 10.4	鉄	1	1		ND10
106	28	クガネ片?	c-66-08-b	30	灰集中10	(7.87)	1.14 0.91 (15.1)	鉄	1	1	ノミ?	ND10
107	28	内輪状削片	c-66-08-b	165	灰集中10-26	(6.22)	0.76 0.78 (14.8)	鉄	1	1		ND10
108	-	平角状削片	c-66-08-a	131	灰集中10-10	(3.17)	1.70 0.95 (6.5)	鉄	1	1		ND10
109	-	小平角削片	c-66-08-b	168	灰集中10-26	(1.30)	0.65 0.26 (0.3)	鉄	1	1		ND10
110	-	小平角削片	c-66-08-b	187	灰集中10-34	(1.40)	0.64 0.27 (0.6)	鉄	1	1		ND10
111	28	削片	c-66-08-c	22	灰集中10	4.30	0.76 0.70 3.8	鋼	1	1		○?射?
112	-	削片	c-66-08-d	207	灰集中10-46	2.27	(2.10) 0.53 (4.7)	鉄	1	1		削片?
113	-	削片	c-66-08-a	116	灰集中10-2	2.61	1.63 0.35 1.5	鉄	1	1		ND10
114	-	削片	c-66-08-a	163	灰集中10-25	1.00	0.90 0.42 0.4	鉄	1	1		ND10
115	28	鋼線	c-66-08-c	24	灰集中10	4.16	1.70 0.03 1.2	鋼	1	1		○?射?
116	28	鋳金具	付具	206	灰集中10-45	3.89	1.49 0.52 3.5	銅合金	1	1		遺文簿。
117	28	鋳金具	付具	115	灰集中10-2	3.30	1.91 0.40 1.0	鋼	1	1		遺文簿。
118	28	洋片	c-66-08-d	18	灰集中10	10.94	1.16 0.22 14.9	鋼	1	1		遺文簿。
119	28	クガネ	覆石	23	灰集中10	6.60	2.50 1.50 9.8	真鍮	1	1		○?射?
120	28	クガネ	覆石	19	灰集中10	6.65	2.00 1.60 6.6	真鍮	1	1		○?射?
121	28	クガネ	覆石	31	灰集中10	7.70	0.91 0.91 4.8	鋼	1	1		○?射?
122	28	クガネ片	覆石	11	灰集中10-4	(5.60)	0.79 0.72 (2.3)	鋼	1	1		○?射?
123	28	クガネ	銅金	139	灰集中10-16	1.80	0.95 0.98 1.8	鋼	1	1		○?射?
124	28	クガネ片	覆石	217	灰集中10-4	(1.60)	0.44 0.37 (0.6)	真鍮	1	1		○?射?
125	28	環状銅板片	c-66-08-a	237	灰集中10-17	(0.90)	0.30 0.05 (0.1)	鋼	1	1		○?射?
126	28	環状銅板	c-66-08-a	184	灰集中10-32	1.20	0.72 0.61 0.4	鋼	1	1		○?射?
127	28	環状銅板片	c-66-08-a	236	灰集中10-10	(1.05)	0.80 0.05 (0.3)	鋼	1	1		○?射?
128	28	銅板	c-66-08-b	164	灰集中10-26	1.49	1.07 0.12 0.7	鋼	1	1		○?射?
129	28	銅板	c-66-08-d	95	灰集中10-58	3.03	0.82 0.16 1.4	鋼	1	1		○?射?
130	28	銅板	c-66-08-b	122	灰集中10-5	2.80	0.52 0.45 0.5	鋼	1	1		○?射?
131	28	銅板	c-66-08-b	170	灰集中10-27	2.42	0.30 0.61 0.2	鋼	1	1		○?射?
132	28	銅板片	c-66-08-a	225	灰集中10-22	(2.02)	(0.80) 0.13 (0.7)	鋼	1	1		○?射?
133	28	銅板	c-66-08-b	13	灰集中10-20	1.80	0.54 0.73 0.5	鋼	1	1		○?射?
134	28	鋳金具	c-66-08-a	177	灰集中10-31	1.77	1.06 0.35 0.5	鋼	1	1		○?射?
135	28	銅板片	c-66-08-a	183	灰集中10-32	(2.20)	0.63 0.80 (0.2)	鋼	1	1		○?射?
136	28	銅板片	c-66-08-a	123	灰集中10-9	(1.49)	0.82 0.20 (0.2)	鋼	1	1		耳飾り[ニソカリ?]
137	28	銅板片	c-66-08-a	178	灰集中10-31	1.87	(1.21) 0.09 (0.2)	鋼	1	1		耳飾り[ニソカリ?]
138	28	環状銅製品片	c-66-08-b	121	灰集中10-5	(1.14)	1.09 0.97 (0.3)	銅	1	1		耳飾り[ニソカリ?]。金属材料調査。
139	28	環状銅製品片	c-66-08-a	160	灰集中10-25	(0.63)	0.41 0.16 (0.1)	銅	1	1		耳飾り[ニソカリ?]。金属材料調査。
140	28	環状銅製品片	c-66-08-a	159	灰集中10-24	(1.00)	0.27 0.17 (0.1)	銅	1	1		耳飾り[ニソカリ?]。金属材料調査。
141	28	環状銅製品片	c-66-08-a	117	灰集中10-3	(2.15)	2.05 0.22 (1.6)	銅	1	1		耳飾り[ニソカリ?]。金属材料調査。
142	28	環状銅製品片	c-66-08-b	169	灰集中10-26	(2.10)	(0.99) 0.24 (0.4)	銅	1	1		耳飾り[ニソカリ?]。
143	28	環状銅製品片	c-66-08-a	229	灰集中10-30	3.10	3.00 3.13 (43.1)	銅?	1	1		17点融合。金属材料調査。
144	28	銅甲文字	c-66-08-a	10	灰集中10-9	2.38	2.38 0.11 2.8	鋼	1	1		北京 1068年加納。

表 V-20 灰箱中10 掲載金属製品 (4)

製品 番号	製品名称	分類・部位	製造 番号	製造 年	規格名	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質	備考	発行 年度
145	水電器具	<-66-09-a	92	1968	灰箱中10-23	2.28 (2.29) 0.12 (2.0)	2.9	鋼	1) 不明 1968年製造。	1971年
146	電水器具	<-66-09-b	96	1968	灰箱中10-5	2.53 (2.53) 0.12 (3.6)	3.6	鋼	1) 製造年 1668~1683年製造。	1971年
147	電水器具	<-66-09-d	93	1968	灰箱中10-53	2.29 (2.30) 0.08 (1.8)	1.8	鋼	1) 製造年 1688~1693年製造。	1971年
148	電水器具	<-66-09-a	9	1968	灰箱中10-3	2.52 (2.53) 0.12 (3.6)	3.6	鋼	1) 製造年 1688~1693年製造。	1971年
149	電水器具	<-66-09-b	12	1968	灰箱中10-20	2.53 (2.53) 0.11 (2.9)	2.9	鋼	1) 製造年 1668~1683年製造。	1971年
150	古銭片	<-66-09-a	157	1968	灰箱中10-24	1.23 (0.93)	0.08 (0.5)	鋼	1) 不明 晋文王。	1971年
151	古銭片	<-66-09-a	176	1968	灰箱中10-31	(1.80) (0.97)	0.10 (0.5)	鋼	1) 不明 晋文王。	1971年

表 V-21 灰箱中10 掲載木製品・樹皮製品

製品 番号	製品名称	製造年	製造 番号	製造 年	種類	寸法 長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備考	発行 年度
50	矢羽片	<-66-09	15495	1968	灰箱中10	0.70 (1.10)	1.30 (0.9)	1) 本在産物により製造。全面酸化。片割出し状態の品。	1971年
51	ヒキリ羽片	<-66-09-c	15132	1968	灰箱中10-47	0.70 (1.40)	1.00 (2.1)	1) ヒキリウツシ+所あり。	1971年
52	小刀製造用羽片	<-66-09-d	15134	1968	灰箱中10-40	0.70 (4.20)	1.40 (8.0)	1) 黒羽付。	1971年
53	脚柱木羽片	<-66-09-a	15495	1968	灰箱中10	0.70 (11.20)	4.40 (25.0)	1) 1)	1971年
54	河口漕	<-66-09-a	15493	1968	灰箱中10	0.70 (21.80)	0.70 (7.1)	1) 上記所収品から。	1971年
55	脚柱製造巻	<-66-09-c	15145	1968	灰箱中10-54	0.90 (10.60)	0.90 (10.4)	1) 脚柱製造。	1971年
56	脚柱製造巻	<-66-09-a	15494	1968	灰箱中10	0.70 (7.20)	4.80 (2.2)	1) 脚柱式。	1971年
57	紙羽片	<-66-09-d	231	1968	灰箱中10-53	0.90 (25.00)	7.90 (147.0)	1) 1)	1971年

金を擦ったものであり、ガラス玉等を吊り下げた、耳飾り（ニンカリ）の破片である。137は2本の細い針金を折り曲げたものである。138~141は断面の丸い針金を環状にしたものである。142は極細い銅板を環状にしたものである。耳飾り（ニンカリ）の破片であろうか。143は球状の鉱物塊である。144~151は銭貨（古銭）である。144は熙寧元宝（北宋 1068年初鑄）、145は永樂通宝（明1408年初鑄）、146~149は寛永通宝であり、いわゆる新寛永（1668~1683年鑄造）である。150は1/4破片で表に「通」、裏に不明の背文字がある。151は1/4破片で表に「寶」、裏に不明の背文字がある。針破片が多く出土していることから、銭貨は針刺し（チレボ）の鏝の可能性もある。（田口 尚）

木製品・樹皮製品（図V-27・36、表V-21、図版29-2）

灰集中10の標高は、木製品等の残存率の高い標高5.5m（木製品検出はこれ以下）を超えているために良好な木製品等が検出されていない。祭壇あるいは供物台を思わせるような板材や樹皮製物が灰分布の南西から出土したが、脆弱なために取り上げ時に砕片となってしまったらしい。試料が脆弱なため、樹種同定も難しかった。

60は水洗選別によって得られた炭化した矢筈片である。弦を掛ける部分が「U」字状に挟られている。矢柄側がひとまわり細く加工されており、径が10mm前後ある。炭化により収縮していると思われるが、太めの矢筈であったと考えられる。材質はカエデ属の可能性が高い。61は木製発火具のヒキリ板片である。ヒキリ棒を挿入し、摩擦により炭化したヒキリウスが2ヶ所確認できる。材質は針葉樹のヒノキ科である。62は小刀（マキリ）樹皮製鞘の破片である。二つ折りした2枚のシラカバ樹皮を重ね、片側を紐で縫い合わせたものである。表面に曲線文様が線刻されている。63は鈎状丸木材片である。枝別れした二股丸木材の交差部を面取り加工している。上部は欠損し、樹皮が残存している。炭化は見られないが、鈎鈎も知れない。64は両口箸の折れ曲がったものである。65はシラカバ樹皮を筒状に巻いたものである。上部が炭化しており、燈火用棒皮（チノイェッタ）として使用されたものであろう。66は結束固定に使用された細帯状樹皮である。中央に釘を打ち込んだ孔がある。サクラ樹皮製である。67は上部が腐朽した丸木杭の先である。7面が丹念に削りだし、鋭角な尖端としている。（田口 尚）

灰集中12：標高5.2m、南北に長い不整形。灰集中13の脇にある。掘り込みはなかった。アサ、クリ、スモモ、キハダ、ヤマブドウなど食用の木本は出土しているが、草本はタデ属が1点出土しているのみである。魚骨・獣骨は出土していない。

灰集中13：標高4.9m、南北に長い不整形。灰集中12の脇にある。掘り込みはなかった。樹皮製品が出土している（図V-42-68）。ヒエ、アサ、オニグルミ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しているが、草本はタデ科、アカザ科、イネ科が少量出土しているのみである。ウニ綱？、魚類、哺乳類が少量出土している。

灰集中14：標高4.6m、南北に長い不整形。炭化物集中14の上位、貝集中3の下位にある。掘り込みはなかった。木製品が出土している（図V-42-69）。イネ（有浮果がある）、ヒエ、アワ、アサ、アズキ、オニグルミ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、エゾニワトコ、キイチゴ属などが出土している。カワシンジュガイ、ホタテガイ、エゾワスレガイ、ニシン科、サケ科、コイ科、イトヨ、キジ？、哺乳類が出土している。栽培種子・魚類が豊富なことが特徴である。

灰集中15：標高4.6m、東西に長い楕円形。灰集中10（第2灰層）の上位にある。掘り込みはなかった。オニグルミ、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属などが出土している。

灰集中16：標高4.4m、北西-南東に長い楕円形。掘り込みはなかった。銅製留金が出土している（図V-42-152）。イネ、ヒエ、アサ、シソ、オニグルミ、クリ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、

キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属、ヤブマメなどが出土している。サケ科、コイ科、哺乳類が出土している。

灰集中17：標高4.5m、ほぼ円形。炭化物集中21の脇にある。掘り込みはなかった。鉄片が出土している（図V-42-153）。アサ、オニグルミ、クリ、コナラ亜属、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属、ゲンノショウコなどが出土している。サケ科、コイ科の魚類のみが出土している。

灰集中18：標高4.3m、東西に長い不整形。灰集中20の近くにある。掘り込みはなかった。アサ、ハマナス、キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属などが出土している。大型の種子は出土していない。サケ科が出土している。

灰集中19：標高4.4m、ほぼ円形。近くに集中はない。掘り込みはなかった。

灰集中20：標高4.4m、北西-南東に長い楕円形。掘り込みはなかった。キビ、ヒエ、アサ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、エゾニワトコ、キイチゴ属、ゲンノショウコなどが出土している。貝類、サケ科、コイ科が出土している。

(10) 炭化物集中（図V-24・38・39・42、表V-22・24、図版30-1）

炭化物集中4・8・9・10・11・12・13は0B層上面、炭化物集中5・6・15・16・17・20・21・29・30は0B層上層、炭化物集中2・14は0B層下層である。炭化物集中はT a - b降下後の0B層下層には少なく、上層以降に頻繁な遺構の形成がみられる。T a - a降下直前まで遺跡内の活動が活発だったことがわかる。以上のことは灰集中にもいえることである。出土遺物は炭化物集中に動物遺存体が少なく、オニグルミ・コナラ亜属が少ない。一方灰集中は種子がやや少ない。性格にやや違いがあるようである。

低湿部における炭化物集中の増加傾向は各集中の増加傾向と同じくIB-1層のころから始まる。炭化物集中2：標高5.2m、北西-南東に長い不整形。灰集中14がやや近くにある。掘り込みはなかった。未炭化破片のアサ、オニグルミは出土しているが、木本種子・草本種子は1点も出土していない。貝類、魚類、哺乳類も出土していない。

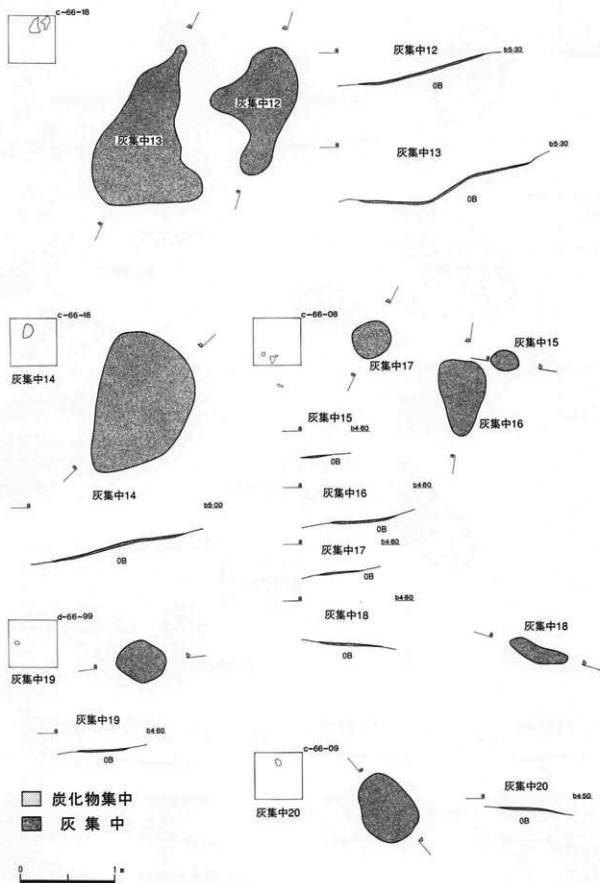
炭化物集中4：標高4.9m、南北に長い楕円形。灰集中12、灰集中13が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。イネ、キビ、未炭化破片のアサ、スモモ、キハダ、ヤマブドウは出土しているが、草本種子は1点も出土していない。貝類、魚類、哺乳類も出土していない。

炭化物集中5：標高4.7m、東西に長い不整形。炭化物集中6、砂集中1、砂集中2が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。未炭化破片のアサ、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属（1点）などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中6：標高4.6m、北東-南西に長い不整形。砂集中1、砂集中2が上位にあり、炭化物集中5、炭化物集中15が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化破片のアサが多量に出土している。大型の種子は出土していない。キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

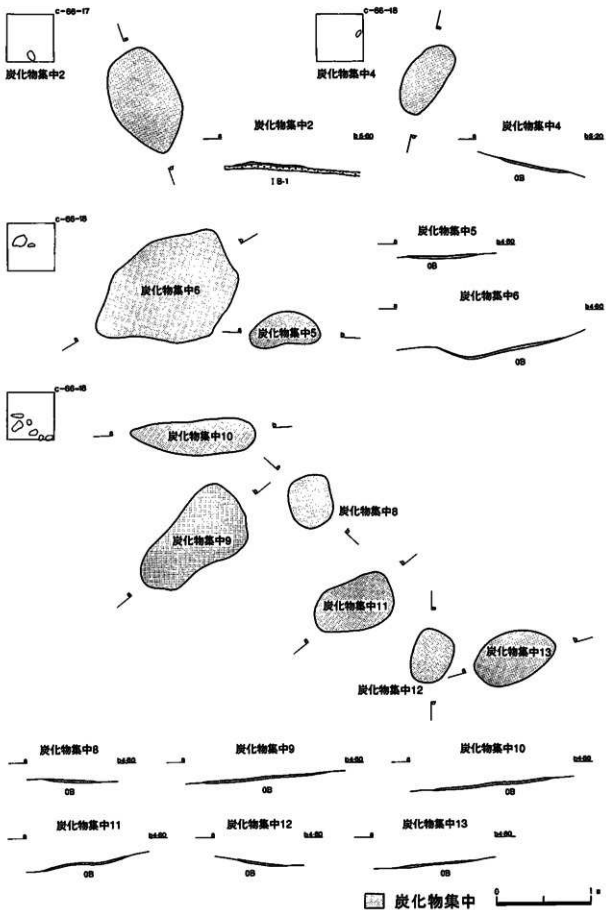
炭化物集中8：標高4.6m、北西-南東に長い楕円形。炭化物集中9、炭化物集中10が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化破片のアサ、クリ、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はタデ科、カヤツリグサ科のみが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中9：標高4.4m、南北に長い不整形。炭化物集中8、炭化物集中10が近くにある。掘り込みはなかった。イネ、未炭化完形のアサ、シソ、クリ、コナラ亜属、多量のハマナス、スモモ、キハ



図V-37 灰集中12~20

V 第0 黒色土層の調査



図V-38 炭化物集中 2・4～6・8～13

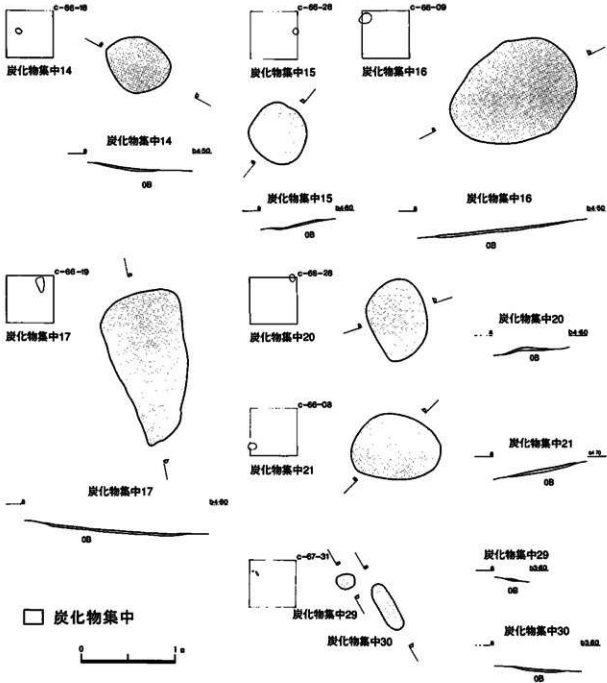
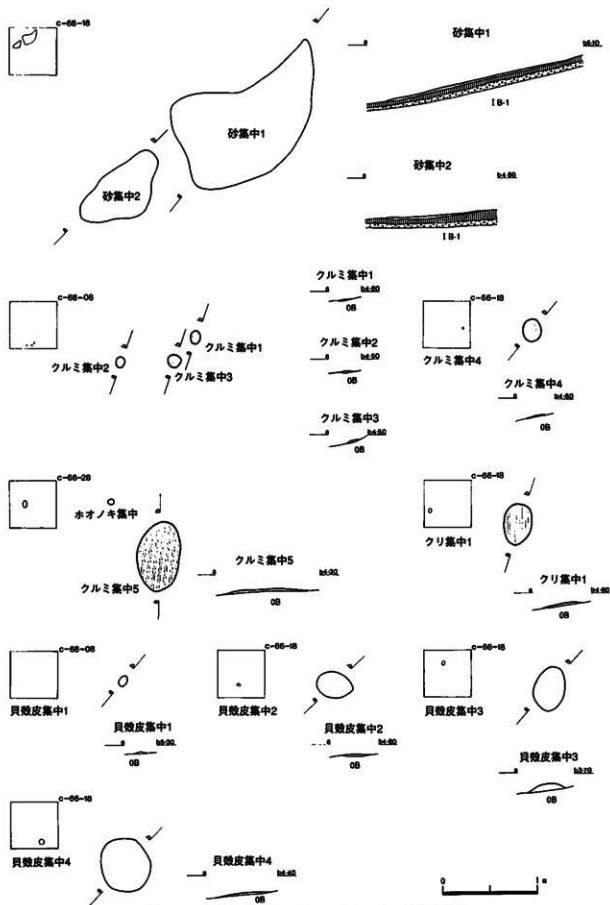


図 V-39 炭化物集14~17・20・21・29・30

表 V-22 灰集中・炭化物集中

遺構名	発掘区	層位	長×幅×厚(m)	平面積(m ²)	遺構名	発掘区	層位	長×幅×厚(m)	平面積(m ²)
炭集10-18a	c-66-08-d-c-66-09-a-d	0 B 下層	4.20・27.0	13.29	炭化物集8	c-66-18-b・c-66-18-c	0 B 下層	0.55・0.45	0.12
炭集10-20a	c-66-08-a-d	0 B 下層	2.50・2.49	9.66	c-66-19-c	c-66-18-c・c-66-18-d	0 B 上層	1.30・0.55	0.73
炭集12	c-66-19-a	0 B 上層	1.36・0.94	3.71	炭化物集9	c-66-18-c・c-66-18-d	0 B 上層	1.30・0.56	0.39
炭集13	c-66-18-a・c-66-18-d	0 B 下層	1.85・0.78	4.90	炭化物集10	c-66-18-b・c-66-18-c	0 B 下層	0.86・0.52	0.39
炭集14	c-66-18-d	0 B 下層	1.54・1.00	1.21	炭化物集11	c-66-18-b・c-66-19-a	0 B 上層	0.57・0.42	0.20
炭集15	c-66-08-b・c-66-08-c	0 B	0.30・0.22	1.28	炭化物集12	c-66-18-b・c-66-19-a	0 B 下層	0.90・0.22	0.36
炭集16	c-66-09-c	0 B	0.80・0.46	2.14	炭化物集13	c-66-18-d	0 B	0.70・0.57	0.30
炭集17	c-66-08-c	0 B	0.49・0.27	0.13	炭化物集14	c-66-18-d・c-66-19-a	0 B	0.67・0.60	0.30
炭集18	c-66-09-a	0 B	0.64・0.18	0.09	炭化物集15	c-66-09-d・c-66-19-a	0 B	1.40・1.57	1.12
炭集19	d-66-99-c・d-66-99-d	0 B	0.52・0.44	0.17	炭化物集16	c-66-19-a	0 B	1.55・0.78	1.04
炭集20	c-66-09-a・c-66-09-d	0 B	0.73・0.55	0.33	炭化物集17	c-66-19-a	0 B	0.86・0.60	0.41
炭化物集12	c-66-17-b・c-66-17-c	Ta-b-1	1.15・0.70	0.62	炭化物集18	c-66-08-c・c-66-18-b	0 B	0.95・0.70	0.53
炭化物集14	c-66-18-a	0 B 上層	0.80・0.40	2.35	炭化物集19	c-67-31-d	0 B	0.20・0.16	0.03
炭化物集15	c-66-18-a・c-66-18-d	0 B	0.75・(0.39)	0.37	炭化物集20	c-67-31-d	0 B	0.55・0.18	0.09
炭化物集16	c-66-18-d	0 B	1.56・1.10	0.21					

V 第0 黑色土層の調査



図V-40 砂・クルミ・クリ・ホオノキ・貝殻皮集中

ダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属、ウドなどが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集10：標高4.6m、ほぼ東西に長い不整形。炭化物集8、炭化物集9が近くにある。掘り込みはなかった。

炭化物集11：標高4.4m、北東-南西に長い楕円形。炭化物集8、炭化物集12が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化のイネ、未炭化のイネの穎（籾）、ヒエ、アサ、オニグルミ、クリ、多量のハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属、ソラマメ属などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

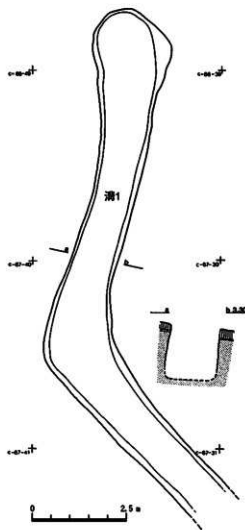
炭化物集12：標高4.5m、北-南に長い楕円形。炭化物集11、炭化物集13が近くにある。掘り込みはない。アサ、クリ、多量のハマナス、スモモ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はタデ科、カヤツリグサ科のみが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集13：標高4.5m、北東-南西に長い楕円形。炭化物集12が近くにある。掘り込みはない。大型の種子は出土していない。アサ、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はタデ科、カヤツリグサ科のみが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集14：標高4.3m、北西-南東に長い楕円形。灰集14が上位にある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。多量のアサ、ハマナス、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子は多量のキイチゴ属、ウドなどが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集15：標高4.3m、ほぼ円形。砂集2、炭化物集6が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。多量のアサ、キハダ、ヤマブドウなどが少量出土しており、草本種子は多量のキイチゴ属などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集16：標高4.3m、北東-南西に長い楕円形。炭化物集17が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。ヒエ、アサ、シソ、多量のハマナス、スモモ、ヤマウルシなどが出土しており、草本種子は多量のギシギシ属、アカザ属、カヤツリグ



図V-41 溝1

表V-23 砂・クルミ・クリ・貝殻皮集

遺物名	発掘区	層位	長軸・短軸 (m)	平面積 (㎡)	遺物名	発掘区	層位	長軸・短軸 (m)	平面積 (㎡)
砂集1	e-66-18-a-d	11b-1	1.90 - 1.00	1.37	クルミ集1	e-66-08-b	0B	0.13 - 0.11	0.01
砂集2	e-66-18-d	0B	1.02 - 0.55	0.38	クルミ集2	e-66-08-c	0B	0.10 - 0.08	0.01
貝殻皮集1	e-66-08-d	0B下層	0.12 - 0.10	0.01	クルミ集3	e-66-08-c	0B	0.13 - 0.12	0.02
貝殻皮集2	e-66-18-d	0B	0.40 - 0.25	0.08	クルミ集4	e-66-18-b	0B	0.22 - 0.20	0.04
貝殻皮集3	e-66-18-d	0B	0.45 - 0.30	0.12	クルミ集5	e-66-28-c-d	0B	0.75 - 0.45	0.26
貝殻皮集4	e-66-18-b	0B	0.55 - 0.50	0.24	小オノノ集1	e-66-28-c-d	0B	0.05 - 0.05	0.003
クリ集1	e-66-18-c	0B	0.45 - 0.30	0.11					

サ科とキイチゴ属などが出土している。サケ科、コイ科、シカ、哺乳類が出土している。

炭化物集中17：標高4.3m、北西-南東に長い不整形。炭化物集中16が近くにある。掘り込みはなかった。イネ（有浮果がある）、ヒエ、アサ、シソ、オニグルミ、サルナシ、多量のハマナス、スモモ、多量のヤマブドウなどが出土しており、草本種子は多量のギシギシ属、アカザ属、カヤツリグサ科とキイチゴ属、クズなどが出土している。サケ科、コイ科の魚類のみが出土している。

炭化物集中20：標高4.4m、北西-南東に長い楕円形。近くに集中はない。掘り込みはなかった。多量の未炭化破片のアサ、コナラ亜属、サルナシ、ハマナス、キハダ、エゾニワトコなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属などが出土している。カワシンジュガイ、サケ科、コイ科が出土している。

炭化物集中21：標高4.8m、ほぼ東西に長い楕円形。灰集中17が近くにある。掘り込みはなかった。アサ、クリ、ハマナス、スモモなどが出土しており、草本種子はタデ属、カヤツリグサ科のみが出土している。カワシンジュガイ、サケ科が出土している。

炭化物集中29：標高3.5m、ほぼ東西に長い楕円形。建物跡7の脇で炭化物集中30が近くにある。掘り込みはなかった。栽培種子・大型の種子は出土していない。ヤマブドウが出土しており、草本種子は出土していない。サケ科椎体が1点出土している。

炭化物集中30：標高3.7m、北西-南東に長い楕円形。建物跡7の脇で炭化物集中29が近くにある。掘り込みはなかった。栽培種子・大型の種子は出土していない。ヤマブドウが出土しており、草本種子はセリ科、カヤツリグサ科が出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

(11) 砂集中 (図V-24・40、表V-23)

砂集中1：標高4.6~5.0m、北東-南西に長い不整形。砂集中2の脇で炭化物集中6の上位にある。掘り込みはなかった。砂は円磨の進んだ海砂である。

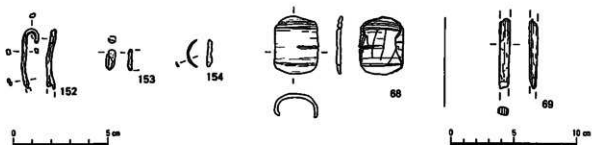
砂集中2：標高4.5m、北東-南西に長い不整形。砂集中1の脇で炭化物集中6の上位にある。掘り込みはなかった。砂は円磨の進んだ海砂である。

(12) クルミ集中 (図V-24・40、表V-23、図版2-5・6)

クルミ集中1：標高4.5m、北南に長い楕円形。灰集中10(第2灰層)とクルミ集中3が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破砕されている。スモモ果皮片も出土している。

クルミ集中2：標高4.4m、北南に長い楕円形。クルミ集中3が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破砕されている。出土量はクルミ集中のなかで最多である。

クルミ集中3：標高4.4m、東西に長い楕円形。クルミ集中1が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破砕されている。やや縫合面割れの比率が高い。



図V-42 灰集中、炭化物集中の金属製品・木製品・樹皮製品

クルミ集中4：標高4.6m、北西-南東に長い楕円形。近くには集中はない。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものはなく、縫合面割れの比率が高い。

クルミ集中5：標高4.1m、北西-南東に長い楕円形。ホオノキ集中1が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破砕されている。やや縫合面割れの比率が高い。スモモ果皮片も出土している。

(13) クリ集中 (図V-24・40、表V-23)

クリ集中1：標高4.5m、南北に長い楕円形。炭化物集中6が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化の果皮が3.632g検出された。この量は灰集中10について多い。

(14) 貝殻皮集中 (図V-24・40、表V-23)

貝殻皮集中1：標高5.2m、南北に長い楕円形。灰集中10(第2灰層)が近くにある。掘り込みはなかった。カワシンジュガイの殻皮が遺存していたものである。29片、2.01g

貝殻皮集中2：標高4.5m、東西に長い楕円形。貝殻皮集中4が近くにある。掘り込みはなかった。カワシンジュガイの殻皮が遺存していたものである。13片、2.21g

貝殻皮集中3：標高3.5m、南北に長い楕円形。灰集中14が近くにある。被熱したホタテガイの殻が0B層と混じっていてマウンド状になっていた。遺存状態は非常に良かった。2片、7.43g

貝殻皮集中4：標高4.2m、東西に長い楕円形。貝殻皮集中2が近くにある。掘り込みはなかった。カワシンジュガイの殻皮が遺存していたものである。31片、1.14g。スモモ、ミヤマニガウリも出土している。

(15) ホオノキ集中1 (図V-24・40、表V-23)

標高4.2m、円形。クルミ集中5が近くにある。ホオノキ属キタコブシが7コ遺存していた。

(16) 溝1 (図V-41)

長さ13m、幅1.5m、深さは始まりのところ1.5m、おわりで0.5mである。断面は「コ」字状を呈する葉掘りの溝である。建物跡6のある標高4.0m付近をはじまりとして、建物跡7の手前で方向を変えて舟着場の西側隅に流れ込む。溝内からは遺物は出土しなかった。始まりの部分は湧水点の状況に似ている。以上より、水場・用水路のようなものではないだろうか。

表V-24 灰集中・炭化物集中埋藏金属製品

図面 番号	遺物 番号	遺物 名称	種類	遺物 位置	埋藏 層	材質	数量(片)	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備考	
152	30	銅製金片	灰集中16	(5.18)	溝1	銅	1	1.7	0.31	(1.2)	溝1
153	30	銅製金片	灰集中17	(5.25)	溝1	銅	1	1.8	0.40	(0.25)	溝1
154	30	銅製金片	灰集中18	(5.28)	溝1	銅	1	1.4	0.54	(0.1)	溝1

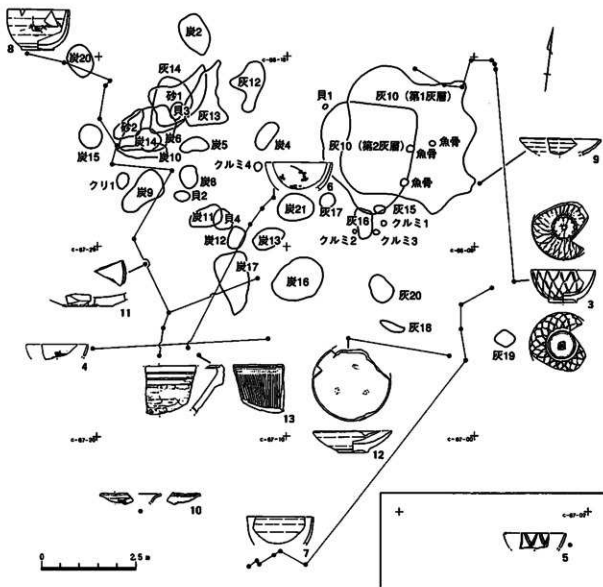
表V-25 灰集中13・14 埋藏木製品・樹皮製品

図面 番号	遺物 番号	遺物 名称	種類	遺物 位置	埋藏 層	材質	数量(片)	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備考		
66	30	円筒形炭化物	灰集中13	(5.02)	溝底	炭	1	3.05	2.30	0.20	1	
69	-	厚肉金片	灰集中14	(5.01)	溝底	炭	1	(5.60)	0.80	0.70	(2.1)	1

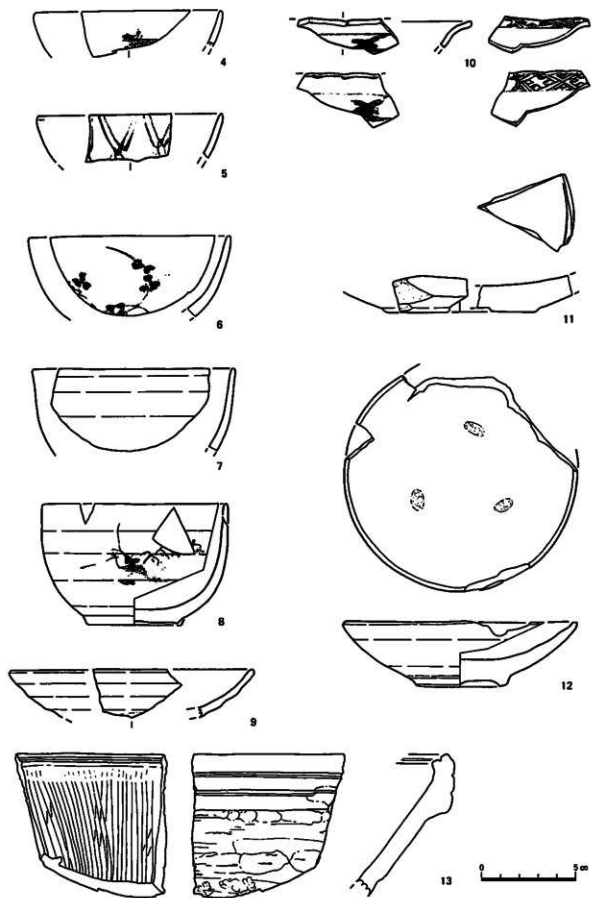
3 包含層の遺物

(1) 陶磁器 (図V-43・44、表V-26、図版30、カラー図版12-2・3・4)

4～6・10・11は伊万里染付碗・皿。4は灰青色を呈する発色の良くない呉須で外面にコンニャク判の「桐文」が施される。年代は17世紀末～18世紀中葉。5は軸はやや青みがかり、気泡が多い。灰青色を呈する発色の良くない呉須で外面に割筆の「二重網目文」、年代は18世紀初め～18世紀第3四半期である。6は軸に貫入がある。暗灰緑色を呈する発色の悪い呉須で外面に「梅樹文」、年代は18世紀初め～18世紀第3四半期である。10はつば皿で口縁は稜花となる。藍色を呈する発色のよい呉須で口縁部内面に「四方禪文」、年代は18世紀代?。11は蛇ノ目高台の皿、軸はやや青みがかる。灰青色を呈する発色の良くない呉須で内底面と体部の境に圓線を描く。豊付きを無軸にして鉄漿を塗る。年代は17世紀第2四半期。7は唐津鉄軸碗。暗褐色でやや透明感のある軸で細かい貫入がある。年代は17世紀後半。8は伊万里京焼写し碗。胎土は明灰白色で精良、暗灰緑色の呉須でくずれた「樓閣山水文」を描く。軸は透明で貫入がある。高台脇露胎部は褐色に発色する。外底面に浅い円形の削り出しを持つ。高台外端に面取があり、豊付幅は1.5mmと狭い。年代は17世紀後半～18世紀前半である。



図V-43 陶磁器の分布図・接合図



图V-44 陶磁器

9は伊万里白磁皿。軸はやや青みがかり、気泡が多い。高台胎は露胎となる。年代は17世紀前半。12は唐津胎土目皿。軸は灰オリーブ色がかかる透明軸。細かい貫入がある。高台胎から露胎で橙色に発色する。高台は削り出したあと外面をヨコナデ。内面に胎土目痕が残る。年代は16世紀第4四半期～17世紀初頭である。この皿は口縁端の軸が磨減し、内底面の軸も光沢を失うほど摩耗している。かなりの使用期間があった。0B層より出土した原因は使用期間の長さによる。13は備前系播鉢。口縁帯外面は回転ナデのあと2本の沈線が入る。体部外面は回転ケズリのあとヨコナデ。口縁部内側に沈線を通らし、その下には断面三角の凸帯が通る。体部内面は回転ナデのあと13本単位の櫛目を中心から外側に向かって施し、櫛目の端をヨコナデで消して櫛目をそろえている。外面は暗赤褐色、内面は外面よりやや明るい暗赤褐色。年代は17世紀前半。

(2) 石器・石製品 (図V-45・46、表V-26、図版31)

19は片主面を使用する。20は楕円縁の尖った一端を使用する。23は棒状で1側面を使用する。24はよく使い込まれており、3面を使用する。25は両主面がよく使い込まれている。右側縁には加工痕がある。26は両主面・両側縁を使用する。27は砥石を転用した石錘。28～30は軽石製品。形態は様々であるが、面を研磨することは同じである。31は虫痕のある凝灰岩を垂飾として利用したもの。32は火皿である。(鈴木 信)

(3) ガラス製品 (図V-47・51、表V-27、図版31-2、カラー図版13-1)

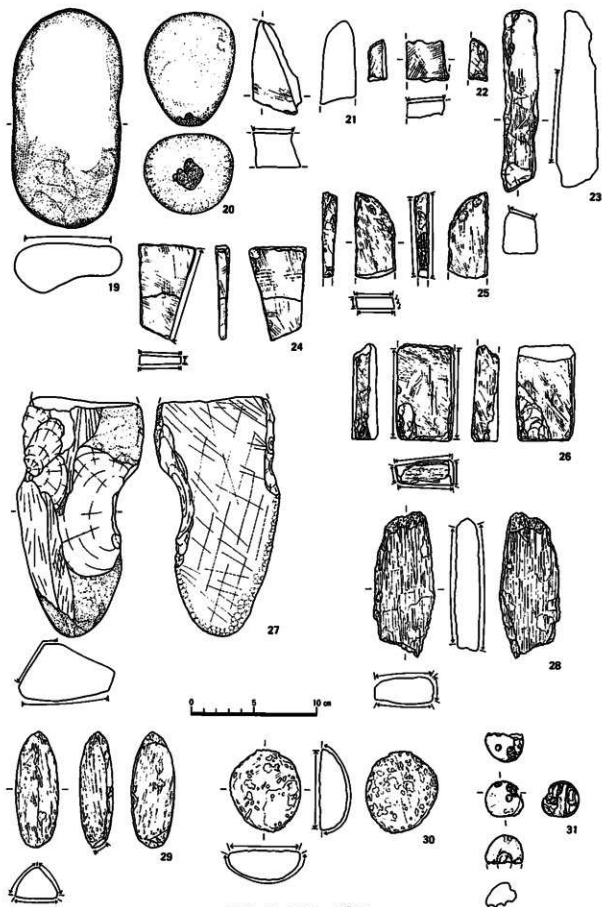
ガラス玉が9点出土した。「物送り場」と推定される灰集中10西側のc-66-18、c-66-19など、本来は灰集中10に伴っていたとも考えられ、針金の環状製品等に吊り下げられた耳飾り(ニンカリ)の飾りであった可能性がある。

ガラス玉(4～12): 4はやや曇った無色半透明の丸平玉である。光沢はほとんど無い。5は濃い青紫色のわずかにつぶれた丸玉である。表面の光沢は少なく、周縁には白色の摩擦痕がめぐる。6はやや透明な薄い青紫色の花房玉である。光沢がわずかにあり、浅い筋引きにより3房を構成している。7はやや透明な薄い青色の花房玉片である。浅い筋引きが2カ所に認められ、3房のものが半分に分かれたものと考えられる。8はやや透明な薄い青色とやや曇った青色の花房玉片の接合個体である。c-66-19-cの破片とc-66-08-cの破片と接合したが、被熱のためか、同一個体と思えないほどにそれぞれの光沢や青色の濃さが異なる。浅い筋引きにより4房を構成している。灰集中10南西から出土しており、遺構に伴っていた可能性がある。9は光沢のある青色の蜜柑玉である。深い筋引き(「V」字状の刻み)で4房を構成している。他のものよりも孔が大きく径5.5mm程ある。10は光沢の無い表面が風化し、一部白色化した青色の蜜柑玉の破片である。筋引きや残存する房の形態から、5房のものが半分に分かれたものと考えられる。11はやや光沢ある青色で小型の蜜柑玉片である。やや深い筋引きや残存する3房の形態から、5房ないし6房のものが半分～1/3に分かれたものと考えられる。側面観は、他はすべて楕円形であるのに対して、算盤玉状に周縁が三角となっている。12は表面がやや風化し、光沢の無い深緑色の蜜柑玉玉片である。(田口 尚)

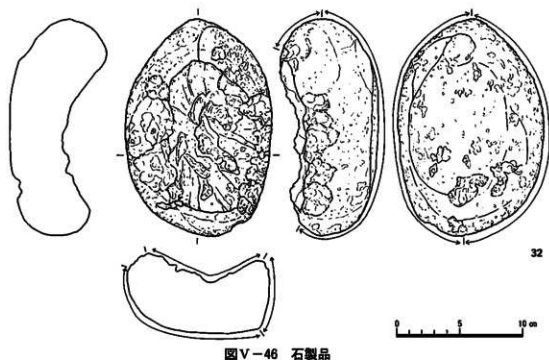
(4) 金属製品 (図V-48・49・52、表V-28、図版32・33、カラー図版13-1)

金属製品のほとんどは、ガラス玉同様に「物送り場」と推定される灰集中10の周縁に分布している。分布位置は灰集中10の南西～南側に密集し、南西部から東側に向かって若干分布する。鉄鍋片(155～158)のみがやや離れてd-67-80-dに分布しており、建物跡2との関わりが推定される。また、魚引掛鉤片(162)はc-67-10-aの舟着場1の北側法面肩から出土しており、漁撈具として舟着場との関わりが推定される。

鉄鍋片(155～158): 155～158は丸形湯口の吊耳鉄鍋の同一個体である。いずれも錆等の腐食が著



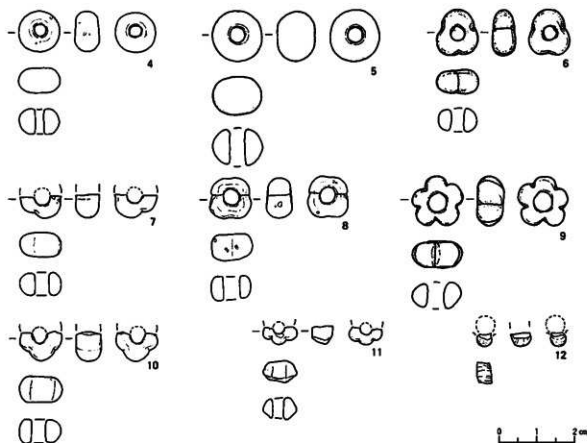
図V-45 石器・石製品



図V-46 石製品

表V-26 0 B層縄織陶磁器・石器・石製品

図番号	遺物名称	主な発掘区	点数	備考
4	柴付碗	c-66-19-a, c-66-29-b	3	伊万里 復元口径10.0cm
5	柴付碗	c-67-02-a	1	伊万里 復元口径10.0cm
6	柴付碗	c-66-18-b, c-66-19-c	4	伊万里 復元口径10.6cm 炭化物集中12・13・21のそば
7	陶器碗	c-66-09-a・b, c-66-99-dなど	10	唐津 復元口径11.0cm 灰集中9のそば
8	陶器碗	c-66-18-c・d, c-66-19-a・c・dなど	15	唐津 復元口径9.9cm 炭化物集中6・8・9・10・17・20のそば
9	白磁皿	d-66-98-c	1	伊万里 復元口径10.6cm 灰集中10のそば
10	柴付皿	c-67-10-d	4	伊万里
11	柴付皿	c-66-19-d	1	伊万里
12	陶器皿	c-66-09-b・d	2	唐津 復元口径12.4cm 器高3.5cm
13	陶器椀鉢	c-66-09-c	1	備前系
19	すり石	c-66-19-a	1	砂岩 長さ17.20cm、幅8.60cm、厚さ3.85cm、重さ895.0g
20	たたき石	c-66-29-d	1	安山岩 長さ8.87cm、幅7.00cm、厚さ6.30cm、重さ533.0g
21	砥石	c-66-19-a	1	泥岩 長さ7.38cm、幅3.92cm、厚さ2.87cm、重さ90.1g
22	砥石	c-66-18-c	1	凝灰岩 長さ3.30cm、幅3.30cm、厚さ1.47cm、重さ17.6g
23	砥石	c-67-00-d	1	凝灰岩 長さ14.3cm、幅2.90cm、厚さ3.35cm、重さ185.5g
24	砥石	c-66-09-d	2	凝灰岩 長さ7.40cm、幅4.52cm、厚さ1.10cm、重さ34.2g
25	砥石	d-67-80-c	1	凝灰岩 長さ6.74cm、幅3.20cm、厚さ1.13cm、重さ33.2g
26	砥石	c-67-00-a・d	1	凝灰岩 長さ7.53cm、幅4.56cm、厚さ2.01cm、重さ100.5g
27	砥石(石鏝)	c-67-11-b	1	砂岩 長さ18.90cm、幅9.50cm、厚さ4.50cm、重さ900.0g
38	火打石	c-66-09-a	1	チャート 長さ1.90cm、幅1.56cm、厚さ0.74cm、重さ2.07g
28	軽石製品	d-66-99-d	1	流紋岩 長さ11.45cm、幅4.88cm、厚さ2.18cm、重さ39.5g
29	軽石製品	c-66-19-b	1	流紋岩 長さ9.20cm、幅3.40cm、厚さ2.58cm、重さ23.3g
30	軽石製品	c-66-29-a	1	流紋岩 長さ6.54cm、幅5.60cm、厚さ2.35cm、重さ20.4g
32	軽石製品	c-66-49-a	1	流紋岩 長さ17.20cm、幅11.76cm、厚さ7.88cm、重さ473.5g
31	石製品	c-66-19-a・d	1	凝灰岩 長さ2.80cm、幅2.97cm、厚さ2.20cm、重さ10.6g



図V-47 ガラス製品

表V-27 0B層掲載ガラス製品

図番号	図順番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺物名	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個数	破損	備考
4	31	ガラス玉	c-66-19-a	1842		1.16 1.11 0.65	1.5	1	1	無色半透明、丸平玉。材質分析中。
5	31	ガラス玉	c-66-29-a	571		1.33 1.33 1.03	3.5	1	1	青紫色。丸玉。材質分析中。
6	31	ガラス玉	c-66-18-a	360		1.20 1.11 0.62	1.6	1	1	3層、青紫色。花房玉。材質分析中。
7	31	ガラス玉	c-66-18-a	361		(0.59) (1.12) 0.62	(0.8)	1	1	3層、1/2片、青色。花房玉。材質分析中。
8	31	ガラス玉	c-66-19-a c-66-08-c	1746-6009	灰皿中10	1.08 1.13 0.70	1.6	1	2	2点接合、4層、青色。花房玉。材質分析中。
9	31	ガラス玉	c-67-10-c	6014		1.30 1.36 0.70	1.9	1	1	5層、大孔、青色。蜜柑玉。材質分析中。
10	31	ガラス玉	d-66-08-d	462		(0.78) (1.12) 0.62	(1.0)	1	1	5層、1/2片、青色。蜜柑玉。材質分析中。
11	31	ガラス玉	c-66-19-d	729		(0.44) (0.90) 0.59	(0.3)	1	1	3層、1/3片、青色。小蜜柑玉。材質分析中。
12	31	ガラス玉	c-66-17-c	227		(0.32) (0.30) 0.55	(0.2)	1	1	1/5片、緑紫色。蜜柑玉。材質分析中。

しく、鉄分が溶脱して脆く細片となっていた。155は吊り耳鉄鍋の口縁部破片である。吊り耳接合部は肥厚し、吊り耳には弦用の孔が3ヵ所ある。156は口縁部破片であり、口唇部断面はわずかに肥厚し、切出しナイフ形である。157は底部（底面）片である。外側に丸形湯口部が盛り上がっている。158も底部（底面）片であり、やや側縁部に近い部分である。

刀子片 (159・160) : 159は莖片であり、莖尻向かって細くなる。160も莖片である。

魚突鉤鈎片 (161) : いわゆるマレ、の鉄鉤部片である。先端部が細く、基部はやや薄い。

魚引掛鈎片 (162) : 両端部を欠損しているが、湾曲の状況や出土位置から、の可能性がある。

平カスガイ片 (163~165) : 163は左側にわずかに屈曲した脚部の痕跡を残す。平カスガイとして分類したが、両側縁部がややつぶれて細く、38の火打石とセットで出土したことから火打金と考えられ

る。164・165は両端の脚部を欠損したものである。163同様に火打金に転用された可能性がある。

カスガイ片 (167) : 大型で背部分が叩かれて、わずかに肥厚している。

角釘片 (166・168) : 168は角釘片である。166は胴部の断面が長方形となる折平釘片である。

キセル (169~179) : 169・171・173は雁首である。169・173は脂返しが大きく湾曲する河骨形であり、補強帯が見みることから古泉分類の雁首第Ⅱ類Aに相当する。169の表面には丹念に唐花文様が彫金されている。173の火皿には炭化物がつまっている。171は火皿を欠損している。ラウ挿入管がつく肩つきであり、脂返しが上方のみに大きく湾曲する河骨形であることから古泉分類の雁首第Ⅰ類Bに相当する。172はほぼ原形をとどめるものであり、ラウ中央部が銅管である。雁首の脂返しが大きく湾曲する河骨形で、補強帯が見みられないことから古泉分類の雁首第Ⅱ類Bに相当する。吸口は短く口唇部付近で急に細くなる。肩を持たない古泉分類の吸口第Ⅱ類Bに相当する。170・174~179は吸口である。いずれも肩を持たない古泉分類の吸口第Ⅱ類Bに相当する。170には梅枝文様が彫金されている。174のラウ側にはイト、バ状の線刻がある。170・174~178は口唇部に向かって直線的なものであり、177・179はわずかにカーブを描いて細くなる。

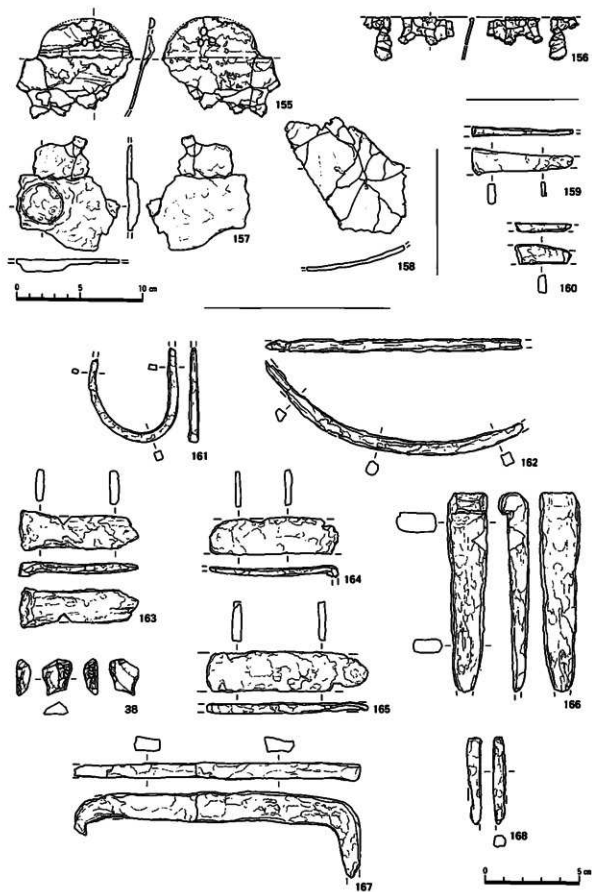
銅板 (180~183) : 180・181にはねじれがあり、183の腐食は著しい。

環状製品 (184) : 丸い金属線を環状にしたものである。耳飾り (ニンカリ) の可能性がある。

寛永通宝 (185・186) : いわゆる新寛永である。1668年から1683年鑄造。(田口 尚)

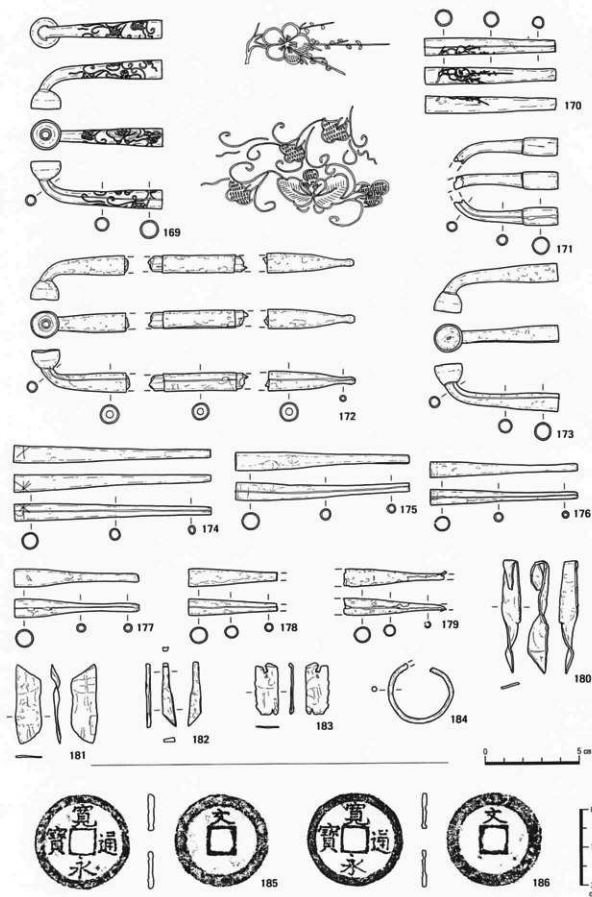
表V-28 0 B層掲載金属製品

品目 番号	原形 番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺物名	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	材質	備 考	保存 位置
155	32	鉄銅片	吸口縁部	d-67-40-c	65		(7.20) (9.40) 0.90	(38.2)	鉄	125 155~156同一個体、孔3ヶ所。[ス]	MD10
156	32	鉄銅片	口縁部	d-67-40-c	68		(3.40) (6.70) 0.40	(2.2)	鉄	17 155~156同一個体、17点接合。[ス]	MD10
157	32	鉄銅片	底面	d-67-40-c	65-67		(9.00) (8.26) 1.00	(69.9)	鉄	17 155~156同一個体、6点接合。丸型開口。	MD10
158	32	鉄銅片	底面	d-67-40-c	64		(9.20) (9.50) 0.40	(35.7)	鉄	125 155~156同一個体、12点接合。[ス]	MD10
159	32	刀子片	茎	d-66-99-d	83		(5.36) 1.40 0.53	(4.9)	鉄	1 1 [マキリ]	MD10
160	32	刀子片	茎	d-66-98-c	28		(2.98) 1.00 0.43	(2.6)	鉄	1 1 [マキリ]	MD10
161	32	魚骨彫削片	c-66-09-d	20		(4.98) 4.75 0.45	(8.1)	鉄	1 1 [マキリ]	MD10	
162	32	魚引削削片	c-67-10-a	83		(13.70) 0.80 0.70	(21.1)	鉄	1 1 [アツ] 金属材質調査。	MD10	
163	32	平カスガイ片	火打金	c-66-09-a	70 ①		(6.30) 2.11 0.72	(20.7)	鉄	1 1 石製高38とセット、金属材質調査。	MD10
164	32	平カスガイ片	c-66-09	87		(6.83) 1.95 (0.60)	(9.2)	鉄	1 1 火打金?	MD10	
165	32	平カスガイ片	c-66-09-a	69		(8.60) 2.10 0.60	(28.0)	鉄	1 1 火打金?	MD10	
166	32	角釘片	c-67-40-c	48		(10.50) 2.14 1.40	(69.9)	鉄	1 1 金属材質調査。	MD10	
167	32	カスガイ片	c-66-28-d	62		(15.20) 0.90 (4.60)	(42.7)	鉄	1 1 2点接合。	MD10	
168	32	角釘片	c-66-19-b	76		(4.64) 0.68 0.80	(5.5)	鉄	1 1	MD10	
169	33	キセル	雁首	c-66-19-d	37		7.60 2.52 1.58	18.6	銅	1 1 唐花文様彫金。	D77777
170	33	キセル	吸口	c-66-09-d	72		6.98 0.90 0.90	6.3	銅	1 1 梅枝文様彫金。	D77777
171	33	キセル片	雁首	d-66-28-c	26		(5.50) 1.35 0.93	(3.3)	銅	1 1	D77777
172	33	キセル片	雁首~吸口	d-66-28-d	25		(15.30) 2.30 1.43	(18.2)	銅	1 3 ラウ木部欠損、木質(杉2種布)。	D77777
173	33	キセル	雁首	c-66-19-a	77		6.61 2.57 1.49	8.3	銅	1 1	D77777
174	33	キセル	吸口	c-66-09-d	38		10.49 0.91 0.92	6.0	銅	1 1 イトクバあり。	D77777
175	33	キセル	吸口	c-66-19-a	74		9.24 0.97 0.96	7.2	銅	1 1	D77777
176	33	キセル	吸口	d-66-99-d	36		7.85 0.83 0.85	4.4	銅	1 1	D77777
177	33	キセル	吸口	c-66-19-b	75		6.64 0.97 0.94	5.0	銅	1 1	D77777
178	33	キセル片	吸口	c-67-10-a	84		(4.72) 0.88 0.97	(2.6)	銅	1 1	D77777
179	33	キセル片	吸口	c-66-19-d	99		(5.49) 0.80 0.92	(1.5)	銅	1 1	D77777
180	33	銅板	d-66-09-b	34		5.98 1.02 1.18	5.4	銅	1 1	D77777	
181	33	銅板	c-66-09-d	71		4.15 1.40 0.11	2.1	銅	1 1	D77777	
182	33	銅板	c-66-19-a	39		3.35 0.71 0.34	1.9	銅	1 1	D77777	
183	33	銅板	c-66-18-a	21		2.70 1.22 0.65	0.7	銅	1 1	D77777	
184	33	環状製品片	c-66-29-a	35		(3.16) 3.50 0.23	(2.5)	?	1 1 耳飾り [ニンカリ]?、金属材質調査。	D77777	
185	33	寛永通宝	d-66-98-d	27		2.52 2.52 0.14	3.8	銅	1 1 新寛永 1668~1683年鑄造。	D77777	
186	33	寛永通宝	c-66-18-b	33		2.52 2.53 0.12	2.8	銅	1 1 新寛永 1668~1683年鑄造。	D77777	



図V-48 金属製品(1)

V 第0黒色土層の調査



図V-49 金属製品(2)

3 包含層の遺物

陶磁器・磁石

右上層：陶磁器
右下層：磁石

唐文土器：22点

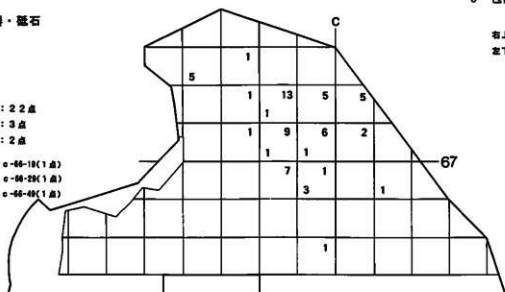
模文土器：3点

不明土器：2点

磁石製品：a-66-18(1点)

e-96-28(1点)

c-66-48(1点)



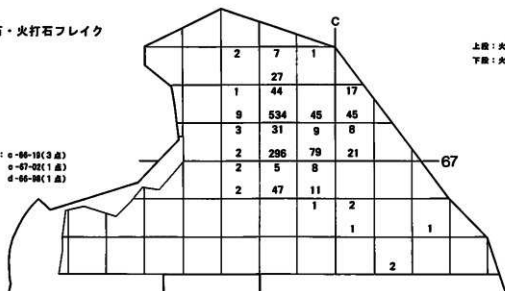
火打石・火打石フレイク

上層：火打石
下層：火打石フレイク

フレイク：a-66-18(3点)

a-67-02(1点)

d-66-98(1点)



曜(礫片を含む)

すり石：a-66-08(1点)

c-66-18(1点)

a-66-18(1点)

たたき石：a-66-18(1点)

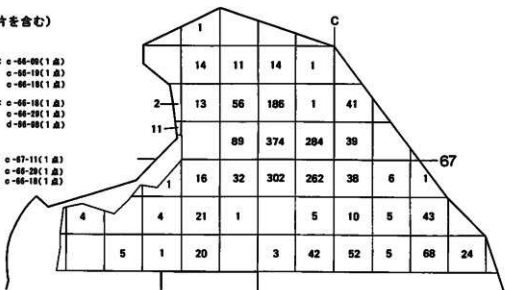
a-66-28(1点)

d-66-98(1点)

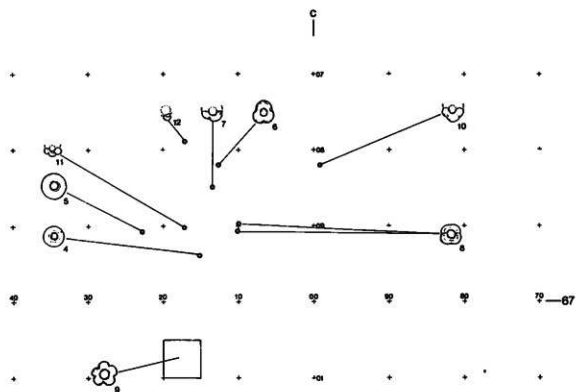
石 鏝：a-67-11(1点)

石 鏝：a-66-28(1点)

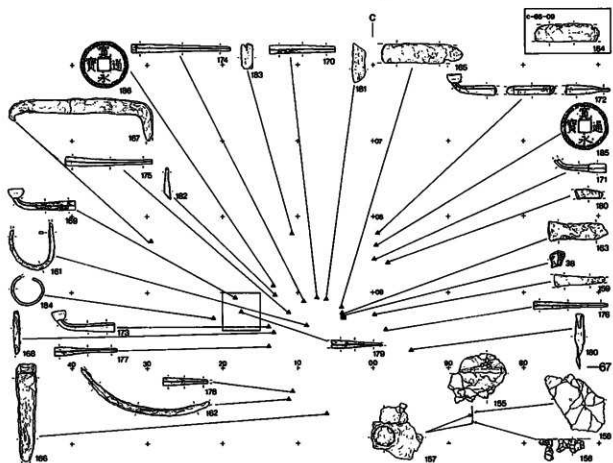
骨 石：a-66-18(1点)



図V-50 陶磁器、石器・石製品分布図



図V-51 ガラス製品分布図



図V-52 金属製品分布図

(5) 木製品・樹皮製品・繊維製品 (図V-54~323、表VI-29~100、図版34~249、カラー図版1~11)

0 B層の木製品は、調査区縁辺の標高4.5m前後以下から出土している。分布は昨年度報告(北埋調報102)のI B層と大きく異なっている。I B層の木製品分布はほぼ調査区全域に広がり、密集域は調査区の東西に大きく分かれ、c-67-40・41・51とd-67-81・82・91・92に濃密に分布していた。それに対して0 B層の木製品(図V-53、付図1~20)は、調査区中央から南東に向かって細長く分布し、密集域がほぼ連続している。特に調査区中央部のc-66-09・18・19、c-67-00・10周辺とd-67-81・91周辺に濃密な分布が見られる。調査区の中では比較的、やや平坦となっている部分である。濃密な分布域のc-66-09・18・19は灰集中10の南西から南に位置し、0 B層出土の各種生活用具のほとんどの種類が密集して分布している。意図的に切断されたもの等も多く分布していることから、金属製品等と同様に灰集中10に伴う「物送り場」域であったと考えられる。また、d-67-81・91周辺においては舟着場や建材集中と呼称された遺構周辺にあたることから、柱、桁・梁、垂木、母屋等の建材群とそれらに混在する状態で舟用具や舟部材、漁撈具、加工具などの各種用具が出土している。以上のように、0 B層の木製品分布の多くは、灰集中10、舟着場、建材集中に伴う各種生活用具によって構成されていると考えられる。また、木製品の分布状況から、遺跡が南東の斜面裾に沿ってさらに広がっていたものと考えられ、VII章のクラムシェル(重機)調査の木製品からも同様な状況が推測できる。

木製品には掲載した以外にも多量の製品破片が出土している。現在のところ類例や同様の遺跡調査例が少ないことから、今後の資料となるように出来る限りの代表的な木製品や部材を掲載する努力をした。脆弱で保存処理後でなければ実測不可能な漆製品や繊維製品については、カラー図版と写真図版の一部に掲載している。他にも、保存処理を十分に行えれば、実測及び土器・石器と同様に接合や復元が可能と考えられる木製品も少なくない。また、木製品が膨大量であることから数値的なデータの集計については掲載することが出来なかった。(通常コンテナに換算して7,500箱程となっている)

木製品の掲載番号、掲載図版番号、名称、出土発掘区、遺物番号、木取り、炭化の有無、樹皮の有無、計測値及び樹種名等については一覧表に記してある。名称記載のうち、折れや割れによる破損が認められるものについては、基本的に名称の末尾に「片」と記し、計測値の数値に()を付けている。また、刃物による意図的な切断痕の認められるものについては通常の破損品と区別して「切断品」と末尾に記して「物送り儀礼」との関わりに注意した。やや言い回しが長くなるが「切断品」が破損している場合にはその後に「片」を記している。樹種名は基本的に属名称で記しており、推定される樹種名等については、VIII章1節の「木製品の樹種同定」を参照されたい。0 B層及びクラムシェル(重機)調査の木製品の各用具別の分布状況はカラーの付図1~20を参照されたい。

交通具 (70~283、付図1~3)

舟部材 (70~204、付図1~3)

船片切断品片 (70) : 丸木舟の舷を舟底の立上る部分で船体から切断した痕跡が認められる。先端部は中央から右舷を欠損している。舷の器厚は約19cmと厚く、舷側部分を剥がれるように欠損している。不要となった船体を「舟(物)送り」したものであろう。舷先端は角形に加工され、短い庇状に張出している。舷先上面に盛り上りはない。舷先左舷には2.7×2.5cm程の角孔が穿たれており、その下方には上面から左舷側に斜めの角孔が穿たれている。上面の角孔は舳綱などを通すための孔或いは木幣(イナウ)を押すための孔であろう。舷側の角孔は舷側板を綴ったための角孔であろうか。

舷側板片 (71・72) : いずれも板綴舟の舷に近い丸木舟部の右舷側板片である。71の上縁には5ヶ所の角孔が並んでいる。舷側板を綴った角孔と考えられ、上方が綴じ紐等により摩擦している。72

には角孔が確認出来ないが、上縁の一部が厚く盛り上がっている。

板綴舟舷側板(74・92~109) : 74は本辺跡最大の板材であり、長さ3.66m、幅31.00cm、厚さ1.85cmの板目の板材である。85点程に割れていた。表面には斬(手斧)の削り痕が鮮明であり、両側縁には舟本体、舷側板、車権受台部等とを綴った22cm前後の等間隔の角孔が列になっている。上棚と考えられる。角孔の大きさは2×3cm前後の大きさであり、垂直な2個単位の角孔が穿たれている部分には車権受台部の袂部が固定されていたのであろう。板の両端は腐朽や摩耗が著しいが、出土時の形態的な観察によると、中心部から僅かに反りながら切り出しナイフ状に細く加工されていたものと思われる。角孔は小刀等で表面から削るよう掘り込まれ、最後に軸状のものを打ち込んで穿孔したものと考えられる。裏面の角孔周囲には板表面の剥離が認められる。92~109は厚さ2cm前後の板材であり、すべてに同様の方法で角孔が数ヶ所穿たれている。角孔の縁には紐や縄の緊縛による潰れや摩耗が見られ、前述同様に裏面の角孔周囲に剥離が認められる。本来は長かった舷側板を再加工、或いは転用したものであろう。92~101は角孔の穿たれた幅広の板材である。92・94・96の表面には顕著な削り痕が認められる。97の厚さは3.9cmもあり、やや湾曲している。中央付近には溝状の加工があり、小孔が2ヶ所に穿たれている。101は表裏とも炭化している。102~106は角孔のあるやや細長い板材である。107は上下の角孔部から半損した楕円形の板材である。106・107は表面の加工痕が顕著である。

舟材(73・75~91・110~113・115~117) : 機能や用途を限定することは出来ないが、形態や樹種から舟部材の可能性のあるものを取りまとめた。73は表裏や側縁部の削り痕が顕著であり、上部の大きく抉られた角孔のある厚板材である。75は両側に角孔付きの突起が付けられた「Y」字状の板材である。下部には角形の抉りと角孔が認められる。表面が凸形となる断面形態であり、裏面は平坦に削られている。舳先に付けられた飾り等であろうか。76は中央部の角形の溝の両側縁が突起している。77は表面に左右対称の抉りがある蒲葺形の太角材であり、中央部が角形に抉られている。78は切断された半割材で、中央部に貫の残存する角孔と隅丸方形の凹みがある。79は角形の凹みのある上部に張出した中央部を残して、両端が薄く削られている。削り痕が顕著である。80は両側縁に抉りがあり、断面が蒲葺形となる太角材の半損品である。81は上部に角形の溝がある角材であり、角に2ヶ所のホゾが彫り込まれている。82は斜めに切り出された両端部をもつ台形の厚板材片である。83は両側縁に粗い抉りのある角材である。84には2ヶ所の角孔が穿たれ、上面が一段低く削り出されている。側縁部中には角形の抉りがある。85~91は平面形が台形となる板材であり、ほぼ対称となる位置に角孔が穿たれている。舟底部の隔壁等であろうか。85は長辺側に溝付きの角孔が2ヶ所穿たれている。87は短辺側にやや大きい角孔が2ヶ所穿たれている。表面には削り加工やまな板状の刃物痕が多数認められる。88は4隅に角孔が穿たれている。89は大型の板材で上下にほぼ等間隔の角孔が穿たれている。表面には刃物痕が見られる。90は短辺に2ヶ所の角孔があり、表裏には斬(手斧)による方向性のある削りが顕著である。91は短辺側に2ヶ所の角孔がある。板の幅が狭く、矢筒翼部の可能性もある。110~113・115・116は板綴舟のあばらと考えられるものである。いずれも「く」の字状に屈曲している。110・111・113は枝分かれた材を加工したものである。110の上部には角形の平坦部が作出され、角孔が穿たれている。屈曲した下部は丸木材となっており、端部に抉入がある。111は上部に平坦部が作出され、角孔が穿たれている。113の表面は面取り加工されている。115・116は1本の丸木を屈曲させたものである。115の先端は斜めに一面を切り出している。116は表裏から斜めに切り出された、欠損した両端部となっている。112は屈曲した丸木材の一方に角孔が穿たれ、もう一方の断面は角形となるように削られている。表面にはイト、バが刻まれており、アイヌの所有物と考えられるが、和舟等の舵取り棒に似ている。117は丸材の上方に角形の貫が残存し、貫板には円形の木釘が残存して

いる。下端部は上方から下方に向かって斜めに削り出されている。土掘棒の可能性もある。

舟ミニチュア(114)：軸先は斜めに立上り、艫は角形に削り落されている。舟内部は粗く彫り込まれ、舟底部が平らとなるように整形されている。和舟等の模造品であろうか。

車輻受台座(118~155)：舷側板に縛り付けた車輻の台座である。両端部に舷側板に縛り止めるための袢りが付けられている。袢り面の裏側には平坦面が作出され、舷側板と密着させる構造となっている。車輻を受ける軸部(挿入される軸)の構造から立ち木の枝分れ部分を軸とした枝利用式と台座に後で軸を差し込んだ軸差込式の二種類に大きく分けられる。軸差込式は丸い頭部の軸が差し込まれる丸い軸孔の開く丸軸差込式と角形の頭部が差し込まれた角形の軸孔の開く角軸差込式に2分される。軸差込式のものには枝利用式に比べて軸周辺の台座幅が広く、断面が隅丸二等辺三角形や長方形となるものが多い。舷側板との接着面の面積は枝利用式よりも少なく、木取りは柁目となるものが多い。

118~124は枝利用式である。枝利用式の軸は傾斜しており、枝付け根の上部が車輻の回転運動により摩耗している。また、木取りは樹心を残す丸木或いは半割状のものが多い。119・121・123・124は断面が角形となるものである。119は断面を角形とするために表裏に削り痕が顕著である。120は表面の加工が丹念であるが、両端に袢りがなく未製品と考えられる。両端にはアタリのための削りがわずかに認められる。121の断面は角形であり、右端部は表裏から抉られている。舷側板への装着が表裏にかかわらず、装着可能な構造であった可能性がある。左端部袢りを欠損している。122は軸と両端の袢り部を欠損している。124の軸は他に比べて短く、平坦面には刃物を打ち当てたまま板状の刃物痕が顕著である。右端の袢り部を欠損している。138は一方の袢り部のみの破片であるが、木取りや断面形態から枝利用式と考えられる。

125~133・140は丸軸差込式である。125には丹念な加工痕が認められ、折れた丸軸が残存している。128は両端の袢り部が極端に小さく、表面には2本の短刻状のイト、バが認められる。128は角材に袢りを付けたものであり、両端部側がやや薄く加工されている。129~132・140は袢り部やその周辺から折損したものである。133は炭化している。140の表面にはアイウシ文()文・トゲ文が篆刻されている。

134~137は角軸差込式である。134の長方形の角孔には角軸頭部が残存し、左右に固定のための楔が打ち込まれている。135には角軸の頭部が残存している。右側の袢り部を欠損した小型のものである。136・137は角孔から剝割られるように欠損している。139は軸孔と袢り部を欠損しており、表面にはメカジキが線刻されている。2本組の短刻でイト、バが刻まれている。

141~152は袢り部のみの破片である。143・148~152は意図的に切断されている。141・142・150の表面にはイト、バが刻まれている。142の端部は炭化している。153~155は軸孔と袢り部を欠損している。154・155には切断痕が認められる。154には角軸と思われる痕跡が認められる。

車輻受台座・軸(156~204)：軸は頭部断面の形態が円形となる丸軸部と方形となる角軸部に分けられる。いずれも頭部直下が車輻の回転運動により、摩耗し帯状に括れている。摩耗部による抉れのために強度を失って折れているものも多い。

156~187は頭部断面が円形となる丸軸差込式の丸軸部である。156~161・165・171・174・176・177・179・182・183・185・186の木取りは板柁取り或いは半割取りとなるものである。162~164・166・172・173・175・178・180・181・184・187の木取りは樹心を残す丸木取りとなるものである。159・160は先端のみを細く加工している。169の頭部には切断痕が認められる。170の頭部直下は使用による摩耗が著しい。172は腐朽が著しい。171・173~183は頭部から摩耗部の破片である。184~187はほとんど使用されていないためか摩耗が少なく、頭部と軸部の区分が明瞭ではない。

188~201は頭部断面が方形となる角軸差込式の角軸部である。多くの場合は、角形となる頭部を意図的に削りだしている。188・190・191・201は頭部と軸部の区分が明瞭ではない。木取りは丸木取りとなるものがほとんどなく、柁目或るいは板目取りが大半を占める。188・189の頭部には固定のための楔が打ち込まれている。190の頭部には角形の小孔が穿たれている。191~198・201には角形の貫孔が穿たれている。191は貫孔から上部を欠損している。195・196・201は角孔に貫板が残存している。194~198・200は頭部~摩擦部の破片である。199は頭部の一部を欠損している。200の頭部は下部に縁を残して表裏を薄く削っている。202~204は頭部を欠損した摩擦のある軸部の破片である。

舟用具 (205~283、付図2・3)

車槽(205~225) : 全体は軸孔周辺で緩やかに膨らんで最大幅となり、軸差込孔は全長の1/3程の部分に穿たれる。槽柄(軸)は水掻部に比べて極端に短い。水掻部は外洋等の波抵抗を避けるために通常の早槽よりも幅が狭く、断面が凸レンズ形になる。軸孔及び孔口付近は舟の進行方向に向かって、やや楕円形に摩擦しているものが多い。軸部(柄)と水掻部では平坦面が90度ずれて柁目、板目が逆転するように木取りされている。

205~207・209~213は肩部及び軸孔部の破片である。209の両端部は切断されている。206・210は上部が切断されている。206の表面にはイト、バが刻まれており、210の下部は炭化している。207・208・213には上下2ヶ所にほぼ同じ大きさの軸孔が穿孔されている。208・214は水掻部を欠損している。柄(軸)の端部がほぼ同じ太さであり、断面が円形である。215~217は肩部破片である。217は斜めに切断されている。215の上部割れ口には軸孔の痕跡が見られる。218~225は水掻部の破片である。先端部に向かってやや細くなり、先端形が「U」字形になるものが多い。224・225は一方から刃を打ち当て切断している。224は炭化している。

早槽(226~248) : 242は水掻部の一部を欠損するほぼ完形のものである。全長200.03cm、水掻部幅18.3cmである。柄(軸)端部には「Y」字形の握部が挿入されるものである。水掻部肩部はナデ肩であり、水掻部は先端に向かってやや幅が細くなる。先端形が「U」字形となっている。243の柄(軸)上部は潰れたように欠損しており、明瞭な肩部を持たない。水掻部の中央部が最大幅となり、先端部に向かってやや細くなり、先端形は「U」字形となっている。水掻部表面にはまな板状の刃物痕が多数認められる。244は柄(軸)上部を欠損する。水掻部肩部の肩は張り出し、幅広である。先端部は角形となっている。水掻部の長さは他と比べ極端に短い。表面にはまな板状の刃物痕が多数認められる。245の柄(軸)上部は摩擦し、細くなっている。水掻部肩部は僅かに張り出すナデ肩である。水掻部の幅は先端部に向かってやや細くなり、先端形は「U」字形となっている。246はほぼ完形のものである。全長150.4cm、水掻部幅6.60cmである。水掻部肩部は張り出し、幅は先端部まで変わらず、先端形は角形となっている。247は柄(軸)と水掻部周縁を欠損している。水掻部肩部は張り出すタイプと推測され、幅が先端部まで変わらず、先端形が角形となるものであろう。248は柄(軸)上部を欠損する。明瞭な水掻部肩部を持たず、水掻部は柄(軸)から徐々に幅広となって先端部が最大幅となる。先端部は山形に切り出されている。226・227・231・232は肩部を持つ破片である。226は柄(軸)上部を欠損しており、肩部がナデ肩となるものである。水掻部は摩擦し薄くなっている。土掘棒として転用された可能性がある。227は柄(軸)上部が切断されている。水掻部肩部は張り出し、刻みが付けられている。231は肩の張り出す水掻部肩部破片である。232は肩の張り出す水掻部肩部破片であり、水掻部が切断されている。228~230は柄(軸)部の破片である。229・230は切断されており、229にはイト、バが刻まれている。233~241は水掻部である。233~235・237・239は意図的に切断されている。233の先端形は「V」字形となっている。236・238・240・241は水掻部破片である。236の上

部に丸孔の痕跡が認められる。238の表裏には加工痕が顕著であり、表面にはまな板状の刃物痕が多数認められる。先端形は241の角形と除いて「U」形となるものが多い。

いずれも水掻部の表面に製作時以降の刃物傷が無数にみられるものは、舟上で一時的にまな板として利用した痕跡とも考えられる。

早權握部(249~259)：權柄(軸)の末端に装着される握部であり、形態が「T」字形となるもの(249・252・256~258・259)と「Y」字形になるもの(250・251・253・254・255)がある。柄(軸)挿入部の孔はすべて角形である。249・251の綾線は面取りされており、孔には目釘が打ち込まれた柄(軸)が残存している。251には楔が打ち込まれている。252には二本の目釘が打ち込まれた柄(軸)が残存している。253には表裏及び上面に「X」「=」を組み合わせたイト、バが鮮明に刻まれている。また、木釘孔が6ヶ所あり、うち5ヶ所に木釘が残存している。表面に像嵌或るいは何かを固定したのであろうか。右端部が炭化している。254は角孔から半分を欠損している。表裏には短刻によるイト、バが刻まれている。255はこれまで最大の握部である。全長は26.8cmあり、角孔に目釘の打たれた柄(軸)が残存している。舵とり用の權に装着された大型の握部であろうか。256には目釘の打たれた柄(軸)が残存している。257には斜め2本の短刻によるイト、バが刻まれている。258の中央はややふくらみ、角孔には目釘と楔の打込まれた柄(軸)が残存している。259には目釘が残存している。

あか汲み(260~283)：260は開口部の広い塵取形のものである。一木を横木取りして汲みだし部から柄部までを削り出している。側板及び内面には製作時の削り痕が顕著に認められる。把手部は水を掻き出す際に、把手部が角底に当たり邪魔にならないように角度をつけている。把手端部には紐孔が穿たれ、表面には短刻によるイト、バが刻まれている。底面は平坦であり、側板は開くように立ち上がる。先端部の摩耗が著しい。底部裏には加工痕とは別の多数の刃物痕が認められ、内面は部分的に炭化している箇所がある。261は塵取形で肩の角張るものである。把手部の上部と水掻部を半損している。把手部と底面の角度は少く、底面裏には炭化した箇所がある。262は塵取形で把手が短く、把手部と底面の角度や比高さがほとんどない。底面は平坦であり、側板は開くように立ち上がる。側板部が浅いことから、塵取の可能性もある。263は塵取形で長い把手が削りだされ、側板部を欠損している。底面は平坦であり、側板は僅かに開いている。先端部には補修時の溝付きの孔が穿たれており、帯状樹皮紐で結束していたと考えられる。264は底部から左側板部にかけての破片である。265は把手部を欠損しており、側板部口唇に緑取り線が刻まれている。中央部から半損しており、2個1対になる補修孔が穿たれている。底部は丸底となっている。266は底部と左側板部の破片であり、底面はやや丸い。267は底部右側の破片であり、側板部を欠損している。268は右側板部の破片である。269は右側板部を欠損した底部破片である。270は左側板の破片である。271は右底部から側板にかけての破片である。272は補修孔にサクラ樹皮の残存する底部破片である。273は左側板部の破片である。側板には底部を固定した時に木釘痕が認められる。274~283は把手片である。274~276・278~283は側板を残して破損している。274・275の把手端部は腐朽・摩耗している。276の把手端部に紐孔が穿たれており、上面にイト、バが刻まれている。277は把手端部に環状の紐孔を作出しており、端部には滑り止め用の突起が作出されている。278・279の把手端部には滑り止め用の突起が作出されている。280は端部に向かって太くなり、把手端部は斜めに切り出されている。281・282・283は窓状となる把手部である。281は角形の窓状の把手部である。282は三角窓状となる把手部の上部破片であり、上面に「X」、「I」、「X」字状のイト、バが刻まれている。283は三角窓状となる把手部の下部破片である。

漁撈具(284~396、付図4~7)

回転式離頭鉤中柄部(284~348)：回転式離頭鉤中柄は1本式(284~311・338・348)と2本組式

(312~331・334~337・339~347)に分けられる。いずれも基部の裏面に棹(柄)部と密着させるための平坦面が作出され、樹皮や紐などで固定する帯状の袢り部が削り出されている。1本式は先端部から基部にかけて直線的な構造となっており、帯状の袢り部分付近が最大幅となるように整形されている。裏面には矢中柄部同様に木の髓を溝状に残しているものが多い。1本式(平均長35.881cm)は2本組式(平均長25.05cm)よりも長いものが多い。2本組式は基部の帯状の袢り部分付近で屈曲し、先端部に向かって緩やかに湾曲する。1本式同様に帯状の袢り部分付近が最大幅となっている。裏面には溝状の髓部分が加工により切り落されて短く残存している。2本組式は屈曲部の作出される構造から判断して、素材となる樹木が1本式よりも太いものを選択されている。1本式・2本組式には、先端部に離頭銛先を挿入した摩耗や潰れ等の痕跡を残すもの(285~294・297~299・301・316・319・322・325~327・329・339・334~339)や挿入および使用により先端部を折損したもの(300~304・309・314・320)がある。これらから先端部は銛先中に1.5~2.5cm程挿入されていたものと推定される。先端部の径は1本式が0.7~1.2cm程の太さであるのに対して、2本組式では0.4~0.8cm程の太さのものが多く、1本式よりも鋭く尖っている。装着された銛先もこれに対応して、1本式では大型のものが使用され、2本組式では小型のものが使用されていたと推測される。以上から出土した回転式離頭銛柄部は銛先を装着して、実際に漁罾等に使用したものであることが理解できる。1本式の291の袢り部は2段となっており、帯状の高まりで区別されている。296・297には明瞭な袢り部がなく、1段低く加工し、基部に向かって徐々に細くなる茎部のような形状となっている。298~301・303・304には袢り部及び基部的な加工が見られない。1本式には基部に短刻列を付けるものは希であり、基部破片の348がその例である。2本組式には基部に短刻列を付けるものが多く、312~314・308・319・323・324・326・327・328・340・341・344・347の基部には短刻列が付けられている。324や347のように階段状に袢ったものもある。縛り付けた樹皮紐や縄・紐等がずれないように、滑り止めとして加工したものであろう。329・332・334~339は基部を欠損している。340~348は基部破片である。307の基部は切断されており、311・341は先端部が切断されている。

回転式離頭銛指掛部(349~363)：離頭銛柄を投げる際に指を引掛ける部分である。棹(柄)部の最後部に挿入し樹皮などを巻き締めて固定される。大型の矢筈状の形態であり、指を掛ける部分が広がった「U」字形に挟られている。内部は髓を削り抜いて円錐台形の空洞となっている。上部は帯状に袢り、籠状の高まりで区画して、巻き締める樹皮紐等がずれないように加工している。平面形は先端の孔口部から「U」字形の指掛部に向かって幅広となる。先端の孔口部断面はいずれも円形であり、「U」字形の指掛部断面では楕円形となるものが多い。形態的には以下の4種類が認められる。

先端の孔口が小さく、指掛部が「U」字形に大きく開くもの(349~354)。先端の孔口が大きく、寸足らずで、指掛部が「U」字形に大きく開くもの(355・356)。先端の孔口から「U」字形の指掛部に向かって徐々に幅広となるもの(357~359・361)。先端の孔口から「U」字形の指掛部まで寸胴となるもの(362・363)等がある。349には差込式の細帯状樹皮が巻かれており、側面に小孔が貫通している。小孔の下にはイト、バが刻まれている。350には帯状の袢りの下に2段の細い籠状の高まりが作出されている。351・357・359・363は孔口直下に細い溝状の袢りが廻っている。352は孔口を欠損している。353は1/3程の破片であるが、短刻列やアイウシ文等のイト、バ状文様が刻まれている。354は「U」字形の指掛部である。355・359~362の孔口直下の帯状溝は斜めに挟られている。356には帯状の袢りや籠状の高まりが作出され、罫引線にそってイト、バが刻まれている。

回転式離頭銛柄(柄)片(396)：両端部を欠損している。表面の平面が炭化している。

銛先状製品片(333)：先端にヤスのような返しを付けた特殊な形態である。先が小さく、これ自

体で鋸として機能するのか、或いは特殊な鋸先を装着するための加工であるのか不明である。

魚突鉤鋸台部 (366~377) : 回転する鉄製の鉤を嵌め込む溝が彫られ、溝内の先端部分には鉄鉤を付けた紐を通す、丸孔が穿たれている。溝の下方には鉤に付けられた紐を固定するための帯状の挟りがある。基部には棹(柄)部と密着させるために平坦面が作出されている。素材となる材はアジサイ属などの柔らかい髓のある樹種であり、ほとんどが丸木取りである。出土した魚突鉤鋸台部は小型でやや細いものが多いことから、サケ以外のやや小型魚の捕獲に使用したものであろう。364・365はミニチュアである。溝や溝内の小孔、基部平坦面、挟り部等が細部まで作出されている。366~368・369の石突部は使用により、潰れや摩耗が認められる。367の先端部には石突部保護のために細帯状の樹皮が巻き縛られていた痕跡が残る。368の基部表面には斜めの短刻列が刻まれている。367~369には溝の直下に帯状の挟り部が2段作出されている。364・366・369は基部を欠損している。370・371は未製品であり、溝上部に孔が穿たれていない。370は石突部と基部側が切断されている。製作に失敗し廃棄されたものであろうか。371は下部を欠損した棒状に細長い素材を利用したものである。372は石突部と基部側を欠損している。上部の溝は孔部分から折れており、帯状の挟り部が3段作出されている。挟り部付近には罫引線が廻り、その上にイト、バ状の短刻が刻まれている。中央部は部分的に炭化している。373・376は裏面に平坦面の作出された基部破片である。棹(柄)に装着する帯状の挟りがある。374・375・377は上端部の切断された基部である。裏面には平坦面が作出され、帯状の挟りが2~3段付けられている。374には短刻列が刻まれている。377の切断面は部分的に炭化している。

魚突鉤鋸棹(柄) (383~385・390・392・393・395) : 棹(柄)の径は3cm前後のものが多く、完全な状態で出土したものはない。383~385・392・393には装着時に樹皮紐や縄などで固定するための挟りが付けられたものである。383の上部は切断されている。384・385・392には平坦面が作出されている。384は面取り加工された材であり、上部の断面は角形となっている。下部を欠損している。385は上面に2ヶ所の挟りと側縁に1ヶ所の挟りがある。392の先端側は僅かに挟られており、下部に向かって僅かに湾曲している。390は面取り加工した材であり、部分的に削り痕が明瞭である。下部は摩耗・腐朽により欠損している。

回転式離頭鋸中柄または魚突鉤鋸台の基部片 (378~382) : いずれも柄に装着するための帯状の挟り部と裏面に平坦面が作出されている。回転式離頭鋸中柄では1本式の基部と考えられる。378・379・380・382の上部は切断されている。378には2ヶ所に挟り部が作出されている。380は材の厚さや下端部に挟りがあることから棹(柄)の先端部の可能性もある。381・382の木取りが丸木材であることから魚突鉤鋸台の基部の可能性もある。

回転式離頭鋸または魚突鉤鋸の棹(柄) (386~389・391・394) : 枝や節などがなく細長い棒状となるものを取りまとめた。386の上部は切断され、下部に平坦面が作出されている。387の上部には粗い平坦面と挟りが認められる。下部は中央部の表裏から徐々に薄く削りだされている。388の左側は中央部から面取り加工されており、右側の先端は突起状に細く加工されている。389は左側を破損しており、右先端は凸形に丸い。388・389とも樹種がサクラ属であることから早樫などの柄(軸)の破損品の可能性もある。391は径が1.5cm前後と細く、左側を破損している。394は両端部を欠損しており、中央部が摩耗によりやや細くなっている。回転式離頭鋸の棹(柄)の握り部であろうか。

狩猟具 (397~439、付図8)

矢中柄・矢(鏃)部 (397~418) : 397~400は矢中柄部である。いずれも断面は丸形である。397・398・400には明瞭な基部が作出されている。397は先端部と基部を欠損している。398の先端は丸く摩耗している。400の先端はやや扁平となり、摩耗している。矢(鏃)が装着された痕跡と考えられる。

399には明瞭な基部が認められない。尖端が摩耗し、下端部は杭先状に削られている。401~404は尖端部の形態が円錐形や凸形となるものであり、鳥などに射って打撃により捕えたものであろうか。401・403の尖端は円錐状に削りだされている。断面は丸く、401には明瞭な基部が作出されている。403の表面には樹皮が残存している。402の尖端は凸形であり、横に挟りが認められる。断面は角形に近く、基部を欠損している。404は尖端部のみが僅かに突起状になっている。断面は丸形で基部に向かって徐々に細く加工されている。405~414は先端部が平坦となっているものである。鳥用の矢(鐵)あるいは練習用、子供の玩具用であろうか。405は明瞭な基部が作出され、表面に短刻によるイト、バが刻まれている。断面は丸形である。406は体部から基部に向かって徐々に細く加工されている。407の上部は細く基部の付け根が最大径となっている。408~411は基部に向かって徐々に細く加工され、基部を欠損している。断面は丸形であり、先端部が最大径となっている。412~414は寸胴形で細長い体部である。断面は不整形であり、明瞭な基部が作出されている。414の表面には短刻によるイト、バが刻まれている。415は尖端部を欠損した寸胴形のものである。上部には罫引線に沿って短刻によるイト、バが刻まれている。断面は楕円形で、明瞭な基部が作出されている。416の先端は丸く、体部が細長い寸胴形のものである。断面は楕円形で、明瞭な基部が作出されている。417の尖端部は丸く、体部下から徐々に細くなって基部としている。断面は丸形である。418の先端は表裏から削られ山形となっている。断面は半円形であり、基部は徐々に細く加工されている。417・418も鳥用の矢(鐵)等であろうか。

矢柄部 (419~423) : 419~421は弓の弦を掛ける「U」字状に挟られた矢筈部を残す矢柄片である。419の先端部は矢や矢中柄の基部の挿入により割れている。長さ32.0cm、径0.85cmである。胴部上方に最大径があり、両端に向かってやや細く加工され、矢筈部が僅かに太くなっている。重心の位置を前方とするための加工であろうか。胴部下方には細く薄いサクラ樹皮が螺旋状に隙間なく巻き留められている。420は胴部中央より上方が摩耗しており、先端部を僅かに欠損している。長さ37.90cm、径0.85~0.87cmである。矢筈の上方がやや細く加工されており、矢筈横が炭化している。421には先端部に矢や矢中柄基部を装着した紐等の痕跡が僅かに見られる。419同様に胴部上方に最大径があり、両端に向かってやや細く加工され、矢筈部が僅かに太くなっている。長さ41.50cm、径0.90cmである。422・423は矢に関わる用具と考えられる。422は竹管の先端に帯状の装着痕が認められるものであり、胴部にも螺旋状に樹皮などが巻かれていた痕跡が残る。下部を欠損している。423は上部に挟りのあるものであり、下部は炭化している。

矢筈部 (424~426) : 弓の弦を掛ける「U」字状に挟られた部分である。424~426は大型の矢柄の筈部と考えられるものである。424は上下を欠損している。425の上部は切断され、矢柄部と筈部を区分するように削りだしている。426は矢柄に装着する寸胴形の筈部であり、筈部が表裏から山形に削られている。岩脱式の筈部であろうか。

弓 (427~429) : 427は中央部から下部を欠損している。上部の筈部は山形に削られた先端となり、表裏に3本の短刻が刻まれている。その両側には2本の刻みがある。断面は円形で、木取りは丸木取りである。表面が丹念に磨かれている。428は上下端部を欠損している。表面には薄く加工した幅0.6cm程のサクラ樹皮を螺旋状に巻いている。断面は円形であり、表面が磨かれている。樹種はニシキギ属である。429は弓筈部の破片である。下部は炭化し欠損している。端部を段状に細く削り込んで筈部としており、表面に薄く加工した幅0.5cm程のサクラ樹皮を螺旋状に巻いている。断面は円形であり、表面が磨かれている。樹種はイチイである。

テン捕り異切断品片? (430) : 粗く削られた筒状の板材であり、この部分が反動で落下し小型獣の首などを押さえつけるらしい(北海道開拓記念館 出利葉氏のご教授による)。上部を欠損しているが、葦や紐などを縛ったと思われる抉られた部分が認められる。断面は長方形であり、下部はやや薄く切り出されている。

仕掛弓台部ミニチュア (431・432) : 復元図(アイヌ民族誌より)のような、スリット部を持つタイプである。復元図の矢と樹皮製矢筒の位置は本来は仕掛弓台上部に位置すべきものとと言われる。432は弓を固定する側を欠損している。柁目の薄い板材を使用しており、小孔の開けられた尾部は山形に加工している。小孔は引きがねの紐を結び止める部分であり、線刻で囲んである。スリット部は下部を破損している。431は完形の台部である。弓を固定する部分は「V」字に抉り、その後方には弓及び毒矢を保護する樹皮製筒を縛り留めるための抉りが上下にある。中央には弦の張りを調整するスリット部があり、尾部には引きがねの紐を結び止める小孔が穿たれている。離型として作成されたものであろうか。

矢筒翼部 (433~439) : 矢筒の両側に付けられる翼部分と考えられる。433~435・436・438は有孔板材の片側を波状に加工し、側縁部に短刻によるイト、バを刻んでいる。433~435は有孔板材の片側を3連のアイウシ文()状に抉り込んでいる。433には矢筒に縛り止めたサクラの樹皮紐が上下の角孔に残存している。側縁には「=」「=」の短刻によるイト、バが刻まれている。434は2ヶ所の角孔から縦に欠損している。側縁には「=」「X」「=」の短刻によるイト、バが刻まれている。435には5ヶ所の角孔が認められ、角孔部から縦に欠損している。表面には3連の突起の付けられた円形文が彫刻されており、中央は2重の円形文となっている。裏面にも薄く円形文の痕跡が認められる。円形文の突起は抉られたアイウシ文状の先端部につながっている。436は片側の中央部のみをアイウシ文()状に抉り込んでおり、その上下には「=」「/」「=」の短刻によるイト、バ部を角形に削り残している。板の中央には長方形の孔が1ヶ所、上部には角孔が2ヶ所、下部には角孔が2ヶ所穿たれている。表裏には折(手斧)による削り痕が顕著である。437には凸形の板の上下に小孔が斜めに各2ヶ所穿たれている。438の片側は3連のアイウシ文()状に抉り込んでいる。表面の腐朽・摩耗が著しいが、側縁部にかすかに短刻によるイト、バが認められる。439は上下端を欠損する有孔板材であり、側縁部に大型の刻み列が認められる。

切籠具 (440~496、付図9)

鏝 (440) : 楕円形の中央部に刀身に挿入する細長い台形の孔が穿たれている。縁辺は角を落して丸く加工してある。

刀柄 (441) : 全体は緩く反っており、柄頭は山形に切り出されている。柄縁と柄頭側には頭部挿入式のサクラの細带状樹皮が巻締められており、中央の2ヶ所に巻き締められていた痕跡が認められる。表面には黒漆が塗られ、目釘孔やそれを含む孔が一線上に11ヶ所穿たれている。柄頭側には銅釘と鉄釘が残存している。像嵌や目貫等で飾られていた可能性がある。断面は楕円形であり、木取りは柁目である。

山刀 (442) : 柄頭に向かって緩く反り、湾曲した柄頭の下部には突起が作出されている。柄縁には頭部挿入式のサクラの細带状樹皮が巻締められており、その後には籬状の高まりがある。片側表面には茎挿入のためスリットが開けられ、中央部が帯状に低く削られている。ここには樹皮が巻かれていたと推定される。2ヶ所に目釘が残存している。

小刀柄 (443~474) : 形態的には大きく3つに分けられる。柄全体が緩く反り、柄頭が湾曲するもの(443~456・469・470)。柄全体が直線的であり、柄頭のみが斜め或いは抉られるもの(457・458)。

柄全体が直線的であり、柄頭が平坦となるもの(459~463・466~468・473)とがある。443は小口を欠損している。スリットの後に2本の罫引線が廻っている。表面にはモレウ文様が彫られている。444にはスリットと罫引線が認められる。445の柄縁には罫引線が廻り、樹皮が巻かれていた痕跡がある。448にはスリットが認められる。449は小口側を一段細く削りだしている。451は柄縁に罫引線が廻り、スリットが認められる。柄縁には樹皮が巻かれていた痕跡がある。453は柄縁に帯状の溝が廻り、上下に8連の袢りが連続している。表面にはその袢りを繋ぐように短刻列が刻まれている。スリットが認められる。454にはスリットと罫引線が認められる。455はスリット部から刺がれるように削られている。456は表面の加工が粗く、柄縁を欠損している。457は半身となっており、表面には大小の四角形が彫り込まれている。上部側縁には袢りがある。内面は挿入された茎の形に凹んでいる。柄頭は斜めに切り出され一段薄く加工されている。458は柄縁から柄頭に向かってやや細くなり、柄頭は斜めに抉られている。459は目釘の他に9ヶ所の木釘孔がある。柄縁と柄頭側に罫引線が廻っており、表面にイト、バが刻まれている。460は中央部に籐状の高まりを削りだしている。柄縁の一部が炭化している。461は柄縁に向かってやや細く加工されている。463には幅0.7cmほどの薄いサクラ樹皮が5連巻かれている。464は曲線的な彫刻の見られる破片である。柄縁には樹皮を巻いた痕跡と2本の罫引線がある。465は全面に線刻で細密な文様を彫り込んでいる。柄頭は斜めとなっている。466は表面に帯状の袢りと罫引線が認められる。上部縁辺には罫引線に沿って刻目がある。467には帯状の袢りが2ヶ所に認められる。468・469は未製品である。小口に茎挿入の掘り込みがない。468の柄頭を欠損している。柄頭側には円形の線刻が認められる。469の表面には円形のイト、バが刻まれている。471の表面には扇形形のイト、バが刻まれている。

小刀模造品(474・475) : 474の削り加工は丹念である。棟の反りがない直線的な平棟片切刃造りである。茎は短く、区は刃部側のみである。全体は切先に向かって細く鋭く切り出されている。475は粗く削り出されており、断面が厚い。茎から切先に向かって緩やかに反っている。平棟片切刃造りである。茎は短く、区は刃部側のみである。交易や製作を依頼する場合の雛形であろうか。

小刀樹皮製鞘(476~482) : 樹皮を折りたたみ、その縁を縫い留めて鞘としたものである。製作形態には次の4種がある。復元図のとおりA、一枚のシラカバ樹皮を短軸方向に1回折重ねた後、さらに長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(476)。B、予め切り揃えた繊維方向の同じ2枚のシラカバ樹皮を重ねて、長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(477・478・480)。C、予め切り揃えた繊維方向の異なる2枚のシラカバ樹皮を重ねて、長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(479・482)。D、1枚のシラカバ樹皮を重ねて、長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(481)。476は突起部の張出しが小さく、角形である。10ヶ所の縫い孔がある。477は突起部の張出しが小さく、斜めに切り出された角形である。14ヶ所の縫い孔と縫いの内側に2ヶ所の吊り紐用の孔がある。478は突起部の張出しが大きく、丸形である。下部は欠損している。大きめの10ヶ所の縫い孔が現存し、縫い孔の外側に2ヶ所の吊り紐用の孔がある。479は突起部の張出しが小さく、角形である。下部の上面の樹皮は欠損している。表面には曲線的な線刻が描かれている。細く小さな13ヶ所の縫い孔があり、縫い孔の外に2ヶ所の吊り紐用の孔がある。480は突起部の張出しが大きく、丸形である。下部は欠損している。15ヶ所の縫い孔が現存し、縫い孔の外に2ヶ所の吊り紐用の孔がある。481は突起部の張出しが小さく、丸形である。下部を欠損している。表面には曲線的な線刻が描かれ、縫い孔に沿って罫引線が引かれている。11ヶ所の縫い孔が現存し、縫い孔の外に2ヶ所の吊り紐用の孔がある。482は突起部の張出しが大きく、角形である。下部を欠損している。表面には曲線的な線刻が描かれ、縫い孔に沿って罫引線が引かれている。11ヶ所の縫い孔が現存し、縫い孔に挟まれて1ヶ所の吊り紐用

の孔がある。

鞘片 (483・484) : 鞘板と考えられるものである。483は薄い柾目板に罫引線と樹皮紐を挿入した短いスリットが認められる。484は2枚重ねの柾目板に頭部挿入式のサクラの細帯状樹皮巻が固定されている。

山刀細帯執部 (485~496) : 鞘に細帯状の樹皮紐で装着・固定し、帯等に引っ掛けるフック状の突起部分である。485・486・487は装着される上下端を欠損している。485・486の形態は丸形であり、窓部は楕円形さみである。487・489の形態は角形であり、窓部は長楕円形となっている。上部が炭化している。488・490~495は片側のみの破片である。490の上部は切斷されており、形態に合わせて表裏に三角形の彫刻がある。493の下部には抉りのある装着部が残存している。494・495はフック状に加工されてない。496は装着部などが粗く加工された未製品である。

袋式鉄斧柄 (497・498・543) : 鉄斧の膝柄と考えられるものである。497は小型で袋部が丸形となる新(千)斧が装着されたものであり、装着部の付け根が摩耗している。498は大型の袋式鉄斧が装着されたものであろうか。柄頭が削り出されており、表面に2本の筋状に装着痕が見られる。風呂敷の柄やそのまま敷として使用したとも考えられる。下端部は切斷されている。543は股木材の未製品である。

農耕・採集具 (499~510、付図10)

鈎鎌片 (499・500) : 股木材を利用した木鎌である。使用により先端部が摩耗している。499は上部に樹皮が残存し、先端部を欠損している。500の先端部は鋭く切り出され、下部を欠損している。

土掘棒 (501~510) : 棒状材を利用した根菜等の食物採集や農耕用の土掘具である。いずれも先端部のみが表裏から筒状に削られ、先端が「V」字状の断面となる。先端部には使用による摩耗、ささくれ、潰れが認められる。504~506は角材の先端部を加工したものである。504は先端部を欠損している。505・506は両端が表裏から削られており、先端部に剥離が認められる。507は上端部の節部分から欠損している。断面は凸レンズ形であり、榧水掻部の転用品とも考えられる。508は面取りされた楕円材の裏面のみを中央部から削り出している。509は丸木材の両端部を表裏から削って先端部としている。510は丸木材の先端部のみを削り出している。先端部が折損している。

工具 (511~548、付図11)

縦鎌 (511~542) : 以下の4種類に分けられる。A. 股木の幹を頭部に、枝を柄に利用した枝利用式 (511~525)。B. 頭部の側縁を台形に抉って、上部断面が台形となる柄を横から挿入する抉り式 (526~531)。C. 頭部上部から垂直に角孔を穿孔し、貫通した角孔に柄を挿入する柄孔式 (532~540)。D. 頭部下から垂直に角孔を彫り込み、貫通していない角孔に柄を挿入する柄差込式 (この型では出土していない) 等がある。

枝利用式には頭部に対して柄が極端に斜めのもの (515・518・520~522・525) と垂直なもの (511~514・516・517・519・523・524) がある。いずれも打面に使用による潰れや摩耗等が認められる。513の頭部はやや角形となっている。515・516・520・521には樹皮が残存している。521の柄部は炭化している。528には折れた柄部が残存している。531は柄の抉りの横に「V」字形の抉りがある。533の頭部はふたつに割れている。532・537の頭部は角孔開口部を溝状に抉っている。534は頭部の一部が炭化している。535~539には折れた柄部が残存している。541・542は頭部の未製品である。

縦鎌または鉄斧柄部 (544~548) : いずれも胴部の断面は楕円形である。544の上端部は細い角形に削られている。545の上端部は切斷されている。546の上端部は幅広の角形に削られている。547・548の上端部は切斷されている。

農耕・工具 (549~570、付図11)

横槌 (549~570) : 横槌は敲打部と柄部が一直線になったものである。農具、工具、食品加工など用途を限定することは難しい。ここでは渡辺 誠 (1985) の形態分類に、本遺跡の特殊な形態のHタイプ、Iタイプを独自に追加している。

敲打部と柄部の境界が直角に近いものは、太くて短い形態のAタイプ (0 B層にはない)、細く長い形態のBタイプ (565・569?), 極端に細長い形態のCタイプ (0 B層にはない) に分けられる。敲打部と柄部の境界が斜めに傾斜するものは、太くて短い形態のDタイプ (0 B層にはない)、細くて長い形態のEタイプ (549~561・563・567・568・570) に分けられる。敲打部先端にタガ状隆帯の見られるもののFタイプ (0 B層にはない)、敲打部と柄部の境界が不鮮明なもののGタイプ (562)、敲打部と柄部の境界が明瞭であり、敲打部が丸く柄部が極端に長いもののHタイプ (564)、敲打部が極端に大きく片側に偏り、柄部が短いもののIタイプ (566) 等がある。

550・553・559は柄部を欠損している。552・558・559は敲打部の叩き痕が顕著である。555は断面が角形となっている。557には敲打した刃物傷様の痕跡が無数に認められる。562の断面は隅丸三角形となり、敲打部にイト、バが刻まれている。柄部には2本組の曲線の線刻が廻っている。敲打部には叩き痕が顕著である。魚叩棒あるいは皮なめし用具であろうか。564は柄部端を欠損している。魚叩棒であろうか。565は敲打部の先端が炭化している。566の敲打部は角形であり、上部に刃物痕が認められる。567は両側に節が残っている未製品である。568は敲打部の上面が大きく抉られており、先端部に切断痕が顕著である。569は枝分かれ部が残存しており、未製品の可能性がある。570は長さ64.7 cm、敲打部径11.0~9.9 cmの掛矢である。敲打部には樹皮が残存しており、叩き痕が顕著である。打点部の樹皮が剥がれている。

作業台 (台木) (571~576) : 平坦面部に鉋等の刃を打ち当てた無数の線状切傷痕が残存するものである。571は小型の板材である。無数の刃物痕により、中央部が凹んでいる。表面には「+」や「()」等の彫刻状のものも見られる。裏面の中央は炭化して凹んでいる。まな板や発火具等の台として使用されたものであろう。572・573は厚板材である。表裏に切傷痕が多数残存する。574は太い角材である。表面や側面に多数の線状切傷痕が残存する。575・576は丸木材側縁の平坦面に鉋等による無数の刃物痕が残存するものである。575の右端部は炭化している。576の右端部と裏面が炭化している。

発火具・伊鉤・燈火用具 (577~624、付図12)

発火具 (577~600) : 577は火打金の握部と思われる。内部が溝状に抉られ、表面に目釘孔がある。通常の火打金と装着形態が異なることから、穂摘具や半引金の可能性も考えられる。578~589はヒキリ棒である。摩擦面はやや凸形に炭化しており、擦焼け痕はヒキリ棒に対してほぼ水平となっている。578~581はニレ属を素材としたものである。断面はいずれも円形である。578・580・582は全長が短く、上部が細く加工されている。ソケット等に挿入して使用した可能性もある。583~588はスギ、ヒノキ属等の針葉樹を素材としており、桶・樽材の転用と考えられる。断面は楕円形となるものが多い。583の上部は板状に削られ、炭化している。イト、バ状の線刻が認められる。584~587の上部は意図的に斜めに削られており、ソケットや柄に装着されたものであろうか。584には木釘孔が認められる。587の先端部側縁にはヒキリウスが彫り込まれている。589はアジサイ属を素材としたものであり、髓のある丸木材を使用している。590~600はヒキリ板である。木取りのほとんどが柁目取りである。ヒキリウスは1~4カ所作出来されており、小型の材に多く残されている。592は2カ所、593は2カ所、594は4カ所である。ヒキリ板はヒキリ棒に比べ、素材とした樹種の種類が多く、590~595はスギ・ヒノキ類等の針葉樹材、596はカツラ属、597はニガキ属?、598はコナラ属、599はハリギリ属、600

はモクレン属等を素材としている。590には木釘孔が4ヵ所認められる。591は端部抉入部付の板材を転用している。590・592～596は細い角材や板材を素材としている。597は丸木材に平坦面を作出している。598・600は板材や有孔板材を転用したものであり、600は車輻軸部を転用している。590・598の端部には切断痕がある。

炉鉤 (601～619)：鉤下部が焦げているもの (601・605～608・618) と焦げの無いもの (602～604・609～617・619) がある。焦げの無いものも鉤部の形態から炉鉤として扱っている。器具等を吊り下げたフックの可能性もある。601～609は板材や角材を素材としている。601の上部には吊り孔があり、鉤が3段連続した自在鉤である。602には吊り孔があり、イト、バが刻まれている。604には吊り紐用の挟りがある。605は全面を炭化したものである。610～619は丸木材を素材としている。その内の612～619は枝分かれした股木材を鉤部としている。611・613・614・615には吊り紐用の挟りがある。614・616・617には樹皮が残存している。614・619は用具掛け用のフックの可能性もある。

燈火用挟木 (620～624)：螺旋状に巻いて筒形にしたシラカバ樹皮を挟み込み、燈火 (松明) として使用したものである。火の点いた樹皮を挟むため、内側が炭化している。620は「Y」字状に分かれた枝の内面が炭化している。621～624は割り裂いた丸木材の上部と内面が炭化している。623の割れ目下部には楔を斜めに挟み込んでいる。624は割り裂かれた上端部を欠損している。

容器類 (625～718、付図13～16)

樽 (625～635・637～641・645・646・653・655～672・673～718)：625は側板の廻る底部片である。表面には箱が嵌められていた痕が顕著である。626～633は栓孔のある蓋板片である。627・628は部分的に炭化しており、628には円弧状の焼印がある。634・645・646は栓孔のない蓋板片である。634には判読不明の墨書きがある。645の表面には刃物痕が多数あり、まな板として使用された可能性がある。646には丸に「杉□□」の焼印が押されている。635・637～641・653は蓋または底板である。635は完全な形である。653は木釘が残存し、下部が炭化している。655～672は側板である。656・657・659・665は切断されている。663・664には箱の痕跡がある。673～718は栓である。先の細い698・704・714・718等は徳利などの栓とも考えられる。

桶 (642～644・647～652・654)：642～644・647～652・654は底板片である。644は炭化している。651は下部が切断されている。

桶・樽蓋または底板片 (636)：側縁に木釘が3ヵ所残存している。腐朽・摩耗が著しい。

曲げ物 (719～739)：719・720は桶の把手片である。719の上部側縁にはイト、バが刻まれている。720は把手の挟り部である。721～725は側板片である。722には木釘孔が2ヵ所確認できることからクレゾコであったと考えられる。725は内面に罫引線が無く、5枚の証目板をサクラ樹皮の紐で縫い綴っている。726～738は底板である。729・731には炭化部分がある。731は破壊後に炭化したものである。730・732～735・738は側板を固定する木釘孔や木釘が残存するクレゾコの底板である。734・735には表裏に刃物痕が多数認められる。734の中央には3ヵ所の小孔が見られ、蓋板の可能性もある。734・737～739は生漆塗のものである。737には樹皮紐が縫い込まれている。739はシントコ (行器) 等の蓋板と考えられ、生漆が塗られている。表裏に刃物痕があり、「干」と墨書きされている。

箱物 (740～770)：740～755・758・760・766は折敷等の側板片である。756・757・759・763は箱物の底板である。765は表面や側縁部に木釘孔のある箱物側板である。768はアイウシ文状の脚部であり、曲線が線刻されている。753には刃物傷が見られる。759～764には漆が塗られている。757には巴文状の彫刻が刻まれている。759は生漆が塗られ、サクラ樹皮紐で縫われている。760は黒漆地に赤漆が塗られており、曲線文が彫刻されている。761は表裏とも黒漆塗りである。762・763は生漆地に赤漆が

塗られている。764は黒漆地に赤漆が塗られ、四角で区画された中に草花文が描かれている。割板を樹皮紐で縫い合わせている。753・766・767には部分的な炭化箇所がある。767・769・770は脚部であろうか。769・770の上部には「V」字形の挟りがある。

漆塗椀 (771~779・781~783) : 漆膜は分析過程であるため、肉眼的観察による。ここでは朱と赤を区別せず、赤漆と記している。木地や膜の劣化が著しいため、詳細な観察は出来ていない。曲げ物、箱物等も同様な状況である。木地は半数以上がブナ属であり、トチノキ属、ケヤキ属がこれに続く、モクレン属やハンノキ属等も見られる。771~777・779は口縁部破片である。778・783は胴部破片である。781・782は口縁部から底部破片であり、深く抉られた高台の付くものである。771・775は内外面とも赤漆塗りである。772~774・776・777・781~783は内外面とも黒漆地に赤漆塗りである。778・779は内面に赤漆が塗られ、外面は黒漆が塗られている。779の外面には赤漆で文様が描かれている。

漆塗セルラウ (780) : 赤漆が塗られている。塵首や吸口に挿入される部分には漆膜がない。

削物容器 (784~786) : 784は盆状容器の切断品である。側縁が緩く立ち上がる。785・786は粗い削りの皿あるいは盆状の容器片であり、側縁が僅かに立ち上がる。787は厚板材の周縁を残して盆状としたものであろう。788は厚板材の周縁を残すように浅く削り込んだものである。下部を欠損している。山形となる上部の表面には刃物痕があり、表裏には小さな炭化痕が所々に見られる。

食用具 (789~1043、付図17)

杓子 (789~808) : 789は頭部のみを半損している大型のものであり、一木から削り出している。頭部は柄の付け根から「く」の字状に極端に屈曲する。内面は使い込まれて黒色の光沢を持つ部分がある。裏面には加工時の削り痕が顕著である。柄は緩やかに内反りし、柄端部には全面に彫刻を施した窓の開く耳が付けられている。柄の断面は楕円形である。790・791は柄の残る頭部破片である。792~797・799・800は頭部破片である。798・801~803は柄の先端が僅かに残る頭部破片である。793と802は同一個体である。796と798は同一個体であり、接合する。804は柄部である。断面は楕円形で緩やかに内反りする。柄端部には円形の幾何学的文様が彫刻されている。805~808は柄の耳部である。805は小型杓子のもので、弧状文様が刻まれている。806は全面にアイウシ文やモレウ文が彫刻されている。807は窓付きのものである。2本の線刻で輪郭を縁取るように彫刻されている。808は中央孔に沿って文様が構成されている。809は窓の開く耳に付けられた木鎖の破片と思われる。810は柄の耳部と考えられる。

篋 (811~841) : 篋状の形態のものをとりまとめた。形態は4種に分けた。A. 篋部と柄部が明瞭に区分できるもの (811・817・823・828)、B. 柄部から篋先に向かって徐々に幅広になるもの (812~816・818・820~827・829・831~835・837・839)、C. 柄部との篋先と幅にほとんど差が無いもの (819・830・836)、D. 先のみを篋状に加工したもの (840・841)、E. 破損などにより全体形態が不明なもの (838) 等がある。811は片側に柄部が寄っている。812は篋に小孔が穿たれている。813・815・817は小型の匙状のものである。814・818等は櫛のミニチュアの可能性もある。821は先端のみを削り出している。823は篋先に炭化部分がある。828は柄部を欠損しており、菱形文様が付されている。830は上部の割れ口にイト、パあるいは彫刻がある。831の上部は炭化している。834は薄い柾目板を加工したものであり、中央に樹皮紐等を通す小さなスリットがある。838は薄い柾目板の柄端部であり、突起のある四角形が彫刻されている。840は板材の先端のみ篋状に加工したものであり、上部が炭化している。841は有孔板材の端部を薄く篋状に加工したものである。

両口箸 (842~886) : 胴部に最大径があり、両端に向かって徐々に細く削ったものである。先端部は平らに加工されている。最大長は29.50cm、最小長17.00cm、平均長22.48cm (破損を除く) である。

樹種はアジサイ属が28.9%、スギ類が41.8%、ヒノキ・アスナロ類が26.8%であり、針葉樹材が全体の68.6%を占める。アジサイ属のものは長短の差が大きく、針葉樹材のものは20cm前後の長さにとまっている。桶・樽等を転用し、再加工したものと考えられる。

片口箸 (887~929) : 基部端に最大径があり、先端部に向かって細く削り出したものである。922の基部端側縁には刻目がある。900・926は部分的に炭化している。最大長は42.76cm、最小長17.10cm、平均長27.65cm (破損を除く) である。樹種はアジサイ属が70.7%、スギ類は19.8%、アスナロ類4.3%、イチイ1.7%であり、アジサイ属が主体を占める。アジサイ属のものは長短の幅が大きい、針葉樹材のものは20cm前後の長さのものが多く、両口箸同様に桶・樽等の転用によるものと考えられる。

串状製品 (930~1043) : 断面の形態と両端部の加工により細分した。930・931は細串、932~939は丸串、940~949は楕円串、950~959は両先串、960~979は平角串、980~988は角串、1006~1011は三角串、1012~1016は割串や半割串、1017~1019は長串状の素材等である。943・944・947・948・950・955・956・966・975・987・993・1016・1030は部分的に炭化している。火箸や串焼き用として使用されたのであろう。950の中央部には短刻が付けられている。980には桶・樽の木釘が残存している。999~1002の基部には紐孔が穿たれている。1003・1004の基部には短刻が付けられている。1005は大きく屈曲している。1020~1043はタケやササ製のものである。1020~1038は割裂いたものを串としている。1030は端部が炭化している。この中には桶や樽の箍先片も含まれていると考えられる。箍を意図的に使用したかどうかは判断出来ない。1039~1043は環状のまま串としたものである。串全体の最大長は56.8cm、最小長14.9cm、平均長27.06cm (破損を除く) である。

篋身具 (1044~1046)

1044は丸い頭部の簪片と考えられる。1045は挽歯堅櫛である。歯は8本である。上部には樹皮等が巻かれていた痕跡がある。樹種はヒノキ?アスナロ?属である。1046は根付けと考えられる。断面が卵形の頂部側に紐孔が貫通している。孔を取り囲むように短刻等で文様が彫刻されている。

紡織編具 (1047~1078)

1047~1049は薄い板の片側縁に細かな刻目列を付けている。1048の刻目はアイウシ文にも見える。1049は鋸等の雛形とも考えられる。1050は断面が三角形の角材の頂部に刻目列を付けている。1051は細板材の側縁にほぼ等間隔に刻目列を付けている。すだれ編等の経糸を掛けるケタとも考えられる。1052~1056は細角材の側縁に鋸歯状の刻目列を付けている。1057の表面は丹念に削られている。1058には下部にも同様の孔が付くと推定される。中央部には帯状溝が2本廻っており、表裏に同様の文様が彫刻されている。1047~1056は繊維加工に関わる遺物と考えたい。1057・1058は織機等の部品の一部ではないだろうか。

コモ樋 (木樋) (1059~1078) : すだれ編等の樋である。上部や胴部には経糸となる紐・縄を巻き留める袂入部がある。形態には、A. 上部の左右に袂りのある板材のもの (1059・1063)、B. 上部に袂りが廻る角材のもの (1060~1062)、C. 上部の左右に袂りのある半割材のもの (1064・1065)、D. 上部に袂りが廻る丸木材のもの (1066~1073)、E. 丸木材の側縁部に袂りのあるもの (1074~1076)、F. その他、特殊な形態のもの (1077・1078) 等がある。1065は樹皮付きの材である。1066・1076は小型のものである。1074・1075は側縁を「V」字状に袂っている。1077は丸木材切断品の左右を袂ったものである。1078は円柱状に加工した材の片側上部を袂ったものである。

歩行具 (1079~1108、付図19)

下駄 (1079~1087) : 1079は露卵下駄 (差歯下駄) である。上面観は台先から前歯にかけて幅広となるやや膨らんだ逆長台形である。両歯ともに欠損している。前歯は小孔であり、ほぼ中央に位置す

る。台先から前歯に向かってひび割れがある。横緒は後歯の後方にあり、内側に傾斜している。横断面は裏側が台形状に膨らんでいる。差歯柄挿入孔は2個一組の角孔であり、前歯の左角孔が大きい。裏側には前後に歯挿入溝がある。1080～1085は連歯下駄である。1080の上面観は台先の幅がやや広く、台尻に向かって僅かに細くなる逆長台形である。前歯は中央やや左よりに位置し、後歯には飾り側板が台尻に向かって付けられている。横緒孔は後歯の直後にあり、板角縁から飾り側板の内側に急に内傾している。前歯には鼻緒片が残存していた。歯は下方に向かって幅広となり、右側に張出す台形である。右足用の下駄と考えられる。両歯の裏面（接地面）には鉄釘が打ち込まれていた痕跡がある。氷雪時歩行の滑り止めと考えられる。台尻の裏面には「X」字のイト、バが刻まれている。1081の上面観は長方形である。前歯はやや前方に位置しており、後歯は台尻の最後部に付けられている。両歯とも歯高が低い。前歯は角孔であり、中央やや右に位置する。前歯前方に接するように開けられている。横緒は角孔であり、後歯前方に位置している。1082の上面観は僅かに台先の幅が広い逆長台形である。前歯は円孔でほぼ中央に位置する。横緒孔は円孔で後歯前方に位置しやや前方に傾斜する。両歯とも下方に向かって広がり、左右の角が切り落されている。1083の上面観は台先が先の丸い隅丸方形であり、後歯から台尻を欠損している。前歯は円孔でほぼ中央に位置する。歯は下方に向かって垂直であり、歯高は低い。1084の上面観は台先が広がり、台尻が山形となる細長い持駒駒形である。前歯は角孔でほぼ中央に位置する。横緒孔は角孔であり、後歯に接して後方に位置している。両歯とも下方に向かって僅かに広がる。1085は台尻の一部と後歯の破片である。台尻は角が落されている。横緒孔は角孔で後歯の前方にある。歯は下方に向かってやや広がる。1086は歯部に角孔が穿たれた破片であろうか。1087の上面観は小判型である。台先上面が炭化している。前歯、横緒ともに円孔である。表裏に刃物痕が認められる。

カンジキ（1088～1090）：1088～1090は短輪型の瓢箪形カンジキである。1088の両端は細く、凸形と凹形の構造が結合するように加工されている。全体は前方部へ向かって反り上がっている。先端には結合のための小孔が1ヵ所に見られる。上面には乗緒を縛り、固定する袢りが3ヵ所にある。袢り周辺には、樹皮紐または皮紐等を縛り付けた痕跡がある。内側には平行に横軸（棒）を差し込んだ孔が前8対、後9対に開けられている。横軸先端が折れて刺さっている箇所もある。1089は半損したもので、後部側を欠損している。上面には乗緒を縛り、固定する袢りが3ヵ所にある。内側には横軸（棒）を差し込んだ孔が前7ヵ所、後3ヵ所に開けられている。1090は先端部または後部の軸孔部の破片である。孔が3ヵ所に認められる。

カンジキ軸（1091～1108）：短輪型瓢箪形カンジキの横軸と考えられるものである。両I答に似た形態のものである。両端は軸孔に差し込むために、鉛筆先端様に削り出している。軸は瓢箪形の形状に差し込まれる構造から、輪の形態に合わせて長さに幅がある。長さは16～26cm前後、径は0.6～1.0cm前後が中心である。

交易・伝達具（1109～1115）

木札（1109～1115）：板材の片側上方に1ヵ所の孔を穿ったものである。表面には削り痕の明瞭なものがあり、表面を何度か削って使用したのであろう。札の大きさはほぼ均一化されており、長さ5.5cm×幅4.0cm×厚さ0.6cm程である。1109の表面には翼を上方に広げた鶴丸文が線刻されている。裏面には翼を横に広げて直立した鶴が線刻されている。千歳発または千歳行きを意味する絵文字であろうか。ちなみにシコツが千歳と改名したのは、0 黒層の最終年代（1739年）よりも後の文化元年（1804年）である。鶴の丸文は室町時代以降流行した公家の日野氏の代表的家紋でもある。1113は中央部が炭化している。1114の下部両側縁は斜めに切り出されている。

祭祀・儀礼具 (1116~1160、付図20)

花矢 (1116~1123) : 1116~1118は柳葉形のものである。1116は先端部側と基部側に2本組の野引線が廻り、野引線の上に短刻が刻まれている。先端、基部とも破損するが、1118と同形態のものである。1117は先端部側と基部側に野引線とは別に短刻が廻っている。1118は先端突起(鐵部)が長く、明瞭な基部が作出されている。先端部側には2段の短刻が廻り、基部側には短刻、円形、アイウシ文等で文様が構成されている。1119~1121・1123は先端突起(鐵部)の付け根に最大径があり、基部に向かって次第に細くなるものである。いずれも長い先端突起(鐵部)が付けられている。削花等の痕跡もない。明瞭な基部は作出されていないが、基部側に矢柄挿入時の摩擦や色調差等が認められる。1119は表面に刻目が付けられている。1122は先端突起(鐵部)が短く小さい。先端部にはアイウシ文、モレウ文等で基部全面に曲線的で明瞭な円を配した幾何学模様(鐵部)が刻まれている。先端の鐵は長さ約0.7cmである。いずれも削花や赤布は確認できない。黒色彩色も不明である。

樽酒器 (1124~1141) : 1124~1127・1130・1133~1136は短刻によってイト、バが刻まれている。1124・1125は大きさから飾り串とも考えられる。1128・1129は弧線文や直線文で文様を構成している。1131・1132の表面には「||X||」等の刻みや線刻によってイト、バが刻まれている。1134と1135は接合する同一個体である。1137~1141は先端のみが舌状に削り出されており、イト、バや文様が付されていない。いずれの裏面先端にもバルンベが見られない。

木幣状製品 (1142~1147・1151~1160) : 1142~1144は木幣(イナウ)である。これらには上面が平坦に加工された頭部があり、その直下には下方から上方に向かって長く何度も削った刃物痕やサスケレ痕が多数確認できる。頭部直下に作出された削りかけ(キケ)は土中で腐朽し、痕跡だけが残されている。1144の頭部には短刻が刻まれている。1145には下方から挿入部に向かって削られた痕跡がある。1146の上下端部には野引線の上に2~4段の短刻が並行に廻り、表面には螺旋状に引かれた野引線に沿って短刻が列となって廻っている。1147の上部には鎖状の複雑な曲線文が帯状に彫刻されている。その下には粗い「X」と2本の短刻が付されており、中央部が細く削られている。1151~1160はイト、バや短刻の付された製品をまとめた。丸木材の中には木幣(イナウ)の破片が含まれている可能性がある。1151・1153・1154・1159は「||」「X」「||」等の組合せが刻まれるもの、1152・1155・1156は短刻が並行に廻るもの、1157~1160は複雑に短刻が組み合わされたものである。

刀ミニチュア (1148~1150) : 1148は鞘及び柄の付けられた刀片である。表面に直線と刻目列文様が掘り込まれている。柄頭の形態は小刀(マキリ)に似ている。1149は両区につく平楯の刃部片である。1150は彫刻された刀鞘片かもしれない。まじない用や製作依頼時の雛形の可能性もある。

加工材 (1161~1176)

1161~1164は円盤状製品である。1162・1164は半摺している。1162・1163は炭化部分がある。1165~1167は有孔円盤状製品である。1167は半摺し、周縁が炭化している。紡錘車の可能性もある。1168・1169は円錐台形製品である。1168は半摺している。1170は角形の突起が抉りだされている。1171は環状突起が付けられた製品の柄や把手であろうか。1172は三日月状に削られたものであり、仕掛りなどの引き金であろうか。1173は角形の栓状のものである。1174・1176は挿入が多段となる丸木材である。1174の樹芯部には角孔がある。1176の挿入部には燃り糸(S燃り)が巻かれていた。1175は下部の炭化した環状製品である。

各種用具の部品や素材等 (1177~1374)

ピン状製品 (1177~1209) : A、両端部に先端部を持つもの (1177・1179)、B、片側のみに先端部があるもの (1178・1180~1209) に分けられる。1206の上部は削りかけ(キケ)状に幾重にも割り裂

かされている。1209は先端部のみ細く削りだし、上端部が叩き潰れている。

軸状製品 (1210~1300) : 上部が太く先端部に向かって細くなる。ピン状製品に似るが、先端部が丸形または平坦となる。1210~1221は半割材を素材としている。1222~1232・1234~1243は丸木材を素材としている。1233・1244~1286は半割や丸木材以外を素材としている。1287~1300は角軸状製品である。1212・1248・1274・1276にはイト、バが付されている。

楔状製品 (1301~1321) : A. 先端部が凸形となるもの (1302~1310・1314・1318・1320・1321)、B. 先端部が角形となるもの (1301・1311~1313・1315~1317・1319) がある。1309の先端部には小孔が穿たれている。1319の上部は炭化し、挟りが付けられている。

棒酒箸(簾) 状製品 (1322~1374) : 削りかけやイト、バはないが、先端部加工・断面形等の形態の特徴から棒酒箸状とした。同時に素材となりうるものをまとめた。樹種はスギ、ヒノキ、アスナロ等の針葉樹材が主体であり、当遺跡出土の棒酒箸も同様である。素材は桶や樽等の側板と考えられる。

<挟入部付の部品や部材> : 材に付けられた挟りが廻っているものである。

1375~1380・1382~1394・1396・1410は端部挟入部付丸木材である。1377・1380はコモ楯の可能性がある。1390は魚叩棒とも考えられる。1398は魚突鉤鋸の棒(柄)の可能性もある。1381・1395は挟入部付丸木材である。1397~1400・1402・1403・1412は端部挟入部付丸材である。1412は車權受台部の角軸の可能性もある。1404・1405・1408は端部挟入部付半割材である。1406は端部挟入部付楕円材片である。1407は端部挟入部付半円状材片である。1409は端部挟入部付割材である。いずれも下部が切断されている。1411は端部挟入部付板材である。1413~1415は端部挟入部付屈曲丸木材であり、3本まとまって出土した。下部にホソ先が作出されており、組み合わせで使用されるものであろう。1416・1417は両端部挟入部付角材である。他層や他地区からも出土している規格性のある用具である。

<挟付の部品や部材>材の左右または一部分が挟られているものである。

1418は両端部挟付丸木材である。1401は端部挟付丸材片である。1419~1428は端部挟付丸木材である。1419にはイト、バが付いている。1429~1434は挟付丸木材である。1433は炉鉤の未製品の可能性がある。1436・1438・1440・1441は端部挟付半割材である。1440にはイト、バが付いている。1443は多段挟付半割材片である。挟りが連続しており、ゴザ編みの経糸等をかけるケタであろうか。1444~1446・1450・1452は挟付角材片である。1447~1449・1451は端部挟付角材である。1453~1461は挟付板材である。1462~1464・1466は挟付蒲鉾状板材である。1465は多段挟付半円状材である。1469・1470は挟付紡錘状材である。1472~1479は挟付楕円板材である。1467は挟付板材片である。

<ホソ先付の部品や部材>

1468はホソ先付角材片である。1471は端部ホソ先付角材切断品である。

<有孔丸木材>

1480は挟入部付有孔丸木材片である。1481~1483は有孔丸木材である。1481と1482は炭化しているが同一個体の可能性がある。1484は端部有孔湾曲丸木材である。1485は両端部有孔丸木材である。

<有孔角材>

1486~1489は有孔角材である。1490は挟付有孔角材である。1491は端部有孔角材である。

<有孔板材>板綴舟の舷側板(棚板)の破片やその再加工品が多数を占めると考えられる。

1492・1495・1497~1511・1513~1539は有孔板材である。1493・1496は有孔薄板材である。1494は有孔細板材片である。1512は挟付有孔板材である。側縁には挟りが付き、表面に線刻が見られる。1527は下部が炭化し、刃物痕が多数見られる。1529は表が炭化し、裏面に刃物痕が多数見られる。孔は片側から彫った後に打ち抜いて作成するため、裏面の孔口に刺痕が見られるものが多い。

＜角材＞

1541～1550・1552・1553は角材である。1542には線刻が見られる。1544・1550・1553は下部が炭化している。1551は細角材である。下部が炭化している。

＜半割材＞

1554・1555は半割材である。1554は割串の可能性はある。1555の下部は炭化している。

＜板材＞

1556～1561・1563～1576は板材である。1556にはイト、バが付いている。1560の側縁には刻目がある。1561には刃物痕が多数見られる。1574には鋸で挽かれた痕跡や刃物痕が多数見られる。1577～1589は厚板材である。1584には角溝がある。1586～1589には新などによる削り痕が顕著に確認できる。
杭・建築部材・建材等（1590～1663）

角杭状製品片（1590）：上部を欠損する。

割杭状製品（1591～1597）：割加工により製作された角杭である。1593の両端は杭状に加工されている。1596は下部が炭化している。

丸杭状製品（1598～1621）：1598・1619の上端部は炭化している。1599・1600・1602・1613・1614・1616～1618の上端部は切断されている。1600には細帯状樹皮が巻かれている。1605の側縁には袈りがある。1608・1609・1618は両端が杭状に切り出されている。

丸木材（1622～1628）：1622は下端部に切断痕がある。1627の上端部は切断されている。1623の上端部は切断され、下端部の木口には鋸で挽いた痕跡がある。1624の上端部は炭化している。

丸材（1629～1631）：1631は上端部が切断されている。

屋根縫針先（1632～1636）：1632～1634は孔のある先端部破片である。1634の下部は炭化している。1635は割材であり、上部を欠損している。1638は孔部分で欠損している。

建築部材・加工材等（1637～1640）：1637～1640は「Y」字状となる部材である。1637は「Y」字状の両端部に挟入部が作出されている。1640は裏面に平坦面が作出され、下端部に固定のための袈りがある。漁撈具や狩猟具の可能性はある。

建材（1641～1663）：1641は階段状の袈りが付けられた高床式倉庫梯子である。桁や梁材の可能性もある。1642は上部に袈りがある桁または梁材である。1643には挟入部が作出されており、桁または梁材とも考えられる。1644は桁または梁材の切断品である。側面に刃物痕が多数見られる。1645は受部付建材の切断品である。上部が切断され、その下部が炭化している。1646は桁または梁材の切断品であり、下端部を欠損している。1647は桁または梁材の切断品であり、上端部には切断痕が顕著である。中央部側縁にも刃物痕が多数認められる。1648は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材であり、受部が鉈などで整形されている。1649は建築部材片であり、上部を欠損する。1650は受部を両面から切り出して山形とした受部付建材片である。1651は先端をホソ先状に切り出したものである。1652は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材であり、下部が炭化している。1653は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材であるが、裏表から削って受部を調整している。1654は受部付柱材と考えられるが、受部が3段に枝分れしており、肉や魚の干し柱の可能性もある。1655は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材片である。枝分かれ部分を欠損している。1656～1660は桁または梁材である。1656・1660の端部は切断されている。1657は1/4割材であり、右端部側に平坦面が作出されている。1661～1663は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材である。いずれも先端を杭先状に鋭く切り出している。

木端類（1664～1680）

1664～1667は板材木端である。1667は矢筒翼部の破片とも考えられる。1668～1670・1675は不規則

に切り出された木端である。1671は角材の木端である。1672は丸木材の切片である。1673・1674・1676～1679は丸木材の木端である。1680は厚板材の木端である。

炭化材 (1681～1686)

1681の中央が円形に凹んでいる。1682の先端には僅かな加工が見られる。1683は溝付である。1684～1686は樹皮付の材が炭化したものである。

竹製品 (1687～1693)

1687は環状竹製品に円孔を貫いている。1688には楕円孔が2カ所に認められる。1689はフォーク状に加工している。1690は表面に刃物痕がある。1691は下部が炭化している。1692は両端を切り落している。1693は側縁を調整加工している。

樹皮製品 (1694～1776)

1695・1706は切截された樹皮である。1706には小孔がある。1696は円形に切り揃えた樹皮が巻かれたものである。1697・1698・1769・1770・1772～1775は燈火用や各種用具の素材とする筒状の樹皮である。1770は炭化している。1699の側縁には刻み列が付けられている。1694・1700～1703は樹皮製容器片である。1694には縫合用の小スリットが3列見られる。1700～1702は樹皮製容器の把手片である。1700・1702には容器と固定する挟入部が確認できる。1703は土圧で潰れた容器片であり、口縁部に補強材として軸が挟み込まれている。把手の付けられる手掻(ヤ、ニヤト、ッ)であろう。1704は容器や鞘などの素材となる切り揃えた樹皮である。1705は糠を包んだ細長い樹皮であり、両側縁には紐などで縛り止めた痕跡がある。漁撈時の錘石としたのであろうか。1707～1776は細帯状樹皮巻(結束固定具)である。1707～1749は結束式の細帯状樹皮巻である。1750～1756・1759・1764は頭部差込式の細帯状樹皮巻である。1751～1756・1759は頭部挿入式の細帯状樹皮巻である。1757・1758・1760～1763・1776は釘打込式の細帯状樹皮巻である。釘打込式の樹皮は概して厚い。1764は細帯状樹皮であり、先端部が細長く加工されていることや樹皮が薄いことから頭部差込式の切れたものであろう。1765・1766は極細い樹皮を巻いたものであり、切截痕がある。

繊維製品 (1777～1793、図版246～249)

1777はZ撪り(左撪り)の細い撪り繩の集合から組紐が伸びている。編み袋(サラニフ)等であろう。1778～1787は撪り繩片である。1778・1779はS撪り(右撪り)した径1.3cm前後のものである。1780はS撪り(右撪り)した3本の細繩を巻き束ねている。1781はZ撪り(左撪り)した径2.0cm前後のものである。1782はS撪り(右撪り)した径0.8cm前後のものである。1783はS撪り(右撪り)した径1.0cm前後のものである。1784・1787・1788はS撪り(右撪り)した径0.6cm前後のものである。1785はS撪り(右撪り)したものを2本巻き束ねている。1786はZ撪り(左撪り)したものを巻き束ねている。1789は幅0.8cm前後の結束した紐である。1790はS撪り(右撪り)したものを4本巻き束ねている。1791は屋根材と思われカヤ状の植物繊維である。1792・1793は繊維素材である。

(山口 尚)

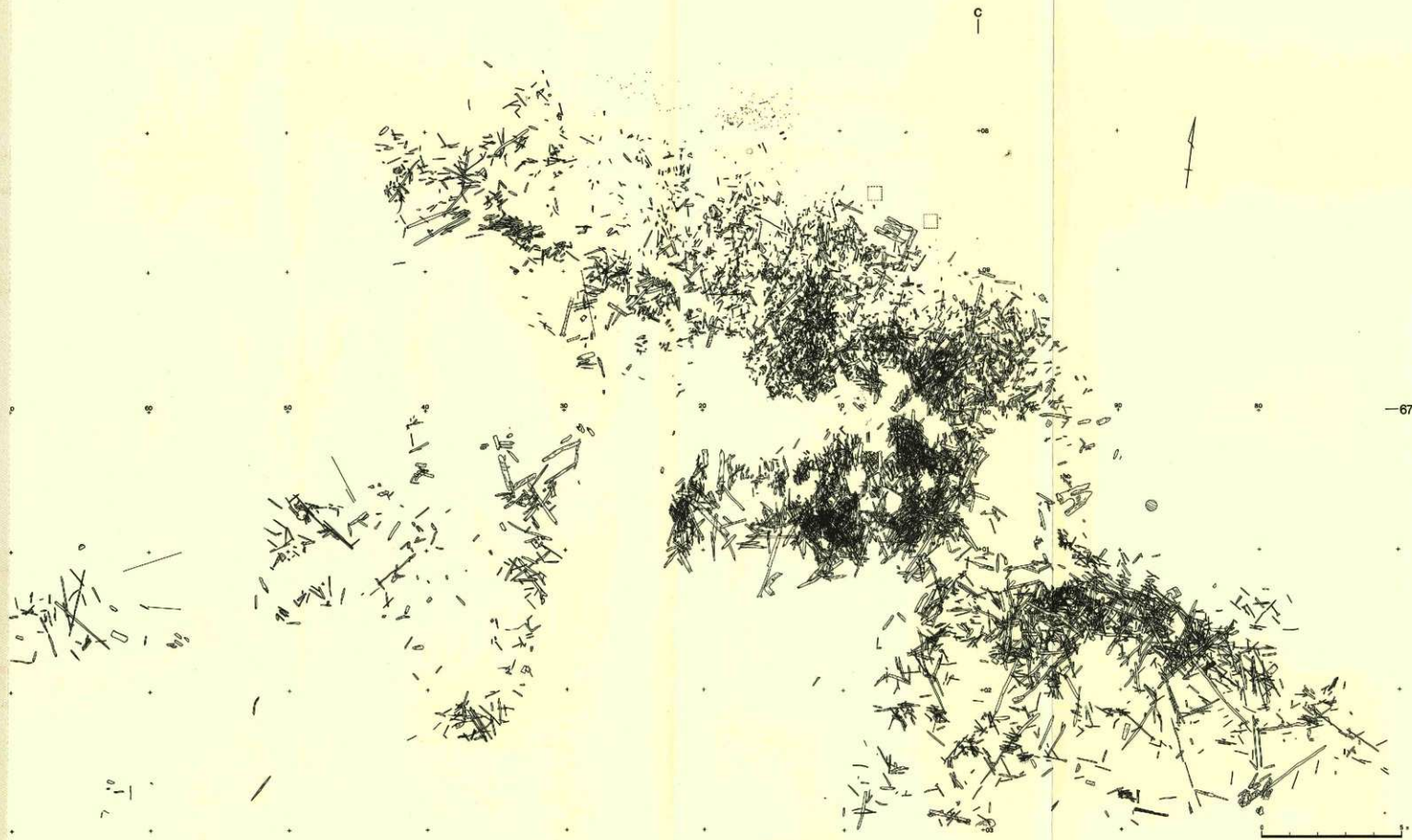
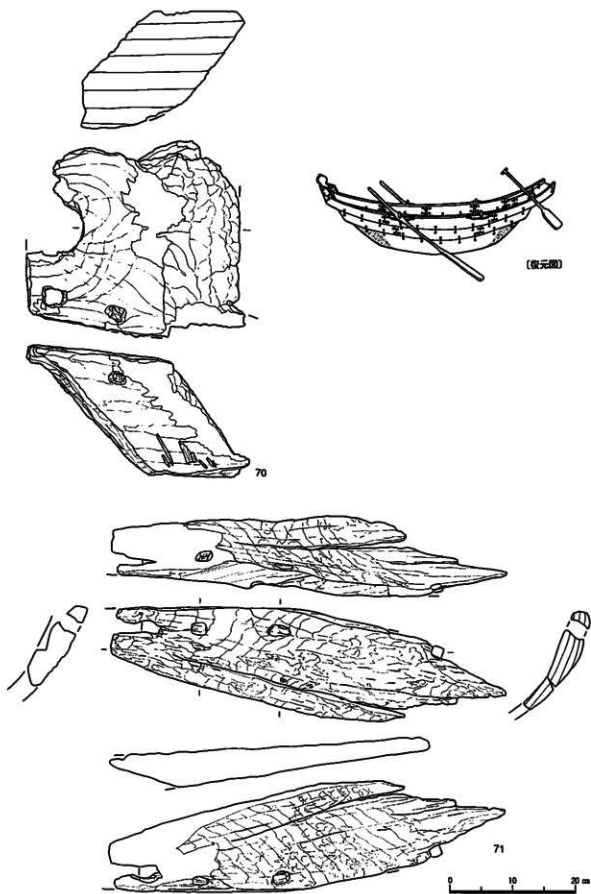
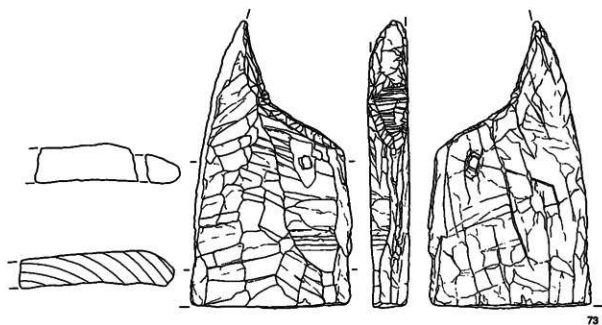
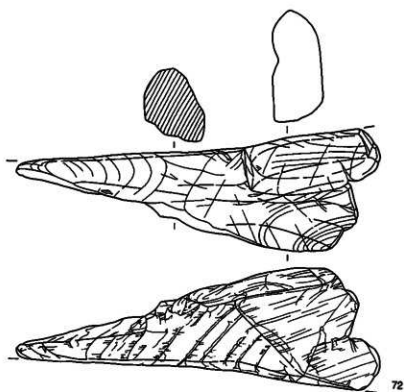


图 V-53 木製品分布图



図V-54 舟部材1 (軸・舷側板)



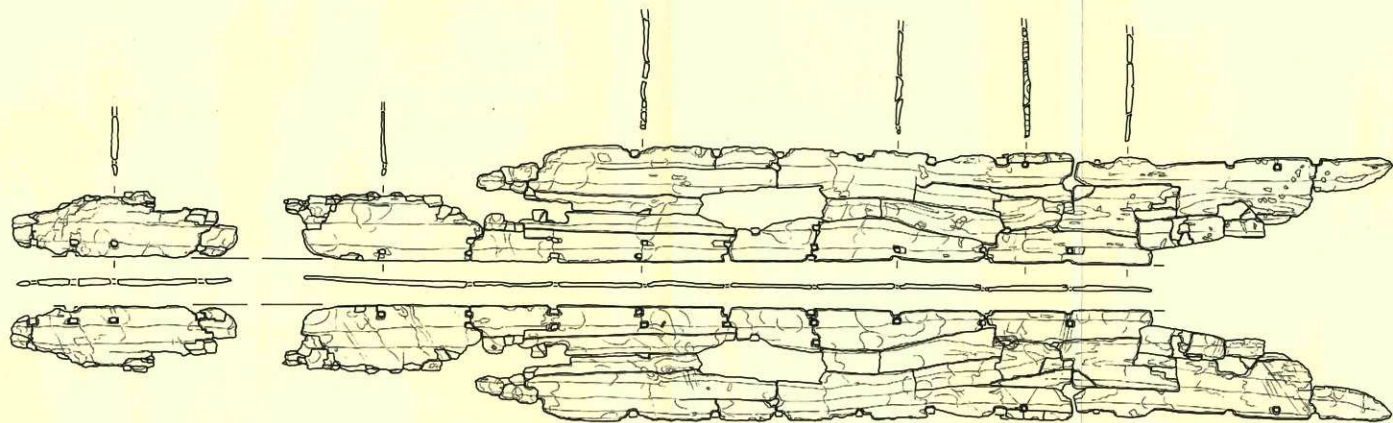
図V-55 舟部材2 (舷側板・舟材)



(復元図)



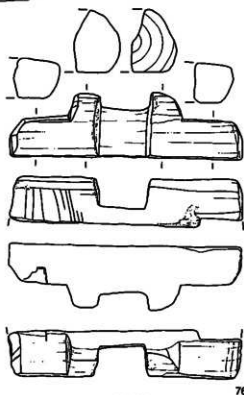
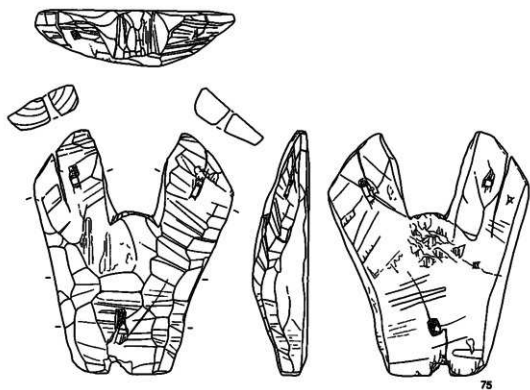
【蝦夷生計図説】より



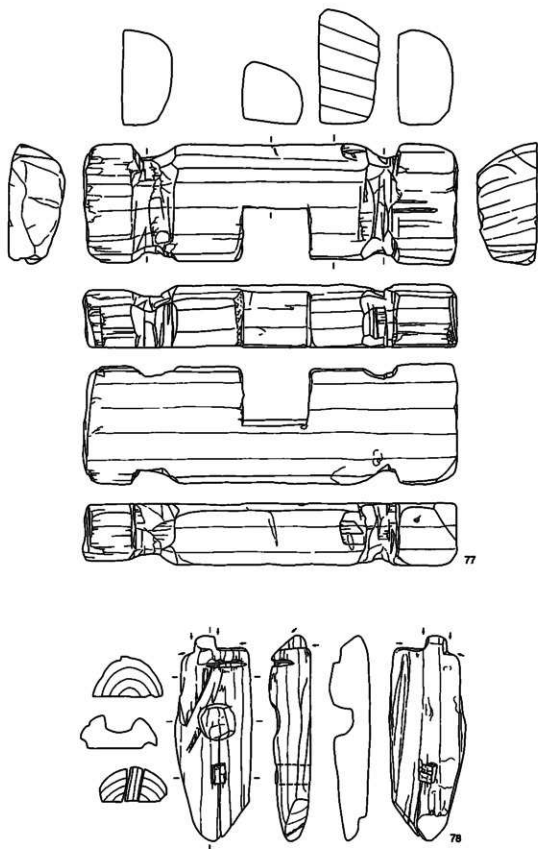
74

0 50 cm

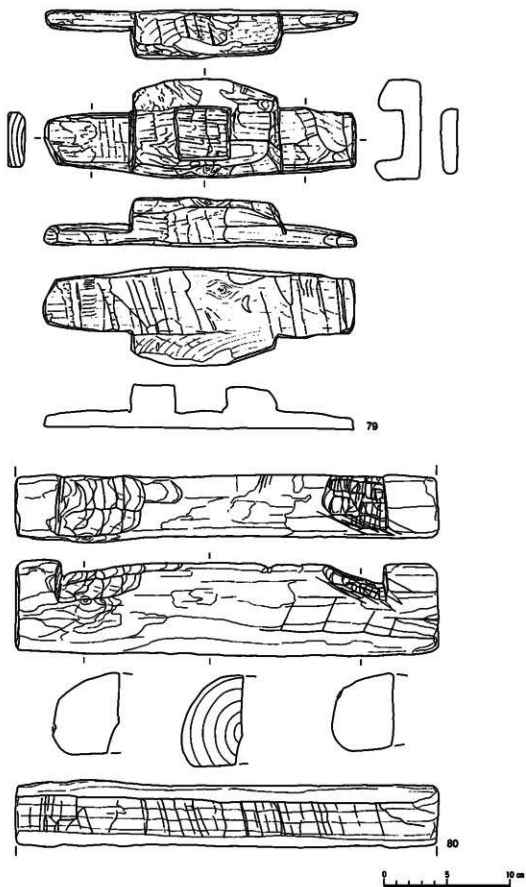
図V-56 舟部材3 (舷側板)



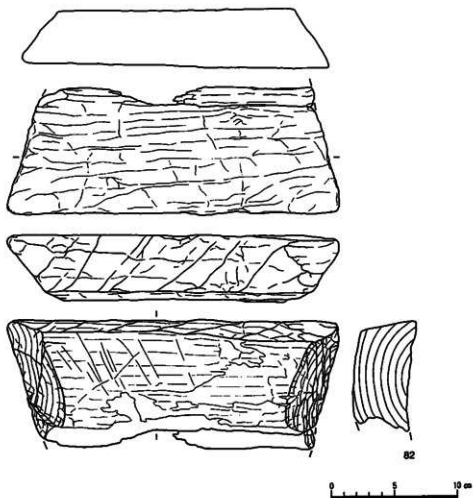
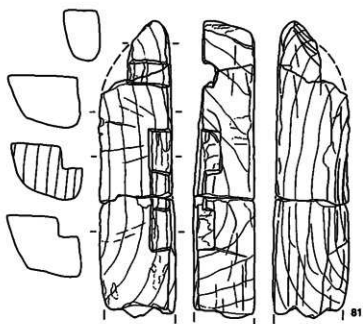
图V-57 舟部材4 (舟材)



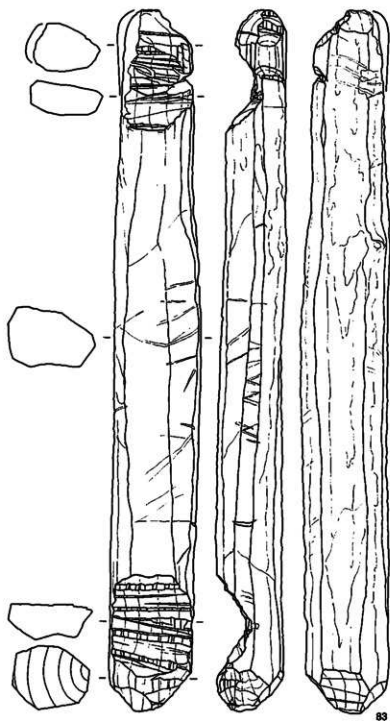
図V-58 舟部材5 (舟材)



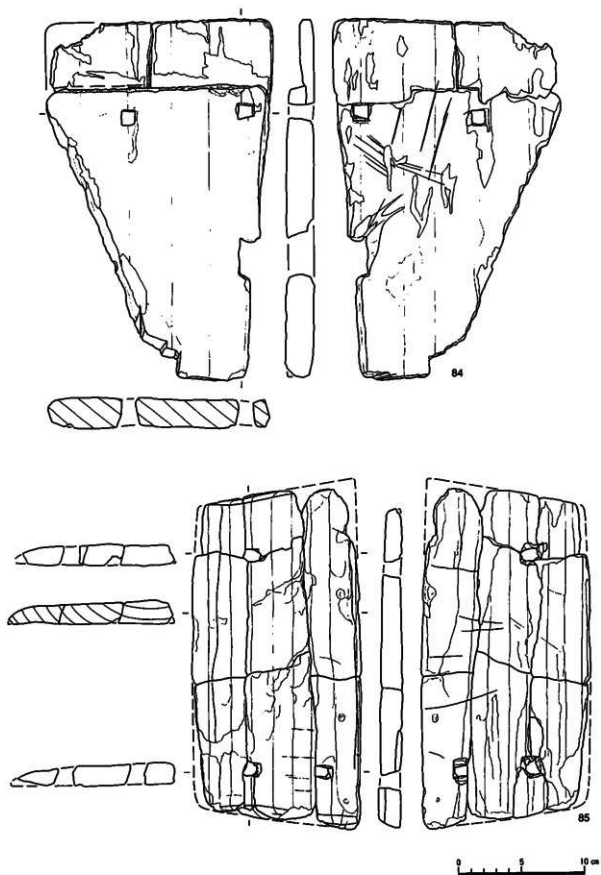
図V-59 舟部材6 (舟材)



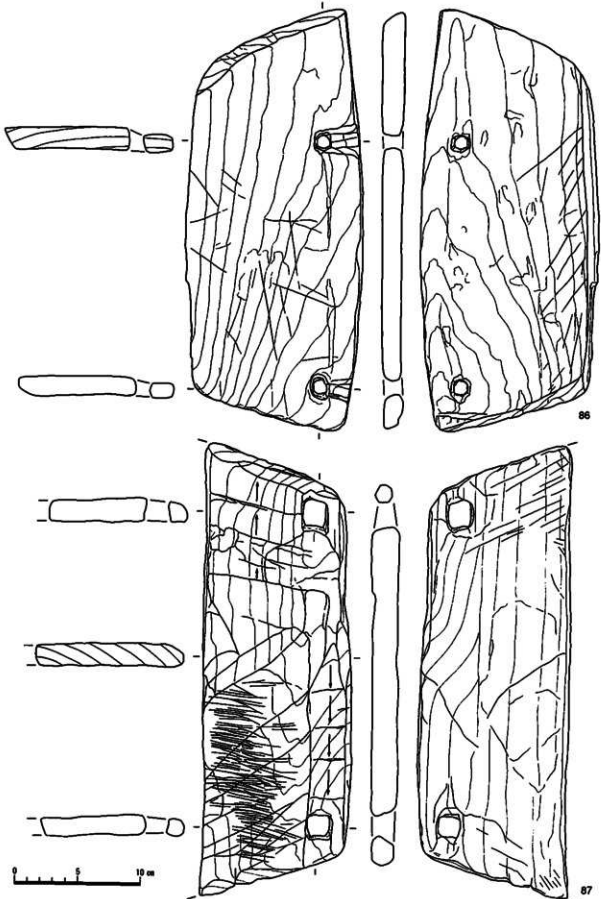
図V-60 舟部材7 (舟材)



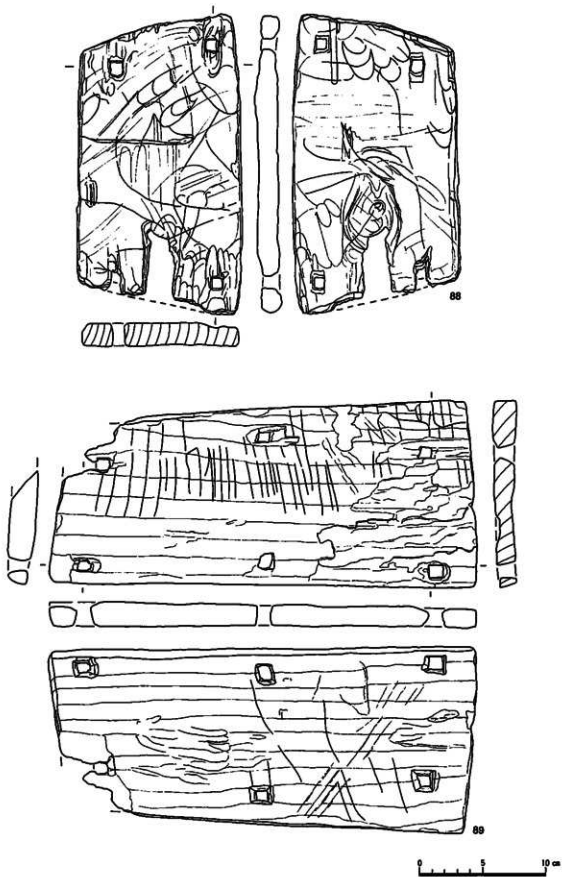
図V-61 舟部材 8 (舟材)



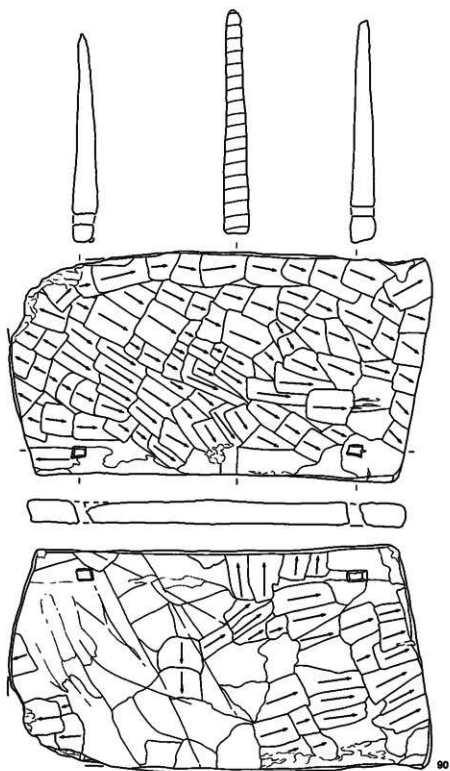
図V-62 舟部材9 (舟材・舷側板)



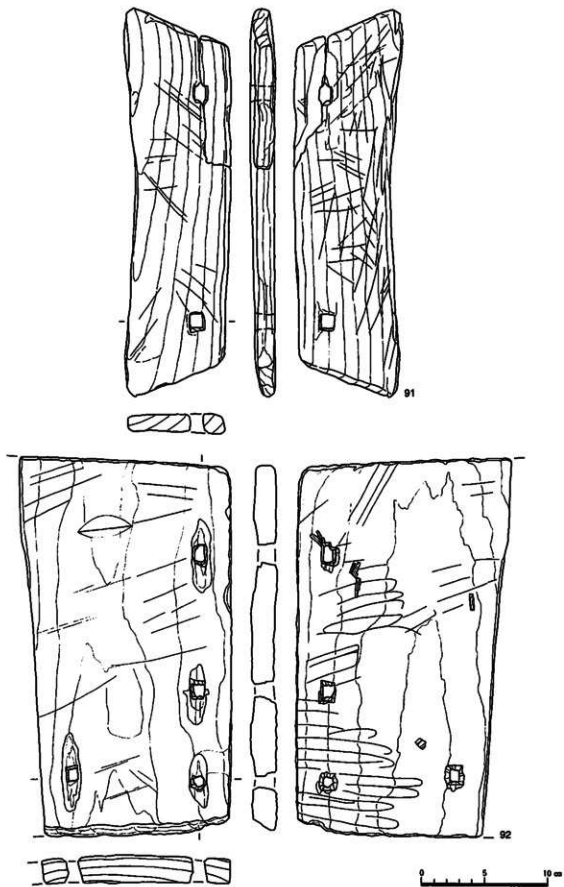
図V-63 舟部材10 (舟材)



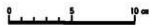
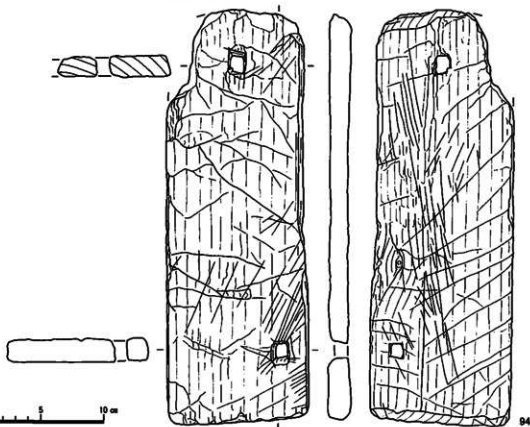
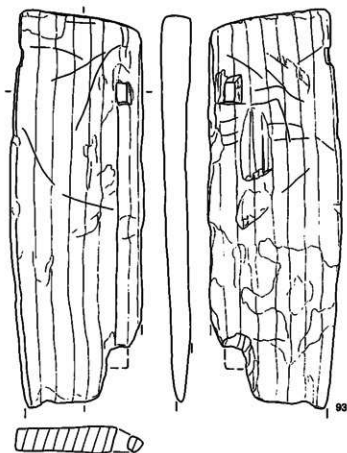
図V-64 舟部材11 (舟材)



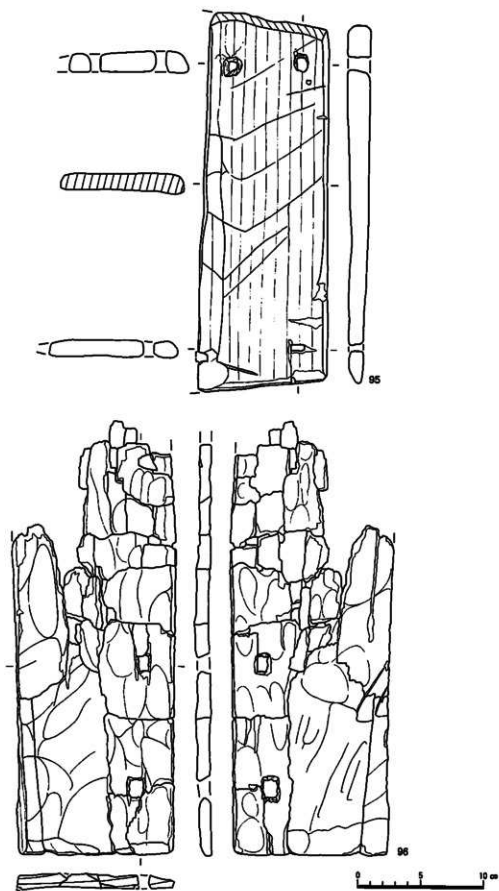
図V-65 舟部材12 (舟材)



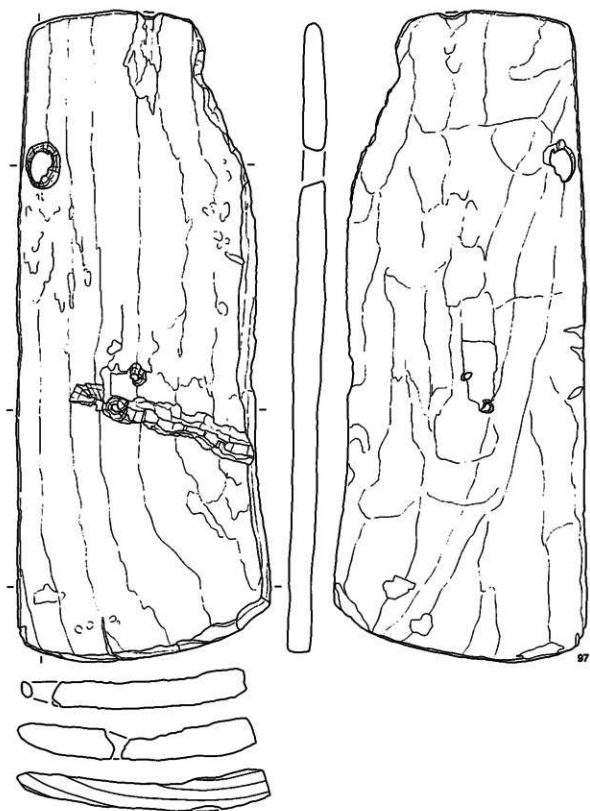
図V-66 舟部材13 (舟材・舷側板)



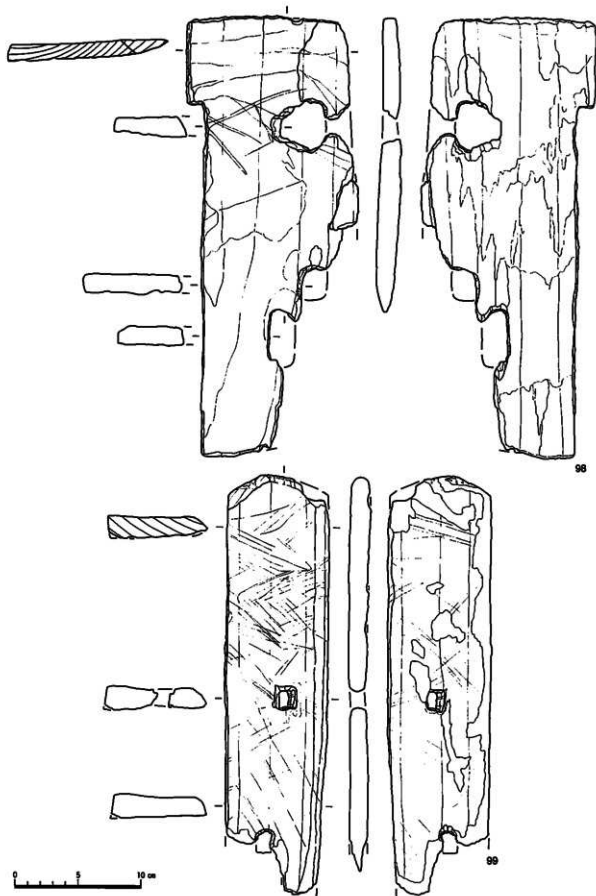
図V-67 舟部材14 (舷側板)



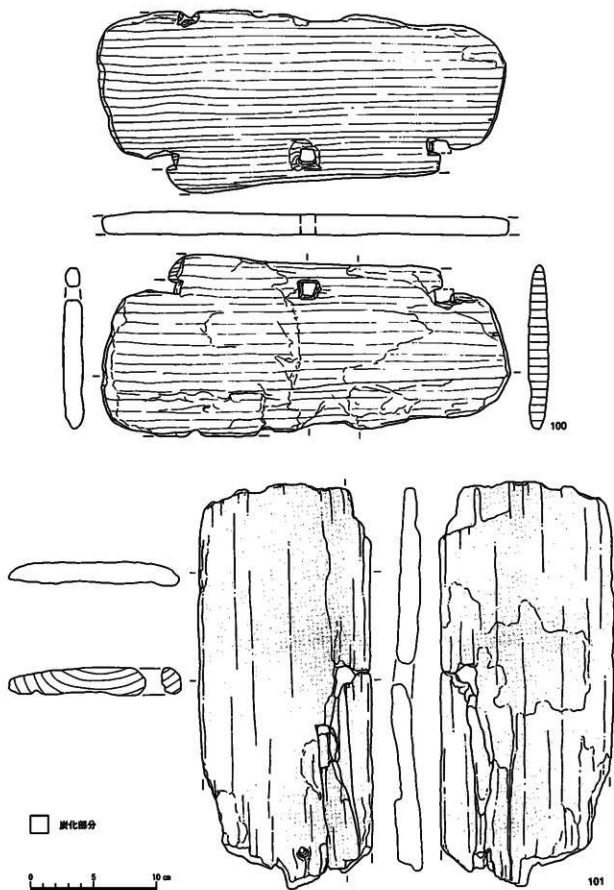
図V-68 舟部材15 (舷側板)



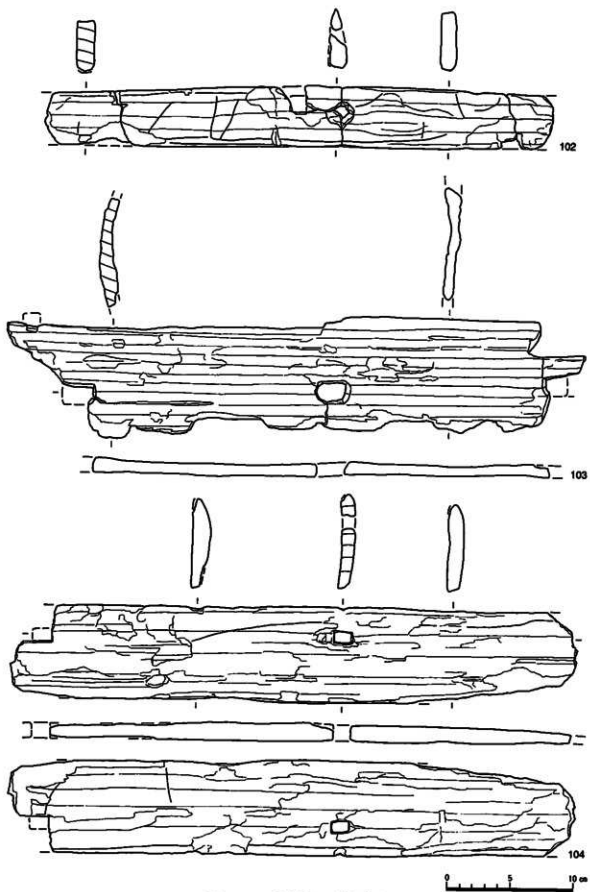
図V-69 舟部材16 (舷側板)



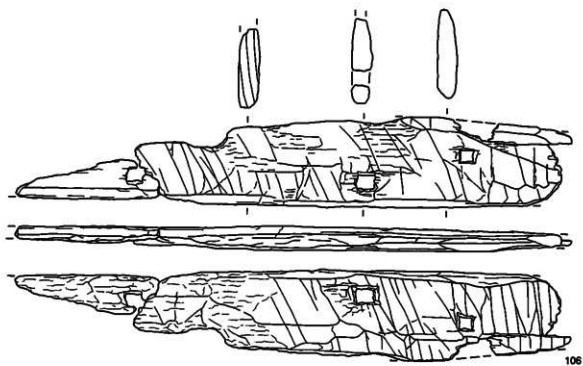
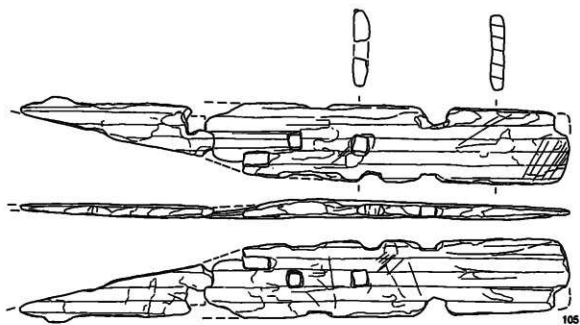
图V-70 舟部材17 (舷側板)



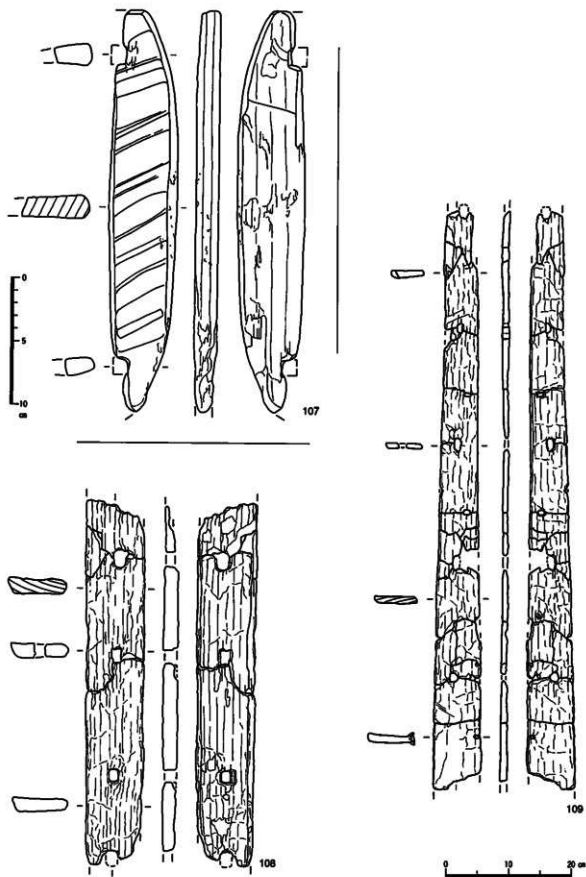
図V-71 舟部材18(舷側板)



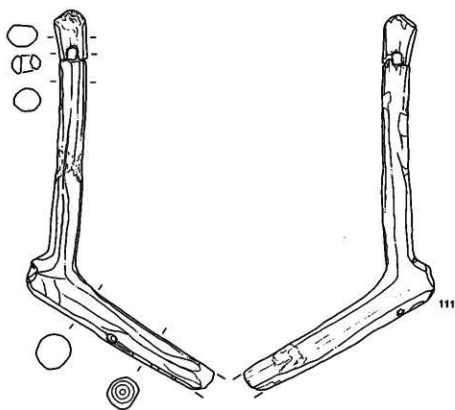
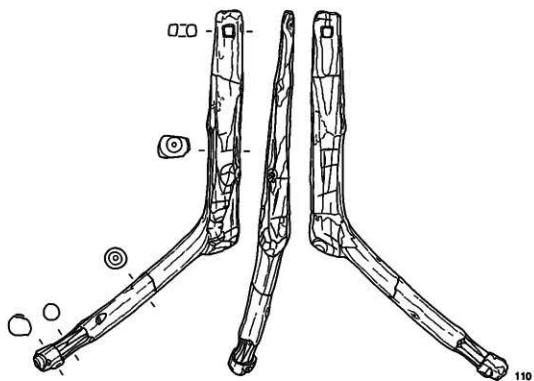
図V-72 舟部材19 (舷側板)



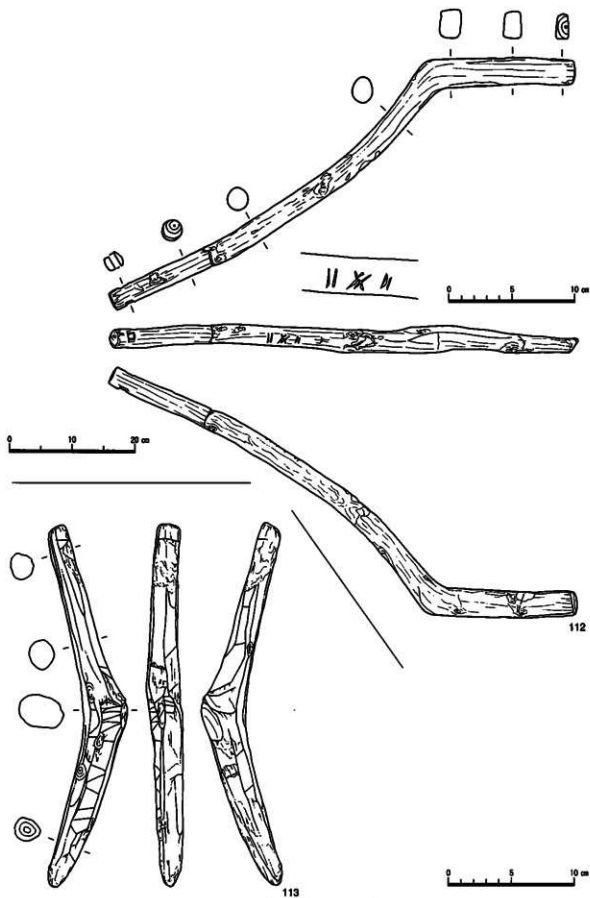
図V-73 舟部材20 (舷側板)



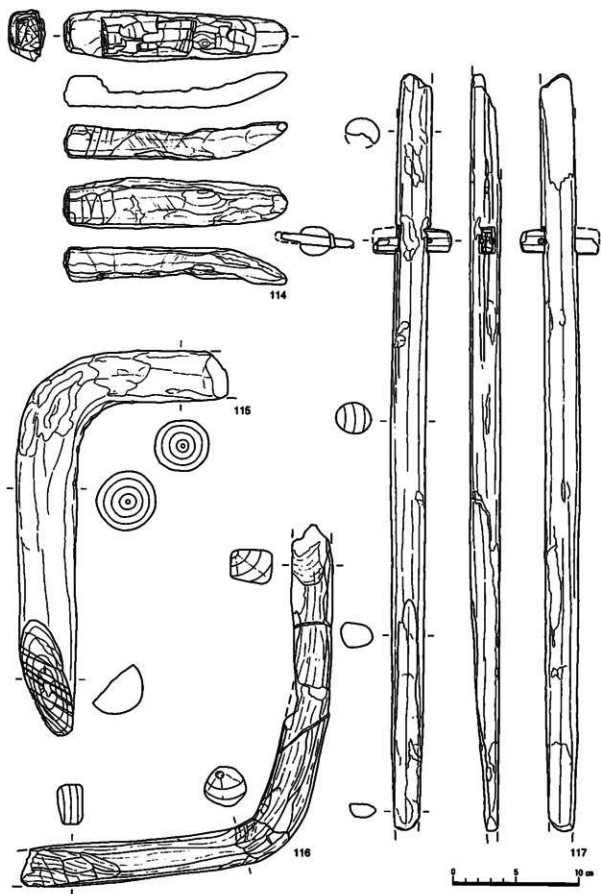
図V-74 舟部材21 (舷側板)



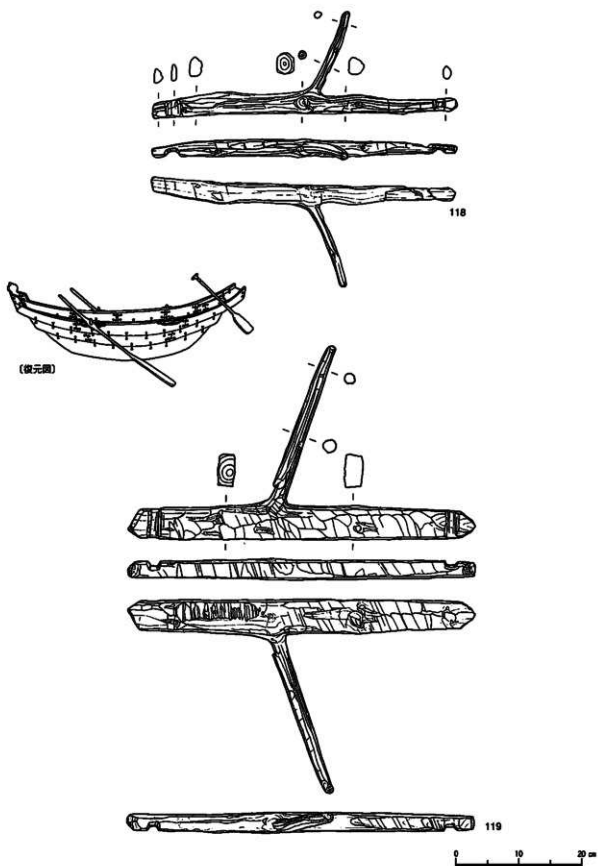
図V-75 舟部材22 (舟材)



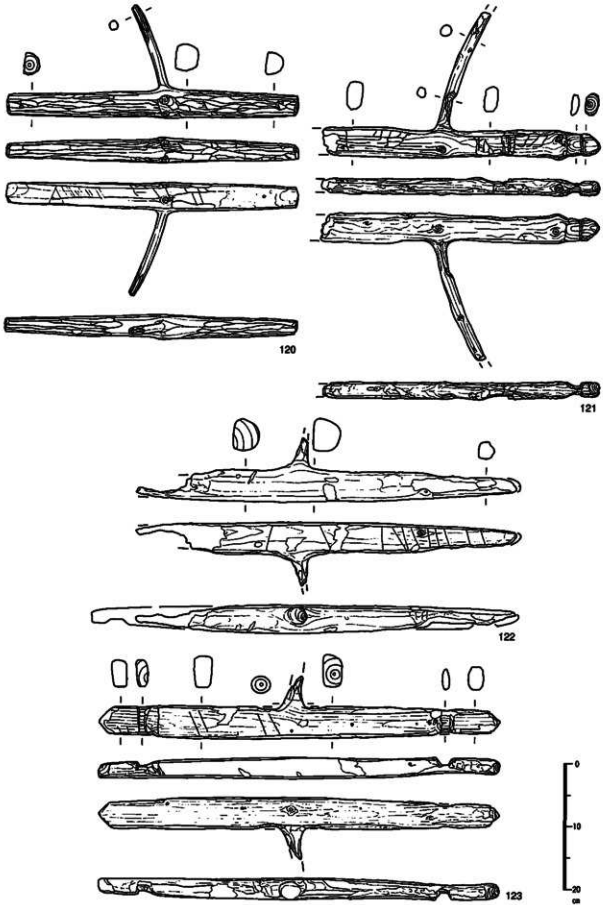
図V-76 舟部材23 (舵棒・舟材)



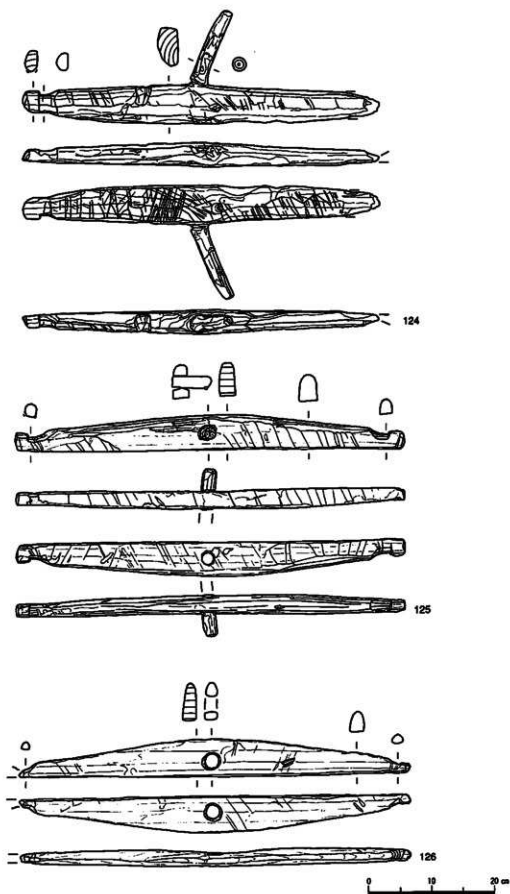
図V-77 舟部材24 (舟ミニチュア・舟材)



図V-78 舟部材25(車權受台部①)



図V-79 舟部材26 (車權受台部②)



図V-80 舟部材27 (車權受台部③)

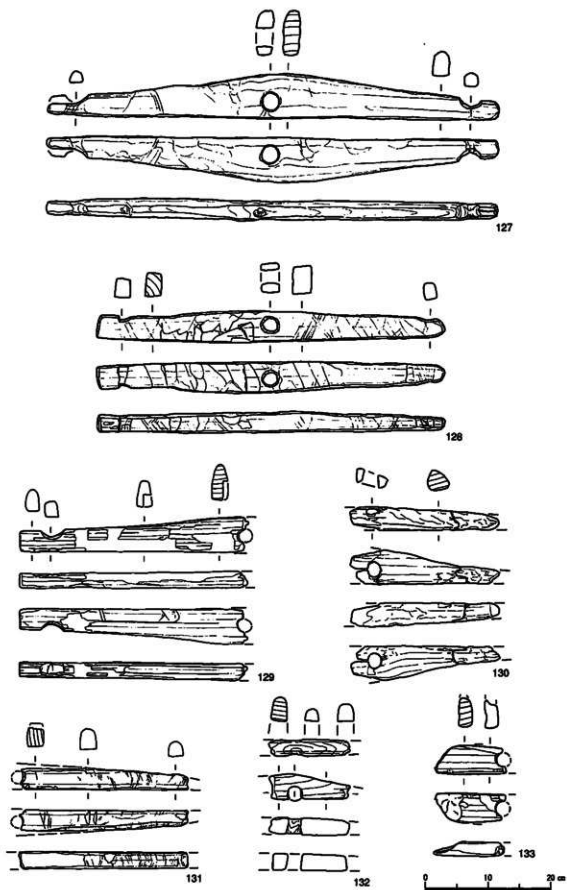
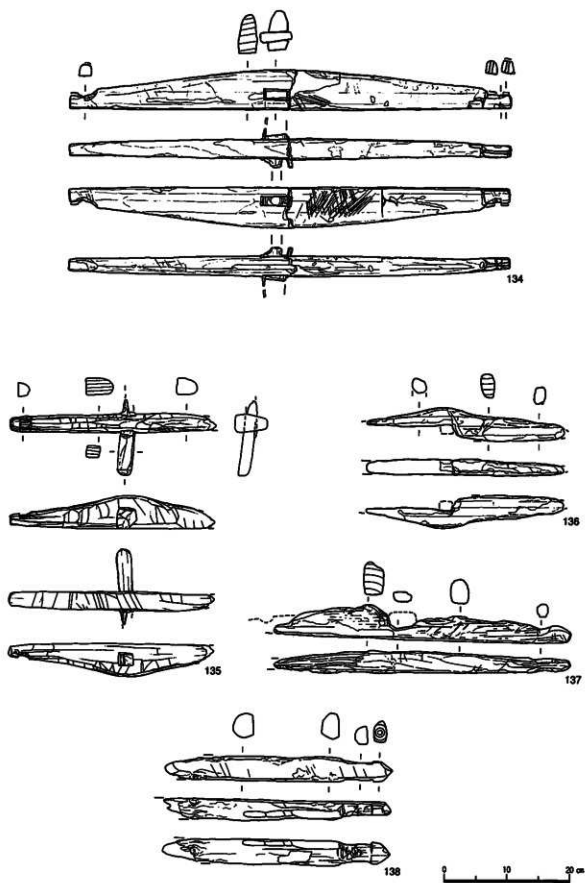
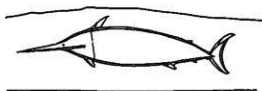


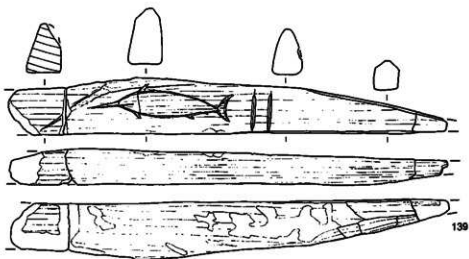
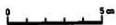
図 V-81 舟部材28 (車權受台部④)



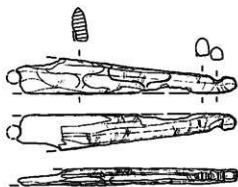
図V-82 舟部材29(車權受台部⑤)



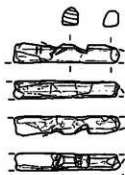
拡大図



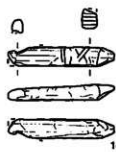
139



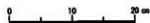
140



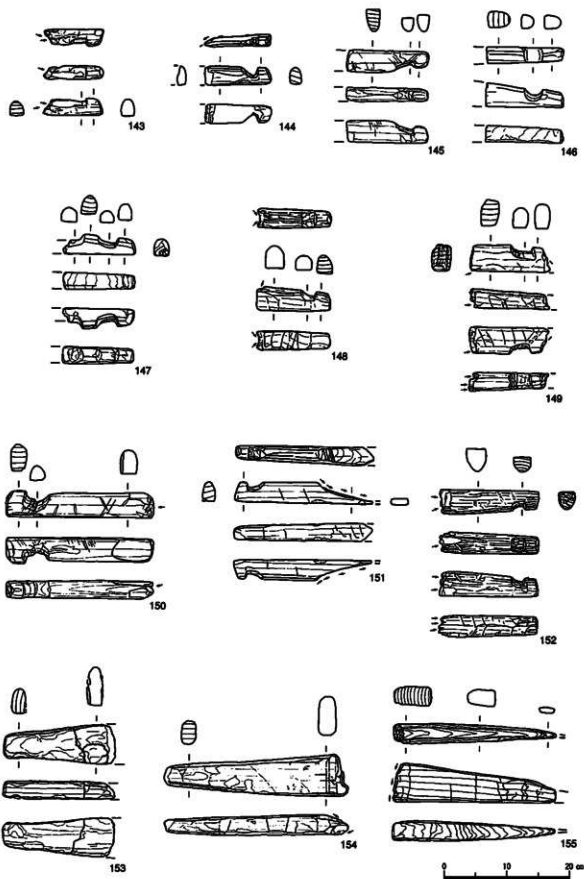
141



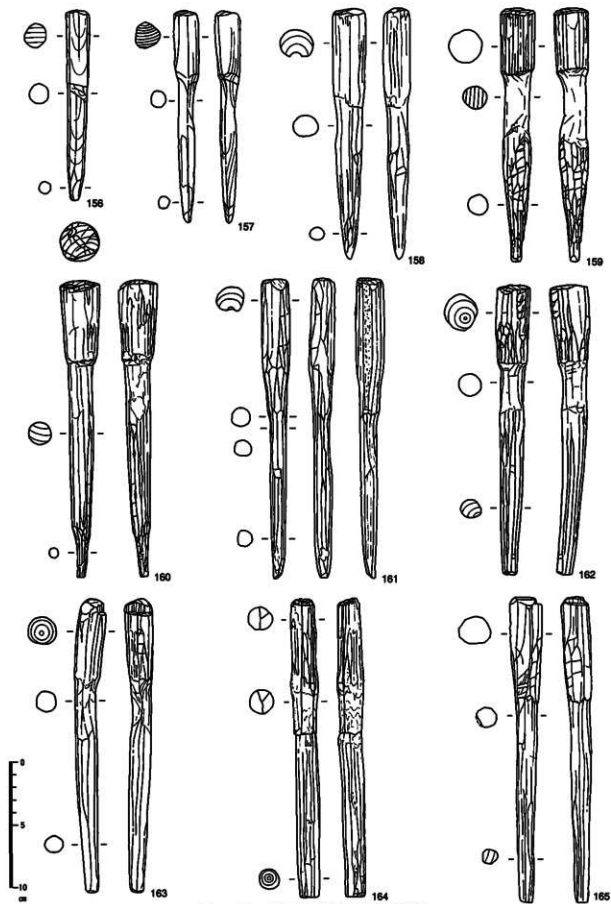
142



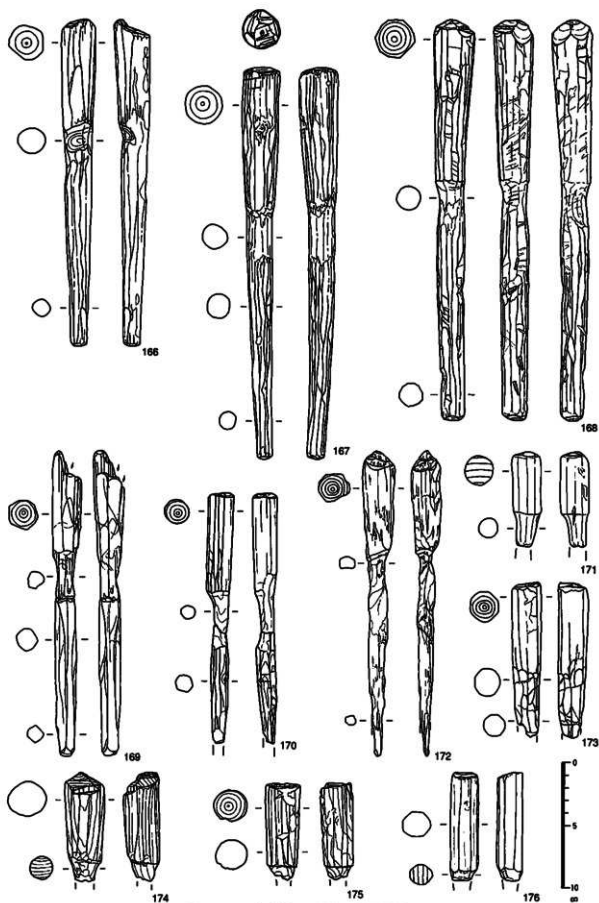
図V-83 舟部材30 (車權受台部⑥)



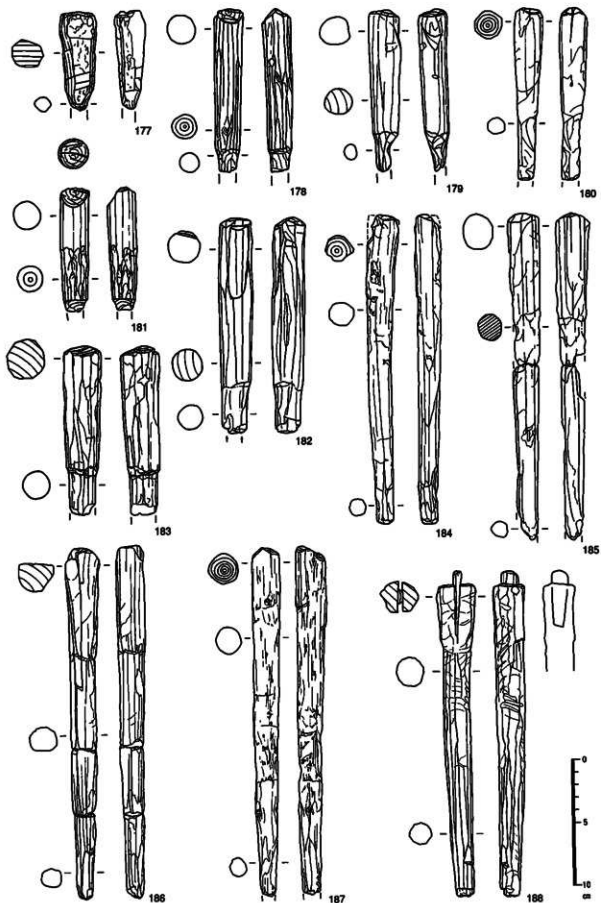
図V-84 舟部材31(車權受台部)



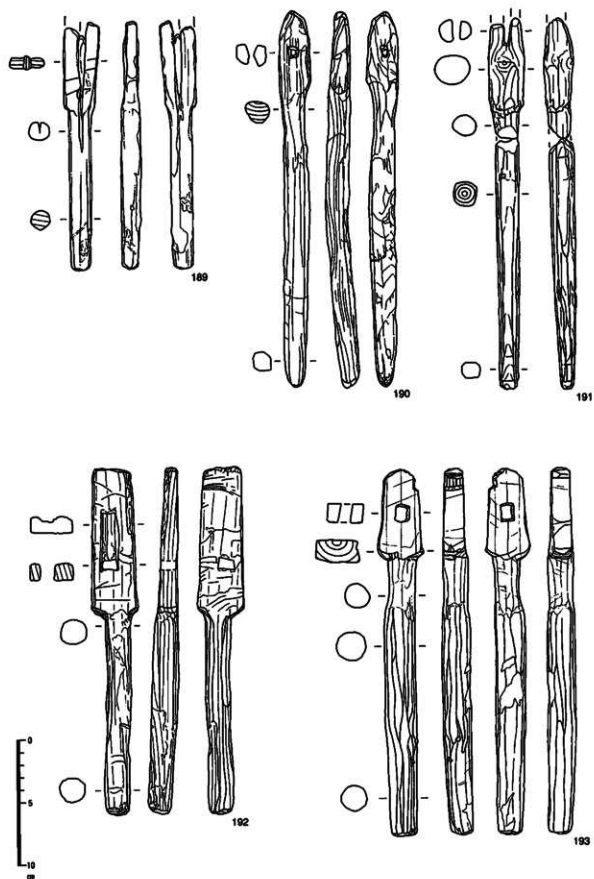
図V-85 舟部材32 (車權受台部軸①)



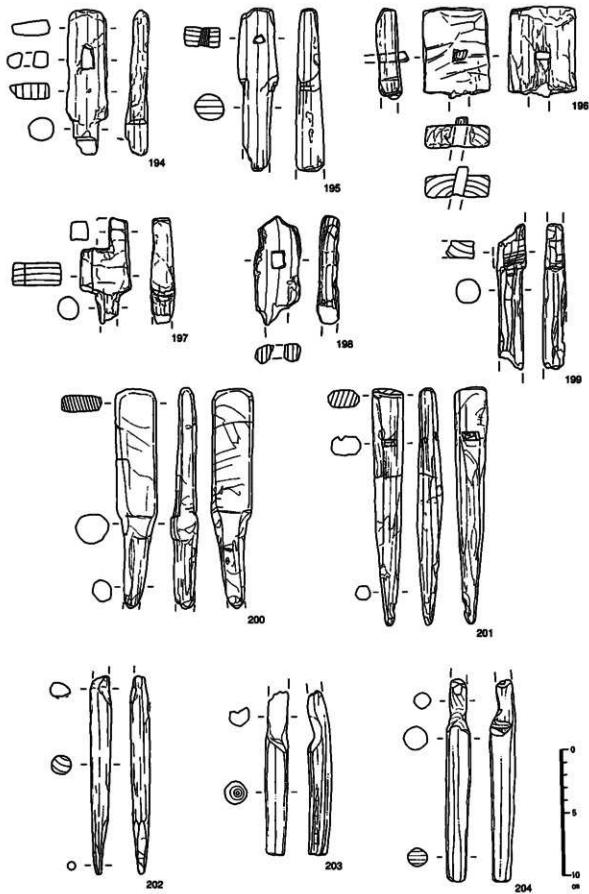
図V-86 舟部材33 (車權受合部軸②)



図V-87 舟部材34 (車權受台部軸③)

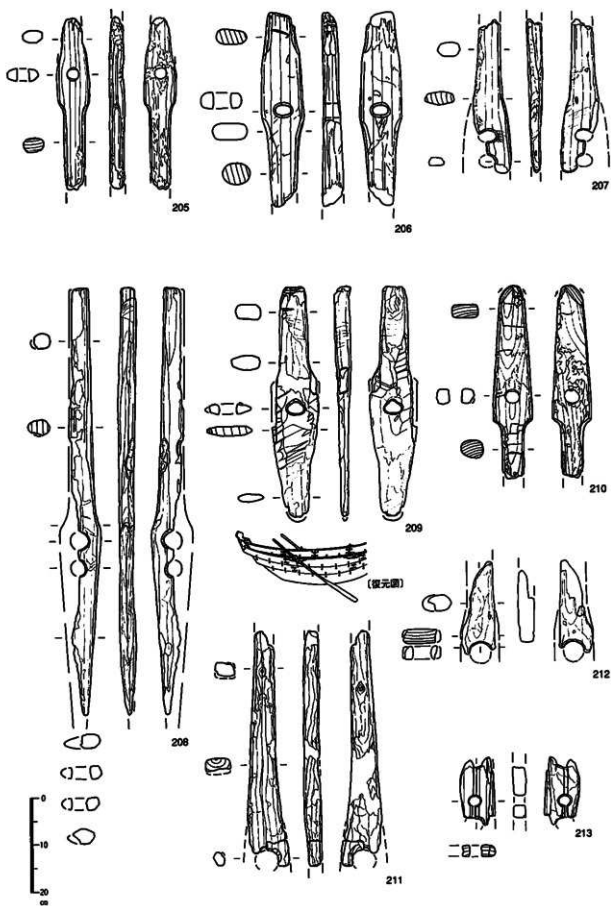


図V-88 舟部材35 (車櫃受台部軸④)

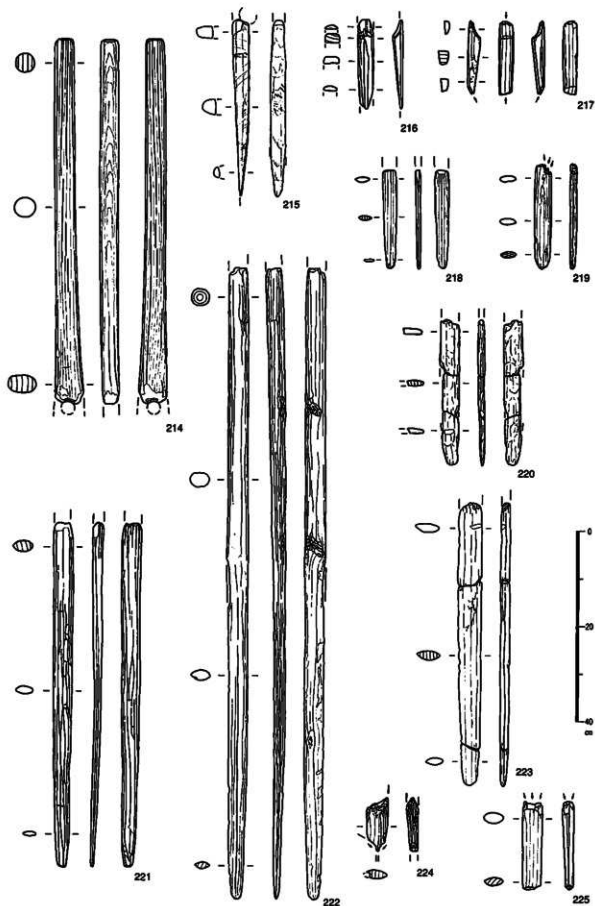


図V-89 舟部材36(車權受台部軸⑤)

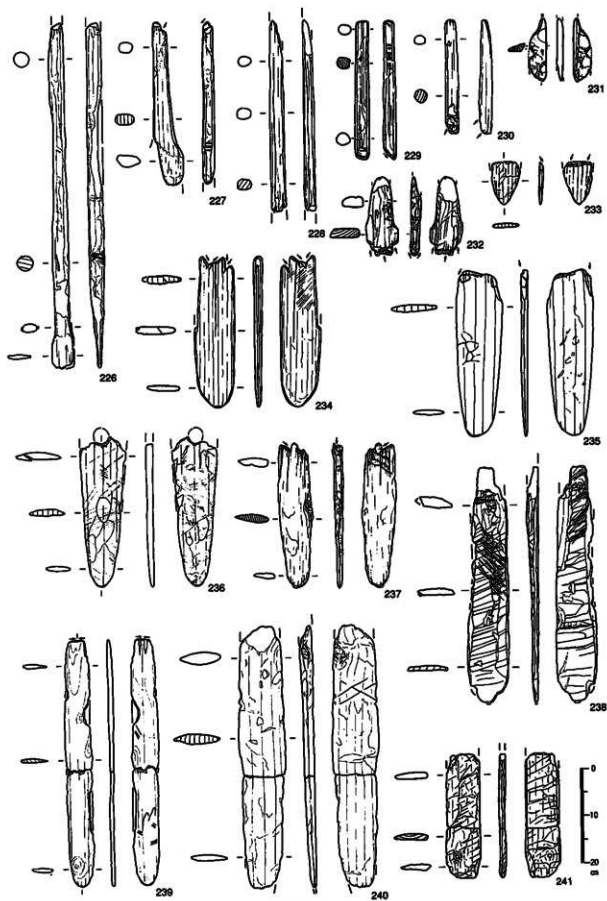
V 第0黒色土層の調査



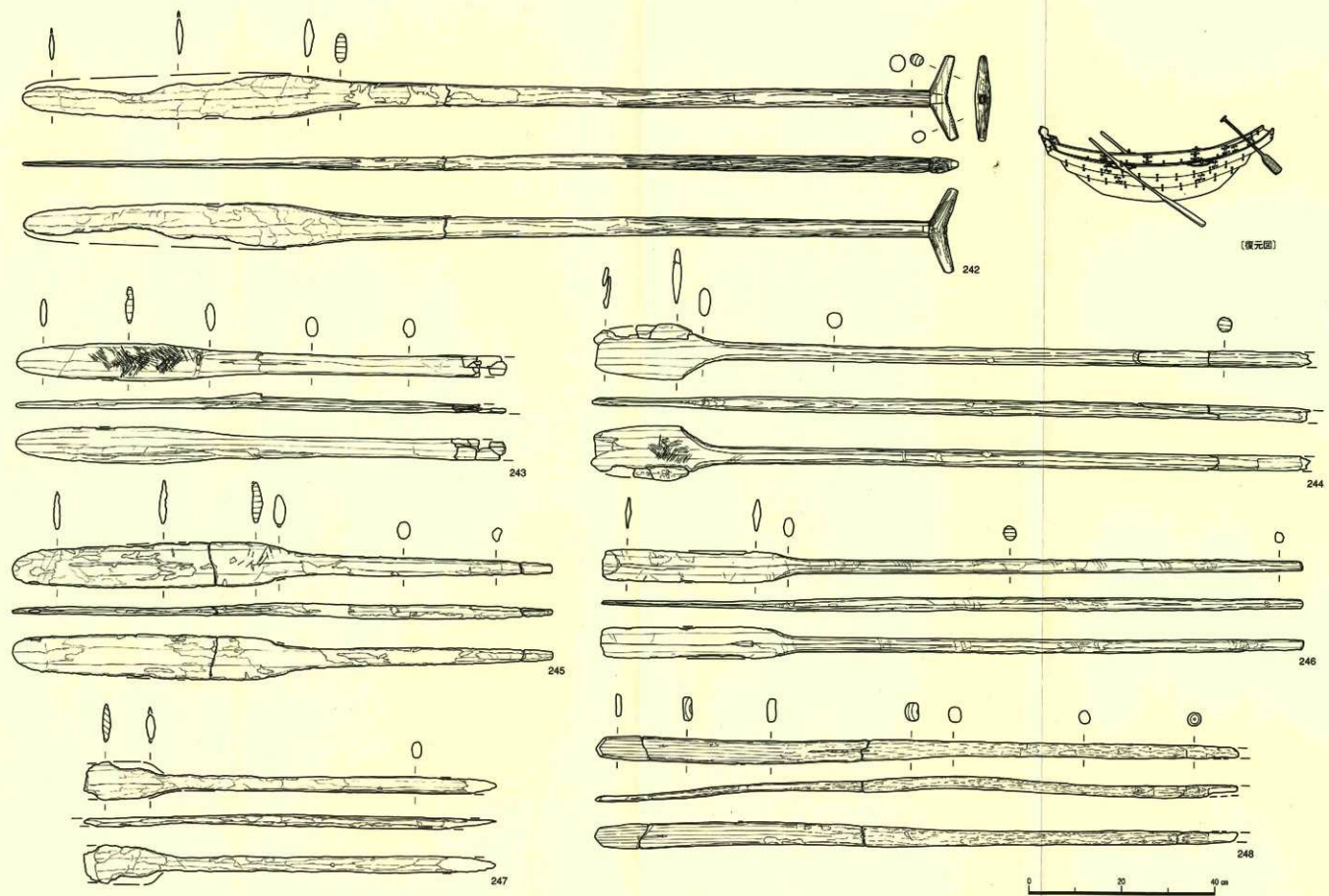
図V-90 舟用具1 (車権①)



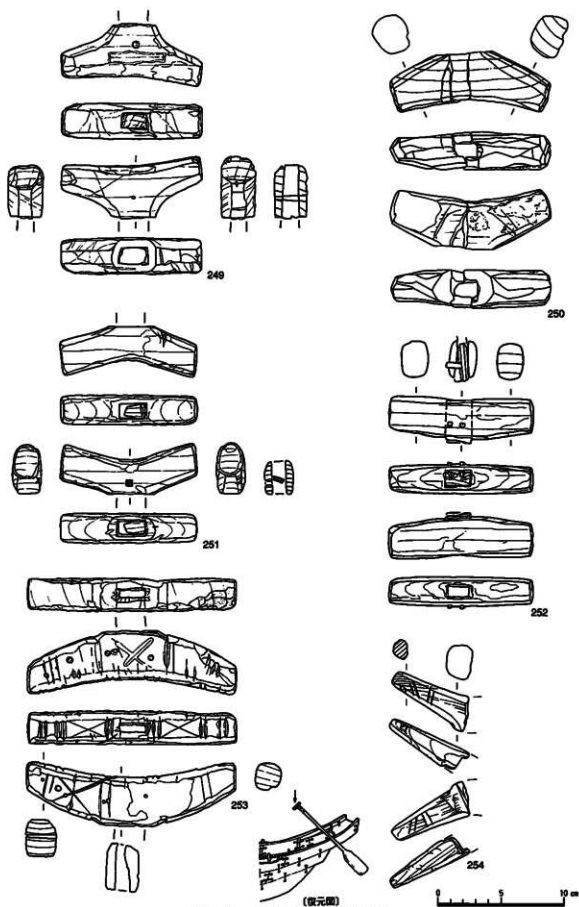
図V-91 舟用具2 (車權②)



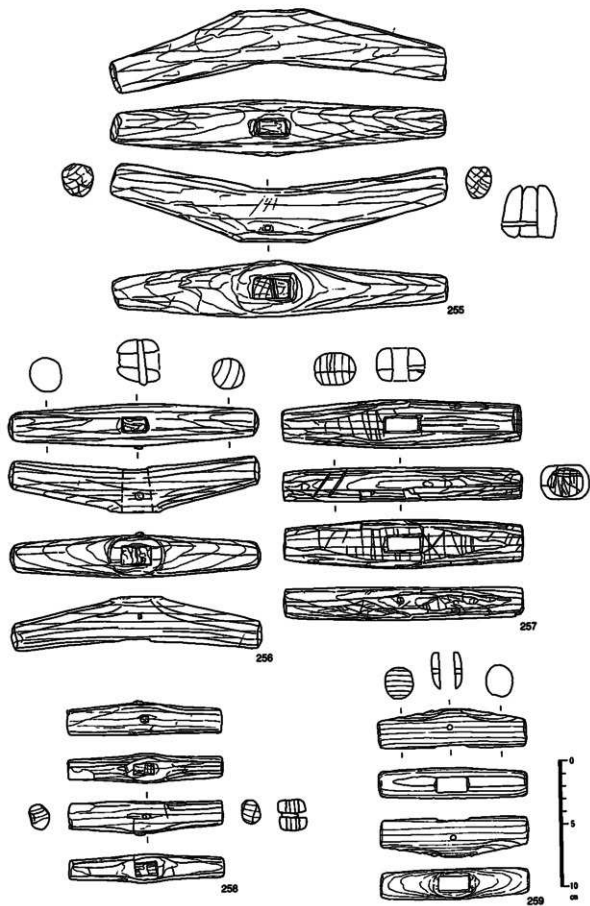
図V-92 舟用具3 (早瀬①)



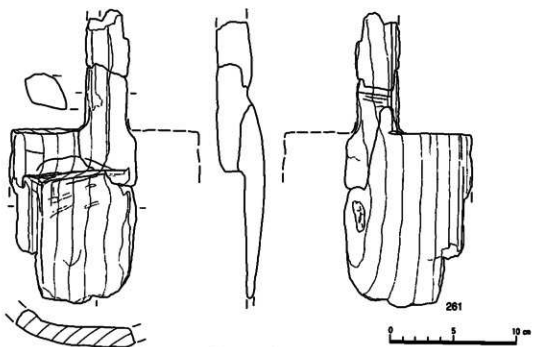
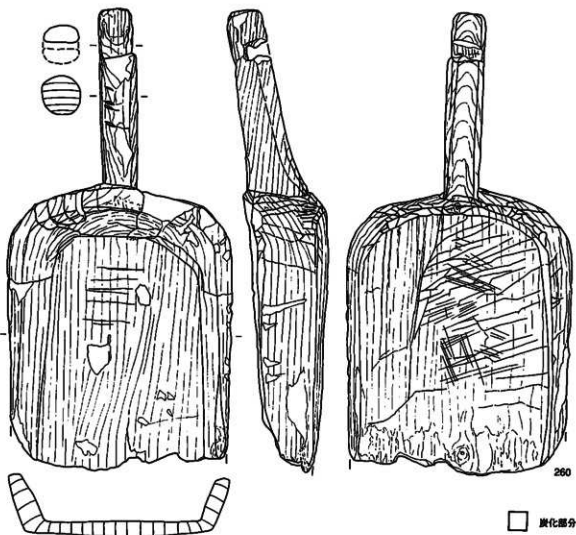
図V-93 舟用具4 (早權②)



図V-94 舟用具5 (早權握部③)

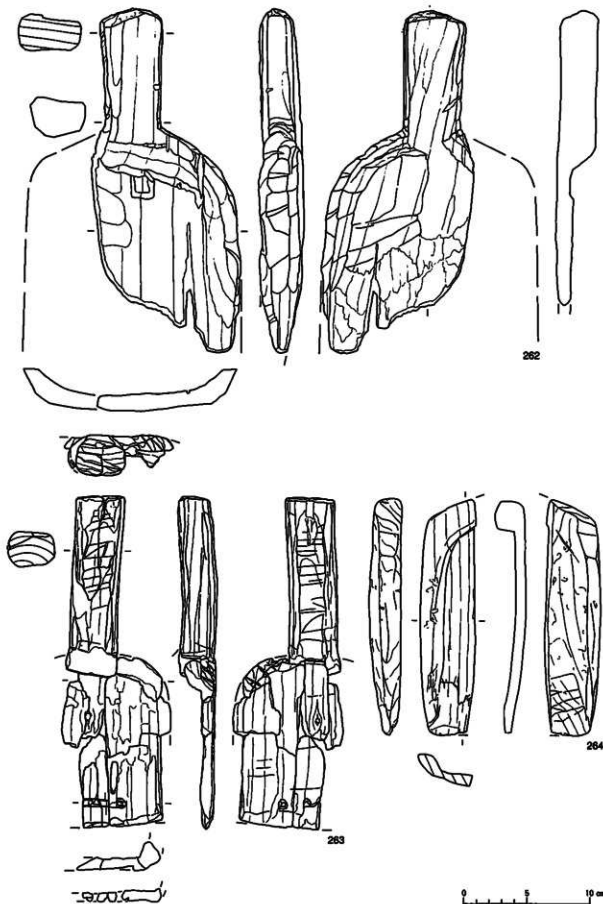


図V-96 舟用具6 (早權掘部④)

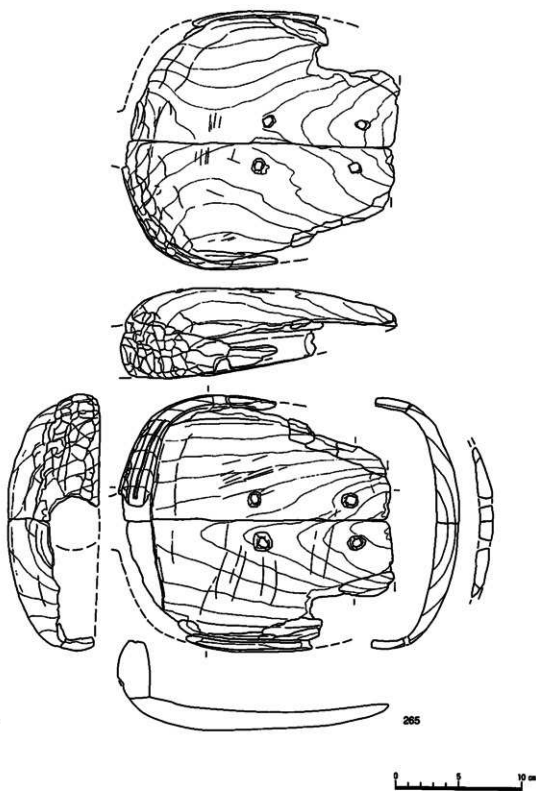


図V-96 舟用具7 (あか汲み①)

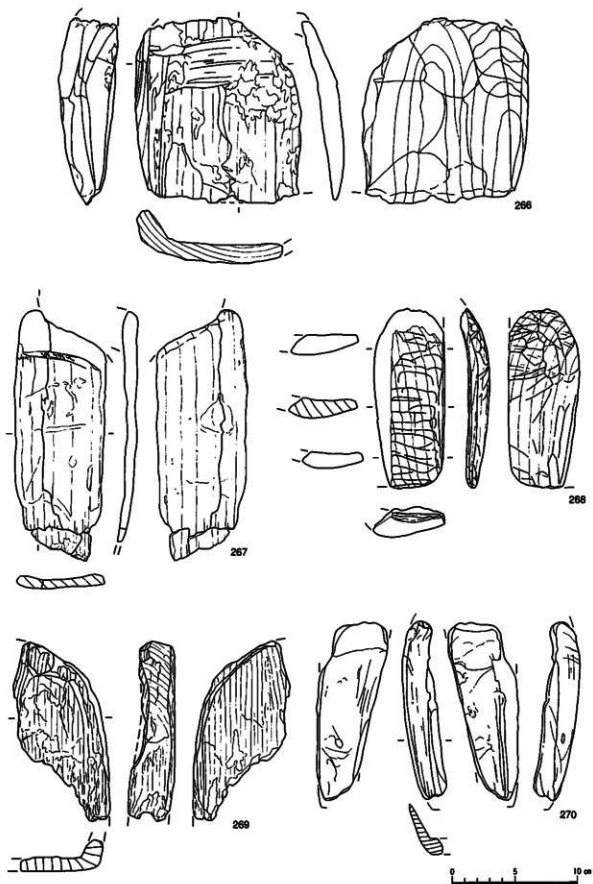
V 第0黒色土層の調査



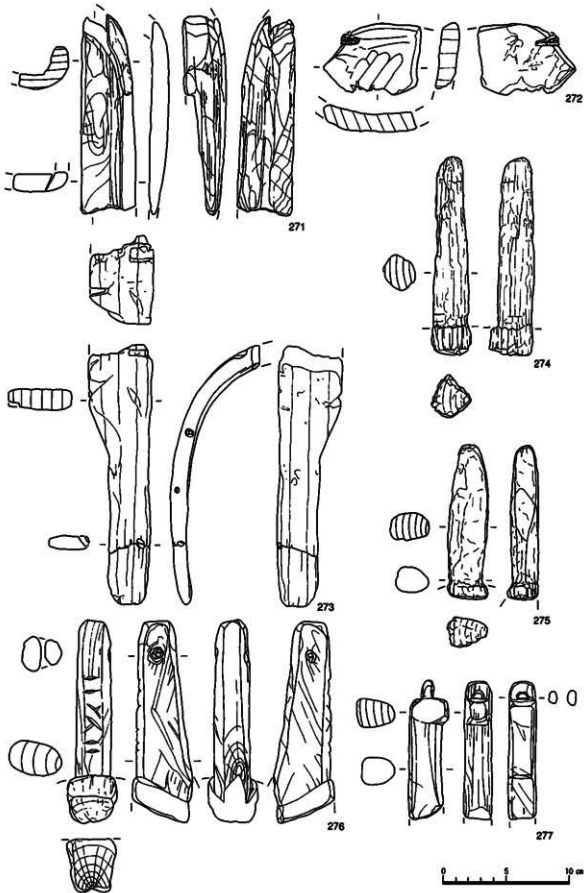
図V-97 舟用具8 (あか汲み②)



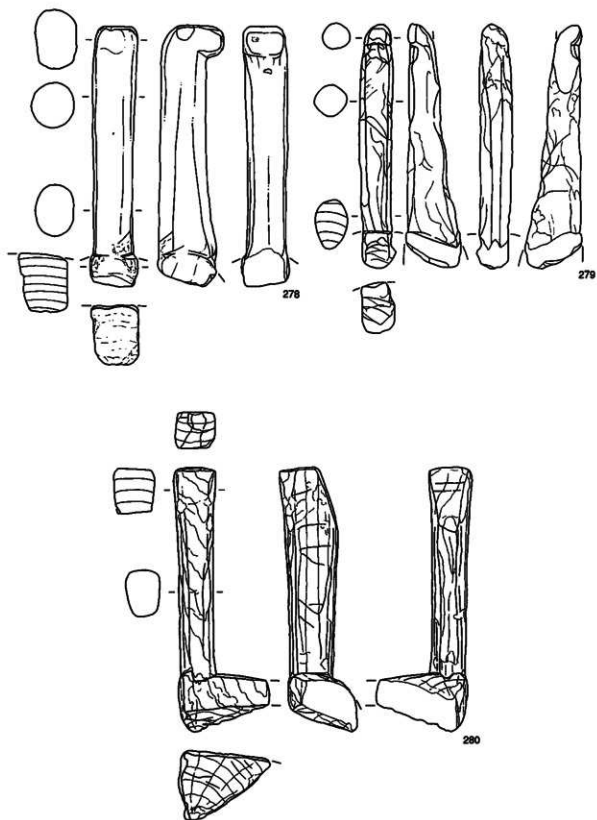
図V-98 舟用具9 (あか汲み③)



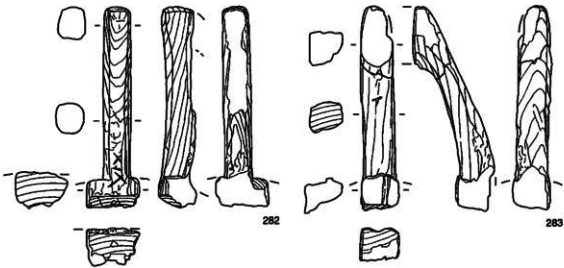
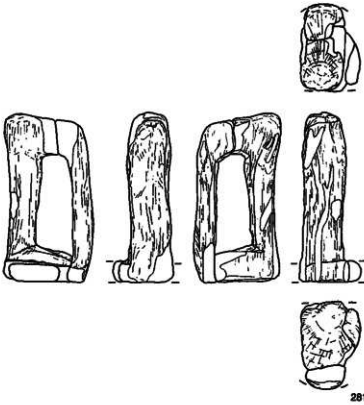
図V-99 舟用具10 (あか汲み④)



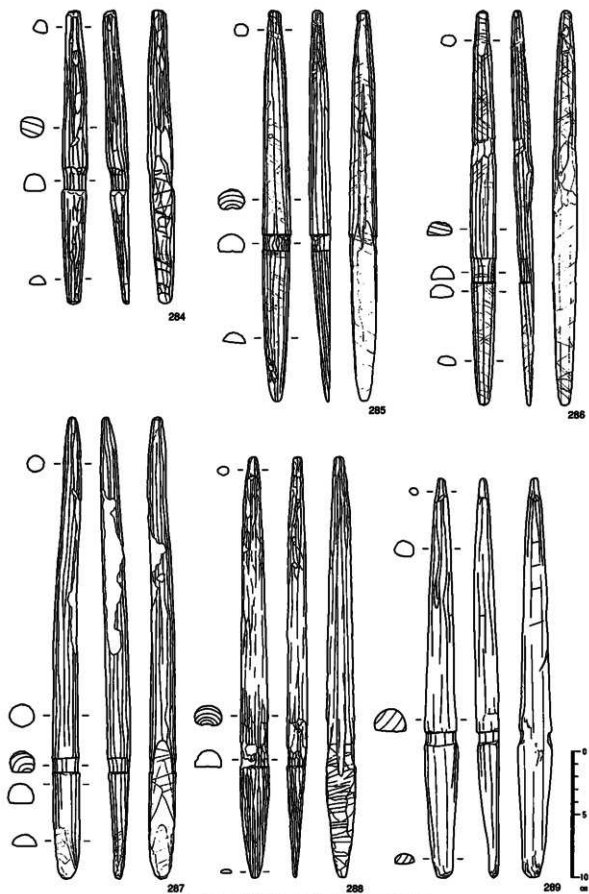
図V-100 舟用具11 (あか汲み⑤)



図V-101 舟用具12 (あか汲み®)



図V-102 舟用具13 (あか汲み⑦)



図V-103 漁撈具1 (回転式離頭鉤中柄①)

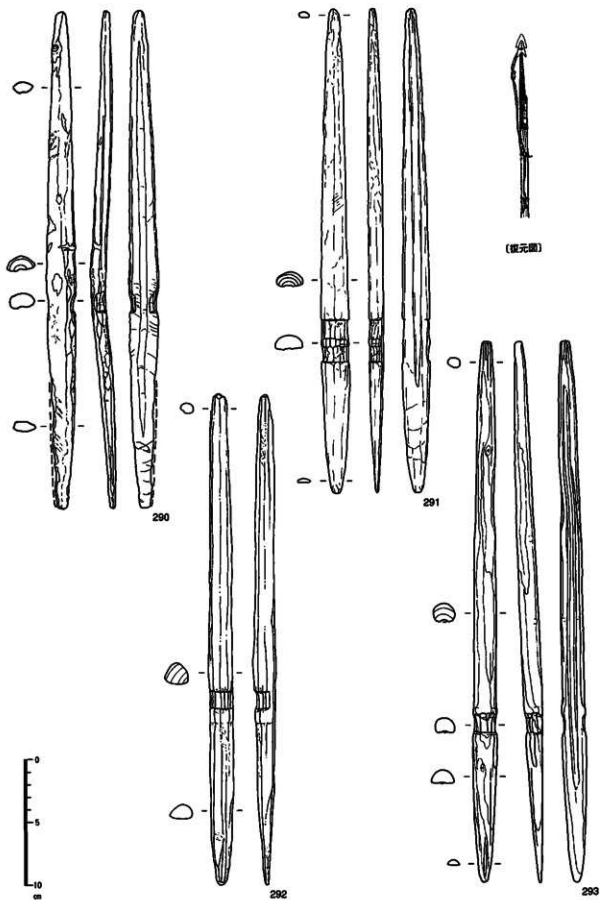
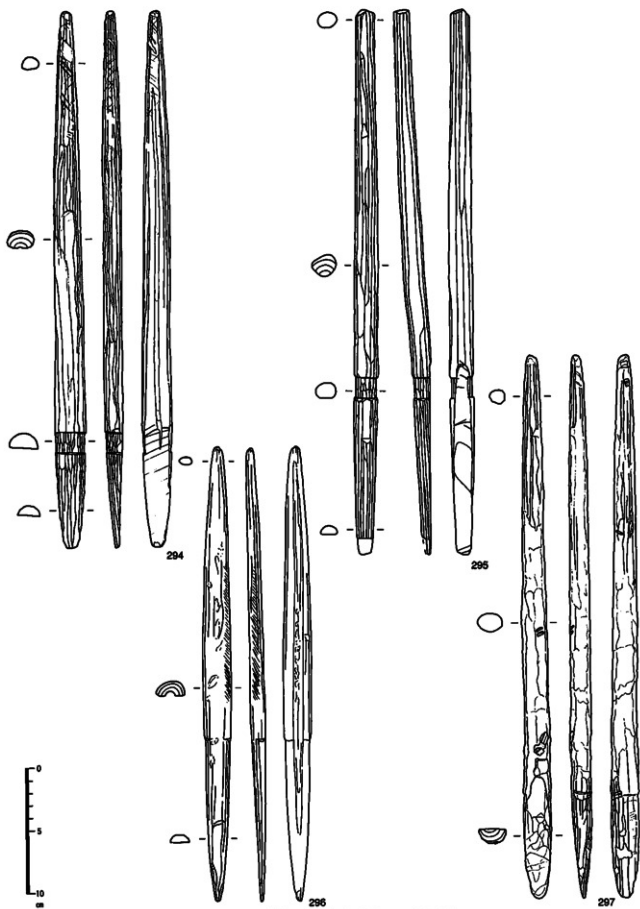
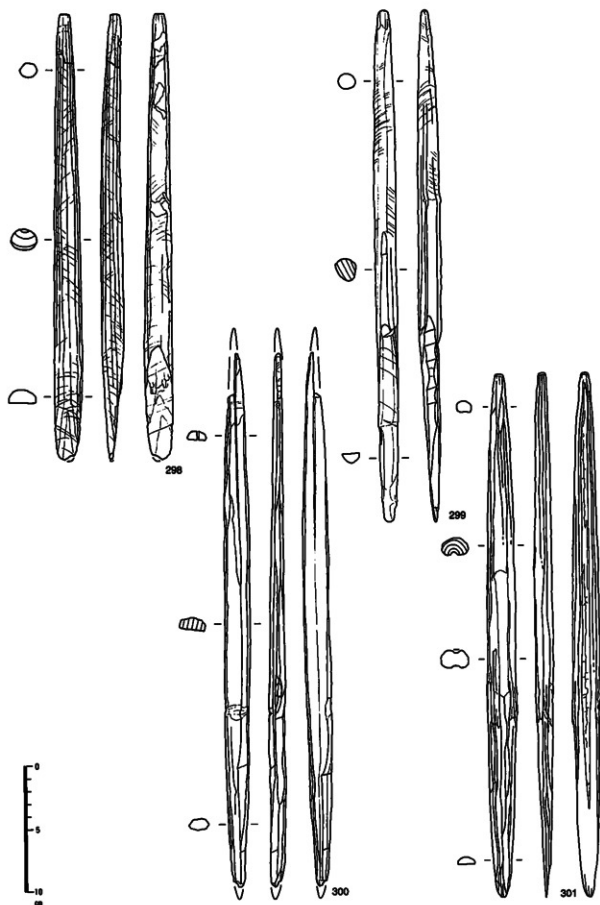


图 V-104 漁撈具 2 (回転式離頭話中柄②)

V 第0黑色土層の調査

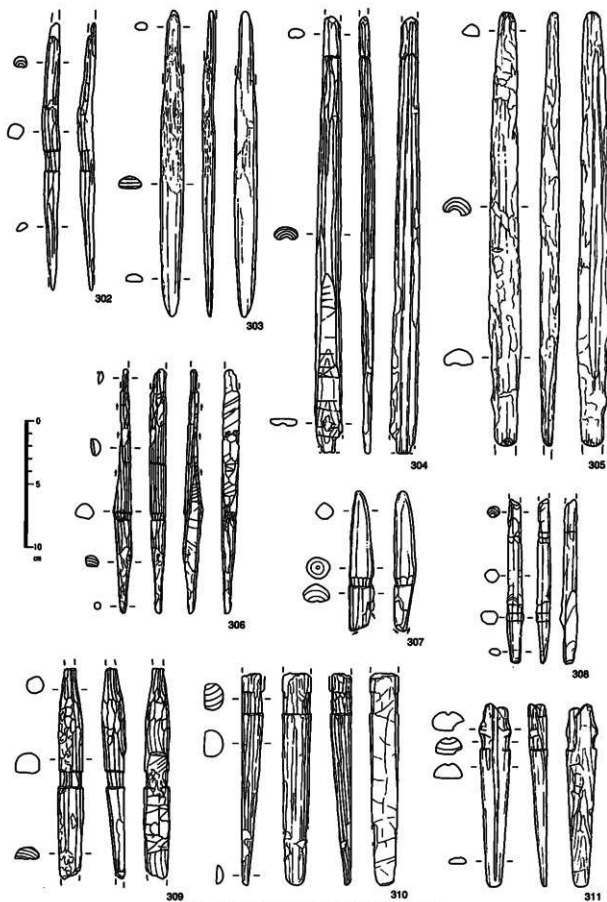


図V-105 漁撈具3 (回転式離頭鉤中柄③)

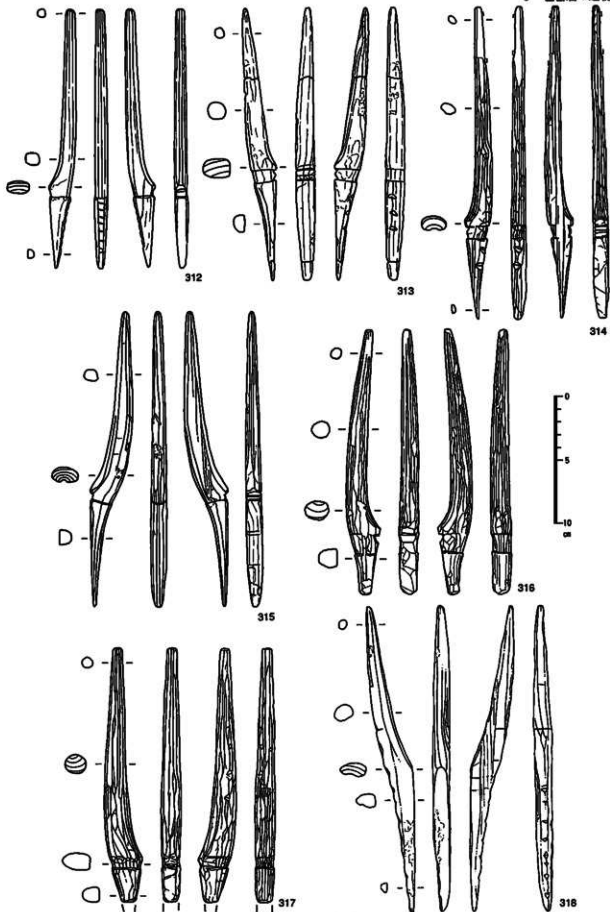


图V-106 渔捞具4 (回転式離頭鉗中柄④)

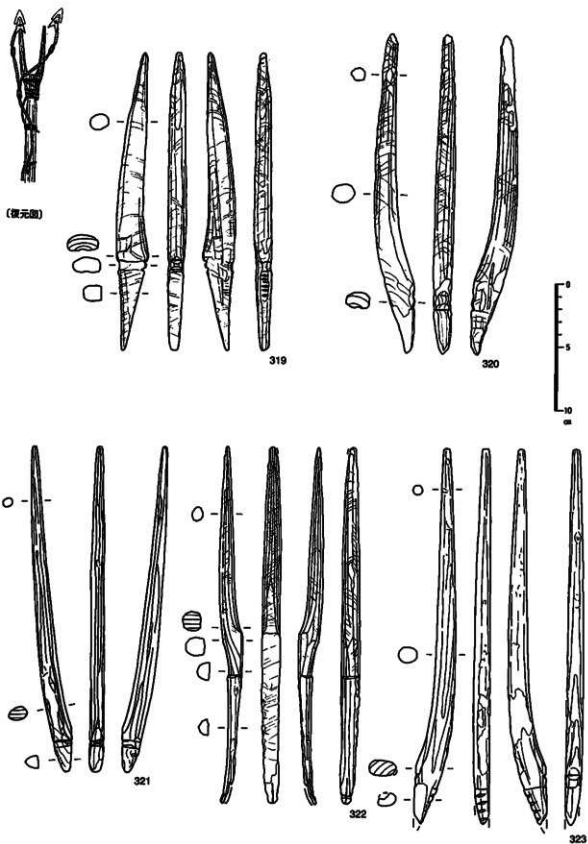
V 第0 黑色土層の調査



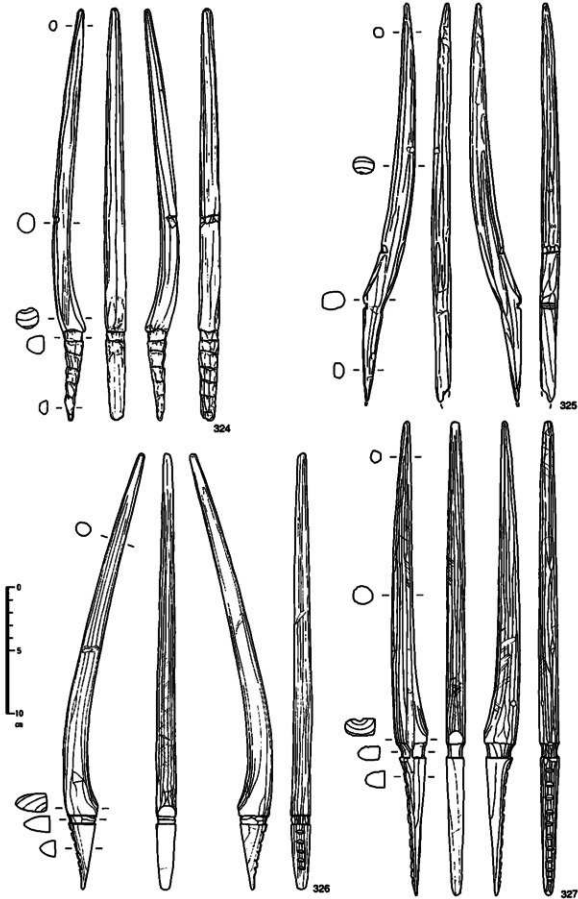
図V-107 漁撈具5 (回転式船頭結中柄⑤)



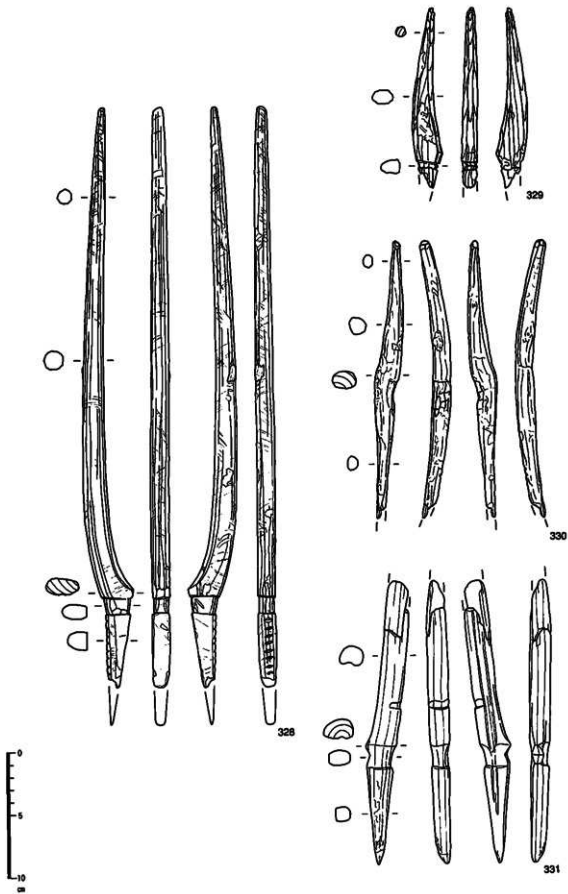
図V-108 漁撈具6 (回転式離頭鉤中柄⑥)



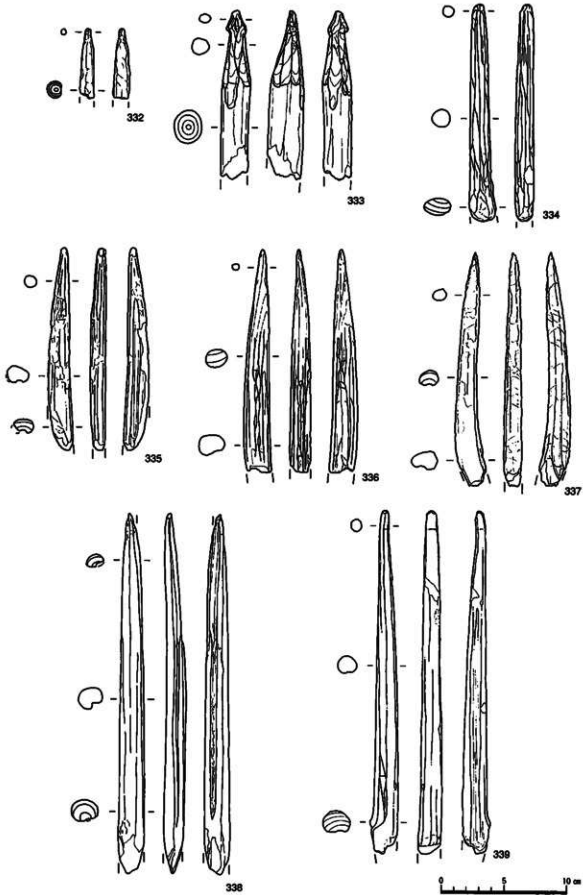
図V-109 漁撈具7 (回転式離頭鉤中柄⑦)



図V-110 漁撈具 8 (回転式離頭鉤中柄⑧)

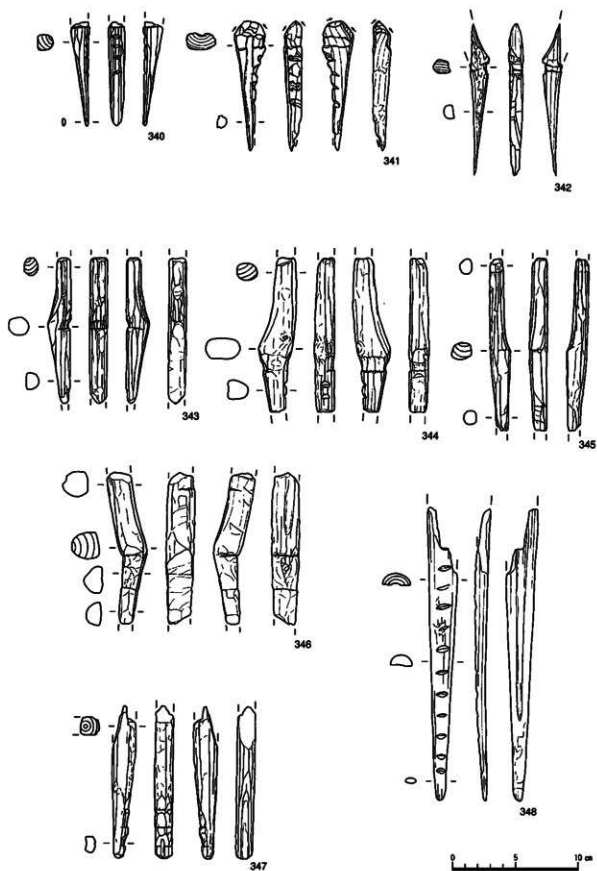


図V-111 漁撈具9 (回転式離頭鉤中柄⑨)

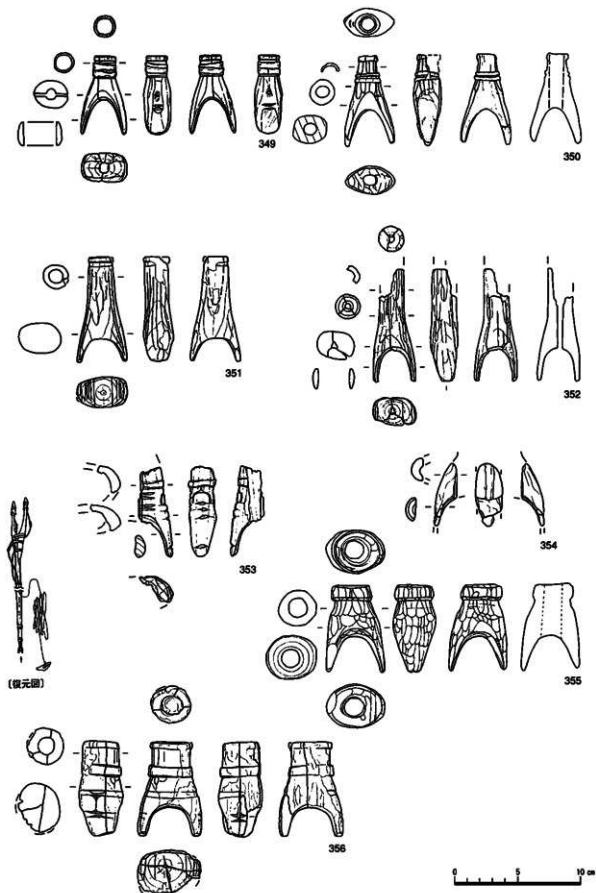


図V-112 漁撈具10 (回転式離頭鉤中柄⑩)

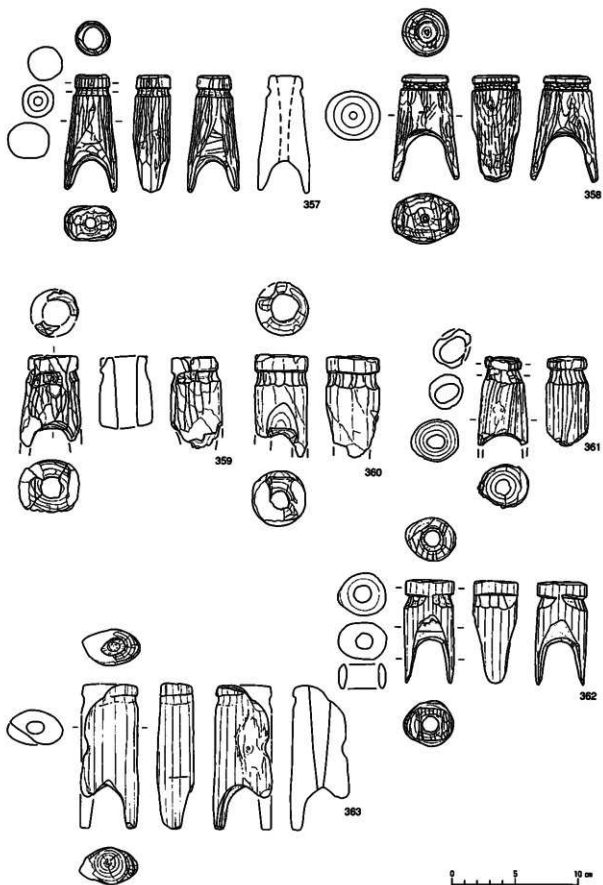
V 第0 黒色土層の調査



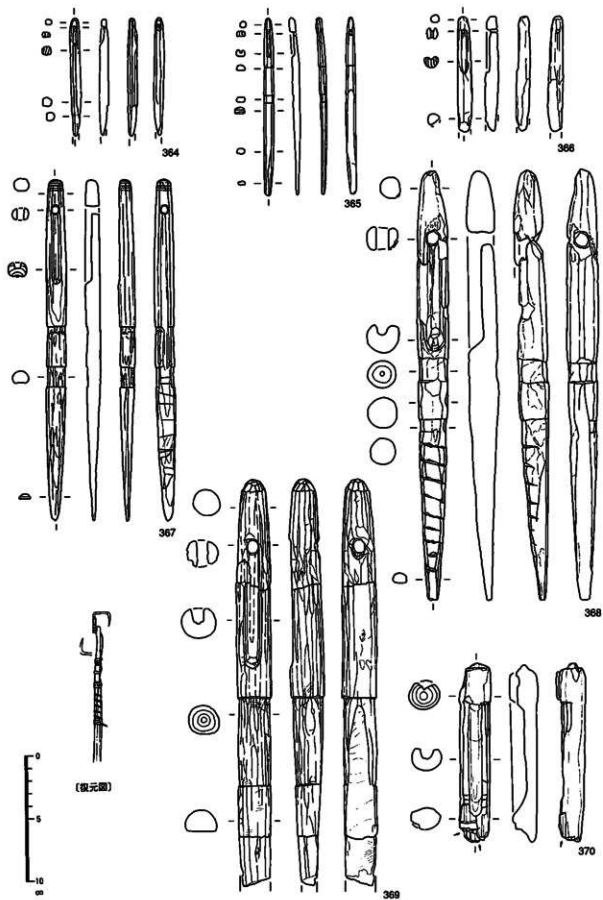
図V-113 漁撈具11 (回転式離頭鉤中柄①)



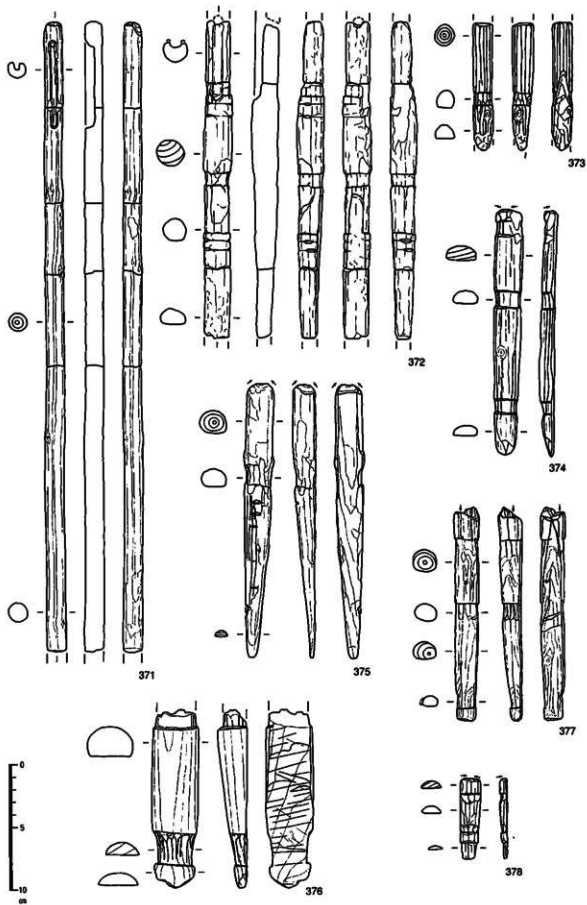
図V-114 漁撈具12 (回転式離頭鉤指掛部①)



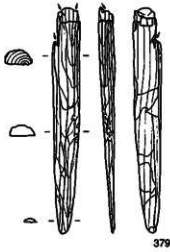
図V-115 漁撈具13 (回転式離頭鉤指掛部②)



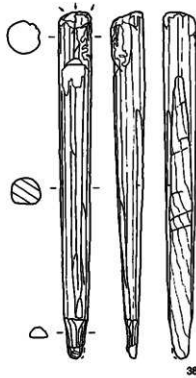
図V-116 漁撈具14 (魚突鉤鉤台部①)



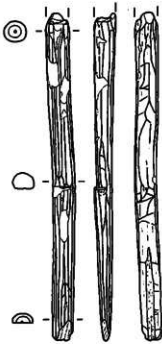
図V-117 漁撈具15 (魚突鉤銜台部②/基部)



379



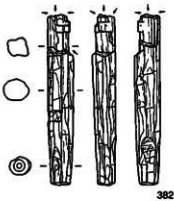
380



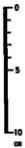
381



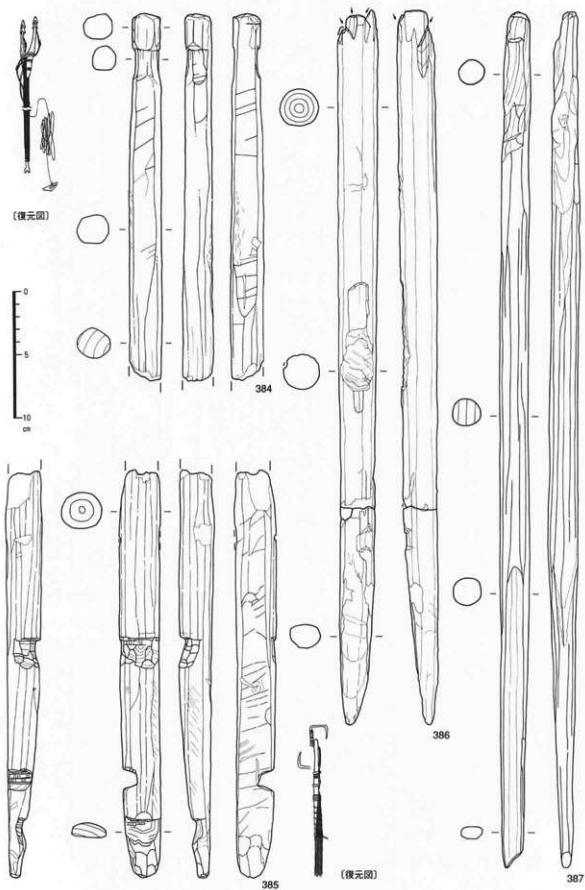
383



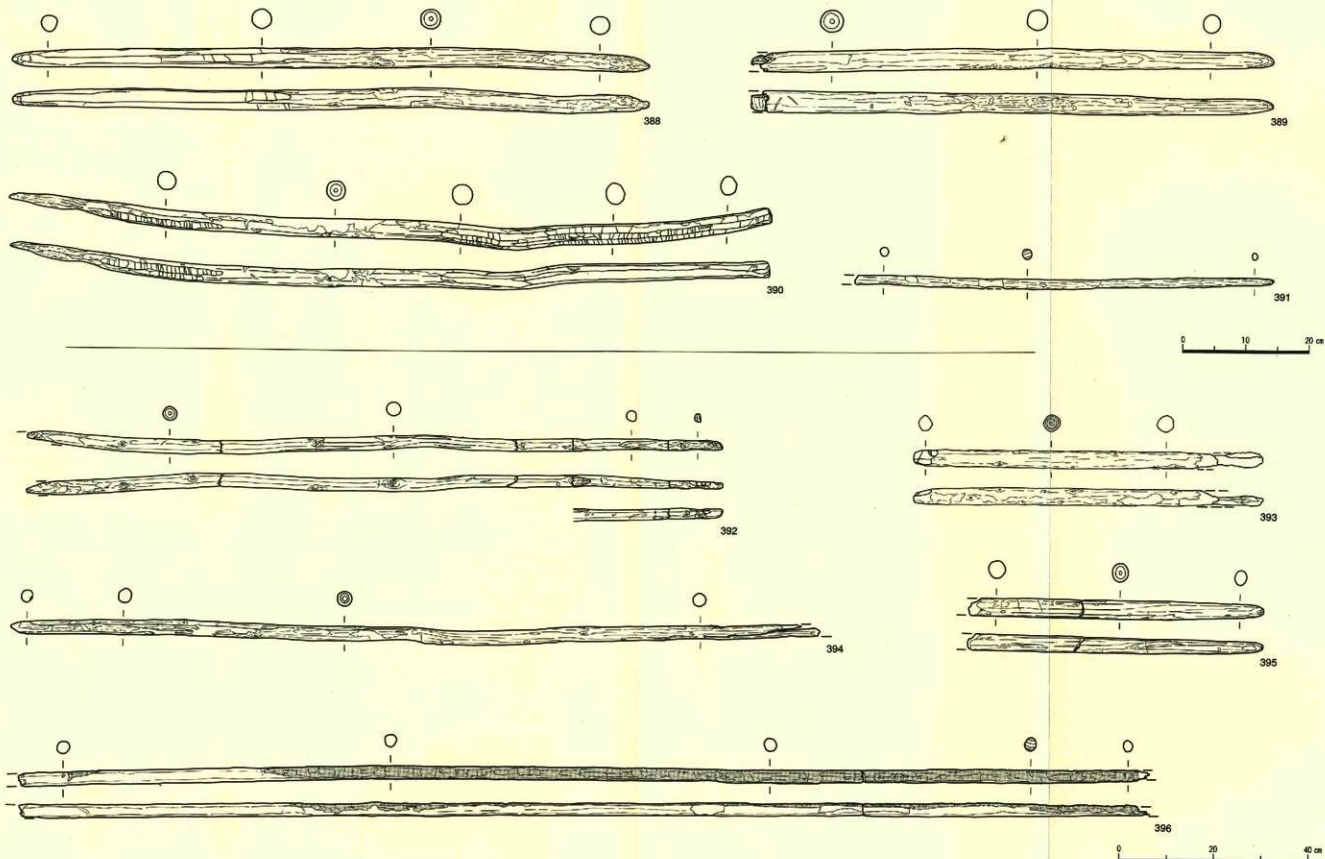
382



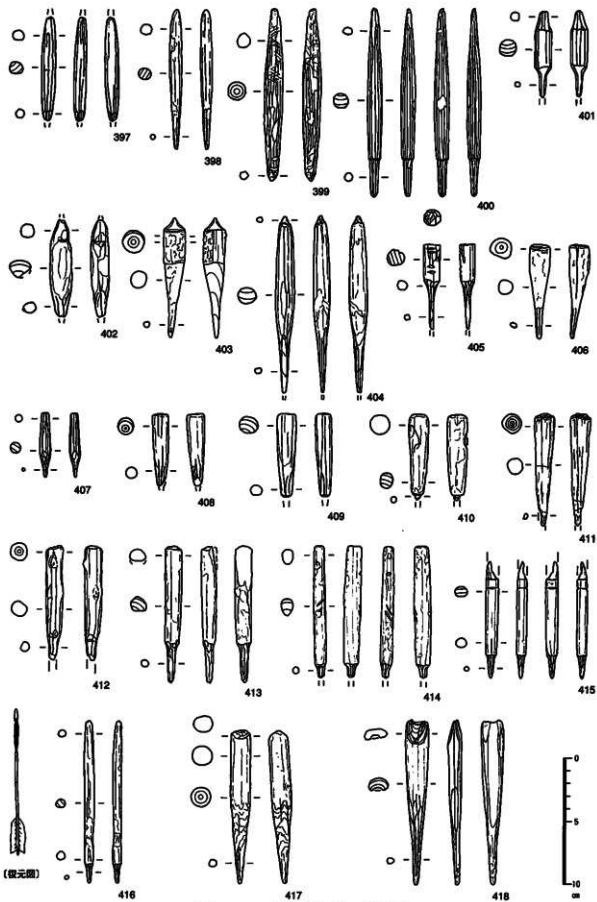
図V-118 漁撈具16 (回転式離頭鉆中柄・魚突鉆鉆台/基部/榫)



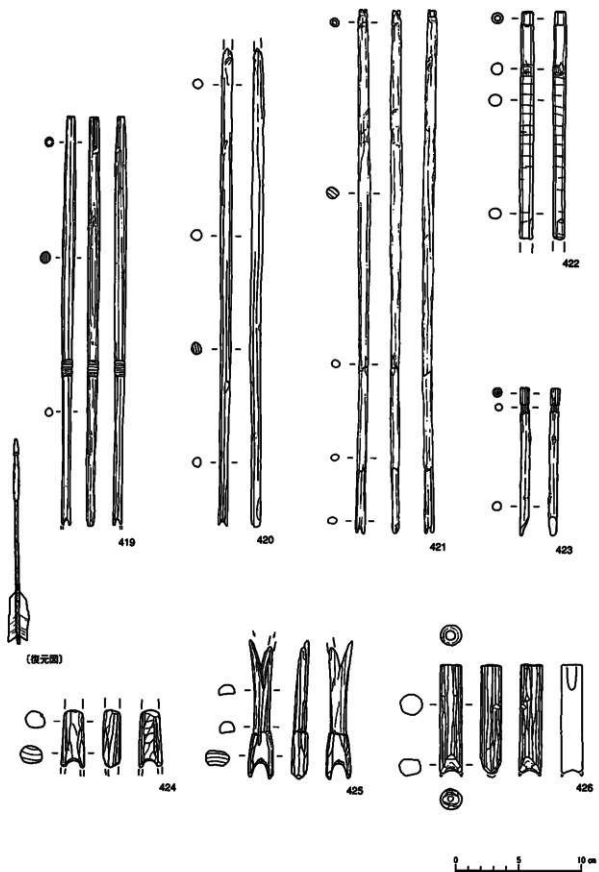
図V-119 漁撈具17 (回転式離頭鈎・魚突鈎鈎/棹①)



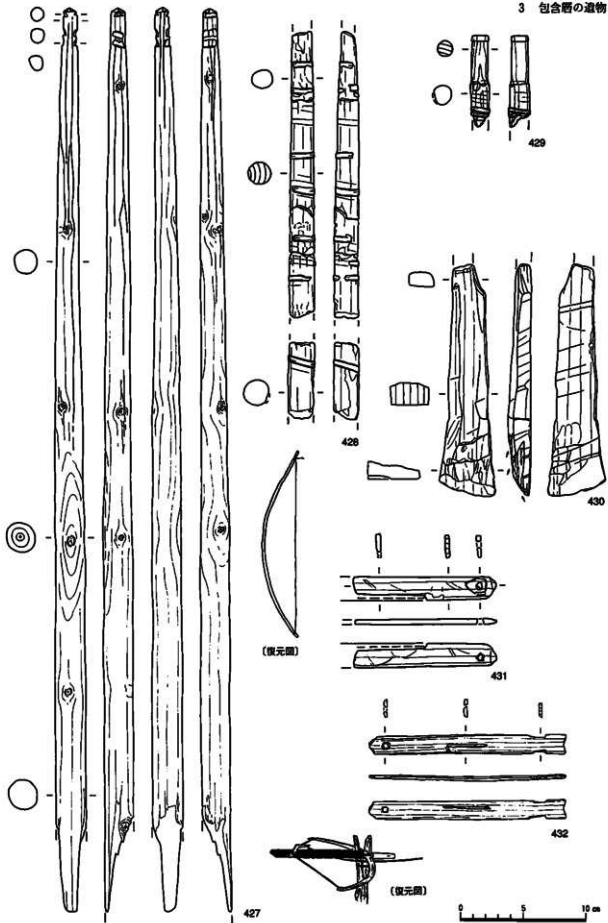
図V-120 漁撈具18 (回転式離頭籠・魚突鉤籠/棹②)



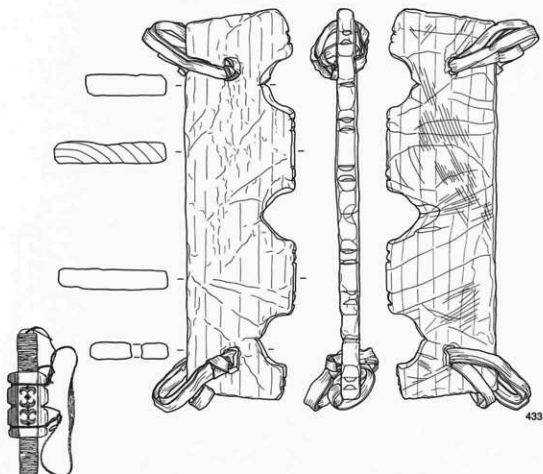
図V-121 狩猟具1 (矢・矢中柄)



圖V-122 狩猟具2 (矢柄・矢筈)

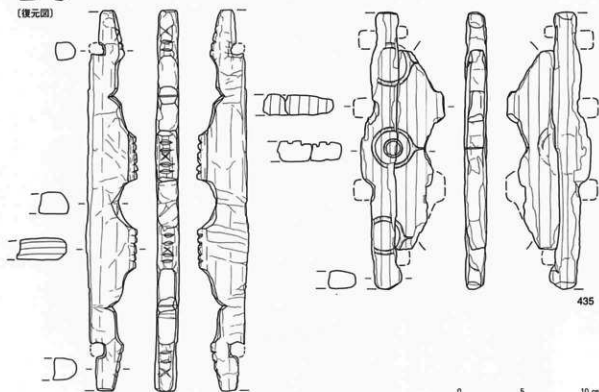


図V-123 狩猟具3 (弓・仕掛弓台部ミニチュア・翼部材?)



433

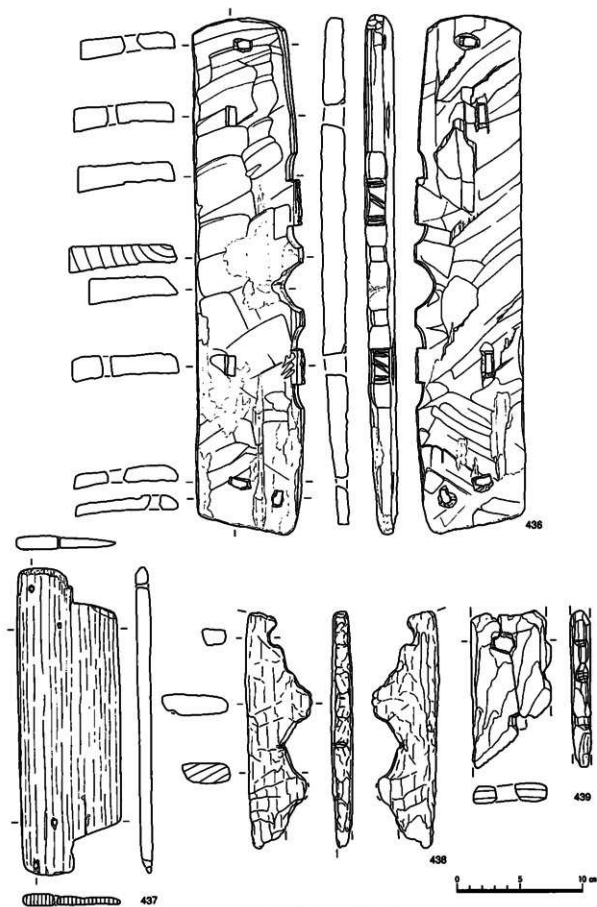
(複元図)



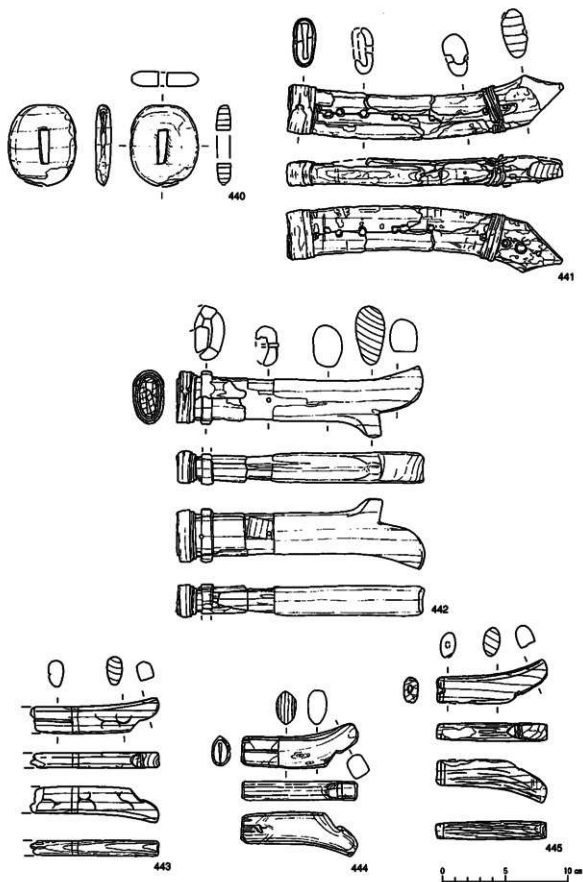
434

0 5 10 cm

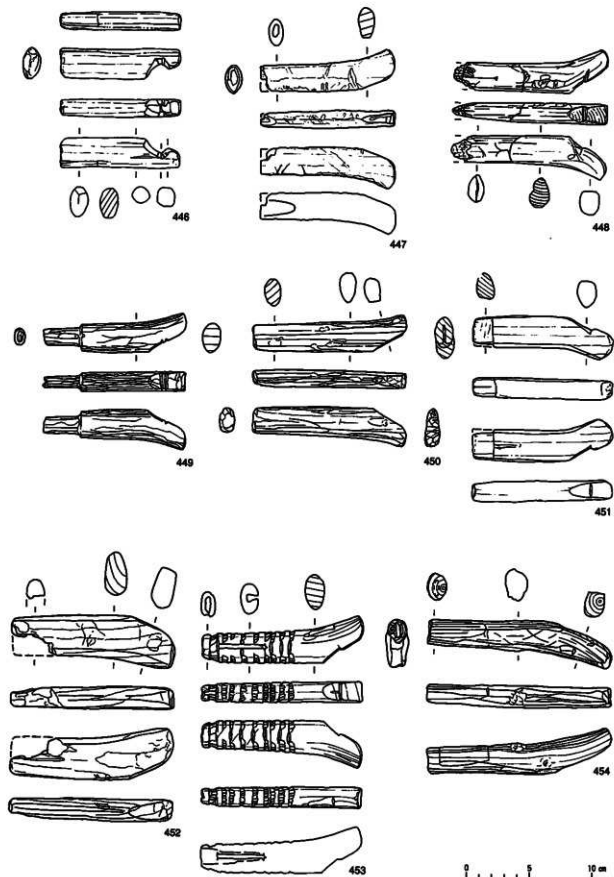
図V-124 狩猟具4 (矢筒翼①)



図V-125 狩猟具5 (矢筒裏②)

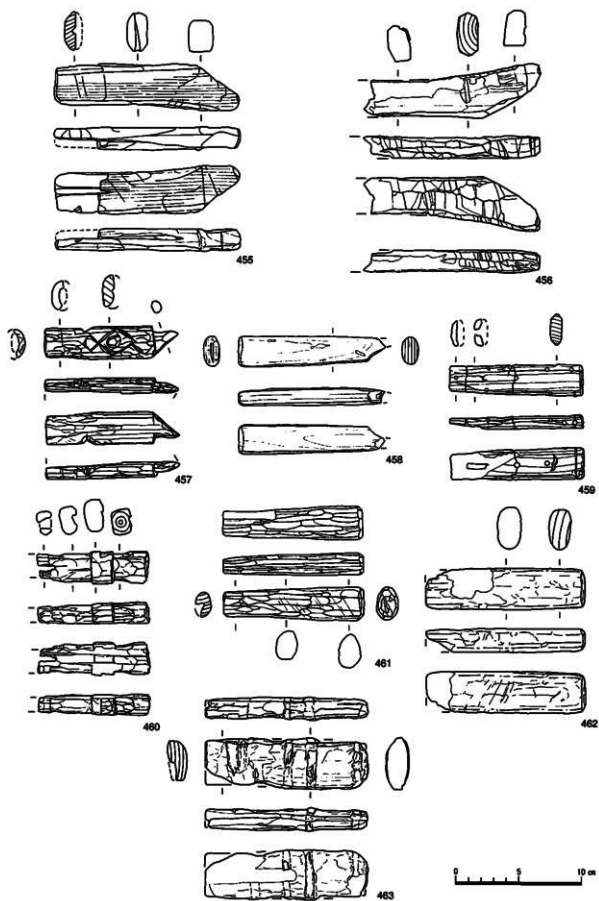


図V-126 切道具1 (鐔・刀柄・山刀柄・小刀柄①)

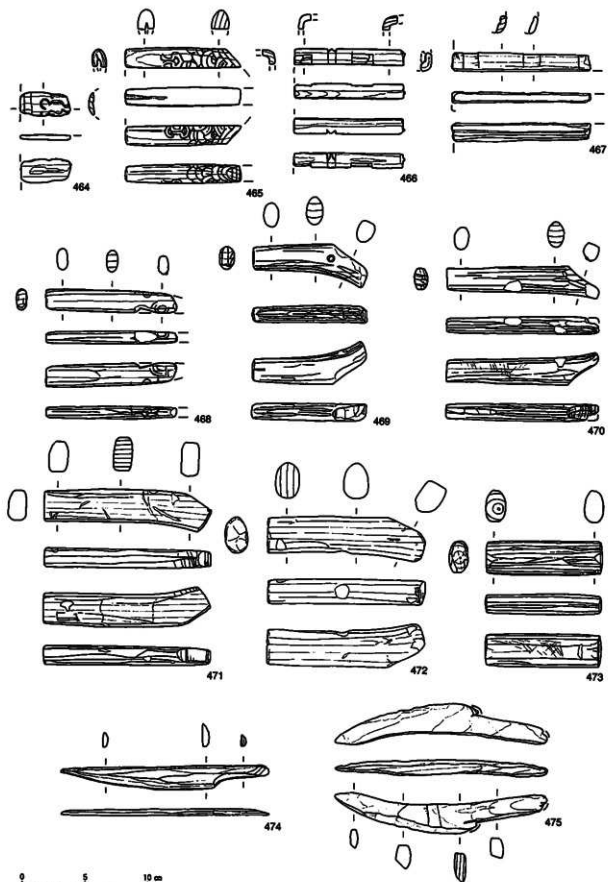


図V-127 切截具2 (小刀柄②)

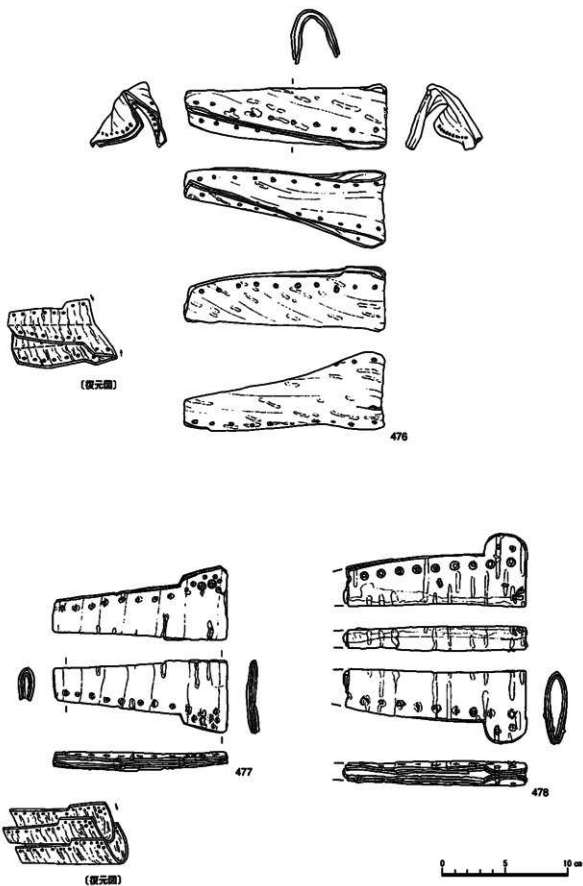
V 第0黒色土層の調査



図V-128 切截具3 (小刀柄③)



図V-129 切道具4 (小刀柄④・小刀柄未製品・小刀模造品)



圖V-130 切截具5 (小刀樹皮製鞘①)

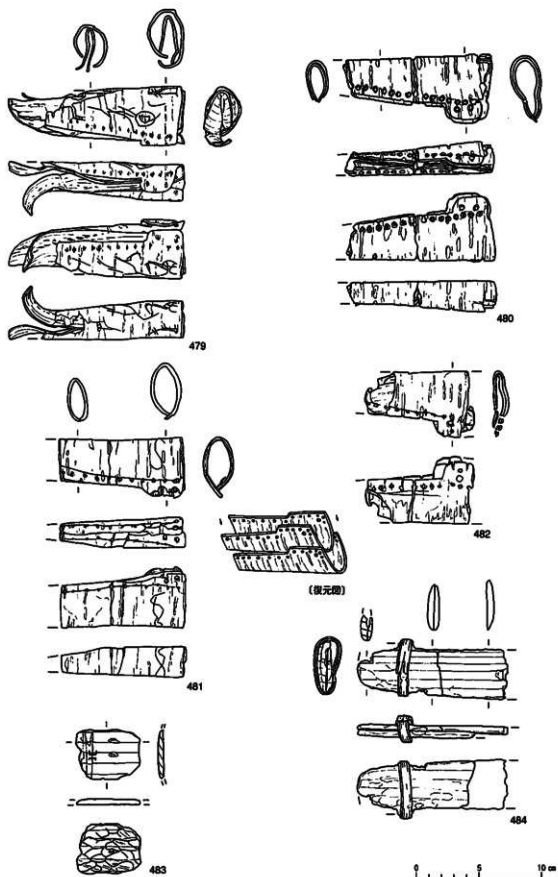
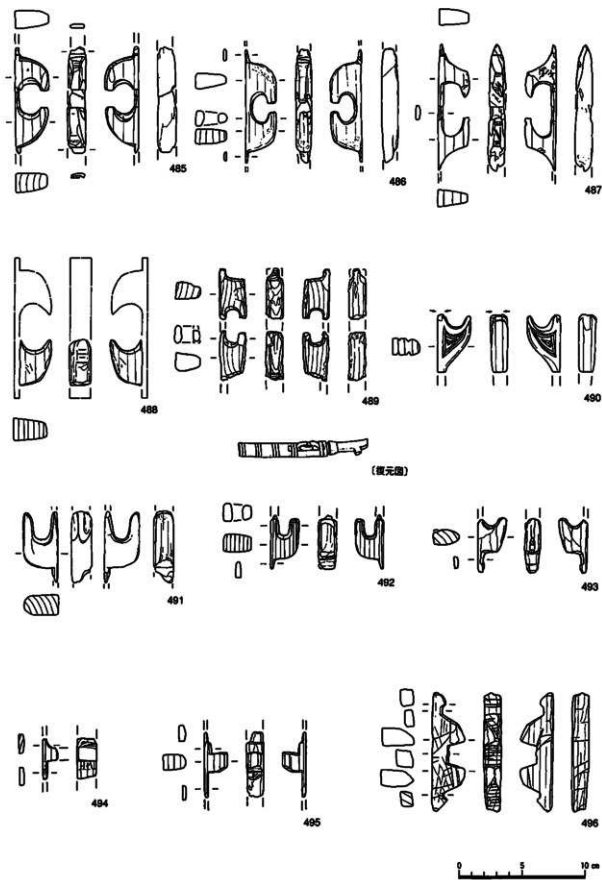
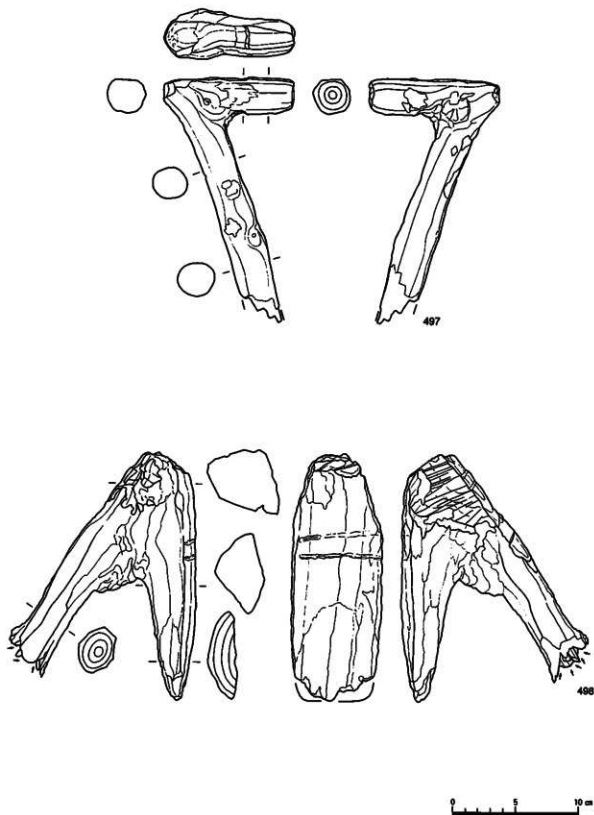


図 V-131 切截具 6 (小刀樹皮製鞘②/木製鞘)

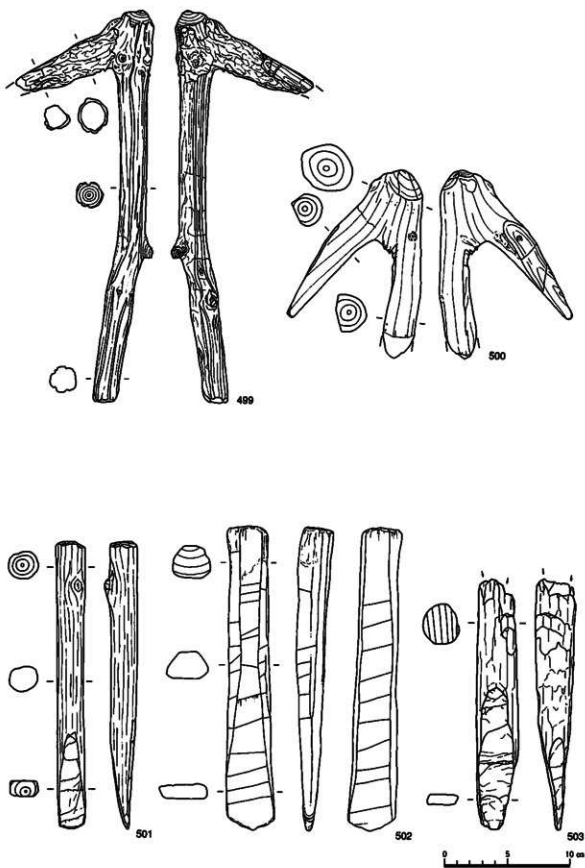
V 第0黒色土層の調査



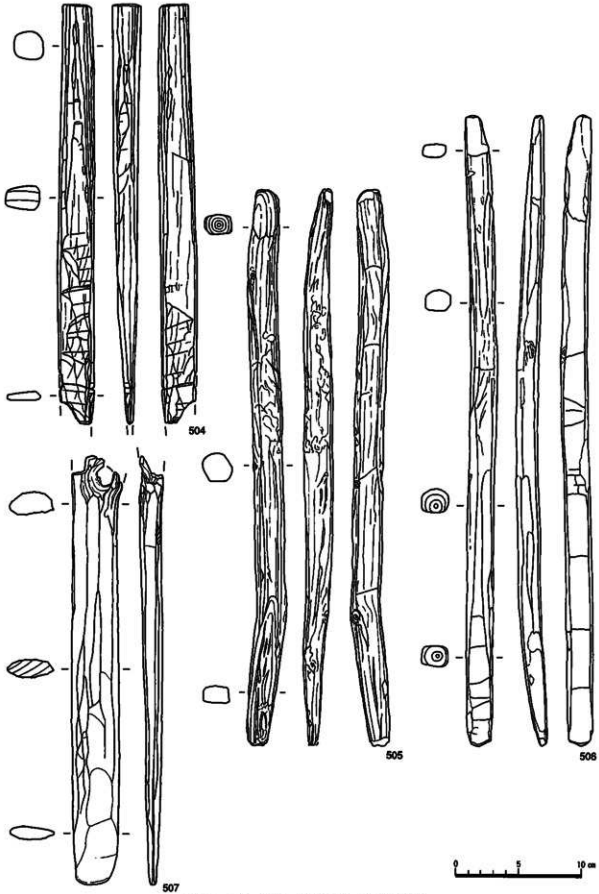
図V-132 切道具7 (山刀鞘帯執部)



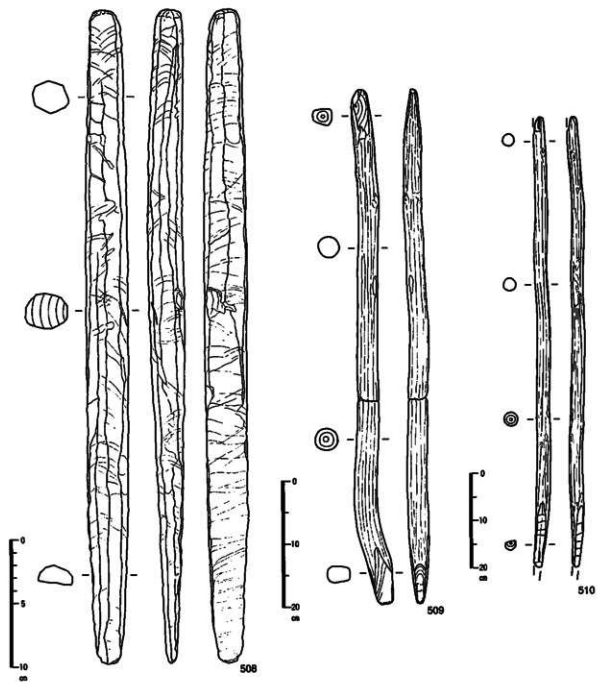
図V-133 切截具8 (笈式鉄斧柄)



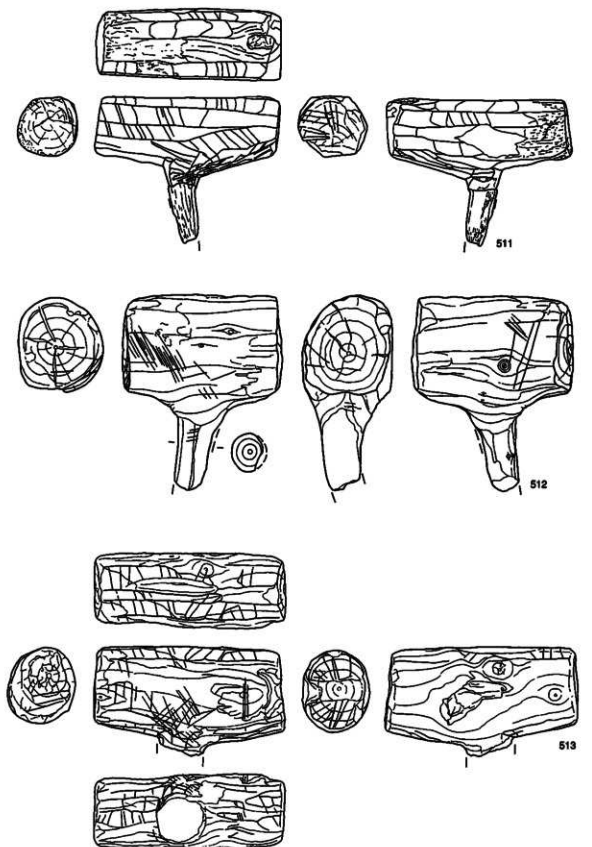
图V-134 農耕・採集具1 (鈎鍬/土掘棒①)



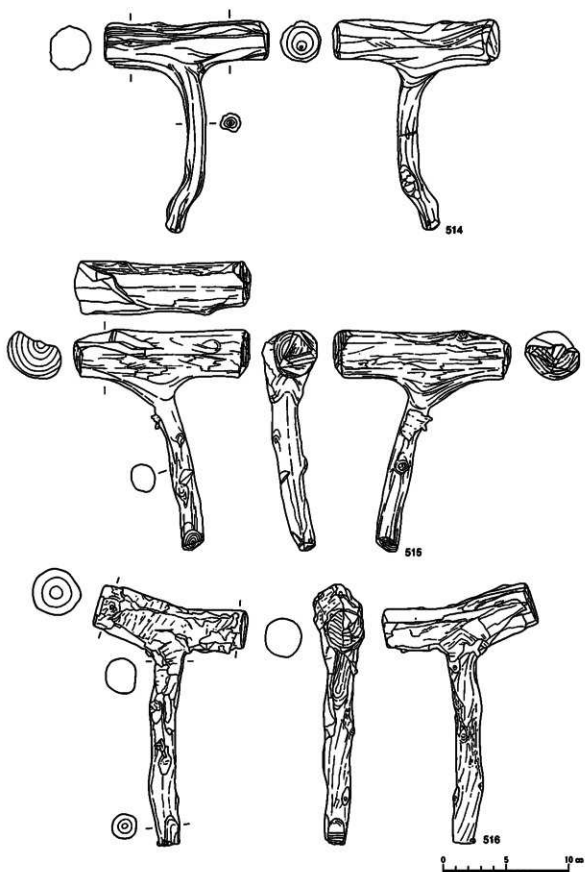
図V-136 農耕・採集具2 (土掘棒②)



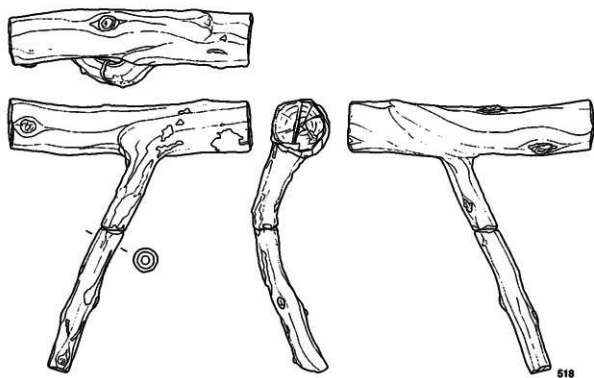
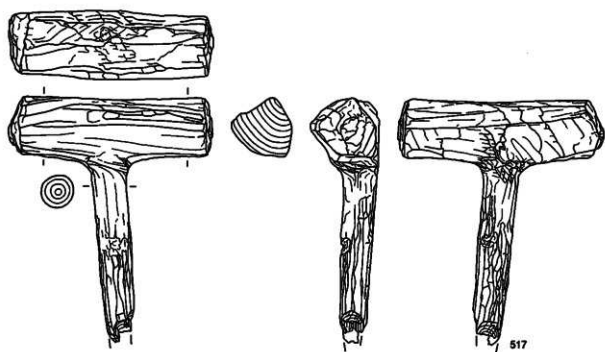
図V-136 農耕・採集具3 (土器等③)



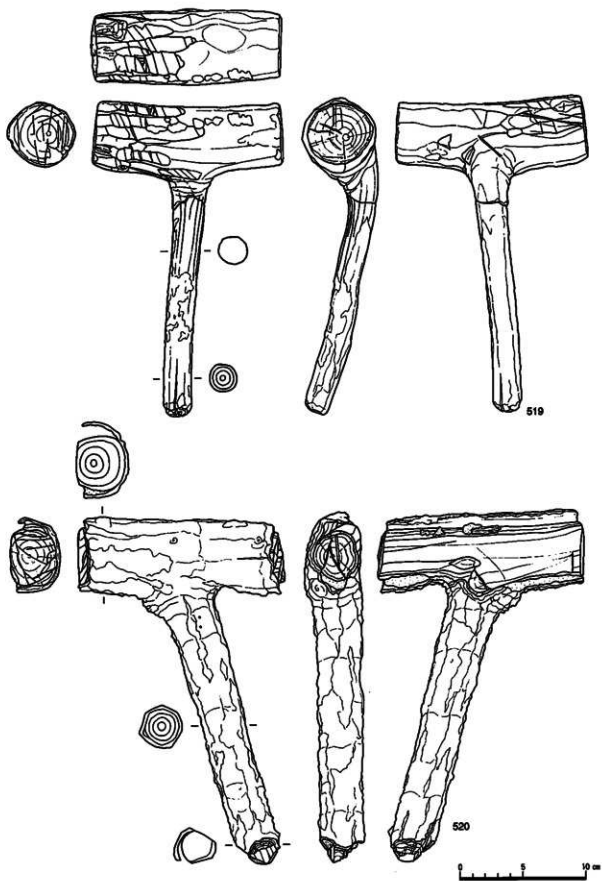
図V-137 工具1 (縦樋①)



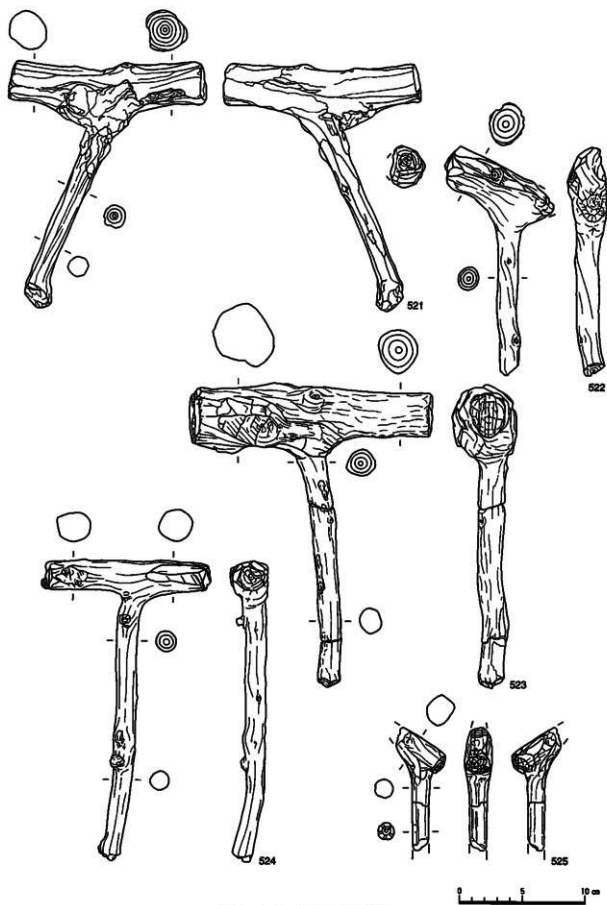
図V-138 工具2 (榫軸②)



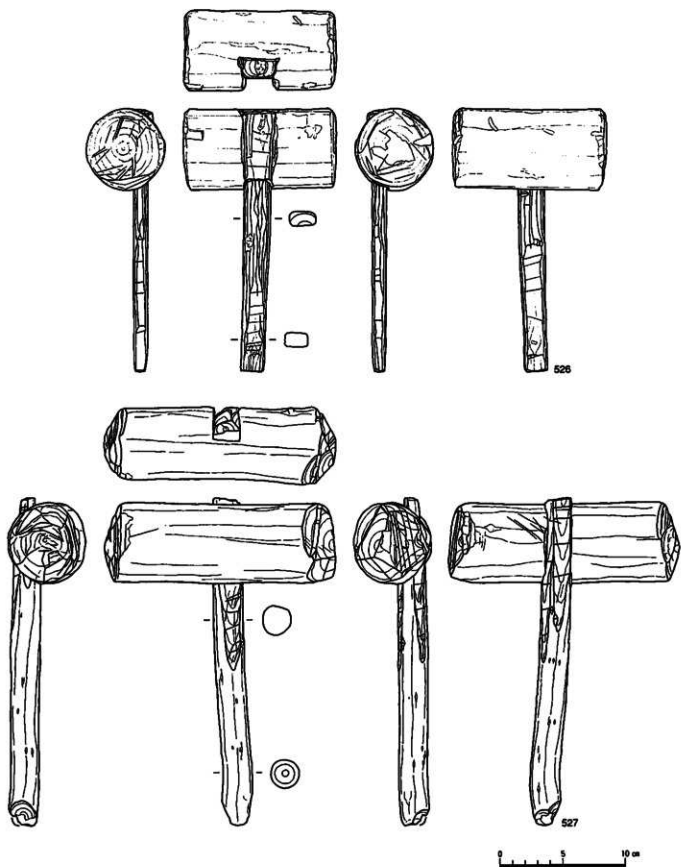
図V-139 工具3 (縦切③)



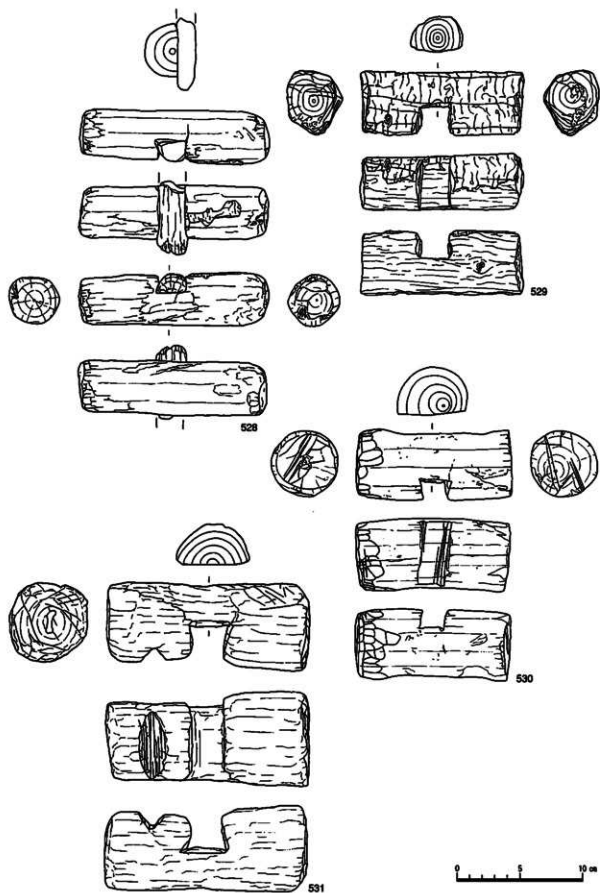
図V-140 工具4 (縦軸④)



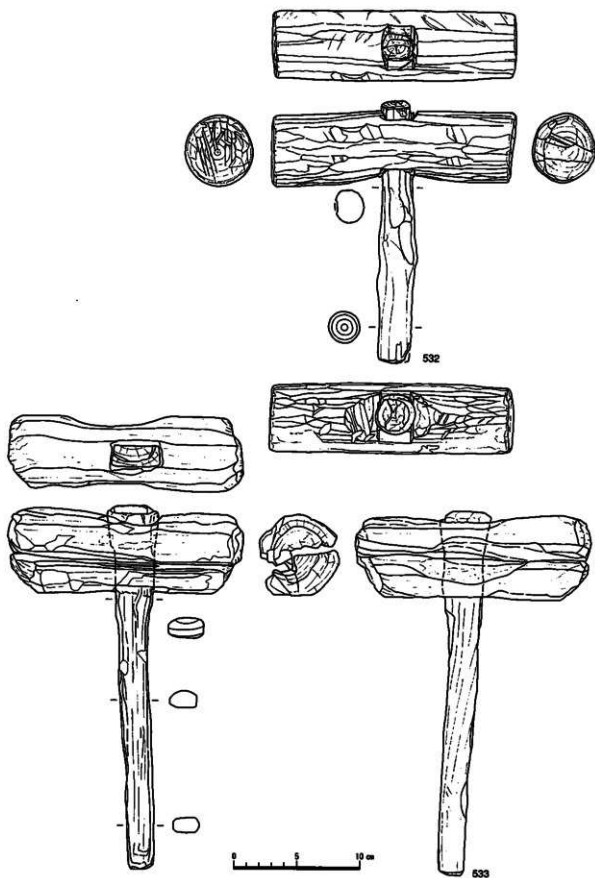
図V-141 工具 5 (層⑤)



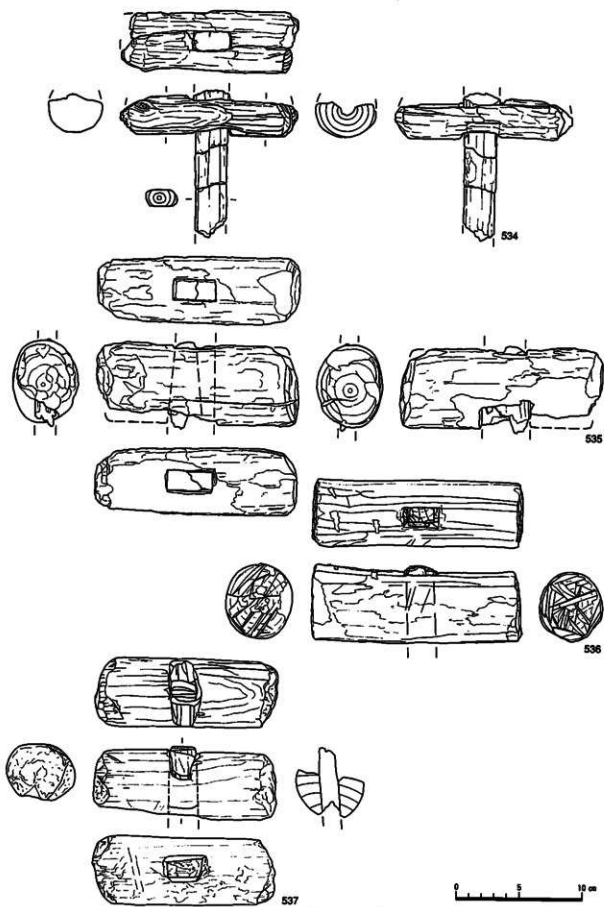
図V-142 工具6 (榫軸⑥)



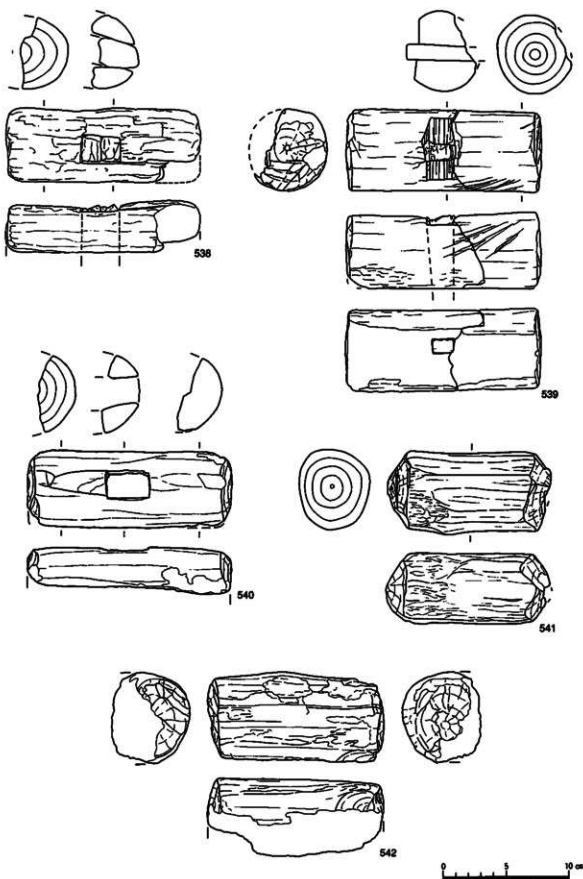
図V-143 工具7 (概榫の)



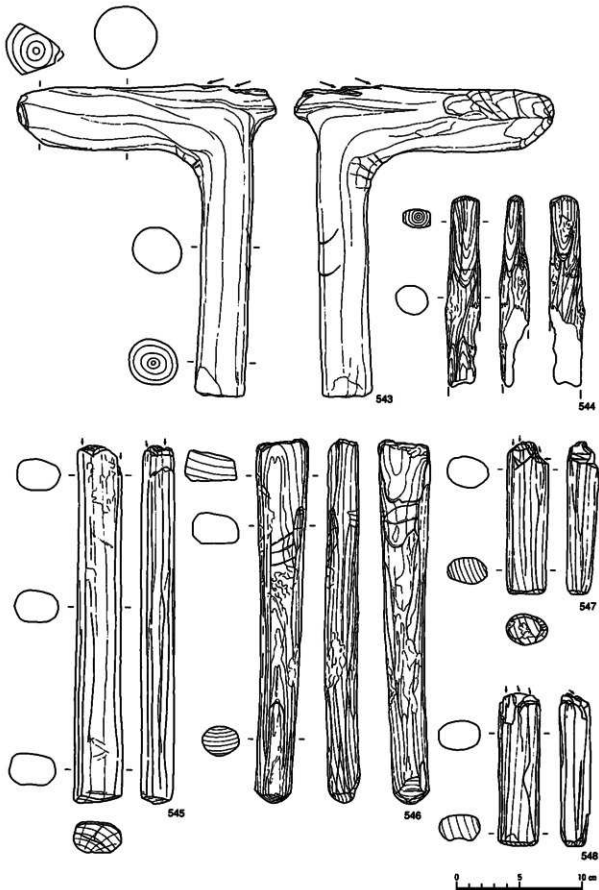
図V-144 工具8 (縦樋⑧)



図V-145 工具9 (縦横⑨)

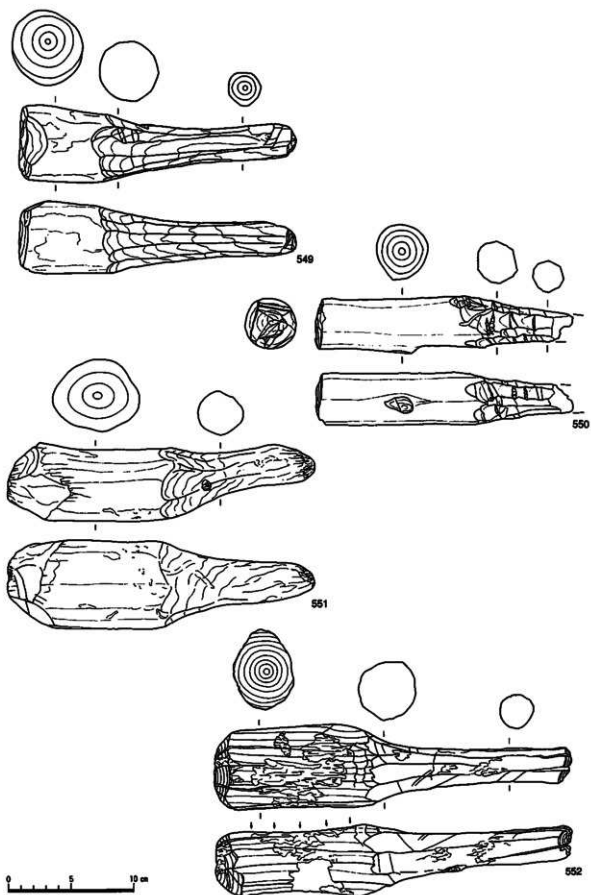


図V-146 工具10 (縦軸⑨)

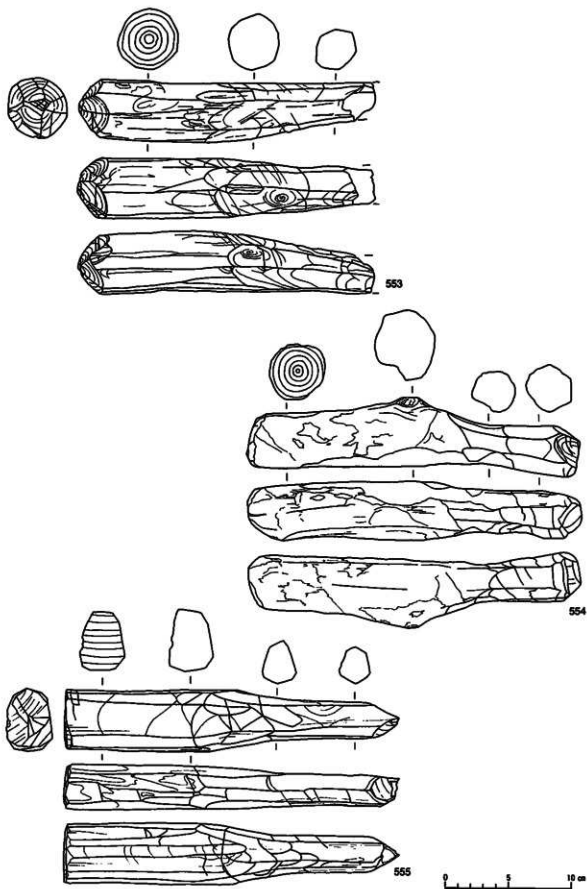


図V-147 工具11 (鉄斧または縦礎柄)

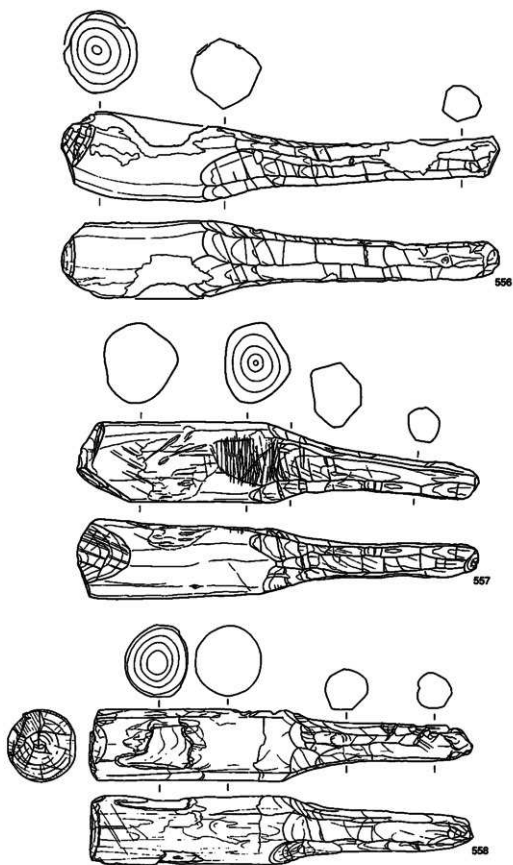
V 第0黒色土層の調査



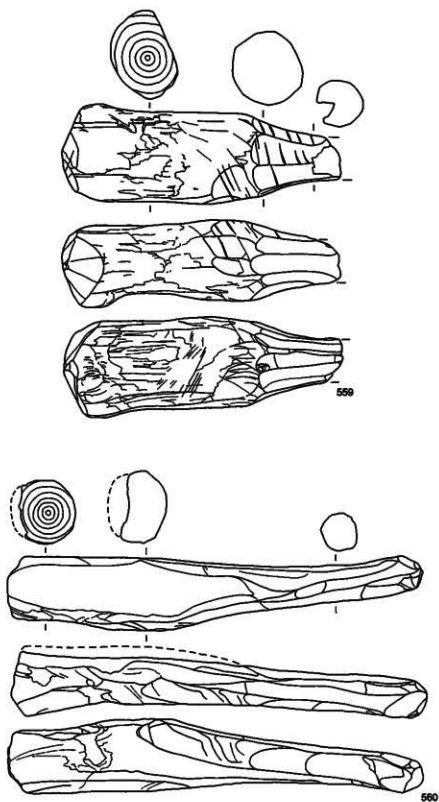
図V-148 農耕・工具1 (横樋①)



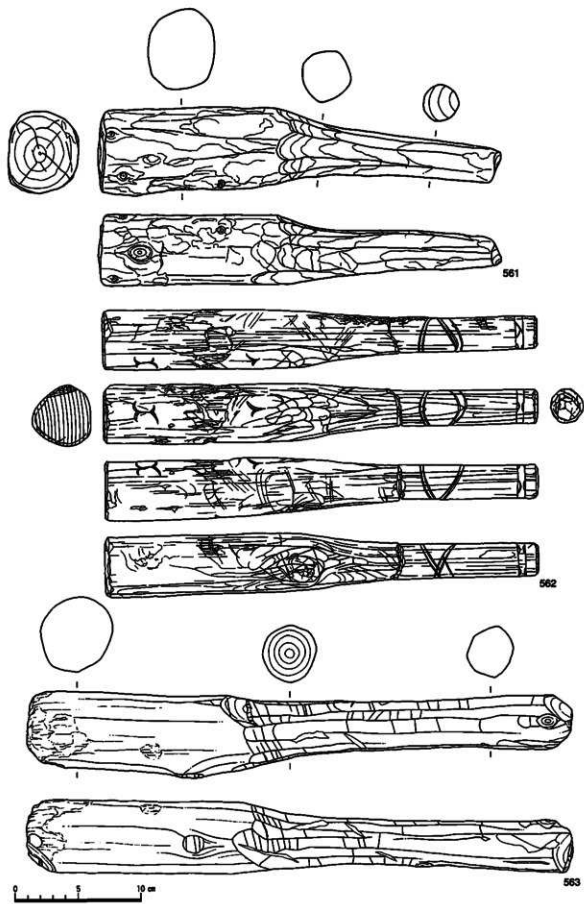
図V-149 農耕・工具2 (横植②)



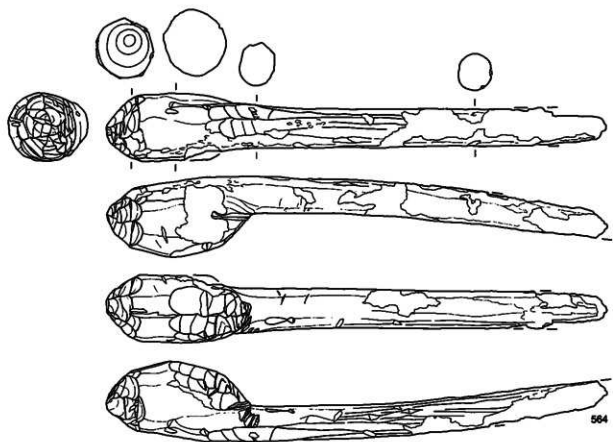
図V-150 農耕・工具3 (横樋③)



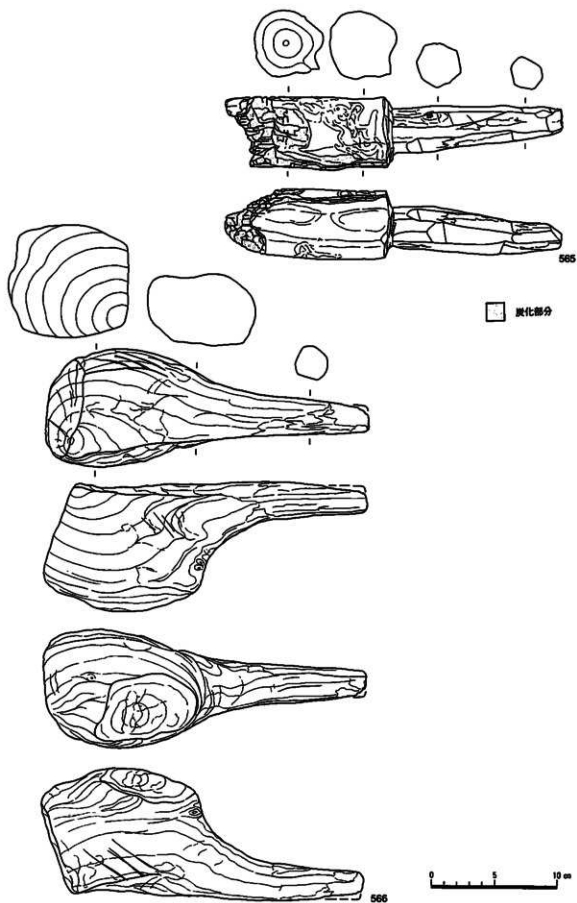
図V-151 農耕・工具4 (横礎④)



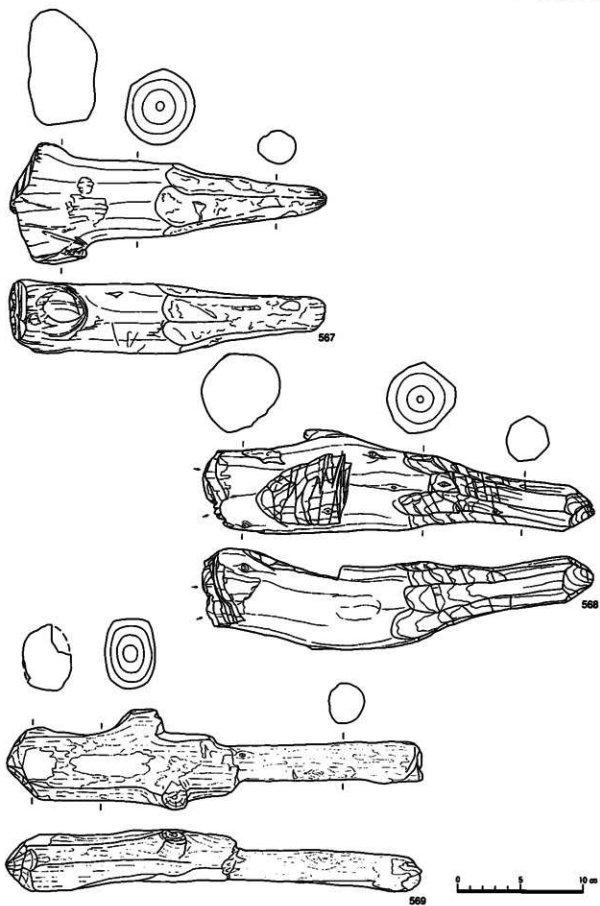
図V-152 農耕・工具5・漁撈具? (横樋⑥)



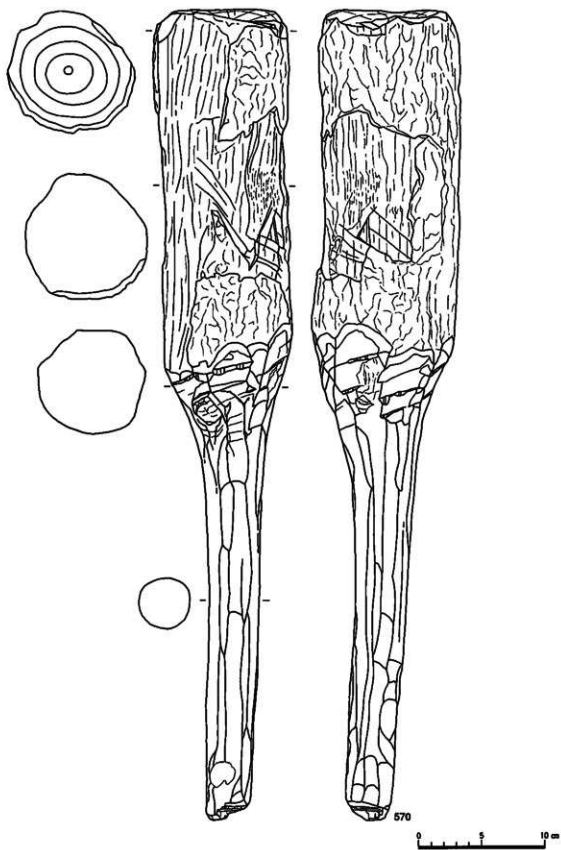
図V-153 農耕・工具 6 (横樋⑥)



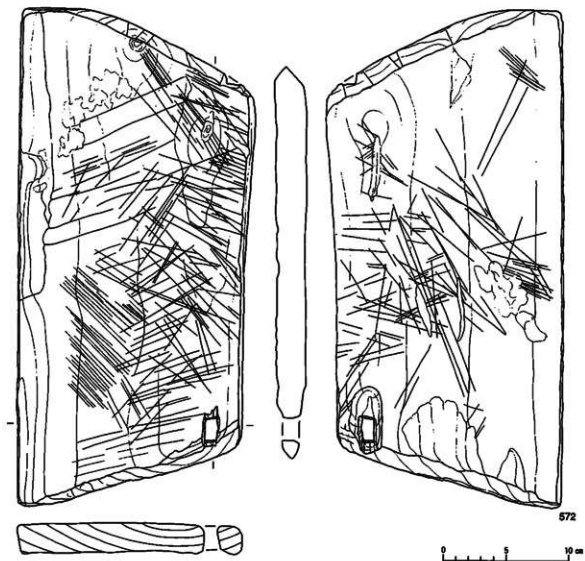
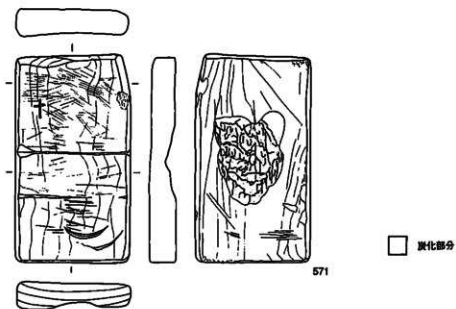
図V-154 農耕・工具7 (横軸⑦)



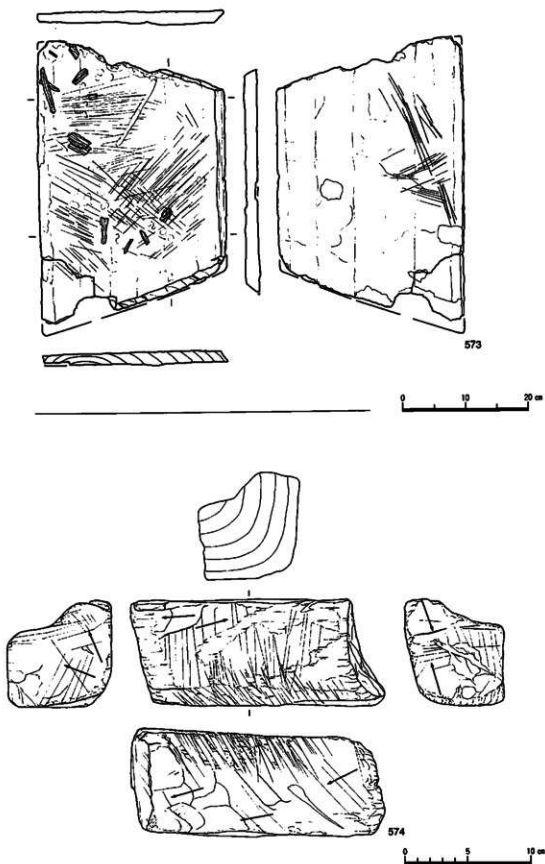
図V-155 農耕・工具8 (横礎未製品)



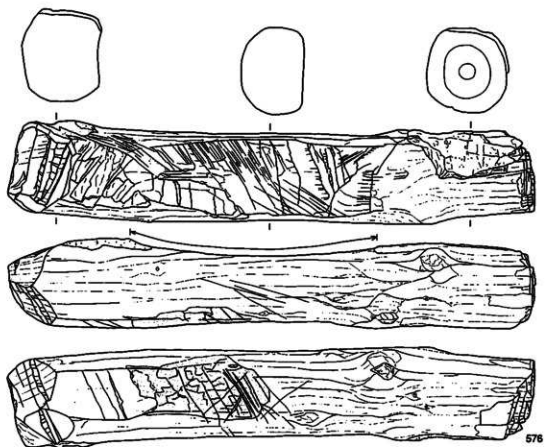
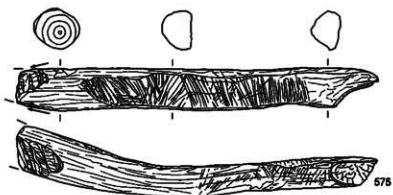
図V-156 農耕・工具9・土木具(掛矢)



図V-157 農耕・工具10 (作業台①)



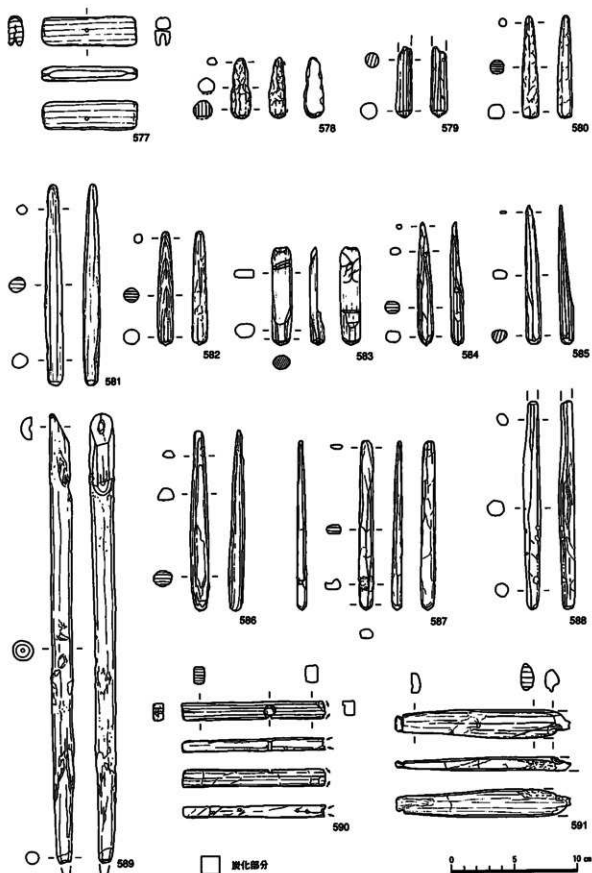
図V-158 農耕・工具11 (作業台②)



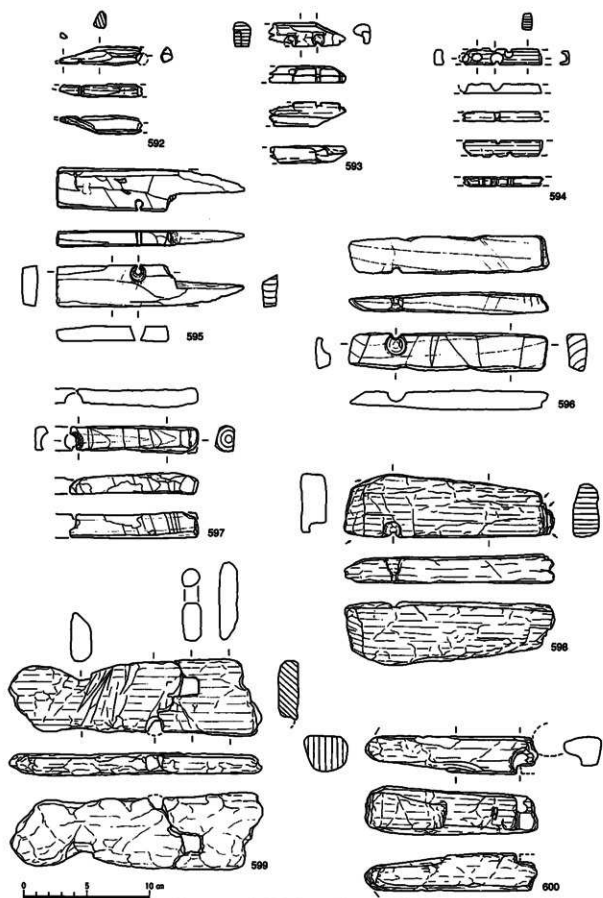
 炭化部分

図V-159 農耕・工具12 (作業台③)

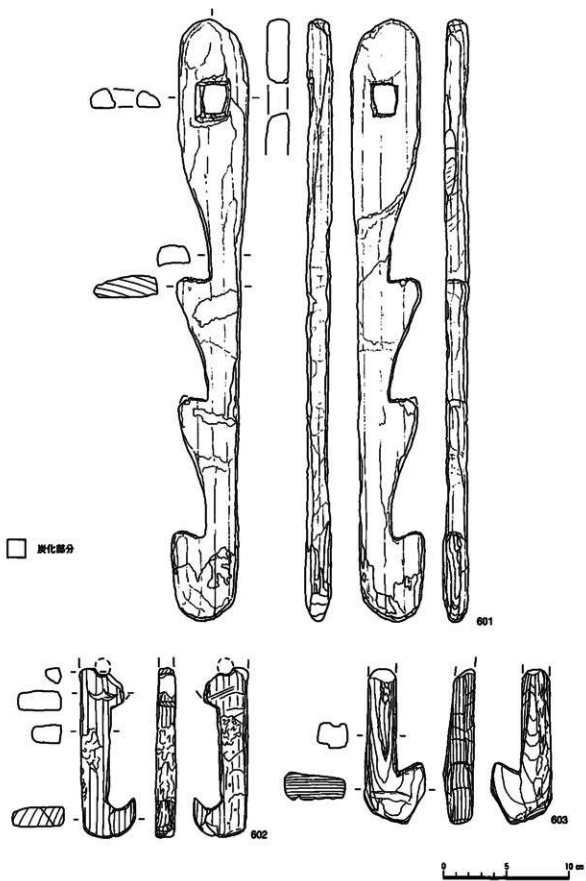
 0 5 10 cm



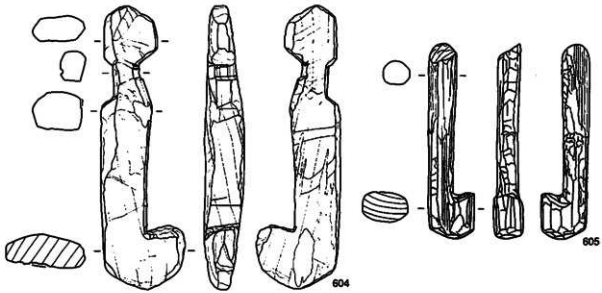
図V-160 発火具（ヒキリ棒・ヒキリ板①）



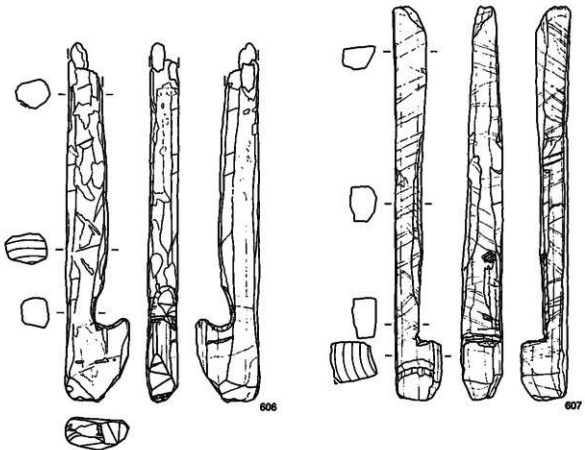
図V-161 発火具（ヒキリ棒・ヒキリ板②）



図V-162 炉鉤 1

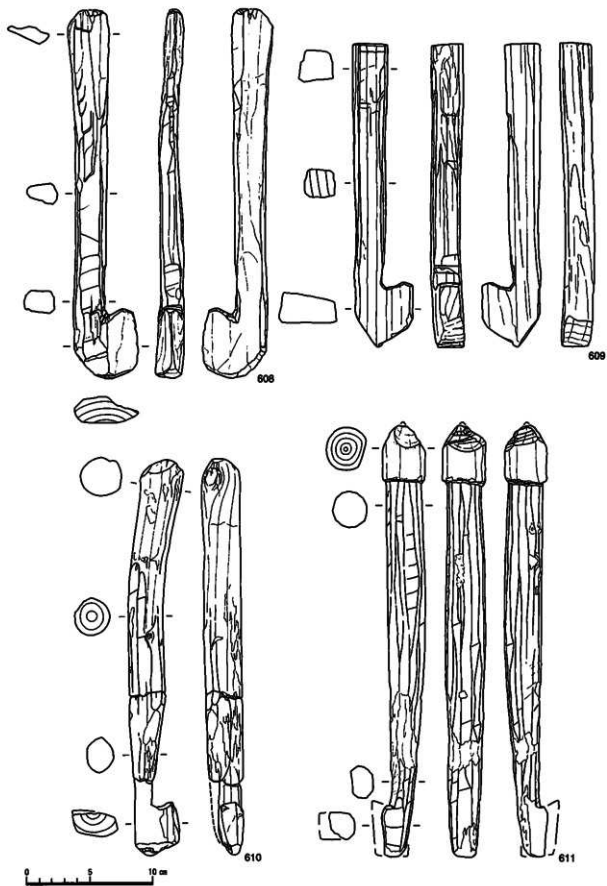


□ 炭化部分

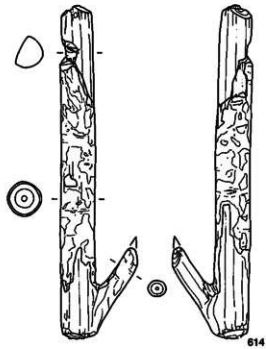
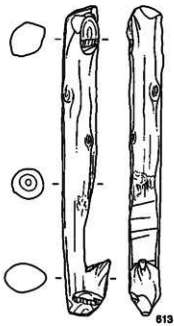
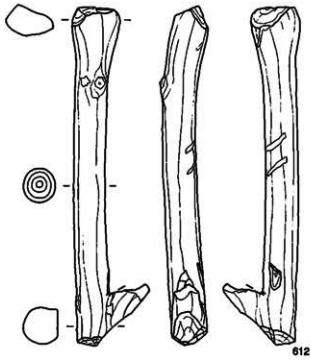


0 5 10 cm

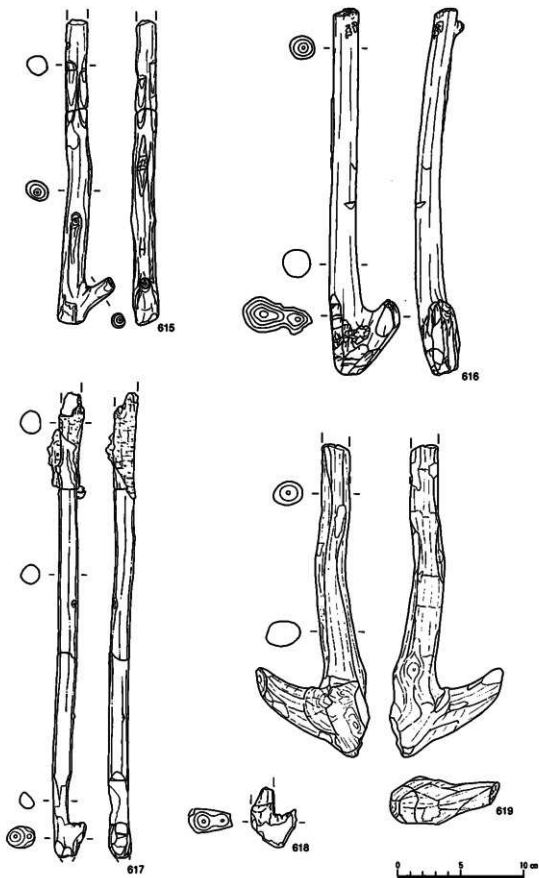
图 V-163 炉钩 2



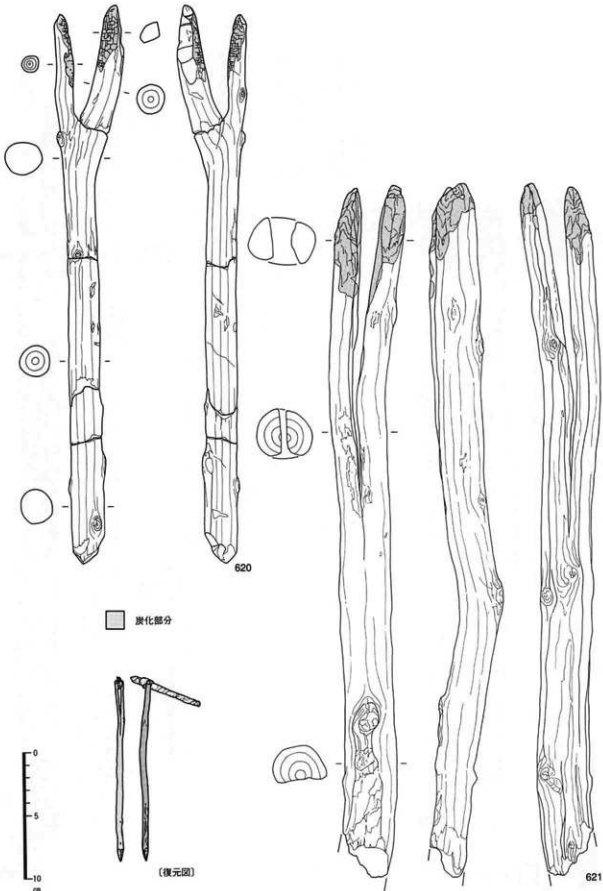
图V-164 炉钩 3



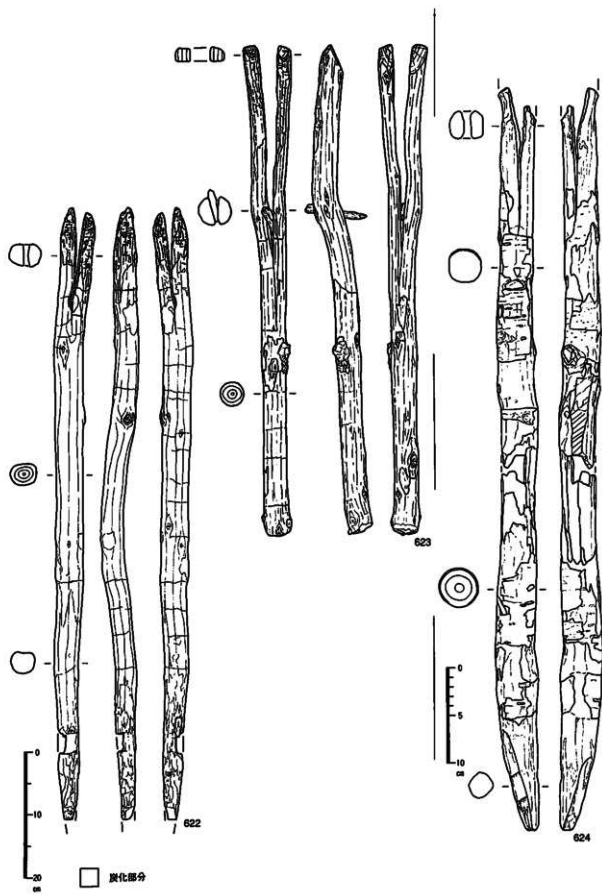
図V-165 炉鉤 4



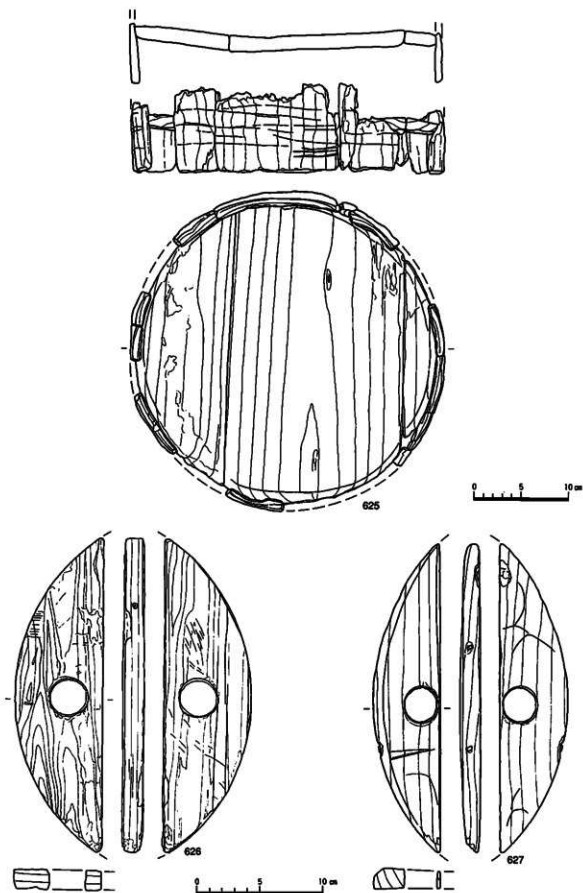
図V-166 炉鉤5



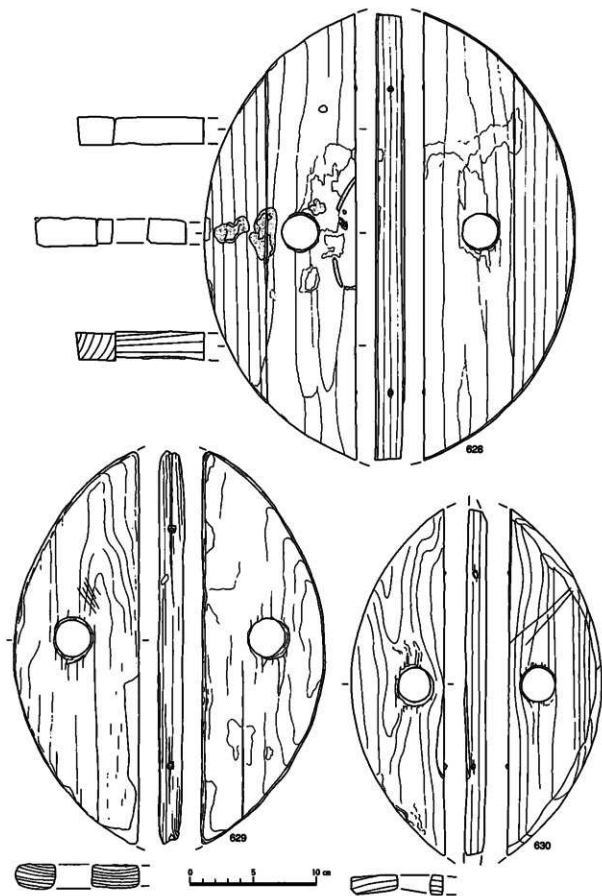
図V-167 燵火用挟木①



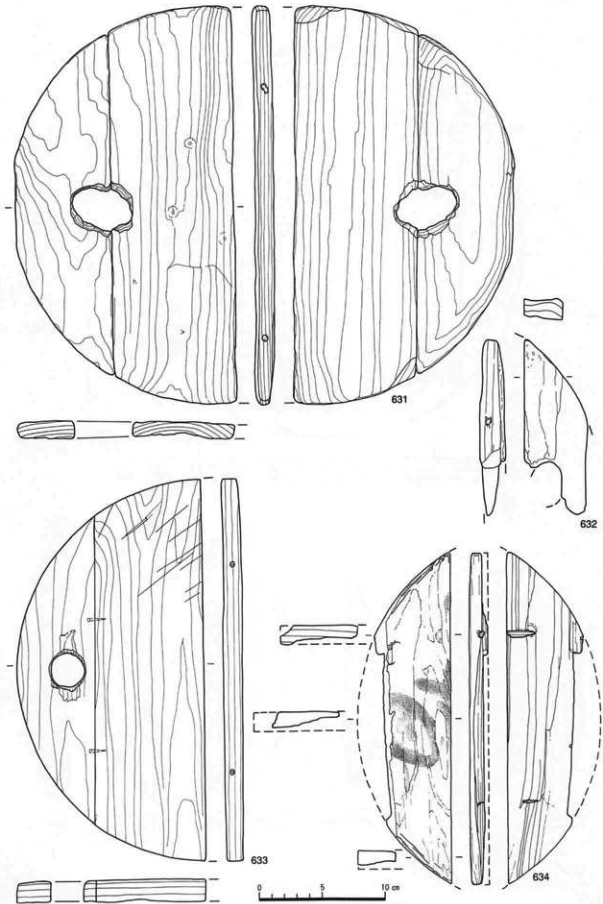
図V-168 燧火用換木②



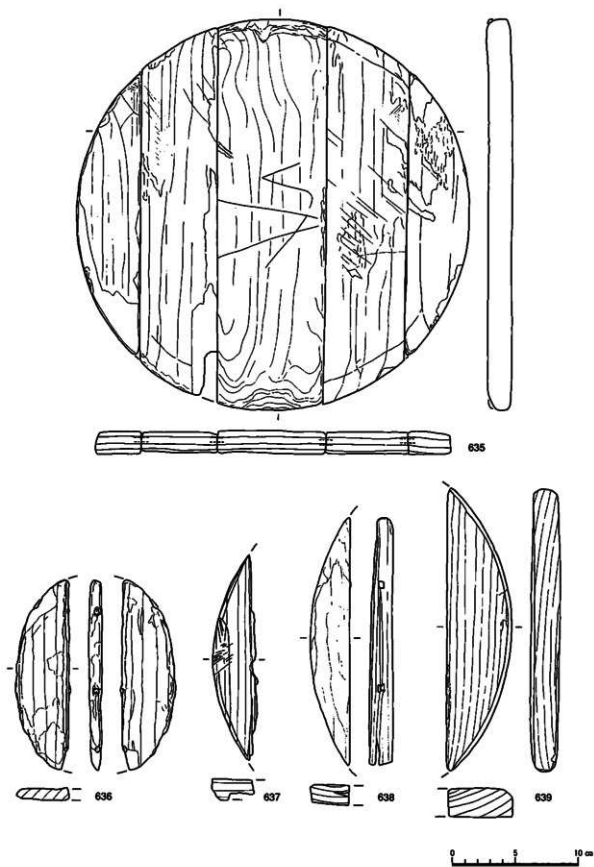
図V-169 容器類1 (樽底板・樽蓋板①)



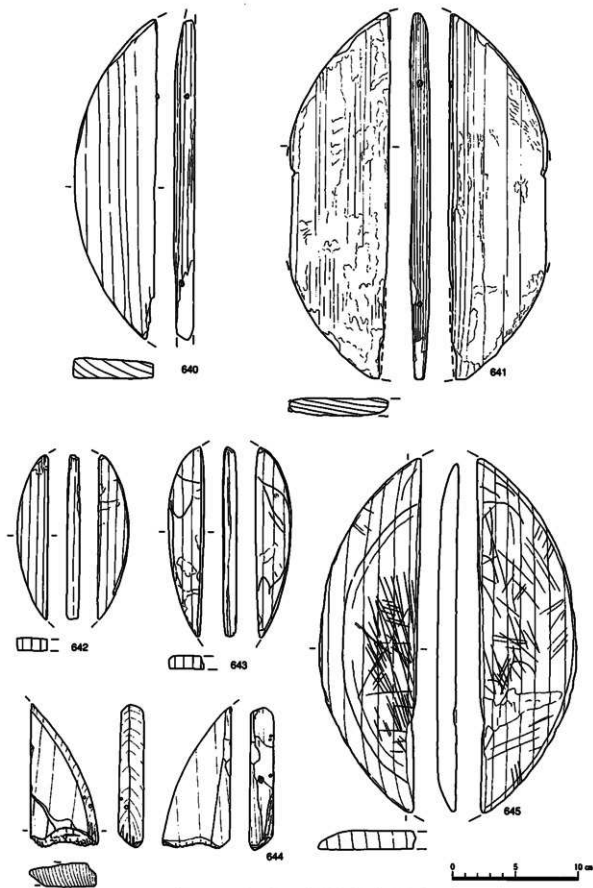
図V-170 容器類2 (樽蓋板②)



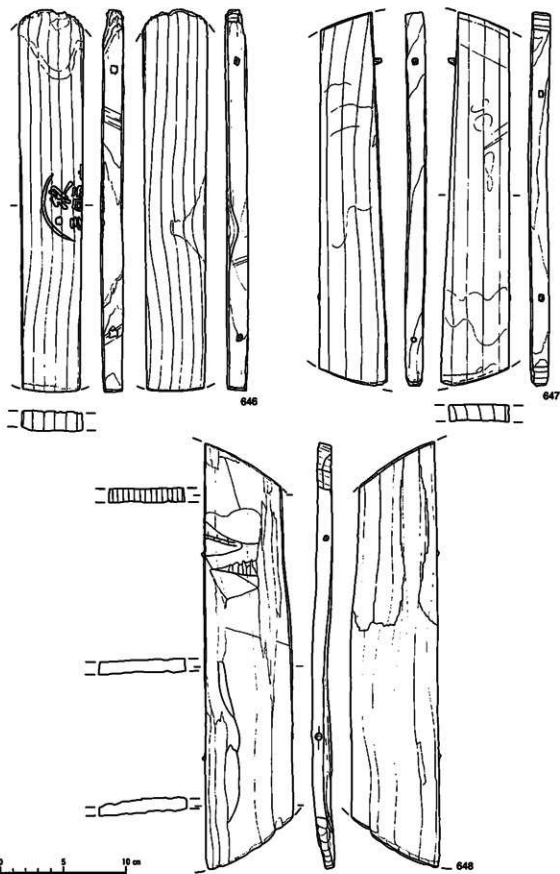
図V-171 容器類3 (樽蓋板③)



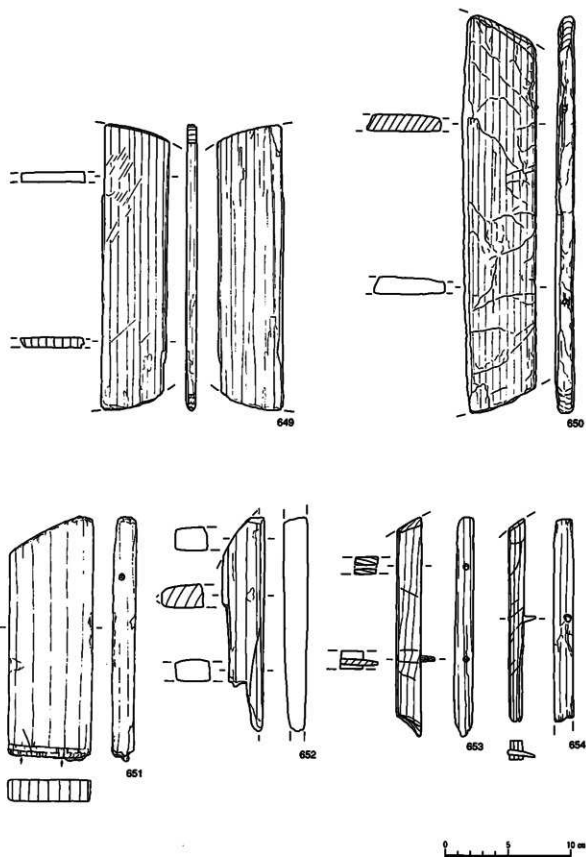
図V-172 容器類4 (樽蓋板④)



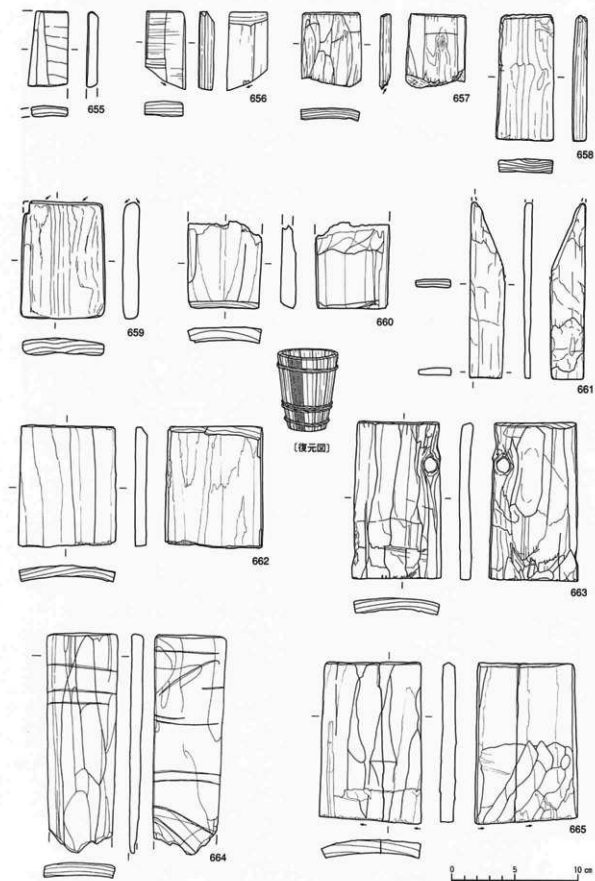
図V-173 容器類5 (樽蓋板⑤、桶底板①)



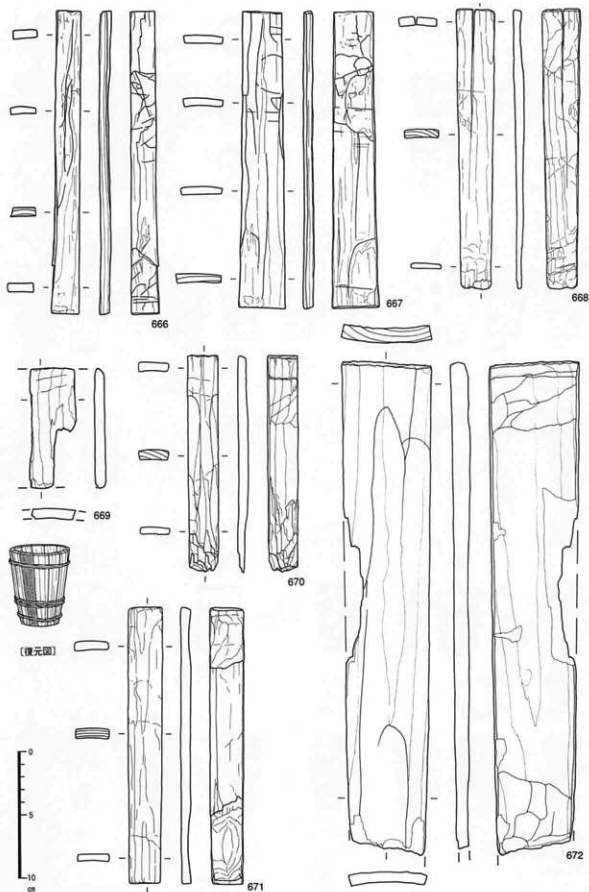
図V-174 容器類6 (桶底板②)



図V-175 容器類7 (桶底板③)



図V-176 容器類8 (樽側板①)



図V-177 容器類9 (樽側板②)



図V-178 容器類10 (樽栓①)

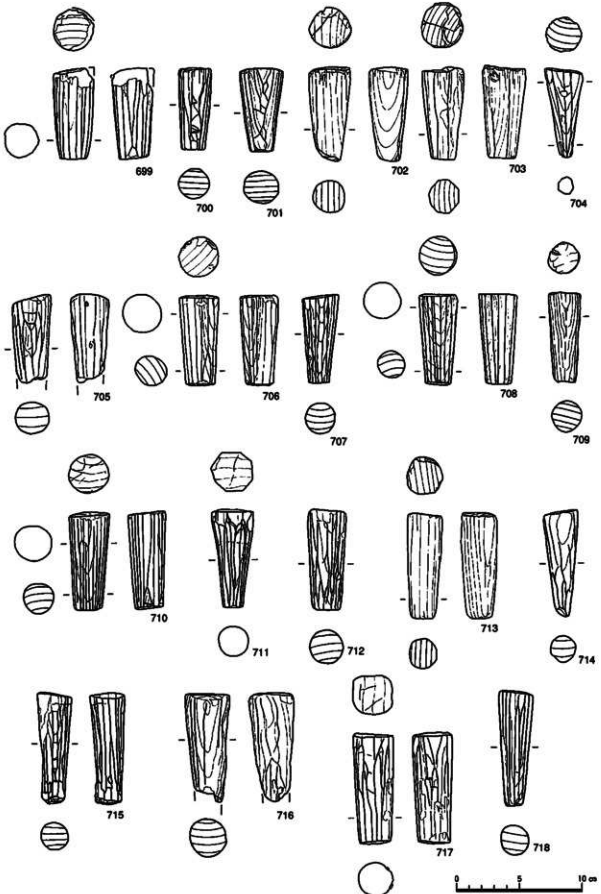
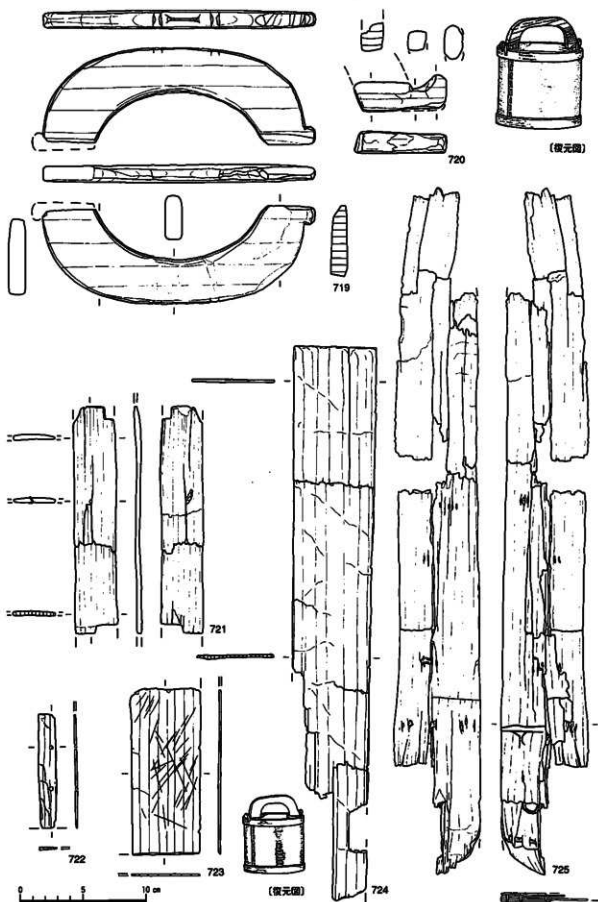


図 V-179 容器類11 (樽栓②)



図V-180 容器類12 (曲げ物把手/側板)

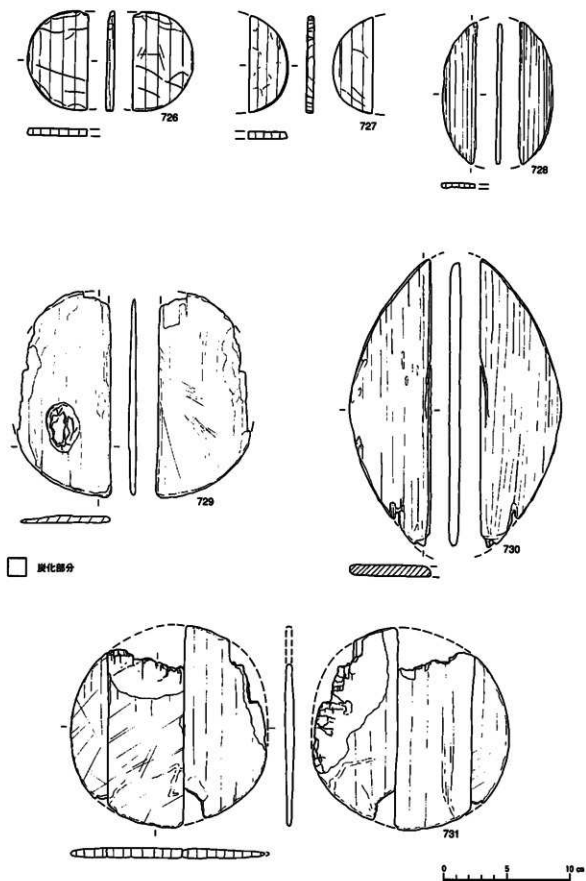
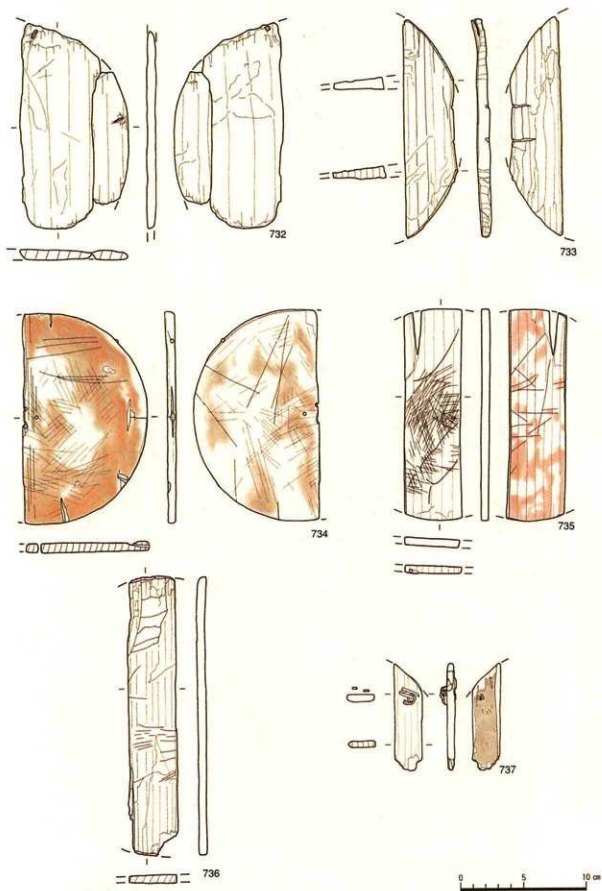
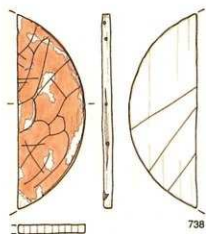


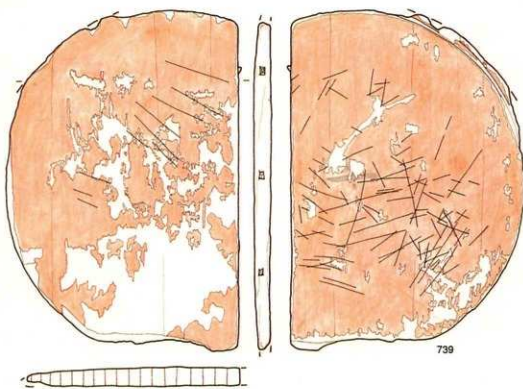
図 V-181 容器類13 (曲げ物底板①)



図V-182 容器類14 (曲げ物底板②)



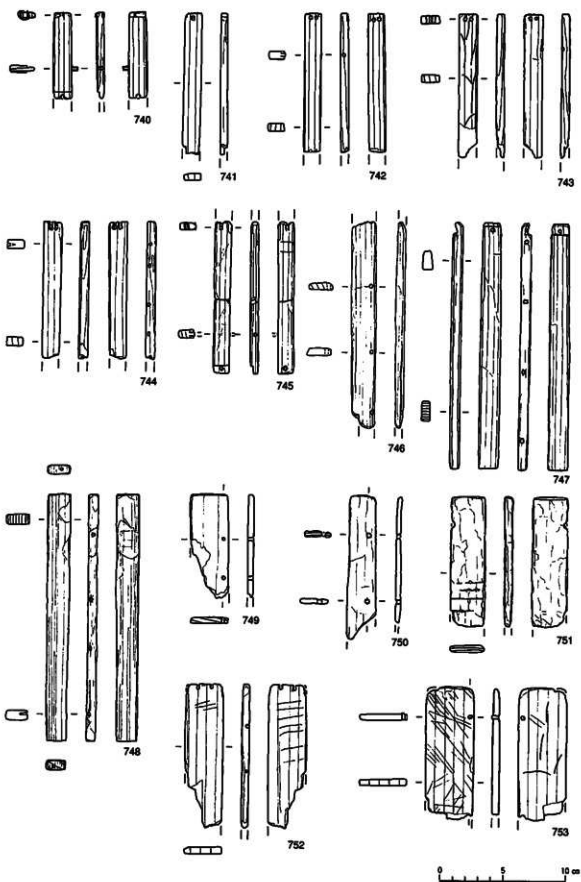
738



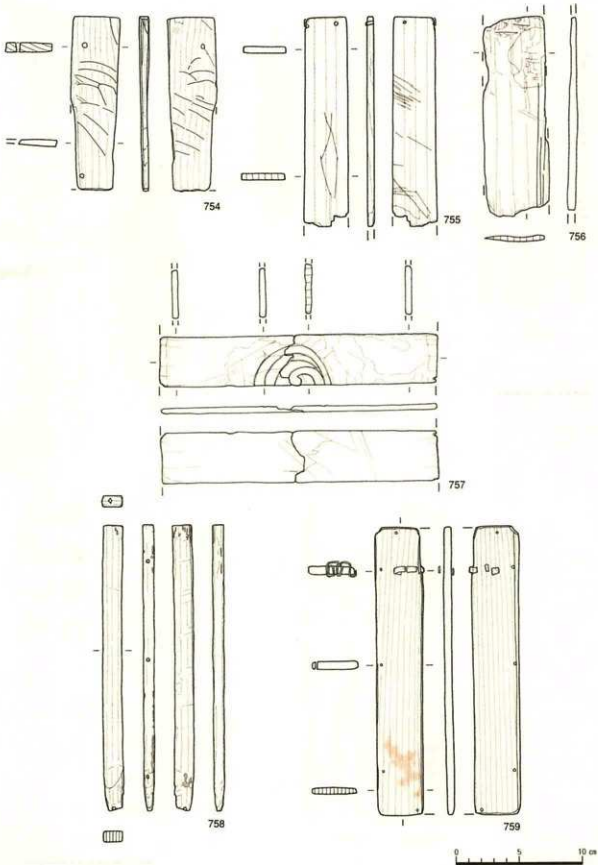
739

図V-183 容器類15 (曲げ物底板③)

V 第0黒色土層の調査

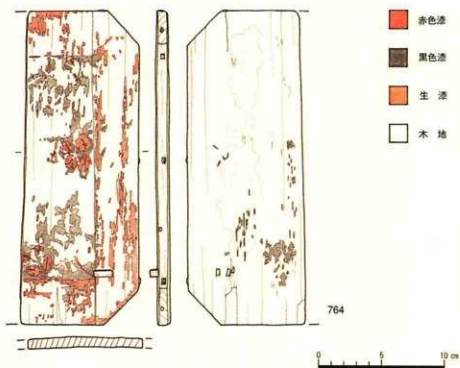
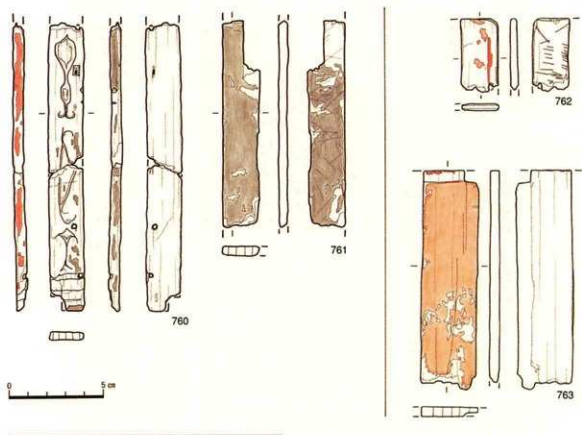


図V-184 容器類16 (箱物側板①)

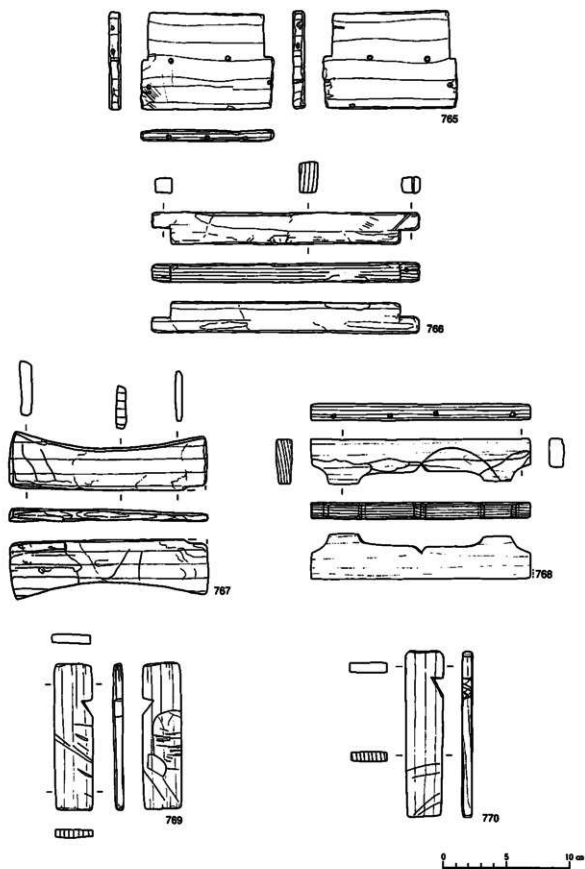


図V-185 容器類17 (箱物側板②・底板)

V 第0 黒色土層の調査

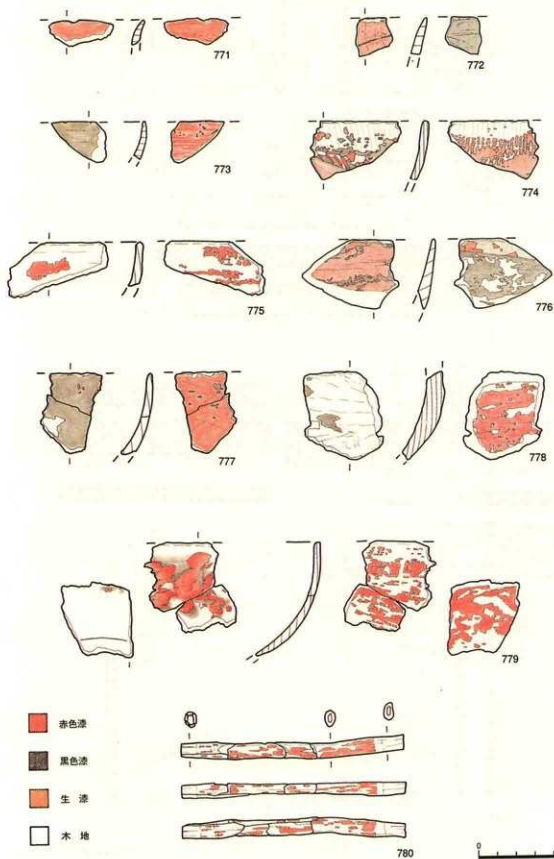


図V-186 容器類18 (箱物側板③・底板)

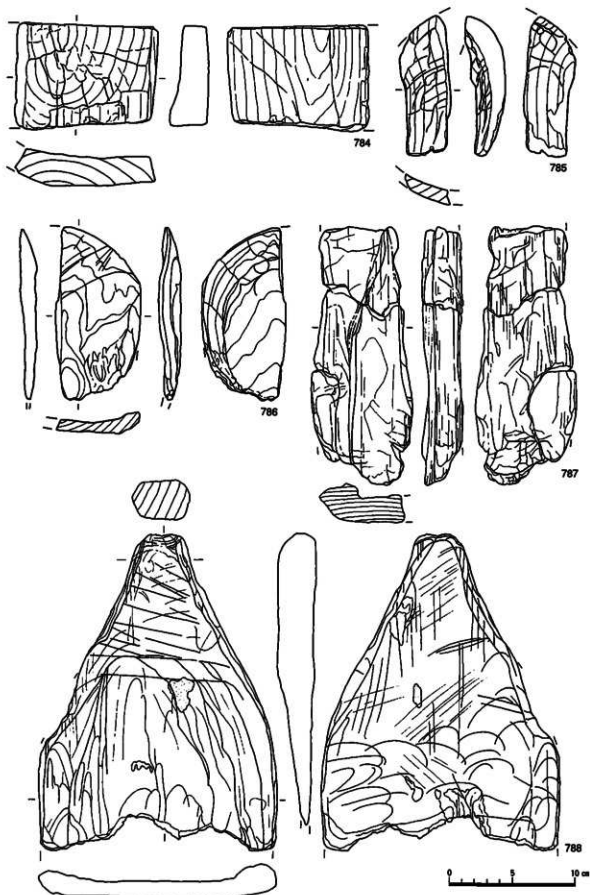


図V-187 容器類19 (箱物側板④・脚部)

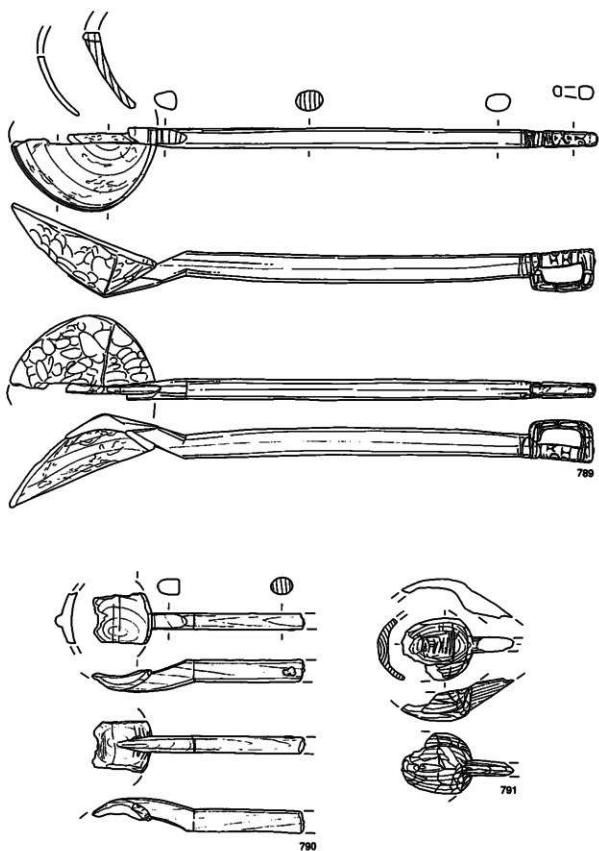
V 第0 黒色土層の調査



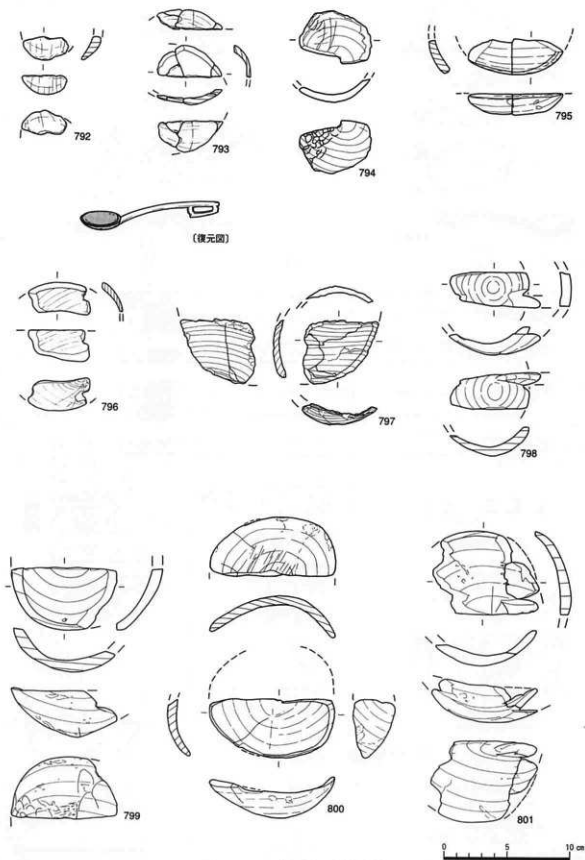
図V-188 容器類20・喫煙具（漆塗椀・漆塗キセルラウ）



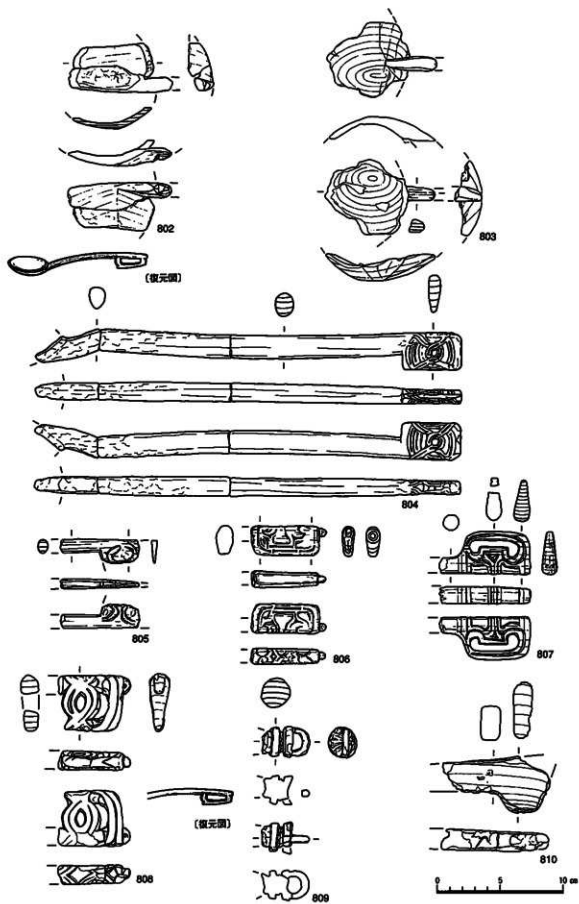
図V-189 容器類21 (制物容器)



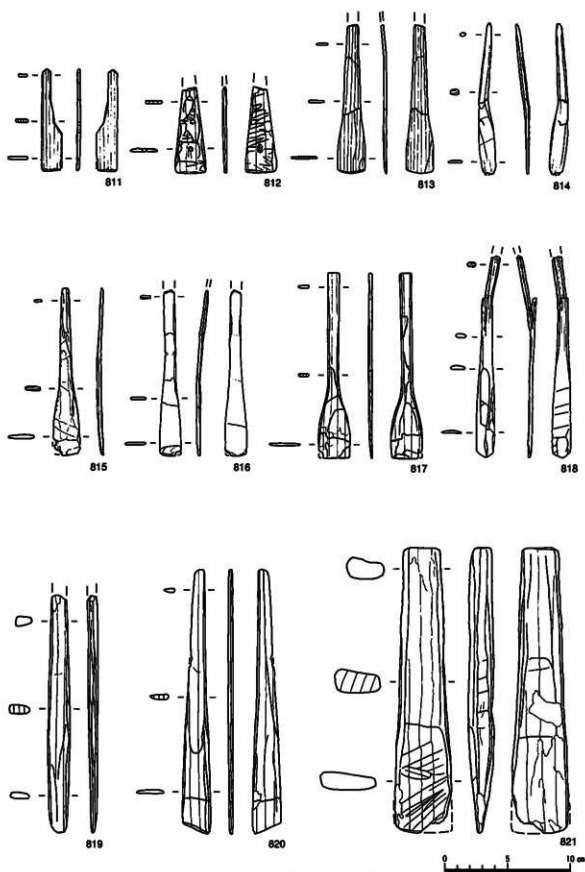
圖V-190 食用具1 (杓子①)



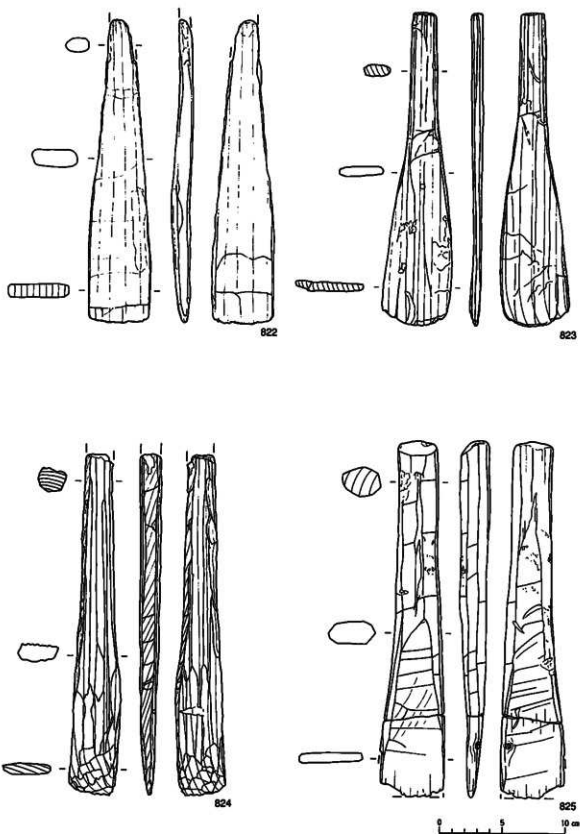
図V-191 食用具2 (杓子②)



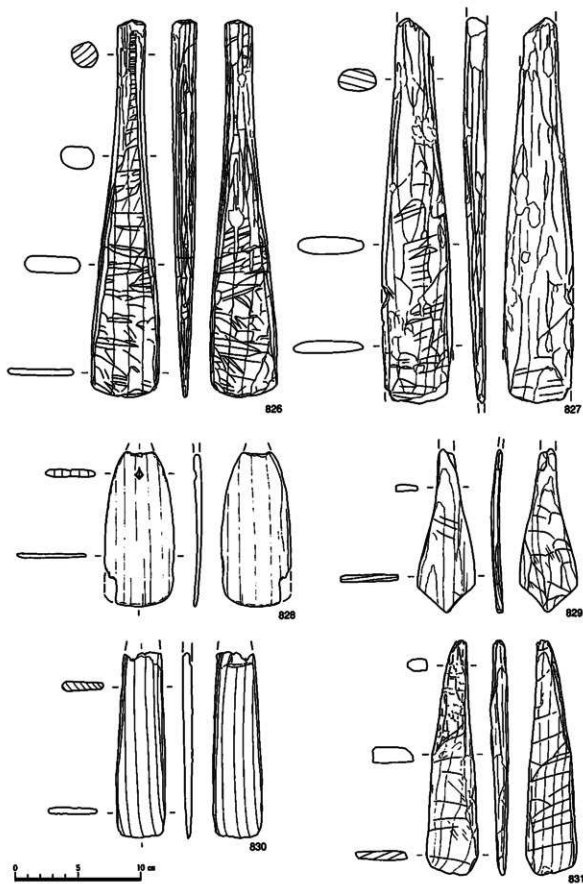
図V-192 食用具3 (杓子③)



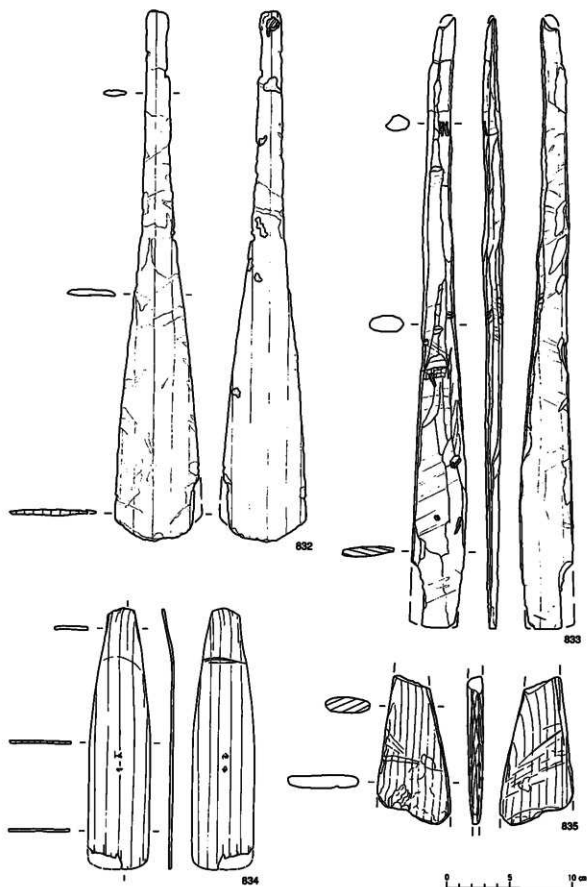
図V-193 食用具4 (筭①)



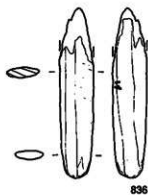
図V-194 食用具5 (筥②)



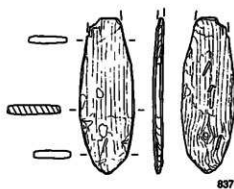
図V-195 食用具6 (筈③)



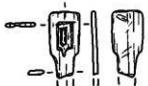
図V-196 食用具7 (寛④)



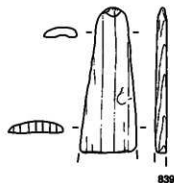
836



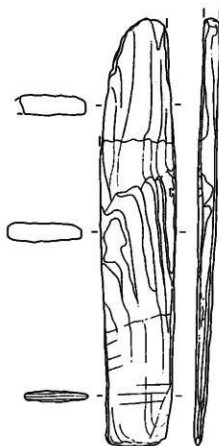
837



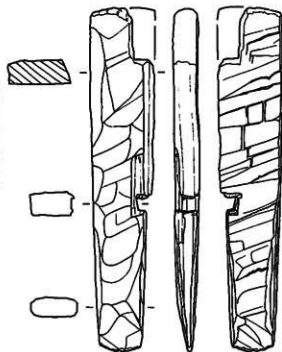
838



839



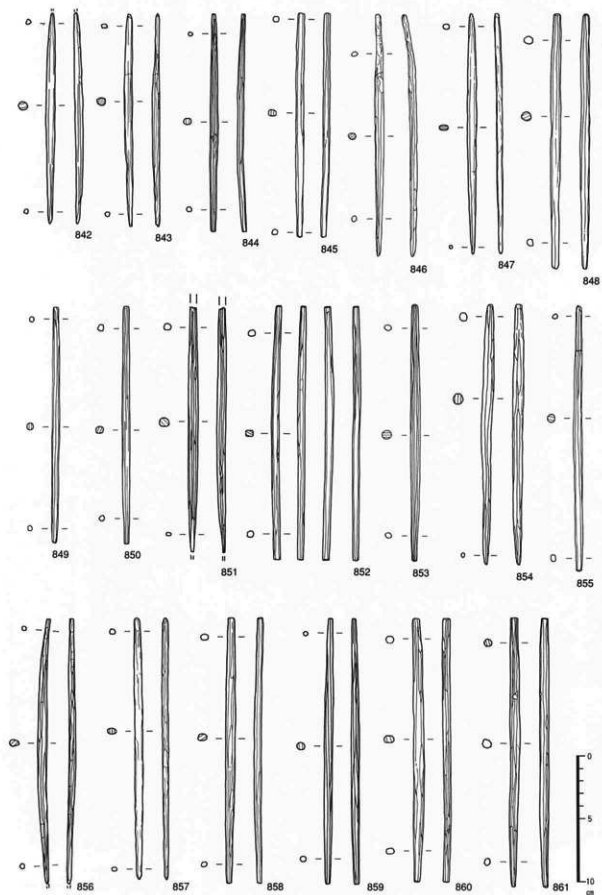
840



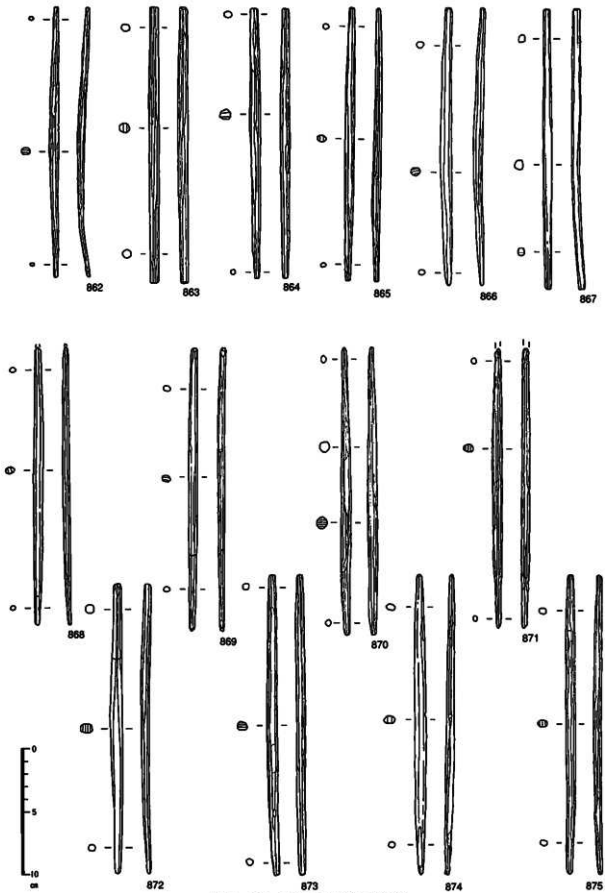
841

0 5 10 cm

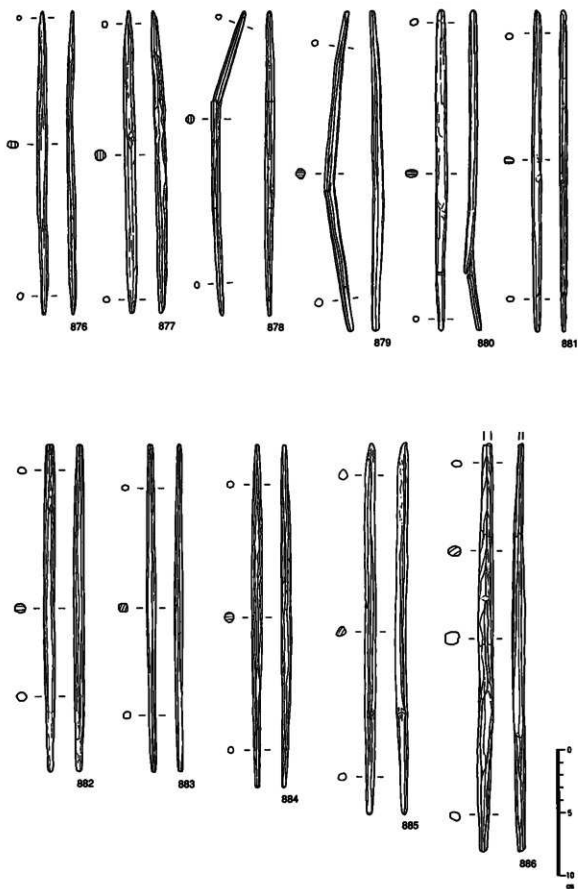
図V-197 食用具 8 (筈⑤)



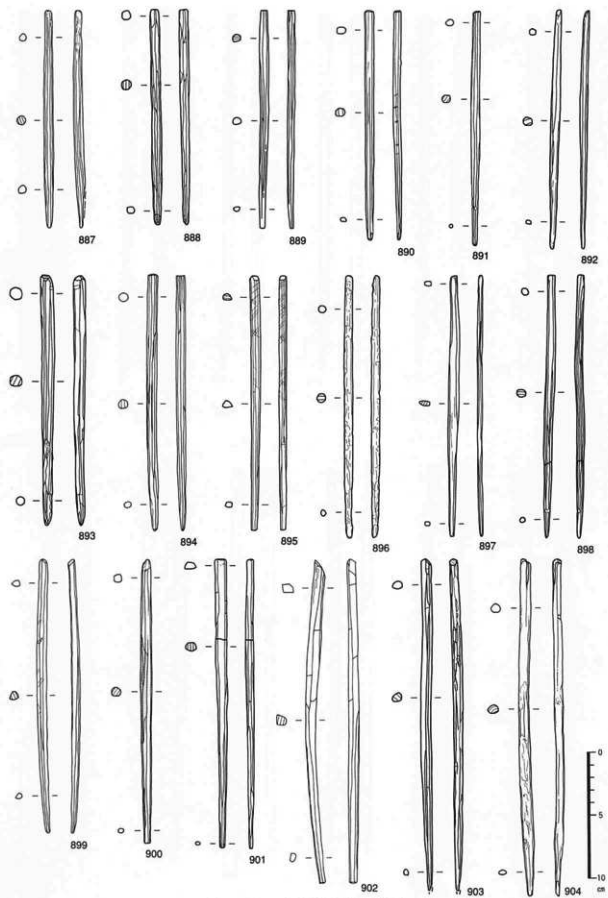
図V-198 食具9 (両口箸①)



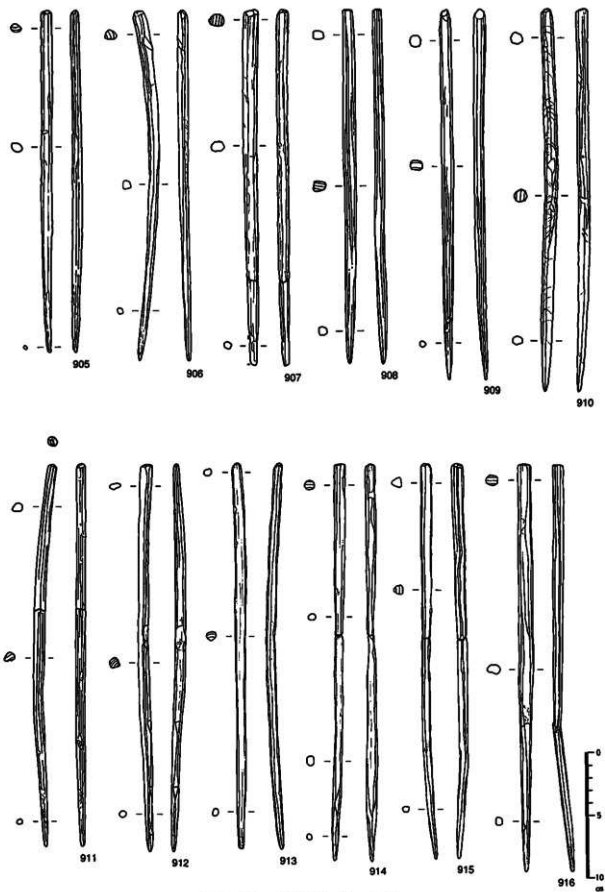
図V-199 食用具10 (两口箸②)



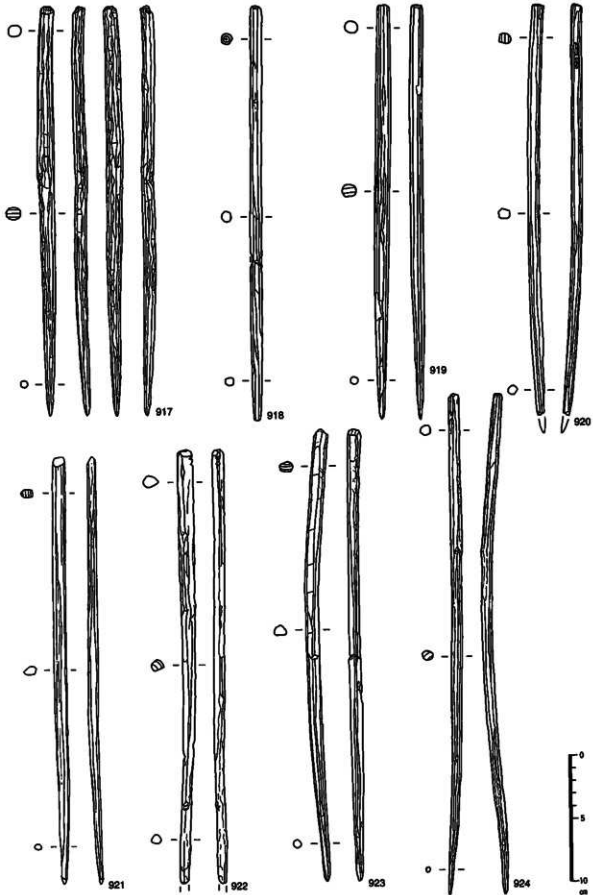
図V-200 食用具11 (両口箸③)



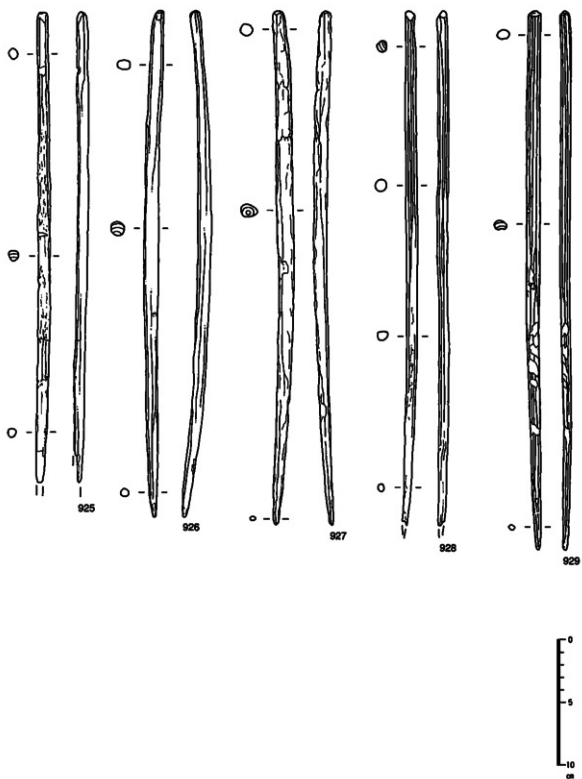
図V-201 食用具12 (片口箸①)



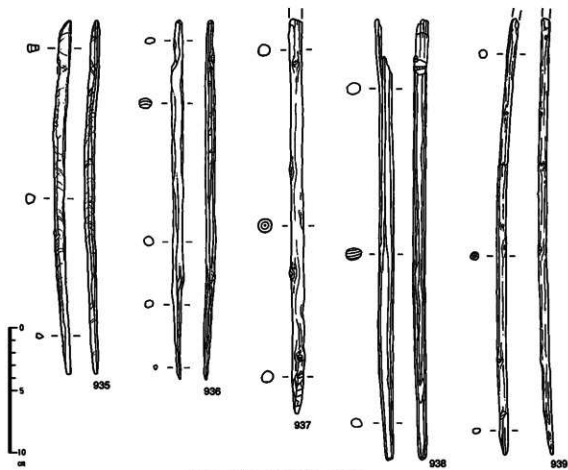
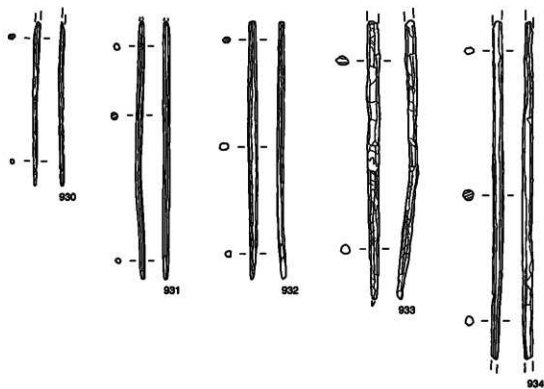
図V-202 食用具13 (片口箸②)



図V-203 食具14 (片口箸③)

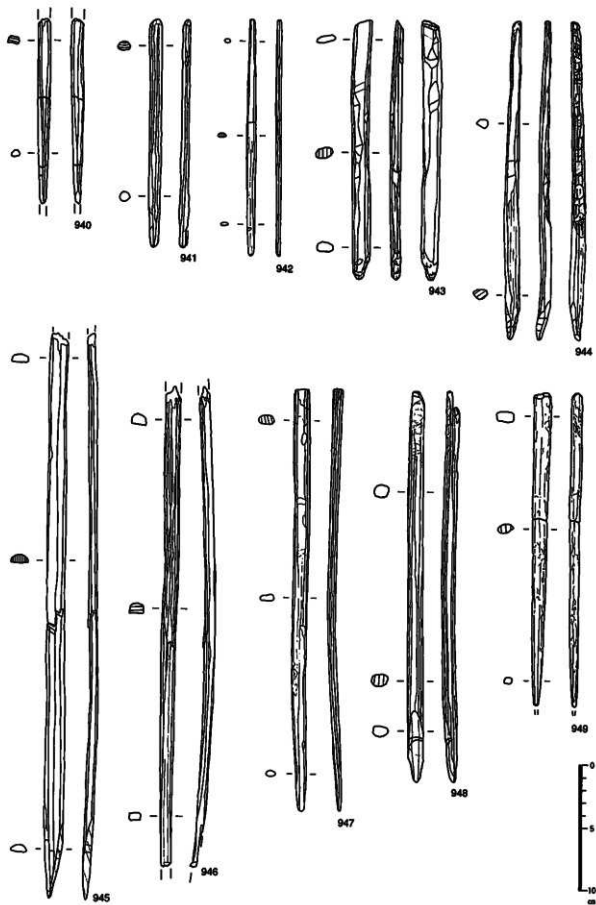


図V-204 食用具15 (片口箸④)

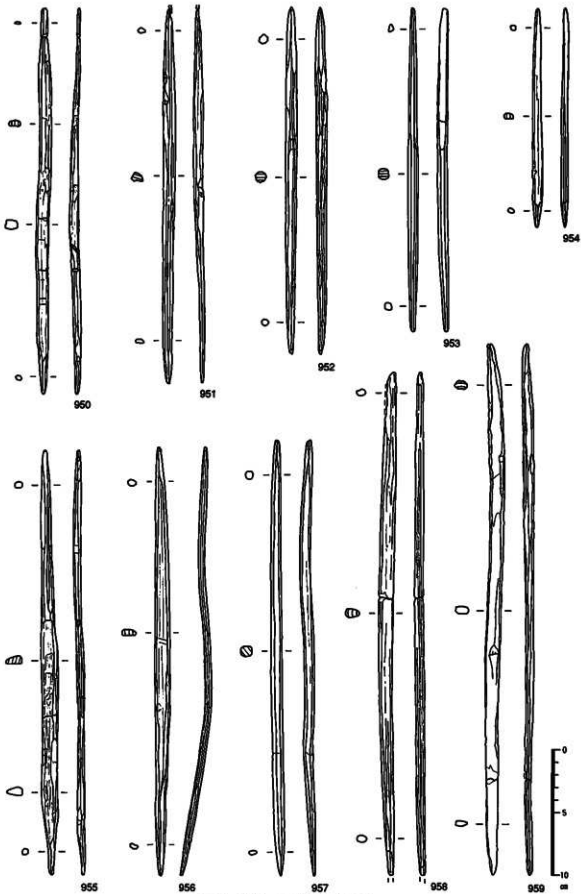


図V-205 食用具16 (串①)

V 第0黒色土層の調査

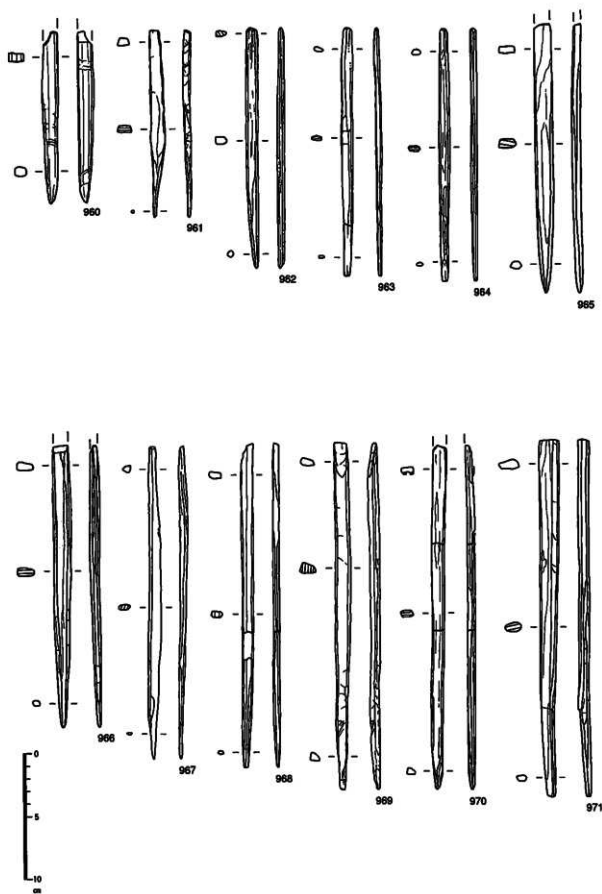


図V-206 食用具17 (串②)

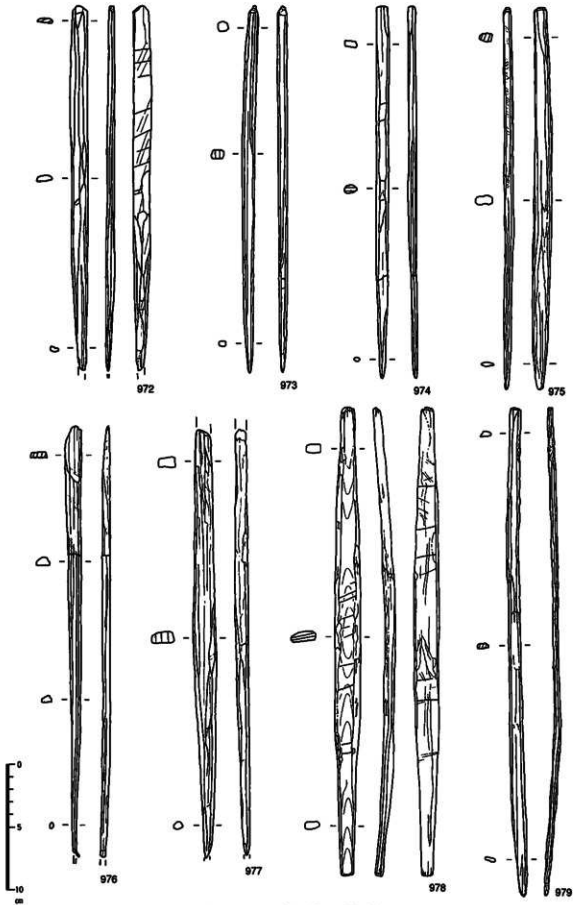


図V-207 食具18 (串③)

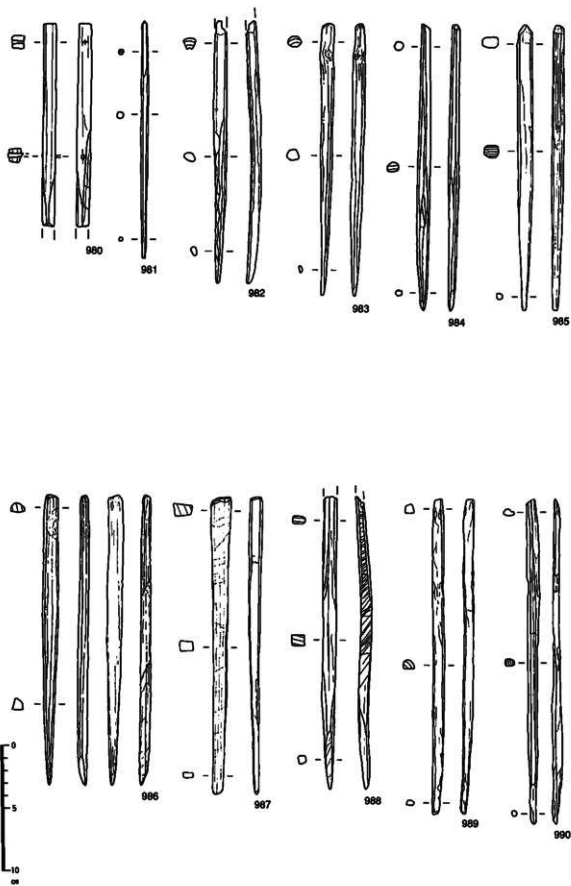
V 第0黒色土層の調査



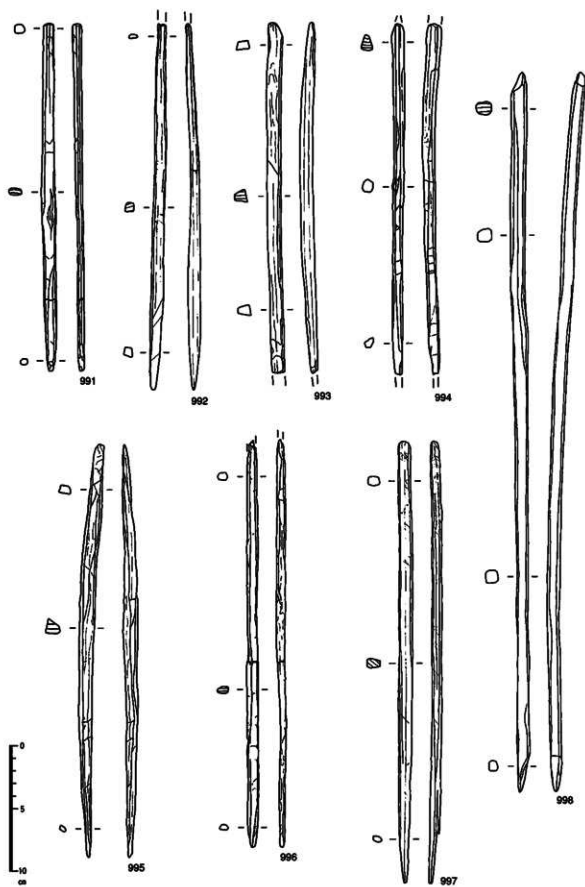
図V-208 食用具19 (串④)



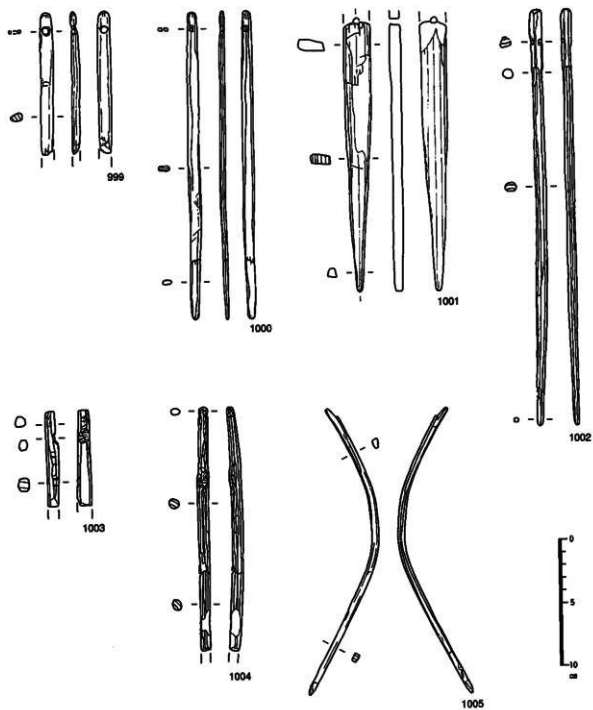
図V-209 食用具20 (串⑤)



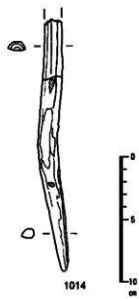
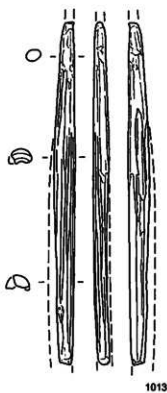
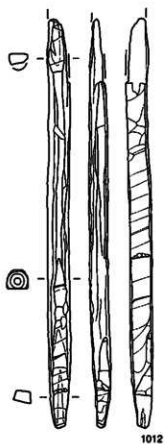
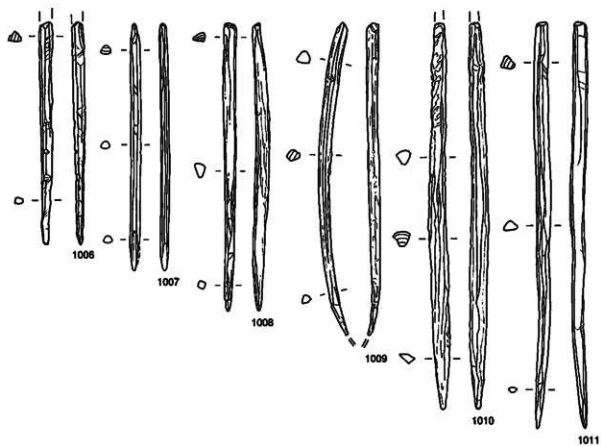
図V-210 食用具21 (串⑥)



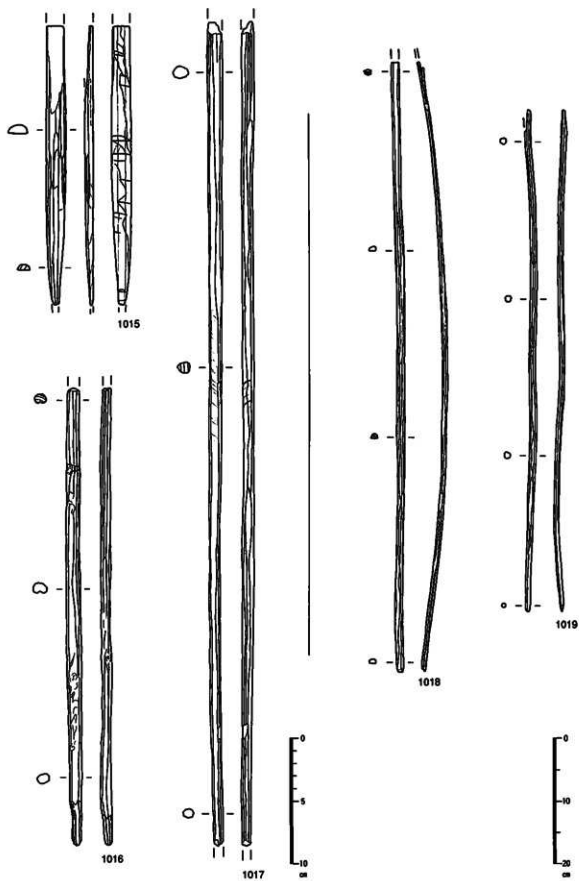
図V-211 食用具22 (串⑦)



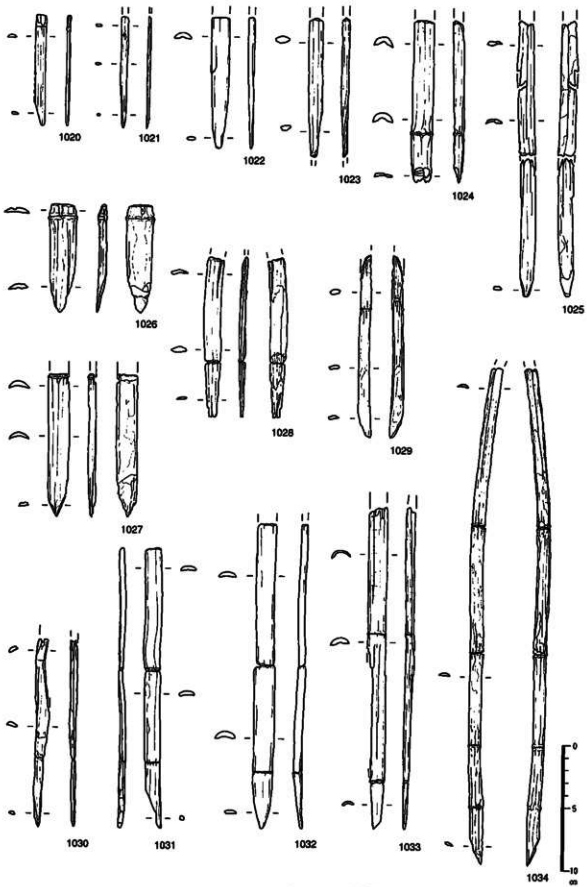
図V-212 食用具23 (串④)



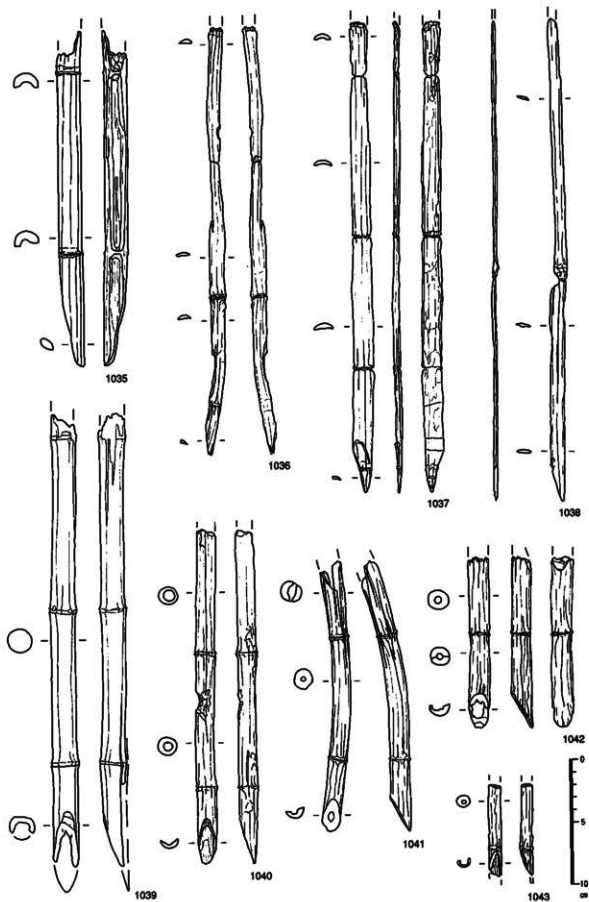
図V-213 食用具24 (串③)



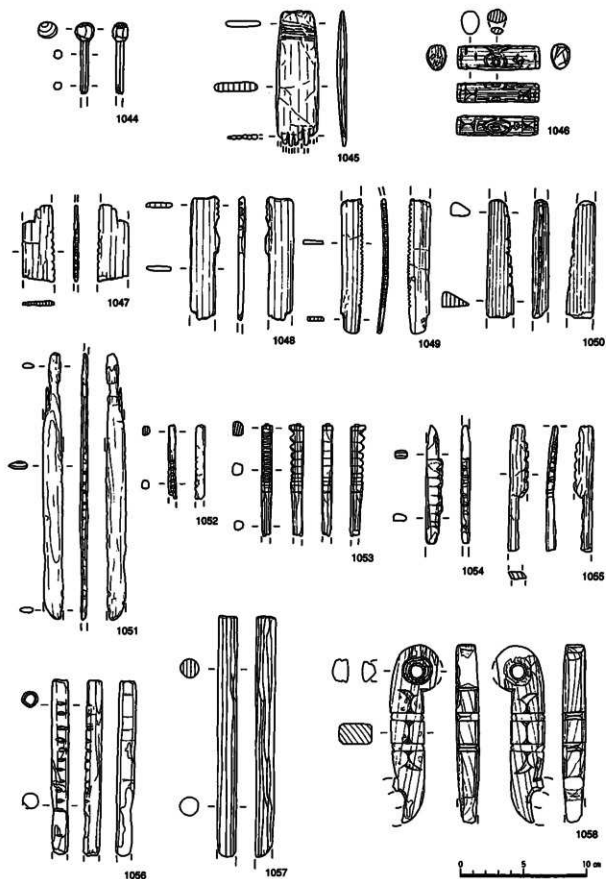
図V-214 食用具25 (串⑩)



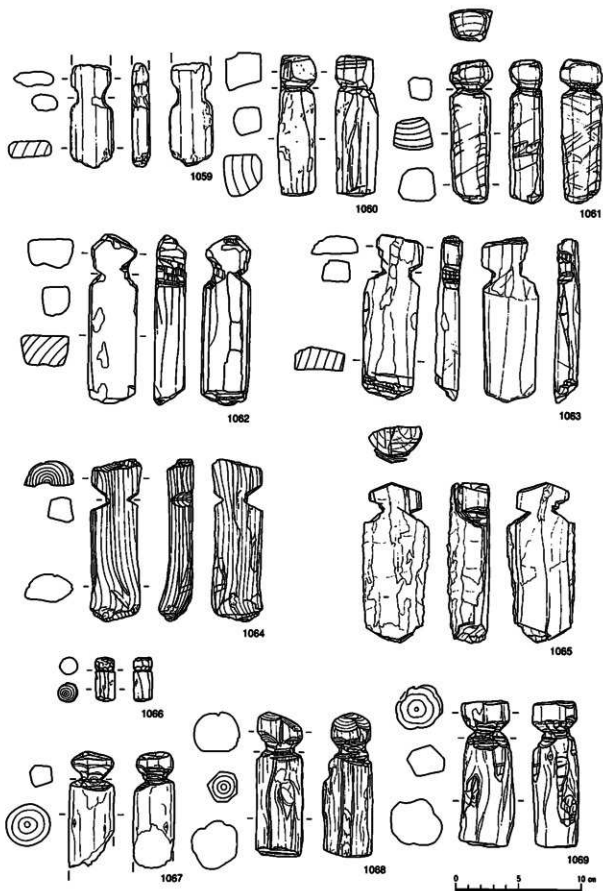
図V-215 食用具26 (串①)



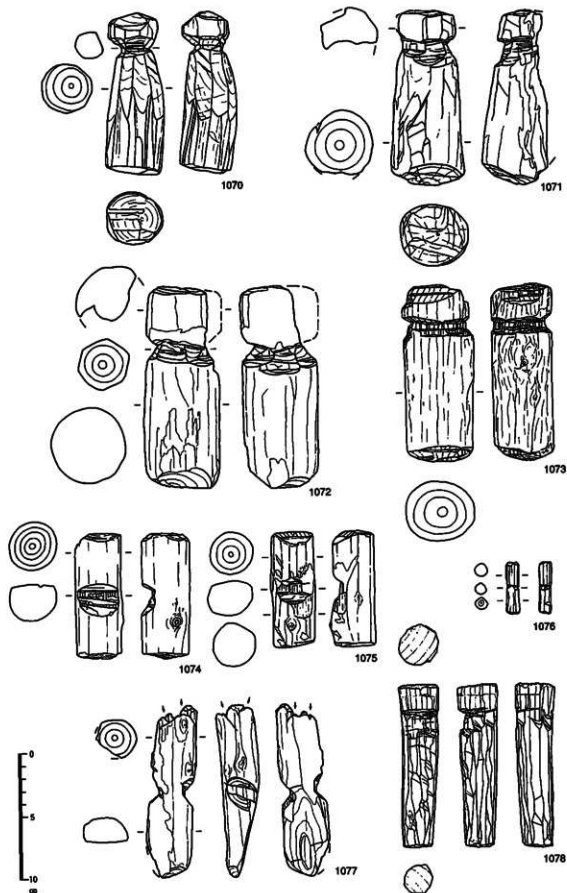
図V-216 食用具27 (串⑬)



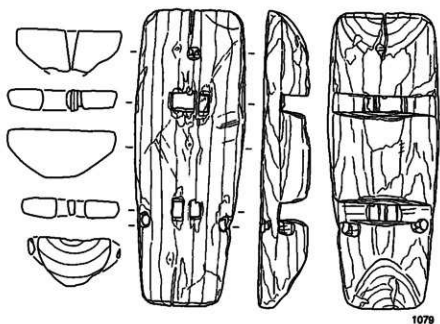
図V-217 装身具・紡織編具 1



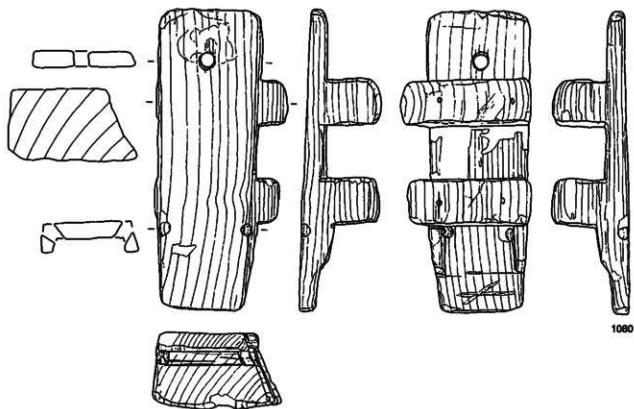
図V-218 紡織編具2 (木鏝①コモ錠など)



図V-219 紡織編具3 (木錘②コモ碁など)



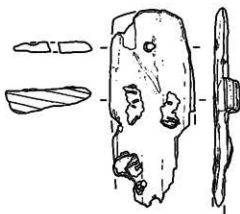
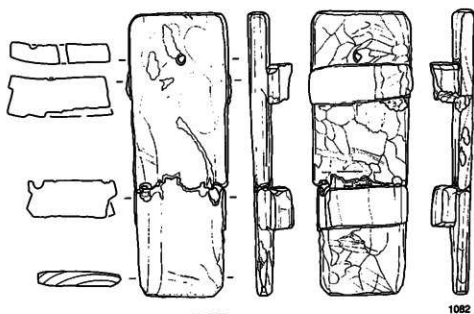
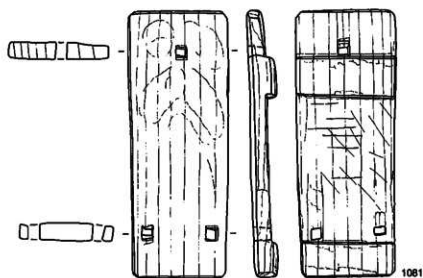
1079



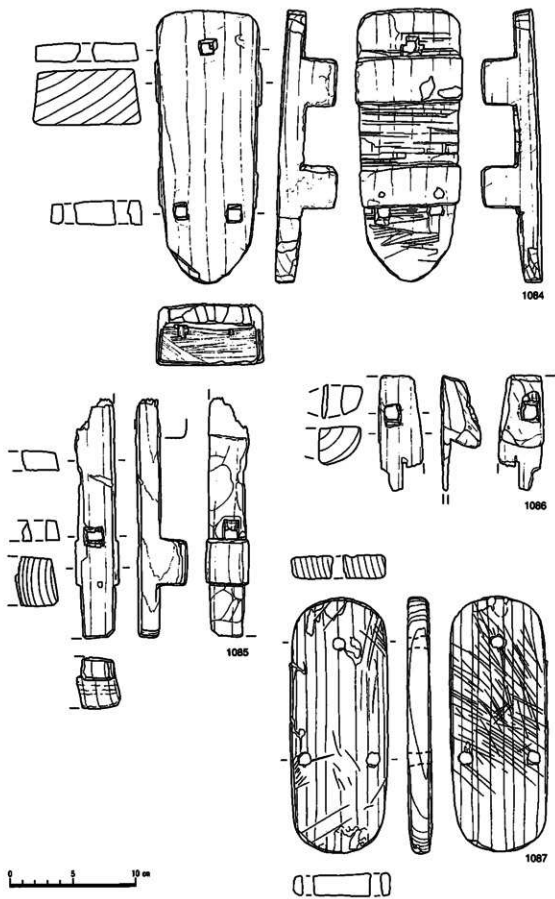
1080



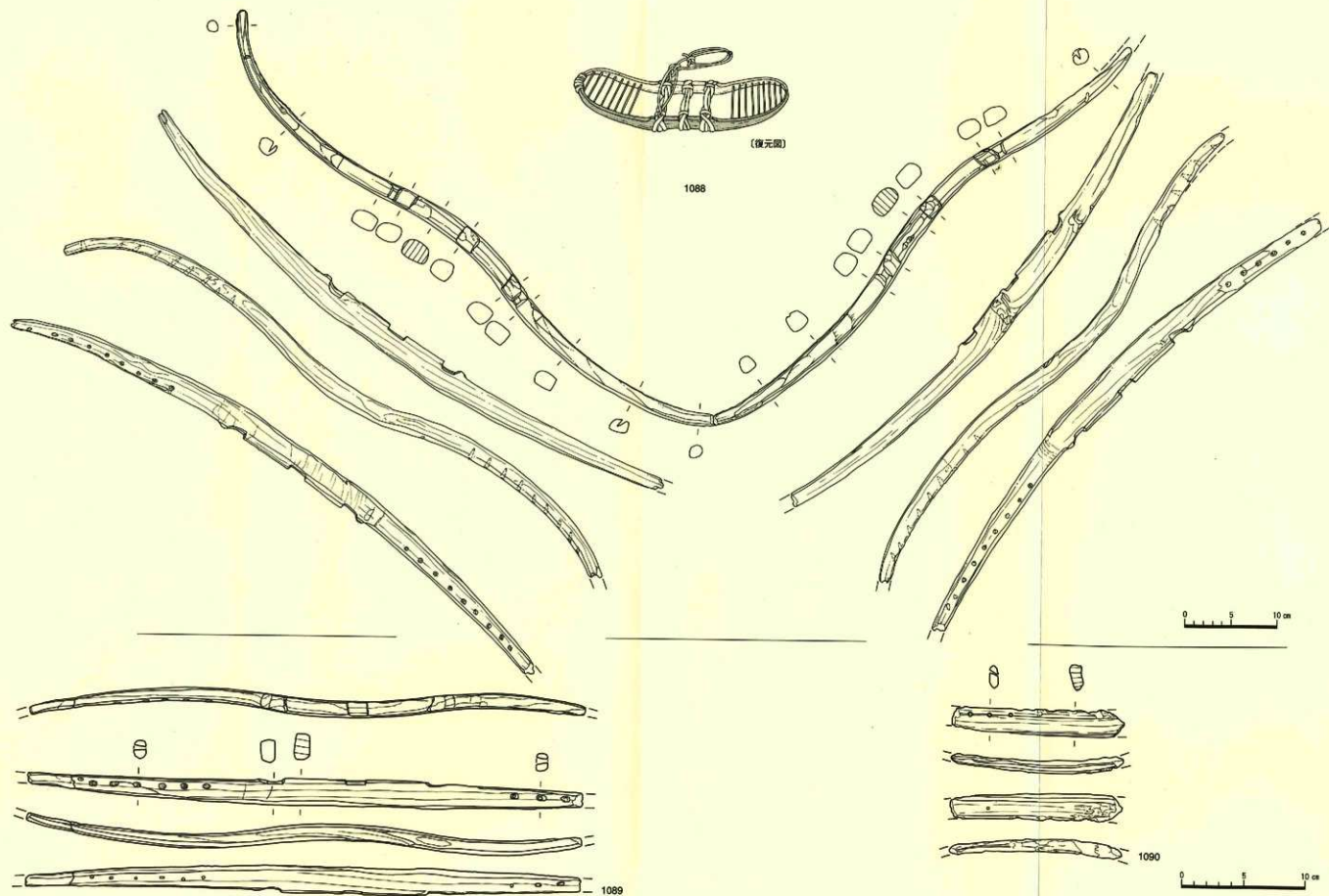
図V-220 歩行具1 (下駄①)



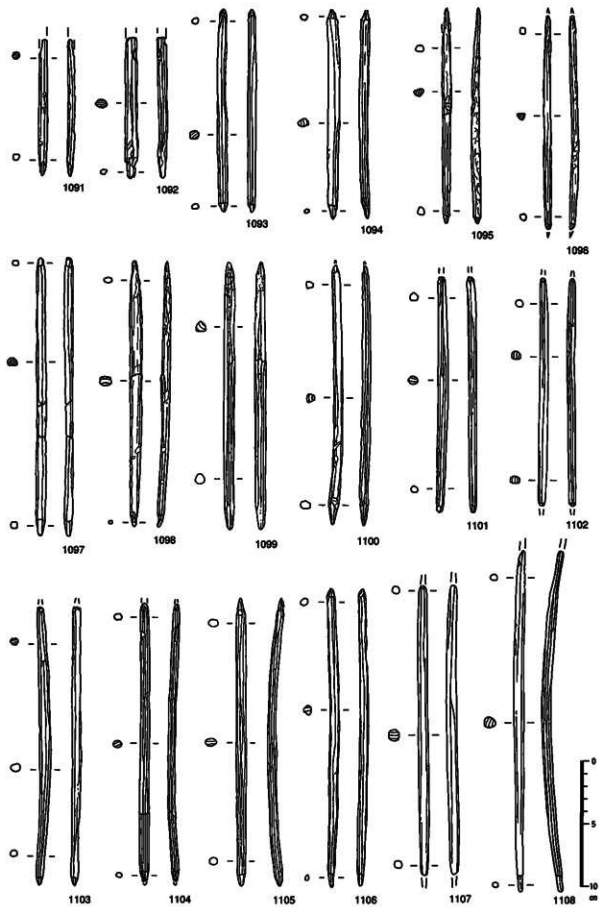
図V-221 歩行具2 (下駄②)



図V-222 歩行具3 (下駄③)

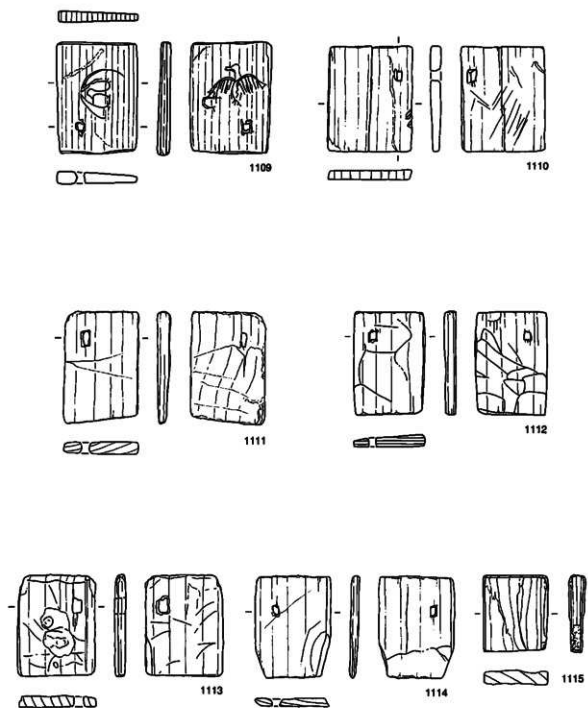


図V-223 歩行具4 (カンジキ本体)

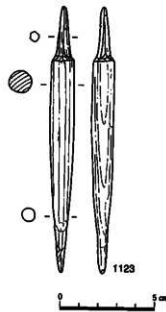
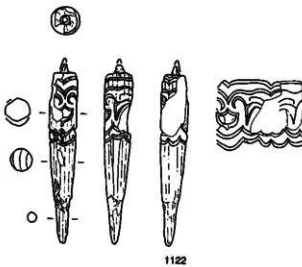
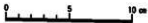
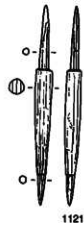
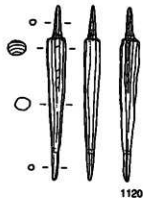
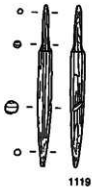
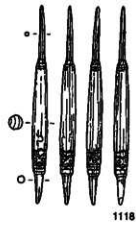
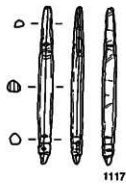
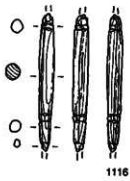


図V-224 歩行具5 (カンジキ軸)

V 第0黒色土層の調査

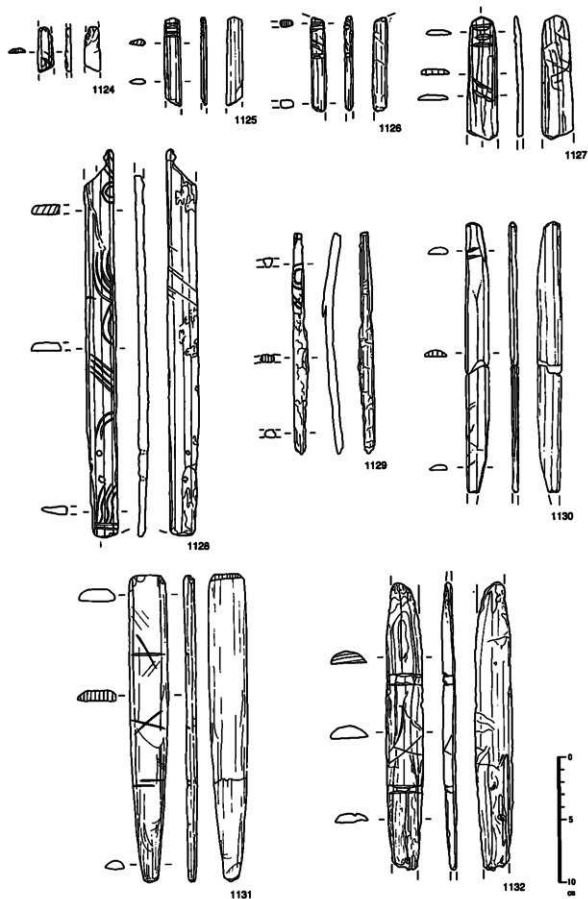


図V-225 交易・伝達具（木札）

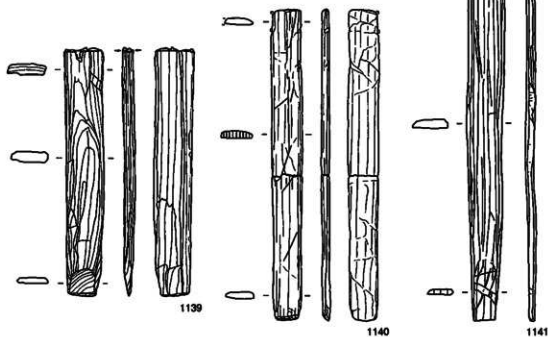
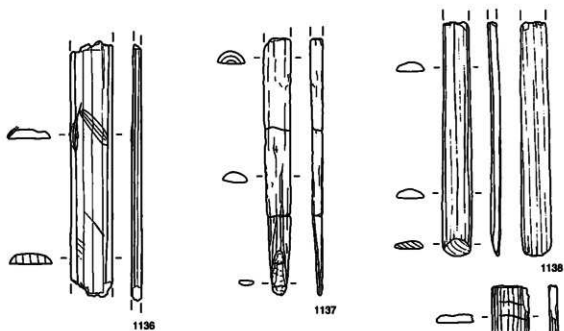
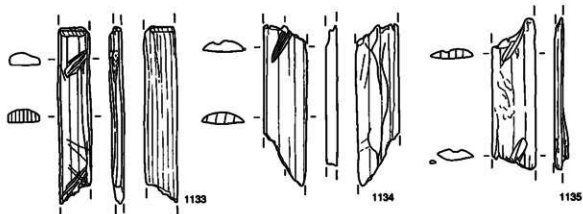


図V-226 祭祀・儀礼具1 (花矢)

V 第0黒色土層の調査

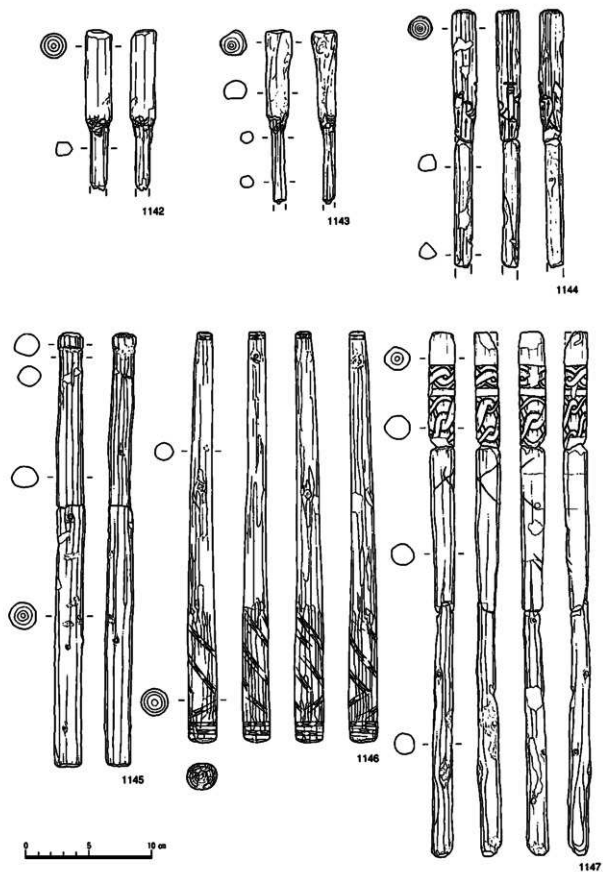


図V-227 祭祀・儀礼具2 (飾り串・捧酒箸(籠)①)

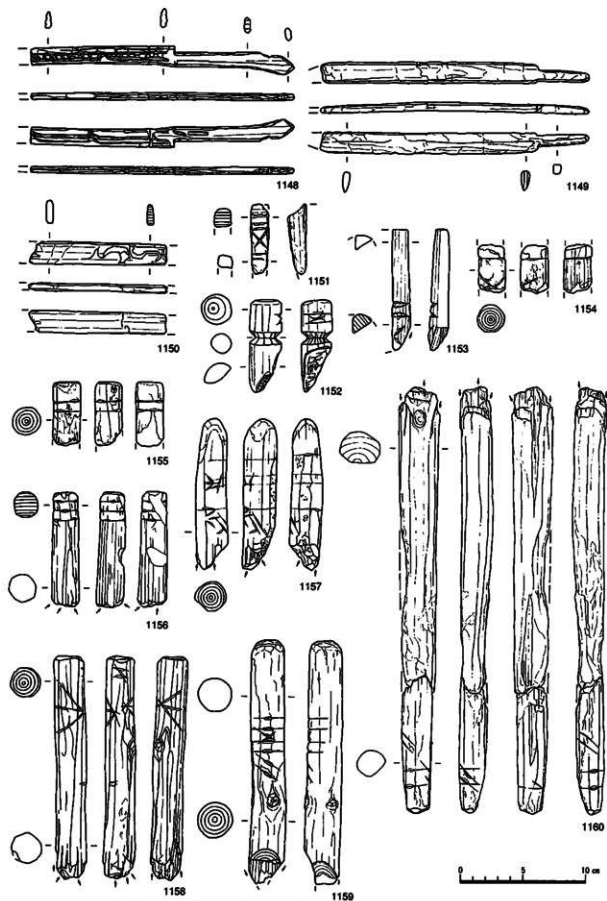


図V-228 祭祀・儀礼具3 (樽酒箸〔筴〕②)

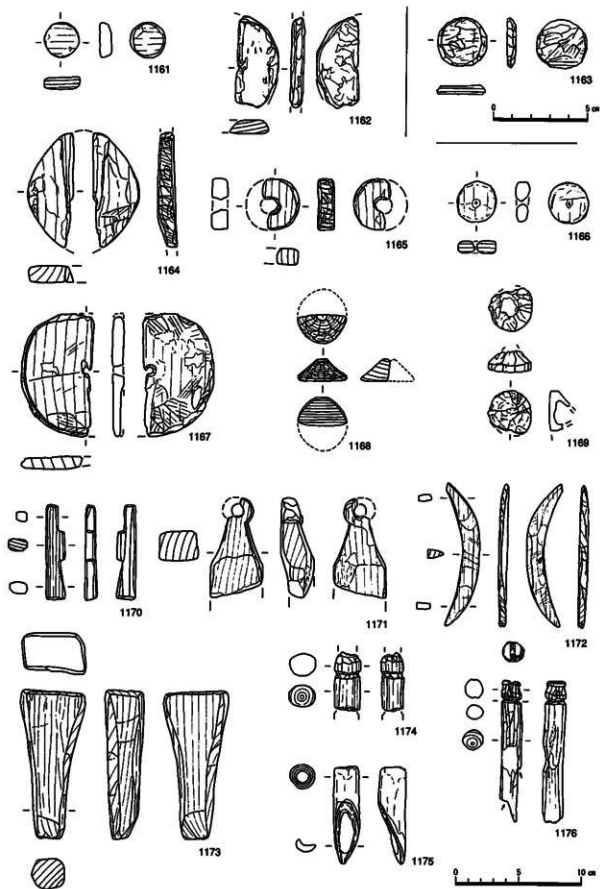
V 第0黒色土器の調査



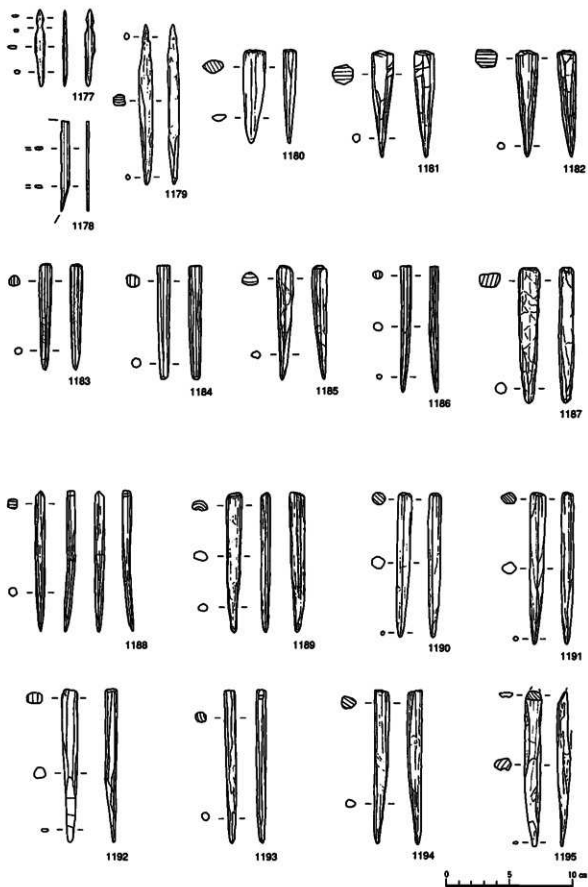
図V-229 祭祀・儀礼具4 (木幣・木幣状製品①)



図V-230 祭祀・儀礼具5 (刀ミニチュア・木筒状製品②他)

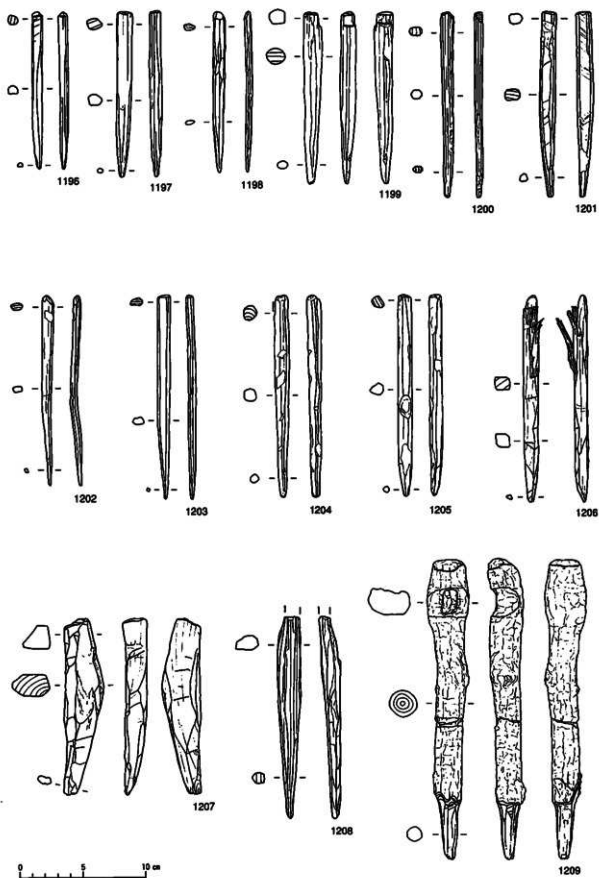


図V-231 加工材 (円盤・有孔円盤・円錐状製品他)



図V-232 ピン状製品 1

V 第0 黒色土層の調査



図V-233 ピン状製品 2

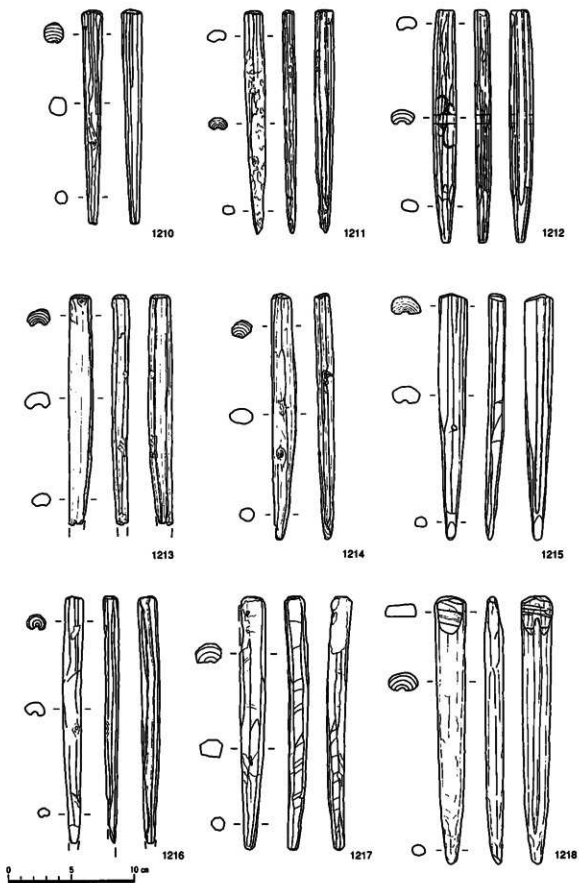
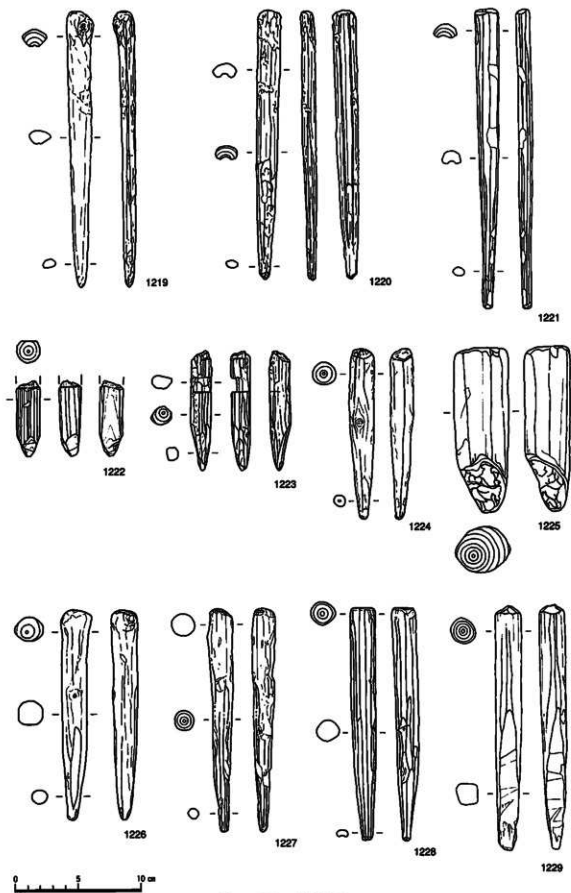
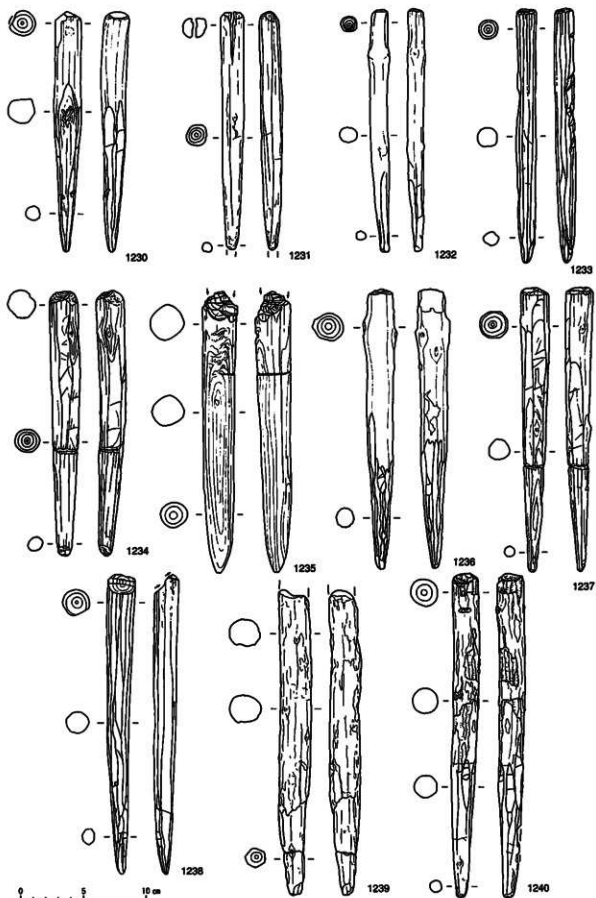


図 V-234 軸状製品 1

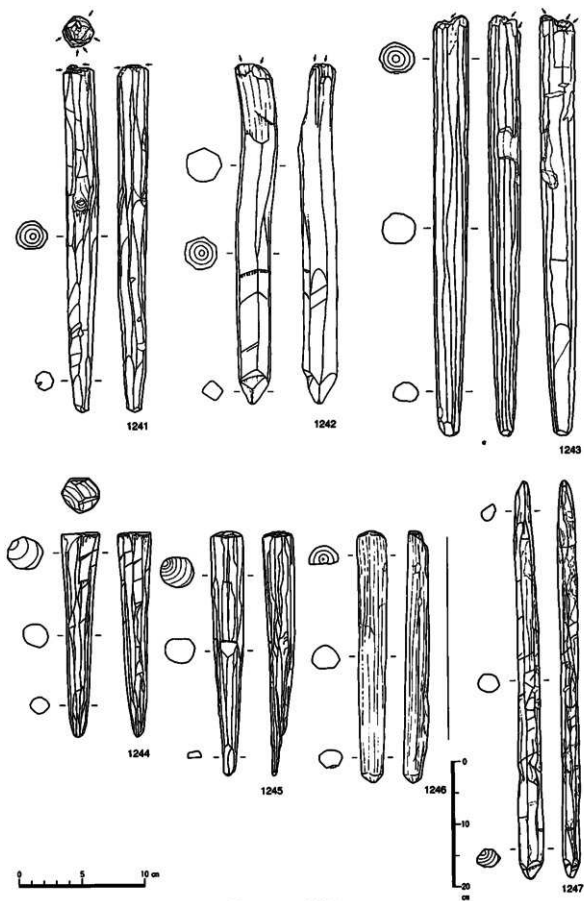
V 第0黒色土層の調査



図V-235 軸状製品 2



図V-236 軸状製品 3



図V-237 軸状製品 4

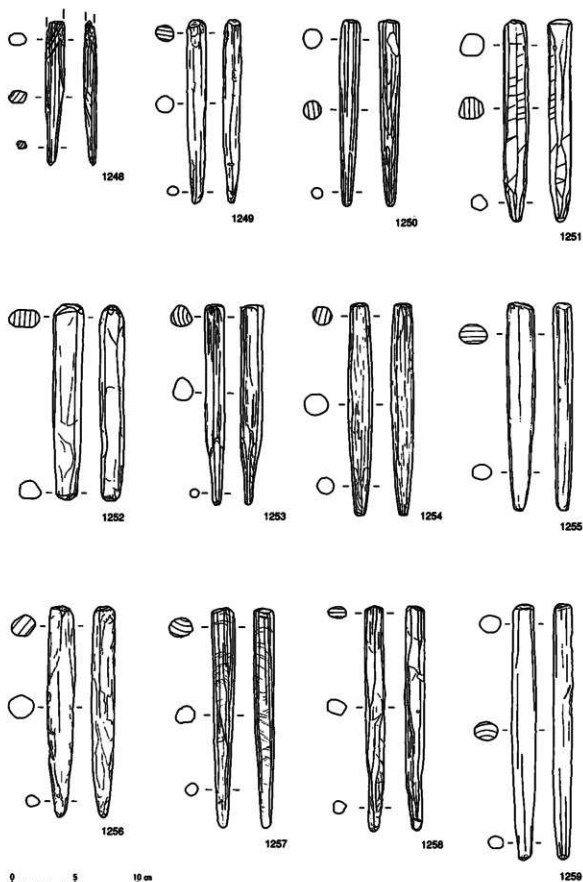
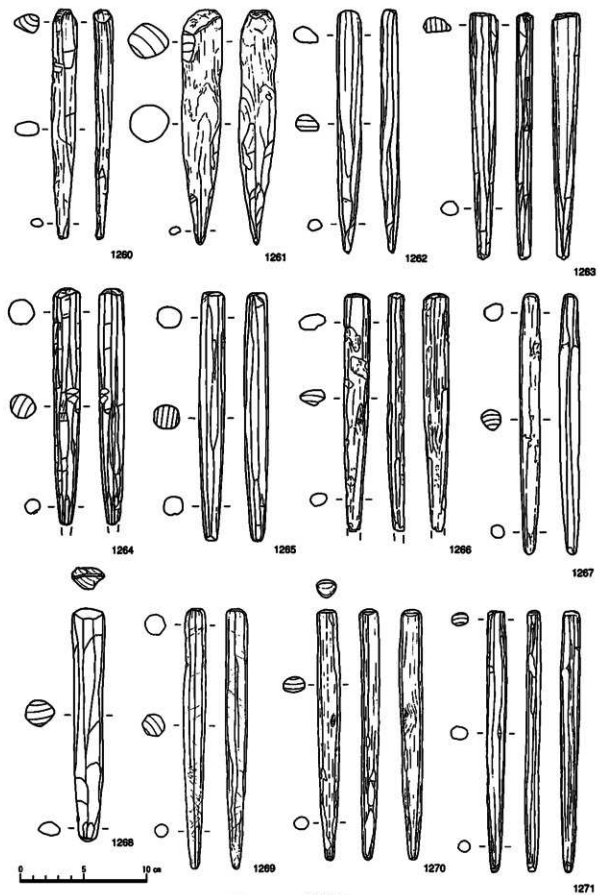
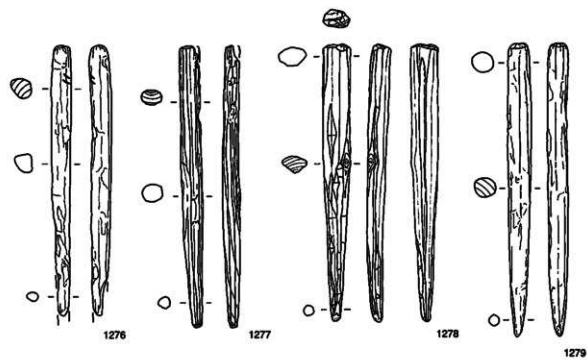
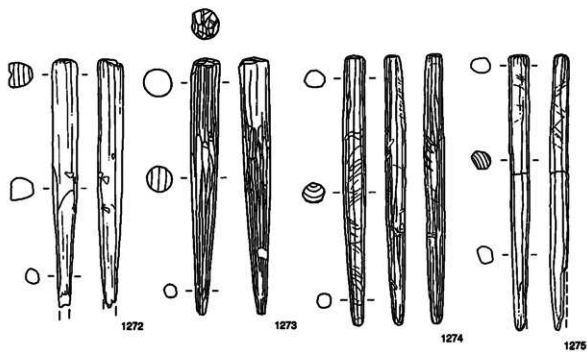


図 V-238 軸状製品 5

V 第0 黑色土層の調査

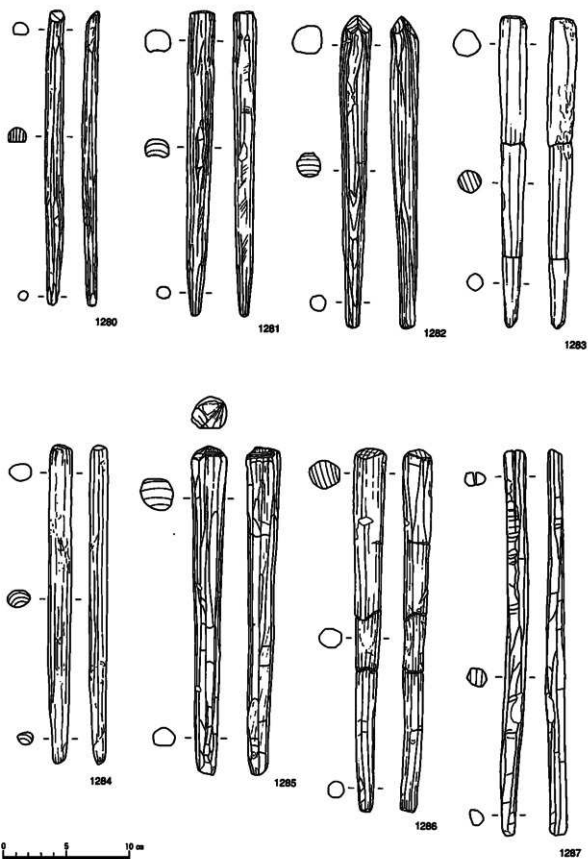


図V-239 軸状製品 6

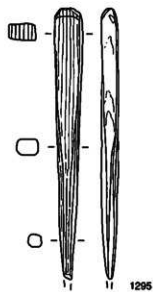
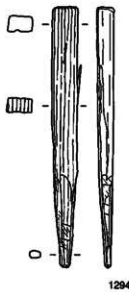
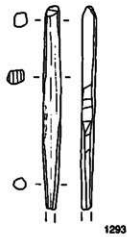
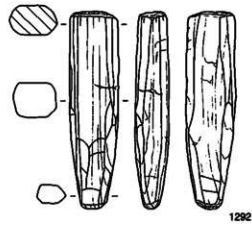
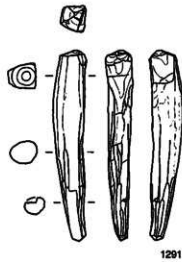
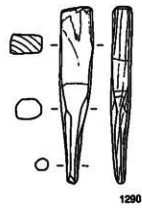
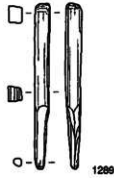
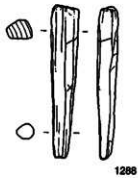


図V-240 軸状製品 7

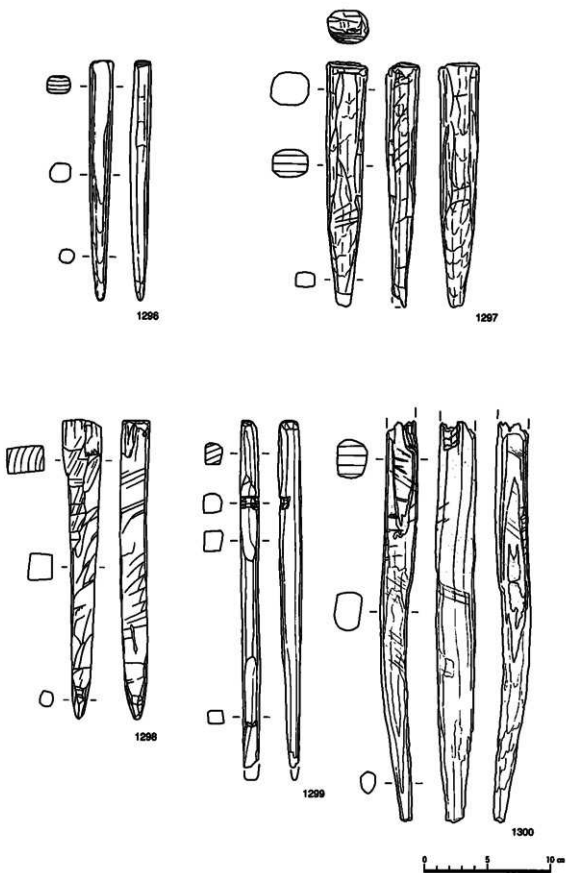
V 第0黒色土層の調査



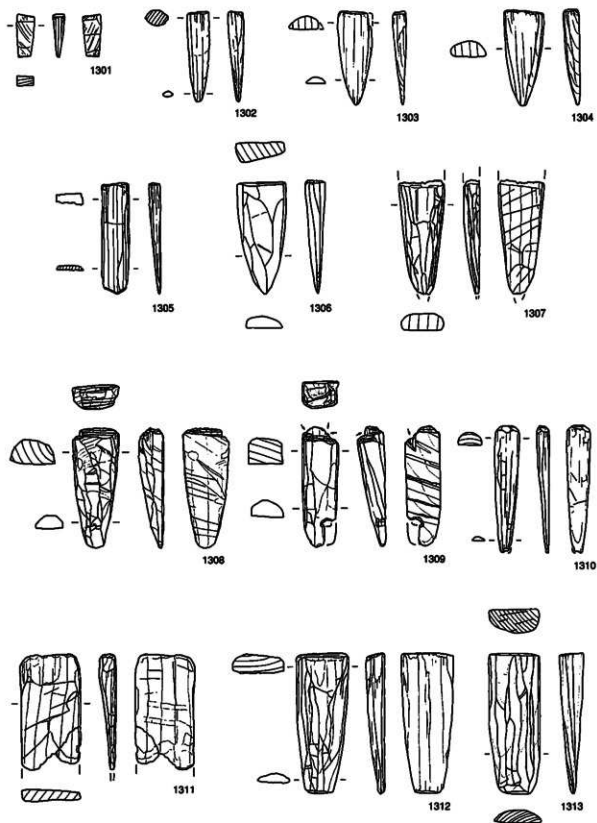
図V-241 軸状製品 8



図V-242 軸状製品9

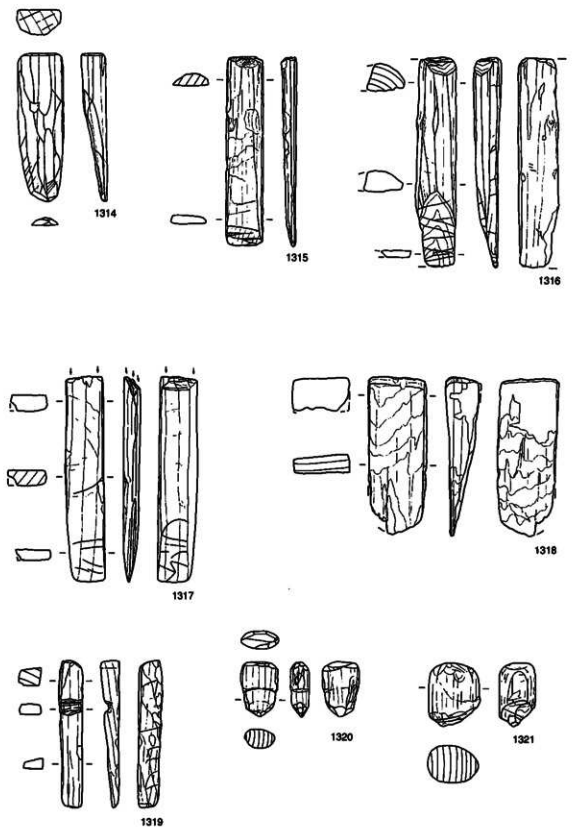


図V-243 軸状製品10

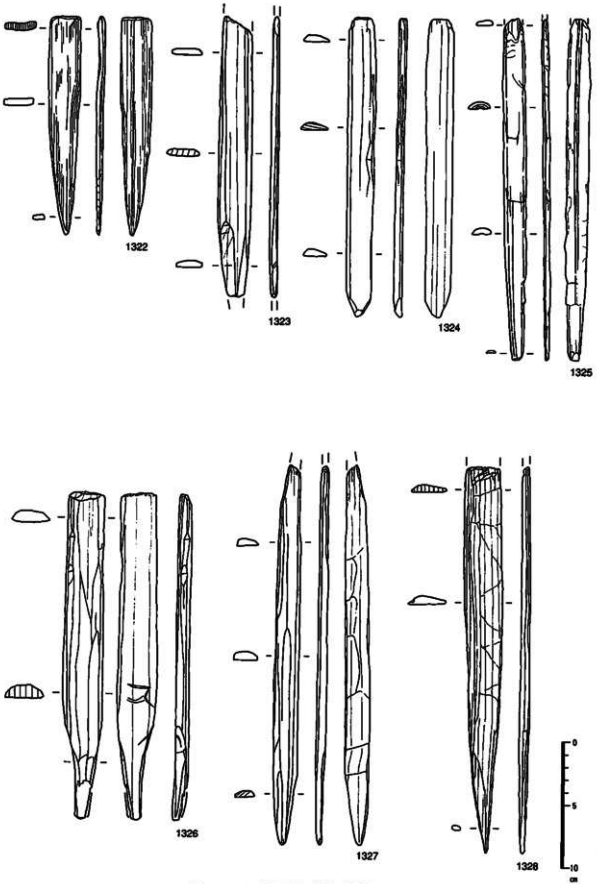


図V-244 楔状製品 1

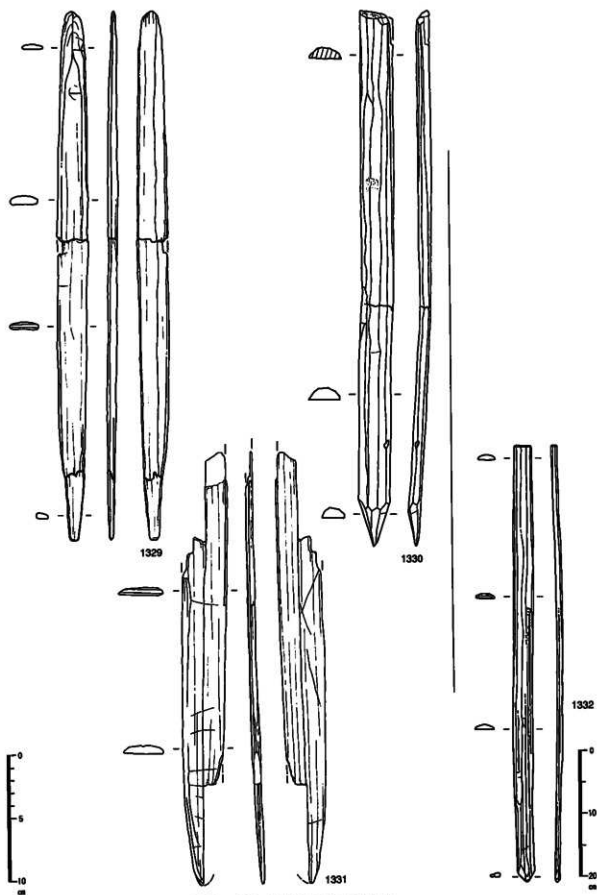
V 第0黒色土層の調査



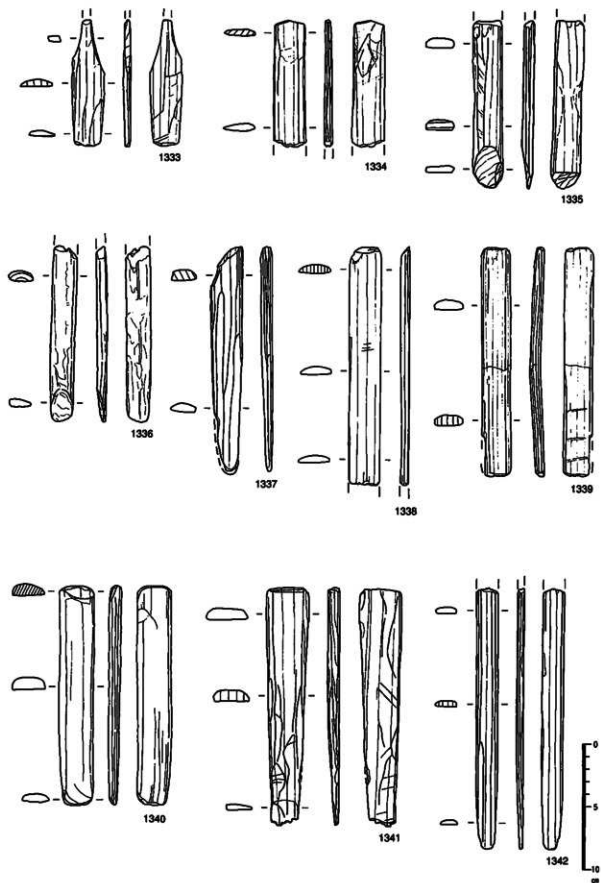
図V-245 楔状製品 2



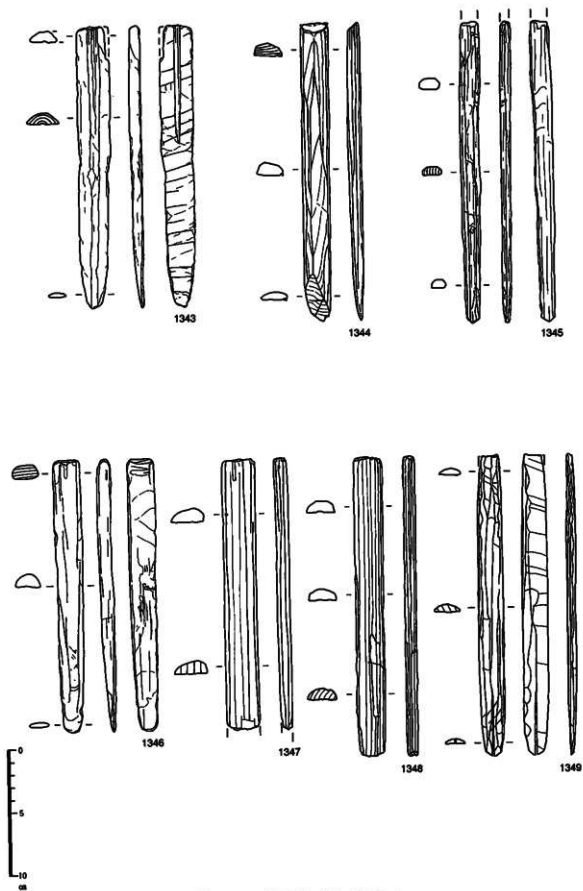
図V-246 梅酒箸(筴)状製品1



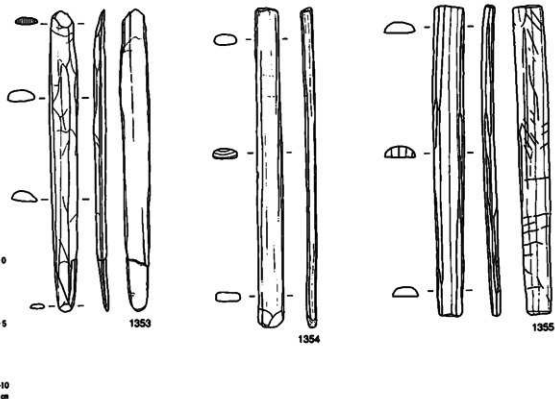
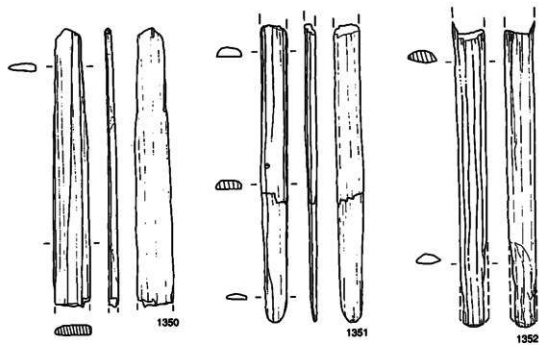
図V-247 棒酒箸(筵)状製品2



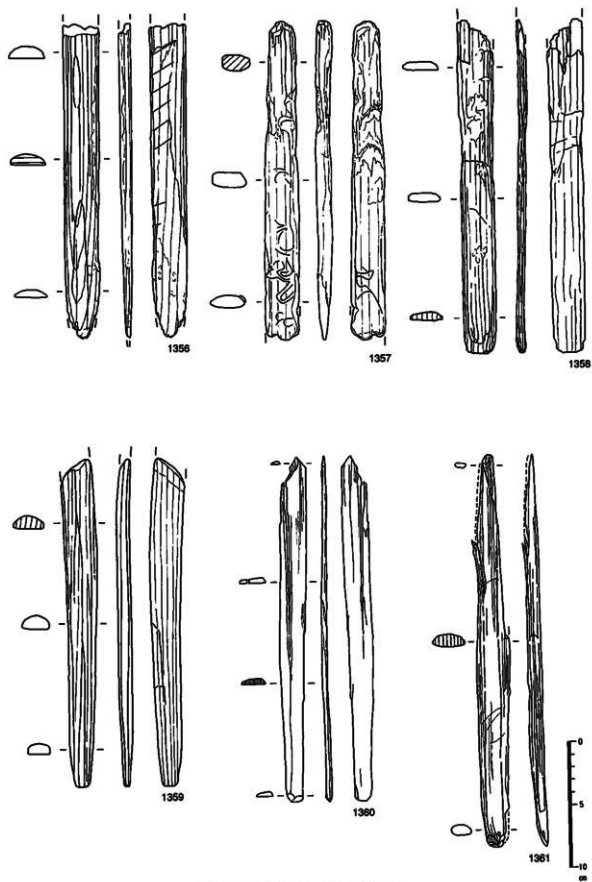
図V-248 樽酒箸(筴)状製品3



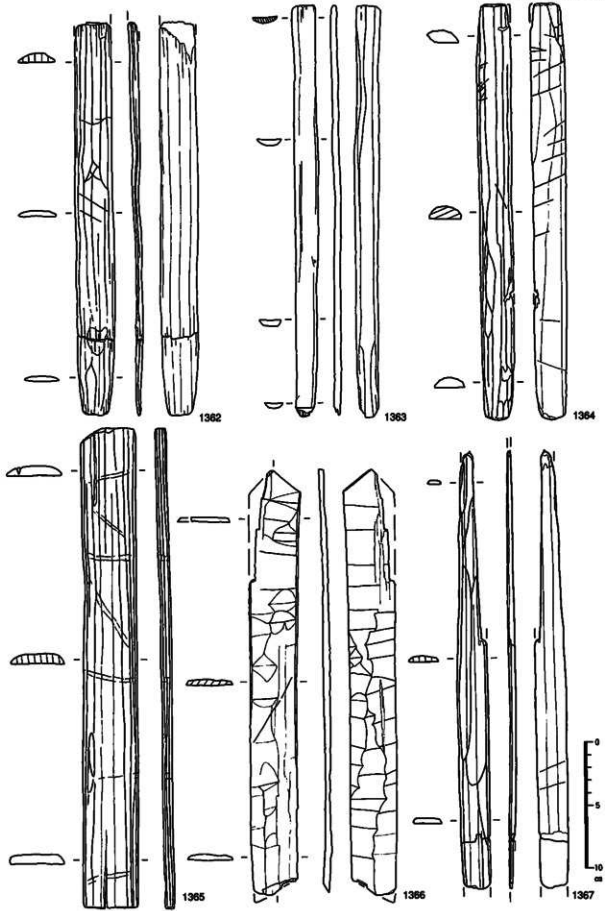
図V-249 樽酒箸(筴)状製品 4



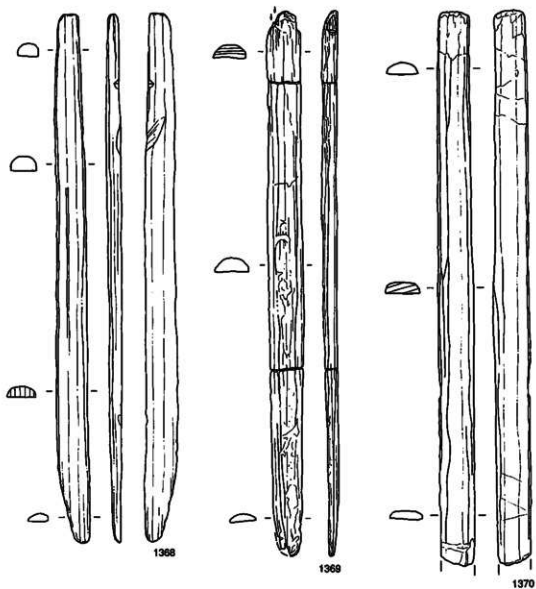
図V-250 棒酒箸(筴)状製品5



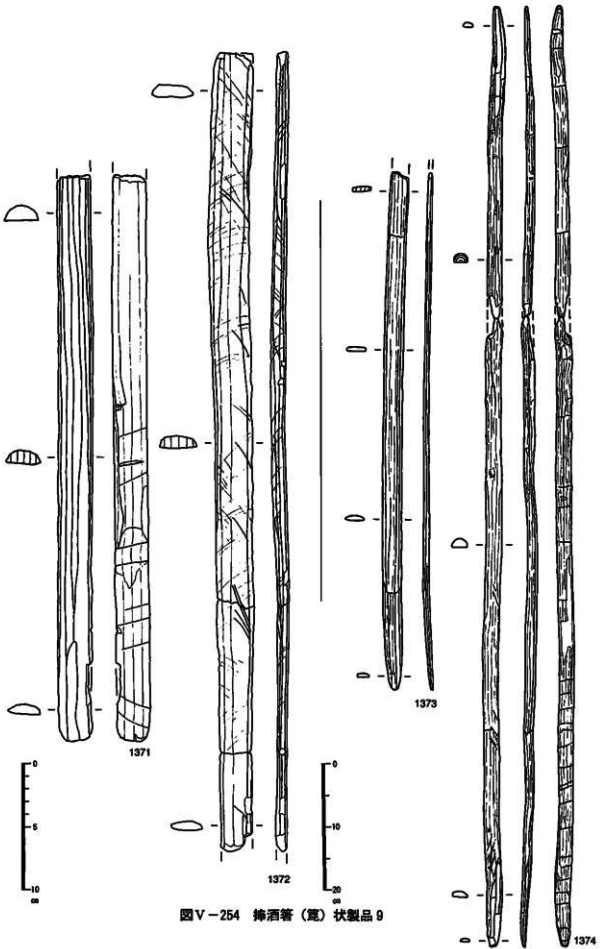
図V-251 棒酒箸(筴)状製品6



図V-252 樽酒箸（筴）状製品 7

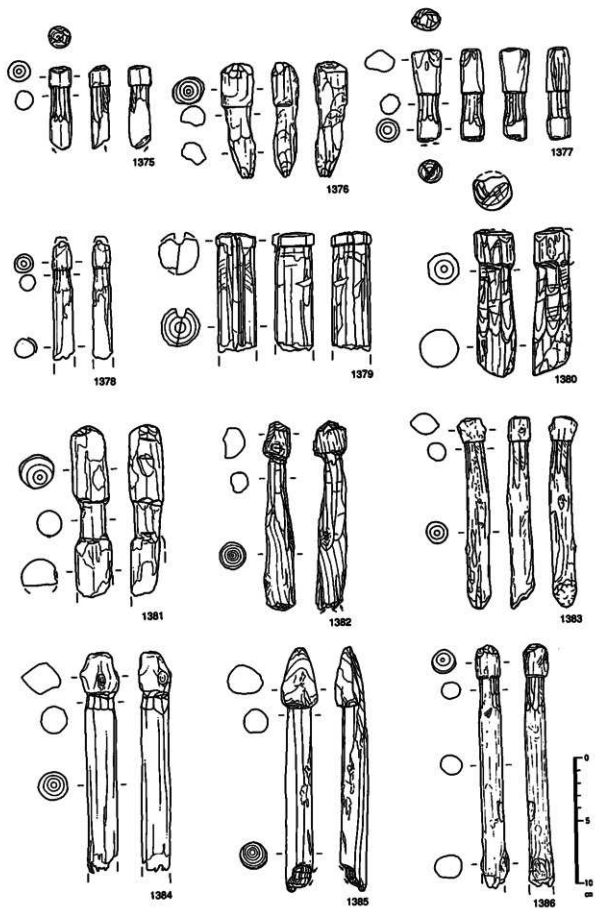


図V-253 棒酒箸(笄)状製品 8

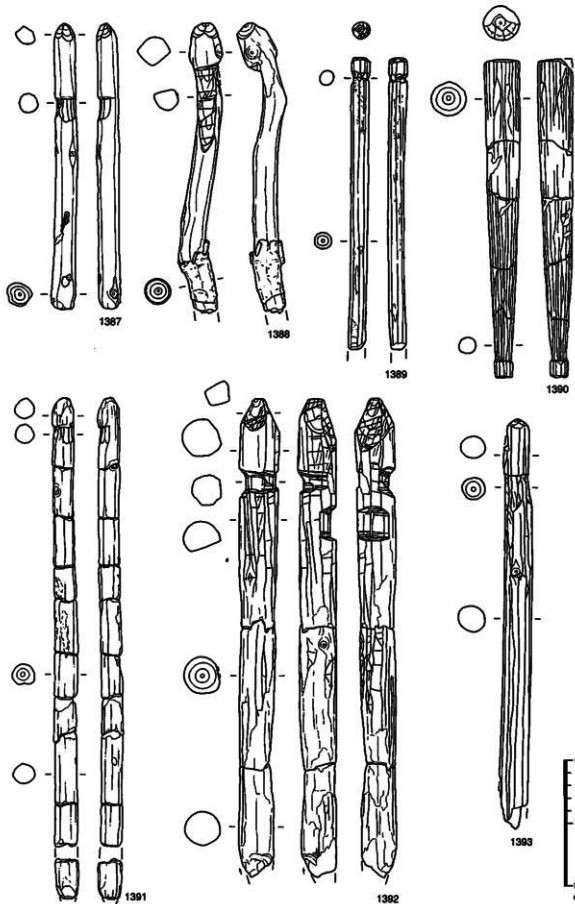


図V-254 棒酒箸（筴）状製品9

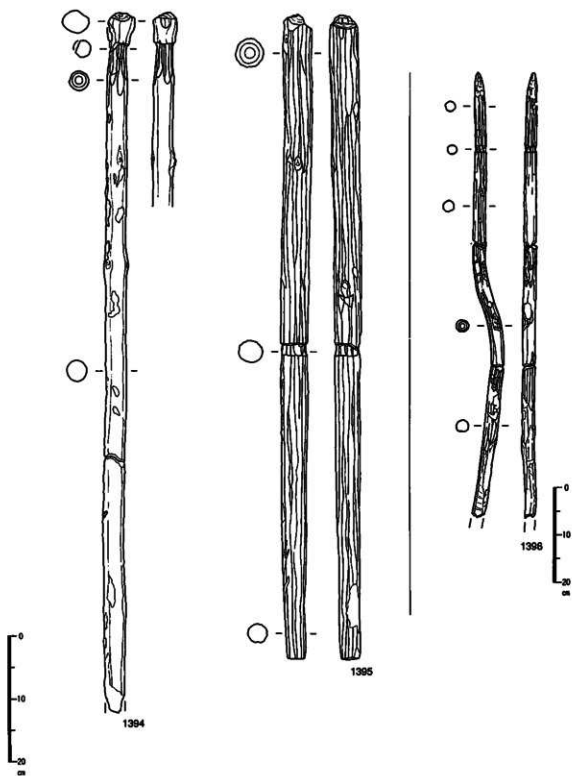
V 第0黒色土層の調査



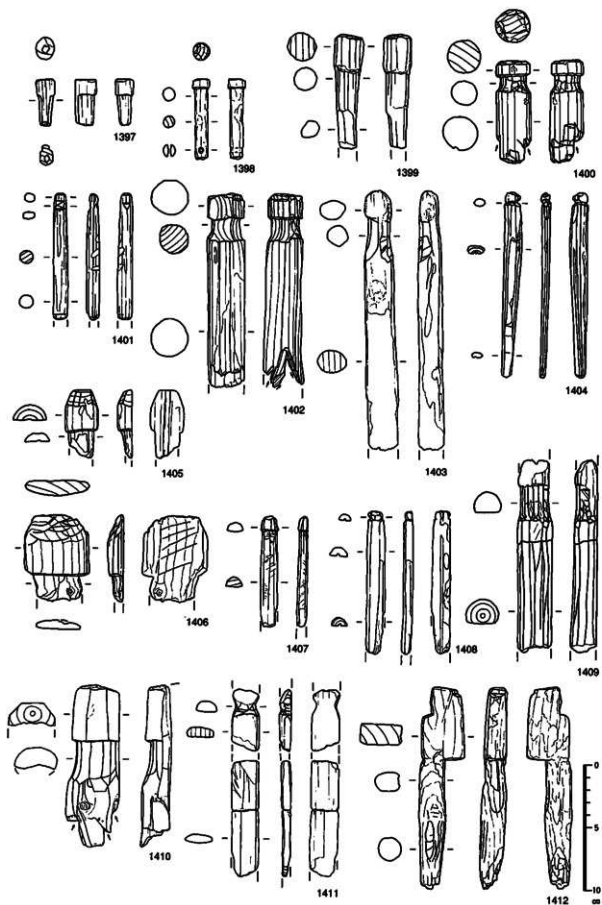
図V-255 挿入部付丸木材 1



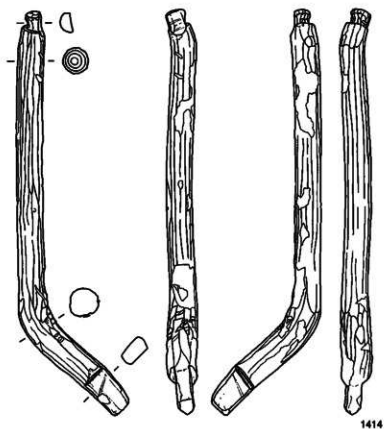
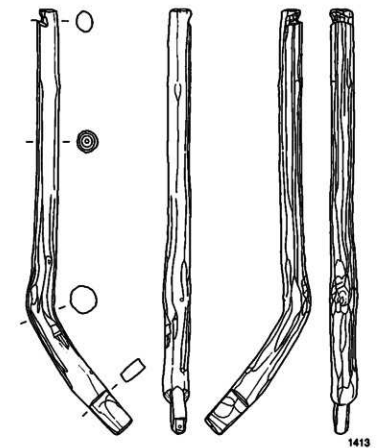
図V-256 挿入部付丸木材 2



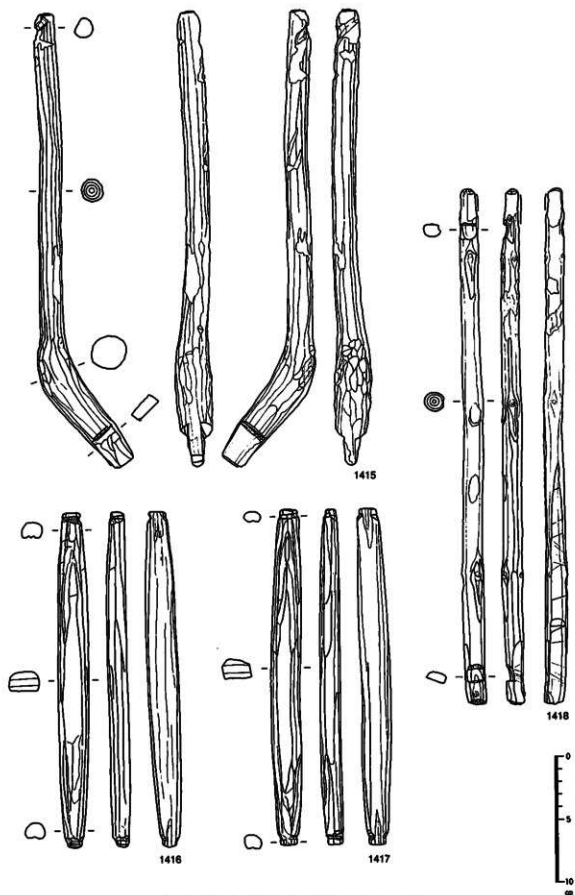
図V-257 挟入部付丸木材 3



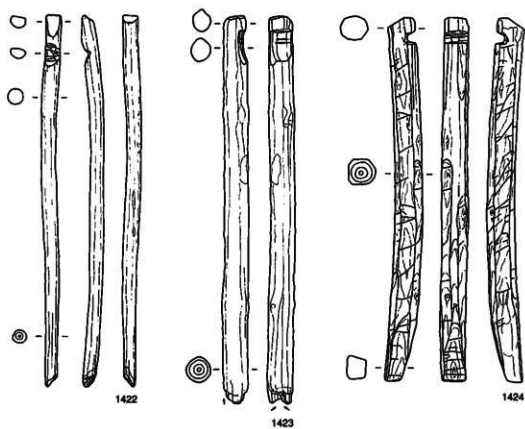
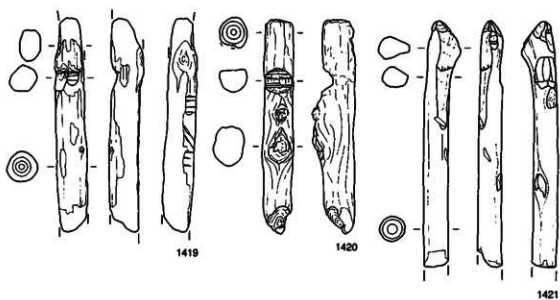
図V-258 扶入部付丸材 1



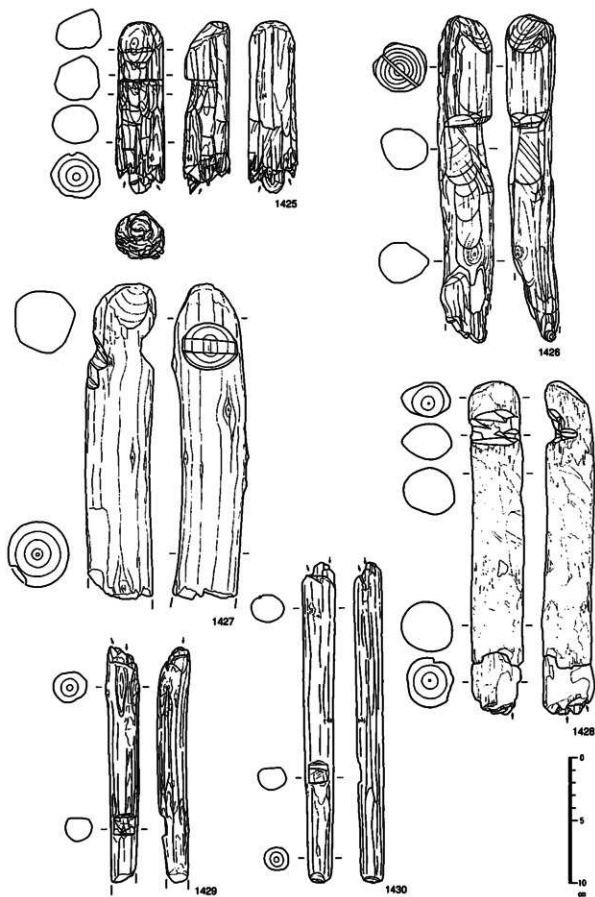
図V-259 両端部抉入部付丸木材 1



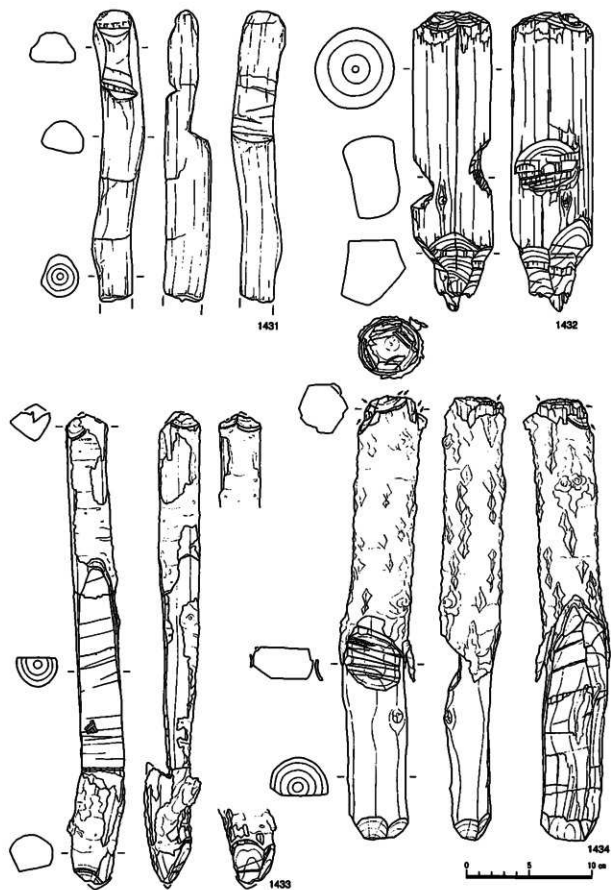
図V-260 両端部扶入部付丸木材 2・丸材



図V-261 挟付丸木材 1



圖V-262 扶付丸木材 2



図V-263 挟付丸木材 3

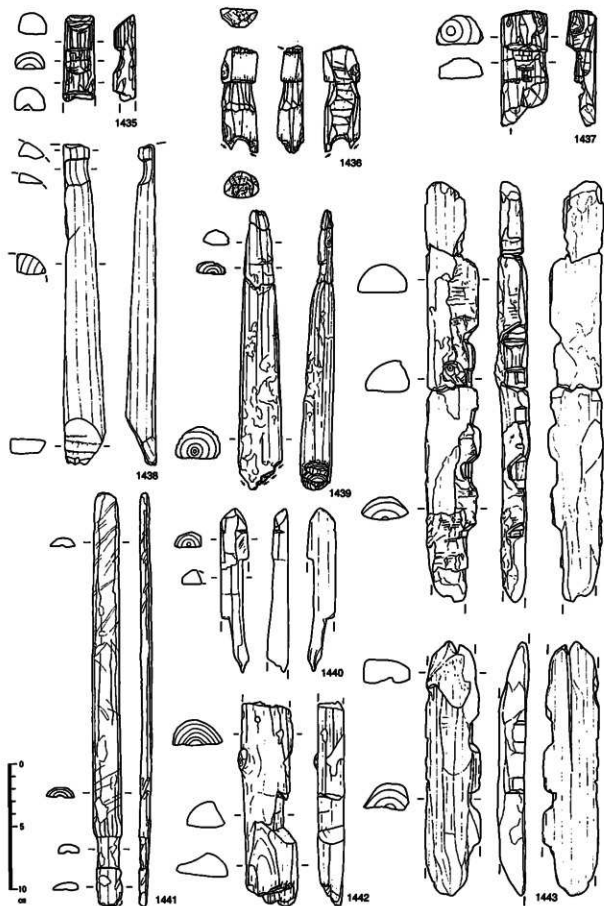
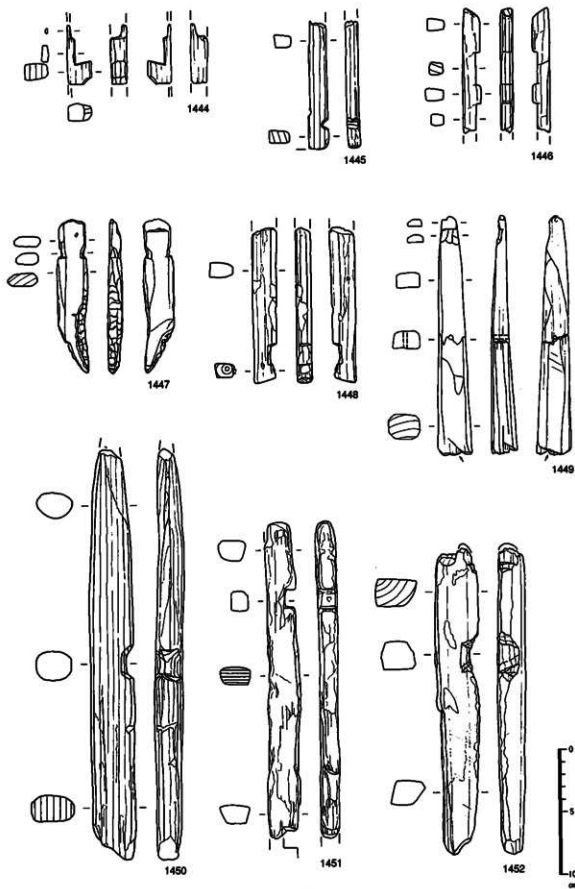


図 V - 264 扶付半割材



図V-265 挟付角材

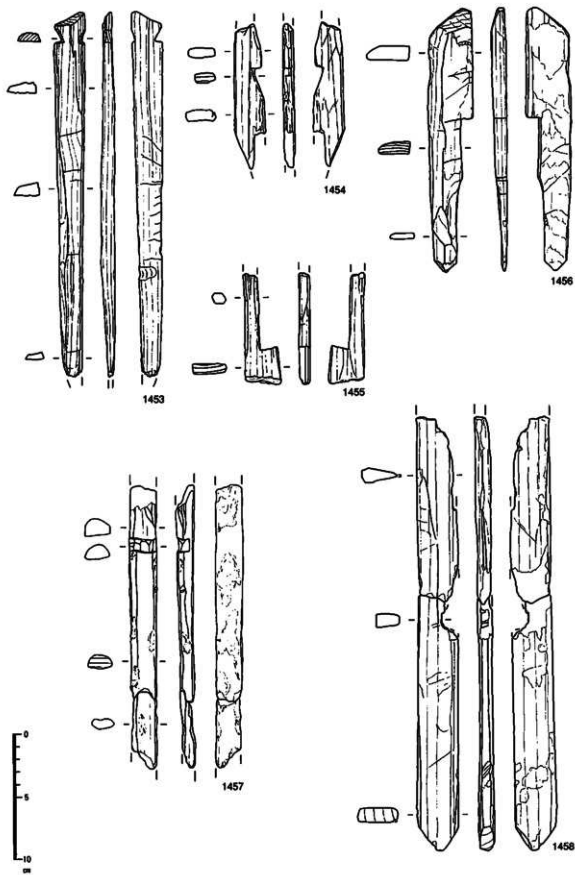
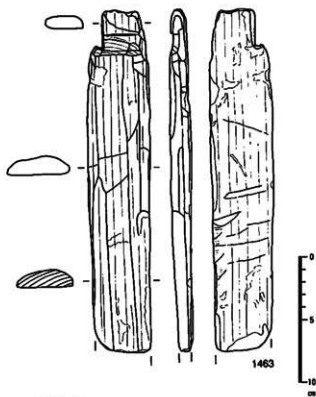
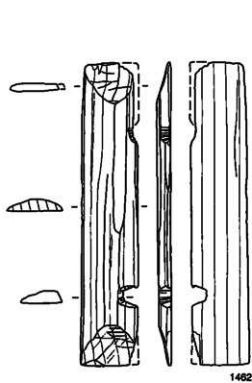
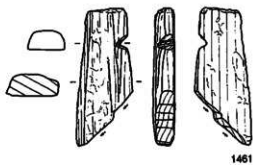
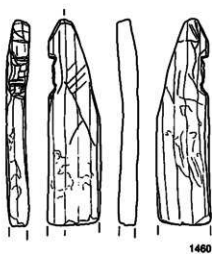
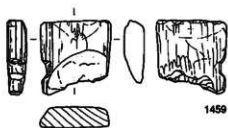


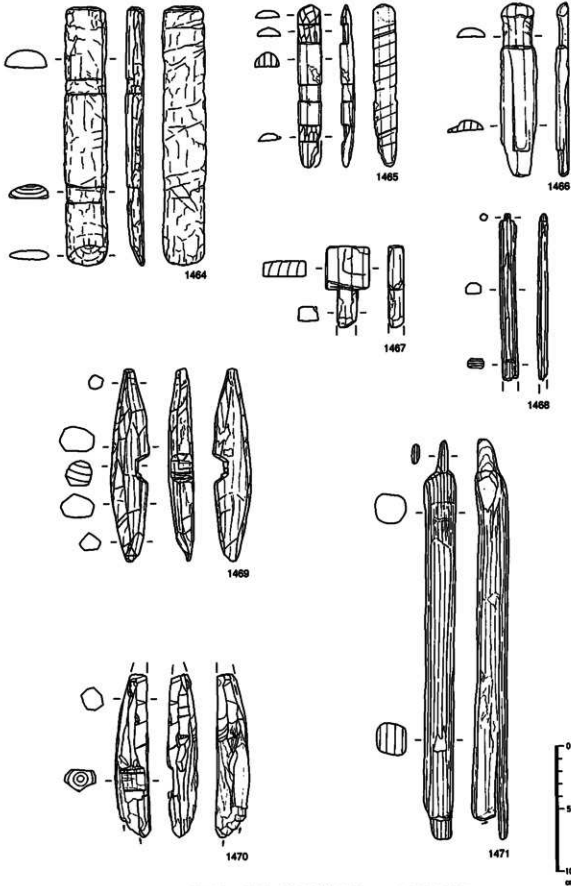
図 V-266 挟付板材 1

V 第0黒色土層の調査



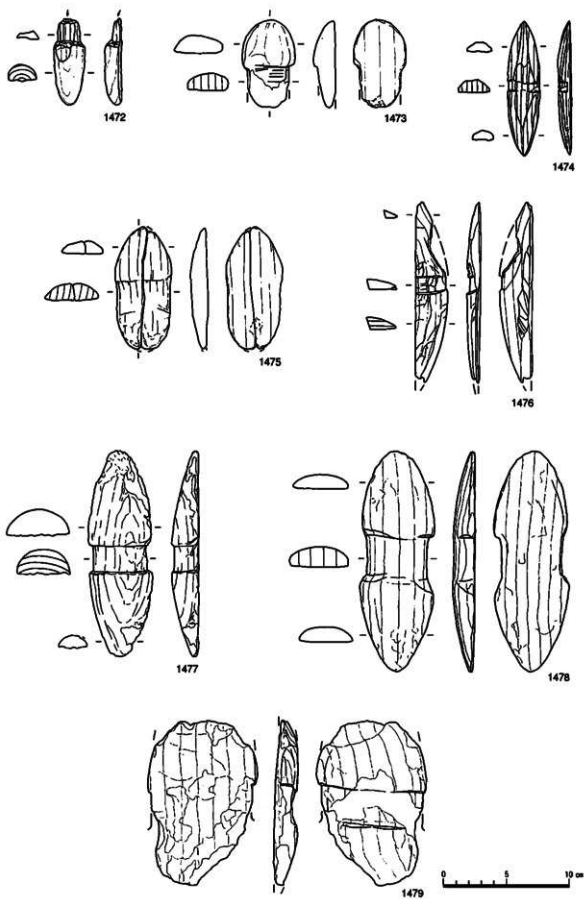
図V-267 扶付板材 2



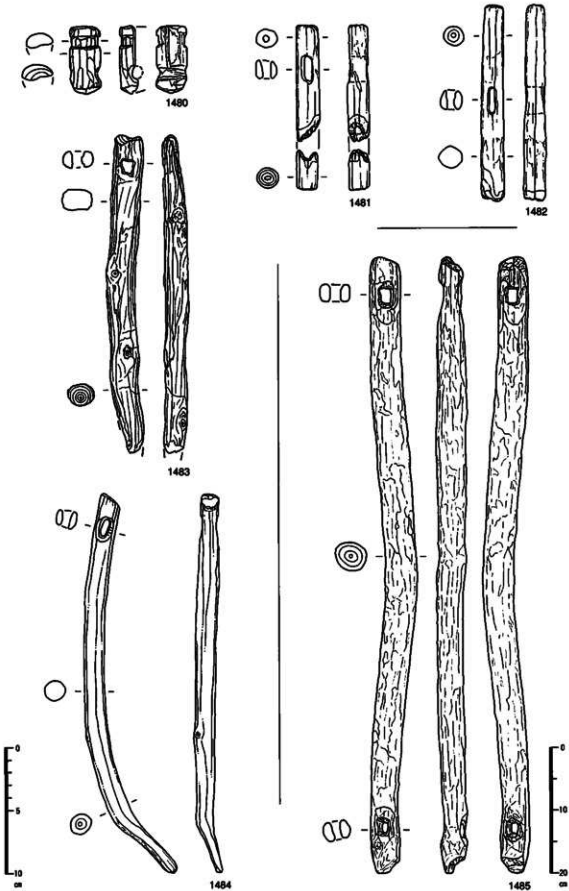


図V-268 挟付半円状材・挟付紡錘状材・ホゾ先付角材他

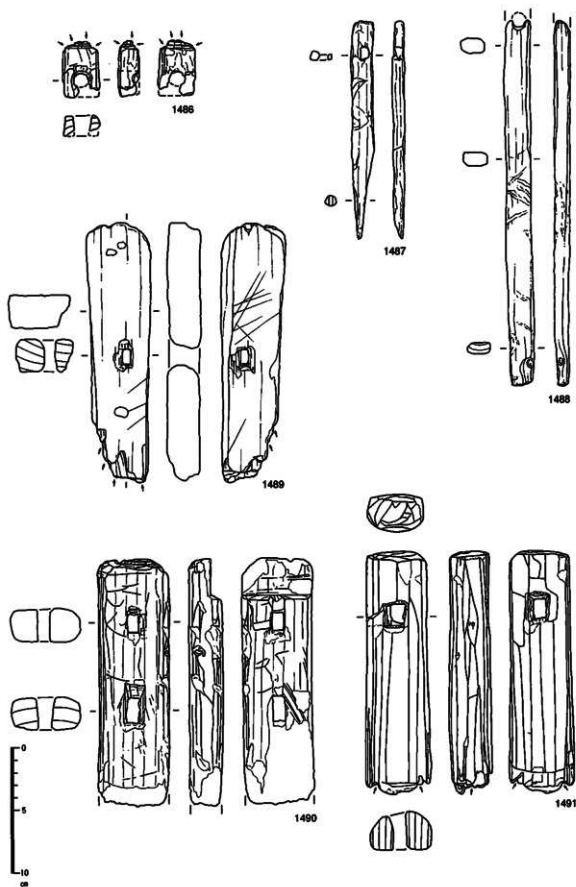
V 第0黒色土層の調査



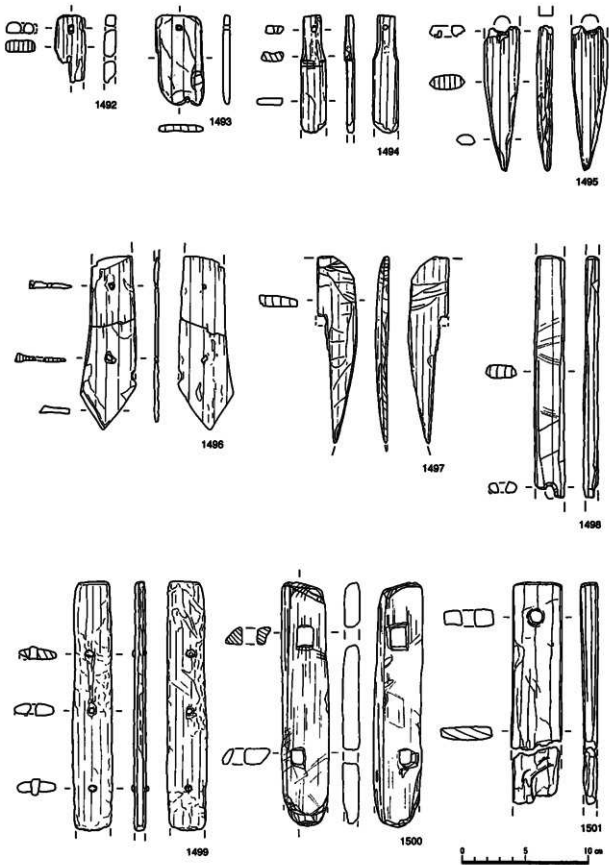
図V-289 挟付槽凹板材



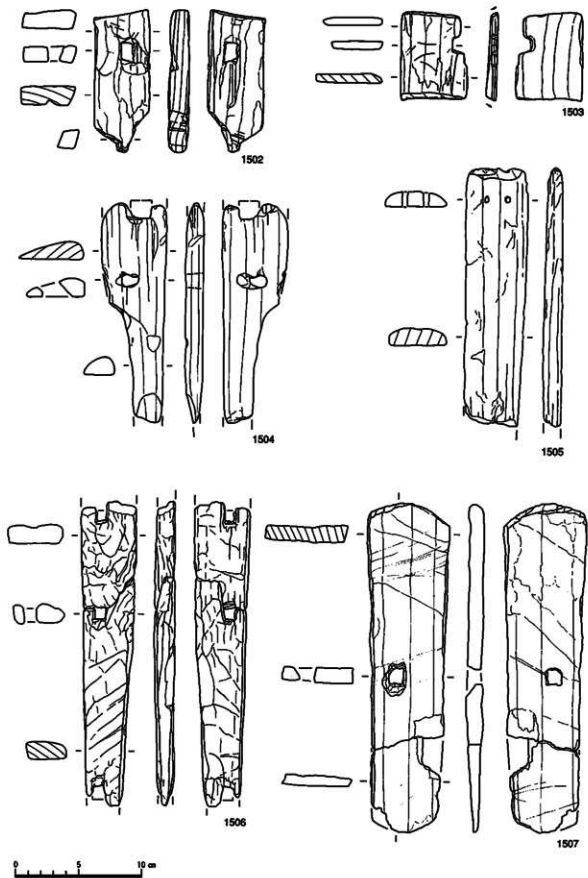
図V-270 有孔丸木材



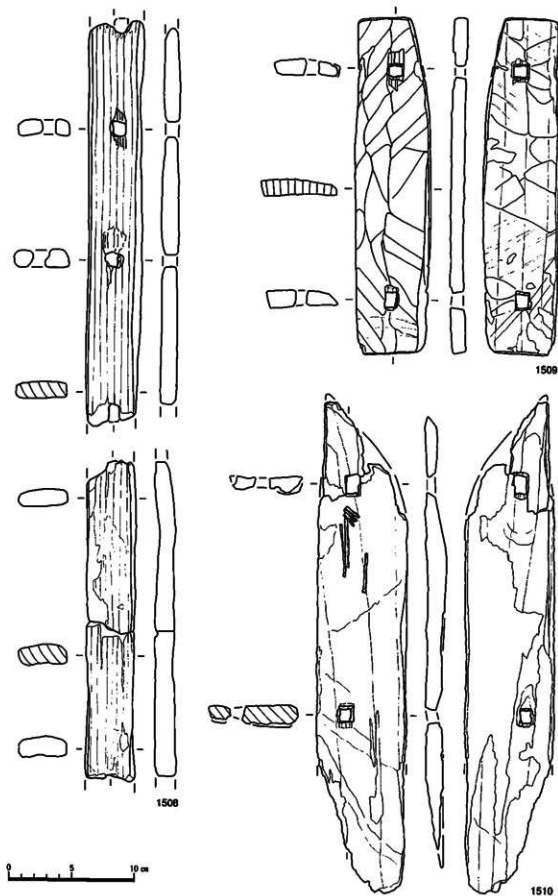
図V-271 有孔角材



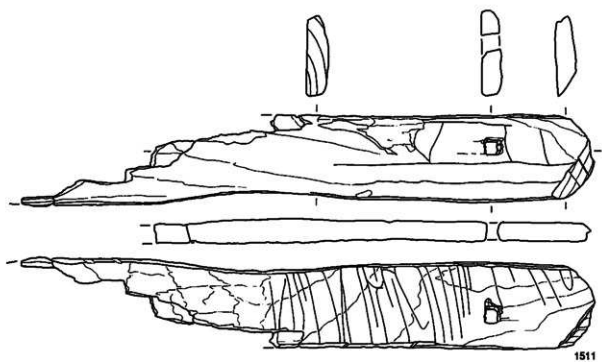
図V-272 有孔板材 1



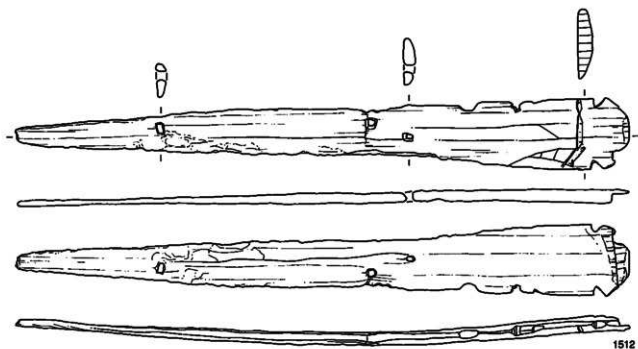
図V-273 有孔板材 2



図V-274 有孔板材 3



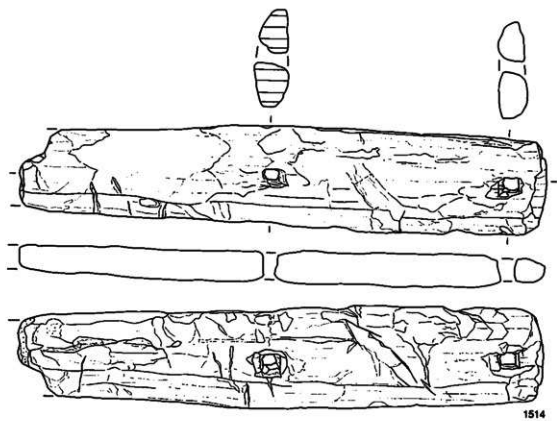
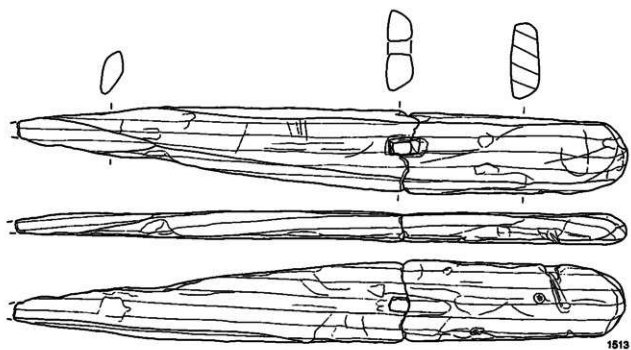
1511



1512

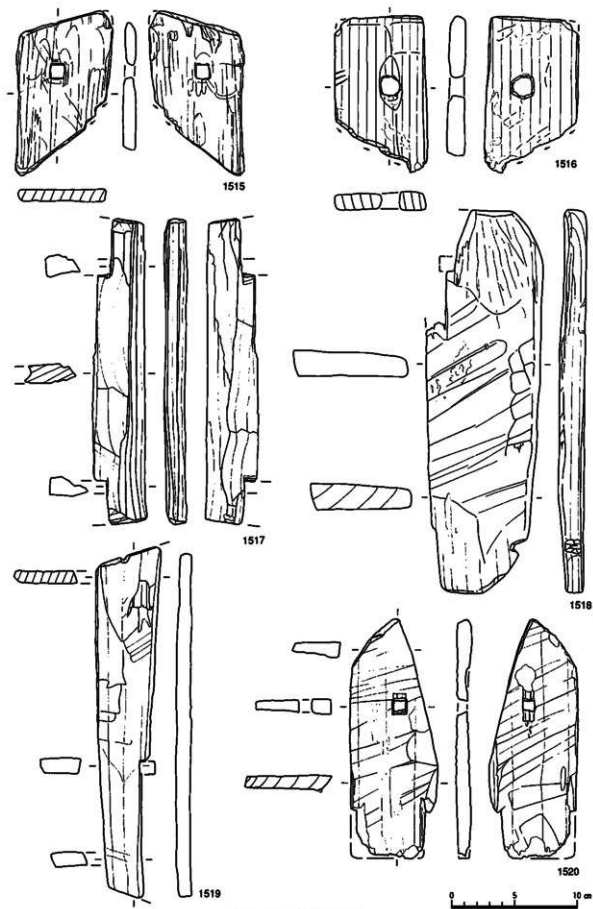


図V-275 有孔板材4

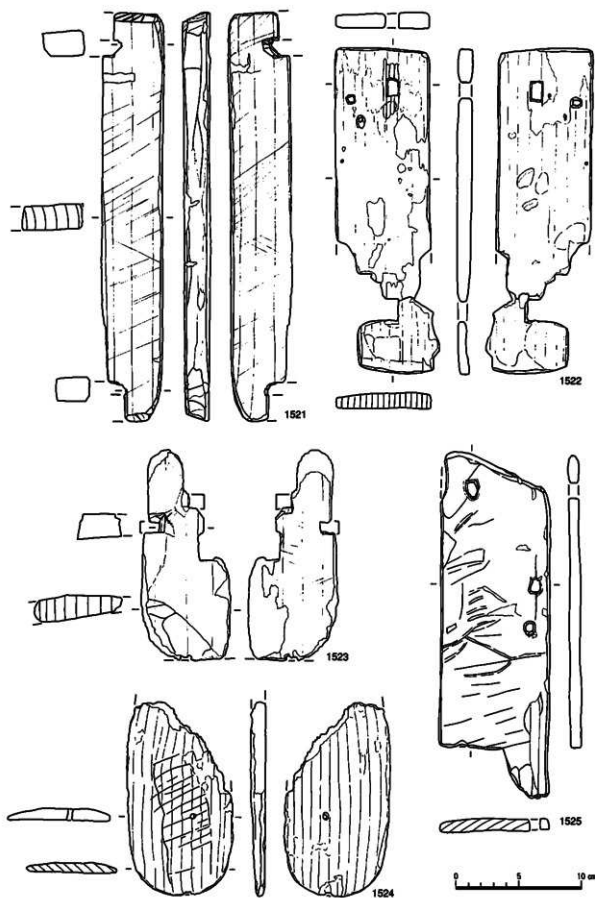


図V-276 有孔板材5

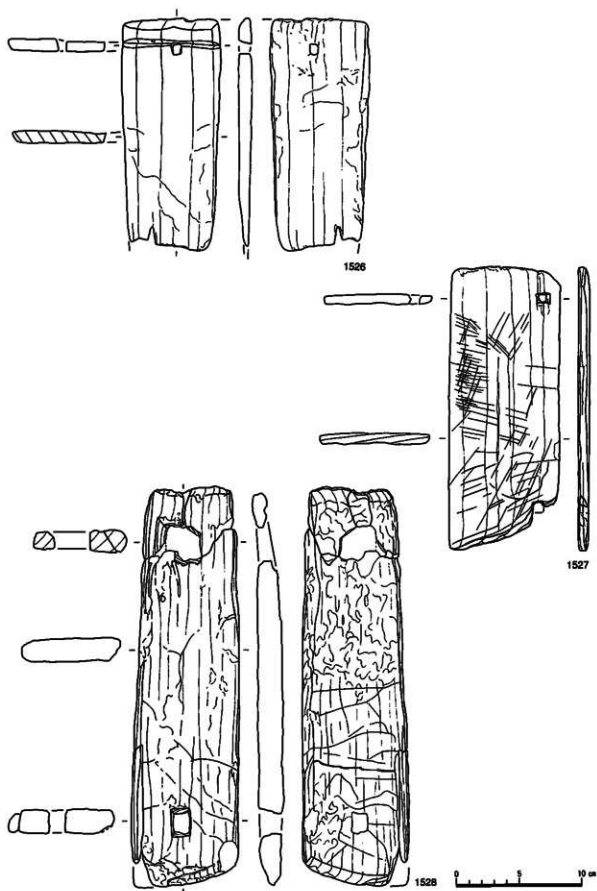
V OB層の調査



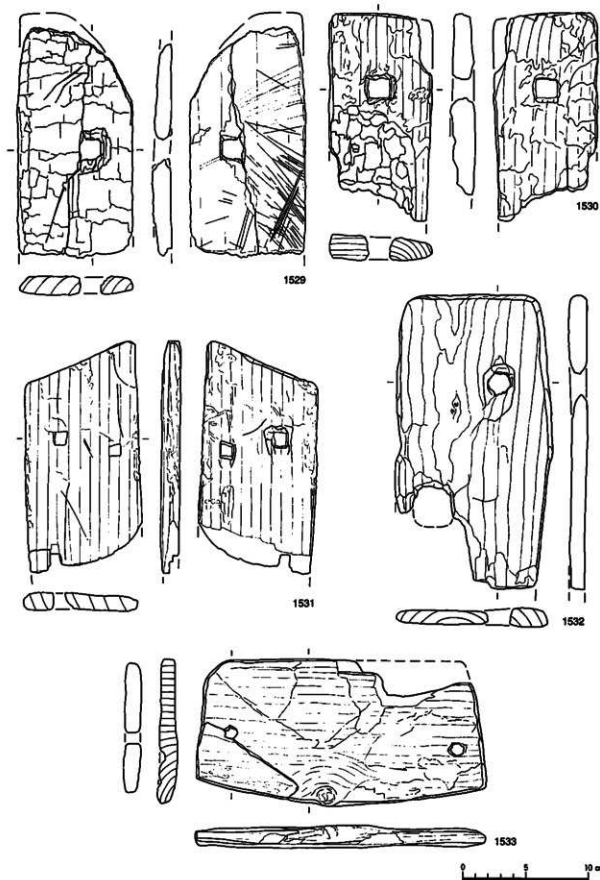
図V-277 有孔板材6



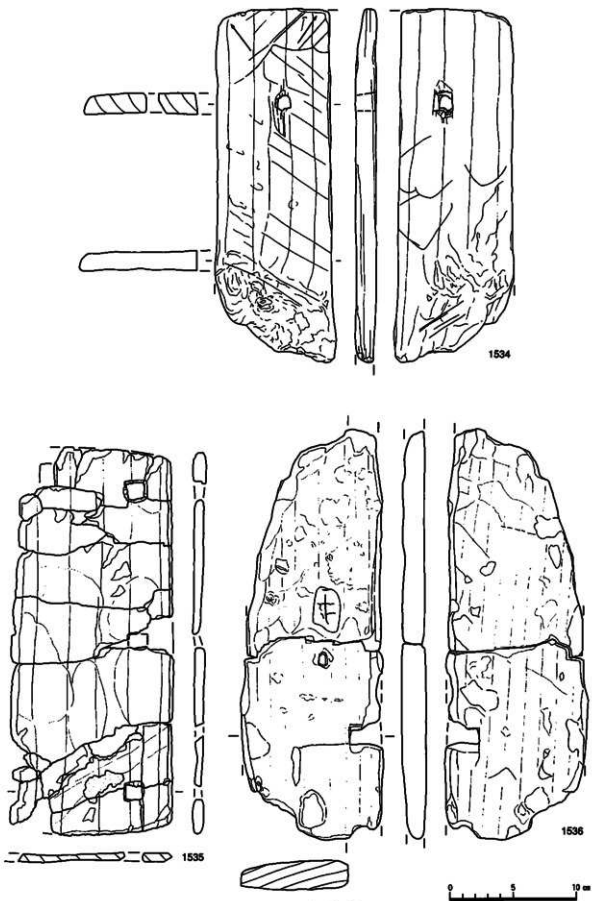
図V-278 有孔板材 7



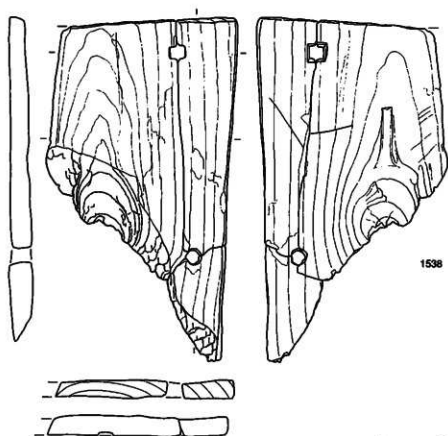
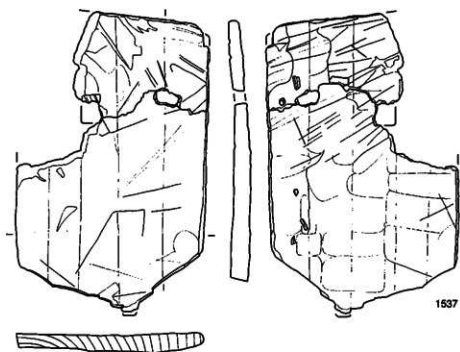
図V-279 有孔板材8



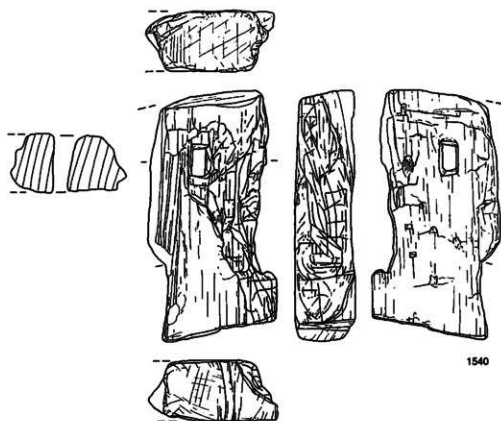
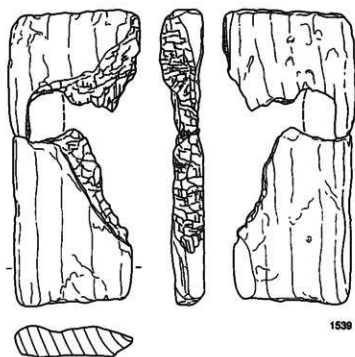
図V-280 有孔板材 9



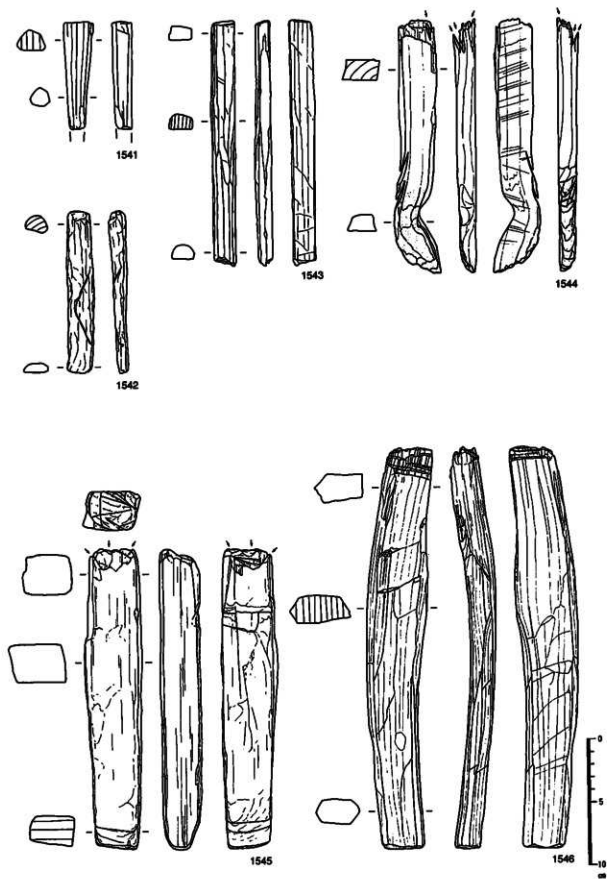
図V-281 有孔板材10



図V-282 有孔板材11

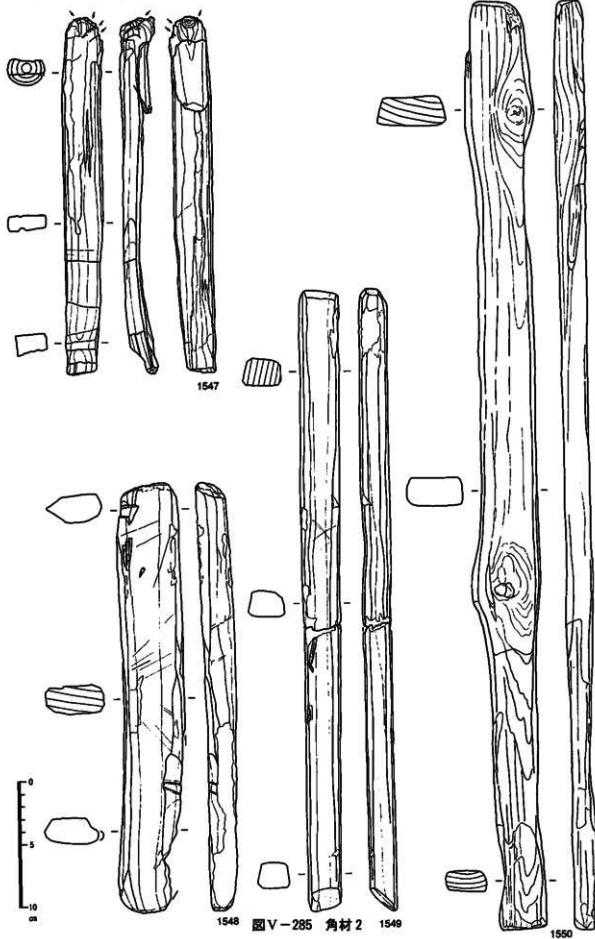


図V-283 有孔板材12

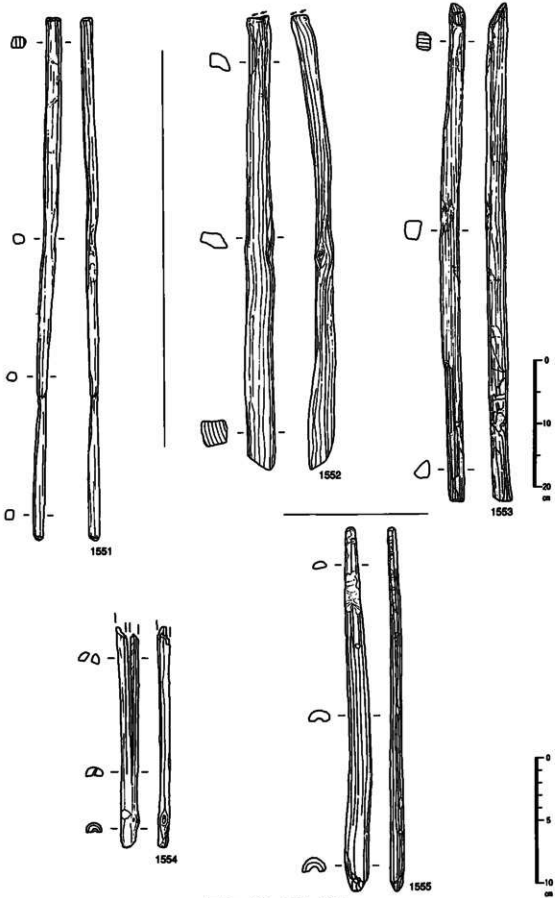


图V-284 角材 1

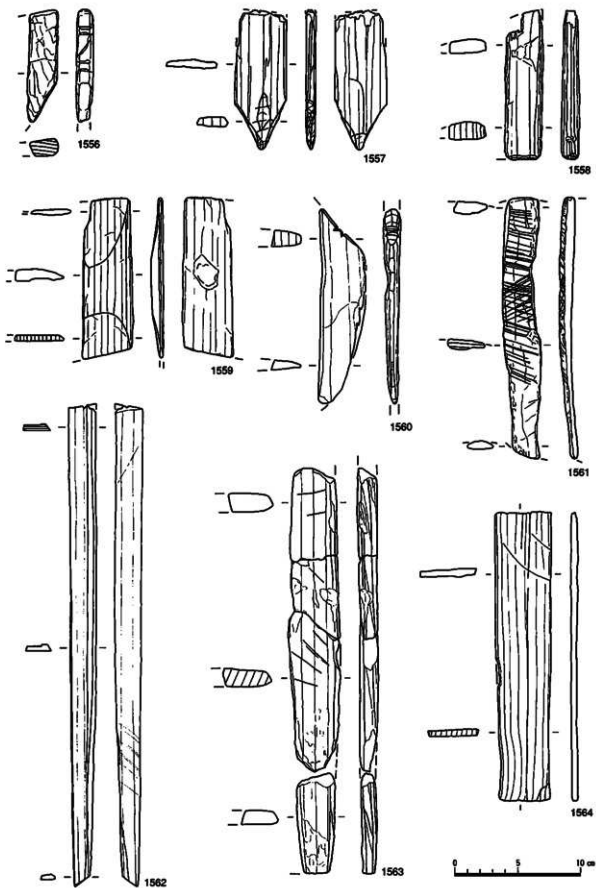
V 第0 黑色土層の調査



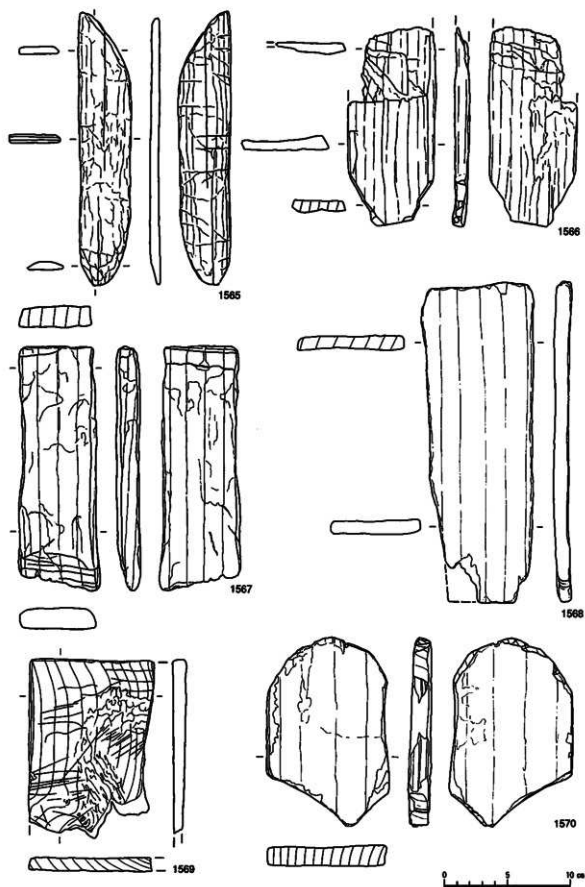
図V-285 角材2



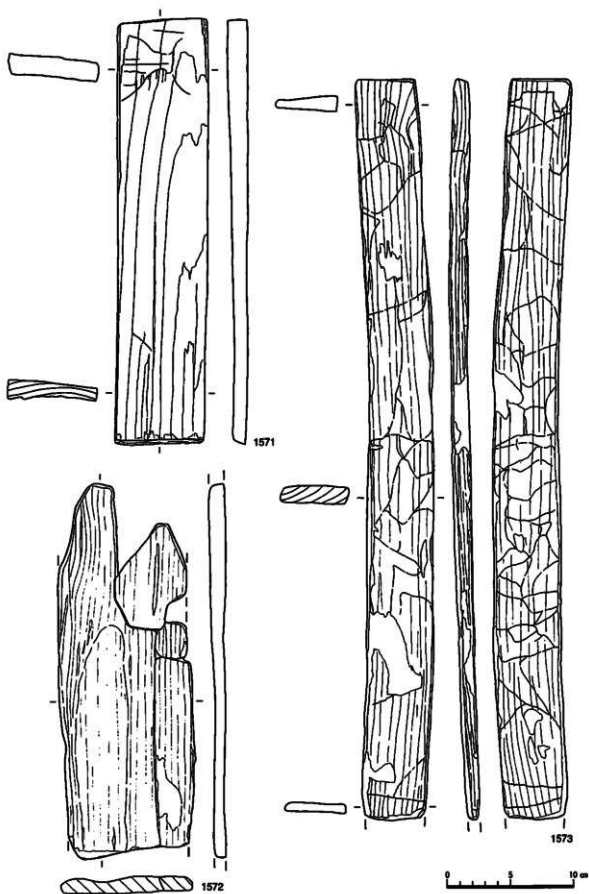
図V-286 角材・割材



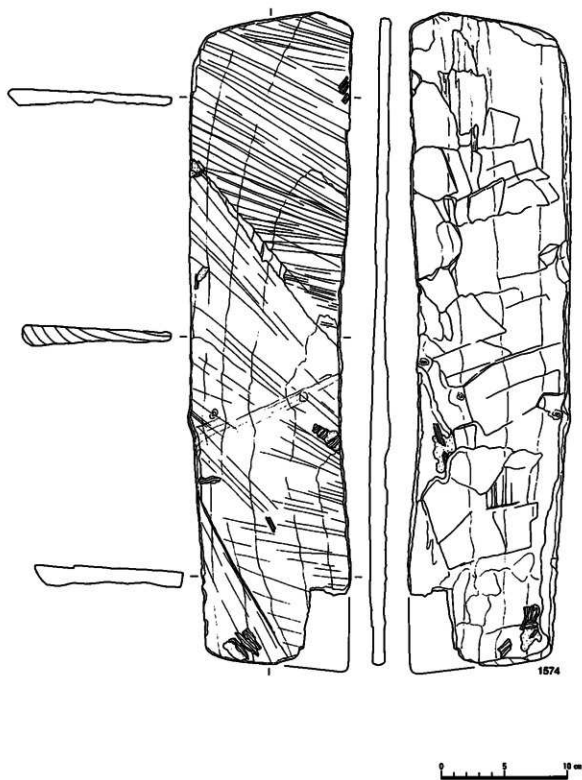
図V-287 板材1



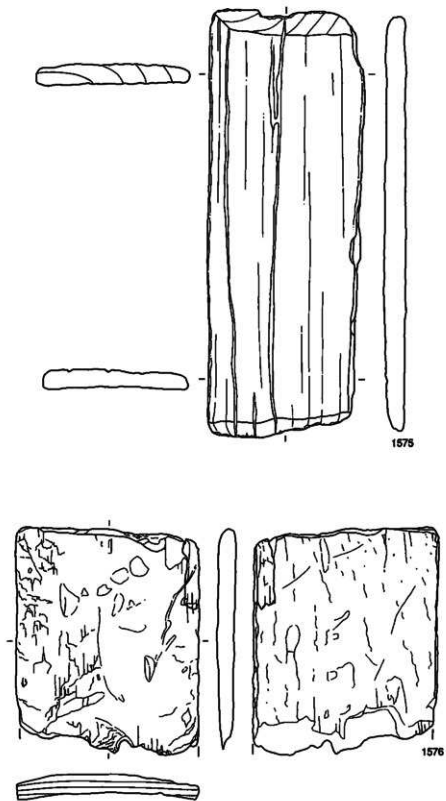
図V-288 板材2



図V-289 板材3

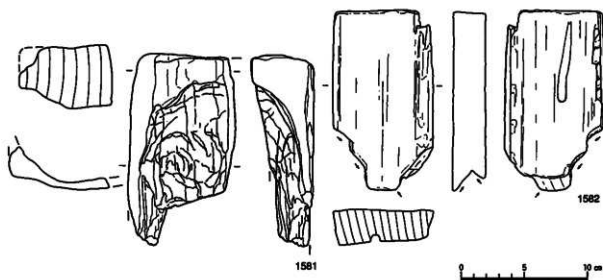
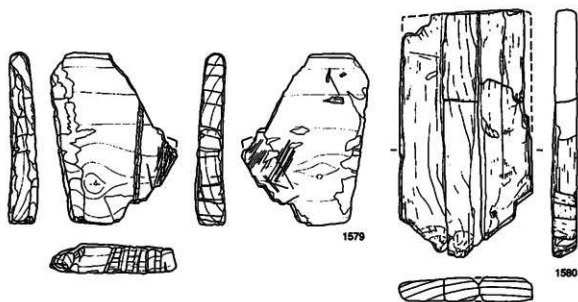
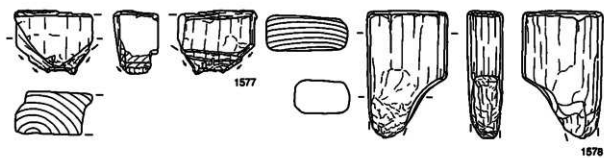


図V-290 板材4

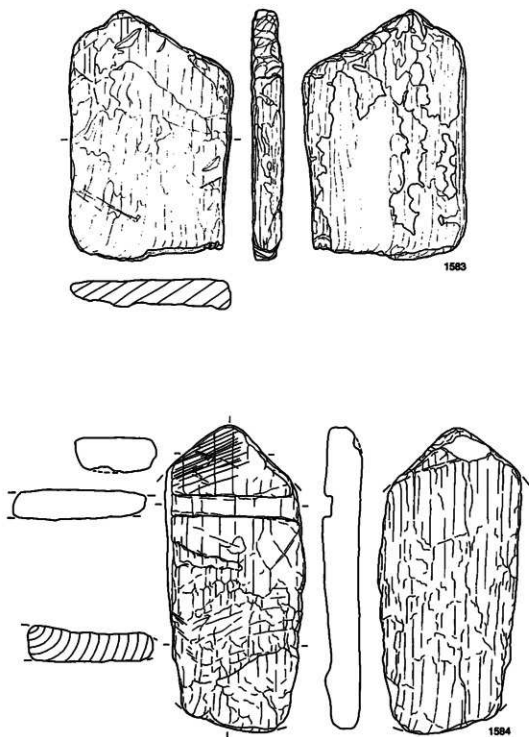


図V-291 板材5

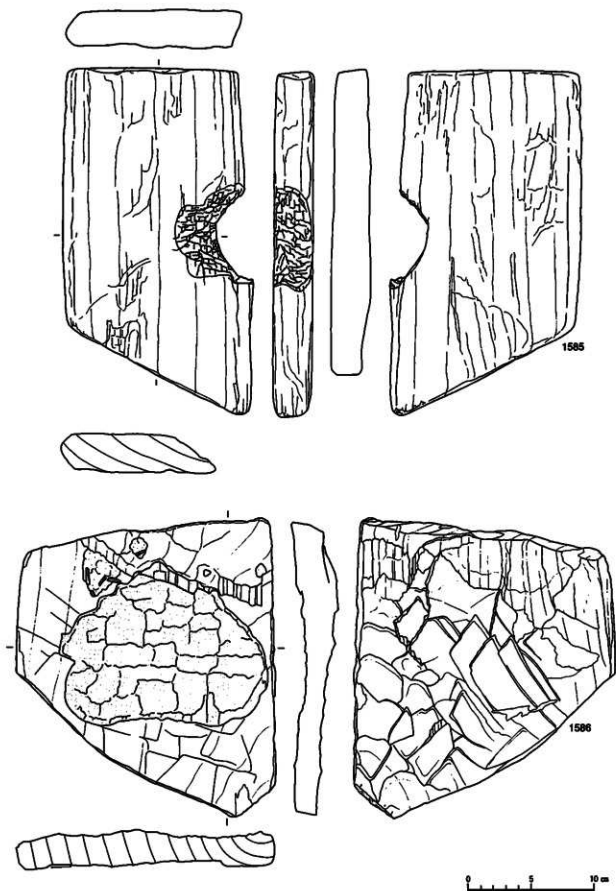




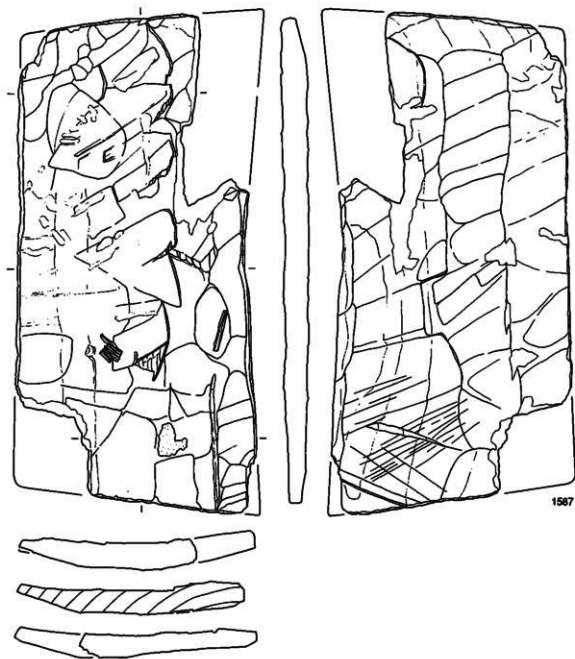
図V-292 板材6



図V-293 板材7

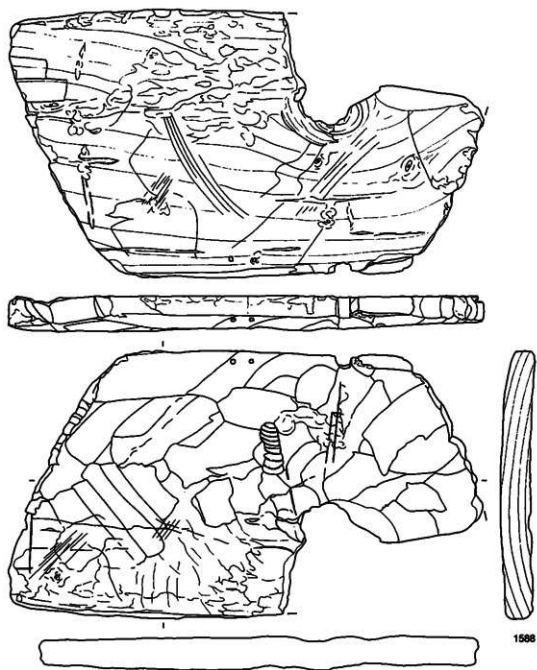


図V-294 板材8

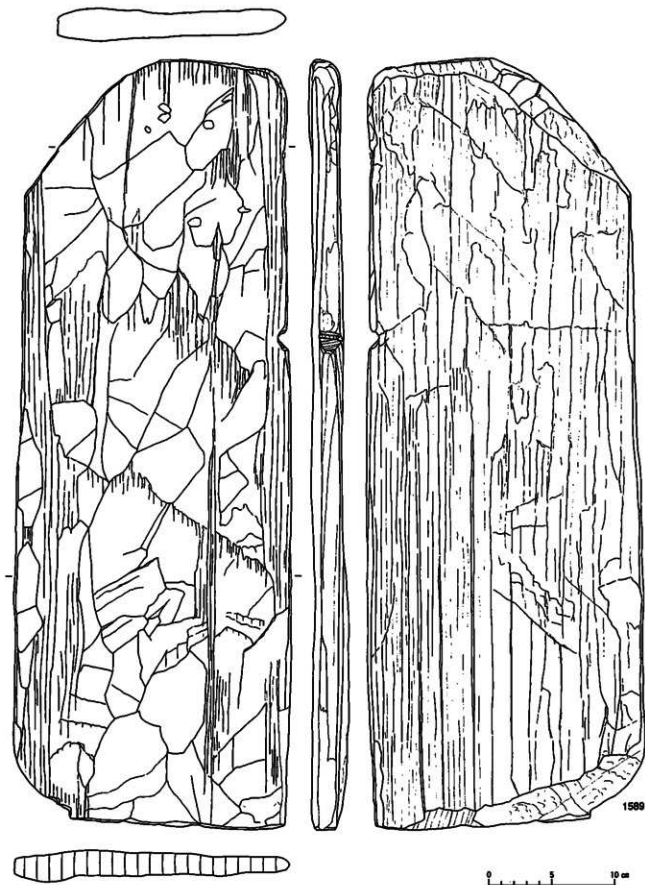


図V-295 板材9

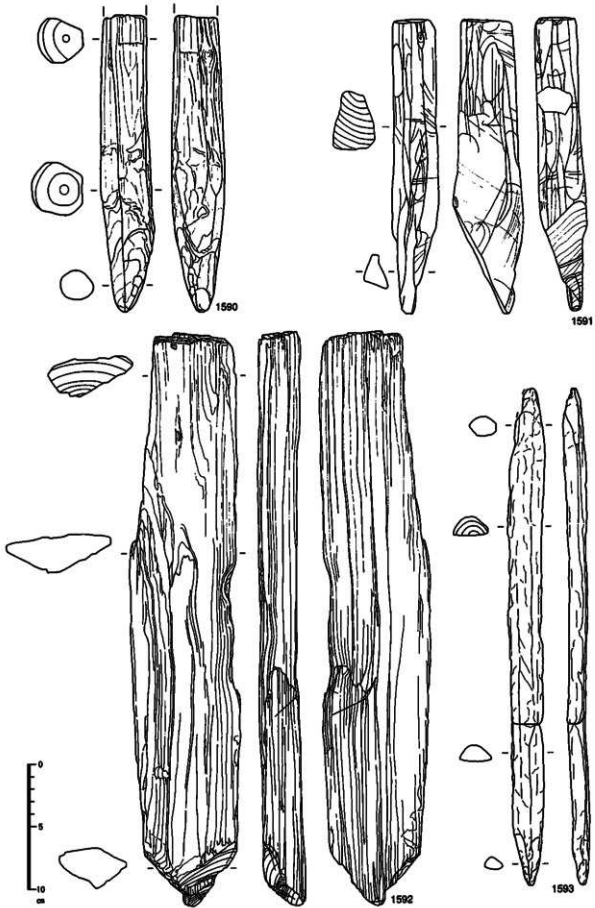




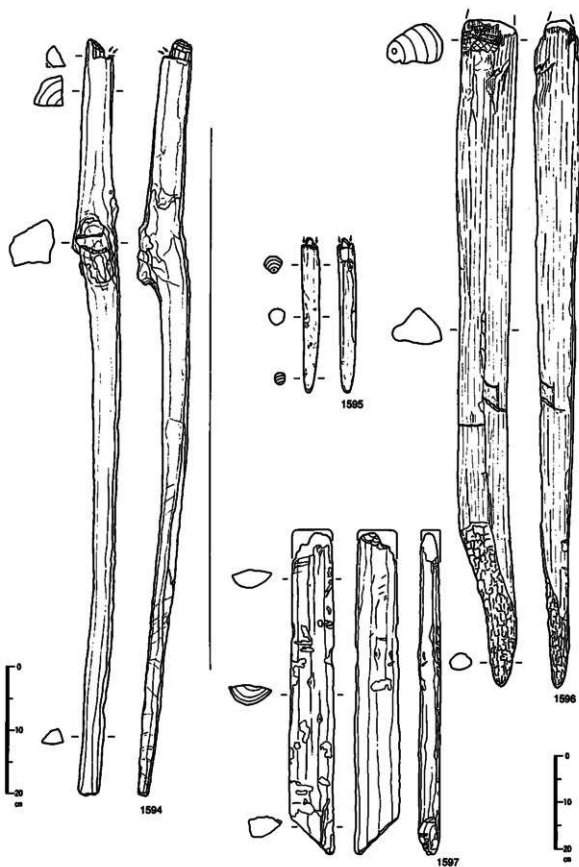
図V-296 板材10



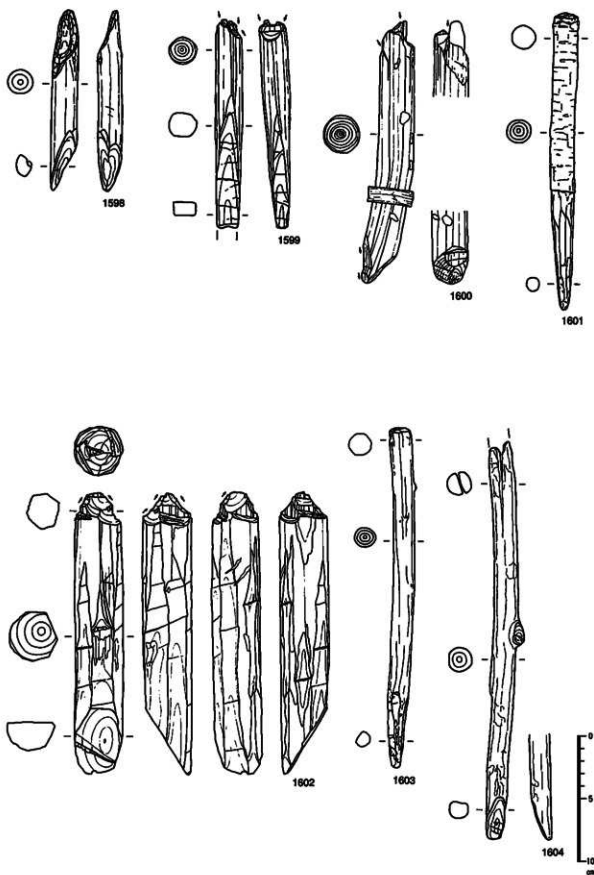
図V-297 板材11



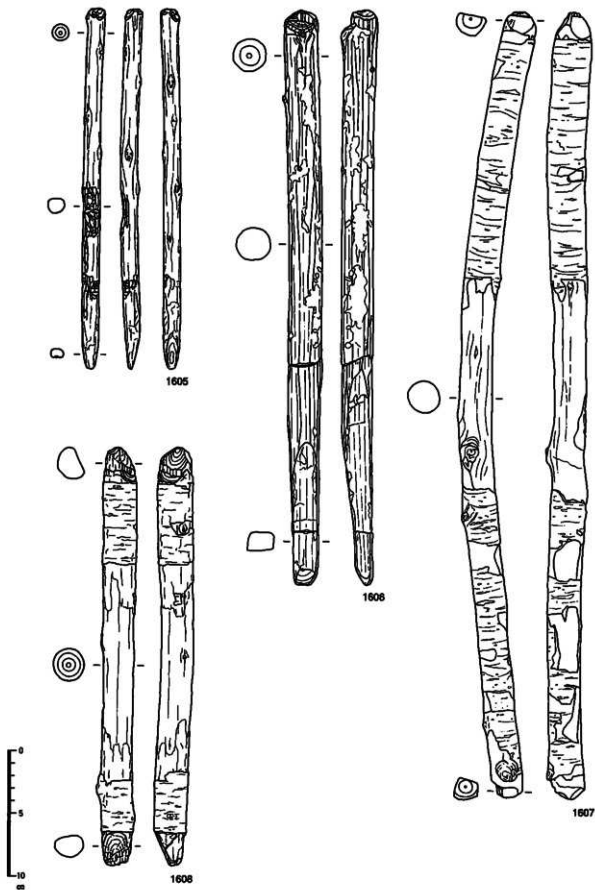
図V-298 角杭状製品・刺杭状製品1



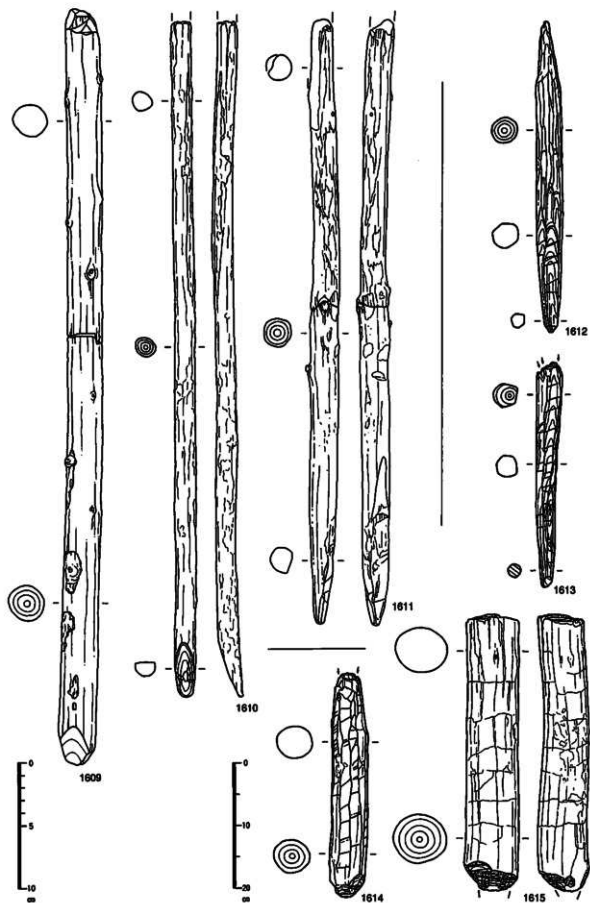
图V-299 角杭状製品・割杭状製品 2



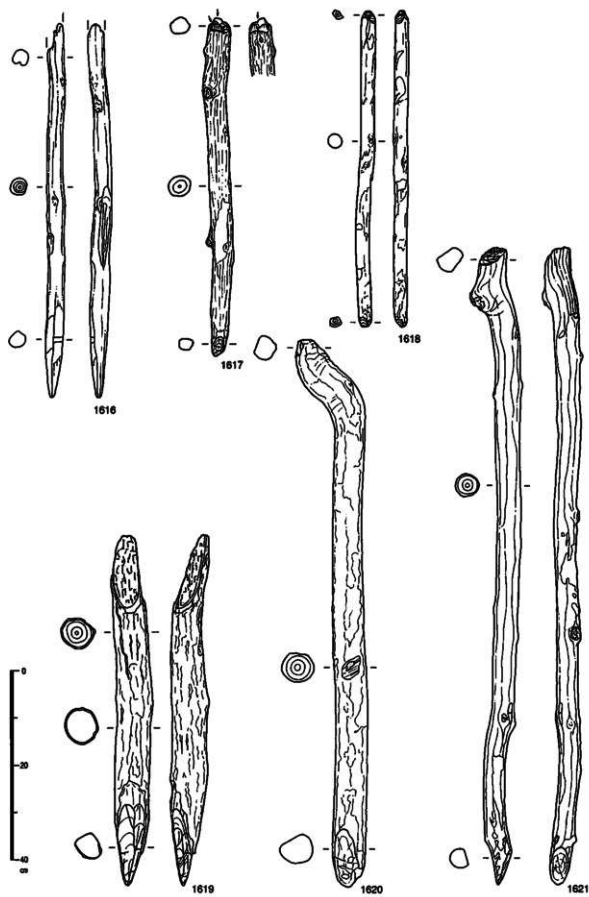
図V-300 丸杖状製品 1



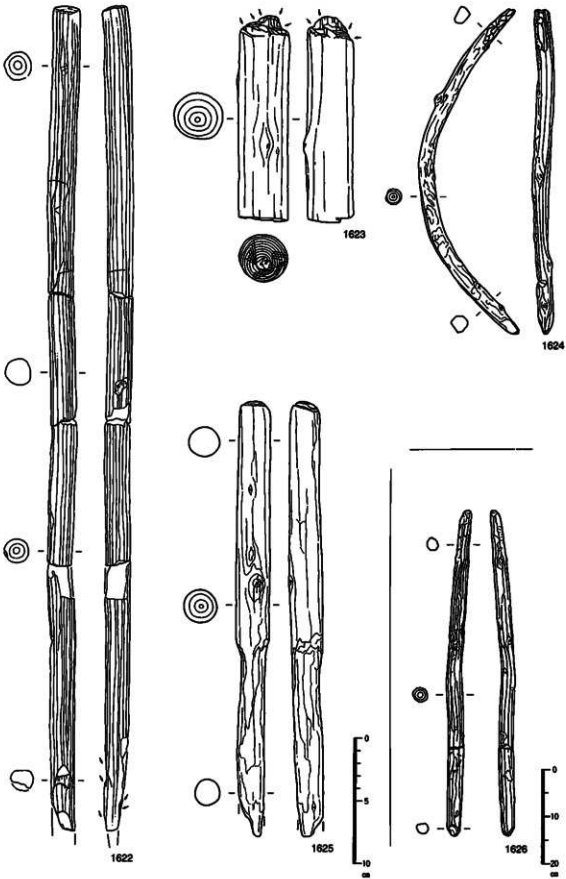
図V-301 丸杭状製品 2



図V-302 丸杭状製品 3

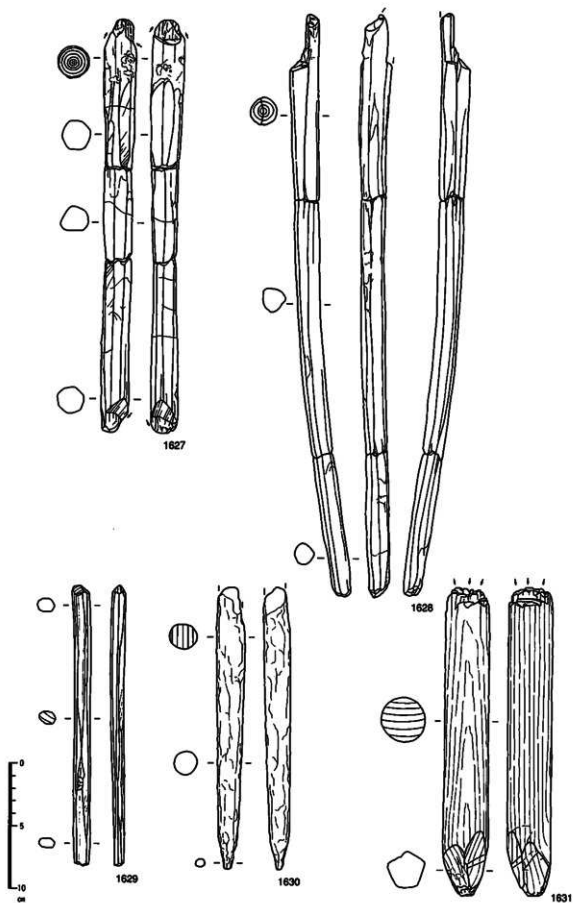


図V-303 丸杭状製品4

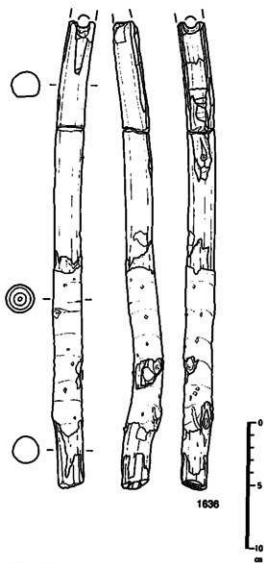
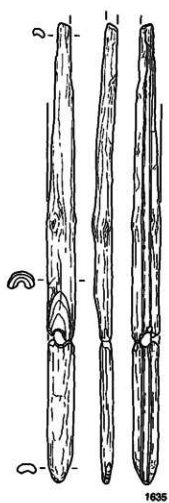
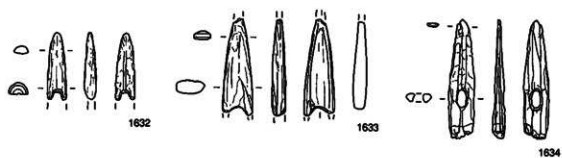


图V-304 丸木材 1

V 第0黒色土層の調査

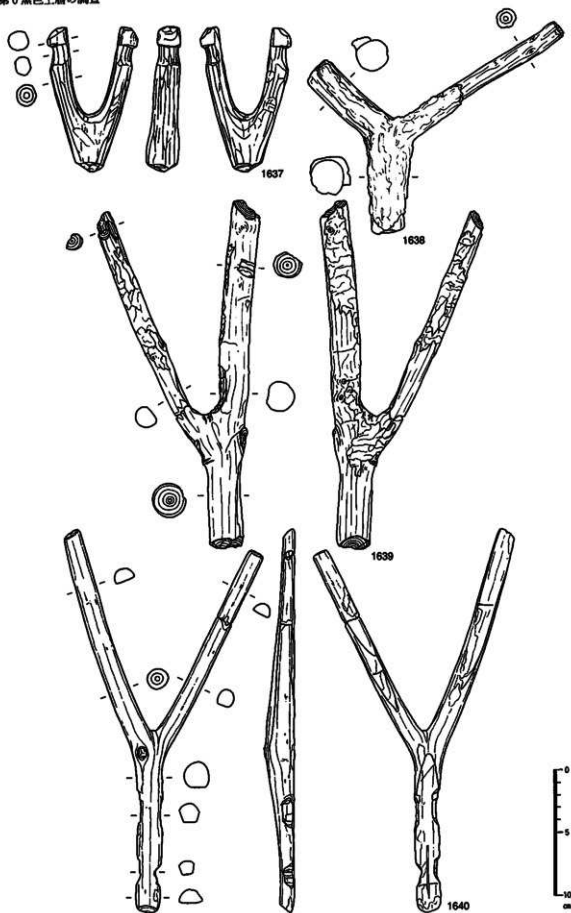


図V-305 丸木材 2 / 丸材

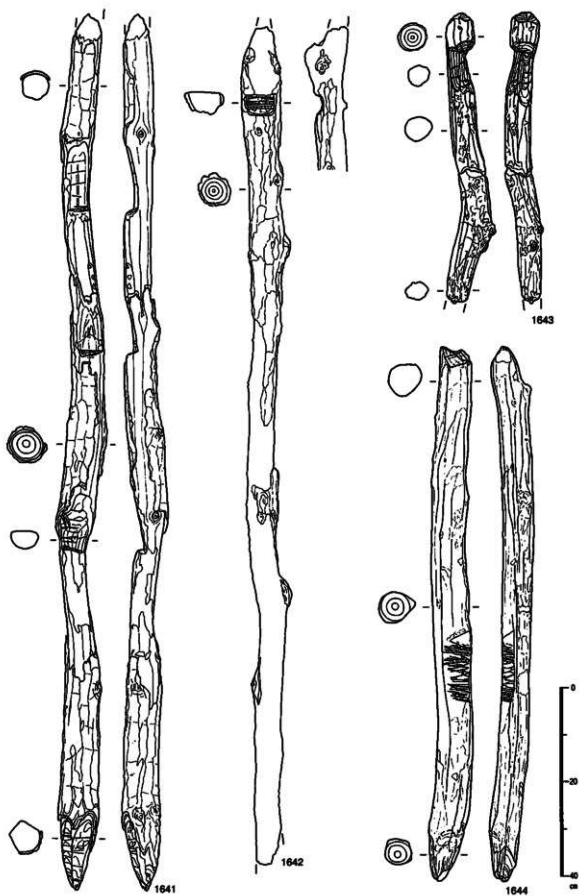


図V-306 屋根礎針

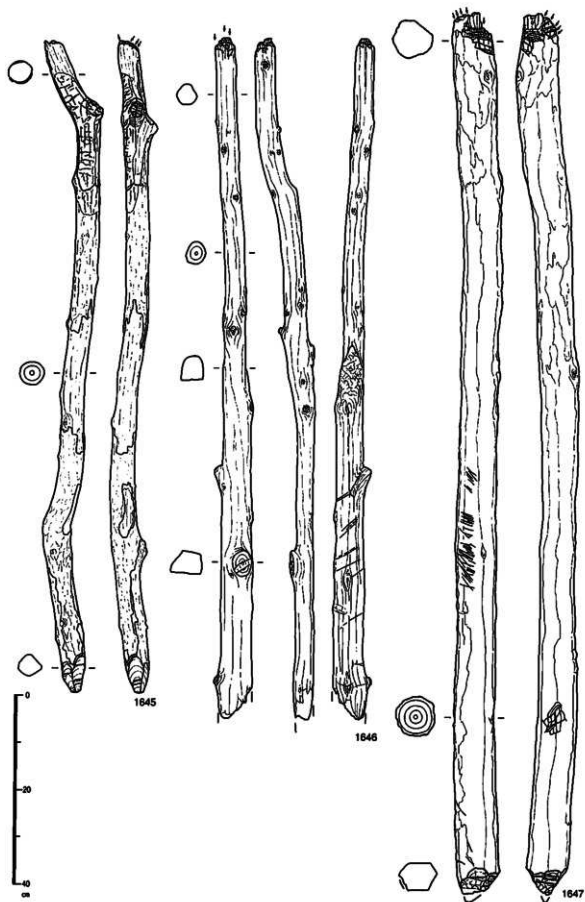
V 第0 黒色土層の調査



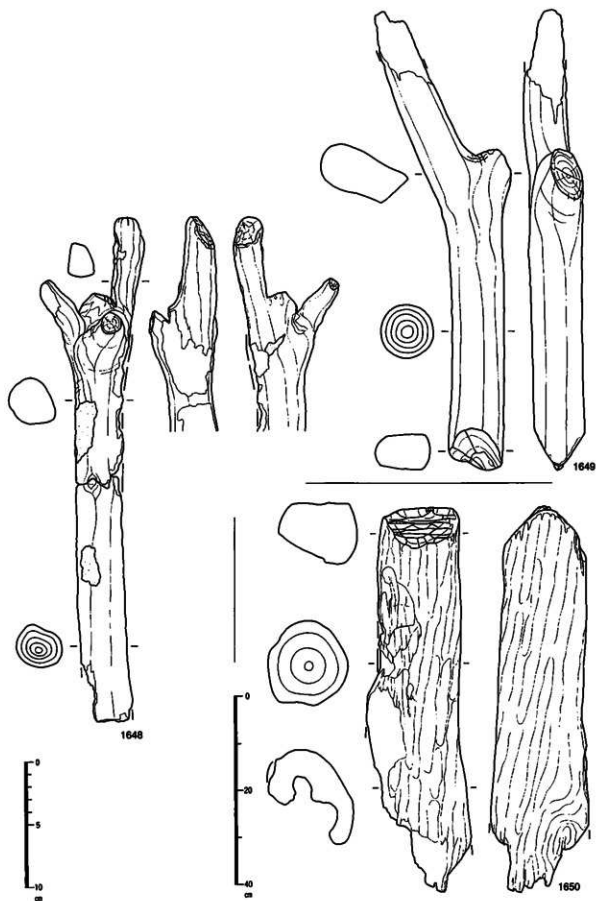
図V-307 建築部材類



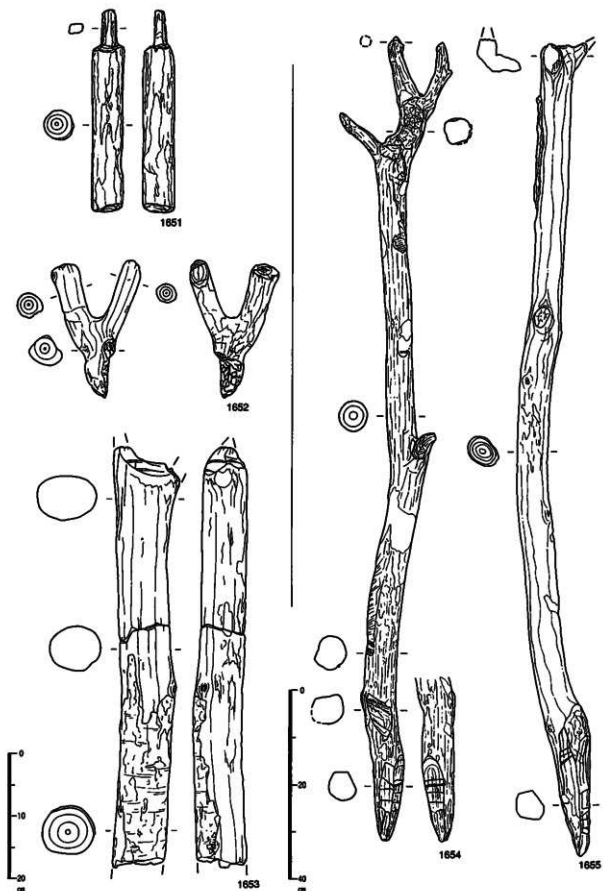
図V-308 建材1 (柱類・桁・梁)



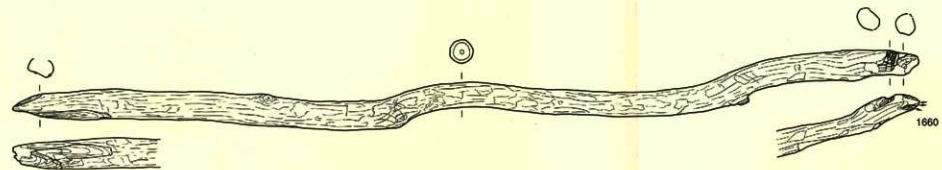
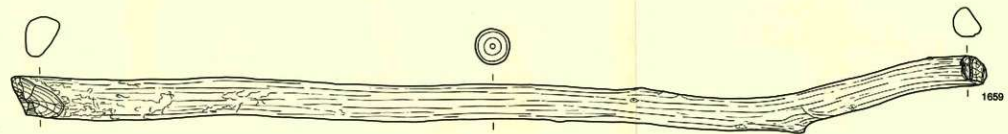
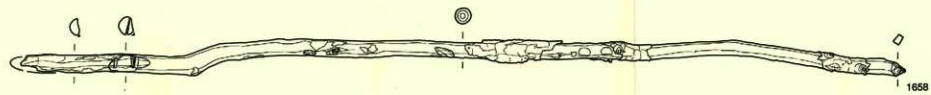
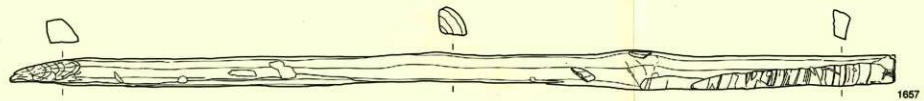
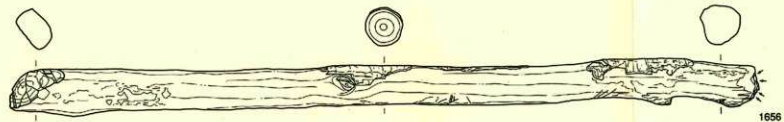
図V-309 建材2 (柱頭・桁・梁)



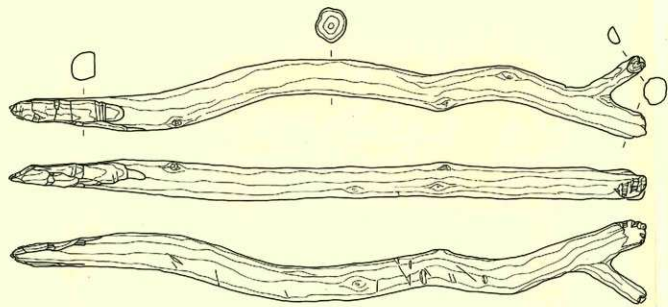
図V-310 建材3 (柱類・桁・梁)



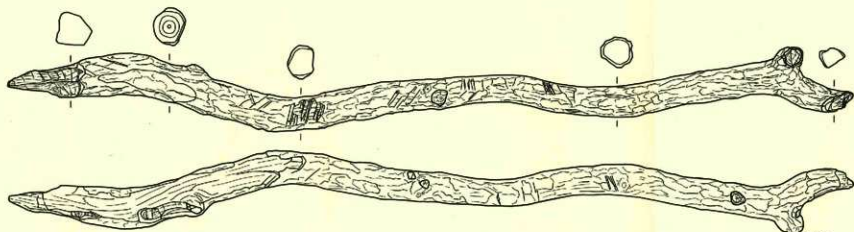
図V-311 建材4 (柱頭・桁・梁)



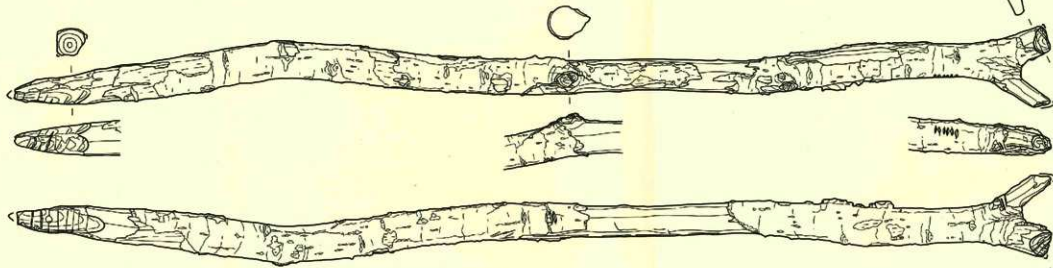
図V-312 建材5 (桁・梁・母屋)



1661



1662



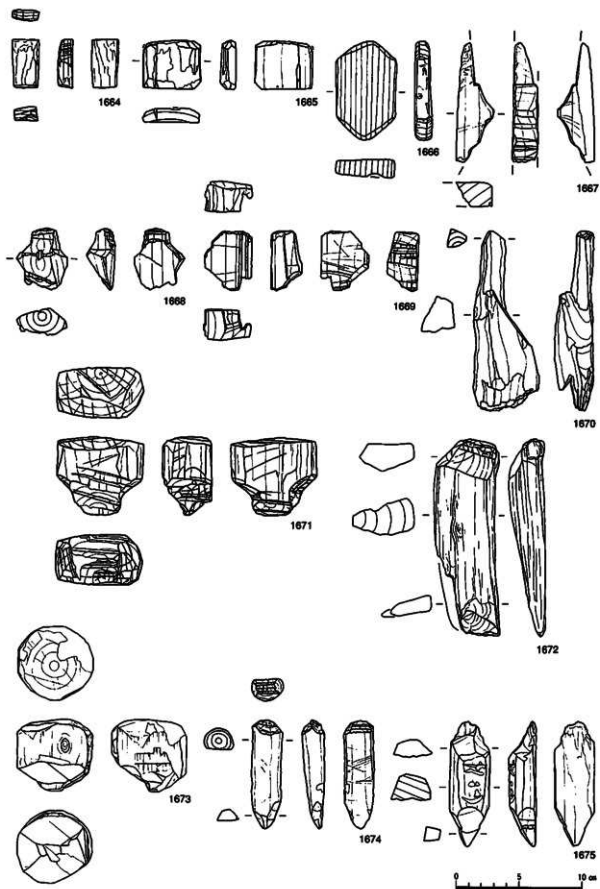
1663



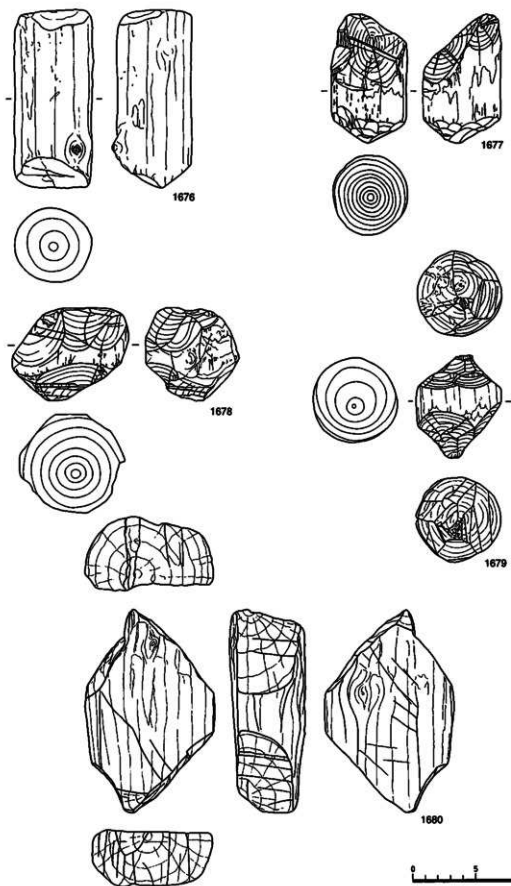
葦原の構造

アミス杖懸壁に加工

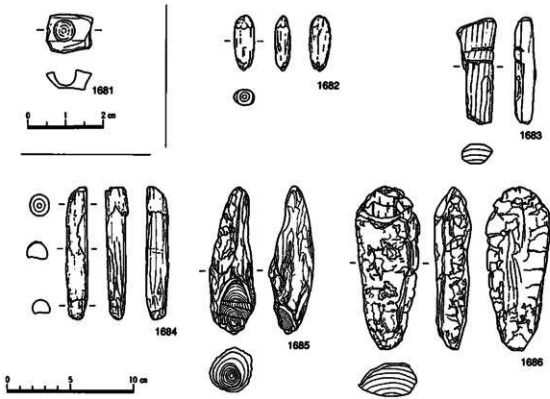
図V-313 建材6 (柱類)



図V-314 木端1

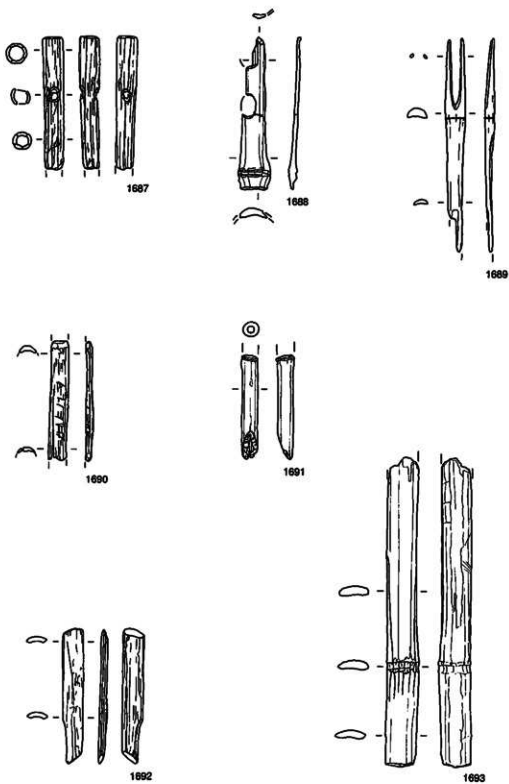


図V-315 木端2



図V-316 炭化材

V 第0黒色土層の調査



0 5 10 cm

図V-317 竹製品

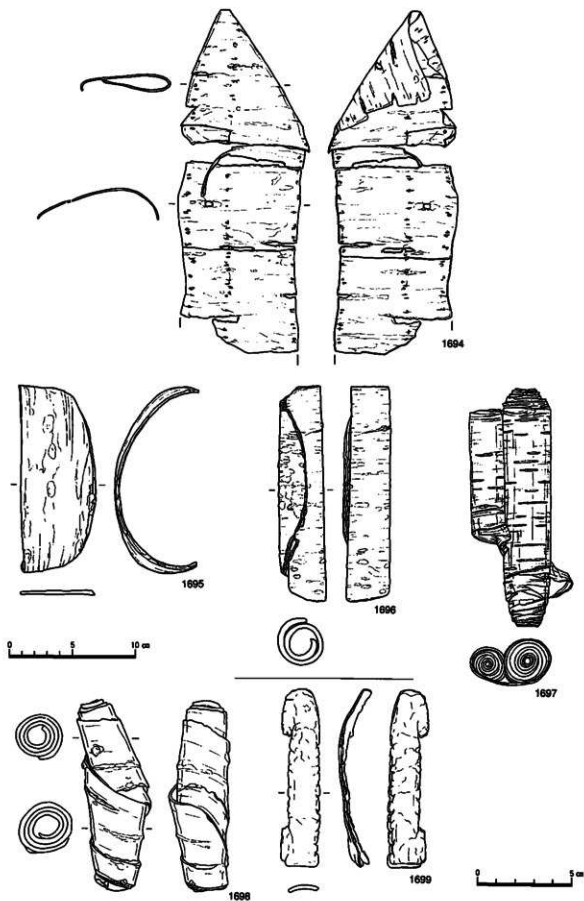
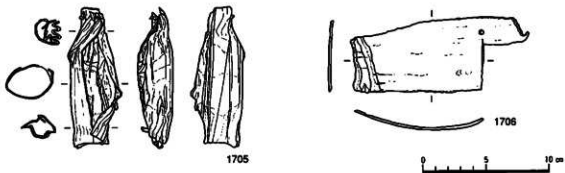
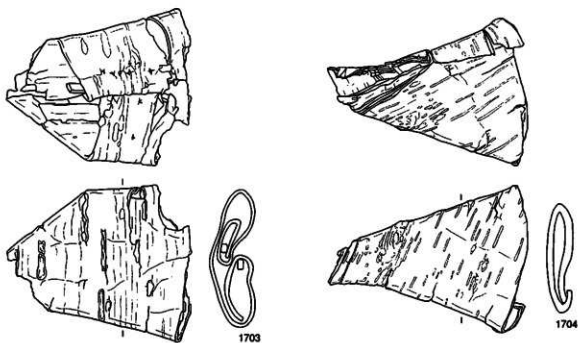
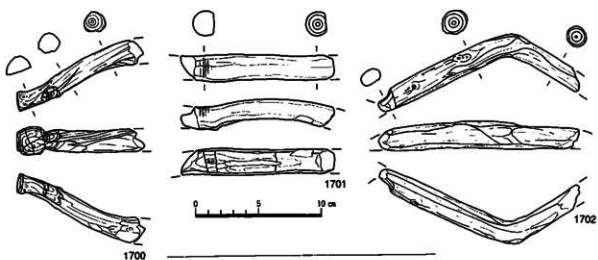
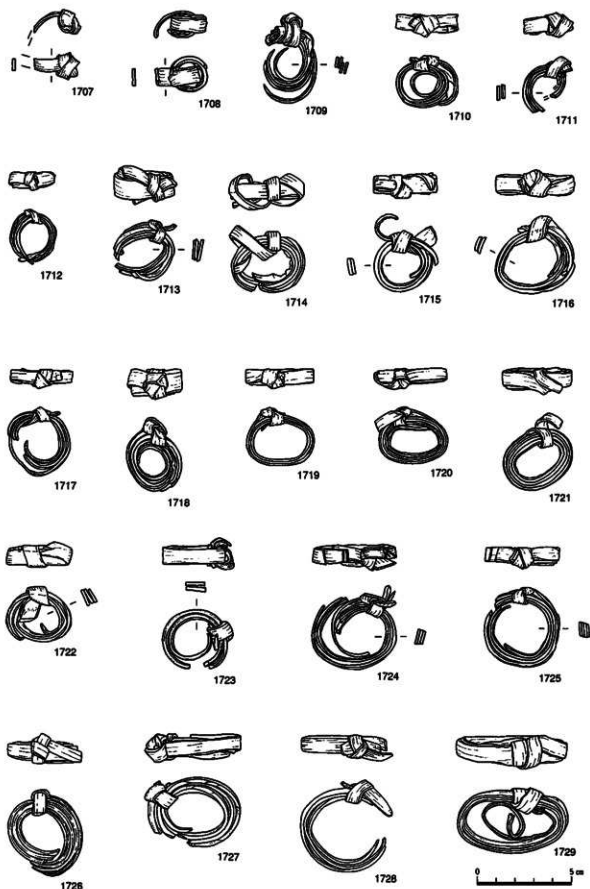


図 V-318 樹皮製品 1

V 第0黒色上層の調査

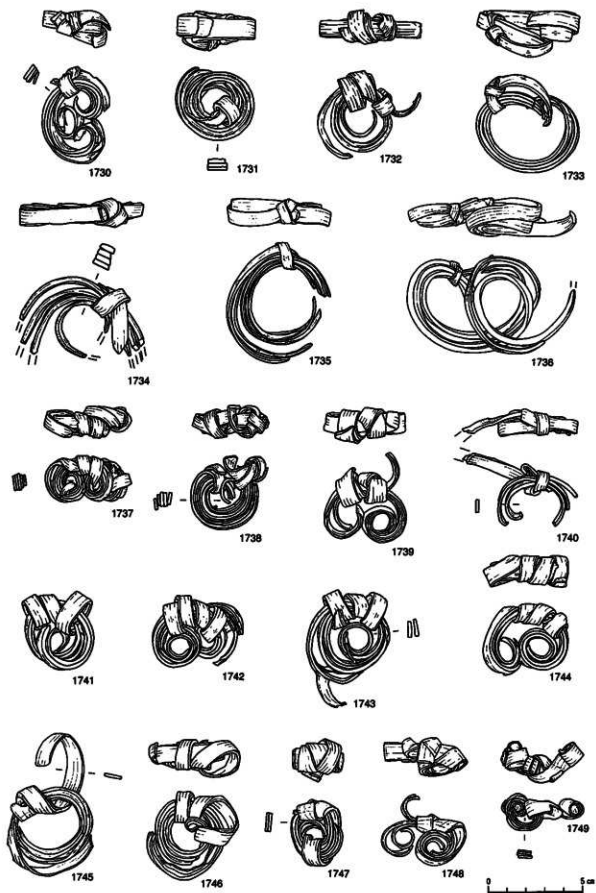


図V-319 樹皮製品2 (樹皮製容器他)

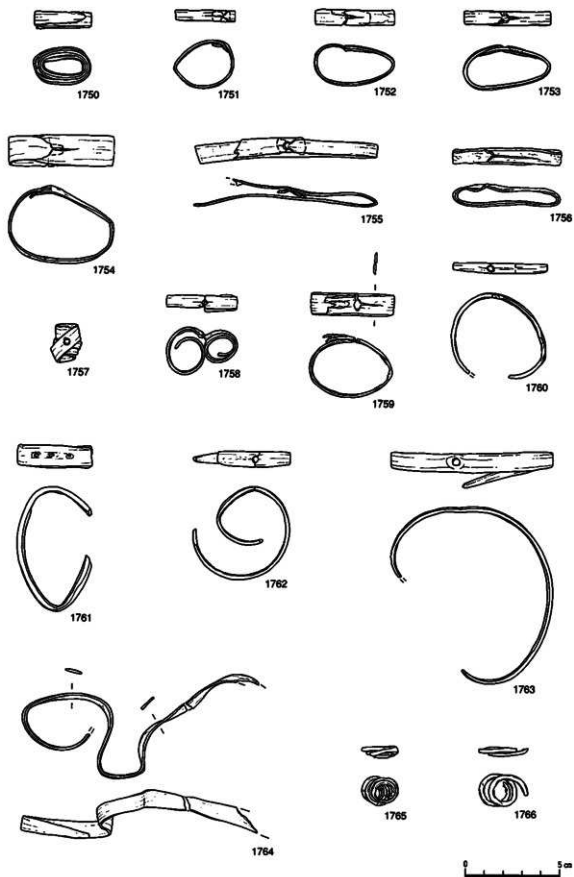


図V-320 樹皮製品3 (結束固定具①)

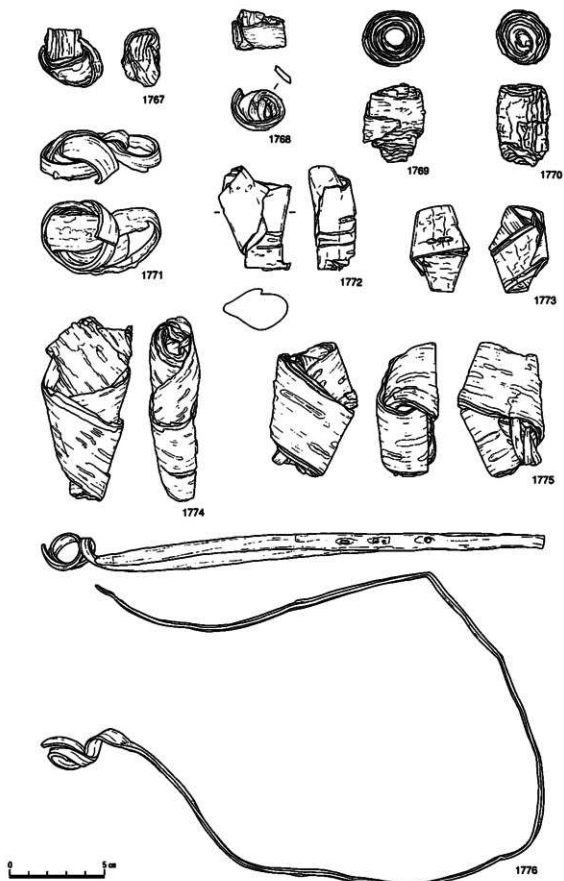
V 第0黑色土層の調査



図V-321 樹皮製品4 (結束固定具②)



図V-322 樹皮製品5 (結束固定具③)



図V-323 樹皮製品6 (結束固定具④)

表V-29 0日層揚載木製品(1)

国産 品番号	産物名称	製法	製造番号	木型/原 産地	樹種	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	葉片 枚数	備考
70	34 繊維製品片	c-67-81-d	2478	楳目	ハリギリ	(34.80) (31.00) (20.20)	(7460.0)	1	22点検合。
71	34 繊維製品片	c-67-51-d	14814	楳目	カアラ	(63.80) (13.10) (12.75)	(1810.0)	1	1枚検、樹行産。
72	35 繊維製品片	c-67-91-a	15681	楳木	カアラ	(28.40) (9.40) (4.80)	(440.0)	1	1枚検。
73	35 繊維製品片	c-66-08-c	1374	道産	カアラ	(22.60) (12.80) 3.20	(487.7)	1	1枚乳ノ製材片。
74	36 繊維製品片	c-66-09-a c-66-09-b c-66-09-c c-67-00-d	14819	楳目	ハリギリ	(366.25) (31.00) 1.85	(2516.0)	1	検合点検合。楳目等樹種に乳孔あり。 検合点検合。計測値は検合後調整後の値。
75	37 繊維製品片	c-66-09-b	623	楳木	カエデ	18.20 15.95 4.50	517.0	1	1「Y」字乳孔製材片。
76	35 繊維製品片	c-66-19-a	5530	平割	ハンノキ?	18.40 (5.15) (3.75)	(164.7)	1	
77	37 繊維製品片	c-66-19-b	1883	楳目	ハリギリ	29.95 9.40 4.90	992.0	1	22点検合。点検?
78	38 繊維製品片	c-66-20-a	1888	平割	ギョウモククワガク? ギョウモククワガク? ギョウモククワガク? ギョウモククワガク?	16.25 6.15 3.30	162.0	1	22点検合(計合中心)。乳孔製材。本製り乳。楳目。
79	38 繊維製品片	c-67-00-b	7865	丸木	コナラ	24.70 7.90 3.90	317.8	1	1中央に肉面有り。
80	39 繊維製品片	c-67-81-c	3999	1/2割	トネリコ	33.58 7.36 (5.40)	(848.0)	1	
81	38 繊維製品片	c-66-09-d c-67-91-a	2812 2591	楳木	カアラ	(23.55) 6.04 4.85	(183.1)	1	33点検合。計測値は検合後調整後の値。
82	39 繊維製品片	c-66-19	15992	楳目	ハンノキ	26.20 (10.20) 5.40	(798.0)	1	22点検合。
83	40 繊維製品片	c-67-91-a	3011	1/2割	コナラ	55.65 7.20 5.50	1310.0	1	1側面製材片外材。
84	44 繊維製品片	c-67-32-d	10274	道産	ハリギリ	28.45 18.10 2.50	699.0	1	33点検合。乳孔製材。
85	41 繊維製品片	c-67-92-b	4431	道産	シナノキ	(26.50) 13.50 2.03	(222.8)	1	111点検合。検合後調整後の値。計測値は検合後調整後の値。
86	41 繊維製品片	c-66-09-c	15551	楳目	カアラ	33.20 14.20 1.85	678.0	1	1乳孔製材。
87	42 繊維製品片	c-67-92-d	4889	道産	クリ	(35.70) (11.90) 2.20	(630.0)	1	1乳孔製材片。
88	42 繊維製品片	c-66-29-d	215	楳目	ハンノキ	23.62 13.30 1.80	(406.3)	1	1乳孔製材片。
89	43 繊維製品片	c-67-00-a	701	楳目	ハンノキ	34.23 14.80 2.00	(783.0)	1	1乳孔製材片。
90	43 繊維製品片	c-67-91-b	4964	楳目	ギョウモククワガク?	(32.80) 2.10 17.70	(856.0)	1	1乳孔製材片。
91	44 繊維製品片	c-67-10-b	12485	楳目	ハリギリ	30.54 8.65 2.00	318.0	1	22点検合。乳孔製材。
92	44 繊維製品片	c-66-09-d	2690	楳目	トネリコ	30.00 (17.00) 2.30	(937.0)	1	1乳孔製材片。乳孔あり。
93	45 繊維製品片	c-66-09-b	1116	楳目	ハリギリ	(31.60) 11.64 2.26	(502.0)	1	1乳孔製材片。

表V-30 0 B層燻染木製品(2)

調査 番号	燻染 品名	採取区	遺物番号	水取り 位置	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	燻 染 材	備考
94	燻染舟状器断片	c-66-39-d	13356	遺底	ハリギリ	32.70 (11.30	1.80 (560.0)	1	有孔燻染材。
95	燻染舟状器断片	c-67-41-a	10007	4E目	ハリギリ	29.80 (10.40	1.90 (343.0)	1	有孔燻染材。
96	燻染舟状器断片	d-67-91-b	5339	4E目	ハンノキ	(34.55) 13.00	1.40 (166.0)	1	31点接合、有孔燻染材、重量は保存処理後の値。
97	燻染舟状器断片	c-66-19-b	2060	4E目	ハリギリ	51.80 20.00	3.90 1957.0	1	有孔燻染材。
98	燻染舟状器断片	c-66-09-c	1957	4E目	ハリギリ	34.80 12.40	1.80 (303.0)	1	3点接合、有孔燻染材。
99	燻染舟状器断片	c-67-00-a	1792	4E目	ハンノキ	(33.10) 8.20	1.80 (352.0)	1	有孔燻染材。
100	燻染舟状器断片	d-66-99-c	2160	4E目	ハリギリ	(32.30) 14.20	1.85 (446.8)	1	有孔燻染材。
101	燻染舟状器断片	d-67-32-b	4431	4E目	○ハリギリ	(31.95) 14.00	2.00 (274.0)	1	7点接合、全体酸化、保存処理済、計測値は保存処理後の値。
102	燻染舟状器断片	d-67-72-c	4431	4E目	ハンノキ	(40.60) 4.80	1.53 (100.4)	1	5点接合、保存処理済、計測値は保存処理後の値。
103	燻染舟状器断片	c-67-02-c	3338	4E目	ハリギリ	(46.40) (9.75)	1.33 (158.3)	1	2点接合、保存処理済、計測値は保存処理後の値。
104	燻染舟状器断片	d-67-92-d	6059	4E目	ハンノキ	(45.50) 7.60	1.50 (311.2)	1	有孔燻染材。
105	燻染舟状器断片	c-67-10-c	15360	4E目	ハリギリ	(43.90) 6.00	1.40 (168.2)	1	2点接合、有孔燻染材。
106	燻染舟状器断片	d-67-72-a d-67-72-d	4512	4E目	ハンノキ	(45.00) 7.10	1.90 (283.4)	1	3点接合、有孔燻染材。
107	燻染舟状器断片	c-66-29-a	1856	4E目	ハリギリ	(31.90) (5.40)	1.95 (216.5)	1	有孔燻染材。
108	燻染舟状器断片	c-66-19-b c-66-09-c	4770	遺底	ハンノキ	(58.30) 9.45	2.30 (405.8)	1	4点接合、有孔燻染材、保存処理済、計測値は保存処理後の値。
109	燻染舟状器断片	c-67-01-c	11998	遺底	○ハンノキ	(90.60) 7.70	1.20 (218.1)	1	18点接合(留開口も含む)、有孔燻染材、燻染層あり、保存処理済、計測値は燻染処理後の値。
110	舟あば	d-66-99-d	2521	4E目	ナツ	28.70 16.20	4.70 109.2	1	2点接合、燻染材入り、燻染層有孔燻染材。
111	舟あば	c-66-29-c	15398	4E目	ハシドイ	(29.70) (15.10)	3.10 (159.6)	1	2点接合、燻染層有孔燻染材。
112	舟あば?	c-66-09-b	1860	4E目	コナラ	75.60 6.30	4.15 820.0	1	2点接合、燻染層有孔燻染材、イトラバ付。
113	舟あば	c-67-10	15112	4E目	ヤナギ	28.60 6.35	2.90 127.3	1	燻染材入り、燻染層有孔燻染材。
114	舟あば	c-66-28-b	14414	4E目	ハンノキ	18.00 4.00	2.90 88.0	1	1ペルト出土。
115	舟あば	c-66-38-b	13746	4E目	トネリコ	30.36 (16.90)	4.92 (604.0)	1	燻染材。
116	舟あば	c-67-00-c	12534	1/4層	コナラ	(24.50) (20.00)	3.00 (329.0)	1	2点接合、燻染材。
117	舟部断片	d-67-91-a	4835	4E目	コナラ 燻: ヴラナ	(60.05) 6.22	2.42 (269.9)	1	3点接合(留と木釘付含む)、燻染材、木釘付丸燻、燻に丸釘。燻。

表V-31 0日開花観木製品(3)

原 産 地	樹種	葉物名称	製法	開花 時期	開花 時期	開花 時期	開花 時期	開花 時期	開花 時期	開花 時期	開花 時期	備考
118	51	半開花白線	c-66-19-c	4233	桜木	コナラ	48.80	17.05	2.90	250.0	1	3.0段接合、技術用式。
119	51	半開花白線	c-67-00-a 4-67-90-d	718	桜木	イチイ	30.40	35.70	3.30	600.0	1	技術用式。
120	52	半開花白線	4-67-91-c	3133	桜木	桜	47.00	17.70	4.00	474.0	1	技術用式。
121	52	半開花白線	c-66-19-d c-66-29-a	14118	桜木	桜	(44.10)	(22.50)	(2.50)	(465.0)	1	1ペル)以上、技術用式。
122	51	半開花白線	4-67-72-a	4485	桜木	スズ	(60.85)	(10.00)	4.40	(600.0)	1	技術用式。
123	52	半開花白線	c-67-00-c	12560	桜木	桜	64.50	(3.70)	3.20	(600.0)	1	技術用式。
124	53	半開花白線	c-66-28-b	14600	桜木	トウヒ	(56.80)	17.93	3.82	(776.0)	1	技術用式。
125	53	半開花白線	c-66-00-c	333	桜木	モクレン 樹:カワラ	62.10	5.60	(6.40)	(560.0)	1	3.0段中2段接合(樹片含む)、丸軸造式、樹片入。
126	53	半開花白線	c-66-28-c c-66-29-d	284	桜木	モクレン	(62.40)	5.90	2.70	(460.0)	1	丸軸造式。
127	54	半開花白線	c-66-28-c c-66-29-d	283	桜木	スズ	72.20	7.00	3.30	(620.0)	1	丸軸造式。
128	54	半開花白線	c-66-28-b	1224	油桐	サアラ	55.80	4.80	3.10	540.0	1	丸軸造式。
129	54	半開花白線	c-66-27-c	15012	桜木	ヒノキアスター?	(36.60)	5.60	(2.80)	(207.2)	1	10中下部接合、保仔処理後乾燥、計開花は保存処理後の状。
130	54	半開花白線	c-67-10-a	7972	桜木	ハンノキ	(23.50)	(5.47)	(3.70)	(176.1)	1	2.0段接合、丸軸造式。
131	54	半開花白線	4-66-99-c	2624	桜木	コナラ	(27.00)	(3.20)	(2.65)	(176.0)	1	丸軸造式。
132	54	半開花白線	c-66-09-c	1916	桜木	トネリコ	(12.70)	(4.10)	(2.75)	(71.6)	1	丸軸造式。
133	-	半開花白線	c-66-09-c	627	桜木	モクレン	(11.10)	(4.40)	(2.20)	(63.2)	1	丸軸造式。
134	55	半開花白線	4-67-02-d 4-67-02-a	4871	桜木	モクレン 樹:カエデ 樹:スズ	70.55	6.30	6.10	(725.0)	1	7.0段接合(樹片と樹皮心)、丸軸造式、樹片付、樹片入、樹片に覆入。 切開あり、木質の発白部:葉目、大葉:葉目、葉:葉。
135	54	半開花白線	4-67-91-a 4-67-91-c	5245	桜木	ヒノキアスター と樹皮ノキアスター ノキアスター	(32.70)	(11.90)	5.20	(310.0)	1	3.0段接合(樹片と樹皮心)、丸軸造式、樹片入、樹片に覆入。 木質の発白:葉目、大葉:葉目。
136	54	半開花白線	c-67-10-b	12579	桜木	クリ	(31.20)	5.30	2.65	(154.9)	1	丸軸造式。
137	54	半開花白線	c-67-10-b	15348	桜木	モクレン	(47.60)	(5.10)	3.50	(348.8)	1	丸軸造式。
138	55	半開花白線	4-67-91-c	5358	丸木	桜	(36.40)	(3.88)	(3.32)	(270.0)	1	
139	56	半開花白線?	c-66-18-b	1565	桜木	ハンノキ	(34.60)	4.40	2.80	(228.1)	1	3.0段接合、ノキアスターの樹片付。
140	56	半開花白線	c-66-19-d	2383	桜木	サアラ	(35.10)	(5.60)	(2.60)	(232.0)	1	1アイロン文付。
141	56	半開花白線	c-66-19-b	2633	桜木	ハンノキ	(16.80)	(3.15)	2.85	(91.9)	1	1イロン文付。

表V-32 0 B層埋蔵木製品(4)

調査 番号	埋蔵 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	水取り 処理	材質	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	画像 番号	備考
142	56	半磨突台部片	c-66-10-c	1461	埋	○	モクレン	(17.00) (3.10) 2.50	(81.9)	1	イトラバ付。
143	55	半磨突台部切部品	c-67-00-a	6451	埋		ハンノキ	9.40 2.70 2.00	31.0	1	
144	55	半磨突台部切部品片	d-67-91-a	5028	埋		タネミ	(10.60) 3.15 (1.90) (29.6)	(29.6)	1	
145	55	半磨突台部片	c-66-10-d	2438	埋		サマ	(12.90) 3.45 2.10	(64.0)	1	
146	55	半磨突台部片	c-67-11-d	10632	埋		サエテ	(12.40) (3.75) (2.50)	(73.3)	1	
147	55	半磨突台部片	c-67-11-d	10754	埋		サエテ	(11.20) 3.05 2.50	(45.1)	1	
148	55	半磨突台部切部品	c-67-00-a	719	埋		ハンノキ	11.70 3.00 3.80	(87.2)	1	
149	55	半磨突台部切部品片	d-66-99-d	2549	埋		サミ	(12.65) 4.40 3.00	(107.3)	1	
150	55	半磨突台部切部品	d-67-81-c d-67-81-d	3271	埋		モクレン	23.70 4.10 2.75	199.0	1	2点接合。
151	55	半磨突台部切部品片	c-67-10-b	12490	埋		ハンノキ	(22.30) 3.23 2.80	(106.4)	1	
152	55	半磨突台部切部品	c-66-09-b	863	埋		ハンノキ	15.60 3.80 3.30	120.2	1	
153	55	半磨突台部片	c-66-38-a	13725	埋		ハリギリ	(18.13) (6.18) (2.84)	(179.6)	1	3点接合。
154	56	半磨突台部切部品	c-67-10-a c-67-10-b	8952	埋		モクレン(コブシ)	28.80 6.40 2.75	308.1	1	1点接合品式。
155	56	半磨突台部切部品片	c-66-09-b	1933	埋		モクレン	(26.20) 3.20 6.10	(279.2)	1	
156	57	半磨突台部軸	c-66-09-c	404	埋		サエテ	15.10 1.90 1.90	30.0	1	1点接合品式。
157	57	半磨突台部軸	c-67-10-b	15152	埋		サエテ	16.60 1.90 2.05	28.7	1	1点接合品式。
158	57	半磨突台部軸	c-66-28-b	1231	平測		アジウイ	19.70 2.62 2.15	62.0	1	1点接合品式。
159	57	半磨突台部軸	c-66-09-c	743	埋		サエテ	20.00 2.70 2.70	66.5	1	1点接合品式。
160	57	半磨突台部軸	d-67-91-c	5004	埋	○	サエテ	23.70 3.10 3.08	77.9	1	1点接合品式。
161	57	半磨突台部軸	c-67-10-b	8935	1/2割		アジウイ	23.80 2.40 1.80	54.6	1	1点接合品式。
162	57	半磨突台部軸	c-66-09-c	1113	丸木		サマ	22.94 2.58 3.04	74.0	1	1点接合品式。
163	57	半磨突台部軸	c-66-09-b	375	丸木		サエテ	23.40 2.20 2.20	48.0	1	1点接合品式。
164	57	半磨突台部軸	c-66-10-b	2083	丸木		トネリコ?	23.40 2.15 2.10	59.7	1	5点接合。1点接合品式。
165	57	半磨突台部軸	c-66-09-d	2492	埋		サエテ	24.40 2.50 2.20	55.7	1	1点接合品式。

表V-33 0日層綿織木製品(5)

品 番	品名	産物名称	製法	製法 番号	製法 記号	製法 説明	製法 備考	製法 備考	製法 備考	製法 備考	製法 備考	製法 備考
166	57	厚層受口部織	c-66-19-b	3827	丸木	キハダ?	25.90	2.02	2.78	87.0	1	丸層織式。
167	58	厚層受口部織	c-66-19-b	3828	丸木	ウルシ	31.00	2.90	3.05	118.0	1	丸層織式。
168	58	厚層受口部織	c-66-09-c	179	丸木	モクレン	31.50	3.10	3.10	131.0	1	丸層織式。
169	58	厚層受口部織	c-66-09-b	243	丸木	ヤナギ	24.20	2.30	2.30	5.2	1	2点接合、丸層織式。
170	58	厚層受口部織	c-66-29-b	14419	丸木	ニガキ	(19.90)	2.00	1.92	(38.0)	1	2点接合、丸層織式。
171	58	厚層受口部織	c-66-29-a	14001	板紙	カエデ	(7.50)	2.32	2.20	(25.2)	1	丸層織式。
172	58	厚層受口部織	c-66-29-b	15392	丸木	ニガキ?	(24.10)	2.50	2.25	(45.3)	1	丸層織式。
173	58	厚層受口部織	c-67-10-b	13311	丸木	ヤナギ	(12.00)	2.30	2.40	(45.0)	1	丸層織式。
174	58	厚層受口部織	d-67-01-b	5857	板紙	サクラ	(8.70)	3.10	2.80	(48.1)	1	丸層織式。
175	58	厚層受口部織	d-67-01-a	5823	丸木	トネリコ	(7.75)	2.80	2.55	(37.2)	1	丸層織式。
176	58	厚層受口部織	c-66-19-a	5511	板紙	カエデ	(8.60)	2.25	2.10	(31.0)	1	多角部織式。
177	58	厚層受口部織	c-66-29-c	516	板紙	不渡	(7.70)	2.90	2.41	(32.0)	1	丸層織式。
178	58	厚層受口部織	d-66-09-c	2218	丸木	トネリコ	(12.90)	2.35	2.28	(42.1)	1	丸層織式。
179	-	厚層受口部織	c-67-00-c	9778	板紙	タテ	(12.80)	2.50	2.30	(42.2)	1	丸層織式。
180	58	厚層受口部織	c-66-29-a	15465	丸木	トネリコ	(13.45)	2.25	2.15	(34.1)	1	丸層織式。
181	-	厚層受口部織	d-66-09-c	2016	丸木	トネリコ	(9.66)	2.32	2.30	(32.4)	1	丸層織式。
182	58	厚層受口部織	c-66-19-c	3074	板紙	カエデ	16.96	2.70	2.59	78.9	1	2点接合、丸層織式。
183	58	厚層受口部織	d-67-01-a	5175	板紙	カエデ	(13.30)	3.00	3.10	(73.4)	1	丸層織式。
184	59	厚層受口部織	c-66-09	15027	丸木	ヤナギ	24.50	2.40	2.05	60.7	1	丸層織式。
185	59	厚層受口部織	c-66-18-c c-66-18-d	820	板紙	カエデ	(25.90)	2.50	2.70	(74.0)	1	2点接合、丸層織式。
186	59	厚層受口部織	c-66-19-b	15461	1/4層	サニゲルミ	28.00	2.70	2.25	88.2	1	6点接合、丸層織式。
187	59	厚層受口部織	c-66-18-a	15485	丸木	サニ	(27.80)	2.20	2.40	(84.9)	1	丸層織式。
188	59	厚層受口部織	c-66-19-a	2614	板紙	カエデ カエデ カエデ	26.00	3.05	2.45	84.0	1	2点接合(側含む)、丸層織式、側入、水取り織、直経、横径、横目。
189	59	厚層受口部織	c-66-18-d	665	板紙	カエデ	(19.60)	2.80	1.50	(40.0)	1	2点接合、丸層織式、側入。

V 第0黒色土層の調査

表V-34 0 B層掘削木製品(6)

調査 番号	遺物名称	探照区	遺物番号(木取り 位置)	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	画像 番号	備考
180	扉型木片	c-66-09-b	15022	タワ	29.80 2.40 1.90	77.6	1	1角線並込式、貫孔1箇所。
191	扉型木片	c-67-00-d	7952	トネリコ	(29.60) 2.80 2.40	(82.7)	1	2点線合(貫孔並込式)、貫孔1箇所。
192	扉型木片	c-66-09-b c-66-09-c	861	コナラ	27.40 3.70 2.15	101.8	1	1角線並込式、貫孔1箇所。
193	扉型木片	c-66-09-b	2175	コナラ	28.90 3.50 2.20	119.0	1	1角線並込式、貫孔1箇所。
194	扉型木片	c-66-29-a	1866	タワ	11.45 3.35 1.80	34.7	1	1角線並込式、貫孔1箇所。
195	扉型木片	c-67-00-a	1921	カエデ	(12.80) 3.22 2.38	(48.9)	1	2点線合(貫孔並込式)、貫孔1箇所。木取り目：縦径。
196	扉型木片	c-66-34-b	13421	カエデ 目：カエデ	(7.07) 5.42 (2.46)	(55.0)	1	2点線合(貫孔並込式)、貫孔1箇所。
197	扉型木片	c-66-19-b	4650	カエデ	(8.40) 4.10 1.90	(31.2)	1	2点線合(貫孔並込式)、貫孔1箇所。
198	扉型木片	c-66-28-a	842	カエデ	(8.10) 3.65 (1.75)	(28.7)	1	1角線並込式、貫孔1箇所。
199	扉型木片	c-67-01-a	3319	カエデ	(11.45) (2.40)	(28.3)	1	1角線並込式。
200	扉型木片	c-67-10-c	15148	カエデ	(17.30) 3.30 2.40	(62.4)	1	1角線並込式。
201	扉型木片	c-67-10-b	15155	カエデ 目：クワ?	18.50 2.45 2.00	48.5	1	2点線合(貫孔並込式)、貫孔1箇所。
202	扉型木片	c-66-19-b	4663	アジサイ	(15.80) 1.70 1.50	(24.4)	1	
203	扉型木片	c-66-19-a	5542	モミ	(13.00) 1.80 1.80	(31.1)	1	
204	扉型木片	d-67-91-c	5310	カエデ	(16.20) 1.90 2.00	(37.8)	1	
205	扉型木片	d-67-92-d	4932	ハンノキ	(36.40) 6.80 (3.10)	(406.0)	1	1孔式。
206	扉型木片	c-67-30-b	10187	モモ	(41.10) 8.88 (4.50)	(884.0)	1	95点中点線並込式、1孔式、イトラナ付。
207	扉型木片	c-67-00-d	7958	トネリコ	(32.75) (8.30) (3.20)	(360.0)	1	1孔式。
208	扉型木片	c-67-01-a	3538	モモ	(89.10) (6.70) (3.70)	(790.0)	1	1孔式。
209	扉型木片	c-66-29-d	211	モモ	(47.75) (9.90) 3.50	(610.0)	1	4点線合、1孔式、孔径2.50cm×幅3.70cm。
210	扉型木片	c-67-10-b c-67-10-c	8575	カエデ	(40.80) 8.20 (3.80)	(722.0)	1	1孔式。
211	扉型木片	c-67-00-c	12569	モモ	(51.50) (8.70) (3.60)	(678.0)	1	2点線合、孔1箇所。
212	扉型木片	c-66-19-d	2981	モモ	(19.90) (7.20) (3.30)	(224.0)	1	2点線合、孔1箇所。
213	扉型木片	c-66-19-d	4745	モモ	(14.30) (7.50) (2.70)	(154.0)	1	77点中点線合(貫孔並込式)。

表V-35 0 B層織木製品(7)

品名 (品目番号)	塗物名称	製造年度	製造時期	製造番号	木製り度	材質	規格	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	厚さ (mm)	備考
214 62	単層材断片	c-67-10-d	9649	年月		サツラ		(76.00) 5.90 4.00 (1000.0)	1	1	1孔あり。
215 -	単層材断片?	c-66-20-b	1413	年月		モクレン		(37.70) (3.60) (3.23) (200.0)	1	1	1孔あり。
216 62	単層材断片	c-66-09-d	1183	年月		ヒノキ?ツナギ?		(18.90) (1.90) 3.20 (54.0)	1	1	
217 62	単層材断片断片	d-66-09-c	2219	年月		ヒノキ?ツナギ?ネズコ?		15.45 2.70 2.98 70.7	1	1	
218 62	単層材断片	c-66-09-c	365	年月		サツラ		(20.90) 3.02 1.15 (36.0)	1	1	
219 62	単層材断片断片	c-66-19-a	4739	年月		カハダ		21.90 3.50 1.30 71.6	1	1	
220 62	単層材断片	c-66-19-a	3904	年月		シナノキ		(30.80) 4.20 1.50 (96.5)	1	1	35点集合。
221 62	単層材断片	c-67-10-a	9660	年月		カハダ		(71.90) 4.00 2.20 (300.0)	1	1	
222 62	単層材断片	d-67-01-a d-67-01-b	5274	丸木		サツラ		(132.50) 4.40 3.40 (1020.0)	1	1	
223 62	単層材断片	c-67-32-d	10320	年月		ハンノキ		(59.90) 5.10 2.00 (369.0)	1	1	35点集合。
224 62	単層材断片断片	c-66-19-c	990	年月		サツラ		(11.40) (4.60) 2.55 (66.7)	1	1	
225 62	単層材断片断片	d-67-72-d	4434	連続		ヒノキ?ツナギ?		18.60 4.10 2.50 114.2	1	1	
226 65	単層材断片	d-67-72-c	4433	連続		サツラ		(72.85) 4.50 3.20 (455.0)	1	1	土製練?
227 65	単層材断片断片	c-67-40-b	10585	年月		ネニグルミ		(34.40) (6.30) 2.60 (255.0)	1	1	107点集合。
228 65	単層材断片	c-67-02-c	3344	連続		ハンノキ		(40.50) 3.19 2.40 (204.0)	1	1	
229 65	単層材断片断片	c-66-09-b	15029	年月		モクレン		29.60 3.00 2.60 149.4	1	1	1トナリ付。
230 65	単層材断片断片	c-66-19-a	5616	年月		モクレン		24.00 2.70 2.90 115.2	1	1	
231 65	単層材断片	c-66-09-d	15266	年月		モクレン		(13.30) (4.75) 1.40 (34.0)	1	1	
232 65	単層材断片断片	c-66-09	15043	連続		トネリコ		(16.00) 6.65 2.15 (118.3)	1	1	
233 66	単層材断片断片断片断片	c-66-09-d	1196	年月		モクレン		8.80 (6.10) 0.80 (24.0)	1	1	
234 66	単層材断片断片	c-67-10-b	9667	年月		サツラ		31.50 8.30 1.70 244.0	1	1	
235 66	単層材断片断片	c-66-29-a	1845	年月		モクレン		34.65 9.78 1.40 296.2	1	1	35点集合。
236 66	単層材断片	c-66-29-b	2338	年月		モクレン		(32.00) (9.60) (1.80) (263.0)	1	1	1孔あり。
237 66	単層材断片断片	c-67-10-a	6803	連続		モクレン(コブシ)		36.10 7.00 2.20 211.0	1	1	

V 第0 黒色土留の調査

表V-36 0日層掲載木製品(8)

図 番	測 定 番 号	遺物名称	所属区	遺物番号	木部 位置	材質	形態	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備 考
238	66	早期木炭屑	d-67-41-d	3059	底部	ヤナギ	(50.60) 8.70 (2.40)	(412.0)	1	
239	66	早期木炭屑	c-67-01-a	11947	浅底	ハシドイ	52.80 5.55 1.00	159.0	1	2点検査。
240	66	早期木炭屑	c-66-09-b	2174	底部	モクレン	(42.00) 2.65 7.45	(297.8)	1	2点検査。
241	66	早期木炭屑	c-66-09-c	744	浅底	モクレン	(26.30) 7.40 1.30	(167.9)	1	2点検査。
242	63	早期片	c-67-40-c	10581 10753	底部	モクレン	200.03 18.30 3.20	(1890.0)	1	3点検査。本取り側部：底部、腹上縁目。
243	64	早期片	d-67-92-a	4930	底部	スギ	(105.65) 7.40 3.70	(800.0)	1	11(1)点検査。他に接合しきい堀片多数あり。
244	63	早期片	d-67-71-c d-67-72-d	3611	底部	モクレン	(153.00) 11.40 3.10	(1350.0)	1	5点検査。裏面に刀物痕あり。
245	64	早期片	d-67-82-b	4361	底部	トネリコ	116.70 9.70 3.20	(960.0)	1	4(4)点検査。即破あり。
246	63	早期	d-67-41-b	2477	底部	サクラ	150.40 6.60 2.80	820.0	1	
247	65	早期片	d-67-29-a d-67-29-b d-67-42-d	3330	浅底	サクラ	(86.80) 8.10 2.80	(410.0)	1	
248	64	早期片	c-67-09-b c-67-09-c c-67-01-d	9009	丸木	ヤナギ	(137.59) 5.30 2.70	(810.0)	1	3点検査(削片と目跡含む)。削片入。目跡入り。所。 3点検査(削片と目跡含む)。削片入。目跡入り。所。 本取り本体：底部、腹上縁目。
249	67	早期側部	c-66-19-b	2640	底部	ハンノキ 側：ハンノキ	11.30 4.90 2.80	84.0	1	3点検査。
250	67	早期側部	c-66-09-c	339	底部	カワラ	4.80 12.70 3.00	(94.0)	1	3点検査。
251	67	早期側部	c-66-19-c	2643	底部	モクレン ハンノキ	10.00 4.00 2.30	57.0	1	2点検査(側部含む)。個人。目跡入り。所あり。本取り本体：底部、腹上縁目。
252	67	早期側部	c-66-19-b	3046	底部	ハンノキ 側と目跡：ヒノキ?アサギ?	11.45 3.70 2.55	(64.6)	1	4点検査(削片と目跡含む)。削片入。目跡入り。所。
253	67	早期側部	c-66-09-b	148	底部	○ハンノキ	16.55 5.05 2.60	116.0	1	1イトクハ付。本取りは○所の内。本取りは○所。
254	67	早期側部	c-66-09-b	15068	底部	カエデ	(7.15) 2.37 1.80	(35.8)	1	1イトクハ付。
255	68	早期側部	c-67-09-b c-67-09-c	9012	浅底	モクレン(コアク) 側：ハンノキ	26.40 6.25 4.40	276.4	1	3点検査(削片と削片含む)。削片入。目跡入り。所。 本取り本体：腹上縁目、底部、腹上縁目。
256	68	早期側部	d-67-91-b	4046	側部	側：サクラ 目跡：アサギ	19.90 3.60 4.30	(141.2)	1	3点検査(削片と目跡含む)。削片入。目跡入り。所。
257	68	早期側部	d-66-99-c	2031 2039 2014	底部	スギ?ヒノキ?ヒノキ?	19.00 2.60 3.85	141.5	1	3点検査。側部材。目跡入り。所。
258	68	早期側部	c-67-09-c	9010	底部	ハコヤナギ 側：ヒノキ	12.40 2.65 2.30	46.0	1	4点検査(側部材と目跡と削片含む)。削片入。削片入。個人。目跡入り。所。 本取り本体：底部、腹上縁目、腹上縁目、底部。
259	68	早期側部	c-66-09-b	862	底部	スギ?ヒノキ?ヒノキ?	11.90 3.10 2.40	95.1	1	3点検査(目跡含む)。目跡入り。所。側孔寸法：46mm×1.35mm。
260	69	ふか電み片	c-67-51-a	10667	側部	○ハリヤギ	(36.60) 17.80 8.10	(782.0)	1	5点検査。イトクハ付。

表V-37 0日曆掲載木製品(9)

品番 (巻号)	品名	規格	寸法 (mm)	材質	重量 (g)	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	厚さ (mm)	備考
261	69 あか壇木片	4-67-20-a	487	楕木	○	(23.3) (10.1) 3.72	(270.1)	1	3点接合。
262	70 あか壇木片	4-67-20-c	329	楕木	○	(27.00) (12.00) 3.70	(328.0)	1	3点中1点接合。
263	70 あか壇木片	4-67-20-a	489	楕木	○	26.05 (8.80) (2.85)	(90.8)	1	12点接合・増幅孔あり。保存処理後実施。片側は保存処理後の体。
264	70 あか壇木片	c-66-09-b	595	楕木	○	(18.55) (4.40) (2.59)	(76.0)	1	
265	71 あか壇木片	c-66-09-b	1063 3060	楕木	○	(21.90) 20.40 (7.20)	(233.7)	1	8点接合・増幅孔あり。保存処理後実施。片側は保存処理後の体。
266	71 あか壇木片	c-67-00-a	7160	楕木	○	(14.65) 13.20 4.50	(202.4)	1	逆置留め。
267	72 あか壇木片	c-67-00-a	6469	楕木	○	(19.72) (1.20) (7.30)	(87.2)	1	4点接合。
268	72 あか壇木片	c-66-19-b	2020	楕木	○	(14.13) (5.70) (2.35)	(70.7)	1	
269	72 あか壇木片	c-67-41-a	10017	楕木	○	(14.20) (7.00) 3.60	(74.7)	1	2点接合。
270	72 あか壇木片	c-66-09-c	15446	楕木	○	(14.00) (5.70) (2.80)	(65.6)	1	
271	72 あか壇木片	c-66-27-b	15036	楕木	○	(15.60) (4.40) (3.40)	(77.7)	1	
272	72 あか壇木片	c-67-00-a	15189	楕木	○	(5.60) (7.75) (1.75)	(47.1)	1	2点接合(増幅含む)。寄器側面片増幅留め付。
273	73 あか壇木片	c-66-29-a	1887	楕木	○	(20.40) (5.10) (7.00)	(90.0)	1	3点接合。底面縁部の本孔3×5。
274	73 あか壇木片	c-67-01-a	4850	楕木	○	(15.70) (3.10) (3.40)	(72.4)	1	
275	73 あか壇木片	c-66-29-a	1390	楕木	○	(12.20) (3.20) (2.40)	(56.5)	1	
276	73 あか壇木片	c-67-10-b	15153	楕木	○	(16.10) (3.90) (4.80)	(120.5)	1	1×1タ付。
277	73 あか壇木片	c-67-10-c	15327	楕木	○	(11.10) 2.25 3.10	(48.9)	1	
278	73 あか壇木片	c-66-18-c	1832	楕木	○	(20.60) (3.80) (4.80)	(220.0)	1	
279	74 あか壇木片	c-67-41-d	15451	楕木	○	(19.15) (4.40) (2.90)	(113.8)	1	
280	74 あか壇木片	c-67-10-b	12339	楕木	○	(20.80) (7.30) 6.20	(227.3)	1	2点接合。
281	74 あか壇木片	c-66-19-a	2588	楕木	○	(13.40) (7.00) (4.85)	(158.0)	1	3点接合・肥厚部。
282	74 あか壇木片	c-66-19-a	5007	楕木	○	(15.90) (4.15) (3.00)	(77.3)	1	1×1タ付・肥厚部。
283	74 あか壇木片	c-67-00-d	7151	楕木	○	(16.10) (3.00) (6.50)	(76.0)	1	2点接合・肥厚部。
284	75 田記式酒面巾箱	4-67-31-b	5263	楕木	○	23.22 1.97 1.67	(36.2)	1	1×1木式。

V 第0黒色土器の調査

表 V-38 0 日原縄文製品 (10)

図 番	図番 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 位置	材質	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
285	75	筒状土器須臾中割	c-66-99-c	d-66-99-d	2279	半割	フジヤイ	31.00 2.10	1.69	61.0 1 11本式。
286	75	筒状土器須臾中割	c-66-19-d		2371	飯目	フジヤイ	31.30 1.95	1.40	46.0 1 11本式。
287	75	筒状土器須臾中割	c-66-28-b	1229	1/4割		キハダ?	36.70 2.00	1.80	72.0 1 11本式。
288	75	筒状土器須臾中割	c-67-10-c	1320	半割		フジヤイ	33.50 2.30	1.90	66.4 1 11本式。
289	75	筒状土器須臾中割	c-66-19-a	5519	遺趾		コナラ	31.50 2.58	1.79	77.0 1 11本式。
290	76	筒状土器須臾中割	c-66-09-c	409	半割		フジヤイ	39.60 2.30	1.20	53.0 1 11本式。
291	76	筒状土器須臾中割	c-67-10-b	15147	半割		フジヤイ	38.50 2.20	1.20	57.7 1 11本式。
292	76	筒状土器須臾中割	c-67-61-a	10366	1/4割		フジヤイ	39.10 1.90	1.80	77.0 1 11本式。
293	76	筒状土器須臾中割	c-67-91-c	5266	半割		フジヤイ	43.03 1.90	1.60	71.6 1 11本式。
294	77	筒状土器須臾中割	c-66-19-d	2065	半割		フジヤイ	42.60 2.40	1.35	85.0 1 11本式。
295	77	筒状土器須臾中割	c-67-91-a	5185	1/2割		フジヤイ	43.30 1.90	1.79	83.4 1 11本式。
296	77	筒状土器須臾中割	c-67-00-a	6445	半割		フジヤイ	36.10 2.18	1.15	46.0 1 11本式。
297	77	筒状土器須臾中割	c-66-09-b	173	1/2割		フジヤイ	43.20 2.15	1.60	90.0 1 11本式。
298	78	筒状土器須臾中割片	c-66-19-d	2382	1/2割		ハンドイ	(35.45) 2.20	1.79 (69.0)	22点遺存, 1本式。
299	78	筒状土器須臾中割	c-66-09-c	408	飯趾		フジヤイ	40.60 1.70	1.89	70.0 1 11本式。
300	78	筒状土器須臾中割片	c-66-29-c	383	飯目		ヒノキ?	(42.50) 2.00	1.28 (55.0)	1 11本式。
301	78	筒状土器須臾中割	c-67-01-b	3427	半割		フジヤイ	41.60 2.28	1.43	83.0 1 11本式。
302	79	筒状土器須臾中割片	c-66-19-d	5475	半割		ハンドイ	(23.10) 1.27	1.20 (16.0)	22点遺存, 1本式。
303	79	筒状土器須臾中割片	c-66-09-b	c-66-09-c	2191	半割	フジヤイ	(24.20) 1.80	0.90 (22.4)	1 11本式。
304	79	筒状土器須臾中割片	c-67-10-b	13306	半割		フジヤイ	(34.70) 2.10	1.00 (41.1)	22点遺存, 1本式。
305	79	筒状土器須臾中割片	c-66-19-d	698	半割		フジヤイ	(34.45) 2.55	1.50 (70.4)	1 11本式。
306	79	筒状土器須臾中割片	c-67-02-c	15197	1/4割		フジヤイ	(19.30) 1.50	1.30 (15.3)	22点遺存, 1本式。
307	79	筒状土器須臾中割片	c-66-19-a	5543	丸本		モクレン	11.00 2.05	1.70	20.6 1 1
308	79	筒状土器須臾中割片	c-66-29-c	278	1/2割		フジヤイ	(12.90) 1.40	1.10 (9.0)	1 11本式。

表V-39 0日層揚載木製品(11)

品番 (品名)	産物名称	製産区	産物番号 (水取り)	用途 (原形)	仕様	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(kg)	個数 (枚数)	備考
309	国社式基礎用中材片	c-66-09-c	913	9エテ		(16.60) 2.10 1.80	(34.3)	1	1) 本式。
310	国社式基礎用中材基部	c-67-10-c	15328	1/4割		(16.80) 1.70 (2.20)	(33.8)	1	1) 本式。
311	国社式基礎用中材基部	d-66-09-d	2543	1/2割		14.50 2.50 1.50	22.0	1	1) 本式。
312	国社式基礎用中材	c-66-19-a	2196	縦目		20.40 2.20 1.05	17.4	1	1) 本式。2) 短冊付。
313	国社式基礎用中材	c-66-09-a	3678	縦目		21.50 2.75 1.55	26.2	1	3) 3点接合。2) 本式。短冊付。
314	国社式基礎用中材	c-67-10-c	15330	半割		24.70 2.00 1.20	22.4	1	1) 本式。短冊付。
315	国社式基礎用中材	c-66-09-b	464	半割		23.40 3.40 1.30	26.0	1	1) 本式。
316	国社式基礎用中材	d-67-01-d	5053	1/2割		20.85 2.70 1.60	34.0	1	1) 本式。
317	国社式基礎用中材片	c-67-10	15111	1/4割		(20.20) 3.00 1.60	(36.6)	1	1) 本式。
318	国社式基礎用中材	c-66-09-c	566	半割		24.40 3.70 1.40	30.0	1	1) 本式。短冊付。
319	国社式基礎用中材	c-66-18-c	2235	半割		23.40 2.40 1.30	38.0	1	1) 本式。短冊付。
320	国社式基礎用中材	c-67-02-b	10383	半割		25.35 3.40 1.50	43.0	1	1) 37とセット。2) 本式。
321	国社式基礎用中材	c-66-28-b	14118	縦目		25.92 3.40 1.12	25.3	1	1) 本式。短冊付。
322	国社式基礎用中材	c-66-19-b	2424	縦目		28.40 1.40 1.55	29.0	1	1) 本式。
323	国社式基礎用中材	c-66-09-a	2573	半割		(29.60) 3.18 1.38	(41.7)	1	1) 本式。短冊付。
324	国社式基礎用中材	c-66-19-b	4228	半割		32.30 2.60 1.70	19.0	1	1) 本式。階段用。2) 短冊付。
325	国社式基礎用中材片	c-66-09-d	1184	縦目		(31.25) 4.10 1.55	(48.2)	1	1) 本式。
326	国社式基礎用中材	c-66-09-c	405	逆趾		34.80 2.50 1.45	57.0	1	1) 本式。短冊付。
327	国社式基礎用中材	c-66-09-b	1610	半割		37.80 2.50 1.50	60.0	1	1) 本式。短冊付。
328	国社式基礎用中材	c-66-09-b	707	1/2割		(46.00) 2.60 1.40	(80.0)	1	1) 本式。短冊付。
329	国社式基礎用中材	d-66-09-c	1995	半割		(14.20) 2.20 1.30	(19.3)	1	1) 本式。
330	国社式基礎用中材片	c-66-09-d	1185	1/4割		(21.76) 2.30 2.45	(27.1)	1	1) 本式。
331	国社式基礎用中材片	c-67-09-b	8206	半割		(20.35) (3.50) 1.70	(442.0)	1	2) 3点接合。3) 本式。
332	国社式基礎用中材	c-67-10-c	15338	丸本		(5.50) 1.20 1.30	(4.4)	1	

V 第0黒色土層の調査

表V-40 0 層褐腐木製品 (12)

図番 (番号)	通称名称	商標	製造番号	本張り 材種	材質	断面	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	断面 形状	備考	
33	83 低伏葉片	d-66-9a-b	d-66-9a-c	2222	丸木	セミ	(13.30) 2.30	(37.3)	1	1	
33	83 低伏葉片	c-67-10-a	c-67-10-b	15310	1/4割	アジサイ	(17.10) 2.10	(27.6)	1	12本組式	
335	-	c-66-09-d	2876	半割	アジサイ	アジサイ	(15.90) 2.00	(20.4)	1	12本組式	
336	83 同紐式葉片	c-67-10-a	c-67-10-b	12063	板目	イチイ	(17.50) 2.05	(33.6)	1	12本組式	
337	84 同紐式葉片	c-67-42-b	10384	半割	アジサイ	アジサイ	(18.30) (2.45)	(26.0)	1	120とセツト、2本組式	
338	84 同紐式葉片	c-67-10-b	9727	半割	アジサイ	アジサイ	(28.70) 2.05	(54.0)	1	11本式	
339	84 同紐式葉片	d-67-91-c	5660	半割	カワラ	カワラ	(27.20) 2.20	(48.0)	1	12本組式	
340	84 同紐式葉片	c-66-18-c	15414	1/4割	アジサイ	アジサイ	(8.10) 1.50	(7.0)	1	12本組式、風割列付	
341	84 同紐式葉片	c-67-00-a	7191	半割	アジサイ	アジサイ	10.30 2.45	13.3	1	12本組式、風割列付	
342	84 同紐式葉片	c-66-09-b	889	板目	アジサイ	アジサイ	(11.40) (1.45)	(7.6)	1	12本組式	
343	84 同紐式葉片	c-66-18-c	15413	1/4割	ヤナギ	ヤナギ	(11.50) 1.80	(16.3)	1	12本組式	
344	84 同紐式葉片	c-66-19-b	4669	板目	アサギ	アサギ	(12.20) 3.00	(27.1)	1	12本組式、風割列付	
345	84 同紐式葉片	c-66-09-c	15069	1/4割	カエデ	カエデ	(13.50) 1.60	(17.0)	1	12本組式	
346	84 同紐式葉片	c-66-09-b	15418	1/4割	カエデ	カエデ	(11.90) 3.30	(35.2)	1	12本組式	
347	84 同紐式葉片	c-66-19-b	4663	丸木	クワ?	クワ?	(12.10) 1.90	(18.6)	1	12本組式、風割列付	
348	84 同紐式葉片	c-67-00-c	8535	半割	アジサイ	アジサイ	(23.20) (2.25)	(21.9)	1	11本式、風割列付	
349	85 同紐式葉片	c-67-10-b	12415	丸木	アジサイ	アジサイ	6.15 3.60	2.15	13.4	4点接合(側接合を含む)、イトラバ付、風割列付、目割孔あり	
350	85 同紐式葉片	c-66-09-b	572	板目	カワラ	カワラ	7.10 4.00	2.20	(15.0)	4点接合	
351	85 同紐式葉片	c-66-09-c	945	丸木	クワ?	クワ?	8.30 4.00	2.40	(29.7)	1	
352	85 同紐式葉片	d-66-99-b	2496	丸木	アルミ製 (アイトラ・カナルシ以外)	アルミ製 (アイトラ・カナルシ以外)	(8.70) 3.30	2.15	(16.7)	3点接合	
353	85 同紐式葉片	c-66-29-a	2100	通証	ヒノキ?アサギ?	ヒノキ?アサギ?	(7.10) (2.70)	(2.20)	(13.4)	22点接合、イトラバ付	
354	85 同紐式葉片	d-66-99-d	15450	丸木	ヤナギ	ヤナギ	(4.90) (1.70)	(2.19)	(5.6)	3点接合	
355	85 同紐式葉片	c-66-29-d	285	丸木	ヤナギ	ヤナギ	6.80 4.60	3.25	(33.0)	1	
356	85 同紐式葉片	c-66-09-c	382	丸木	ハンノキ	ハンノキ	7.50 5.12	3.50	(21.7)	1	4点接合、イトラバ付、風割列付、目割孔あり、計測値は保存処理後の値

表V-41 0 B層構造木製品 (13)

品番 (品目番号)	産物名称	製法記号	規格記号	規格	長さ×幅×厚さ (mm)	重量 (kg)	積層枚数	備考
307	国産スギ製材部材	c-66-99-c	丸太	アジサイ	9.18 4.10 2.84	57.2	1	
308	国産スギ製材部材	c-67-10-b	丸太	アジサイ	8.40 4.36 3.90	75.9	1	
309	国産スギ製材部材	c-66-48-a	丸太	ハコヤナギ	(7.20) (4.80) 4.10 (62.8)	33.0	積合	33点積合。
309	国産スギ製材部材	d-67-91-d	丸太	ヤナギ	(8.00) 4.20 4.30 (65.7)	31.1	1	
301	国産スギ製材部材	c-67-00-b	丸太	ハンノキ	(7.00) (4.00) 3.45 (46.8)	22.2	積合	22点積合。
302	国産スギ製材部材	c-66-19-c	丸太	キルナン?	8.10 3.90 3.40 45.4	1	1	
303	国産スギ製材部材	c-66-19-a	丸太	コナラ	11.36 4.60 2.89 (68.0)	1	1	
304	国産スギ製材部材	c-66-19-d	板	アジサイ	(9.20) 0.70 0.65 (2.8)	1	1	
305	国産スギ製材部材	c-66-19-d	板	アジサイ	13.90 0.80 0.50 3.2	1	1	
306	国産スギ製材部材	c-66-09-d	板	モクレン	(9.00) 1.20 1.00 (6.8)	1	1	
307	国産スギ製材部材	c-66-08-c	半割	アジサイ	27.00 1.58 1.29 32.4	1	1	断面積巻あり。
308	国産スギ製材部材	c-66-99-c	丸太	キハダ	34.00 2.50 2.40 96.1	1	2点積合、断面積合。	
309	国産スギ製材部材	c-66-19-c	丸太	ハコヤナギ	(32.40) 2.70 2.70 (128.5)	1	4点積合。	
370	国産スギ製材部材	c-66-19-b	丸太	ナナカマド?リソ??	14.10 2.40 (2.00) (40.0)	1	1	
371	国産スギ製材部材	d-67-91-c	丸太	ヤナギ	(48.85) 1.60 1.60 (80.1)	1	77点中5点積合が実測、残り2点、積合の可能性あり。	
372	国産スギ製材部材	c-66-19-b	丸太	カエデ	(25.20) 2.25 2.15 (67.0)	1	30点積合、1トラ付。	
373	国産スギ製材部材	d-67-82-a	丸太	トネリコ	(10.10) 1.50 1.70 (17.4)	1	1	1ヶ条ト出上。
374	国産スギ製材部材	c-66-09-a	板	アジサイ	19.50 2.30 1.20 (34.4)	1	1	
375	国産スギ製材部材	c-66-99-b	丸太	アジサイ	21.80 2.40 1.85 45.8	1	1	断面積合。
376	国産スギ製材部材	c-66-19-b	板	モクレン	(14.10) 3.80 2.40 (66.9)	1	1	
377	国産スギ製材部材	c-66-19-d	丸太	カエデ	16.80 2.00 1.80 36.5	1	1	
378	国産スギ製材部材	c-66-19-b	板	カエデ	7.40 1.60 0.60 3.4	1	1	
379	国産スギ製材部材	d-66-99-c	半割	アジサイ	17.75 2.20 1.20 26.4	1	1	
380	国産スギ製材部材	d-67-81-c	板	スギ	27.53 2.55 2.68 102.1	1	1	

表V-42 0 B層縄文木製品 (14)

図 目録 番号 (番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号	水取り 位置	材質	種類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	備 考	
381	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-10-a	8928	丸木	アジサイ	(25.00) 1.80	1.70 (44.0)	1		
382	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-66-00-b	620	丸木	セミ	13.50	1.80	32.5	1	
383	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-00-a	7174	丸木	コナラ	(36.30) 2.90	2.70 (166.5)	1		
384	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-66-20-a	15397	板皮	サクラ	(29.10) 2.60	2.45 (140.0)	1		
385	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-00-b	7658	丸木	キハダ	(32.20) 3.20	2.80 (171.4)	1		
386	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-66-00-b	429	丸木	トネリコ	56.70	3.10	324.0	1	
387	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-10-d	9659	板皮	サクラ	67.90	2.40	230.0	1	
388	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-10-b c-67-11-a	9709	丸木	サクラ	101.80	3.20	660.0	1	
389	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	d-67-91-a	5181	丸木	サクラ	(82.80) 3.30	3.50 (640.0)	1	22点遺名。	
390	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-02-a	4944	丸木	ヤナギ	121.60	3.40	740.0	1	
391	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-00-c	12965	板皮	コナラ	(66.70) 1.70	1.40 (100.0)	1		
392	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	d-67-91-b	5329	丸木	トネリコ	(146.15) 3.20	3.25 (785.0)	1	55点遺名。	
393	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-00-c c-67-00-d	7574	丸木	セミ	(72.70) 3.70	3.60 (625.0)	1	44点遺名。	
394	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	d-67-91-b d-67-71-c	3991	丸木	ハンノキ	(172.30) 3.10	3.00 (1020.0)	1	22点遺名。	
395	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-61-a	10167	丸木	ヤナギ	(61.70) 3.90	3.40 (510.0)	1	22点遺名。	
396	縄文式遺物(中時・黒 土層)削り身(左部)片	c-67-61-a c-67-61-d	10163	板皮	○シナンギ	(239.50) 2.90	2.90 (1355.0)	1	22点遺名。	
397	丸中削片	c-66-10-c	15468	板皮	ハシドイ	(8.20) 1.10	1.00 (5.4)	1		
398	丸中削片	c-67-02-c	3357	板皮	アジサイ	11.00	1.01	0.96	1	
399	丸中削片	c-67-12-b	2647	丸木	ハヤ	13.50	1.40	15.0	1	
400	丸中削片	c-66-10-b	2433	中削	アジサイ	14.75	1.15	1.10	10.0	1
401	丸片	c-66-10-d	2296	板皮	アジサイ	(6.80) 1.30	1.25 (5.5)	1	鳥類?	
402	丸片	c-66-00-d	15371	1/4割	カハノキ	(7.65) 1.75	1.40 (10.5)	1	鳥類?イトラハ付。	
403	丸	c-66-00-c	405	丸木	カエデ	9.40	1.71	1.77	12.0	1
404	丸中削片	d-67-60-a	15321	板皮	アジサイ	(13.88) 1.50	1.35 (13.9)	1	鳥類?	

表V-43 0日開筒靴木製品(16)

品名 品番	品名 品番	製材名	製材区	開筒時 木張り	開筒 位置	開筒 形状	長さ×幅×高さ(cm)	重量(g)	厚み 厚み	備考
405 91 尖片	c-66-09-d	2564	楕圓	イサキ	(6.65)	1.30	1.20	(4.8)	1	凸面?イトラ付。
406 91 尖	c-66-09-c	402	丸木	ハンドイ?	7.32	1.65	1.64	7.0	1	凸面?
407 91 尖	d-66-09-c	2513	楕圓	スギノキ+スゴ?	5.10	0.85	0.85	1.8	1	凸面?
408 91 尖片	c-66-18-c	15206	丸木	ハンドイ	(5.64)	1.30	1.40	(5.8)	1	凸面?
409 91 尖片	c-66-09-d	15372	1/4楕圓	コナラ	(6.50)	1.52	1.30	(8.0)	1	凸面?
410 91 尖片	c-66-09-a	15423	楕圓	ヤナギ	(6.73)	1.56	1.60	(10.5)	1	凸面?楕圓付。
411 91 尖片	c-66-28-b	15079	丸木	コナラ	(8.80)	1.60	1.55	(8.8)	1	凸面?
412 91 尖片	c-66-19-a	5533	丸木	ハギ	(9.00)	1.40	1.50	(10.4)	1	凸面?
413 91 尖	c-66-18-d	2910	楕圓	アジサイ	10.80	1.40	1.23	9.7	1	凸面?
414 91 尖片	c-66-18-b	2091	楕圓	アジサイ	(10.20)	0.95	1.30	(9.2)	1	凸面?イトラ付。
415 91 尖中開片	d-66-09-b	2536	楕圓	アジサイ	(9.15)	1.00	0.80	(4.2)	1	イトラ付。
416 91 尖	d-67-91-a	4975	1/4楕圓	アジサイ	12.90	0.76	0.70	4.4	1	
417 91 尖	c-66-19-b	3947	丸木	ハンドイ	12.20	1.63	1.55	17.1	1	凸面?
418 91 尖	c-66-09-a	866	1/2楕圓	アジサイ	13.10	1.80	1.10	9.8	1	凸面?
419 92 尖楕圓	d-67-81-b-d-67-81-c	2993	楕圓	ヒ	32.00	0.85	0.85	15.7	1	22点接合(側底を含む)。側底形状別産付。
420 92 尖楕圓片	c-67-32-d	10206	楕圓	ヒ/キ77ヌナロ?	(37.90)	0.83	0.87	(22.0)	1	
421 92 尖楕圓	c-67-32-d	10275	楕圓	ヒ	41.50	0.90	0.90	(18.6)	1	33点接合。
422 92 尖楕圓?	c-66-19-d	2376	楕圓	イナホ(ウサ)	(18.10)	1.00	1.00	(12.0)	1	22点接合。楕圓形状別産付。
423 92 尖楕圓?	c-66-19-a-c-66-19-b	4088	丸木	ヒ	11.70	0.70	0.70	3.9	1	
424 92 尖楕圓?	c-66-09-c	15426	楕圓	カエデ	(4.59)	1.80	1.35	(7.7)	1	大形。
425 92 尖楕圓楕圓品	c-67-10-b	15318	楕圓	ヒ	10.65	2.00	1.25	11.1	1	大形。
426 92 尖楕圓片	c-66-19-a	6075	丸木	アジサイ	(8.65)	1.75	1.60	(18.0)	1	
427 93 円片	c-67-40-c-c-67-50-b	10571	丸木	イサキ	(72.30)	3.42	2.40	(370.0)	1	
428 93 円片	c-67-40-c	3364	1/4楕圓	ニシキギ	(30.80)	(2.00)	(2.00)	(74.2)	1	13点中11点接合と2点接合13点穴開(側底も含む)。側底形状別産付。側底 ヒ多量多量あり。側底の幅0.55cm。楕圓に楕圓形片多量あり。計開楕圓は定形。

V 第0黒色土層の調査

表V-44 0日層燧石製品(16)

調査 番号	燧石 名称	発掘区	遺物番号(大塚)	断面 形状	種類	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	画像	備考		
429	50 刀身片	c-67-10-b	15433	板状	○イチイ	(7.20) (1.55) (1.72)	(11.5)	1	22点綜合(燧石色含む)、燧石片付。		
430	50 チン・鋸り両面製品片?	c-67-02-b	4954	板状	モクレン	(18.15)	1.80	4.40	(73.2)	1	
431	50 任意向き断面ミニチヌア	c-66-09-a	15964	板状	ヒノキ?アスター?	(11.26) (1.83)	0.41	(6.5)	1	1個製作。	
432	53 任意向き断面ミニチヌア	c-66-19-a	2744	板状	スギ	15.85	1.45	0.30	6.0	1	1
433	54 矢羽鞘	c-67-10-c	8479	透眼	ハリギリ	31.60	10.70	6.00	334.8	1	3点結合(燧石部除去後)、燧石イトラ付。燧石製燧石(燧石片付)。 燧石なしの打痕は長さ30.80mm×幅3.60mm×厚さ1.20mm。
434	54 矢羽鞘片	c-66-18-b	1482	板状	コナラ	30.00	(4.00)	1.90	(120.6)	1	22点結合、燧石イトラ付。
435	54 矢羽鞘片	c-66-18-b	15052	板状	ハリギリ	21.80	(6.75)	1.80	(120.4)	1	22点結合、燧石付。
436	55 矢羽鞘	d-67-81-b	3182	透眼	ハリギリ	41.20	8.40	2.30	480.0	1	15ヶ所肉孔あり、燧石イトラ付。
437	55 矢羽鞘	c-66-08-b	1144	板状	ヒノキ?アスター?	24.50	8.10	1.10	117.0	1	1
438	55 矢羽鞘片	c-66-09-b	717	透眼	ハンノキ	(18.70) (5.30)	1.70	(80.9)	1	1個燧石イトラ付。	
439	55 矢羽鞘片?	c-66-18-d	14421	板状	カツラ	(12.35)	6.39	1.60	(71.5)	1	2ヶ所肉孔あり、燧石付。
440	56 鏢	c-66-19-d	2408	板状	カエデ	6.30	5.40	1.20	26.0	1	1
441	56 刀柄	d-66-99-c	2541	板状	カエデ	22.10	5.15	2.50	(45.0)	1	10ヶ所結合(燧石色含む)、燧石製、燧石片付。任意11ヶ所肉孔、燧石1ヶ所、燧石付。 任意11ヶ所、燧石製燧石製、計4箇所は燧石製燧石製。
442	56 山刀柄	d-66-99-c	2784	板状	カエデ	19.10	4.60	2.40	(109.2)	1	4ヶ所結合(燧石色含む)、燧石製燧石片付。 燧石製燧石製(燧石製燧石製)、燧石入、燧石入、燧石入、燧石入、燧石入、燧石入。
443	56 小刀柄片	c-66-19-a	15181	板状	カエデ	(10.20)	2.65	1.25	(21.3)	1	1イトラ付、燧石あり。
444	56 小刀柄	c-66-28-c	281	板状	スギ?	9.15	3.50	1.50	26.2	1	1個燧石あり。
445	56 小刀柄	c-66-08-c	15470	透眼	カエデ	8.90	3.46	1.40	(20.3)	1	1個燧石あり。
446	56 小刀柄	c-66-28-c	518	透眼	スギ	9.51	2.33	1.42	24.0	1	1
447	56 小刀柄片	c-66-19-b	1869	板状	カエデ	10.70	3.30	1.30	(22.0)	1	1
448	56 小刀柄片	c-66-09-c	219	板状	カエデ	(12.25)	2.40	1.50	(28.0)	1	22点結合。
449	56 小刀柄	c-66-19-a	5003	板状	カエデ	11.40	3.10	1.50	24.0	1	1半付骨、燧石付。
450	57 小刀柄	d-66-99-b	2642	透眼	スギ?	12.20	3.00	1.35	29.2	1	1
451	57 小刀柄	c-66-19-a	5067	板状	ヒノキ?アスター?	11.10	3.35	1.60	32.8	1	1
452	57 小刀柄片	c-66-19-c	15462	板状	サノキ	13.10	4.10	1.77	(50.2)	1	1

表V-45 0 B層地蔵木製品 (17)

原産地 品目番号	遺物名称	保護区分	遺物番号	水取り 位置	種類	長さ×幅×高さ (cm)		重量 (g)	保存 状態	備考	
						長さ	幅				
453	小刀柄	d-64-99-d	2797	扉目	イチイ	12.90	3.70	1.60	35.0	1	即席付。
454	小刀柄	d-64-99-c-d-67-90-d	1975	平頭	サエデ	14.60	3.80	1.75	42.5	1	
455	小刀柄片	c-64-29-a	846	扉目	サエデ	14.70	3.80	1.90	(71.7)	1	
456	小刀柄片	d-64-99-c	2051	扉目	サエデ	(14.10)	3.50	1.65	(52.0)	1	
457	小刀柄片	c-64-19-a	15082	扉目	ヒノキ?スタロ?ネズコ?	10.62	(2.51)	(1.20)	(18.7)	1	即席付。
458	小刀柄片	c-67-10-a	6802	扉目	モクレン(コブシ)	(11.65)	2.40	1.40	(25.0)	1	
459	小刀柄片	d-67-90-b	6327	扉目	サエデ 出目:アジサイ	10.60	2.50	1.05	(17.6)	1	3.55鎌倉(目打含む)、イトクバ付、本町民9ヶ所の内、本町A?系、他に目打A品1ヶ所。
460	小刀柄片	c-64-09-b	257	丸木	アジサイ	(8.90)	2.55	1.70	(22.1)	1	
461	小刀柄	c-64-09-c	235	扉目	ネズコ?	11.15	2.60	1.80	(32.6)	1	
462	小刀柄片	c-64-09-d	2697	扉目	サエデ	12.60	3.30	1.90	(54.7)	1	
463	山刀柄片	c-67-61-d	10138	扉目	モクレン	12.90	4.00	1.80	47.5	1	鎌倉(鎌倉合樹堂?立含む)、都野牧園産巻付。
464	小刀柄片	c-64-19-b	15004	扉目	サエデ?	(4.04)	(1.89)	(0.45)	(2.1)	1	即席付。
465	小刀柄片	c-64-19-a	15005	扉目	サエデ	(9.20)	(1.58)	1.50	(15.8)	1	即席付。
466	小刀柄片	c-64-19-a	15480	扉目	ヒノキ?スタロ?ネズコ?	(8.90)	(1.20)	(1.15)	(7.2)	1	即席付。
467	小刀柄片	c-64-19-b	5485	扉目	ネズコ?スタロ?	(11.00)	(1.45)	(0.90)	(10.6)	1	即席付。
468	小刀柄木製品片	c-64-37-b	15400	扉目	サエデ	(10.50)	1.70	1.00	(13.0)	1	即席付。
469	小刀柄木製品	c-64-09-c	1355	扉目	サエデ	9.05	3.38	1.40	20.6	1	即席付。
470	小刀柄木製品	c-64-09-c	15440	扉目	サエデ	12.15	2.53	1.35	(22.4)	1	
471	小刀柄木製品	c-64-09-c	1151	扉目	サエデ	13.20	3.30	1.50	43.0	1	イトクバ付。
472	小刀柄木製品	c-64-09-b	1918	扉目	ネズコ?	12.45	3.48	1.90	55.4	1	
473	小刀柄木製品	c-64-09-b	2166	丸木	ニシキ?	9.10	2.60	1.55	30.8	1	
474	小刀柄木製品	c-64-19-d	2364	扉目	ネズコ?ヒノキ?ネズコ?	16.60	1.88	0.50	9.0	1	即席。
475	小刀柄木製品片	c-64-19-c	1833	扉目	サアラ	(16.95)	2.25	1.10	(24.0)	1	即席。
476	小刀柄木製品	d-67-91-a	5232	扉目	即席	15.90	5.10	6.10	45.3	1	即席付。

表V-46 0B層燻製木製品 (18)

品目 番号	漢物名称	製法区	選物番号	水張り 状態	仕様	縦横	長さ×幅×高さ (cm)	重量 (g)	個 数	備考
477	小刀燻製製剤	c-66-27-c	157	燻製 ○	燻製	縦横	13.80 5.70 1.40	33.2 (49.0)	1	2点接合(側面2枚重ね)。
478	小刀燻製製剤片	c-66-09-a	145	燻製 ○	燻製(カバノキ)	縦横	(14.55) 5.80 1.95	(49.0)	1	2点接合(側面2枚重ね)。
479	小刀燻製製剤	c-67-00-c	9787	燻製 ○	燻製	縦横	13.95 4.70 4.20	(19.4)	1	2点接合(縦横方向の高なる側面の2枚重ね)。縦削付。
480	小刀燻製製剤片	c-67-22-a	15020	燻製 ○	燻製	縦横	(11.84) 5.47 2.54	(30.5)	1	4点接合(側面2枚重ね)。
481	小刀燻製製剤片	c-67-10-b	9708	燻製 ○	燻製	縦横	(9.95) 4.80 2.40	(16.6)	1	縦削付。
482	小刀燻製製剤片	c-66-08-d	520	燻製 ○	燻製	縦横	(8.41) 5.28 1.55	(19.0)	1	2点接合(側面2枚重ね)。
483	燻製片?	d-67-91-d	15475	燻製	セワレン	縦横	(5.12) (3.93) (0.45)	(7.0)	1	
484	燻製片	d-67-91-d	3328	燻製 ○	セワレン	縦横	(11.90) 4.80 2.15	(28.7)	1	3点接合(側面を含む)。燻製製剤区を含む(燻製製剤区)。燻製片。
485	山刀燻製製剤片	c-66-09-c	383	燻製	カエデ	縦横	(8.30) 2.70 1.47	(14.0)	1	2点接合。
486	山刀燻製製剤片	c-66-08-c	1603	燻製	カエデ	縦横	(8.90) 12.60 2.50	(13.0)	1	
487	山刀燻製製剤片	c-66-09-a	1201	燻製 ○	カエデ	縦横	(9.90) 2.45 1.32	(10.0)	1	イトナリ付。
488	山刀燻製製剤片	c-66-09-c	546	燻製	カエデ	縦横	(3.43) (2.55) 1.71	(9.0)	1	
489	山刀燻製製剤片	c-66-29-a	2111	燻製	カエデ	縦横	(8.80) 2.15 1.40	(14.5)	1	2点接合は重定後。
490	山刀燻製製剤区製剤片	c-66-29-a	1036	燻製	カエデ	縦横	(4.50) 2.61 1.40	(8.4)	1	縦削付。
491	山刀燻製製剤片	c-66-09-c	175	燻製	カエデ	縦横	(5.60) 2.78 1.60	(12.0)	1	4点接合。
492	山刀燻製製剤片	c-66-08-c	1126	燻製	クワ?	縦横	(4.20) 2.25 1.40	(7.0)	1	
493	山刀燻製製剤片	c-66-10-b	1278	燻製	トネリコ	縦横	(4.40) 2.24 1.28	(5.2)	1	
494	山刀燻製製剤片	d-67-91-d	15478	燻製	カエデ	縦横	(3.20) (1.20) 1.55	(2.6)	1	
495	山刀燻製製剤片	c-66-09-b	15376	燻製	ヒノキ?ヌカコ?	縦横	(5.20) 1.85 1.35	(4.8)	1	
496	山刀燻製製剤区製剤片	c-66-19-a	2746	燻製	フジナ?	縦横	9.40 2.64 1.40	19.2	1	
497	燻製製剤片	c-66-19-b	4777	燻製	コナラ	縦横	(19.50) 10.35 3.95	(184.0)	1	
498	燻製製剤片	c-66-19-a	4744	燻製	コナラ	縦横	14.90 14.50 7.30	(556.0)	1	
499	燻製片	c-66-28-c	15482	燻製 ○	コナラ	縦横	30.65 (11.20) 3.90	(168.2)	1	
500	燻製片	c-67-00-a	8104	燻製	トネリコ	縦横	(14.80) (10.70) 3.60	(141.3)	1	

表 V-47 0 日層楊木製品 (19)

国産 番号	産物名称	保固区	産物番号	寸法(寸)	製法	製法	製法	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	厚さ (mm)	備考	
501 103	土層片	c-67-10-d	6774	丸木	コナラ			22.60	2.10	83.0	1	
502 103	土層片	c-66-10-a	5565	1/6割	コナラ			23.90	3.80	142.1	1	
503 103	七層物印刷品	c-66-10-c	1423	縦紙	コナラ			19.70	3.30	112.4	1	
504 104	土層印刷片	d-67-91-a	5001	縦目	カエデ			(33.20)	2.85	2.20 (124.5)	1	
505 104	土層片	c-66-10-a	15483	丸木	アマシテ			44.20	2.40	2.20	166.6	1
506 104	土層片	c-66-09-c	1926	丸木	ハシドイ?			48.70	1.75	2.10	134.2	1
507 104	土層印刷片	c-66-09-b	1787	縦目	モクレン			(33.80)	3.50	1.80 (128.0)	1	
508 105	土層片	d-66-09-c	2287	縦目	カエデ			51.80	3.40	2.80	286.0	1
509 105	土層片	c-66-10-b	3013	丸木	ハシドイ			81.00	4.00	3.20	620.0	1
510 105	土層印刷片	c-67-01-d c-67-11-a	12433	丸木	モクレン			(93.80)	2.80	2.80 (470.0)	1	
511 106	印刷片	c-67-40-b	10592	縦木	アマシテ			(11.50)	14.80	5.60 (343.2)	1	
512 106	印刷片	c-66-30-a	14491	縦木	コナラ			(15.20)	12.90	7.20 (648.0)	1	
513 106	印刷片	d-66-09-c	2621	縦木	ハンノキ			(8.65)	15.30	5.95 (698.3)	1	
514 107	印刷	d-67-91-d	15345	縦木	コナラ			16.60	13.25	3.35	151.0	1
515 106	印刷	c-67-11-c	12028	縦木	リンゴ?ハシドイ?			17.30	14.10	4.35	109.0	1
516 106	印刷	c-66-09-d	2197	縦木	ハシドイ?			20.50	12.30	4.00	164.4	1
517 107	印刷片	d-67-81-c	4407	縦木	モミ			(19.20)	16.40	5.40 (381.2)	1	
518 107	印刷	c-66-10-c	7236	縦木	ハシドイ?リンゴ?			22.60	16.60	6.20	317.0	1
519 108	印刷	d-67-81-c	3560	縦木	カエデ			24.85	15.30	6.00	445.0	1
520 108	印刷	c-66-10-a	2613	縦木	コナラ			27.70	16.50	4.50	464.0	1
521 109	印刷	c-66-10-b	15005	縦木	コナラ			19.40	15.70	3.90	196.5	1
522 109	印刷片	d-67-91-a	4845	縦木	ハシドイ			17.90 (8.80)	3.10 (88.4)		1	
523 109	印刷	d-67-91-a	5176	縦木	ハンノキ			23.80	19.30	5.20	316.4	1
524 109	印刷未製品?	c-66-09-b	721	縦木	ハンノキ			23.30	13.50	2.80	106.6	1

表V-48 0日層縄文木製品(20)

品目 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	採取 位置	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	部 数	備考	
525	109 環状ミニユエツ片?	c-67-10-b	12471	腹本	コナラ	(9.80) (3.95)	2.20 (24.4)	1	2点遺名。	
529	110 環状	d-67-91-d	3549	尻本 柄:カエデ	カバノキ 柄:カエデ	20.70 12.30	391.0	1	2点遺名(柄含む)。採り式、水取り断面:丸木、斬:腹目。	
527	110 環状	d-66-90-b	2224	尻本	カバノキ 柄:カエデ	25.80 18.36	554.0	1	2点遺名(柄含む)。採り式。	
529	110 環状	c-67-00-b	8212	尻本	コナラ 柄:コナラ	(5.90) 14.95	(195.6)	1	2点遺名(柄片含む)。採り式、水取り斬:平頭。	
529	111 環状断面	c-66-29-a	2106	尻本	カバノキ	13.20 5.10	199.6	1	1採り式。	
530	111 環状断面	c-66-29-a	1297	尻本	カバノキ	12.30 5.60	272.0	1	1採り式。	
531	111 環状断面	d-67-91-a	4943	尻本	カエデ	16.30 6.50	467.8	1	1採り式、採付。	
532	112 環状	d-66-90-c	2217	尻本	コナラ 柄:カエデ	20.60 19.60	539.0	1	2点遺名(柄含む)。柄孔式、水取り断面:丸木、斬:丸木。	
533	111 環状	c-67-20-b	10238	尻本	コナラ 柄:コナラ	28.90 16.60	900.2	1	3点遺名(柄片含む)。柄孔式、柄の幅:40mm×厚さ:70mm。環状断面は長さ 45mm×幅:100mm、長さ:45mm×幅:100mm。水取り断面:丸木、斬:腹目。 付留痕は居残断面の痕。	
534	111 環状	c-67-02-b	4943	平頭	カエデ 柄:カエデ	(11.50) 14.15	(70.2)	1	5点遺名(柄片含む)。柄孔式、水取り断面:丸木、斬:腹目。	
535	113 環状断面	d-66-90-c	2657	尻本	カエデ 柄:カエデ	(6.80) 16.20	(309.6)	1	2点遺名(柄片含む)。柄孔式、水取り断面:丸木、斬:腹目。	
536	112 環状断面	c-66-19-a	4198	尻本	カエデ 柄と腹:トリスコ	(16.80) 6.10	(378.0)	1	5点遺名(柄片と腹含む)。柄孔に腹は丸木、柄孔式。 水取り断面:丸木、斬:平頭、腹(3本とも)、腹目。	
537	113 環状断面	c-66-29-a	1248	1/4腹	カエデ 柄:カエデ	(5.80) 14.50	(291.0)	1	2点遺名(柄片含む)。柄孔式、柄片入。	
538	113 環状断面	c-67-00-b	8219	尻本	カエデ 柄:コナラ	15.45 (5.90) (4.10) (202.2)	(302.2)	1	3点遺名(柄片2送含む)。柄孔式、柄片入、水取り斬:腹目。	
539	113 環状断面	d-67-91-c	3015	尻本	カエデ 柄:カエデ	15.70 6.40	(391.0)	1	3点遺名(柄片含む)。柄片入、柄孔式、水取り断面:丸木、斬:腹目。	
540	113 環状断面	c-66-09-c	928	尻本	カエデ 別腹体:アマシテ	16.25 (6.10) (3.75) (191.6)	(191.6)	1	1柄孔式。	
541	113 環状断面	c-66-20-d	426	尻本	カバノキ	12.90 6.40	569	313.0	1	
542	113 環状断面	d-66-90-c	2534	腹本	カエデ?	14.10 7.15 (6.25) (332.7)	(332.7)	1	1復元用式部痕有り。	
543	114 長方形断面	c-66-19-c	3666	腹本	コナラ	24.58 20.70	527	572.0	1	
544	114 環状または長方形断面	c-66-09-c	15421	尻本	カエデ	(15.05) 2.80	2.35 (47.5)	1		
545	114 環状または長方形断面	c-67-11-a	12465	腹目	コナラ	28.60 3.80	268.8	1		
546	114 環状または長方形断面	c-67-00	15114	腹目	カエデ	29.10 4.10	260	212.4	1	
547	114 環状または長方形断面	c-66-09-b	15046	腹目	カエデ	12.25 3.25	2.50	70.2	1	部附付。
548	114 環状または長方形断面	c-67-10-c	15324	腹目	カエデ	12.20 3.30	2.40	70.5	1	

表V-49 0 B層掲載木製品 (21)

品目 番号	品名	種別	種別記号	材種	規格	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	枚数	備考
549	115 梁柱	c-6E-19-b	3853	丸木	ハンドイ	22.13 6.15 5.70	302.0	1	1Eタイプ。
550	115 梁柱片	d-6F-81-c	4022	丸木	ナナカマド?ハンドイ?	(20.40) 4.60 4.10	(206.0)	1	1Eタイプ。
551	115 梁柱	c-6F-09-b	8184	丸木	オエデ	24.50 6.20 7.00	487.4	1	1Eタイプ。
552	115 梁柱	c-6E-29-a	2134	丸木	ナナギ	28.60 6.55 5.70	422.2	1	1Eタイプ。
553	116 梁柱片	c-6E-29-d	298	丸木	コナラ	(23.70) 5.00 4.70	(313.8)	1	2点検査,Eタイプ。
554	116 梁柱	d-6E-99-d	15177	丸木	クアシダ	26.40 6.30 4.70	324.7	1	1Eタイプ。
555	116 梁柱	d-6F-81-c	3132	楡目	ヒノキ?アサナラ?オズコ?	26.50 5.00 3.60	294.0	1	1Eタイプ。
556	116 梁柱	d-6F-81-c	4016	丸木	ハンノキ	35.10 6.10 6.90	(657.0)	1	1Eタイプ。
557	117 梁柱	c-6E-29-b	14601	丸木	ハンノキ	32.10 6.35 6.20	541.0	1	1Eタイプ。
558	117 梁柱	d-6F-81-b	3186	丸木	ナナギ	30.60 5.70 5.50	474.0	1	1Eタイプ。
559	117 梁柱片	c-6F-10	15113	丸木	オエデ	(22.10) 8.00 6.50	(696.0)	1	1Eタイプ。
560	118 梁柱片	c-6F-10-c	15156	丸木	コナラ	32.90 5.90 (5.00)	(409.2)	1	1Eタイプ。
561	118 梁柱	c-6F-09-b	7861	丸木	ハンノキ	32.30 6.75 5.66	582.0	1	1Eタイプ。
562	119 梁柱	c-6F-09-a	6673	楡目	モクレン	29.70 4.80 4.80	404.0	1	2点検査,Gタイプ,トクハ,彫琢,縦筋,短脚付。
563	118 梁柱	d-6F-91-d	5308	丸木	ハンノキ	43.60 6.90 6.10	798.0	1	1Eタイプ。
564	121 梁柱片	d-6E-99-c	2486	丸木	ナナカマド	(40.00) 5.20 6.30	(366.0)	1	1Eタイプ,叩掛片。
565	120 梁柱	c-6E-09-b	1910	丸木	○オエデ	26.90 5.75 5.51	354.4	1	1Eタイプ。
566	120 梁柱	c-6E-19-d	2913	丸木	オエデ	25.70 9.40 10.40	854.0	1	1Eタイプ。
567	119 梁柱未製品	c-6F-09-b	6198	丸木	ハンノキ	25.00 9.60 5.75	501.1	1	1Eタイプ。
568	120 梁柱未製品	c-6E-09-b c-6E-09-c	1115	丸木	コナラ	31.45 7.90 8.10	751.0	1	1Eタイプ。
569	119 梁柱未製品	c-6E-19-c	669	丸木	コナラ	33.40 7.60 4.00	442.0	1	1Eタイプ?
570	121 梁柱	c-6E-19-b	1326	丸木	ハンノキ	64.70 11.00 9.90	2.8	1	1Eタイプ,樹皮。
571	122 作書台	c-6E-08-c	1141	楡目	○モクレン	16.30 9.20 2.10	280.0	1	1点検査,叩掛片,刃物痕多量あり。
572	122 作書台	d-6F-71-c	3180	楡目	カマナ	39.30 19.00 2.80	1042.0	1	1点検査,叩掛片,刃物痕多量あり,再孔あり。

V 第0 黒色上物の調査

表 V-50 0 B 磨損被木製品 (22)

目録 番号	品名	製造名称	製造地区	通称	通称番号	水廻り 製品	用途	材質	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	厚 み	厚 さ	備考
573	123	作業台	c-66-19-b	c-66-19-c	2059	造紙	ハコヤナギ			(45.40) 29.30 2.40	(1910.0)	1	4	4点検出。また破刃物痕多量あり。
574	123	作業台	c-66-38-b		13419	I/4面	トナノキ			20.30 8.40 8.70	(996.0)	1	2	2点検出。刃物痕多量あり。
575	124	作業台	d-65-08-c	d-67-00-d	2250	丸木	コナラ			(58.10) 7.40 6.60	(1520.0)	1	1	刃物痕多量あり。
576	124	作業台	d-67-81-d		3583	丸木	ハンノキ			42.10 7.00 7.40	(1399.0)	1	1	刃物痕多量あり。
577	125	水圧式炭火具燃器?	c-66-19-b		5619	扉目	ヒノキ?77スタノ?			7.55 2.35 1.10	15.2	1	1	燃焼痕?字引象?目打孔1ヶ所。
578	125	ヒキリ扉片	c-66-09-d		13382	扉底	ニレ			4.70 1.50 (1.20)	(5.3)	1	1	
579	125	ヒキリ扉片	d-67-82-a		4382	扉底	ニレ			(5.50) 1.28 1.27	(6.0)	1	1	
580	125	ヒキリ扉	c-66-09-c		19025	扉底	ニレ			8.00 1.30 1.10	7.5	1	1	
581	125	ヒキリ扉	c-66-19-c		680	扉底	ニレ			15.90 1.35 1.30	17.0	1	1	
582	125	ヒキリ扉	c-66-09-a		15160	扉底	ニレ			9.00 1.20 1.20	8.2	1	1	
583	125	ヒキリ扉	c-67-10-d		6769	扉目	スギ			7.65 1.60 1.10	7.0	1	1	
584	125	ヒキリ扉	d-66-99-d		15172	扉底	スギ 水釘:固定不可機			9.80 1.20 1.00	6.5	1	1	木釘入孔1ヶ所。
585	125	ヒキリ扉	c-66-09-d		15365	扉底	ヒノキ?77スタノ?			11.00 1.20 1.18	7.2	1	1	
586	125	ヒキリ扉	c-66-19-a		5870	扉底	スギ			14.20 1.50 1.20	14.0	1	1	
587	125	ヒキリ扉	c-66-19-c		15407	扉目	ヒノキ?77スタノ?			13.30 1.20 0.80	8.2	1	1	扉面にヒキリスタノ痕あり。
588	125	ヒキリ扉片	c-66-09-a	c-66-09-b	1102	扉底	スギ			(15.45) 1.33 1.25	(17.0)	1	1	
589	125	ヒキリ扉片	c-67-00-a		6401	丸木	アジナ			(35.70) 2.00 1.08	(76.0)	1	1	
590	125	ヒキリ扉切取部	c-66-09-d		15361	扉目	ヒノキ?77スタノ?スゴ?			11.50 1.40 1.00	13.6	1	1	ウス染斑。ウシ1ヶ所。水釘孔4ヶ所。
591	125	ヒキリ扉片	c-66-08-c		1152	扉目	ヒノキ?77スタノ?			(13.90) (2.25)	(18.7)	1	1	燃焼痕。ウシ1ヶ所。
592	126	ヒキリ扉片	c-66-18-b		15003	扉目	ヒノキ?77スタノ?スゴ?			(6.60) 1.40 1.00	(4.8)	1	1	ウシ2ヶ所?
593	126	ヒキリ扉片	c-66-09-b		15066 15373	扉目	ヒノキ?77スタノ?			(6.00) 1.90 1.30	(9.3)	1	2	2点検出。ウシ2ヶ所。
594	126	ヒキリ扉片	c-66-18-c		15004	扉目	ヒノキ?77スタノ?			(6.20) 1.30 0.70	(4.6)	1	1	ウシ1ヶ所。
595	126	ヒキリ扉片	c-66-08-c		1142	扉目	スギ?スゴ?			(15.00) 3.30 1.30	(36.0)	1	1	ウシ1ヶ所。
596	126	ヒキリ扉	c-66-09-a		2179	造紙	カワラ			15.85 3.00 1.70	53.0	1	1	ウシ1ヶ所。

表V-51 0 B層掲載木製品 (23)

原 形 品 番 号	造物名称	製法記号	造物番号 (大径/小径)	材種	断面形状	寸法 (mm)	重量 (kg)	包 合 材 種 別	備考
597	ヒキリ型片	c-66-18-b	1872	丸木	○ニガキ?	2.00 (10.30)	1.00 (21.0)	1	ウシロ合。
598	ヒキリ型切端品	c-66-28-c	15058	楡目	コナラ	5.00 15.70	2.30 130.6	1	ウシロ合。
599	ヒキリ型	c-66-28-c	15042	道産	○ハリヤギ?	6.10 20.10	1.70 129.1	1	2点接合。出付有孔部材。ウシロ合。
600	ヒキリ型片	c-66-18-c	15415	楡目	モクレン	3.00 (13.70)	3.70 (94.0)	1	ペルト出上。ウシロ合。単層の再利品。
601	伊勢	c-67-09-a	7864	楡目	○スギ	5.45 47.75	1.90 200.0	1	包合材?
602	伊勢片	d-67-91-c	5840	道産	シノノキ	4.25 (13.50)	1.65 (48.5)	1	3点中点接合。出付有孔部材。イトラ付。
603	伊勢片	c-66-09-d	1990	楡目	カワラ	4.85 (12.30)	2.25 (63.6)	1	
604	伊勢	c-66-19-a	2452	道産	カワラ	6.50 22.30	3.10 105.0	1	
605	伊勢	c-66-08-b	1145	楡目	○ヒノキ?エナギ?	3.60 15.30	2.30 20.0	1	
606	伊勢片	c-66-39-a	13393	楡目	○ヤナギ	5.20 (28.20)	2.50 (158.0)	1	5点中点接合。出付有孔部材。
607	伊勢	d-66-99-d	2805	楡目	○ニレ	3.65 31.00	3.25 161.0	1	
608	伊勢	c-66-39-d	13379	楡目	○カワラ	5.55 28.95	2.30 107.0	1	
609	伊勢	d-67-91-c	3195	楡目	ヒノキ?スギ?	4.65 24.00	2.60 140.6	1	
610	伊勢	d-67-91-a d-67-91-b	5012	丸木	ヤナギ	3.02 31.40	3.50 (180.4)	1	3点接合。
611	伊勢片	c-66-09-b	411	丸木	ハンノキ	3.30 34.30	3.35 (196.0)	1	
612	伊勢	c-66-39-d	13439	楡目	ヤナギ	6.20 28.50	3.90 161.0	1	
613	伊勢	c-66-09-b	713	楡目	ヤナギ	3.50 24.60	2.80 128.0	1	
614	伊勢	d-67-91-b	5227	楡目	○ヤナギ	2.70 26.20	6.20 147.5	1	2点接合。
615	伊勢片	c-66-37-b	14428	楡目	ハシドイ	4.50 (24.27)	1.93 (61.3)	1	2点接合。
616	伊勢	c-66-18-b	1455	楡目	○ヤナギ	5.50 28.70	2.90 114.3	1	
617	伊勢片	c-66-18-b	1518	楡目	○カバノキ	2.55 (36.90)	1.75 (68.0)	1	3点接合。
618	- 伊勢片	c-66-09-a	597	楡目	○コナラ	3.62 (4.80)	1.86 (13.0)	1	
619	伊勢片	c-67-10-a	7969	楡目	コナラ	8.00 (24.50)	3.60 (162.9)	1	
620	樺皮用排水	d-67-91-a	5009	楡目	○ヤナギ	2.55 44.20	5.50 214.3	1	5点接合。周部二股丸木材片。内面防水。

表V-52 0 B層掘削木製品 (24)

目録 番号	遺物名称	保存区	遺物番号 (水取り)	材質 産地	形状	長さ×幅×高さ (cm)	重量(g)	画像 番号	備考	
621	燧火目録木片	c-66-09-b	1078	丸木	○コナラ	(54.40) (5.50) 4.05	(546.0)	1	1内面炭化。	
622	燧火目録木片	c-67-01-b	3471	丸木	○コナラ	(97.60) (5.40) 4.00	(1100.0)	1	2点接合、内面炭化。	
623	燧火目録木片	c-67-10-c c-67-11-d	6469	丸木	○コナラ 産:ハンノキ	77.70 7.60 9.90	890.0	1	2点接合(横並び)、断面、内面炭化。	
624	燧火目録木片?	c-67-02-a	6050	丸木	○サクラ	(78.70) (4.10) 4.40	(759.0)	1	2020年6月産品未定。	
625	榑葉削片	d-67-09-c	2366	楕円	スギ	34.00	35.00 (9.40)	(786.0)	1	18点中1点炭化14点炭素、水取り調査: 曜日、炭素: 曜日・曜日 保存処理済、計測値は保存処理済の状態。
626	榑葉削片	c-66-18-c	1337	楕円	スギ?ネズコ?	(25.00) (6.90) 1.70	(188.0)	1	水打孔2 = 所の内、水打孔1 = 所。	
627	榑葉削片	c-66-18-a	14602	楕円	○スギ	(24.34) (5.40) 1.68	(126.7)	1	水打孔2 = 所。	
628	榑葉削片	d-67-01-c	3151	楕円	○スギ?	(35.10) (12.10) 2.30	(638.0)	1	2点接合(内面水打孔2本で接合)、断面付、水打孔2 = 所。	
629	榑葉削片	c-67-10-c	6763	楕円	スギ?	(30.90) (10.00) 2.00	(391.0)	1	水打孔2 = 所。	
630	榑葉削片	c-66-29-a	1638	楕円	スギ 本野: (ネズ科?)	(27.20) (7.50) 1.70	(212.3)	1	水打孔2 = 所。	
631	榑葉削片	d-67-02-b	4862	楕円	スギ 本野: (ネズ科?)	31.40 (17.40) 1.50	(549.0)	1	2点接合(内面水打孔2本で接合)、水打孔2 = 所。	
632	榑葉削片	c-67-09-b	10751	楕円	スギ 本野: (ネズ科?)	30.50 (14.90) 1.60	(575.0)	1	2点接合、水打孔2 = 所。	
633	榑葉削片	c-66-09-a c-66-09-d	1206	楕円	スギ	(13.85) (5.00) 2.00	(59.0)	1	水打孔1 = 所。	
634	榑葉削片	c-66-09-d	2555	楕円	○スギ?	(26.20) (6.12) 1.50	(104.0)	1	2点接合(水打付含む)、断面付、水打孔2 = 所の内、水打付1 = 所。	
635	榑葉または炭削片	c-67-51-c	10171 10172 10173 10174 10175	楕円	スギ 本野: (ネズ科?)	30.70 31.30 2.00	677.0	1	6点接合(水打付含む)、水打孔18 = 所の内、水打付13 = 所、水打孔12 = 所。 保存処理済、計測値は保存処理済の状態。	
636	榑葉または炭削片	c-67-00-b	9811	楕円	スギ? 本野: スギ?	(15.10) (4.30) 1.10	(38.4)	1	水打孔3 = 所。	
637	榑葉または炭削片	c-66-09-d	906	楕円	スギ	(16.30) (3.45) (1.70)	(47.8)	1		
638	榑葉または炭削片	c-67-00-b	9282	楕円	スギ?	(19.50) (3.20) 1.90	(66.0)	1	水打孔3 = 所の内、水打付1 = 所。	
639	榑葉または炭削片	c-66-09-d	1181	楕円	スギ	(22.50) (5.10) 2.30	(172.0)	1		
640	榑葉または炭削片	c-66-29-a	1237	楕円	スギ 本野: (ネズ科?)	1.60 (167.0)	(6.60)	1	2点接合(水打付含む)、水打孔2 = 所の内、水打付1 = 所、水打孔1 = 所。	
641	榑葉または炭削片	c-67-30-c	10177	楕円	スギ? 本野: (ネズ科?)	(29.10) (7.80) 1.50	(214.9)	1	水打孔2 = 所。	
642	榑葉削片	c-66-09-a d-66-09-d	2722	楕円	スギ?ネズコ?	(12.95) (2.40) 1.00	(21.9)	1		

表V-53 0日層構造木製品(25)

品 目 番号	通称名称	製法	製法 要領	構造	長さ×幅×高さ(cm)	重量(kg)	個数	備考
643 135	繊維板	c-06-09-a	2877 縦目	ヒノキアスタロトボード?	(15.04) (2.80) 1.10	(32.1)	1	
644 135	繊維板	c-07-00-a	6402 縦目	スギ?	(11.30) (5.40) 1.90	(67.0)	1	木釘孔1ヶ所。
645 135	押入板	c-07-10-b	15246 縦目	ヒノキアスタロトボード?	(27.90) (7.80) 1.52	(219.8)	1	表面ノコギリ痕あり。
646 135	押入板	4-07-01-b, 4-07-01-c	3095② 縦目	スギ? 本釘:イネ科(ササ)	30.25 (5.05) 1.60	(217.0)	1	穂田内。本釘孔1ヶ所の内、木釘孔1ヶ所。
647 136	繊維板	4-07-01-b, 4-07-01-c	3095① 縦目	スギ? 本釘:イネ科(ササ)	(29.60) (5.30) 1.40	(190.0)	1	2点接合(本釘を含む)。本釘孔1ヶ所の内、木釘孔1ヶ所。木釘付1ヶ所。
648 135	繊維板	4-07-01-d	2474 縦目	スギ? 本釘:イネ科(ササ)	(33.60) (7.00) 1.60	(235.0)	1	木釘入孔1ヶ所。
649 136	繊維板	c-06-09-d	2491 縦目	スギ?	(22.40) (5.20) 0.85	(85.4)	1	
650 136	繊維板	c-06-20-c	13491 縦目	スギ? 本釘:イネ科(ササ)	(31.90) (5.80) 1.40	(227.6)	1	木釘入孔2ヶ所。
651 136	押入板切斷品	c-06-29-d	300 縦目	スギ?	19.25 6.64 1.90	215.0	1	木釘入孔2ヶ所(両面に各1ヶ所)。
652 136	繊維板	c-07-10-b	12417 縦目	不要	(17.04) (3.31) 1.92	(71.5)	1	
653 136	押入まじり化粧板	c-06-10-b	3845 縦目	スギ? 本釘:イネ科(ササ)	17.25 (3.10) 1.53	(42.4)	1	2点接合(本釘を含む)。本釘孔2ヶ所の内、木釘付1ヶ所。
654 136	繊維板	c-07-10-c	8481 縦目	スギ? 本釘:イネ科(ササ)	(15.90) (1.15) 1.50	(24.7)	1	2点接合(本釘を含む)。本釘孔1ヶ所。
655 137	押入板	c-06-09-b	437 縦目	スギ?本ズコ?	(5.80) (3.10) 0.85	(13.0)	1	
656 137	押入板切斷品	c-07-01-a	11959 縦目	スギ?本ズコ?	6.20 3.20 1.20	18.0	1	
657 137	押入板切斷品	c-07-00-a	6542 縦目	スギ?	5.80 4.70 0.80	17.0	1	
658 137	押入板	c-07-00-b	9288 縦目	スギ?本ズコ?	9.90 4.60 1.10	44.0	1	
659 137	押入板切斷品	c-06-09-d	1121 縦目	スギ	9.20 6.60 1.30	57.0	1	
660 137	押入板	c-06-19-a	2426 縦目	スギ	(6.80) 5.90 1.25	(36.0)	1	
661 137	押入板	c-06-19-a	2591 縦目	スギ	(14.00) 2.60 0.60	(18.6)	1	671と同一個体。
662 137	押入板	c-07-31-c, c-07-31-d	10250 縦目	スギ?	9.60 7.80 1.30	63.0	1	
663 137	押入板	c-06-18-c	1462 縦目	スギ	12.40 7.10 1.00	74.4	1	1ヶ所ノコギリ痕あり。
664 137	押入板	c-06-29-d	281 縦目	スギ	(17.30) 5.70 0.95	(75.2)	1	1ヶ所ノコギリ痕あり。
665 137	押入板切斷品	c-06-19-a	4729 4773 縦目	スギ?本ズコ?	12.85 8.15 1.20	105.0	1	2点接合。
666 138	押入板	c-06-19-a	3096 縦目	スギ	24.05 2.20 0.94	33.6	1	667と同一個体?

表 V-54 0 B層鳩巣木製品 (26)

国産品 品目番号	通称名称	製材区	通称品名 大入り 数量	積層 枚数	仕様	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	積層 枚数	備考
667 138	牌羽板	c-66-19-a	3883 板目		スチ	23.60 3.70 0.90	50.8	1	1660と同一仕様?
668 138	牌羽板	c-66-09-d	242 板目		スチ	22.30 3.05 0.80	38.1	1	
669 -	牌羽板片	c-66-09-c	15030 板目		スチ	9.47 (3.72) 0.90 (26.1)		1	
670 138	牌羽板片	c-66-09-d	2705 板目		スチ?	(17.15) 2.40 0.80 (26.4)		1	ラテ板あり。
671 138	牌羽板	c-66-19-a	2992 板目		スチ	22.10 2.75 0.80 40.2		1	1661と同一仕様。
672 138	牌羽板片	c-66-19-b c-66-19-c	2061 板目		スチ	(38.30) 7.10 1.60 (270.0)		1	
673 139	枕	c-66-08-c	15063 丸木	○	サチ?	3.26 1.70 1.70 4.7		1	膠料板?
674 139	牌枕	c-66-18-b	1502 板目		ヒノキ?スチ?	3.20 3.50 3.50 25.2		1	
675 139	牌枕	c-66-08-c	2687 板目		ヒノキ?スチ?ラズコ?	3.30 3.14 3.00 17.9		1	
676 139	牌枕	c-66-09-d	2688 板目		スチ?ヒノキ?	4.40 3.20 3.10 24.7		1	
677 139	牌枕	c-66-08-c	1358 板目		ヒノキ?スチ?ラズコ?	4.10 3.23 2.87 24.4		1	
678 139	牌枕	c-66-09-d	2203 板目		ヒノキ?スチ?	4.20 3.40 3.45 33.4		1	
679 139	牌枕	c-66-18-b	532 板目		スチ	4.42 3.02 3.00 28.0		1	
680 139	牌枕	c-66-08-b	237 板目		スチ	4.80 3.00 2.85 24.6		1	
681 139	牌枕	c-66-19-b	501 板目		スチ	4.66 3.10 3.10 27.8		1	
682 139	牌枕	c-66-08-c	1146 板目		スチ	5.05 2.80 2.80 22.0		1	
683 139	牌枕	c-66-18-b	633 板目		スチ?	5.06 2.60 2.48 21.1		1	
684 139	牌枕	c-66-09-b	2266 板目		スチ	5.90 2.79 2.44 22.6		1	
685 139	牌枕	c-66-19-a	2457 板目	○	スチ	5.70 3.00 3.00 33.0		1	
686 139	牌枕	c-66-09-c	576 板目		ヒノキ?スチ?ラズコ?	5.50 3.10 3.10 34.0		1	
687 139	牌枕	c-66-19-a	2455 板目		スチ?	5.30 3.00 3.05 33.0		1	
688 139	牌枕	c-67-00-a	6541 板目		ヒノキ?スチ?	5.05 3.10 3.20 33.1		1	
689 139	牌枕	c-66-19-a	2768 板目		スチ?スチ?	5.50 3.25 3.30 38.0		1	
690 139	牌枕	c-67-00-a	6640 板目		スチ?スチ?	5.30 3.40 3.45 40.0		1	

表 V-55 0 B層揚水機木製品 (27)

国 庫 番号	運物名称	製造区	運物番号 水取り	製造 年度	測程	長さ×幅×高さ (cm)	重量 (g)	厚さ mm	備考
691 139	厚板片	c-65-19-a	5793	昭和	スチ	5.70 3.50 (1.00)	(16.7)	1	
692 139	厚板	c-65-09-d	481	昭和	スチ	6.00 3.30 3.20	41.5	1	
693 139	厚板	c-65-18-c	991	昭和	スチ	5.76 2.92 2.93	31.4	1	
694 139	厚板	c-65-19-b	2924	昭和	ホスコ?スチ?	5.70 3.40 3.45	39.2	1	
695 139	厚板	c-65-09-d	15031	昭和	七ノキ??スチ?ホスコ?	5.97 3.30 3.22	37.4	1	
696 139	厚板	c-65-18-b	1275	昭和	七ノキ??スチ?	6.20 2.75 2.62	25.3	1	
697 139	厚板	c-65-18-d	823	昭和	七ノキ??スチ?	6.20 3.00 3.05	3.1	1	穂科林?
698 139	厚板	c-65-09-d	216	昭和	スチ	6.20 2.76 2.65	19.0	1	
699 140	厚板片	c-65-19-b	2623	昭和	スチ	7.15 3.20 3.10 (47.0)	1	1	
700 140	厚板	c-65-18-b	1501	昭和	スチ	6.40 2.50 2.50	28.2	1	
701 140	厚板	c-65-09-d	1186	昭和	スチ	6.50 3.40 3.20	37.0	1	
702 140	厚板	c-65-18-d	529	昭和	スチ	7.38 3.34 3.17	44.0	1	
703 140	厚板	c-65-08-c	535	昭和	スチ	7.27 3.31 3.49	49.0	1	
704 140	厚板	c-65-18-b	811	昭和	スチ	6.90 2.90 2.90	25.6	1	穂科林?
705 140	厚板片	c-65-18-b	1294	昭和	スチ	(6.98) 3.10 3.03 (39.6)	1	1	木打入孔?あり。
706 140	厚板	c-65-18-c	1333	昭和	スチ?	7.00 3.20 3.00	44.0	1	
707 140	厚板	c-67-20-b	14266	昭和	スチ	7.00 2.92 2.93	32.5	1	べト品上。
708 140	厚板	d-65-09-c	2493	昭和	スチ	7.00 3.00 3.00	37.4	1	
709 140	厚板	c-65-18-b	1465	昭和	○七ノキ??スチ?	7.10 2.50 2.50	25.2	1	上層機包み。
710 140	厚板	c-65-09-d	2889	昭和	スチ?	7.77 3.30 3.00	47.8	1	
711 140	厚板	d-67-31-d	3027	昭和	スチ	7.77 3.33 3.06	38.2	1	
712 140	厚板	c-65-18-b	1284	昭和	七ノキ??スチ?ホスコ?	7.97 3.10 3.03	50.2	1	
713 140	厚板	c-65-18-d	527	昭和	スチ	8.30 2.73 2.99	43.0	1	
714 140	厚板	c-65-08-c	1362	昭和	スチ	8.40 2.70 2.53	28.8	1	穂科林?

表 V-56 0 B層揚木製品 (28)

調査 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	水張り 位置	材質	用途	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	画像 番号	備考
715	140 樹皮		14003		スギ		8.86 (2.76) 2.80	37.0	1	
716	- 樹皮片		14189		○スギ		(8.57) 3.54 (58.1)	(58.1)	1	1ペレット出土。
717	140 樹皮		5316		スギ?ネズミ?		8.80 3.20 3.10	64.6	1	
718	140 樹皮		15050		スギ		9.16 2.75 2.97	38.0	1	
719	141 樹皮部下片		42		スギ?		(21.75) 7.70 1.40	(117.0)	1	1個録イトラ付。
720	141 樹皮部下片		15100		ヒノキ?アサト?		(7.32) (2.90) 1.78	(20.6)	1	
721	141 樹皮物断片		12093		○スギ?ネズミ?ヒノキ?		(18.00) (3.40) 0.50	(17.0)	1	44点検合(側皮含む)、縦帯は縦帯付。
722	141 樹皮物断片		15200		ヒノキ?アサト?		(9.10) (1.42) 0.24	(2.1)	1	1クレ。水打入3.0。
723	141 樹皮物断片		15024		ヒノキ?アサト?		(13.20) (5.66) 0.20	(11.4)	1	1個録イトラ付。
724	141 樹皮物断片		5303		ヒノキ?アサト?		(44.00) 6.50 0.20	(42.7)	1	55点検合、縦帯断片付。
725	141 樹皮物断片		4515		ヒノキ?アサト?ネズミ?		(54.50) (6.90) (0.75)	(68.4)	1	側皮厚みあり、樹皮外周縁不揃、計測値は側皮厚みの値。
726	142 樹皮物断片		9699		スギ?		7.80 (4.80) 0.60	(16.9)	1	
727	142 樹皮物断片		15223		ヒノキ?アサト?		(7.58) (3.15) 0.59	(10.6)	1	
728	142 樹皮物断片		523		スギ?ネズミ?		(11.13) (2.64) 0.42	(8.0)	1	
729	142 樹皮物断片		13369		○スギ?		(16.10) (7.40) 0.60	(47.0)	1	
730	142 樹皮物断片		499		スギ		(22.75) (6.45) 0.90	(80.2)	1	1クレ。水打入1.0。
731	142 樹皮物断片		609		ヒノキ?アサト?		(16.00) 15.55 0.80	(112.0)	1	33点検合。
732	143 樹皮物断片		14089		ヒノキ?アサト? 水打:スギ		(16.20) (8.70) 0.70	(75.4)	1	2点検合(水打付含む)、クレ。生樹。水打入3.0の内の、水打付:0。
733	143 樹皮物断片		907		ヒノキ?アサト?		(17.20) (4.20) (1.00)	(42.5)	1	1クレ。
734	143 樹皮物断片		475		スギ 水打:スギ		16.05 (10.00) 0.75	(83.7)	1	2点検合(水打付含む)、クレ。生樹。水打入3.0の内の、水打付:0。
735	143 樹皮物断片		4090		ヒノキ?アサト?		16.00 (4.40) 0.70	(29.9)	1	1クレ。生樹。水打入1.0。側皮は側皮厚みの値。
736	143 樹皮物断片		909		ヒノキ?アサト?ネズミ?		(22.30) (4.00) 0.75	(55.2)	1	
737	143 樹皮物断片		714		○ヒノキ?アサト?		(8.40) (2.20) 1.25	(8.0)	1	22点検合(側皮含む)、縦帯生樹。側皮巻付。
738	143 樹皮物断片		1300		スギ?		(15.30) (5.40) 0.80	(42.2)	1	1クレ。生樹。水打入3.0。

表V-57 0日層縄文木製品(28)

図 番 号	遺物名称	表裏面	遺物番号	木取り 位置	形状 定形	機能	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備 考
739	透き出し骨透彫片	c-66-08-c	1345	縦目	スズ		(26.90) 18.60 (6.78) 1.94	(604.0)	1 シットコ型7生線並、内面彫削あり。本打孔3ヶ所の内、本打孔2ヶ所。 3ヶ所の内、本打目と楕円穴を、本打孔3ヶ所の内、本打目1ヶ所、楕円穴あり。
740	滑物彫削片	c-66-09-c	15425	縦目	ヒノキ77スナドリノキ? 本打;ヒノキ77スナドリ?		(11.10) 1.40 (10.93) 1.36	(8.3)	1 本打孔2ヶ所。
741	滑物彫削片	c-66-09-b	15281	縦目	スズ		(11.30) 1.50 (10.80) 1.46	(9.5)	1 本打孔3ヶ所。 1 本打孔3ヶ所。
742	滑物彫削片	c-67-10-b	15319	縦目	ヒノキ77スナドリノキ?スズ? 本打;針葉樹		(11.30) 1.50 (10.80) 1.46	(10.3)	1 本打孔3ヶ所。 1 本打孔3ヶ所。
743	滑物彫削片	c-66-09-c	15070	縦目	ヒノキ77スナドリ?		(10.80) 1.46 (11.98) (1.30)	(10.6)	1 本打孔7ヶ所。 1 本打孔4ヶ所の内、本打孔3ヶ所。
744	滑物彫削片	c-66-09-b	15428	縦目	スズ		(11.98) (1.30)	(9.0)	1 3ヶ所(楕円穴を含む)、本打孔3ヶ所の内、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所あり。
745	滑物彫削片	c-66-09-c	15284	縦目	ヒノキ77スナドリノキ?スズ? 本打;針葉樹		(16.30) 1.85 (19.50) 0.80	(17.5)	1 本打孔4ヶ所の内、本打孔3ヶ所。 1 本打孔6ヶ所の内、本打孔4ヶ所。
746	滑物彫削片	c-67-10-b	12581	縦目	スズ		(19.40) 1.80 (8.20) 3.10	(21.8)	1 本打孔6ヶ所の内、本打孔4ヶ所。 1 本打孔2ヶ所。
747	滑物彫削片	d-67-81-b	3868	縦目	スズ		(11.40) 2.30 (10.20) 2.80	(7.8)	1 本打孔2ヶ所の内、本打孔1ヶ所。 1 楕円穴。
748	滑物彫削片	c-66-18-b	2072	縦目	スズ		(11.39) 3.03 (10.50) 3.80	(15.6)	1 本打孔1ヶ所の内、本打孔1ヶ所。 1 本打孔1ヶ所。
749	滑物彫削片	d-66-09-d	15476	縦目	スズ		(13.50) 3.70 (16.60) 3.55	(23.6)	1 本打孔3ヶ所。 1 本打孔1ヶ所。
750	滑物彫削片	c-66-09-a	15270	縦目	ヒノキ77スナドリ? 本打;針葉樹		(15.90) 5.12 (22.25) (4.00)	(38.0)	1 本打孔1ヶ所。 1 2ヶ所(楕円穴含む)、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。
751	滑物彫削片	c-66-09-b	15432	縦目	スズ		(15.90) 5.12 (22.80) 1.60	(38.0)	1 本打孔1ヶ所。 1 本打孔3ヶ所。
752	滑物彫削片	d-66-09-c	15447	縦目	スズ		(22.90) (3.70) (15.30) (1.90)	(25.6)	1 新鋭彫削、生線並、本打孔1ヶ所の内、本打目3ヶ所。 1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔3ヶ所、楕円穴あり。
753	滑物彫削片	c-66-09-c	15374	縦目	ヒノキ77スナドリノキ? 本打;針葉樹		(10.80) 1.40 (10.80) 1.40	(20.2)	1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。 1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。
754	滑物彫削片	c-66-09-b	864	縦目	ヒノキ77スナドリ? 本打;何定不可		(10.80) 1.40 (10.80) 1.40	(20.2)	1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。 1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。
755	滑物彫削片	c-66-09-d	911	縦目	ヒノキ77スナドリ? 本打;ヒノキ77スナドリ?		(15.90) 5.12 (22.25) (4.00)	(38.0)	1 本打孔1ヶ所。 1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。
756	滑物彫削片	c-66-09-b	373	縦目	不明		(10.80) 1.40 (5.70) (3.00)	(10.2)	1 生線並。 1 生線並、本打孔1ヶ所。
757	滑物彫削片	c-66-09-c-66-09-d	585 716	縦目	スズ?ヒノキ?		(22.80) 1.60 (22.90) (3.70)	(25.6)	1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。 1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。
758	透地滑物彫削片	c-66-18-c	1422	縦目	ヒノキ		(15.30) (1.90) (10.80) (1.90)	(14.6)	1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。 1 2ヶ所(楕円穴を含む)、生線並、本打孔1ヶ所、楕円穴1ヶ所。
759	透地滑物彫削片	c-66-09-a	2178	縦目	ヒノキ77スナドリ? 本打;針葉樹		(10.80) 1.40 (5.70) (3.00)	(10.2)	1 生線並。 1 生線並、本打孔1ヶ所。
760	透地滑物彫削片	c-66-09-b	1114 1524	縦目	ヒノキ77スナドリ?		(10.80) 1.40 (5.70) (3.00)	(10.2)	1 生線並。 1 生線並、本打孔1ヶ所。
761	透地滑物彫削片	c-67-09-a	5953	縦目	スズ?		(10.80) 1.40 (5.70) (3.00)	(10.2)	1 生線並。 1 生線並、本打孔1ヶ所。
762	透地滑物彫削片	c-66-18-b	1287	縦目	スズ		(5.70) (3.00) (8.1)	(8.1)	1 生線並、本打孔1ヶ所。

表V-58 0 B 陽極被木製品 (30)

選材番号	選材名称	製品区	測物番号(木部)	選材形状	仕様	仕様	仕様	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	選材形状	備考
783	選材被木部	c-66-09-c	2501	板目	スギ777スターロ?		(17.10) (4.50) 0.80	(51.4)	1	1	生地に於ける。
784	選材被木部	c-66-19-b	5655	板目	スギ777スターロ?		24.70 (9.50) 1.70	(102.1)	1	2	1.6種水(選材含む)を裏面に於ける。裏紙を張り、裏紙張りあり。 本材は5ヶ所の内、本材入1ヶ所。
785	選材被木部	c-66-17-c	75	板目	スギ777スターロ?		7.60 10.70 0.80	56.0	1	1	本材は5ヶ所の内、本材入0ヶ所、本材1ヶ所、丸孔1ヶ所。
786	選材被木部	c-66-09-c	15285	板目	スギ 材質:イネ科(ササ)		21.20 2.50 1.50	68.6	1	1	本材入1ヶ所、本材直1ヶ所。
787	選材被木部	c-66-09-d	2881	板目	○セクレン		15.75 4.70 1.63	38.9	1	1	
788	選材被木部	c-67-20-b	6096	板目	スギ		17.50 3.50 1.25	61.0	1	1	本材は4ヶ所の内本材入1ヶ所、割削付。
789	選材被木部	c-66-09-b	369	板目	スギ?		11.60 3.11 0.80	24.0	1	1	1枚付板目。
790	選材被木部	c-66-09-b	1103	板目	ヒノキ777スターロ?		13.16 3.03 0.82	31.1	1	1	1枚付板目。
791	選材被木部	c-66-28-b	1406	板目	ケヤキ		(1.40) (3.40) 0.60	(1.0)	1	1	1口隙、内外面非塗。
792	選材被木部	c-66-08-c	946	板目	ハンノキ		(2.00) (1.90) 0.50	(1.2)	1	1	1口隙、内外面非塗地に於ける。
793	選材被木部	c-67-00-c	12075	板目	セクレン		(2.20) (2.90) 0.40	(1.2)	1	1	1口隙、内外面非塗地に於ける。
794	選材被木部	c-66-09-c	2196	板目	ブナ		(3.10) (4.80) 0.45	(4.0)	1	1	1口隙、内外面非塗地に於ける。
795	選材被木部	c-66-09-c	802	板目	ブナ		(2.90) (5.30) 0.60	(4.4)	1	1	1口隙、内外面非塗。
796	選材被木部	c-66-09-d	15582	板目	トチノキ		(3.65) 5.15 (0.60) (5.7)	(5.7)	1	1	1口隙、内外面非塗地に於ける。
797	選材被木部	c-66-09-d	2560	板目	ブナ?		(4.30) (3.20) 0.80	(3.8)	1	2	2ヶ所接合、口隙、内外面非塗地に於ける。
798	選材被木部	c-67-10	15257	板目	トチノキ		(4.70) (4.30) 1.00	(11.8)	1	1	1口隙、内外面非塗、外表面非塗。
799	選材被木部	c-66-09-d	2578	板目	ブナ		(6.00) (8.30) 0.50	(10.3)	2	2	1.6種の選材、口隙、内外面非塗、外表面非塗、外表面非塗に於ける。 計製は選材。
800	選材被木部	c-66-18-b	1464 1468	板目	イネ科(ササ)		11.90 0.90 0.80	4.0	1	1	1口隙、非塗。
801	選材被木部	c-66-09-a	2730	板目	ブナ		(14.30) (13.50) (6.20) (147.0)	(147.0)	1	1	1口隙、内外面非塗、内外面非塗に於ける。絶片多数あり。
802	選材被木部	c-66-18-d	2902	板目	トチノキ		(10.70) (7.00) (3.10) (57.0)	(57.0)	1	1	5ヶ所接合、内外面非塗、内外面非塗に於ける。絶片多数あり。
803	選材被木部	c-67-00-d	7554	板目	ブナ		(2.97) (8.88) (0.60) (13.0)	(13.0)	1	1	6ヶ所接合×3ヶ所接合と断点、内外面非塗、外表面非塗、計製は選材。
804	選材被木部	c-66-09-d	2530	板目	ハリギリ		8.40 (11.30) (3.75) (109.9)	(109.9)	1	1	1口?
805	選材被木部	c-66-18-b	2241	板目	ハリギリ		(11.03) (4.10) (3.30) (36.6)	(36.6)	1	1	
806	選材被木部	c-67-10-b	15154	板目	トチノキ		(13.55) (6.88) (1.80) (68.6)	(68.6)	1	1	1口隙。

表V-59 0日層橋載木製品(31)

国 産 品 番 号	産物名称	製法記号	連物番号	寸法(φ) mm	材種	長さ×幅×高さ(mm)	重量(kg)	個数	備考
787	146 環状容器片	c-67-00-d	7131	環目	ハコヤナギ	(20.50) (8.05)	3.05 (290.0)	1	3点接合。
788	146 環状容器片	c-66-29-d	214	環目	カエデ	(25.00) 19.00	3.15 (640.0)	1	
789	147 舟子片	c-66-29-a c-66-29-b	1835 1848 2339	環木	カエデ	46.60 (6.60)	7.20 (68.5)	1	5点接合。保存処理後丸鋸。計測前は保存処理後の値。
790	147 舟子片	c-66-09-b	1092	環目	モクレン	(16.85) (4.05)	2.70 (34.0)	1	
791	147 舟子片	c-66-09-c	1604	環目	ハリギリ	(8.90) (4.85)	(2.25) (19.2)	1	
792	147 舟子容器片	c-66-29-a	15041	環木	モクレン	(3.60) 1.90	(1.35) (3.2)	1	
793	147 舟子容器片	c-66-09-c	15430	環木	モクレン	(5.10) (2.45)	(1.35) (3.1)	1	4点接合。302と同一個体。
794	147 舟子容器片	c-66-27-b	13764	環木	カエデ	(5.70) (4.20)	(1.05) (9.9)	1	
795	148 舟子容器片	c-66-09-d	500	環木	カエデ	(7.50) (2.80)	(1.70) (7.1)	1	2点接合。
796	148 舟子容器片	c-66-18-c	15412	環木	モクレン	(4.95) (2.60)	(1.60) (5.6)	1	1798と同一個体。
797	148 舟子容器片	c-66-09-d	1948	環木	モクレン	(5.10) (6.05)	(1.65) (10.9)	1	
798	148 舟子容器片	c-66-18-c	1865	環木	モクレン	(7.15) (2.85)	(2.20) (10.7)	1	1798と同一個体。
799	148 舟子容器片	c-66-19-b	1878	環木	モクレン	(8.30) (4.90)	(3.90) (25.3)	1	3点中央光部。
800	148 舟子容器片	c-66-09-c	573	環木	モクレン	(9.90) (4.70)	(3.30) (26.0)	1	
801	148 舟子容器片	c-66-09-d	626	環木	モクレン	(8.45) (6.55)	(3.40) (34.0)	1	2点接合。
802	148 舟子容器片	c-66-09-c	15004	環木	モクレン	(8.20) (3.90)	(2.60) (12.4)	1	2点接合。792と同一個体。
803	148 舟子容器片	c-66-09-b	594	環木	モクレン	(8.70) (5.90)	(2.10) (17.0)	1	
804	149 舟子容器片	c-66-19-b	4682	環木	カエデ	(34.10) (2.90)	(1.50) (67.2)	1	3点接合。側面付。
805	149 舟子容器片	c-67-10-a	15199	環木	モクレン	(6.25) (1.90)	0.80 (3.9)	1	側面付。
806	149 舟子容器片	c-66-28-b	15395	環木	ニレ	(5.90) 2.40	1.25 (11.7)	1	側面付。
807	149 舟子容器片	c-66-29-a	1465	環目	カエデ	(7.20) 3.35	1.35 (15.6)	1	側面付。
808	149 舟子容器片	c-66-08-c	1600	環目	モクレン	(5.70) 4.45	1.50 (18.4)	1	2点接合。側面付。
809	149 舟子容器片	c-66-19-b	4714	環底	カエデ	(3.80) 2.40	2.20 (6.9)	1	2点接合。

V 第0黒色上綱の調査

表V-60 0日産綿織木製品 (32)

番 号	品名	通称名称	製造地区	通称番号 (取付 位置)	取付 位置	取付 位置	長さ×幅×厚さ (mm)	質量 (g)	厚さ (mm)	備考
810	149	向子40H?	c-67-10-d	8968	底目	モラレン	(8.50) (4.50) (1.70)	(30.6)	1	
811	150	織メニチユ?	c-66-09-b	15291	底目	ヒノキ??スナロ?	7.95 1.70 0.20	2.2	1	
812	150	織片	c-66-18-b	2240	底目	ヒノキ??スナロ?本スゴ?	(6.78) 2.45 0.30	(2.9)	1	中央あり。
813	150	織片	c-66-08-c	1128	底目	ヒノキ??スナロ?本スゴ?	(11.70) 2.10 0.20	(10.0)	1	22点検査。
814	150	織	c-66-19-a	5794	底目	ヒノキ??スナロ?本スゴ?	11.90 1.45 1.10	2.8	1	
815	150	織片	c-66-18-b	1454	底目	ヒノキ??スナロ?	13.30 (2.10) 0.40	(3.8)	1	
816	150	織片	c-66-09-d	15382	側目	ヒノキ??スナロ?	(13.00) 1.75 0.25	(3.4)	1	
817	150	織	d-67-91-b	5023	底目	スゴ?ヒノキ?	14.70 2.50 0.30	3.9	1	22点検査。
818	150	織片	c-67-30-c	15209	底目	ヒノキ??スナロ?	(15.80) 1.50 0.35	(4.0)	1	
819	150	織片	d-66-39-c	2221	底目	ヒノキ??スナロ?	(19.10) 1.74 0.80	(16.9)	1	
820	150	織	d-67-82-a	4925	底目	本スゴ?ヒノキ?	21.00 2.26 0.39	9.1	1	22点検査。
821	150	織片	c-66-28-a	960	底目	カエド	(22.85) (4.50) 1.95	(121.4)	1	
822	151	織片	c-66-18-c	670	底目	ヒノキ??スナロ?	(24.00) 4.90 1.50	(103.0)	1	
823	151	織	d-66-59-c 4-67-59-d	5960	底目	ヒノキ??スナロ?	24.65 5.40 0.90	54.6	1	酸化部分減点?
824	151	織片	c-66-19-a	4742	底目	ヒノキ??スナロ?	(27.10) 3.80 (1.70)	(946.0)	1	
825	151	織片	c-67-01-a	6483	底目	トネリコ	28.28 (5.00) 2.38	(151.0)	1	22点検査。
826	152	織	d-67-91-a	3025	底目	カエド	28.66 5.45 2.00	122.4	1	22点検査。
827	152	織片	c-66-19-d	2618	底目	ヤナギ	(30.30) 5.60 1.90	(146.8)	1	
828	152	織片	c-66-19-b	5483	底目	ヒノキ??スナロ?	(12.20) 5.55 0.56	(22.5)	1	1トクハ付。
829	152	織片	d-66-99-d	2900	底目	ヒノキ??スナロ?	(12.82) 4.60 0.66	(18.6)	1	22点検査。
830	152	織片	c-67-00-a	7199	通底	ヒノキ??スナロ?	(14.70) 4.00 (0.70)	(28.5)	1	1トクハ付。
831	152	織	d-66-09-c	2813	通底	ヤナギ	18.54 4.10 1.45	48.2	1	
832	153	織片	c-66-08-b	1606	底目	スゴ?	42.10 (6.40) 0.50	(60.0)	1	
833	153	織片	c-66-09-b	147	底目	コナラ	(48.30) 4.10 1.50	(114.0)	1	

表 V-61 0 日層揚載木製品 (33)

品目(産品) 品目番号	道物名称	製法	規格	規格 寸法	規格 寸法	規格 寸法	規格 寸法	規格 寸法	規格 寸法	備考	
834 154	厚片	d-67-91-c	5005	厚目	スチ	20.65	0.30	4.90	(16.7)	1	樹皮層の厚さの差あり。
835 154	厚片	c-66-09-d	2733	通底	トキリコ	(11.75)	5.86	1.30	(44.4)	1	
836 154	厚片	c-66-18-c	1863	厚目	モトレン	(13.30)	2.65	0.80	(17.0)	1	
837 154	厚片	c-66-19-b	4069	通底	キハヤ?	(12.25)	4.30	0.90	(24.0)	1	
838 154	厚片	c-67-31-b	15397	厚目	ヒノキ?アサナロ?	(5.20)	2.40	(0.35)	(3.4)	1	製材材。
839 154	厚片	c-66-28-b	1226	厚目	スチ	(11.42)	(4.50)	(0.90)	(27.0)	1	
840 154	厚片	d-67-91-b	5328	厚目	○スチ	(33.80)	6.10	1.95	(217.4)	1	
841 154	厚片	c-66-29-a	1839	通底	スチ	27.05	5.15	2.00	(188.0)	1	
842 155	厚片	d-66-99-c	2542	1/4割	アサナロ?	(16.75)	0.70	0.65	(4.0)	1	
843 155	厚片	c-66-28-d	844	厚底	ヒノキ?アサナロ?	17.00	0.70	0.60	4.4	1	
844 155	厚片	d-67-81-c	3250	厚底	スチ	17.30	0.66	0.75	3.6	1	
845 155	厚片	c-66-09-b	771	厚底	ヒノキ?アサナロ?	17.90	0.60	0.50	4.7	1	
846 155	厚片	c-66-09-d	2879	厚底	アサナロ?	19.10	0.65	0.45	4.0	1	
847 155	厚片	c-66-18-b	15456	厚目	ヒノキ?アサナロ?	19.00	0.70	0.40	4.5	1	
848 155	厚片	d-67-81-c d-97-91-d	5309	厚底	ヒノキ?アサナロ?	20.05	0.90	0.75	7.6	1	
849 155	厚片	d-67-81-b d-97-81-c	3998	厚底	スチ?木スチ?	18.60	0.58	0.60	5.0	1	
850 155	厚片	c-66-18-b c-66-09-c	14803	厚底	ヒノキ?アサナロ?ヒノキ?	18.60	0.60	0.55	4.7	1	
851 -	厚片	c-66-09-b	1104	厚底	ヒノキ?アサナロ?	(19.50)	0.78	0.70	(7.0)	1	
852 155	厚片	c-66-19-d	2445	厚底	スチ	20.15	0.60	0.50	5.2	1	
853 155	厚片	c-66-19-a	5901	厚底	スチ?木スチ?ヒノキ?	20.35	0.70	0.64	7.0	1	
854 155	厚片	c-66-09-c	747	厚底	ヒノキ?アサナロ?	27.00	0.80	0.90	8.7	1	
855 155	厚片	d-67-81-b	3983	厚底	スチ	20.80	0.68	0.70	6.0	1	22層結合。
856 155	厚片	c-66-18-a c-66-18-b c-66-18-c	1293	厚底	ヒノキ?アサナロ?	(21.20)	0.76	0.55	(5.2)	1	
857 155	厚片	c-66-09-d	15369	厚目	ヒノキ?アサナロ?	20.90	0.70	0.50	4.6	1	

V 第0黒色土層の調査

表V-62 0 B層縄文木製品 (34)

目録 番号	器種 名	遺物番号	出土地	器種	測定 方法	測定 位置	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	厚さ mm	備考
859	155 両口罎	2049	d-66-99-c	スギ			21.00 0.75 0.60	5.9	1	
859	155 両口罎	3076	c-66-09-a	スギ			21.16 0.68 0.68	5.8	1	
860	155 両口罎	1211	c-66-09-c	スギ			21.10 0.80 0.60	7.3	1	
861	155 両口罎	2097	c-66-18-b	スギ			21.50 0.70 0.68	7.0	1	
862	155 両口罎	1421	c-66-18-c	ヒノキ?アサトコ?			21.50 0.70 0.60	4.7	1	
863	155 両口罎	1212	c-66-09-c	スギ			21.90 0.80 0.80	9.7	1	
864	155 両口罎	5259	d-67-91-b d-67-91-c	ヒノキ?アサトコ?			24.00 0.90 0.80	7.6	1	
865	155 両口罎	4988	d-67-91-a d-67-91-b	スギ?木スコ?ヒノキ?			21.80 0.70 0.60	6.0	1	
866	155 両口罎	547	c-66-09-c	スギ			22.00 0.90 0.80	8.0	1	
867	156 両口罎	5926	d-67-91-d	ヒノキ?アサトコ?			22.30 0.70 0.70	9.0	1	
868	156 両口罎	1365	c-66-09-c	ヒノキ?アサトコ?			(22.40) 0.73 0.56 (5.4)	1	1	
869	156 両口罎	1196	c-66-09-d	スギ			22.60 0.70 0.50	5.8	1	22点検石。
870	156 両口罎	15243	d-66-99-d	ヒノキ?アサトコ?			22.90 0.90 0.90	2.5	1	自然乾燥...計測時は乾燥後の値。
871	- 両口罎片	4952	c-67-02-a c-67-02-b	ヒノキ?アサトコ?			(22.20) 0.70 0.60 (6.2)	1	1	
872	156 両口罎	1154	c-66-09-c	ヒノキ?アサトコ?			23.00 0.95 0.70	8.0	1	
873	156 両口罎	15442	c-66-09-c c-66-09-d	ヒノキ?アサトコ?			24.00 0.80 0.70	9.9	1	
874	156 両口罎	806	c-66-18-b	スギ?			23.90 0.90 0.80	8.4	1	
875	156 両口罎	2774	c-66-19-a	スギ			23.80 0.70 0.60	7.0	1	
876	156 両口罎	2557	c-66-09-d	スギ?ヒノキ?			24.00 0.85 0.63	7.0	1	
877	156 両口罎	15355	c-67-10-c	アジサイ			24.10 0.80 0.90	10.7	1	
878	156 両口罎	2568	c-66-09-a	スギ			24.00 0.75 0.76	7.0	1	
879	156 両口罎	2743	c-66-19-a	スギ			25.40 0.80 0.80	9.0	1	
880	156 両口罎	15443	d-66-99-d	ヒノキ?アサトコ?			25.40 0.90 0.60	9.9	1	
881	156 両口罎	1350	c-66-09-c	スギ?ヒノキ?木スコ?			25.38 0.70 0.60	7.5	1	

表V-63 0日層掲載木製品(35)

品 番	品名	通物名称	製造国	規格	寸法 (mm)	材質	仕様	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	厚 み 材 質	備考
882	156	両口蓋	271	板紙	スチレノキ?	26.10	0.80	0.75	10.0	1	
883	156	両口蓋	1153	板紙	スチ	25.90	0.70	0.65	5.8	1	
884	156	両口蓋	2710	板紙	スチ	27.20	0.75	0.75	9.0	1	
885	156	両口蓋	2878	1/4層	アジサイ	28.50	0.80	0.80	14.0	1	
886	156	両口蓋片	1356	板紙	ヒノキ?	(32.42)	1.14	1.00	(22.8)	1	
887	157	片口蓋	2882	板紙	スチ	17.10	0.70	0.70	6.0	1	
888	157	片口蓋	15033	板紙	○ヒノキ?アサロ?	17.10	0.80	0.70	7.5	1	
889	157	片口蓋	5584	板紙	ヒノキ?アサロ?	17.20	0.75	0.54	5.0	1	
890	157	片口蓋	1202	板紙	スチ	18.20	0.70	0.70	5.1	1	
891	157	片口蓋	4402	板紙	スチ?	18.40	0.70	0.64	5.0	1	
892	157	片口蓋	1994	板紙	スチ	18.60	0.70	0.60	4.6	1	
893	157	片口蓋	12017	板紙	アジサイ	19.80	1.00	0.90	11.0	1	
894	157	片口蓋	3104	板紙	スチ	20.30	0.80	0.70	8.0	1	
895	157	片口蓋	2076	板紙	スチ	20.20	0.70	0.53	6.0	1	
896	157	片口蓋	1993	板紙	アジサイ	20.60	0.70	0.70	5.6	1	
897	157	片口蓋	4159	板紙	アジサイ	20.70	0.90	0.38	5.0	1	
898	157	片口蓋	4827	板紙	ヒノキ?アサロ?	20.70	0.73	0.60	6.2	1	22.8と適合。
899	157	片口蓋	2871	板紙	アジサイ	21.90	0.70	0.65	6.0	1	
900	157	片口蓋	4444	板紙	○スチ?	22.40	0.85	0.76	9.0	1	
901	157	片口蓋	5249	板紙	ヒノキ?アサロ?	23.20	0.90	0.70	7.5	1	22.8と適合。
902	157	片口蓋	3153	板紙	スチ	25.70	0.90	0.80	12.0	1	
903	157	片口蓋片	14363	板紙	アジサイ	(26.50)	0.85	0.76	(11.0)	1	1.ベルト取上。
904	157	片口蓋	6029	1/4層	アジサイ	26.90	0.90	0.70	12.0	1	
905	157	片口蓋	7596	1/2層	アジサイ	27.20	0.90	0.80	12.2	1	

表V-64 0日層褐織木製品(36)

調査 番号	図号	遺物名称	発掘区	遺物番号	採取 位置	断面 位置	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 数	備考		
906	157	片口渚	c-66-09-a	2833	1/A層		コナラ	27.90	1.00	0.80	11.0	1	
907	157	片口渚	d-67-02-a	15479	板底		ヒノキアサギノキスゴ?	28.30	1.20	0.90	18.2	1	22点接合。
908	158	片口渚	c-66-08-c	11380	板底		ヒノキアサギノキスゴ?	28.10	0.90	0.75	14.0	1	
909	158	片口渚	c-66-09-b	1093	板底		スギ	28.40	0.90	0.90	16.1	1	
910	158	片口渚	c-66-09-b	1611	板底		アジサイ	30.30	1.00	0.90	17.0	1	
911	158	片口渚	c-66-09-b	659	板底		アジサイ	30.40	0.80	0.70	10.9	1	22点接合。
912	158	片口渚	c-66-19-a	4154	1/G層		イチイ	30.70	0.93	0.86	12.0	1	
913	158	片口渚	c-66-19-a	4224	1/A層		アジサイ	37.00	1.10	1.35	13.0	1	
914	158	片口渚	d-67-02-a	4371	板底		スギ?	31.60	1.24	0.80	13.0	1	22点接合。
915	158	片口渚	d-67-01-b	3978	1/G層		アジサイ	31.90	1.10	1.10	13.0	1	22点接合。
916	158	片口渚	d-67-01-b	4002	板底		スギ	32.20	1.10	1.60	18.0	1	
917	158	片口渚	c-66-09-b	226	板底		イチイ	32.40	1.25	0.90	25.0	1	
918	158	片口渚	c-67-10-b	8938	丸木		アジサイ	32.80	0.90	0.80	17.5	1	22点接合。
919	159	片口渚	d-67-02-b	4962	板底		ヒノキアサギノキスゴ?	32.85	1.20	1.00	27.5	1	
920	-	片口渚片	d-66-09-c	1996	板底		スギ	(32.60)	0.85	0.75	(18.0)	1	
921	159	片口渚	d-67-01-b	3101	板底		スギ	33.80	1.00	0.75	17.0	1	
922	159	片口渚片	c-67-00-d c-67-10-a	7988	1/A層		アジサイ	(34.60)	1.20	0.90	(21.8)	1	1層部埋付。
923	159	片口渚	c-66-09-c	2213	1/A層		アジサイ	35.90	1.00	0.90	19.0	1	22点接合。
924	159	片口渚	c-66-09-d	2575	1/A層		アジサイ	36.90	0.90	0.90	19.5	1	
925	159	片口渚片	c-67-01-b	10329	1/A層		アジサイ	(37.30)	1.00	0.90	(20.0)	1	
926	159	片口渚	c-67-01-b	10335	1/A層		○アジサイ	40.30	1.10	1.10	32.0	1	
927	159	片口渚	c-67-00-d	7454	丸木		アジサイ	40.90	1.30	1.10	35.3	1	
928	159	片口渚片	c-67-02-d	10284	1/A層		アジサイ	(40.75)	0.96	0.89	(23.0)	1	
929	159	片口渚	d-67-02-a	15343	半割		アジサイ	42.76	1.02	0.70	23.5	1	

表V-65 0 B層掲織木製品 (37)

品名 (品名・品番)	造物名称	製造国	植物番号 (木種/産地)	樹高 (m)	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	樹皮 割合	備考
900	160 細巾片	c-65-10-a	805 榎	縦	ヒノキ? スナゴ?	(12.90) 0.50	0.40 (1.5)	1	
931	160 細巾片	c-65-10-b	1292 榎	縦	ヒノキ? スナゴ?	(20.40) 0.65	0.50 (3.3)	1	
932	160 丸巾	c-65-10-b	2135 榎	縦	スギ	20.40 0.65	0.45 5.0	1	
932	- 丸巾片	c-65-10-b	2422 榎	縦	アジサイ	(22.10) 0.90	0.80 (9.0)	1	
934	- 丸巾片	c-65-10-d	1499 榎	縦	カマラ	(31.80) 0.90	0.75 (10.0)	1	
935	160 丸巾	c-65-10-c	2099 榎	縦	コナラ	28.20 0.90	0.70 11.0	1	
936	160 丸巾	c-65-10-a	3756 1/4割	縦	イチイ	28.50 0.93	0.80 12.0	1	
937	160 丸巾片	c-67-32-d	10382 丸木	縦	ハギ	(31.40) 1.15	1.12 (25.0)	1	
938	160 丸巾	d-65-99-d	2502 榎	縦	スギ	34.90 1.00	1.00 24.0	1	
939	160 丸巾片	c-65-10-b	4094 丸木	縦	イエエングジュ	(34.80) 1.96	1.20 (12.0)	1	22点接合。
940	- 細巾巾片	c-65-10-b	3431 榎	縦	スギ	(14.70) 0.90	0.60 (5.7)	1	35点接合。
941	160 細巾巾	c-65-09-b	1777 1/2割	縦	アジサイ	18.10 1.00	0.65 8.0	1	
942	160 細巾巾	d-67-81-b	3166 榎	縦	スギ	18.70 0.60	0.35 3.0	1	22点接合。
943	160 細巾巾	c-65-09-b	151 榎	縦	スギ?	20.50 1.60	0.90 18.0	1	
944	160 細巾巾	c-65-18-c c-65-18-d	2911 湯	縦	スギ	25.10 1.05	0.80 13.0	1	
945	160 細巾巾片	c-67-00-d	6676 榎	縦	スギ? スナゴ? ヒノキ?	(44.95) 1.50	0.70 (31.0)	1	28点接合。
946	160 細巾巾片	c-65-09-c	1946 榎	縦	サト	(38.15) 1.15	0.75 (24.0)	1	
947	160 細巾巾	c-65-09-a	2869 榎	縦	イチイ	33.50 1.20	0.70 18.0	1	
948	161 細巾巾	d-65-99-b d-67-30-a	2227 榎	縦	ヒノキ?	31.05 1.25	1.05 28.0	1	何層炭化。
949	161 細巾巾片	c-65-10-b	2078 榎	縦	スギ? スナゴ?	(24.85) 1.40	0.90 (16.4)	1	25点接合。
950	161 筒先巾	c-65-09-c	1361 榎	縦	アジサイ	30.55 1.00	0.88 12.2	1	25点接合。縦開付。
951	161 筒先巾片	c-65-09-c	1384 1/4割	縦	アジサイ	(29.72) 1.00	0.80 (10.5)	1	
952	161 筒先巾	c-65-09-c c-65-18-b	1799 榎	縦	スギ	27.60 0.80	0.90 12.0	1	
953	161 筒先巾	c-65-10-d	2299 榎	縦	ヒノキ? スナゴ?	25.70 0.80	0.80 8.4	1	

表V-66 0 B層掘堀木製品 (38)

図 番	圖号	遺物名	発掘区	遺物番号・穴号	位置	種類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	備 考	番号
564	161	両孔半	c-67-10-b	12491	痕底	フジヤイ	17.40 0.90 0.54	4.9	1	1
565	161	両孔半片	c-66-08-c	1164 1165	痕底	○ヒノキ?フスタノ?	33.30 1.30 0.60	14.2	1	33点層合。
566	161	両孔半	c-66-08-c	1148	痕底	○スギ	34.06 1.23 0.54	14.7	1	1
567	161	両孔半	c-66-08-c	1380	痕底	スギ?スギ?	34.65 0.99 1.10	17.5	1	1
568	161	両孔半片	c-67-02-a	3406	痕底	フジヤイ	(40.00) 1.13 0.79	(20.0)	1	33点層合。
569	161	両孔半	d-66-09-c	1896	痕底	フジヤイ	42.25 1.10 0.75	21.0	1	22点層合。
570	-	平角半片	c-66-19-d	2420	痕底	スギ	(13.50) 1.20 0.75	(10.0)	1	1
581	162	平角半	c-66-18-c	1434	痕底	ヒノキ?フスタノ?	14.90 1.20 0.60	4.7	1	1
582	162	平角半	d-66-09-d	2504	痕底	スギ	19.15 1.00 0.60	9.0	1	1
583	162	平角半	c-67-00-a	706	痕底	コナラ	19.65 0.90 0.50	5.0	1	22点層合。
584	162	平角半	c-66-18-b	1357	痕底	スギ	19.80 8.50 0.50	5.2	1	1
585	162	平角半片	c-66-08-c	1354	痕底	ヒノキ?フスタノ?	(21.30) 1.40 0.70	(16.3)	1	1
586	162	平角半片	c-66-09-b	941	痕底	○ヒノキ?フスタノ?	(22.46) 1.40 0.80	(16.0)	1	1
587	162	平角半	c-66-19-a	1891	痕底	ヒノキ?フスタノ?	24.25 1.00 0.60	9.8	1	1
588	162	平角半	d-67-81-d	3375	痕底	スギ	25.70 0.98 0.56	9.0	1	22点層合。
589	162	平角半	c-66-29-b c-66-29-a	1419	痕底	ヒノキ?フスタノ?	27.60 1.20 0.80	16.6	1	1
570	162	平角半片	c-66-19-a c-66-19-b	4790	痕底	イチイ	(27.35) 1.05 0.60	(12.5)	1	30点層合。
571	162	平角半	c-66-19-b	10053	痕底	ヒノキ?フスタノ?	28.40 1.00 0.84	24.5	1	1
572	162	平角半片	c-67-01-d	15196	痕底	ヒノキ?フスタノ?スギ?	(29.00) 1.40 0.70	(14.2)	1	1
573	162	平角半	d-67-81-d	3377	痕底	スギ	29.10 1.00 0.78	15.2	1	1
574	162	平角半	c-66-30-b c-66-28-c	13743	痕底	スギ	29.55 1.00 0.60	13.1	1	22点層合。
575	162	平角半	c-66-09-b	149	痕底	○スギ?ヒノキ?	30.40 1.40 0.70	19.0	1	1
576	162	平角半片	c-66-19-d	694	痕底	スギ	(34.30) 1.30 0.60	(14.4)	1	22点層合。
577	162	平角半片	c-66-09-d	2595	痕底	スギ	(34.10) 1.83 1.10	(35.1)	1	1

表V-67 0日層楊木製品(38)

国 産 品 番 号	産物名称	産別区分	産物番号	木製り 産品	種類	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	個 数	備考
978 183	平角半	c-66-19-b	3657	板目	イヌエングジュ	37.30 2.01 0.90	49.0	1	
979 183	平角半	c-66-29-d	15466	板目	ヒノキ?スタロ?	38.90 1.10 0.50	15.9	1	
980 183	角半片	c-67-10-b	13314	板底	ヒノキ?スタロ?ノキ?スタロ? 木釘:ヒノキ釘	(16.06) (1.20)	1.06	(18.2)	1 木釘孔は○所の外、木釘入1ヶ所。板底表再利用。
981 183	端角半	d-67-72-a	4507	板底	ヒノキ?スタロ?スタロ?	18.90 0.60 0.50	2.7	1	
982 -	角半片	c-66-29-b	1477	1/4割	アジサイ	(20.80) 1.05 0.90	(10.0)	1	
983 183	角半	c-66-19-a	5556	1/4割	アジサイ	21.48 1.02 1.01	13.0	1	
984 183	角半	d-66-99-c	2220	板底	ヒノキ?スタロ?	22.70 0.98 0.90	11.6	1	
985 183	角半	c-66-09-b	2171	板目	ヒノキ?スタロ?	22.50 1.20 0.95	14.0	1	
986 183	角半	c-66-29-a	1837	板目	スギ	22.85 1.25 0.85	14.0	1	
987 183	角半	c-66-19-a	2580	板目	○スギ?ヒノキ?	23.60 1.50 1.00	20.0	1	
988 183	角半片	c-66-09-a c-66-09-d	2567	板目	スギ	(23.24) 1.10 0.85	(16.5)	1	
989 183	角半	c-66-09-b	725	1/4割	アジサイ	25.20 0.90 0.90	13.2	1	
990 183	角半	d-67-91-a	5832	板目	ヒノキ?スタロ?	25.90 0.90 0.75	2.3	1	自然乾燥。計測値は乾燥後の値。
991 183	角半	d-67-91-b	5343	板目	ヒノキ?スタロ?	27.60 1.10 0.70	11.2	1	22点検査。
992 183	角半片	d-67-81-c	4008	板底	スギ	(29.00) 1.57 1.06	(14.0)	1	
993 183	角半片	c-66-19-a	5566	板目	○ヒノキ?スタロ?	(27.75) 1.13 1.12	(23.0)	1	
994 183	角半片	c-67-31-a	10362	1/4割	アジサイ	(27.80) 0.95 1.20	(15.2)	1	
995 164	角半	c-66-19-b	2627	板底	スギ	32.90 1.20 1.20	20.2	1	
996 164	角半片	c-66-09-c	1381	板目	ヒノキ?スタロ?	(32.50) 0.90 0.70	(12.1)	1	22点検査。
997 164	角半	c-66-19-c	1499	板底	スギ	35.15 1.05 0.75	20.0	1	
998 164	角半	d-67-81-c	3561	板底	スギ?ヒノキ?スタロ?	56.80 1.24 1.10	57.0	1	
999 164	板孔部(片面)部材	c-66-19-c	1857	板目	アジサイ	(11.15) 1.50 0.41	(5.6)	1	22点検査。
1000 164	板孔半角半	c-67-09-a	366	板目	ハリギヤ	23.35 0.90 0.42	7.0	1	22点検査。
1001 164	板孔半角半片	c-66-29-d	542	板目	スギ?	(21.23) 2.12 0.85	(23.0)	1	

V 第0 黒色土層の調査

表V-68 0 B層焼燼木製品 (40)

品目 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	水取り 状態	材質	種類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	形状 照片	備考
1002	104 柱孔丸串	c-67-91-a	5186	1/4層	アジサイ	アジサイ	33.00 1.00 0.80	14.4	1	柱孔内。
1003	104 挟付角串片	c-66-09-c	15424	痕証	アジサイ	アジサイ	(7.52) 1.00 1.10	(5.6)	1	痕証内。
1004	104 埋込挟付角串状製品片	c-66-19-c	15438	1/4層	ヤマズミ?ハイノキ?	ヤマズミ?ハイノキ?	(19.40) 0.93 0.88	(9.3)	1	22点埋込。
1005	104 埋込角串状製品	c-66-09-a	2668	痕口	イチイ	イチイ	22.80 5.70 0.82	7.6	1	
1006	- 三角串片	c-66-18-c	2094	痕口	コナラ	コナラ	(17.65) 1.00 0.80	(8.0)	1	
1007	105 三角串	c-66-09-a c-66-09-d	2096	1/4層	アジサイ	アジサイ	19.60 0.70 0.60	6.0	1	
1008	105 三角串	c-66-19-b	4101	1/5層	○ハイノキ?	○ハイノキ?	22.60 1.02 1.05	12.0	1	
1009	105 三角串片	c-66-09-d	1951	1/4層	コナラ	コナラ	(24.80) 1.00 1.00	(10.9)	1	
1010	105 三角串片	c-66-09-c	586	1/4層	イボタノキ?	イボタノキ?	(30.70) 1.40 1.10	(25.0)	1	
1011	105 三角串	c-66-09-c	2190	1/6層	タフ	タフ	32.20 1.10 0.90	16.0	1	
1012	105 平割串片	c-66-09-c	927	半割	ハイノキ	ハイノキ	(32.70) 1.70 1.40	(54.0)	1	
1013	105 平割串片	c-66-99-d	2659	1/2層	アジサイ	アジサイ	(27.40) (1.66) (1.25)	(32.4)	1	
1014	- 平割串片	c-66-09-d	592	半割	ヤナギ	ヤナギ	(20.10) 1.55 0.80	(14.0)	1	22点埋込。
1015	105 平割串片	c-66-19-a	3801	道証	スギ?	スギ?	(22.80) 1.55 0.70	(13.2)	1	
1016	105 平割串片	c-67-10	15116	半割	○アジサイ	○アジサイ	(36.40) 1.20 0.90	(26.1)	1	
1017	105 長串状製品片	c-67-81-b	3971	痕証	スギ	スギ	(65.60) 1.10 0.95	(44.0)	1	
1018	105 長串状製品片	c-66-19-d	2393	痕口	スギ	スギ	(97.50) 1.20 0.70	(54.7)	1	
1019	105 長串状製品片	c-66-19-d	2309	痕証	スギ	スギ	(79.90) 1.10 1.00	(43.3)	1	
1020	106 簀竹串	c-66-19-d	7257	1/4層	イネ科(ヤナギ)	イネ科(ヤナギ)	8.70 0.85 0.30	1.0	1	
1021	106 簀竹串片	c-66-20-d	15466	1/5層	イネ科(ヤナギ)	イネ科(ヤナギ)	(8.75) 0.55 0.20	(0.6)	1	
1022	106 簀竹串片	c-66-19-d	14799	半割	イネ科(ヤナギ)	イネ科(ヤナギ)	(14.00) 1.50 0.50	(3.8)	1	
1023	106 簀竹串片	c-66-20-d	2113	1/2層	イネ科(ヤナギ)	イネ科(ヤナギ)	(11.00) 1.15 0.60	(4.6)	1	
1024	106 簀竹串片	c-67-00-a	15334	半割	イネ科(ヤナギ)	イネ科(ヤナギ)	(12.90) 1.75 0.90	(10.0)	1	
1025	106 簀竹串片	c-66-18-b	15294	半割	イネ科(ヤナギ)	イネ科(ヤナギ)	(21.90) (1.30) (0.40)	(4.6)	1	30点埋込。土層調査は都定値。

表 V-69 0 B 層織木製品 (41)

品目 番号	品名	規格	製造番号	形状	単位	材質	長さ×幅×厚さ (mm)	重量 (g)	厚さ (mm)	備考
1025	106 滑竹巾	c-66-09-d	15073	平割	枚	イネ科(中竹)	8.50 2.30 0.70	5.3	1	
1027	106 滑竹巾片	c-66-10-b	15066	平割	枚	イネ科(中竹)	(11.40) (1.05)	(5.0)	1	
1028	106 滑竹巾片	c-67-00-a	15190	平割	枚	イネ科(中竹)	(12.70) 1.30 0.50	(5.4)	1	2点接合。
1029	106 滑竹巾片	c-66-30	15080	1/4割	枚	イネ科(中竹)	(14.50) 0.95 0.40	(2.8)	1	
1030	106 滑竹巾片	c-66-09-d	15075	1/4割	枚	イネ科(中竹)	(15.10) (1.00) (0.55)	(3.3)	1	2点接合。
1031	106 滑竹巾	c-66-20-b	5142	1/4割	枚	イネ科(中竹)	22.40 1.30 0.50	8.3	1	2点接合。
1032	106 滑竹巾片	c-66-19-a	14795	平割	枚	イネ科(中竹)	(24.40) 1.60 0.60	(13.7)	1	2点接合。
1033	106 滑竹巾片	c-66-09-c c-66-09-d	1908	平割	枚	イネ科(中竹)	(25.60) 1.50 0.70	(10.0)	1	2点接合。
1034	106 滑竹巾片	c-67-00-c	14541	平割	枚	イネ科(中竹)	(29.55) 1.05 0.35	(8.2)	1	30点接合。編み方片?
1035	106 滑竹巾片	c-66-19-d	2297	平割	枚	イネ科(中竹)	(26.70) 2.10 1.20	(23.8)	1	
1036	106 滑竹巾片	c-66-19-c	15299	平割	枚	イネ科(中竹)	(34.00) 1.25 0.35	(8.1)	1	30点接合。編み方片?
1037	106 滑竹巾片	c-67-10-b	15313	平割	枚	イネ科(中竹)	(37.35) 1.60 0.55	(17.6)	1	56点中点接合3点接合。編み方片?
1038	106 滑竹巾片	c-66-20-a	2131	1/4割	枚	イネ科(中竹)	(38.20) 1.20 0.50	(8.0)	1	22点接合。編み方片?
1039	106 滑竹巾片	c-66-09-b	374	段	枚	イネ科(中竹)	(36.00) 2.10 2.10	(83.0)	1	
1040	106 滑竹巾片	c-66-20-b	15391	段	枚	イネ科(中竹)	(26.60) 1.65 1.70	(43.4)	1	
1041	106 滑竹巾片	c-66-09-a	15331	段	枚	イネ科(中竹)	(21.55) 2.30 1.60	(37.2)	1	
1042	106 滑竹巾片	c-66-19-c	15297	段	枚	イネ科(中竹)	(13.50) 1.70 1.60	(24.0)	1	30点中点接合3点接合。
1043	106 滑竹巾片	d-66-90-c	15099	段	枚	イネ科(中竹)	(7.35) 1.00 1.00	(4.2)	1	30点接合。
1044	106 滑竹巾片	c-66-19-b	2086	平割	枚	ハシドイ	(5.60) 1.45 1.25	(3.3)	1	
1045	106 滑竹巾片	c-66-09-d c-66-09-c	760	横目	枚	ヒノキ?アサリ?	(10.60) 3.40 0.70	(17.0)	1	1点接合?
1046	106 滑竹巾	c-66-20-d	269	横目	枚	サエビ	6.50 1.90 1.50	13.6	1	1点接合。逆割り。
1047	106 滑竹巾片	c-67-00-a	15452	横目	枚	ヒノキ?アサリ?	(6.00) 2.50 0.40	(3.4)	1	1点接合。逆割り。
1048	106 滑竹巾片	c-66-09-b	711	横目	枚	ヒノキ?アサリ?	(9.70) 2.25 0.50	(7.0)	1	1点接合。逆割り。
1049	106 滑竹巾片	c-66-09-a	619	横目	枚	スギ?アサリ?	(10.50) 1.70 0.70	(4.9)	1	1点接合。逆割り。

V 第0 黒色土質の調査

表 V-70 0 B 簡易載木製品 (42)

図 番 号	製品名	詳細	規格	長さ×幅×高さ (cm)	重量 (g)	使用 材料	備考
1050 168	縦板材片	c-66-09-d	2180	径目	(9.30) 2.10	1.20	(12.8) 1 1 側板材目付付。
1051 168	半端の目片	c-66-18-a	15484	径目	21.20 1.65	0.60	(11.1) 1 1 側板材目付。
1052 168	縦板材片	c-66-18-b	15411	径目	(5.80) 0.60	0.70	(2.1) 1 1 側板材目付付。
1053 168	縦板材片	c-66-18-c	15298	径目	(8.80) 0.80	1.10	(5.1) 1 1 側板材目付付。
1054 168	縦板材片	c-66-08	2361	径目	(9.25) (1.30)	0.70	(4.6) 1 1 側板材目付付。
1055 168	縦板材片	c-66-09-b	15427	径目	(9.80) 1.50	0.80	(4.4) 1 1 側板材目付付。
1056 168	縦板材片	c-66-09-d	13583	丸木	(13.90) 1.40	1.30	(17.1) 1 1 側板材目付付。
1057 168	縦板材片	c-66-19-a	5733	径目	(19.20) 1.50	1.50	(34.2) 1 1 丸材片。
1058 168	縦板材片	c-66-28-c	504	径目	(14.10) (3.30)	1.80	(48.6) 1 1 両面部有孔加工材片。
1059 169	コモ板片	c-66-28-b	15467	径目	(8.10) 3.45	1.40	(27.7) 1 1 側材。
1060 169	コモ板片	c-66-18-b	634	径目	11.00 3.00	3.41	(79.0) 1 1 側材。
1061 169	コモ板	c-66-19-a	2622	径目	11.30 3.30	2.65	72.0 1 1 側材。
1062 169	コモ板	c-66-09-a	2177	径目	13.30 3.80	2.35	90.4 1 55点接合、側材。
1063 169	コモ板	c-66-09-c c-66-09-d	587	径目	12.90 4.60	1.90	64.0 1 1 側材。
1064 169	コモ板	c-66-09-c	1977	半割	12.80 4.10	2.49	76.2 1 1 側材。
1065 169	コモ板	d-67-01-a	3284	半割	12.60 5.35	3.35	106.0 1 1 側材。
1066 169	コモ板	c-66-18-b	2622	丸木	3.50 1.60	1.59	5.9 1 1 小頭、丸木材。
1067 169	コモ板片	c-66-19-c	3972	丸木	(9.20) 3.64	3.39	(66.6) 1 1 丸木材片。
1068 169	コモ板	c-66-09-b	368	丸木	11.39 3.82	3.96	110.0 1 1 丸木材。
1069 169	コモ板	c-66-09-b	1048	丸木	11.60 4.43	3.70	114.8 1 1 丸木材。
1070 170	コモ板	c-67-03-b	10187	丸木	12.80 4.50	4.10	142.0 1 1 丸木材。断面寸法幅(3.90)×厚さ(3.50)mm。
1071 170	コモ板片	c-66-28-a	650	丸木	13.80 5.87	(5.20)	(209.0) 1 1 丸木材片。
1072 170	コモ板片	c-66-18-b	1359	丸木	15.80 6.10	(6.20)	(348.8) 1 1 丸木材片。
1073 170	コモ板	c-66-28-a	2346	丸木	14.00 5.60	4.80	277.4 1 1 丸木材。

表V-71 0B層埋藏木製品(43)

遺物番号	遺物名称	製造区	遺物番号	水取り器(遺物)	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	厚さ(mm)	備考
1074	170 コモ	c-66-29-b	1414	丸木	カエデ	9.90 3.90 3.90	106.1	1	1 丸木材。
1075	170 コモ	c-66-09-c c-66-09-d	1120	丸木	ヤナギ	9.10 3.50 3.70	76.0	1	1 丸木材。
1076	170 コモ	d-67-91-a	15344	丸木	アジサイ	4.00 1.05 0.97	2.9	1	1 小型丸木材。
1077	170 コモ切斷品	c-66-19-c	7228	丸木	ウルシ?	13.69 3.62 3.06	76.0	1	1 丸木材。
1078	170 コモ	c-66-19-d	7254	板	スギ?	13.00 3.10 3.20	80.0	1	
1079	171 下板	d-66-99-d	2656	半割	カハダ 高根:カワラ	23.40 8.85 3.96	423.7	1	2 2点接合(差合含む)。差合式。木取り本体:半割。逆割:逆目。
1080	171 下板	c-66-19-b	1500	逆目	ハリギリ	23.80 10.40 6.20	504.0	1	2 逆割式。木用逆割板4ヶ所あり。同種残存。
1081	172 下板	d-67-91-a	4985	逆目	スギ?	21.00 2.30 8.00	245.2	1	1 逆割式。
1082	172 下板片	c-66-09-c	1317 1607	板目	モクレン	22.40 (8.40) 3.50	261.0	1	2 2点接合。逆割式。
1083	172 下板片	c-66-09-a	2713	板目	モクレン	(15.70) 6.90 2.00	(68.0)	1	1 逆割式。
1084	173 下板	d-67-91-d	3096	逆目	カワラ	21.50 8.60 4.80	400.0	1	1 逆割式。
1085	173 下板片	c-66-29-a	2327	板目	スギ?キズコ?	(18.70) (3.50) 4.10	(101.0)	1	1 逆割式。
1086	172 下板片	c-67-10-a	7966	1/4割	カハダ	(9.00) (3.50) (3.20)	(30.0)	1	1 逆割式。
1087	173 下板	c-66-18-c	824	板目	スギ	20.20 7.80 1.95	257.4	1	1 無割式。
1088	174 カンゾキ軸片	c-66-29-a	1847	板目	クワ	(128.80) 2.20 3.20	(480.0)	1	2 2点接合。チンル。一輪型。逆割板。前後存本の軸孔あり。
1089	175 カンゾキ軸片	c-66-09-c	2358	板目	クワ 軸:アジサイ?	(45.33) (2.53) 2.20	(78.5)	1	2 2点接合。チンル。一輪型。逆割型。前10本。後3本の軸孔あり。 1内。軸片入3ヶ所。
1090	175 カンゾキ軸片	c-67-10-c	15385	板目	クワ	(14.00) (2.25) (1.90)	(22.2)	1	1 チンル。一輪型。逆割型。5本の軸孔あり。
1091	175 カンゾキ軸片	c-67-00-d	6887	1/4割	アジサイ	(10.88) 0.75 0.55	(3.0)	1	
1092	175 カンゾキ軸片	c-66-18-c	15429	板目	アジサイ	(11.20) 1.00 0.75	(5.2)	1	
1093	175 カンゾキ軸	c-66-29-a	15300	板目	アジサイ	18.15 0.75 0.60	5.6	1	
1094	175 カンゾキ軸	c-67-10-d	15019	1/6割	アジサイ	16.60 0.90 0.70	7.4	1	
1095	175 カンゾキ軸片	c-66-19-b	4973	1/6割	アジサイ	(17.20) 0.70 0.70	(5.3)	1	
1096	175 カンゾキ軸片	d-67-91-a	4537	1/6割	アジサイ	(17.00) 0.60 0.60	(4.2)	1	
1097	175 カンゾキ軸	c-67-00-c	7378	丸木	アジサイ	22.00 0.80 0.70	7.0	1	2 2点接合。

表V-72 0日層綿織木製品(44)

品 目 品 目 番 号	産物名称	産別	産地	産物番号	水取り	新製 反目	組織	長さ×幅×厚 ϵ (cm)	重量(g)	厚 さ 片	備考
1086	175 カンジキ織	c-66-99-c		2030	縦目		アジサイ	21.20 1.00 0.85	8.5	1	
1089	175 カンジキ織	c-66-99-d		2799	L/A型		アジサイ	21.10 0.85 0.90	11.0	1	
1100	175 カンジキ織片	c-66-28-a		1475	L/A型		アジサイ	(20.50) 0.70 0.50	(6.0)	1	
1101	175 カンジキ織片	c-66-08-c c-66-09-d		1962	L/A型		アジサイ	(18.50) 0.80 0.60	(6.2)	1	
1102	175 カンジキ織片	c-66-08-c		1131	L/A型		アジサイ	(18.00) 0.65 0.50	(5.0)	1	
1103	175 カンジキ織片	c-66-19-c		7221	L/A型		アジサイ	(22.30) 0.90 0.70	(9.1)	1	
1104	175 カンジキ織片	c-67-00-d		7156	縦目		アジサイ	(22.10) 0.70 0.60	(7.5)	1	
1105	175 カンジキ織	d-67-81-d		2984	縦目		アジサイ	23.00 0.85 0.70	8.0	1	
1106	175 カンジキ織	c-66-19-a		3009	縦目		アジサイ	23.50 1.00 0.90	9.0	1	
1107	175 カンジキ織片	c-66-09-b		2173	縦目		アジサイ	(23.10) 0.75 0.80	(10.1)	1	
1108	175 カンジキ織片	c-66-09-d		1119	L/A型		アジサイ	(26.60) 0.80 0.70	(9.0)	1	
1109	176 糸札	c-66-08-c		646	縦目		ヒノキ?	4.20 5.70 0.60	12.0	1	1回の織り直し。
1110	176 糸札	c-66-08-c		534	縦目		スギ?ヒノキ?	5.47 4.48 0.55	12.0	1	22ヵ織合。
1111	176 糸札	c-66-08-c		648	縦目		ヒノキ?スギ?	5.90 4.00 0.70	14.0	1	
1112	176 糸札	c-66-08-c		647	縦目		ヒノキ?スギ?	5.40 3.79 0.65	10.0	1	
1113	176 糸札	c-66-19-a		2066	縦目		○スギ?	5.30 4.16 0.60	10.6	1	
1114	176 糸札	c-66-08-c		649	縦目		ヒノキ?スギ?	5.40 4.00 0.50	8.0	1	
1115	176 糸札製品	c-66-19-b		810	縦目		ヒノキ?	4.00 3.40 0.85	8.7	1	
1116	177 花火片	c-67-10-b		15379	縦目		アジサイ	(10.90) 1.20 1.30	(10.2)	1	イトラハ付。
1117	177 花火	c-66-38-a		13427	縦目		アジサイ	12.35 1.10 0.95	7.0	1	イトラハ付。
1118	177 花火	c-66-99-c		2359	L/A型		アジサイ	15.50 1.15 1.10	9.4	1	厚紙、イトラハ付。
1119	177 花火	c-66-19-a		2741	L/A型		アジサイ	12.70 1.10 1.10	7.4	1	厚紙付。
1120	177 花火	c-66-09-b		410	半割		アジサイ	13.85 1.50 1.20	11.0	1	矢野製織機あり。
1121	177 花火	c-66-09-d		1605	縦目		アジサイ	15.70 1.28 1.17	10.6	1	

表V-73 0 B層縄織木製品 (45)

目録 番号	遺物名称	集積区	遺物番号(本館)	種別	形状	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
1122	171 花文片	d-66-09-d	2020	板片	アジサイ	9.50 (1.40)	1.45 (10.0)	1 1部削付。
1123	171 花文	c-66-09-d	240	板片	アジサイ	14.00 (1.20)	11.0 (11.0)	1 欠部保存痕あり。
1124	176 押痕片	c-66-09-c	15472	板片	ヒノキ?アサナ?	(3.50) (1.30)	0.40 (3.4)	1 イトクハ付。
1125	176 押痕片	c-66-09-c	15469	板片	ヒノキ?アサナ?トネズコ?	(6.95) (1.30)	0.45 (3.2)	1 イトクハ付。
1126	176 押痕片	c-66-18-c	15405	板片	ヒノキ?アサナ?トネズコ?	(7.30) (1.10)	0.60 (4.1)	1 イトクハ付。
1127	176 押痕片	c-67-09-c	9755	板片	スギ?	(9.70) (2.46)	0.40 (7.3)	1 イトクハ付。
1128	176 押痕片	c-67-00-d c-67-10-a	6694	板片	ヒノキ?アサナ?トネズコ?	(30.85) (2.40)	0.80 (42.6)	1 彫削付。本釘孔3ヶ所。
1129	176 押痕片	c-67-00-d	7936	板片	スギ?	(17.70) (1.20)	0.80 (8.5)	1 1部削付。
1130	176 押痕片	c-67-10-b	10182	板片	ヒノキ?	(21.30) (1.90)	0.70 (15.2)	1 2ヶ所接合。イトクハ付。
1131	176 押痕片	c-66-09-c	239	板片	トネズコ?スギ?	24.50 (3.00)	0.85 (44.9)	1 イトクハ付。
1132	176 押痕片	c-66-29-a	15096	板片	ヤナギ	(23.10) (2.90)	0.95 (41.7)	1 イトクハ付。
1133	179 押痕片	c-66-29-d	387	板片	スギ	(13.65) (2.60)	1.10 (26.0)	1 イトクハ付?
1134	179 押痕片	c-66-18-c	14696	板片	ヒノキ?アサナ?	(12.74) (3.43)	0.83 (23.4)	1 イトクハ付?
1135	179 押痕片	c-66-28-b	1219	板片	ヒノキ?アサナ?	(11.62) (3.50)	1.10 (21.0)	1 イトクハ付?
1136	179 押痕片	c-66-19-a	3090	板片	スギ?トネズコ?	(20.20) (3.46)	0.80 (42.2)	1 イトクハ付?幅成順の1ヶ所。
1137	179 押痕片	c-66-19-a c-66-18-b	14796	平器	ヤナギ	(20.50) (2.20)	1.00 (22.8)	1 3ヶ所接合。
1138	179 押痕片	c-66-19-a	5544	板片	ヒノキ?アサナ?	(18.50) (2.30)	0.80 (24.3)	1 1
1139	179 押痕片(断面)	c-66-29-a	2104	板片	ヒノキ?アサナ?	19.80 (3.10)	0.90 (43.7)	1 1
1140	179 押痕片	c-66-19-a	3002 3003	板片	ヒノキ?	25.00 (2.45)	0.65 (27.6)	1 2ヶ所接合。横削付。
1141	179 押痕片	c-66-09-d	766	板片	スギ?ヒノキ?	29.70 (2.90)	0.80 (49.7)	1 1
1142	180 木片	d-67-01-a	5042	丸木	ヤナギ	(12.40) (2.00)	2.00 (30.0)	1 削りかけの痕跡あり。
1143	180 木帯状製品片	c-67-10-c	15359	丸木	クニウツギ?ハイノキ?	(13.70) (2.10)	2.00 (23.0)	1 削りかけの痕跡あり。
1144	180 木帯状製品片	c-67-00-c	15433	丸木	ヤナギ	(20.50) (1.95)	1.90 (40.4)	1 2ヶ所接合。見附削。削りかけの痕跡あり。
1145	180 木帯状製品	d-66-09-c	1609	丸木	トネリコ	34.40 (2.20)	2.15 (117.0)	1 2ヶ所接合。

V 第0 黒色土器の調査

表 V-74 0 B層焼木製品 (46)

品目 番号	遺物名称	集積区	遺物番号	木炭/リ 炭	材質	形態	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	厚さ mm	備考
1146	木筒状製品	c-67-10-c	8574	丸木	ミツバツブツ?		32.50 2.30 2.10	86.0	1	1 尾節部分。
1147	木筒状製品	d-67-91-b	5282	丸木	ヤナギ		41.50 2.10 1.85	91.5	1	3.2.5.黒色、イトクハ、彫削付。
1148	刀ニニチュウ片	c-66-19-b	3855 15184	楕円	ヒノキ? スナゴ?		(21.10) (2.20) 0.35	(11.8)	1	2.2.5.黒色、尾節部分。
1149	刀刀身ニチュウ7片	c-66-20-b	1478	楕円	ヒノキ? スナゴ?		(20.40) 1.60 0.60	(16.4)	1	
1150	11 楕削片	c-66-19-c	15410	楕円	ヒノキ? スナゴ?		(11.00) 1.80 0.60	(9.8)	1	1 彫削部分。
1151	11 内片	c-66-20-c	15396	楕円	ハリギリ		(5.50) 1.40 (1.50) (7.2)	(7.2)	1	1 イトクハ付。
1152	11 埋部入型付丸木	c-66-09-b	1903	丸木	〇モミ		7.25 2.55 2.50	23.8	1	1 イトクハ付。
1153	11 削片製品	c-67-09-c	15238	楕円	ヒノキ? スナゴ?		(9.60) (1.50) (1.50) (10.8)	(10.8)	1	1 イトクハ付。
1154	11 丸木削片	c-66-19-d	15436	丸木	ヤナギ		(3.80) 2.30 2.20	(12.6)	1	1 イトクハ付。
1155	11 丸木削片	d-66-09-c	15449	丸木	ヤナギ		(5.10) 2.20 2.20	(17.5)	1	1 イトクハ付。
1156	11 丸木削片	c-66-08-c	15471	楕円	ハリギリ		9.05 2.25 2.20	30.1	1	1 イトクハ付。
1157	11 丸木削片	c-66-18-c	15095	丸木	〇ヤナギ		11.90 2.60 2.65	50.5	1	1 イトクハ付。
1158	11 丸木削片	c-67-30-c	15021	丸木	スギ?		17.60 2.45 2.55	8.4	1	1 イトクハ付。
1159	11 丸木削片	c-66-09-a d-66-09-d	2725	丸木	モミ		(19.50) 2.75 2.90	(110.9)	1	1 イトクハ付。
1160	11 平削片製品	d-67-42-d	14335	半割	ホニゾルミ		33.90 3.30 2.70	154.3	1	2.2.5.黒色、イトクハ付。
1161	11 円筒状製品	c-66-09-c	340	楕円	カエデ		2.67 2.80 1.00	5.0	1	
1162	11 円筒状製品	c-66-09-d	15381	楕円	〇ヤナギ		(7.10) (3.40) 1.05	(16.4)	1	
1163	11 円筒状製品	c-66-19-c	629	楕円	〇スギ? ホニゾルミ?		2.60 2.60 0.30	2.2	1	
1164	11 円筒状製品	c-66-09-d	2991	楕円	ハンノキ		(8.80) 3.67 1.52	(25.3)	1	2.2.5.黒色。
1165	11 円筒状製品	c-66-20-a	949	楕円	ヒノキ? スナゴ?		4.00 (3.00) 1.33	(10.3)	1	
1166	11 円筒状製品	c-66-08-c	660	楕円	カワラ		3.20 3.10 1.10	8.0	1	
1167	11 円筒状製品	c-66-09-d	2536	楕円	〇トチノキ		9.60 (5.57) 1.05	(36.7)	1	
1168	11 円筒状製品	c-67-10-d e-67-20-a	15204	楕円	スギ		3.90 (2.30) 1.70	(6.1)	1	1 ベルト出土。
1169	11 円筒状製品	c-66-09-b	1382	丸木	ヤナギ		3.40 (3.10) (1.60) (8.9)	(8.9)	1	

表V-75 0 B層掲載木製品 (47)

品番 (品名)	運物名称	負荷区	運物番号 (木型)	用途 (用途)	仕様	長さ×幅×高さ(mm)	重量(kg)	個数 (個)	備考
1170 182	貼付加工材	c-66-08-c	1120	板目	ヒノキ775×1075×1075	7.40 1.50 0.95	6.0	1	
1171 182	有孔加工材片	c-66-19-b	467	板目	サエズ (7.75)	4.10 2.60	(34.0)	1	
1172 182	三日月板製品	c-66-19-a	2615	板目	スギ775ノキ?	11.20 1.50 0.70	7.0	1	
1173 182	加工材	c-67-00-b	7657	透板	ハリギリ	11.80 5.00 3.00	94.2	1	
1174 182	多段接合付丸木材片	c-66-09-d	15383	丸木	トネリコ (4.60)	2.10 1.80	(11.8)	1	樹皮部剥離孔あり。
1175 182	環状製品	c-66-29-a	14776	丸木	〇ハギ?	7.80 2.10 2.20	14.4	1	1ペレット品七。
1176 182	多段接合付丸木材留品	c-67-01-b	5337	丸木	ハリギリ	11.20 1.60 1.60	18.6	1	留付。
1177 183	貼付ピン状製品	c-66-19-d	3823	1/6厚	イナ桐(中?)	6.10 0.73 0.25	0.6	1	
1178 183	ピン状製品片	c-66-19-a	5817	板目	ヒノキ775×1075	(7.15) (0.70)	0.20	(0.8)	1
1179 183	両ピン状製品	c-66-18-c	15416	板目	ヒノキ775×1075	12.60 1.00 0.80	6.3	1	1ペレット品七。
1180 183	片ピン状製品	c-66-19-b	5607	透板	ヒノキ775×1075	7.30 1.70 1.10	1.10	5.5	1
1181 183	片ピン状製品	c-66-19-a	5547	板目	ヒノキ775×1075	8.35 1.70 1.60	11.3	1	
1182 183	片ピン状製品	c-66-19-b	4659	板目	ヒノキ775×1075	8.40 1.70 1.40	9.5	1	
1183 183	片ピン状製品	c-66-18-c	2443	板目	サカラ	8.35 0.85 0.80	3.7	1	
1184 183	片ピン状製品	c-66-19-b	2071	板目	スギ	8.90 1.00 0.95	5.9	1	
1185 183	片ピン状製品	c-66-19-d	2378	板目	サカラ	9.00 1.24 1.18	6.0	1	
1186 183	片ピン状製品	c-66-19-a	3899	板目	イチイ	9.96 0.82 0.70	3.4	1	
1187 183	片ピン状製品	c-66-19-b	14797	板目	ハリギリ	10.70 1.70 1.20	13.8	1	
1188 183	片ピン状製品	c-66-19-d	2369	板目	スギ775ノキ?木ズコ?	11.10 0.77 0.62	4.0	1	
1189 183	片ピン状製品	c-66-19-a	2771	半割	アジサイ	11.00 1.20 1.15	6.3	1	
1190 183	片ピン状製品	c-66-09-c	15352	板目	コナラ	11.30 1.15 1.10	7.4	1	
1191 183	片ピン状製品	c-66-09-a	15045	板目	ヒノキ775×1075	11.90 1.30 0.90	8.6	1	
1192 183	片ピン状製品	c-66-19-a	3930	板目	スギ775ノキ?	12.20 1.26 0.85	8.0	1	
1193 183	片ピン状製品	c-66-29-a	2129	板目	ヒノキ775×1075	12.20 0.90 0.80	5.8	1	

表V-76 0日層樹織木製品(48)

品 目 番 号	通称名称	商標	種物番号	木製/非 木製	樹種	規格	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	厚 さ 片 数	備考
1194	183 片ビニ樹脂製品	c-66-19-d	2779	板目	スギ		12.20 11.60 0.97	6.0	1	
1195	183 片ビニ樹脂製品	c-66-09-c	13353	逆張	コナラ		(12.35) 1.25 (1.00) (8.4)	1	1	
1196	183 片ビニ樹脂製品	c-66-09-d	15072	板張	スギ?本ズコ?ヒノキ?アスタロ?		12.35 0.85 0.70	5.2	1	
1197	183 片ビニ樹脂製品	c-66-20-d	15015	板張	スギ?本ズコ?		13.00 1.30 0.95	9.4	1	
1198	183 片ビニ樹脂製品	c-66-19-b	2921	板目	ニワトコ		12.70 0.90 0.50	4.0	1	
1199	183 片ビニ樹脂製品	c-66-19-a	3775	板目	アジサイ		13.50 1.40 1.30	16.0	1	
1200	183 片ビニ樹脂製品	d-67-91-a	5829	板目	アジサイ		14.65 1.10 0.70	6.2	1	
1201	183 片ビニ樹脂製品	c-66-19-a	2429	板目	キハダ		14.60 1.20 0.90	11.0	1	
1202	183 片ビニ樹脂製品	c-66-20-a	15401	板目	ハヤ?		15.17 0.90 0.60	4.4	1	
1203	183 片ビニ樹脂製品	c-66-20-a	15283	板目	スギ?本ズコ?		16.20 1.00 0.55	6.7	1	
1204	183 片ビニ樹脂製品	c-66-19-a	3790	1/4割	ハンソク		15.90 1.24 1.12	13.0	1	
1205	183 片ビニ樹脂製品	c-67-09-d	15115	板張	○モクレン		16 1.1 1	13.2	1	
1206	183 片ビニ樹脂製品	c-66-09-d	15044	板張	ヒノキ?アスタロ?スギ?		16.40 1.60 2.50	16.4	1	本製?上層層りかけ?
1207	183 本トビニ樹脂製品	d-67-41	15222	1/4割	ヤナギ		13.90 3.00 2.00	39.2	1	
1208	183 片ビニ樹脂製品片	c-66-19-b c-66-18-c	2090	板張	スギ		(15.80) 1.80 1.50 (20.0)	1	1	
1209	183 本トビニ樹脂製品	c-67-09-d	7127	丸木	カハノキ		23.90 3.30 3.00	91.4	1	22点撮台。
1210	184 樹状製品	c-66-09-c c-66-09-d	936	半割	アジサイ		17.10 1.70 1.55	26.2	1	
1211	184 樹状製品	d-66-99-d	1992	半割	アジサイ		17.60 1.55 1.00	16.8	1	
1212	184 樹状製品	c-66-09-d	2890	半割	アジサイ		18.43 1.82 1.30	29.0	1	
1213	184 樹状製品片	c-66-19-a	5808	半割	アジサイ		(18.15) 2.00 1.30 (30.1)	1	1	イトラバ付。
1214	184 樹状製品	d-66-99-c	2141	半割	ヤナギ		19.60 1.95 1.35	32.1	1	
1215	184 樹状製品	c-66-09-a	2570	半割	アジサイ		19.36 2.30 1.33	38.0	1	
1216	184 樹状製品片	c-66-19-b	4782	半割	アジサイ		(19.80) 1.50 1.20 (22.1)	1	1	
1217	184 樹状製品	c-66-09-c	593	半割	カエデ		20.10 2.00 1.50	36.0	1	

表V-77 0日層絹織木製品(49)

図 番	品目 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木理 方向	長さ 単位	材質	断面	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	厚 片	備考
1218	184	織状製品	c-65-19-a	4701	平置	7ジヤイ	絹織		21.30 2.50 1.50	47.0	1	
1219	184	織状製品	c-65-28-a	1388	1/2置	7ジヤイ	絹織		21.90 2.10 1.60	28.6	1	
1220	184	織状製品	c-67-00-d	6690	平置	7ジヤイ	絹織		21.15 1.95 1.10	28.8	1	
1221	184	織状製品	c-66-09-a	2714	平置	○7ジヤイ	絹織		23.80 1.80 1.65	28.0	1	
1222	184	織状製品片	c-66-19-c	7220	欠本	不変	絹織		(5.90) 1.85 1.80	(12.0)	1	
1223	184	環部片付織状製品	c-66-06-c	1798	平置	カエフ	絹織		9.30 1.60 1.50	12.1	1	
1224	184	織状製品	c-67-10-c	15325	欠本	トネリコ	絹織		13.30 2.00 1.85	26.3	1	
1225	185	多角織状製品	c-67-11-a	15337	欠本	○ヤナギ	絹織		12.90 4.45 3.75	129.5	1	
1226	185	織状製品	c-67-10-a	6798	欠本	カエフ	絹織		16.60 2.45 1.85	42.0	1	
1227	-	織状製品	c-66-09-b	372	欠本	カフツ?	絹織		17.75 1.98 1.83	31.0	1	
1228	185	織状製品	c-66-09-d	15368	欠本	7ジヤイ	絹織		18.60 2.05 1.90	43.6	1	
1229	185	織状製品	d-66-09-c	2634	欠本	ナナカマド	絹織		19.55 2.00 2.00	55.0	1	
1230	185	織状製品	c-66-19-b	2632	欠本	イヌヅシユ	絹織		18.90 2.20 2.00	46.0	1	
1231	185	織状製品片	c-67-11-a	15305	欠本	コナラ	絹織		(18.90) 1.85 1.70	(34.4)	1	
1232	185	織状製品	c-66-09-c	15296	欠本	サウスツハイノキ?	絹織		19.30 1.75 1.40	23.0	1	
1233	185	織状製品	d-67-01-c-d-67-02-d	4100	短証	サクラ	絹織		20.10 1.56 1.59	35.0	1	
1234	185	織状製品	c-67-40-c	15396	欠本	カエフ	絹織		20.10 2.45 2.20	58.7	1	2点接合。
1235	185	織状製品切端品	c-66-18-b	631	欠本	スギヒノキ?	絹織		22.10 2.80 2.80	100.0	1	
1236	185	織状製品	c-66-19-d	2405	欠本	○コナラ?	絹織		22.00 2.60 2.20	60.0	1	
1237	185	織状製品	c-67-00-a	15458	欠本	トネリコ	絹織		22.60 2.30 2.20	52.8	1	2点接合。
1238	185	織状製品切端品	d-66-09-d	2900	欠本	サシ	絹織		23.75 2.10 1.90	54.0	1	
1239	-	織状製品片	d-66-09-d	2944	欠本	ヤナギ	絹織		(24.40) 2.64 2.55	(86.8)	1	2点接合。
1240	185	織状製品	c-67-10-b	15316	欠本	カエフ	絹織		25.90 2.20 2.30	66.2	1	
1241	185	織状製品切端品	c-67-32-d	10005	欠本	トネリコ	絹織		27.60 2.00 2.40	98.0	1	

V 第0黒色土層の調査

表 V-78 0 B層編織木製品 (50)

図 番	図解 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	本張り 産地	材質	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	値 目 別	備考
1242	185	多角機状製品切断品	c-67-10-b	8532	丸木	ウレシ		27.00 3.35 3.00	143.5	1	
1243	185	機状製品切断品	d-66-09-c	2035	丸木	トネリコ		33.40 2.70 2.50	145.0	1	
1244	186	機状製品	c-66-19-b	3834	1/2割	コナラ		13.10 3.00 2.71	55.0	1	
1245	186	機状製品	c-66-09-d	1949	1/2割	イチイ		19.50 2.60 2.45	68.3	1	
1246	186	機状製品	c-66-19-a	3808	丸木	ハンドイ		19.90 2.33 1.90	64.0	1	
1247	185	多角機状製品 d-67-81-a d-67-81-b d-67-81-d		3210	1/4割	サクラ		60.40 3.90 3.15	440.0	1	
1248	186	機状製品片	d-67-91-a	5681	復元	ヒノキアスナロ?		(10.35) 1.50 1.30	(10.9)	1	1トナリ付?
1249	186	機状製品	c-67-10-c	15201	復元	コナラ		14.40 1.50 1.40	19.3	1	
1250	186	機状製品	c-66-19-b	3860	復元	トネリコ		14.67 1.58 1.60	22.0	1	
1251	186	機状製品	c-66-19-b	407	復元	サエデ		16.00 2.00 1.90	40.0	1	
1252	186	機状製品	c-67-10-c	15329	復元	サエデ		15.60 2.40 2.00	47.9	1	
1253	186	機状製品	c-66-19-a	5787	1/4割	アジサイ		15.90 1.40 1.60	16.6	1	自然乾燥。計測値は乾燥後の値。
1254	186	機状製品	c-66-19-a	2762	復元	コナラ		16.80 1.90 1.80	39.8	1	
1255	186	機状製品	c-66-19-d	5517	復元	サエデ		16.45 2.25 1.50	36.8	1	
1256	186	機状製品	c-66-29-d	15287	復元	サワラ		16.80 2.20 1.80	39.8	1	
1257	186	機状製品	c-66-19-d	2366	復元	サエデ		17.55 1.80 1.50	28.0	1	
1258	-	機状製品	d-66-09-b d-66-09-c	2535	復元	○ニレ		17.88 1.56 1.30	21.0	1	
1259	186	機状製品	d-67-92-a	15342	1/4割	アジサイ		20.40 1.90 1.50	41.3	1	
1260	186	機状製品	c-66-29-d	15060	1/4割	コナラ		18.20 1.90 1.50	26.6	1	
1261	186	木筒状製品	c-66-29-d	15402	復元	コナラ		18.60 3.25 3.00	94.2	1	
1262	186	機状製品	c-67-30-a	14566	復元	サワラ		19.22 2.02 1.41	33.8	1	1ペレット出土。
1263	186	機状製品	c-66-09-d	2703	復元	イチイ		19.50 2.10 1.20	31.0	1	
1264	186	機状製品片	c-67-00-d	7129	復元	サエデ		(18.80) 2.12 2.00	(41.5)	1	
1265	186	機状製品	c-66-09-b c-66-09-c	378	復元	コナラ		19.70 2.00 1.90	53.0	1	

表V-79 0日層掲載木製品(51)

品 番 号	品 名	産物名称	製法	用途	種別	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備 考
1266	187	楕円板製品	c-66-09-b	楕円	ハシドイ?	(18.70) 2.00	1.30 (28.8)	1
1267	187	楕円板製品	d-66-09-c d-67-09-d	1/4割	アジサイ	20.80	1.65	32.8
1268	187	楕円板製品	c-67-09-c	楕円	クマシダ	18.50	2.60	2.00
1269	187	楕円板製品	d-66-09-d	楕円	アジサイ	20.80	1.65	36.0
1270	187	楕円板製品	c-67-09-d	1/4割	アジサイ	20.00	1.80	1.50
1271	187	楕円板製品	d-67-01-c	平割	アジサイ	20.70	1.51	1.10
1272	187	楕円板製品	c-66-19-b	楕円	ハリギリ	(18.70) 2.00	2.00 (45.4)	1
1273	187	楕円板製品	c-67-01-b	楕円	オエダ	20.30	2.25	2.34
1274	187	楕円板製品	c-66-19-d	1/4割	オエダ	21.30	1.70	1.55
1275	187	楕円板製品	c-66-19-b	1/5割	オエダ	21.85	1.60	1.40 (30.0)
1276	187	楕円板製品	c-66-28-a	1/4割	オエダ	(21.50) 1.70	1.60 (34.7)	1
1277	187	楕円板製品	c-66-19-a	1/4割	アジサイ	22.55	1.65	1.45 (33.9)
1278	187	楕円板製品	c-66-09-c	1/4割	アジサイ	21.95	2.10	2.00
1279	187	楕円板製品	c-66-28-a	楕円	アサダ	23.35	1.90	1.60
1280	187	楕円板製品	c-66-29-a	楕円	ヒノキ?アサダ?	23.40	1.40	1.10
1281	187	楕円板製品	c-66-09-b	楕円	アジサイ	24.20	2.10	1.80
1282	188	楕円板製品	c-66-19-a	楕円	トネリコ	24.85	2.35	2.20
1283	188	楕円板製品	c-66-19-d c-66-19-a	楕円	トネリコ	24.70	2.20	2.20
1284	188	楕円板製品	c-67-00-a	1/4割	アジサイ	25.20	1.82	1.32
1285	188	楕円板製品	c-67-30-b	楕円	ハシドイ	25.90	2.80	2.70
1286	188	楕円板製品	c-66-09-b	楕円	コナラ	26.90	2.55	2.25
1287	188	内楕円板製品	c-66-19-a	楕円	ハシドイ	30.73	1.60	1.50
1288	188	内楕円板製品	d-67-01-a	楕円	オエダ	12.00	2.20	1.60
1289	188	内楕円板製品	c-67-10-c	楕円	ヒノキ?アサダ?アサ?	13.00	1.20	1.30

V 第0黒色土層の調査

表V-80 0日層褐炭木製品(52)

調査 番号(番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号(大取リ)	遺物 産地	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	図 像 表 示	備考
1290	188 角棒状製品	c-66-09-c	377	産目	ハリギリ	13.90 2.50 1.50	32.0	1	
1291	188 角棒状製品	c-66-10-b	5749	丸木	不変	15.00 2.70 2.20	43.0	1	
1292	188 上角棒状製品	4-66-99-d	15474	産目	スギノクスコ?	15.50 3.90 2.70	125.6	1	
1293	189 角棒状製品片	c-66-10-b	5454	産目	ヒノキツクスコ?ノクスコ?	(16.10) 1.43 1.10	(16.7)	1	
1294	189 角棒状製品	c-66-10-a	4221	産目	ヒノキツクスコ?	20.90 2.00 0.90	38.0	1	
1295	189 角棒状製品片	c-66-27-b	25	産目	ヒノキツクスコ?	(21.50) 2.20 1.30	(38.0)	1	
1296	189 角棒状製品	c-66-09-c	376	産目	サエデ	18.90 1.80 1.50	30.0	1	
1297	189 角棒状製品	c-66-09-d c-66-09-c	2886	産目	サエデ	19.22 3.20 2.60	91.2	1	
1298	189 角棒状製品	c-66-28-d	397	産目	イチイ	23.70 3.06 2.20	103.0	1	
1299	189 沢行角棒状製品片	c-66-09-a	2874	産目	スギ	(27.60) 1.50 1.70	(52.0)	1	
1300	189 角棒状製品片	c-66-38-b	13412	産目	○スギノクスコ?	(31.50) 2.90 3.25	(156.0)	1	切痕あり。
1301	190 棒状製品	c-66-18-a	521	産目	スギノクスコ?ヒノキ?	3.32 1.42 0.82	3.0	1	
1302	190 棒状製品	c-66-10-b	4653	産目	ヒノキツクスコ?	7.20 1.80 1.30	6.5	1	
1303	190 棒状製品片	c-66-19-a	5796	産目	ヒノキツクスコ?	7.40 (2.80) 1.10	(9.8)	1	
1304	190 棒状製品	c-66-19-a	5521	産目	ヒノキツクスコ?	7.50 3.25 1.30	18.8	1	
1305	190 棒状製品	c-67-00-d	7977	産目	スギ	8.80 2.20 0.90	10.6	1	
1306	190 棒状製品	c-67-10-a	7979	産目	スギノクスコ?	8.85 3.90 1.50	23.9	1	
1307	190 棒状製品片	c-67-10-b	12542	産目	スギノクスコ?	(8.98) 3.63 1.30	(24.8)	1	
1308	190 棒状製品	c-66-19-b	2626	産目	ハリギリ	9.40 3.65 1.95	33.0	1	
1309	190 棒状製品切痕製品片	c-66-19-b	2625	産目	サツフ	9.35 2.80 2.05	(29.0)	1	1孔10mm。
1310	190 棒状製品	c-66-09	15002	産目	アジウイ	10.00 1.95 1.00	9.8	1	
1311	190 棒状製品片	c-67-10-b	12499	産目	不変	(9.15) 4.75 1.35	(28.9)	1	2孔直径。
1312	190 棒状製品	c-67-00-a	15017	産目	ヒノキツクスコ?スギノクスコ?	11.10 4.20 1.90	40.3	1	
1313	190 棒状製品	c-67-10-a	6804	産目	スギノクスコ?	11.20 4.00 1.90	56.0	1	

表 V-81 0 B層掲載木製品 (53)

国産 品番号	産物名称	産別区	産物番号	水張り 産別	仕様	仕様	長さ×幅×厚さ (cm)	質量 (g)	積 材 体 積	備考
1314	190 樹皮製品	c-67-00-d	6631	板目		スギ?ネズコ?	11.70 3.65 1.95	46.0	1	
1315	190 樹皮製品	d-66-09-c	2836	板目		サクラ	14.80 2.85 1.20	29.0	1	
1316	190 樹皮製品片	c-67-01-b	15222	板目		カエデ	16.50 (3.20) 2.25 (62.2)	1	1	
1317	190 樹皮製品切断品	c-66-19-a	3953	逆板		スギ?ネズコ?ヒノキ?	16.30 3.10 1.30 (48.6)	1	1	
1318	190 樹皮製品片	d-66-09-b	2678	板目		カワラ	12.45 4.80 (2.70) (75.0)	1	1	
1319	190 樹皮製品	c-66-09-a	2728	板目	○	カワラ	11.55 1.80 1.56	18.0	1	
1320	190 樹皮製品	c-66-09-c	176	板目		カエデ	4.30 3.00 1.50	11.2	1	
1321	190 樹皮製品	c-66-09-d	482	板目		モザレン	5.00 4.10 2.98	36.4	1	
1322	191 樹皮製品	c-66-18-c c-66-20-b	15332	板目		ヒノキ?アスナロ?スギ?ネズコ?	17.20 2.48 0.50	13.5	1	1ヘルト出上。
1323	191 樹皮製品	c-66-09-b	1110	板目		ヒノキ?アスナロ?	(22.40) 2.62 0.60 (27.6)	1	1	
1324	191 樹皮製品	c-66-18-b	1806	板目		スギ	23.70 2.20 0.70	20.7	1	
1325	191 樹皮製品	c-67-10-b	15346	下側		アジサイ	(27.10) 1.80 0.50 (17.6)	1	1	
1326	191 樹皮製品	c-66-19-a	2779	板目		スギ?	26.00 3.05 1.00	54.0	1	1継ぎ付。
1327	191 樹皮製品	d-67-91-c	5385	板目		スギ	(30.20) 1.93 0.72 (32.3)	1	1	
1328	191 樹皮製品	c-67-10-d	7319	板目		ネズコ?スギ?	(30.80) 3.00 0.80 (32.6)	1	1	
1329	192 樹皮製品	d-67-91-b	5333	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	41.80 2.50 1.00	48.0	1	333継ぎ付。
1330	192 樹皮製品	c-66-18-b	1817	板目		スギ?ヒノキ?	42.50 2.55 1.00	75.0	1	
1331	191 樹皮製品	d-67-91-a	3587	板目		スギ?ヒノキ?	(35.50) 3.44 0.63 (43.0)	1	333継ぎ付。	
1332	191 樹皮製品素材	c-66-18-c c-66-19-d	2908	板目		ヒノキ?アスナロ?	69.60 3.00 0.80	110.0	1	
1333	192 樹皮製品	c-66-19-a	2807	板目		スギ?ネズコ?ヒノキ?	(9.90) 2.55 0.60 (8.3)	1	1	
1334	192 樹皮製品	c-66-19-b	4147	板目		スギ?	(9.95) 2.60 0.75 (12.0)	1	1	
1335	192 樹皮製品	d-66-09-d	2802	板目		スギ?	(13.20) 2.50 0.90 (20.6)	1	1	
1336	192 樹皮製品	c-67-10-b c-67-00-c	12511	板目		ヤナギ	(13.85) 1.95 0.85 (16.0)	1	1	
1337	-	d-66-09-d	2849	板目		スギ?	(17.80) 2.50 0.90 (23.0)	1	1	

表V-82 0 B層褐櫛木製品 (54)

調査 番号	調査 品名	産地	形状	用途	寸法 (mm)	重量 (g)	直径 (mm)	厚さ×幅×長さ (mm)	重量 (g)	備 考
1238	132	神宮宮装製品	c-66-09-c	364	楕円			(18.90) 2.48	0.70 (26.0)	1
1239	192	神宮宮装製品	c-66-09-b	1788	楕円			18.00 2.30 0.80	26.4	1
1240	192	神宮宮装製品	c-67-00	15302	楕円			17.40 2.70 1.00	35.3	1
1241	192	神宮宮装製品	c-66-09-a	2865	楕円			18.95 3.37 0.94	38.4	1
1242	192	神宮宮装製品	c-66-19-b	4656	楕円			(20.80) 1.70 0.50	(14.1)	1
1243	192	神宮宮装製品	c-66-19-b	4650	半圓			22.40 2.60 0.90	30.6	1
1244	193	神宮宮装製品	d-67-72-a	4493	楕円			23.60 2.16 1.11	39.0	1
1245	193	神宮宮装製品	d-67-90-b	6337	楕円			(23.95) (1.65)	(23.0)	1
1246	193	神宮宮装製品	c-66-28-b	15038	楕円			21.60 2.05 1.10	32.0	1
1247	193	神宮宮装製品	c-66-18-b	14902	楕円			(21.32) 2.60 1.00	(46.4)	1
1248	193	神宮宮装製品	c-66-09-b	890	楕円			24.00 2.30 1.00	40.6	1
1249	193	神宮宮装製品	c-66-19-b	4141	楕円			23.75 2.00 0.75	22.0	1
1250	193	神宮宮装製品	c-67-10-d	6773	楕円			(22.10) 2.90 0.80	(31.0)	1
1251	193	神宮宮装製品	c-66-19-b	5601	楕円			(23.60) 2.10 0.90	(27.3)	1 22点磨心。
1252	193	神宮宮装製品	c-66-38-b	12093	楕円			(24.20) 2.34 0.90	(34.0)	1
1253	194	神宮宮装製品	c-66-19-a	15460	楕円			24.00 2.25 0.90	28.7	1 22点磨心。
1254	194	神宮宮装製品	c-66-09-d	324	楕円			25.45 2.10 1.05	35.0	1
1255	194	神宮宮装製品	d-67-81-c	3150	楕円			24.72 2.45 1.14	39.4	1
1256	194	神宮宮装製品	d-66-99-d	2484	楕円			(24.90) 2.80 1.00	(45.2)	1
1257	194	神宮宮装製品	c-67-02-d	3417	楕円			(25.20) 2.75 1.33	(60.0)	1 1個割付。
1258	194	神宮宮装製品	d-67-90-b	5880	楕円			(26.50) 2.90 0.75	(40.2)	1 30点磨心。
1259	194	神宮宮装製品	c-66-09-d	1125	楕円			(26.00) 2.50 1.10	(44.0)	1
1260	194	神宮宮装製品	c-66-09-d	15377	楕円			27.30 1.90 0.40	15.2	1
1261	194	神宮宮装製品	d-67-91-d	5949	楕円			31.00 (2.60)	(16.9)	1 1自然磨心、計重値は産出量の重。

表V-83 0日層縄文製品(55)

遺物番号 (器種番号)	遺物名称	発掘区	遺物番号 (水堀り)	器種 番号	用途	長さ×幅×厚さ(mm)		重量(g)	器 片 数	備考
						長さ	幅			
1361	195 押型瓦状製品片	c-67-01-b	3433	底目	○ネズコ?	(30.15)	3.01	0.79 (42.6)	1	22点集合。
1362	195 押型瓦状製品	c-66-27-c	15245	底目	ネズコ?ヒノキ?7スタロ?ス??	34.10	1.95	0.60	29.0	1
1364	195 押型瓦状製品	d-66-99-d	2848	底目	ス??	33.00	2.65	1.05	65.0	1
1365	195 押型瓦状製品	c-66-09-b	709	底目	ヒノキ?7スタロ?	38.30	4.40	1.10	110.9	1
1366	195 押型瓦状製品片	c-66-09-c-66-09-d	2292	底目	ヒノキ?ネズコ?ス??	(33.85)	3.75	0.50 (44.6)	1	
1367	195 押型瓦状製品片	d-67-92-a	4923	底目	ヒノキ?7スタロ?	(35.00)	2.44	0.50 (26.1)	1	22点集合。
1368	196 押型瓦状製品	d-67-91-c	5355	底目	ヒノキ?7スタロ?	41.80	2.70	1.25	78.0	1
1369	196 押型瓦状製品切斷品	c-66-19-b	4143	底目	トネリコ	43.20	2.73	1.22	83.0	1
1370	196 押型瓦状製品片	d-66-99-d	2853	底目	ス??	(44.00)	2.80	1.00 (85.6)	1	
1371	197 押型瓦状製品片	d-67-81-c	3066	底目	ス??	(45.00)	2.70	1.20 (106.0)	1	
1372	197 押型瓦状製品片	c-66-19-b	3835	底目	キハヤ	(63.55)	3.15	1.10 (144.0)	1	33点集合。切取あり。
1373	197 押型瓦状製品片	c-66-19-c	1010	底目	ス?	(82.10)	3.00	0.70 (150.0)	1	
1374	197 押型瓦状製品基材	c-66-19-a	4737	半割	ニレ	149.50	2.60	1.40	300.0	1
1375	198 厚部粘土層付丸木材割 製品	c-66-19-b	2821	丸木	ヤナギ	6.50	1.75	1.60	10.1	1
1376	198 厚部粘土層付丸木材	c-66-09-d	498	丸木	○キハヤ	9.00	2.58	2.12	21.8	1
1377	198 厚部粘土層付丸木材割 製品	c-66-19-d	2384	丸木	ハシドイ?ヤナギ?マ?	7.25	2.25	1.75	17.0	1
1378	198 厚部粘土層付丸木材	c-66-19-b	4060	丸木	トネリコ	(9.30)	1.60	1.55 (14.0)	1	1コだけ?
1379	198 厚部粘土層付丸木材	d-67-91-d	3319	丸木	イヌエンジュ	(9.35)	3.10	3.15 (59.0)	1	22点集合。
1380	198 厚部粘土層付丸木材	c-66-19-b	2922	丸木	○ハンノキ	11.60	3.20	(3.10)	(67.9)	1
1381	198 粘土層付丸木材	c-66-19-c	1270	丸木	トネリコ	(13.45)	2.93	(2.70)	(61.3)	1
1382	198 厚部粘土層付丸木材割 製品	c-67-00-a	7501	丸木	ハシドイ	14.85	2.40	2.60	45.7	1
1383	198 厚部粘土層付丸木材	c-66-09-d	2552	丸木	○カエデ	15.20	2.24	1.90	32.0	1
1384	198 厚部粘土層付丸木材	c-66-19-b	5549	丸木	サミ	(17.40)	3.10	2.50 (73.0)	1	
1385	198 厚部粘土層付丸木材割 製品	c-66-09-d	912	丸木	ハリヤギ	19.00	2.80	2.30	64.4	1

表 V-84 0 B層掃蕩木製品 (56)

品目 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	検出 層位	形態	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	形状 写真	備考
1386	埋部材入器付丸木材料	c-66-09-c	1796	丸木	トネリコ?	(19.50) 2.10 2.00 (41.1)	1	1	
1387	埋部材入器付丸木材料	c-66-19-b	4087	丸木	トネリコ?	22.60 1.95 1.80 49.0	1	1	
1388	埋部材入器付丸木材料	c-66-09-b c-66-09-c	1106	丸木 ○	ニギキ	(23.06) (3.40) (3.50) (6.6)	1	1	1) 埋部丸木厚寸法2.60cm.
1389	埋部材入器付丸木材料	c-67-01-a	10130	丸木	モクレン(コブシ)	(23.00) 1.30 1.20 (30.8)	1	1	
1390	埋部材入器付丸木材料	d-67-91-d	5923	丸木	ヤナギ	25.15 2.75 2.75 96.0	1	1	56点検合。埋合特?
1391	埋部材入器付丸木材料	c-66-19-c	15464	丸木	ヤナギ	(38.90) 2.15 2.10 (90.2)	1	1	10点中地点検合10点光源。埋合後は埋合特。
1392	埋部材入器付丸木材料 製品片	d-67-81-c	4001	丸木	ナナホド	(38.10) 3.06 3.04 (219.8)	1	1	35点検合。
1393	埋部材入器付丸木材料	c-66-28-b	14416	丸木	ヤナギ	(32.60) 2.24 2.06 (102.2)	1	1	
1394	埋部材入器付丸木材料	c-66-19-b	1467	丸木	トネリコ	(35.40) 2.00 1.80 (110.0)	1	1	22点検合。
1395	埋部材入器付丸木材料	c-66-19-b	1811	丸木	ハンノキ	51.10 2.20 2.20 155.0	1	1	22点検合。
1396	埋部材入器付丸木材料	c-67-01-b	3903	丸木	クワラ	(93.30) 2.70 2.60 (426.0)	1	1	35点検合。埋合は丸木埋合。魚突埋合(埋)片?
1397	埋部材入器付楕状丸木	c-66-08-c c-66-08-d	15441	楕圓	ヒノキ??スナゴ?	3.60 1.50 1.75 5.0	1	1	ツヤット?
1398	埋部材入器付丸木材料	c-66-09-d	2489	楕圓	アジサイ	6.15 1.25 1.30 5.3	1	1	
1399	埋部材入器付丸木材料	c-66-19-b	4128	楕圓	キハダ?	(9.00) 2.35 2.20 (22.0)	1	1	
1400	埋部材入器付丸木材料 製品	c-66-19-c	2095	楕圓	イヌエンジュ	8.00 2.70 2.60 34.3	1	1	
1401	埋部材付丸木片	c-66-19-d	2757	楕圓	スギ	(9.90) 1.15 1.00 (8.1)	1	1	
1402	埋部材入器付丸木材料 製品	c-66-19-c	825	楕圓	ヒノキ??スナゴ?	15.40 3.00 3.10 96.1	1	1	
1403	埋部材入器付丸木片	c-66-09-b	1008	楕圓	クワラ	(20.50) 2.50 2.05 (68.0)	1	1	
1404	埋部材入器付半部材	c-66-19-c	1329	半部	ハダ	14.50 1.40 0.70 7.5	1	1	
1405	埋部材入器付半部材	c-66-19-a	2016	半部	ヤナギ	(5.40) 2.60 1.18 (7.8)	1	1	
1406	埋部材付楕圓片	c-67-10-b	12069	楕圓	モミ	(6.80) 5.20 1.25 (24.2)	1	1	
1407	埋部材入器付半部材 片	c-66-19-d	2370	楕圓	クワラ	(8.70) 1.25 0.70 (5.4)	1	1	1) ベルト出土。
1408	埋部材入器付半部材	c-66-19-c c-66-28-b	15177	半部	○ ヤマズミ?ハノキ?	(11.20) 1.50 0.80 (7.5)	1	1	22点検合。
1409	埋部材入器付楕圓片	d-67-91-c	3089	丸木	ヤナギ	(15.14) 2.70 (2.08) (58.1)	1	1	22点検合。

表 V-85 0 B 階地蔵木製品 (57)

調査 番号	遺物名称	保管区	遺物番号	水取り 装置 設置	材質	長さ×幅×厚さ (cm)	質量 (g)	遺 跡 体 積	備考	
I410 200	埋戻し入庫付丸木片等 埋戻し片	c-66-09-c	334	丸木	モミ	12.80 (2.40)	(62.0)	1		
I411 200	埋戻し入庫付板材片	c-66-09-d	15422	板目	モクレン	(14.80) 2.25	1.00 (17.0)	1	3点中2点は組合式瓦葺、1点は併置は葺き置。	
I412 200	埋戻し入庫付丸木 片	d-66-99-d	2547	足板	クワ	16.00	3.65 2.10	51.5	1 併置受け部僅(内輪形式?)	
I413 200	埋戻し入庫付板曲丸木 片	c-66-09-c c-66-09-d	1178	丸木	アジサイ	33.40	8.40 2.10	98.0	1 下置キノ五付。	
I414 200	埋戻し入庫付板曲丸木 片	c-66-09-d	1179	丸木	ハシドイ	32.00	8.90 2.40	113.0	1 下置キノ五付。	
I415 200	埋戻し入庫付曲丸木 片	c-66-09-d c-66-19-a	1177	丸木	ハシドイ	36.20	7.40 2.90	124.0	1 下置キノ五付。	
I416 200	埋戻し入庫付内材	c-67-00-c c-67-10-b	12482	板目	スギ?	26.70	2.44 1.50	77.8	1	
I417 200	埋戻し入庫付内材	c-67-00-c	13074	板目	スギ?	26.77	2.32 1.60	74.9	1	
I418 200	埋戻し入庫付丸木 片	d-66-99-b	2226	丸木	モミ	40.80	1.70 1.60	71.0	1	
I419 200	埋戻し入庫付丸木 片	d-67-72-a	15445	丸木	ヤナギ	(16.80) 2.45	2.60 (64.9)	1	1 イトクワ付。	
I420 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-18-c	1482	丸木	コナラ	16.80	2.50 3.30	76.6	1	
I421 -	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-18-b c-66-19-a	1853	丸木	阿波杉	(19.45) 2.55	1.90 (50.0)	1		
I422 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-19-b	15248	丸木	○ヤナギ	29.50	1.30 1.20	30.0	1	
I423 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-28-b	1321	丸木	アジサイ	30.70	2.10 2.00	88.0	1	
I424 200	埋戻し入庫付丸木 片	d-67-81-c	3021	丸木	トネリコ	28.93	2.94 2.22	108.6	1	
I425 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-09-d	2684	丸木	モミ	13.60	3.90 3.70	116.1	1	
I426 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-38-b	13305	丸木	ハノノキ	(25.85) 4.30	3.90 (238.0)	1	1	
I427 200	埋戻し入庫付丸木 片	d-67-91-d	4859	丸木	クマシラ	(24.80) 6.10	5.70 (478.8)	1	1	
I428 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-67-10-c	15280	丸木	ハノノキ	26.20	4.05 4.00	276.0	1	22点置合。
I429 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-67-00-c	9770	丸木	リンゴツナギマド?	(18.70) 2.15	2.35 (71.5)	1	1	
I430 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-67-10-b	12447	丸木	ハシドイ	25.60	2.60 2.20	93.8	1	1
I431 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-67-10-a	15198	丸木	コナラ	(22.90) 4.25	3.80 (170.4)	1	1	
I432 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-09-b	389	丸木	モミ	23.50	6.50 6.50	622.0	1	1
I433 200	埋戻し入庫付丸木 片	c-66-09-b	146	丸木	○ヤナギ	(37.50) 3.90	4.20 (251.0)	1	33点置合、叩舞?	

V 第0 黒色土層の調査

表 V-88 0 B層掘削木製品 (58)

調査 番号	掘削 番号	運搬名簿	発掘区	運搬番号	穴入り 位置	掘削 位置	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	目 録 体 積	備考
1434	204	決付丸木材切端品	c-66-29-d	301	丸木	クマシテ	35.30 5.00 4.70	466.0	1	
1435	204	決付半割材	c-66-19-a	4755	半割	クマシテハイノキ?1/2パウ クマシテ	(6.74) 2.53 1.78	(18.2)	1	
1436	204	埋部決付半割材切端品	c-67-00-d	7132	丸木	スギ?	8.40 2.90 2.00	29.0	1	
1437	204	決付半割材切端品	d-67-91-a	3320	丸木	モミ	9.05 3.75 2.35	36.0	1	
1438	204	埋部決付割材	c-66-28-c	354	楕円	モミ	25.40 (3.30) (2.40)	(302.0)	1	30点検査。
1439	204	決付半割材切端品	c-66-18-c	818	丸木	ヤナギ	22.00 3.60 2.60	300.6	1	
1440	205	埋部決付半割材	c-66-09-c	15429	半割	ヤナギ	(12.85) (2.20)	1.70 (18.0)	1	埋部材。
1441	205	埋部決付半割材	d-66-99-d	2792	半割	アジサイ	32.90 2.20 0.75	40.0	1	
1442	205	決付半割材	c-67-00-a	6638	半割	ヤナギ	(16.20) 4.10 2.30	(80.0)	1	
1443	204	多段決付半割材	c-67-61-b	10148 10149	半割	ヤナギ	(52.30) 4.40 2.60	(264.2)	1	4点中3点検査(左高部)。計測値は推定値。
1444	205	決付角材	c-66-09-b	571	楕円	スギ?	(4.70) 1.90 1.35	(6.0)	1	
1445	205	決付角材	c-66-09-d	1203	楕円	スギ	(10.02) (1.60)	1.05 (13.0)	1	
1446	-	決付角材	d-66-99-b	2673	楕円	スギ	(9.80) 1.45 1.00	(10.4)	1	
1447	205	埋部決付角材	c-66-09-c	15384	楕円	○サツラ	12.10 2.40 1.20	20.1	1	
1448	205	埋部決付角材	d-67-91-c	5268	丸木	ヤナギ	(12.35) 2.00 1.20	(26.8)	1	
1449	205	埋部決付角材切端品	c-66-09-a	3677	楕円	スギ?木ズコ? 埋部:スギ?木ズコ?	18.80 2.76 2.00	52.0	1	3点検査(木部材含む)。木部材は1=断あり。
1450	205	決付角材	c-67-00-c	9784	楕円	トウヒ	(32.70) 3.50 2.30	(170.0)	1	
1451	205	埋部決付角材	d-67-81-a	4317	楕円	ハリギリ	(25.20) 2.62 1.62	(78.0)	1	
1452	205	決付角材	c-66-09-b	1780	楕円	ハリギリ	(24.45) 3.35 2.20	(120.0)	1	
1453	206	決付角材	c-66-09-c	1825	楕円	○ヒノキ?木ズコ?	(28.70) 2.50 1.10	(42.8)	1	
1454	206	決付角材	c-66-09-a	2726	楕円	スギ?木ズコ?	(11.30) 2.45 0.87	(14.5)	1	
1455	206	決付角材	c-66-09-a	2727	楕円	スギ?ヒノキ?	(8.74) 2.95 0.95	(11.1)	1	
1456	206	決付角材	d-67-82-a	4362	楕円	ヒノキ?木ズコ?	20.80 3.60 1.20	47.0	1	
1457	206	決付角材	c-66-09-c	332	楕円	ハンノキ	(22.30) 2.20 1.50	(38.0)	1	20点検査。

表 V-87 0 B 肩鳩織木製品 (59)

国 産 品 番 号	産物名称	製産区	産物番号	材質	製産 方法	縦横		長さ×幅×高さ (cm)		重量 (g)	製 片 数	備考
						縦	横	縦	横			
1456	206 袷付振付片	c-66-09-a c-66-09-b	855	延目	水張り	キハダ		3.20	1.20	(83.6)	1	2点産石。
1459	206 袷付振付	c-66-08-c	234	逆延	〇	ハリギリ		5.80	1.68	34.0	1	
1460	206 袷付振付片	c-67-11-a	12416	延目		ハンノキ		4.20	1.70	(78.0)	1	
1461	- 袷付振付留製品	c-66-18-c	1343	振目		ハリギリ		4.30	1.80	43.6	1	
1462	206 袷付振付振付片	d-67-81-b	3099	延目		ヒノキ?アスタロ?		4.50	1.10	(74.0)	1	
1463	207 袷付振付振付片	c-67-00-d	8001	逆延		イヌエンジュ		5.00	1.40	(123.1)	1	
1464	207 袷付振付振付	c-66-18-b	1505	振目		ヤナギ		3.40	1.40	66.2	1	
1465	207 多段袷付平巾織材	c-66-19-a c-66-19-b	4142	延目		サエデ		1.85	1.10	14.0	1	
1466	207 扇面袷付扇面振付	c-66-19-a	5764	延目		ハリギリ		2.95	1.00	20.0	1	
1467	207 袷付振付片	c-66-28-a	951	延目		サエデ		3.50	1.22	(17.9)	1	
1468	207 ホノ先付角振付	c-66-18-b	812	振目		ヒノキ?アスタロ?		1.30	0.80	(11.9)	1	
1469	207 袷付振付振付	c-66-19-a	3811	振目		トネリコ		3.00	1.98	44.6	1	
1470	207 袷付振付袷付留製品片	c-66-19-a	2617	丸本		ヤナギ		2.55	2.35	(28.0)	1	3点中央産。
1471	207 留製品 留製品	c-67-10-b	9664	延目		〇ヒノキ?アスタロ?ネズコ?		2.50	2.90	139.0	1	
1472	- 袷付留製品留製品	c-66-09-d	584	手割		タフ		2.50	1.30	11.0	1	
1473	206 袷付留製品片	c-66-09-c	15292	延目		モクレン		4.20	1.70	(24.4)	1	
1474	206 袷付留製品	d-67-91-b	5834	延目		ヒノキ?アスタロ?		2.55	1.00	17.2	1	
1475	206 袷付留製品片	c-67-10-b	15317	延目		モクレン		4.50	1.40	(34.2)	1	22点産石。
1476	206 袷付留製品片	c-66-18-c	2086	振目		スズヒ?ヒノキ?		2.55	1.00	(16.1)	1	
1477	206 袷付留製品	c-66-28-a	1381	振目		ハリギリ		5.00	2.10	87.4	1	
1478	206 袷付留製品	c-67-00-c	9635	延目		ハリギリ		5.65	1.80	91.0	1	
1479	206 袷付留製品片	c-67-00-b	9828	延目		シナノキ		8.75	1.90	(96.2)	1	下駄?
1480	206 染入留付者丸木材片	c-66-09-c	469	丸本		ナナカマド		2.40	(1.30)	(9.0)	1	
1481	209 丸木材片	c-66-09-c	15378	丸本		〇アジサイ		1.90	1.70	(24.4)	1	21点と同一産物?特徴相違は産定値。

V 第0黒色土層の調査

表V-88 0日層揚靴木製品(60)

品目 番号	品名	発掘区	遺物番号	材質	用途	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	形状	備考
1483	209 仔孔入木材	c-66-09-d	15364	丸木	アジサイ	15.40 1.80 1.80	36.2	1	1481と同・歯付?
1483	209 仔孔入木材片	c-66-29-b	2118	丸木	ハンドアイ?	(25.30) 2.35 1.95	(74.4)	1	
1484	209 環部有孔円筒入木材	c-67-00	15303	丸木	アジサイ	30.20 1.80 1.75	64.1	1	
1485	209 環部有孔入木材	c-67-10-b	9083	丸木	ニガキ	97.80 5.30 4.80	1550.0	1	1孔径上から1.60cm×2.40cmと1.30cm×1.80cm.
1486	209 仔孔丸筒切製品	c-66-19-a	2608	楕円	ハンノキ	4.20 2.96 1.68	(9.8)	1	22点検合.
1487	209 仔孔丸筒	c-66-29-a	1258	楕円	ハンノキ	17.20 1.75 0.89	18.0	1	
1488	209 仔孔丸筒片	c-66-29-d	15403	楕円	コナラ	(29.00) 2.20 1.55	(62.1)	1	
1489	209 仔孔丸筒切製品	c-66-19-a	5551	楕円	ハリギリ	20.40 5.10 2.70	207.9	1	
1490	209 環付有孔筒片	c-66-09-a	2089	楕円	ヤナギ	(19.50) 5.70 2.75	(208.6)	1	
1491	209 環部有孔筒切製品	c-67-10-b	10186	楕円	スギ?	19.20 15.10 2.90	224.8	1	
1492	- 仔孔筒片	c-66-29-a	2333	楕円	ヒノキ?アサマ?スズコ?	(5.20) 2.40 0.90	(6.3)	1	
1493	210 仔孔筒筒材	c-66-19-b	15085	楕円	ヒノキ?アサマ?スズコ?スギ?	7.16 3.70 0.52	12.1	1	
1494	210 仔孔筒筒材	c-66-19-b	2079	楕円	サエデ	(9.20) 2.00 0.75	(8.6)	1	
1495	210 仔孔筒筒材	c-66-19-d	528	楕円	スギ	(16.32) 2.79 1.25	(22.0)	1	
1496	210 仔孔筒筒材	c-66-09-c	537	楕円	サエデ	(13.40) 4.73 0.62	(14.0)	1	22点検合.
1497	- 仔孔筒筒材	c-66-19-c	1328	楕円	スギ?ヒノキ?	(14.70) (3.20) 0.90	(18.5)	1	
1498	210 仔孔筒筒材	c-66-09-d	2687	楕円	ハリギリ	(19.20) 2.30 1.10	(38.0)	1	
1499	210 仔孔筒筒材	c-66-09-c	15344	楕円	サエデ 本野:アジサイ	(19.60) 3.10 1.30	(44.4)	1	33点検合(本野付含む).本野付3ヶ所の内,本野付1ヶ所.本野付1ヶ所.
1500	210 仔孔筒筒材	c-66-29-b	13414	楕円	ハリギリ	(19.27) 3.80 1.32	(63.6)	1	
1501	210 仔孔筒筒材	c-66-19-b	15408	楕円	サエデ	(17.44) 4.05 1.38	(65.2)	1	2箇所付片筒材は鑑定品.
1502	210 仔孔筒筒材	c-66-19-a	3038	楕円	ハリギリ	11.20 4.60 1.60	52.4	1	
1503	210 仔孔筒筒切製品	c-66-19-a	3011	楕円	スギ?スズコ?	6.97 5.32 0.85	20.7	1	
1504	210 仔孔筒筒材	c-66-19-b	1967	楕円	ハンノキ	(17.25) 5.20 1.45	(59.6)	1	
1505	210 仔孔筒筒材	c-66-09-c	1209	楕円	モクレン	(20.28) 4.92 1.45	(105.0)	1	

表V-89 0 B層縄文木製品 (61)

遺物番号	遺物名称	奥區区	遺物番号	木製/土製	種類	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備考	備考
1566	210 存孔麻削片	c-66-29-b	1412	土製	ハンノキ	(24.00) 4.40 1.60	(8.9)	1	2点接合。
1567	210 存孔麻削片	d-66-99-c	2054	土製	ハリギリ	25.95 6.60 2.00	(140.0)	1	2点接合。
1568	211 存孔麻削片	c-67-50-b	10770	土製	キハダ	(57.10) 4.40 1.70	(204.2)	1	3点中5点接合5点穴あり。計測時は測定法、保存処理後穴あり。計測時は保存処理後の孔。
1569	211 存孔麻削片	d-67-81-c	4029	土製	ハリギリ	26.50 6.10 1.40	162.0	1	1
1510	211 存孔麻削片	d-66-99-d	2850	土製	ウコギ(コシアブラ)	(39.00) 7.00 1.60	(256.0)	1	2点接合。
1511	211 存孔麻削片	d-67-81-b	2951	土製	カワラ	(45.80) 6.80 1.80	(336.0)	1	8点中4点接合5点穴あり。
1512	211 存孔麻削片	d-67-91-c	5932	土製	ニギキ	49.00 5.60 1.30	125.0	1	1 接合部。
1513	212 存孔麻削片	c-67-10-b	15307	土製	ハリギリ	(48.80) 6.34 2.45	(429.1)	1	2点接合。
1514	212 存孔麻削片	d-67-92-b d-67-82-c	5995	土製	ハリギリ	(42.00) 8.10 2.60	(522.0)	1	1
1515	- 存孔麻削片	c-66-09-c	218	土製	ハリギリ	12.90 7.70 1.00	55.3	1	1
1516	- 存孔麻削片	c-66-18-c	1341	土製	ハリギリ	12.20 7.40 1.50	82.6	1	1
1517	213 存孔麻削片	d-67-81-d	3274	土製	スギノクスコ?	(24.20) (4.20) 1.80	(109.0)	1	1
1518	213 存孔麻削片	d-67-90-d	6383	土製	ハンノキ	30.20 (9.20) 2.10	(387.0)	1	1
1519	213 存孔麻削片	d-66-99-c	2827	土製	ハリギリ	(27.90) (5.00) 1.20	(114.0)	1	1
1520	213 存孔麻削片	d-66-99-c	2053	土製	キニゲルミ	18.95 6.95 1.20	(92.0)	1	1
1521	213 存孔麻削片	d-67-81-c	3240	土製	スギ?	32.10 (5.05) 2.20	(170.0)	1	1
1522	213 存孔麻削片	c-67-00-b	7411	土製	ハリギリ	25.70 (2.50) 1.20	(154.5)	1	2点接合。
1523	214 存孔麻削片	c-67-00-d	8154	土製	トネリコ	(16.60) (7.20) (2.10)	(118.0)	1	1
1524	214 存孔麻削片	d-66-99-c	2512	土製	ハリギリ	(15.30) 8.40 1.20	(74.9)	1	1
1525	213 存孔麻削片	c-67-00-c c-67-10-b	8509	土製	ハリギリ	24.70 8.70 1.00	164.0	1	1
1526	214 存孔麻削片	c-67-00-a	1088	土製	モミ	(18.30) (7.90) (1.02)	(113.2)	1	1 接合部。
1527	214 存孔麻削片	c-67-10-b	15150	土製	ヒノキ?アサコ?	22.27 8.80 0.90	143.8	1	1 片物数多数あり。
1528	214 存孔麻削片	c-66-19-d	7239	土製	ハリギリ	31.60 8.60 2.05	372.1	1	7点中5点接合5点穴あり。
1529	214 存孔麻削片	d-67-91-d	5912	土製	シナノキ	(18.15) 9.25 1.60	(169.0)	1	4点中5点接合5点穴あり。裏面に片物数多数あり。

表 V-90 0 B層棉織木製品 (62)

調査 番号	遺物番号	遺物名	形状	材質	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	目録 番号	備考
1530	215	有孔織物片	透眼	○ハリヤリ	(16.35) (8.30) 2.00	(153.2)	1	
1531	215	有孔織物片	透眼	ハリヤリ	(18.30) 9.25 1.50	(155.8)	1	22点接合。
1532	215	有孔織物片	透眼	キハダ	(23.50) 12.50 1.46	(271.6)	1	
1533	215	有孔織物片	透眼	ハリヤリ	(23.20) 11.60 1.70	(242.0)	1	22点接合。
1534	215	有孔織物片	透眼	ハンノキ	(27.60) (9.60) 1.09	(300.0)	1	
1535	215	有孔織物片	透眼	ハコヤナギ	30.00 (13.10) 1.20	(248.0)	1	20点接合。
1536	216	有孔織物片	透眼	○シナノキ	(32.10) 11.20 2.20	(488.2)	1	22点接合。
1537	216	有孔織物片	透眼	ハリヤリ	(23.50) 15.50 1.90	(272.0)	1	30点接合。
1538	216	有孔織物片	透眼	○ハリヤリ	27.20 (15.30) 2.00	(403.0)	1	30点接合。
1539	217	有孔織物片	透眼	○ハリヤリ	23.15 9.55 3.50	(343.9)	1	22点接合。
1540	217	有孔織物片	透眼	○カマ	19.70 (10.25) 4.80	(555.0)	1	
1541	218	角材	透眼	モリス	(8.45) 2.35 1.60	(17.9)	1	
1542	218	角材	透眼	コナ	12.80 2.10 1.30	20.9	1	線削付。
1543	218	角材	透眼	ヒノキ?スサギ?	19.60 1.90 1.30	39.3	1	
1544	-	角材切製品	透眼	○スギ	19.90 2.90 1.60	70.0	1	
1545	218	角材切製品	透眼	カマ	23.95 4.55 3.24	268.0	1	
1546	218	角材切製品	透眼	スギ	31.60 4.75 2.45	228.0	1	
1547	218	角材切製品	透眼	キハダ	26.30 3.00 2.70	103.0	1	22点接合。
1548	218	角材	透眼	ハンノキ	34.10 4.80 2.40	(275.0)	1	
1549	218	角材	透眼	モミ	49.50 3.00 2.20	268.0	1	22点接合。
1550	219	角材	透眼	○スギ?ヒノキ?	74.15 5.60 2.50	640.0	1	
1551	219	細角材	透眼	○スギ?	41.47 2.40 1.26	30.0	1	22点接合。
1552	219	角材切製品	透眼	コナ	72.30 4.60 4.15	660.0	1	
1553	219	角材	透眼	○コナ	79.00 3.00 3.20	510.0	1	

表V-91 0日層掲載木製品(63)

図 番号	植物名称	産地	植物学名(木部)	樹皮 厚	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	葉 数	備考
1554	210 半割材片	c-67-32-4	半割	ハギ		(17.45) 1.90 (12.0)	1.00 (12.0)	1	葉の電氣あり。
1555	210 半割材	d-66-99-c	半割	○7ツサイ		28.90 1.80 1.00	27.0	1	
1556	220 板材片	c-66-19-4	板目	サナラ		(8.60) (2.40) 1.30 (20.0)	1.30 (20.0)	1	樹皮イトクバ付。
1557	220 板材	d-67-81-b	板目	スギ?		11.00 4.14 0.80	13.0	1	
1558	220 板材片	c-67-09-c	板目	ヒノキ?アスタロ?		(11.85) (3.00) 1.45 (38.6)	1.45 (38.6)	1	
1559	220 板材片	c-67-11-a	板目	○ヒノキ?アスタロ?ムスコ?		(12.60) (4.10) 1.00 (28.6)	1.00 (28.6)	1	
1560	220 板材片	d-67-81-4	板目	モクレン		(15.40) (3.40) 1.30 (28.0)	1.30 (28.0)	1	樹皮イトクバ付。
1561	220 板材片	c-67-09-c	板目	ヒノキ?アスタロ?		(20.80) (2.90) (1.10) (37.2)	1.10 (37.2)	1	月物値多量あり。
1562	220 厚板材	d-67-81-c	板目	スギ?		38.20 2.20 0.90	28.0	1	
1563	220 板材片	d-67-91-b	逆板	ハリギリ		(32.30) (4.10) 1.60 (118.9)	1.60 (118.9)	1	4.6品(1品接合)位実量。
1564	220 板材	c-66-09-b	板目	ヒノキ?アスタロ?		23.00 4.80 0.60	48.7	1	
1565	220 板材	c-66-71-b	板目	スギ		21.50 4.00 0.80	48.3	1	
1566	- 板材片	c-66-09-4	板目	サエダ		(15.50) 7.10 1.20 (56.5)	1.20 (56.5)	1	
1567	220 板材	c-66-19-4	板目	ハリギリ		19.40 6.48 1.91	170.9	1	
1568	221 板材片	c-67-09-a c-66-09-b	703 板目	ハリギリ		25.20 9.00 1.25 (189.0)	1.25 (189.0)	1	
1569	221 板材片	c-66-29-a	841 板底	ヒノキ?アスタロ?		(14.15) (9.95) (1.15) (112.9)	1.15 (112.9)	1	
1570	221 板材	d-67-91-b	5330 板目	ハリギリ		14.95 9.85 1.65	156.0	1	
1571	221 板材	c-66-18-c	993 板目	スギ?		33.75 7.30 1.63	321.4	1	
1572	221 板材片	c-67-49-c	10765 逆板	イヌエンジュ		(29.80) 10.60 1.30 (130.9)	1.30 (130.9)	1	4.6品接合。
1573	221 板材片	d-67-72-4	4443 逆板	サナラ		(58.60) 5.30 1.30 (340.0)	1.30 (340.0)	1	
1574	222 板材片	c-66-29-a	1844 板目	サハダ		51.70 12.60 1.80 (624.0)	1.80 (624.0)	1	葉脈面、月物値多量あり。
1575	222 板材	d-67-99-b	5086 板目	ハリギリ		33.60 12.40 1.80	556.0	1	
1576	222 板材片	c-66-28-c	519 板目	ハンノキ		(17.30) 15.70 2.00 (301.0)	2.00 (301.0)	1	2.2品接合。
1577	223 厚板材製品片	c-66-28-b	1408 半割	コナラ		4.90 (6.20) 3.60 (76.0)	3.60 (76.0)	1	

表V-92 0 B層編織木製品 (64)

図 品番 番号 品番	通称名称	発原国	産物番号	本取り 産地	製法	細説	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 数	備考
1576	223 厚板材片	d-67-7a-d	4440	板目		ヒノキ77スナゴ?	(10.00) 6.50 2.90	(120.0)	1	
1578	223 厚板材	c-66-0a-b	153	板目		ハリギキ	10.00 13.60 2.30	162.0	1	
1580	- 厚板材片	c-66-1a-a	2782	板目		カマ	19.40 10.65 2.00	(272.0)	1	56点検合。
1581	223 厚板材片	c-66-0a-b	1095	板目	○	モクレン	(15.20) (8.37) (5.10)	(202.7)	1	
1582	223 厚板材切斷品	c-66-0a-c	476	板目		スギ	14.30 8.00 2.65	233.4	1	
1583	223 厚板材	c-67-31-b	10251	逆延		コナラ	19.60 13.10 2.50	393.0	1	
1584	223 厚板材片	c-67-10	15110	逆延		キハダ	23.70 (11.40) 3.15	(560.0)	1	1個行。
1585	224 厚板材	c-66-0a-b	1915	板目	○	カマ	27.21 15.25 3.10	959.0	1	
1586	224 厚板材	d-67-30-a d-67-30-d	5970	逆延	○	ハリギキ	23.70 20.90 4.20	868.0	1	
1587	225 厚板材片	c-66-1a-c	2093	逆延		ハリギキ	39.70 19.10 2.50	(946.0)	1	1角材?
1588	225 厚板材片	d-67-91-a	5674	板目		ヤナギ	(37.90) 21.00 2.80	(1142.0)	1	4点検合。角材:木打式20cm。
1589	225 厚板材	c-67-61-b	10265	板目	○	スギ	61.00 22.00 2.90	2370.0	1	
1590	226 丸状板製品片	c-67-31-d	10647	丸木		トネリコ	(23.50) 4.00 4.20	(234.5)	1	
1591	226 厚板板製品	c-67-0a-a	250	板目		サエデ	23.30 3.75 5.50	228.5	1	
1592	226 厚板板製品	d-67-81-b	4428	1/2割		サエ	45.40 8.30 3.20	646.0	1	
1593	226 厚板板製品	c-67-10-b	15455	平割		ヤナギ	38.50 2.70 1.70	95.4	1	22点検合。
1594	227 厚板板製品切斷品	c-66-3a-d	13355	1/4割		コナラ	119.30 7.00 7.90	1650.0	1	
1595	227 厚板板製品切斷品	c-67-10-c	15279	1/4割		ヤナギ	32.50 3.45 3.40	217.0	1	
1596	227 厚板板製品片	c-67-0a-b c-67-0a-c	9618	1/2割	○	コナラ	(140.10) 12.00 8.10	(7000.0)	1	1個材。
1597	227 厚板板製品片	c-67-0a-c	3342	平割		サエデ	67.75 9.50 4.70	(1625.0)	1	
1598	228 丸状板製品	c-66-1a-b	3016	丸木	○	アジヤイ	14.20 2.10 2.10	34.0	1	
1599	228 丸状板製品切斷品片	d-67-91-d	5866	丸木		アジヤイ	(16.40) 2.25 2.20	(56.5)	1	
1600	228 丸状板製品切斷品	c-67-10-c	6764	丸木	○	コナラ	20.80 3.60 3.58	108.0	1	22点検合(断面含む)。断面番号。断面寸法幅1.20cm×厚5.0.20cm。
1601	228 丸状板製品	c-66-2a-b	1411	丸木	○	ヤナギ	23.50 1.90 1.90	54.6	1	

表 V-93 0 B層縄文木製品 (65)

図 番	遺物 番号 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号 本取り 位置	形状 長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	厚さ 片 体	備考
1602	228	丸柱状製品切斷品	c-66-09-b	丸本	22.50 3.80 3.80	235.0	1	
1603	228	丸柱状製品	c-66-28-a	丸本	27.10 1.80 1.70	52.1	1	
1604	228	丸柱状製品片	c-67-10-b	丸本	(31.60) 2.50 1.92	(77.9)	1	
1605	228	丸柱状製品	c-67-00-c	丸本	28.65 1.50 1.45	60.1	1	1枚付。
1606	228	丸柱状製品	c-67-10-b	丸本	45.50 2.60 2.80	207.3	1	35.0点組合。
1607	229	丸柱状製品	c-67-10-c	丸本	63.25 2.78 3.12	300.0	1	
1608	228	丸柱状製品	c-67-10-b	丸本	33.30 2.90 2.80	165.7	1	
1609	229	丸柱状製品	d-67-91-b d-67-91-c	丸本	59.80 2.90 2.80	339.4	1	22.0点組合
1610	229	丸柱状製品片	c-67-10-b	丸本	(53.50) 1.70 1.60	(102.4)	1	
1611	229	丸柱状製品片	c-66-19-b	丸本	(47.90) 2.25 2.50	(153.0)	1	22.0点組合。
1612	228	丸柱状製品	c-67-12-d	丸本	49.80 4.20 4.10	514.0	1	
1613	228	丸柱状製品切斷品	c-67-10-b c-67-00-c	丸本	35.80 4.03 3.90	317.0	1	
1614	228	丸柱状製品切斷品	c-67-01-a	丸本	36.05 5.78 5.53	753.0	1	
1615	228	丸柱状製品片	c-67-01-a	丸本	(44.20) 8.50 8.00	(2094.0)	1	
1616	230	丸柱状製品片	c-67-10-c	丸本	(78.00) 3.85 3.93	(670.0)	1	
1617	230	丸柱状製品切斷品	c-66-28-b	丸本	70.40 5.60 4.10	988.0	1	
1618	230	丸柱状製品	c-67-10-c	丸本	66.30 3.01 2.93	420.0	1	
1619	230	丸柱状製品	c-67-00-b	丸本	73.00 7.30 7.80	2250.0	1	44.0点組合(複製品を含む)。
1620	230	丸柱状製品	c-67-10-b c-67-10-c	丸本	114.60 7.80 7.30	3840.0	1	
1621	230	丸柱状製品	c-66-09-a c-66-09-b	丸本	134.30 8.50 7.20	2560.0	1	
1622	231	丸木材片	d-67-91-c	丸本	(64.70) 2.20 2.20	(196.2)	1	44.0点組合(複製品あり)。
1623	231	丸木材切斷品	c-67-11-a	丸本	16.25 3.90 3.90	176.4	1	1本口に複製品あり。
1624	231	河原丸木材	c-66-18-c	丸本	25.90 1.55 1.40	37.1	1	
1625	231	丸木材片	e-66-38-a	丸本	(34.60) 2.65 2.70	(153.9)	1	1枚複製品付録?

V 第0黒色土網の調査

表V-94 0日層褐炭木製品(66)

調査番号	産地名	製法	製法区	産物番号	産物名	製法	製法区	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	炭素含有率 (%)	備考	
1628	231	丸木材	c-66-09-b	371	丸木	カエテ		68.50 3.00 2.85	399.0	1	22点検合。	
1627	231	丸木材切斷品	c-66-09-b	15419	丸木	ヤナギ		32.80 2.55 2.50	120.0	1	33点検合・本管?	
1628	231	丸木材片	c-66-29-a	15399	丸木	ヤナギ	(46.00)	2.30 2.40	(124.1)	1	44点検合・高った後切斷加工あり。	
1629	231	細丸材	c-66-09-c	1210	炭化	スギ		22.40 1.30 1.10	24.1	1	1	
1630	231	丸材片	c-67-10-c	15357	炭化	カエテ	(22.40)	2.30 2.10	(61.7)	1	1	
1631	231	丸材切斷品	c-66-09-d	15051	炭化	トネリコ		24.50 3.60 3.50	223.6	1	1	
1632	232	炭化製針先片	c-66-28-b	1316	平削	カマヤ	(5.30)	1.50 0.90	(3.4)	1	1	
1633	232	炭化製針先片	c-66-19-a	3087	炭化	ヤナギ	(7.16)	2.42 1.15	(10.5)	1	1	
1634	232	炭化製針先	c-66-18-b	1506	平削	○アジサイ		9.20 2.00 1.00	7.9	1	1	
1635	232	炭化製針片	c-66-27-b	15459	平削	アジサイ	(36.70)	2.30 1.60	(51.4)	1	22点検合。	
1636	232	炭化製針片	c-67-31-a	10271	丸木	○ハシドイ	(37.10)	2.40 2.60	(130.0)	1	22点検合。	
1637	233	上層部炭入製材Y字状製品	c-66-09-d	2553	炭化	ハンノキ		11.40 7.20 2.65	56.7	1	1炭材?	
1638	233	Y字状製品	d-66-99-d	2480	炭化	○コナラ		16.60 26.50 3.00	134.8	1	22点検合・炭材?	
1639	233	Y字状製品	c-67-10-a c-67-10-d	7317	炭化	カエテ		27.30 13.10 3.05	176.0	1	22点検合・炭材?	
1640	233	下層部炭付Y字状製品	c-66-19-a	2628	炭化	ヤナギ		32.50 15.95 2.45	87.4	1	22点検合・炭材?	
1641	234	高圧式炭埋製針片	d-67-91-c d-67-91-d	5090	丸木	○コナラ	(183.50)	8.70 7.90	(5425.0)	1	22点検合・高・炭材片?	
1642	234	高・炭材片	c-67-20-b	7294	丸木	○コナラ	(175.60)	8.70 8.60	(5150.0)	1	1	
1643	234	炭入製材埋製針片	c-67-00-d	7374	丸木	ヤナギ	(61.40)	7.80 6.00	(1383.0)	1	22点検合・高・炭材片?	
1644	234	高・炭材切斷品	c-66-19-d c-66-29-a	14778	丸木	カエテ		111.40 7.80 7.70	3760.0	1	1ペレット出上・片割れ多数あり。	
1645	235	炭部付埋製針片	c-67-10-c c-67-11-d	8445	炭化	○カエテ		136.90 7.30 7.20	2750.0	1	1埋製Y字状?	
1646	235	高・炭材切斷品片	c-67-10-c c-67-20-b	9653	丸木	○コナラ	(141.70)	8.20 5.20	(2530.0)	1	1	
1647	235	高・炭材切斷品片	d-67-91-b d-67-91-c	3199	丸木	○コナラ	(181.30)	8.80 8.90	(10030.0)	1	1片割れ多数あり。	
1648	235	炭部付埋製針片	c-66-09-a c-66-09-b	1774	炭化	○コナラ	(40.10)	7.45 5.30	(378.0)	1	22点検合・炭材Y字状。	
1649	236	埋製製針片	c-66-29-a	1474	炭化	トネリコ		(36.50)	6.70 4.20	(454.0)	1	1

表V-95 0日層繊維木製品(67)

国産 番号	品名	規格	製造番号(本張り) 区分	積層 区分	種類	長さ×幅×厚さ(mm)	質量(kg)	積層 枚数	備考		
1650	236 受部材柱材片	c-66-29-c	276	丸木	オエダ	(80.40) (18.50) (20.70)	(13000.0)	1	1 入 字状。		
1651	236 ホノ光ノ丸木材	c-67-02-c	6045	丸木	トネリコ	32.23	4.90	025.4	1		
1652	236 受部材柱材	c-66-29-d	390	丸木	オエダ	21.60	14.30	334.0	1	1 柱部 Y 字状。	
1653	236 受部材柱材片	c-67-20-b	02008	丸木	アマシダ	(67.20) (10.30)	7.80	(2877.0)	1	2 点 接合。1 柱部 Y 字状。	
1654	237 受部材柱材	c-67-10-b	12565	丸木	ハシドイ	169.50	18.00	6.30	5350.0	1	1 柱部 三つ 又状。
1655	237 受部材柱材片	c-67-10-c	9277	丸木	コナラ	(169.10) (9.60)	9.60	(6075.0)	1	1 柱部 Y 字状。	
1656	237 板・部材別部品	c-67-30-b	02009	丸木	ハンノキ	155.10	9.90	10.90	7400.0	1	1
1657	237 板・部材	c-67-10-b c-67-11-a	12578	1 内張り	コナラ	184.10	8.20	7.70	5350.0	1	1
1658	237 板・部材片	c-67-09-b c-67-00-c	9003	丸木	コナラ	(187.50)	4.80	4.30	(1625.0)	1	1
1659	237 板・部材	c-67-10-b c-67-00-c	9722	丸木	オエダ	206.00	8.80	7.20	9556.0	1	1
1660	238 板・部材	d-67-91-a d-67-91-b	5831	丸木	ウメシ(スギノ)	191.20	7.60	6.30	4600.0	1	1
1661	238 受部材柱材	c-66-19-a c-66-19-b	3952	丸木	コナラ	133.40	17.50	7.60	4620.0	1	1 柱部 Y 字状。万物感あり。
1662	238 受部材柱材	d-67-91-a d-67-81-c	5221	丸木	コナラ	179.30	13.30	6.90	5300.0	1	1 柱部 Y 字状。万物感あり。
1663	238 受部材柱材	c-67-11-b	8006	丸木	オナカマド	218.10	16.90	8.90	8540.0	1	1 柱部 Y 字状。縦割付付。
1664	239 板材本通	c-66-19-b	3949	榎目	スギノ木コ?	3.83	2.15	1.20	3.8	1	1
1665	239 板材本通	d-67-91-b	5327	榎目	ヤナギ	3.85	4.60	1.20	16.0	1	4 点 接合。
1666	239 板材本通	c-66-09-b	1174	榎目	ヤナギ	7.70	4.80	1.40	31.0	1	1
1667	239 板材本通	c-66-19-b	2468	榎目	ハコヤナギ	(9.40)	2.95	1.90	(20.0)	1	1 矢筈 置付?
1668	- 本通	c-66-19-d	2423	丸木	スギノヒノキ?木コ?	4.80	4.00	2.30	16.0	1	1
1669	239 本通	c-66-19-d	2395	榎目	スギノヒノキ?木コ?	4.60	3.90	2.40	22.0	1	1 継付。
1670	- 本通	c-66-09-d	1795	1 2割	ハンノキ	14.10	5.20	3.05	66.0	1	1
1671	239 内材本通	d-67-91-b	5228	榎目	ハンノキ	6.10	6.88	4.00	99.0	1	1
1672	- 丸木材留片	c-66-19-a	3788	榎目	アマシダ	15.50	5.20	2.90	96.0	1	1
1673	239 丸木材本通	c-66-09-d	990	丸木	オハノキ	5.70	5.90	5.90	115.0	1	1

表V-96 0日層織木製品(68)

国産品 品名・品番	産物名称	産別	産物番号 本産り品	製法 産別	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	厚み mm	備考
1674	- 丸木材本産	c-66-18-b	1830	平産	ラマシア	8.60 2.30 1.80	26.0	1	
1675	239 本産	c-66-19-d	7251	板目	不変	9.90 3.15 2.20	34.0	1	
1676	239 丸木材本産	c-67-00-b	8187	丸本	キエツ	14.00 6.30 6.35	384.6	1	
1677	239 丸木材本産	c-66-18-c	15054	丸本	サクラ	10.15 6.20 6.30	205.0	1	
1678	239 丸木材本産	c-67-10	15109	丸本	ハンノキ	7.30 9.30 7.50	223.4	1	
1679	240 丸木材本産	c-66-09-b	370	丸本	ナカマツハンド?	8.10 6.70 6.70	62.0	1	
1680	240 丸木材本産	d-67-72-d	4453	平産	ハンノキ	16.20 10.25 6.00	487.8	1	
1681	240 炭化材	c-66-19-a	2427	板目	不変	1.00 1.25 0.65	6.3	1	
1682	240 炭化材	c-66-09-d	483	丸本	サクラ	4.30 1.60 1.25	4.8	1	
1683	240 炭化材	c-66-09-a	2181	板目	ハンノキ	8.30 3.10 1.50	17.8	1	1層目。
1684	240 炭化材	c-67-01-d	12538	丸本	不変	10.45 1.77 1.75	19.3	1	
1685	240 炭化材	c-67-11-a	15341	丸本	コナラ	11.70 3.60 3.55	57.8	1	
1686	240 炭化材	c-67-11-a	15338	1/4層	ハンノキ	12.85 5.15 3.00	100.5	1	
1687	240 有孔炭化竹製品片	c-66-19-a	15182	産	イナ材(サヤ)	(10.45) 1.60 1.65	(9.5)	1	2点接合。
1688	240 有孔竹製品片	c-66-19-b	5745	1/5層	イナ材(サヤ)	(12.00) (2.60)	(6.0)	1	2点接合。
1689	240 二層竹製品片	c-66-29-a	1416	平産	イナ材(サヤ)	(16.80) 1.60 0.80	(5.0)	1	
1690	240 竹筒	c-66-19-a	15333	1/2層	イナ材(サヤ)	(9.45) (1.60)	(5.0)	1	1層厚さあり。
1691	240 四層竹製品片	d-67-91-d	5694	産	イナ材(サヤ)	(8.15) 1.30 1.30	(8.0)	1	
1692	240 竹筒製品	c-67-11-a	15340	1/4層	イナ材(サヤ)	10.70 1.70 0.50	4.9	1	
1693	- 竹筒製品片	c-66-29-d	209	1/4層	イナ材(サヤ)	(24.70) 2.50 0.80	(26.0)	1	
1694	241 竹炭製品片	c-66-27-b	13	板目	柳皮(カバノキ)	(26.95) 2.40 9.75	(26.6)	1	6点中5点接合5点炭素2ヶ所1層の組成層り孔多数あり。
1695	241 竹炭製品	d-67-81-b	4316	板目	柳皮(カバノキ)	14.70 6.20 6.50	22.0	1	
1696	241 炭化製品	c-66-29-b	5132	板目	柳皮(カバノキ)	17.00 3.80 3.80	75.9	1	おそろく削竹筒を意いたもの。
1697	241 炭化製品	c-66-09-b	154	板目	柳皮(カバノキ)	16.90 8.10 3.65	197.5	1	2点中1点炭素。

表 V-07 0 B層縄文木製品 (69)

器 物 名 目 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	本取り 位置	形状	材質	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	厚さ mm	備考
1598 241	口付刷込巻	c-67-30-b	15208	刷込 ○	刷込(カハノキ)	10.10 3.50 3.10	44.6	1	1	1個小用。
1599 241	胴付刷込製品	c-66-18-d	15205	刷込 ○	刷込(カハノキ)	9.40 2.90 0.90	3.0	1	1	
1700 242	刷込型竹器把下片	d-67-91-a	15233	丸本 ○	コナラ	(10.10) (5.55) (2.25)	(22.7)	1	1	
1701 242	刷込型竹器把下片	c-66-19-b	3888	丸本 ○	カエデ	(12.30) (2.13) (2.30)	(30.1)	1	1	
1702 242	刷込型竹器把下片	c-66-09-c	15048	丸本 ○	ニシキギ	(16.15) (6.00) (2.20)	(44.3)	1	1	
1703 242	刷込型竹器片	d-66-99-c	15444	刷込 ○	刷込(カハノキ)	(9.70) (7.90) (2.50)	(67.8)	1	1	3.5点鎌倉(軸)2点含む。口縁部削片入。
1704 242	刷込製品	c-67-10	15198	刷込 ○	刷込(カハノキ)	10.50 7.80 1.40	21.0	1	1	
1705 242	刷込製品	c-66-19-d	2294	刷込 ○	刷込(カハノキ)	11.10 4.20 2.80	75.7	1	1	22点中1点本取り。口縁部削片あり。
1706 242	切縁刷込	c-66-18-b	1808	刷込 ○	刷込(カハノキ)	14.20 5.90 0.20	9.6	1	1	1ヶ丸あり。
1707	細帯状刷込巻	c-66-18-b	1825	刷込 ○	刷込	2.45 1.40 1.30	0.6	1	1	1刷込式。
1708 243	細帯状刷込巻	c-66-19-d	2386	刷込 ○	刷込	2.80 1.85 1.40	1.5	1	1	1刷込式。片の端に加工あり。
1709	細帯状刷込巻	c-66-19-d	7258	刷込 ○	刷込	4.70 2.80 1.30	3.2	1	1	1刷込式。
1710 243	細帯状刷込巻	c-66-09-b	15028	刷込 ○	刷込	3.26 2.73 1.20	2.8	1	1	1刷込式。
1711	細帯状刷込巻	c-66-19-a	2783	刷込 ○	刷込	2.90 2.60 1.30	1.6	1	1	1刷込式。
1712 243	細帯状刷込巻	c-66-27	15350	刷込 ○	刷込	2.87 2.47 0.95	1.6	1	1	1刷込式。
1713	細帯状刷込巻	c-66-18-b	1824	刷込 ○	刷込	3.40 3.10 2.00	3.4	1	1	1刷込式。
1714 243	細帯状刷込巻	c-66-18-c	1441	刷込 ○	刷込	3.00 3.90 1.90	5.4	1	1	1刷込式。
1715 243	細帯状刷込巻	c-66-18-d	2909	刷込 ○	刷込	4.09 3.40 1.25	4.3	1	1	1刷込式。
1716 243	細帯状刷込巻	c-66-19-d	3825	刷込 ○	刷込	4.10 4.30 1.42	5.7	1	1	1刷込式。
1717 243	細帯状刷込巻	c-67-10-c	15321	刷込 ○	刷込	3.60 3.30 1.00	2.3	1	1	1刷込式。
1718 243	細帯状刷込巻	d-66-99-d	2280	刷込 ○	刷込	3.84 2.97 1.59	6.1	1	1	1刷込式。
1719 243	細帯状刷込巻	c-66-27	15007	刷込 ○	刷込	3.60 3.00 1.02	2.8	1	1	1刷込式。槽口削片確認?
1720 243	細帯状刷込巻	c-66-09-c	15375	刷込 ○	刷込	3.86 3.00 1.08	3.6	1	1	1刷込式。槽口削片確認?
1721 243	細帯状刷込巻	d-66-99-c	2271	刷込 ○	刷込	4.06 3.65 1.40	5.4	1	1	1刷込式。槽口削片確認?

V 第0黒色土層の調査

表 V-98 0 日腐掲載木製品 (70)

調査 番号	調査 名称	採照区	標識 木型(r)	樹種	直径 (cm)	高さ (m)	胸高径 (cm)	樹体 形状	備考
1722	樹皮剥離検査	c-66-08-c	1134	樹皮 ○	3.50 2.90	1.30	4.0	1	1節式。
1723	樹皮剥離検査	c-66-19-d	2367	樹皮 ○	3.90 3.10	1.60	4.0	1	1節式。
1724	樹皮剥離検査	c-66-19-d	2390	樹皮 ○	4.50 4.40	1.25	4.7	1	1節式。
1725	樹皮剥離検査	d-66-09-d	2481	樹皮 ○	4.20 4.00	1.13	4.6	1	1節式。
1726	樹皮剥離検査	c-66-09-c	192	樹皮 ○	4.60 3.93	1.58	7.1	1	1節式。
1727	樹皮剥離検査	c-67-10-c	13356	樹皮 ○	5.10 3.66	1.52	6.2	1	1節式。
1728	樹皮剥離検査	c-66-29-a	1253	樹皮 ○	4.85 4.85	1.30	5.0	1	1節式。
1729	樹皮剥離検査	c-67-10-b	13335	樹皮 ○	5.90 3.47	1.30	7.7	1	1節式。樹皮剥離検査?
1730	樹皮剥離検査	c-66-18-d	531	樹皮 ○	5.08 3.48	1.95	7.0	1	1節式。
1731	樹皮剥離検査	c-66-17-c	205	樹皮 ○	3.80 4.10	1.90	10.0	1	1節式。
1732	樹皮剥離検査	c-66-19-a	3760	樹皮 ○	4.60 5.42	1.78	8.1	1	1節式。
1733	樹皮剥離検査	c-67-10-b	13308	樹皮 ○	5.50 5.13	2.40	7.4	1	1節式。
1734	樹皮剥離検査	c-66-19-d	2464	樹皮 ○	6.60 4.15	1.50	8.8	1	1節式。
1735	樹皮剥離検査	d-66-09-b	2282	樹皮 ○	6.30 5.50	1.43	7.7	1	1節式。
1736	樹皮剥離検査	c-66-09-a	1938	樹皮 ○	5.20 8.90	2.00	15.1	1	1節式。
1737	樹皮剥離検査	c-66-18-b	1826	樹皮 ○	4.70 2.40	1.65	6.1	1	1節式。
1738	樹皮剥離検査	c-66-19-d	2446	樹皮 ○	4.10 3.90	1.80	6.4	1	1節式。
1739	樹皮剥離検査	c-66-18-c	1435	樹皮 ○	4.70 4.30	1.70	8.5	1	1節式。
1740	樹皮剥離検査	c-66-18-c	1864	樹皮 ○	6.20 3.90	1.40	3.3	1	1節式。
1741	樹皮剥離検査	c-66-19-d	4721	樹皮 ○	4.10 3.90	2.25	8.6	1	1節式。
1742	樹皮剥離検査	c-66-19-a	4749	樹皮 ○	3.75 4.82	2.50	11.0	1	1節式。
1743	樹皮剥離検査	c-66-19-a	4722	樹皮 ○	6.10 4.40	1.90	9.6	1	1節式。
1744	樹皮剥離検査	c-66-19-d	15090	樹皮 ○	3.78 4.54	1.65	11.1	1	1節式。
1745	樹皮剥離検査	c-67-10-d	6768	樹皮 ○	7.58 4.59	1.70	8.0	1	1節式。

表 V-09 0 B 層構造木製品 (71)

品番 (前号)	品番 (後号)	通称名称	用途区分	通称符号 (木製品)	構造	長さ×幅×厚さ (mm)	重量 (kg)	部 材 種 別	備 考
1746	-	扉型肘置成巻	c-66-19-b	肘置 ○	肘置	4.20 4.90 1.90	10.3	1 肘置式。	
1747	243	扉型肘置成巻	c-66-17-b	肘置 ○	肘置	3.50 2.70 2.20	6.3	1 肘置式。	
1748	243	扉型肘置成巻	c-66-17-b	肘置 ○	肘置	3.74 4.50 2.00	5.4	1 肘置式。	
1749	243	扉型肘置成巻	c-66-19-d	肘置 ○	肘置	4.40 1.90 2.20	2.8	1 肘置式。	
1750	244	扉型肘置成巻	c-66-18-c	肘置 ○	肘置	3.05 1.96 0.93	2.6	1 4点接合・通扉挿入式・小刀用。	
1751	244	扉型肘置成巻	c-66-49	肘置 ○	肘置	3.20 2.53 0.60	0.6	1 肘置挿入式。	
1752	244	扉型肘置成巻	d-67-91-c	肘置 ○	肘置	4.30 2.13 0.82	0.9	1 肘置挿入式。	
1753	244	扉型肘置成巻	d-67-91-d	肘置 ○	肘置	4.63 2.33 0.75	1.6	1 肘置挿入式。	
1754	244	扉型肘置成巻	c-67-10-b	肘置 ○	肘置	5.60 4.10 1.68	2.5	1 2点接合・通扉挿入式。	
1755	244	扉型肘置成巻	c-67-10-d	肘置 ○	肘置	(9.80) 1.40 1.43 (1.6)	1 3点接合・通扉挿入式。		
1756	244	扉型肘置成巻	d-66-99-c	肘置 ○	肘置	5.75 0.90 1.20	1.5	1 肘置挿入式。	
1757	244	扉型肘置成巻	c-67-10-d	肘置 ○	肘置	2.00 1.65 1.72	1.8	1 肘置式。	
1758	244	扉型肘置成巻	c-66-09-b	肘置 ○	肘置	3.80 2.50 0.90	1.2	1 2点接合・肘置式。	
1759	244	扉型肘置成巻	d-66-99-c	肘置 ○	肘置	4.43 1.20 3.30	1.9	1 肘置挿入式。	
1760	244	扉型肘置成巻	c-66-29-a	肘置 ○	肘置	4.50 5.02 0.54	1.2	1 2点接合・肘置式。	
1761	244	扉型肘置成巻	c-67-10	肘置 ○	肘置	6.60 3.98 1.20	4.6	1 肘置挿入式。	
1762	244	扉型肘置成巻	c-67-10-c	肘置 ○	肘置	4.90 5.20 0.83	2.3	1 肘置式・肘置3ヶ所。	
1763	244	扉型肘置成巻	c-66-19-d	肘置 ○	肘置	9.20 8.70 1.90 (4.1)	1 2点接合・肘置式。		
1764	244	扉型肘置成巻	d-66-99-c	肘置 ○	肘置	(12.60) 5.70 2.60 (2.3)	1 2点接合・肘置式。		
1765	244	扉型肘置成巻	c-66-09-a	肘置 ○	肘置	1.60 1.90 0.60	0.7	1 肘置式。	
1766	244	扉型肘置成巻	c-66-09-d	肘置 ○	肘置	1.70 2.60 0.50	0.5	1 肘置式。	
1767	245	扉型肘置成巻	c-66-19-b	肘置 ○	肘置(カバノキ)	3.10 3.44 2.00	5.6	1 肘置式。	
1768	245	扉型肘置成巻	d-66-99-d	肘置 ○	肘置(カバノキ)	2.90 2.20 2.10	4.1	1 肘置式。	
1769	245	扉型肘置成巻	c-67-02-d	肘置 ○	肘置(カバノキ)	4.10 3.30 2.92	15.2	1 肘置式。	

表V-100 0B層地盤木製品(72)

品目 品番 番号	品名	製造番号	材質	規格	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	部 品 数	備考
1770	同状板皮巻	c-66-18-b	板皮 ○	板皮 (カバノキ)	4.30 2.80 2.80	20.0	1	1枚入用。
1771	同状板皮巻	c-66-28-c	板皮 ○	板皮 (カバノキ)	6.37 3.90 2.80	11.3	1	1個箱形式式?
1772	同状板皮巻	c-66-19-a	板皮 ○	板皮 (カバノキ)	5.50 3.70 2.20	16.2	1	1枚入用。
1773	同状板皮巻	c-66-09-b	板皮 ○	板皮 (カバノキ)	4.50 3.10 1.40	4.0	1	1枚入用。
1774	同状板皮巻	c-66-29-a	板皮 ○	板皮 (カバノキ)	9.68 4.70 2.65	40.5	1	1枚入用。
1775	同状板皮巻	c-67-10-b	板皮 ○	板皮 (カバノキ)	7.00 4.63 3.30	34.9	1	1枚入用。
1776	同状板皮巻	c-67-10-b	板皮 ○	板皮	26.74 16.55 2.00	9.7	1	1打形式式。
1777	同状板皮巻	c-66-18-b			(18.00) (12.36) 2.40	(---)	1	3個組計。計測時は巻、取付のため重量計測不能。
1778	同状板皮巻	d-66-99-c			(20.15) 1.25 1.10	(---)	1	1枚入用。5枚入り。取付のため重量計測不能。
1779	同状板皮巻	c-66-09-b			(13.30) 18.00 2.80	(---)	1	1枚入用。5枚入り。計測時は巻、取付のため重量計測不能。
1780	同状板皮巻	c-66-29-b			(20.50) 4.30 1.24	(---)	1	1枚入用。5枚入り。2枚入りの本を巻取っている。計測時は巻、取付のため重量計測不能。
1781	同状板皮巻	c-66-30-b			(24.28) 2.18 1.89	(---)	1	6枚入用。2枚入り。取付のため重量計測不能。
1782	同状板皮巻	c-67-10-c			(4.48) 0.86 0.20	(---)	1	1枚入用。5枚入り。取付のため重量計測不能。
1783	同状板皮巻	c-67-01-d			(18.27) 1.08 0.40	(---)	1	3枚入用。2枚入り。取付のため重量計測不能。
1784	同状板皮巻	c-67-10-b			(24.30) 0.66 0.50	(---)	1	1枚入用。5枚入り。取付のため重量計測不能。
1785	同状板皮巻	c-67-10-c			(20.00) 13.60 1.74	(---)	1	1枚入用。5枚入り。2枚入りの本を巻取っている。計測時は巻、取付のため重量計測不能。
1786	同状板皮巻	c-67-00-b			(10.90) 7.43 3.20	(---)	1	1枚入用。2枚入り。2枚入りの本を巻取っている。計測時は巻、取付のため重量計測不能。
1787	同状板皮巻	c-67-00-c			(34.37) 0.65 0.50	(---)	1	4枚入用。2枚入り。取付のため重量計測不能。
1788	同状板皮巻	c-66-09-b			(22.80) 0.60 0.50	(---)	1	1枚入用。5枚入り。取付のため重量計測不能。
1789	同状板皮巻	c-66-18-c			(29.19) 2.43 1.28	(---)	1	1枚入用。5枚入り。計測時は巻、取付のため重量計測不能。自然乾燥。計測時は乾燥後の重。
1790	同状板皮巻	c-66-19-b			(18.15) 1.56 1.10	(---)	1	4枚入用。5枚入り。2枚入りの本を巻取っている。取付のため重量計測不能。
1791	同状板皮巻	c-66-08-c			(23.00) 18.50 1.70	(---)	1	4枚組のため重量計測不能。
1792	同状板皮巻	d-66-99-c			(17.10) 7.00 0.30	(---)	1	3枚巻巻。取付のため重量計測不能。
1793	同状板皮巻	d-66-99-d			(63.00) 8.40 0.90	(---)	1	2枚巻巻。取付のため重量計測不能。

VI 重機（クラムシェル）調査

1 調査結果の概要

クラムシェル調査における陶磁器の分布は平成3年度調査区に接する部分に多い。據文土器は2回目採取地区に多い。磁石・礫なども據文土器と同じ傾向をもっている。2回目採取地区は低湿度東端の地点に当たるが遺物の分布は濃いようである。この地点から尾根裾をまわって下流側へ約100m行くと平成元年調査区に到達する。
(田口・鈴木)

2 遺物

(1) 陶磁器・土器類 (図VI-1~4・7、表VI-1、図版250、カラー図版12-4)

14は珠洲插鉢で吉岡編年V新(15世紀中)である。口縁部には3カ所の打ち欠きがみられる。おそらくは4カ所にあったと思われる。底部は磨滅により薄くなっていた。昭和56年度調査の破片(26点)と平成元年調査の破片(3点)と平成4年クラムシェル調査の破片(3点)とが接合した。昭和56年度出土地点と平成元年出土地点は約32m、平成元年出土地点と平成4年出土地点は約36m離れている。

地点が離れて接合することは、一地点で機能が消失して、使用停止後埋没したのではなく、転用の場があったということである。口縁部の打ち欠きは吊り下げるための掛り(荷造りの縄掛りと言う説もある)と考えられ転用後の用途としては容器・鍋(外面に煤は付着していないが)が考えられる。

15は中国製青磁碗で上田分類E類(14世紀後半~15世紀前半)である。約4m離れて接合した。この付近で機能が消失し埋没したものであろう。珠洲插鉢も同じ地点である。また、約10m離れた地点(c-67-30-c)から茶筌が出土している。

16は伊万里染付碗(17世紀前半)である。約2.5m離れて接合した。この付近で機能が消失し埋没したものであろう。

17は伊万里染付碗で、藍色を呈する発色のよい呉須で口縁部外面に2本線と「樹木文?」、年代は17世紀後半?。18は染付小碗で、軸は気泡がなく、そのため器表に小孔がない。藍色を呈する発色の極めてよい呉須で外面に「樹木と竹文?」、年代は不明。

(2) 石器・石製品 (図VI-4・7、表VI-1、図版250)

33は両上面を使用する。34は2側縁に両面から打ち欠きが施される。35は3面を使用する。36は礫の原形を保つ。両上面を使用する。37は棒状の礫の片側面を使用する。
(鈴木 信)

(3) ガラス製品 (図VI-5、表VI-2、図版250)

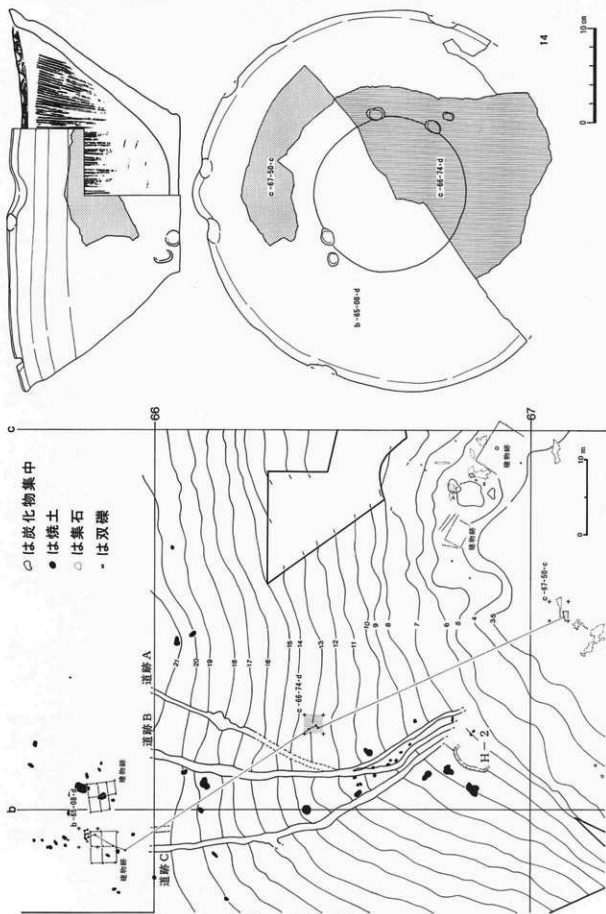
ガラス玉(13・14): 13は側面観が長円形となる丸平玉のビーズ状である。やや光沢のある青みがかった緑色である。14の表面は一部風化しており光沢が無く、中央部が帯状にわずかに括れる管玉状のビーズ玉である。平成3年度のA'地区との境界から出土した。
(田口 尚)

(4) 金属製品 (図VI-6・8、表VI-3、図版251-1、カラー図版13-1)

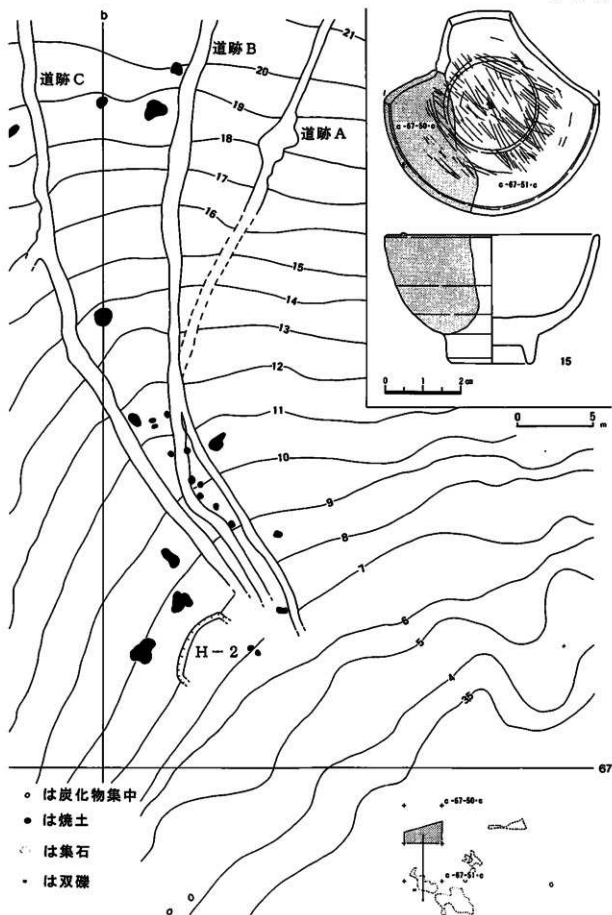
金属製品は、平成3年度のA'地区との境界から出土するものが多い。

鉄鍋片(187・188): いずれも胴部の小破片である。錆等の腐食が著しく、鉄分が溶脱しており結晶状にひび割れている。

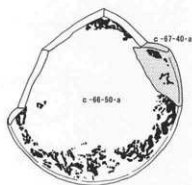
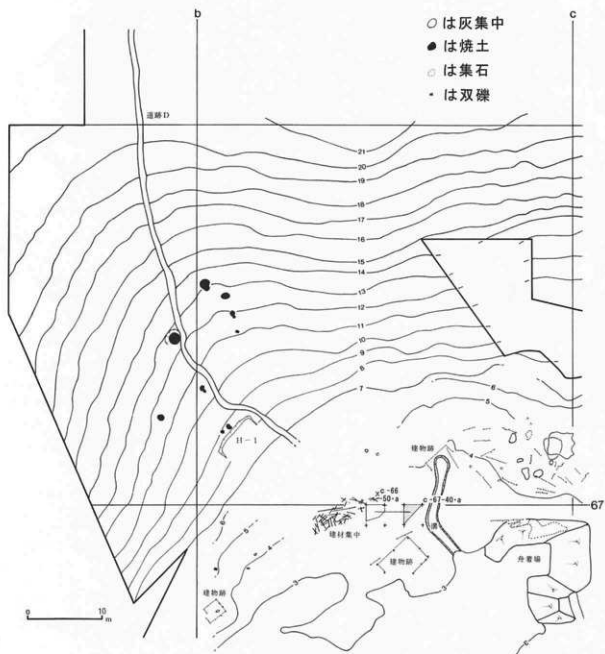
平カスガイ片(189・190): 189はやや細長い形態であり、先端のわずかに欠損した脚部が「ハ」の字に開いている。190の断面は肉厚であり、上面観は側縁部のつぶれによりわずかに内湾している。左側は脚部の先端を欠損しており、右側は胴部から欠損している。火打金に転用された可能性もある。



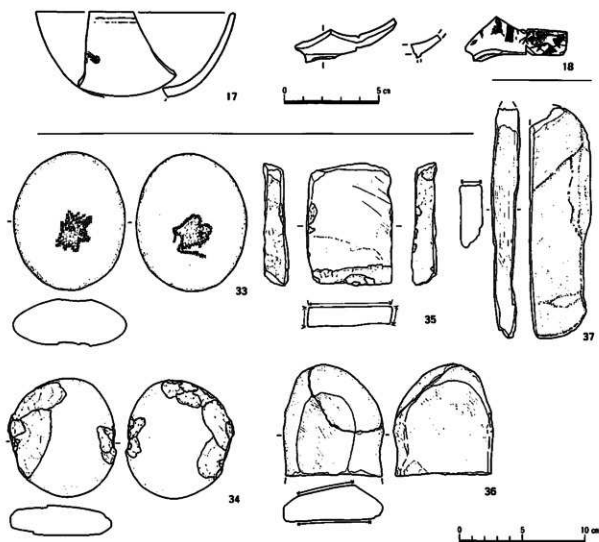
図VI-1 陶磁器 1



図VI-2 陶磁器 2



図VI-3 陶磁器 3



図VI-4 陶磁器、石器・石製品

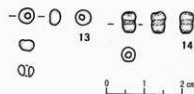
表VI-1 重機調査掲載遺物一覧

図番号	遺物名称	主な発掘区	点数	備考
14	陶器擂鉢	b-65-08-d,c-6674-d, c-67-50-c	32	珠洲 口径約40.5cm 器高約18.2cm
15	青磁碗	c-67-50-c,c-67-51-c	2	中国製 口径11.4cm 器高6.8cm
16	染付碗	c-66-50-a,c-67-40-a	3	伊万里 口径9.4cm 器高6.4cm
17	染付碗	c-66-49-c	1	伊万里
18	染付小碗	d-67-83-d	2	不明
33	くぼみ石	c-97-50-c	1	片麻岩 長さ10.80cm、幅8.75cm、厚さ3.76cm、重さ535.0g
34	石錘	c-66-49-c	1	砂岩 長さ9.30cm、幅8.43cm、厚さ2.42cm、重さ268.9g
35	砥石	d-67-84-d	1	凝灰岩 長さ9.64cm、幅6.62cm、厚さ1.96cm、重さ147.4g
36	砥石	d-67-83-b	2	凝灰岩 長さ8.67cm、幅8.01cm、厚さ3.01cm、重さ266.8g
37	砥石	d-67-64-c	1	凝灰岩 長さ18.70cm、幅4.94cm、厚さ1.92cm、重さ188.0g

VI 重機(クラムシェル)調査

弧状角棒片(191):断面が方形で、両端部を欠損した湾曲する棒状の製品である。左右から叩いて整形した痕跡があり、上部の断面がやや長方形となっている。魚突鉤鈎(マレツ)あるいは魚引掛鈎(アツ)の破損品の可能性がある。

銅製指輪(192):細い銅板を環状に加工した指輪あるいは指貫と考えられる。表には細かな刻みの付けられた巴文風の文様が左右に彫金され、銅板の縁にそって細い線刻と短刻で輪郭を



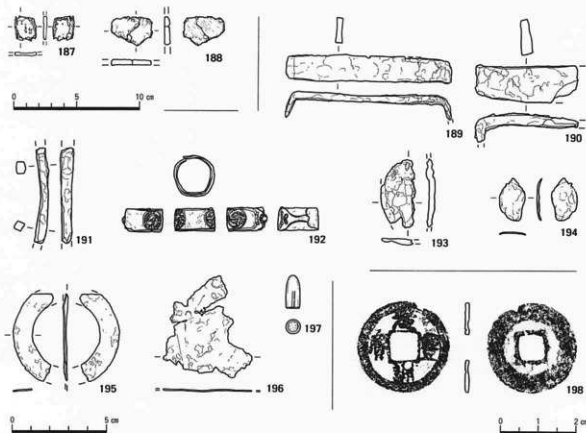
図VI-5 ガラス製品

表VI-2 重機調査掲載ガラス製品

図番号	図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個数	破数	備考
13	250	ガラス玉	c-67-51-d	6015		0.40 0.38 0.28	0.1	1	1	緑色。ビーズ玉。材質分析中。
14	250	ガラス玉	c-66-49-c	7190		0.39 0.38 0.55	0.1	1	1	緑色。ビーズ玉。材質分析中。

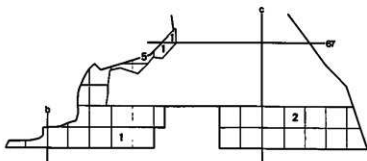
表VI-3 重機調査掲載金属製品

図版番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個数	破数	備考	保存状態
187	鉄銅片	側部	c-67-40-c	104		(1.90) (1.70) 0.50 (1.0)		鉄	1	1	[ス]	NAD10
188	鉄銅片	側部	c-67-40-b	108		(2.30) (3.30) 0.48 (3.8)		鉄	1	1	[ス]	NAD10
189	平鉄片		c-67-50-c	98		9.80 1.43 (1.40) (14.0)		鉄	1	1		NAD10
190	平鉄片		c-67-50-c	107		(5.50) 1.93 (1.04) (10.1)		鉄	1	2	2点接合。	NAD10
191	弧状角棒片		c-67-40-d	103		(6.05) 0.60 0.75 (4.1)		鉄	1	1	魚突鉤鈎(マレツ)の可能性あり。	NAD10
192	銅板片		c-67-50-c	106		2.18 1.20 2.15 6.0		銅	1	1	巴文の文様あり。	*****
193	銅板片		c-67-40-a	102		(3.60) (1.86) 0.55 (3.2)		銅	1	1		*****
194	銅板片		h-67-63-d	110		2.22 1.38 0.26 0.4		銅	1	1	すり板?	*****
195	環状銅板片		h-67-74-a	109		(4.85) 2.14 0.08 (2.5)		銅	1	1		*****
196	環状銅板片		h-67-94-a	230		(5.40) (4.70) 0.05 (2.9)		鉄	1	1		*****
197	銅丸		c-67-40-a	218		1.72 0.76 0.76 6.9		銅	1	1		*****
198	元魚通宝		c-67-51-d	105		2.42 2.42 0.11 3.2		銅	1	1	北定 1078年銘。	*****

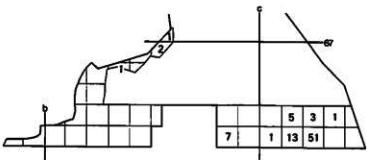


図VI-6 金属製品

陶磁器



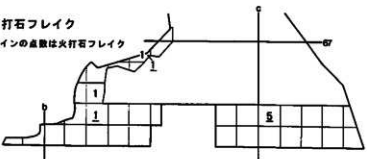
縹文土器



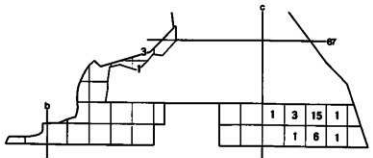
縹文土器：c-86-49(1点)
 o-87-81(1点)
 o-87-72(2点)
 c-87-84(1点)

火打石・火打石フレイク

アンダーラインの点数は火打石フレイク

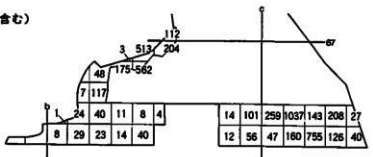


砥石



たたき石：c-87-51(1点)
 くねみ石：c-87-50(1点)
 石 錘：c-86-49(1点)
 石 皿：d-87-84(1点)
 フレイク：d-87-84(1点)
 Uフレイク：d-87-83(1点)

礫(礫片を含む)



図VI-7 重機調査の陶磁器・石器・石製品分布図

閉っている。裏面の一端は細長く加工され、挿入が容易となるように弾性をもたせるように工夫している。

銅板片 (193・194) : 193はやや厚い板状であり、腐食が著しい。194は薄い凸に湾曲したものであり、刀子や小月の柄等に像嵌する飾り板であろうか。

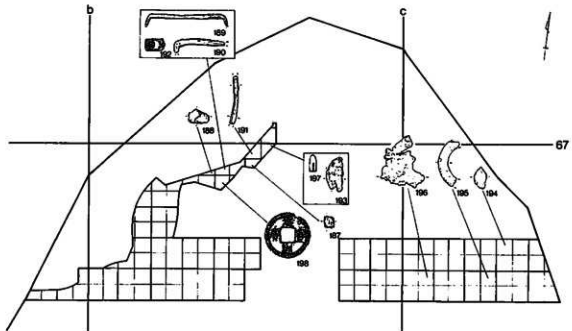
環状銅板片 (195) : 薄いドーナツ形の板が欠損したものである。

鉄板片 (196) : 極薄い板状のものである。

弾丸 (197) : 径0.67mmの弾丸である。在留アメリカ軍が演習時に使用したものであろうか。

元豐通宝 (198) : 篆書体鑄る。北宋 1078年初鑄。

(III) 尚



図VI-8 重機調査の金属製品分布図

(5) 木製品・樹皮製品・繊維製品 (図VI-9~75、表VI-4~18、図版252~301、カラー図版11)

クラムシェル調査の木製品分布(付図1~20)は、H地区(図II-2)中央部のc-67-03・04、c-67-83・84、c-67-93・94等に集中する。遺物はI B~0 B層を含む土壌から採取されたものであることから、出土層位を人力調査と直接比較できないが、遺跡が南東の斜面下に沿って広がっていたことは分布図からも明らかである。製品では櫂、車權受台部等の舟部材、回転式離頭鉤、魚突鉤等の漁撈具がここから多数出土している。この付近は本遺跡の中でも平坦な部分が多く、漁撈に伴う作業場や0 B層で発見された舟着場よりも古い段階のものが存在していた可能性もある。

交通具

舟部材(1794~1857)

船(艘)(1794~1796):すべて丸木舟の船を舟底の立上り部分で切断したものである。いずれも腐朽・摩耗が著しい。1794は両舷側を欠損しており、船先端は角形の庇状に張り出している。船先上面と舟内部との境目は舷側と同じ高さで凸状に盛り上がっている。水が内部に侵入するのを防ぐ構造と考えられる。船先端にはそれぞれ4.8×3.8cm、3.6×3.0cmの角孔が穿たれている。樹心が僅かに舟底よりとなるように横木取りされている。樹種はオニグルミ属である。1795は右舷側板の立上りが僅かに残っており、船先端は角形の庇状に張り出すが1794よりも短い。船先上面の凸状の盛り上がりはない。船先端には2ヶ所に角孔が存在したと推定されるが、破損により2.8×1.9cm程の角孔しか残存しない。樹種はヤナギ属である。1794・1795の角孔は紡網などを通すための孔、または木幣(イナウ)を挿すための孔であろう。1796は船先端の庇状の張り出しが短い。前2点に比べて上面の平坦部の幅が広く、舟体が厚い構造となっている。木口面の年輪が乱れていることから、枝別れ部か根(元)に近い部分と考えられる。船先ではなく艘の可能性もある。

舟部材(1798~1804):舟部材の可能性のあるものを取りまとめた。1798は中央に溝状の袈りがあり、両側端に向かって細く加工されている。1799は上部の立ち上がる船先状の列物である。船先等を転用して列物容器やコネ鉢としたのであろうか。1800は上部に大孔が穿たれたものであり、孔の周縁は摩耗している。綱などが通されていたのであろうか。1801は中央部に斜めの孔が穿たれた厚板材である。右端には溝状の袈りがある。和舟等のトコ(床)部であろうか。1802は半割材の先端部を斜めに削りだし、下側に凹みが残存する。1803の角材には角形の袈りがある。1804は下端部の欠損した半割材で、上面に角形の大小の凹みが2ヶ所ある。上部端に向かって薄く加工されている。

板羅舟舷側板(1797・1805~1807):1797は舟底部の丸木舟の右舷側板であり、船先に近い部分である。角孔痕が認められる。1805は厚板材の水平位置に角孔が2ヶ所、右垂直方向に角孔が2ヶ所認められる。1806は4ヶ所の角孔が確認できる。1807は大型の板材であり、上部の角孔は水平に等間隔に並んでいる。孔には縄や樹皮などの結束による潰れや摩耗が認められる。

車權受台部(1808~1829):1808~1815は枝利用式である。1808の片側は屈曲しており、袈りが2ヶ所にある。1811の軸部は左側に寄っている。1812・1813は一方の袈り部を欠損している。1812の裏側平坦面の削りは袈り部付近のみである。1809・1814・1815は表裏を面取りし、角形の断面となっている。1814・1815は両端の袈り部を欠損している。1816~1822は角孔が穿たれた角軸差込式である。1816の右側には切断過程の切痕が見られ、中央部が炭化している。1817・1819・1821は両端部を破損している。1818は袈り部が切断され、角孔部から片側一方を破損している。1820・1822は角孔部から破損している。1823は丸軸差込式であり、丸孔から破損している。1824~1829は袈り部側の破片である。1828・1829の袈り部は破損している。1824~1836は車權受台部の袈り部破片である。

車權受台部・軸(1830~1838): 1830~1835・1837は角軸差込式の角軸部である。1836は丸軸差込式の丸軸部である。いずれも頭部直下が車權の回転運動により、摩耗し僅かに括れている。1831・1832は角形の貫孔が穿たれている。1831は軸を破損している。1832は貫孔から上部を欠損している。1833・1834は頭部に楔を打ち込んだものである。1833には楔が残存している。1834は楔の痕跡が残り、縦に割裂けている。1837は加工がやや粗く、頭部を両面から削り出して篋状としており、土掘棒の可能性もある。1838は頭部を欠損した軸部のみの破片である。

舟用具(1839~1857)

車權(1839~1846): 1839には大小の軸孔が2ヶ所に穿たれている。これまでの2孔式とは異なり、上部の軸孔が摩耗により拡大して不安定となったために、新たな軸孔を設けた可能性がある。全体は軸孔周辺で緩やかに膨らみ、上部軸孔部が最大幅となっている。水掻部は柁目、軸柄(部)では板目に木取りされている。1840~1843・1845は柄部片である。1840・1841には軸孔部が認められる。1844・1846は水掻部片である。1846の断面形は凸レンズ状であり、背合わせの二重半円が彫刻されている。1845・1846は同一個体の可能性がある。

早權(1847~1854・1856): 1847・1848は早權片である。1847の肩部は水掻部に向かって緩やかに幅を増し、水掻部の先端が尖る形態である。1848は肩部のやや張り出す形態である。1849・1850は肩部片である。1849の柄部は腐朽・摩耗のために細く尖っている。肩部は張り出している。1850の肩部は明確ではなく、水掻部に向かって緩やかに幅を増す。1851~1854は水掻部片である。1851は水掻部の幅が先端まで同幅で、先端が丸い凸形である。1852は先端方向にすぼまり、先端部の幅が狭い。1853は先端が尖った切断片である。1854・1856は柄(軸)部片である。1854は上部側の断面が角形であり、水掻部側が切断されたものと考えられる。1856は下方の水掻部に向かって僅かに幅広となる。

舟棹(1855): 河床に突き立てたときの摩耗や潰れと考えられる痕跡が上端部に認められる。

あか汲み(1857): 僅かに湾曲したチリトリ形のものであり、左側板のみが残存するものである。上部の器厚が厚く、一木造りのものであろう。

漁撈具(1858~1896)

回転式離頭鉗中柄部(1858~1881): 回転式離頭鉗中柄部は1本式(1858~1872)と2本組式(1873~1881)に分けられる。いずれも基部に柄(棹)部と接合するための平坦面が作出され、樹皮や紐で結び留めるための帯状の袢りや短刻列等が作出されている。1858・1863は紐等を巻留めて棹部と固定するため短刻が刻まれたものである。1859には紐を巻留める帯状の袢りが2ヶ所ある。回転式離頭鉗中柄部の先端部には離頭鉗先を挿入した潰れや摩耗の痕跡を残すもの(1860・1863・1864・1867・1871・1877)、使用によって先端部が折損したと考えられるもの(1858・1861・1863・1865・1866)がある。いずれも実用品として鉗先を装着して、漁撈に使用した痕跡である。1867~1871は基部を欠損している。1872・1877・1878~1881は先端部を欠損した基部破片である。

回転式離頭鉗指掛部(1882): 内部は髄を削り抜いて円錐台形の空洞となっている。上部は帯状に高く削りだされ、樹皮などが巻締められた痕跡がある。

回転式離頭鉗中柄部ミニチュア(1883・1884): いずれも柄と固定するための袢り部をもち、両端部が細長いことからミニチュアとした。衣服のボタン、袋物などの紐留めの可能性もある。

魚突鉗台部(1885~1893・1895・1896): 出土した魚突鉗台部は小型でやや細いものが多い。サケ以外のやや小型魚の捕獲に使用したものであろう。1885はほぼ完形のミニチュアである。棹(柄)

と固定する溝と紐孔等の細部まで作出されている。1886の石突部は使用による摩耗が認められ、基部先端が斜めに削られている。1887は基部を欠損した未製品である。石突部は凸形に削りだされ、鉄鈎溝まで作出しているが、溝上端部の孔がない。1888は溝から石突部までを欠損している。基部には平坦面が作出されず、下端部が矢などの基部の様に細く削りだされている。中空の柄に挿入して使用したものであろうか。1889は溝の上部に孔を穿っただけで完成する未製品である。1890は紐孔を穿っただけで完成する未製品である。半截した材を削り過ぎた強度的な欠陥から遺棄された可能性がある。1891は拡大図のとおり、溝部分の作成過程の未製品である。裏面にはイト、バが刻まれている。棒状の丸材製品を転用したものである。1895・1896は魚突鈎銚台基部とした。1896は数段の袢りと縛り留めた樹皮の痕跡が顕著である。1896には袢りと平坦面の作出がある。

魚突鈎銚棒(柄)(1892・1893)：1892はコナラ属の丸木材の先端に魚突鈎銚台部を装着するための袢り部とやや平坦面を作出している。中央部は折れ、下端部は丸く切断されている。1893は1892と同様の材であり、一段細く削られた下端部から割裂けている。図面上の木取りは検証の結果、丸木取りであった。

回転式離頭銚中柄または魚突鈎銚台基部片(1894)：柄(棒)に装着するための帯状の袢り部と裏面に平坦面が作出されている。回転式離頭銚中柄の場合では1本式の基部と考えられる。

狩猟具(1897～1913)

矢中柄・矢(鐵)部(1897～1905)：1897は交差する上下二段の返しが付けられた矢(鐵)片である。銚先片の可能性もある。1898～1900は矢中柄部である。1898・1900は上下方向に細く尖り、基部(莖)部は明瞭ではない。1899の上部にはイト、バ状の短刺が廻っている。1900は下方に基部(莖)の削りだしが認められる。1901の断面は角形で、上端部が平坦に加工されている。鳥用?あるいは子供の練習用?であろうか。1902は円錐形の先端部であり、側縁の平坦面に「N」字状のイト、バが刻まれている。鳥用?であろうか。1903の先端部は鋭く加工されており、その断面は菱形である。両側縁にはかえし状の袢りがある。基部は明瞭ではない。1904は粗く鋭く削られた円錐形の先端部であり、両側縁にかえし状の袢りがある。基部は明瞭ではない。1897・1903・1904はかえしの付けられる構造から、漁撈に使用されたものであろうか。1905の先端部は突起状となっており、先端部から下端部に向かって徐々に細くなる。他に比べ細長く、基部は明瞭ではない。表面の傷や腐朽が著しい。

矢柄部(1906・1907)：いずれも両端部を欠損している。極細いサクラ樹皮が巻留められていることから、矢羽根が付けられていた可能性がある。材質は2点ともモミ属であり、形態が酷似することから同一個体の可能性がある。

矢筈部(1908・1909)：1908は弦掛け部分が「U」字状に挟まれた矢筈部片である。1909は大型矢筈部片である。袢り部先端が欠損し、切断されている部分に摩耗痕がある。太い矢柄状のものに挿入して使用したのであろうか。

弓(1910)：上端部に弓筈状の袢りがあり、中央部が隆起して一段太く削られている。樹種がカエデ属であることから別の製品の可能性もある。

矢筒翼部(1911・1912)：1911は上下端部を欠損し、炭化している。矢筒と縛り止める孔の痕跡が認められる。中央部側縁には袢りがある。1912は波状に加工されており、上下端を欠損している。

袢付Y字状製品(1913)：「Y」字状の両端部に袢りがあり、仕掛弓台などを固定したのであろうか。

切截具(1914~1926)

小刀柄(1914・1915・1917・1919~1922):直線的な柄となるもの(1914・1915・1919)と柄頭が湾曲するもの(1920・1921・1922)がある。1914の断面は楕円形で、並行な直線列と鎖状の彫刻が全面に施されている。柄頭には縦方向に紐通し用の孔が貫通している。1915の断面は長方形で、小縁から刃方にかけて滑り止め用の段状の挟りが6連付けられている。1917は細長い柄で、柄頭が斜めに切り出されている。1918は山刀柄の柄頭の突起部であろうか。1919は2枚の柄板を柄頭部で結束固定したものであろうか。1920の断面は楕円形で、柄頭側は握り固定のために挟りを入れ、曲線的となっている。表面には線刻が並行に廻り、それを繋ぐように茎挿入用のスリットが刻まれている。ここに樹皮などが巻かれていた可能性があり、他と色調が異なっている。1921は柄縁に挟りがあり、茎挿入用のスリットが刻まれている。柄頭は角形に加工され、紐孔が貫通している。1922は未製品であり、小口側が篋状に削りだされ、柄頭は湾曲している。

刀(1916):断面は楕円形で柄頭がやや大きく丸形に加工されている。柄縁には樹皮の巻かれた痕跡があり、目釘が残存している。山刀柄の可能性もある。

山刀(1918):山刀柄の柄頭下部に付けられる突起部であろうか。

山刀鞘(1923~1925):腐朽・摩耗が著しいが、二枚合わせの木製鞘片と考えられる。樹皮を縫うように固定した帯状の溝と角孔が認められる。

小刀樹皮製鞘(1926):突起部を付けたシラカバ樹皮を重ねて、折りたたんで縫合する構造である。孔は13ヶ所確認でき、鞘口側は炭化している。

採集具(1927・1928)

土掘棒(1927・1928):いずれの先端部にも潰れや摩耗が認められる。1927は上部の切断された角材の先端部を表裏から篋状に粗く削っている。1928は楕円材の先端部を篋状に粗く削っている。

工具(1929~1939)

鑿槌(1929~1937):枝利用式(1929~1934)、柄孔式(1936~1937)があり、柄孔式に似るが、角孔が貫通していない柄差込式(1935)もある。枝利用式は頭部に対して柄が斜めのもの(1929~1932・1934)と垂直なもの(1933)とがある。いずれも打面による潰れが認められる。1933は頭部の上半分を欠損している。1935・1937には折れた柄が残存している。

鉄斧柄(1939):鉄斧に挿入される部分を幅広の角形に加工した柄である。断面は楕円形で、上部には楔の打ち込みにより割裂けている。部分的に作業台にしたような刃物痕が多数見られる。

農耕・工具(1938~1944)

横槌(1938・1940~1943):細くて長い形態のEタイプ(1940~1943)と敲打部と柄部の境界が不鮮明な形態のGタイプ(1938)がある。1938は敲打部を欠損しているが、魚叩棒のような棍棒状の柄である。柄部末端には隆帯がある。1940の敲打部先端は斜めの潰れがある。1941の敲打部には叩き痕が顕著である。1942の敲打部の断面は長方形で表面が炭化し、裏面には刃物の打痕が顕著である。1943は敲打部の先端を欠損している。柄部の肩が摩耗しており堅片の可能性もある。

堅杵(1944):柄部の一部と上部搦部を欠損している。下部搦部の搦き面は丸い凸形となっており、潰れや摩耗が見られる。

発火具・炉鉤 (1945~1953)

発火具 (1945~1949): 1945~1948はヒキリ板片であり、1949はヒキリ棒である。1945は「V」字刻みやヒキリウスが鮮明である。ウスが6ヶ所確認できる。1946の周縁は摩耗しているが6ヶ所のウス、1947には1ヶ所のウスが確認できる。1948には1ヶ所のウスがあり、周縁が炭化している。樹種はすべてニレ属である。1949の炭化面は鮮明で、円錐台形となっている。

炉鉤 (1950~1953): 下部が焦げているものはないが、鉤部の形態から鉤鉤として扱った。ただし、器具等を吊り下げのための鉤形フックの可能性もある。1950は鉤状の製品破片である。自在鉤(炉鉤)の一部であろうか。1951・1953は鉤部の作出が良く似ている。1953の上部には節目があり、ここに紐等を縛りつけたと考えられる。1952は粗い加工だけの未製品であろう。

容器類 (1954~1989)

桶・樽 (1955~1960): 1954は桶底板片、1955~1957は樽栓である。1958~1960は樽側板である。1960の内面加工は顕著で、表面には箍痕跡が見られる。上下端にはネズミ等の歯痕が顕著である。

曲げ物 (1961~1972): 1961・1962は桶の把手である。1963~1970は側板片である。1971・1972は底板である。1963・1965・1967~1969には側板を緩じたサクラ樹皮が縫い込まれている。1964~1969には曲げ加工のための引線が引かれている。1967・1969は縁辺部に小孔が確認でき、底板を木釘で固定したクレ底のものである。1971・1972はいずれも側面に3ヶ所の木釘孔があるクレ底である。

箱物 (1973~1975・1981): 1973はサクラ樹皮で補修した折敷の底板である。1974は木釘の残存する折敷などの側板である。1975は塗装箱物の底板または盖板である。表面には生漆が塗られ、まな板として使用したかのように刃物傷が多数見られる。1981は塗装箱物の盖板片である。表面は黒漆地に赤漆が塗られ、裏面は黒漆塗りである。

刺物 (1976~1980・1989): 1976~1978は盆状容器片である。いずれも口縁部の立ち上りのない皿状の形態である。1976の底部には補修孔が見られる。1977には口縁部の形態にそって刻線が彫刻されている。1979・1980は腐朽・摩耗が著しい。1979はやや厚い盆状容器の底部である。1980は側縁が大きく立ち上がる形態である。1989は白木浅鉢片であり、平面形はやや長円形となっている。外底面には2本線のイト、バが刻まれている。

塗装椀 (1983~1987・1988): 1982~1983は口縁部破片である。1984・1985は胴部破片である。1986・1987は深く抉られたやや高い高台の付く底部破片である。1988は口縁部から底部までの半損した接合破片である。1982の外面の漆膜は剥がれており、内面全面には黒漆地に朱漆が塗られている。1983・1984は内外面とも黒漆地に朱漆が塗られている。1985の外面には黒漆地に赤漆で草花文?が描かれ、内面全面には黒漆地に赤漆が塗られている。1986の内面には黒漆地に赤漆が塗られ、外面から底面には黒漆が塗られている。1987は内面に赤漆が塗られ、外面から底面にかけて黒漆が塗られている。1988の内面全面には黒漆地に赤漆が塗られ、外面には黒漆が塗られている。

食用具 (1990~2019)

杓子 (1990・1991): 1990は頭部を欠損した曲げ物杓子の柄部と考えられる。柄端部の四角形の張出しには「V」字のイト、バ?が刻まれている。1991は杓子の未製品であり、頭部は削られていない。柄部と頭部先端を欠損している。

筥 (1992~1999): 筥状の形態のものをとりまとめた。形態には①筥部と柄部が肩の張出しにより明瞭に区分できるもの(1992)、②柄部から筥先に向かって徐々に幅広になるもの(1993・1995)、③

筥部と柄部が明瞭に区分できないもの(1998)等がある。④柄部と筥部の幅がほとんど同じで筥先のみが薄く加工されているもの(1999)等がある。1992は完形品であり、肩が張出し両側縁部に刻みが付けられている。1993は上端部から筥先まで徐々に幅広となる。1994は輪郭を線刻で線取りした、筥の柄端部片である。紐通しの孔が穿たれている。1995は上部側縁に抉りのある撥形である。幅の細い方が薄く加工されている。1996・1997は柄部を欠損した筥片である。1998は僅かに肩が張出す早權に似た形態であり、筥先を欠損している。1999は筥先周辺のみが薄く削りだされている。

箸状製品(2000~2007):2000は両口箸の箸先片であり、イト、バ状の2本組の短刻がある。両先端部は平らか或いは丸形である。2001~2004は所謂両口箸で、胴部を太くして両端に向かって徐々に細く削ったものである。2005~2007は所謂片口箸で基部が太く、先端部に向かって細く削り出したものである。先端部は平らか或いは丸形で、基部は斜め、山形、平坦等に加工されている。2006・2007にはイト、バ状の斜めの短刻がある。両口箸はヒノキ・アスナロ属等の針葉樹であり、片口箸はアジサイ属である。

串状製品(2008~2019):串状としたものの先端部が鋭く尖っている。2008~2011の断面は三角形である。2012・2013の断面は角形である。2014・2015の断面は角形で平たい。2016は断面が半円形の割串である。2017~2019はタケ・ササを割り裂いた串である。2015は両端に先端部がある。

歩行具(2020・2021)

カンジキ(2020・2021):短輪型の瓢箪形カンジキの内側に差し込まれる横軸である。両端が鉛筆の先端様に削り出されている。

紡織編具(2022・2023)

2022は両端部を欠損した編物のケタと考えられる。断面は菱形であり、側縁部には刻目列がほぼ等間隔に並ぶ。刻みには経糸の糸ずれが確認できる。2023の断面は上部の丸い楔形で、下部に細かな刻目列がほぼ等間隔に並ぶ。魚網等の製作に使用されたのであろうか。

装身具(2024~2028)

すべて挽歯式の横櫛であり、半円形の両端を切り落した形態である。2024は半損しており、背の断面が山形となっている。2025はほぼ完形品で背の断面が丸い。2024・2025は精巧な作りで表面が平滑である。2026~2028は歯を欠損している。2024・2025の背と歯の根元までの幅は2026~2028と比べて狭い。2026・2028は、2024・2025と比べ歯と歯の間が広く挽き出され、歯厚も厚く粗い作りである。材質は一般的なイスノキである。

祭祀・儀礼具(2029~2037)

花矢(2029~2031):2029は先端に小突起が付けられ、上下に短刻が廻る。2030は小突起の下に短刻が廻っている。2031は長い突起が付けられ、明瞭な基部が作出されている。削花や赤布は確認できない。黒色の彩色も不明である。

樽酒箸〔篋〕(2032~2037):2032~2034の基部は山形或いは丸形に加工されている。2033・2034の中央は平坦に削られ、線刻や短刻のイト、バが刻まれている。2034の先端は舌状に削られている。2032・2033は幅が細く、飾り串の可能性もある。2035~2037はイト、バなどが見られないものである。いずれも裏面のバルンベが見られない。

各種加工材(2038~2042)

2038・2039は環状製品である。側面観は稜のある潰れた算盤玉形であり、2038は2/3を欠損している。2040は「H」字形の板材である。いずれも紐や縄の留め具であろうか。2041は孔の穿たれた板材の表面に巴文状の彫刻があるもので、側縁にも短刻列が刻まれている。2042は表裏に3本組の曲線的な「V」字形が線刻されたものである。

各種用具の部品や素材等(2043~2115)

軸状製品(2043~2048):上端部が太く、先端部に向かって細くなる。2043・2048は丸木材のものであり、2044~2047は割材のものである。

襷状製品(2049~2054):先端部が凸形となるものである。2052の断面は角形である。

ピン状製品(2055~2059):片側みに先端部があるもの(2055~2057)と両端部に先端部を持つもの(2058・2059)とに分けられる。2057・2059の先端部は細く削りだされている。

挿酒箸(筥)状製品(2060~2069):削りかけやイト、バは確認できないが、断面形や先端部加工等の形態から挿酒箸やその素材となりうるものを取りまとめた。

丸材(2070~2073):2070の表面には3連の「ハ」の字状の文様が刻まれている。2071の上部には炭化部があり、下端部は摩耗・腐朽している。2072・2073は切断されており、2072の表面にはイト、バが刻まれている。

丸木材(2074~2076):2074の下端部は割裂けたように折れており、表面に3本線が刻まれている。結び束ねられた撚り紐(2129)とともに出土した。2075・2076は両端部を欠損し、粗く表面が加工されている。2076の上部には短刻列が刻まれている。

端部挿入部付角材(2077・2078・2080・2084):2077・2078は両端部に挿入部が作出されている。2077の中央にはイト、バが刻まれる。2080・2084は頭部のみが円形で、下部は角材となっている。

端部挿入部付丸木材(2079・2081):2079は挿入部を欠損しており、上部には2段の線刻状に2段の短刻が廻っている。

端部挿付丸材(2082):上端部は切断され、角形に面取りされた下端部に挿付が付く。

端部挿付角材(2083):芯もちの丸木材を素材とする角材の上部が左右から角形に挿付されている。

端部有孔丸木材(2085・2086・2087・2089・2090):2085は平坦部を削りだした上部に小孔がある。2086は上端部に角孔がある。2087は上端部に挿入部が作出され、下端部に孔がある。2090は中央に大型の孔があり、上端に挿入部と下端のホソ先状の加工に角孔が穿たれている。

有孔角材(2091・2092):2091は両端に角孔が穿孔されている。2092は角孔に貫が残存している。

ホソ先付有孔丸木材(2088・2094):2088は貫通孔から上端に向かって浅い溝が彫り込まれており、下端部が炭化している。

ホソ先付有孔角材(2093・2095):2093はホソ先に角孔が穿たれている。2095は上端部に角孔と長方形のホソが彫り込まれている。

有溝角材(2096):髄を削り取り、櫛状の溝を作出したものである。

杭状製品(2097・2098):2097は割材を角杭状としたものである。2098は粗く面取り加工した丸杭状製品である。

有孔板材(2099~2104):角孔は予め片側を掘り込んだ後に、打ち抜いたものが多い。板綴舟の舷側板(棚板)の破片やその再加工品が含まれる。2102は細板材の上部に小孔を穿孔したものである。2104には2対の角孔が穿孔されていた可能性が高い。

VI 重機（クラムシユル）調査

板材（2105～2113・2115）：2105・2107～2111・2115は厚板材である。2105は上部が山形に切り出されている。2109は手斧による加工痕が表裏に顕著に認められる。2110・2111は同一個体であり、表面にまな板として使用したような刃物痕が多数認められる。2115は両端部を欠損する大型の厚板材である。2106は粗い加工の割板材である。2112・2113は細板材である。2112は上端部を欠損している。2113は上端部の切断されたものである。

角材（2114）：表裏の加工痕が顕著であり、上端部に潰れがあることから、貫板と考えられる。

杭・建材等（2116～2118）

建材（2116～2118）：2116・2118は「Y」字状の受部が付く柱材である。2116の「Y」字状の両端部には切断痕が顕著である。2118の下端部には樹皮が残存し、一面のみ削出された杭先状となっている。2117は桁または梁材であり、両端部は杭先状に切り出されている。

樹皮製品・結束具（2119～2124）

細帯状樹皮巻（2119・2120）：2119は円形材に樹皮を数回巻きつけ、樹皮先端（頭部）を樹皮巻の隙間に挟み込んで固定する頭部差込式である。2120は円形材に樹皮を巻きつけ、予め切り込んであるスリットに、挟り付きの先端（頭部）を差し込んで固定する頭部挿入式である。2120には巻丸材が残存する。

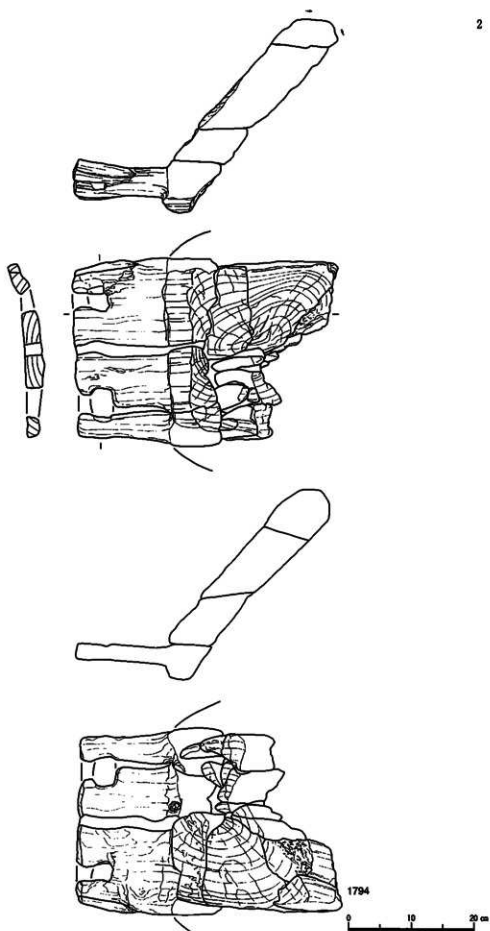
帯状樹皮巻（2121・2122）：2121は頭部挿入式のやや幅広い帯状樹皮である。2122は帯状樹皮を巻き込んだものである。

樹皮板（2123・2124）：厚い樹皮を板状に加工したものである。いずれも両端部を欠損している。

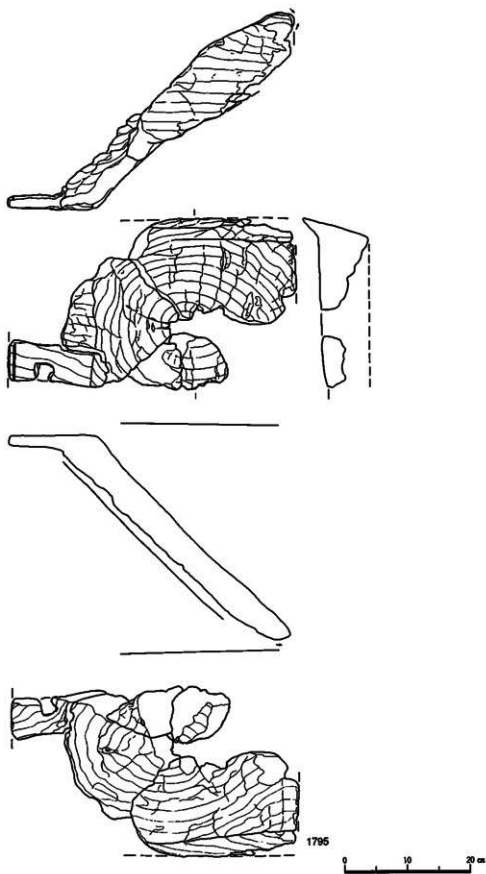
繊維製品（2125～2130）

2125～2128は撚り縄である。2125・2126は径2cm前後の3本撚りの太縄片であり、Z撚り（左撚り）である。2127・2128は径0.5cm前後のS撚り（右撚り）の縄である。2127は撚りの緩い2本撚りである。2128は撚りの緩い3本撚りであり、環状に束ねてある。2129は結び束ねられた撚り紐であり、丸木材片（2074）と共伴したものである。部分的にZ撚り（左撚り）となっている部分がある。2130は織物・編物・縄等の素材となる樹木の内樹皮である。繊維がバラバラとなっていない状況から推測して、泥や水に晒していたか、または乾燥のために干竿に掛けられていたものであろう。

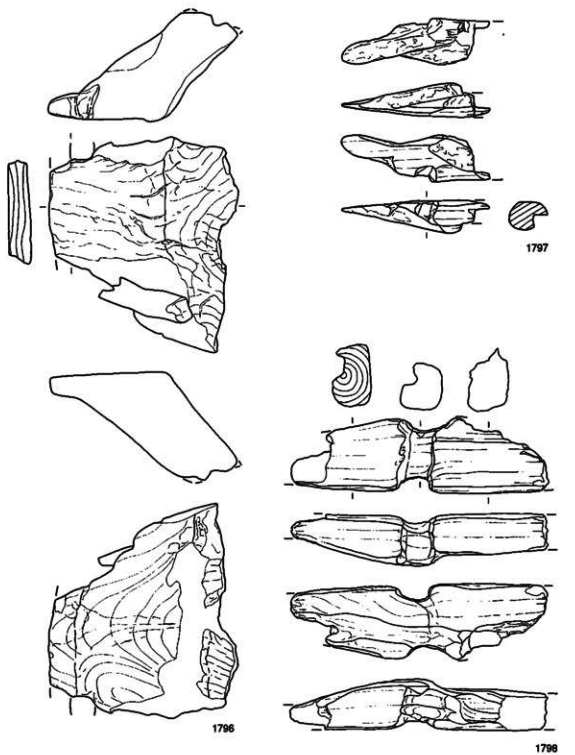
（田口 尚）



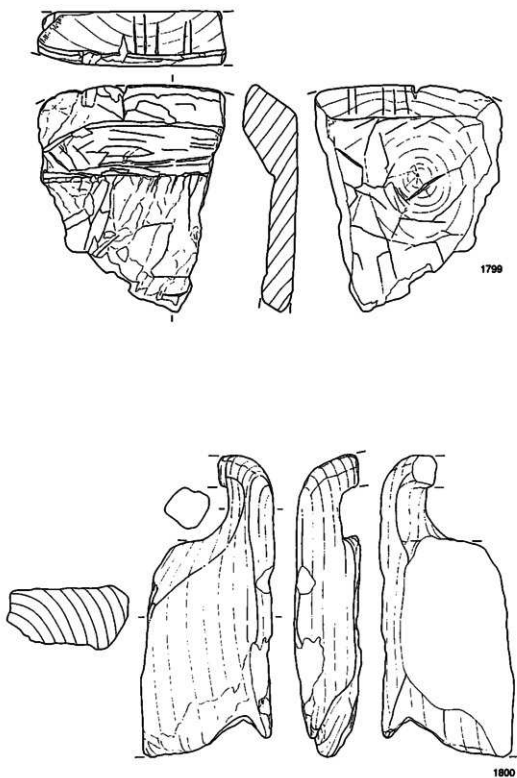
圖VI-9 舟部材1 (舳①)



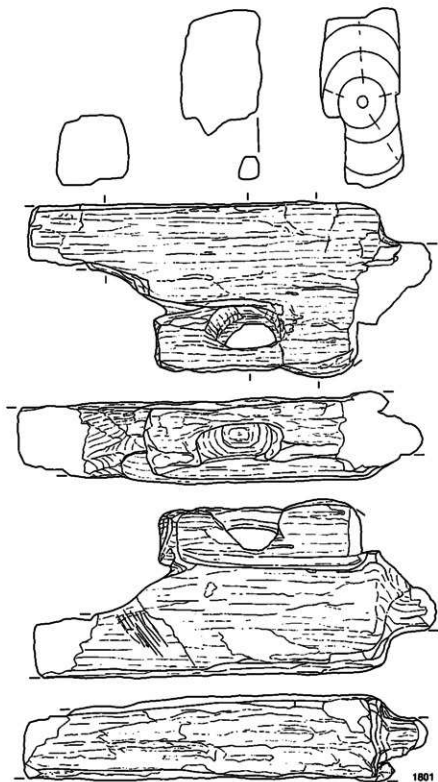
図VI-10 舟部材 2 (軸②)



图VI-11 舟部材3 (舳③・舟材①)

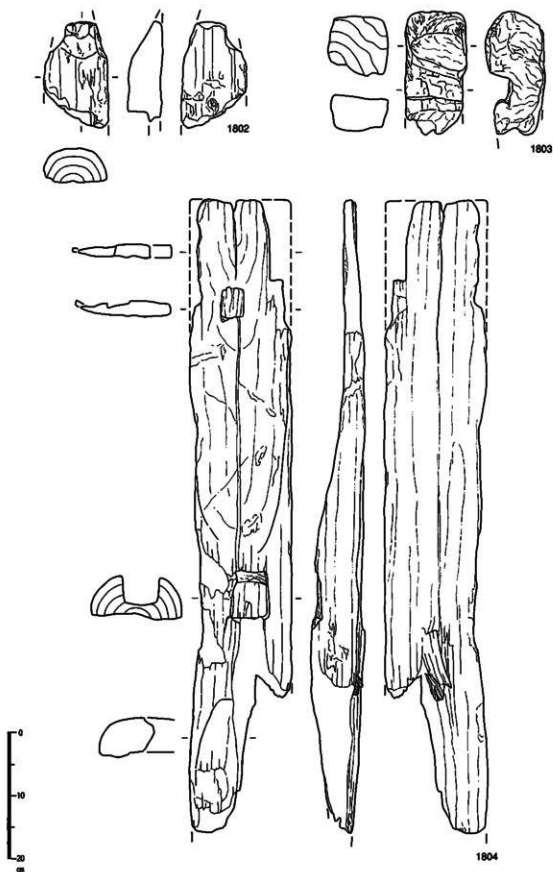


図VI-12 舟部材4 (舟材②)

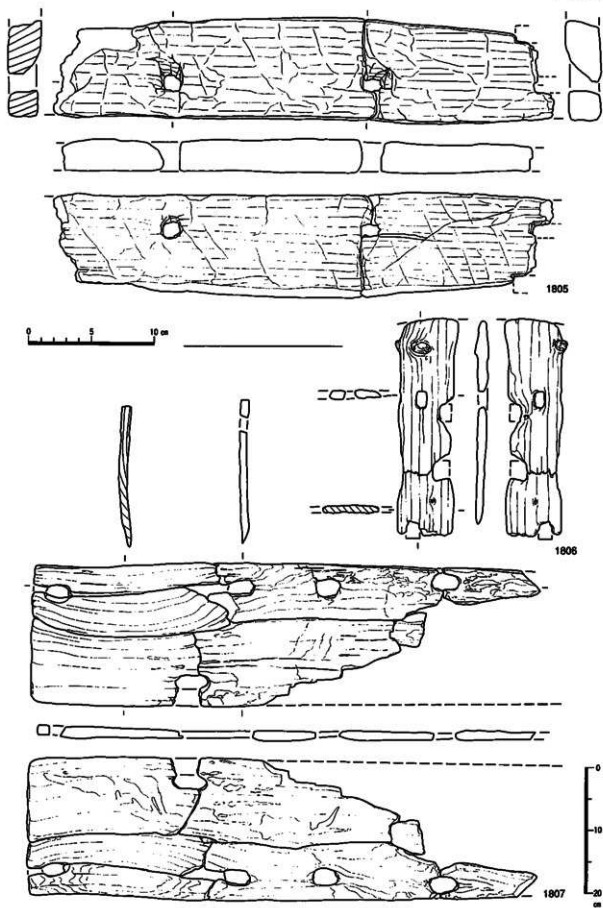


图VI-13 舟部材 5 (舟材③)

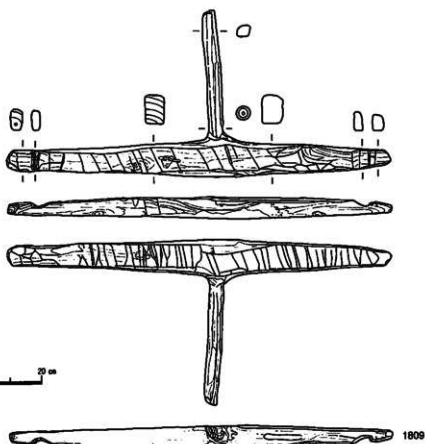
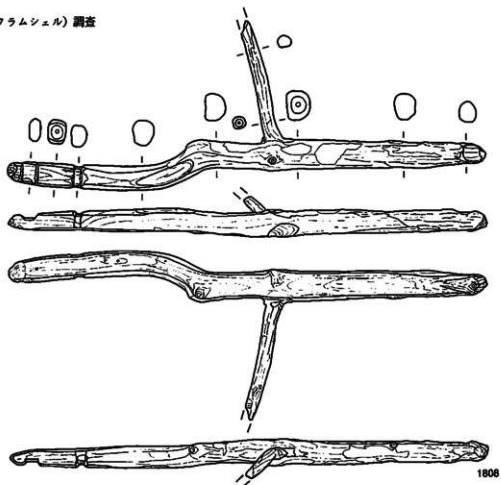
0 5 10 cm



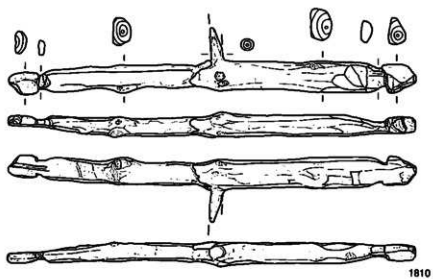
図VI-14 舟部材6 (舟材④)



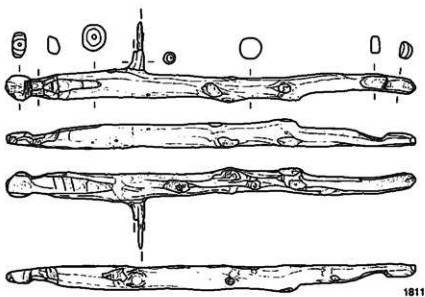
图VI-15 舟部材7 (舟材⑥・舷側板)



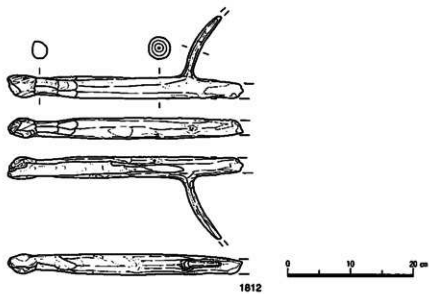
図VI-16 舟部材8 (車權受台部①)



1810



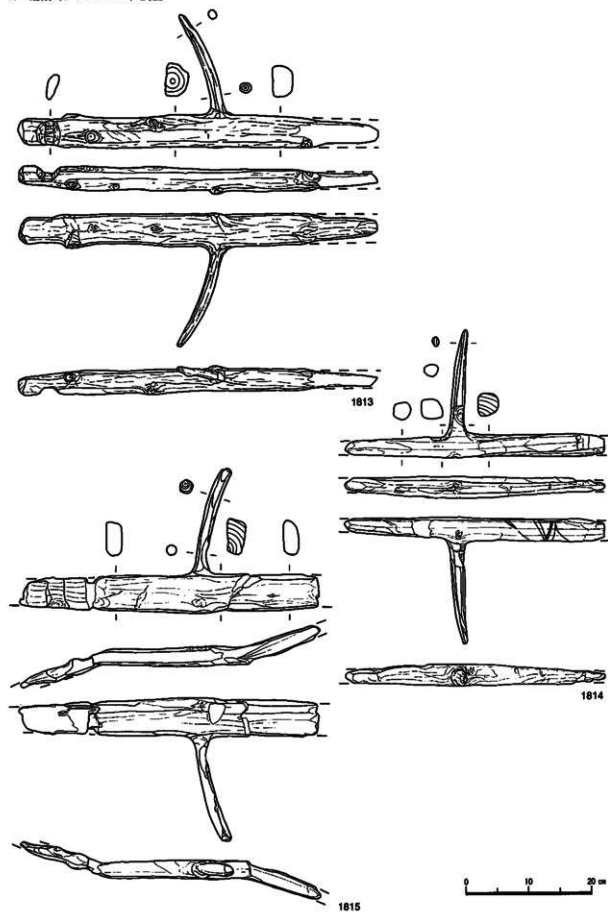
1811



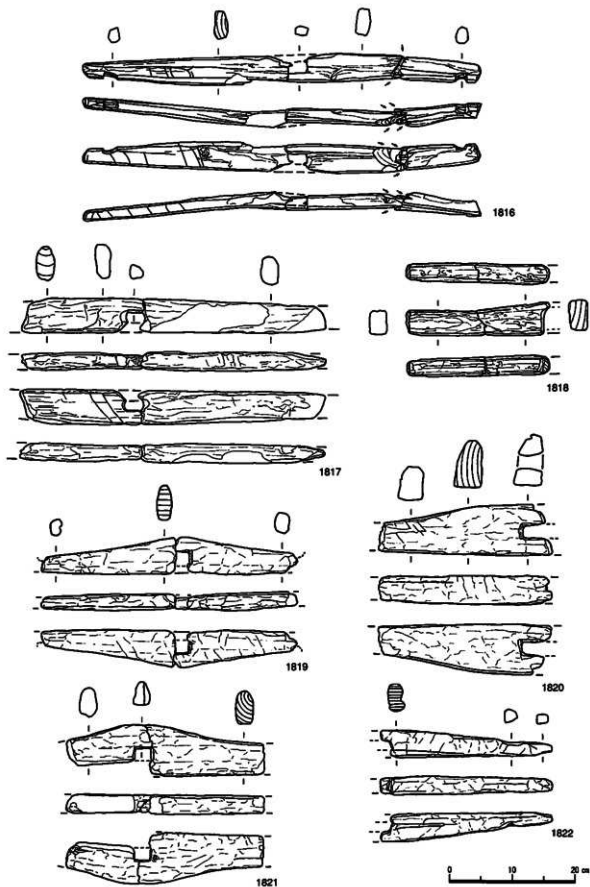
1812

图VI-17 舟部材9(車權受台部②)

VI 電機 (クラムシェル) 調査

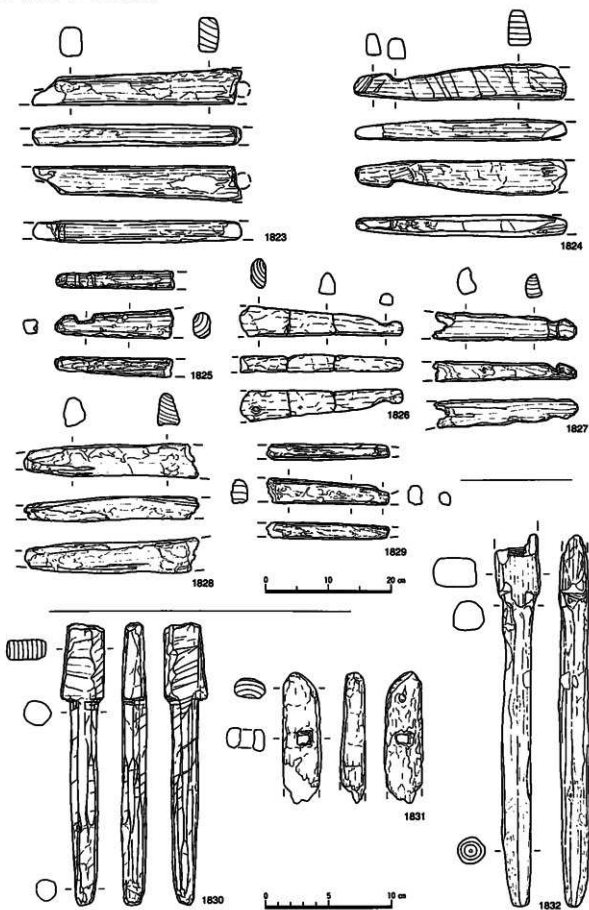


図VI-18 舟部材10 (車權受台部③)

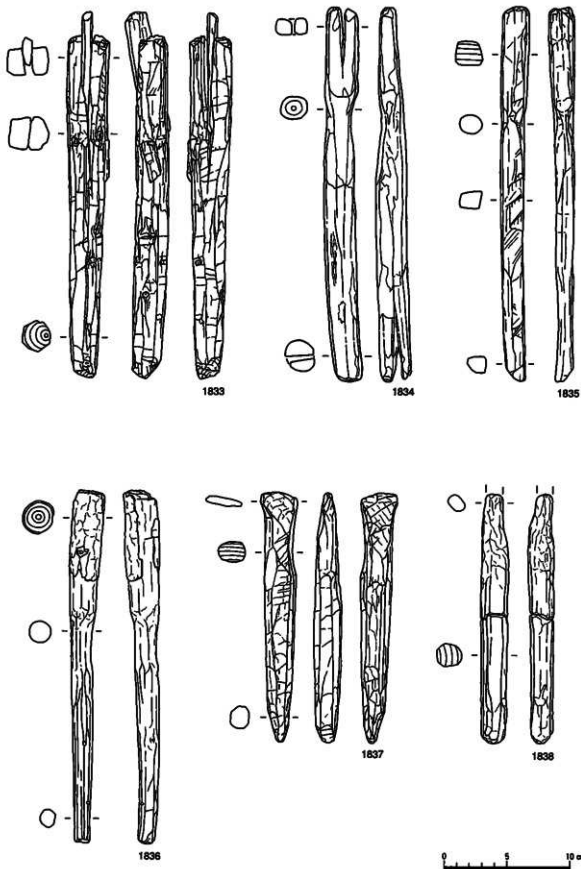


图VI-19 舟部材11(車櫃受台部④)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

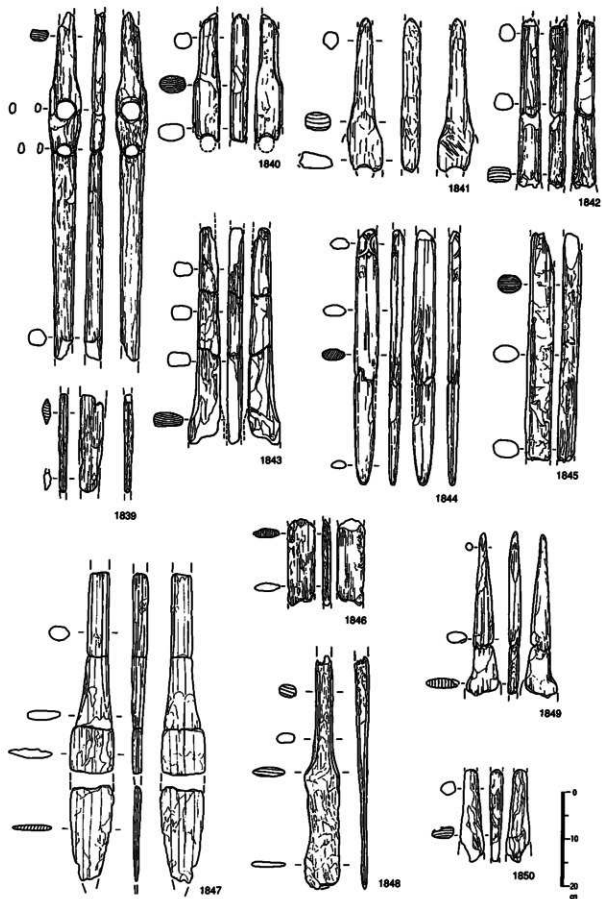


図VI-20 舟部材12 (車權受台部⑤/軸)

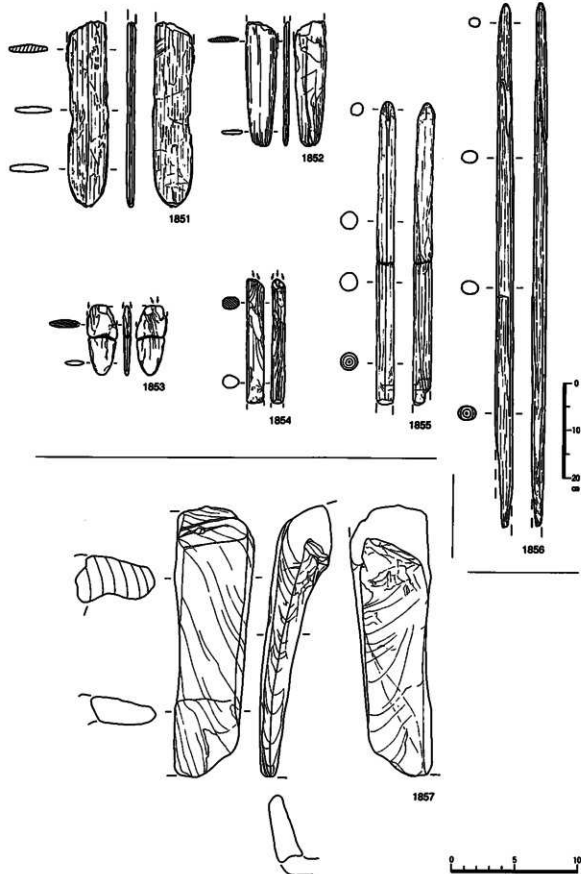


圖VI-21 舟部材13 (車權受台部軸)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

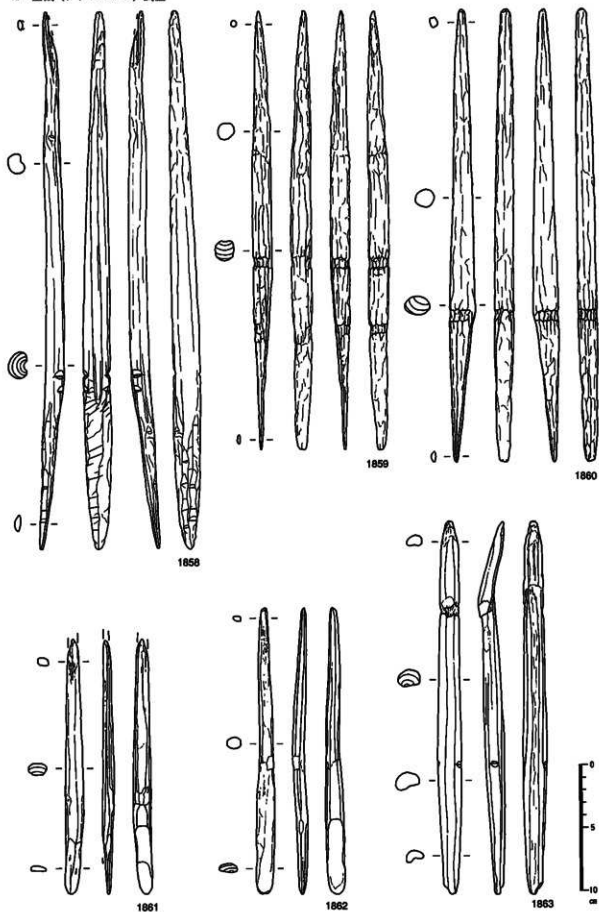


図VI-22 舟用具1 (車權・早權①)

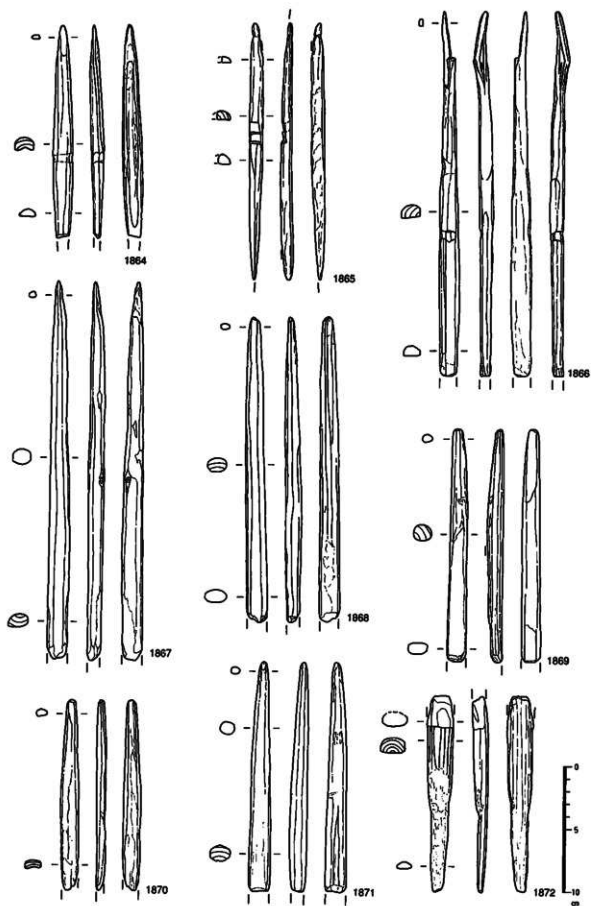


図VI-23 舟用具 2 (早瀬②・あか汲み)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

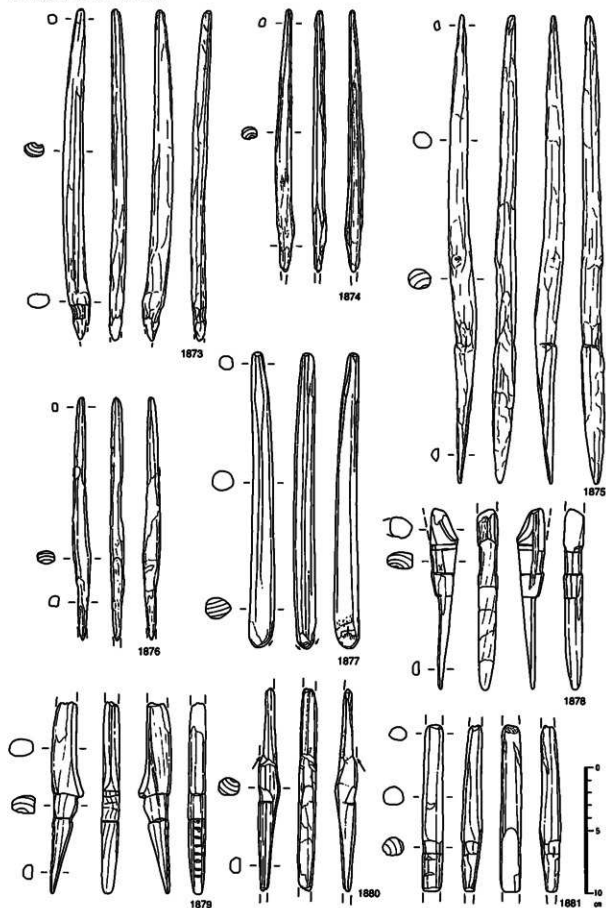


図VI-24 漁撈具1 (回転式離頭鉗中柄①)

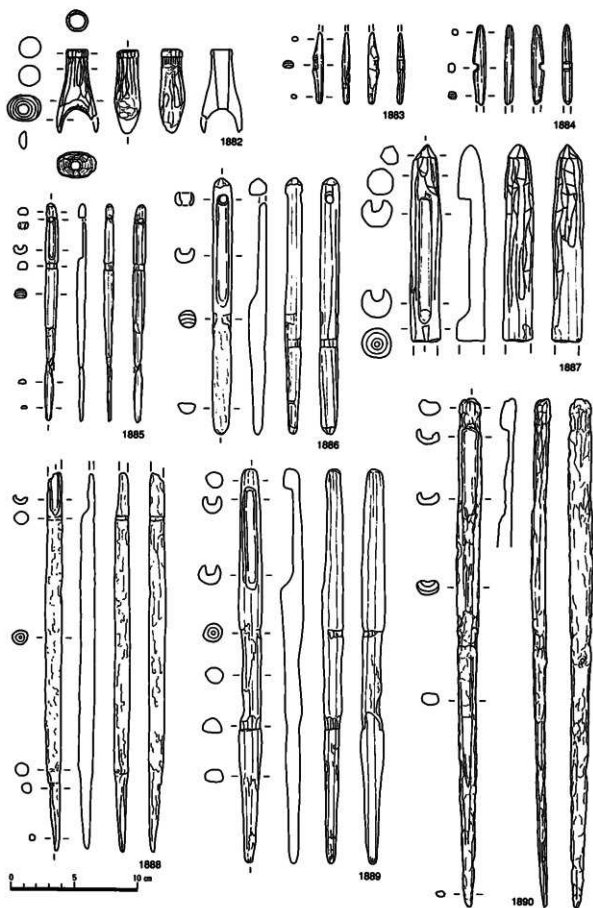


图VI-25 渔捞具 2 (回転式離頭鉤中柄②)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

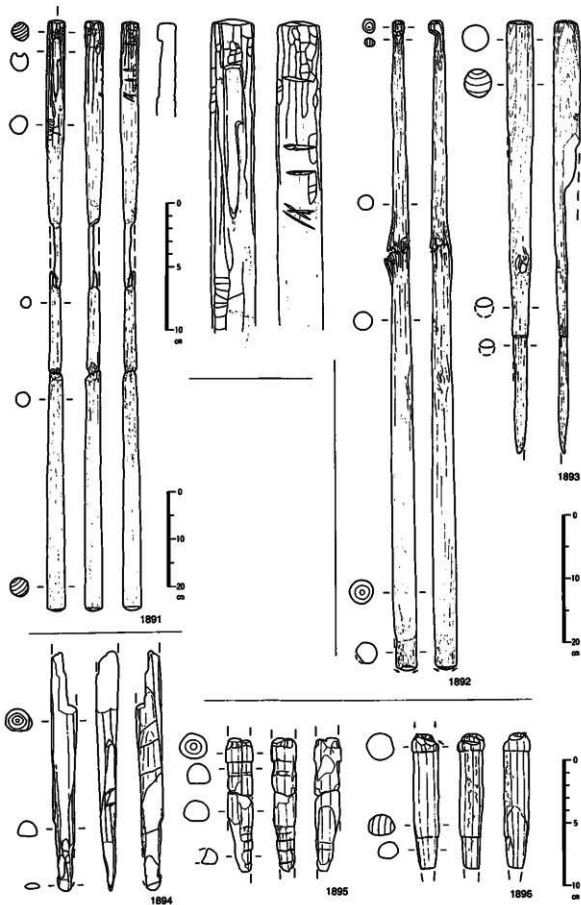


図VI-26 漁撈具 3 (回転式離頭鉤中柄③/指掛部)

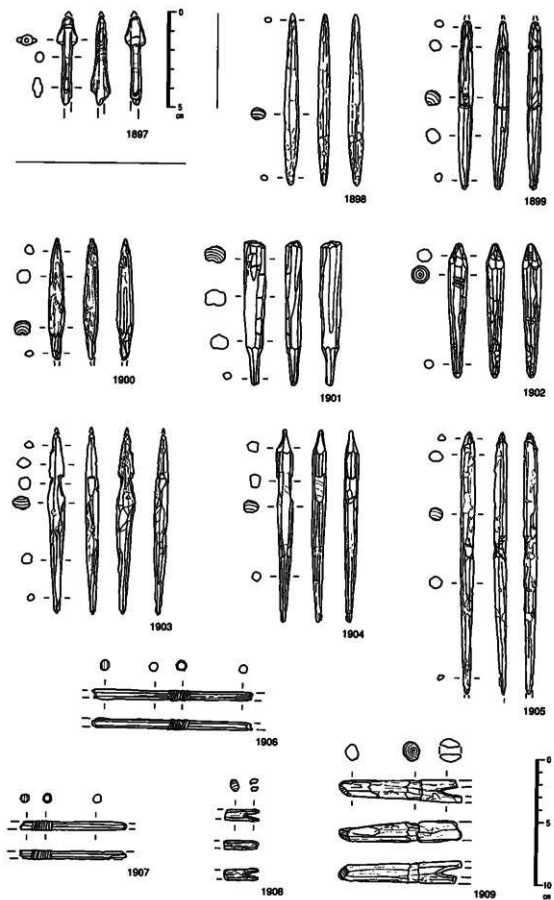


图VI-27 渔捞具4 (回板式雕头路指掛部·魚突鈎銜台部)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

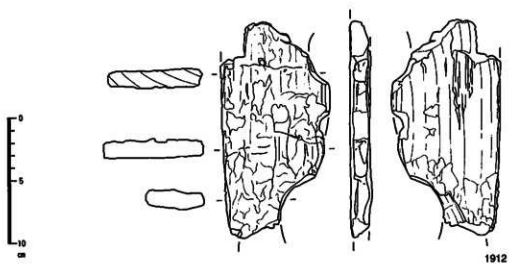
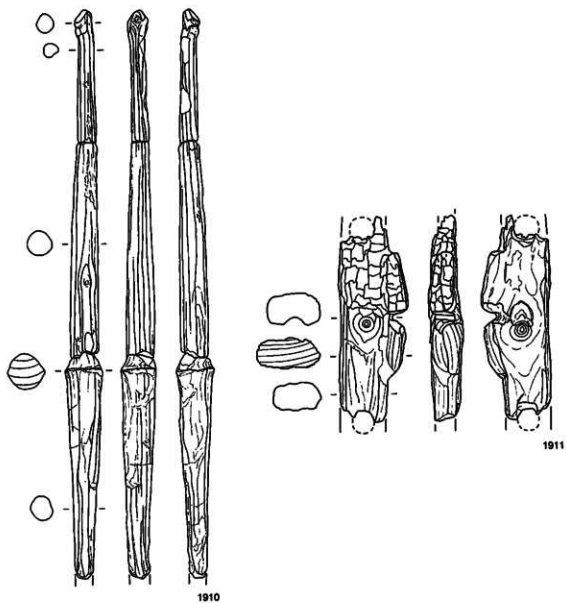


図VI-28 漁撈具5 (回転式離頭鈎・魚突鈎鈎/棹)

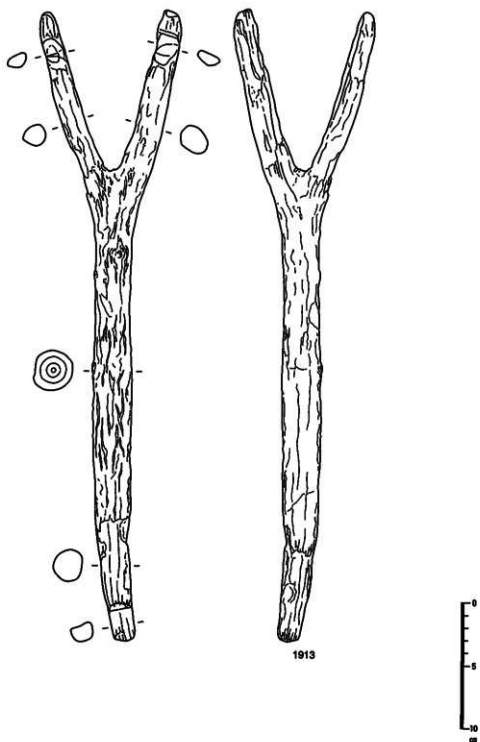


图VI-29 狩猎具1 (矢·矢中柄·矢筈)

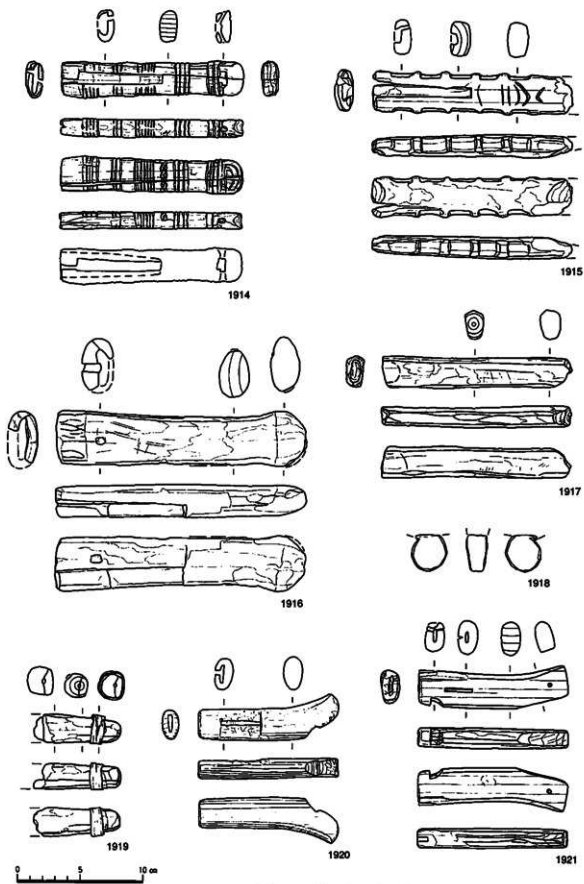
VI 重機 (クラムシェル) 調査



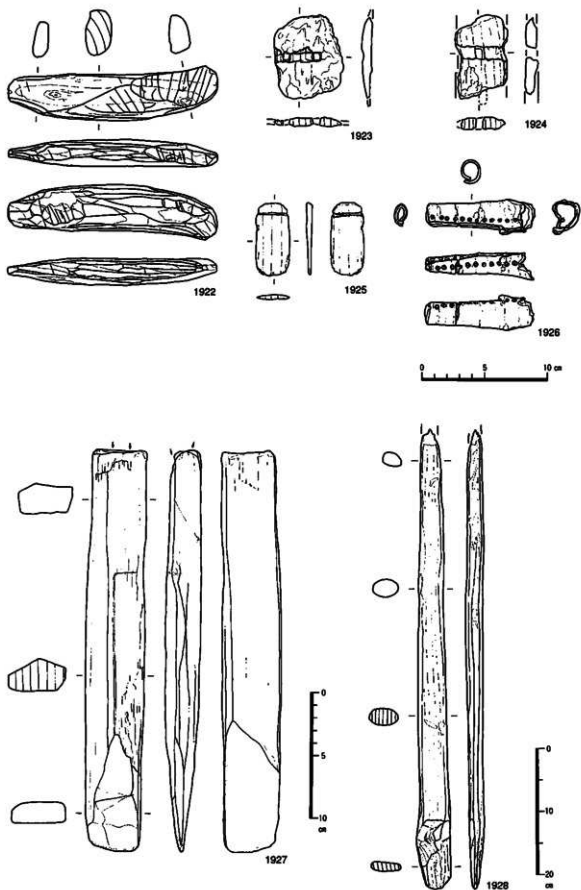
図VI-30 狩猟具2 (弓・矢筒翼未製品?)



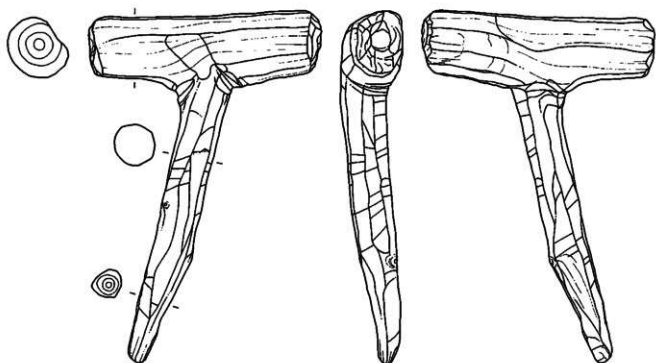
图VI-31 狩猎具3 (鹿部材?)



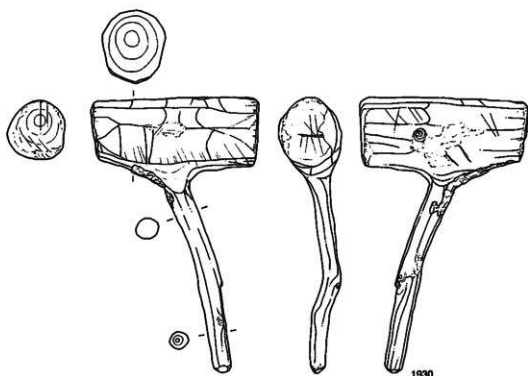
図VI-32 切裁具1 (小刀柄・山刀柄)



圖VI-33 切截具 2・採集具 (小刀柄未製品・鞘・土握棒)



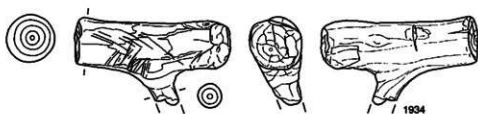
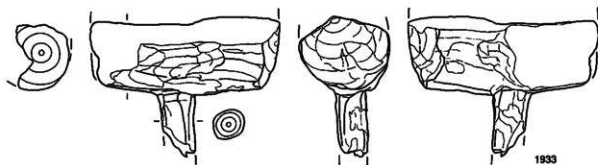
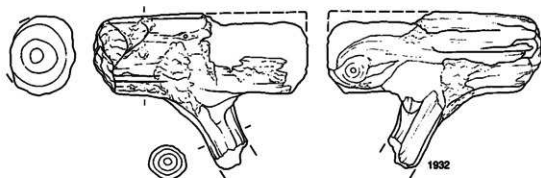
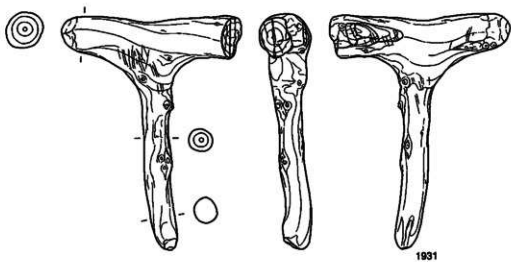
1929



1930

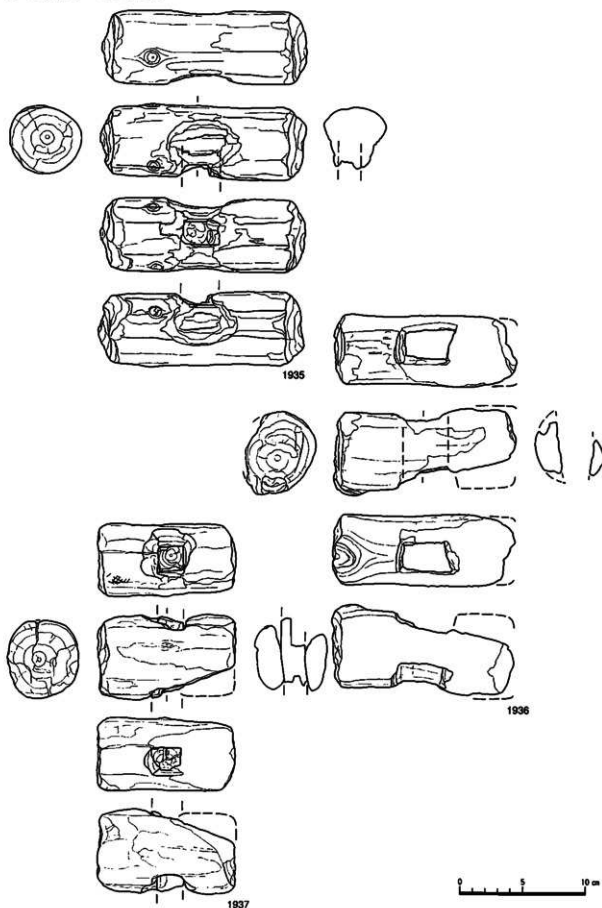


図VI-34 工具1 (縦碇①)

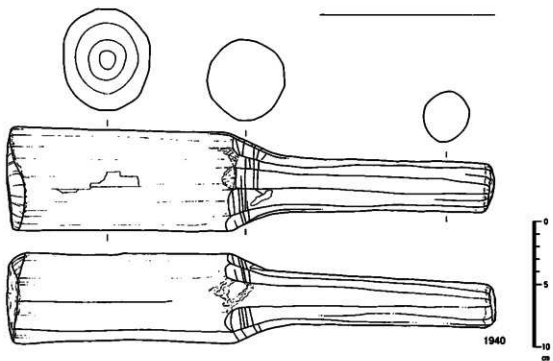
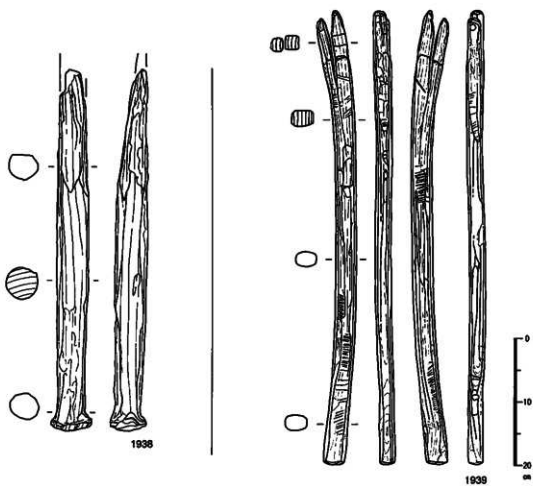


图VI-35 工具2 (縦樋②)

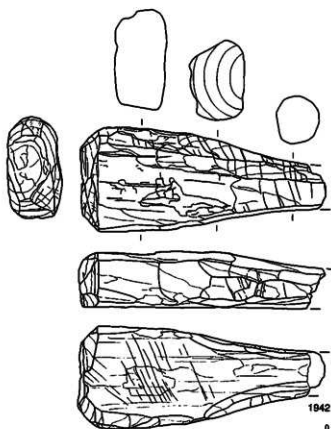
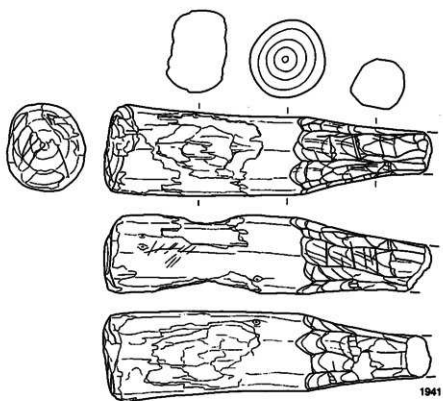
VI 重機 (クラムシェル) 調査



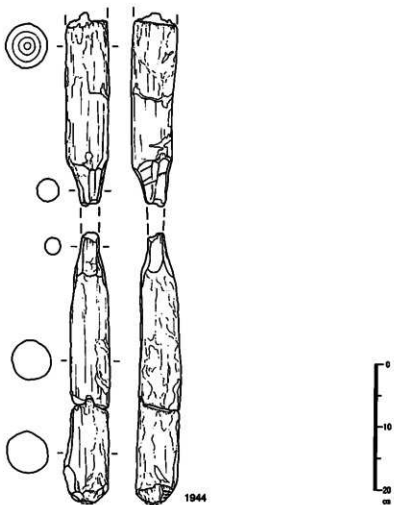
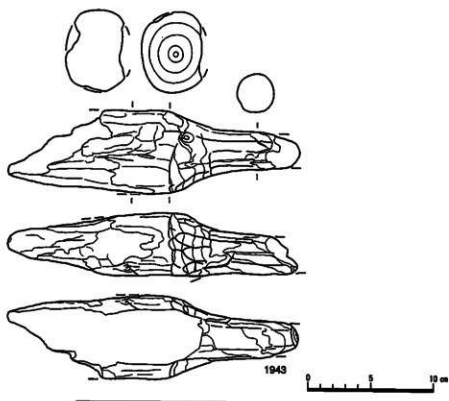
1937
 圖VI-36 工具3 (縦碇③)



图VI-37 農耕・工具1 (鉄斧柄・横槌①)

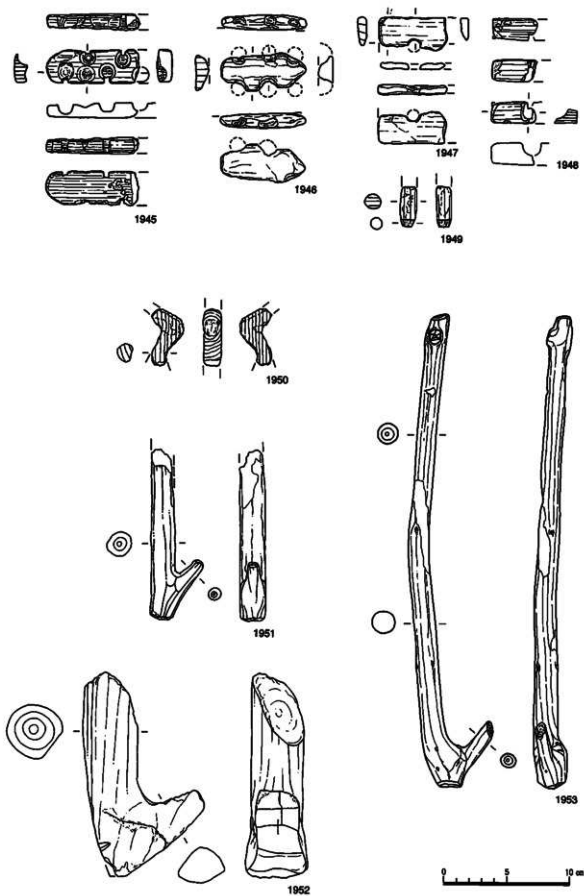


図VI-38 農耕・工具2 (横切②)

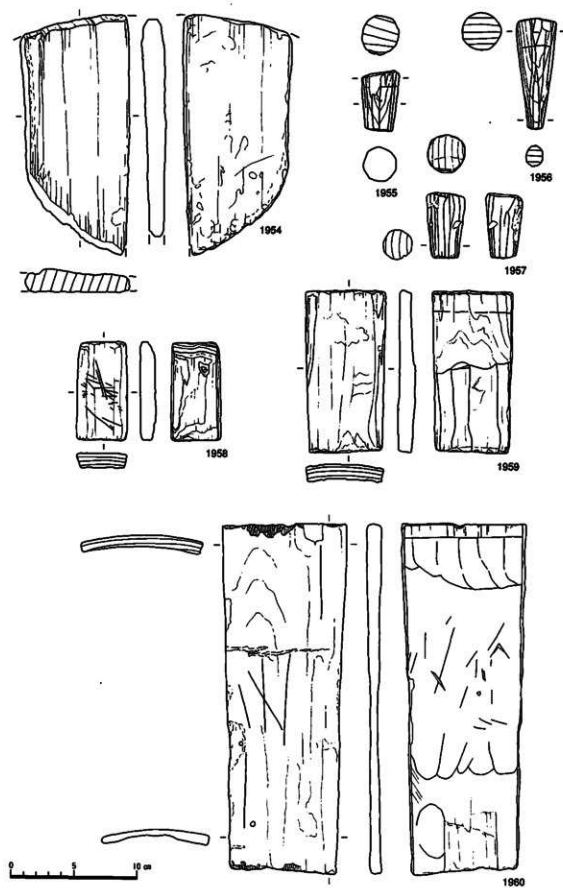


圖VI-39 農耕・工具3 (横樋③・豎杵)

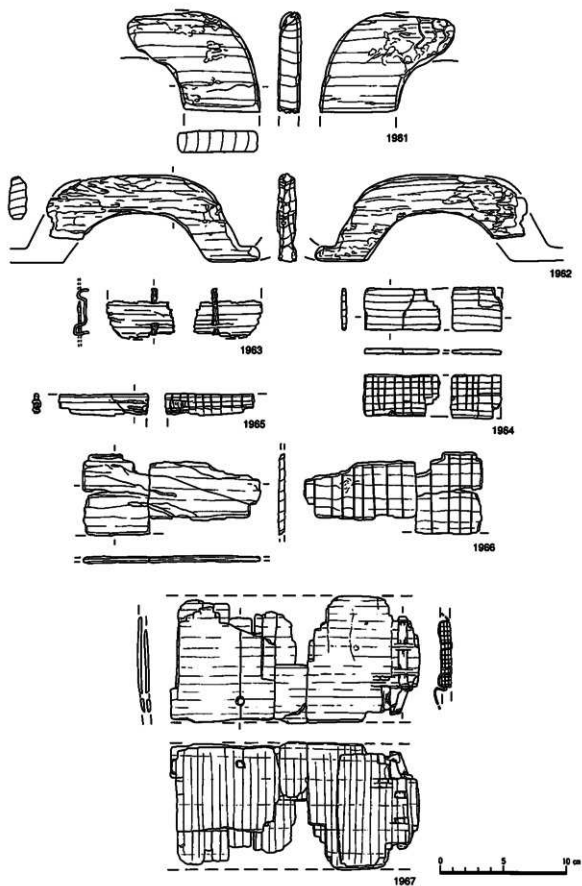
VI 重機 (グラムシエル) 調査



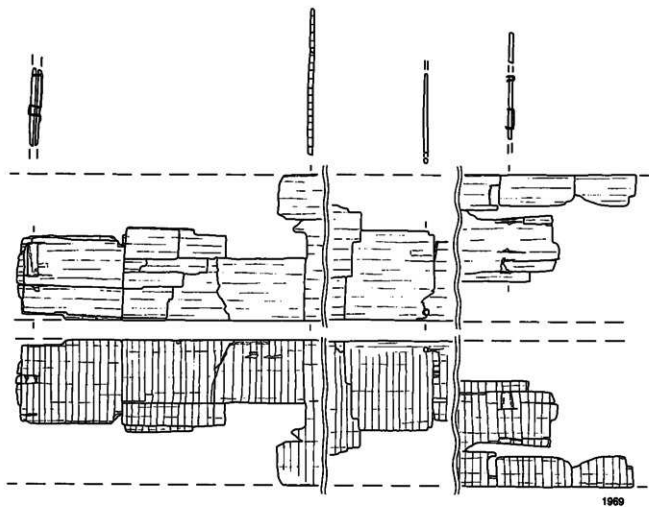
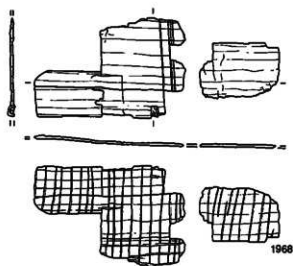
圖VI-40 発火具・鉤状製品



图VI-41 容器类(桶·樽)

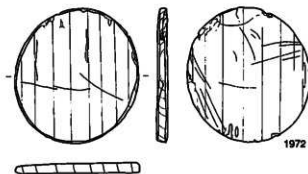
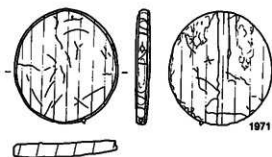
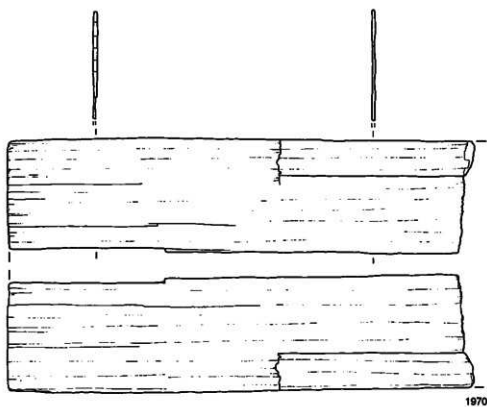


図VI-42 容器類1 (曲げ物把手・側板)

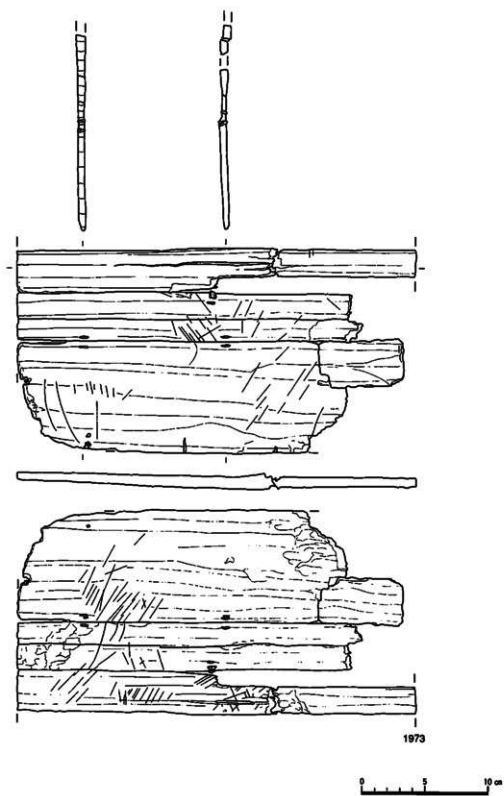


图VI-43 容器類2 (曲げ物側板)

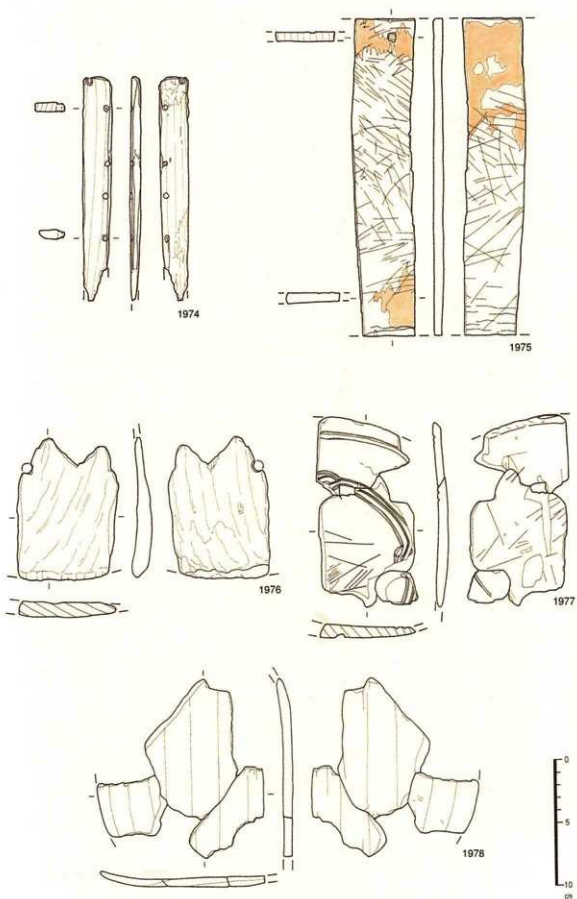
0 5 10 cm



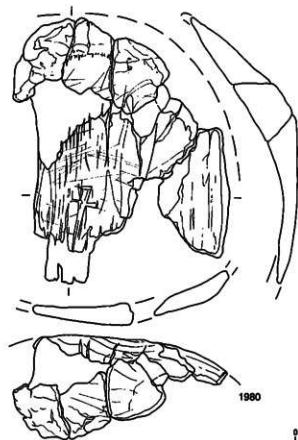
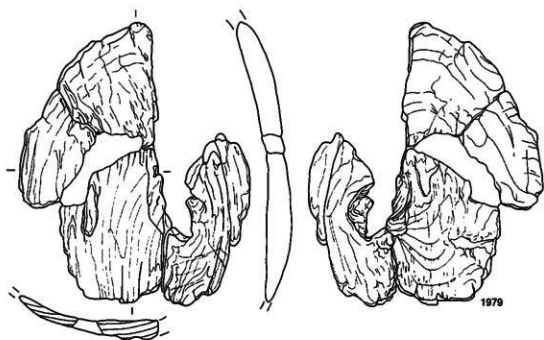
図VI-44 容器類 3 (曲げ物側板・底板)



图VI-45 容器類4 (折敷底板)

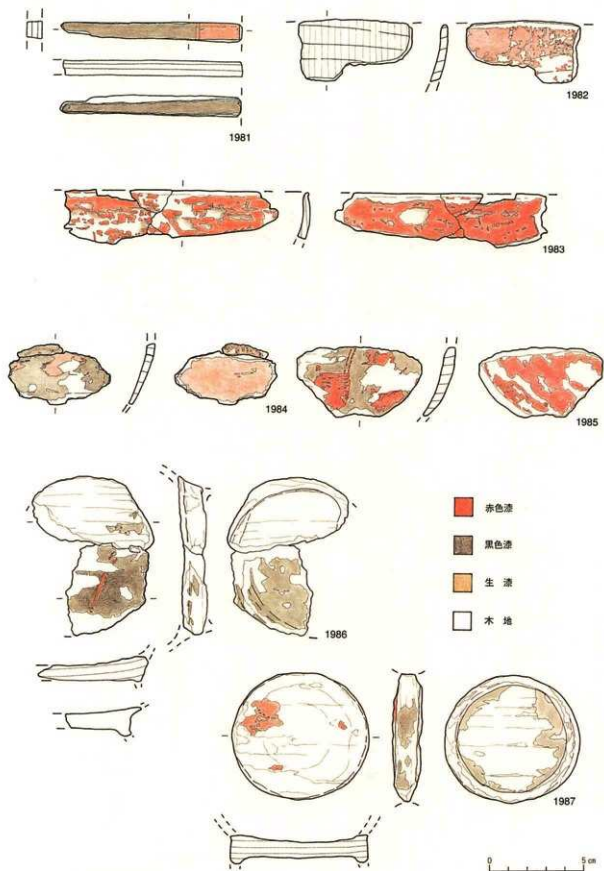


図VI-46 容器類5 (箱物・盆・割物)

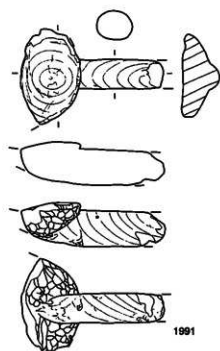
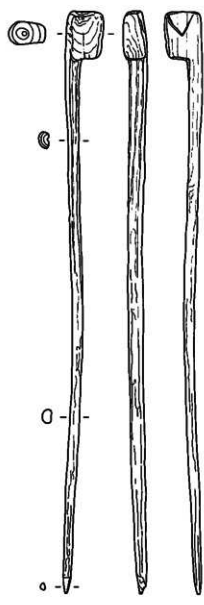
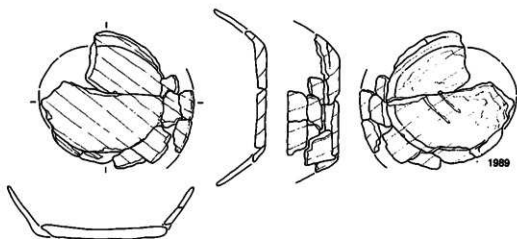


图VI-47 容器類6 (盆・刺物)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

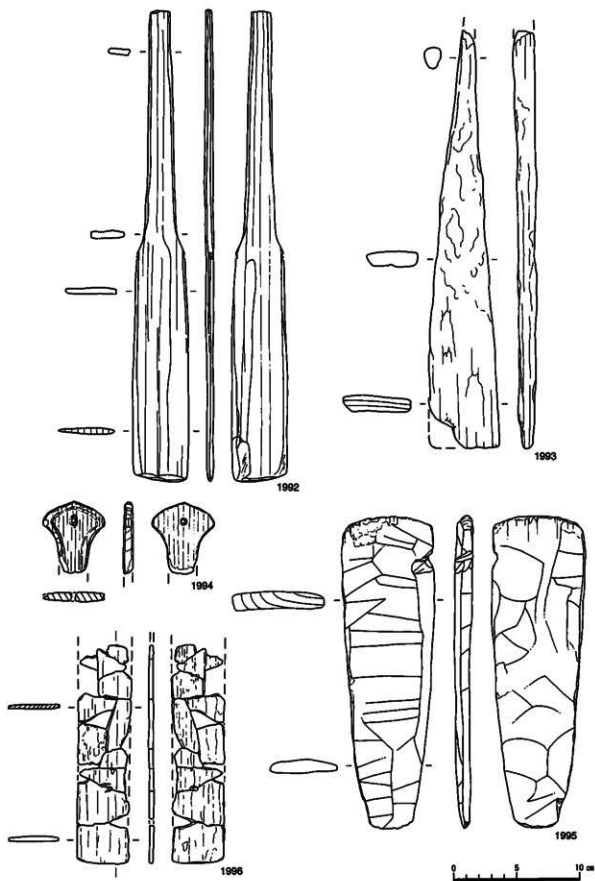


図VI-48 容器類7 (漆塗箱物底板・漆塗椀)

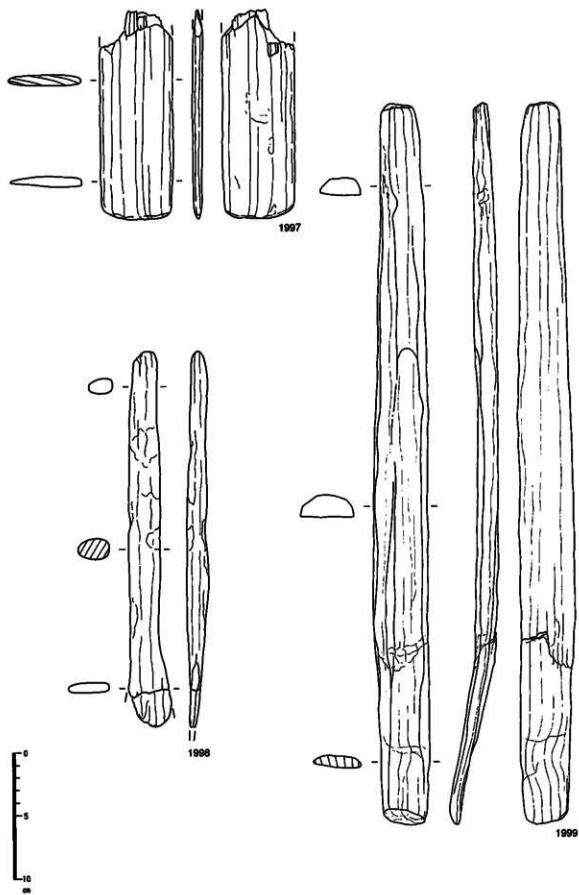


0 5 10 cm

图VI-49 容器類8・食用具1(刺物・杓子柄)

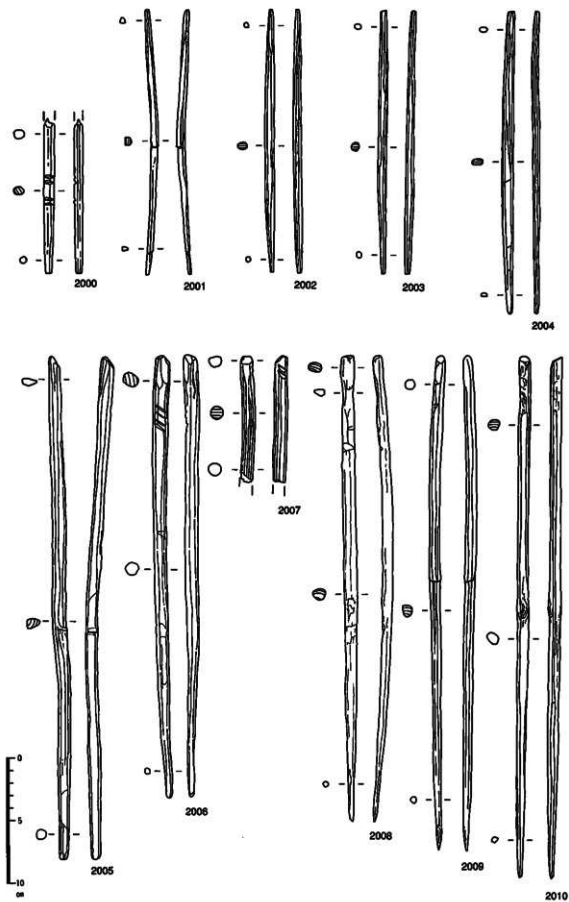


図VI-50 食用具1 (筥①)

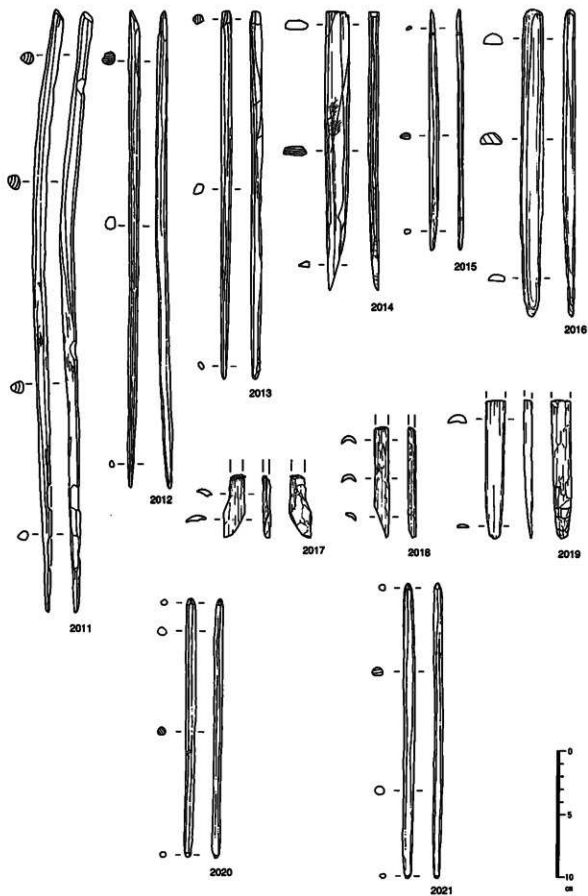


图VI-51 食用具 2 (笈②)

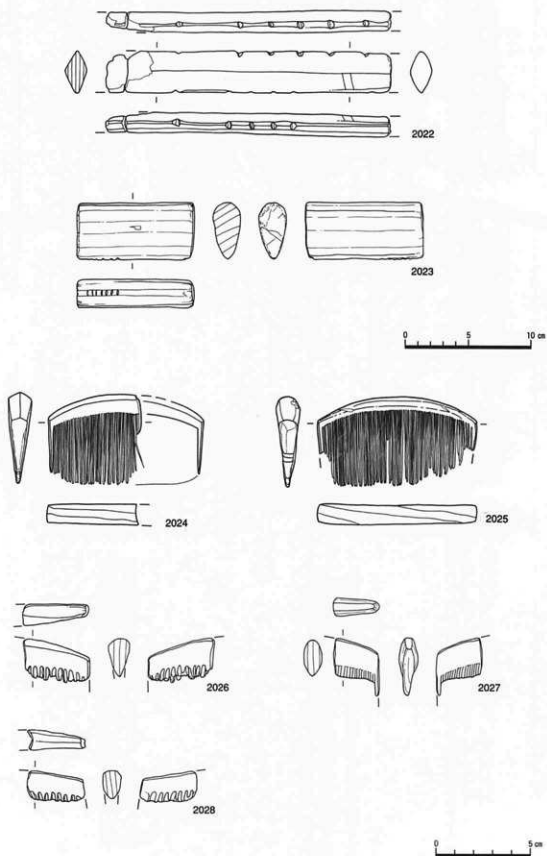
VI 重機 (クラムシェル) 調査



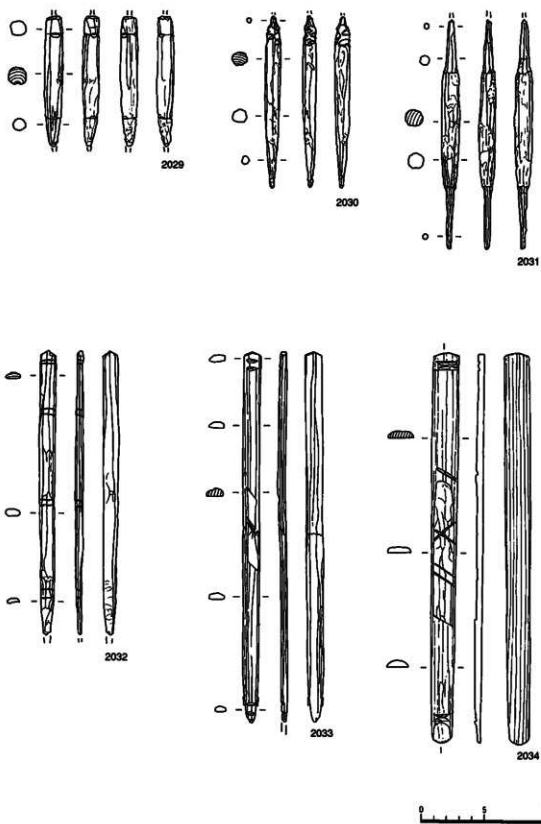
図VI-52 食用具3 (両口箸・片口箸)



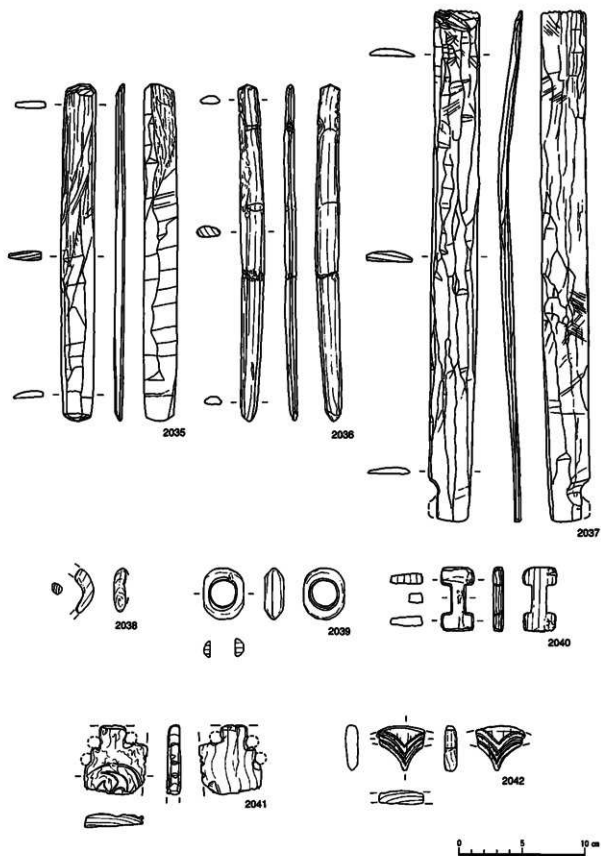
図VI-53 食用具4(串)・歩行具(カンジキ軸)



図VI-54 紡織編具・装身具 (櫛)



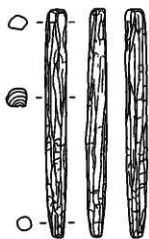
図VI-55 祭祀・儀礼具（花矢・飾り串・捧酒箸〔筥〕）



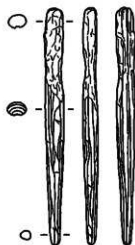
図VI-56 祭祀・儀礼具(捧酒箸〔筯〕)・加工材



2043



2044



2045



2046



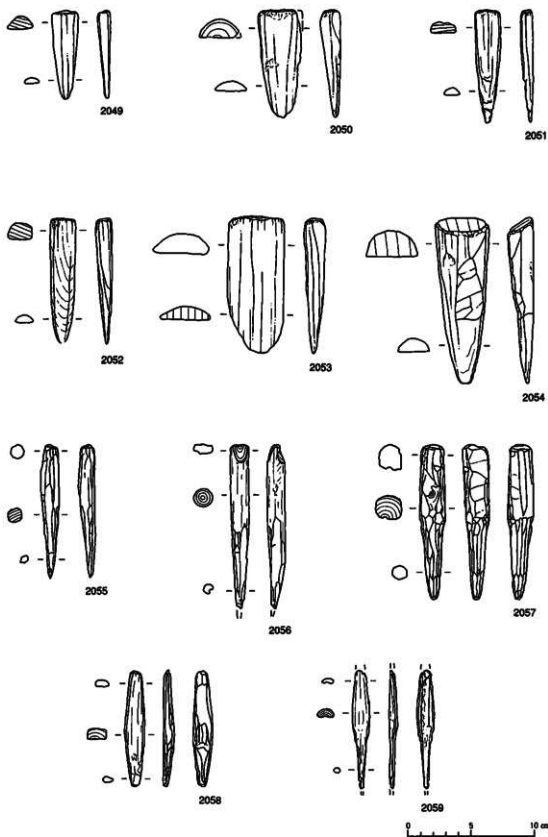
2047



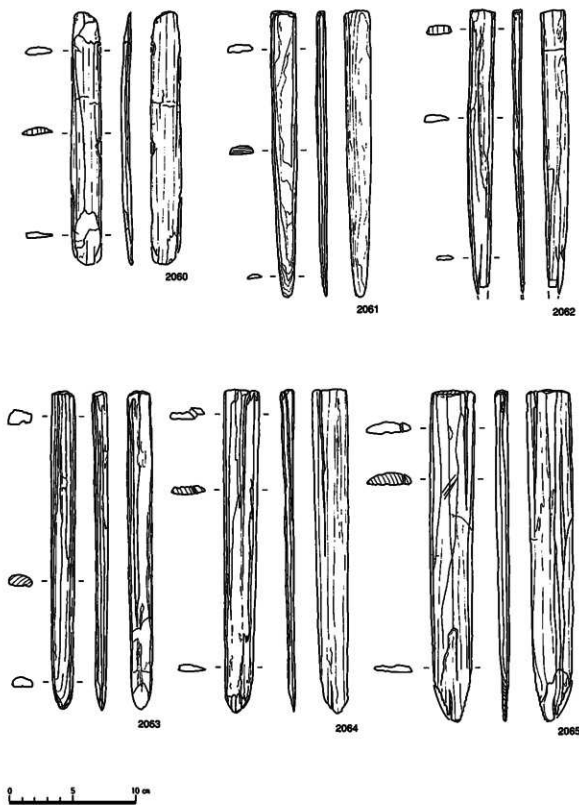
2048



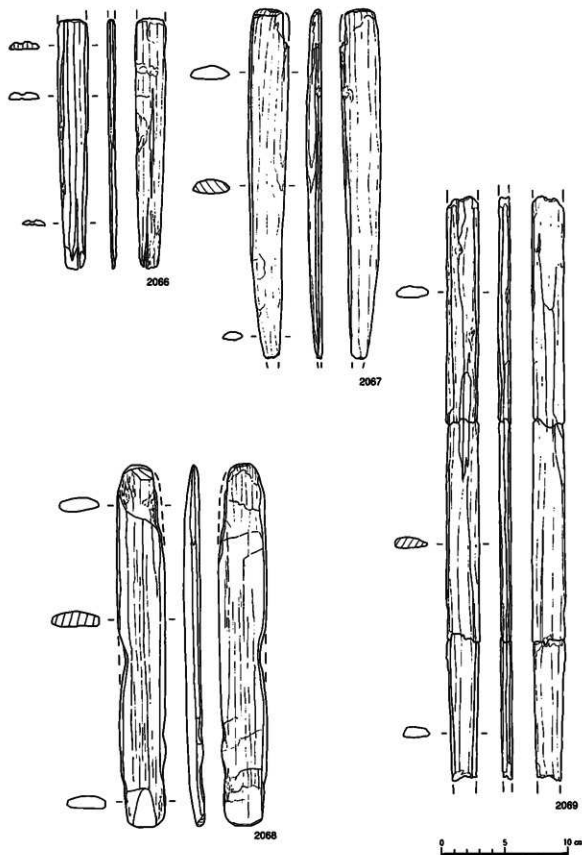
图VI-57 轴状製品 1



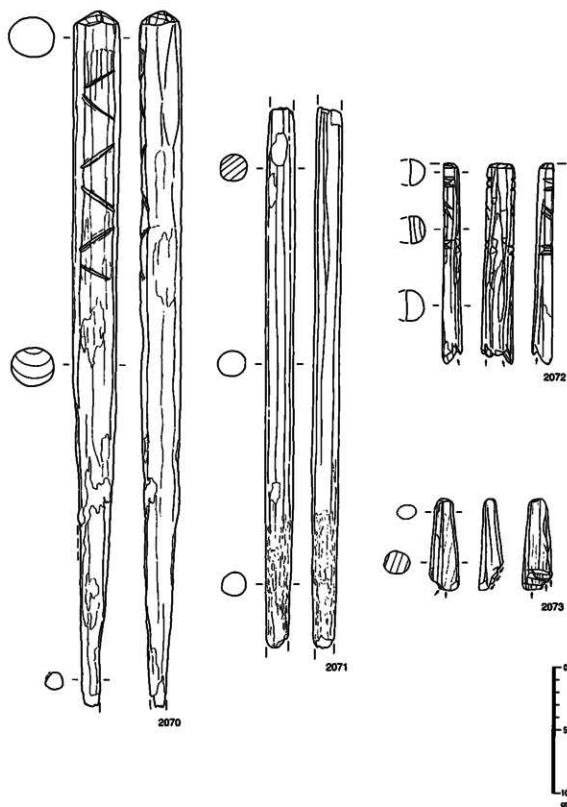
図VI-58 楔状製品・ピン状製品



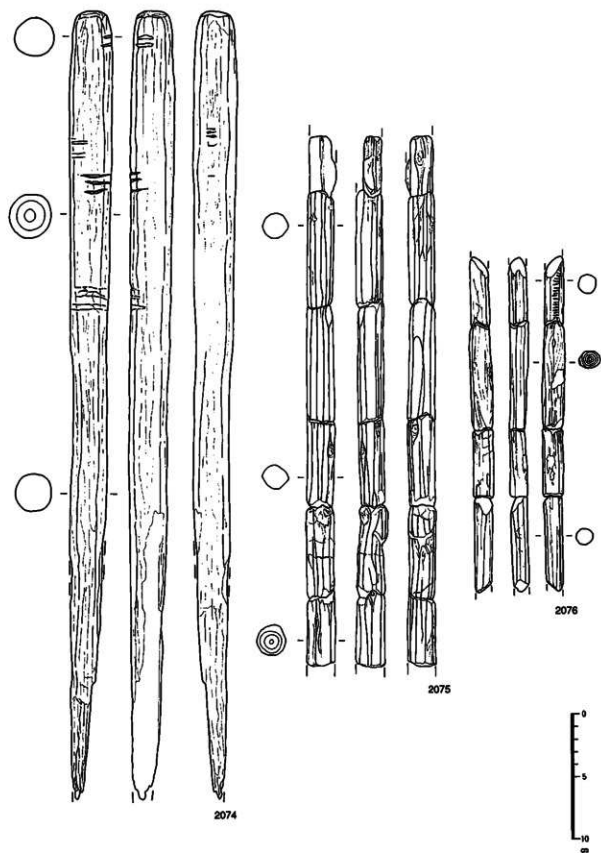
图VI-59 棒酒箸状製品 1



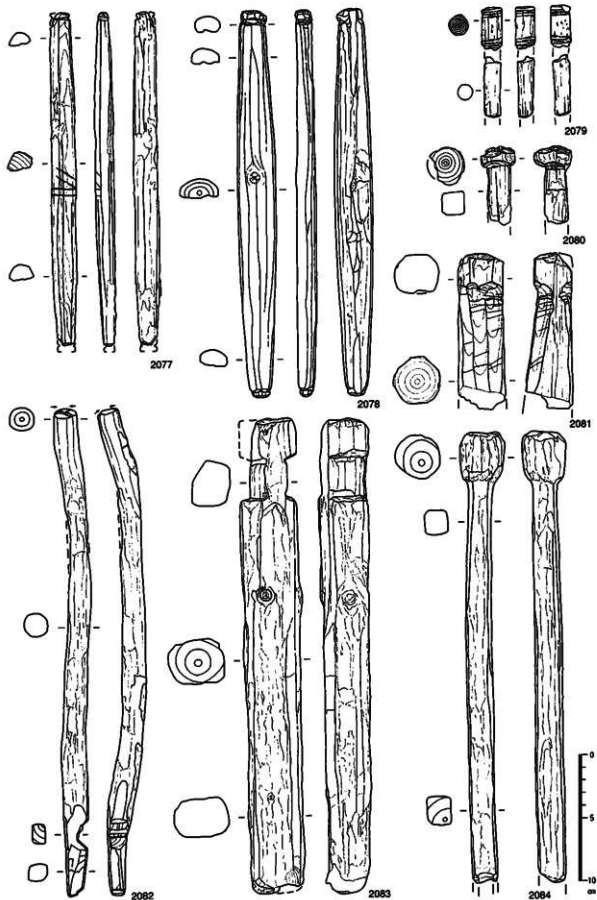
図VI-60 棒箸状製品 2



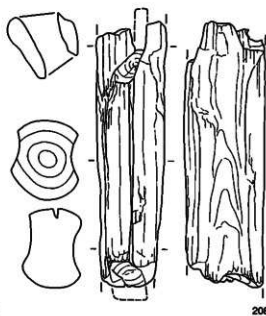
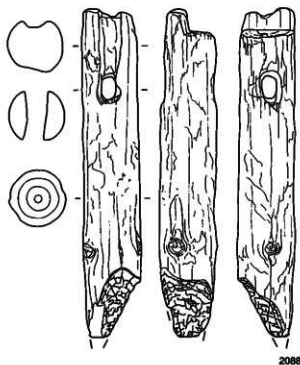
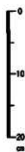
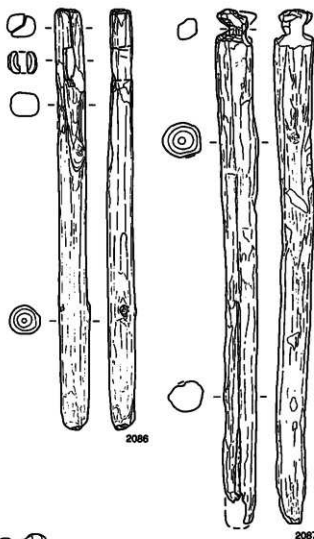
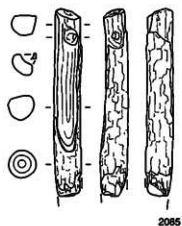
圖VI-61 丸材



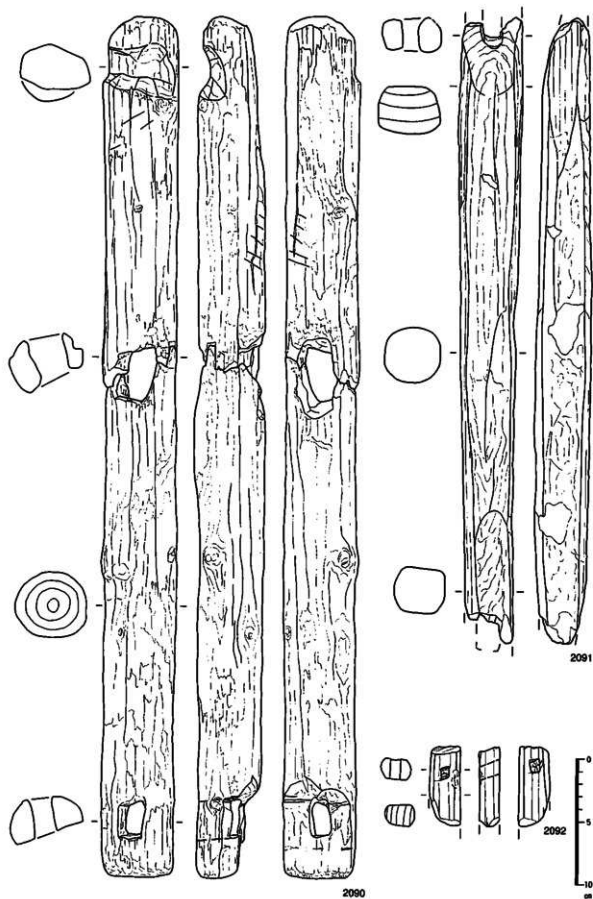
図VI-62 丸木材



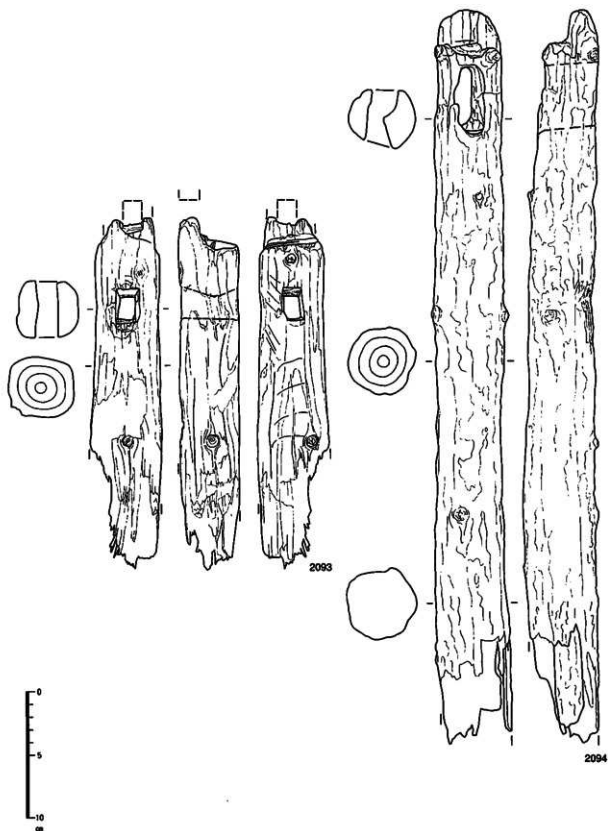
图VI-63 挟入部付丸木材・角材



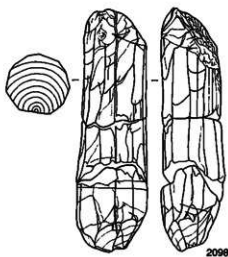
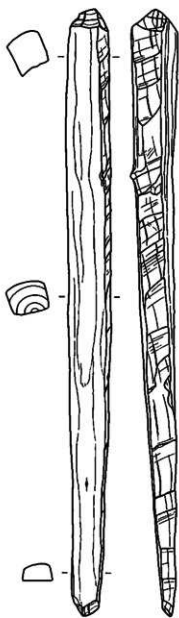
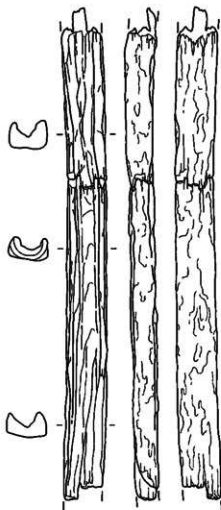
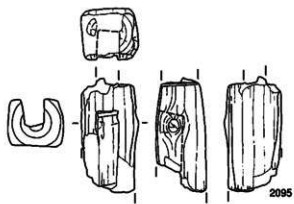
図VI-64 有孔丸木材



图VI-65 有孔丸木材・有孔角材 1



圖VI-66 有孔丸木材・有孔角材 2



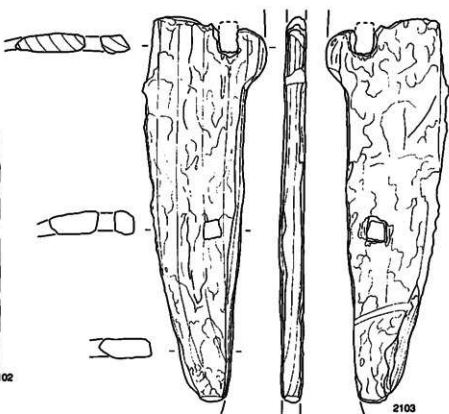
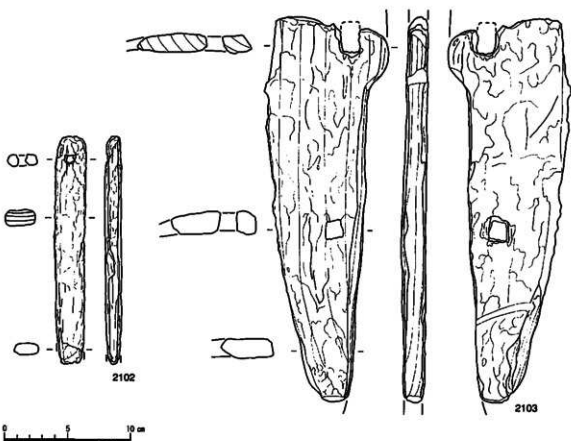
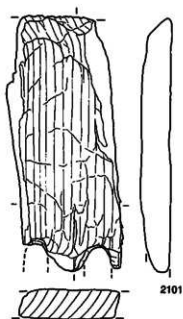
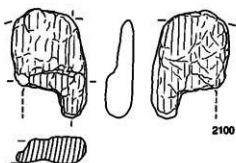
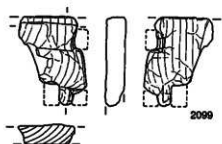
2086

2097

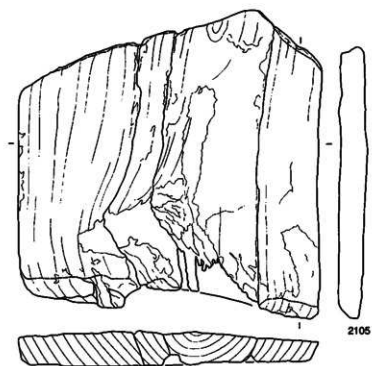
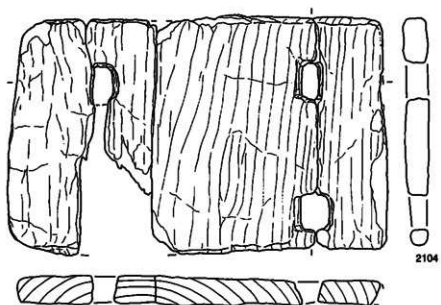
2098

圖VI-67 有溝角材・角材

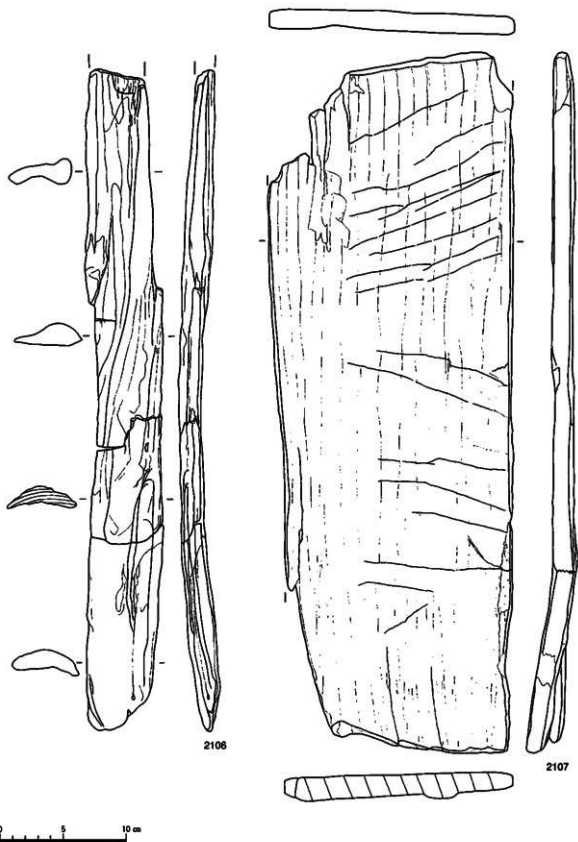




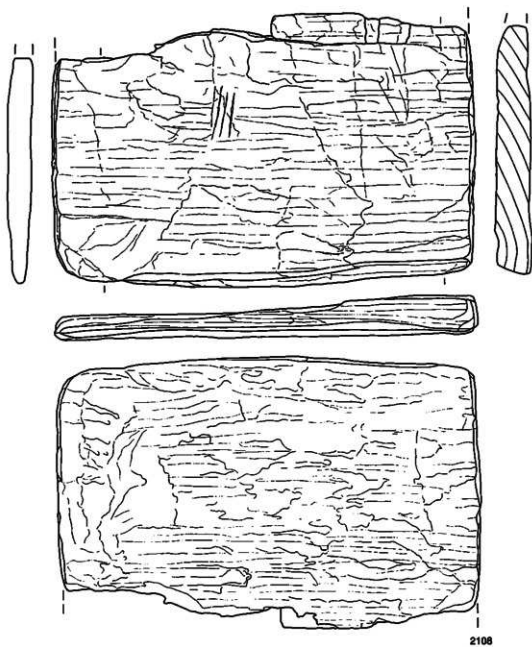
図VI-68 有孔板材 1



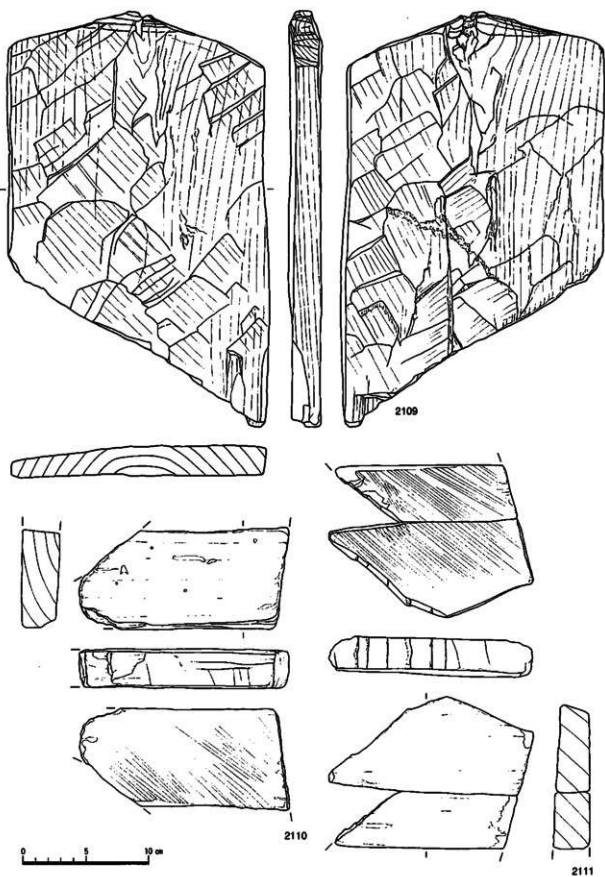
圖VI-69 有孔板材2・板材1



図VI-70 板材2



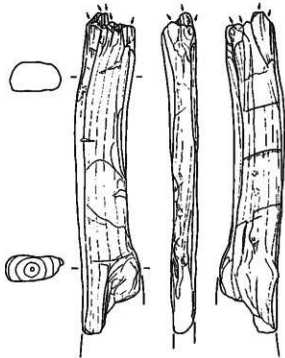
圖VI-71 厚板材 1



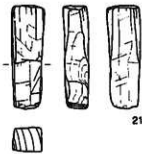
図VI-72 厚板材 2



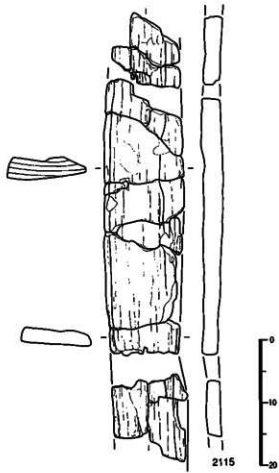
2112



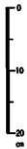
2113



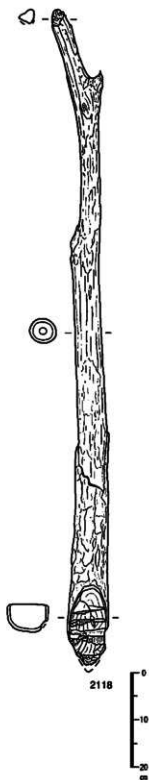
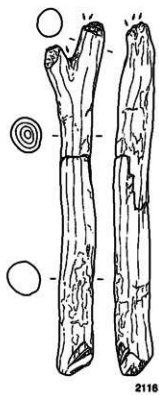
2114



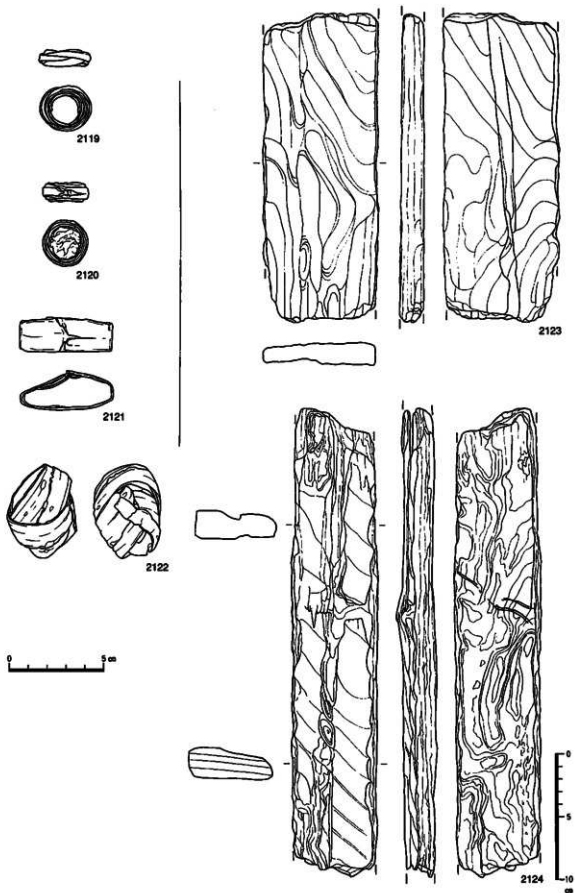
2115



圖VI-73 細板材



図VI-74 建材



图VI-75 树皮製品

表VI-4 重機調査用木製品(1)

品番 番号	品番 番号	運付名称	製造区	運付番号	水取り	材質	仕様	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	積片 数	備考
1794	252	軸切断品片	c-07-03-a	10108	取本	キエブルミ		41.90 (25.90)	30.50 (1800.0)	1	2020点中1点集合、保存処理済。計測例は保存処理後の品。
1795	253	軸切断品片	d-07-03-b	10156	丸本	キナギ		46.10 (26.90)	(10.30) (1315.0)	1	775点中6点集合、保存処理済。計測例は保存処理後の品。
1796	254	軸切断品片	c-07-71-b	10605	積本	ハリギリ		(30.70) (34.15)	(17.70) (5000.0)	1	860点中2点集合。
1797	254	舟底板部片	c-07-40-a	16505	足履	カフタ		(23.50) (5.30)	(7.30) (287.1)	1	
1798	254	舟底材片	d-07-04-d	16574	丸本	ハリギリ		(41.50) (11.90)	8.30 (1725.0)	1	中央集片。
1799	255	舟底材片	c-07-03-a	16580	積本	キナギ		(17.80) (14.90)	4.30 (453.8)	1	
1800	255	舟底材片	c-07-72-a	16070	足履	ハリギリ		23.70 (10.70)	(5.40) (603.0)	1	大丸片。
1801	256	舟底材片	d-07-04-b	16292	丸本	ハリギリ		(32.25) (13.70)	6.80 (1328.0)	1	トコ部?
1802	257	舟底材片	d-07-04-b	16760	平履	キナギ		(16.70) (10.45)	5.40 (468.6)	1	凹付。
1803	257	舟底材片	c-07-00-b	16516	1/4積	ク?		(19.40) (9.90)	9.55 (985.0)	1	抜付。
1804	257	舟底材片	d-07-04-b	16573	平履	セナレン		(100.20) (16.10)	18.60 (4000.0)	1	舟底部受付?
1805	258	舟底舟底板部片	d-07-03-c	16235	足履	ハリギリ		(36.95) (8.30)	2.85 (657.1)	1	2点集合。
1806	258	舟底舟底板部片	d-07-03-b	16339	足履	セミ		(34.10) (9.95)	2.39 (308.0)	1	2点集合。
1807	258	舟底舟底板部片	d-07-03-c	16103	足履	ソフ		(81.50) (22.60)	1.90 (726.0)	1	13点中4点集合と7点集合と部分。計測例は保存処理後の品。
1808	259	舟底舟底板部片	d-07-03-c	16571	取本	セミ		71.70 (26.00)	(5.30) (938.0)	1	使用済み。
1809	259	舟底舟底板部片	c-07-03-a	16565	取本	セミ		61.60 (26.20)	(3.50) (756.0)	1	使用済み。
1810	260	舟底舟底板部片	c-07-31-d	16560	取本	セミ		65.60 (12.00)	4.30 (630.0)	1	2点集合、抜付用片。
1811	260	舟底舟底板部片	c-07-72-d	16562	取本	セノキアサマ?		65.60 (12.00)	4.30 (630.0)	1	使用済み。
1812	260	舟底舟底板部片	c-07-00-b	16060	取本	セミ		(37.20) (13.10)	3.30 (272.5)	1	使用済み。
1813	260	舟底舟底板部片	d-07-74-a	16385	取本	セミ		(57.60) (9.90)	3.80 (963.0)	1	使用済み。
1814	260	舟底舟底板部片	d-07-04-b	16554	取本	セミ		(41.90) (20.25)	3.40 (359.6)	1	使用済み。
1815	260	舟底舟底板部片	d-07-03-b	16155	取本	セミ		(47.70) (23.00)	3.00 (564.0)	1	3点中2点集合、使用済み。
1816	261	舟底舟底板部片	c-07-04-c	16180	抜付	セノキアサマ?		63.90 (4.50)	2.20 (397.6)	1	2点集合、角輪芯込式。
1817	261	舟底舟底板部片	c-07-04-d	16181	抜付	キナダ		(48.80) (5.45)	2.90 (484.0)	1	2点集合、角輪芯込式。

表VI-5 重機調査用鋸木製品(2)

品 番 号	産物名称	製産区	用途(水取り)	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(kg)	製 片 数	備 考
1818 261	半重受台鋸木片	d-87-83-c	板目	モクレン	(22.80) (3.05) (5.20)	(238.1)	1	22枚接合、角輪芯式。
1819 261	半重受台鋸木片	d-87-83-c	板目	ハリギリ	(41.20) 5.90 2.70	(308.2)	1	22枚接合、角輪芯式。
1820 261	半重受台鋸木片	d-87-83-b	板目	ハンノキ	(27.60) 8.20 4.60	(625.0)	1	1角輪芯式。
1821 261	半重受台鋸木片	d-87-83-c	字割	ハンノキ	(31.60) (8.15) 3.00	(430.8)	1	22枚接合、角輪芯式。
1822 261	半重受台鋸木片	c-87-50-c	板目	サニグマルミ	(27.70) 4.40 2.80	(188.3)	1	1角輪芯式。
1823 261	半重受台鋸木片	c-87-83-c	板目	モクレン	(33.00) (5.45) 3.40	(411.5)	1	1角輪芯式。
1824 261	半重受台鋸木片	d-87-83-c	板目	モクレン	(33.20) 5.45 3.40	(329.0)	1	
1825 261	半重受台鋸木片	d-87-83-c	字割	ハンノキ	(18.90) (2.90) (4.50)	(135.0)	1	22枚接合。
1826 261	半重受台鋸木片	d-87-83-d	字割	ハンノキ	(26.20) 4.80 2.70	(168.2)	1	32枚接合。
1827 261	半重受台鋸木片	d-87-54-c	板目	サニ	(22.95) (4.15) (3.10)	(167.9)	1	
1828 262	半重受台鋸木片	d-87-83-b	板目	ハリギリ	(27.50) (5.20) (3.55)	(326.0)	1	
1829 262	半重受台鋸木片	d-87-83-b	板目	ハンノキ	(19.30) (2.50) (3.80)	(122.1)	1	
1830 262	半重受台鋸木片	d-87-83-a	板目	クワ	22.30 3.40 2.10	60.2	1	1角輪芯式。
1831 262	半重受台鋸木片	c-87-61-d	板目	コナラ	(10.40) 3.10 2.00	(38.4)	1	1角輪芯式、貫孔10所。
1832 262	半重受台鋸木片	d-87-83-c	丸木	コナラ	(29.60) 3.50 2.40	(111.4)	1	1角輪芯式、貫孔10所。
1833 262	半重受台鋸木片	c-87-83-d	丸木	サニ	28.90 3.40 3.65	155.4	1	22枚接合(側面中心)、角輪芯式、側人。
1834 262	半重受台鋸木片	d-87-84-b	丸木	サニ・モミ	29.50 2.60 2.45	109.3	1	1角輪芯式、側人(側面)。
1835 262	半重受台鋸木片	d-87-84-a	板目	コナラ	29.60 2.10 2.00	74.2	1	1角輪芯式。
1836 262	半重受台鋸木片	c-87-73-d	丸木	サニ・サ	28.25 2.40 2.70	84.2	1	1角輪芯式。
1837 262	半重受台鋸木片	c-87-71-b	板目	トネリコ	19.70 2.90 2.20	64.6	1	1角輪芯式。
1838 262	半重受台鋸木片	d-87-83-b	板目	サニ	(19.65) 2.20 2.10	(57.0)	1	22枚接合。
1839 263	半重鋸片	d-87-83-b	板目	トネリコ	(102.90) 6.70 (4.90)	(850.0)	1	4枚の芯接合(芯深さ=2孔)。計割幅は並置時。
1840 263	半重鋸片	d-87-83-a	板目	トネリコ	(26.80) 5.90 3.60	(308.2)	1	1孔10所。
1841 263	半重鋸片	c-87-83-d	板目	ハンノキ	(32.10) (7.65) 3.90	(410.3)	1	1孔10所。

表VI-6 重機調査用機木製品(3)

国 番号	品名	製造地区	製造番号	材質	寸法 (mm)	重量 (g)	長さ×幅×厚さ (mm)	断面 (mm)	形状	備考
1842	303 半環形部片	c-67-03-d	16762	塩目			4.90 (35.90)	3.00 (306.6)	1	2点接合。
1843	303 半環形部片	d-67-03-c	16126	塩目			6.25 (45.70)	3.00 (533.6)	1	3点接合。
1844	303 半環形部片	d-67-03-d	16268	塩目			4.90 (59.00)	2.50 (379.5)	1	2点接合。扇形付。
1845	303 半環形部片	d-67-04-b	16572	塩目			5.40 (48.50)	3.70 (730.0)	1	1
1846	303 半環形部片	c-67-03-b	16110	塩目			5.75 (18.00)	1.75 (107.8)	1	1
1847	303 半環形部片	c-67-51-d	16536	塩目			9.15 (65.70)	3.20 (580.4)	1	4点中心点接合。
1848	303 半環形部片	c-67-03-d	16077	塩目			7.15 (49.50)	2.80 (228.2)	1	1
1849	303 半環形部片	c-67-03-d	16069	塩目			6.80 (34.50)	2.50 (202.3)	1	2点接合。
1850	303 半環形部片	d-67-03-c	16091	塩目			5.05 (19.60)	2.80 (140.5)	1	1
1851	304 半環形部片	d-67-74-b	16379	塩目			8.10 (30.40)	1.45 (260.1)	1	1
1852	304 半環形部片	d-67-03-b	16405	塩目			6.65 (26.00)	1.10 (128.5)	1	1
1853	304 半環形部片	c-67-50-b	16781	塩目			6.40 (14.60)	1.50 (72.6)	1	2点接合。
1854	304 半環形部片	c-66-09-c	16782	塩目			3.70 (26.20)	2.70 (196.5)	1	1
1855	304 半環形部片	d-67-03-a	16791	丸木			3.60 (63.80)	3.70 (626.0)	1	2点接合。
1856	304 半環形部片	d-67-04-c	16855	丸木			3.70 (108.70)	2.80 (700.0)	1	2点接合。
1857	304 半環形部片	d-67-04-d	16480	横木			5.80 (21.35)	6.20 (175.8)	1	1
1858	305 同社式重機部片	c-67-03-a	16183	半割			1.50 (42.55)	2.10 (68.7)	1	1)本式。
1859	305 同社式重機部片	c-67-03-b	16079	半割			1.50 (34.30)	1.50 (44.0)	1	1)本式。
1860	305 同社式重機部片	c-67-03-c	16367	1/4割			2.05 (35.90)	1.50 (53.8)	1	1)本式。
1861	305 同社式重機部片	d-67-03-c	16220	1/4割			1.40 (30.30)	0.90 (12.8)	1	1)本式。
1862	305 同社式重機部片	d-67-03-d	16436	1/4割			1.45 (22.85)	1.50 (16.5)	1	1)本式。
1863	305 同社式重機部片	d-67-04-b	16382	半割			1.90 (29.60)	1.50 (47.2)	1	1)本式。扇形付。
1864	305 同社式重機部片	d-67-03-b	16177	半割			1.55 (16.90)	1.00 (12.9)	1	1)本式。
1865	305 同社式重機部片	d-67-04-a	16275	1/4割			1.05 (20.40)	0.90 (8.4)	1	1)本式。

表VI-7 重機調査用載木製品(4)

国 産 品 番 号	製造者 番 号	製造名称	製造地区	製造番号 末位(1/4寸)	製造 材	種類	長さ×幅×高さ(cm)	重量(kg)	積 込 数	備考
1866	266	国産式重機用中枠片	c-67-03-a	1/4寸	アジヤイ		(28.90) 1.60 1.10	(25.2)	1	11本式。
1867	266	国産式重機用中枠片	c-67-5b-c	1/4寸	アジヤイ		(30.10) 1.65 1.25	(29.1)	1	11本式。
1868	266	国産式重機用中枠片	c-67-50-c	1/4寸	アジヤイ		(24.30) 1.60 1.30	(31.4)	1	11本式。
1869	266	国産式重機用中枠片	d-67-53-c	1/4寸	アジヤイ		(18.30) (1.55) (1.30)	(29.8)	1	11本式。
1870	266	国産式重機用中枠片	d-67-53-c	半割	アジヤイ		(15.10) 1.40 0.70	(8.5)	1	11本式。
1871	266	国産式重機用中枠片	d-67-75-a	半割	アジヤイ		(18.20) 1.70 1.40	(25.5)	1	11本式。
1872	266	国産式重機用中枠片	c-67-40-d	半割	ウエルシ		(15.00) (2.10) (1.20)	(18.6)	1	11本式。
1873	267	国産式重機用中枠片	d-67-30-a	半割	アジヤイ		(26.25) 2.30 1.10	(30.4)	1	12本組式。
1874	267	国産式重機用中枠片	d-67-74-a	半割	アジヤイ		(29.70) 1.30 1.00	(13.8)	1	12本組式。
1875	267	国産式重機用中枠片	d-67-30-a	1/4寸	アジヤイ		37.20 1.80 1.70	57.8	1	12本組式。
1876	267	国産式重機用中枠片	c-67-61-d	1/4寸	アジヤイ		(19.20) 1.30 1.05	(11.6)	1	12本組式。
1877	267	国産式重機用中枠片	c-67-60-b	1/4寸	タフ		23.40 1.90 1.60	46.2	1	12本組式。
1878	267	国産式重機用中枠片	d-67-94-b	1/4寸	アジヤイ		(14.20) (2.20) (1.00)	(19.7)	1	12本組式。
1879	267	国産式重機用中枠片	c-67-04-b	半割	タフ		(15.15) 2.40 1.40	(22.5)	1	12本組式, 異部材付。
1880	267	国産式重機用中枠片	c-67-50-b	1/4寸	アジヤイ		(16.00) 1.60 1.30	(16.1)	1	12本組式。
1881	267	国産式重機用中枠片	c-67-04-b	1/4寸	サカラ		(13.20) 1.65 1.65	(20.8)	1	12本組式, 異部材付。
1882	268	国産式重機用中枠片	d-67-03-b	丸本	アジヤイ		6.50 (3.10) 2.00	(12.6)	1	
1883	268	国産式重機用中枠片	c-67-40-d	板目	アジヤイ		(5.55) 0.80 0.55	(1.0)	1	10部材付。
1884	268	国産式重機用中枠片	c-67-51-d	板目	アジヤイ		(6.20) 0.95 0.70	(1.3)	1	10部材付。
1885	268	魚形脚板付部	d-67-94-b	板目	アジヤイ		17.20 0.95 0.75	6.5	1	35点接合。
1886	268	魚形脚板付部	d-67-94-b	板底	アジヤイ		20.10 1.50 1.35	25.4	1	
1887	268	魚形脚板付部	d-67-74-b	丸本	トネリコ?		(14.45) 2.40 2.30	(53.4)	1	
1888	268	魚形脚板付部	c-67-94-d	丸本	アジヤイ		(30.10) 1.30 1.20	(29.6)	1	
1889	268	魚形脚板付部	d-67-83-c	丸本	アジヤイ		31.40 1.85 1.68	49.7	1	

表VI-8 重機調査場集木製品(5)

国	製造番号	製造名称	製造地区	運輸番号	水取り	測定	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	製	備考
1890	268	魚叉鉤付台集木製品	c-67-03-a	16076	半割		アジサイ	40.50 1.80 1.20	43.2	1	1
1891	269	魚叉鉤付台集木製品	c-67-03-a	16564	1/4割		コナラ	122.40 3.80 3.70	1020.0	1	32点接合、イトナハ付。
1892	269	魚叉鉤付台集木製品	d-67-83-c	16569	丸木		コナラ	102.40 3.70 3.70	800.0	1	22点接合。
1893	269	魚叉鉤付台集木製品	d-67-74-a	16556	丸木		コナラ	(67.80) 4.20 4.30	(500.0)	1	1
1894	269	魚叉鉤付台集木製品	c-67-61-a	16049	丸木		ヤナギ	(18.90) (2.00) (1.75)	(28.4)	1	1
1895	269	魚叉鉤付台集木製品	c-67-04-d	16778	丸木		ハシドイ?	(10.55) 2.15 1.85	(22.7)	1	22点接合。
1896	269	魚叉鉤付台集木製品	c-67-51-a	16518	板紐		サエテ	(10.70) 2.10 2.10	(27.4)	1	1
1897	270	穴片	c-67-50-b	16629	丸木		測定不可能	(4.70) 1.00 1.00	(1.1)	1	1
1898	270	穴中柄	d-67-93-a	16084	半割		アジサイ	13.60 1.10 0.90	7.6	1	1
1899	270	穴中柄片	d-67-83-c	16777	1/4割		サアソ?	(13.20) 1.10 1.15	(10.0)	1	22点接合、丸割付。
1900	270	穴中柄片	c-67-51-d	16530	半割		アジサイ	(9.50) 1.30 1.15	(8.2)	1	1
1901	270	穴	d-67-74-d	16382	半割		アジサイ	11.40 1.65 1.30	15.0	1	1
1902	270	穴	d-67-94-d	16665	丸木		ハギ	10.50 1.30 1.35	10.0	1	1
1903	270	穴片	d-67-83-c	16407	1/4割		アジサイ	(14.20) 1.40 1.00	(9.2)	1	1
1904	270	穴	c-67-43-c	16672	1/4割		アジサイ	15.10 1.20 1.00	9.6	1	1
1905	270	穴片	c-67-91-d	16901	1/4割		アジサイ	(20.80) 1.05 1.00	(13.2)	1	1
1906	270	穴柄片	c-67-03-d	16657	板紐	○	サエテ	(12.80) 0.80 0.80	(5.2)	1	22点接合(側面を含む)、1907と同一形状(側面を含む)。
1907	270	穴柄片	c-67-40-c	16546	板紐	○	サエテ	(8.50) 0.70 0.70	(2.9)	1	22点接合(側面を含む)、1906と同一形状(側面を含む)。
1908	270	穴柄片	d-67-83-c	16665	板紐		サマツトウヒ?	(2.70) 0.90 0.65	(1.0)	1	1
1909	270	穴柄片	d-67-93-c	16766	丸木		ハシドイ?	(9.70) (1.80) (1.70)	(14.5)	1	1
1910	270	穴片	c-67-71-b	16011	1/4割		サエテ	(44.90) 2.95 2.85	(130.0)	1	32点接合、丸割付。
1911	270	穴柄柄片?	d-67-84-b	16655	板紐	○	トネリコ	(16.15) 5.90 2.60	(125.1)	1	1
1912	270	穴柄柄片?	d-67-84-b	16246	板紐		ヤナギ	(17.00) 8.65 1.70	(144.6)	1	1
1913	270	穴片 Y字状製品	d-67-74-a	16387	板木		ハシドイ	50.20 11.20 3.20	304.2	1	1

表VI-9 重機調査用織木製品(6)

原 番 号	品名	製造者	製造時期	材質	形状	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備 考
1914	271 小刀柄	6-67-50-c	6-67-50-b	16604	楕円	14.50 2.80 1.40	33.0	2点検査、部材付。
1915	271 小刀柄片	6-67-50-b	16551	1/2楕円	ウレシ	(15.90) 3.26 1.80	(57.5)	1部材付。
1916	271 刀柄片	6-67-74-a	16484	楕円	キエゾ 目釘:アジキイ	20.40 (4.25) (2.80)	(124.5)	4点検査(目釘含む)、目釘入、1点。
1917	271 小刀柄	6-67-74-c	16313	丸木	コナラ	15.20 2.50 1.60	49.6	1
1918	271 山刀柄突起片	6-67-51-d	16640	楕円	ハリギキ	(2.90) (2.80) (1.70)	(8.3)	1
1919	271 小刀柄片?	6-66-49-b	16545	丸木	キナギ	(6.90) 2.30 2.16	(19.5)	3点検査(側面急山を含む)、側面状態を参照品用材式付。
1920	271 小刀柄	6-67-53-a	16728	楕円	モクレン	11.20 3.70 1.60	29.9	1
1921	271 小刀柄	6-67-64-d	16723	楕円	ヒノキ?アサキ?	11.90 3.47 1.60	43.8	1部材付。
1922	272 小刀柄木製品	6-67-53-d	16344	楕円	モクレン	16.63 4.30 2.10	81.1	1
1923	272 山刀柄片	6-67-51-d	16502	楕円	キエゾ	(6.55) (5.50) (0.80)	(16.3)	1部材付。
1924	272 山刀柄片	6-67-60-b	16653	楕円	キエゾ	(6.55) (4.10) (1.05)	(15.7)	1部材付。
1925	272 山刀柄	6-67-50-c	16644	楕円	ヒノキ?アサキ?	5.70 2.65 0.45	4.7	1部材付。
1926	272 小刀柄木製品	6-67-40-a	16613 16779	楕円	○○桐皮	8.70 2.76 2.13	8.0	3点検査(側面2枚含む)。
1927	272 木製切刃部品	6-67-74-a	16366	楕円	スギ	31.9 4.7 2.8	277.2	1
1928	272 上蓋柄片	6-67-53-b	16568	楕円	サクラ	(72.50) 5.40 2.80	(600.0)	1
1929	273 蓋縁	6-67-74-d	16417	楕円	タウ	27.60 18.50 4.80	528.0	1部材付。
1930	273 蓋縁	6-67-94-b	16296	楕円	○	21.60 13.40 5.00	347.8	1部材付。
1931	274 蓋縁	6-67-71-b	16651	楕円	ハシドイ?	18.42 14.40 4.15	188.6	1部材付。
1932	274 蓋縁片	6-67-73-c	16412	楕円	キナギ	(12.20) 17.00 (5.20)	(439.3)	1部材付。
1933	274 蓋縁片	6-67-61-a	16023	楕円	サクラ	(11.00) 15.14 7.20	(383.7)	1部材付。
1934	274 蓋縁片	6-67-71-b	16010	楕円	サクラ	(6.97) 12.50 4.20	(152.9)	1部材付。
1935	275 蓋縁側面片	6-67-59-c	16489	丸木	モミ	(18.27) 6.00 5.88	(382.7)	2点検査(側付)含む、桐皮式、側付入、木取り蓋縁:丸木、桐:丸木。
1936	275 蓋縁側面片	6-67-94-d	16231	丸木	ハシドイ	(14.45) 6.63 5.70	(262.8)	1部材付。
1937	275 蓋縁側面片	6-67-40-a	16157	丸木	サクラ 桐:タウ	(11.00) 6.70 5.80	(254.4)	3点検査(側付)含む、桐皮式、側付入、木取り蓋縁:丸木、桐:丸木。

VI 重機 (クラムシユル) 調査

表VI-10 重機調査用織木製品 (7)

国 番号	製品 番号	産地名	製造者	大入り 数量	用途	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	厚さ mm	備考
1836	275	6-67-74-d	コナラ	保証		(28.70) 3.20 2.80	(128.3)	1	
1839	275	6-67-83-c	コナラ	保証		71.30 4.20 2.70	310.0	1	ヤナギを挿または別取挿片?
1840	275	6-67-81-d	コナラ	保証		38.70 8.10 7.30	1197.0	1	ヤナギ。
1841	276	6-67-81-d	ヤナギ	保証		(25.90) 7.27 6.20	(618.0)	1	エタイ?
1842	276	6-67-74-b	ヤナギ	保証		(18.48) 8.30 4.50	(407.6)	1	エタイ?
1843	276	6-67-51-d	イヌエングラ	保証		(23.30) 6.62 4.95	(310.0)	1	エタイ? 製作?
1844	276	6-67-83-c	トネリコ	保証		(78.20) 7.00 7.00	(2024.0)	1	3位接合、詳細は別定値。
1845	277	6-67-40-c	エレ	保証		(7.40) 2.60 1.20	(14.0)	1	ウス6号。
1846	277	6-67-51-d	エレ	保証		(6.70) (3.05) (1.29)	(11.1)	1	ウス6号。
1847	277	6-67-49-c	エレ	保証		(5.40) (2.50) 0.75	(6.2)	1	ウス6号。
1848	277	6-67-60-b	エレ	保証		(3.55) 1.70 1.75	(8.0)	1	ウス10号。
1849	277	6-67-83-a	エレ	保証		(3.14) 1.27 1.17	(3.0)	1	
1850	277	6-67-83-b	エレ	保証		(4.50) (2.50) 1.40	(7.8)	1	
1851	277	6-67-83-b	エレ	保証		(13.40) 4.30 2.00	(42.6)	1	伊勢?
1852	277	6-67-83-b	エレ	保証		16.10 9.30 5.00	250.6	1	
1853	277	6-67-71-b	エレ	保証		37.45 6.50 2.60	96.8	1	伊勢?
1854	276	6-67-83-c	エレ	保証		(18.80) (8.80) 2.10	(185.4)	1	
1855	276	6-67-40-a	エレ	保証		4.75 3.00 3.05	25.8	1	
1856	276	6-67-50-c	エレ	保証		8.70 3.20 2.90	39.9	1	
1857	276	6-67-40-a	エレ	保証		5.20 3.00 3.00	27.4	1	
1858	276	6-67-40-a	エレ	保証		7.80 4.05 1.15	32.0	1	
1859	276	6-67-50-c	エレ	保証		12.75 6.40 1.35	64.3	1	
1860	276	6-67-83-a	エレ	保証		27.65 9.85 1.20	215.5	1	別取挿片あり、ヤナギあり、本打込10号。
1861	276	6-67-80-b	エレ	保証		(7.80) (10.65) (1.75)	(88.8)	1	

表VI-11 重機調査場木製品(8)

国 産 品 種 別	産 品 名 称	製 造 区	通 商 手 続 号	大 小 規 格	材 質	規 格	長×幅×厚さ(cm)	重量(kg)	個 数	備 考
1852	279 自引機芯子片	c-67-40-a	18538	様目	ヒノキ??スタノ?	(16.95) (6.90) (1.40)	(66.0)	1	1	
1853	279 自引機歯板片	d-67-78-c	18699	様目	ヒノキ??スタノ?	(5.40) (3.90) (1.10)	(2.3)	1	22点接合(歯板含む)、歯板張りあり。	
1864	279 自引機歯板片	d-67-83-a	18662	様目	ヒノキ??スタノ?	(11.00)	3.40 (10.0)	1	33点中22点接合5点実測、引線あり、計測は歯板張り。	
1865	279 自引機歯板片	d-67-83-c	18703	様目	ヒノキ??スタノ?	(7.10) (1.70)	0.80 (3.6)	1	22点接合(歯板含む)、引線あり、歯板張りあり。	
1866	279 自引機歯板片	c-67-53-d	18752	様目	スギ	(14.10) (6.35)	(24.5)	1	33点接合、引線あり。	
1867	279 自引機歯板片	d-67-84-d	18224	様目	ヒノキ??スタノ?	(19.90) (9.90)	0.80 (37.9)	1	34点中14点接合(歯板含む)、フレンド、歯板張りあり、引線あり。 本町乳子所、原形実測実測、計測は保存実測の値。	
1868	279 自引機歯板片	c-67-51-d	18773	様目	ヒノキ??スタノ?	(19.40) (7.95)	(0.95) (19.7)	1	5点中4点接合5点実測(歯板含む)、断面引線あり、歯板張りあり。 計測は測定値。	
1869	280 自引機歯板片	d-67-83-b	18172	様目	ヒノキ??スタノ?	(205.30)	11.50 (414.5)	110	110点中18点と2点(歯板含む)接合(引線は、内4点と5点と1点)、 フレンド、引線あり、歯板張りあり、本町乳子所あり、保存実測実測。	
1870	280 自引機歯板片	d-67-64-a	18378	様目	ヒノキ??スタノ?	(37.10) (8.95)	0.35 (88.0)	1	22点接合。	
1871	280 自引機歯板	d-67-83-b	18335	様目	ヒノキ??スタノ? 本町:ヒノキ??スタノ?	9.00	8.20 (56.3)	1	1	フレンド、本町乳子所。
1872	280 自引機歯板	d-67-84-d	18233	様目	ヒノキ??スタノ?	10.60	9.80 (63.2)	1	1	フレンド、本町乳子所。
1873	281 歯輪歯板片	d-67-83-b	18145 18147	様目	ヒノキ??スタノ? 本町:ヒノキ??スタノ?	31.50 (18.20)	1.10 (221.5)	1	6点接合、計測、歯板張りあり、スリットあり、本町乳子所。	
1874	281 歯輪歯板片	d-67-74-a	18774	様目	本町:針葉樹	(17.60)	2.35 (36.2)	1	1	本町乳子所の内、本町乳子所。
1875	281 歯輪歯板歯片	c-67-40-c	18114	様目	スギ??ギズ???	25.00 (4.80)	0.85 (90.9)	1	1	生歯板、本町乳子所。
1876	282 歯輪歯板片	d-67-74-b	18386	歯板	ハリギ	(11.20) (8.05)	1.37 (68.4)	1	1	歯板、歯板乳あり。
1877	282 歯輪歯板片	d-67-94-a	18772	歯板	モクレン	(15.00) (8.10)	(1.00) (69.4)	1	35点接合、歯板、断面計。	
1878	- 歯輪歯板片	c-67-94-c	18202	歯目	ハンノキ	(14.15) (13.25)	0.80 (73.6)	1	35点接合、歯板。	
1879	282 歯輪歯板片	c-67-40-b	18109	歯板	ハリギ	(22.30) (18.60)	(1.90) (132.3)	1	55点接合、歯板、保存実測実測、計測は保存実測の値。	
1880	282 歯輪歯板片	d-67-64-b	18440	歯板	ヤナギ	(21.00) (17.20)	(3.25) (195.0)	1	55点接合、歯板、保存実測実測、計測は保存実測の値。	
1881	II 歯輪歯板歯片	d-67-54-d	18587	様目	ヒノキ	(9.60) (1.00)	0.80 (5.6)	1	1	歯板地に歯板。
1882	II 歯輪歯片	d-67-83-b	18595	歯板	ブナ	(3.20) (6.00)	(0.45) (6.3)	1	1	口輪部、内面歯板。
1883	II 歯輪歯片	d-67-83-a	18593	歯板	ブナ	(2.90) (11.20)	0.30 (10.0)	1	35点接合、口輪部、内外歯板歯板に歯板。	
1884	II 歯輪歯片	d-67-74-a	18748	歯板	ブナ	(3.20) (5.40)	(0.40) (4.2)	1	22点接合、断面、内外歯板歯板に歯板。	
1885	II 歯輪歯片	c-67-94-c	18586	歯板	ブナ	(3.60) (6.50)	0.40 (9.2)	1	1	断面、内外歯板歯板に歯板、外面歯板で存在す?

表VI-12 重機調査機軸木製品(9)

原 形 番 号 番 号	運轉名称	発源区	運轉番号 大入り	機 種	縦 長 × 横 × 厚 さ (cm)	重 量 (kg)	備 考
1986 日	運轉機片 d-67-74-a		16501 18716	ボク	(8.30) (6.40) (1.70)	(28.2)	22点結合、蒸留、内側型跡地にホネ線、外側型跡地。
1987 日	運轉機片 d-67-74-c		16747	ボク	(6.70) (7.20) (15.50)	(35.5)	1点蒸留、内側ホネ線、外側型跡地。
1988 日	運轉機片 d-67-64-b		16568	ボク	(13.50) (10.50) (4.40)	(73.0)	10点結合、内側型跡地にホネ線、外側型跡地、並片多数あり。
1989 日	白木出跡片 c-66-49-b		16660	ボク	(22.20) (10.80) 4.10	(29.7)	11点結合、蒸留イトラ付、底片蒸留機之光面、計測値は底片蒸留機後の値。
1990 日	杓子機? d-67-84-d		16184	A本	46.30 2.90 1.90	51.6	1組測付。
1991 日	杓子木製出片? d-67-93-c		16125	散本	(11.30) (7.40) (3.20)	(78.5)	1
1992 日	履 c-67-03-a		16080	底目	37.30 4.40 0.65	53.7	1
1993 日	履片 d-67-83-a		16288	底目	(33.15) 5.42 1.70	(142.6)	1
1994 日	履片 c-67-50-b		16627	底目	(5.70) 5.00 0.80	(11.0)	1
1995 日	履片 c-67-51-d		16522	底目	24.60 7.50 1.40	165.8	1
1996 日	履片 c-67-03-d		16659	底目	(17.40) 4.20 0.40	(8.0)	1
1997 日	履片 d-67-83-a		16534	底目	(16.40) 5.80 0.85	(56.0)	1
1998 日	履片 d-67-84-b		16269	底目	(29.75) 3.40 1.75	(71.7)	1
1999 日	履片 d-67-93-c		16790	底目	56.50 4.40 1.80	284.6	1
2000 日	背毛片 d-67-73-c		16776	履底	(12.20) 0.85 0.70	(5.0)	1
2001 日	向口背 d-67-83-c		16406	履底	20.85 0.55 0.70	5.2	1
2002 日	向口背 d-67-93-c		16127	履底	20.80 0.75 0.60	6.7	1
2003 日	向口背 d-67-93-c		16128	履底	20.80 0.65 0.65	6.2	1
2004 日	向口背 d-67-83-c		16219	履底	23.90 0.90 0.55	7.6	1
2005 日	片口背 d-67-74-b		16391	1/4履	39.80 1.10 1.10	25.9	1
2006 日	片口背 d-67-84-a		16591	履底	35.10 1.20 1.15	23.0	1
2007 日	片口背並片 c-67-51-d		16775	履底	(9.95) 1.00 1.00	(8.1)	1
2008 日	三角弁 c-67-50-c		16055	1/4履	36.95 1.10 0.80	21.2	1
2009 日	三角弁 d-67-93-c		16107	1/4履	38.30 0.95 0.85	19.5	1

表7-13 重機調査掲載木製品 (10)

国 番 号	原産 番号	運轉名称	別紙区	通称番号(大文字)	別紙区	別紙	長さ×幅×高さ (mm)	質量 (kg)	備 考
2010	205	三角巾	c-67-51-d	16692	1/4型	7ジヤイ	41.45 0.95 1.00	21.3	1
2011	206	三角巾	d-67-64-d	16792	原紙	7ジヤイ	47.65 1.10 1.10	29.3	1
2012	206	角巾	d-67-64-d	16186	原紙	ヒノキ77ス+0?	37.90 0.90 0.85	13.8	1
2013	206	角巾	d-67-63-c	16448	原紙	ヒノキ77ス+0?	29.10 0.85 0.85	14.0	1
2014	206	平角巾	d-67-63-c	16214	原紙	ヒノキ77ス+0?	22.00 1.90 0.80	23.5	1
2015	206	平角巾	d-67-74-d	16358	原紙	ヒノキ77ス+0?	19.00 0.75 0.45	3.6	1
2016	206	巾	d-67-74-d	16364	透紙	ヒノキ77ス+0?	24.30 1.80 0.90	25.2	1
2017	206	覆巾巾片	c-67-72-a	16656	半紙	イヌサ(ヤサ)	(4.85 1.70 0.60 (1.9))		
2018	206	覆巾巾片	d-67-63-d	16683	半紙	イヌサ(ヤサ)	(8.60 (1.20) (0.60) (2.4))		
2019	206	覆巾巾片	c-67-40-a	16541	半紙	イヌサ(ヤサ)	(11.00 1.60 0.70 (5.4))		
2020	206	ハンジキ巻	d-67-63-a	16300	原紙	7ジヤイ	20.50 0.80 0.70	6.9	1
2021	206	ハンジキ巻	d-67-63-a	16304	原紙	7ジヤイ	23.40 0.90 0.70	10.0	1
2022	207	網巾承受木片	c-67-72-c	16019	原紙	モクレン	(22.90 3.40 1.75 (86.3))		22点調査、網巾題目付、未マテあり。
2023	207	網巾	d-67-64-b	16725	透紙	モクレン	9.40 4.50 2.20	76.9	1
2024	207	網巾	d-67-63-d	16607	原紙	イヌノキ	(4.90 (4.80) 0.75 (16.0))		1紙製作品?網巾題目付。
2025	207	網巾	d-67-64-d	16608	原紙	イヌノキ	8.50 4.70 1.30	(25.0))	1紙巻式。
2026	207	網巾	d-67-64-b	16726	原紙	イヌノキ	(3.50 (2.30) (1.10) (4.6))		1紙巻式。
2027	207	網巾	c-67-50-b	16630	原紙	イヌノキ	(2.40 (3.00) (1.00) (3.1))		1紙巻式。
2028	207	網巾	d-67-64-b	16765	原紙	イヌノキ	(3.00 (1.60) (1.00) (2.9))		1紙巻式。
2029	208	紙巾片	c-66-49-c	16543	半紙	7ジヤイ	(10.20 1.45 1.30 (13.3))		1イトラハ付。
2030	208	紙巾片	c-67-63-b	16199	1/4型	7ジヤイ	(13.50 1.20 1.10 (9.8))		1イトラハ付。
2031	208	紙巾片	d-67-73-d	16351	1/4型	7ジヤイ	(18.00 1.40 1.30 (15.2))		
2032	208	網巾着片	c-67-51-a	16519	原紙	スギ	(22.60 1.20 0.60 (11.3))		1紙巾?網巾付。
2033	208	網巾着片	c-67-40-a	16539	原紙	ヒノキ77ス+0?	(28.80 1.30 0.55 (14.7))		22点調査、網巾イトラハ付。

表VI-14 重機調査機木製品(11)

国名 番号	国名	機名	品名	規格 区分	寸法 区別	機種	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	積 体 積	備考
2034	203	排気管	c-67-51-d	16603	鉄目	スギ	30.65 2.00 0.50	27.2	1	1イトラノ母。
2035	203	排気管	d-67-83-c	16764	鉄目	ヒノキ?アサナロ?	25.60 2.60 0.75	38.0	1	
2036	203	排気管	c-67-03-b	16111	湯底	ハシドイ	25.70 1.90 0.90	28.5	1	22点集合。
2037	203	排気管	c-67-71-b	16089	鉄目	ヒノキ?アサナロ?スギ?	40.50 3.66 0.86 (3.40)(1.40)(0.85)	76.0	1	1体付。
2038	203	燃料部品片	d-67-03-c	16666	鉄目	クワ	4.00 3.20 1.50	7.6	1	
2039	203	燃料部品	d-67-03-a	16663	鉄目	カエデ	5.00 2.85 0.80	6.2	1	
2040	203	角鉄付板材	c-67-13-b	16574	鉄目	カエデ	(5.45)(5.00)(1.10)	(18.4)	1	1個厚目付。
2041	203	部材付有孔板材片	c-67-04-b	16168	鉄目	カワラ	3.50 (3.90)	0.95 (6.8)	1	
2042	203	部材付板材片	d-67-04-d	16676	鉄目	モクレン	19.30 1.90 2.00	44.8	1	
2043	203	燃料部品	d-67-03-b	16336	丸木	ハシドイ?	18.20 1.70 1.70	33.0	1	
2044	203	燃料部品	d-67-02-a	16120	1/4割	アジキイ	18.80 1.50 1.20	18.7	1	
2045	203	燃料部品	d-67-54-b	16427	半割	アジキイ	20.60 2.30 1.40	40.9	1	
2046	203	燃料部品	c-67-13-a	16190	半割	アジキイ	(18.90)	1.90 (19.8)	1	
2047	203	燃料部品片	d-67-83-a	16315	半割	アジキイ	27.30 2.66 2.40	102.8	1	
2048	202	木枕部品	c-67-72-b	16018	丸木	カエデ	6.90 2.05 1.00	6.9	1	
2049	203	燃料部品	c-67-51-d	16590	鉄目	ヒノキ?アサナロ?スギ?	8.40 (3.30)	1.60 (19.2)	1	
2050	203	燃料部品片	c-67-51-d	16528	半割	ヤナギ	8.85 2.00 1.00	9.2	1	
2051	203	燃料部品	d-67-02-c	16129	鉄目	サシ	9.90 2.05 1.25	15.3	1	
2052	203	燃料部品	c-67-53-d	16183	鉄目	ヒノキ?アサナロ?スギ?	10.70 4.50 1.75	45.0	1	
2053	203	燃料部品	d-67-64-b	16724	鉄目	ヒノキ?アサナロ?	13.00 4.30 2.05	51.6	1	
2054	203	燃料部品	c-67-51-d	16501	鉄目	カワラ	10.45 1.40 1.30	9.8	1	
2055	203	片ピン状部品	d-67-64-b	16443	板底	ヒノキ?アサナロ?	(12.85)	1.45 (15.9)	1	
2056	203	片ピン状部品	d-67-83-d	16259	丸木	ヤマシロ?ハイノキ?	12.10 2.00 2.00	28.2	1	
2057	203	片ピン状部品	d-67-02-b	16178	半割	チニク?アサナロ?ハイノキ?サシ?				

表Ⅰ-15 重機調査用機木製品 (12)

品 番 号	品名	産地	製造番号	材質	規格	長さ×幅×厚さ (mm)	重量 (kg)	備 考
2058	同ピン状製品	d-67-43-a	18316	竹割	7ジヤイ	9.10	0.85	6.6
2059	同ピン状製品	d-67-73-c	18700	竹割	7ジヤイ	(8.30)	0.65	(3.2)
2060	押型用状製品片	c-67-40-d	18597	産目	ヒノキ77スナロ?	19.80	(2.40)	(20.6)
2061	押型用状製品	d-67-94-b	18308	産目	ヒノキ77スナロ?	22.65	2.00	24.0
2062	押型用状製品片	d-67-84-d	18227	産目	ヒノキ77スナロ?ネズコ?	(22.30)	2.00	(22.0)
2063	押型用状製品	d-67-64-b	18445	産目	ヒノキ77スナロ?	25.20	1.95	27.3
2064	押型用状製品	c-67-03-a	18066	産目	ヒノキ77スナロ?	25.70	2.85	30.7
2065	押型用状製品片	d-67-83-c	18215	産目	イチイ	(26.30)	3.55	(39.8)
2066	押型用状製品片	d-67-64-b	18442	産目	ヒノキ77スナロ?	(19.65)	2.40	(18.7)
2067	押型用状製品片	d-67-83-b	18559	産目	イチイ	(27.70)	3.10	(32.0)
2068	押型用状製品	d-67-74-a	18487	産目	ヒノキ77スナロ?ネズコ?	28.65	3.80	32.6
2069	押型用状製品片	d-67-84-b	18251	産目	モミ	(46.40)	2.60	(52.0)
2070	丸材片	d-67-93-b	18158	ノコ屑	コナラ	(55.20)	3.70	(439.8)
2071	丸材片	d-67-83-a	18286	産目	コナラ	(42.65)	2.30	(145.2)
2072	丸材切斷品片	d-67-64-c	18478	産目	コナラ	15.80	(1.60)	(42.0)
2073	丸材切斷品	d-67-84-b	18558	産目	コナラ	7.25	2.35	14.5
2074	丸木材片	d-67-93-c	18566	丸木	コナラ	(62.30)	3.40	(460.0)
2075	丸木材片	d-67-93-c	18699	丸木	ヤナギ	(42.10)	2.30	2.35
2076	丸木材片	d-67-83-b	18771	丸木	ハシドイ?	(36.70)	1.75	(39.0)
2077	同型品納入用材片	d-67-94-a	18594	産目	ヒノキ77スナロ?	(36.50)	1.95	(53.8)
2078	同型品納入用材	d-67-93-b	18104	半割	モミ	30.60	3.00	35.0
2079	同型品納入用材片	d-67-83-b	18727	丸木	ヤナギ	(8.65)	1.60	(10.7)
2080	同型品納入用材片	d-67-84-d	18756	丸木	トネリコ	(6.10)	2.70	(18.8)
2081	同型品納入用材片	c-67-73-a	18673	丸木	コナラ	(12.25)	(3.75)	(3.80)

表VI-16 重機調査用製木製品 (13)

品目 番号	品名	製造地区	製造番号(大形) 区画	製造 区画	材質	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	積層 枚数	備考
2082	203 端部挿付丸木柱切頭品	d-67-43-a	16793	丸木	○	38.80 2.00	95.5 (470.6)	1	
2083	203 端部挿付角材片	d-67-73-c	16410	丸木	○	37.70 4.55	3.90 (157.2)	1	1枚材。
2084	203 端部挿入型付角材片	d-67-84-d	16185	丸木	○	(35.80) 3.50	3.45 (45.5)	1	
2085	204 端部有孔丸木柱材片	d-67-84-b	16249	丸木	○	(14.70) 2.15	2.15 (45.5)	1	
2086	204 端部有孔丸木柱材片	d-67-74-b	16557	丸木	○	66.00 5.00	4.50 (1660.0)	1	22点積合。木材。
2087	204 端部挿入型付有孔丸木柱材片	d-67-83-c	16563	丸木	○	(81.00) 6.80	6.40 (346.0)	1	1枚材。
2088	204 端部有孔丸木柱材片	d-67-74-a	16485	丸木	○	(25.50) 4.70	4.70 (466.1)	1	1枚材。漆付。
2089	204 河端部有孔丸木柱材片	d-67-83-c	16100	丸木	○	(21.00) 5.65	6.40 (1465.0)	1	1枚材。
2090	205 河端部有孔丸木柱材片	d-67-83-c	16105 16109	丸木	○	67.30 6.00	5.60 (708.0)	1	22点積合。木材。
2091	205 河端部有孔丸木柱材片	d-67-74-d	16414	板目	○	(49.40) 5.00	4.40 (20.0)	1	1枚材。
2092	205 有孔角材片	d-67-83-c	16237	板目	○	(6.35) 2.45	1.65 (412.5)	1	24点積合(首含む)取入孔1ヶ所。
2093	205 ホノ先付角材片	d-67-54-c	16786	丸木	○	(27.60) (5.75)	(4.80) (1075.0)	1	1枚材。
2094	205 ホノ先付有孔丸木柱材片	d-67-84-b	16283	丸木	○	(57.40) 5.95	6.00 (87.9)	1	66点中2点積合2点実用。木材。
2095	205 ホノ孔付角材片	d-67-64-b	16785	丸木	○	(9.02) 4.55	4.00 (152.5)	1	1枚材。
2096	206 有孔角材片	d-67-84-b	16271	半割	○	(30.00) 3.25	2.40 (325.5)	1	22点積合。
2097	206 角柱状製品	d-67-84-b	16294	半割	○	48.30 3.50	3.68 (292.2)	1	33点積合。
2098	206 丸柱状製品	c-67-40-b	16770	1/2割	○	19.20 5.65	5.00 (33.1)	1	1割付(備あり)。
2099	207 有孔角材片	d-67-94-a	16784	道板	○	(6.95) (5.50)	1.60 (44.2)	1	
2100	207 有孔角材片	c-67-40-a	16610	板目	○	(8.55) (6.15)	(2.10) (295.8)	1	
2101	207 有孔角材片	c-67-53-a	16192	道板	○	(20.25) (9.30)	2.45 (41.2)	1	
2102	207 有孔角材片	c-67-61-d	16028	板目	○	(18.20) 2.45	1.30 (291.4)	1	
2103	207 有孔角材片	c-67-40-a	16542	道板	○	(30.35) (9.90)	(1.95) (456.3)	1	44点積合。断存地埋後実用。計測値は断存地埋後の値。
2104	207 有孔角材片	d-67-74-b	16393	道板	○	18.95 20.40	2.20 (467.7)	1	44点積合。断存地埋後実用。計測値は断存地埋後の値。
2105	208 有孔角材片	d-67-73-b	16482	板目	○	(24.20) 24.30	2.80 (467.7)	1	

表VI-17 重機調査機軸木製品 (14)

機軸 番号	機軸 名称	機軸 区画	機軸 番号	機軸 位置	機軸 形状	機軸 寸法	機軸 重量	機軸 材料	機軸 用途	機軸 重量	機軸 寸法	機軸 重量	機軸 用途
2106	300 機軸材片	c-67-50-c	c-67-51-d	縦目	トウヒ	(52.40)	5.85	2.20	(300.8)	1	3.5点検査。		
2107	300 機軸材片	c-67-61-d	16561	縦目	コナラ	55.60	(13.50)	4.00	(130.0)	1			
2108	300 機軸材片	d-67-50-b	16166	縦目	カワラ	33.50	(21.60)	3.10	(1170.0)	1	3.5点検査。		
2109	300 機軸材片	c-67-05-a	16075	縦目	トネリコ	32.70	20.70	2.60	3003.0	1			
2110	300 機軸材片	d-67-35-a	16329	縦目	マツ	(16.60)	(8.10)	3.10	(322.8)	1	1211と同一機軸。刃物積多数あり。		
2111	300 機軸材片	d-67-35-a	d-67-35-b	縦目	マツ	(16.20)	(12.10)	3.00	(348.1)	1	22点検査。2110と同一機軸。刃物積多数あり。		
2112	300 機軸材片	c-67-05-a	16071	縦目	モクレン	(50.50)	5.30	2.10	(321.0)	1	22点検査。		
2113	300 機軸材片	d-67-94-a	16277	丸木	ハンノキ	(25.15)	(4.70)	2.70	(168.1)	1			
2114	300 機軸材片	d-67-95-c	16130	縦目	トネリコ	8.15	2.60	2.00	35.9	1			
2115	300 機軸材片	d-67-94-d	16187	縦目	ハコヤナギ	(71.50)	(12.60)	(3.40)	(660.0)	1	1616点検査。積付外周径未満。計測値は保存風量後の値。		
2116	300 機軸材片	d-67-35-a	16309	縦目	カエデ	43.75	12.40	7.40	2750.0	1	22点検査。注断丁ノ字状。		
2117	300 機軸材片	c-67-05-d	16760	丸木	コナラ	140.50	6.40	6.50	(3700.0)	1			
2118	300 機軸材片	c-67-05-d	16758	縦目	コナラ	(138.30)	8.60	5.80	(3150.0)	1	1注断丁ノ字状。		
2119	300 機軸材片	c-66-49-c	16620	縦目	柳	0.90	2.70	2.40	1.4	1	1機軸形式。		
2120	300 機軸材片	d-67-35-d	16682	縦目	柳	(1.00)	2.40	2.40	(3.4)	1	2機軸挿入式。丸形挿入。		
2121	300 機軸材片	c-67-50-b	16631	縦目	柳	1.80	4.90	2.00	2.6	1	1機軸挿入式。		
2122	300 機軸材片	d-67-64-c	16447	縦目	柳 (カバノキ)	4.90	3.70	3.50	14.6	1			
2123	300 機軸材片	c-67-50-c	16490	縦目	柳	(24.20)	5.20	1.90	(331.6)	1			
2124	300 機軸材片	d-67-74-d	16415	縦目	柳	(37.25)	6.90	3.00	(420.4)	1			
2125	301 機軸材片	d-67-33-c	16601	縦目		(45.60)	2.04	1.73	(---)	1	40本入り。2番目。機軸するための重量計測不能。		
2126	301 機軸材片	d-67-33-c	16599	縦目		(36.52)	2.29	1.90	(---)	1	30本入り。2番目。機軸するための重量計測不能。		
2127	301 機軸材片	c-67-51-d	16730	縦目		(28.80)	0.44	0.41	(---)	1	50本入り。3番目。機軸するための重量計測不能。		
2128	301 機軸材片	d-67-33-b	16731	縦目		(37.10)	0.59	0.41	(---)	1	18本入り。3番目。機軸するための重量計測不能。		
2129	301 機軸材片	d-67-33-c	16566	縦目		(6.90)	6.20	2.80	(---)	1	32074と共挿。注断丁ノ字状。計測値は機軸挿入時の重量計測不能。		

Ⅶ 第Ⅰ黒色土層の追加遺物

ここに掲載する遺物は、昨年度報告（北埋調報102）時点において、保存処理の樹脂含浸中または修復中のために掲載できなかったものである。第Ⅰ黒色土層中の遺構出土遺物および細分された各包含層の遺物をまとめて図示する。遺構名および層位名は、一覧表中の備考欄に記してある。

1 遺構の遺物

(1) 木製品・樹皮製品 (図Ⅶ-2、表Ⅶ-2、図版302-1・2)

建材集中1

2131は構築材である。桁または梁材と考えられる。やや屈曲する樹皮付き丸木材である。上端部には切断時の刃物痕が多数認められる。樹種はサクラ属である。

炭化物集中22

2132は断面の四角い両口箸である。樹種はヒノキ?またはアスナロ?属である。2133は上端部に抉りのある細い角材片である。樹種はヒノキ?属である。2134は長方形の断面となる串であろう。尖端部側が炭化している。樹種はスギ?属である。2135は中央部の溝に一對の円孔の穿たれた板材である。断面は低い蒲鋸形であり、孔は紐で縦っていた痕跡がある。2136は結束式の細帯状樹皮巻である。一本のサクラの樹皮を巻き込んで束ねたものを切断している。

2 包含層の遺物

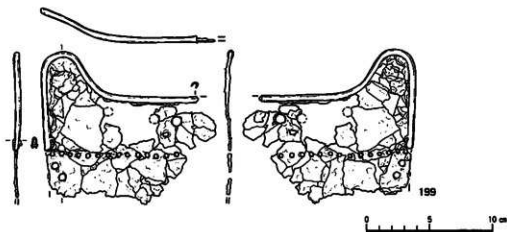
(1) 金属製品 (図Ⅶ-1、表Ⅶ-1、図版302-3)

調査区東端の舌状に張り出した低湿度斜面部のc-67-63-bのⅠB層から発見された。遺構などは確認されていない。

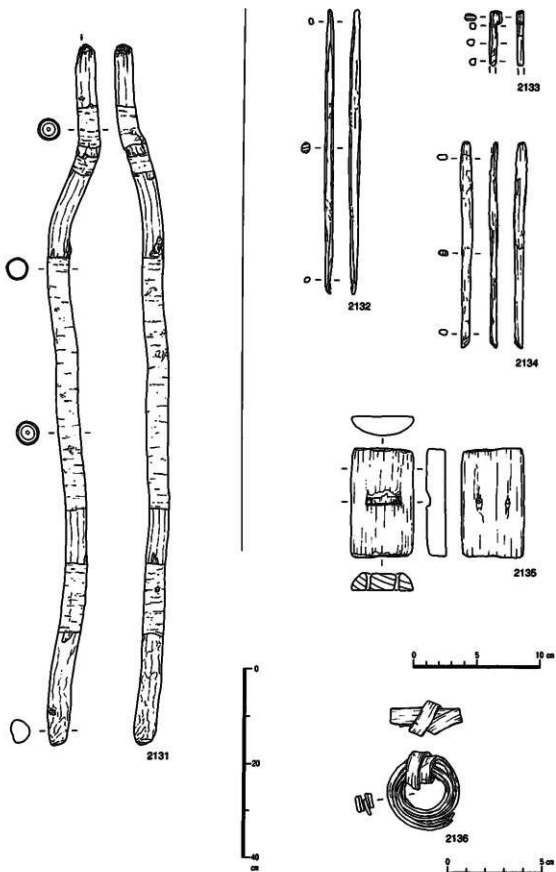
199は鍔の胸板の破片である。右側を半分以上欠損しているものと考えられる。形状は両脇の山が丸く高く、中央が低い凹み形のものである。上面観は緩く湾曲している。表面は鉄地に直接黒漆を塗ったものであり、一部は漆膜のみが残存している。漆塗りの鉄地の周縁を銅製の覆輪で挟み留めている。板の中央には小札綴付けの小孔が水平に連なり、その他に鍔や鉞を通す孔も見られる。下部を欠損しているが平造式の金具廻りであろう。形状から推定して鎌倉時代頃のものであろうか。

表Ⅶ-1 ⅠB層掲載金属製品

図版 番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	調査 時期	備考	保存 場所
199	胸板	鍔板	c-67-63-b	73		(12.10) (13.90) (0.50)	(61.6)	銅 鉄	1952	表面は黒色漆地。	RAD10



図Ⅶ-1 鍔



図Ⅶ-2 遺構の木製品

(2) 木製品・樹皮製品・繊維製品 (図Ⅶ-3~14、表Ⅶ-3~6、図版303~312)

舟部材 (2137~2146)

板艇舟舷側板片 (2137) : 2ヶ所の角孔には縛り留めた樹皮紐が残存している。

車權受上部 (2138・2139) : 2138は端部の挟り部破片である。炭化のために軸差込み孔の形態は不明である。2139は挟り部と軸差込み孔側を欠損している。丸軸差込式の破片である。

車權受上部軸 (2140~2143) : 2140・2141は丸軸差込式である。2141は下部を欠損している。2142は角軸差込式である。2143は頭部を欠損している。

舟用具 (2144~2146)

車權片 (2144) : 断面が凸レンズ状となる車權水掻部の破片である。

あか汲み片 (2145・2146) : 2145は右側板の破片である。2146は開口部の反り上がる底部の破片である。内面には粗い手斧による加工が顕著である。

漁撈具 (2144~2146)

回転式離頭籠中柄部 (2147・2148) : 2147は1本式中柄部であり、先端部と階段状の挟りの付く基部の末端を欠損している。2148は2本組式中柄部であり、基部が切断されている。

魚突鉤銜台部 (2149~2151) : 2149は表面のやや摩耗した小型のものである。先端部は凸形で摩耗しており、鉄鈎溝の直下に挟入部がある。2150は鉄鈎溝から先端を欠損している。溝の下部には箍状の高まりと挟入部が作出され、裏面には柄(棒)に装着するための平坦が作出されている。2151は未製品である。木の髄部分を鉄鈎溝として加工する過程で破損したものであろう。

狩猟具 (2152~2154)

矢中柄部 (2152) : 先端部には鐵の装着痕が認められ、裏面には骨角製のものと同様に、木髄部分が溝状に凹んでいる。基部は装着時の摩耗が認められる。

矢片 (2153) : 先端部は表裏から削られ山形となり、基部の削りは明瞭であるが欠損している。

矢管片 (2154) : 大型で太い矢柄の管部破片であり、断面が楕円形となる。管の凹みは浅い。

切裁具 (2155)

山刀鞘帯軌部片 (2155) : 鞘に固定される帯に引掛ける鈎状部分の一端である。

農耕具・採集具、工具 (2156~2160)

土掘棒片 (2156) : 楕円形の割材の一端を篋状に削りだしており、先端部を欠損している。

鉄斧柄 (2157) : 小型の袋式鉄斧や鉞を挿入する膝柄で、挿入部は細く角形に削られている。

横槌 (2158・2159) : 2158は敲打部と柄が細くて長く、柄部が不明瞭なGタイプである。魚叩棒の可能性もある。2159は柄部を欠損したEタイプである。先端は凸形に丸く、整件とも考えられる。

整件片 (2160) : 両端部を欠損したものであり、握部を一段細く削り出している。

発火具 (2161~2165)

ヒキり板片 (2161・2162) : 2161は厚い板材にウスが1ヶ所認められ、「V」字刻みから割れている。ヒノキ? 属である。2162は柾目の薄板に貫通したウスが1ヶ所認められる。スギ属である。

ヒキり棒 (2163~2165) : 2163は細角材を素材としたもので、上部はソケットに嵌め込むために細く削り出されている。2164の先端は凸形であり、2165は太く、先端は緩い凸形である。

炉鈎 (2166・2167) : 2166は股木部分を鈎としたもので、上部がために加工されている。用具のフックの可能性もある。2167は板材を加工したもので、上部を欠損する。下部や表面が炭化している。

容器類 (2168~2177)

樽 (2168・2169) : 2168は焼印のある樽蓋を角形に加工したものである。2169は樽栓である。

曲げ物 (2170～2172・2177) : 2170は把手片である。2171は楕円形となる底板片である。2172は2枚を細いサクラ樹皮で縫いあわせた側板破片である。2177は両端に切断痕のある側板片である。

箱物 (2173～2176) : いずれも側板であり、底板や隣合う側板を固定した木釘及び木釘孔が認められる。2175は両端部を斜めに切り込んで組んだものである。

食用具 (2178～2182)

箸状製品 (2178～2180) : 2180・2179は両口箸である。2180は先端部が欠損した片口箸である。

串状製品 (2181・2182) : 髄のある木を割り裂いた串である。2182は未製品であろう。

歩行具 (2183～2185)

カンジキ (2183～2185) : 短輪型の瓢箪形カンジキの内面に差し込まれる横軸である。両先端を細く削り出している。2185の断面は幅広であり、先端部の加工も太い。

紡織器具 (2186～2187・2208)

2186は細丸木材の一面に刻目列が刻まれている。両端部を欠損している。2187は編物糸受木(ケタ)片である。細板材の両側縁に2個一組の異なる傾きの刻目がほぼ等間隔に連続しており、刻目には編物の経糸の糸ずれが認められる。2208は板状の小型コモ槌であり、両側縁に挟りがある。

祭祀・儀礼具 (2188)

捧酒箸 (2188) : 上下にイト、バの刻みと罫引線があり、下先端が薄く削り出されている。

木幣 (2194) : ヤナギ属の丸木材に頭部を残すように、下から削って削りかけを作成している。

各種加工材 (2189～2193)

捧酒箸状製品 (2189～2191) : 断面はいずれも扁平な凸レンズ状であり、形態が捧酒箸に似る細板材である。2190の上端部にはイト、バが認められる。2191には刃物による斜めの極細い線が並ぶ。

丸木材 (2192・2193) : 短刻とイト、バが刻まれた材である。2193の下端部は切断されている。

各種用具の部品や素材 (2195～2214・2218・2219)

楔状製品 (2195～2202) : 上端が幅広で裏面は平坦に加工されており、先端が凸形となっている。

軸状製品 (2203～2207) : 先端部に向かって細く削っている。2203にはイト、バが刻まれている。

多段挟付丸木材片 (2209) : 丸木材の側縁に滑り止め状の幅広の挟りが連続している。

端部有孔挟付丸木材片 (2210) : 上端が斜めに切り出され、挟り部に縄の残存する角孔がある。

有孔楕円材片 (2211) : 楕円形の厚材に大きめの角孔が斜めに穿たれている。

有孔板材片 (2212) : 斜めに切り落された板材に角孔が穿たれている。

有孔丸木材 (2213・2214) : 2213には角孔が貫通し、上端の角孔と下端部が切断されている。2214の上端部には平坦部が作出され、角孔が穿たれている。

割材切断品 (2218) : 平坦面は作業台のような刃物痕が多数認められる。

丸木材木端 (2219) : 丸木材の上下を粗く切断したものである。

杭・建材等 (2215～2217)

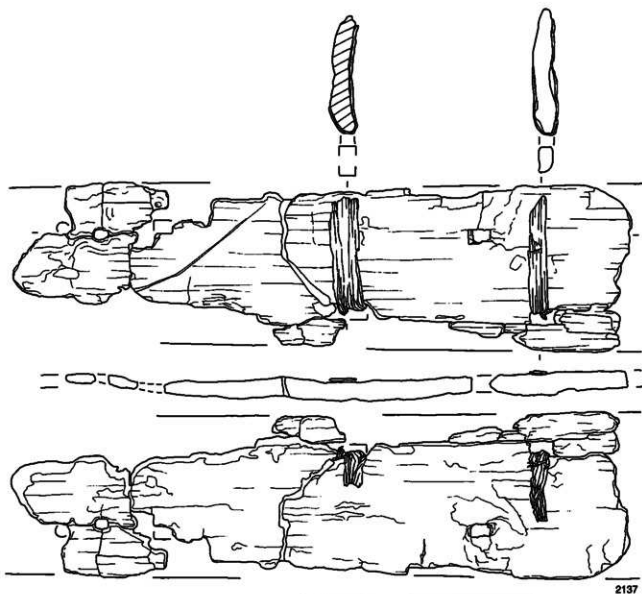
刺し杭 (2215) : 枝分れ部分を刺し杭柄のように加工し、細く加工した下端部を欠損している。

両端杭状丸木材 (2216) : 面取り加工した丸木材の両先端部のみを杭状に切り出している。

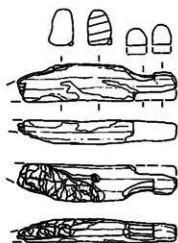
桁・梁材切断品 (2217) : 樹皮付き上端には切断痕が多数あり、下端は斜めに切り出されている。

樹皮製品 (2220～2222)

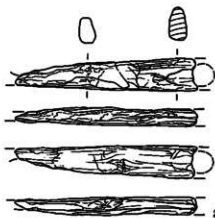
2220は幅広のシラカバの樹皮を両側から巻き込んだ筒状樹皮巻である。2221・2222は細帯状樹皮巻である。2221は釘打込式のものである。2222は結束式である。(田口 尚)



2137



2138

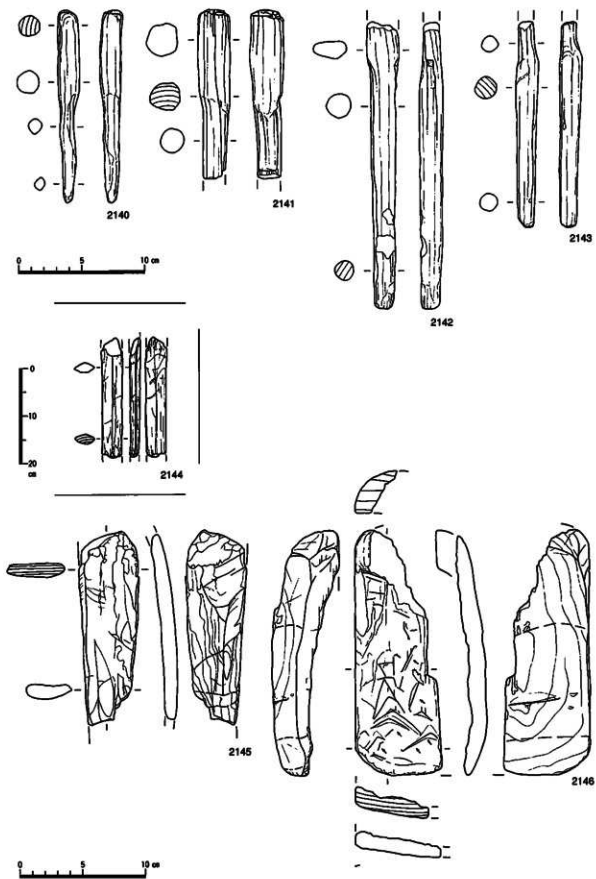


2139

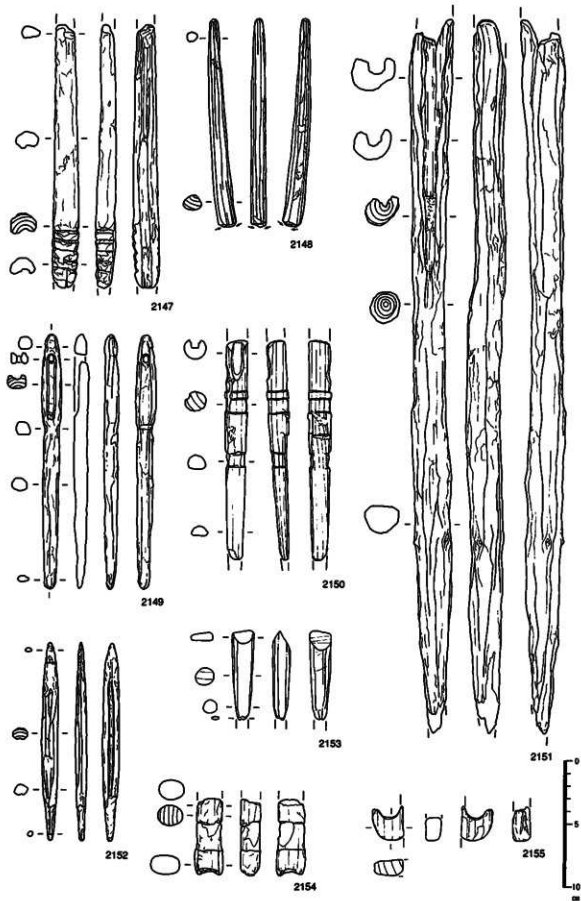


図VII-3 舟部材 1

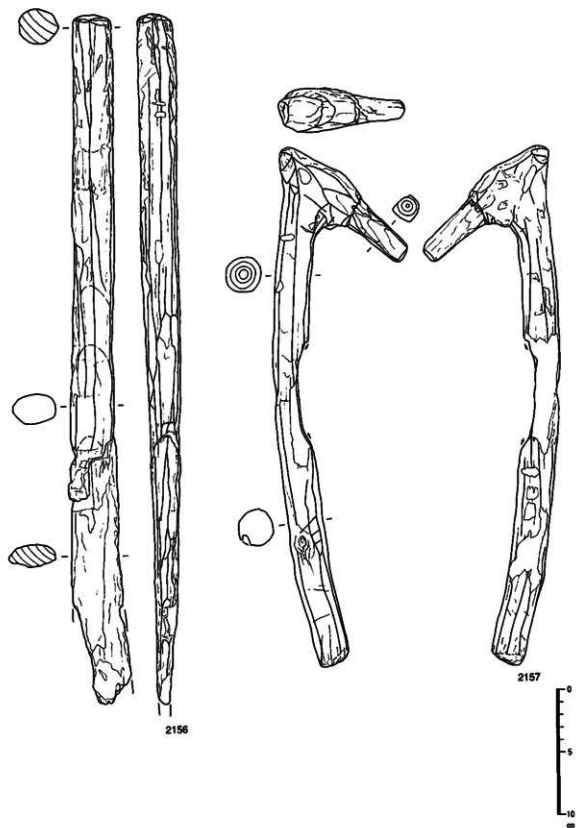
Ⅶ 第Ⅰ黑色土層の追加遺物



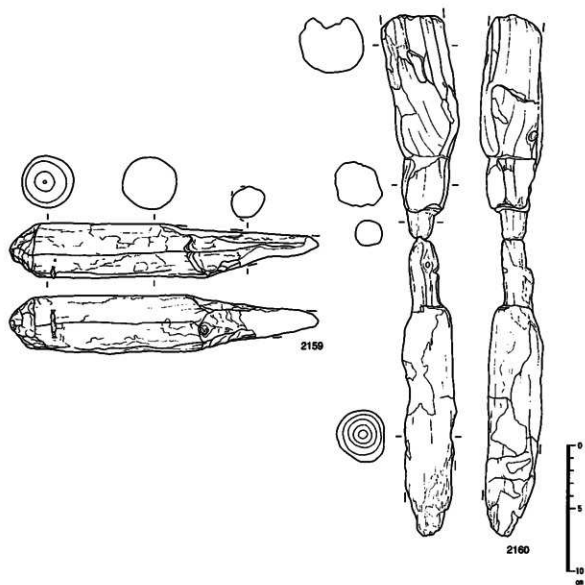
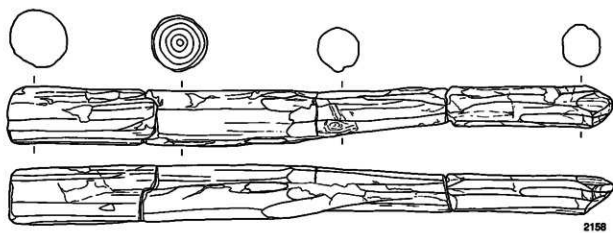
图Ⅶ-4 舟部材 2



圖VII-5 狩獵具・漁撈具・切截具

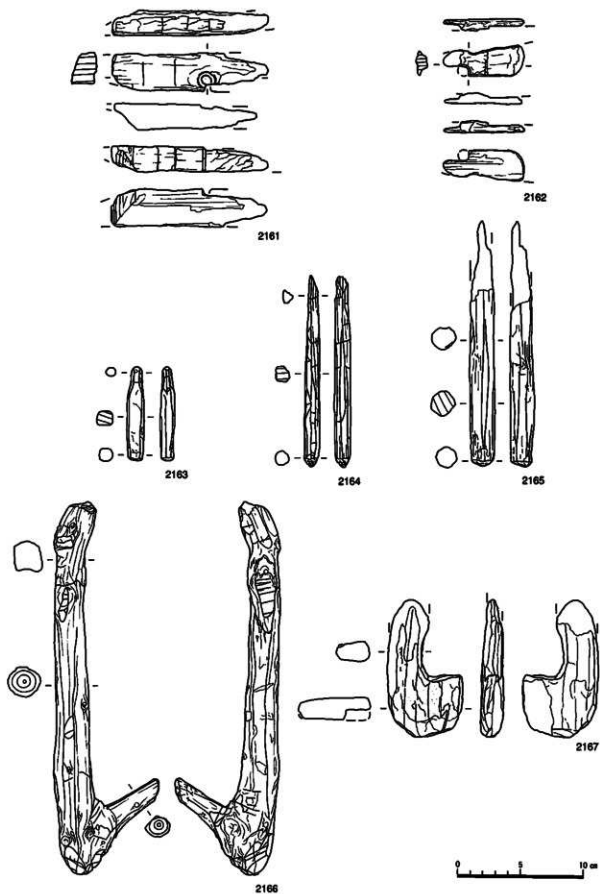


图Ⅶ-6 採集具・工具(土掘棒・鉄斧柄)

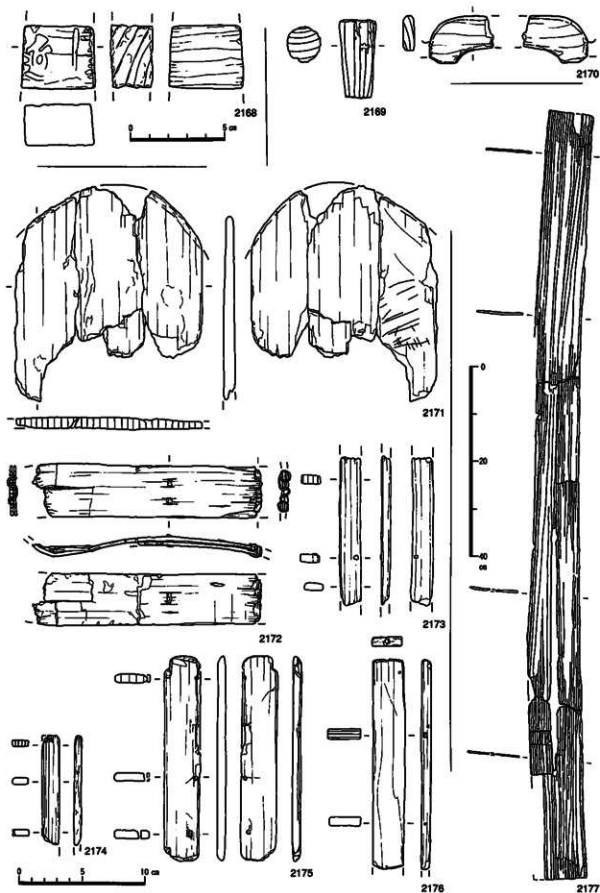


図VII-7 農耕・工具（横碇・竖杵）

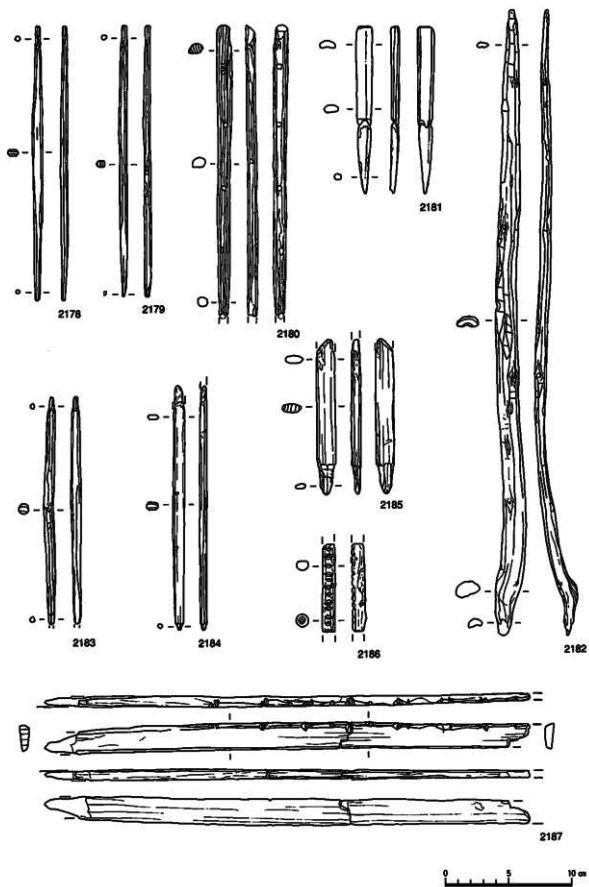
Ⅶ 第Ⅰ黑色土層の追加遺物



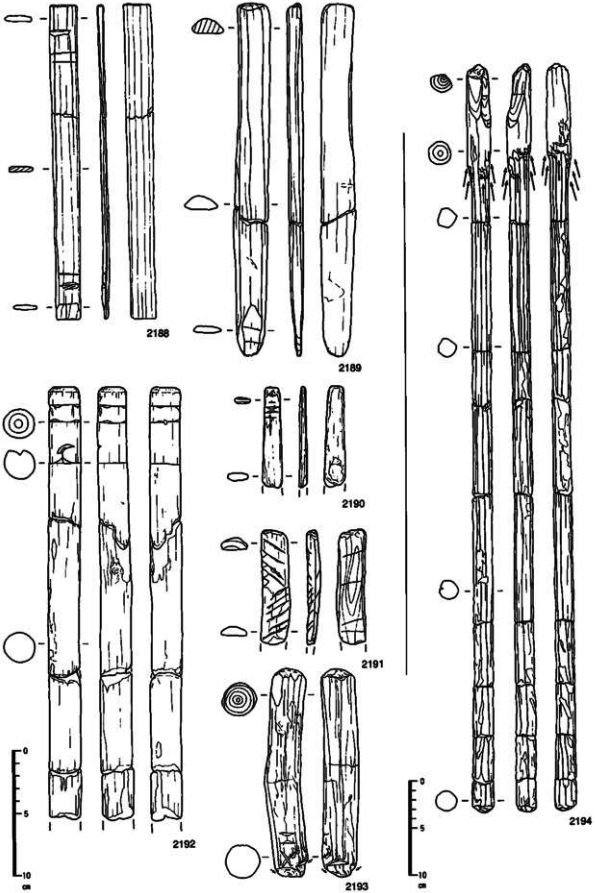
図Ⅶ-8 発火具・炉鈎



図VII-9 容器類(桶・樽・曲げ物・箱物)

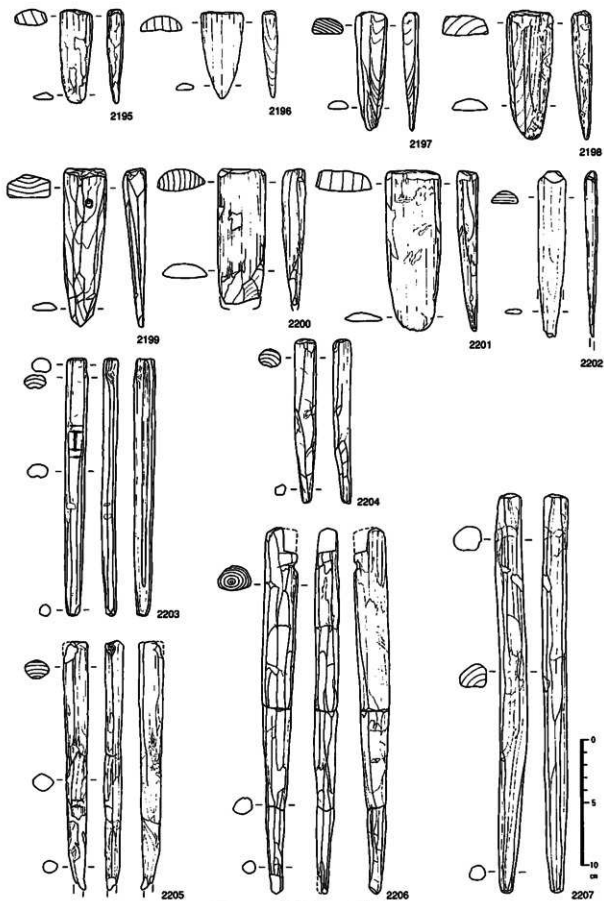


図Ⅶ-10 食用具・歩行具・紡織器具

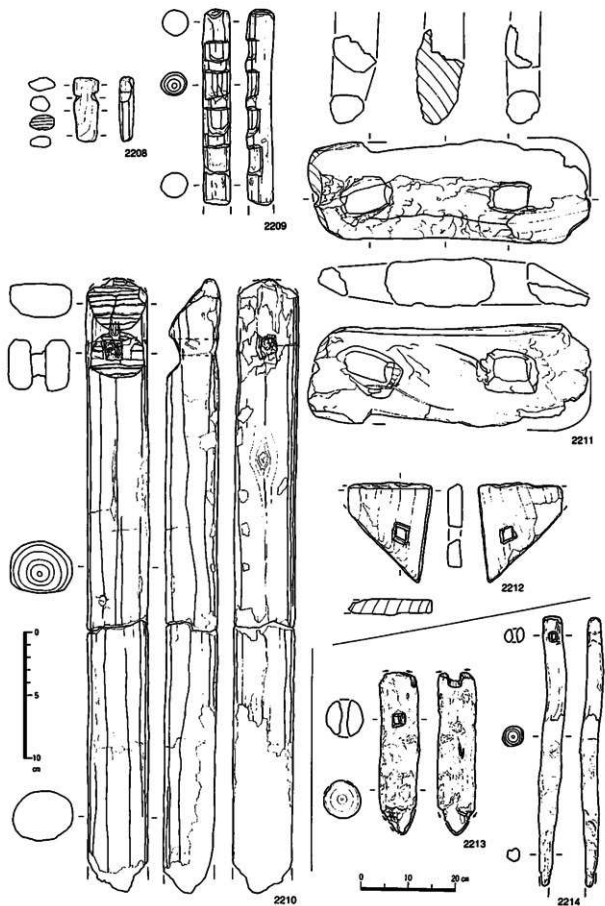


図VII-11 祭祀・儀礼具

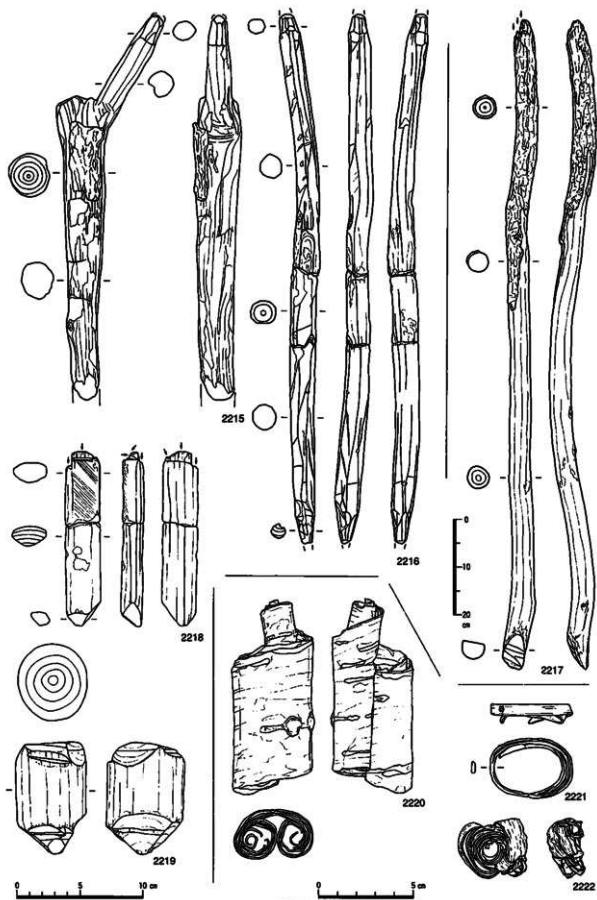
Ⅶ 第Ⅰ黒色土層の追加遺物



図Ⅶ-12 楔状製品・軸状製品



図VII-13 扶付・有孔製品



圖Ⅶ-14 杖状製品・樹皮製品

表1-2 I B層揚遺構の木製品

国 庫 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	材質	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
2131	釘・材料	c-67-91-a	8276	丸木	○	145.80 4.95 5.00	2370.0	1 跡付集中。IB-1。
2132	開口管	c-66-19-d	15119	板目		22.60 0.70 0.80	7.4	1 炭化物痕中2。IB-1。
2133	埋戻土付埋戻材付 [5.6×1.7×3.8-a+b] [5.6×1.7×2.7-c]		15567	板目		(3.80) 0.90 0.50	(0.6)	1 自然炭化。埋戻材は炭素線の高炭化物痕中2。IB-1。
2134	302 平舟甲	c-66-19-d	15114	板目	○スギ?	16.40 1.00 0.70	5.4	1 炭化物痕中2。IB-1。
2135	302 有孔板舟	c-66-19-d	15173	板目	スギ?	8.60 5.00 1.30	54.9	1 溝付孔を有。炭化物痕中2。IB-1。
2136	302 埋戻土付埋戻材	c-66-19-d	15508	板目	○	4.20 3.80 1.80	6.5	1 埋戻土。炭化物痕中2。IB-1。

表1-3 I B層揚遺構の木製品 (1)

国 庫 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	材質	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
2137	埋戻土付埋戻材	c-66-09-b	c-66-09-c	6276	板目	○	キハダ	1 埋戻土付埋戻材。埋戻土は炭素線2点含む。埋戻材付。炭化物痕中2。埋戻土は炭化物痕中2。IB-1。
2138	埋戻土付埋戻材	c-66-18-c	c-66-28-b	15178	板目	○	サクラ	1 ベルト出土。IB-1。
2139	302 平舟穴付埋戻材	d-57-32-b	9133	板目		28.30 (3.20)	2.85 (244.5)	1 丸軸形式。IB-1。
2140	302 平舟穴付埋戻材	c-66-09-c	15503	板目		15.20 1.75 1.85	26.0	1 丸軸形式。IB-3。
2141	302 平舟穴付埋戻材	c-66-09-b	15502	板目		(13.40) 2.55 2.70	(57.0)	1 丸軸形式。IB-3。
2142	302 平舟穴付埋戻材	c-66-09-a	15504	板目		(22.70) 2.55 1.80	(63.0)	1 丸軸形式。IB-3下層。
2143	302 平舟穴付埋戻材	c-66-09-b	15501	板目		(16.20) 1.80 1.80	(32.0)	1 IB-3。
2144	302 平舟穴付埋戻材	c-66-19-c	7306	板目		(25.10) 4.45 2.25	(130.4)	1 IB-1。
2145	302 平舟穴付埋戻材	d-57-32-b	9149	板目		(15.35) (4.80)	(2.05) (47.9)	1 IB-1。
2146	302 平舟穴付埋戻材	c-66-09-c	15523	板目		(19.30) (6.90)	(5.40) (136.2)	1 IB-1。
2147	304 同軸式埋戻土付埋戻材	c-67-52-d	15536	平舟		(20.90) 2.10 1.60	(36.4)	1 1本式。埋戻土付埋戻材。IB-1。
2148	304 同軸式埋戻土付埋戻材	d-57-31-d	8699	1/4埋		16.50 1.50 1.20	18.1	1 1本式。IB-1。
2149	304 魚兜跡付埋戻材	c-67-40-c	15213	板目		20.20 1.55 1.10	18.1	1 IB-1。
2150	304 魚兜跡付埋戻材	c-66-09-d	15163	板目		(17.15) 1.80 1.70	(26.0)	1 IB-1。
2151	304 魚兜跡付埋戻材	c-66-38-a	14649	丸木		(36.50) 3.50 3.05	(278.0)	1 IB-1。
2152	304 同軸式埋戻土付埋戻材	d-57-52-d	15228	平舟		15.65 1.30 0.90	16.2	1 IB-1。

表Ⅶ-4 I B層揚盛木製品(2)

遺物番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木目	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	形状	備考	
2153	304 尖片	d-67-92-d	15312	楡目	タウ	(7.00) 1.70	(10.0)	1	1 凸頭? IB-	
2154	304 尖片	c-66-09-b	15565	楡目	ハンノキ	(6.03) 2.30	(13.6)	1	2 凸頭心木部, IB-1,	
2155	304 山ノ頂部輪削片	c-66-18-d	15175	楡目	カエデ	(2.70) (2.50)	(5.0)	1	1 IB-1,	
2156	305 七瀬削片	c-67-00-b	9077	楡目	カハノキ	(54.70) (4.60)	(385.0)	1	2 凸頭心, IB-1,	
2157	305 旗形削片	c-66-09-b c-66-09-d	4391	楡木	ハシドイ	41.10 10.70	3.50	288.0	1	1 狭長平帯, IB-1,
2158	306 楡削片	d-67-81-c d-67-82-d	10101	丸木	ギニズル1	48.20 2.65	4.70	563.3	1	4 凸頭心, Gタイプ, ユアラフ可動削? IB-1,
2159	306 楡削片	c-66-18-a	14672	丸木	トネリコ	(24.70) 4.25	4.70	(247.1)	1	1 Eタイプ窄帯? IB-1,
2160	306 楡削片	d-67-92-b	15507	丸木	ギニズル1	(41.40) 6.10	4.90	(422.0)	1	2 凸頭心, IB-1,
2161	306 ヒネリ削片	d-66-99-d	15533	楡目	ヒノキ?	(12.40) 3.05	2.10	(43.2)	1	1 ウス1心部, IB-1,
2162	306 ヒネリ削片	c-66-27-b	15556	楡目	スギ	(6.49) (2.50)	(0.85)	(5.6)	1	1 ウス2心部, IB-1,
2163	306 ヒネリ帯	c-66-08-c	15531	楡目	ヒノキ?	7.35 1.30	1.10	7.6	1	1 ヲケット式, IB-1,
2164	306 ヒネリ帯	c-66-09-a	4297	楡目	スギ	15.20 1.20	1.30	15.7	1	1 IB-1,
2165	306 ヒネリ削片	c-66-28-a	15564	楡目	スギ?	(19.50) 2.00	1.90	(36.0)	1	2 凸頭心, IB-2,
2166	307 中柄	d-66-99-d	5407	楡木	タリ	29.70 8.40	3.80	177.8	1	2 凸頭心, IB-2,
2167	307 中柄片	c-67-51-b	13693	楡目	ハリギリ	(10.83) 6.10	1.85	(22.1)	1	1 保存処理家火焼, 計測時は保存処理前の重, IB-1,
2168	307 樽蓋取断面片	c-67-01-a	15530	楡目	スギ	(3.90) 3.30	2.20	(26.0)	1	1 楡目付, IB-1,
2169	307 樽栓	c-66-38-d	15169	楡目	スギ	6.05 2.90	2.95	32.0	1	1 IB-1,
2170	307 削片輪削片	c-67-51-a	15590	楡目	カエデ	(5.20) (3.70)	0.90	(10.7)	1	1 IB-1,
2171	307 削片輪削片	c-66-09-a	7535	楡目	ヒノキ?	(16.95) (15.00)	0.90	(118.5)	1	5 凸頭心, IB-2,
2172	307 削片輪削片	c-67-30-c	15210	楡目	スギ	(18.30) 4.10	1.00	(29.6)	1	5 凸頭心(榎皮芯含む), 榎皮覆りあり, IB-1,
2173	307 削片輪削片	d-67-91-b	15510	楡目	スギ?	(11.80) 1.70	0.80	(12.0)	1	1 木釘孔心部, IB-1,
2174	307 削片輪削片	c-67-10-c	7066	楡目	スギ	(8.70) 1.40	0.50	(6.0)	1	1 木釘孔心部の内, 木釘孔心部, IB-1,
2175	307 削片輪削片	c-67-41-c	13948	楡目	スギ?	16.20 2.90	0.65	(27.3)	1	1 木釘孔心部, IB-1,
2176	307 削片輪削片	c-66-38-c	13455	楡目	ヒノキ?	(16.60) 2.60	0.80	(30.6)	1	1 木釘孔心部の内, 木釘孔心部, IB-1,

表Ⅶ-5 I 日開得製木製品(3)

国 番号	道物名称	製法	製法 番号	水張り	製法 番号	製法 番号	製法 番号	長さ×高さ×厚さ(mm)		重量(g)	製 材	備考	
								長さ	高さ				
2177	曲げ用板片	d-67-81-b	d-67-81-c	10496	板目			164.40 (10.95)	0.40	(206.0)	1	57°12分21秒傾斜、保存処理後、計測時は保存処理後の状態、IB-1。	
2178	300 片口葺	d-67-82-c		15225	板目			21.65	0.80	5.3	1	IB-1。	
2179	300 片口葺	c-66-18-c	c-66-28-b	15497	板目			21.50	0.65	0.50	4.6	1	IB-1。
2180	300 片口葺	d-67-82-c		7821	逆葺			(23.10)	1.15	0.80	(12.3)	1	本釘孔は、葺の内外、本釘入り、高、調整用物部を再行、IB-1。
2181	300 葺	d-67-91-b		15235	1/4葺			13.00	1.30	0.70	7.0	1	2点検合、IB-3。
2182	300 中束製品	d-67-92-a		8822	平葺			49.80	2.50	3.30	44.9	1	IB-1。
2183	300 カンジキ輪片	c-66-28-b		14420	板目			(18.10)	0.90	0.90	(7.3)	1	IB-1。
2184	300 カンジキ輪片	c-66-18-c	c-66-28-b	14770	1/4葺			(19.50)	0.90	0.60	(7.0)	1	1ベト出上、IB-1。
2185	300 カンジキ輪片?	c-66-18-b		6718	板目			(12.20)	1.50	0.80	(9.0)	1	IB-1。
2186	300 丸木材片	c-66-09-b		15357	丸木	○		(6.90)	1.00	1.20	(5.2)	1	調整用目付付、IB-1。
2187	300 編物系丸木片	c-66-09-b		6226	板目			(38.60)	2.05	0.80	(45.8)	1	2点検合、調整用目付付、各ずれあり、IB-2。
2188	300 編物葺	d-67-91-a		8124	板目			25.05	2.20	0.60	19.1	1	2点検合、イトクハ付、IB-1。
2189	300 編物葺製品	d-67-92-c		15543	逆葺			28.00	2.80	1.30	56.6	1	2点検合、IB。
2190	300 編物葺片	c-66-18-c		15332	板目			(7.95)	1.60	0.60	(5.1)	1	1ベト出上、イトクハ付、IB-1。
2191	300 編物葺製品片	c-66-18-c		15358	板目			(9.00)	2.35	1.10	(14.1)	1	調整付、IB-1。
2192	300 丸木材片	c-67-61-a		15335	丸木			(34.50)	2.50	2.50	(157.2)	1	4点検合と点検合、イトクハ付、IB-1。
2193	300 丸木材調整品	c-67-41-a		11383	丸木			16.75	2.80	2.75	90.5	1	イトクハ付、IB-1。
2194	300 木帯	c-67-02-b		7645	丸木			78.20	2.50	2.50	246.1	1	9点検合、葺りかけの調整あり、IB-1。
2195	310 板状製品	c-66-91-c		15489	逆葺			7.30	2.50	1.25	12.8	1	IB-1。
2196	310 板状製品	d-66-99-d		15106	板目			6.80	10.35	1.15	13.0	1	IB-1。
2197	310 板状製品	c-67-61-a		11711	逆葺			9.30	2.50	1.20	15.2	1	IB-1。
2198	310 板状製品	d-67-91-c		15171	逆葺			10.10	3.65	1.50	32.7	1	IB-1。
2199	310 板状製品	d-67-92-a		15227	板目			12.40	3.40	1.80	41.2	1	IB-1。
2200	310 板状製品片	c-66-18-c		7734	板目			(10.65)	3.85	1.85	(43.6)	1	IB-2。

表Ⅶ-6 I B層揚戴木製品(4)

品目 番号	遺物番号	製法	材質	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	器形	備考
2201 310	15498	旋削	スギ?	12.60 4.40 1.55	53.5	1	IB-1a
2202 310	15016	旋削	サツ	(13.10) 2.20 1.00	(14.0)	1	IB-1a
2203 310	4574	平削	アジキ	20.45 1.70 1.15	29.8	1	イトナツ情, IB-1a
2204 310	15315	平削	アジキ	13.05 1.73 1.40	21.1	1	IB-1a
2205 310	9417	ノコ	イチイ	(20.10) 1.90 1.40	(29.9)	1	イトナツ情, IB-1a
2206 310	10392	丸太	ニギキ?	29.20 1.60 1.95	(70.9)	1	3点接合, IB-2a
2207 310	10803	ノコ	アジキ	32.90 2.20 1.95	90.7	1	IB-1a
2208 311	15599	旋削	トウモロコシ	5.10 2.00 1.20	9.0	1	IB-1a
2209 311	15541	丸太	トネリコ	(15.55) 2.10 2.10	(49.2)	1	IB-2a
2210 311	7649	丸太	ヤナギ	(48.90) 4.80 4.10	(736.0)	1	3点接合(傾斜心), 浮材, 舟人, IB-1a
2211 311	15167	道鉋	カブツ	22.40 (7.70) (3.90)	(291.9)	1	舟部材? IB-1a
2212 311	15590	旋削	シナノキ	7.85 (6.70) 1.20	(34.8)	1	IB-1a
2213 311	7381	丸太	ヤナギ	(33.70) 9.30 8.10	(1024.0)	1	浮材, IB-2a
2214 311	14074	丸太	ハンノキ	(56.50) 4.80 3.80	(560.0)	1	IB-1a
2215 312	12817	丸太	カエデ	(30.40) (8.50) 3.75	(191.5)	1	IB-1a
2216 312	15552	丸太	ヤナギ	(40.20) 2.10 2.00	(194.6)	1	3点接合, IB-1a
2217 312	11658	丸太	カエデ	135.50 5.50 5.10	2200.0	1	IB-1a
2218 312	15505	板	ナナカマヤ?	13.70 2.80 1.80	44.0	1	2点接合, 舟部材多数あり, IB-2a
2219 312	15076	丸太	ハンノキ	8.85 5.65 6.10	199.0	1	IB-2a
2220 312	15192	板	板	10.20 4.40 2.60	36.4	1	IB-1a
2221 312	15544	板	板	3.10 4.30 1.00	2.0	1	釘込式, IB-1a
2222 312	15161	板	板	3.60 3.15 2.00	7.1	1	傾斜式, IB-1a

VIII 自然科学的分析（各種分析・同定結果）

1 木製品の樹種同定

(1) はじめに

今回の樹種の識別結果は、平成4年度に実施された美々8 遺跡低湿度部の発掘調査のうち、昨年度報告の手掘り調査区出土のIB以下の木製品と合せて、表土層、0B層、クラムシェル調査区出土木製品および昨年度に報告できなかったIB以下の木製品についてである。樹皮製品や繊維製品、自然木や流木等についての同定は行わなかった。

(2) 試料および識別の方法

1) 試料

樹種同定時の出上材は、水漬で保管されていた生木、PEG含浸法処理材およびMannitol・PEG-真空凍結乾燥法(M.P.F.D法)処理材があり、組織観察のために各々について若干異なった処理を行った。しかし、基本的な試料作製法は同じであり、以下のとおりである。すなわち、加工された部分、腐れなどによる劣化の進んだ部分、節など組織の乱れのある部分、髄に近い部分ではできるだけ避け、木口面・板目面・柾目面を有するブロックを採取し、特に加工度の高い製品においては各面の切片を採取して、3面を1セットとして試料を作製した。

①光学顕微鏡試料

水漬の生木: 試料から直接切片を採取する場合には直接両刃カミソリで各面から、一年輪以上が含まれる5mm×5mm、厚さ10~20ミクロンの切片を取った。建材や杭などでブロック採取の可能な場合は、各面が得られる5mm角のブロックを取り、それらから3断面の切片を取った。

PEG含浸法処理材: 片刃カミソリで各面が得られる5mm角のブロックを取り、PEGを除去するために水に浸し、さらに約15分程煮沸したのち水洗をした。それらのブロックから両刃カミソリで5mm×5mm、厚さ10~20ミクロンの3断面の切片を取った。

Mannitol・PEG-真空凍結乾燥法処理材: ブロック採取はほとんど困難であるため、各面の取りたい箇所を100%のエタノールで軽く拭き、表面のPEGとMannitolを除去または内部にしみ込ませてから、直接両刃カミソリで5mm×5mmの切片を取った。充填剤を除去すると非常に脆く、切片採取の際に粉砕することもあり採取方法については今後の課題である。

なお、各々の方法で採取した切片はスライドグラス上で、無染色のまま観察した。写真撮影などで一時的なプレパラートを必要とする場合はガムクロラールで封入した。

②走査電子顕微鏡試料

水漬の生木: 片刃カミソリで5mm角のブロックを採取し、流水で水洗した。次にブロックから各面が得られるように両刃カミソリで整形した後、アルコールシリーズで脱水し、室内で約24時間程放置して乾燥させた。

PEG含浸法処理材: 光学顕微鏡試料の作製と同様に片刃カミソリで5mm角のブロックを採取し、PEGの除去を行った。次に3断面の観察が可能ないように両刃カミソリで整形した後、アルコールシリーズで脱水し、室内で約24時間程放置して乾燥させた。

なお、各々の乾燥させた小ブロックを試料台に導電性接着剤(ドータイト)で固定し、イオンスパッタリング装置(JFC-1000)で金をコーティング(1.2kv、8mA、5分2回)して観察した。

2) 識別方法

試料の3断面を光学顕微鏡で観察し、識別を行ったが、光学顕微鏡レベルでは明確に出来なかった点については、さらに走査電子顕微鏡で観察を行った。

①光学顕微鏡による樹種識別上の主な観察項目

針葉樹材: 年輪構造(早材部から晩材部への移行の状態、晩材部の幅)、樹脂道(垂直・水平樹脂道の有無、エビセリウム細胞の壁厚)、仮道管(有縁壁孔の配列、らせん肥厚の有無)、樹脂細胞(有無、分布)、分野壁孔(型と数)、放射組織(放射仮道管の有無、放射柔細胞の末端壁の状態、細胞幅と細胞高)

広葉樹材: 道管(木口面における配列の形式、らせん肥厚の有無、せん孔の形状、道管相互孔の形状と配列、チロースの有無)、仮道管(有無)、軸方向柔細胞(配列の型)、放射組織(同性・異性、細胞幅と細胞高、分布)

②走査電子顕微鏡による樹種識別上の主な観察項目

針葉樹材: 仮道管のいぼ状突起、有縁壁孔の壁孔壁、分野壁孔など。

広葉樹材: 道管のらせん肥厚、せん孔の形状、ベスチャード壁孔など。

(3) 識別結果と考察

平成4年度出土木製品3,360点(前報告の960点を含む)について樹種の識別を行い、34科55属を同定した。樹種構成は針葉樹4科9属、広葉樹30科46属であり、そのうち12属については種までの同定を行った。それらの同定の根拠となった組織構造的な特徴を以下に記す。なお、広葉樹の放射組織の同性と異性の区別については、平伏細胞のみからなるものを同性、それ以外のものを異性とした。しかし、オニグルミのように大部分が平伏細胞からなり、方形細胞が時々混じるような場合には、同性に区別した。また、可能性は高いが断定するには至らなかったものには、属名の後に?を記した。

01 イチイ *Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc. (イチイ属 *Taxus*) (いちい科 TAXACEAE)

仮道管と放射柔細胞からなり、分野壁孔はヒノキ型である。仮道管の内壁には、はっきりとしたらせん肥厚が存在する。

顕微鏡写真No.1

02 モミ属 *Abies* (まつ科 PINACEAE)

仮道管と放射柔細胞からなり、分野壁孔は典型的なスギ型である。放射柔細胞の壁は厚く数珠状末端壁を有する。

トドマツと推定される。

顕微鏡写真No.2

03 カラマツ属? *Larix* (まつ科 PINACEAE)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞からなり、樹脂細胞はない。分野壁孔はスギ型、ヒノキ型およびトウヒ型のすべてが認められ、放射仮道管は小型の有縁壁孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。垂直樹脂道は晩材部に多い。早晩材の移行が急であることからカラマツ属としたが、トウヒ属の可能性も否定できない。

顕微鏡写真No.3

04 トウヒ属 *Picea* (まつ科 PINACEAE)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞からなる。分野壁孔はトウヒ型である。らせん肥厚は存在しない。木口面で早晩材の移行が比較的ゆるやかであることからトウヒ属としたが、分野壁孔の形状が典型的なトウヒ型ではないものも認められ、カラマツ属の可能性も否定できない。

エゾマツ やアカエゾマツが推定される。

顕微鏡写真No.4

05 マツ属 *Pinus* (まつ科 PINACEAE)

(二葉松類)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞からなる。分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁は、内腔に向かって鋸歯状の突起が見られることから、本属のなかでも二葉松類と考えられる。

北海道には自生していなかったと考えられるが、アカマツ、もしくはクロマツが推定される。

顕微鏡写真No.5

(五葉松類)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞からなる。分野壁孔は窓状である。放射仮道管はなめらかな内壁で小型の有縁壁孔をもつことから、本属のなかでも五葉松類と考えられる。

ヒメコマツ (ゴウマツ)、ハイマツ、キタゴヨウなどが推定される。

顕微鏡写真No.6

06 スギ *Cryptomeria japonica* D.Don (スギ属 *Cryptomeria*) (すぎ科 TAXODIACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。樹脂細胞は早・晩材部の移行部から晩材部にかけて散在する。年輪界は明瞭で、早材部から晩材部への移行はやや急である。晩材部の幅は比較的広い。放射組織は単列のみで一般に10細胞高以下である。分野壁孔はスギ型である。仮道管の内壁の表面にはイボ状突起の存在が走査電子顕微鏡により確認できる。

顕微鏡写真No.7

07 ネズコ属? *Thuja* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。樹脂細胞は晩材部に接線状に点在する。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅が狭い。分野壁孔はスギ型であるが、放射組織が10細胞高以上のものやインデンチャーの発達したものがあり、ネズコ属の可能性が高いと推定される。しかし、壁孔の形状が腐朽により確認できないものも多くあり、スギ又はアスナロ属が混じっている可能性も否定できない。

顕微鏡写真No.8

08 ヒノキ属? *Chamaecyparis* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。樹脂細胞は晩材部の接線状に散在する。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅が狭い。分野壁孔はヒノキ型であるが、中にはスギ型との中間的なものもしばしば認められた。また、腐朽により分野壁孔の確認ができないものも多く、アスナロ属が混じっている可能性も否定できない。

顕微鏡写真No.9

09 アスナロ属? *Thujaopsis* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。早材から晩材への移行は緩やかで樹脂細胞は主に晩材部に散在する。放射組織は円形及び広楕円形で1~15細胞高であり水平壁は厚い。分野壁孔はヒノキ型及びスギ型さらには両型の中間的なものがあり、1分野に2~5個存在する。分野壁孔が、典型的なヒノキ型のみでないことから、アスナロ属の可能性が高い。

顕微鏡写真No.10 (ヒノキ属? アスナロ属?)

10 ビャクシン属? *Juniperus* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。早材から晩材への移行はきわめてゆるやかで、樹脂細胞は晩材部付近に散在する。分野壁孔はスギ型とヒノキ型の中間的なものが認められる。本属は細胞間げきができる特徴がある(1982、島地ら)とされているが、本道跡の試料ではそのような個体はなかったので、ビャクシン属と同一した試料はない。しかし、細胞間げき以外の特徴は一致する場合があるので、一応ここに掲げた。

11 ヤナギ属 *Salix* (やなぎ科 SALICACEAE)

木口面：散孔材である。道管は時折2~3個の複合管孔を形成する。

板目・柾目面：放射組織は単列で異性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。また、道管相互壁孔は交互壁孔である。

エゾノカワヤナギ、オノエヤナギ、バッコヤナギ、エゾノバッコヤナギなどが推定される。

顕微鏡写真No.11

12 ハコヤナギ属 *Populus* (やなぎ科 SALICACEAE)

木口面：散孔材である。多くの道管は2~4個の複合管孔を形成する。

板目・柾目面：放射組織は単列で同性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

ドロノキ、ヤマナラシが推定される。

顕微鏡写真No.12

13 オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr.

(オニグルミ属 *Juglans*) (くるみ科 JUGLANDACEAE)

木口面：散孔材である。大型の道管が単独もしくは2~3個複合して存在する。チロースを含む

とが多い。柔細胞の接線方向への配列は本属の特徴である。

板目・径目面：放射組織は1～3細胞幅で3～20細胞高であり同性であるが、方形細胞を含む場合がある。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.13

14 クマシデ属 *Carpinus* (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材であるが、道管は2～6個が複合し、放射状に配列する傾向がある。

板目・径目面：放射組織は1～2細胞幅で1～60細胞高で異性である。板目面では、集合放射組織が認められる。道管要素は階段せん孔をもち、内壁には目立たないが、らせん肥厚が存在する。

サワシバ、アカシデが推定される。

顕微鏡写真No.14

15 アサダ *Ostrya japonica* Sarg. (アサダ属 *Ostrya*) (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材で2～3個の大型の道管が放射方向に複合する。一般に道管の径は晩材に相当する部分で小さくなり、多くの道管は3～6個放射方向に複合する。

板目・径目面：放射組織は1～4細胞幅で、20細胞高より高くなる場合も多い。放射組織は大部分が平伏細胞からなるが、上下の縁辺部には方形細胞を含み異性である。道管要素は単せん孔をもち、内壁には不規則ならせん肥厚をもつ。

顕微鏡写真No.15

16 カバノキ属 *Betula* (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材であり、一般に道管は2～4個が放射方向に複合する。

板目・径目面：放射組織は1～4細胞幅で40細胞高以上にもなり、同性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

シラカンバやウダイカンバ等が推定される。

顕微鏡写真No.16

17 ハンノキ属 *Alnus* (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材である。多くの道管は2～4個が放射方向に複合する。

板目・径目面：放射組織は単列で同性である。集合放射組織を形成する。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

ハンノキ、ケヤマハンノキ等が推定される。

顕微鏡写真No.17

18 コナラ属 *Quercus* (ぶな科 FAGACEAE)

木口面：環孔材である。孔間部の大道管にはチロースが認められる。孔間外の道管は、やや放射状に配列することがある。

板目・径目面：放射組織は単列と広放射組織からなり、同性である。道管要素は単せん孔をもつ。

ミズナラ、コナラ、カシワ等が推定される。

顕微鏡写真No.18

19 クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. (クリ属 *Castanea*) (ぶな科 FAGACEAE)

木口面：環孔材である。孔圈部の大道管にはチロースが認められる。孔圏外の道管は一般に火炎状に配列する。

板目・径目面：放射組織は単列のみ、1～15細胞高で同性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

道管の配列などコナラ属と酷似しているが本属では放射組織が単列のみであり、広放射組織が存在しないためクリと判断した。また、本属はシノキ属とも類似しているが、道管の配列が環孔状であるのでクリ属とした。

顕微鏡写真No.19

20 ブナ属 *Fagus* (ぶな科 FAGACEAE)

木口面：散孔材である。道管はほぼ平均に分布し、年輪の前半部の道管の方が大きく、外側にいくにつれて大きさと数が減少する。

板目・径目面：放射組織は単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類があり、ほとんど同性である。道管要素は、一般に年輪の前半部で単せん孔、外側では、階段せん孔と網状せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

ブナ（北海道南部が北限）、イヌブナ（北海道外）が推定される。

顕微鏡写真No.20

21 ニレ属 *Ulmus* (にれ科 ULMACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏部の道管は2～3列になり、孔圏外では多数の小道管が接合して集団管孔を形成し、接線方向にかなり規則的に配列する。

板目・径目面：放射組織は1～6細胞幅、3～70細胞高で、同性である。道管要素は単せん孔をもち、内壁にはらせん肥厚が存在する。

ハルニレまたはオヒョウが推定される。

顕微鏡写真No.21

22 エノキ属? *Celtis* (にれ科 ULMACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏外の小道管は不規則な集団管孔を形成している。

板目・径目面：放射組織は1～2細胞幅のもの、7～10細胞幅のものがあり、中間のものはない。2～80細胞高で、異性である。紡錘形の放射組織のまわりを直立・方形細胞で取り囲み、鞘細胞のようにみられる。道管要素は単せん孔をもつ。小道管にはらせん肥厚が存在する。

本属と同定された試料は、梢や枝が多く、正常な細胞ではない場合が多かった。エノキ属の可能性が高いと考えられるが断定はできない。エゾエノキと推定される。

顕微鏡写真No.22

23 ケヤキ属 *Zelkova* (にれ科 ULMACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏部の大道管が1列に並ぶ。孔圏外では急に道管の大きさを減じている。小道管は多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。

板目・径目面：放射組織は6～7細胞幅のものも多く、上下の縁辺のみが方形細胞の異性である。

方形細胞には、時々結晶が認められる。道管要素は単せん孔をもつ。小道管の側壁にはらせん肥厚が存在する。

ケヤキ（北海道外）が推定される。

顕微鏡写真No.23

24 クワ属 *Morus*（くわ科 MORUS）

木口面：環孔材である。孔圈部では単独あるいは2～3個の道管が複合する。孔圈外では小道管が複合して団塊状をなす。道管内にはチロースが認められる。

板目・径目面：放射組織は1～6細胞幅、5～60細胞高で、異性である。道管要素は単せん孔をもつ。小道管のらせん肥厚は、走向が不規則な場合がある。

ヤマグワが推定される。

顕微鏡写真No.24

25 カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.

（カツラ属 *Cercidiphyllum*）（かつら科 CERCIDIPHYLLACEAE）

木口面：散孔材である。ほとんどの道管は単独で数かきわめて多く、年輪内全体を通じて平等に分布する。

板目・径目面：放射組織は1～2細胞幅で、直立細胞の間に、方形細胞と平伏細胞が入り込む典型的な異性である。道管要素は階段せん孔をもち、Barの数も20本以上と非常に多い。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.25

26 モクレン属 *Magnolia*（もくれん科 MAGNOLIACEAE）

木口面：散孔材である。単独または2～数個の放射方向に接続した道管が平等に分布する。

板目・径目面：放射組織は1～2細胞幅で5～35細胞高と高い。上下縁辺の1～2列のみが直立細胞ないし方形細胞で、そのほかは平伏細胞の異性である。道管要素は単せん孔と階段せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。道管には階段壁孔と対列壁孔が認められる。

ホオノキ、キタコブシ、コブシが推定される。

顕微鏡写真No.26

27 アジサイ属 *Hydrangea*（ゆきのした科 SAXIFRAGACEAE）

木口面：散孔材である。道管は単独または2～3個複合して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞が放射方向へ連続して認められるのが特徴である。

板目・径目面：放射組織は1～2細胞幅、3～5細胞高で、板目面では上下方向で軸方向柔細胞と接している。異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は認められない。

用途適性から類推してノリウツギと考えられるが同属の他樹種の可能性もある。

顕微鏡写真No.27

28 イスノキ *Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.

（イスノキ属 *Distylium*）（まんさく科 HAMAMELIDACEAE）

木口面：散孔材である。道管はほとんど単独で年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞が接線方向に黒い接線状に一定の間隔で配列するのが特徴である。

板目・柾目面：放射組織は1～2細胞幅で平伏細胞と直立細胞からなる顕著な異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.28

29 サクラ属 *Prunus* (ばら科 ROSACEAE)

木口面：散孔材である。道管は単独または2～3個が複合して年輪内に平等に分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅で、20細胞高以上になる場合が多い。異性であるが、板目面では判別しにくい。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。

エゾヤマザクラ、ミヤマザクラ、シウリザクラ、ウワミズザクラ等が推定される。

顕微鏡写真No.29

30 ナナカマド属 *Sorbus* (ばら科 ROSACEAE)

木口面：散孔材である。道管は径が小さく単独または2～3個が複合する。

板目・柾目面：放射組織は2～3細胞幅、3～30細胞高で同性である。道管要素は大部分が単せん孔をもつ。2～3本が束になったSらせんとZらせんの特徴的ならせん肥厚が認められる。

ナナカマド、アズキナシ等が推定される。

顕微鏡写真No.30

31 リンゴ属? *Malus* (ばら科 ROSACEAE)

木口面：散孔材である。道管は径が小さく単独または2～3個が複合し、一般に均等に分布する。

板目面・柾目面：放射組織は1～2細胞幅で同性である。

リンゴ属、ナナカマド属、ハシドイ属は組織が類似しており、区別が難しい場合がある。しかし、それらの区別は、らせん肥厚の形状等で判断できる(1978、大谷・石田)。リンゴ属とナナカマド属は、道管の配列、放射組織の形状も酷似しているが、らせん肥厚の形態が異なり、稀に現れる網状(多孔)せん孔が確認できればナナカマド属と判断できる。また、ハシドイ属は、木口面で見ても道管の数が多く、複合するものが多いこと、放射組織の高さが不揃いであること、また、対をなす短いらせん肥厚の存在で、リンゴ属およびナナカマド属と区別できる。しかし、往々にして腐朽による劣化や変形などによりこの3属のいずれであるかの判別はできないものも多かった。

顕微鏡写真No.31 (リンゴ属?ハシドイ属?)

32 イヌエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim.

(イヌエンジュ属 *Maackia*) (まめ科 LEGUMINOSAE)

木口面：環孔材である。孔圈部から孔圏外への道管の径の移行はゆるやかである。年輪界付近には小道管の集団管孔の不規則な配列がみられる。

板目・柾目面：放射組織は1～6細胞幅、6～50細胞高で、同性である。小道管が層階状配列をなし、顕著ならせん肥厚が認められる。ベスチャード壁孔が走査電子顕微鏡により認められる。

顕微鏡写真No.32

33 ハギ属 *Lespedeza* (まめ科 LEGUMINOSAE)

木口面：環孔材である。孔層部から孔層外への道管の径の移行はゆるやかである。年輪界付近では小道管の集団管孔が不規則に配列する。

板目・柀目面：放射組織は1～5細胞幅で4～60細胞高と高く、顕著な異性である。小道管が層階状配列をなし、らせん肥厚が認められる。

エゾヤマハギなどが推定される。

顕微鏡写真No.33

34 キハダ属 *Phellodendron* (みかん科 RUTACEAE)

木口面：環孔材である。孔層部では大道管が2～3個複合して存在する。

板目・柀目面：放射組織は1～4細胞幅で5～35細胞高で、同性である。道管要素は単せん孔をもつ。小道管には顕著ならせん肥厚が認められる。

キハダ、ヒロハノキハダなどが推定される。

顕微鏡写真No.34

35 ニガキ *Picrasma quassioides* (D. Don) Benn.

(ニガキ属 *Picrasma*) (にがき科 SIMAROUACEAE)

木口面：環孔材である。孔層部では大道管は大きく、孔層外では急激に大きさを減じる。

板目・柀目面：放射組織は1～5細胞幅、3～70細胞高で、異性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.35

36 ウルシ属 *Rhus* (うるし科 ANACARDIACEAE)

木口面：環孔材である。道管の大きさは、孔層部から孔層外へむかい徐々に減じる。年輪の外境に近づくにつれて小道管は複合し、接線状もしくは波状に配列する。

板目・柀目面：放射組織は1～3細胞幅で異性である。道管要素は単せん孔をもつ。

本属のなかで、らせん肥厚の存在が種により異なることが知られているが、本道跡の試料では、小道管に時々、比較的規則的ならせん肥厚が認められた。従って、ヌルデ、ヤマウルシ等が推定される。

顕微鏡写真No.36

37 ニシキギ属 *Euonymus* (にしきぎ科 CELASTRACEAE)

木口面：散孔材である。道管の径はきわめて小さく、年輪内に平等に分布する。

板目・柀目面：放射組織は単列のみで同性である。道管要素は単せん孔をもつ。道管と木繊維にらせん肥厚が存在する。

ニシキギ、マユミ、ツリバナ等が推定される。

顕微鏡写真No.37

38 ミツバウツギ属? *Staphylea* (みつばうつき科 STAPHYLEACEAE)

木口面：散孔材である。道管はほとんど単独であるが、まれに2～3個の複合もみられる。

板目・柱目面：放射組織は1細胞幅と1～5細胞幅のものがある。放射組織の上下縁辺部には直立細胞が顕著で、異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は認められない。

本属と推定された試料では腐朽がひどく階段せん孔の確認ですら困難であった。そのため組織観察を十分に行うことができず、ミツバウツギ属のミツバウツギの可能性が高いと推定したが、断定はできない。

顕微鏡写真No.38

39 カエデ属 *Acer* (かえで科 ACERACEAE)

木口面：散孔材である。道管は、単独または数個が複合して均等に分布するが数は少ない。

板目・柱目面：放射組織は1～8細胞幅で5～30細胞高で、同性である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

イタヤカエデ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、エゾイタヤ等が推定される。

顕微鏡写真No.39

40 トチノキ *Aesculus turbinata* Blume.

(トチノキ属 *Aesculus*) (とちのき科 HIPPOCASTANACEAE)

木口面：散孔材である。道管は単独または2～4個の複合管孔を形成する。

板目・柱目面：放射組織は単列のみ、2～10細胞高で、高さがそろっており、層階状に規則正しく配列するのが特徴である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

顕微鏡写真No.40

41 シナノキ属 *Tilia* (しなのき科 TILIACEAE)

木口面：散孔材である。道管は2～5個の複合管孔を形成し、柔細胞は短接線状に並ぶことが多い。

板目・柱目面：放射組織は1～4細胞幅で5～50細胞高、同性であり、とくに3～4細胞幅の放射組織の場合は紡錘形というよりも角ばった矢じり形に見えることが多い。道管要素は単せん孔をもち、顕著ならせん肥厚が存在する。

シナノキ、オオバボダイジュが推定される。

顕微鏡写真No.41

42 サルナシ属? *Actinidia* (またたび科 ACTINACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏道管はきわめて大きく、孔圏外では急激に小さくなり、ほとんど単独である。

板目・柱目面：放射組織は1～5細胞幅で多列部が60細胞高になる。異性である。道管要素は単せん孔をもつ。本属と推定された試料では、腐朽がひどく、観察が十分に行えなかったので、サルナシ属のサルナシと推定したが断定はできない。

顕微鏡写真No.42

43 キブシ属? *Stachyurus* (きぶし科 STACHYURACEAE)

木口面：散孔材である。道管の径は小さく単独または2～数個が不規則に接続し、年輪内にわりと平均に分布する。

板目・柀目面：放射組織は1細胞幅の直立細胞と、2～5細胞幅の方形細胞、直立細胞、平伏細胞からなるものがある。異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。道管にらせん肥厚が存在する。木口、板目面の観察からキブシ属のキブシと推定したが、腐朽がひどく断定はできない。
顕微鏡写真No.43

44 コシアブラ *Acanthopanax sciadophylloides* Fr. et Sav
(ウコギ属 *Acanthopanax*) (うこぎ科 ARALIACEAE)

木口面：環孔材であるが、孔圍道管はあまり明瞭でなく、孔圍外では散孔状に配列し、半環孔状を呈する。

板目・柀目面：放射組織は1～3細胞幅で異性である。道管要素は単せん孔を持つ。道管壁にらせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.44

45 ハリギリ *Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai
(ハリギリ属 *Kalopanax*) (うこぎ科 ARALIACEAE)

木口面：環孔材である。孔圍外では小道管が多数接合して複合管孔を形成し、斜線状や波状に配列する。

板目・柀目面：放射組織は1～6細胞幅で上下の縁辺の1列のみに方形細胞が並ぶ異性である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.45

46 ミズキ属? *Cornus* (みずき科 CORNACEAE)

木口面：散孔材である。道管は単独または放射方向に数個が複合して分布する。

板目・柀目面：放射組織は1～4細胞幅で、上下両端に直立細胞が多く、異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は認められない。

本属と推定した試料では、腐朽がひどく、ミズキ属のミズキと推定したが、断定はできない。

顕微鏡写真No.46

47 ハイノキ属 *Symplocos* (はいのき科 SYMPLOCACEAE)

木口面：散孔材である。道管の径は小さく単独または2～4個が不規則に接続し、年輪内に平均に分布する。

板目・柀目面：放射組織は1～4細胞幅、1～20細胞高ほどで、直立細胞と平伏細胞からなる異性である。道管要素は階段せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

サワフタギが推定される。

顕微鏡写真No.47

48 ハイノキ属?

木口面：散孔材である。道管の径は小さく、ほとんど単独で稀に複合がみられる。

板目・柀目面：放射組織は、直立細胞の単列のものと、多列のものがある。単列と単列の間に多列が入り込んでつながっている。道管要素は、階段せん孔をもつ。らせん肥厚は確認できない。

本属とガマズミ属、タニウツギ属とは組織が類似しており区別が難しいが、一般には光学顕微鏡レベルでは、ガマズミ属にはらせん肥厚が認められるが、タニウツギ属にはらせん肥厚が認められないことで区別ができる。しかし、腐朽がひどい場合には、往々にして区別が難しい場合がある。

顕微鏡写真No.48 (タニウツギ属?ハイノキ属?)

顕微鏡写真No.49 (ガマズミ属?ハイノキ属?)

49 エゴノキ属? *Styrax* (えごのき科 STYRACACEAE)

木口面: 散孔材である。道管は単独または数個で複合管孔を形成する。

板目・径目面: 放射組織は1~3細胞幅、3~30細胞高で、異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。道管にらせん肥厚は存在しない。

本属と同定した試料は、腐朽による細胞壁の劣化がひどく、エゴノキ属のエゴノキやハクウンボクの可能性が高いと思われるが、断定はできない。

顕微鏡写真No.50

50 トネリコ属 *Fraxinus* (もくせい科 OLEACEAE)

木口面: 環孔材である。道管は孔圏部で大きく、孔圏外では急激に小さくなり、単独のもの2~3個が放射方向に複合するものがある。道管の周りには周囲組織が存在する。

板目・径目面: 放射組織は1~4細胞幅、10細胞高ほどで比較的均一であり、同性である。道管にらせん肥厚は存在しない。

ヤチダモ、アオダモ等が推定される。

顕微鏡写真No.51

51 ハシドイ属 *Syringa* (もくせい科 OLEACEAE)

木口面: 散孔材である。道管は、単独または数個が複合して均等に分布する。

板目・径目面: 放射組織は1~2細胞幅で、異性であるが、大部分は平伏細胞である。道管要素は単せん孔をもち、2本の対をなす特徴的ならせん肥厚をもつ。

木口面において道管が年輪に沿って一列に並ぶこともあり、道管の配列は個体間で違いが見られた。ハシドイと推定される。

顕微鏡写真No.52

52 イボタノキ属? *Ligustrum* (もくせい科 OLEACEAE)

木口面: 散孔材である。年輪界付近ではやや径の大きい道管が環孔状に配列する。

板目・径目面: 放射組織は1~2細胞幅で異性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。

本道跡の試料は、イボタノキ属の可能性が高いと推定されるが、年輪界に沿う大きめの道管が1列だけでなく、2~3列と多く並んでいたため、断定はできない。

顕微鏡写真No.53

53 ムラサキシキブ属? *Callocarpa* (くまつぶら科 VERBENACEAE)

木口面: 散孔材である。道管は小さく単独または放射方向に2~3個複合し、まばらに分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅の異性である。多列部は平伏細胞、直立細胞、方形細胞からなり、その上下両端は直立細胞からなる単列部とつながる。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.54

54 ニワトコ属 *Sambucus* (すいかずら科 CAPRIFOLIACEAE)

木口面：散孔材である。道管は放射状、斜線状などに複合している。

板目・柾目面：放射組織は1～3細胞幅で異性である。道管要素は一般に単せん孔をもつが、稀に階段せん孔も存在する。らせん肥厚は存在しない。

エゾニワトコが推定される。

顕微鏡写真No.55

55 ササ *Sasa* / タケ *Take* (いね科 GRAMINEAE)

ササとタケの解剖学的性質の知識に乏しく識別は困難であった。北海道に自生するササ属で、ネマガリダケ、チシマザサ等と、本州以南のマダケやモウソウチクの両方の可能性が考えられる。

顕微鏡写真No.56

56 ツル性植物

木口面：環孔材である。孔圏道管はきわめて大きく、孔圏外では急激に小さくなり、ほとんど単独である。

板目・柾目面：放射組織は1～10細胞幅で、多列部が100細胞以上に達する。異性である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

ツル性植物の中でも、ブドウ属 (*Vitis*)、サルナシ属 (*Actinidia*) 以外であると推定されるが、現生の試料等に乏しく断定はできない。

顕微鏡写真No.57

参考文献

岡本省吾・北村四郎 (1981) 『原色日本樹木図鑑』 保育社

(財)北海道埋蔵文化財センター (1996) 『美沢川流域の遺跡群XVIII』

大谷 諄・石田茂雄 (1978) 『走査型電子顕微鏡による本邦産双子葉木本植物のせん孔板の観察』 北海道大学

大谷 諄・石田茂雄 (1978) 『走査型電子顕微鏡による本邦産双子葉木本植物の道管要素のらせん肥厚の観察』 北海道大学

島地 謙・伊藤隆夫 (1982) 『図説木材組織』 地球社

島地 謙・伊藤隆夫 (1988) 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣

(4) 木製品の樹種組成(表Ⅳ-1-1~3、図Ⅳ-1~2)

今年度の同定結果を含め、これまでに樹種名(属)の判明した木製品の試料数は4685点を数える。なお、北埋調報102には報告後に新たに判明し、変更された樹種がある。広葉樹1科2属が追加され、スギ科、ヒノキ科、モクセイ科の集計結果を変更して表Ⅳ-1-1にとりまとめている。

平成元年度調査(1990 北埋調報 69)	902点針葉樹4科6属	広葉樹20科29属の計24科35属
平成2年度調査(1991 北埋調報 77)	134点針葉樹4科6属	広葉樹11科13属の計15科19属
平成3年度調査(1992 北埋調報 83)	289点針葉樹4科6属	広葉樹20科26属の計24科32属
平成4年度調査(1995 北埋調報102)	960点針葉樹4科6属	広葉樹23科35属の計27科41属
平成4年度調査(1996 北埋調報114)	2400点針葉樹4科9属	広葉樹30科46属の計34科55属

樹木構成と環境(表Ⅳ-1-1~2)

樹種同定から見た遺跡内の樹木構成は、これまでに同定された用具類を除く建材、杭、その他の加工材等を中心に比較検討した結果、花粉分析(山田 1996)における推定とほぼ同様の状況となった。

I B-4層以下については試料数が少ないため花粉分析の結果に頼らざるを得ないが、台地上ではコナラ亜属(I B-5層がピーク、I B-4層~下で減少、I B-3層上~I B-2層で増加)を主体に、カバノキ属、ニレ属、クマシデ属、モクレン属、カエデ属、サクラ属、クルミ属等からなる落葉広葉樹林が分布し、低湿地にはハンノキ属、トネリコ属、ヤナギ属、ハコヤナギ属等からなる低湿地林が分布していたと推定される。その後、I B-3層上~I B-2層では台地上にコナラ亜属を主体に、クルミ属、クマシデ属、アサダ属、カバノキ属等に加え、キハダ属、シナノキ属を交えた落葉広葉樹林が分布し、低湿地ではハンノキ属を主体に、トネリコ属、ヤナギ属を若干交えたハンノキ林が分布していたと推定される。I B-1層~0 B層では、これらにモミ属、トウヒ属、マツ属が加わり、周辺の丘陵部や山地の針葉樹の混交率が高くなり、気候の寒冷化に影響されたことを花粉分析では指摘している。これらの状況はI B-4層以下において、多数の径40cm前後のコナラ属の風倒木が分布し、その中に若干のハンノキ属の流木を交えていた現場の状況や、平成元年度試掘時(田口1990)の自然木樹種構成グラフのハンノキ属(34.7%)、コナラ属(19.7%)、トネリコ属(8.3%)、ヤナギ属(5.2%)、ハリギリ属(5.0%)、カエデ属(4.1%)、カツラ属(3.7%)等の報告とほぼ合致する。さらに、表Ⅳ-1-1のI B-3層以降の有用樹種点数の構成と有用樹種の増加状況からも同様のことが推定される。特にI B-1層~0 B層における製品の樹種にイチイ属、モミ属、トウヒ属等の針葉樹材(桶や樽として移入されたスギ科、ヒノキ科を除く)が増加した理由は、気候変動による周辺環境の変化に当時の人々が適応し、使用可能な用材の積極的な樹種選択が行われていたことを示すものである。以上から、本遺跡出土木製品の用材(本州材等の移入材を除く)のほとんどが、遺跡周辺から採取されたものと推定され、建材、杭、加工材以外についても同様な状況と考えられる。

また、千歳市内には樹木に関するアイヌ語地名が多く残されており、フウシビビ hup-us-Bibi(トドマツの群生する美々川)、フブネウシママチ hupni-us-Mamachi(トドマツ群生する沢)、フブウシビパイ fup-us-pipay(トドマツ群生する美笛川)、フブシヌプリ hup-us-nupuri(トドマツ群生する山)などもモミ属に関する地名が多い。まったくの私見であるが、これらの地名の由来もI B-1層~0 B層以後に付されたものと推測できないだろうか。加えて、ランコウシ ranko-us-i(カツラ)、アツウシビナイ at-us-pinay(オヒョウの木が群生する瀬沢)、アッチウシ ati-us-i(オヒョウの皮多くある所)、カリンバ karimpa-us-i(エゾヤマザクラの群生するところ)、ケネフチ kene-us-i-putu(ハンノキ群生する河口)、ネシコシ nesko-us-i(クルミの木が群生するところ)、ヤムニウシケペレペ yam-ni-us-keperpe(クリの木が群生する浅瀬)などの地名は、単なる

地域名称ではなく、有用な用材(樹種)や堅果類の入手先を示したものと考えたい。

なお、表Ⅶ-1-2に同定結果から推定される樹種名に加えて、アイヌ語の樹種名称を掲載する。掲載した僅かなデータにおいても、和名樹種とアイヌ語樹種との対応が難しいものが多い。アイヌ語名には使用される用具名や生活目的に関係した樹木名称が多く、有用な部位のみを表現していることが多いためである。例としてクネニ(弓になる木)、チキサニ(我らこする木[発火具])、ラスパニ(銚先と銚の柄をつなぐ木[回転式龍頭銚中柄・魚突鉤台])、トベニ(乳汁のでる木[甘い樹液が飲める])ほか等がある。したがって、地方によって用途や目的が異なれば、同一樹種であってもアイヌ語名称が異なり、主たる用途や目的が同じでも使用する樹種の選択が異なれば別のアイヌ語名称となるからである。これは北海道における、樹木等の植生分布に地方差が大ききことによる。

木製品の樹種組成(図Ⅶ-1-1~2、表Ⅶ-1-3)

交通具としての舟部材には、千歳地方ではカツラ、ヤチダモ、アカダモを使用したと言われる。舟の船先と舷にはカツラ属、ハリギリ属、ヤナギ属が多く、板艇舟についてはハリギリ属33.9%が主体を占め、つづいてシナノキ属11.9%、ハンノキ属11.0%、カツラ属7.6%等となる。有孔板材のほとんどは、板艇舟舷側板の再加工作品等であることからハリギリ属の占有率はさらに高いと考えられる。なお、スギ属2.5%やトチノキ属4.5%のものは道南部あるいは本州で製作された舟部材と考えられる。舟部材等については、通常、舟体と同一材を使用するケースが多いと言われている。しかし、車權受台部ではモミ属22.4%、モクレン属18.8%、ハンノキ属17.6%が主体を占めている。このうち枝利用式ではモミ属、軸挿入式ではモクレン属、ハンノキ属が多い。これに挿入される軸には、緻密で堅牢なカエダ属40.2%、トネリコ属14.9%が多用されている。車權ではモクレン属34.1%、ハンノキ属14.6%、キハダ属14.6%、早權ではモクレン属26.2%、トネリコ属15.4%、ハンノキ属10.8%が多用され、權全体でモクレン属の比率が高い。早權握部ではハンノキ属35.3%、スギ属23.5%、モクレン属11.8%が多い。あか汲みはハンノキ属37.8%、ハリギリ属32.4%に二分され、カツラ属8.1%も見られることから舟体と同一材が使用されている可能性がある。ただし、同一丸太材であるかについては今後、詳細な年輪解析が必要であろう。漁撈具の回転式龍頭銚中柄や指掛部ではアジサイ属74.3%が主体を占める。魚突鉤台部もアジサイ属40.5%が主体を占めるが、カエダ属11.9%、モミ属7.1%等も利用されている。狩猟具の弓ではイチイ属に加えニシキギ属も見られ、民族誌のとおりである。矢・矢中柄・花矢ではアジサイ属が73.3%を占める。漁撈具・狩猟具では樹種選択が明瞭であり、民族誌のとおりアジサイ属はノリウツギ(ラスパニ)と推測される。小刀・刀・山刀柄ではカエダ属40.4%、モクレン属10.6%、スギ属12.8%が同量同定されている。モクレン属、スギ属が選択されている理由には彫刻や細工が容易であることが考えられ、モクレン属は日本刀等の鞘等にも用いられる樹種である。発火具のヒキり板ではスギ/スギ?属39.1%、ニレ属30.4%が主体を占め、ヒキり板ではヒノキ?属26.3%、ニレ属21.1%が主体を占める。ニレ属は民族誌のハルニレ(チキサニ)であり、スギ/スギ?属等は桶、樽の再加工作品と考えられる。漆塗碗ではブナ属64.7%が主体を占め、トチノキ属15.7%、ケヤキ属13.7%、クリ属2.0%の順であり、良材の比率が高いと言える。杓子ではモクレン属55.6%、カエダ属19.6%が主体を占め、樹種選択が認められる。捧酒箸(籠)・捧酒箸状製品はアイヌにおいて最も重要な用具のひとつである。しかし、スギ類41.1%、ヒノキ?属20.5%が主体を占め、ヤナギ3.6%で、ミズキは見られない。割製の良い、加工の容易な桶・樽の再加工作品により、儀礼を行っていたことになる。今後、伝製品の中に類例を探さなければならない。

末筆ではあるが、同定の準備段階から本報告までの永きにわたり、多大なるご指導・ご教示を頂いた平川泰彦氏に心から感謝申し上げます。(田口 尚・岡本育子)

Ⅲ 自然科学的分析

計測欄 *組合材は主体部の樹種のみ、樹皮製品は含まない。複数の樹種の可能性をあげたものについては、最も可能性の高いと思われる真にカウント。

科名	属名	樹種	OS	1B-1	1B-2	1B-3	1B-4	1B-5	1B-6	1b+2b	クラム	産良	小	計	合	計	
いちい	TAKACEAE	イナヱ	Taxus	17	12	2	1							37		38	
		イナヱイ?												1			
		オキ	Abies	37	33	3	1		1		2	25		101		102	
		トウヒ	Pinus A. flex	2	1									3		4	
まつ	PINACEAE	カラマツ?	Larix									1	1	2		2	
		マツ (五葉松類)	Pinus										3	3	6		6
		マツ (二葉松類)	Pinus	1									2	2	3		3
すげ	TAXODIACEAE	スゲ	Cryptomeria	175	96	11	1	1		1	10		295		295	537	
		スゲイ?		151	61	14	4	1	4	1	1	3	242		242		18
		セノキ?	Chamaecyparis	11	1	1	3				1	1	3	15		158	
ひのき	CUPRESSACEAE	ヒノキ	Cedrus japonica	127	11		1	1					130		130		
		ヒノキ?		88	1								89		89		156
		ヒノキロ?	Thuja										28		28		117
		?	?	1	1									2		2	
?	計測欄	?	?										1		1		
4 科	0 属			612	217	32	13	2	5	4	5	94		94		984	

広葉樹

科名	属名	樹種	OS	1B-1	1B-2	1B-3	1B-4	1B-5	1B-6	1b+2b	クラム	産良	小	計	合	計
やなぎ	SALICACEAE	ヤナギ	Salix	1	22	33	2	3				16		133		133
		ハコヤナギ	Populus		10	2				1			7		17	
くまの	FAGLANDACEAE	クマノ	Quercus	7	4	1	1						2	13		15
		カシ	Castanea	1	28	7	1	2			1		7		40	
かばの	BETULACEAE	カバノ	Betula	2	2			3						8		8
		カバノキ	Betula	5	11	6	2	3						24		24
		ハンノキ	Alnus	2	112	57	3	10	1			11		196		195
		コナラ	Quercus	6	136	66	10	22			1	17		272		273
あか	FAGACEAE	アカ	Corylus		3	3	2						1	1		9
		ナラ	Castanea											1		1
		ブナ	Fagus		5	14	2							8		33
		アト?		1	1									2		2
		ニレ	Liriodendron	13	9	1								5		28
くまの	MOBIUS	クマノ	Morus	13	7	1	1						7		29	38
		クワ		4	2									7		7
		クワ?		1	1									2		2
かづら	CERICOPHYLLACEAE	カズラ	Cercidiphyllum	1	27	17	1	1					6		63	65
		カズラ?		1	1									2		2
もくれん	MAGNOLIACEAE	モクレン	Magnolia	81	41	5	1					19		147		147
		ヨシキリ	Michelia	186	157	13	11			2	1	53		415		425
ばら	ROSACEAE	バラ	Rosa	1	37	28	4	2					8		81	83
		ナツメ	Sorbus		6	3								9		19
あま	LEGNOSINAE	アハダ	Mimulus	8	1									9		10
		ハダ	Lupinus		8	7	3							19		22
		ハダ?		3										3		3
		アハダ	Phytolobum	32	9	3	4						4		52	56
		アハダ?		4										4		4
にぎ	SIMARUBACEAE	ニギ	Pterocarya		4									4		7
		ニギ?		3		1								4		4
くまの	ANACARDIACEAE	クマノ	Picea		3	2							2		7	8
		クマノ?		1										2		2
にしき	CREATRICEAE	にしき	Saxifraga		3	2					1			6		6
		みつば	Staphylea		1									1		1
かや	ACRACEAE	カヤ	Acer	1	148	46	3	4			1	15		219		221
		カヤ?		2										2		2
とちの	BIFLOIDACEAE	トチノ	Aucuba		5	3							1		8	15
		トチノ?		90	6	1	1							98		28
びんが	ACTINIDIACEAE	ビンガ	Actinidia		1									1		1
		キバ?	Schreberia		1									1		1
うこ	ARALIACEAE	ウコ	Aspidopteryx		1									1		1
		ハリゴ?	Kobus	95	48	6	3			1	16	2	171		171	
みず	CORNACEAE	ミズ	Cornus		2									2		2
		ハハ?	Symphoricarpos		2	1								3		3
あま	STYRACIACEAE	アハ?	Styrax		1								1		1	
		アハ?		1										1		1
もくせ	OLICACEAE	トネリコ	Ficus	51	42	5	2				1	17		118		126
		トネリコ?		6	1								1	8		8
		ハナ?	Ficus	25	9	1	1						5	41		53
		ハナ?		6										6		12
		アハ?	Ligustrum		1	1								2		2
くまの	VIBERNACEAE	クマノ	Callicarpa		1									1		1
		クマノ?		1										1		1
ハハ?	CAPRIACEAE	ハハ?	Viburnum		5									5		5
		ハハ?	Wigelia		1									1		2
ハハ?	GRAMINEAE	ハハ?	Sten (Hala)		38	8		5					3		53	54
		ハハ?		1										1		2
ハハ?	ハハ?		2										2		2	
3 科	4 科			17	1268	647	68	82	1	2	6	5	238	2	2375	2376

計測欄と広葉樹の合計

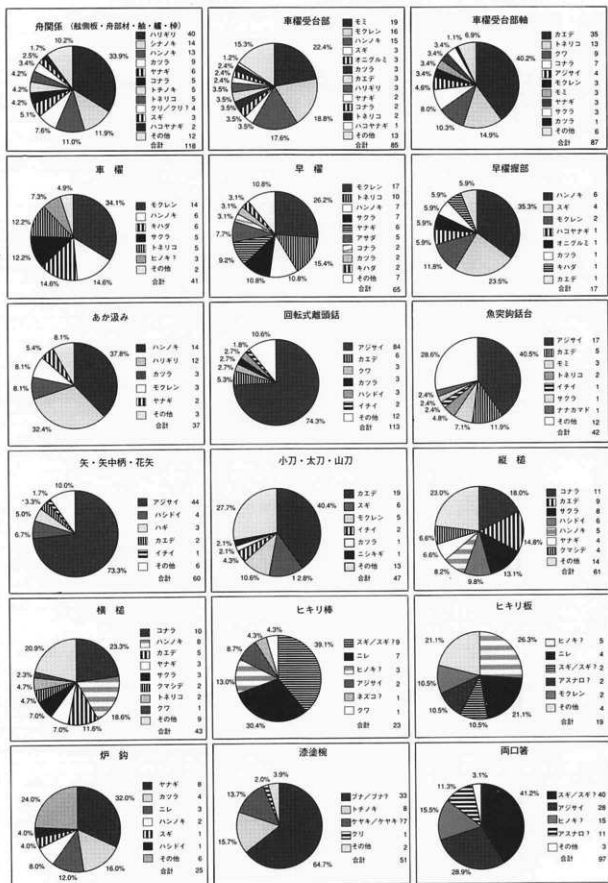
3 科	5 5 属	17	1860	904	100	95	3	7	10	10	352	2	3360	3360
-----	-------	----	------	-----	-----	----	---	---	----	----	-----	---	------	------

表四-1-2 アイヌ語名称のある推定される樹種名

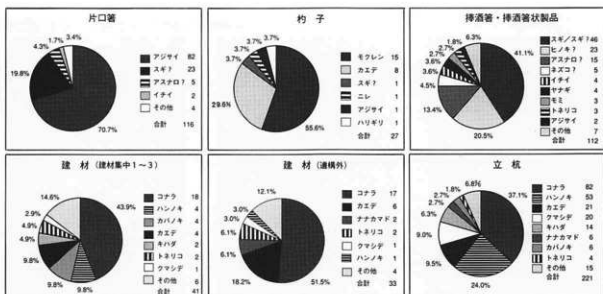
属名	推定される樹種名	アイヌ語樹種名称
イチイ	イチイ	ラムニ [t:北海道全域/ f/k] クネニ [t:伏伏/ f/k]
モミ	トドマツ	フア [n/ f:北海道各地/ k]
トウヒ	エゾマツ	スンク [n/ t:北海道/ f]
	アカエゾマツ	チカッスンク [t:樺別、名寄、美幌、フレスタク [t:美幌] イウカロスンク [k]
マツ	ハイマツ	トブエツ [t:名寄/ k] カムイフア [t:長万部] エビエツ [t:根、美] ノムニ [t:白浦] ユタニ [t:白浦]
	キタゴヨウ	チカフア [t:美幌]
ヤナギ	オノエヤナギ	スス [n/ t:北海道、樺太/ f] イナウニス [f] シウス [t:名寄]
	エゾノバコヤナギ	チニスス [t:名寄/ k] メロマイ [t:名寄] メレマイ [t:真岡、白瀬] メネマイ [t:真岡、白瀬] メネマニ [t:真岡]
	ギ	メロマイ [t:名寄] シス [t:名寄] アハス [t:根、美]
ハコヤナギ	ドロノキ	ヤイニ [n/ t:根、樺、砂、子/ f/k] クルニ [t:美幌] クルシニ [t:足寄] ベトルクルニ [t:根]
	ヤマナラシ	クルニ [t:根、美]
オニグルミ	オニグルミ	ネシコ [n/ t:長万部、樺別、樺太、千歳/ f/k] ニスムナクニ [f:樺別]
クマシデ	サウシバ	パセニ [n/ t:長万部/ k] ヤカバカ [t:美幌、根、美]
アサダ	アサダ	セイカバカ [t:樺別、美幌、根、美] セイカバカ [k]
カバノキ	シラカンバ	レタツタニ [t:平取、樺別/ f/k] カバツタニ [t:長万部] キタニ [t:美幌、根、美] ベタニ [t:長万部、樺別、美幌] ベツタニ [t:有珠]
	ウダイカンバ	シタニ [n/ t:美幌、根、美] 足寄、名寄、樺別、長万部
ハンノキ	ハンノキ	ニツタケニ [t:樺別、樺太/ k]
	ケヤマハンノキ	ケネ [n/ t:北海道全域/ f] イウケネ [k]
コナラ	ミズナラ	ペロ [n/ k] ペロニ [t:長万部、樺別、樺太] ペロコニ [t:美幌、根、美]
	コナラ	チカフベロニ [t:樺別]
	カシワ	コムニ [n/ t:根、樺、美] トランニ [n/ t:根、樺/ k] シコムニ [t:根、樺、美] トウニ [t:根]
クリ	クリ	ヤムニ [n/ t:長万部、樺別、平取/ k] ヤムニウヘ [f]
ブナ	ブナ	ピラニ [t:樺別]
ニレ	ハルニレ	チキサンニ [n/ t:北海道/ f/k] チキサンニ [t:美幌、根、美] ボナニ [t:美幌] カラニ [t:白浦、真岡]
	オヒヨウ	アツニ [t:北海道/ f/k] アハニ [t:白浦、真岡]
クワ	ヤマダワ	トベレンベニ [n/ トラレンニ [n/ t:長万部、礼文島、虻田、有珠、樺別、白老、島川、樺別、千歳、沙流/ k] チレニ [t:美幌、根、美] 近文、真岡/ f]
カブラ	カブラ	ランコ [t:北海道全域/ f/k]
モクレン	ホノノキ	プシニ [t:北海道各地/ k] イカヨニ [t:美幌、根、美]
	キタゴフシ	オマウラニ [t:北海道各地/ k] マウラニ [t:阿寒] オマニ [t:樺別、名寄、美幌、根、美]
アジサイ	ノリウツギ	ラスパニ [t:根、樺、美] クスバ [t:根、樺、美] オサ [t:根、樺、美]
サクラ	エゾヤマザクラ	カラバニ [n/ t:長万部、虻田、室蘭、樺別、白老、樺別、平取、千歳、名寄] カルバニ [t:美幌、根、美]
	ミヤマザクラ	レタケカルバニ [t:阿寒]
	シウリザクラ	シウリ [n/ t:北海道、樺太]
	ウツミザクラ	チカフベロキニ [n] キニ [t:北海道、樺太/ f]
ナナカマド	ナナカマド	イフキニ [n/ t:根、樺、美] キムキニ [n] キニ [t:美幌] フラチナニ [t:美] マウラニ [t:美幌] イナウニ [t:白浦] パセニ [t:名寄] マウネ [t:根、美] レンクリナウニ [t:礼文島]
	アズキナ	チカセツタニ [t:美幌、根、美]
イヌエンジュ	イヌエンジュ	チュウベニ [n] チラベニ [t:北海道全域/ f] チラベニ [t:美幌、根、美]
ハギ	エゾギマハギ	シシケ [t:根、樺、美] スンケ [t:美、根、阿] ヌツシケ [t:近文/ f] ヌツカウ/ スンケ [t:根] シシケ [t:白浦] シシケカムイ [t:根] イタルイカムイ [t:根] イタルイニ [t:白浦]
キハダ	キハダ	シケハベニ [n/ t:北海道全域] セツシケハベニ [t:美幌] シケレベニ [t:真岡] シケレバニ [t:白浦] チラマラニ [t:多摩川]
ニガキ	ニガキ	シウニ [t:長万部、樺別、樺太/ f/k] ヌウライケニ [t:伏伏、樺別、足寄、根、美]
ウルシ	ヤマウルシ	ウシアチ [t:樺別] ウツシニ [t:樺別、長万部] フツシニ [t:美幌、根、美]
ニシキギ	ニシキギ	ラブシニ [t:根、樺、美]
	マユミ	カスニ [t:根、樺、美] ケスニ [t:名] ケプリニ [t:根、美]
	フリバツ	クニ [t:美幌、根、美]
ミツバウツギ	ミツバウツギ	エソロカニ [t:根、美]
カエデ	イタヤカエデ	トベニ [n/ t:美幌、根、美] トベニ [t:北海道/ k] シトベニ [t:美幌] ニシトベニ [t:樺太] オニトベニ [t:根、美] ヌツシケカニ [t:真岡]
	ヤマモミジ	イワトベニ [t:北海道各地]
トチノキ	トチノキ	トチニ [t:樺別]
シナノキ	シナノキ	ニベニ [t:長万部、虻田、有珠、室蘭、樺別、樺太、千歳、沙流、名寄/ f/k] タベレケニ [t:美幌、根、美] タベレケニ [t:伏伏、樺別] シベレニ [t:樺別]
	オオバボダイジュ	ヤイニベニ [t:長万部、樺別]
サルナシ	サルナシ	クツツツツカニ [t:北海道各地] クツツツツカニ [k] クツツ [n]
コシアブラ	コシアブラ	コトルシニ [t:樺別、樺太] コトルシニ [t:沙流、島川、樺別、千歳、樺別、近文] ピラツカニ [t:樺別]
ハリギリ	ハリギリ	アユシニ [n/ t:長万部、礼文島、樺別、根、美] アシニ [t:名寄]
トネリコ	ヤチダモ	ピシニ [n/ t:北海道、樺太/ f/k] ヤチトウニ [t:真岡]
	アサドモ	イワニ [t:北海道/ k]
ハシドイ	ハシドイ	プシカウ [n/ t:北海道/ f/k] プシニ [t:美幌、根、美]
ニワトコ	エゾニワトコ	ソコニ [n/ t:樺別、樺太、樺太] ソコニ [t:美幌、根、美] オシベニ [t:根、美] オシベニ [t:根、美] オシベニ [t:根、美] オシベニ [t:白浦] ソコニ [t:真岡]
ササ	オシベ	イキツ [t:美幌、阿寒] イタツ [t:美幌]
	トマゴリダテ	アムニツ [t:根、美] ルムネツ [t:根、美]

丸 樺
長:長万部 樺:樺別 樺:樺別 沙:沙流 千:千歳 名:名寄 根:根 伏伏:伏伏 平:平取 足:足寄
旭:樺別 有珠:有珠 足:足寄 根:根 樺:樺別 島川:島川 樺:樺別 千歳:千歳 樺:樺別 阿:阿寒
n:中川 近(1995)「アイヌ語千歳方言辞典」、京成館
f:福岡ト子(1993)「アイヌと植物」、旭川県立大学
k:加藤真志保(1987)「知里真志保著作集」分類学辞典 植物編・動物編、平凡社
t:豊野 茂(1996)「豊野 茂のアイヌ語辞典」、三省堂

Ⅶ 自然科学的分析



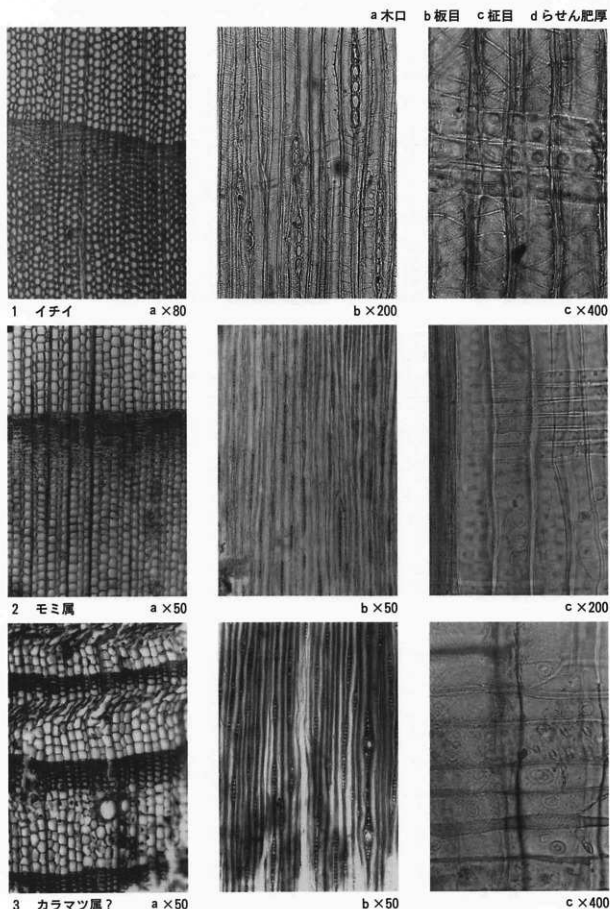
図Ⅶ-1-1 木製品の樹種組成(1)



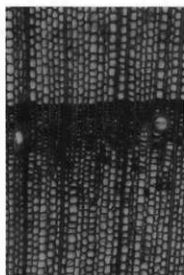
図Ⅷ-1-2 木製品の樹種組成(2)

表Ⅷ-1-3 主な製品別樹種組成

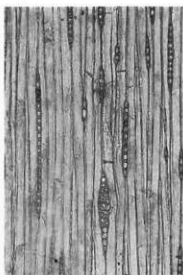
製品別	舟楫係	車輦先台部	車輦後台部	車輦	早稲	早稲握部	あか汲み	回転式廻り扇	魚釣具	矢筈係	小刀・木刀・山刀	扇	櫓	ヒキリ棒	ヒキリ板	伊釣	漆塗板	片口箸	片口箸	樽酒蓋状製品	建材	立杭	合計	
イチイ		2						2	1	1	2	1							2	4			15	
モミ	2	19	3		1			1	3				3							3	1		36	
トウヒ		1																					1	
マツ	1																						1	
スギ/スギ?	3	3			1	4			1	1	6			9	2	1		40	23	46	1		141	
キヌコ?											2			1						5			8	
ヒノキ?	2	1	3					1			1		1	3	5	2		15	2	23			59	
アスナロ?	2						1				3			2				11	5	15			39	
ヤナギ	6	2	3	1	6		2	1	2	1	1	4	3			8				4	1	5	50	
ハコヤナギ	2	1			1	1		1			1												7	
オニグルミ	2	3	1		1	1					1			1						1			11	
クマシダ												4	2								2	20	28	
アサダ					5			1						1									7	
カバノキ										1	1					1					4	6	15	
ハノキ	13	15		6	7	6	14					5	8			2	1				5	53	135	
コナラ	5	2	7		2			2	3	1	1	11	10		1	1			1	1	35	82	165	
クワ/クワ?	4	1																					6	
ザクザク?																		1					33	
ニレ													1	7	4	3							16	
カヤキ/カヤキ?																		7					7	
カワ	1	1	9					3		1		1	1	1									18	
カツラ	9	3	1		2	1	3	3			1					1	4						28	
カクレン	1	16	3	14	17	2	3	1	2			8	2	1		2		1	1		2	1	78	
アジサイ			4					84	17	44				2				28	82	2			263	
サカウ	1	2	3	5	7			1	1		1	8	3					1	1	1	2	4	40	
オチヤナギ														1									10	
リンゴ								1						1								2	6	10
イヌエングス														2									2	
ハダ											3												3	
キハダ	1	1	6	2	1	1	1	1	1												1	2	14	31
ニギキ			2																					3
ウルシ			1					1				1												4
ニシキギ			1					1				1												3
カエデ	1	3	35			1	1	6	5	2	20	9	5								10	21	119	
トネリコ			5																					13
シナノキ	14			1													8						16	
キツナ?										1							1						1	
ハリギリ	40	3			1		12				1			1	1						3	3	65	
ミズキ											1	1												2
ハイノキ																				1				1
トネリコ	5	2	13	5	10			1	2			3	2					1			3	4	4	55
ハシドイ	1			1				3	2	4		6	2								1			21
ムラサキシキ?																	1							1
ヤマシ?	1																							1
合計	118	85	87	41	65	17	37	113	42	60	52	61	43	23	19	25	51	97	116	112	74	221	1559	



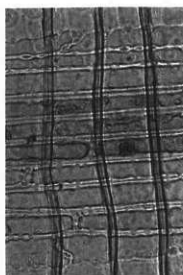
図Ⅷ-1-3 木製品の樹種 顕微鏡写真(1)



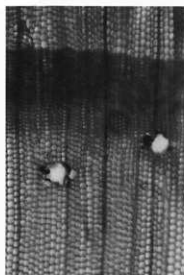
4 トウヒ属 a × 80



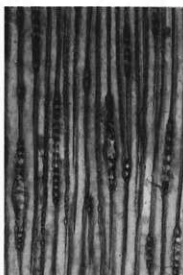
b × 100



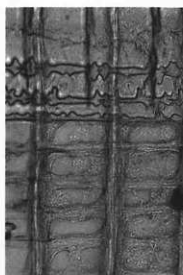
c × 400



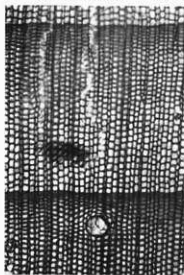
5 マツ属 (二葉松類) a × 40



b × 100



c × 400



6 マツ属 (五葉松類) a × 40

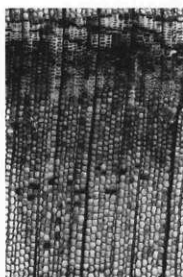


b × 100



c × 400

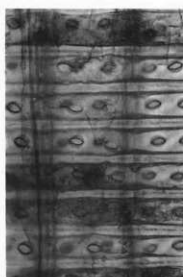
図Ⅷ-1-4 木製品の樹種 顕微鏡写真(2)



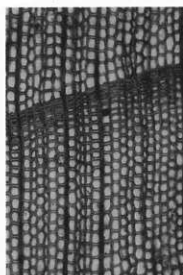
7 スギ a ×50



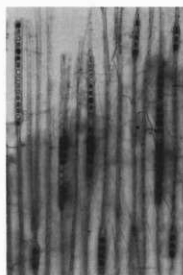
b ×50



c ×500



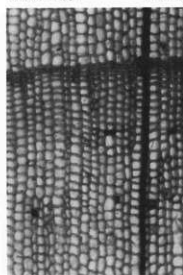
8 ネズコ属? a ×80



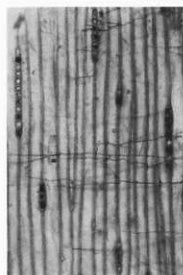
b ×100



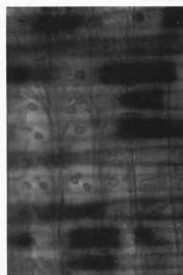
c ×400



9 ヒノキ属? a ×80



b ×100



c ×400

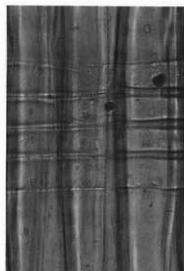
図Ⅷ-1-5 木製品の樹種 顕微鏡写真(3)



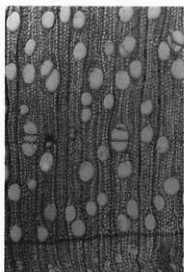
10 ヒノキ属?アスナロ属? a × 40



b × 100



c × 400



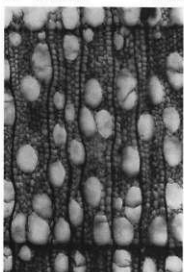
11 ヤナギ属 a × 50



b × 50



c × 100



12 ハコヤナギ属 a × 50

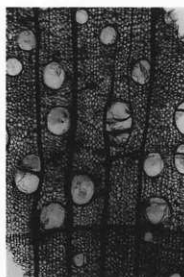


b × 50



c × 50

図Ⅷ-1-6 木製品の樹種 顕微鏡写真(4)



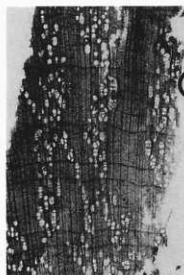
13 オニグルミ a × 40



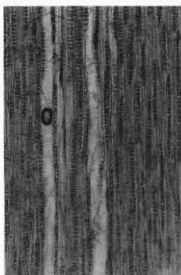
b × 50



c × 50



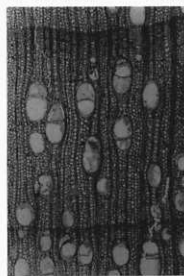
14 クマシダ属 a × 50



b × 50



c × 100



15 アサダ a × 40

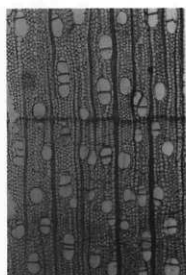


b × 50



c × 50

図Ⅶ-1-7 木製品の樹種 顕微鏡写真(5)



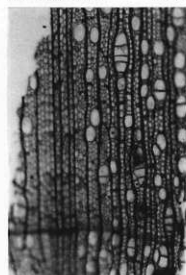
16 カバノキ属 a × 50



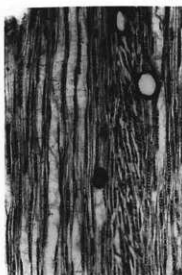
b × 50



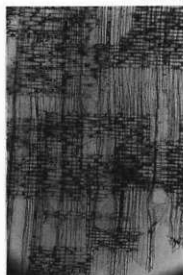
c × 100



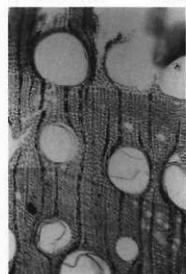
17 ハノノキ属 a × 50



b × 40



c × 50



18 コナラ属 a × 50

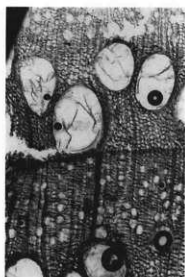


b × 50



c × 50

図Ⅶ-1-8 木製品の樹種 顕微鏡写真(6)



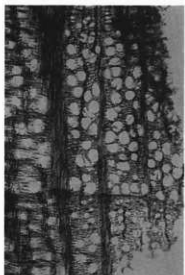
19 クリ a × 40



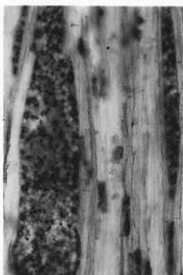
b × 50



c × 50



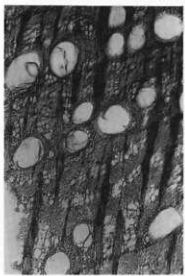
20 ブナ属 a × 80



b × 100



c × 200



21 ニレ属 a × 50



b × 100



c × 100

図Ⅷ-1-9 木製品の樹種 顕微鏡写真(7)



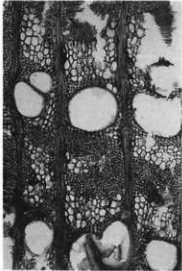
22 エノキ属? a × 40



b × 80



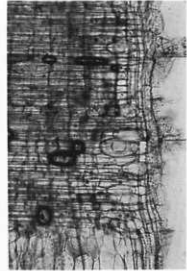
c × 100



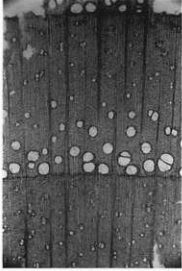
23 ケヤキ属 a × 40



b × 100



c × 100



24 クワ属 a × 20



b × 100



d × 400

図Ⅶ-1-10 木製品の樹種 顕微鏡写真(8)



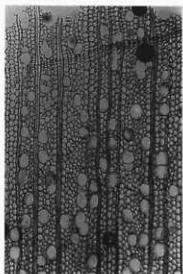
25 カツラ a × 80



b × 100



c × 100



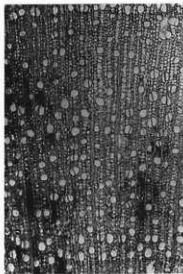
26 モクレン属 a × 50



b × 50



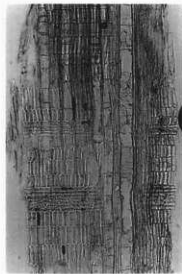
c × 50



27 アジサイ属 a × 50

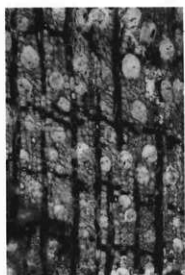


b × 50



c × 50

図Ⅷ-1-11 木製品の樹種 顕微鏡写真(9)



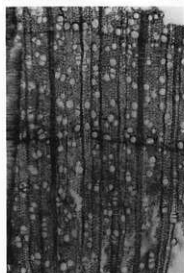
28 イスノキ a × 80



b × 100



c × 100



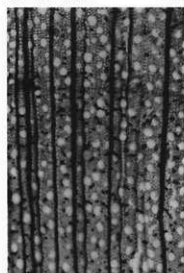
29 サクラ属 a × 50



b × 100



c × 100



30 ナナカマド属 a × 50

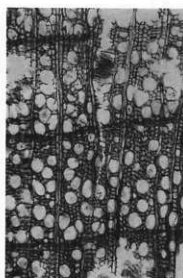


b × 100

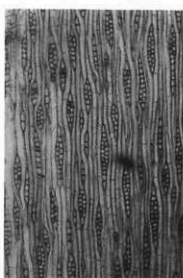


c × 100

図Ⅷ-1-12 木製品の樹種 顕微鏡写真 (10)



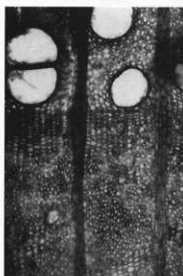
31 リンゴ属?ハシドイ属? a × 80



b × 80



c × 100



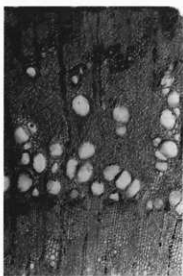
32 イヌエンジュ属 a × 80



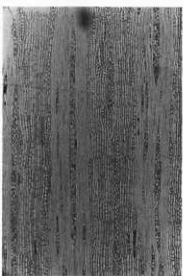
b × 200



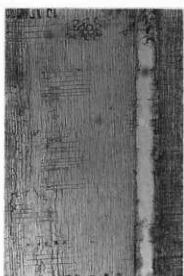
c × 200



33 ハギ属 a × 50

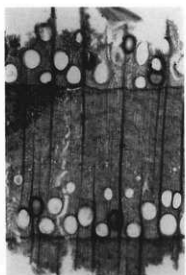


b × 50

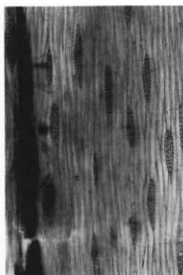


c × 50

図Ⅷ-1-13 木製品の樹種 顕微鏡写真 (11)



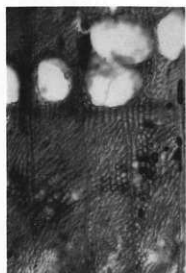
34 キハダ属 a × 20



b × 50



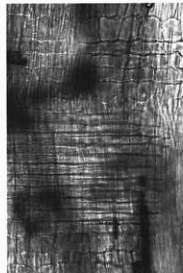
c × 50



35 ニガキ a × 80



b × 200



c × 200



36 ウルシ属 a × 80

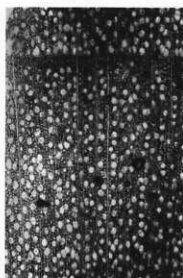


b × 100



c × 100

図Ⅷ-1-14 木製品の樹種 顕微鏡写真 (12)



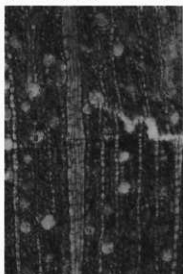
37 ニシキギ属 a × 50



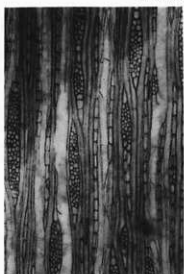
b × 100



c × 100



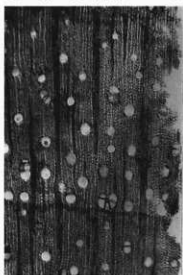
38 ミツバウツギ属? a × 80



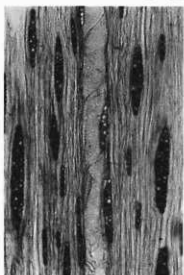
b × 80



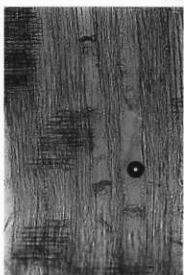
c × 100



39 カエデ属 a × 50

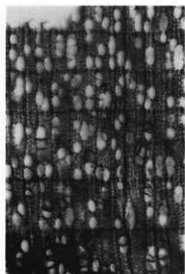


b × 100



c × 100

図Ⅶ-1-15 木製品の樹種 顕微鏡写真(13)



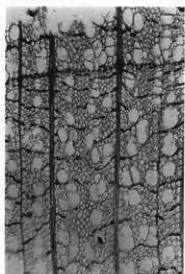
40 トチノキ a × 50



b × 50



c × 100



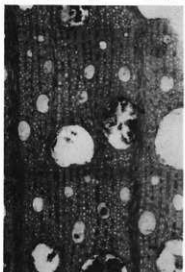
41 シナノキ属 a × 50



b × 100



c × 100



42 サルナシ属? a × 40

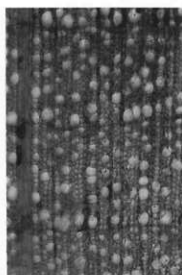


b × 80

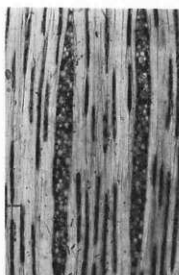


c × 80

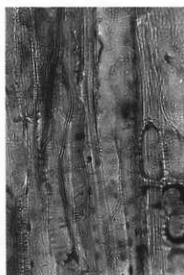
図Ⅷ-1-16 木製品の樹種 顕微鏡写真 (14)



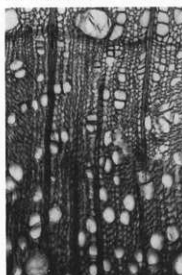
43 キブシ属? a × 100



b × 100



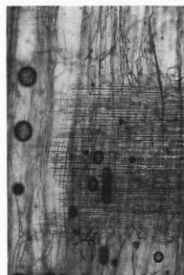
d × 400



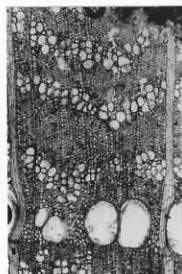
44 コシアブラ a × 80



b × 100



c × 100



45 ハリギリ a × 40

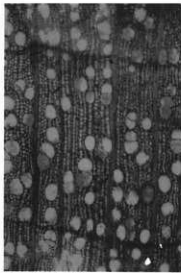


b × 50



c × 50

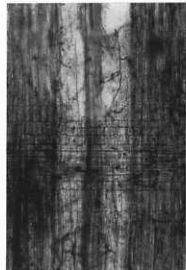
図Ⅷ-1-17 木製品の樹種 顕微鏡写真 (15)



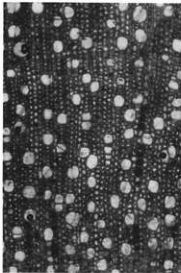
46 ミズキ属? a × 40



b × 100



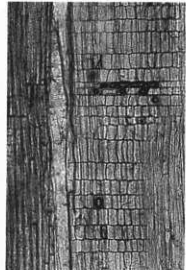
c × 100



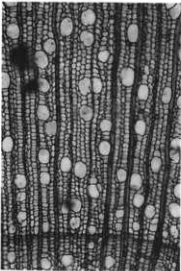
47 ハイノキ属 a × 80



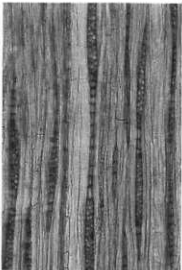
b × 100



c × 100



48 タニウツギ属?ハイノキ属? a × 80

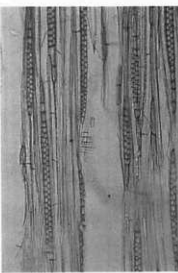
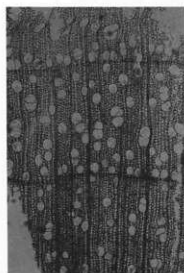
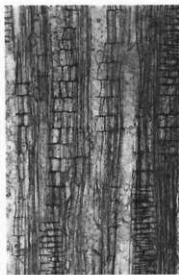
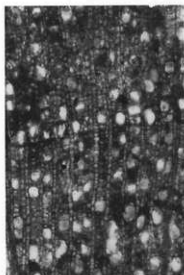


b × 100



c × 200

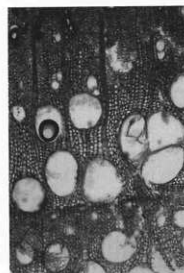
図Ⅷ-1-18 木製品の樹種 顕微鏡写真(16)



50 エゴノキ属? a × 40

b × 100

c × 100

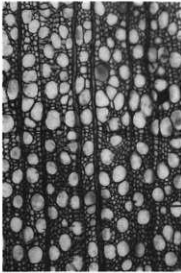


51 トネリコ属 a × 40

b × 100

c × 100

図Ⅷ-1-19 木製品の樹種 顕微鏡写真 (17)



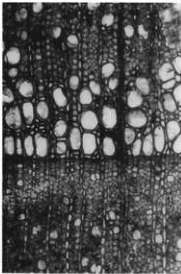
52 ハシドイ属 a × 80



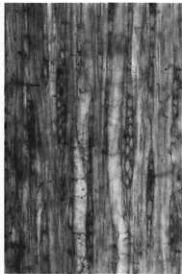
b × 100



d × 800



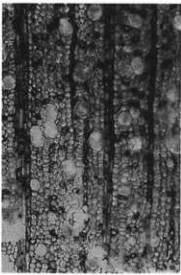
53 イボタノキ属? a × 80



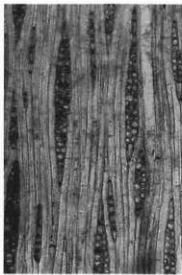
b × 100



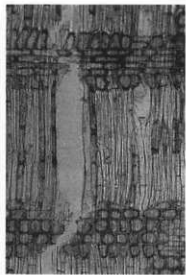
c × 200



54 ムラサキシブ属? a × 100

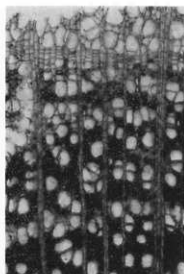


b × 100

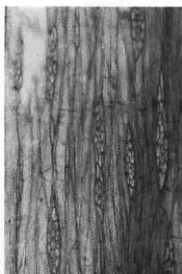


c × 100

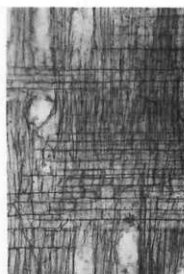
図Ⅷ-1-20 木製品の樹種 顕微鏡写真 (18)



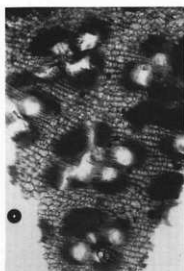
55 ニワトコ属 a × 100



b × 100



c × 100



56 ササ/タケ a × 40



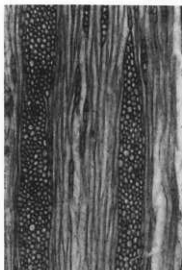
b × 40



c × 40



57 ツル性植物 a × 40



b × 80



c × 100

図Ⅷ-1-21 木製品の樹種 顕微鏡写真 (19)

2 動物遺存体の分析

(1) 採取試料と分析の方法 (図Ⅷ-2-1・2、表Ⅷ-2-1・2)

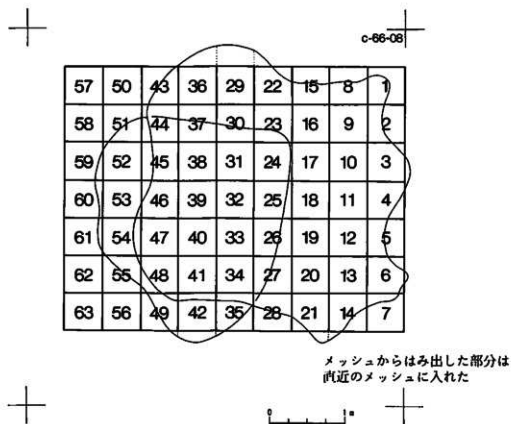
動物遺存体は遺構、包含層の両方から出土している。取上げ方法は、遺存体を直接採取、土壌ごと採取の2種類あった。直接採取は包含層の手掘り調査で、土壌ごと採取は遺構とメインセクションのブロックサンプリングとクラムシェル調査で実施した。

土壌ごと採取した試料にたいしては、ウォーターセパレーション法、フローテーション法と両者の組合せの3種類がある。このうちウォーターセパレーション法はクラムシェル調査、ウォーターセパレーション法+フローテーション法は遺構(クリ集中、クルミ集中、ホノキ集中は直接採取)、フローテーション法はメインセクションのブロックサンプリングと灰集中10の15.9%に対して実施した。なお、調査土量・対象遺構については表Ⅷ-2-1・2を参照していただきたい。

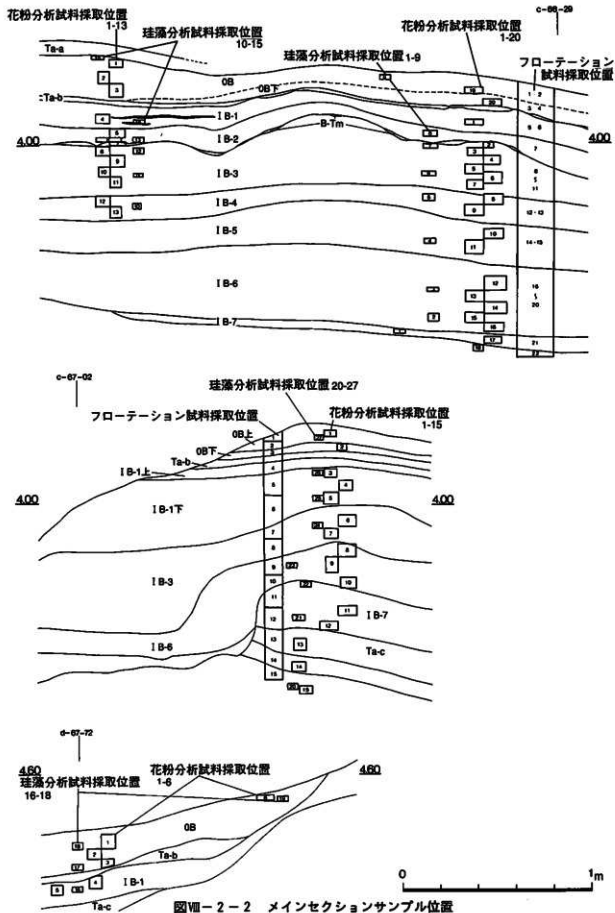
ウォーターセパレーション法では、4mm・2mm・1mmのメッシュを使用した。フローテーション法では、1.41mm・0.425mmのメッシュを使用した。ウォーターセパレーション法+フローテーション法では4mm・2mm・1.41mm・0.425mmのメッシュを使用した。

選別にあたっては肉眼と照明拡大鏡(×2)、抽出にあたっては照明拡大鏡(×2)と双眼実体顕微鏡(×6.6~×40、ニコンSMZ-10)、同定にあたっては双眼実体顕微鏡(×6.6~×40、ニコンSMZ-10)を使用した。遺存体重量の計測には電子上皿天秤(最小目盛0.000g)を使用した。

植物遺存体について、メインセクションと灰集中10の15.9%土壌試料は、選別、抽出、同定を吉崎・椿坂両氏にお願いした。残りの選別、抽出は当センターで行い、同定は吉崎昌一・椿坂恭代両氏の指導のもとに鈴木が行った。動物遺存体について、選別、抽出は当センターで、同定は鈴木が行い、同定の確認・決定を高橋理氏にお願いした。



図Ⅷ-2-1 灰集中10のブロック番号



(2) 出土動植物遺存体表の見方について(表Ⅳ-2-3~17)

植物遺存体:表Ⅳ-2-3は表Ⅳ-2-4~10をまとめたものである。ます内の◎・○は多少を表している。多寡の基準は同一種・属・科における各遺構間の相対的評価である。

表Ⅳ-2-4はメインセクション出土の種子についての表である。

表Ⅳ-2-5・11・12は栽培種子の表である。灰集中の下に焼土が形成されていないこと、炭化物集中のなかに未炭化遺存体があることなどから、遺構の性格の把握のため炭化・未炭化を分類して、イネ科雑穀については、脱穀・保存・利用などの観点から穎(穎)・有稃果(穎付の実)・穎果(実)を分類し、シソに関してはシソとエゴマの分離基準のひとつが粒長2.5mmであることから分類した。

表Ⅳ-2-6・13はオニグルミ果皮の表である。上述より炭化・未炭化、個体数推定や子葉の取出し方の推定のため、割れ方の分類を設けた。縫合面割れは縫合面で割れている個体の残り具合。偏割れは縫合面で割れていない個体の残り具合。不明四分の一以下は、個体数推定や子葉の取出し方の推定に寄与しないくらい細かく割れているものである。

表Ⅳ-2-7・13はクリの表である。個体数推定や子葉の取出し方の推定についてなどオニグルミと類似点があるのでほぼ同じ形式の表にした。ことなる点は、果皮の遺存状態がオニグルミほどよくないので割れ方を簡略し、子葉が遺存していたので分類に加えたことである。

表Ⅳ-2-1 全遺構の調査土量

遺構名	層位	平面積 (m ²)	サンプル 掘重量 (kg)	浮遊物量 +残重量 (g)	浮遊物量 (g)	残重量 (g)
灰集中1	炭土層 I	0.40	1.31	167.9	0.2	167.7
灰集中2	炭土層 I	0.25	0.84	107.8	0.2	107.6
灰集中3	炭土層 II	0.65	0.63	80.1	(+)	80.1
灰集中4	炭土層 II	0.38				
灰集中5	炭土層 II	0.55				
灰集中6	炭土層 II	0.06				
灰集中7	炭土層 II	0.26				
灰集中8	炭土層 II	0.09				
灰集中9	炭土層 II	0.10				
灰集中11	炭土層 II	8.04	5.00	640.3	196.5	441.8
灰集中10	第1灰層	13.29	1120.73	154839.0	66953.1	88885.9
灰集中10	第2灰層	9.06	197.12	23542.8	9373.9	14168.8
灰集中12	OB層 上面	3.71	10.14	1299.02	334.2	964.8
灰集中13	OB層 上面	4.90	12.62	1617.0	690.0	927.0
灰集中15	OB層	1.28	0.98	125.6	33.9	91.7
灰集中16	OB層	2.14	28.4	3637.0	1470.0	2167.0
灰集中17	OB層	0.13	16.1	2061.7	66.9	1995.8
灰集中18	OB層	0.09	0.86	109.7	58.3	51.4
灰集中19	OB層	0.17				
灰集中20	OB層	0.33	3.00	384.63	361.9	22.7
灰集中14	OB層 下層	1.21	27.91	3576.0	3005.0	571.0
灰集中22	I B-1層	1.61	29.59	379.1	144.1	235.0
灰集中21	I B-2層	0.10	1.52	194.2	9.9	184.3
砂集中1	OB層	1.37				
砂集中2	OB層	0.38				
砂集中3	I B1層	0.98	0.76	97.0	(+)	97.0
炭化物集11	炭土層 I	0.12	1.90	243.62	86.7	157.1
炭化物集14	OB層 上面	0.27	1.30	166.22	67.9	98.3
炭化物集17	OB層 上面	0.12	0.58	73.82	66.4	7.4
炭化物集19	OB層 上面	0.73	6.23	798.82	732.1	66.7
炭化物集110	OB層 上面	0.39				
炭化物集111	OB層 上面	0.39	0.68	86.83	79.9	6.9
炭化物集112	OB層 上面	0.20	0.66	84.1	72.3	11.8
炭化物集113	OB層 上面	0.36	0.20	25.92	21.5	4.4
炭化物集115	OB層	0.21	0.69	56.6	69.2	19.4
炭化物集116	OB層	1.28	2.60	333.33	259.8	73.5
炭化物集114	OB層	0.30	1.79	229.2	167.7	61.5
炭化物集115	OB層	0.30	1.07	136.52	97.6	38.7
炭化物集116	OB層	1.12	1.72	220.9	213.6	7.3
炭化物集117	OB層	1.04	3.86	494.0	466.0	28.0
炭化物集120	OB層	0.41	1.68	214.6	184.6	30.0
炭化物集121	OB層	0.53	2.84	363.5	348.6	17.9
炭化物集129	OB層	0.03	0.88	110.0	48.0	62.0
炭化物集130	OB層	0.09	0.13	16.1	12.1	4.0
炭化物集112	OB層 下層	0.62	0.16	20.9	12.9	8.0
炭化物集113	I B-1層	2.35	1.65	211.52	184.6	26.9
炭化物集118	I B-1層	0.16	1.23	157.62	151.69	6.1
炭化物集122	I B-1層	10.19	16.04	1928.3	151.7	1774.6
炭化物集123	I B-1層	0.07	0.38	49.0	44.0	5.0
炭化物集125	I B-1層	0.08	0.47	60.0	22.0	38.0
炭化物集126	I B-1層	0.24	1.98	253	93	159.0
炭化物集127	I B-1層	0.30	1.29	165.3	4.3	161.0
炭化物集128	I B-1層	0.12	3.25	413.0	342.0	70.0
炭化物集131	I B-1層	1.73	1.78	228.0	169.0	59.0
炭化物集124	I B-3層	0.15	0.69	86.0	15.0	73.0

表Ⅷ-2-2 灰集中10の調査土量

灰集中10		題文センター作業分				吉崎・橋坂氏作業分				
層名	ブロック名	浮遊物量 (g)	残渣量 (g)	浮遊物量 +残渣 (g)	サンプル 湿重量 (kg)	浮遊物量 (g)	残渣量 (g)	浮遊物量 +残渣量 (g)	サンプル 湿重量 (kg)	サンプル 容積 (l)
第1灰層	1	193.9	118.5	312.4	2.31					
第1灰層	2	213.5	531.1	744.6	5.50					
第1灰層	3	676.4	1273.1	1949.5	14.39	270	860	1130	8.34	10.0
第1灰層	4	740.6	1691.1	2431.7	17.95					
第1灰層	5	300.8	1325.1	1625.9	7.61					
第1灰層	6	187.3	1915.1	2102.4	7.08					
第1灰層	7	85.4	392.4	477.8	3.21					
第1灰層	8	170.2	190.2	360.4	2.66					
第1灰層	9	317.7	1183.1	1500.8	11.27					
第1灰層	10	1642.3	3582.3	5224.6	39.23					
第1灰層	11	1889.9	1832.1	3722.0	3.73					
第1灰層	12	1508.9	2076.1	3585.0	16.77	112	850	962	4.50	5.5
第1灰層	13	1112.0	2469.2	3581.2	16.76					
第1灰層	14	509.8	841.1	1350.9	9.09	446	272	718	4.83	6.0
第1灰層	15	537.6	557.6	1095.2	8.22					
第1灰層	16	958.1	964.1	1922.2	14.43	224	386	610	4.58	5.0
第1灰層	17	1417	1134.1	2551.1	19.15					
第1灰層	18	2048.7	1473.2	3521.9	29.48					
第1灰層	19	1395.1	2070.2	3465.3	16.21					
第1灰層	20	1086.7	1118.1	2204.8	18.78	260	562	822	7.00	9.0
第1灰層	21	494.1	514.1	1008.2	5.67	374	592	966	5.43	7.0
第1灰層	22	320.1	340.1	660.2	3.70					
第1灰層	23	1495.0	798.1	2293.1	17.21					
第1灰層	24	1117.0	1014.1	2131.1	16.00					
第1灰層	25	7705.4	867.1	8572.5	71.76	272	606	878	7.35	9.0
第1灰層	26	1355.7	1020.1	2375.8	18.76					
第1灰層	27	1576.8	973.1	2549.9	20.14	286	556	842	6.65	8.0
第1灰層	28	970.1	420.1	1390.2	7.80					
第1灰層	29	197.1	151.1	348.2	1.60					
第1灰層	30	1016.0	381.1	1397.1	7.84	380	766	1146	6.43	9.0
第1灰層	31	1534.9	2117.0	3651.9	34.96					
第1灰層	32	2199.9	2382.0	4581.9	48.86	284	724	1008	9.65	10.5
第1灰層	33	1285.9	2240.0	3525.9	33.75					
第1灰層	34	1152.9	1126.0	2278.9	2.36	220	670	890	0.92	9.5
第1灰層	35	383.4	458.6	842.0	3.86					
第1灰層	36	196.4	87.4	283.8	1.30	596	768	1364	6.26	9.5
第1灰層	37	1024.8	1801.7	2826.5	15.86					
第1灰層	38	441.0	308.6	749.6	4.47	468	684	1152	6.87	9.0
第1灰層	39	1365.0	2477.98	3843.0	36.79					
第1灰層	40	3333.5	2935.9	6269.4	54.45					
第1灰層	41	1653.3	2166.5	3819.8	33.17	302	390	692	6.01	7.0
第1灰層	42	540.0	443.7	983.7	4.51					
第1灰層	43	178.5	221.4	399.9	1.81	468	1240	1708	7.74	10.0
第1灰層	44	1534.0	1750.2	3284.2	25.76					
第1灰層	45	1601.0	1155.4	2756.4	21.82	440	580	1020	8.00	9.5
第1灰層	46	2789.2	3594.5	6383.7	62.10					
第1灰層	47	2141.1	3144.1	5285.2	51.41	328	664	992	9.65	10.0
第1灰層	48	2432.9	3680.0	6112.9	59.47					
第1灰層	49									
第1灰層	53	947.9	1951.2	2899.1	16.44					
第1灰層	54	673.5	1594.4	2267.9	12.86	364	1100	1464	8.30	9.0
第1灰層	55	73.7	207.8	281.5	1.28					
第1灰層	位置不明	1969.1	4196.7	6165.8	35.96	168	358	526	4.66	6.0
第1灰層合計		62691.1	73257.88	135948.98	997.56	6262	12628	18890	123.17	158.5
第2灰層	30	134.9	424.0	558.9	4.62					
第2灰層	31	607.9	1444.0	2051.9	23.19					
第2灰層	32	415.0	297.0	712.0	5.89	168	370	538	4.45	5.0
第2灰層	33	590.6	224.0	814.6	6.74					
第2灰層	34	986.5	559.0	1545.5	14.32	346	730	1076	9.97	11.0
第2灰層	35					306	450	756	5.93	7.0
第2灰層	38	656.2	633.1	1289.3	14.57	200	468	668	7.55	7.5
第2灰層	39	119.1	89.3	208.4	1.72					
第2灰層	41	384.0	288.3	672.3	5.56					
第2灰層	42	517.5	562.9	1080.4	5.90					
第2灰層	45	194.5	331.9	526.4	4.81	160	514	674	6.16	7.0
第2灰層	47	95.9	404.0	499.9	4.57					
第2灰層	48	831.0	375.1	1206.1	11.02					
第2灰層	49	595.8	1129.1	1724.9	9.42	416	1240	1656	9.04	10.0
第2灰層	52	215.9	203.0	418.9	3.37	290	592	882	7.09	8.5
第2灰層	位置不明	797.1	2181.9	2979.0	23.37	346	658	1004	7.86	8.5
第2灰層合計		7141.9	9146.6	16288.5	139.07	2232	5022	7254	58.05	64.5
総計		69833	82404.5	152237.5	1136.63	8494	17650	26144	181.22	223

(3) 植物遺存体について

1) 美々8遺跡低湿度部から出土した栽培種子について

札幌国際大学教授 吉崎 昌一
北海道大学埋蔵文化財調査室 樺坂 恭代

(i) 扱った資料

- a. 資料の検出された遺跡：北海道千歳市美々8遺跡 c-66-08発掘区 灰集中10から得られたもの
b. 扱った資料の年代：西暦1667年降灰の樽前b火山灰層と西暦1739年降灰の樽前a火山灰層に挟まれる0黒層(0B層)が「灰集中10」の原層準である。「灰集中10」は、褐色泥炭層によって上下に細分され、上部のものが第1灰層、下部のものが第2灰層と区分されている。ただし、この堆積状況からみれば、両層の間にはさほどの時間差はなかった可能性がある。

(ii) 検出された栽培植物(図Ⅳ-2-3・4、表Ⅳ-2-5)

* 「灰集中10」第1灰層から抽出された加熱炭化した栽培植物種子は、以下の7種類が認められた。オオムギ?、イネ *Oryza sativa* L., ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno, アワ *Setaria italica*(L.)P.Beauv, アサ *Cannabis sativa* L., シソ属 *Perila* L., アズキ *Vigna angularis* Ohwi et ohashi.

これらの中でオオムギ?とした資料には若干の問題がある。図Ⅳ-2-4の11a, 11bに示した資料に見られるように、狭長な穎果の中央に縦走る溝(ventral groove)が認められるのであるが、粒形そのものはオオムギ?に比べて細長く、明確にオオムギ?と断定する根拠が薄弱である。未熟のムギの穎果あるいは野生の麦類であるかも知れないと考える。第2灰層から出土した例も同様な種類のものである。結論を控え?マークを付しておく。

アズキとしたマメ科の種子は、粒形およびヘソの形態と位置から判断される。日本考古学では小型の豆類はリュクトウ *Vigna radiata*(L.)Wilczekとして記載される場合が多いが、初生葉の形態による同定によれば、粒形とサイズのみでの分類は困難なケースが多く(吉崎1992, 1995)、殆どの場合がアズキまたは野生のアズキの仲間の誤認であると考えられる。しかし今回の出土資料は全ての点でアズキの特徴を備えている。

* 「灰集中10」第2灰層から抽出された加熱炭化した栽培植物種子には、以下の8種類が認められた。オオムギ?、イネ *Oryza sativa* L., キビ *Panicum miliaceum* L., ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et yabuno, アワ *Setaria italica*(L.)P.Beauv, アサ *Cannabis sativa* L., シソ属 *Perila* L., アズキ *Vigna angularis* Ohwi et Ohashi.

これ以外の遺構からも散漫に栽培植物が出土している。これらの栽培植物種子の種類および検出遺構に関しては表Ⅳ-2-5に示しておいた。このなかで、とくに注目されるものとしては炭化物集中6および炭化物集中20からはアサ *Cannabis sativa* L.破片がまとまって出土していること、また炭化物集中22からは図Ⅳ-2-4に示したように、1例ではあるがソバ *Fagopyrum esculentum* M oench.が検出された。

(ⅱ) 提起される問題

この遺跡から出土した栽培植物種子は、道央地区の近世アイヌ文化の栽培活動がどのレベルであったかについての重要な資料を提供するものである。また、表Ⅳ-2-5で分かるように、検出された栽培植物種子はアサを例外として、殆どの資料が炭化した状態で出土している。今回の報告では触れられなかったが、他の地点から得られている植物種子は酸化状態のものが殆どで、炭化したものはむしろ稀であった。この現象は、「灰集中10」の栽培植物種子はアサを除き殆どが加熱炭化の状態で出土しており、前述したように他の地点・地層から検出された野生の草本種子とは大きく性格が異なっている。ただし、「灰集中10」の灰や焼土が、現地で生成されたものか、廃棄された結果なのかについて考古植物学上からの情報は無い。したがって加熱炭化された栽培植物種子が、どのような過程でここに含まれていたのかについて判断するための十分な手がかりはない。

この点に関して、もう一つ留意しておきたい現象がある。「灰集中10」から出土した栽培植物種子は、これまで我々が関わってきたどの縄文文化の竪穴住居の資料とも異なり、イネを除くイネ科雑穀の有ふ果の出現率が高いことが注目される。たとえば、第1灰層から出土した完形のヒエをみると、出土したものの約半数が有ふ果である。同じ第2灰層の例では約70%が有ふ果であった。アワも似たような傾向を示す。

くり返すが、これまで我々の扱った縄文文化の竪穴住居から検出されるアワ・ヒエ・キビなどのイネ科雑穀は、その殆どが内外穎を残さない穎果（果実）の状態で出土していた。つまり、縄文文化の竪穴住居内から得られるイネ科雑穀は、完全に脱穀した状態で出土し、今回の近世アイヌ文化に属する「灰集中10」から出土した資料は未脱穀あるいは不完全な脱穀状態で出土していることになる。おそらく、調査者の指摘するとおり、この違いは「灰集中10」が「もの送り場としての灰捨て場」としての性格を持っていたからに他ならないであろう。今後、このような儀礼的廃棄スポットの歴史的な変遷を、考古学的手法で早急に追求することが必要だと考える。

なお、環境指標植物種子や総合的な植物複合体については、分析分担が異なるので別項を参照されたい。

(引用文献)

吉崎昌一

1992: 古代雑穀の検出 考古学ジャーナル 355号 pp.2-14

1995: 日本における栽培植物の出現 季刊 考古学 第50号 pp.18-24 雄山閣出版 東京

表Ⅳ-2-4 メインセクションの種子

発源区	サンプル番号	層位	サンプル量	採取資料	放射線子	木本種子	草本種子
			(g)				
c-66-090の放注							
c-66-09		08層上層	6.00	1,826 ア7、アサ		ハラウ属、ブドウ属	タデ属、ナデシコ科、アカザ属、ヒユ科、カヤツリグサ科
c-66-09		08層下層	3.50	1,062 ア7		タラノキ属	タデ属、ナデシコ科、アカザ属、カタバミ属
c-66-09		Tr-b	2.00	1,288 ア7		ブドウ属、ニトコ属	タデ属、アカザ属、カヤツリグサ科
c-66-09		1B-1層	10.50	4,402 ヒエ		ブドウ属	アカザ属、アカザ属、キイチゴ属、カヤツリグサ科
c-66-09		1B-2層	2.50	444 ア7、ヒエ、キビ、シソ属、アサ		ハラウ属、ブドウ属、タラノキ属	アカザ属、カヤツリグサ科
c-66-09		B-Tm	0.40	122		ブドウ属	カヤツリグサ科
c-66-09		1B-3層	9.00	1,082			アカザ属、アカザ属、カヤツリグサ科
c-66-09		1B-4層	6.00	790			カヤツリグサ科
c-66-09		1B-5層	6.00	1,492			カヤツリグサ科
c-66-09		Tr-c	3.00	1,746			カヤツリグサ科
A-B5インセグジョン							
c-66-19	1-2	08層上層	7.00	1,554 ヒエ、ア7		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属、ニトコ属	タデ属、キンポウグ属、キイチゴ属、ナス科、カヤツリグサ科
c-66-19	3-4	08層下層	6.00	2,096 ア7、ヒエ		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属、ニトコ属	タデ属、キイチゴ属、ナス科、カヤツリグサ科
c-66-19	5-6	1B-1層	7.00	948 シソ属、ア7		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属、ニトコ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	7	1B-2層	3.00	306 ア7		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属、ニトコ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	8-9-10-11	1B-3層	15.50	1,652		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属、ニトコ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	12-13	1B-4層	6.00	436		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属、ニトコ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	14-15	1B-5層	8.50	502		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	16-17-18-19-20	1B-6層	18.50	496		クマシデ属、ホノノキ属、サルナシ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	21	1B-7層	3.00	2		クマシデ属	アブラナ科、アブラナ科、カヤツリグサ科
c-66-19	22	Tr-c	3.00	2,826		クマシデ属	アブラナ科、アブラナ科、カヤツリグサ科
D-C3インセグジョン							
d-67-91	1	08層上層上層	3.00	448 ア7、ヒエ、ア7		ハラウ属、タラノキ属	タデ属、アカザ属、カタバミ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	2	08層上層下層	4.50	434		キハダ属、タラノキ属	タデ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	3	08層下層	3.00	342 ヒエ			タデ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	4	1B-1層上層	3.50	168 ヒエ		クルミ属	タデ属、アブラナ科、カヤツリグサ科
d-67-91	5	1B-1層下層上層	3.00	270 ヒエ、キビ		タラノキ属	タデ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	6	1B-1層下層下層	3.50	246 シソ属		タラノキ属	タデ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	7	1B-2層上層	3.00	250		ホノノキ属、ミフバウツギ属、ブドウ属	タデ属、カヤツリグサ科
d-67-91	8	1B-2層下層	3.00	110		アブラナ科	
d-67-91	9	1B-6層上層	3.00	284		タラノキ属	カヤツリグサ科
d-67-91	10	1B-6層下層	3.00	32		ホノノキ属	カヤツリグサ科
d-67-91	11	1B-7層上層	3.00	18		サルナシ属	カヤツリグサ科
d-67-91	12	1B-7層下層	2.00	1,454		クマシデ属	タデ属、カヤツリグサ科
d-67-91	13	Tr-c	3.00	170		クマシデ属	タデ属、カヤツリグサ科

表Ⅷ-2-6 全遺構のオニグルミ

オニグルミ		炭化・動物食痕なし					未炭化・動物食痕あり					未炭化・動物食痕なし					点数	重量				
		完	結合面割	個割れ	不明	点数	完	結合面割	個割れ	不明	点数	完	結合面割	個割れ	不明	点数						
遺構名	層位	形	1/2以上	1/2未満	1/2以上	1/4未満	計	形	1/2以上	1/2未満	1/2以上	1/4未満	計	形	1/2以上	1/2未満	1/2以上	1/4未満	計	合計	合計(g)	
灰集中1	表土層Ⅰ																					
灰集中2	表土層Ⅰ																					
灰集中3	表土層Ⅱ																					
灰集中4	表土層Ⅱ																					
灰集中5	表土層Ⅱ																					
灰集中6	表土層Ⅱ																					
灰集中7	表土層Ⅱ																					
灰集中8	表土層Ⅱ																					
灰集中9	表土層Ⅱ																					
灰集中11	表土層Ⅱ						2 4 1 2 9															
灰集中10	第1灰層		147	47	22	51	397	664														
灰集中10	第2灰層		3	17		17	78	115														
灰集中12	OB層上面																					
灰集中13	OB層上面				2		22	24														24
灰集中15	OB層						15	15														47
灰集中16	OB層		2	31		13	829	875														47
灰集中17	OB層			1			51	52														332
灰集中18	OB層																					332
灰集中19	OB層																					486
灰集中20	OB層																					33
灰集中14	OB層下層					4	4							1								85
灰集中22	I B-1層						16	16														4945
灰集中21	I B-2層																					14
砂集中1	OB層																					
砂集中2	OB層																					
砂集中3	I B-1層																					
炭化物集中1	表土層Ⅰ																					
炭化物集中4	OB層上面																					
炭化物集中8	OB層上面																					
炭化物集中9	OB層上面																					
炭化物集中10	OB層上面																					
炭化物集中11	OB層上面																					
炭化物集中12	OB層上面																					
炭化物集中13	OB層上面																					
炭化物集中5	OB層																					
炭化物集中6	OB層																					
炭化物集中14	OB層																					
炭化物集中15	OB層																					
炭化物集中16	OB層																					
炭化物集中17	OB層			1			8	9														
炭化物集中20	OB層																					
炭化物集中21	OB層																					
炭化物集中29	OB層																					
炭化物集中30	OB層																					
炭化物集中2	OB層下層			1			1															
炭化物集中3	I B-1層																					
炭化物集中18	I B-1層																					
炭化物集中22	I B-1層			7			130	137														
炭化物集中23	I B-1層																					
炭化物集中25	I B-1層																					
炭化物集中26	I B-1層																					
炭化物集中27	I B-1層																					
炭化物集中28	I B-1層																					
炭化物集中31	I B-1層																					
炭化物集中24	I B-3層																					
クルミ集中1	OB層		2	2	2		2	8														
クルミ集中2	OB層		2	1	4		4	6														
クルミ集中3	OB層		1	3			1	3														
クルミ集中4	OB層																					
クルミ集中5	OB層		2				1	3														
クルミ集中6	I B-1層						1	1														

表Ⅳ-2-7 全遺構のクリ

2 動植物遺存体の分析

道備名	層位	炭化								未炭化				点数 合計	重量 合計 (g)		
		果皮のみ				子葉のみ				果皮のみ							
		完形	1/2 以上	1/2 未満	点数計	重量計	完形	1/2 以上	1/2 未満	点数計	重量計	完形	1/2 以上	1/2 未満	点数計	重量計	
灰集中1	表土層Ⅰ																
灰集中2	表土層Ⅰ																
灰集中3	表土層Ⅱ																
灰集中4	表土層Ⅱ																
灰集中5	表土層Ⅱ																
灰集中6	表土層Ⅱ																
灰集中7	表土層Ⅱ																
灰集中8	表土層Ⅱ																
灰集中9	表土層Ⅱ																
灰集中11	表土層Ⅱ																
灰集中10	第1灰層	1	23	24	0.743		10	10	0.406			1	95	96	6.243	130	7.387
灰集中10	第2灰層		3	3	0.029								2	2	0.021	5	0.050
灰集中12	OB層上面		7	7	0.026											7	0.026
灰集中13	OB層上面																
灰集中15	OB層																
灰集中16	OB層		1	1	0.005											1	0.005
灰集中17	OB層											2	2	0.039	2	0.039	
灰集中18	OB層																
灰集中19	OB層																
灰集中20	OB層																
灰集中14	OB層下層																
灰集中22	I B - 1層																
灰集中21	I B - 2層																
砂集中1	OB層																
砂集中2	OB層																
砂集中3	I B - 1層																
炭化物集中1	表土層Ⅰ																
炭化物集中4	OB層上面																
炭化物集中8	OB層上面		3	3	0.032											3	0.032
炭化物集中9	OB層上面											11	11	0.341	11	0.341	
炭化物集中10	OB層上面																
炭化物集中11	OB層上面											4	4	0.024	4	0.024	
炭化物集中12	OB層上面											1	1	0.002	1	0.002	
炭化物集中13	OB層上面																
炭化物集中5	OB層																
炭化物集中6	OB層																
炭化物集中14	OB層																
炭化物集中15	OB層																
炭化物集中16	OB層																
炭化物集中17	OB層																
炭化物集中20	OB層																
炭化物集中21	OB層																
炭化物集中29	OB層											4	4	0.106	4	0.106	
炭化物集中30	OB層																
炭化物集中2	OB層下層																
炭化物集中3	I B - 1層																
炭化物集中18	I B - 1層																
炭化物集中22	I B - 1層											7	7	0.128	7	0.128	
炭化物集中23	I B - 1層																
炭化物集中25	I B - 1層																
炭化物集中26	I B - 1層		5	5	0.102											5	0.102
炭化物集中27	I B - 1層																
炭化物集中28	I B - 1層																
炭化物集中31	I B - 1層																
炭化物集中24	I B - 3層																
クリ集中	OB層上面											83	83	3.632	83	3.632	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅶ-2-8 全道構のコナラ属属

二十字属名	種名		種数		種数		種数		種数	
	種名	種数	種数	種数	種数	種数	種数	種数	種数	
ニクナ	種名1	1	1	1	1	2	0.00			
	種名2	2	2	2	2	3	0.50			
	種名3	3	3	3	3	5	0.00			
	種名4	4	4	4	4	6	0.00			
	種名5	5	5	5	5	7	0.00			
	種名6	6	6	6	6	9	0.00			
	種名7	7	7	7	7	15	0.00			
	種名8	8	8	8	8	21	0.00			
	種名9	9	9	9	9	29	0.00			
	種名10	10	10	10	10	39	0.00			
	種名11	11	11	11	11	51	0.00			
	種名12	12	12	12	12	67	0.00			
	種名13	13	13	13	13	89	0.00			
	種名14	14	14	14	14	115	0.00			
	種名15	15	15	15	15	147	0.00			
	種名16	16	16	16	16	185	0.00			
	種名17	17	17	17	17	227	0.00			
	種名18	18	18	18	18	275	0.00			
	種名19	19	19	19	19	327	0.00			
	種名20	20	20	20	20	381	0.00			
	種名21	21	21	21	21	435	0.00			
	種名22	22	22	22	22	489	0.00			
	種名23	23	23	23	23	543	0.00			
	種名24	24	24	24	24	597	0.00			
	種名25	25	25	25	25	651	0.00			
	種名26	26	26	26	26	705	0.00			
	種名27	27	27	27	27	759	0.00			
	種名28	28	28	28	28	813	0.00			
	種名29	29	29	29	29	867	0.00			
	種名30	30	30	30	30	921	0.00			
	種名31	31	31	31	31	975	0.00			
	種名32	32	32	32	32	1029	0.00			
	種名33	33	33	33	33	1083	0.00			
	種名34	34	34	34	34	1137	0.00			
	種名35	35	35	35	35	1191	0.00			
	種名36	36	36	36	36	1245	0.00			
	種名37	37	37	37	37	1299	0.00			
	種名38	38	38	38	38	1353	0.00			
	種名39	39	39	39	39	1407	0.00			
	種名40	40	40	40	40	1461	0.00			
	種名41	41	41	41	41	1515	0.00			
	種名42	42	42	42	42	1569	0.00			
	種名43	43	43	43	43	1623	0.00			
	種名44	44	44	44	44	1677	0.00			
	種名45	45	45	45	45	1731	0.00			
	種名46	46	46	46	46	1785	0.00			
	種名47	47	47	47	47	1839	0.00			
	種名48	48	48	48	48	1893	0.00			
	種名49	49	49	49	49	1947	0.00			
	種名50	50	50	50	50	2001	0.00			
	種名51	51	51	51	51	2055	0.00			
	種名52	52	52	52	52	2109	0.00			
	種名53	53	53	53	53	2163	0.00			
	種名54	54	54	54	54	2217	0.00			
	種名55	55	55	55	55	2271	0.00			
	種名56	56	56	56	56	2325	0.00			
	種名57	57	57	57	57	2379	0.00			
	種名58	58	58	58	58	2433	0.00			
	種名59	59	59	59	59	2487	0.00			
	種名60	60	60	60	60	2541	0.00			
	種名61	61	61	61	61	2595	0.00			
	種名62	62	62	62	62	2649	0.00			
	種名63	63	63	63	63	2703	0.00			
	種名64	64	64	64	64	2757	0.00			
	種名65	65	65	65	65	2811	0.00			
	種名66	66	66	66	66	2865	0.00			
	種名67	67	67	67	67	2919	0.00			
	種名68	68	68	68	68	2973	0.00			
	種名69	69	69	69	69	3027	0.00			
	種名70	70	70	70	70	3081	0.00			
	種名71	71	71	71	71	3135	0.00			
	種名72	72	72	72	72	3189	0.00			
	種名73	73	73	73	73	3243	0.00			
	種名74	74	74	74	74	3297	0.00			
	種名75	75	75	75	75	3351	0.00			
	種名76	76	76	76	76	3405	0.00			
	種名77	77	77	77	77	3459	0.00			
	種名78	78	78	78	78	3513	0.00			
	種名79	79	79	79	79	3567	0.00			
	種名80	80	80	80	80	3621	0.00			
	種名81	81	81	81	81	3675	0.00			
	種名82	82	82	82	82	3729	0.00			
	種名83	83	83	83	83	3783	0.00			
	種名84	84	84	84	84	3837	0.00			
	種名85	85	85	85	85	3891	0.00			
	種名86	86	86	86	86	3945	0.00			
	種名87	87	87	87	87	3999	0.00			
	種名88	88	88	88	88	4053	0.00			
	種名89	89	89	89	89	4107	0.00			
	種名90	90	90	90	90	4161	0.00			
	種名91	91	91	91	91	4215	0.00			
	種名92	92	92	92	92	4269	0.00			
	種名93	93	93	93	93	4323	0.00			
	種名94	94	94	94	94	4377	0.00			
	種名95	95	95	95	95	4431	0.00			
	種名96	96	96	96	96	4485	0.00			
	種名97	97	97	97	97	4539	0.00			
	種名98	98	98	98	98	4593	0.00			
	種名99	99	99	99	99	4647	0.00			
	種名100	100	100	100	100	4701	0.00			

表Ⅷ-2-9 全遺構の木本種子

種名	1952		1953		1954		1955		1956		1957		1958		1959		1960		1961		1962		1963		1964		1965		1966		1967		1968		1969		1970		
	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数	個体数	種子数			
栗	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
...

表Ⅵ-2-11 灰集中10の栽培種子(1)

灰集中10 種類	イヌ オオムギ	イヌ		キビ		ヒエ	
		実数	比率	実数	比率	実数	比率
		定数	百分率	定数	百分率	定数	百分率
1						1	2
2							
3		4	7				
4							
5							
6							
7		4	1				
8		2					
9							
10							
11		8	1	1		4	5
12		1				1	1
13		2				3	1
14							2
15							
16						4	1
17		3	1			1	
18		4					
19		5	1				
20		6	2			3	4
21		3				1	1
22							
23		9	1	2	1		
24							
25						1	1
26		1					
27		3				7	5
28							
29						1	
30		1	2			1	5
31		9	1				
32		3				5	
33		4	1				
34		3				3	4
35							
36			3			4	2
37		12	2			1	
38						1	1
39		7	1			2	
40		3	1			6	
41		1				1	
42						2	
43		1					
44							
45						12	14
46						2	1
47		1				1	2
48						1	
49							
50							
51						2	
52						2	
53							
54							
55							4
56		1	3			1	6
57							
58		1	100	1	1	56	65
59						1	6
60							
61		4					
62		1				5	3
63						1	1
64			1			2	
65						15	16
66						4	6
67		1				4	1
68						1	1
69							
70							
71							
72						1	
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89		1				15	2
90						7	
91						3	4
92						1	2
93						1	1
94						4	
95							
96		2	1				
97							
98		9	2			46	27
99						16	11
100						1	2
合計	1	100	1	33	1	104	121
2						24	24
3						2	8

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-12 灰集中10の栽培種子(2)

標本 No.	アヲ										アヲ		ツツ				アヲキ			
	1					2					3	4	5		6	7	8	9	10	
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	4	1	2	1	2
1												3								
2												3								
3												3								
4											1	3								
5											2	1								
6												3								
7												23								
8												2								
9												5								
10											6	4								
11											1	3								
12												12								
13												19								
14			16		2							20			1					
15												1								
16											1	14								
17												5							2	
18												6							1	
19											8	30								
20												30								
21												19				1				
22												1								
23											2	10								
24												4								1
25												3								
26												4								
27				5								27								
28												24								
29												4								
30				1	2						2	1								
31											2	10								
32				3		4						1								
33											1	24								
34												3								
35												20								
36												8			1	1				
37												14							2	
38											2	8								
39												14								
40											8	30								1
41												15								
42												1								
43												13								
44												3								
45				16	1	2			1	3		1								
46												2								
47												2			2					
48												2								
49												34								
50												7			1					
51												4								
52				1						1		40								
53											1	4								
54				42	4	8			1	4		36	166		486	625		5	2	8
55												1								1
56				3		4					1									
57												3								
58				3	4	1	1		1		6	1								
59				1								1								
60												2								
61																				
62				1																
63																				
64				4	2						3									3
65				7	3						1									
66				1	3	5					1									
67				20	12	10	1	2			5	10							3	2
68				82	16	18	1	3	4		43	176							3	18

表四-2-15 灰集中10のコナラ垂風(2)

灰集中10 コナラ						灰集中10 コナラ												
種名	プロトタイプ	果実のみ			子葉のみ			点数	重量	種名	プロトタイプ	果実のみ			点数	重量		
		完全	1/2以上	点検済	完全	1/2以上	点検済					完全	1/2以上	点検済				
栗灰層	1									栗灰層	1							
栗灰層	2									栗灰層	2							
栗灰層	3									栗灰層	3							
栗灰層	4									栗灰層	4							
栗灰層	5									栗灰層	5							
栗灰層	6									栗灰層	6							
栗灰層	7									栗灰層	7							
栗灰層	8									栗灰層	8							
栗灰層	9									栗灰層	9							
栗灰層	10									栗灰層	10							
栗灰層	11				1	4	3	8	8	1.970	栗灰層	11						
栗灰層	12										栗灰層	12						
栗灰層	13										栗灰層	13						
栗灰層	14										栗灰層	14	1	1	1	0.120		
栗灰層	15										栗灰層	15						
栗灰層	16										栗灰層	16						
栗灰層	17										栗灰層	17						
栗灰層	18				1	2	3	3	3	0.320	栗灰層	18						
栗灰層	19										栗灰層	19						
栗灰層	20										栗灰層	20						
栗灰層	21										栗灰層	21						
栗灰層	22										栗灰層	22						
栗灰層	23										栗灰層	23						
栗灰層	24										栗灰層	24						
栗灰層	25										栗灰層	25						
栗灰層	26										栗灰層	26						
栗灰層	27										栗灰層	27						
栗灰層	28										栗灰層	28						
栗灰層	29										栗灰層	29						
栗灰層	30										栗灰層	30						
栗灰層	31										栗灰層	31						
栗灰層	32										栗灰層	32						
栗灰層	33										栗灰層	33						
栗灰層	34										栗灰層	34	1	1	1	0.120		
栗灰層	35										栗灰層	35						
栗灰層	36										栗灰層	36						
栗灰層	37										栗灰層	37						
栗灰層	38										栗灰層	38						
栗灰層	39										栗灰層	39						
栗灰層	40				1	1		1	1	0.105	栗灰層	40						
栗灰層	41										栗灰層	41						
栗灰層	42										栗灰層	42						
栗灰層	43										栗灰層	43						
栗灰層	44										栗灰層	44						
栗灰層	45										栗灰層	45						
栗灰層	46										栗灰層	46						
栗灰層	47										栗灰層	47						
栗灰層	48										栗灰層	48						
栗灰層	49										栗灰層	49						
栗灰層	53										栗灰層	53						
栗灰層	54										栗灰層	54						
栗灰層	55										栗灰層	55						
栗灰層	位置不明										栗灰層	位置不明						
栗灰層合計		0	0	1	1	2	8	8	18	19	3.270	栗灰層合計	0	0	2	2	2	0.250
栗2層	30										栗2層	30						
栗2層	31										栗2層	31						
栗2層	32										栗2層	32						
栗2層	33										栗2層	33						
栗2層	34										栗2層	34						
栗2層	38										栗2層	38						
栗2層	39										栗2層	39						
栗2層	41										栗2層	41						
栗2層	42										栗2層	42						
栗2層	45										栗2層	45						
栗2層	47										栗2層	47						
栗2層	49										栗2層	49						
栗2層	52										栗2層	52						
栗2層	位置不明										栗2層	位置不明						
栗2層合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	栗2層合計	0	0	0	0	0	0.000
総計		0	0	1	1	2	8	8	18	19	3.270	総計	0	0	2	2	2	0.250

2 動植物遺存体の分析

種別	コノハ		ササ				シロササ				コノハ		コノハ		コノハ		コノハ		計		
	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片			
1		2																	4		
1																			20		
																			21		
																			1		
																			2		
2	1																		47		
	2																		1		
																			26		
	1	18																	5		
	4	4																	6		
																			33		
13	1	2	1																1		
		2																	3		
		2																	2		
		4																	2		
																			36		
																			5		
		18																	35		
		2																	14		
		4																	57		
	2	1																	3		
		47																	156		
	1																		10		
		11																	1		
18	20	122	4	1	1	1	0	4	0	16	0	4	0	3	3	18	1	1	1	822	0
																				1	
																				141	
																				36	
																				4	
																				14	
																				93	
																				1	
4	5	27	2																	96	2
		7																		99	10
		4																		93	
5	5	71	5	0	0	0	0	13	0	6	0	0	0	0	0	1	1	1		983	12
21	25	193	9	1	1	1	0	4	0	29	0	10	0	3	3	18	2	2	2	1515	12

表Ⅷ-2-18 種子計測値(1)

種子計測値 線号	測定名	プロット名	圃地名	種名	節の有無	状態	形長 (mm)	幅 (mm)	粒重 (mg)	大さき		
										形長 (粒長×粒長)	幅 (粒幅/粒長)	面積 (粒幅/粒重)
1	筑後中10	3	新-筑後	イネ	♀	♀	4.3	2.9	1.8	12.77	1.30	2.23
2	筑後中10	3	新-筑後	イネ	♀	♀	3.5	2.5	2.0	17.38	1.31	2.24
3	筑後中10	3	新-筑後	イネ	♀	♀	4.4	2.8	2.0	12.32	1.57	2.20
4	筑後中10	4	新-筑後	イネ	♀	♀	4.9	2.5	2.1	12.25	1.98	2.23
5	筑後中10	7	新-筑後	イネ	♀	♀	3.9	2.2	1.8	9.58	1.77	2.17
6	筑後中10	7	新-筑後	イネ	♀	♀	4.0	2.5	2.0	9.80	1.82	2.11
7	筑後中10	7	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.5	2.0	11.50	1.84	2.20
8	筑後中10	7	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.9	1.7	11.89	1.41	2.41
9	筑後中10	7	新-筑後	イネ	♀	♀	3.9	2.2	1.8	9.58	1.77	2.17
10	筑後中10	8	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.9	2.1	12.47	1.68	2.05
11	筑後中10	8	新-筑後	イネ	♀	♀	4.7	2.9	2.4	13.82	1.82	1.96
12	筑後中10	11	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.2	2.1	9.90	2.05	2.14
13	筑後中10	11	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.6	2.2	11.99	1.77	2.09
14	筑後中10	11	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.4	1.8	11.04	4.52	2.56
15	筑後中10	13	新-筑後	イネ	♀	♀	5.0	2.6	2.6	14.00	1.79	1.92
16	筑後中10	13	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.7	2.4	12.15	1.87	1.68
17	筑後中10	17	新-筑後	イネ	♀	♀	4.4	2.7	2.2	11.88	1.83	2.00
18	筑後中10	17	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.5	2.4	11.25	1.80	1.88
19	筑後中10	18	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.3	1.8	9.42	1.79	2.56
20	筑後中10	18	新-筑後	イネ	♀	♀	3.3	2.2	1.6	7.26	1.80	2.06
21	筑後中10	18	新-筑後	イネ	♀	♀	3.5	2.1	1.3	7.25	1.87	2.09
22	筑後中10	18	新-筑後	イネ	♀	♀	5.0	2.4	2.2	12.00	2.08	2.27
23	筑後中10	19	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.6	1.7	10.66	1.84	2.41
24	筑後中10	19	新-筑後	イネ	♀	♀	5.0	2.3	1.9	11.50	2.17	2.63
25	筑後中10	19	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.5	1.9	10.25	1.84	2.18
26	筑後中10	19	新-筑後	イネ	♀	♀	5.2	3.1	3.5	16.12	1.58	1.49
27	筑後中10	19	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.6	1.9	12.25	2.35	2.27
28	筑後中10	20	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.2	1.9	9.90	2.05	2.37
29	筑後中10	20	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	3.0	2.8	14.40	1.80	1.71
30	筑後中10	20	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	3.0	2.1	14.40	1.60	2.29
31	筑後中10	20	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.6	1.9	13.92	1.80	1.56
32	筑後中10	20	新-筑後	イネ	♀	♀	5.1	3.1	3.8	15.81	1.85	1.96
33	筑後中10	21	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	2.7	2.4	12.96	1.79	2.00
34	筑後中10	21	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	3.3	2.8	15.84	1.45	1.71
35	筑後中10	23	新-筑後	イネ	♀	♀	4.3	2.5	1.7	10.78	1.79	1.92
36	筑後中10	23	新-筑後	イネ	♀	♀	4.3	2.5	2.1	11.25	1.80	2.14
37	筑後中10	23	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.5	1.8	11.25	1.80	2.50
38	筑後中10	23	新-筑後	イネ	♀	♀	5.1	2.7	2.0	13.77	1.89	2.55
39	筑後中10	23	新-筑後	イネ	♀	♀	5.1	3.2	2.4	16.32	1.69	2.13
40	筑後中10	23	新-筑後	イネ	♀	♀	4.3	2.5	1.8	11.88	1.85	1.95
41	筑後中10	23	新-筑後	イネ	♀	♀	5.0	2.4	2.6	12.00	2.06	1.92
42	筑後中10	26	新-筑後	イネ	♀	♀	5.9	3.1	2.8	18.29	1.90	2.27
43	筑後中10	27	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.4	1.8	11.04	1.82	2.56
44	筑後中10	27	新-筑後	イネ	♀	♀	5.1	3.7	3.5	19.25	1.48	1.82
45	筑後中10	27	新-筑後	イネ	♀	♀	5.0	3.3	2.6	16.50	1.82	1.92
46	筑後中10	30	新-筑後	イネ	♀	♀	5.4	3.0	2.2	16.20	1.80	2.48
47	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	3.0	1.9	14.40	1.60	2.53
48	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	3.9	2.4	1.8	9.18	1.81	2.48
49	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.7	1.8	11.07	1.52	2.56
50	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	5.1	3.1	2.2	15.81	1.85	2.32
51	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	5.3	3.2	2.4	16.98	1.66	2.21
52	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	4.0	2.6	2.4	10.40	1.54	1.87
53	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	3.7	2.4	1.8	8.88	1.54	2.06
54	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	3.0	2.5	13.50	1.80	1.80
55	筑後中10	31	新-筑後	イネ	♀	♀	4.2	2.4	2.3	10.08	1.75	1.83
56	筑後中10	32	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	2.3	2.5	11.04	2.00	1.92
57	筑後中10	32	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.5	2.1	9.45	1.79	1.87
58	筑後中10	32	新-筑後	イネ	♀	♀	4.7	2.6	2.3	13.16	1.68	2.04
59	筑後中10	33	新-筑後	イネ	♀	♀	4.3	2.6	2.7	11.18	1.85	1.99
60	筑後中10	33	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.7	2.2	11.07	1.52	2.65
61	筑後中10	33	新-筑後	イネ	♀	♀	5.0	2.9	2.2	14.50	1.72	2.57
62	筑後中10	33	新-筑後	イネ	♀	♀	4.2	2.5	2.1	10.50	1.68	2.00
63	筑後中10	34	新-筑後	イネ	♀	♀	5.2	2.0	1.9	10.40	2.60	2.74
64	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	9.2	2.9	2.5	15.08	1.79	2.06
65	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.5	2.1	9.45	1.78	1.93
66	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.0	2.4	2.2	9.60	1.67	1.82
67	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.4	2.5	1.9	11.00	1.76	2.32
68	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	3.9	2.4	2.0	9.36	1.63	1.85
69	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	3.9	2.5	2.2	9.58	1.77	1.77
70	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	3.6	2.5	2.4	9.00	1.44	1.50
71	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	3.0	2.3	14.40	1.80	2.09
72	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	3.0	2.3	13.80	1.53	2.00
73	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.9	2.1	13.05	1.85	2.14
74	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.2	2.9	2.3	12.96	1.77	2.08
75	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.8	2.2	12.60	1.81	2.05
76	筑後中10	37	新-筑後	イネ	♀	♀	5.1	3.3	2.0	20.13	1.89	3.08
77	筑後中10	39	新-筑後	イネ	♀	♀	4.0	2.4	2.0	9.60	1.67	2.05
78	筑後中10	39	新-筑後	イネ	♀	♀	3.9	2.3	2.3	9.78	2.20	2.39
79	筑後中10	39	新-筑後	イネ	♀	♀	5.0	2.5	2.2	12.50	2.00	2.27
80	筑後中10	39	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	4.0	2.9	18.40	1.15	1.59
81	筑後中10	40	新-筑後	イネ	♀	♀	5.5	2.8	2.4	15.40	1.96	2.39
82	筑後中10	40	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.5	2.1	12.42	1.79	1.70
83	筑後中10	40	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.5	2.1	11.25	1.80	2.14
84	筑後中10	41	新-筑後	イネ	♀	♀	3.8	2.4	1.8	9.12	1.58	2.11
85	筑後中10	42	新-筑後	イネ	♀	♀	4.9	2.6	1.8	12.74	1.88	3.06
86	筑後中10	42	新-筑後	イネ	♀	♀	3.3	2.3	1.9	8.64	1.65	1.86
87	筑後中10	43	新-筑後	イネ	♀	♀	4.5	2.7	2.2	12.15	1.67	2.05
88	筑後中10	51	新-筑後	イネ	♀	♀	4.2	2.3	2.1	9.66	1.83	2.00
89	筑後中10	51	新-筑後	イネ	♀	♀	4.9	3.2	2.8	15.68	1.53	1.90
90	筑後中10	51	新-筑後	イネ	♀	♀	3.9	2.2	1.8	9.58	1.89	2.43
91	筑後中10	51	新-筑後	イネ	♀	♀	4.0	2.8	2.5	11.20	1.43	1.80
92	筑後中10	52	新-筑後	イネ	♀	♀	3.6	1.8	2.5	6.48	2.00	1.44
93	筑後中10	54	新-筑後	イネ	♀	♀	4.2	2.3	1.9	9.66	1.83	2.21
94	筑後中10	54	新-筑後	イネ	♀	♀	4.0	2.3	1.8	8.00	2.00	2.56
95	筑後中10	56	新-筑後	イネ	♀	♀	4.8	2.9	2.5	13.92	1.66	1.92
96	筑後中10	56	新-筑後	イネ	♀	♀	4.2	2.5	2.2	10.50	1.66	1.91
97	筑後中10	52	新-筑後	イネ	♀	♀	4.6	2.4	1.8	11.04	1.92	2.56
98	筑後中10	52	新-筑後	イネ	♀	♀	4.4	2.0	2.0	8.80	2.80	2.90
100	筑後中10	52	新-筑後	イネ	♀	♀	4.1	2.6	2.0	10.66	1.58	2.05

表Ⅲ-2-19 種子計測値(2)

種子計測値	植物種名	アロシク名	種名	種別	雄の右側	雄の左側	形状	粒長		大きな	粒形		断面形
								(mm)	(mm)		(粒長×粒長)	(粒長/粒長)	
101	炭化物中14		OB種	イネ	なし	炭化	実型1	5.0	2.8	2.5	14.00	1.79	2.00
102	炭化物中14		OB種	イネ	なし	炭化		4.3	2.6	1.8	11.18	1.65	2.39
103	炭化物中14		OB種	イネ	なし	炭化		4.4	2.0	1.9	8.80	2.20	2.32
104	炭化物中14		OB種	イネ	なし	炭化	実型1	3.1	2.0	1.5	6.20	1.85	2.07
105	炭化物中14		OB種	イネ	なし	炭化		4.2	2.5	1.5	12.88	1.64	1.84
106	炭化物中14		OB種	イネ	あり	炭化		4.6	3.0	2.9	13.80	1.53	1.59
107	炭化物中16		OB種	イネ	なし	炭化	実型1	6.6	2.4	2.0	15.84	1.75	3.30
108	炭化物中16		OB種	イネ	なし	炭化	実型1	4.5	2.6	2.4	11.70	2.29	1.80
109	炭化物中19		OB種	イネ	なし	炭化	実型3	5.3	2.4	2.0	12.78	2.72	2.65
110	炭化物中16		OB種	イネ	あり	炭化		6.1	3.3	1.5	20.13	1.85	4.07
111	炭化物中17		OB種	イネ	なし	炭化		4.4	2.6	2.0	11.44	1.69	2.20
112	炭化物中17		OB種	イネ	なし	炭化		4.5	2.0	1.8	9.00	2.25	2.50
113	炭化物中19		OB種	イネ	なし	炭化	実型1	4.2	2.5	2.1	10.50	1.68	2.00
114	炭化物中22		OB種	イネ	なし	炭化		4.7	2.8	2.1	13.16	1.68	2.24
115	炭化物中22		OB種	イネ	なし	炭化	実型1	4.9	2.8	2.2	13.72	1.75	2.23
116	炭化物中22		OB種	イネ	なし	炭化		5.3	2.9	2.4	15.37	1.83	2.21
117	炭化物中10	23	第一段階	キビ	なし	炭化		2.0	1.7		3.40	1.18	
118	炭化物中20		OB種	キビ	あり	未炭化		2.9	1.8		5.22	1.61	
119	砂集申3		I B-I層	キビ	あり	未炭化		3.1	2.0		6.20	1.55	
120	砂集申3		I B-I層	キビ	あり	未炭化		3.1	1.8		5.58	1.72	
121	炭化物中14		OB種	キビ	なし	炭化		3.1	1.5	0.9	4.65	2.07	
122	炭化物中22		OB種	キビ	なし	炭化		1.9	1.7	1.4	3.23	1.12	1.21
123	炭化物中10	3	第一段階	キビ	なし	炭化		1.4	1.5	0.7	2.10	0.93	2.14
124	炭化物中10	3	第一段階	キビ	なし	炭化		1.6	1.7	1.1	2.72	0.94	1.55
125	炭化物中10	11	第一段階	キビ	なし	炭化		2.6	2.0	1.5	6.76	1.27	1.43
126	炭化物中10	11	第一段階	キビ	完全	炭化		2.5	1.9	2.5	4.75	1.32	0.76
127	炭化物中10	11	第一段階	キビ	あり	炭化		1.9	1.9	1.2	3.61	1.00	1.58
128	炭化物中10	11	第一段階	キビ	なし	炭化		1.8	1.7	1.2	3.06	1.06	1.42
129	炭化物中10	11	第一段階	キビ	なし	炭化		1.8	1.6	1.1	3.24	1.06	1.50
130	炭化物中10	11	第一段階	キビ	なし	炭化		1.7	1.9	1.3	3.23	0.89	1.46
131	炭化物中10	11	第一段階	キビ	なし	炭化		1.9	1.7	1.3	3.23	1.12	1.31
132	炭化物中10	11	第一段階	キビ	なし	炭化		1.8	1.9	1.4	3.42	0.95	1.36
133	炭化物中14		OB種	キビ	なし	炭化		3.42			11.70	2.29	1.80
134	炭化物中14		OB種	キビ	あり	炭化		2.6	1.9	1.5	4.94	1.37	1.27
135	炭化物中10	14	第一段階	キビ	完全	炭化		1.9	1.4	1.0	2.66	1.36	1.40
136	炭化物中10	14	第一段階	キビ	完全	炭化		1.3	1.3	0.9	1.69	1.00	1.44
137	炭化物中10	16	第一段階	キビ	完全	炭化	完全	1.5	1.5	0.9	2.25	1.00	1.67
138	炭化物中10	16	第一段階	キビ	完全	炭化		2.1	1.7	1.3	3.57	1.24	1.31
139	炭化物中10	16	第一段階	キビ	完全	炭化		2.4	2.0	2.0	4.80	1.20	1.00
140	炭化物中10	18	第一段階	キビ	なし	炭化		1.9	1.9	1.4	3.61	1.00	1.36
141	炭化物中10	20	第一段階	キビ	完全	炭化		2.1	1.8	1.2	3.78	1.17	1.50
142	炭化物中10	20	第一段階	キビ	なし	炭化		1.3	1.5	1.1	1.86	0.87	1.36
143	炭化物中10	20	第一段階	キビ	なし	炭化		1.9	2.0	1.3	3.80	0.95	1.54
144	炭化物中10	20	第一段階	キビ	なし	炭化		1.5	1.8	1.1	2.70	0.83	1.64
145	炭化物中10	21	第一段階	キビ	完全	炭化		2.6	2.1	1.7	6.46	1.24	1.24
146	炭化物中10	21	第一段階	キビ	なし	炭化		1.7	1.6	0.9	2.72	1.07	1.78
147	炭化物中10	25	第一段階	キビ	完全	炭化		1.8	1.5	1.2	2.70	1.20	1.25
148	炭化物中10	25	第一段階	キビ	なし	炭化		1.7	1.2	1.1	2.04	1.42	1.09
149	炭化物中10	27	第一段階	キビ	完全	炭化		2.2	2.0	1.2	4.40	1.10	1.67
150	炭化物中10	27	第一段階	キビ	完全	炭化		1.9	1.9	1.5	3.61	0.80	2.00
151	炭化物中10	27	第一段階	キビ	なし	炭化		1.5	1.3	0.9	1.95	1.15	1.44
152	炭化物中10	27	第一段階	キビ	なし	炭化		1.2	1.7	1.0	2.04	0.71	1.70
153	炭化物中10	27	第一段階	キビ	なし	炭化		1.4	1.6	0.9	2.24	0.88	1.78
154	炭化物中10	27	第一段階	キビ	なし	炭化		1.5	1.5	1.1	2.25	1.15	1.30
155	炭化物中10	27	第一段階	キビ	なし	炭化		1.6	1.4	1.1	2.24	1.14	1.27
156	炭化物中10	29	第一段階	キビ	なし	炭化		1.8	1.9	1.2	3.42	0.95	1.58
157	炭化物中10	30	第一段階	キビ	なし	炭化		1.7	1.6	1.1	2.72	1.06	1.45
158	炭化物中10	30	第一段階	キビ	あり	炭化		2.2	1.7	1.2	3.74	1.29	1.42
159	炭化物中10	30	第一段階	キビ	なし	炭化		1.4	1.2	0.9	1.68	1.17	1.33
160	炭化物中10	30	第一段階	キビ	なし	炭化		1.5	1.5	0.8	2.25	1.00	1.88
161	炭化物中10	30	第一段階	キビ	なし	炭化		1.7	1.5	1.3	2.89	1.13	1.15
162	炭化物中10	30	第一段階	キビ	あり	炭化		2.2	1.7	1.2	3.74	1.29	1.42
163	炭化物中10	32	第一段階	キビ	完全	炭化		2.3	1.9	1.3	4.37	1.21	1.46
164	炭化物中10	32	第一段階	キビ	あり	炭化		1.5	1.5	1.0	2.25	1.00	1.50
165	炭化物中10	32	第一段階	キビ	完全	炭化		1.6	0.9	0.7	1.44	1.78	1.29
166	炭化物中10	33	第一段階	キビ	あり	炭化		1.9	1.6	1.2	3.04	1.19	1.33
167	炭化物中10	34	第一段階	キビ	完全	炭化		1.9	1.9	1.3	3.61	1.00	1.46
168	炭化物中10	34	第一段階	キビ	なし	炭化		1.5	1.6	1.0	2.40	0.94	1.60
169	炭化物中10	34	第一段階	キビ	なし	炭化		1.5	1.5	1.1	2.25	1.00	1.36
170	炭化物中10	34	第一段階	キビ	あり	炭化		1.5	1.5	1.1	2.25	1.00	1.36
171	炭化物中10	34	第一段階	キビ	なし	炭化		1.6	1.3	1.3	2.08	1.23	1.00
172	炭化物中10	34	第一段階	キビ	あり	炭化		1.8	1.8	1.0	3.24	1.00	1.80
173	炭化物中10	34	第一段階	キビ	あり	炭化		1.7	1.8	1.3	3.78	1.17	1.36
174	炭化物中10	34	第一段階	キビ	なし	炭化		1.6	1.5	1.1	2.40	1.07	1.36
175	炭化物中10	36	第一段階	キビ	なし	炭化		1.8	1.5	0.9	2.70	1.00	1.67
176	炭化物中10	36	第一段階	キビ	なし	炭化		1.4	1.4	0.9	1.96	1.00	1.56
177	炭化物中10	36	第一段階	キビ	なし	炭化		1.7	1.6	1.1	2.72	1.06	1.45
178	炭化物中10	37	第一段階	キビ	なし	炭化		1.6	1.7	1.2	2.56	1.17	1.21
179	炭化物中10	38	第一段階	キビ	なし	炭化		1.9	2.1	1.4	4.99	0.80	1.50
180	炭化物中10	39	第一段階	キビ	完全	炭化		1.8	1.4	1.2	2.52	1.29	1.17
181	炭化物中10	39	第一段階	キビ	完全	炭化		1.7	1.7	1.1	3.00	0.80	1.25
182	炭化物中10	40	第一段階	キビ	あり	炭化		1.9	1.7	1.9	3.23	1.12	1.21
183	炭化物中10	40	第一段階	キビ	あり	炭化		1.7	1.5	1.1	2.89	1.15	1.25
184	炭化物中10	40	第一段階	キビ	あり	炭化		1.9	2.0	1.3	3.80	0.95	1.54
185	炭化物中10	40	第一段階	キビ	完全	炭化		1.8	1.5	1.0	2.70	1.20	1.50
186	炭化物中10	40	第一段階	キビ	なし	炭化		2.3	2.1	1.5	4.83	1.10	1.40
187	炭化物中10	40	第一段階	キビ	あり	炭化		2.2	2.1	1.4	4.82	1.02	1.40
188	炭化物中10	41	第一段階	キビ	完全	炭化		1.9	1.5	1.0	2.85	1.27	1.50
189	炭化物中10	43	第一段階	キビ	なし	炭化		1.5	1.5	0.9	2.25	1.00	1.67
190	炭化物中10	43	第一段階	キビ	なし	炭化		1.4	1.4	1.2	1.96	1.00	1.17
191	炭化物中10	45	第一段階	キビ	完全	炭化		1.7	1.7	1.0	2.89	1.21	1.30
192	炭化物中10	45	第一段階	キビ	完全	炭化		1.7	1.3	1.0	2.21	1.31	1.30
193	炭化物中10	45	第一段階	キビ	完全	炭化		2.3	1.7	1.3	3.91	1.35	1.31
194	炭化物中10	45	第一段階	キビ	あり	炭化		1.5	1.1	1.0	0.90	0.80	1.10
195	炭化物中10	45	第一段階	キビ	あり	炭化		1.5	1.3	1.0	1.96	1.15	1.10
196	炭化物中10	45	第一段階	キビ	あり	炭化		1.3	1.5	1.0	1.96	0.87	1.50
197	炭化物中10	45	第一段階	キビ	あり	炭化		1.3	1.3	0.7	0.90	0.80	1.86
198	炭化物中10	45	第一段階	キビ	あり	炭化		1.3	1.3	1.0	1.69	1.00	1.30
199	炭化物中10	45	第一段階	キビ	あり	炭化		1.4	1.5	1.0	2.00	0.93	1.50
200	炭化物中10	45	第一段階	キビ	あり	炭化		1.4	1.4	0.8	1.96	1.00	1.75

表Ⅱ-2-21 種子計測値(4)

番号	遺体名	プロトタイプ	層位名	種名	胎心付	状態	形状	長さ (mm)	幅 (mm)	重量 (mg)	大きさ (長さ×幅×厚)	形質 (長さ/幅)	胎面形 (長さ/幅)
300	炭集中10	50	第一炭層	ヒメ	なし	炭化	1.6	1.7	1.1	2.72	0.94	1.25	
301	炭集中10	50	第二炭層	ヒメ	なし	炭化	2.5	2.0	1.5	5.00	1.25	1.33	
302	炭集中10	52	第二炭層	ヒメ	なし	炭化	1.5	1.3	0.9	1.95	1.15	1.44	
303	炭集中10	52	第二炭層	ヒメ	なし	炭化	1.5	1.3	0.9	1.69	1.00	1.44	
304	炭集中10	52	第二炭層	ヒメ	なし	炭化	1.5	1.3	1.0	2.00	1.15	1.30	
305	炭集中10	52	第二炭層	ヒメ	なし	炭化	1.5	1.4	1.0	1.80	1.07	1.40	
306	炭集中10	52	第二炭層	ヒメ	あり	炭化	1.6	1.8	1.8	2.88	0.89	1.00	
307	炭集中10	52	第二炭層	ヒメ	なし	炭化	1.7	1.7	1.2	2.89	1.00	1.42	
308	炭集中10	52	第二炭層	ヒメ	なし	炭化	1.5	1.5	1.3	0.88	0.90	1.15	
309	炭集中13		00層	ヒメ	完全	炭化	2.0	1.5	1.0	3.00	1.33	1.50	
310	炭集中13		00層	ヒメ	あり	炭化	1.5	1.5	1.3	2.25	1.00	1.15	
311	炭集中13		00層	ヒメ	あり	炭化	1.8	1.6	1.1	2.88	1.13	1.45	
312	炭集中14		00層	ヒメ	なし	炭化	1.7	1.5	0.7	2.55	1.13	2.14	
313	炭集中14		00層	ヒメ	なし	炭化	2.2	2.0	1.3	4.40	1.10	1.54	
314	炭集中14		00層	ヒメ	なし	炭化	1.7	1.6	1.1	2.72	1.06	1.48	
315	炭集中14		00層	ヒメ	なし	炭化	2.3	2.1	1.5	4.83	1.15	1.40	
316	炭集中14		00層	ヒメ	完全	炭化	2.3	2.9	1.4	6.67	0.79	2.07	
317	炭集中14		00層	ヒメ	完全	炭化	2.2	1.5	1.3	3.30	1.47	1.15	
318	炭集中14		00層	ヒメ	あり	炭化	2.0	2.0	1.4	4.00	1.00	1.43	
319	炭集中14		00層	ヒメ	あり	炭化	1.9	2.0	1.2	3.80	0.95	1.07	
320	炭集中14		00層	ヒメ	あり	炭化	1.9	1.6	1.3	3.04	1.19	1.23	
321	炭集中14		00層	ヒメ	あり	未炭化	1.9	1.8	1.3	3.42	1.05	1.38	
322	炭集中20		00層	ヒメ	なし	炭化	2.0	1.4	1.0	2.80	1.43	1.50	
323	炭集中20		00層	ヒメ	あり	炭化	1.5	1.7	1.0	2.55	0.88	1.70	
324	炭化物集108		00層	ヒメ	あり	炭化	1.9	1.6	1.0	3.04	1.19	1.60	
325	炭化物集109		00層	ヒメ	完全	炭化	2.7	2.2	1.7	5.94	1.23	1.29	
326	炭化物集111		00層	ヒメ	完全	炭化	4.2	4.0	2.7	14.40	1.20	1.20	
327	炭化物集111		00層	ヒメ	なし	炭化	1.3	1.0	0.8	1.30	1.30	1.25	
328	炭化物集112		00層	ヒメ	完全	未炭化	2.7	1.5	1.0	4.05	1.60		
329	炭化物集116		00層	ヒメ	なし	炭化	1.2	1.1	0.7	1.32	1.09	1.57	
330	炭化物集116		00層	ヒメ	なし	炭化	4.2	1.4	0.9	4.68	1.60	1.29	
331	炭化物集117		00層	ヒメ	完全	未炭化	2.2	1.5	1.0	3.30	1.47		
332	炭化物集117		00層	ヒメ	なし	炭化	1.4	1.1	0.9	1.54	1.27	1.22	
333	炭化物集117		00層	ヒメ	なし	炭化	1.2	1.2	0.9	1.44	1.00	1.33	
334	炭化物集117		00層	ヒメ	なし	炭化	1.5	1.3	1.1	2.40	0.94	1.45	
335	炭化物集117		00層	ヒメ	なし	炭化	1.9	1.8	1.1	3.42	1.06		
336	炭化物集117		00層	ヒメ	完全	未炭化	1.8	1.5	1.0	2.70	1.20	1.50	
337	炭化物集117		00層	ヒメ	なし	炭化	1.4	1.4	1.0	0.00	0.00	1.27	
338	炭化物集117		00層	ヒメ	完全	炭化	1.4	1.4	1.0	0.00	0.00	1.40	
339	炭化物集117		00層	ヒメ	完全	炭化	2.2	1.4	1.0	0.00	0.00	1.57	
340	炭化物集117		00層	ヒメ	完全	炭化	2.2	1.3	1.0	0.00	0.00	1.62	
341	炭化物集117		00層	ヒメ	完全	炭化	2.2	1.6	1.1	3.52	1.28	1.30	
342	炭化物集117		00層	ヒメ	完全	炭化	1.6	1.5	1.1	2.40	1.07	1.36	
343	炭化物集117		00層	ヒメ	あり	炭化	0.9	1.2	0.9	1.08	0.75	1.33	
344	炭化物集117		00層	ヒメ	なし	炭化	1.5	1.3	0.8	1.95	1.15	1.63	
345	炭化物集118		10層	ヒメ	なし	炭化	2.1	1.4	1.1	2.97	1.08	1.45	
346	炭化物集118		10層	ヒメ	なし	炭化	1.2	1.3	0.7	1.56	0.92	1.86	
347	炭化物集118		10層	ヒメ	完全	炭化	1.7	1.1	0.8	1.87	1.55	1.28	
348	炭化物集118		10層	ヒメ	完全	炭化	2.1	1.4	1.1	2.94	1.50	1.27	
349	炭化物集118		45	10層	ヒメ	完全	未炭化	2.2	1.4	1.1	3.08	1.57	
350	炭化物集22		10層	ヒメ	完全	炭化	2.8	2.1	1.6	5.88	1.33	1.31	
351	炭化物集22		10層	ヒメ	完全	炭化	2.5	1.9	1.8	4.75	1.39	1.06	
352	炭化物集22		10層	ヒメ	完全	炭化	2.3	2.2	1.9	4.83	1.10	1.10	
353	炭化物集22		10層	ヒメ	完全	炭化	2.1	1.8	1.3	3.78	1.17	1.38	
354	炭集中10	14	第一炭層	アツ	完全	炭化	2.0	1.5	1.1	3.00	1.33	1.36	
355	炭集中10	14	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.6	1.4	1.1	2.24	1.14	1.27	
356	炭集中10	14	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.7	1.2	1.1	2.04	1.42	1.08	
357	炭集中10	14	第一炭層	アツ	あり	炭化	1.6	1.3	1.1	2.08	1.23	1.18	
358	炭集中10	14	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.7	1.4	1.2	2.38	1.21	1.17	
359	炭集中10	27	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.4	1.3	1.0	1.62	1.08	1.30	
360	炭集中10	27	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.5	1.5	1.3	2.25	1.00	1.15	
361	炭集中10	27	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.4	1.3	1.1	1.82	1.08	1.18	
362	炭集中10	30	第一炭層	アツ	なし	炭化	1.1	1.2	1.1	1.32	0.92	1.09	
363	炭集中10	30	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.4	1.4	1.1	1.96	1.00	1.27	
364	炭集中10	34	第一炭層	アツ	あり	炭化	1.1	1.2	1.1	1.32	0.92	1.09	
365	炭集中10	45	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.8	1.5	1.3	2.70	1.20	1.15	
366	炭集中10	45	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.0	1.3	0.8	1.30	0.77	1.63	
367	炭集中10	45	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.6	1.3	0.9	2.08	1.23	1.44	
368	炭集中10	45	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.8	1.4	0.9	2.52	1.29	1.56	
369	炭集中10	45	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.7	1.0	0.7	1.70	1.70	1.43	
370	炭集中10	45	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.6	1.1	0.9	1.76	1.45	1.22	
371	炭集中10	45	第一炭層	アツ	完全	炭化	1.2	1.3	1.1	1.44	1.14	1.27	
372	炭集中10	45	第一炭層	アツ	あり	炭化	1.6	1.3	1.0	2.08	1.23		
373	炭集中10	45	第一炭層	アツ	あり	炭化	1.4	1.1	1.1	1.54	1.27		
374	炭集中10	45	第一炭層	アツ	なし	炭化	1.6	1.3	0.9	2.08	1.23	1.44	
375	炭集中10	45	第一炭層	アツ	あり	未炭化	1.8	1.3	1.3	2.34	1.38		
376	炭集中10	45	第一炭層	アツ	なし	炭化	1.3	1.3	1.3	1.69	1.00	1.00	
377	炭集中10	45	第一炭層	アツ	なし	炭化	1.3	1.4	1.3	1.82	0.93	1.08	
378	炭集中10	45	第一炭層	アツ	なし	炭化	1.4	1.5	1.4	2.10	1.10	1.27	
379	炭集中10	58	第一炭層	アツ	なし	炭化	1.4	1.2	1.1	1.68	1.17	1.09	
380	炭集中10	32	第二炭層	アツ	あり	炭化	1.7	1.5	1.1	2.55	1.13	1.36	
381	炭集中10	32	第二炭層	アツ	あり	炭化	1.2	1.2	1.1	0.00	0.00	1.09	
382	炭集中10	32	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.5	1.6	1.6	1.56	0.92	1.18	
383	炭集中10	34	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.5	1.4	1.2	2.10	1.07	1.17	
384	炭集中10	34	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.5	1.8	1.1	2.70	0.83	1.64	
385	炭集中10	36	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.2	1.5	1.0	1.80	0.87	1.50	
386	炭集中10	34	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.3	1.0	0.7	1.30	1.30	1.43	
387	炭集中10	34	第二炭層	アツ	あり	炭化	1.7	1.7	1.2	2.89	1.00	1.42	
388	炭集中10	34	第二炭層	アツ	あり	炭化	1.2	0.9	0.6	1.08	1.33	1.50	
389	炭集中10	34	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.5	1.7	1.5	2.25	1.13	1.23	
390	炭集中10	34	第二炭層	アツ	完全	未炭化	1.9	1.3	0.9	2.47	1.46	1.44	
391	炭集中10	35	第二炭層	アツ	完全	炭化	1.8	1.6	0.9	2.88	1.13	1.78	
392	炭集中10	49	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.4	1.4	1.1	1.96	1.00	1.27	
393	炭集中10	49	第二炭層	アツ	なし	炭化	2.0	1.5	1.1	2.40	0.94	0.78	
394	炭集中10	49	第二炭層	アツ	完全	炭化	1.9	1.3	0.9	2.47	1.46	1.44	
395	炭集中10	49	第二炭層	アツ	完全	炭化	1.6	1.5	1.0	2.40	1.07	1.33	
396	炭集中10	50	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.6	1.2	1.2	2.88	1.15	1.40	
397	炭集中10	50	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.4	1.3	0.9	1.82	1.08	1.44	
398	炭集中10	50	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.1	1.2	1.0	1.32	0.92	1.20	
399	炭集中10	50	第二炭層	アツ	なし	炭化	1.4	1.2	1.1	1.68	1.17	1.09	
400	炭集中10	50	第二炭層	アツ	あり	未炭化	1.3	1.3	1.1	1.69	1.00	1.18	

表Ⅷ-2-22 種子計測値(5)

番号	遺構名	アロケ名	層位名	種名	殻の有無	状態	形状	粒長 (mm)	粒幅 (mm)	粒厚 (mm)	大目率 (粒長×粒幅)	粒形 (粒長/粒幅)	断面形 (粒幅/粒厚)	断面 (mm)
401	炭化中10	53	第1-炭層	アウ	完全	炭化	なし	1.8	1.6	1.2	2.88	1.13	1.53	
402	炭化中10	53	第1-炭層	アウ	あり	炭化	なし	1.2	1.2	1.1	1.44	0.82	1.18	
403	炭化中10	53	第1-炭層	アウ	あり	炭化	なし	1.4	1.4	1.2	1.96	1.05	1.17	
404	炭化中10	52	第1-炭層	アウ	なし	炭化	なし	1.2	1.2	1.0	1.44	1.00	1.20	
405	炭化中10	52	第1-炭層	アウ	なし	炭化	なし	1.2	1.2	1.1	1.44	1.00	1.08	
406	炭化中10	52	第1-炭層	アウ	なし	炭化	なし	1.1	1.1	0.9	1.21	1.00	1.22	
407	炭化中10	52	第1-炭層	アウ	あり	炭化	なし	1.2	1.1	0.9	1.32	1.00	1.22	
408	炭化中10	14	第1-炭層	シツ	なし	炭化	なし	1.8	1.6	1.3	3.24	1.14	1.68	
410	炭化中10	36	第1-炭層	シツ	なし	炭化	なし	1.6	1.6	1.2	2.40	1.07	1.26	
411	炭化中10	39	第1-炭層	シツ	なし	炭化	なし	2.1	1.9	1.6	3.99	1.11	1.18	
412	炭化中10	47	第1-炭層	シツ	なし	炭化	なし	1.3	1.0	1.0	1.69	1.00	1.20	
413	炭化中10	47	第1-炭層	シツ	なし	炭化	なし	1.1	0.9	0.9	0.99	1.00	1.22	
414	炭化中10	54	第1-炭層	シツ	なし	炭化	なし	2.0	1.8	1.6	3.78	1.18	1.27	
416	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	1.6	1.3	1.1	1.86	1.18	1.16	
418	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	1.8	1.6	1.3	2.88	1.13	1.23	
417	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	1.6	1.5	1.3	2.76	1.20	1.15	
418	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.1	1.8	1.6	3.96	1.11	1.19	
418	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.4	2.3	1.9	5.52	1.04	1.21	
420	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.3	2.0	1.7	4.83	1.18	1.19	
421	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.4	2.1	1.8	5.04	1.14	1.17	
422	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.1	1.9	1.6	4.39	1.11	1.19	
423	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.6	2.2	1.8	6.56	1.14	1.22	
424	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.2	1.9	1.6	4.18	1.18	1.19	
426	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.3	2.1	1.7	4.83	1.10	1.24	
426	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.2	1.8	1.6	3.96	1.22	1.13	
427	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.2	1.8	1.6	4.18	1.18	1.19	
428	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	1.8	1.7	1.5	3.08	1.00	1.13	
429	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.4	2.1	1.9	5.04	1.14	1.11	
430	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.2	1.9	1.6	4.18	1.18	1.19	
431	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.2	2.1	1.7	4.62	1.08	1.24	
432	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.6	2.2	1.8	6.72	1.19	1.18	
433	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	1.8	1.4	1.3	2.54	1.14	1.08	
434	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	1.8	1.4	1.3	2.54	1.14	1.08	
436	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.1	1.8	1.6	3.78	1.17	1.13	
436	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	炭化	なし	2.6	1.8	1.6	4.68	1.11	1.20	
437	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.1	2.0	1.6	4.20	1.05	1.11	
438	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.4	2.2	2.0	5.28	1.08	1.10	
439	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.4	2.1	1.8	5.04	1.14	1.17	
440	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.3	2.1	1.8	4.83	1.10	1.21	
441	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.4	2.1	1.8	5.04	1.14	1.17	
442	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.5	2.3	1.8	5.76	1.09	1.20	
443	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.5	2.1	1.8	5.25	1.19	1.11	
444	炭化中10	49	第1-炭層	シツ	なし	未炭化	なし	2.6	2.2	1.8	6.72	1.18	1.16	
445	炭化中10	10	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	4.3	2.7	2.4	11.61	1.50	1.53	
446	炭化中10	17	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	4.6	3.1	2.8	13.81	1.61	1.68	
447	炭化中10	17	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	6.5	4.0	3.5	20.80	1.83	1.84	
448	炭化中10	17	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	6.4	3.0	3.0	16.20	1.80	0.79	
448	炭化中10	18	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	6.1	4.3	4.2	26.53	1.42	1.62	
450	炭化中10	24	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	4.6	3.1	3.1	14.28	1.48	1.60	
451	炭化中10	27	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	6.2	4.2	5.2	24.84	1.48	0.81	
452	炭化中10	37	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	9.0	2.3	2.4	11.50	2.17	0.86	
453	炭化中10	37	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	3.7	2.4	2.2	8.88	1.54	1.09	
454	炭化中10	46	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	6.3	3.8	4.4	26.57	1.62	0.89	
455	炭化中10	31	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	3.8	3.1	2.8	11.28	1.23	0.82	
456	炭化中10	31	第1-炭層	アズキ	なし	炭化	なし	4.2	2.6	2.8	13.18	1.68	1.06	

2) 栽培植物の計測値について(表Ⅷ-2-18~22)

今回計測の対象としたのは、破損により粒長・粒幅・粒厚のうち2つ以上のデータが欠失している個体は除外した。ますの空欄はデータの欠失である。従来の計測は粒長/粒幅で粒形をあらわし、粒長×粒幅で粒の大きさを表すという。粒長/粒幅で表現できる粒形とは、平面形(最大幅になる面のみを見たとき)のことであり、従来の計測に粒幅/粒厚を加えて断面形を表現できるようにし、平面形と断面形によって立体で把握できるようにした。粒長/粒幅値が大きくなると平面形は棒状になり、粒幅/粒厚値が大きくなると断面形は扁平になる。

遺跡から出土したイネ・イネ科雑穀は類・有稃果・穎果と遺存状態が多様であった。穎の有無という項目は、有稃果の場合、内外穎に包まれた状態で粒長・粒幅・粒厚のデータがとれたもの「完全」と内外穎が一部に残存して粒長・粒幅・粒厚のデータに穎の厚さが加わったもの「あり」がある。穎果は「なし」である。

状態とは出土状態のことである。後述の変形にかかわって炭化・未炭化は必要である。形状はイネの出土状態に2線あったので項目を加えた。「変形1」とは粒長・粒幅に変異がなく、表面に縦走する稜が遺存しているもので、おもに粒厚に変異がでているもの。「変形2」とは粒長・粒幅・粒厚に変異があり、表面に縦走する稜が遺存していないものである。(鈴木 信)

3) 野生種子等について (表Ⅷ-2-6~10・13~17)

木本種子等

オニグルミ (*Juglans alianthifolia* Carr): 内果皮の破片である。灰集中・炭化物集中の試料は未炭化の細片が非常に多く、炭化の細片はやや多い。また、完形と動物食痕のある個体はない。クルミ集中の試料は未炭化の細片が多く、炭化の細片が少ない。クルミ集中6の試料は、動物食痕や完形が多かったりするが、炭化した破片もあるので人為による集積と考えてよい。

知里 (1953)、更科 (1976) によると、秋に大量採集・貯蔵し、冬に炉の火であぶって割りやすくして食べ、果実は毒流し漁に使われた。北海道の北東部では熊送りにクルミを撒いたそうである。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.): 果皮と子葉の破片である。未炭化の果皮は残りが良好で褐色の色彩があった。灰集中よりは炭化物集中にやや多く出土する傾向がある。灰集中10では炭化した子葉が検出された。大きさについての情報は十分でないが、あまり大きくないようである。

知里 (1953) によると、大量採集して煮て乾燥させ保存した。乾燥したものをFで搗いたり、火で焼栗にもした。粉体でも団体でも使用した。果皮は薬用にした。

コナラ亜属 (*Quercus*): 子葉の形態でカシワ (*Quercus dentata* Thunberg)、ミズナラ (*Quercus mongolica* var. *grosseserrata* Rehder et Wilson) と推定し分類した。灰集中10のミズナラ果皮は子葉に付着していた。灰集中に偏って出土する。未炭化の状態でも出土するコナラ亜属は臍点のみであるのに対して、炭化の状態でも出土するコナラ亜属は種々な部位があり、同一遺構内でも同様である。未炭化臍点・炭化した種々な部位を含む灰集中は、火処における処理・調理過程の結果を示している。

知里 (1953)、更科 (1976) によると、秋に大量採集・貯蔵した。カシワに比べてミズナラのアクは強いが処理・調理方法に明確な違いがない。灰水で煮て臼で搗く、他の食材と混ぜて煮潰すかである。主に粉体で使用した。

カバノキ科 (*Betulaceae*): サワシバ (*Carpinus cordata* Blume) は楕円形で条線が縦走する。アサダ (*Ostrya japonica* Sargent) は長卵形で条線が縦走する。少数出土している。知里 (1953)、更科 (1976) によれば、材の利用はあるが果実の利用は知られていない。

ヤマグワ (*Morus bombycis* Koidz.): 先端がやや尖る卵形、腹面がややたいら。灰集中10から少数出土している。果実は可食で甘味である。知里 (1953) によると食べられていたようだ。

モクレン属 (*Mangolia*): 全体・先端形、臍点の位置でホノノキ (*Mangolia obovata* Thunberg) とキタコブシ (*Mangolia kobus* var. *borealis* Sargent) を分類した。灰集中10にやや多く、その他5か所から少数出土している。知里 (1953)、更科 (1976) によると薬用とされていたようだ。

チョウセンゴミシ (*Schisandra chinensis* (Turcz.) Baillon): 4mm前後の腎形。灰集中10から少数出土している。果実は可食で甘酸味である。知里 (1953)、更科 (1976) によるとアイヌの人々は「フ・ハ。(赤い・やまぶどう)」とよび、薬用としていたようだ。

マタタビ属 (*Actinidia*): 表面には全体に亀甲条の凹みがある。大きさが2mm以上、やや長楕円形のをサルナシ (*Actinidia arguta* (Sieb. et Zucc.) Planchon) と推定し分類した。果実は可食で甘味である。

知里 (1953)、更科 (1976) によるとアイヌの人々は果実を食べ、莖はカンジキの材にしていたという。マタタビ、ミヤママタタビはサルナシに比べて不味なため、しばしば「～のサルナシ」と呼ばれた。

ハマナス (*Rosa rugosa* Thunberg): 4面体に近いかたちで角が丸く、やや厚めの果皮。ヤマブドウ、キハダについて3番目に多く出土する。未炭化種子がかなり多かった。果実は可食で甘味である。知里 (1953)、更科 (1976) によるとアイヌの人々は食べており、乾燥させて保存食にもしていた。熊送りに使われた。

スモモ (*Pulus salicina* Lindley) : 大きさが12mm前後、果皮の厚さは縫合面で2mm前後で、出土した他のサクラ属に比べ非常に大きい。表面は不整形な浅い凹みがある。ヤマブドウ、キハダ、ハマナスについて4番目に多く出土する。果実は可食で甘酸味である。知里(1953)によると「*Momani*」(スモモの木)という言葉を沙流・千歳・石狩で採集したとある。

その他サクラ属 (*Pulus*) : エゾヤマザクラ (*Pulus sargentii* Rehder) は先端がやや尖る球形、明瞭な2本の側縁がある。シウリザクラ (*Pulus siori* Fr. Schmidt) は長卵形、表面は平滑。エゾノウミズザクラ (*Pulus padus* L.) は球形に近い卵形、表面は不規則なしわがある。灰集中10・11に多く出土した。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。

エゾノコリンゴ (*Malus baccata* var. *mandshurica* (Maxim.) C. S. Schneider) : 下端が尖る水滴型で片側面がたいら、断面形はカマボコ形。灰集中17だけに出土した。果実は可食で少し渋い甘酸味である。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。

キハダ (*Phellodendron amurense* Ruprecht) : 弧のゆるい半月形、表面は網目状の細線が覆う。ヤマブドウについて2番目に多く出土する。果実は可食で甘または苦味である。知里(1953)によると調味、薬用に用いられたようだ。

サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* (L.) De Candolle) : 下端が尖るがほぼ球形で腹面に縦方向の隆起をなす。光沢のある種皮表面の下には網目状の細線が覆う。灰集中10だけに出土した。未熟の果実は香辛料、成熟した果皮は薬用。知里(1953)によると調味に用いられたようだ。

ウルシ属 (*Rhus*) : ツタウルシ (*Rhus ambigua* Lavalley, ex Dippel) は一端が大きい腎形。ヤマウルシ (*Rhus trichocarpa* Miquel) はツタウルシよりも丸い腎形。両者は基端側の凹みの特徴が異なる。知里(1953)、更科(1976)によると利用は知られていない。

ニシキギ属 (*Euonymus*) : 長楕円形、1本の条線が腹面を縦走する。炭化物集中15からのみ出土している。知里(1953)によると利用は知られていない。

ミツバウツギ (*Staphylea bumalda* (Thunberg) De Candolle) : 倒卵形。下端に臍状の凹みがある。灰集中10・11に多量に出土している。知里(1953)によると、利用は知られていない。

ヤマブドウ (*Vitis coignetiae* Pulliat) : 下端がやや尖る倒卵形。背面には臍があり、腹面中央寄りには大きく深い穴がある。大きさ、全体形、穴の位置がノブドウと異なる。1番多く出土する。果実は可食で甘味である。知里(1953)、更科(1976)によるとアイヌの人々はよく食べていた。

ミズキ (*Cornus controversa* Hemsley) : 楕円形、表面には縦方向に溝がはしる。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。粉川(1983)によれば果実は可食で甘酸味である。遺構からは混入と考えられない数が出土しているので、食べていたのだろう。

トラノギ (*Aralia elata* (Miquel) Seemann) : 弧のゆるい半月形、断面は扁平な菱形。灰集中10だけに出土した。若芽は食用、根・樹皮は薬用として用いられる。知里(1953)、更科(1976)にも同様に記されており、果実の利用は知られていない。

ウコギ属 (*Acanthopanax*) : エゾウコギ (*Acanthopanax senticosus* (Ruprecht et Maximowicz) Harms) の小核は半月形で、断面は扁平で腹面側が尖る楔形。コシアブラ (*Acanthopanax sciadophylloides* Franchet et Savatier) の小核は半月形で上端が腹面側に入り込む。断面は楕円形を短軸で半截した形、腹面はたいらで周縁がやや盛り上がる。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。

エゾニワトコ (*Sambucus sieboldiana* var. *miquelii* (Nakai) Hara) : 端がやや尖る楕円形。腹面がややたいらで扁平。表皮全面に横方向の不規則なしわがある。1点を除いて灰集中から出土している。山岸(1983)によるとアク抜き後や発酵後には可食となる。知里(1953)によると幹の利用は一般的で、果実の食用は美観で例がある。薬用は樺太の例が、更科(1976)に広尾の例がある。

ガマズミ属 (*Viburnum*) : 端が尖る楕円形、扁平な断面。表皮全面に不規則なしわがある。灰集中16だけに出土した。知里(1953)によるとミヤマガマズミ (*Viburnum wrightii* Miquel) について述べられているが果実の利用は知られていない。山岸(1983)によると果実は可食で甘酸味である。草本種子

タデ科 (*Polygonaceae*) : キシギシ属 (*Rumex* L.) は断面が三角形で、突出した明確な稜がある。タデ属 (*Polygonum* L.) は、断面が三角形・扁平な楕円形・レンズ状のものが出土している。タデ科は草本種子で一番多く出土している。サナエタデ、オオイヌタデは比較的多かった。ミチヤナギ、イシミカワ、タニソバの形態をもったものは出土していない。知里(1953)によると梔別で種子を食したという。サナエタデ(水田雑草)・オオイヌタデ(畑地雑草)は古代に帰化した種である。

ナデシコ科 (*Caryophyllaceae*) : 大きさ0.7mm前後、ほぼ円形、断面は扁平な楕円形、端に横方向の切れ込みがある。表面に乳状突起がある。ノミノフスマ(畑地雑草)であろう。灰集中10の第2灰層だけに出土した。

アカザ属 (*Chenopodium*) : 大きさ1.2mm前後、卵に近い腎形で一端が突出する。断面はレンズ状、表面に光沢がある。シロザ・アカザ(畑地雑草)が考えられる。タデ科、カヤツリグサ科について3番目に多く出土している。若葉は食用となる。知里(1953)によると梔別で種子を食したという。

アキカラマツ (*Thalictrum minus* L. var. *hypoleucum* (Sieb. et Zucc.) Miquel) : 大きさ2.5mm前後、紡錘形で8本の稜線が縦走する。人里雑草。未炭化の個体が灰集中10に1点出土した。更科(1976)によると根と葉は薬用としていたという。

キンミズヒキ (*Agrimonia pilosa* Ledeb.) : 萼が出土している。萼は倒円錐形で上部に刺が付く。林地に生える。知里(1953)、更科(1976)によると萼の利用は知られていない。

ミツバツチグリ (*Potentilla freyniana* Bornm.) : 大きさ1.0mm前後、楕円形で一端が突出する。断面はやや扁平。表面にしわがある。未炭化の個体が炭化物集中11に1点出土した。林地に生える。

キイチゴ属 (*Rubus* L.) : 大きさ2.5mm前後、半月形~隅丸三角形で、表面に深いしわがある。種としてはホロムイイチゴ、ベニバナイチゴ、エゾイチゴ、クロイチゴ、ナワシロイチゴ、クマイチゴなどがある。表面の深いしわのあるクロイチゴ (*Rubus mesogaeus* Focke) が多く出土しているようだ。タデ科、カヤツリグサ科、アカザ属について4番目に多く出土している。未炭化の個体がほとんどで、極稀に炭化しているものがある。知里(1953)、更科(1976)によるとよく食しているようだ。

マメ科 (*Leguminosae*) : ハギ属 (*Lespedeza* Michx.) は大きさ2.5mm前後、歪んだ卵形で断面は扁平、下端側腹面に丸い臍がある。炭化個体が炭化物集中10から1点出土した。メドハギ (*Lespedeza cuneata* G. Don) の可能性がある(畑地雑草)。ソラマメ属 (*Vicia* L.) は大きさ3.0mm前後、楕円形で断面はほぼ円形、下端側をめぐる長細い臍がある。臍条も長くやや隆起する。クサフジ (*Vicia cracca* L.) かそれに近縁の種であろう(人里雑草)。ヤブマメ (*Amphicarpaea edgeworthii* Benth. var. *japonica* Oliver) は大きさ3.5mm前後、円形に近い楕円形で断面はやや扁平、腹面のほぼ中央に円形に近い楕円形の臍がある。クズ (*Pueraria*) は大きさ3.5mm前後、楕円形で断面は扁平、腹面の中央が凹み、円形の飛び出た臍がある(林地に生える)。マメ科で集計したもののほとんどはソラマメ属の臍部分が破損したものであるが、ツルマメ (*Glycine soja* Sieb. et Zucc.) が灰集中10の第1灰層に5点(完形)加えられている。ツルマメは大きさ4.0mm前後、楕円形

で断面は扁平、長楕円形の臍が下端よりにあり、発芽孔が中央にある。知里(1953)によるとメドハギ、クサフジ、クズの利用は知られていない。ツルマメは記載がない。ヤブマメは地下茎に結実したものは食用にしたとある。

ゲンノショウコ (*Geranium thunbergii* Sieb. et Zucc.) : 大きさ2.0mm前後、楕円形で断面も楕円形、腹面下部に突起した臍があり、臍下より端に明瞭な臍条がある。知里(1953)、更科(1976)によると葉は薬用として用いられるが、果実の利用は知られていない。

ミヤマニガウリ (*Schizopepon bryoniaefolius* Maxim.) : 大きさ10.0mm前後、水滴形で断面は扁平、縁辺は突起状の盛り上がりが見られる。全て未炭化だった。深山にはえる。

ウド (*Aralia cordata* Thunberg) : 大きさ1.5mm前後、一端が尖る形で断面は扁平。タデ科、カヤツリグサ科、アカザ属、キイチゴ属について5番目に多く検出された。ほとんどが未炭化である。知里(1953)によると、茎は食用・薬用に使われる。果実の利用は知られていない。

セリ科 (*Umbelliferae*) : ヤブジラミ (*Torilis japonica* (Houtt.) De Candolle) は大きさ4.0mm前後、先端が尖る長卵形で断面は楕円形、各分果には5つの稜が縦走する。表面にはとげがある(人里雑草)。知里(1953)、更科(1976)によると利用は知られていない。ドクゼリ (*Cicuta virosa* L.) は大きさ4.0mm前後、先端がやや尖る長楕円形で断面は楕円形、各分果には5つの低い稜が縦走する。水辺に生える。知里(1953)によると果実の利用は知られておらず、根は薬用にされる。

アカネ科 (*Rubiaceae*) : 大きさ2.0mm前後、ほぼ丸い楕円形で断面は扁平、腹面が丸く凹んで臍がある。全面にかぎ毛がある。ヤエムグラ (*Galium spurium* var. *echinospermon* Hayek) であろう。未炭化個体が炭化物集中6から8点出土した。知里(1953)によると利用は知られていない。

ヒルガオ属 (*Calystegia* R. Br.) : 大きさ4.0mm前後、倒卵形。下端の凹みに臍がある。表皮は粗い。ヒルガオ (*Calystegia japonica* Choisy) の可能性がある。灰集中10に出土している。知里(1953)、更科(1976)によると根は食されていた。果実の利用は知られていない。

ナス科 (*Solanaceae*) : 一端が尖る丸い平面、扁平な断面、網状隆起線をもつが同定が難しいものをナス科として集計した。イヌホウズキ (*Solanum nigrum* L.) は大きさ1.5mm前後、倒卵形で下端が尖る。断面は扁平。表面は全面に網状隆起線がある。知里(1953)によると利用は知られていない。

キク科 (*Compositae*) : 丸いかたちのもの、上端が管状に伸びたもの、冠毛が芒状になったものはみあたらなかった。

ユリ科 (*Liliaceae*) : 球形のものがほとんどで、扁平なかたちのもの、棒状のものはみあたらなかった。この科で雑草と分類されるものほとんどが人里雑草である。

イネ科 (*Gramineae*) : 棒状の穎果がほとんどである。この科で雑草と分類されるものは水田雑草と畑地雑草が半々である。

カヤツリグサ科 (*Cyperaceae*) : ほとんどがスゲ類である。タデ属に次いで2番目に多く出土する。この科で雑草と分類されるものほとんどが水田雑草である。

4) 出土野生種子と環境について

遺構出土の試料であるから人為的選択の結果といえる。しかし、それを選択できたのも周辺の環境があつてのことである。環境の推定はやや困難であるが、下記の分類のうちの第3類によって可能と思われる。分類の基準は、利用の程度・方法についての民族例の有無である。

野生第1類は利用例のあるもの。主食の性格があり、保存される食材(オニグルミ・クリ・コナラ 亜属・ハマナス)。嗜好的食品(ヤマゴウ・マタタビ属・ハマナス・スモモ・キハダ・サンショウ・ヤマブドウ・ミズキ・エゾニワトコ・タデ属・ギシギシ属・アカザ属・キイチゴ属)。薬用(モクレン属・チョウセンゴミシ・キハダ・エゾニワトコ)。

野生第2類は種子以外の部分が利用されている例。カバノキ科・スモモ以外のサクランボ・エゾノコリンゴ・タラノキ・ウコギ属・ガマズミ属・アキカラマツ・ゲンノショウコ・ウド・ドクゼリ・ヒルガオ属。

第2類は、サワシバ・シウリザクラ・エゾノウワミズザクラ・エゾウコギは沢の沃地、アサダ・エゾヤマザクラ・コシアブラは湿った山腹の沃地、エゾノコリンゴは湿原の周辺、ヒルガオ属は耕地雑草、アキカラマツは人里雑草、ゲンノショウコ・ウドは林地、ドクゼリは水辺である。これらは野生第3類に近い性質を持っているようにみえるが山地のものが多く、耕地・人里雑草が少ない。やはり何らかの意図で搬入されたと考えられる。特に多数出土の種子は偶然とは思えない。

野生第3類はまったく利用例がないもの。ウルシ属・ニシキギ属・ミツバウツギ・ナデシコ科・アカザ属・キンミズヒキ・ミツバツチグリ・メドハギ・クサフジ・クズ・ツルマメ・ミヤマニガウリ・ヤブジラミ・アカネ科・キク科・ユリ科・イネ科・スゲ類。

ツタウルシ・ニシキギ属・ミヤマニガウリは山野に、ミツバウツギは山地の湿ったところ。ヤマウルシは湿原の周辺にはえる。キンミズヒキ・ミツバツチグリ・クズは林地にはえる。ナデシコ科・メドハギは耕地雑草である。クサフジ・ヤブジラミは人里雑草である。この中で出土数が多いのはヤマウルシ・ミツバウツギ・ナデシコ科・クサフジである。以上より、遺跡内の環境は耕地を含む湿ったところだったといえよう。

上述の結果は遺跡中心部の状況を示している。周辺部ではどうだったのであろう。平成3年度調査のB地区と比較してみよう。クラムシェル・水洗選別で得た試料である。第3類に加わるものとしてスギナ、ショウブ、ハンノキがある。いずれも水辺に生えるものである。周辺部ではより低湿地の環境にあったことがわかる。

5) 有用植物種子の組み合わせ

ここでは野生第1類（食用・薬用植物）種子と栽培植物種子を有用植物とよんだ。

主食は貯蔵に際して特別な保存処理のないオオムギ?・イネ・キビ・アワ・アズキ、保存処理が必要なオニグルミ・クリ・コナラ亜属がある。栽培種のバリエーションが豊富であるが、主食の維持は採集と栽培の2本だてで行われている。他には保存される食材としてハマナスがある。

嗜好的食品の大部分は野生第1類（ヤマグワ・マタタビ属・ハマナス・スモモ・キハダ・サンショウ・ヤマブドウ・ミズキ・エゾニワトコ・タデ属・ギシギシ属・アカザ属・キイチゴ属）であり、栽培種ではシソ属があるのみである。嗜好的食品は野生第1類によって選択・維持されている。

薬用（モクレン属・チョウセンゴギシ・キハダ・エゾニワトコ）は、もっぱら野生第1類によって選択・維持されている。

繊維の原料としてアサガ栽培されていた。

6) 有用植物種子の組み合わせの起源について

フローテーション調査：0 B層における組み合わせは、遺構についてはI B-1層まではさかのぼれる。表Ⅷ-2-4は包含層のデータであるがそれを見ると、I B-2層においては、野生第1類が少なくオニグルミ・クリ・コナラ亜属がない、イネがない、の2点を除けば主食は揃っている。栽培種が豊富であるという主食の維持のありかたは少なくともI B-2層（縄文文化期中期）までさかのぼれる。同期の同様な例は札幌市サクシュコトニ川遺跡（1986）がある。

花粉分析：I B-3層以下では栽培種子は出土していなかったのだろうか。山田（1996）によると、c-66-19地点（Ⅷ章3節表記のLoc. 2）のI B-3層上部から栽培型イネ科花粉が出現している。c-66-18地点（Ⅷ章3節表記のLoc. 1）ではI B-2層上部から、その他の地点ではI B-1層下部から出現している。

また、クワ科の花粉はc-66-18地点ではI B-2層上部、d-67-91地点（Ⅷ章3節表記のLoc

3) では I B-1 層上部から出現している。栽培型ウリ科花粉は d-67-91 地点では I B-1 層下部から出現している。キシギシ属、アカザ科(耕地雑草)の花粉も c-66-18 地点では I B-2 層上部から出現している。これらの傾向は 0 B 層まで続く。

花粉分析の成果より、I B-3 層上部(縄文文化期前期後葉)のころには主食の維持に栽培種が関与していたことがわかる。

植物珪酸体分析とイネ栽培: イネは I B-1 層から検出され I B-2 層にはない。炭化イネ種子の古い例として縄文文化期前期末の千歳市オサツ 2 遺跡 SH-11(1996)がある。I B-3 層から出土した土器は少ないが、SH-11 並行ぐらいと考えてよさそう。この例は栽培されたかどうか不明である。

本遺跡において、灰集中 14 (0 B 層下部)、灰集中 10 第 1 灰層 (0 B 層上面)、炭化物集中 17 (0 B 層) から有稈果が検出されており、灰集中 10 第 1 灰層 (0 B 層上面)、炭化物集中 11 (0 B 層上面) から穎が検出されている。初付きの米と籾が出土したのである。初付きのまま移入されたのであろうか。

植物珪酸体分析を行ったところ、0 B 層上部からイネ属葉身機動細胞に由来する機動細胞珪酸体が c-66-18 地点、c-66-19 地点、d-67-91 地点で検出されている。特に c-66-18 地点で約 30%、c-66-19 地点で約 65% の出現率で高率である。稲葉製品は通常はイネの茎の部分を使うので葉鞘の珪酸体の出土であれば問題はない。稲葉製品の珪酸体ではないようだ。

栽培以外に考えられることは、フローテーションの結果と合わせると、五つのことが考えられる。

- ・第 1 にイネの葉で作られた道具があって、それが持ちこまれ数十メートル四方に分散し埋没した。
- ・第 2 に初付きの米が茎と葉を付けた状態で流通し、それが持ちこまれ数十メートル四方に分散して埋没した。
- ・第 3 にイネの葉が持ちこまれ、数十メートル四方の土壤に分散して埋没した。
- ・第 4 にイネの葉が持ちこまれ、数十メートル四方の土壤に分散して混ぜ込まれた(肥料として)。
- ・第 5 にイネの葉を含んだ稲葉灰が持ちこまれ、数十メートル四方の土壤に分散して混ぜ込まれた(肥料として)。

以上の例があるかいなか筆者は知らないのですが教示いただきたい。山本(1996)によると、寛文年間(1661 年~1673 年)以降に道南で稲作が和人の手ではじめられているという記録がある。(鈴木 信)

参考文献

- 知里真志保(1953) 『分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』平凡社
 更科源蔵・更科 光(1976) 『コタン生物記 1』法政大学出版局
 粉川昭平(1983) 『縄文人の主な植物食糧』『縄文文化の研究 2』雄山閣
 山岸 喬・敦子(1983) 『北海道の木の実』北海タイムス社
 宮崎 浩(1985) 『葉 I』『ものと人間の文化史 55-1』
 高橋和樹(1986) 『忍路土場遺跡・忍路 5 遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター P. 191~192
 Gary W. Crawford(1986) 『植物種子遺存体』『サクシュコトニ川遺跡』北海道大学 P. 143~160
 佐藤敏也(1988) 『弥生のイネ』『弥生文化の研究 2』雄山閣
 山田悟郎(1989) 『イェルカシ遺跡』平取町遺跡調査会 P. 205~222
 田口 尚・鈴木 信(1991) 『美沢川流域の遺跡群 XVI』(財)北海道埋蔵文化財センター
 椿坂恭代(1993) 『アワ・ヒエ・キビの同定』『先史学と関連科学』吉崎昌一先生還暦記念論集
 松本 豪(1994) 『鳥浜貝塚・桑飼下遺跡出土のママ類について』『筑波大学先史学・考古学研究 5』
 山田悟郎(1996) 『美沢川流域の遺跡群 XVIII』(財)北海道埋蔵文化財センター P. 25~40
 山本 信(1996) 『近世蝦夷地農作物年表』北海道大学図書刊行会 P. 3~4
 吉崎昌一・椿坂恭代(1996) 『オサツ 2 遺跡(2)』(財)北海道埋蔵文化財センター p. 237~248



1 イネ



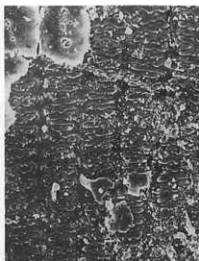
2 イネ



3 アワ外穎部分



4 a ヒエ外穎部分



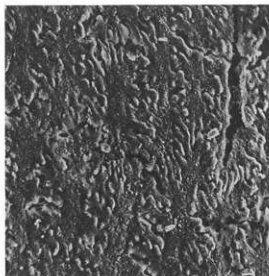
4 b 4 a 外穎の表面組織



5 ヒエ穎果



6 a キビ外穎部分



6 b 6 a 外穎の表面組織

スケール「」間隔1.0mm

図Ⅶ-2-3 出土栽培種子(1)



7 ソバ



8 アズキ



9 シソ属



10 アサ



11 a オオムギ? 11 b 腹面の背面

計測値

1、イネ 長さ3.80mm、幅2.05mm、厚さ1.80mm
 2、イネ 長さ4.40mm、幅2.80mm、厚さ2.70mm
 3、アワ 長さ1.70mm、幅1.40mm、厚さ1.00mm
 4 a、ヒエ 長さ2.30mm、幅1.60mm、厚さ1.20mm
 5、ヒエ 長さ1.65mm、幅1.40mm、厚さ0.90mm
 6 a、キビ 長さ3.00mm、幅1.45mm、厚さ0.90mm

7、ソバ 長さ4.00mm、幅3.10mm
 8、アズキ 長さ4.30mm、幅2.70mm、厚さ2.40mm
 9、シソ属 長さ1.90mm、幅1.55mm、厚さ1.20mm
 10、アサ 長さ3.50mm、幅2.70mm、厚さ2.30mm
 11 a、オオムギ? 長さ4.50mm、幅1.65mm、厚さ1.00mm

(4) 千歳市美々8遺跡低湿度部出土の動物遺存体

千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理

1) はじめに

千歳市美々8遺跡において美沢川低湿度部より他の有機質遺物とともに多量の動物遺存体が検出された。これらの動物遺存体は0B層およびIB層と呼ばれる包含層中の主として灰および炭化物の集中部に伴うものである。

遺物は各集中ごとにすべて、あるいは分割されて土壌サンプリングされ、4mm、2mm、1.4mm、0.425mmの3種類のフルイを通すことにより比較的大きな遺物から微細な遺物にわたって回収された。その結果大量の動物遺存体が残っていたことが判明した。特にもっとも規模の大きな「灰集中10」と呼ばれる遺構は第1灰層と第2灰層に分層されたが、第1灰層は50ほどの小区に分割されて遺物が回収されることとなった。整理担当者の方は多くの時間と労力を動物遺存体の同定、分類、集計に充てられた。筆者のもとに委ねられた時点ではすでに各遺構、小区ごとに各種動物遺存体の同定、集計がほとんど終了し、遺物台帳にまとめられるという段階にいたっていた。整理担当者および作業に従事された方々に心より御礼申し上げたい。

さてこれらの遺物であるが全数について目をとすことは時間的に不可能であり、今回は次の小区および遺構、包含層の動物遺存体を対象とすることとした。

・灰集中10

第1灰層-偶数番号の小区

第2灰層-奇数番号の小区

- ・その他の灰集中
- ・炭化物集中
- ・砂集中
- ・貝集中
- ・包含層各層

動物遺存体は表Ⅳ-3-1~表Ⅳ-3-19に示した。学名は原則として表中に記載した。これらは波部(1987)、東(1982)、阿部(1981)、小林(1981)、高野(1982)、林(1982)によった。出土数は数量と重量の2表記を基本としたが、細片化したものや粉状のもの、カワシヅガイの殻皮などは重量表記のみとした場合もある。

2) 出土動物遺存体

整理対象とした動物遺存体は総数117、264点(粉状のものを除く)である。今回分析できなかったものを含めると25万点ほどに達すると推定される膨大な出土量である。これらは、貝類、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類の各綱から種にわたっている。

貝類では鹹水産、淡水産、陸産の各種貝類が出土している。鹹水産ではホタテガイ *Patinopecten (Mizuhopecten) yessoensis* が比較的目についた。被熱している例が多く、完形例はない。これにウバガイ *Spisula (pseudocardium) sachalinensis*、タマキガイ *Glycymeris vestita*、タマキビガイ *Littorina brevicura*、エゾワスレガイ *Callista (Ezocallista) brevisiphonata* などが少量ずつ混じる。淡水産ではカワシヅガイ *Margaritifera laevis* が非常に多く、カラスガイ *Cristaria plicata* などが多少混じるようである。陸産貝類は種は判明しないが、形態はすべて微小なバツラマイマイタイプおよびマイマイであり、オカチウジガイタイプはない。なかにはほとんど現生と考えられる資料も含まれていた。

ウニ綱 *Echinoidea* の棘かと考えられる例が1点みられた。

魚類はサケ科 *Salmonidae*、コイ科 *Cyprinidae* がもっとも多い。さらにイトヨ科 *Gasterosteidae* ニシン *Clupea pallasii* およびニシン科 *Clupeidae* が比較的目についた。またアブラザメ科（ツノザメ科）*Squalina* の棘が少量検出されている。これにカレイ科 *Pleuronectidae*、マグロ類 *Scombridae* sp. が少量加わる。

両生類はカエル目 *Salientia* と考えられる椎骨が少量みとめられた。

爬虫類はヘビ亜目 *Ophidia* のやや小型のヘビの椎骨が出土している。

鳥類はキジ *Phasianus colchicus* をはじめとしてガン・カモ科 *Anatidae* などが混じるようであるがほとんど細片化しており同定にいたっていない。

哺乳類は大型ではシカ *Cervus nippon yesoensis* が主体となる。ほとんどが細片化しており、指趾骨にいたるまで完形を保つ例はない。わずかに下顎骨にやや完形率の高いものがみられる。また、筆者のものには骨角器が委ねられていないので詳細は不明であるが、金属器で切断や削りなどを行った際に副次的に生成されたと考えられる削片（カールした状態の例も多い）がかなり多くみられる。灰や炭化物集中部およびその周辺では角や骨の加工が行われていたのであろうか。

シカ以外ではイヌ *Canis Familiaris* やイヌ科 *Canidae* が比較的多い。エゾオオカミ *Canis lupus* のような大型ではなく、キツネ *Vulpes vulpes* あるいはタヌキ *Nyctereutes procyonoides* などの小型のイヌ科と考えられる。また齧歯目 *Rodentia* が比較的多く出土している。

灰集中10ではヒトの臼歯の歯冠が1点出土した。

参考文献

- 波部忠重 (1987) : 『貝 I』 『貝 II』 学研生物図鑑
 東 正雄 (1982) : 『原色日本陸産貝類図鑑』 保育社
 阿部宗明 (1981) : 『原色魚類検索図鑑』 9版 北隆館
 小林桂助 (1981) : 『鳥』 標準原色図鑑全集5 保育社
 高野伸二 (1982) : 『フィールドガイド日本の野鳥』 野鳥ブックス② 日本野鳥の会
 林 壽郎 (1982) : 『動物 II』 標準原色図鑑全集20 19刷 保育社

表Ⅳ-2-23 灰集中第1灰層の動物遺存体(1)

遺体名-採取区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考	
灰集中10-1	第1灰層	ホナチガイ <i>Panopeuspecten (Muniopecten) yessoensis</i>	1			
灰集中10-1	第1灰層	貝類 non det. 貝殻に足跡がある個体	1	0.005		
灰集中10-1	第1灰層	刺胞類 non det. 部位不明		6.44		
灰集中10-2	第1灰層	カワシシジユガイ <i>Margaritifera laevis?</i> 殻皮		0.061		
灰集中10-2	第1灰層	ニシン <i>Chupea pallasi</i> 耳骨	1	0.015		
灰集中10-2	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗	42	0.538		
灰集中10-2	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		6.233		
灰集中10-2	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		1.0851		
灰集中10-2	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨主体破片	466	5.232		
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det.	243	4.31		
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨	44	0.218		
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨	2	0.009		
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨	209	0.408		
灰集中10-2	第1灰層	刺胞類 non det. 部位不明		6.246		
灰集中10-2	第1灰層	管付 腸硬化		30.13		
灰集中10-4	第1灰層	カワシシジユガイ <i>Margaritifera laevis</i>	5	0.003		
灰集中10-4	第1灰層	貝類 non det.	23	0.330		
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨	918	10.446		
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		30.383		
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		14	1.448	
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨主体破片		496	10.343	
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp.		226	2.412	
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		0.4002		
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 下尾骨		2	0.216	
灰集中10-4	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		18	0.909	
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 骨片		48	0.524	
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨破片		2406	12.346	
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 部位不明		34	11.445	
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨		1		
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨高砂層		1		
灰集中10-4	第1灰層	シロ <i>Cervus nippon yessoensis</i> 角(高砂部を全金属器による切断、成形)	2	5.833		
灰集中10-4	第1灰層	シロ <i>Cervus nippon yessoensis</i> 中足骨(角を全金属器による切断)	1			
灰集中10-4	第1灰層	シロ <i>Cervus nippon yessoensis?</i> 角?を全金属器による切断、成形?	1			
灰集中10-4	第1灰層	刺胞類 non det. 部位不明	92	6.563	金属器による切断例あり	
灰集中10-4	第1灰層	管付 腸硬化		185.423		
灰集中10-6	第1灰層	カワシシジユガイ <i>Margaritifera laevis</i> 殻皮	1	0.004		
灰集中10-6	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		0.664		
灰集中10-6	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨破片	220	2.218		
灰集中10-6	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		9	0.084	
灰集中10-6	第1灰層	魚類 non det. 部位不明		0.511		
灰集中10-6	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨破片		8	0.65	
灰集中10-6	第1灰層	管付 腸硬化		336.592		
灰集中10-8	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		4	0.049	
灰集中10-8	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		0.281		
灰集中10-8	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨破片		62	0.366	
灰集中10-8	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		4	0.034	
灰集中10-8	第1灰層	魚類 non det. 部位不明(鱗骨)		1	0.138	
灰集中10-8	第1灰層	刺胞類 non det. 部位不明		3	0.41	
灰集中10-10	第1灰層	カラスガイ <i>Crestaria plicata?</i> 殻皮		1.194		
灰集中10-10	第1灰層	カラスガイ <i>Crestaria plicata</i>		1.551		
灰集中10-10	第1灰層	カワシシジユガイ <i>Margaritifera laevis</i> 殻皮		0.34		
灰集中10-10	第1灰層	ホナチガイ <i>Panopeuspecten (Muniopecten) yessoensis</i>		1.342		
灰集中10-10	第1灰層	冷凍貝類 non det.	1	0.001	不明	
灰集中10-10	第1灰層	貝類 non det.		0.025		
灰集中10-10	第1灰層	貝類 non det. 貝殻に足跡がある個体		2	0.02	
灰集中10-10	第1灰層	ニシン <i>Chupea pallasi</i> 耳骨		3	0.028	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		1	0.085	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		4	0.061	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		2	0.099	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		4	0.114	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		1	0.011	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		2	0.014	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨		2326	43.119	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨破片		5513	54.460	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		650	8.619	
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		104.848		
灰集中10-10	第1灰層	ササギ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗		9	0.091	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯槽(鱗骨)		1	0.053	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗骨		3	0.026	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗骨		3	0.140	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾節(鱗骨)		1	+	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯槽骨?		15	0.269	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯槽骨		9	0.064	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 部位不明		4	0.016	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯槽骨破片		3		
灰集中10-10	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨破片		33	0.412	
灰集中10-10	第1灰層	魚類 non det. 部位不明		500	52.890	
灰集中10-10	第1灰層	蟹類 <i>Randania</i> ⅩⅤ上骨 <i>Muridae</i> sp. 右大腿骨 高砂層		1		
灰集中10-10	第1灰層	蟹類 <i>Randania</i> ⅩⅤ上骨 <i>Muridae</i> sp. 大腿骨 高砂層(破片)		1		
灰集中10-10	第1灰層	蟹類 <i>Randania</i> ⅩⅤ上骨 <i>Muridae</i> sp. 第1腹肢 左腹肢		1		
灰集中10-10	第1灰層	蟹類 <i>Randania</i> ⅩⅤ上骨 <i>Muridae</i> sp. 左下腹肢		1	0.04	
灰集中10-10	第1灰層	蟹類 <i>Randania</i> ⅩⅤ上骨 <i>Muridae</i> sp. 右大腿骨(高砂層)		1		
灰集中10-10	第1灰層	蟹類 <i>Randania</i> non det. 足		3		
灰集中10-10	第1灰層	蟹類 <i>Randania</i> non det. 上骨		1	0.016	
灰集中10-10	第1灰層	イヌ <i>Canis</i> sp. 左大腿骨(鱗骨破片)		1		
灰集中10-10	第1灰層	イヌ <i>Canis Familiaris</i> 右下顎(顎骨)		1	0.265	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断		1		
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia?</i> 部位不明		2	0.041	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断、成形		5	2.34	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断		6	1.285	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明		44	8.163	金属器による層上に隣接する断片を含む
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明		784	9.664	金属器による層上に隣接する断片を含む
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による層間				層1(右)含む

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-24 灰集巾10第1灰層の動物遺存体(2)

遺体名・発掘区	層位	植物遺存体	高さ	位置	備考
灰集巾10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	1	0.094	直上層? (骨質)
灰集巾10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	50	2.841	直上層?
灰集巾10-10	第1灰層	ヒト 下臼歯	1	0.843	
灰集巾10-12	第1灰層	カラシシジヤイ? <i>Margaritifera laevis?</i> 殻皮	1	0.031	
灰集巾10-12	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	836	8.666	
灰集巾10-12	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	16	2.354	
灰集巾10-12	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	2184	21.484	破片
灰集巾10-12	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	39.435	40.835	破片
灰集巾10-12	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	42	1.103	
灰集巾10-12	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 尾骨	1	0.044	
灰集巾10-12	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 尾骨	1	0.041	
灰集巾10-12	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	1	0.004	
灰集巾10-12	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	2	0.03	
灰集巾10-12	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	42	1.431	
灰集巾10-12	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上顎骨など	1	0.555	不明
灰集巾10-12	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾椎体部分	1	0.004	
灰集巾10-12	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	4	0.054	
灰集巾10-12	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	3	0.012	
灰集巾10-12	第1灰層	鳥類 non det. 部位不明破片	4	1.534	
灰集巾10-12	第1灰層	鳥類 non det. 骨	46	2.13	
灰集巾10-12	第1灰層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 左腕部中爪骨	1	0.494	
灰集巾10-12	第1灰層	鳥類 <i>Rodentia</i> non det. 下顎骨	1	0.044	
灰集巾10-12	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 左腕部 産位部	4	11.820	
灰集巾10-12	第1灰層	骨片 破片	206.500		
灰集巾10-13	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	1		全灰層による切屑
灰集巾10-14	第1灰層	カタツムリ <i>Patinopecten (Mihashiopecten) yesoensis</i>	1	2.463	
灰集巾10-14	第1灰層	カラシシジヤイ? <i>Margaritifera laevis</i> 殻皮	1	0.135	
灰集巾10-14	第1灰層	カラシシジヤイ? <i>Margaritifera laevis</i>	1	0.081	
灰集巾10-14	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	60	5.904	
灰集巾10-14	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	142	1.484	
灰集巾10-14	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	515	4.462	
灰集巾10-14	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯	30	0.242	
灰集巾10-14	第1灰層	骨片 破片	102.935		
灰集巾10-16	第1灰層	カタツムリ <i>Patinopecten (Mihashiopecten) yesoensis</i>	1	0.012	
灰集巾10-16	第1灰層	鳥類 non det. 骨片	1	0.135	
灰集巾10-16	第1灰層	カラシシジヤイ? <i>Margaritifera laevis?</i> 殻皮	1	0.008	
灰集巾10-16	第1灰層	カラシシジヤイ? <i>Margaritifera laevis?</i>	1	0.008	
灰集巾10-16	第1灰層	カタツムリ <i>Criostoma plicata?</i>	2	2.36	
灰集巾10-16	第1灰層	カタツムリ <i>Patinopecten (Mihashiopecten) yesoensis</i>	1	0.939	
灰集巾10-16	第1灰層	カタツムリ <i>Criostoma plicata?</i>	2		
灰集巾10-16	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨破片	24	0.118	
灰集巾10-16	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	3	0.046	
灰集巾10-16	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	3	0.046	
灰集巾10-16	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	4	0.094	
灰集巾10-16	第1灰層	鳥類 non det. 鱗片破片	5	0.016	
灰集巾10-16	第1灰層	鳥類 non det. 部位不明	2	0.141	
灰集巾10-16	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesoensis?</i> 骨片 骨片破片	1	1.13	
灰集巾10-16	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 上顎骨 外側部 産位部	1	4.895	
灰集巾10-16	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	4	25.992	
灰集巾10-16	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 骨	1		
灰集巾10-17	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 第311玉部 全灰層による切屑	1		
灰集巾10-17	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 骨片 全灰層による骨片上に残存する破片	1	0.105	破片
灰集巾10-18	第1灰層	カラシシジヤイ? <i>Margaritifera laevis?</i>	1	0.236	ウサギ <i>Squalia (squalium) squalium?</i>
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 non det.	0.851		
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 non det.	0.359		
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 <i>non det.</i>	6		
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	391	6.14	
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	2814	26.086	
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	25.363		
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨破片	42	1.016	
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	5090	41.606	
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 尾骨	22	0.296	
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 尾骨	8	0.54	
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 尾骨	4	0.136	
灰集巾10-18	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 部位不明	15	0.699	
灰集巾10-18	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	4	0.105	
灰集巾10-18	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	14	0.13	
灰集巾10-18	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上顎骨	1	0.013	
灰集巾10-18	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗片	2	0.029	
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 non det. 部位不明破片	4	33.13	
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 non det. 骨	364	4.44	
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 non det. 骨	56	0.291	
灰集巾10-18	第1灰層	両生類 <i>Amblystoma</i> カユメ目 <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	2	0.048	
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	9	0.135	骨部産位部
灰集巾10-18	第1灰層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	1	0.035	骨部産位部
灰集巾10-18	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	1	0.831	シカ <i>Cervus</i> sp. 骨?
灰集巾10-18	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	114	5.511	
灰集巾10-19	第1灰層	骨片 破片	1	166.504	
灰集巾10-20	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	1	0.369	全灰層による切屑
灰集巾10-20	第1灰層	カラシシジヤイ? <i>Margaritifera laevis</i> 殻皮	1	0.343	
灰集巾10-20	第1灰層	カタツムリ <i>Patinopecten (Mihashiopecten) yesoensis</i>	1	0.028	
灰集巾10-20	第1灰層	鳥類 non det.	1	0.019	
灰集巾10-20	第1灰層	鳥類 non det.	1	0.003	
灰集巾10-20	第1灰層	鳥類 <i>non det.</i>	1	0.029	
灰集巾10-20	第1灰層	鳥類 <i>Chloris pallasi</i> 骨	1	0.020	
灰集巾10-20	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	166	2.461	
灰集巾10-20	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	2451	52.290	
灰集巾10-20	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	2	44.074	
灰集巾10-20	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	52	2.408	
灰集巾10-20	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 歯骨	20	0.049	
灰集巾10-20	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 骨	1	0.015	
灰集巾10-20	第1灰層	ウサギ <i>Salicetia</i> sp. 尾骨	3	0.115	

表Ⅱ-2-25 灰集10第1灰層の動物遺存体(3)

遺体名	種属区	層位	動物遺存体	高さ	箇所	備考
灰集10-20	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 尾骨	4	0.024	
灰集10-20	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 尾基体残片	4	0.343	
灰集10-20	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨片	938	23.551	
灰集10-20	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨	6	0.046	
灰集10-20	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨片	4	0.164	
灰集10-20	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨片	4	0.078	
灰集10-20	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨片	1	0.069	
灰集10-20	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨片	1	0.089	
灰集10-20	第1灰層	魚類	non det. 歯骨片	279	4.826	
灰集10-20	第1灰層	魚類	non det. 歯骨片	1	34.363	
灰集10-20	第1灰層	魚類	non det. 骨	26	0.499	
灰集10-20	第1灰層	魚類	non det. 尾	1	0.049	
灰集10-20	第1灰層	魚類	non det. 部位不明	16	0.354	
灰集10-20	第1灰層	魚類	non det. 尾基体残片	3	0.049	
灰集10-20	第1灰層	鳥類	Aves non det. 部位不明	1	0.046	
灰集10-20	第1灰層	羅漢目	Rodentia ネズミ目 Muridae sp. 上歯	1	0.013	
灰集10-20	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明	2	2.044	
灰集10-20	第1灰層	骨片	歯片	1	135.561	
灰集10-21	第1灰層	ウサギ目	Cervidae? 1動物遺存体 全属区による切歯、切歯	1		
灰集10-21	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明 全属区による切歯、切歯	1		中国産?
灰集10-21	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明 全属区による切歯、切歯	2		
灰集10-22	第1灰層	ウサギ目	Echymipus? 骨?	1	0.003	
灰集10-22	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯	22	0.321	
灰集10-22	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	993	1.525	
灰集10-22	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 骨	5	5.236	
灰集10-22	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	9	0.329	
灰集10-22	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨残片	442	5.036	
灰集10-22	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 尾骨	1	0.016	
灰集10-22	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 尾骨	4	0.012	
灰集10-22	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨片	1	0.029	
灰集10-22	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨片	1	0.006	
灰集10-22	第1灰層	魚類	non det. 骨	2	0.01	
灰集10-22	第1灰層	魚類	non det. 部位不明残片	1	0.416	
灰集10-22	第1灰層	魚類	non det. 歯骨	83	1.014	
灰集10-22	第1灰層	シマウマ	Cervus nippon szechuanensis? 骨骨管断面	1		
灰集10-22	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明	1	0.092	
灰集10-22	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明	349	23.66	全属区による知上; 隣接する骨片含む
灰集10-22	第1灰層	骨片	骨片	1	12.639	
灰集10-23	第1灰層	シマウマ	Cervus nippon szechuanensis 角 部位不明 全属区による切歯	1		
灰集10-23	第1灰層	シマウマ	Cervus nippon szechuanensis 角? 全属区による知上; 隣接する骨片	1		
灰集10-23	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明 全属区による知上; 隣接する骨片	1		
灰集10-23	第1灰層	ウサギ目	Crotalaria pilosa? 骨	1	0.942	
灰集10-24	第1灰層	ウサギ目	Margaritifer laevis? カラスガイ	1	0.053	
灰集10-24	第1灰層	ウサギ目	Margaritifer laevis? カラスガイ	1	0.452	
灰集10-24	第1灰層	ウサギ目	Patinopecten (Murchisonia) szechuanensis	2		
灰集10-24	第1灰層	ウサギ目	Margaritifer laevis? カラスガイ	1	0.249	
灰集10-24	第1灰層	貝類	non det. 貝殻残片	1	0.255	
灰集10-24	第1灰層	貝類	non det. 貝殻残片	2	0.004	
灰集10-24	第1灰層	貝類	non det. 貝殻	2	0.023	
灰集10-24	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯	211	3.109	
灰集10-24	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨残片	1338	18.141	
灰集10-24	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 骨	1	36.09	
灰集10-24	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	39	1.601	
灰集10-24	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨残片	1835	35.839	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管断面	4	0.044	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨	2	0.012	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 尾基体残片	1	0.092	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管断面	1	0.044	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管	3	0.039	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨	10	0.144	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 上歯	1	0.013	
灰集10-24	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 第1前歯残片	1	0.026	
灰集10-24	第1灰層	魚類	non det. 部位不明	25204	368	143.308
灰集10-24	第1灰層	魚類	non det. 歯骨	223	2.214	
灰集10-24	第1灰層	魚類	non det. 歯骨	25	0.989	
灰集10-24	第1灰層	羅漢目	Rodentia ネズミ目 Muridae sp. 上下歯	1	0.096	
灰集10-24	第1灰層	羅漢目	Rodentia ネズミ目 Muridae sp. 上歯	4	0.029	
灰集10-24	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明	159	8.826	
灰集10-24	第1灰層	骨片	骨片	1	0.026	
灰集10-25	第1灰層	鳥類	Aves non det. 部位不明 全属区による平行する; 3本の足指	1		
灰集10-25	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明 全属区による切歯、切歯	1	0.048	
灰集10-25	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明 全属区による知上; 隣接する骨片	3		シカ Cervus n. 角か?
灰集10-25	第1灰層	哺乳綱	Mammalia non det. 部位不明 全属区による知上; 隣接する骨片	1		
灰集10-26	第1灰層	貝類	Patinopecten (Murchisonia) szechuanensis	1	0.823	
灰集10-26	第1灰層	ウサギ目	Margaritifer laevis 殻	1	5.151	
灰集10-26	第1灰層	ウサギ目	Margaritifer laevis 殻	1	0.023	
灰集10-26	第1灰層	ウサギ目	Patinopecten (Murchisonia) szechuanensis	1	0.434	貝殻
灰集10-26	第1灰層	ウサギ目	Patinopecten (Murchisonia) szechuanensis	4	0.018	
灰集10-26	第1灰層	ウサギ目	Patinopecten (Murchisonia) szechuanensis	1	0.034	
灰集10-26	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯	198	3.066	
灰集10-26	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯	319	121.431	
灰集10-26	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	2402	34.324	
灰集10-26	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	9946	39.059	
灰集10-26	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	1		全属区による切歯とされた骨
灰集10-26	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	1		0.113 上歯
灰集10-26	第1灰層	ササ目	Salomondae sp. 歯骨	15	0.544	上歯
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管	14	0.085	
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管	18	0.144	
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管	4	0.009	
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管	21	0.483	
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管	4	0.324	
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 上歯	6	0.24	
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨管	6	0.191	
灰集10-26	第1灰層	コイ目	Cyprinidae sp. 歯骨	21	0.424	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-26 灰集中10第1灰層の動物遺存体(4)

発掘区画	層位	種別	動物遺存体	数量	重量	備考
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 角竹	9	0.376	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 上ノ骨	9	0.318	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	6	0.541	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 上ノ骨	4	0.323	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	4	0.085	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 方骨	4	0.143	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 角竹	10	0.394	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	7	0.015	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	3	0.025	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	16	3.006	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 鱗骨	3	0.008	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 剛骨	3	0.026	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 尾骨体状骨 下尾刺骨	1	+	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 骨棘	2	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 鱗骨	21	0.04	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 鱗骨不明	1	0.003	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 第1背棘骨・第1側棘骨	1	0.024	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 骨棘骨・腹棘骨	6	0.036	
灰集中10-26	第1灰層	魚類	non det. 方骨	4	0.006	
灰集中10-26	第1灰層	魚類	non det. 鱗骨不明	268	14.344	
灰集中10-26	第1灰層	魚類	non det. 骨	409	4.044	
灰集中10-26	第1灰層	魚類	non det. 骨	66	0.41	
灰集中10-26	第1灰層	魚類	non det. 前鰓蓋骨	9	0.513	
灰集中10-26	第1灰層	魚類	non det. 尾骨	19	0.323	
灰集中10-26	第1灰層	魚類	non det. 尾刺骨	26	1.094	
灰集中10-26	第1灰層	両生類	Amblypterus? 鱗骨	3	0.013	
灰集中10-26	第1灰層	両生類	Aves non det. 鱗骨不明	16	0.404	
灰集中10-26	第1灰層	鳥類	Aves non det. 骨	409	1.549	
灰集中10-26	第1灰層	鳥類	Aves non det. 上翼骨 遠位端	1		
灰集中10-26	第1灰層	鳥類	Aves non det. 上翼骨 遠位端	1		
灰集中10-26	第1灰層	鳥類	Aves non det. 下翼骨	1		
灰集中10-26	第1灰層	鳥類	Aves non det. 脚骨	1		
灰集中10-26	第1灰層	鳥類	Aves non det. 尺骨	1	0.36	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 尺骨 1	1	0.022	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 尺骨 2	2	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 上顎切歯	1	0.015	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 下顎切歯	1		
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 下顎切歯	4		
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 上顎	9	0.145	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 下顎	1	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Rodentia non det. 尺骨	2	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	イモリ科	Ceratops? 中ノ中ノ骨 飛節	1	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	シカ	Cervus nippon senozensis sp. 上ノ骨	1	4.044	
灰集中10-26	第1灰層	シカ	Cervus nippon senozensis sp. 角片	2		同類
灰集中10-26	第1灰層	中型哺乳類	Mammalia non det. 中ノ骨 2 遠位端	4		
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Mammalia non det. 部分不明 全属部に乏る切歯。側切歯	2	0.263	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Mammalia non det. 部分不明 全属部に乏る切歯。側切歯	21	0.342	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Mammalia non det. 部分不明	41	0.825	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳類	Mammalia? 部分不明	4	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	骨片	鱗骨 234 826	2		
灰集中10-28	第1灰層	カワシジメガイ	Margaritifera laevis 2枚		0.025	
灰集中10-28	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 骨	51	0.644	
灰集中10-28	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 鱗骨	154	1.541	
灰集中10-28	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 鱗		3.26	
灰集中10-28	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 鱗	352	3.435	
灰集中10-28	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 骨	1	0.01	
灰集中10-28	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 骨棘	1	0.002	
灰集中10-28	第1灰層	魚類	non det. 部分不明	24	2.426	
灰集中10-28	第1灰層	魚類	non det. 鱗	3	0.02	
灰集中10-28	第1灰層	陸生両生類	Rhoptila ヘビ毒目 Onychia non det. 鱗骨	1	0.103	
灰集中10-28	第1灰層	鳥類	Aves? 鱗骨不明	1	0.002	
灰集中10-28	第1灰層	哺乳類	Rodentia? non det. 下顎切歯?	1	+	
灰集中10-28	第1灰層	哺乳類	Mammalia non det. 部分不明 全属部に乏る切歯	1	0.035	
灰集中10-28	第1灰層	哺乳類	Mammalia non det. 部分不明	4	4.26	
灰集中10-28	第1灰層	骨片	鱗骨 95.534			
灰集中10-30	第1灰層	貝類	貝類 non det.	14	4.432	
灰集中10-30	第1灰層	カワシジメガイ	Margaritifera laevis		0.122	
灰集中10-30	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 骨	224	4.165	
灰集中10-30	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 鱗		84.435	
灰集中10-30	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 鱗	2363	33.093	
灰集中10-30	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 鱗	2404	31.184	
灰集中10-30	第1灰層	ササ科	Salmonidae sp. 鱗	1	0.002	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 上鰓蓋骨	4	0.34	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 剛骨	9	0.304	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 骨棘	3	0.356	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 鱗	9	0.108	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 後鰓蓋骨	3	0.403	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 角竹	3	0.152	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 上ノ骨	1	0.022	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 尾骨	1	0.036	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	34	1.249	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 鱗骨形骨	3	0.356	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	4	1.644	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 尾鰭骨	1	0.001	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 角竹	13	0.524	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 方骨	17	0.24	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	3	0.132	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	3	0.128	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Cyprinidae sp. 鱗骨	2	0.013	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 骨棘	2	0.038	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 鱗骨	6	0.053	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 骨棘	5	0.045	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 上鰓蓋骨	2	0.005	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 鱗骨	4	0.044	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨリ科	Gasterosteidae sp. 鱗骨	1	0.003	

表Ⅶ-2-27 灰集中10第1灰層の動物遺存体(5)

遺体名-発掘区	層位	動物遺存体	点数	層位	備考
灰集中10-30	第16層	イトコガ <i>Gasterosteus</i> sp. 田鱈骨	4	0.048	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 尾鰭骨	69	3.256	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 尾鰭骨残片	1	0.054	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 鱗	15	0.406	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 前上顎骨	4	0.043	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 歯骨	5	0.11	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 角骨	3	0.041	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 尾骨	54	0.003	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 上小骨	4	0.101	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 尾鰭骨残片	2	0.083	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 椎骨	364	4.339	
灰集中10-30	第16層	魚類 non det. 鰓び不明	24	36.348	
灰集中10-30	第16層	鳥類 <i>Aves?</i> 部位不明	2	0.093	
灰集中10-30	第16層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	134	8.464	
灰集中10-30	第16層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明 全属名による加工に特許する图片	16	0.363	加工有
灰集中10-31	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 肉	1	100.029	
灰集中10-31	第16層	哺乳類 <i>Mammalia</i> sp. 部位不明 全属名による切肉、骨	1		大骨 異熱帯色化
灰集中10-32	第16層	日知 non det. 鱗片	4	0.853	
灰集中10-32	第16層	マフンジュゴイ <i>Margaritifera laevis</i>	2	2.292	
灰集中10-32	第16層	マフンジュゴイ <i>Margaritifera laevis?</i> 殻	1		
灰集中10-32	第16層	ウツクモイ <i>Laminabaculora</i>	1		
灰集中10-32	第16層	海産貝類 non det.	8	0.926	小骨
灰集中10-32	第16層	ツツクモイ目、ツツクモイ目: <i>Sepioida</i> sp. 骨	1		
灰集中10-32	第16層	ヒシ目 <i>Clupea pallasi</i> 鱗片	3	0.011	
灰集中10-32	第16層	ヒシ目 <i>Clupeidae</i> sp. 鱗骨の一部	329	3.326	
灰集中10-32	第16層	サシ目 <i>Pleuronectidae</i> 尾鰭骨?	1	0.03	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 尾鰭骨残片	2	0.2	加工有
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.346	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	2	0.306	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨	10	0.211	加工有
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 尾鰭骨	2	0.054	加工有
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗	5	0.086	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗骨	2	0.039	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 尾鰭骨残片	1	0.02	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	3	0.025	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	424	1.299	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	3532	54.344	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 鱗	8	145.815	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	10400	81.609	
灰集中10-32	第16層	ササ目 <i>Salmonidae</i> sp. 肉	629	19.464	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗	26	0.533	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 腹鰭骨	3	0.149	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗	60	0.83	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 前上顎骨	14	0.247	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上上顎骨	18	0.304	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗	1	0.011	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 前歯	3	3.342	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯	2	0.045	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯肉残片	8	0.351	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾後鰭骨	2	0.041	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯	11	0.21	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	14	0.286	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 前鰭骨	11	0.248	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上鰭骨	13	0.544	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 前鰭骨	8	0.211	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗	3	0.184	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	4	0.145	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	25	0.408	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上小骨	11	0.259	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 角骨	9	0.441	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	1	0.065	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗	6	0.083	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾骨	3	0.163	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 咽頭	3	0.012	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾骨	8	0.115	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾鰭骨	4	0.022	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾骨	3	0.001	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾鰭骨	12	0.324	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 咽頭	18	0.29	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 咽頭	35	0.216	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗骨?	14	0.112	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 鱗	10	0.156	
灰集中10-32	第16層	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 第1歯	1	0.004	
灰集中10-32	第16層	イトコガ <i>Gasterosteus</i> sp. 田鱈鱗	19	0.149	
灰集中10-32	第16層	イトコガ <i>Gasterosteus</i> sp. 田鱈骨	3	0.032	
灰集中10-32	第16層	イトコガ <i>Gasterosteus</i> sp. 骨	3	0.026	
灰集中10-32	第16層	イトコガ <i>Gasterosteus</i> sp. 頭部	12	0.031	
灰集中10-32	第16層	イトコガ <i>Gasterosteus</i> sp. 上鰭骨	2	0.014	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 頭部	30	0.512	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 尾骨	1	0.014	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 鱗	128	2.288	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 骨	440	5.244	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 骨	143	0.344	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 頭部	18	0.041	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 尾鰭骨残片	4	0.093	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 尾鰭骨	9	0.18	
灰集中10-32	第16層	魚類 non det. 尾鰭骨	89	54.26	
灰集中10-32	第16層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	11	0.308	
灰集中10-32	第16層	羅漢目 <i>Rodentia</i> 木芝目 <i>Muridae</i> sp. 上顎骨	1	0.043	
灰集中10-32	第16層	羅漢目 <i>Rodentia</i> non det. 上顎歯	1	0.048	
灰集中10-32	第16層	羅漢目 <i>Rodentia</i> non det. 上顎骨	1	0.004	
灰集中10-32	第16層	羅漢目 <i>Rodentia</i> non det. 中下顎骨	1	0.012	
灰集中10-32	第16層	羅漢目 <i>Rodentia</i> non det. 上顎	2	0.015	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-28 灰集中10第1灰層の動物遺存体(6)

遺体名・種属名	層位	動物遺存体	数量	重量	備考
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳類 <i>Mammalia non det.</i>	1	0.013	
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 門歯・1歯	2	0.013	
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 歯	1	0.003	
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 歯	1	0.01	
灰集中10-32	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 冠部不明	20	0.435	
灰集中10-32	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 冠部不明	130	3.189	
灰集中10-32	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 冠部不明	1	0.011	中絶作製?
灰集中10-34	第1灰層	骨片 鱗片	1	0.041	
灰集中10-34	第1灰層	貝類 <i>non det.</i> 貝殻瓦記ある骨片	6	3.314	
灰集中10-34	第1灰層	サワシジヤガイ <i>Margaritifera lavis</i>	1	0.434	
灰集中10-34	第1灰層	ホトケガイ <i>Pisinopecten (Mizupecten) yessoensis</i>	1	0.094	
灰集中10-34	第1灰層	タマネガイ <i>Glycymeris vesalia</i>	1	0.36	
灰集中10-34	第1灰層	ウハガイ <i>Sipula (Parasipula) sachalinensis</i>	1	1.8	
灰集中10-34	第1灰層	ニンシ <i>Chappa pullasi</i> 歯	223	3.84	
灰集中10-34	第1灰層	ニンシ <i>Chappa pullasi</i> 貝石	1	0.024	
灰集中10-34	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	260	3.844	
灰集中10-34	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	148	3.844	
灰集中10-34	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	2954	25.601	
灰集中10-34	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 骨	46,003		
灰集中10-34	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 歯骨鱗片	2,466	23.844	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	280	3.106	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	1	0.003	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	1	0.011	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	2	0.014	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	2	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	2	0.026	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	2	0.005	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	3	0.044	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	3	0.001	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	2	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	4	0.041	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	1	0.031	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	2	0.025	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	4	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	6	0.115	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	5	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	10	0.132	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	6	0.055	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	5	0.055	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	5	0.124	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	2	0.018	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	43	0.285	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	14	0.381	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	11	0.04	
灰集中10-34	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 鱗片	11	0.144	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨリ目 <i>Gasterosteidae sp.</i> 頭部鱗片	1	0.001	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨリ目 <i>Gasterosteidae sp.</i> 鱗片	2	0.014	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨリ目 <i>Gasterosteidae sp.</i> 鱗片	6	0.089	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨリ目 <i>Gasterosteidae sp.</i> 鱗片	36	0.066	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨリ目 <i>Gasterosteidae sp.</i> 鱗片	14	0.073	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 鱗片	28	0.863	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 鱗片	2	0.051	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 下顎骨	2	0.116	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 骨	2	0.403	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 上顎骨	2	0.041	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 尾骨	2	0.036	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 骨	2	0.103	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 上顎骨	1	0.049	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 骨	3	0.134	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 鱗片	2	0.211	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 鱗片	2	0.041	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 尾骨	2	0.134	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 尾骨	4	0.185	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 尾骨体状骨	3	0.319	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 喉骨	2	0.053	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 喉骨	2	0.066	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 喉骨	13	0.281	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 冠部不明	44	20.263	
灰集中10-34	第1灰層	鳥類 <i>Ampelis galeus</i> 骨	1	0.016	
灰集中10-34	第1灰層	鳥類 <i>Aves non det.</i> 冠部不明	3	0.118	
灰集中10-34	第1灰層	鳥類 <i>non det.</i> 骨	8	0.091	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 冠部不明	2	0.245	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 歯	3	0.311	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 歯	1	0.136	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 歯	1	0.302	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 冠部不明	43	0.834	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 骨	1	0.054	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 骨	1	0.004	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 大顎骨	4	0.086	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 骨	2	0.094	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 骨	1	344.138	
灰集中10-34	第1灰層	骨片 鱗片	19	0.13	
灰集中10-36	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 骨	13	0.069	
灰集中10-36	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 骨	1	0.006	
灰集中10-36	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 骨	191	1.496	
灰集中10-36	第1灰層	サケ目 <i>Salmonidae sp.</i> 骨	16	0.229	
灰集中10-36	第1灰層	コイ目 <i>Cyprinidae sp.</i> 骨	1	0.003	
灰集中10-36	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 骨	12	0.053	
灰集中10-36	第1灰層	魚類 <i>non det.</i> 冠部不明	2	1.111	
灰集中10-36	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia non det.</i> 冠部不明	12	0.124	
灰集中10-36	第1灰層	サワシジヤガイ <i>Margaritifera lavis</i>	8	2.012	
灰集中10-36	第1灰層	サワシジヤガイ <i>Margaritifera lavis</i> 破片	9	0.153	
灰集中10-38	第1灰層	貝類 <i>non det.</i> 貝殻瓦記ある骨片	49	0.544	

表Ⅷ-2-29 灰集中10第1灰層の動物遺存体(7)

遺体番号	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-38	第116層	アラクワメ目 ツノヤメ目 Squidinae? 残片	1	—	
灰集中10-38	第116層	ニンシ目 Clupeidae? 頭骨	151	0.191	
灰集中10-38	第116層	ニンシ目 Clupeidae sp. 鱗片	28	0.125	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗片(小骨)	3	0.001	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗片(小骨)	1	0.003	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 頭部残片(小骨)	1	0.004	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 上顎骨(小骨)	5	0.030	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗	—	0.634	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗片	921	16.845	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 歯骨	2	0.304	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾椎骨	1	0.001	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 歯	4	0.152	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 歯	90	2.131	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 歯骨	6	0.195	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗片	5	0.234	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗片	1	0.363	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 上顎骨	5	0.193	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 頭骨	4	0.134	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 下顎骨	1	0.054	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 頭部残片	1	0.146	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 骨盤骨	3	0.296	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 下尾鰭骨	1	0.096	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾鰭骨	5	0.199	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾鰭骨?	4	0.514	
灰集中10-38	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗	9	0.313	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 上顎骨	1	0.041	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.044	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.021	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 上顎骨	4	0.099	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯	1	0.085	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	5	0.065	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	3	0.018	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 基礎骨	26	0.120	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	2	0.044	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.121	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.264	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	2	0.11	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	2	0.028	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 骨盤骨	12	0.241	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	3	0.063	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 尾骨	9	0.064	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.142	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	3	0.058	
灰集中10-38	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	114	5.503	
灰集中10-38	第116層	イトヨリ目 Glyptocheilidae sp. 背鰭棘	2	0.084	
灰集中10-38	第116層	魚類 non det. 部位不明	2	33.329	
灰集中10-38	第116層	魚類 non det. 骨	1	45.561	
灰集中10-38	第116層	鱈目目 Rodentia non det. 上顎切歯	1	0.041	
灰集中10-38	第116層	鱈目目 Rodentia non det. 下顎切歯	1	—	
灰集中10-38	第116層	鱈目目 Rodentia non det. 下顎	1	—	
灰集中10-38	第116層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 全歯冠による短上臼歯群の齧片を含む	11	3.518	
灰集中10-38	第116層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	23	0.266	
灰集中10-38	第116層	骨片 形状	—	42.490	
灰集中10-40	第116層	ホトテグサイ Pannipsecter (Allanipsecter) speciosus	—	29.44	
灰集中10-40	第116層	マツノシロイイ Margariniferus laevis	—	1.061	
灰集中10-40	第116層	マツノシロイイ Margariniferus laevis 222	—	0.594	
灰集中10-40	第116層	マツノシロイイ Glycymeris vesita	—	—	
灰集中10-40	第116層	貝類 non det.	2	0.054	
灰集中10-40	第116層	アラクワメ目 ツノヤメ目 Squidinae sp. 鱗	1	0.046	
灰集中10-40	第116層	ニンシ目 Clupea pallasi 頭骨	306	2.448	
灰集中10-40	第116層	ニンシ目 Clupea pallasi 尾鰭骨	4	0.024	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗片	13	0.348	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 頭骨	1264	24.644	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗	406	50.845	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 歯	432	5.32	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 鱗	110.933	—	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾鰭骨	4	0.612	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 骨盤骨	2	0.114	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾骨	2	0.351	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 頭部残片	1	0.298	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 上顎骨	3	0.342	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 骨盤骨	4	0.544	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾鰭骨	3	0.214	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 下尾鰭骨	4	0.341	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾鰭骨	2	0.043	
灰集中10-40	第116層	サケ目 Salmonidae sp. 尾鰭骨?	1	0.018	骨体欠有り
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 鱗片	1	0.003	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 鱗片	269	5.264	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 頭骨	5	0.05	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 頭部	13	0.042	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 尾骨	3	0.05	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	4	0.24	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.025	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 尾骨	3	0.112	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	9	0.106	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 上顎骨	6	0.142	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.048	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 頭骨	3	0.083	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 頭部残片	1	0.144	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯	3	0.113	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯骨	14	0.290	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 鱗片	8	0.214	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 尾骨	5	0.253	
灰集中10-40	第116層	コイ目 Cyprinidae sp. 骨盤骨	4	0.215	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-30 灰集中10第1灰層の動物遺存体(8)

遺体名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	量目	備考
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	3	0.085	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 上鰓蓋骨	4	0.213	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 側線骨	2	0.083	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 下鰓蓋骨	2	0.30	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鱗骨	1	0.045	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鰓骨	1	0.013	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鰓骨	21	0.413	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	6	0.152	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 尾骨	4	0.089	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 第2鰓骨	1	0.02	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鰓骨	19	0.234	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鰓蓋骨	1	0.008	
灰集中10-40	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鰓蓋骨不明	40	0.652	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 骨鱗骨	2	0.029	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 背鱗骨	13	0.124	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 前鰓蓋骨	1	+	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 上鰓蓋骨	2	0.002	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 前鰓骨	6	0.012	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 鰓骨	2	0.01	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 方骨	2	-	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 鰓蓋骨	10	0.035	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 下鰓蓋骨+尾蓋骨状骨	1	0.003	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 方骨	3	0.01	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨	100	0.483	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 尾蓋骨状骨	2	0.014	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 鱗骨	44	0.21	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 鰓蓋不明	64	33.085	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 尾鰭骨	2	0.065	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 背鰭骨	11	0.054	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 前鰓骨	1	0.112	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 上鰓蓋骨	1	0.134	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 尾方骨	3	0.081	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. Scale?	9	0.022	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 尾鰭骨	2	0.015	
灰集中10-40	第1灰層	鳥類 Aves non det. 鰓蓋不明	24	1.986	
灰集中10-40	第1灰層	鳥類 Rodentia モリス目 Muridae sp. 下臼歯	3	0.024	
灰集中10-40	第1灰層	鳥類 Rodentia non det. 歯	1	0.005	
灰集中10-40	第1灰層	小哺乳目 Canidae non det. 第3切歯?	1	0.058	
灰集中10-40	第1灰層	イヌ目 Canidae 鼻骨 座臼歯を欠く	1	0.124	
灰集中10-40	第1灰層	シマウナギ目 Cervus nippon yesenosii 中下・中後背骨部? 全気管による彫形	1	0.230	中納ノ部
灰集中10-40	第1灰層	シマウナギ目 Cervus nippon yesenosii 鼻 全気管による彫形に隣接する骨片	24	0.822	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 鰓蓋不明	62	6.932	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 鰓蓋+尾	3	0.408	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 鱗骨	5	0.544	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳類 Mammalia? 鰓蓋不明 文様の彫り込み?	1	0.005	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 鰓蓋不明 全気管による彫形に隣接する骨片を含む	251	5.465	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 鰓蓋不明 全気管による彫形	1	0.016	
灰集中10-40	第1灰層	小哺乳類 Mammalia non det. 下臼歯	1	0.005	
灰集中10-40	第1灰層	小哺乳類 Mammalia non det. 尾骨	1	0.005	
灰集中10-40	第1灰層	骨片並びに炭化物	2	2.001	
灰集中10-44	第1灰層	シマウナギ目 Cervus nippon yesenosii 鼻 全気管による彫形に隣接する骨片	4	2.30	
灰集中10-44	第1灰層	カワシシジギ目 Margaritifera laevis	3	2.08	
灰集中10-44	第1灰層	ヒシシ Chapea pallasi 頭部	3	0.028	
灰集中10-44	第1灰層	ヒシシ Chapea pallasi 前部	1	0.015	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	308	8.222	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	245	14.684	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	365	3.42	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	26	2.266	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	5	0.336	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	3	0.483	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	2	0.209	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae? 鱗骨	1	0.015	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	2	0.04	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	2	0.03	
灰集中10-44	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	5	0.22	
灰集中10-44	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	1	0.063	
灰集中10-44	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鰓蓋骨不明	2	0.094	
灰集中10-44	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 鱗骨	1	0.108	
灰集中10-44	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 二鰓骨	1	0.022	
灰集中10-44	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 第1用歯	2	0.046	
灰集中10-44	第1灰層	コイ目 Cyprinidae sp. 歯	1	+	
灰集中10-44	第1灰層	イトヨリ目 Gastrostichidae sp. 背鱗骨	1	0.01	
灰集中10-44	第1灰層	魚類 non det. 鰓骨	5	0.105	
灰集中10-44	第1灰層	魚類 non det. 鰓蓋不明	4	0.62	
灰集中10-44	第1灰層	鳥類 Aves non det. 鰓蓋不明	2	0.201	
灰集中10-44	第1灰層	鳥類 Rodentia モリス目 Muridae sp. 下臼歯	1	0.146	
灰集中10-44	第1灰層	鳥類 Rodentia モリス目 Muridae sp. 下臼歯	2	0.036	
灰集中10-44	第1灰層	鳥類 Rodentia モリス目 Muridae sp. 下臼歯	2	0.036	
灰集中10-44	第1灰層	鳥類 Rodentia モリス目 Muridae sp. 下臼歯	2	0.053	
灰集中10-44	第1灰層	鳥類 Rodentia モリス目 Muridae sp. 下臼歯	1	0.036	
灰集中10-44	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 鰓蓋不明	1	0.046	
灰集中10-44	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 鰓蓋不明 全気管による彫形に隣接する骨片を含む	14	6.64	
灰集中10-44	第1灰層	骨片並びに炭化物	2	206.495	
灰集中10-46	第1灰層	カワシシジギ目 Margaritifera laevis 殻殻	1	1.43	
灰集中10-46	第1灰層	カワシシジギ目 Margaritifera laevis	1	1.469	
灰集中10-46	第1灰層	カワシシジギ目 Margaritifera laevis?	3	+	
灰集中10-46	第1灰層	ヒシシ Chapea pallasi 頭部	2	0.014	
灰集中10-46	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	199	10.101	
灰集中10-46	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	23	1.256	
灰集中10-46	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	20	20.041	
灰集中10-46	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	603	9.48	
灰集中10-46	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	3	0.081	
灰集中10-46	第1灰層	ササ目 Salmonidae sp. 鱗骨	11	8.84	

表Ⅲ-2-31 灰集10第1灰層の動物遺存体(9)

層番号・採取区	層位	種名	動物遺存体	高数	面積	備考
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 上顎骨	1	0.042	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯磨骨	2	0.044	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 上肢骨	4	0.304	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 後脚骨	1	0.005	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 骨盤骨	9	0.953	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 下脛骨	6	0.574	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 趾骨	1	0.014	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯上骨	2	0.039	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯骨	3	0.203	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 肩骨	2	0.13	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 肘骨	6	0.499	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 方骨	1	0.026	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 胸骨	3	0.064	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 胸椎骨	2	0.114	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尾骨	4	0.104	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尾椎骨	4	0.145	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尾尾椎状骨	14	0.446	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯根	2	0.044	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 第1肋骨	4	0.131	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 肋骨	21	0.504	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 上腕骨	6	0.528	解体痕あり
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尺骨	1	0.018	
灰集中10-46	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 腕骨	1	0.044	
灰集中10-46	第1灰層	鳥類 non det.	鳥骨	181	0.252	
灰集中10-46	第1灰層	鳥類 non det.	骨	1	0.002	
灰集中10-46	第1灰層	鳥類 non det.	部位不明	13	1.155	
灰集中10-46	第1灰層	狸目 <i>Rodentia</i>	ネズミ目 <i>Muridae</i> sp. 左下顎骨	1	0.125	
灰集中10-46	第1灰層	狸目 <i>Rodentia</i>	ネズミ目 <i>Muridae</i> sp. 上顎骨一部	1	0.002	
灰集中10-46	第1灰層	イヌ科 <i>Canidae</i> sp.	子猫	1	0.003	
灰集中10-46	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesuensis</i>	角片	44	8.994	
灰集中10-46	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesuensis</i>	右脛骨 石灰化程度おおよびその下部	1	26.446	
灰集中10-46	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det.	部位不明 全長約1.5cm以上の骨に隣接する骨片	1	0.002	
灰集中10-46	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det.	肋骨	1	0.002	
灰集中10-46	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det.	部位不明	6	0.154	
灰集中10-46	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det.	部位不明	844	489	
灰集中10-48	第1灰層	カウシツジイ <i>Margaritifera laevis</i>	殻殻	2	0.048	
灰集中10-48	第1灰層	ホウシツジイ <i>Psittacops (Mitschops) yesuensis</i>		2	3.803	焼焦
灰集中10-48	第1灰層	ウバガイ <i>Spisula (psuedocardium) aschellensis?</i>		1	0.002	
灰集中10-54	第1灰層	狸目 <i>Rodentia</i>	鼠 <i>mus</i> det.	1	0.002	焼焦
灰集中10-48	第1灰層	ニンシ <i>Clupea pallasi</i>	頭部骨	1	0.035	
灰集中10-48	第1灰層	ニンシ <i>Clupea pallasi</i>	骨片	1	0.002	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯骨	103	0.166	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯	41	1.198	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯骨	546	12.944	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 骨	22	0.95	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尾椎骨	1	0.13	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯骨	149	6.295	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 第1肋骨	1	0.066	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 骨盤骨	2	0.219	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 頭骨	6	0.381	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 上肢骨	2	0.05	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 第1肋骨	2	0.081	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 歯骨	1	0.03	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 頭骨	3	0.206	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 上肢骨	1	0.024	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尾椎骨	1	0.109	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 上腕骨	2	0.182	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 前脛骨	3	0.069	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 上肢骨	1	0.009	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 方骨	1	0.044	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尾骨	6	0.224	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 胸椎骨	2	0.014	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 尾尾椎状骨	9	0.539	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 胸椎骨	2	0.084	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 胸椎骨	5	0.209	
灰集中10-48	第1灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 下脛骨	8	0.481	
灰集中10-48	第1灰層	鳥類 non det.	鳥骨	42	0.302	
灰集中10-48	第1灰層	鳥類 non det.	骨	1	0.008	
灰集中10-48	第1灰層	鳥類 non det.	下脛骨 高反端	1	0.503	
灰集中10-48	第1灰層	鳥類 non det.	尾骨	1	0.002	
灰集中10-48	第1灰層	鳥類 non det.	部位不明	8	0.41	
灰集中10-48	第1灰層	狸目 <i>Rodentia</i>	ネズミ目 <i>Muridae</i> sp. 左下顎骨	1	0.033	
灰集中10-48	第1灰層	狸目 <i>Rodentia</i>	ネズミ目 <i>Muridae</i> sp. 右下顎骨	1	0.096	
灰集中10-48	第1灰層	イヌ科 <i>Canidae</i> sp.	高反端後肢	1	0.002	
灰集中10-48	第1灰層	イヌ科 <i>Canidae</i> sp.	肋骨	1	1.468	
灰集中10-48	第1灰層	イヌ科 <i>Canidae</i> sp.	尾骨	2	0.485	
灰集中10-48	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesuensis?</i>	脛骨骨片後部	1	0.002	
灰集中10-48	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesuensis?</i>	内 全長約1.5cm以上の骨に隣接する骨片	6	0.324	
灰集中10-48	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yesuensis?</i>	角片	1	0.002	
灰集中10-48	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det.	右大顎骨 高反	1	0.002	
灰集中10-48	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia?</i>	肋骨	51	12.441	加工痕あり
灰集中10-48	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia?</i>	肋骨	4	0.036	
灰集中10-48	第1灰層	骨片まじり炭化物		843	148	

表Ⅲ-2-32 灰集10第2灰層の動物遺存体(1)

層番号・採取区	層位	種名	動物遺存体	高数	面積	備考
灰集中10-31	第2灰層	アツラギ目 <i>(ツノガシ)</i>	<i>Squalus</i> sp. 骨	3	0.080	
灰集中10-31	第2灰層	ニンシ <i>Clupea pallasi</i>	頭部骨	4	0.016	
灰集中10-31	第2灰層	ニンシ <i>Clupea pallasi</i>	頭部骨	143	0.414	
灰集中10-31	第2灰層	ニンシ <i>Clupea pallasi</i>	骨片	1	0.002	
灰集中10-31	第2灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.002	
灰集中10-31	第2灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 骨	3984	22.424	
灰集中10-31	第2灰層	ウサギ	<i>Salmonidae</i> sp. 骨	398	4.236	

Ⅷ 自然科学的解析

表Ⅷ-2-33 灰積中10第2灰層の動物遺存体(2)

層番号-灰層別	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰積中10-31	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯骨	41	1.658	
灰積中10-31	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 骨	2	0.008	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	1	0.027	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	2	0.098	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	2	0.031	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	1	0.011	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 第1肋骨	144	1.498	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	219	1.426	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	9	0.066	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	23	0.129	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	14	0.149	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	25	0.154	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	3	0.023	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	4	0.091	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	1	0.004	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 上颌骨	3	0.044	
灰積中10-31	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	6	0.116	
灰積中10-31	第2灰層	イトヨリ科 <i>Gasterosteidae</i> sp. 背縁鱗	1	0.003	
灰積中10-31	第2灰層	イトヨリ科 <i>Gasterosteidae</i> sp. 頭部骨破片	1	0.030	
灰積中10-31	第2灰層	魚類 non det. 鱗	63	39.2	
灰積中10-31	第2灰層	魚類 non det. 歯骨	4	0.016	
灰積中10-31	第2灰層	魚類 non det. 頭部骨	2040	13.562	
灰積中10-31	第2灰層	魚類 non det. 下頰骨	1	0.014	
灰積中10-31	第2灰層	魚類 non det. 尾基体残片	2	0.016	
灰積中10-31	第2灰層	魚類 non det. 部位不明	11	4.213	
灰積中10-31	第2灰層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	3	0.093	
灰積中10-31	第2灰層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 股骨遠位末状突起?	1	0.04	
灰積中10-31	第2灰層	羅南目 <i>Rodentia</i> non det. F歯切歯	1	0.001	
灰積中10-31	第2灰層	羅南目 <i>Rodentia</i> non det. 上顎切歯	1	0.004	
灰積中10-31	第2灰層	小啮リス科 <i>Castidae</i> non det. 上顎口角	1		
灰積中10-31	第2灰層	小啮鼠類 <i>Mammalia</i> non det. 左大臼歯 遠位縁を欠く	1	0.006	
灰積中10-31	第2灰層	リス科 <i>Citellus rignosus</i> <i>scoticus</i> 左臼歯 遠位縁	1		
灰積中10-31	第2灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	14	0.565	
灰積中10-31	第2灰層	骨片まじり炭化物		566.542	
灰積中10-33	第2灰層	哺乳類 non det. 歯光沢ある歯片を含む	8	0.031	
灰積中10-33	第2灰層	ニンジン科 <i>Chaplinidae</i> sp. 歯骨	10	0.053	
灰積中10-33	第2灰層	ニンジン科 <i>Chaplinidae</i> sp. 頭部骨	60	0.439	
灰積中10-33	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯骨	869	4.119	
灰積中10-33	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 骨	50	0.483	
灰積中10-33	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯骨	1	0.015	
灰積中10-33	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯骨破片	40	0.138	
灰積中10-33	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 頭部骨片	372	0.44	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	3	0.056	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	1	0.081	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	1	0.034	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	1	0.011	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	6	0.026	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	2	0.081	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨盤骨	4	0.038	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	38	0.509	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	43	0.443	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 舌骨	18	0.144	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	10	0.084	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	2	0.234	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	12	0.042	
灰積中10-33	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	4	0.02	
灰積中10-34	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾骨	1	0.004	
灰積中10-33	第2灰層	魚類 non det. 歯骨	5	0.036	
灰積中10-33	第2灰層	魚類 non det. 鱗	20	5.196	
灰積中10-33	第2灰層	魚類 non det. 部位不明	20	0.168	
灰積中10-33	第2灰層	羅南目 <i>Rodentia</i> non det. 右歯骨	1	0.020	
灰積中10-33	第2灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	43	0.601	
灰積中10-33	第2灰層	骨片まじり炭化物		32.02	
灰積中10-39	第2灰層	一投目羅南目 non det.			
灰積中10-39	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯	1	0.004	
灰積中10-39	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯骨破片	10	0.035	
灰積中10-39	第2灰層	魚類 non det. 鱗	4	0.013	
灰積中10-39	第2灰層	魚類 non det. 鱗	3	0.085	
灰積中10-39	第2灰層	魚類 non det. 部位不明	2	0.084	
灰積中10-39	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 右下頰 歯1歯1歯	1	0.008	
灰積中10-41	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 頭部骨	1	0.008	
灰積中10-41	第2灰層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 肋骨 遠位縁	1		
灰積中10-41	第2灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明 空欄部による加工に似ている骨片			
灰積中10-41	第2灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明			
灰積中10-41	第2灰層	羅南目 <i>Rodentia</i> non det. 上頰骨	1		遠位縁を欠く
灰積中10-42	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯	1	0.185	
灰積中10-42	第2灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	1	0.028	
灰積中10-45	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 頭部骨	18	0.135	
灰積中10-45	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯	3	0.232	
灰積中10-45	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. (小啮)歯	4	0.008	
灰積中10-45	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 歯骨	142	0.469	
灰積中10-45	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 下頰骨	1	0.005	
灰積中10-45	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	5	0.185	
灰積中10-45	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	1	0.023	
灰積中10-45	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 下頰骨	1	0.008	
灰積中10-45	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	5	0.011	
灰積中10-45	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	1	0.084	
灰積中10-45	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭部骨	3	0.001	
灰積中10-45	第2灰層	ウサギ科 <i>Salmonoidae</i> sp. 尾椎骨	1	0.16	
灰積中10-45	第2灰層	魚類 non det. 部位不明			
灰積中10-45	第2灰層	魚類 non det.		1.028	
灰積中10-45	第2灰層	羅南目 <i>Rodentia</i> non det. 切歯	1	0.014	
灰積中10-45	第2灰層	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	1	0.148	
灰積中10-45	第2灰層	骨片まじり炭化物		52.831	

表Ⅷ-2-34 灰集中10第2灰層の動物遺存体(3)

遺存名・層別区	層別	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-47	第2灰層	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 魚	1	0.011	
灰集中10-47	第2灰層	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 魚骨	4	0.045	
灰集中10-47	第2灰層	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	14	0.163	
灰集中10-47	第2灰層	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.053	
灰集中10-47	第2灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	1	0.053	
灰集中10-47	第2灰層	哺乳綱 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	1	0.18	加工痕有り
灰集中10-47	第2灰層	骨片まじり炭化物	1	98.210	
灰集中10-49	第2灰層	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	1		
灰集中10-52	第2灰層	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 魚骨	6	0.169	
灰集中10-52	第2灰層	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.14	
灰集中10-52	第2灰層	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	6	0.335	
灰集中10-52	第2灰層	哺乳綱 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	2	0.125	

表Ⅷ-2-35 炭化物集中・灰集中の動物遺存体(1)

遺存名・層別区	層別	動物遺存体	点数	重量	備考
炭化物集中1	灰上	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	4	0.029	
炭化物集中1	灰上	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.011	
炭化物集中1	灰上	ニンシ <i>Clupea pallasi</i> 頭部骨	2	0.088	
炭化物集中1	灰上	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	1	0.053	
炭化物集中1	00	哺乳綱 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	32	0.451	
炭化物集中4	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	15	0.058	
炭化物集中4	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	1		
炭化物集中4	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 骨片	2		
炭化物集中4	00	哺乳綱 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	5	0.156	
炭化物集中5	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	2	0.061	
炭化物集中6	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	3	0.021	
炭化物集中6	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	3	0.164	
炭化物集中6	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	8	0.038	
炭化物集中6	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	2	0.006	
炭化物集中6	00	シロ <i>Camurus nippon ysenacis</i> 左後骨 骨幹外側	1		
炭化物集中6	00	哺乳綱 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	144	19.956	
炭化物集中8	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.343	
炭化物集中8	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	105	0.448	
炭化物集中8	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	9	0.040	
炭化物集中8	00	ニンシ <i>Clupea pallasi</i> 頭部骨	1	0.006	
炭化物集中9	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 魚	3	0.034	
炭化物集中9	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	4	0.425	
炭化物集中9	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	51	0.345	
炭化物集中9	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 頭部骨	12	0.04	
炭化物集中9	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	34	0.244	
炭化物集中9	00	ニンシ <i>Clupea pallasi</i> 頭部骨	1	0.005	
炭化物集中9	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 骨	2	0.011	
炭化物集中9	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 骨片	1	0.015	
炭化物集中9	00	骨片まじり炭化物	1	4.941	
炭化物集中11	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	2	0.045	
炭化物集中11	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	2	0.011	
炭化物集中11	00	骨片まじり炭化物	1	1.14	
炭化物集中12	00	川魚 <i>non det.</i> 鱗片	1		
炭化物集中12	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 魚	2	0.005	
炭化物集中12	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	3	0.024	
炭化物集中12	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	3	0.004	
炭化物集中12	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	1	0.081	
炭化物集中12	00	哺乳綱 <i>Mammalia</i> ? 部位不明	1	0.095	
炭化物集中13	00	カワシジメガイ <i>Margaritana larvis</i> ? 殻	1	0.018	
炭化物集中13	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> non det. 骨	1	0.004	
炭化物集中13	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	3	0.004	
炭化物集中13	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	1	0.005	
炭化物集中13	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 骨	3	0.009	
炭化物集中13	00	哺乳綱 <i>Mammalia</i> ? 骨片	1	0.024	
炭化物集中13	00	哺乳綱 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	15	0.129	
炭化物集中14	00	カワシジメガイ <i>Margaritana larvis</i> 骨片	1	0.289	
炭化物集中14	00	カワシジメガイ <i>Margaritana larvis</i> 殻	1	0.004	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> <i>Pseudorasbora parva</i> <i>synonymus</i> 鱗片	4	4.42	焼熱
炭化物集中14	00	エゾシジメガイ <i>Callinectes (Eocallinectes) brevipedata</i>	3	0.116	
炭化物集中14	00	投じ鱗(鱗) <i>non det.</i>	2	0.335	
炭化物集中14	00	川魚 <i>non det.</i> 鱗片	1	1.032	
炭化物集中14	00	ニンシ <i>Clupea pallasi</i> 頭部骨	65	0.424	
炭化物集中14	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 上後骨	3	0.023	
炭化物集中14	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	1195	4.996	
炭化物集中14	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨	3	31.034	
炭化物集中14	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 魚	258	2.483	
炭化物集中14	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	3628	19.02	
炭化物集中14	00	ササ科 <i>Salmonidae</i> sp. 骨片	4	0.283	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	4	0.015	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 上後骨	1	0.061	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	1	0.044	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	1	0.142	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 上後骨	3	0.046	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 上後骨	1	0.011	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	1	0.048	
炭化物集中14	00	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨片	2	0.019	
炭化物集中14	00	イトヨリ科 <i>Gasterosteidae</i> sp. 骨	1	0.039	
炭化物集中14	00	イトヨリ科 <i>Gasterosteidae</i> sp. 頭部骨片	33	0.046	
炭化物集中14	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 骨片	309	1.681	
炭化物集中14	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 骨片	1	0.134	
炭化物集中14	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 鱗片	26	0.13	
炭化物集中14	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	6	16.495	
炭化物集中14	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 下後骨	3	0.043	
炭化物集中14	00	キジ <i>Phasianus colchicus</i> ? 鱗片	1	0.152	
炭化物集中14	00	鳥類 <i>Aves</i> non det. 部位不明	11	0.13	
炭化物集中14	00	哺乳綱 <i>Mammalia</i> non det. 下頰	2	0.025	
炭化物集中14	00	シロ <i>Camurus nippon ysenacis</i> 骨片 骨片後面から外側 切痕あり	1	3.345	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-36 炭化物集・灰集中の動物遺存体(2)

遺存名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中14	0B	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 肋骨	3	0.461	
灰集中14	0B	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	38	4.108	
灰集中14	0B	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	5	0.438	加工痕あり
灰集中14	0B	竹片まじり炭化物		0.585	
灰集中14	0B-D	魚類 non det. 頭蓋骨片	209	1.004	
灰集中14	0B-D	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	19	0.118	
灰集中14	0B-D	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨	241	1.39	
灰集中14	0B-D	魚類 non det. 骨	3	3.49	
灰集中14	0B-D	哺乳類 <i>Mammalia</i> ? 部位不明	11	0.155	
灰集中14	0B-D	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 魚骨	1	0.002	
灰化物集16	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.017	
灰化物集16	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨	9	0.025	
灰化物集16	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 魚骨	3	0.006	
灰化物集16	0B	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 角			金属器による加工に隣接する断片
灰化物集16	0B	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	2		金属器による切痕
灰化物集17	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	4	0.23	
灰化物集17	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨	2	0.016	
灰化物集17	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 魚骨	31	0.355	
灰化物集17	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 歯骨	1	0.022	
灰化物集17	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭蓋骨	3	0.03	
灰化物集17	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	2	0.028	
灰化物集17	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾骨	1	0.018	
灰化物集17	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	3	0.062	
灰化物集17	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭蓋骨	244	2.06	
灰化物集17	0B	魚類 non det. 骨		0.024	
灰化物集18	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	2	0.018	
灰化物集18	1B-1	魚類 non det. 部位不明	0.039		
灰化物集20	0B	サワシジユカイ <i>Margaritifera laevis</i>		0.012	
灰化物集20	0B	貝類 non det.		0.012	
灰化物集20	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨		0.009	
灰化物集20	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨	10	0.052	
灰化物集20	0B	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 魚骨	1	0.004	
灰化物集20	0B	魚類 non det. 部位不明		0.036	
灰化物集21	0B	サワシジユカイ <i>Margaritifera laevis</i>	1	0.005	
灰化物集21	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	40	0.149	
灰化物集21	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨		0.053	
灰化物集21	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨		0.025	
灰化物集21	0B	魚類 non det. 部位不明		0.109	
灰化物集21	1B-1	サワシジユカイ <i>Margaritifera laevis</i> ? 殻皮		0.012	
灰化物集22	0B	サワシジユカイ <i>Margaritifera laevis</i> 殻皮		0.535	
灰化物集22	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨		0.002	
灰化物集22	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 左肋骨	1	2.844	マクロ骨?
灰化物集22	0B	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	2665	16.640	
灰化物集22	0B	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 左肋骨 近位骨幹部	1		
灰化物集22	0B	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	2110	201.338	
灰化物集22	1B-1	サワシジユカイ <i>Margaritifera laevis</i>		1.302	
灰化物集22	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨		0.121	
灰化物集22	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	1	0.829	
灰化物集22	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	4	0.004	
灰化物集22	1B-1	アラクサミ目(ワノサミ目) <i>Squalina</i> sp. 骨	2	0.073	
灰化物集22	1B-1	ニシン <i>Clupea pallasii</i> 頭蓋骨	61	0.394	
灰化物集22	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	139	2.483	
灰化物集22	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	235	3.486	
灰化物集22	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨	5	12.626	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	4	0.024	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上肋骨	2	0.002	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭蓋骨	1	0.082	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上肋骨	2	0.062	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上肋骨	2	0.029	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	1	0.091	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 上肋骨	2	0.29	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 下肋骨	2	0.081	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭蓋骨	2	0.012	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 前肋骨	1	0.022	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	1	0.024	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾骨	1	0.008	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	1	0.009	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 骨	1	0.013	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 頭蓋骨	3	0.022	
灰化物集22	1B-1	コイ目 <i>Cyprinidae</i> sp. 肋骨	4	0.051	
灰化物集22	1B-1	魚類 non det. Scale?	1	+	
灰化物集22	1B-1	魚類 non det. 骨	15	0.018	
灰化物集22	1B-1	魚類 non det. 骨	104	0.565	
灰化物集22	1B-1	鼠目 <i>Rodentia</i> 本文目 <i>Muridae</i> sp. 下歯	1	0.002	
灰化物集22	1B-1	鼠目 <i>Rodentia</i> 本文目 <i>Muridae</i> sp. 上歯	1	0.044	
灰化物集22	1B-1	鼠目 <i>Rodentia</i> 本文目 <i>Muridae</i> sp. 右肋骨 高肋骨	1	0.021	
灰化物集22	1B-1	鼠目 <i>Rodentia</i> non det. 下歯	1	0.009	
灰化物集22	1B-1	鼠目 <i>Rodentia</i> non det. 門歯	1	0.013	
灰化物集22	1B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 中肋骨 掌骨	1		
灰化物集22	1B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 中下中肋骨 骨	1		
灰化物集22	1B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 骨			内蔵ビタミ骨線法
灰化物集22	1B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 第2肋骨	1		
灰化物集22	1B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 右下肋骨 間歯突起	1		
灰化物集22	1B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 上肋骨 滑車外側	1		
灰化物集22	1B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 骨片	1	0.566	
灰化物集22	1B-1	小哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 右肋骨 滑車外側	1	0.008	
灰化物集22	1B-1	小哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 骨片	1		
灰化物集22	1B-1	小哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 骨片	1	0.008	
灰化物集22	1B-1	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	2640	59.343	金属器による加工に隣接する断片を含む
灰化物集22	1B-1	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	2	0.246	
灰化物集22	1B-1	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 部位不明	1	0.215	
灰化物集22	1B-1	哺乳類 <i>Mammalia</i> non det. 骨	1	0.084	
灰化物集23	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨		0.021	
灰化物集25	1B-1	サテテ <i>Salmonidae</i> sp. 骨		0.024	

表Ⅷ-2-37 炭化物集中・灰集中の動物遺存体(3)

遺存名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	面積	備考
炭化物集中25	1B-1	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	111	4,646	
炭化物集中26	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	5	0,843	
炭化物集中26	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	5	0,823	
炭化物集中26	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	19	0,139	
炭化物集中26	1B-1	鳥類 non det. 部位不明		0,091	
炭化物集中26	1B-1	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	12	2,439	
炭化物集中26	1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 角骨 左後脚部突起	1	0,263	
炭化物集中27	1B-1	鳥類 non det. 部位不明		0,012	
炭化物集中28	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	1	0,013	
炭化物集中29	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	1	0,011	
炭化物集中31	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨		0,012	
炭化物集中31	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	13	0,009	
炭化物集中31	1B-1	鳥類 non det. 部位不明		0,044	
灰集中22	1B-1	ホオチガイ Pannipocanus (Mansupecten) yessoensis?	1	0,068	
灰集中22	1B-1	鳥類 non det. 部位不明		0,059	
灰集中22	1B-1	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	28	0,944	

表Ⅷ-2-38 砂集中の動物遺存体

遺存名	層位	動物遺存体	点数	面積	備考
砂集中3	1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	1	0,006	
砂集中3	1B-1	鳥類 non det. 部位不明		0,012	

表Ⅷ-2-39 貝集中の動物遺存体

遺存名	層位	動物遺存体	点数	面積	備考
貝集中1	00	カワシシユガイ Margaritana laevis		9,330	
貝集中1	00	カワシシユガイ Margaritana laevis 殻蓋		2,01	
貝集中2	00	カワシシユガイ Margaritana laevis 殻蓋		2,21	
貝集中3	00	ホオチガイ Pannipocanus (Mansupecten) yessoensis	2	4,4	照熱
貝集中4	00	カワシシユガイ Margaritana laevis 殻蓋		4,34	

表Ⅷ-2-40 包含層の動物遺存体(1)

層位	動物遺存体	点数	面積	備考
表土	シウ Cervus nippon yessoensis 左下第3段1面(1段内面)	1	2,30	照熱程度に達行
表土	シウ Cervus nippon yessoensis? 右肋骨近骨幹外面?	1	2,30	
表土	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	3	2,30	
表土	哺乳類 Mammalia? 部位不明	2	0,66	照熱
00	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨片	2		
00	コイハ Cyprinidae sp. 軟骨骨片	1		
00	鳥類 non det. 鱈骨	5		
00	イヌ Canis Familiaris 左下第2段1面(1段内面)	1	1,54	
00	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨骨幹およびその下部	1	4,94	
00	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 椎体突起より下々大 肋骨突起遠端欠損	1		
00	シウ Cervus nippon yessoensis 右肋骨高位面	1		
00	シウ Cervus nippon yessoensis 右肋骨外面(肋骨片・椎体が融合して残る)	1	15,18	
00	シウ Cervus nippon yessoensis 右大腸骨・恥骨およびその周辺	1	12,51	
00	シウ Cervus nippon yessoensis? 肋骨骨	1	4,22	
00	シウ Cervus nippon yessoensis 椎体 側面	23	5,43	
00	シウ Cervus nippon yessoensis 左下第3段1面 側視	1	3,91	
00	シウ Cervus nippon yessoensis 椎体 側面	10	2,34	
00	シウ Cervus nippon yessoensis 左第4肋骨	1	1,88	
00	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	4	8,4	
00F	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨片	9		
00F	シウ Cervus nippon yessoensis? 大腸骨前面?	1	8,85	
00F	シウ Cervus nippon yessoensis 肋骨骨幹後面	1	5,34	
00F	シウ Cervus nippon yessoensis 肋骨骨幹後面	1	5,45	
00F	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	1	6,30	
00F-1B-1	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	1	0,49	
1B-1	ヤナヒ Salmonidae sp. 鱈骨	14		照熱1, 照熱2
1B-1	ガン・カモシ Anasidae sp. 小骨カモシ 右上腕骨高位面	1	2,32	
1B-1	鳥類 Aves non det. 部位不明	1	0,498	
1B-1	イヌ Canis Familiaris 肋骨	4	5,54	
1B-1	イヌ Canis Familiaris 左肋骨	1	3,004	
1B-1	イヌ Canis Familiaris 肩胛	1	2,63	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 骨幹内面	1	8,39	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左大腸骨高位骨幹 小骨/およびその上F	1		内側に折り状のカット
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肩甲骨上端および前縁	1		
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左大腸骨高位骨幹内面	1		空気層による骨幹を折突するカット
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左下第3段1面 側視	1	3,92	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 椎体 側面	4	4,66	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 骨幹後面	1		
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左下第2段1面およびその周辺	1		肋骨骨内側の前面に多くの細かいカット 上の肋骨と骨質体
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左下第3段1面 側視	1	2,94	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis? 椎骨 骨幹前下前面?	1	5,43	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis? 椎骨 高位骨幹外面	1	5,44	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis? 鱈骨	1		
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis? 右肋骨 骨幹後面内面	1	4,9	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 右肋骨 肋骨突起遠端欠損	1	21,29	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 右肋骨 骨幹後面ヒラメ線脈起点周辺	1	9,46	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 角 角1性?	1	14,64	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左下第2段1面 側視	1	2,34	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 後1面 高視	1	2,4	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 骨幹内面	1	6,99	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis? 左肋骨 高位骨幹内面脈管溝・溝?	1	3,15	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肩甲骨 側面高・棘下高・長径	1	21,44	大型の骨体
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨	1	14,55	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 後面肋骨後面	1	4,998	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis? 肋骨 離断端	1	0,41	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 後1面 高視	1	2,4	2,4 全面部により削られた痕跡
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肩甲骨高位骨幹および肩甲	1	4,99	切取あり
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 右肋骨 骨幹外面	1	4,48	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis? 椎骨 高位骨幹後面?	1		
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 骨幹後面動脈筋線部	1	4,64	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 椎体 側面 斜位左?	1	3,41	
1B-1	シウ Cervus nippon yessoensis 左下第3段1面 側視	1	3,42	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-41 包含層の動物遺存体(2)

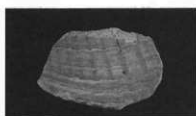
層位	動物遺存体	点数	重量	備考
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 椎間突起	1	1.99	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 右肋骨 椎間突起	1	14.14	ヒラメ肋骨を金属器でカット
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 右肋骨 椎間突起	1	6.49	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis? 肋骨 椎間突起	1	3.43	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 右肋骨 椎間突起	1	5.31	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 角 角幹および第2枝	1	16.91	第2枝は金属器にて切断
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 椎間突起	1	2.34	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 中下骨 掌骨	1	1.81	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左下肋骨 掌骨-下指骨	1	15.43	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis? 肋骨 椎間突起	1	2.09	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 右下肋骨 下指骨を切断?	1	60.04	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左下肋骨第2・3枝 白面および歯槽	1	10.46	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨	1	3.09	
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 肋骨 背刺痕跡内面片	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 種子骨	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 右第4掌骨	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左後骨 椎間突起	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 椎間突起	1		切り取のカット
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 椎間突起	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨 椎間突起	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 肋骨 椎間突起	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 肋骨 椎間突起	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 肋骨 椎間突起	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yessoensis 第5肋骨 右後肋骨突起	1	0.49	重量
I B-1	哺乳類 Mammalia non des. 肋骨?	100	4.62	
I B-1	哺乳類 Mammalia? 肋骨	1	1.003	
I B-1	哺乳類 Mammalia non des. 肋骨 不明	25	68.81	
I B-2	哺乳類 Mammalia non des. 左大腸骨 椎間突起	1	2.98	
I B-2	哺乳類 Mammalia non des. 肋骨 不明	3	2.14	重量
I B-4	シカ Cervus nippon yessoensis 左肋骨	1	14.14	



陸産貝類



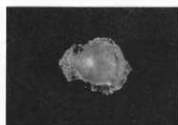
ホタテガイ



タマキガイ



カワシンジュガイ



ニシン耳骨



サケ科椎骨



サケ科歯および歯槽



イトヨ科 背鰭棘



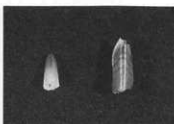
イトヨ科 腹鰭棘



コイ科 (ウグイ類) 咽頭骨



コイ科 椎骨



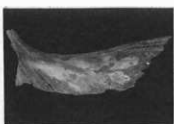
アブラサメ科 (ツノサメ科) 棘



大型鳥類



齧歯目 左下顎骨

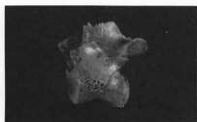


サバ科 マグロ類? 左鎖骨

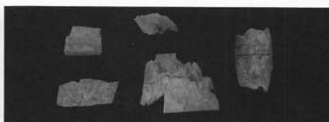


イヌ左下顎第一後臼歯

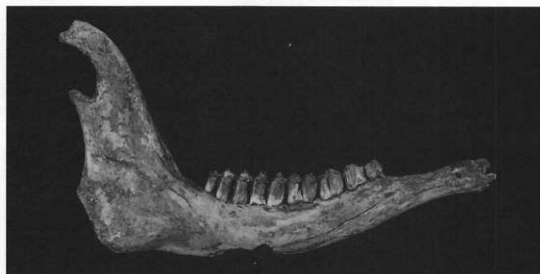
図Ⅷ-2-5 出土動物遺存体 (1)



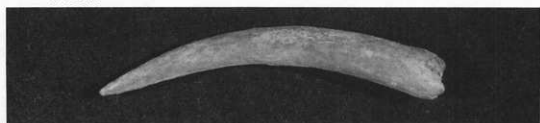
イヌ 腰椎



金属器による削片（鹿角など）



シカ 右下顎骨



シカ 角尖端



シカ 橈骨・大腿骨・脛骨・踵骨・第四手根骨・末節骨

図Ⅷ-2-6 出土動物遺存体（2）

3 美々8 遺跡低湿度部の珪藻化石・植物珪酸体よりみた環境変遷

バリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

千歳市南部地域には、樽前山・恵庭岳・支笏カルデラ噴出物により形成された台地が広がり、この台地を美沢川・ベンケナイ川・バンケナイ川などの河川が開析する小支谷が存在する。美々8 遺跡は、美沢川により開析された小支谷の低湿度部から台地上にかけて立地する。本遺跡では、台地部で縄文時代～中・近世アイヌ文化期の遺物包含層、低湿度部側で縄文時代～中・近世アイヌ文化期の遺物包含層が確認されている。また、文献資料等の調査により、少なくとも寛文7 (1667) 年以降から18世紀の頃まで太平洋側と日本海側を結ぶ交通路の中継地点的な役割を持っていたことが明らかにされている(鈴木, 1996)。

本遺跡では、山田(1996)により花粉分析が既に行われており、遺跡周辺の森林植生について明らかにされつつある。今回の自然科学分析調査では、低湿度部の環境変化について珪藻分析・植物珪酸体分析から検討を行った。

2 試料と層序

試料の採取にあたって、発掘調査区のはぼ中央に設定されたA-BラインでLoc.1・2、発掘区南東部のC-DラインでLoc.3、C-Dラインよりさらに南東側のE-FラインでLoc.4が設けられ、各地点から層位試料が採取された(図1)。なお、各試料は、山田(1996)で実施された花粉分析の分析試料とほぼ同一地点から採取されている。

本調査区では、下位より台地部のII B層に相当するウ層(暗褐色泥炭)、イ層(明灰白色砂土)、ア層(灰褐色泥炭質シルト)、樽前c降下軽石(Ta-c)、IB-7層(灰褐色シルト)、IB-6層(暗褐色腐植質シルト)、IB-5層(暗褐色泥炭)、IB-4層(黒色泥炭)、IB-3層(暗褐色泥炭)、白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)、IB-2層(暗褐色礫混じり砂質泥炭)、IB-1層(褐色～暗褐色泥炭・灰褐色粘質土)、樽前b降下軽石(Ta-b)、0B層(褐色泥炭)、樽前a降下軽石(Ta-a)とされ、Loc.3でIB-1層中に有珠b降下軽石(Us-b)を挟む。本遺跡で認められた火山灰の降灰年代については、町田・新井(1992)を参考にすると、Ta-cが2500～3000年前、B-Tmが800～900年前、Us-bが1663年、Ta-bが1667年、Ta-aが1739年とされている。図2にLoc.1～4の層序および試料採取層位を模式柱状図にて示す。

3 分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で1～7g秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、K.Krammer and Lange-Bertalot(1986・1988・1991a・1991b)、K.Krammer(1992)などを用いる。

同定結果は、海水生種、海水～汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、

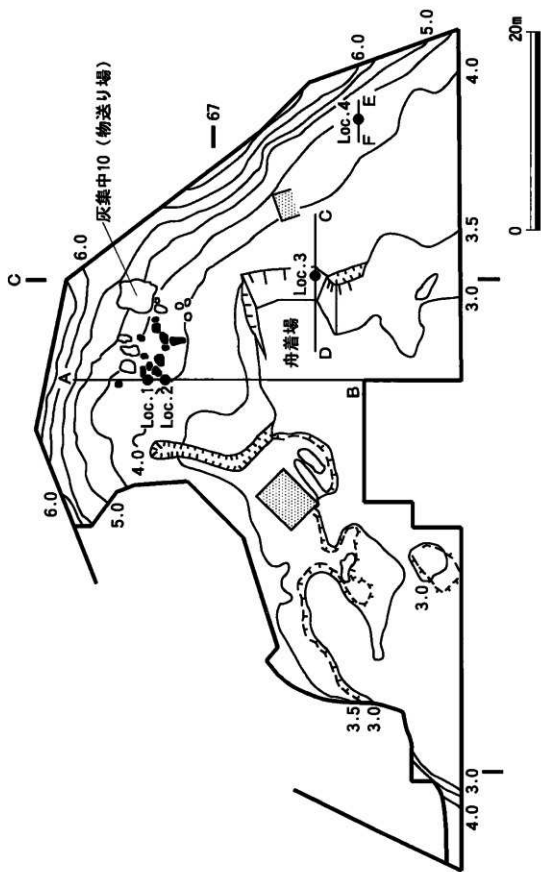


図1 遺構平面図および試料採取地点

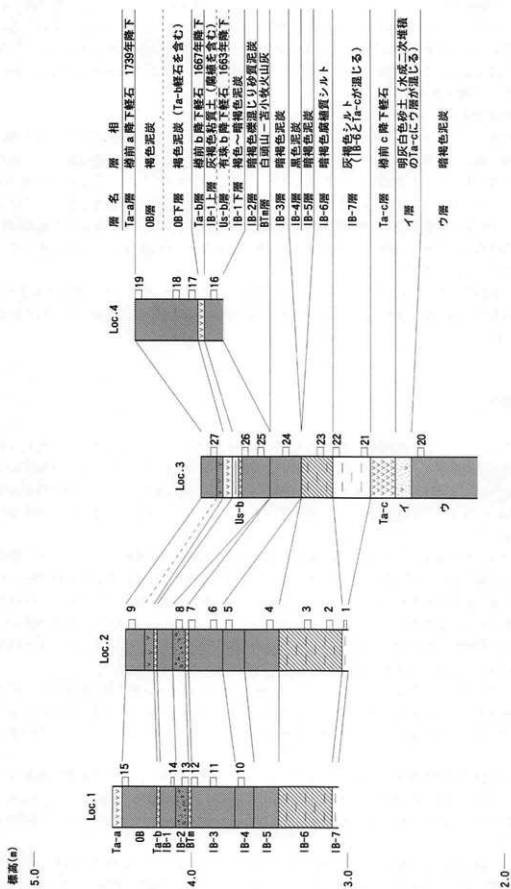


図2 試料採取地点の模式柱状図

産出個体数100個体以上の試料については、産出率2%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の変遷図を作成する。また、産出した化石が現地性の化石か異地性の化石かを判断する目安として完形殻の出現率を求め考察の際に考慮する。堆積環境の解析にあたっては、水生珪藻については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については, Asai, K. & Watanabe, T. (1995)の環境指標種を参考とする。

(2) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理して、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、ブリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、出現個体数の一覧表に表示する。また、生育していたイネ科植物について検討するために、植物珪酸体群集の変遷図を作成する。出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体のそれぞれの総数を基数として求める。

4 結果

(1) 珪藻化石

<Loc.1>

結果を表1・図3に示す。試料番号11・12は珪藻化石の産出が少ない。それ以外の4試料からは、淡水生種が豊富に産出する。完形殻の出現率(以下、完形率)は70%以上と高い。産出分類群数は、23属110種類である。全般的傾向として水生珪藻が優占するが、水域以外の陸上のコケや土壌表面などの特殊な環境に付着生育する陸生珪藻も30%前後産出する。本地点の珪藻化石群集は、その特徴から3つに区分される。

試料番号10は、水生珪藻としては、少量の塩分には耐えられる貧塩不定性種、PH7以下の酸性水域に特徴的に生育する真+好酸性種、流水にも止水にも生育する流水不定性種と止水に特徴的な真+好止水性種が優占または多産する。陸生珪藻は、耐乾性の強い陸生珪藻A群が優占する。産出種の特徴は、好酸性で流水不定性の*Pinnularia divergentissima*が30%と優占し、真酸性・好止水性の*Eunotia exigua*、好酸性・真止水性の*Aulacoseira alpicena*が10%前後検出される。また、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が約15%と多産する。

試料番号13・14では、好酸性の*Pinnularia divergentissima*など真+好酸性種が減少する。産出種の特徴は、流水不定性の*Achnanthes exigua*、*Gomphonema parvulum*、*Navicula elginensis*、好止水性の*Fragilaria virescens*、それに陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*が10%前後と多産する。

試料番号15は真+好酸性種がさらに減少し、真+好アルカリ性種が優占する。産出種の特徴は、流水不定性の*Navicula veneta*、*Nitzschia archibaldii*、*N. palea*、好止水性の*Fragilaria brevistriata*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻B群の*Navicula seminulum*が10~20%と多産する。

<Loc.2>

結果を表2・図4に示す。試料番号7では珪藻化石の産出が少ない。それ以外の8試料では珪藻化石が豊富に産出する。完形率は、70%以上と高い。産出分類群数は、29属150種類である。全般的には

水生珪藻が優占するが、試料番号8以下で陸生珪藻が30～40%産出する。本地点の珪藻化石群集は、その特徴から3区分される。

試料番号1～6は、少量の塩分にも耐えられない貧塩嫌塩性種と貧塩不定性種、真+好酸性種、真+好止水性種が優占する。産出種の特徴は、好酸性で好止水性の*Melosira americana*が30～40%と優占し、これに付随して、好酸性・真止水性の*Aulacoseira alpigena*、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、流水不定性の*F. pinnata*が10%前後と多産する。

試料番号8になると、貧塩嫌塩性種、真+好酸性種、真+好止水性種が減少し、貧塩不定性種、流水不定性種が優占する。流水不定性の*Gomphonema parvulum*、*Navicula elginensis*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が10%前後と多産する。

試料番号9は、Loc.1の試料番号15で認められる珪藻化石の産状に生態性や産出種が近似しており、流水不定性の*Navicula veneta*、*Nitzschia palea*、好止水性の*Fragilaria brevistriata*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻B群の*Navicula seminulum*が5～20%と多産する。

<Loc.3>

結果を表3・図5に示す。各試料とも珪藻化石が豊富に産出する。完形率は、80%以上と非常に高い。産出分類群数は、30属155種類である。全般的には水生珪藻が優占することを特徴とする。本地点の珪藻化石群集も3つに区分される。

試料番号20は、貧塩不定性種、真+好アルカリ性種、真+好止水性種が優占する。流水不定性の*Fragilaria pinnata*、好止水性の*Fragilaria construens fo. venter*が優占し、好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*Tabellaria flocculosa*を伴う。

試料番号21・22は、貧塩嫌塩性種と真+好酸性種が増加する。産出種の特徴は、好酸性で好止水性の*Melosira americana*が約30%と優占し、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、中性で好止水性の*Aulacoseira italica*、流水不定性の*F. pinnata*が10～15%出現する。

試料番号23～27は、真+好流水性種が増加する。産出種の特徴は、好酸性で好止水性の*Melosira americana*、*Aulacoseira alpigena*が多産し、好アルカリ性で好止水性である*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、好流水性である*Achnanthes lanceolata*、*Diatoma tenuis*、*Melosira valians*、*Meridion circulae*を伴う。

<Loc.4>

結果を表4・図6に示す。各試料とも珪藻化石が豊富に産出する。完形率は、80%以上と非常に高い。産出分類群数は、25属141種類である。全般的には水生珪藻が優占するが、上位の試料番号19では陸生珪藻も約30%産出する。本地点の珪藻化石群集もその出現傾向から3つに区分される。

試料番号16は、貧塩不定性種、真+好アルカリ性種、真+好止水性種が優占あるいは多産する。産出種の特徴は、好アルカリ性で流水不定性の*Achnanthes minutissima*、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria capucina var. gracilis*、*F. capucina var. mesolepta*、好流水性の*Achnanthes lanceolata*、*Melosira valians*が10%前後と多産する。

試料番号17・18は真+好止水性種が増加する。好酸性、真止水性の*Aulacoseira alpigena*、中性で好止水性の*Aulacoseira italica*、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、好酸性で好止水性の*Melosira americana*が10%前後と多産する。なお、試料番号18では流水不定性の*Fragilaria pinnata*が20%と多産する。

試料番号19になると真+好止水性種が急減し、流水不定性種や陸生珪藻が産出する。好流水性の

表 1 Loc. 1 の硅藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性			環境 指標類	15	14	13	12	11	10
	場分	産	流水							
Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-11	l-ph	T	-	-	-	-	-	1
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-11	ind	S	-	19	3	-	-	-
Achnanthes hungarica Grunow	Ogh-hil	al-11	ind	U	-	3	-	-	-	-
Achnanthes lanceolata (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	4	3	1	-	-	1
Achnanthes lanceolata var. elliptica Cleve	Ogh-ind	al-11	r-ph	K, T	1	-	-	-	-	-
Achnanthes marginulata Grunow	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	1
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-11	ind	U	-	1	-	-	-	-
Achnanthes peragalli Brun et Heribaud	Ogh-ind	ind	l-ph	U	-	1	-	-	-	-
Achnanthes rostrata Oestrup	Ogh-ind	al-11	r-ph	U	1	-	-	-	-	2
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-11	ind	U	-	3	1	-	-	-
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1	-	-	-	-	-
Aulacoseira alpigena (Grun.) Kramer	Ogh-hob	ac-11	l-bi	K, U	3	2	4	-	-	9
Aulacoseira distans (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-11	l-bi	K, U	1	1	-	-	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-11	l-ph	U	3	5	7	-	-	1
Aulacoseira spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	1	-	-	-	1	-
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-11	ind	U	-	-	1	-	-	-
Caloneis undulata (Greg.) Kramer	Ogh-hob	ac-11	ind	U	-	-	1	-	-	1
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	1
Cocconeis diminuta Pantocsek	Ogh-ind	al-11	l-ph	U	1	-	-	-	-	-
Cymbella naviculiformis Auerwald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1	-	-	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	1	3	5	-	-	1
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-11	ind	T	-	-	1	-	-	1
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-11	ind	U	1	3	2	-	-	-
Diploneis parva Cleve	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1	-	-	-
Epithemia sorex Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1	-	-	-	-	-
Epithemia turgida (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-11	l-ph	T	1	-	-	-	-	-
Eumotia bilunaris (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-11	l-ph	U	-	1	1	-	-	-
Eumotia exigua (Breb.) Grunow	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	-	-	2	-	-	13
Eumotia fallax A. Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	0	-	-	-	-	1
Eumotia incisa W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-11	ind	O	-	-	-	-	-	1
Eumotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-11	ind	O	-	2	2	-	1	-
Fragilaria bicapitata A. Mayer	Ogh-hob	ind	l-bi	U	1	-	-	-	-	-
Fragilaria bidens Heiberg	Ogh-ind	al-11	l-ph	U	1	1	-	-	-	-
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-ind	al-11	l-ph	U	16	3	2	-	-	-
Fragilaria constricta fo. veneta (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-11	l-ph	S	6	1	5	-	-	3
Fragilaria parasitica (W. Smith) Grunow	Ogh-ind	al-11	ind	U	1	1	-	-	-	-
Fragilaria pinnata Ehrenberg	Ogh-ind	al-11	ind	S	2	-	-	-	-	-
Fragilaria pinnata var. lanceolata (Schum.) Hustedt	Ogh-ind	al-11	ind	S	-	-	-	-	-	1
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-11	r-ph	K, T	2	-	-	-	-	-
Fragilaria virescens Ralfs	Ogh-ind	ac-11	l-ph	U	3	22	4	-	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	1	-	-	-	-
Gomphonema affine Kuetzing	Ogh-ind	al-11	ind	U	-	-	1	-	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-11	ind	U	2	-	2	1	-	-
Gomphonema angustatum var. linearis Hustedt	Ogh-ind	ac-11	unk	unk	1	-	-	-	-	-
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-11	ind	U	-	-	-	-	-	1
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-11	l-ph	O, U	-	2	2	-	-	1
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	7	12	17	-	-	1
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	-	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-11	ind	RA, U	41	30	18	2	1	23
Martyana martyi (Heribaud) Round	Ogh-hil	al-11	ind	U	-	-	-	1	-	-
Melosira americana Kuetzing	Ogh-hob	ac-11	l-ph	U	3	1	2	1	-	2
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	2	-	-	-	-	-
Meridion circulae Agardh	Ogh-ind	al-11	r-bi	K, T	-	1	-	-	-	2
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs) V. Heurck	Ogh-ind	al-11	r-bi	K, T	4	-	-	-	-	-
Navicula atomus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA, U	1	-	-	-	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-11	ind	RA, T	7	1	1	-	-	2
Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-11	ind	O, U	-	5	25	-	-	3
Navicula elginensis var. cuneata H. Kobayasi	Ogh-ind	al-11	ind	U	-	1	5	1	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-11	r-ph	U	-	-	3	-	-	-
Navicula gallica var. perpusilla (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	3
Navicula gregaria Donkin	Ogh-hil	al-11	ind	U	1	-	-	-	-	-
Navicula laevissima Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	1
Navicula laevissima fo. fusticulus (Oestrup) H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-11	ind	RA, S	5	3	4	-	-	7
Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	-	2	-	-	-	-
Navicula semenoides Hustedt	Ogh-unk	unk	l-ph	U	1	-	-	-	-	1

表1 Loc. 1の珉藻分析結果(2)

種 類	生 態 性			環境 指標種	15	14	13	12	11	10
	塩分	pH	流水							
<i>Navicula seminulum</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB, S	21	5	5	-	-	-
<i>Navicula seminulum</i> var. <i>radiosa</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI, S	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula subnymptharum</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula tantula</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI, U	-	1	-	-	-	-
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	ind	U	16	1	2	-	-	-
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	1	-	-	-
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.)Kramer	Ogh-ind	ind	l-ph	-	1	1	-	-	-	-
<i>Neidium bisulcatum</i> (Lagersl.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	-	-	1	-	-	-
<i>Neidium iridis</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	-	-	-	-	1
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	4	6	1	-	-	-
<i>Nitzschia archibaldii</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	U	19	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia frustulum</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia nana</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB, S	-	1	-	-	-	-
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.)W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	9	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia paleacea</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	2	-	2	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaera</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	1	2	-	-	-
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	2	2	7	-	-	-
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>scalaris</i> (Ehr.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	2
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	-	1	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	3	6	-	-	-	1
<i>Pinnularia divergentissima</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	ind	-	-	-	-	-	51
<i>Pinnularia esoxiformis</i> var. <i>eifeliana</i>	Ogh-unk	unk	unk	unk	2	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	2	2	-	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	ind	-	2	-	-	-	-
<i>Pinnularia lenticuloides</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.)W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	1	7	-	-	-
<i>Pinnularia micraurora</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	S	-	3	5	-	-	-
<i>Pinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	2	2	-	-	1
<i>Pinnularia rupestris</i> Hanitzsch	Ogh-ind	ind	ind	ind	-	2	2	-	-	-
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Kramer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	4	-	-	1
<i>Pinnularia silvatica</i> Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia similis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	ind	-	-	-	-	-	3
<i>Pinnularia stonotophora</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	3	-	-	1	-	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	-	5	8	-	-	9
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	3	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia sudetica</i> (Hilse)M. Peragallo	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	6	10	-	2	5
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	1	1	-	-	1
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.)Q. Muller	Ogh-ind	al-il	ind	ind	-	-	-	-	-	1
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)Q. Muller	Ogh-hil	al-il	ind	ind	-	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	1	-	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> fo. <i>linearis</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	1	-	-	-
<i>Stauroneis kriegeri</i> Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	-	-	7	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	1	-	-	-	1
<i>Surirella linearis</i> W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	unk	-	-	1	-	-	-
<i>Surirella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	-	1	-	-	2
海水生種合計					0	0	0	0	0	0
海水-汽水生種合計					0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					204	201	201	7	6	167
珉礫化石総数					204	201	201	7	6	167

凡例

H. R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C. R. : 流水に対する適応性
Ogh-hil : 貧塩好塩性種	al-bi : 高75%好性種	l-bi : 真止水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種	al-il : 好75%好性種	l-ph : 好止水性種
Ogh-hob : 貧塩好塩性種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-unk : 貧塩不明種	ac-il : 好酸性種	r-ph : 好流水性種
	ac-bi : 真酸性種	r-bi : 真流水性種
	unk : pH不明種	unk : 流水不明種

環境指標種

K : 中～下流性河川指標種 K : 湖沼沼沢地指標種 O : 沼沢湿地付着生種
 P : 高層湿原指標種 (以上は安藤, 1990)
 S : 好75%性種 U : 広適応性種 T : 好清水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)
 RI : 陸生珉藻 (RA : A群, RB群, 伊藤・堀内, 1991)

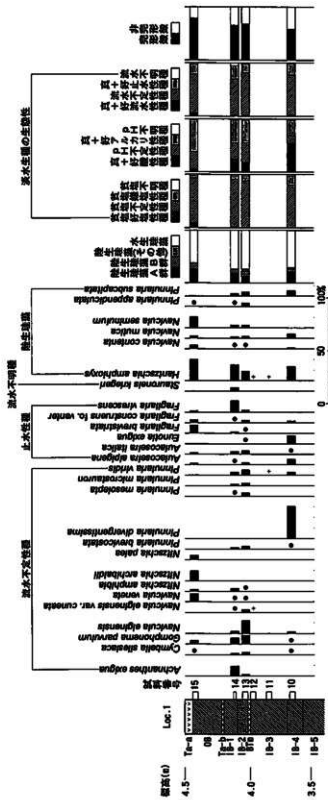


図3 Loc. 1の主要述漸化石群集の変遷
各層産出層・完形産出層は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体未満の種数を示す。

表2 Loc. 2 の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 産 性		層 積 層	9	8	7	6	5	4	3	2
	再分	DL									
<i>Fragilaria subaerata</i> (Grun.) Lange-Berthelot	Ogh-ind	at-1	-pb	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes clevei</i> Grunow	Ogh-hob	ac-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogh-hl	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes hungarica</i> Grunow	Ogh-hob	ac-1	unk	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes laevis</i> Oestrup	Ogh-ind	at-1	ind	3	3	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes laterostrata</i> Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes marginulata</i> Grunow	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzing	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>jackii</i> (Rabenh.) Lange-B. et Ruppel	Ogh-hob	ac-1	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes oestrupii</i> (Cf.) Hustedi	Ogh-ind	at-1	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	Ogh-unk	unk	unk	2	1	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes subatomoides</i> (Hust.) Lange-B.	Ogh-unk	unk	unk	1	1	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes subchlandtii</i> Hustedi	Ogh-unk	unk	unk	1	1	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Actinella brasiliensis</i> Grunow	Ogh-ind	ac-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	at-1	ind	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphiplicura pellucida</i> Kuetzing	Ogh-ind	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Anomoeoneis gomphonemacea</i> (Grun.) H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Anomoeoneis vitrea</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira alpicana</i> (Grun.) Krammer	Ogh-ind	at-1	-b1	1	1	-	-	9	13	23	12
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	at-1	-b1	2	9	-	-	4	3	5	11
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>tenuissima</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-hob	ac-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira pensacolata</i> (A. S.) Simonsen	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	11	5	-	4
<i>Aulacoseira</i> spp.	Ogh-hl	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacillaria paradoxa</i> Gmelin	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Catoneis hyalina</i> Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Catoneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Catoneis tenuis</i> (Grg.) Krammer	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis dimidiata</i> Pantocsek	Ogh-ind	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis disculus</i> Schumann	Ogh-ind	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis diacantha</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis diacantha</i> var. <i>euglypta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	at-1	-b1	1	-	-	-	-	2	-	-
<i>Cocconeis placenta</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	at-1	-b1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella ehrenbergii</i> Kuetzing	Ogh-ind	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella gracilis</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella naviculiiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella silicula</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	3	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	at-1	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma tenuis</i> Agardh	Ogh-ind	at-1	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hille) Cleve	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Epiihemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	at-1	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Epiihemia turgida</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	at-1	-b1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-1	-b1	-	-	-	-	2	-	-	-

表2 Loc. 2 の建蕨分析結果 (2)

種 類	現 生 性	種 属 種	9	8	7	6	5	4	3	2	1
<i>Eunolia exigua</i> (Breb.) Grunow	Ogh-nob ac-bi	-ph									
<i>Eunolia fallax</i> A. Cleve	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia flexuosa</i> (Breb.) Kuetzing	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia formica</i> Ehrenberg	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia implicata</i> Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia incisa</i> W. Smith ex Gregory	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia monodon</i> var. <i>tropica</i> Hustedt	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia naegelii</i> Migula	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia neopinnalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia subarcuatoides</i> Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia tenella</i> (Grun.) Hustedt	Ogh-nob ac-bi	nd									
<i>Eunolia</i> spp.	Ogh-unk unk	unk									
<i>Fragilaria bicapitata</i> A. Mayer	Ogh-nob ind	-bi									
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow	Ogh-ind ai-1	nd	11	2	15	5	14	28	17	20	
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.) Hustedt	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>mesolepta</i> (Rabh.) Rabenhorst	Ogh-ind ai-1	-ph									
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>radians</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Fragilaria construens</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind ai-1	-ph									
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind ai-1	-ph	6	1	5	9	11	16	7	24	
<i>Fragilaria exigua</i> Grunow	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Fragilaria parasitica</i> (W. Smith) Grunow	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Fragilaria pinguis</i> Ehrenberg	Ogh-ind ai-1	nd	3					2	9	15	4
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lanzettulula</i> (Schum.) Hustedt	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind ai-1	r-ph									
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-nob ac-bi	-ph		9							
<i>Fragulilla rhomboides</i> (Ehr.) De Toni	Ogh-nob ac-bi	-ph									
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>undulata</i> (Greg.) Grunow	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Gomphonema angustum</i> Agardh	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Gomphonema clevei</i> Fricko	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Gomphonema parvum</i> Kuetzing	Ogh-ind ai-1	nd	2	29							
<i>Gomphonema quadrupunctatum</i> (Oestrup.) Wislouch	Ogh-ind ai-1	r-ph									
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Gomphonema</i> sp. -1	Ogh-unk unk	unk									
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk unk	unk									
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-nob ac-bi	nd	25	17	2	1	4				
<i>Melosira americana</i> Kuetzing	Ogh-nob ac-bi	nd	4	8		62	46	90	61	85	82
<i>Melosira varians</i> Agardh	Ogh-hi ai-bi	r-ph									
<i>Meridion circulae</i> Agardh	Ogh-hi ai-bi	r-ph									
<i>Meridion circulae</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) V. Heurck	Ogh-hi ai-bi	r-ph									
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenberg	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Navicula bryophylla</i> Boye-Petersen	Ogh-ind ai-1	nd									
<i>Navicula cari</i> Ehrenberg	Ogh-ind ai-1	r-bi									

表2 Loc. 2 の建源分析結果 (3)

種	生 態 性		環境 指標種	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	果 実	Di 流 不										
<i>Navicula clementoides</i> Hustedi	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula cryptocephalia</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula cryptotenella</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula eiginensis</i> (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula eiginensis</i> var. <i>cuneata</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula hastia</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-11	-ph									
<i>Navicula mobilis</i> var. <i>minor</i> Patrick	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula occulta</i> Krasske	Ogh-unk	unk	unk									
<i>Navicula placenta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula pseudolanceolata</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula pseudocylindrica</i> Hustedi	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Navicula seminatum</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Navicula submyrmarum</i> Hustedi	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Navicula submuralis</i> Hustedi	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Navicula tenelloides</i> Hustedi	Ogh-hil	al-11	ind									
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Navicula ventralis</i> Krasske	Ogh-unk	unk	unk									
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk									
<i>Neidium alpinum</i> Hustedi	Ogh-unk	unk	r-ph									
<i>Neidium applanatum</i> (Ehr.) Kramer	Ogh-unk	unk	r-ph									
<i>Neidium bisulcatum</i> (Lagerst.) Cleve	Ogh-unk	ind	ind									
<i>Neidium iridis</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-unk	ind	-ph									
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-hob	ac-11	ind									
<i>Nitzschia archibaldii</i> Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-11	-bi									
<i>Nitzschia dissipata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind									
<i>Nitzschia frustulum</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Nitzschia linearis</i> W. Smith	Ogh-hil	al-11	r-ph									
<i>Nitzschia nana</i> Grunow	Ogh-ind	al-11	r-ph									
<i>Nitzschia paucica</i> (Kuetz.) W. Smith	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Nitzschia paucica</i> Grunow	Ogh-ind	al-11	ind									
<i>Nitzschia terrestris</i> (Pet.) Hustedi	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk									
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W. Smith	Ogh-ind	al-11	unk									
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.) Cleve	Ogh-hob	ind	ind									
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>scalaris</i> (Ehr.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-bi	-ph									
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-11	ind									
<i>Pinnularia brevicostata</i> var. <i>sumatrana</i> Hustedi	Ogh-ind	ac-11	-ph									
<i>Pinnularia divergentissima</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-11	ind									
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-11	ind									
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>sancina</i> (Grun. ex Cl.) Meister	Ogh-hob	ac-11	ind									

表2 Loc. 2の硅藻分析結果(4)

種 類	生 態 性		環境	9	10	7	6	5	4	3	2	1
	葉分	沉水										
<i>Pinnularia interrupta</i> W. Smith	Ogh-ind	ac-ii	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia major</i> Kuetzing	Ogh-ind	ac-ii	-b-i	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.) W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-ii	-ph	1	6	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia notabilis</i> Krammer	Ogh-hob	ac-ii	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia obscura</i> Kraske	Ogh-ind	ind	ind	1	2	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	1	3	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia schoenfelderii</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	1	3	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia stamialis</i> Husted	Ogh-ind	ac-ii	-ph	1	13	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-ii	-ph	1	13	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia subspitosa</i> Gregory	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia sudetica</i> (Hilse) M. Peragallo	Ogh-hob	ac-ii	-ph	1	8	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia viridifornis</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	1	8	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-til	al-ii	r-ph	3	1	1	2	1	1	1	2	2
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O. Müller	Ogh-ind	al-ii	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>hattorii</i> Isumura	Ogh-ind	ind	ind	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Surirella</i> cf. <i>bifrons</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	ind	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-ii	-b-i	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>Tabellaria locculosa</i> (Roith) Kuetzing	Ogh-hob	ac-ii	-b-i	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生植物合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生植物合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水生植物合計				140	210	4	47	23	224	212	212	242
岩藻類				40	210	4	47	23	226	212	212	242

環境指標種
 J: 上流性河川指標種 K: 中心下流性河川指標種 N: 湖沼沼沢地指標種
 O: 沼沢地付着生種 (以上は安藤 1990)
 S: 好汚濁性種 U: 広域成生種 T: 好冷水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)
 RI: 陸生硅藻 (RA: A群, RB: B群, 伊藤・堀内, 1991)

種 別 対 する 適 応 性
 pH: 水素イオン濃度に対する適応性
 al-bi: 真光性種
 al-ii: 好光性種
 ind: 明不安定性種
 ac-ii: 好酸性種
 ac-bi: 好酸性不明種
 unk: pH不明種

種 別 対 する 適 応 性
 C, R: 海水に対する適応性
 -b-i: 真冷水性種
 -ph: 好冷水性種
 ind: 海水不安定性種
 r-ph: 好寒冷水性種
 -b-i: 好寒冷水性種
 unk: 淡水不明種

表 3 Loc. 3 の連環分析結果 (1)

種 類	生 態 性		採 集 地	採 集 年	採 集 月	採 集 日	採 集 時	採 集 地	採 集 地
	地 域	地 域							
<i>Fragilaria subaialina</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Web	at-ii							
<i>Achnanthes clevei</i> Grunow	Ogb-hob	ac-ii	1-ph						
<i>Achnanthes didyma</i> Husted	Ogb-hob	ac-ii	unk						
<i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogb-hob	ac-ii	ind						
<i>Achnanthes frigida</i> Hustedi	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes grana</i> Hohnheller	Ogb-unk	ac-ii	r-ph						
<i>Achnanthes cf. lacus-vulcani</i> Lange-B. & Kramer	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes lanceolata</i> var. <i>cliviplica</i> Cleve	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes laterostrata</i> Hustedi	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes marginolata</i> Grunow	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzing	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>jackii</i> (Rabenh.) Lange-B. et Ruppel	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes ostrupii</i> (Cl.) Hustedi	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes pergalii</i> Brun et Heribaud	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes rechiensis</i> Leclercq	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes rupestroides</i> Hohn	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes subatomoides</i> (Hust.) Lange-B. & Archibald	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes cf. subsalsae</i> Petersen	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes suchlandtii</i> Hustedi	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes ventralis</i> (Krauss.) Lange-B.	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Ambora inariensis</i> Kramer	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Ambora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Ambora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Amphipleura pellucida</i> Kuetzing	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Anomooneis viirea</i> (Grun.) Ross	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Kramer	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Aulacoseira distans</i> (Grun.) Simonsen	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>leuissima</i> (Grun.) Simonsen	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.) Simonsen	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Aulacoseira pensacolatae</i> (A. S.) Simonsen	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Aulacoseira</i> spp.	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Caloneis acrophila</i> Rock	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Caloneis branderii</i> (Hust.) Kramer	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Caloneis sillicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Caloneis tenuis</i> (Greg.) Kramer	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Cocconeis dimidiata</i> Pantocsek	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Cocconeis disculus</i> Schumann	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Cocconeis pediculus</i> Ehrenberg	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogb-unk	unk	unk						
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>euglypta</i> (Ehr.) Cleve	Ogb-unk	unk	unk						

表3 Loc. 3の建藪分析結果(2)

種	属	生		四角 折標号	27	26	25	24	23	22	21	20
		五分	期									
<i>Cocconeis plicatula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve		Ogh-ind	at-1	-ph	2	1	0	1	1	1	1	1
<i>Cocconeis pseudomethuensis</i> Reichardt		Ogh-ind	at-1	-ph	6	5	2	1	1	1	1	1
<i>Cyclotella atomus</i> Hustedi		Ogh-ind	at-1	ind	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing		Ogh-hil	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Cymbella gracilis</i> (Ehr.) Kuetzing		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald		Ogh-ind	at-1	ind	0	1	1	1	1	1	1	1
<i>Cymbella perpusilla</i> A. Cleve		Ogh-hob	ac-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Cymbella silosiaca</i> Bleisch		Ogh-ind	at-1	ind	2	1	1	1	1	1	1	1
<i>Cymbella sinuata</i> Gregory		Ogh-ind	at-1	-ph	1	2	1	1	1	1	1	1
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner		Ogh-hob	ac-1	-bi	1	2	1	1	1	1	1	1
<i>Diatoma tonalis</i> Agardh (Ehr.) Cleve-Euler		Ogh-ind	at-1	-bi	1	2	1	1	1	1	1	1
<i>Diploneis oblongella</i> (Naegeli) Cleve-Euler		Ogh-ind	at-1	-ph	3	1	1	1	1	1	1	1
<i>Diploneis ovalis</i> Hilse) Cleve		Ogh-ind	at-1	ind	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brezibsson		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Epithemia largida</i> (Ehr.) Kuetzing		Ogh-hob	ac-1	-ph	2	4	1	1	1	1	1	1
<i>Eunotia bifurcata</i> (Ehr.) Millis		Ogh-hob	ac-1	ind	0	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunotia fallax</i> A. Cleve		Ogh-hob	ac-1	ind	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunotia incisa</i> W. Smith ex Gregory		Ogh-hob	ac-1	ind	0	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunotia naegelii</i> Migula		Ogh-hob	ac-1	ind	3	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst		Ogh-hob	ac-1	-bi	1	5	3	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria bicapitata</i> A. Mayer		Ogh-hob	ac-1	-ph	2	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow		Ogh-ind	at-1	-ph	14	4	12	6	22	29	12	12
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.) Hustedi		Ogh-ind	at-1	-ph	5	10	1	1	5	2	1	1
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>mesolepta</i> (Rabh.) Rabenhorst		Ogh-ind	at-1	-ph	2	1	1	1	2	2	1	1
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>radians</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot		Ogh-ind	at-1	ind	1	2	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria construens</i> (o. <i>binodis</i> (Ehr.) Hustedi		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venier</i> (Ehr.) Hustedi		Ogh-ind	at-1	-ph	12	13	10	5	5	37	28	60
<i>Fragilaria leptotaurois</i> (Ehr.) Hustedi		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria parasitica</i> (W. Smith) Grunow		Ogh-ind	at-1	ind	2	1	1	1	3	1	5	9
<i>Fragilaria pinnata</i> Ehrenberg		Ogh-ind	at-1	ind	7	5	2	6	6	16	37	37
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lanzettiana</i> (Schum.) Hustedi		Ogh-ind	at-1	ind	4	1	1	1	1	3	5	5
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen		Ogh-ind	at-1	-ph	2	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria vaucheriae</i> var. <i>capitata</i> (Grun.) Patrick		Ogh-ind	at-1	ind	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria virescens</i> Rafles		Ogh-ind	at-1	ind	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Frustulia rhomboides</i> (Ehr.) De Toni		Ogh-hob	ac-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.) De Toni		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg		Ogh-ind	at-1	ind	0	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke		Ogh-ind	at-1	ind	0	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	10	4	1	1	1
<i>Gomphonema pseudosphaerophorum</i> H. Kobayasi		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg		Ogh-ind	at-1	-ph	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema</i> sp. -1		Ogh-unk	unk	unk	1	1	1	1	2	1	1	1

表 3 Loc. 3 の遊蕨分析結果 (3)

種 類	生 産 性		階 級	年 代									
	山	流 水		27	26	25	24	23	22	21	20		
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk										
<i>Hantzschia</i> amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Melosira</i> americana Kuetzing	Ogh-hob	ac-1	1-ph	19	26	17	42	27	57	64			
<i>Melosira</i> varians Agardh	Ogh-hil	at-1	1-ph	7	9	11	7	9	4				
<i>Meridion circulae</i> var. <i>constriatum</i> (Raifs) V. Heurck	Ogh-ind	at-1	1-ph	6	11	19	7	9	1				
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	at-1	1-ph	2		4		2					
<i>Navicula capitata</i> Ehrenberg	Ogh-hil	at-1	1-ph										
<i>Navicula contenta</i> (f. <i>biceps</i>) (Arnoit) Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula cryptotenella</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula deliensis</i> Hustedi	Ogh-unk	unk	unk										
<i>Navicula elgimensis</i> (Greg.) Raifs	Ogh-unk	unk	unk										
<i>Navicula elgimensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-ind	at-1	1-ph										
<i>Navicula gregaria</i> Donkin	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula hassiaca</i> Krasske	Ogh-hil	at-1	ind										
<i>Navicula jantzschi</i> Grunow	Ogh-hob	ac-1	ind										
<i>Navicula laevissima</i> Kuetzing	Ogh-ind	at-1	1-ph										
<i>Navicula laterostrata</i> Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula minima</i> Grunow	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula mobiliensis</i> var. <i>minor</i> Patrick	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula occulta</i> Krasske	Ogh-unk	unk	unk										
<i>Navicula pseudolanceolata</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	at-1	ind	2									
<i>Navicula pseudoscutiformis</i> Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	at-1	ind	1	2								
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula radiosa</i> (f. <i>clipponica</i>) Skvorizov	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula reinhardtii</i> Grunow	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula rhynchocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula seminulum</i> Grunow	Ogh-ind	at-1	ind	3									
<i>Navicula seminulum</i> var. <i>radiosa</i> Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula subnympheum</i> Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula submurialis</i> Hustedi	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Navicula untermorhii</i> Hustedi	Ogh-unk	unk	unk			2							
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-unk	unk	unk										
<i>Neidium affine</i> var. <i>longiceps</i> (Greg.) Cleve	Ogh-hob	ac-1	1-ph										
<i>Neidium alpinum</i> Hustedi	Ogh-unk	unk	unk										
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Kramer	Ogh-ind	at-1	1-ph										
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Nitzschia archibaldi</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Nitzschia capitellata</i> Hustedi	Ogh-hil	at-1	ind										
<i>Nitzschia dissipata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	at-1	1-ph			3							
<i>Nitzschia fonticola</i> Grunow	Ogh-ind	at-1	ind										
<i>Nitzschia</i> cf. <i>gracilis</i> Hantzsch	Ogh-ind	at-1	ind										

表3 Loc. 3の柱藻分析結果(4)

種名	生 態 性		埋 藏 層	27	26	25	24	23	22	21	20
	塩分	pH									
<i>Nitzschia linearis</i> W. Smith	Ogh-ind al-i	r-ph U		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.) W. Smith	Ogh-ind ind	ind S		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Nitzschia tubicola</i> Grunow	Ogh-unx unk	unk		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia acrophaeria</i> W. Smith	Ogh-ind al-i	l-ph 0		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.) Cleve	Ogh-hob ind	ind RB		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob ac-bi	l-ph		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind ac-i	ind 0		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-hob ac-i	ind S		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>linearis</i> Hustedi	Ogh-hob ac-i	ind S		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>sancta</i> (Grun. ex Cl.) Meister	Ogh-hob ac-i	l-ph		2	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia hilseana</i> var. <i>japonica</i> H. Kobayasi	Ogh-hob ac-i	ind S		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia lignitica</i> Cleve	Ogh-hob ac-i	ind S		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.) W. Smith	Ogh-ind ind	ind		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia rusepiris</i> Hanizsch	Ogh-ind ind	ind		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind ac-i	ind RB, S		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia viridiflora</i> Wils. Kramer	Ogh-ind ind	ind		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind ind	ind 0		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Rhopalodia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil al-i	r-ph K, T		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-ind ind	ind		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Stauroneis kriegeri</i> Patrick	Ogh-ind ind	unk T		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Stenopterothia curvata</i> (W. Smith) Kramer	Ogh-hob ac-i	l-ph		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Synedra arcus</i> Kuetzing	Ogh-ind al-i	l-ph		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Synedra una</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind al-i	ind U		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind al-i	ind U		1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-ind ac-i	l-bi 0, T		1	1	1	1	1	1	1	1
海水生菌合計	Ogh-hob ac-i	l-bi T		8	4	16	6	14	2	3	17
汽水生菌合計				0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生菌合計				1	1	0	1	0	0	0	0
汽水生菌合計				275	234	295	221	229	218	212	211
柱藻化石総数				226	235	225	222	229	222	214	211

埋藏層 C. R.: 流水に対する適応性
 l-bi: 真止水性種
 l-ph: 好止水性種
 ind: 流水不定性種
 r-ph: 好流水性種
 r-bi: 真流水性種
 unk: 流水不明種

生 態 性
 al-i: 好弱酸性種
 ac-bi: 好弱酸性種
 ac-i: 好酸性種
 ind: pH不定性種
 ind: pH不定性種
 ind: 真酸性種
 unk: pH不明種

埋 藏 層
 K: 中～下流性河川指標種
 L: 盛下流性河川指標種
 N: 湖沼沼原指標種
 O: 沼沢地付着生種
 P: 高層沼原指標種 (以上は安藤, 1990)
 S: 好汚濁性種
 U: 広適応性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)
 RB: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群, 伊藤, 1991)

表4 Loc. 4 の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性			環境 指標	19	18	17	16
	水分	塩	濃水					
<i>Achnanthes clevei</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	1
<i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	4	-	-	-
<i>Achnanthes fragilarioides</i> Peterson	Ogh-ind	ind	unk		1	-	-	-
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	38	10	14	10
<i>Achnanthes laterostrata</i> Hustedi	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-
<i>Achnanthes marginulata</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	-	-
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	14	3	2	35
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>jackii</i> (Rabenh.) Lange-B. et Rappelt	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	1	-
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>saprophila</i> H. Kob. & Mayana	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	5
<i>Achnanthes oestrupii</i> (Cl.) Hustedi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	1	-
<i>Achnanthes peragalli</i> Brun et Heribaud	Ogh-ind	ind	l-ph		-	1	1	1
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	1	1
<i>Achnanthes subatomoides</i> (Gust.) Lange-B.	Ogh-unk	unk	unk	T	3	4	1	1
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2	1	1
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	1	1	1
<i>Anomoeoneis vitrea</i> (Grun.) Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	1	-	-	1
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	S, U	1	12	17	5
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	K	-	-	-	1
<i>Aulacoseira distans</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	K, U	2	1	5	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	G	5	18	25	2
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	1	-	-
<i>Aulacoseira pensacolata</i> (A. S.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	2	5	-
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	2	-	-	-
<i>Caloneis tenuis</i> (Greg.) Krammer	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-
<i>Caloneis</i> sp.-1	Ogh-unk	unk	unk	RI	2	-	-	-
<i>Cocconeis diminuta</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	1
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1	-	1
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	1	2
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	l-ph	L, S	1	1	-	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, T	-	1	3	1
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	-
<i>Cymbella minuta</i> Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	-	-	3
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	1	-
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	1	-
<i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	1	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	1
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	1	-
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	1	-	2
<i>Diatoma tenuis</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	3	1	4
<i>Diploneis elliptica</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	RA, T	1	-	-	-
<i>Diploneis finnica</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	-	1
<i>Diploneis oblongella</i> (Kaegelii) Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	1
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-
<i>Diploneis parva</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1	1	-
<i>Eunotia bifurcata</i> (Ehr.) Hillis	Ogh-hob	ac-il	l-ph		4	1	2	1
<i>Eunotia exigua</i> (Breb.) Grunow	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	4	-	-	-
<i>Eunotia fallax</i> A. Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	-	-	-	1
<i>Eunotia incisa</i> V. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	-	-	1
<i>Eunotia naegelii</i> Nizula	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-
<i>Eunotia pectinatis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	1	1	1
<i>Eunotia subarcuatoidea</i> Noerpel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	1
<i>Fragilaria bicapitata</i> A. Mayer	Ogh-hob	ind	l-bi		-	4	9	6
<i>Fragilaria bidens</i> Heiberg	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	3
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	12	24	7

Ⅳ 自然科学的分析

表 4 Loc. 4 の硅藻分析結果 (2)

種 類	生 態 性			附 属 種	指 標 種			
	塩分	pH	深 水		19	18	17	16
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-ii	ind	T	-	-	1	-
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.) Hustedt	Ogh-ind	al-ii	l-ph	T	1	6	8	15
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>mesolepta</i> (Rabh.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-ii	l-ph	T	-	4	6	23
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>radians</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-ii	ind		-	1	1	1
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>rumpens</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-ii	l-ph	U	1	1	-	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>binodis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-ii	l-ph	U	-	2	2	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-ii	l-ph	S	7	35	18	10
<i>Fragilaria construens</i> var. <i>triundulata</i> Reichelt	Ogh-ind	al-ii	l-ph		-	-	1	-
<i>Fragilaria exigua</i> Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		-	1	-	-
<i>Fragilaria lapponica</i> Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind		-	1	-	-
<i>Fragilaria leptostauron</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-ii	l-ph		-	-	1	1
<i>Fragilaria parasitica</i> (W. Smith) Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind	U	-	1	-	-
<i>Fragilaria pinnata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	ind	S	5	46	2	6
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lancectula</i> (Schum.) Hustedt	Ogh-ind	al-ii	ind	S	-	2	-	-
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-ii	r-ph	K, T	2	4	3	1
<i>Fragilaria vaucheriae</i> var. <i>capitellata</i> (Grun.) Patrick	Ogh-ind	al-ii	ind	T	-	1	-	1
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-ind	ac-ii	l-ph	U	2	1	-	-
<i>Fragilaria</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	1	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-ii	ind	U	2	1	-	-
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	ind		1	-	-	-
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	1	-	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	l-ph	O, U	-	-	-	1
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	5	2	2	3
<i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-ii	ind		-	1	-	1
<i>Gomphonema quadripunctatum</i> (Oestrup.) Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K, T	-	-	-	1
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1	1	5	1
<i>Gomphonema</i> sp.-1	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	1
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind	RA, U	2	-	-	-
<i>Melosira americana</i> Kuetzing	Ogh-hob	ac-ii	l-ph		2	14	14	5
<i>Melosira varians</i> Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	1	7	11	13
<i>Meridion circulae</i> Agardh	Ogh-ind	al-ii	r-bi	K, T	5	2	5	3
<i>Meridion circulae</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) V. Heurck	Ogh-ind	al-ii	r-bi	K, T	-	1	2	1
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	ind	U	-	-	1	-
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind	RA, T	5	1	1	-
<i>Navicula contenta</i> fo. <i>biceps</i> (Arnott) Hustedt	Ogh-ind	al-ii	ind	RA, T	5	-	-	-
<i>Navicula cryptocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-ii	ind	U	1	-	-	1
<i>Navicula elginensis</i> (Geg.) Ralfs	Ogh-ind	al-ii	ind	O, U	3	-	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>cuneata</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-ii	ind		1	-	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-ii	r-ph	U	-	1	-	1
<i>Navicula exilis</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-ii	ind	T	-	-	-	1
<i>Navicula gallica</i> var. <i>perpusilla</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	RI	2	-	-	-
<i>Navicula ignota</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	-	-	-
<i>Navicula laevissima</i> fo. <i>fusticulus</i> (Oestrup) H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	1
<i>Navicula lapidosa</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	1
<i>Navicula longicephala</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	2
<i>Navicula mediocris</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-
<i>Navicula minima</i> Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind		3	-	1	-
<i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-ii	ind	RA, S	6	-	-	-
<i>Navicula occulta</i> Krasske	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
<i>Navicula pseudoscutiformis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-ii	ind		1	1	-	1
<i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	1	1	1	1
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	1	1	1	2
<i>Navicula rhychocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-ii	ind	U	-	-	1	-
<i>Navicula seminulum</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB, S	7	2	1	1

表 4 Loc. 4 の珪藻分析結果 (3)

種 類	生 態 性			環境 指標種	19	18	17	16
	塩分	pH	流水					
<i>Navicula seminulum</i> var. <i>radiosa</i> Hustedi	Ogh-ind	ind	ind	RI, S	7	-	-	-
<i>Navicula subcostulata</i> Hustedi	Ogh-ind	ind	ind		2	-	-	-
<i>Navicula tridentula</i> Kraske	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	-	1
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	ind	U	1	-	-	1
<i>Navicula ventralis</i> Kraske	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1	-
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
<i>Neidium affine</i> var. <i>longiceps</i> (Greg.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi		1	-	-	-
<i>Neidium alpinum</i> Hustedi	Ogh-unk	unk	ind	RA	3	-	-	-
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	1	-	-	-
<i>Nitzschia archibaldii</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	U	2	-	-	2
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	RR, U	1	-	-	-
<i>Nitzschia dissipata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	1	5
<i>Nitzschia frustulum</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind		3	-	-	1
<i>Nitzschia linearis</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	1	-
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.) W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	2
<i>Nitzschia terrestris</i> (Pet.) Hustedi	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	1	-	-
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.) Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	1	-	-	-
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>scalaris</i> (Ehr.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-
<i>Pinnularia gentilis</i> (Donkin) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-bi		-	-	-	1
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	-	1	-
<i>Pinnularia hartleyana</i> var. <i>notata</i> H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1
<i>Pinnularia karelica</i> var. <i>japonica</i> Hustedi	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	-	1
<i>Pinnularia micraurora</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	1	-
<i>Pinnularia obscura</i> Kraske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RR, S	1	1	1	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1	-	1
<i>Rhizosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K, T	-	-	-	1
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	-	-
<i>Stauroneis kriegeri</i> Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	1	-	-	-
<i>Stauroneis thermicola</i> (Petersen) Lund	Ogh-unk	unk	unk	RI	2	-	-	-
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	1	-
<i>Synedra arcus</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1	1	-
<i>Synedra inaequalis</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J, K, T	-	-	1	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	1	-
<i>Tabellaria floeculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	4	2	9
海水生種合計					0	0	0	0
海水-汽水生種合計					0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0
淡水生種合計					209	243	226	232
珪藻化石総数					209	243	226	232

凡例

H. R. : 塩分濃度に対する適応性 pH: 水素イオン濃度に対する適応性 C. R. : 流水に対する適応性

Ogh-hil: 貧塩好塩性種 al-bi: 真7割性種 l-bi: 真止水性種

Ogh-ind: 貧塩不定性種 al-il: 好7割性種 l-ph: 好止水性種

Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種 ind: pH不定性種 ind: 流水不定性種

Ogh-unk: 貧塩不明種 ac-il: 好酸性種 r-ph: 好流水性種

Ogh-unk: 貧塩不明種 ac-bi: 真酸性種 r-bi: 真流水性種

Ogh-unk: 貧塩不明種 unk: pH不明種 unk: 流水不明種

環境指標種

J: 上流性河川指標種 K: 中～下流性河川指標種 L: 最下流性河川指標種 N: 湖沼沼沢湿地指標種

O: 沼沢地付着生種 P: 高層原産指標種 (以上は安藤, 1990)

S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 T: 好清水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)

RI: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群, 伊藤・堀内, 1991)

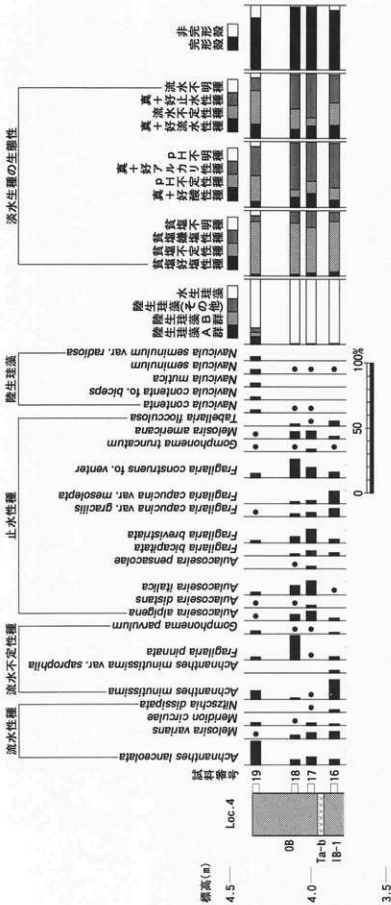


図 6 Loc. 4 の主要珪藻化石群集の変遷
 各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水性種の比率は淡水性種の合計を基数として百分率で算出した。
 いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満の種類を示す。

*Achnanthes lanceolata*が20%と多産する他、流水不定性の*Achnanthes minutissima*、陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*N. contenta* fo. *biceps*、*N. mutica*などを伴う。

(2) 植物珪酸体

植物珪酸体は各試料から検出されるが、Loc.3試料や他地点試料の下位で検出個数が少ない。しかし、保存状態は良好なものが多い。以下に、各地点の産状を述べる。

<Loc.1>

結果を表5・図7に示す。試料番号11・12を除く試料で植物珪酸体が検出される。植物珪酸体群集は、試料番号10、試料番号13・14、試料番号15で異なる。

試料番号10では、ヨシ属の産出が目立ち、タケ亜科やウシクサ族、イチゴツナギ亜科も認められる。試料番号13・14では、イチゴツナギ亜科が優占する組成を示し、ヨシ属、タケ亜科、ウシクサ族も認められる。試料番号15ではイチゴツナギ亜科が減少し、タケ亜科が増加する。また、栽培植物のイネ属も認められ、特に機動細胞珪酸体の出現率が約30%を示す。

<Loc.2>

結果を表6・図8に示す。試料番号1～4では検出個数が少なく、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科がわずかに認められるに過ぎない。試料番号5では、タケ亜科・ヨシ属が優占する。この他、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。試料番号6・7では検出個数が少ないが、ヨシ属の産出が目立つ。試料番号8ではヨシ属が優占する組成を示し、イチゴツナギ亜科の割合も高い。試料番号9ではイネ属が優占する組成が見られ、組織片も認められる。また、キビ族、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族なども認められる。

<Loc.3>

結果を表7に示す。試料番号20～23では、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などがわずかに認められるに過ぎない。試料番号24では試料番号20～23と同様な産状を示すが、タケ亜科の産出が目立つ傾向が見られる。また、試料番号27でイネ属機動細胞珪酸体がわずかに認められる。

<Loc.4>

試料番号16～18では検出個数が少ないが、タケ亜科とイチゴツナギ亜科の産出が目立つ。なお、試料番号18では、イネ属短細胞片がわずかに認められる。試料番号19では、タケ亜科が優占し、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科も認められる。

5 低地の環境変遷

珪藻化石は、Loc.1 試料番号11・12およびLoc.2試料番号7を除き豊富に検出される。また、植物珪酸体は、Loc.1 試料番号11・12、Loc.2 試料番号1～4・6・7、Loc.3 試料番号20～27、Loc.4 試料番号16～18を除く試料から良好に検出される。これらの微化石の産状に基づいて遺跡周辺の環境変遷について以下に検討を加える(図10)。

Loc.3のウ屑では、好止水生種である*Fragilaria pinnata*や*Fragilaria construens* fo. *venter*などが多産する。これらの種類は、本米付着性であるが物理的要因により偶然プランクトンとして生活する偶米性プランクトン(Vos, P.C. & H.de Wolf, 1993)で、しかも有機汚濁の進んだ富栄養水域に一般的な好汚濁性種(Asai, K. & Watanabe, T., 1995)とされている。一方、植物珪酸体では、タケ亜科・ヨシ属などが僅かに検出される程度である。以上のことから、縄文時代晩期以前、弱アルカリ性を呈した富栄養～中栄養な池沼～沼沢地のような環境で、その縁辺部にタケ亜科・ヨシ属などが生育していた可能性がある。

表 5 Loc. 1 の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	15	14	13	12	11	10
イネ科葉部短細胞珪酸体							
イネ族イネ属	42	-	-	-	-	-	-
キビ族	7	-	-	-	-	-	-
タケ亜科	152	40	68	9	3	39	
ヨシ属	10	13	76	1	91	228	
ウシクサ族ススキ属	34	-	-	-	-	-	4
イチゴツナギ亜科	35	652	124	-	1	2	
不明キビ型	68	10	10	-	1	1	
不明ヒゲシバ型	14	-	4	-	1	8	
不明ダンチク型	12	4	2	1	-	-	
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
イネ族イネ属	39	-	-	-	-	-	-
キビ族	2	-	-	-	-	-	-
タケ亜科	37	14	38	1	1	36	
ヨシ属	18	-	39	1	50	67	
ウシクサ族	19	-	12	-	-	-	
不明	15	5	12	1	-	6	
合 計							
イネ科葉部短細胞珪酸体	374	719	284	11	97	282	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	130	19	101	3	51	109	
総 計	504	738	385	14	148	391	
組 織 片							
イネ属短細胞列	10	-	-	-	-	-	-
イネ族葉部組織片	14	-	-	-	-	-	-

表 6 Loc. 2 の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	9	8	7	6	5	4	3	2	1
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ族イネ属	113	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科	25	34	6	14	185	1	1	-	-	-
ヨシ属	16	120	67	27	107	5	1	-	-	1
ウシクサ族ススキ属	15	1	1	1	6	-	-	-	1	-
イチゴツナギ亜科	20	61	2	3	7	2	2	-	-	-
不明キビ型	28	7	-	1	6	2	2	2	2	2
不明ヒゲシバ型	13	10	-	3	14	1	-	-	-	-
不明ダンチク型	15	1	-	1	3	-	-	-	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ族イネ属	86	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科	17	26	2	7	80	-	-	-	-	-
ヨシ属	6	77	10	2	27	3	7	-	-	6
ウシクサ族	8	2	-	1	3	-	1	-	-	1
不明	7	4	-	1	6	2	2	1	-	-
合 計										
イネ科葉部短細胞珪酸体	270	234	76	50	328	11	6	3	3	3
イネ科葉身機動細胞珪酸体	127	109	12	11	116	5	10	1	7	7
総 計	397	343	88	61	444	16	16	4	10	10
組 織 片										
イネ属短細胞列	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ族葉部組織片	94	-	-	-	-	-	-	-	-	-

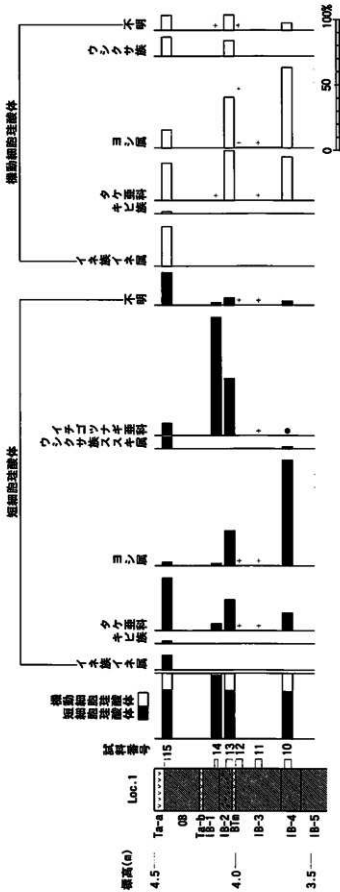


図7 Loc.1の植物珪酸体群集の変遷
出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉部機動細胞珪酸体の總数を基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉部機動細胞珪酸体で100個未満の種類を示す。

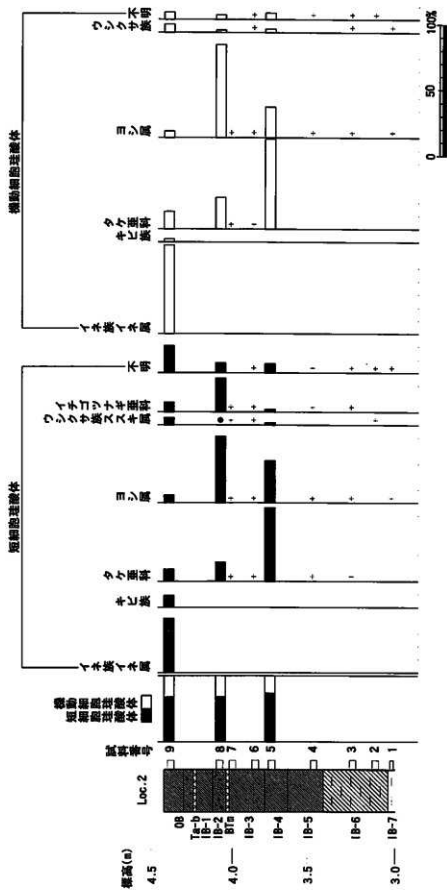


図8 Loc. 2の植物花粉群集の要素

出現率は、イネ科葉部短細胞群、イネ科葉部機動細胞群の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞群で200個未満、イネ科葉部機動細胞群で100個未満の種類を示す。

表7 Loc. 3の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	27	26	25	24	23	22	21	20
イネ科葉部短細胞珪酸体									
キビ族		-	-	-	-	-	-	1	-
タケ亜科		14	5	4	3	1	-	2	1
ヨシ属		5	1	2	7	-	1	1	-
ウシクサ族ススキ属		1	1	-	-	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科		10	3	2	15	3	1	1	2
不明キビ型		4	-	2	-	-	-	2	-
不明ヒゲシバ型		4	-	1	-	-	-	2	-
不明ダンチク型		2	-	1	-	-	-	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体									
イネ族イネ属		1	-	-	-	-	-	-	-
キビ族		-	-	-	-	-	-	1	-
タケ亜科		10	3	3	5	5	1	1	1
ヨシ属		4	3	3	7	7	-	-	2
ウシクサ族		1	-	-	1	-	-	-	1
不明		1	2	1	-	-	-	-	-
合 計									
イネ科葉部短細胞珪酸体		40	10	12	25	4	2	9	3
イネ科葉身機動細胞珪酸体		17	8	7	13	12	1	2	4
総 計		57	18	19	38	16	3	11	7
組 織 片									
イネ属機動細胞列		1	-	-	-	-	-	-	-

表8 Loc. 4の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	19	18	17	16
イネ科葉部短細胞珪酸体					
イネ族イネ属		-	1	-	-
タケ亜科		199	15	17	12
ヨシ属		6	1	4	2
ウシクサ族ススキ属		-	-	1	-
イチゴツナギ亜科		15	10	19	16
不明キビ型		3	2	2	3
不明ヒゲシバ型		4	-	-	6
不明ダンチク型		1	1	-	2
イネ科葉身機動細胞珪酸体					
タケ亜科		89	10	14	10
ヨシ属		13	-	7	-
ウシクサ族		-	1	-	3
不明		10	-	2	1
合 計					
イネ科葉部短細胞珪酸体		228	30	43	41
イネ科葉身機動細胞珪酸体		112	11	23	14
総 計		340	41	66	55
組 織 片					
イネ属短細胞列		-	1	-	-

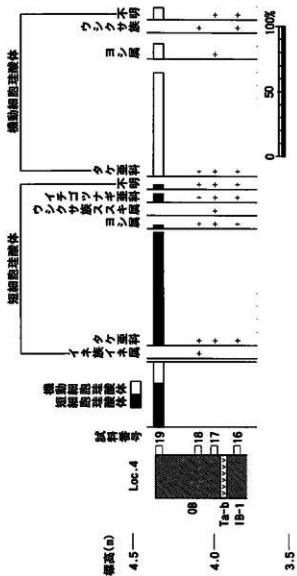


図9 Loc. 4の主要球藻体群集の変遷
出現率は、イネ科葉部短細胞球藻体、イネ科葉身短細胞球藻体の総数を基数として百分率で算出した。なお、+はイネ科葉部短細胞球藻体で200個未満、イネ科葉身短細胞球藻体で100個未満の種類を示す。

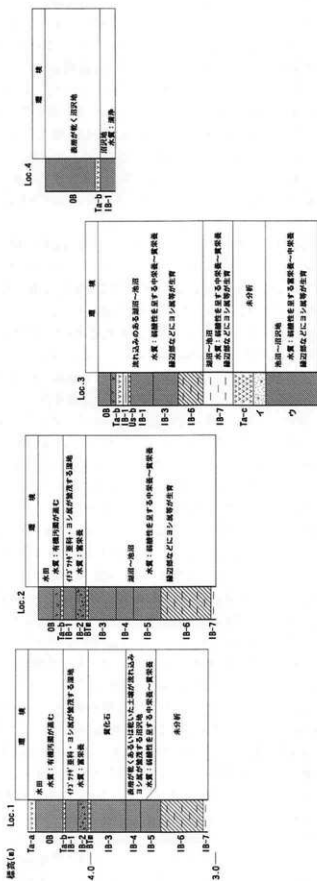


図10 珪藻化石・植物珪酸体からみた環境変遷

IB-7層の珪藻化石群集は、Loc. 2・3ともほぼ類似しており、*Melosira americana*、*Fragilaria brevistriata*、*F. construens* fo. *venter* など好止水生種が多産し、流水不定性の *F. pinnata* を伴う。この内、*Melosira americana* は、東京都練馬区三宝寺池の湖底堆積物（小林・山下，1969）、群馬県尾瀬沼の底質およびコア試料（田中・中島，1983）などから検出されているが、今回のように本種が優占することは珍しい。これらの湖沼は、中栄養型湖沼とされている（福島・中村，1972）。また、*Fragilaria brevistriata*、*F. construens* fo. *venter* は、中栄養～貧栄養の止水域に多く認められる種類で偶発性プランクトンである。植物珪酸体の出現状況は下位と類似しており、タケ亜科やヨシ属などが数個体検出されるにとどまる。これより、縄文時代晩期頃、調査地点の周辺は水質的に中栄養～貧栄養で弱酸性を呈した湖沼～池沼のような比較的水深のある静水域であったと推定される。このように調査地点付近が水深のある水域であったためにイネ科植物が生育できず、植物珪酸体がほとんど検出されなかったのであろう。

IB-6層～IB-3層の珪藻化石群集は、各地点で多少異なる。Loc. 1 では、IB-4層で流水不定性種で山地の冷水域に産する（中島ほか，1979）とされる *Pinnularia divergentissima* が多産し、高層湿原指標群（安藤，1990）の一種である *Eunotia exigua*、耐乾性の強い陸生珪藻の A 群（伊藤・堀内，1991）の *Hantzschia amphioxys* を伴う。Loc. 2 では下位と同様に *Melosira americana* が優占する。Loc. 3 では、好止水生種の *Melosira americana*、湖沼沼沢地指標群（安藤，1990）の *Aulacoseira alpigena* が多産し、好流水性種の *Achnanthes lanceolata*、*Diatoma tenuis*、*Melosira valians*、*Meridion circulae* を伴う。好流水性種の多くは、河川中～下流部や河川沿いの河成段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現する中～下流性河川指標群とされている（安藤，1990）。これより、周辺は、水質的に中栄養～貧栄養で弱酸性を呈した湖沼～沼沢地のような環境であったが、場所により多少環境が異なっていたと考えられる。すなわち、Loc. 1 など湖沼縁部では表層が乾くこともあった、あるいは乾いた土壌が流入していたと思われる。また、Loc. 3 など標高の低い場所では、多少なりとも流れ込みの影響があったと思われる。これは、山田（1996）によるコナラ亜属～ハンノキ属帯最上部付近で地点により水分環境が異なっていたことと調和的である。

IB-2層～IB-1層の珪藻化石群集は、Loc. 1・2、Loc. 3、Loc. 4 で異なる。Loc. 1・2 では、流水不定性種の *Gomphonema parvulum*、沼よりも浅く水深が 1 m 前後で一面に水生植物が繁茂するような沼沢やさらに水深の浅い湿地に生育する沼沢湿地付着生種群（安藤，1990）でもある *Navicula elginensis* や *Pinnularia viridis*、陸生珪藻 A 群の *Hantzschia amphioxys* が検出される。これらの種類の中で、*Gomphonema parvulum* が富栄養～中栄養種とされ（Vos, P.C. & H.de Wolf, 1993）、伴出する *Nitzschia amphibia* が好汚濁性種とされている（Asai, K. & Watanabe, T., 1995）。また、Loc. 1 で多産する *Achnanthes exigua* も好汚濁性種とされている。植物珪酸体では、ヨシ属とともにイチゴツナギ亜科が特徴的に産出する。北海道の低層湿原植生では、ヨシ湿原にイチゴツナギ亜科に属するイワノガリヤスがしばしば混生する植分がみられ、時に優占種となることもあるとされている（宮脇編，1988）。植物珪酸体の形態からは種を特定することはできないが、少なくともヨシ属とともにイチゴツナギ亜科が周辺植生の構成要素となっていたと推定される。Loc. 3 は、下位と同様な群集組成となる。Loc. 4 では、溶存酸素の多い汚濁のない水域を指標するとされる *Achnanthes minutissima*（Silva-Benavides, A.-M., 1996）が多産し、清浄な水域に多く認められる好清水性種の *Fragilaria capucina* var. *gracilis*、*F. capucina* var. *mesolepta*、*Achnanthes lanceolata*（Asai, K. & Watanabe, T., 1995）が多産する。したがって、縄文時代中～後期～中～近世の頃になると周辺は場所により様々な様相を呈しており、Loc. 1・2 付近がヨシ属やイチゴツナギ亜科などのイネ科植物が繁茂する富栄養な湿地、Loc. 3 付近が中栄養～貧栄養で流水の流れ込みのある湖沼～池沼、Loc. 4 付近

が汚濁してない清浄な水質を保持した沼沢地のような水域であったと考えられる。このように場所により水質や水域環境が微妙に異なるのは、花粉分析の結果からIB-3層上部以降になるとイネ科雑穀を含めた栽培および台地側で農耕地の確保等が行われていたとされていること(山田, 1996)を考慮すると、微地形要因以外にも人間の活動など様々な要因が関連していると思われる。ただし、今回の調査結果みると低地側で稲作が行われていたとは考えにくい。

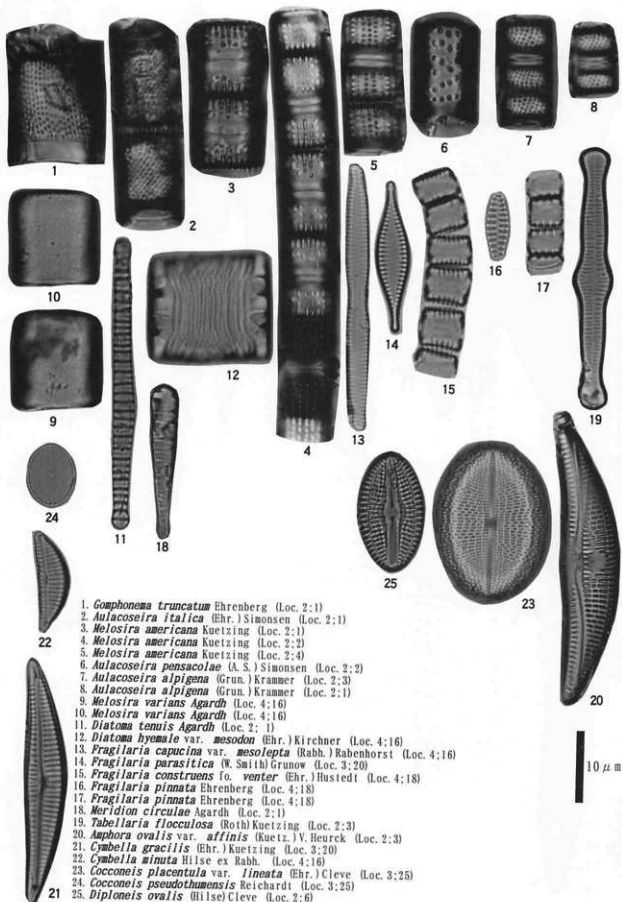
OB層の珪藻化石群集は、Loc. 1・2、Loc. 3、Loc. 4で異なる。Loc. 1・2で多産する流水不定性の*Navicula veneta*、*Nitzschia palea*、陸生珪藻B群の*Navicula seminulum*は好汚濁性種であり、その多産が本層に限られる。植物珪酸体ではイネ属が検出され、しかもその出現率が高率である。これに対して、Loc. 3は、前層と珪藻化石群集に変化がない。また、Loc. 4は、中～下流性河川指標種群を含む好流水性種と陸生珪藻が多産する。植物珪酸体ではLoc. 3・4ともイネ属が検出されない。したがって、近世以降になると、Loc. 1・2付近は水田として利用されたか、イナワラ製品などが廃棄されており、その影響によって有機汚濁の進んだ状態であったと思われる。これに対して、Loc. 3・4付近は生産域からはずれているか、イナワラ製品などが廃棄されて居なかったと考えられる。また、両地点は流れ込みのある池沼のような環境であり、Loc.4付近がその水域の縁辺部にあたり表層がしばしば乾くことがあったと推定される。

引用文献

- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophylic and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, p.35-47.
- 安藤一男 (1990) 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42, p.73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6, p.23-45.
- 福島 博・中村澄夫 (1972) 「日本の湖沼のケイ藻類」『横浜市大論集 (自然科学編)』23, p.1-24.
- 小林 弘・山下不二子 (1969) 「三宝寺池のケイソウ」『陸水学雑誌』30, p.98-107.
- 近藤錦二・佐瀬 隆 (1986) 「植物珪酸体分析, その特性と応用」『第四紀研究』25, p.31-64.
- 小杉正人 (1988) 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27, p.1-20.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) *Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) *Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) *Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) *Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae.*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) *Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa. Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.*

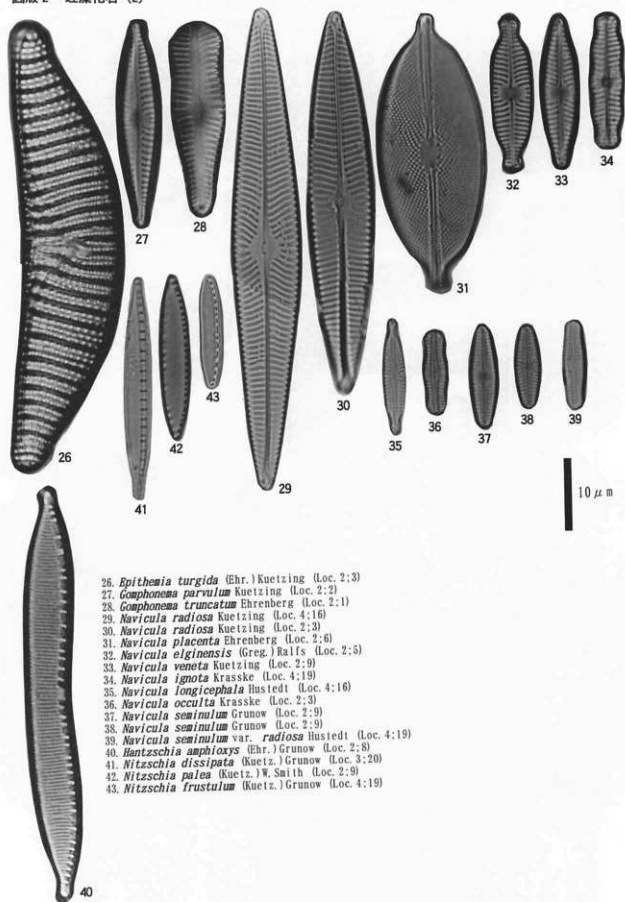
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353, BERLIN-STUTTGART.
- 町田 洋・新井房夫 (1992)『火山灰アトラスー日本列島とその周辺』276p., 東京大学出版会.
- 宮脇 昭編 (1988)「低層湿原植生」宮脇 昭編『日本植生誌 9巻 北海道』至文堂, p.247-258.
- 中島敬治・田中宏之・吉田武雄 (1979) 奥利根地域の珪藻類『群馬県奥利根地域学術調査報告書』p.122-146.
- Silva-Benavides, A.-M. (1996) The epilithic diatom flora of a pristine and apolluted river in Costa Rica, Central America. *Diatom Research*, 11, p.105-142.
- 鈴木 信 (1996)「美々8 遺跡低湿度部の位置と環境」(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告第102集『美沢川流域の遺跡群XⅧー新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書ー』p.17-18, 財団法人北海道埋蔵文化財センター.
- 田中宏之・中島敬治 (1983)「尾瀬沼の珪藻ーニッ岳降下軽石層以降の珪藻群集ー」『群馬県立歴史博物館紀要』4, p.1-28.
- Vos, P.C. & H.de Wolf (1993) Reconstruction of sedimentary environments in Holocene coastal deposits of the southwest Netherlands; the Poortvliet boring, a case study of palaeoenvironmental diatom research. Twelfth International Diatom Symposium, p.297-296.
- 山田悟郎 (1996)「美々8 遺跡低湿度部周辺の古植生について」(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告第102集『美沢川流域の遺跡群XⅧー新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書ー』p.25-40, 財団法人北海道埋蔵文化財センター.

図版1 珪藻化石(1)



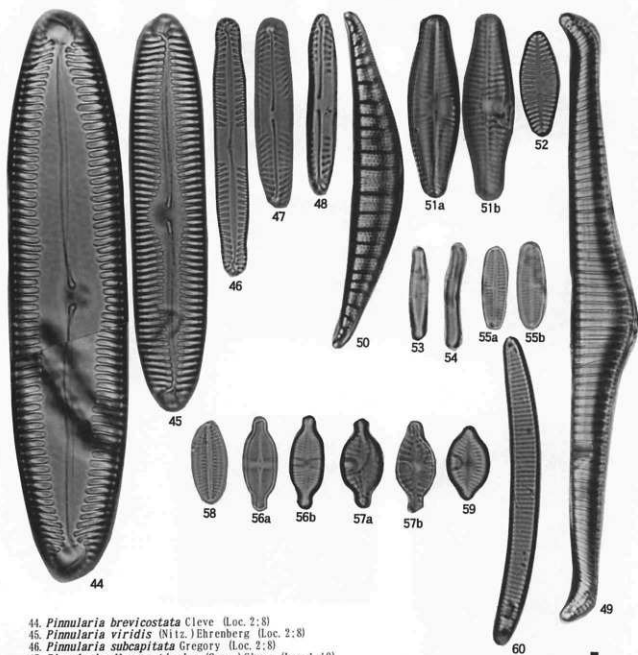
1. *Gomphonema truncatum* Ehrenberg (Loc. 2:1)
2. *Aulacoseira italica* (Ehr.) Simonsen (Loc. 2:1)
3. *Melosira americana* Kuetzing (Loc. 2:1)
4. *Melosira americana* Kuetzing (Loc. 2:2)
5. *Melosira americana* Kuetzing (Loc. 2:4)
6. *Aulacoseira pensacolae* (A. S.) Simonsen (Loc. 2:2)
7. *Aulacoseira alpigena* (Grun.) Krammer (Loc. 2:3)
8. *Aulacoseira alpigena* (Grun.) Krammer (Loc. 2:1)
9. *Melosira varians* Agardh (Loc. 4:16)
10. *Melosira varians* Agardh (Loc. 4:16)
11. *Diatoma tenuis* Agardh (Loc. 2: 1)
12. *Diatoma hyemale* var. *mesodon* (Ehr.) Kirchner (Loc. 4:16)
13. *Fragilaria capucina* var. *mesolepta* (Rabh.) Rabenhorst (Loc. 4:16)
14. *Fragilaria parasitica* (W. Smith) Grunow (Loc. 3:20)
15. *Fragilaria construens* fo. *venter* (Ehr.) Hustedi (Loc. 4:18)
16. *Fragilaria pinnata* Ehrenberg (Loc. 4:18)
17. *Fragilaria pinnata* Ehrenberg (Loc. 4:18)
18. *Meridion circulae* Agardh (Loc. 2:1)
19. *Tabellaria flocculosa* (Roth) Kuetzing (Loc. 2:3)
20. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) V. Heurck (Loc. 2:3)
21. *Cymbella gracilis* (Ehr.) Kuetzing (Loc. 3:20)
22. *Cymbella minuta* Hilse ex Rabh. (Loc. 4:16)
23. *Cocconeis placentula* var. *lineata* (Ehr.) Cleve (Loc. 3:25)
24. *Cocconeis pseudothumensis* Reichardt (Loc. 3:25)
25. *Diploneis ovalis* (Hilse) Cleve (Loc. 2:6)

图版 2 珪藻化石 (2)



26. *Epithemia turgida* (Ehr.) Kuetzing (Loc. 2:3)
 27. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (Loc. 2:2)
 28. *Gomphonema truncatum* Ehrenberg (Loc. 2:1)
 29. *Navicula radiosa* Kuetzing (Loc. 4:16)
 30. *Navicula radiosa* Kuetzing (Loc. 2:3)
 31. *Navicula placenta* Ehrenberg (Loc. 2:6)
 32. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (Loc. 2:5)
 33. *Navicula veneta* Kuetzing (Loc. 2:9)
 34. *Navicula ignota* Krasske (Loc. 4:19)
 35. *Navicula longicephala* Hustedt (Loc. 4:16)
 36. *Navicula occulta* Krasske (Loc. 2:3)
 37. *Navicula seminulum* Grunow (Loc. 2:9)
 38. *Navicula seminulum* Grunow (Loc. 2:9)
 39. *Navicula seminulum* var. *radiosa* Hustedt (Loc. 4:19)
 40. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (Loc. 2:8)
 41. *Nitzschia dissipata* (Kuetz.) Grunow (Loc. 3:20)
 42. *Nitzschia palea* (Kuetz.) W. Smith (Loc. 2:9)
 43. *Nitzschia frustulum* (Kuetz.) Grunow (Loc. 4:19)

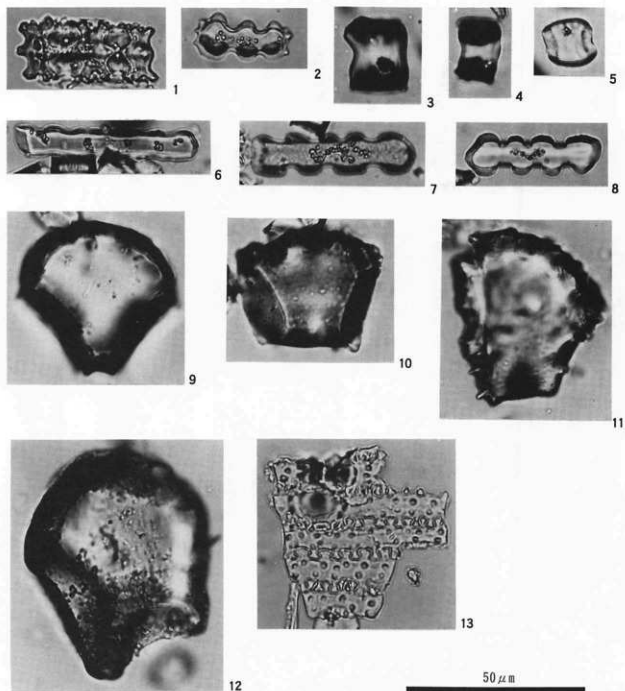
図版3 珪藻化石 (3)



44. *Pinnularia brevicostata* Cleve (Loc. 2:8)
 45. *Pinnularia viridis* (Nitz.) Ehrenberg (Loc. 2:8)
 46. *Pinnularia subcapitata* Gregory (Loc. 2:8)
 47. *Pinnularia divergentissima* (Grun.) Cleve (Loc. 1:10)
 48. *Pinnularia obscura* Krasske (Loc. 1:10)
 49. *Rhopalodia gibba* (Ehr.) O. Muller (Loc. 3:21)
 50. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller (Loc. 1:10)
 51. *Achnanthes lanceolata* (Breb.) Grunow (Loc. 2:6)
 52. *Achnanthes lanceolata* (Breb.) Grunow (Loc. 2:3)
 53. *Achnanthes minutissima* Kuetzing (Loc. 4:16)
 54. *Achnanthes minutissima* Kuetzing (Loc. 4:16)
 55. *Achnanthes minutissima* var. *saprophila* H. Koh. & Mayama (Loc. 4:16)
 56. *Achnanthes exigua* Grunow (Loc. 4:19)
 57. *Achnanthes rostrata* Oestrup (Loc. 2:3)
 58. *Achnanthes suchlandtii* Hustedt (Loc. 3:25)
 59. *Achnanthes peragalli* Brun et Heribaud (Loc. 3:25)
 60. *Eunotia bilunaris* (Ehr.) Mills (Loc. 2:6)

10 μ m

図版 4 植物珪酸体



- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1. イネ属短細胞列 (Loc. 2;9) | 2. キビ族短細胞珪酸体 (Loc. 2;9) |
| 3. タケ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 2;5) | 4. タケ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 4;16) |
| 5. ヨシ属短細胞珪酸体 (Loc. 1;10) | 6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 2;3) |
| 7. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 3;24) | 8. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 1;14) |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体 (Loc. 2;9) | 10. タケ亜科機動細胞珪酸体 (Loc. 4;16) |
| 11. タケ亜科機動細胞珪酸体 (Loc. 3;25) | 12. ヨシ属機動細胞珪酸体 (Loc. 1;10) |
| 13. イネ族葉部組織片 (Loc. 2;9) | |

4 美々8遺跡出土鉄器の金属学的解析(3)

岩手県立博物館 赤沼 英男

1 はじめに

これまでに行われた北海道千歳市美々8遺跡出土鉄器の金属学的解析によって、擦文文化期には砂鉄の使用によって製造された鋼を素材とする鉄器の使用が明らかにされ¹⁾、擦文、アイヌのいずれの文化期においても、原料鉄鉄、鋼素材、製品鉄器に関する複数の流通ルートが出来上がっており、その中で鋼製鉄器の製作とその使用がなされていたものと推定されている²⁾。

このたび北海道埋蔵文化財センターの依頼により、新たに擦文文化期の遺構から出土した刀子片1点と1667年以前と推定される中・近世の層位から出土した鏝、刀子、小刀、鍋、合計6点の鉄器に関する金属学的解析を実施した。その結果、2点の鍋は鋳造鉄器、他の6点はいずれも鋼製鉄器であることが判明し、擦文文化期の刀子片と中・近世の層位から出土した鏝1点は、少量の砂鉄を使って鉄鉄を脱炭するという、鋼精錬操作によって得られた鋼を素材としていた可能性の高いことがわかった。2点の鉄鍋は高りん(P分を0.1%以上含有)の鉄鉄を素材としており、北海道で鉄鍋の鋳造遺構が未検出であることをふまれば、製品としてもたらされたものとみなされた。これらの解析結果は、これまでのものを支持しているといえる。そして、擦文・アイヌ両文化期ともに、原料鉱石を砂鉄に限定して鉄器製作を考えることは困難であることが確かめられるとともに、鉄器の化学組成を考慮すれば、原料鉄鉄や鋼素材、あるいは製品鉄器の供給地域を、列島内はもとより大陸をも加えた、東北アジアの範囲でもって検討する必要があることが指摘された。

2 分析資料

分析した資料は刀子片、鏝、刀子、小刀、鉄鍋片、吊耳鍋から出土した7点の鉄器である。刀子片は擦文期の遺構から、他の6点については、1667年以前と推定される中・近世の層位から検出された遺物³⁾である。発掘調査報告者による資料の名称、出土遺構、発掘区、および推定年代を表1に示す。

3 分析方法

分析用試料片の抽出は、資料全体の形状を損ねることのないよう細心の注意を払いながら、ダイヤモンドカッターを使って行い、抽出した試料片をさらに2分して、大きい方を組織観察に、他方を化学成分分析に供した。

組織観察用試料片については、まず樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを用いて研磨した後、金属顕微鏡による組織観察に供した。さらに、地金の製造法を推定するうえで重要と判断される鉄器中の非金属成分(鋼を製造する過程で分離・除去することができずに残った異物)については、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー(EPMA)によりその組成を決定した。

化学成分分析用試料片については、その表面に付着する土砂と錆を除去した後、エチルアルコール、アセトンで洗浄し、十分に乾燥した。鋳試料片については粉砕した後テフロン分解容器に、健全なメタル試料については直接テフロン分解容器に秤量し溶解した。このようにして調整した溶液を誘導結合プラズマ発光分光分析法(ICP-AES法)に供し、T、Fe、Cu、Mn、P、Ni、Co、Ti、Si、Ca、Al、Mg、Vの12成分を定量した。

4 分析結果

4-1 鉄器から抽出した試料片のマクロおよびミクロ組織

No.1 刀子片から抽出した試料片は錆層によって構成されていた。マクロ組織の枠で囲んだ内部のミクロ組織には、金属光沢を呈する結晶Cmとその欠落孔が観察される(図1)。これまでに出土鉄器の金属学的解析に従えば⁴⁾、結晶Cmはもとの健全な鋼におけるパーライト中のセメントタイト(Fe_3C)とみなすことができ、その分布状況(図1)によって、もとの健全な地金は0.1~0.2% Cの鋼と推定される。同様の組織はNo.2 鋸、No.4 小刀から抽出した試料片にもみられ(図1)、いずれも前述の刀子片同様、0.1~0.2% Cの鋼と評価できた。なお、No.5 鋸には健全なメタルがみられる(図3)。このような場合、酸による腐食によってもとの健全な地金の組織を確認できるが、腐食による錆化の進行と後述する非金属介在物の喪失を考慮し、今回は見合わせた。また、No.3 刀子についてはもとの健全な地金の状態を推定できる組織を見いだすことができなかった。

No.6 鉄鋼片およびNo.7 吊耳鉄鋼から抽出した試料片の表層部分は錆層で覆われていたが、内部には健全なメタルが残存していた。マクロ組織の枠で囲んだ領域を200倍で観察したところ、いずれにもレーデブライト組織が観察され、マクロ組織のほぼ全域がその組織によって構成されていることがわかった(図4)。

4-2 鉄器に残存する非金属介在物の組成

No.3 刀子に見いだされた非金属介在物は、灰色の粒状結晶(W)とやや暗灰色の結晶(F)によって構成され、EPMAによる分析によって、前者はウスタイト(化学理論組成 FeO)、後者は FeO-MgO-SiO_2 系化合物[マグネシウムを固溶した鉄かんらん石: $2(\text{Fe,Mg})\text{O}\cdot\text{SiO}_2$]と判定された。なお、粒状結晶のいくつかにはTi分を微量に含むのがみられた(図3)。一方、No.5 鋸にはウスタイト(W)と FeO-MgO-SiO_2 系化合物(マグネシウムを固溶した鉄かんらん石: $2(\text{Fe,Mg})\text{O}\cdot\text{SiO}_2$)、 Fe-Mg-Ti-O 系化合物(T)とマトリックス(M)からなる介在物が観察された。なお、No.1 刀子片、No.2 鋸、No.4 小刀から抽出した3点の試料片については、介在物を見いだすことができなかった。

4-3 鉄器から抽出した試料片の化学組成

抽出した試料片の化学組成を表2、3の右欄に示す。No.5 鋸とNo.7 吊耳鋼から抽出した試料片のT.Feは90%を越えており、No.6 鉄鋼片も88.3%にある。これら3点はほぼ健全なメタルからなる試料片といえる。他の4点についてはいずれも60%台にあり、錆化が相当に進んだものとみななければならない。No.1 刀子片とNo.5 鋸にはそれぞれ0.067%、0.057%のCo分が含まれ、No.1 刀子片には0.134%のP分も含まれている。No.3 刀子、No.6 鉄鋼片、No.7 吊耳鋼からも0.1%を越えるP分が検出されている。

既述のとおり、No.5 鋸、No.6 鉄鋼片、No.7 吊耳鋼の3点についてはほぼ健全なメタル試料片が分析されており、これらの試料片から検出されたCo分とP分は地金に含まれていたものとして扱うことができる。No.1 刀子片は錆化した試料片であるが、0.05%を越すCo分が土砂から富化されたと考えることはできない。この鉄器には銅をはじめとする異種金属の付着がなかった⁵⁾ことをふまえると、検出されたCo分のほとんどはもとの健全な地金に含まれていたものとみなすことができる。

No.1 刀子片、No.3 刀子のP分は錆化が進んだ試料片において確認されたものであるため、埋蔵環境下からの富化について考慮する必要がある⁶⁾。このような場合、同一の埋蔵環境下であり、錆化も同程度であるとみなすことのできる他の鉄器から抽出された試料片を用い、化学組成上の対比を行って富

化の有無を検討することになるが、同一の埋蔵環境下にあったと推測される他の鉄器の化学組成は不明である。従って、ここではNo.1 刀子片とNo.3 刀子において検出されたP分の相当量が、もとの健全な地金に含まれていた可能性のあることを指摘するとどめておく。

5 鉄器地金の材質

鉄器は鋼を素材とする鋼製鉄器と鉄鉄を素材とする鋳造鉄器の2つに分類される。No.1～No.5の5点については、組織観察結果に基づき鋼製鉄器に、No.6とNo.7については、レーデブライト組織の確認によって鋳造鉄器に帰属できる。なお、2点の鉄鋼については、比較的是やい速度で冷却されたものと思われる。

No.5 鋳から抽出した試料片の非金属介在物には、Fe-Mg-Ti-O系化合物が見いだされており、鋼製造過程において砂鉄の使用を想定できる。No.3 刀子にもTi分を微量に含み、FeとO分を主成分とする粒状化合物が検出されているが、これは蛇紋岩由来の砂状磁鉄鉱に起因する可能性がある⁹⁾。No.1 刀子片、No.2 鋳、No.4 小刀には非金属介在物が見いだされなかったため、鋼製造過程での砂鉄の使用については不明である。

このように、介在物組成、とりわけチタン化合物〔ウルボスピネル($2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)、イルメナイト($\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)、Ti-O系化合物(主として酸化チタンを主成分とする化合物)、Ti(C,N)、およびそれらのいずれにも同定されないチタン化合物の総称)の有無によって、鋼製鉄器については以下のように分類することが可能となる。

- イ) 製作に用いられた鋼の製造過程で、砂鉄の使用が認められないもの
- ロ) 製作に用いられた鋼の製造過程で、砂鉄が使用されたとみなすことができるもの
- ハ) 製作に用いられた鋼の製造過程で、砂鉄の使用が不明なもの

上述に従えば、とりあえず、No.3 刀子とNo.5 鋳はイ)に、No.1 刀子片、No.2 鋳、No.4 小刀はハ)に帰属される。ここで問題となるのはNo.5 鋳から検出された0.05%を越えるCo分の解釈についてである。既述のとおり通常の砂鉄に0.05%を越えるCo分が含まれていたとは考えにくく、脈石中にCo鉱物を伴する鉄鉱石の使用を想定する必要がある。介在物組成を考慮すると、No.5 鋳については砂鉄と鉄鉱石の両者の使用が浮かび上がってくるが、この問題について述べる前に、現在提案されている古代・中世の鋼製造法について述べることにしたい。

6 古代ならびに中世における鋼の製造

現在提案されている古代ならびに中世における鋼の製造方法は以下のとおり整理される。

- 1) 原料鉄石(砂鉄もしくは鉄鉱石)を還元鉄を生産する段階
 - 2) 1)で生産された鉄から目的とする鋼を製造する段階
 - 3) 2)で製造された鋼を素材とし目的とする鋼製鉄器を製作する段階
- ここでは1)を製錬、2)を精錬、3)を小鍛冶と呼ぶ。

1)の製錬によって得られる鉄は炭素含有量に応じ、鋼と鉄鉄の2つに分類できる。製錬炉で得られた鉄から極力前者の鋼部分を抽出して、含有される不純物を除去するとともに、炭素量の増減を行って目的とする鋼を製造する。そして、その鋼を使って製品鉄器が製作されたとする見方がある⁹⁾。製錬炉で直接に鋼が作り出されるという意味でこの方法は直接製鋼法と呼ばれている。さらに製錬によって得られた粗鉄(鉄鉄や鋼が混在しそれに鉄滓が付着した、炭素量の不均一な鋼)を精製し目的とする鋼に変えるという上述の操作は、精錬鍛冶とされている。ただし、ここでいう精錬鍛冶がどのような設

備を用いどのようにしてなされたかという点についての説明はなされていない。不純物の除去と炭素量の増減という複数の操作工程があったと推測されるが、具体的な操作設備とその方法が不明である以上、鉄滓の組成でもってその操作がなされていたことを指摘することは困難であるという見解も提示されている¹⁰⁾。このように、精錬鍛冶については、その具体的な操作方法に加え、その実施の前提となる、炭素量が不均一で鉄滓の付随した鉄塊の流通に関する検討が必要である。

1) の製錬では鉄も生産される。鉄は再び溶解炉で溶解し、鋳型に注ぎ込むことによって鑄造鉄器となる。また、鉄中の炭素を低減させる、すなわち脱炭を行うことによって鋼を得ることもできる。この場合の脱炭の方法としては、半地下式壜型炉もしくは火窟炉を使って、あらかじめ準備された鉄を溶解し、砂鉄、もしくは鉱石粉といった少量の鉄酸化物を投入する方法がとられていたとする見解が、遺物の金属学的解析結果に基づき指摘されている^{10)~11)}。このようにして鋼を製造する方法は、鉄を経由して鋼が得られるという意味で間接製鋼法と呼ばれるが、現代製鋼と区別するため以下では“鋼精錬”という用語を用いることにする。脱炭材に鉄鉱石粉が使用された場合、鉄鉱石中のFe分は鉄中の炭素、もしくはCOガスにより還元されてFeO、さらに還元が進めばFeに変わって溶鉄に付け加わる。一方、砂鉄が用いられた場合には砂鉄中の鉄チタン酸化物のFe分は還元により鉄浴に移行し、スラグ浴には還元雰囲気と炉内温度によって、ウルボスピネル($2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)、イルメナイト($\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)、Ti-O系化合物（主として酸化チタンを主成分とする化合物）といったチタン化合物が析出することになる。実際の操作では投入された脱炭材と炉壁材などが反応しスラグ浴が形成される。脱炭材に鉱石粉が使用された場合にはウスタイト、FeO-MgO-SiO₂系化合物、ガラス質けい酸塩を主成分とする鉄滓が、砂鉄の場合にはそれらにチタン化合物が加わったものが鉄浴から分離され排出される。この脱炭・精製の工程で生ずる鉄滓を鋼精錬滓と呼ぶことにする。そして、このような方法により製造された鋼を用い、小鍛冶によって目的とする鉄器が作りだされることになる。

なお、鋼精錬を想定した場合、吸熱反応である少量の鉄酸化物による脱炭反応に伴う温度低下を抑制し、鋼精錬温度を維持するための設備あるいは操作方法が問題となることはいうまでもない。遺物の解析によって鋼精錬が行われていた可能性が高いとされた遺跡からは、お供餅を逆にした形の碗型滓が検出される。この鉄滓の形状とその組成を詳しく検討することによって、上述の問題を解き明かすことができると筆者は考える。また、炉内温度を考慮すると生成する鋼は過共析鋼（0.86~2.0% C）であり、炉内の状況によってはそれ以下の炭素含有量の鋼の生成が可能であったと推定されるが、設備や鋼製造法、および生成物評価については、遺構から出土する遺物の形状や組成を考慮のうえ慎重に判断する必要がある。

小鍛冶操作では鍛打・加熱を繰り返して目的とする鉄器への造形が行われるので、鍛打のときは加熱された鋼の表面に生成する酸化鉄（スケール）が剥離（これは鍛造薄片と呼ばれる）する。一方、加熱のときは酸化鉄が半溶融状態になり、火窟炉の底部に溜まる。そこで炉壁材と反応して鉄分に富む半溶融状態の鉄滓状物質が生成され、加熱炉の底で固化する。このようにして生成した鉄滓状物質が、鉄関連遺構の発掘調査では鍛冶滓として扱われる。従って、鍛冶滓は金属鉄、錆屑、ウスタイト(FeO)を主成分とし、他にスケールが炉材と反応した際に生成するFeO-SiO₂系化合物が混在した組成をとるものと推測される。この操作は鍛錬鍛冶ともいわれる。

上述から明かなように、2) でいう精錬の中には直接製鋼法に基づく精錬鍛冶と間接製鋼法の鋼精錬という2つの異なった概念が存在することがわかる。上述は図5に整理される。図5に基づけば、No. 5 錠については、脈石中にCo鉱物を隣伴する鉄鉱石を始発原料として生産された鉄鉄を、少量の砂鉄を使って脱炭することによって得られた鋼を素材としていたか、あるいは、脈石中にCo、Ti鉱物

を含む特殊な鉄鉱石(おそらくは磁鉄鉱)を始発原料として製造された鋼を用いて製作されたかのいずれかとなる。鋼精錬、もしくは直接製鋼法、いずれの生成経路を想定しても分析結果の説明は可能であり、今回の分析結果でもってその特定は困難であるが、東北地方北部をはじめとする古代末・中世の鉄関連遺構において、鋼精錬がなされていたとみなすことのできる遺構が確認されてきた¹³⁾ ことを考慮すれば、筆者は前者の可能性が高いものとする。蛇紋岩に由来する砂状磁鉄鉱の加熱・分解生成物と思われる、Ti分を微量に含む粒状結晶が見いだされたNo. 3 刀子についても、同様に解釈できる。なお、0.067%のCo分を含むNo. 1 刀子片については、始発原料としてCo鉱物を随伴する鉄鉱石が使用された可能性が高い。

7 原料鉄と製品鉄器の流通問題

図6は北海道の美々8遺跡¹³⁾、ユカンボシC遺跡群¹⁴⁾、末広遺跡¹⁵⁾、オサツ2遺跡¹⁶⁾、南町2遺跡¹⁷⁾、キウス5A遺跡¹⁸⁾の據文期(図6a)およびアイヌ期(図6b)から出土した鋼製鉄器のNi、Co、Cu、P、Mnの5成分とT.Feならびに非金属介在物組成の関係を整理したものである。図6の中で非金属介在物中にチタン化合物が見いだされたものは丸(●)、非金属介在物中にチタン化合物が観察されなかったものは四角(■)、非金属介在物そのものを見いだすことができなかったものは三角(▲)の記号で表記した。T.Feが80%未満の錆層からなる試料片については埋蔵環境下からの化学成分の富化が問題となるが、図には異種金属の付着がみられず、同じ埋蔵環境下から出土した遺物間での化学成分上の対比によって、その影響が少ないと判断されたもののみを取り上げた。

図6から明らかなように、據文期、アイヌ期ともに非金属介在物中にチタン化合物がみだされず、通常の砂鉄よりも多くのNi分、Co分、Cu分、P分、Mn分を含む鋼製鉄器が認められる。これらの鉄器については脈石中に当該成分を含む鉱物を随伴する鉄鉱石を始発原料として製造された鋼を用いて製作されたとみることが出来る。さらに、地金中に非金属介在物を見いだすことができなかったもの、あるいは非金属介在物中にチタン化合物が残存する鋼製鉄器の中にも、同様の化学組成をとるものがみられる。これらの始発原料は鉄鉱石であった可能性が高く、始発原料を砂鉄に限定して、據文期およびアイヌ期の鋼製造を考えると困難であることがわかる。さらに介在物中にチタン化合物が見いだされたものについては、No.5鏝と同様、鋼精錬操作による鋼を素材としていると解釈できる。

図5によれば、流通する遺物の形態として、原料鉄塊、鋼、鉄塊や鋼が混在した炭素量が不均一な鉄塊、製品鉄器の4つが想定される。北海道において製鉄炉跡とみなすことのできる遺構は未検出であること、據文期には鋼精錬がなされていたと解釈可能な遺跡が存在し¹³⁾、同様の遺跡がアイヌ期においても見いだされていること¹⁶⁾、および図6a、bの鋼製鉄器の組成を考慮すると、既に據文期には原料鉄塊や鋼素材、あるいは製品鉄器に関する複数の流通ルートが出来上がっており、アイヌ期においてもそれらのルートによって素材鉄や製品鉄器がもたらされていたものと推測される。そして、通常の砂鉄よりも多くのCu分やNi分、Co分を含む鋼製鉄器、鋼素材の存在を考慮すると、製品鉄器もしくは鋼素材や原料鉄塊の供給地域については、列島内はもとより大陸をも考慮に入れて検討する必要がある。

註

- 1) 赤沼英男「出土鉄器の金属学的解析結果からみた東北地方北部および北海道の鉄生産」『北の鉄文化シンポジウム予稿集』岩手県立博物館、1990年、p.59-66。
- 2) 赤沼英男「美々8遺跡出土鉄器の金属学的解析(2)」『美沢川流域の遺跡群XVII』財団法人北

- 海道埋蔵文化財センター、1996年、p.372-390。
- 3) 発掘調査をされた財団法人北海道埋蔵文化財センター 鈴木 信氏からの私信による。
 - 4) 佐々木稔、村田明美「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」『季刊考古学』第8号、雄山閣出版、1984年、p.24-33。
 - 5) 佐々木稔、伊藤薫「川合遺跡出土の鉄斧、鉄鎌ならびに鋤先の金属学的調査」『静岡県埋蔵文化財調査研究所紀要』Ⅱ、静岡県埋蔵文化財調査研究所、1987年、p.63-80。
 - 6) 一般に砂鉄はマグネタイト-ウルボスピネル固溶体 ($Fe_3O_4 \cdot 2FeO \cdot TiO_{2ss}$) からなる粒子である。しかし、蛇文岩が風化・崩壊する過程で遊離・濃縮する安定な磁鉄鉱、砂状磁鉄鉱にも微量にTi分が含まれており、低チタン砂鉄として扱うことができる¹⁹⁾。河川の下流域では、Ti分の多い砂鉄と蛇文岩を起源とする砂状磁鉄鉱が混在し堆積する可能性もあり、遺物の解析にあたって地質学的な側面から考察も必要である。なお、やや時代は上があるが、福島県郡山市東山田遺跡の8世紀中葉に比定される住居跡内からは、鉄滓とともに蛇紋岩由来の砂状時鉄鉱が検出され、鋼精錬操作の際に脱炭材として使用されたものと推定されている²⁰⁾。
 - 7) 由井俊三「信州の鉄資源-大日向鉱山(茂来山鉄山)の鉱床-」『信州の人と鉄』信濃毎日新聞社、1996年、p.253-275。
 - 8) 佐々木稔「東山田遺跡出土鉄滓の金属学的解析」郡山市埋蔵文化財調査センター、発掘調査報告書編集集中。
 - 9) 大澤正巳「古墳供鉄鉄滓からみた製鉄の問題開始」『季刊考古学』第8号、雄山閣出版、1984年、p.36-46。
 - 10) 少なくとも精錬鍛冶には脱炭、浸炭、鉄滓の絞り出しという工程が含まれていることが大澤正巳氏によって指摘されている。これら3つの操作を同時に行うことは困難であるから、精錬鍛冶には最低3つの操作が存在したことになる。当然、それぞれの操作に対応する3種類の鉄滓が排出されることになるが、その点に関する検討が不十分であることが佐々木稔氏によって指摘されている²¹⁾。
 - 11) 佐々木稔「遺構を離れて製鉄滓と断定できるか-潤崎遺跡出土鉄滓の場合-」『たたら研究』34号、たたら研究会、1993年、p.43-47。
 - 12) 赤沼英男「いわゆる半地下式型型炉の性格-北沢・北沢両遺跡出土遺物の金属学的解析結果から」『たたら研究』35号、たたら研究会、1995年、p.11-28。
 - 13) 赤沼英男「遺物の解析結果からみた半地下式型型炉の性格」『季刊考古学』第57号、雄山閣出版、1996年、p.41-45。
 - 14) 赤沼英男「みちのくの地から中世の鉄をみる」『ふえらむ』Vol.2 No.1、社団法人日本鉄鋼協会、1997年、p.44-51。
 - 15) 赤沼英男「ユカンボシC遺跡群出土遺物の金属学的解析」千歳市教育委員会、発掘報告書編集集中。
 - 16) 赤沼英男「オサツ2遺跡出土遺物の金属学的解析」『オサツ2遺跡(2)』財団法人北海道埋蔵文化財センター、1996年、p.261-277。
 - 17) 赤沼英男「南町2遺跡出土鉄製遺物の材質」北見市教育委員会、発掘調査報告書編集集中。
 - 18) 赤沼英男「キウス5遺跡出土鉄器の金属学的解析」財団法人北海道埋蔵文化財センター、発掘調査報告書編集集中。
 - 19) 佐々木稔「撥文期における鉄器と鉄滓の金属学的解析」『北海道考古学』22、1986年、p.17-34。

表1 分析資料

資料名	出土遺構および採掘区	出土層位	推定年代	備考(所収報告書)
No.1 刀子片	美々8 C地区 e-65-09-14	IB	縄文文化期(8Cと推定)	北畑調査62
No.2 鋸	美々8 e-68-00-1	IB	中・近世	北畑調査102
No.3 刀子①	美々8 c-66-96	IB上,面	16~17C(17Cに近い)	北畑調査62
No.4 小刀	美々8 刀地上 d-66-52 (P-1)	IB	上限が1667年以前	北畑調査77
No.5 鋸	美々8 低湿地 c-67-00	IB-1	上限が1667年以前	北畑調査102
No.6 鉄銅片	美々8 台地上 d-66-23	IB	上限が1667年以前	北畑調査77
No.7 出耳鍋	美々8 右地上 d-66-23	IB	上限が1667年以前	北畑調査77

表2 銅製鉄器の分析結果

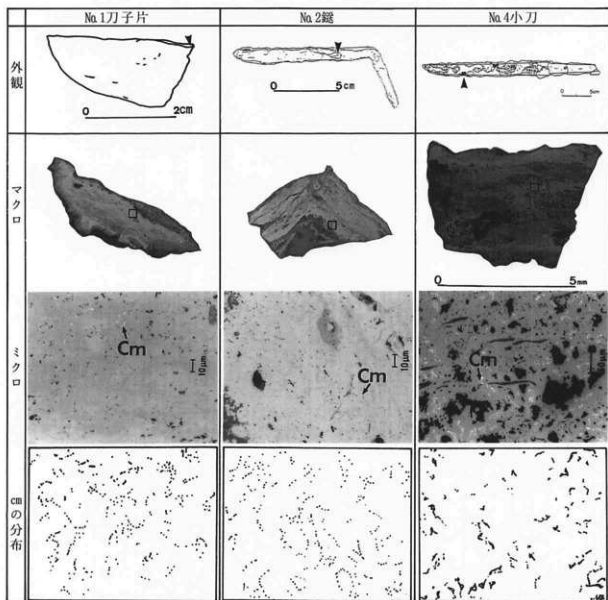
No.	資料名	化学組成 (%)											マイクロ組織	N.M.I	
		T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg			V
No.1	刀子片	61.70	0.029	0.003	0.134	0.014	0.067	0.006	0.637	0.028	0.085	0.012	<0.001	Cm(0.1~0.2)	no
No.2	鋸	61.60	0.019	0.003	0.025	0.007	0.010	<0.001	0.594	0.016	0.124	0.003	0.010	Cm(0.1~0.2)	no
No.3	刀子	64.30	0.013	0.003	0.208	0.013	0.031	0.007	0.382	0.042	0.040	0.023	0.015	no	W,F
No.4	小刀	62.70	0.011	0.015	0.029	0.011	0.018	0.036	0.618	0.060	0.172	0.094	0.005	Cm(0.1~0.2)	no
No.5	鋸	96.50	0.014	0.002	0.012	0.026	0.057	0.049	0.131	0.036	0.034	0.014	0.012	—	W,F,X,T,M

注1) —は分析せず。noは見出されず。Cmはセメンタイト(Fe₃C)もしくはその欠落孔。カッソ内の数字はマイクロ組織から推定される炭素含有量。
 注2) Wはウスタイト(化学理論組成FeO)、WはFe分、O分を主成分としTi分を微量に含むもの、FはFeO-MgO-SiO₂系化合物、XTはFe-Mg-Ti-O系化合物、Mはマトリックス。

表3 鉄造鉄器の分析結果

No.	資料名	化学組成 (%)											マイクロ組織	
		T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg		V
No.6	鉄銅片	88.30	0.013	0.006	0.148	0.017	0.020	0.006	0.006	tr	0.002	<0.001	0.015	レーデブライト
No.7	出耳鍋	90.00	0.210	0.006	0.267	0.016	0.022	0.002	0.007	0.048	0.008	0.003	0.004	レーデブライト

注) trは痕跡。



マクロ組織の枠で囲んだ部分はミクロ組織観察位置。Cmはセメントライトもしくはその欠落孔。

図1 抽出した試料片の組織観察結果
実測図の矢印は試料片抽出位置。

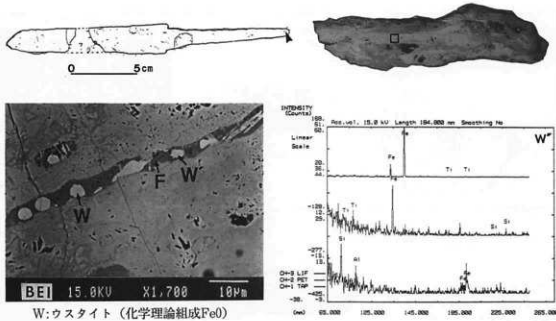


図2 No. 3 刀子に見出された非金属介在物の EPMA による定性分析結果
実測図の矢印は試料片抽出位置。

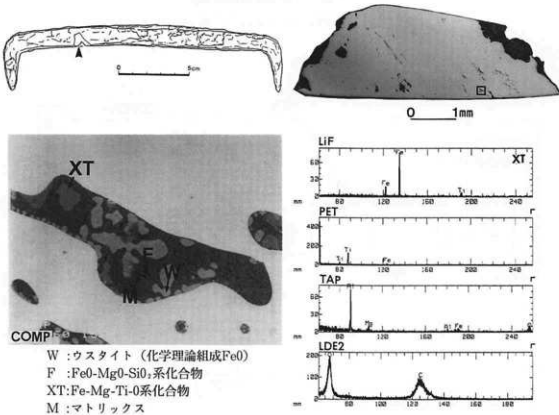
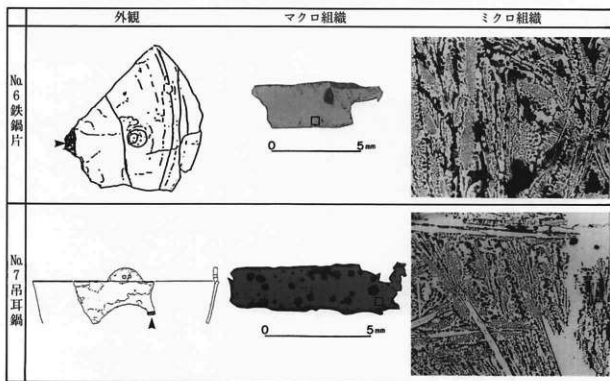


図3 No. 5 鎧に見出された非金属介在物の EPMA による定性分析結果
実測図の矢印は試料片抽出位置。



マクロ組織の枠で囲んだ部分はミクロ組織観察位置。

図4 鉄鍋の外観と組織観察結果

実測図の矢印は試料片抽出位置。

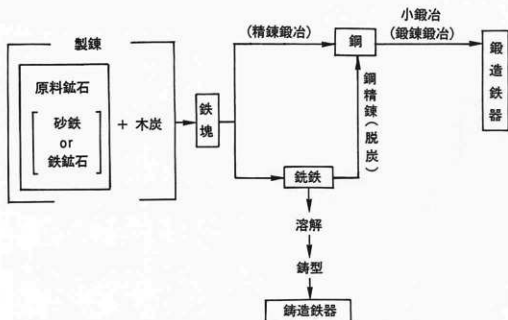


図5 推定される鋼の製造法

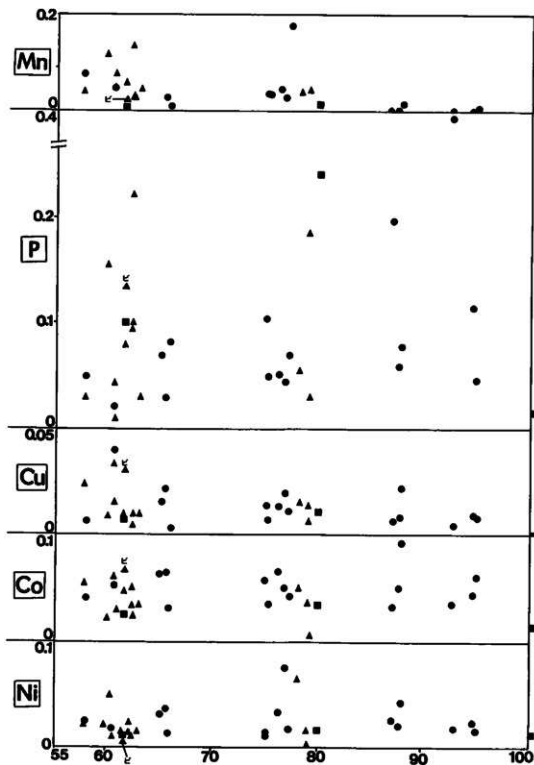


図6 北海道出土の鋼製鉄器の化学成分と非金属介在物組成の関係 (その1)

a 縄文文化期

● 非金属介在物中にチタン化合物検出

▲ 非金属介在物中にチタン化合物未検出

■ 非金属介在物未検出

(ピ) は今回分析をした美々8 遺跡出土のもの。

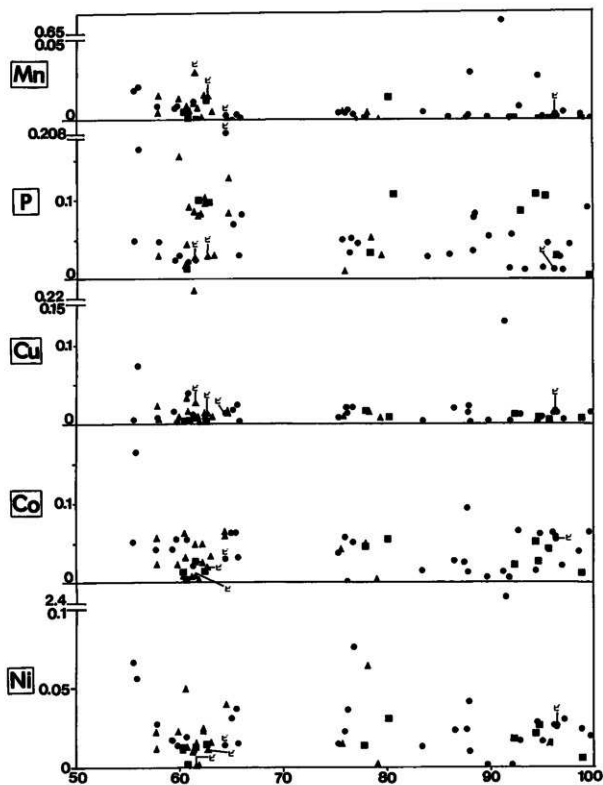


図6 北海道出土の鋼製鉄器の化学成分と非金属介在物組成の関係(その2)

- b アイヌ文化期
- 非金属介在物中にチタン化合物検出
- ▲ 非金属介在物中にチタン化合物未検出
- 非金属介在物未検出
- (b) は今回分析をした美々8遺跡出土のもの。
鋼製鉄器は10～11世紀に比定される

IX まとめ

1 環境と作物栽培について

当遺跡の遺構や遺物はⅢ章の土層の区分の説明のとおり、実年代の明確な樽前a降下軽石堆積物層(1739年 元文4年)、樽前b降下軽石堆積物層(1667年 寛文7年)、白頭山-苦小牧火山灰(B-Tm 10世紀中頃)、樽前c降下軽石堆積物(2300年前頃の噴出物)に覆われており、これらの火山堆積物に挟まれた状態で各包含層が存在し、概ね年代がとらえられる。遺跡は撥文時代からアイヌ文化期、さらに近代まで連続と営まれており、人々はその時々々の環境変化に適応してきた。遺跡は花粉分析や珪藻化石分析からも推定されたように、気候変動や火山灰の降灰、また人為的開削などにより幾度も環境を変化させてきた。本来の低湿度は常に水付き状態であったのではなく、美沢川の岸辺のやや乾いた土地であったことが確認できた。低湿地となった最大の要因は、樽前a火山灰の降灰とその堆積物の流動による美沢川の水位の上昇であり、岸辺のコタン(集落)とともに広範囲に水没したものと推定される。以下に概略を述べる。

当時の遺跡周辺の古植生や気象変化については、花粉分析(山田1996)による推定がなされており、花粉・胞子の構成をもとに、1)コナラ亜属帯、2)コナラ亜属-ハンノキ属帯、3)コナラ亜属-モミ属-トウヒ属帯に区分し、コナラ亜属の出現率やそれに加えたモミ属-トウヒ属の出現率により詳細な検討がなされた。その結果、樽前c降下軽石堆積物~IB-6までが冷涼期であり、一時的にIB-6層~IB-5層が温暖となり、IB-4層~IB-3層下位では再び冷涼期となる。次のIB-3層上位~IB-2層では再び温暖となると推定している。この温暖化が栽培種としてのイネ科雑穀を含めた作物栽培に影響を与えたことを指摘している。栽培種子については、平成3年度C地区IB₁層の炭化物集中(IC-7)から検出されたアサの種子や、本報Ⅳ章の表Ⅱ-2-4・5に示したとおり、灰集中や炭化物集中等の遺構はもとより、通常の包含層のIB-2層以降からもアサ、ヒエ、アワ、キビ、シソ属の種子が多量に検出されたことから確認できる。IB-1層~0B層については寒冷化に伴い、モミ属、トウヒ属、マツ属等の針葉樹花粉が増加したこと、周辺の丘陵や山地の針葉樹混交率が高くなり、ヨモギ属が増加したこと、荒れ地も拡大したと推定している。この荒れ地の拡大は、雑草の増加とともに作物栽培のための森林伐採や耕地拡大に伴うものと考えられ、この頃には遺跡内の灰集中や炭化物集中等の遺構のほか、包含層からもアサ、ヒエ、アワ等の種子が通常に見られるようになる。アサについては、多くの遺構から多量に検出されており、作物栽培が一般化したことを示している。遺物からは、穂摘具(ピバ)とされるカワシジユガイがIB-2層より上層から急増し、金属製や木製農耕具では鋳、鋤、鉤、土掘棒等がIB-1層~0B層において出土量を増すことを確認できる。これらの状況の中で注目されるのは、「物送り場」遺構の灰集中10における検出状況である。アサ、ヒエ、アワ、キビ、シソ属に加えてイネ、アズキ等も検出されており、吉崎・椿坂(本報告P647)の指摘によるとイネを除くヒエ、アワ、キビ等のイネ科雑穀については「未脱殻あるいは不完全な脱殻」であり、撥文文化とは異なる検出状況であると記している。イネ属は、灰集中10のほか、灰集中14、灰集中17からも検出されており、同様に「初付や初の状態」で検出されている。これらは珪藻化石分析や植物珪酸体の分析においても同様な状況が見られ、キビ族、イネ属の機動細胞珪酸体が高出現率で確認され、「葉の付いたままの茎」が存在したとの分析結果であった。特にc-66-18・19の0B層最上位で、その出現率が高い。珪藻化石群集では流水不定性のも、陸生珪藻B群の好汚濁性種が多く見られることから、「水川による汚濁」と推定していることが注目される。しかし、現地の微地形などを考慮した場合には、水田の存在には消極的にならざるを得ない。もっと広範な地点からサンプルリングすべきであったと反省している。今後の他遺跡等の類例を待って、十分に

検討したい。以上から、縄文文化期（I B-2層）～アイヌ文化期（0 B層）においては、狩猟、漁撈活動、採集活動のみならず、作物栽培による食料維持活動が予想以上に大きいことが判明した。

2 遺構と遺物

ここでは特徴的な遺構について概略を述べ、まとめに代える。

舟着場は人為的開削によって角形に造られたものであり、樽前b降下軽石堆積物層を切り込んで緩いスロープを造成している。この周辺からは板艇舷側板（イタオマツ）や舟材、車權受台部（タカマ）、車權（カンチ）や早權（アッサ）片等の舟部材が出土しており、魚突鉤台（マレ）、魚引掛鉤（ア）、回転式離頭鉤（キチ）等の漁撈具も分布している。加えて、縦樋や横樋（ト、チ）等の工具とともに材を削り出した切片や木端が多量に検出されていることから、舟の製作や補修、各種用具製作が行われていた可能性がある。また、舟着場の開口部が狭い構造および内部に多量の杭状の構造材が存在したことから、夏から秋にかけては柵列（チャシ）や棚（セツ）を伴う、サケ・マス等を捕獲する施設が存在したとも考えられよう。

建物跡は、表土層から建物跡1、0 B層から建物跡2・6・7が発見されている。建物跡は多数の立杭や杭穴から配列を推定したものであり、明確な配列を持つものが少なく検討の余地を残している。建物跡1や建物跡2は美沢川向きの開口部をもち、平面形が「コ」字状となるものである。舟着場の東側に発見された建材集中2・3は、建物跡2に伴う構築材を主体する建材群の一部であり、建物が南西方向に捻じれて倒壊したように分布する。建物跡2は斜面部の裾に位置することから積雪や季節的土壌の流動により、損壊したものであろう。建物跡2については「コ」字状の開口部となる形状や、建材群周辺から櫓などの舟具や漁撈具が多量出土していること、舟着場の傍らに位置すること等から、舟小屋あるいは漁撈に関わる作業小屋、または、『蝦夷風俗図説』（1799年）の「船舎図」に描かれたような片壁が開く休憩所であったと推測される。建物跡1は周辺遺物などが少なく、推定材料に乏しいが0 B層以後の同様の建物と考えたい。建物跡7は家屋（チセ）と考えられるが、炉跡や玄關兼物置（セ）などを確認していない。この建物の構築材は平成3年度A'地区の建材群と考えられる。建物跡6は開口部が「コ」字状であるが、規模が小さく、溝1の先端部を覆うように位置する。配列構造から片流れの屋根であったと推定される。溝1が人為的に改良された湧水点であることから、集落の中心に位置した、水汲みや洗い場等の「水場遺構」であったと推定される。

灰集中や炭化物集中は建物跡の傍らに位置するものが多く、食用植物送り（ムルクタウシカムイ）・道具送り（イワクテ）・動物送り（オブニレ）等を複合した「灰送り場（ウナラエウシ）」と考えられる。特に0 B層から発見された灰集中10は、規模が大きく南西部に祭壇様の板敷の施設があった。多量の植物遺存体、サケやシカ等の動物遺存体、火打石、ガラス玉、釘・カスガイ・針・釣針・銭貨・キセル等の金属製品は遺跡全体の6割以上がここから出土しており、灰の分布範囲外にも広がっている。包含層出土遺物の多くは、灰集中10の西から南東部の縁辺に分布が集中しており、ここに「物送り」されたものと考えられる。特に木製品では漁撈具・狩猟具・切裁具・発火具・樽蓋と栓・箱物類・漆塗製品・杓子・花矢等が、灰集中10真下のc-66-09・18・19に集中（付図1～20）して分布している。切断品や破壊品が多いのは「もの送り」のため儀礼的なものであろうか。同様の状況が推測できるアイヌの施設には『蝦夷生計図説』（1823年）に描かれた「ムルクタウシウシカモイの図」があり、住居の傍らに設置された灰山の中に壊れた鉄鍋や臼、食物等が同時に描かれ、木幣（イナウ）が立てられている。アイヌ文化の失われた「もの送り儀礼」を検討する貴重な資料である。

本遺跡の整理・報告は今回で終了となる。今後、同様の遺跡調査時には調査員の配置を含めた体制整備をはかり、無理のない発掘・整理・保存処理計画の中で調査を進めて頂きたい。（田口 尚）

引用・参考文献

- アイヌ文化保存対策協議会編 (1969) 『アイヌ民族誌上・下』 第一法規
- 今津節生 (1994) 『水没有機遺物に関する保存科学的研究』
- 氏家 等 (1975) 「カンジキ」 『開拓記念館調査報告第9号』
- “ (1995) 『北東アジアにおけるカンジキの発生と伝播』 『北の歴史・文化交流研究事業研究報告』
- 宇田川洋 (1989) 『イオマンテの考古学』 東京大学出版会
- 金箱文夫 (1984) 『近世の釘』 『物質文化43』
- 萱野 茂 (1978) 『アイヌの民具』 すずさわ書店
- 萱野 茂 (1996) 『萱野 茂のアイヌ語辞典』 三省堂
- 北の生活文庫企画編集会編 (1997) 『北海道の自然とくらし』 『北の生活文庫2』 北海道
- 古泉 弘 (1985) 『銅製品』 『江戸—都立—高校地点発掘調査報告』 都立—高校地点遺跡調査会
- (財)北海道埋蔵文化財センター (1985) 『ユオイチャシ跡・ボロモイチャシ跡・二風谷遺跡』
- “ (1981) 『美々8遺跡』 『美沢川流域の遺跡群』 V 北埋調報 7
- “ (1989) 『小樽市忍路土場遺跡・忍路5遺跡』 北埋調報53
- “ (1990) 『美々8遺跡』 『美沢川流域の遺跡群』 X III 北埋調報62
- “ (1991) 『美々8遺跡』 『美沢川流域の遺跡群』 XIV 北埋調報69
- “ (1992) 『美々8遺跡低湿度部』 2分冊 『美沢川流域の遺跡群』 XIV 北埋調報77
- “ (1993) 『美々8遺跡低湿度部』 2分冊 『美沢川流域の遺跡群』 XVI 北埋調報83
- “ (1996) 『美々8遺跡低湿度部』 『美沢川流域の遺跡群』 XV 北埋調報83
- “ (1996) 『千歳市オサツ2遺跡(2)』 北埋調報101
- 谷 元且 (1799) 『蝦夷風俗図式』 『蝦夷器具図式』 (大塚和義監修 (1991)) 安達美術
- 玉虫左太夫 (1856) 『入北記』 北海道出版企画センター
- 田口 尚 (1993) 『北海道千歳市美々8遺跡(低湿度部)』 『日本考古学年報』
- “ (1993) 『美々8遺跡出土木製品の保存処理』 『保存科学研究集會95要旨』 奈良国立文化財研究所
- “ (1994) 『アイヌの木器とその源流』 『季刊 考古学第47号』 雄山閣出版
- 田口 尚 (1990) 『(6)木製遺物の樹種同定』 『美沢川流域の遺跡群』 X III 北埋調報62
- 田村俊之 (1984) 『千歳市根志越3遺跡調査概報』 『北海道考古学第20輯』
- 知里真志保 (1976) 『分類アイヌ語辞典 植物・動物編』 『知里真志保著作集 別巻 I』 平凡社
- 千歳市教育委員会 (1976) 『美沢川流域の遺跡群』
- “ (1979) 『ママチ川丸木舟遺跡発掘調査概要報告』 『続千歳遺跡』
- “ (1984) 『千歳市美笛における埋蔵文化財分布調査』
- 千歳市史編纂委員会 (1983) 『増補 千歳市史』
- 出利葉浩司 (1989) 『アイヌの伝統的漁具(マレ)の成立背景に関する一試論』 『物質文化第51号』
- “ (1993) 『大正年間を中心とした千歳川におけるアイヌのついで』 『開拓記念館調査報告第32号』
- 苫小牧市 (1975) 『苫小牧市史』 上
- 苫小牧市教育委員会・市立苫小牧図書館 (1966) 『苫小牧市沼の端丸木舟発掘調査概要報告書』
- 中川 裕 (1995) 『アイヌ語千歳方言辞典』 草風館
- 名取武光 (1972) 『アイヌと考古学(一)(二)』 北海道出版企画センター
- 成田寿一郎 (1990) 『日本木工技術史の研究』 法政大学出版局
- 林 善茂 (1969) 『アイヌの農耕文化』 廣友社
- 北海道教育委員会 (1977) 『美沢川流域の遺跡群』 I
- 北海道大学 (1986) 『サクシュコトニ川遺跡』 1, 2
- 北海道立北方民族博物館 (1996) 『博物館フォーラム アイヌ文化の成立を考える』
- 由良 勇 (1995) 『北海道の丸木舟』 マルヨシ印刷
- 吉田武三 (1971) 『三航蝦夷日誌』 (下) 吉川弘文堂
- 村上貞助 (1823) 『蝦夷生計図説』 (河野本道・谷澤尚一解説 (1990)) 北海道出版企画センター
- 秦 植廉 (1799) 『蝦夷島奇観』 (佐々木利和・谷澤尚一解説 (1982)) 雄峰社
- 山田悟郎 (1996) 『美々8遺跡低湿度部周辺の古植生について』 『美沢川流域の遺跡群』 XV 北埋調報83
- 渡辺 誠 (1985) 『ヨコツチの考古・民具学的研究』 『考古学雑誌70-3』

報告書抄録

ふりがな		みさわがわりゆういきのいせきぐん						
書名		美沢川流域の遺跡群 X X						
副書名		新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名		(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第114集						
編著者名		田口 尚・鈴木 信						
編集機関		(財)北海道埋蔵文化財センター						
所在地		〒064 北海道札幌市中央区南26条西11丁目 TEL. 011-561-3131						
発行年月日		西暦1997年3月25日						
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
びびはちいせき 美々8遺跡 ていつぶ 低湿部	ちとせびび 千歳市美々 1714, 1292-381他	01224	94	42度 46分 14秒	141度 41分 54秒	19920506 19921029	2011	新千歳空港建設に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
美々8遺跡 低湿部	低湿地 交通 集落 祭祀 散布地	中・近世 ↓ アイヌ文化期 表土層 1739年 ↓ 明治時代初期 0 B層 1667年 ↓ 1739年 I B層 縄文時代 ↓ 1667年	表土層 建物跡(1)、立杭列(2) 杭穴列(6)、立杭(49) 灰集中(10) 炭化物集中(1) 0 B層 舟着場(1)、建物跡(3) 建材集中(2) 立杭列(27) 杭穴列(3)、立杭(288) 双礫(2)、集石(11) 灰集中(10)、溝(1) 炭化物集中(18) 貝殻皮集中(4) クルミ集中(5) クリ集中(1) ホオノキ集中(1)		木製品、繊維製品 櫓・船等交通具、 回転式雑踏・魚突鉤等、漁 労具、狩猟具、切道具、 農具、発火具、容器、 食用具、紡織網具、祭 祀儀礼具、歩行具等、 各種ミニチュア他 金属製品 鏝、鉄鍋、鉄斧、鉈、小刀、 煙管、耳飾り、銭貨、筭、 目貫、釘 骨角器 矢中柄 ガラス玉 陶磁器 石器・石製品		平成4年度発掘調 査調査分のうち人力 調査地区の表土層、 0 B層、グラムシェ ル(重機)調査地区 を報告。 北埋調報102の保存 処理などによる I B 層未報告分を掲載。 自然科学分析 樹種同定、種子同 定、動物遺存体同 定、珪酸化石分析、 植物珪酸体分析、金 属製品分析。	

北海道埋蔵文化財センター調査報告書第114集
美沢川流域の遺跡群XX
—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—
第1分冊 (本文・挿図・表)

平成9年3月25日 発行

編集 財団法人北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
Tel (011)561-3131
印刷 中西印刷株式会社
〒065 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
Tel (011)781-7501